高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２４年６月

都城工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　目的 ・・・　2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０

基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５１

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０６

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５４

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３０

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１９

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５２

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・８２３

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９３１

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７８

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名　都城工業高等専門学校

（２）所在地　宮崎県都城市

（３）学科等の構成

学　科：機械工学科、電気情報工学科、
　　物質工学科、建築学科

専攻科：機械電気工学専攻、物質工学専攻、
　　建築学専攻

（４）学生数及び教員数（平成24年５月１日現在）

学生数：学　科８４３人
　　専攻科５１人

専任教員数：６２人

助手数：０人

２　特徴

都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，学校教育法 70 条の２「高等専門学校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする」に沿った高等教育機関として昭和 39 年度に３学科（機械工学科，電気工学科，工業化学科）で開設された。その後，昭和 44 年度に建築学科が新設され，４学科体制に移行した。なお，宮崎県下で建築学科を有する高等教育機関は現在も本校のみである。また，平成７年度には工業化学科を物質工学コースと生物工学コースをもつ物質工学科に改組し，平成 19 年度には電気工学科を電気情報工学科に名称変更した。

さらに，専攻科（機械電気工学専攻，物質工学専攻，建築学専攻）が，平成 14 年度に設置された。専攻科は，高専５年間の教育課程の上に２年間のより高度な専門的知識と技術を教授し，実践的な技術力を有し，関連領域の知識や技術を有機的に結合できる研究開発型技術者を育成するとともに，良識ある技術者としての人格形成や国際性を育成することを目的として開設された。

一方，本校は，平成元年度に学内組織として総合材料開発技術センター（現地域連携センター）を設置し，宮崎県南西及び鹿児島県大隅地域の異業種交流グループ霧島工業クラブ（高専を囲む会）との連携による地域密着型の研究教育活動を積極的に展開している。また，毎年，第３学年に東南アジア諸国等の外国人留学生を受け入れるとともに，モンゴル科学技術大学と学術交流協定を結ぶなどして国際交流を推進している。

本校は，中学卒業時からの５ヵ年一貫教育を行う工業高等専門学校の特徴を生かすために，実験実習科目を重視するとともに，低学年から専門科目を段階的に配置する「くさび型」のカリキュラムを編成し，実践的な技術者を育成している。その結果，豊かな創造性と優れた人格を有する多くの卒業生を産業界に送り出してきた。また，それと同時に，より高度な専門性を探求できる学生たちを大学及び高専専攻科に進学させてきた。

さらに，平成 15 年度からは，本校の４，５年生及び専攻科生には，学士課程教育の国際水準を満足する「生産デザイン工学」プログラムの履修を課している。本教育プログラムは，平成 17 年５月に日本技術者教育認定機構（以下「JABEE」という。）により認定（認定開始年度は平成 16 年度）された教育プログラム（工学（融合複合・新領域）関連分野）であり，所属学科又は専攻の専門分野のみならず，複合した工学領域でも自立した実践的技術者として幅広く活躍できる高度な専門知識と応用力を修得できるように設計されている。

また，本校は国際社会に対応できるコミュニケーション能力の育成を目指し，英語教育にも重点を置き，低学年生には英語検定の受検を奨励し，高学年生及び専攻科生に TOEIC IP 試験の受験を必修化している。TOEIC IP 試験では後援会からの支援を受け，受験者の経済的負担の軽減を図っている。

一方，より優れた学生の確保を目指し，進学説明会及び中学校訪問を積極的に実施することにより，15歳人口の急激な減少にもかかわらず，本校には，現在も南九州圏域の中学校から多くの成績優秀者が入学している。また，低学年次には，数学の補習等の学業面での支援はもとより，ショートホームルーム及び特別活動を通しての学級担任及び全教員によるきめ細かな指導を実施している。その結果，本校では，毎年高い卒業率を維持している。さらに，学生には課外活動への参加を促し，学校及び後援会によるクラブ及び同好会活動への積極的な支援を行っている。その成果として，ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト，低燃費車競技及びラグビー競技等で全国的にも優秀な成績を残している。

Ⅱ　目的

1　教育理念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

2　学習・教育目標

1．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成

2．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成

3．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成

4．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

3　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標

1．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成

1-1 社会の要求あるいは学問的関心に基づいたアイデアを検証することができる基礎技術を身につけていること

1-2 専門技術に関する創造的構想を具現化するための基礎技術を身につけていること

1-3 社会の要求あるいは学問的関心に基づいた問題を自ら発見し、その問題を理論的に解決するための基礎知識および基礎技術を身につけていること

2．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成

2-1 工学の専門科目の基礎となる数学、自然科学および情報科学の理論を理解し説明できること

2-2 技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解し説明できること

2-3 工学に関する問題点を理解し、適切に対処できること

2-4 性能、安全性、環境への影響、経済性または審美性などを配慮できること

3．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成

3-1 日本の内外の歴史や文化に関するさまざまな事柄を認識できること

3-2 社会のさまざまな価値観や規範を理解し、社会の構成員としての自覚を持っていること

3-3 言語等の表現手段によって他者と意思などを疎通させる能力を持っていること

4．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

4-1 科学技術が自然・社会環境に影響を及ぼす諸問題を理解できること

4-2 関連する人々と協力して、自分の研究や実験課題に積極的・計画的に取り組むことができること

4-3 心身の健康を保持増進し、生涯にわたるスポーツ活動ができる基礎能力を身につけていること

4　学士課程の学習・教育目標とサブ目標

1．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成

1-1 社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案し、その検証・改善が継続的にできること。

1-2 専門技術に関する創造的な構想を、デザイン化するためのトレーニングを通じて、具体的な成果としてまとめられること。

2．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成

2-1 解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的な専門工学を学ぶのに必要な理論を理解できること。

2-2 技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解して説明や応用ができること。

2-3 工学に関する問題点を見出し、その解決方法を提案できること。

2-4 性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規生産技術をデザインできること。

3．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成

3-1 地球的視点から世界の歴史・文化および倫理を学び、生活様式や価値観の多様性を認識できること。

3-2 自分の住んでいる地域の文化を学び、その特徴を説明できること。

3-3 具体的な事例をもとに、技術者が負っている社会的責任を理解できること（技術者倫理）。

3-4 英語で書かれた専門分野の文献が読解できること。

3-5 日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること。

3-6 日本語で自分の意見や研究成果を論理的に記述し、その内容について口頭発表および討議ができること。

4．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

4-1 科学技術が都城圏域をはじめ地球の自然・社会環境に及ぼす諸問題を理解し、説明できること。

4-2 自分の研究や実験課題に関して、自主的、継続的に最新の技術情報を収集し、妥当な結論を導けること。

4-3 実習や研究に関連する人と協力し、期限内に成果をまとめられること

5　学科の目的

【機械工学科】

1．機械工学の基礎知識、基礎技術を修得し、卒業研究や創造設計等の実践的科目を通して、設計から製作までの総合的な能力を身に付けた技術者を養成する。

2．コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる、創造性豊かな技術者を養成する。

【電気情報工学科】

1．主たる分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的技術者を養成する。

2．広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的技術者を養成する。

【物質工学科】

1．講義と実験を通して物質工学とそれに関係する理論を確実に理解するとともに応用力を持った技術者を養成する。

2．課題や現象に対する問題点を自ら見つけ、これらを解決できる自主性、創造性を持った技術者を養成する。

3．英語関係科目及び卒業研究等での英語論文読解を通して国際化に対応した実践的化学英語力を持った技術者を養成する。

【建築学科】

1．建築の企画、設計及び施工において責任能力を有し、環境への影響に配慮できる人材を養成する。

2．建築の伝統を発展的に継承し、建築分野における最新技術を応用できる人材を養成する。

6　専攻科各専攻の教育目的

【機械電気工学専攻】

1．機械工学・電気情報工学の基礎知識と技能を基盤として、両工学分野の連携技術に対応できる技術者を養成する。

2．高度化した設計・開発・研究に対応できる創造的なデザイン能力と問題解決能力を備えた技術者を養成する。

【物質工学専攻】

1．物質工学の基礎的・実践的知識および技術の上に、より高度な新素材開発技術、物質生産技術および環境保全技術を有する技術者を養成する。

2．化学工業界の要望に応えることのできる総合的知識に基づいた幅広い視野と創造性を持つ技術者を養成する。

【建築学専攻】

1．建築の特定分野において、高度な責任能力を有し、自ら問題を発見し解決できる能力を有する人材を養成する。

2．建築文化の発展と豊かな都市空間の創造に寄与できる人材を養成する。

7　研究に関する目標

1．教員は研究業績向上のために、より充実した基礎研究と発展的研究に取り組む。また、創造性豊かな実践的技術者教育に寄与できるような研究課題を見いだし、その研究を推進する。

2．本校の独自性を打ち出すために、本校の学科構成及び地域性を考慮した学際的な研究課題を見いだし、その研究を推進する。

3．他の大学、高専及び研究機関等との連携を強化し、国際的な視野に立った戦略的研究課題を探求し、その研究を推進する。

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

高等専門学校の目的，すなわち「高等専門学校の使命」，「基本方針」，「達成目標」（「養成しようとする人材像」及び「学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力」）について，以下に記述する。

「高等専門学校の使命」については，学則の第１章 本校の目的（資料１－１－①－１）に示している。さらに，本使命を果たすべく教育理念（資料１－１－①－２）を掲げ「基本方針」とし，これをより具体化した学習・教育目標（資料１－１－①－３）を明確に定めている。

また，「達成目標」における「養成しようとする人材像」について，準学士課程（本科）では教育目的（資料１－１－①－４）を各学科で定め，専攻科においては各専攻が掲げる教育目的（資料１－１－①－５）を明確に定めている。

さらに，「学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力」について，本科では学習・教育目標とサブ目標（資料１－１－①－６）を定め，専攻科では学習・教育目標（資料１－１－①－７）により明確に定めている。本科及び専攻科それぞれにサブ目標を設定し，それらを卒業（本科）及び修了（専攻科）時に達成すべき目標としている。

教育理念及び学習・教育目標は，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」とした学校教育法第115条の目的を，高度化及び多様化する今日の社会的要請に適合するよう具体化したものである。すなわち，教育理念に対し，その具体的な内容として，５つのキーワード「豊かな創造性」，「優れた知性」，「高度な社会性」，「確かな実行力」及び「健全な心身」で示される学習・教育目標を掲げて，目的を明確に定めており，これらの能力が，今日の工業における職業に必要な能力であることを認識し，教育理念及び学習・教育目標を定めている。さらに，各学科及び各専攻における達成すべき能力等は，就職後の就業及び資格取得に必要な知識と技術を含んでおり，学校教育法における「職業に必要な能力」を十分配慮した内容になっている。学校教育法第115条の目的と，本校の目的の対応関係をまとめたものを（資料１－１－①－８）に示す。

また，「学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力」に関する達成状況については，本科及び専攻科において，ポートフォリオによる検証を行っている（資料１－１－①－９～10）。

観点１－１－①　資料一覧

資料１－１－①－１　本校の目的・使命

〔出典：規則集〕

資料１－１－①－２　教育理念

〔出典：学生便覧〕

資料１－１－①－３　学習・教育目標

〔出典：学校要覧〕

資料１－１－①－４　学科における人材の養成に関する目的その他教育上の目的

〔出典：学生便覧〕

資料１－１－①－５　専攻科の専門教育目的

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料１－１－①－６　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標

〔出典：学生便覧〕

資料１－１－①－７　専攻科の学習・教育目標

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料１－１－①－８　学校教育法第70条の２との対応関係表

〔出典：学生課資料〕

資料１－１－①－９　本科生におけるポートフォリオの例

〔出典：学生課資料〕

資料１－１－①－10　専攻科生におけるポートフォリオの例

〔出典：学生課資料〕

資料１－１－①－１

本校の目的・使命

第１章　本校の目的

（趣旨）

第１条　本校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

〔出典：規則集〕

資料１－１－①－２

教育理念

教　育　理　念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

〔出典：学生便覧〕

資料１－１－①－３

学習・教育目標

学習・教育目標

1．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
2．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
3．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
4．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

〔出典：学校要覧〕

資料１－１－①－４

学科における人材の養成に関する目的その他教育上の目的

学科における人材の養成に関する目的その他教育上の目的

第１　都城工業高等専門学校学則第１条第２項の規定に基づき、学科における人材の養成に関する目的その他教育上の目的（以下「目的」という。）について、必要な事項を定める。

第２　機械工学科の目的は、次のとおりとする。

(1) 機械工学の基礎知識、基礎技術を修得し、卒業研究や創造設計等の実践的科目を通して、設計から製作までの総合的な能力を身につけた技術者を養成する。

(2)　コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる、創造性豊かな技術者を養成する。

第３　電気情報工学科の目的は、次のとおりとする。

(1) 主たる分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的技術者を養成する。

(2)　広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的技術者を養成する。

第４　物質工学科の目的は、次のとおりとする。

(1)　講義と実験を通して物質工学とそれに関係する理論を確実に理解すると共に応用力を持った技術者を養成する。

(2)　課題や現象に対する問題点を自ら見つけ、これらを解決できる自主性、創造性を持った技術者を養成する。

(3)　英語関係科目および卒業研究等での英語論文読解を通して国際化に対応した実践的化学英語力を持った技術者を養成する。

第５　建築学科の目的は、次のとおりとする。

(1)　建築の企画、設計及び施工において責任能力を有し、環境への影響に配慮できる人材を養成する。

(2)　建築の伝統を発展的に継承し、建築分野における最新技術を応用できる人材を養成する。

〔出典：学生便覧〕

資料１－１－①－５

専攻科の専門教育目的

(3) 専攻科各専攻の教育目的

機械電気工学専攻

１）機械工学・電気情報工学の基礎知識と技能を基盤として、両工学分野の連携技術に対応できる技術者を養成する。

２）高度化した設計・開発・研究に対応できる創造的なデザイン能力と問題解決能力を備えた技術者を養成する。

物質工学専攻

１）物質工学の基礎的・実践的知識および技術の上に、より高度な新素材開発技術、物質生産技術および環境保全技術を有する技術者を養成する。

２）化学工業界の要望に応えることのできる総合的知識に基づいた幅広い視野と創造性を持つ技術者を養成する。

建築学専攻

１）建築の特定分野において、高度な責任能力を有し、自ら問題を発見し解決できる能力を有する人材を養成する。

２）建築文化の発展と豊かな都市空間の創造に寄与できる人材を養成する。

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料１－１－①－６

準学士課程の学習・教育目標とサブ目標

準学士課程の学習・教育目標とサブ目標

１．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成

１－１
社会の要求あるいは学問的関心に基づいたアイデアを検証することができる基礎技術を身につけていること
１－２
専門技術に関する創造的構想を具現化するための基礎技術を身につけていること
１－３
社会の要求あるいは学問的関心に基づいた問題を自ら発見し、その問題を理論的に解決するための基礎知識および基礎技術を身につけていること

２．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成

２－１
工学の専門科目の基礎となる数学、自然科学および情報科学の理論を理解し説明できること
２－２
技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解し説明できること
２－３
工学に関する問題点を理解し、適切に対処できること
２－４
性能、安全性、環境への影響、経済性または審美性などを配慮できること

３．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成

３－１
日本の内外の歴史や文化に関するさまざまな事柄を認識できること
３－２
社会のさまざまな価値観や規範を理解し、社会の構成員としての自覚を持っていること
３－３
言語等の表現手段によって他者と意思などを疎通させる能力を持っていること

４．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

４－１
科学技術が自然・社会環境に影響を及ぼす諸問題を理解できること
４－２
関連する人々と協力して、自分の研究や実験課題に積極的・計画的に取り組むことができること
４－３
心身の健康を保持増進し、生涯にわたるスポーツ活動ができる基礎能力を身につけていること

〔出典：学生便覧〕

資料１－１－①－７

専攻科の学習・教育目標

⑵ **学習・教育目標**

「生産デザイン工学」プログラムには、以下の４つの学習･教育目標［(A)～(D)］が定められ、これらの学習・教育目標を達成するために、さらに具体的なサブ目標（A1）～（D3）が定められている。本プログラムを修了するには、これらのサブ目標（A1）～（D3）をすべて達成する必要があり、「生産デザイン工学」プログラムの修了要件を満たさなければならない。

(A) あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成

（A1）社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案し、その検証・改善が継続的にできること。

（A2）専門技術に関する創造的な構想を、デザイン化するためのトレーニングを通じて、具体的な成果としてまとめられること。

(B) 科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成

（B1）解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的な専門工学を学ぶのに必要な理論を理解して説明や応用ができること。

（B2）技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解して説明や応用ができること。

（B3）工学に関する問題点を見出し、その解決方法を提案できること。

（B4）性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規生産技術をデザインできること。

(C) 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成

（C1）地球的視点から世界の歴史・文化および倫理を学び、生活様式や価値観の多様性を認識できること。

（C2）自分の住んでいる地域の文化を学び、その特徴を説明できること。

（C3）具体的な事例をもとに、技術者が負っている社会的責任を理解できること（技術者倫理）。

（C4）英語で書かれた専門分野の文献が読解できること。

（C5）日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること。

（C6）日本語で自分の意見や研究成果を論理的に記述し、その内容について口頭発表および討議ができること。

(D) 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

（D1）科学技術が都城圏域をはじめ地球の自然・社会環境に及ぼす諸問題を理解し、説明できること。

（D2）自分の研究や実験課題に関して、自主的、継続的に最新の技術情報を収集し、妥当な結論を導けること。

（D3）実習や研究に関連する人と協力し、期限内に成果をまとめられること。

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料１－１－①－８

学校教育法第70条の２との対応関係表

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
・学校として養成する人材像のうち ・1. 自由と責任を自覚し，規律を遵守する道徳心を備え，あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を持ち，自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み，継続して推進する確かな実行力を備えた人材の育成 ・2. 世界の歴史文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高・度な社会性を持った人材の育成	・学校として養成する人材像のうち ・1. 自由と責任を自覚し，規律を遵守する道徳心を備え，科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し，新規技術をデザインできる人材の育成
・機械工学科の養成する人材像のうち ・1. 機械工学の基礎知識，基礎技術を修得し，実践的科目を通して，設計から製作までの総合的な能力を身に付けた人材の育成	機械工学科の養成する人材像のうち ・1.種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる人材の育成
電気工学科の養成する人材像のうち ・1. 電気工学の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的な技術力を備えた人材の育成 ・2．広範な知識と学力を持ち学際的・複合的分野で活躍できる人材の育成	電気工学科の養成する人材像のうち ・1．電気工学を通じての，豊かな人間性と社会性を持つ社会に貢献できる人材の育成
物質工学科の養成する人材像のうち ・1. 物質工学関連科目の授業と実験を通して，基礎知識・技術を修得させるとともに，卒業研究，公開実験を通して創造力のある実践的な技術力を備えた人材の育成	物質工学科の養成する人材像のうち ・1. 地球環境に配慮しながら資源を有効に活用し，技術立国日本の基盤産業となる新素材や医薬品等の開発製造に従事できる実践的な技術力を備えた人材の育成
建築学科の養成する人材像のうち ・1. 建築の設計から施工までの建築全般にわたる幅広い知識を備えるとともに，建築物の安全性や環境形成への影響などに対する社会的責任感を備えた人材の育成	建築学科の養成する人材像のうち ・1. 建築設計におけるコンピュータの実務利用等，高度化するソフトウエア環境に適応できる実践能力を養成するとともに，卒業研究・卒業設計等を通して，規格化されていない問題も解決できる優れた応用力を備えた人材の育成

専攻科の養成する人材像のうち ・1. あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する人材の育成 ・2. 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する人材の育成	専攻科の養成する人材像のうち ・1. 科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し，新規技術をデザインできる優れた知性を有する人材の育成 ・2. 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み，継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する人材の育成
機械工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 機械工学の基礎知識，基礎技術を修得し，実践的科目を通して，設計から製作までの総合的な技術者としての素養と能力の修得	機械工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる実践的技術者としての素養と能力の修得 ・2. 技術士補の資格試験に求められる能力の修得
電気工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 電気工学の主たる分野であるエネルギー，電子，通信，情報の基礎と応用の知識を習得し，電気情報工学実験を通して技術者としての素養と能力の修得	電気工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 卒業研究，電気情報設計等で総合的能力を身に付け，開発に適用できる実践的技術者としての素養と能力の修得 ・2. 電気主任技術者２種の資格試験に求められる能力水準の修得
物質工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 高度化する工業技術に対応できる基礎学力を有して，豊かな創造力と国際性を発揮できる技術者としての素養と能力の修得	物質工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 地球環境に配慮しながら資源を有効に活用し，技術立国日本の基盤産業となる新素材や医薬品等の開発製造に従事できる実践的技術者としての素養と能力の修得 ・2. 技術士補の資格試験に求められる能力水準の修得
建築工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 建築の設計から施行までの建築全般にわたる幅広い知識を備えるとともに，建築物の安全性や環境形成への影響などに対する社会的責任感を備えた技術者としての素養と能力の修得	建築工学科の卒業時に身につける資質・学力のうち ・1. 高度化するソフトウエア環境に適応できる実践能力を修得するとともに，規格化されていない問題も解決できる優れた応用力を備えた実践的技術者としての素養と能力の修得 2. 1 級建築士の資格試験に求められる能力水準の修得
専攻科の修了時に身につける資質・学力のう	専攻科の修了時に身につける資質・学力のう

ち ・1. 一般・共通科目の知識をより一層発展させ，科学全般にわたる基礎知識を備えた技術者としての素養と能力の修得 ・2. 技術者倫理等の開講により，倫理綱領を遵守できる技術者としての素養と能力の修得 ・3. 国際的コミュニケーションとしての英語力を十分備えた技術者としての素養と能力の修得	ち ・1. 生産現場における諸問題を探求し，かつ，より実践的な問題解決手法を身に付けた実践的技術者としての素養と能力の修得 ・2. JABEE 認定に求められる能力水準の修得

〔出典：学生課資料〕

資料１－１－①－９

本科生におけるポートフォリオの例

【ポートフォリオ活用の手引き】

本教育プログラムの学習・教育目標「豊かな創造性」、「優れた知性」、「高度な社会性」、「確かな実行力」、「健全な心身」が達成できるように、常日頃より自分自身の成績を把握し、勉学に努めて下さい。

※このポートフォリオは専攻科修了時まで使用します。ファイルに綴じて絶対になくさないようにして下さい。

～記入要領～

○答案用紙返却時に、試験の成績（試験の素点）を各欄に書き込み、また、達成度評価欄に、全体的な自己評価を書いて下さい。
※学年末の自己評価は１年間通じての総合評価として下さい。

○記入後はこの表をファイルに綴じて学級担任に提出して下さい。
※専攻科生は専攻主任に提出して下さい。

○前期で終了する科目と学年末の総合成績は、自宅に送られた成績表をもとに、総合成績の欄に総合成績を記入して下さい。
※総合成績は小テストやレポート等の点数が加味されたもので、必ずしも各試験の平均点にはなっていません。

○科目を修得したら（総合成績が 60 点以上の場合）、学習・教育目標の欄の◎あるいは○印を赤ペンでなぞって下さい。

～記入上の注意～

○前期あるいは後期のみで終了する科目は、開講されていない期間に／を入れて下さい。
○中間試験がない科目は、中間試験の欄に／を入れて下さい。
○再試験を受験した場合、その成績を学級担任から聞いて記入して下さい。
※専攻科生は教科担当者から成績を聞いて記入して下さい。
○留年した場合、学級担任から新しいポートフォリオ用紙をもらって新たに記入して下さい。

「生産デザイン工学プログラム」の基礎工学科目と専門工学科目

注意：基礎工学に対応する科目として①～⑤の科目群を記載しましたが、各学科・各専攻には①～⑤に属さない基礎工学科目もあります。

物質工学科・物質工学専攻

基礎工学科目	①	設計・システム系科目群	機械設計特論	①～⑤の各群より最低１科目、合計最低６科目修得すること
	②	情報・論理系科目群	応用情報工学	
	③	材料・バイオ系科目群	生物工学　有機材料化学　無機材料化学　電子材料工学　酵素工学　微生物工学 細胞・遺伝子工学　分子生物学　生体高分子　生体機能工学　生体材料化学 触媒化学　分子生態学　蛋白質工学　生物物理化学　微粒子工学　応用触媒工学 新素材論　無機機能性材料　機能性高分子	
	④	力学系科目群	一般力学	
	⑤	社会技術系科目群	環境工学　水質環境工学　地球環境科学	
	その他		分離工学　量子化学　計測制御工学　食品工学　科学技術英語　化学反応論 無機合成化学　反応有機化学　有機光化学　移動現象論	
専門工学科目	生産デザイン工学科目群（工学複合分野）		物質・生物工学演習　化学・生物反応工学実験　物質・生物工学実験　卒業研究 物質工学特別実験　創造デザイン演習　実務実習　物質工学特論　専攻科特別研究	全科目修得すること

反応工学（Chemical Rection Engineering）

専攻・学年	物質工学科・5年	単位・期間	選択2単位・全期週2時間（授業時間60時間）		
担当教員	清山史朗	連絡先	物質工学科棟1階　清山研究室	ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月8限

【授業目的】　1）化学反応速度の概念とその定量的取り扱い法を理解する．2）化学反応速度の理論的解釈を理解し，速度式との関連を理解する．3）化学反応速度の実験的解析法を理解し，利用できる．

【履修上の注意・事前に行う準備学習】

数学，化学工学I，化学工学IIを十分理解しておくことが望ましい．

【授業の内容】

授業要目	内容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	(0.5)
1. 反応の量論的関係	単一反応と複合反応	4
	変化率	2
	濃度と分圧	2
	対原料モル比	2
2. 反応速度の実測	静止法―回分操作の基礎式，反応速度の求め方 流通法―押出し流れ操作の基礎式，積分反応装置	4
前期中間試験		(1.5)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
3. 反応速度の表現	反応速度の定義，均相内反応と界面反応，反応速度式，反応速度の半減期による表現	2
4. 反応速度式	量論式と速度式，中間生成物の擬定常状態，連鎖反応の速度	4
5. 吸着速度と吸着平衡	吸着速度と平衡，界面反応速度式	4
6. 等温回分操作の設計	単一反応の定密度系操作，複合反応の定密度系操作	4
前期末試験		(1.5)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
7. 押出し流れ操作	液相反応系押出し流れ操作	8
	気相押出し流れ操作	7
8. 完全混合流れ操作	操作の基礎式	8
	多段操作，反応速度の実測	7
学年末試験		(1.5)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	(0.5)
	合計時間	60

【達成目標】
反応速度の基本的な原理，操作及び設計法を理解できること．

【成績の評価方法】
前期中間試験，前期末試験および学年末試験の成績を平均する．

【評価基準】学年成績60点以上を合格とする．

【教科書】
久保田宏，関沢恒男著「反応工学概論」（日刊工業新聞）

【参考書】

【学習・教育目標との対応】　B　　【JABEE基準との対応】　(b), (d), (e)

ポートフォリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合い】（記入例）ファラデーの法則，交流の発生についてはほぼ理解できたが，渦電流についてはあまり理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し，試験全体の総評をして下さい。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが，応用問題が解けず，理解不足だった。

【総合達成度】では，【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか，記入して下さい。

【授業計画の説明】（実施状況の記入）

千年の化工が苦手だから心配

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【試験の結果】　試験の点数（ 60 ）

計算ミスや代入ミスが多かった。

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【試験の結果】　試験の点数（ 80 ）

速度式のかんちがいがあった。

【理解の度合い】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】試験の点数(~~69~~ 67)

もんだいをしっかりよんでいなくて
とちゅうでおわっていた。

【総合達成度】　総合評価の点数（ 69 ）

流れで覚えていた部分もあるので
しっかり理解できていなかった。

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入して下さい。

物質工学科　ポートフォリオ：本科4,5年生産デザイン工学プログラム対応科目群（プログラム1,2年）

区分	授業科目	成績（点数）定期試験 前期中間	前期末	後期中間	学年末	成績（点数）再試験 1	2	3	4	5	最終評価	学習・教育目標 (A) A1	A2	(B) B1	B2	B3	B4	(C) C1	C2	C3	C4	C5	C6	(D) D1	D2	D3
一般科目	国語	90	74	86	80						83							○					○			
	英語（４年）	68	54	71	68						62							○				◎				
	英語（５年）	72	76	69	79						74							○				◎				
	選択英語	76	59	66	77						72							○				◎				
	ドイツ語																					◎				
	法学																			○						
	歴史学概論	62	38	57	80						62							◎								
	社会学																			○						
	国際文化論Ⅰ																					◎				
	国際文化論Ⅱ																	◎								
	哲学										65							○								
	産業財産権法																			○						
専門科目	微分方程式	37	41	40	27	60					60			◎												
	応用数学	96	69	16	88						71			◎												
	応用物理	38	55								60			◎												
	物理化学	53	59	60	56						60				◎											
	化学工学Ⅱ	36	45	52	29	31					44				◎											
	機器分析	70	59	80	46						63				◎											
	高分子化学			73	100						89				◎											
	電気化学	94	100								87				◎											
	生物工学	60	73		60						65				◎											
	工業英語	47	46	26	56						60				◎											
	反応工学	60	80		67						69				◎											
	安全工学			91	67						79				◎											
	電気工学基礎	93	98		83						85				◎											
	物理化学実験										79	○				◎									◎	
	機器分析実験										87	○				◎									◎	
	卒業研究										92	◎	◎			◎	◎						◎		◎	◎
	有機材料化学	90	29	58	92						75				◎											
	無機材料化学	85	80	83	72						83				◎											
	電子材料工学	56	75		100						77				○											
	工業熱力学	70	90								80				◎											
	輸送現象論	51	82		87						73				◎											
	物質工学演習										63		◎													
	化学工学実験										76	○				◎									◎	
	物質工学実験										81	○				◎									◎	
	酵素工学														○											
	微生物工学														○											
	細胞・遺伝子工学														◎											
	分子生物学														◎											
	環境工学														◎											
	生物工学演習												◎													
	生物反応工学実験											○				◎									◎	
	生物工学実験											○				◎									◎	
	分離工学	91	75								83				○											
	生体高分子														○											
	量子化学			85	93						91				○											
	生体機能工学														○											
	計測制御工学														○											
	生体材料化学										94				◎											
	触媒化学	100	100								100				◎											
	食品工学														○											

【達成度評価】

4年	前期中間	良い教科と悪い教科の差が激しかった。
	前期末	苦手教科がわかってきた。
	後期中間	苦手教科を克服できなかった。
	学年末	できなかった。
5年	前期中間	4年生のときよりかなりよかった。
	前期末	少し要領がつかめてきた。
	後期中間	
	学年末	最後のテストで少ししつまづいた教科があった。

〔出典：学生課資料〕

資料１－１－①－10

専攻科生におけるポートフォリオの例

CAE (Computer Aided Engineering)

専攻・学年	機械電気工学専攻・2年	単位・期間	選択2単位・後期週2時間（授業時間30時間）		
担当教員	土井 猛志	連絡先	専攻科研究棟3階　土井研究室	オフィスアワー	月9限

【授業目的】

近年、製品開発作業を迅速かつ効果的に進めるため、コンカレント・エンジニアリング（以下CE）の重要性が益々大きなものとなっている。このCEを支援するものとしてCAE/CADがあり、これらはエンジニアにとって必須の技術となってきている。そこで、本授業では、CAEにおける有限要素解析に関する基礎理論および基本的解析手法を、実際にコンピュータを使用した演習を通じて理解を深める。

【履修上の注意・事前に行う準備学習】

演習ではプログラミングを実施するため、各自C言語（BASIC、FORTRAN、JAVAなど他言語も可）の再確認を行っておくこと。

【授業の内容】

授業要目	内　容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1
1. CAEについて	CAE全般における現状について概略を解説する。	2
2. 有限要素法の基礎理論	CAEの代表的手法である有限要素法の基礎理論について解説する。	6
3. 基本的な弾性解析手法	弾性応力計算に対し有限要素法を適用する手法の解説を行い、さらに、既存のソフトウェアを用いた解析手順の演習を行う。	6
後期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
4. 熱伝導解析理論	定常熱伝導計算に対し有限要素法を適用する手法の解説を行う。	5
5. 定常熱伝導解析ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ作成	定常熱伝導有限要素解析プログラムをC言語（その他の言語でも可）にて作成する。	6
6. プログラムの評価	作成したプログラムが正常に動作するか、理論解と比較することにより確認する。	1
7. 解析結果の評価ﾚﾎﾟｰﾄ作成	適当な条件を与え計算した結果に対する評価を行う。	1
学年末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
	合計時間	31

【達成目標】

(1)有限要素解析に関する基礎的な理論および基本的な解析手法・手順を説明できること。(2)弾性解析および熱伝導解析に関する各種理論について説明できること(3)有限要素解析を行う基本的なプログラムの内容が理解できること。(4)有限要素解析によって得られた結果の検討・判断ができること。

【成績の評価方法】

中間試験、期末試験の結果および作成したプログラム（解析結果例含む）によって総合的に評価する．中間試験、期末試験結果(60%) ＋ プログラム(40%)

【評価基準】

学年成績60点以上を合格とする。

【教科書】

適宜プリント配布

【参考書】

矢川元基 関東康祐 奥田洋司著「岩波講座 現代工学の基礎 計算力学〈空間系Ⅰ〉」（岩波書店）
戸川隼人著 「マイコンによる有限要素解析」（培風館）
内山知実著 「JAVAによる連続体力学の有限要素法」（森北出版）
矢川元基 宮崎則幸 共著「有限要素法による熱応力・クリープ・熱伝導解析」（サイエンス社）

【学習・教育目標との対応】 (B)　　**【JABEE基準との対応】** (c),(d)

ポートフォリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合】（記入例）ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。

【授業計画の説明】（実施状況の記入）

【理解の度合】（教員は授業の実施状況を記入）

CAEに関する基本的なことについて理解できた

【試験の結果】 試験の点数（ 100 ）

【理解の度合】（教員は授業の実施状況を記入）

正負のミスや、配管の番号をとり違えることもあったが、基本的な事は理解できている。

【試験の結果】 試験の点数（ 85 ）

【総合達成度】 総合評価の点数（ 95 ）

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。

機械工学科　本科4年生用　ポートフォリオ：本科4,5年生産デザイン工学プログラム対応科目群（プログラム1,2年）

区分	授業科目	成績（点数） 定期試験 前期中間	前期末	後期中間	学年末	成績（点数） 再試験 1	2	3	4	5	最終評価	学習・教育目標 (A) A1	A2	(B) B1	B2	B3	B4	(C) C1	C2	C3	C4	C5	C6	(D) D1	D2	D3
一般科目	国語	77	68	81	82						77							◎					○			
	英語（4年）	78	63	75	72						78							◎				◎				
	英語（5年）	94	86	82	86						89							◎				◎				
	選択英語																	○				◎				
	ドイツ語	91	77	61	84						78											◎				
	法学																			○						
	歴史学概論																	◎								
	社会学										95									◎						
	国際文化論Ⅰ	93	77								86											◎				
	国際文化論Ⅱ																	◎								
	哲学																	○								
	産業財産権法																			○						
専門科目	微分方程式	90	57	94	30						75			◎												
	応用数学	82	83	94	90						89			◎												
	応用物理	64	89								91			◎												
	情報処理Ⅱ	76	90	98	100						95				◎											
	材料力学（4年）	79	85	88	97						88				◎											
	材料力学（5年）			95	95						95				◎											
	材料学Ⅱ	96	90								97				◎											
	熱力学	49	84	76	90	67					79				◎											
	水力学	79	85	80	99						85				◎											
	機械設計法（4年）	80	88	92	100						90				◎											
	機械設計法（5年）	50	85								68				◎											
	設計製図										98				◎											
	創造設計										96		◎													
	工学実験（4年）										86	○				◎									◎	
	工学実験（5年）										86	○				◎									◎	
	熱機関	92	86	86	98						91				◎											
	機械力学	100	90	85	83						90				◎											
	自動制御	85	97	84	92						92				◎											
	流体機械			95	92						94				◎											
	工業外国語	89	97								96				◎											
	計測工学	92	75								87				◎											
	卒業研究										95	◎	◎			◎	◎						◎		◎	◎
	流体力学	100	90								96				◎											
	伝熱工学														○											
	塑性加工														○											
	生産工学														○											
	メカトロニクス			90	97						95				◎											
	強度解析学										80				◎											
	電気工学概論(4年)	88	94								91															
	電気工学概論(5年)	91	72		90						84															
	技術者倫理										95															

【達成度評価】

4年	前期中間	熱力学ができなかった。
	前期末	語学と微方が理解不足。特に問を解く速さが致命的。
	後期中間	ドイツ語の語句が覚えきらない。暗記系の科目が弱い。
	学年末	微分方程式だけ悪い。他は良くできたと思う。
5年	前期中間	設計法でミスを連発したが、他の科目は全体的に良くできた。
	前期末	設計法の遅れを取り戻したが、電気工学と国際文化論がいまひとつだった。
	後期中間	全体的に理解はできたと思う。
	学年末	計算ミスが少し目立ったが、充分な結果だと思う。

機械電気工学専攻（機械系）　本科4年生用　ポートフォリオ：専攻科1,2年生産デザイン工学プログラム対応科目群（プログラム3,4年）

区分	授業科目	成績（点数） 定期試験 前期中間	前期末	後期中間	学年末	成績（点数） 再試験 1	2	3	4	5	最終評価	学習・教育目標 (A) A1	A2	(B) B1	B2	B3	B4	(C) C1	C2	C3	C4	C5	C6	(D) D1	D2	D3
一般科目	総合英語	65		68	72						72							◎				◎				
	実用英語										71											◎				
	知的財産権																			○						
	倫理学										70							◎	◎					○		
	歴史学										78							◎	◎							
	中国古典学																	○								
	文章表現法										90												◎			
専門科目 共通科目	地球環境科学										90													◎		
	技術者倫理										86									◎						
	線形数学	94	84								83			◎												
	統計学特論													○												
	解析学特論			89	83						81			◎												
	一般化学			96	95						97				◎											
	一般力学														○											
	応用物性論													○												
	応用物理特論				70						88			◎												
	応用情報工学	88	89								91			◎												
専門科目 専攻科目	科学技術英語	89	97	89	95						91										◎					
	機械電気工学特別実験										96	◎				◎									◎	
	創造デザイン演習										89		◎													
	実務実習										83	○				◎							◎		◎	◎
	機械電気工学特論										87	◎				○										
	専攻科特別研究										97	◎	◎			◎	◎						◎		◎	◎
	メカトロニクス特論			85	91						91				◎											
	熱移動と流れの工学			98	100						99				◎											
	変形加工学			96	97						97				◎											
	CAE			100	85						95				◎											
	超精密加工														○											
	材料強度学	99	100								100				◎											
	流体力学特論	73	86								80				◎											
	機械設計特論														○											
	材料力学特論														○											
	振動工学														○											
	電磁気学特論		98								98				◎											
	電子デバイス			83	94						95				◎											
	情報システム工学														○											
	パワーエレクトロニクス														○											
	電気回路特論			83	100						94				◎											
	電子計測特論										90				◎											
	電子材料プロセス工学														○											
	電子物性工学														○											
	気体電子工学														○											
	放電工学														○											
	通信工学特論														○											

【達成度評価】

1年	前期中間	英語のリスニングができなかった。仮名書きができていない
	前期末	英語系の科目の理解が足りない。
	後期中間	総合英語に関してできが悪い。
	学年末	英単語など、暗記が必要な科目に問題あり。
2年	前期中間	
	前期末	
	後期中間	
	学年末	

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

高等専門学校の目的を踏まえ，使命及び理念（基本方針）を明確に定めている。また，達成目標として，準学士課程においては全学科共通の教育目標を定め，「養成しようとする人材像」については，各学科において教育目的を定めている。さらに，専攻科においても，各専攻が定める教育目的により「養成しようとする人材像」を明確化している。

また，「学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力」について，準学士課程においては，学習・教育目標とサブ目標を定め，専攻科においては，学習・教育目標を明確にしており，準学士及び専攻科課程において，それぞれにサブ目標を設定している。これらは，学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定している。

さらに，成果の達成状況として「学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力」については，準学士及び専攻科課程において，ポートフォリオによる検証を行っており，達成状況は検証可能である。

以上のことから，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」ことを目的とする学校教育法第115条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に対し，本校で定める目的は，それから外れるものではなく，また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定めている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

目的（使命），教育理念，学習・教育目標及び達成目標は，学生便覧（前述資料１－１－①－１～７）において掲載している。また，学校要覧（資料１－２－①－１）及びホームページ（資料１－２－①－２）には，教育理念，学習・教育目標及び学科の目的その他教育上の目的について掲載している。

学生への周知を図る取組については，入学者全員に対し学生便覧の配付を行い，準学士課程入学生に対しては，入学当初のガイダンスにおいて，校長講話を実施している（資料１－２－①－３）。さらに，在校生に対しては，各教室に教育理念，学習目標等を掲示し，学生便覧を常備するとともに，各教室の前面に５つのキーワードを掲示して，その周知を図るよう工夫している（資料１－２－①－４）。また，全校集会等で，教務主事が口頭による周知を行っている。

また，４年生進級時には，「生産デザイン工学」プログラム（JABEE 対応）の説明とともに，JABEE 基準との整合性について解説（資料１－２－①－５）している。

教職員への周知を図る取組については，全教員に学生便覧，教育理念及び学習・教育目標を掲載した教員手帳を配付するとともに，本校の目的（使命），教育理念，学習・教育目標及び達成目標について，学生便覧，学校要覧等を使用した初任者研修を実施（資料１－２－①－６）している。また，非常勤講師に対しては文書（資料１－２－①－７）にて，事務職員については教務主事から学内メールにより目的の周知を図る取組を行っている。

さらに，全構成員に対し，管理棟，寮，図書館等へ教育理念及び学習・教育目標の掲示を行い，内容周知を図っている。

上記取組について，全構成員に対し認知度アンケートを実施し，周知状況に関する把握を行った。その結果，教職員では約 80%，専攻科学生では 63%及び準学士課程では 42%が認知していることを確認した（資料１－２－①－８）。この結果を受けて，平成 23 年度末に改めて教職員

へ周知状況を改善する連絡（学生への連絡を含む。）を行った（資料１－２－①－９）。

観点１－２－①　資料一覧

資料１－２－①－１　教育理念、学習・教育目標、学科における人材の養成に関する目的その他教育上の目的

〔出典：学校要覧〕

資料１－２－①－２　教育理念、学習・教育目標、学科における人材の養成に関する目的その他教育上の目的

〔出典：ホームページ〕

資料１－２－①－３　平成24年度新入生合宿研修日程表

〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－４　５つのキーワードを配置したロゴマーク

〔出典：学生便覧〕

資料１－２－①－５　学習教育目標、JABEE対応表

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料１－２－①－６　初任者研修案内

〔出典：総務課資料〕

資料１－２－①－７　非常勤講師に対する周知文書

〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－８　認知度アンケート結果

〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－９　平成23年度末にあらためて教職員へ周知状況を改善する連絡

〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－１

教育理念、学習・教育目標、学科における人材の養成に関する目的
その他教育上の目的

教　育　理　念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

学習・教育目標

1．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
2．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
3．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
4．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

学　科　の　目　的

【機械工学科】
（1）機械工学の基礎知識、基礎技術を修得し、卒業研究や創造設計等の実践的科目を通して、設計から製作までの総合的な能力を身に付けた技術者を養成する。
（2）コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる、創造性豊かな技術者を養成する。

【電気情報工学科】
（1）主たる分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的技術者を養成する。
（2）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的技術者を養成する。

【物質工学科】
（1）講義と実験を通して物質工学とそれに関係する理論を確実に理解するとともに応用力を持った技術者を養成する。
（2）課題や現象に対する問題点を自ら見つけ、これらを解決できる自主性、創造性を持った技術者を養成する。
（3）英語関係科目及び卒業研究等での英語論文読解を通して国際化に対応した実践的化学英語力を持った技術者を養成する。

【建築学科】
（1）建築の企画、設計及び施工において責任能力を有し、環境への影響に配慮できる人材を養成する。
（2）建築の伝統を発展的に継承し、建築分野における最新技術を応用できる人材を養成する。

〔出典：学校要覧〕

資料１－２－①－２

教育理念、学習・教育目標、学科における人材の養成に関する目的
その他教育上の目的



〔出典：ホームページ〕

資料１－２－①－３

平成24年度新入生合宿研修日程表

４月６日（金）		４月７日（土）		
8:35	**集合**@専攻科研究棟２階	6:00-6:30	**起床、洗顔、寝具の整理整頓**	※雨天時は 7:00-7:30 **朝のつどい（体育室）**
8:50	**出発**@高速道路使用	6:30-7:30	**散歩**	
9:50	**到着** 荷物を体育室前に置き研修室に移動	7:30-8:30	**朝食** 順：C->A->M->E、後片付け：E	
10:00-11:00	**研修開始式**@大研修室 少年自然の家オリエンテーション	8:30-9:10	**シーツ返却、清掃、着替え** **荷物移動** **清掃最終チェック** ＜指導学生によるチェック＞	
11:00-11:30	**校長講話**	9:10-9:30	**退室終了** （荷物は体育室に置く）	
11:30-12:00	シーツ受取り、ベッドメーキング	9:30-10:40	**学生主事オリエンテーション**@大研修室 **学生会オリエンテーション**@大研修室＜指導学生＞	
12:00-12:55	**昼食** 順番：M->E->C->A、後片付け：A	10:40-12:00	**ホームルーム**	
13:00-14:00	**専門学科教員によるガイダンス** M科@体育室,E科@中研修室 C科@1A研修室,A科@創作工芸室	12:00-13:00	**昼食** 順番：A->M->E->C、後片付け：C	
14:00-14:30	**休憩、着替え** ジャージに着替えて体育室に移動	13:00-14:00	**校歌コンテスト**@体育室	
14:30-16:30	**レクリエーション**@体育室	14:00-14:45	**アンケート記入** **感想文記入**@大研修室	
16:30-17:15	**休憩、着替え**	14:45-15:15	**研修終了式**	
17:15-18:30	**夕食** 順番：E->C->A->M、後片付け：M	15:15-15:30	**クラスごとの写真撮影** **退所**	
18:00-19:15	**入浴** 男子@大浴場（50名）を利用 C・M、A・Eの順で時間をずらして入浴する 女子@中浴場（30名）利用 ※(E5)・(W1)班は浴場を片付ける。 ＜指導学生によるチェック＞	16:30	**学校着、解散**	
19:40-21:30	**ホームルーム**（M科@大研修室、他の学科は前ガイダンスと同室）			
21:40-22:00	**班長会**@1A研修室 （担任、指導部、指導学生、班長）			
22:00	**就寝準備**			
22:30	**消灯・就寝**			

〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－４

５つのキーワードを配置したロゴマーク



〔出典：学生便覧〕

資料１－２－①－５

学習教育目標、JABEE対応表

３．　学習・教育目標

「生産デザイン工学」プログラムには、以下の４つの学習・教育目標［(A)～(D)］が定められ、これらの学習・教育目標を達成するために、さらに具体的なサブ目標(A1)～(D3)が定められている。

なお、この目標は、次に示すJABEE が求める認定基準（JABEE 基準１の(1)）にある素養と能力が身につくように作成されている。(学習・教育目標と基準１の(1)の(a)～(h)の対応は表１に掲載)

これらのサブ目標(A1)～(D3)を達成するには、**「生産デザイン工学」プログラムの修了要件**を満たさなければならない。

(A)　あらゆる可能性を追求できる**豊かな創造性**を有する技術者の育成

(A1)　社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案し、その検証・改善が継続的にできること。

(A2)　専門技術に関する創造的な構想を、デザイン化するためのトレーニングを通じて、具体的な成果としてまとめられること。

(B)　科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる**優れた知性**を有する技術者の育成

(B1)　解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的な専門工学を学ぶのに必要な理論を理解して説明や応用ができること。

(B2)　技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解して説明や応用ができること。

(B3)　工学に関する問題点を見出し、その解決方法を提案できること。

(B4)　性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規生産技術をデザインできること。

(C)　世界の歴史･文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる**高度な社会性**を有する技術者の育成

(C1)　地球的視点から世界の歴史・文化および倫理を学び、生活様式や価値観の多様性を認識できること。

(C2)　自分の住んでいる地域の文化を学び、その特徴を説明できること。

(C3)　具体的な事例をもとに、技術者が負っている社会的責任を理解できること（技術者倫理)。

(C4)　英語で書かれた専門分野の文献が読解できること。

(C5)　日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること。

(C6)　日本語で自分の意見や研究成果を論理的に記述し、その内容について口頭発表および討議ができること。

(D)　自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する**確かな実行力**と**健全な心身**を有する技術者の育成

(D1)　科学技術が都城圏域をはじめ地球の自然・社会環境に及ぼす諸問題を理解し、説明できること。

(D2)　自分の研究や実験課題に関して、自主的、継続的に最新の技術情報を収集し、妥当な結論を導けること。

(D3)　実習や研究に関連する人と協力し、期限内に成果をまとめられること。

４．学習・教育目標と JABEE 基準１の（１）の対応関係

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
(c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力（分野別要件）
　(1) 基礎工学の知識・能力
　　① 設計・システム系科目群、② 情報・論理系科目群、③ 材料・バイオ系科目群、④ 力学系科目群、⑤ 社会技術系科目群の５群からなり、各群から少なくとも１科目、合計最低６科目についての知識と能力
　(2) 専門工学の知識・能力
　　a) 専門工学（工学（融合複合・新領域）関連分野）における専門工学の内容は申請高等教育機関が規定するものとする）の知識と能力
　　b) いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力
　　c) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力
　　d) （工学）技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力
(e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
(g) 自主的、継続的に学習できる能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

表１　学習・教育目標と基準１の（１）の（a）～（h）との対応　　◎印は主体的に、○印は付随的に含む。

学習・教育目標 ＼ 基準１の(１)の知識・能力		(a)	(b)	(c)	(d)					(e)	(f)	(g)	(h)
					(１)	(2) a)	(2) b)	(2) c)	(2) d)				
(A)	(A1)					◎		◎		○		○	
	(A2)					◎		◎		○			◎
(B)	(B1)			◎									
	(B2)				◎		◎	○					
	(B3)					○	◎	○	◎				
	(B4)					○		○		◎			
(C)	(C1)	◎											
	(C2)	◎											
	(C3)		◎						○				
	(C4)								○		◎		
	(C5)										◎	○	
	(C6)						◎				◎		○
(D)	(D1)		◎										
	(D2)					○	○					◎	
	(D3)					○	○						◎

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料１－２－①－６

初任者研修案内

ユーザー名: 人事係 njsjinji
タイトル: 新任教員研修の日程等について(人事係) : *

2011年3月29日 18:39:00
ページ 1 ／ 1

未送信 メッセージ

H23.3.30 送信済

差出人: 人事係 njsjinji

件名: 新任教員研修の日程等について(人事係)

宛先: 森茂龍一 nkg
河野行雄 nkm
野町俊文 nkg
林田義伸 nka

校　長	事務部長	総務課長	課長補佐(総務担当)	人事係長	人事係

CC: njgjc
総務課長 njk
総務補佐 njssomu

お仕事お疲れ様です。
早速ですが、先日、日程調整をしました標記の件について、下記のとおりとなりましたので、よろしくお願いいたします。

記

１．対象者
（１）　　（物質工学科助教）
（２）　　（物質工学科助教）

２．期　日　４月１日（金）

３．予定時間・説明者・場所
（１）１４：００～　教務主事（図書館２階第２会議室）
（２）１４：３０～　学生主事（図書館２階第２会議室）
（３）１５：~~００~~15～　寮務主事（学生寮）
（４）１６：００～　専攻科長（専攻科長研究室）

４．その他
資料の御準備は、各先生方でよろしくお願いいたします。
なお、「学校要覧」及び「学園だより」は人事係で準備いたします。 各6部

人事係　　（内線：１１０８）

〔出典：総務課資料〕

資料１－２－①－７

非常勤講師に対する周知文書

平成２３年度第１０回教務委員会議事要録

日　時　　平成２３年９月１２日（月）１６：３０～１８：００
場　所　　図書館第２会議室
出席者　　教務主事、教務委員（高橋(勇)、永野(孝)、福留、中村(裕)、松﨑、武田）
列席者　　学生課長、学生課課長補佐、教務係長

議事に先立ち、平成２３年度第９回教務委員会議事要録の確認を資料１により行い、審議事項２．なお書き部分中の氏名を削除することで、これを了承した。（修正済）

１．平成２３年度低学年用ポートフォリオの記入指導等について（資料２）
教務主事から配付資料の説明及び提案があり、審議の結果提案内容を下線部のとおり一部修正のうえ、これを了承した。
１　３年生以下の試験を実施する授業科目が記入対象です。
２　低学年用ポートフォリオの用紙は、授業評価アンケート用紙を配付する際に、授業評価アンケート用紙とは別の封筒に入れて配付します。
４　記入済のポートフォリオは、回収のうえ授業担当者又は学科事務室で保管してください。
８(2) 教務委員は、ポートフォリオの提出状況を確認（未提出者（教員）には催促）し、提出されたポートフォリオを、図書館１Ｆ東側の倉庫へ運ぶ。

２．非常勤講師への教育目標等の説明について（資料３）
教務主事から配付資料の説明及び下記の提案があり、審議の結果、学習・教育目標等説明確認書のタイトルの後に「(１～３年授業担当者用)」を追加することで、これを了承した。
① 今回説明する対象者は、１～３年の授業を担当する非常勤講師全員とし、平成２４年度からは、新任の非常勤講師のみとする。
② 非常勤講師への説明は、後期の授業開始に合わせて教務委員が行う。
③ 学習・教育目標等説明確認書は、教務委員会で回収し、教務係で保管する。

３．モデルコアカリキュラムについて（報告）（資料４）
教務主事から、高専機構がモデルコアカリキュラムを導入しようとしていることについて、その目的（高専の質の向上、カリキュラムの中身の改善）や、モデルコアカリキュラムの素案が出来るまでの検討の流れ等を中心に、配付資料に基づき説明があった。

４．平成２３年度学習到達度試験について（報告）（資料５）
教務主事から配付資料により試験時間の延長について報告があり、これを了承した。
なお、今年度実施してみて試験スケジュールの時間配分に問題があった場合は、来年度に改善策を出すこととした。

５．その他
⑴教務委員長から、シラバスと試験範囲の確認調査について、各学科の進捗状況の確認並びに、何か問題が発生した場合には教務委員長に相談するように依頼があった。
⑵次回の教務委員会は、９月２６日（月）１３時３０分から開催することとした。

学習・教育目標等 説明確認書（１～３年授業担当者用）

私は、非常勤講師として授業担当を依頼され、平成 23 年度から担当することとなりました。これに関連し、教務委員の 福留先生 から、以下の項目について説明を受けました。

授業科目名	：	基礎化学
担当学年・学科	：	2C 年 物質工 学科
単位数および実施授業時間数	：	2 単位 60 時間
開講時期（前期、後期、通期）	：	前期 ・ 後期 ・ (通期)
講義形態（講義、演習、実験）	：	(講義) ・ 演習 ・ 実験

説明項目

１．依頼授業の学習・教育目標（資料１）

　　１）教育理念（準学士課程の学習・教育目標とサブ目標）

　　２）学科における人材の養成に関する目的

２．成績の評価方法（資料２）

３．シラバスの作成方法（資料３）：シラバス作成例

平成 23 年 10 月 4 日

氏名

〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－８

認知度アンケート結果

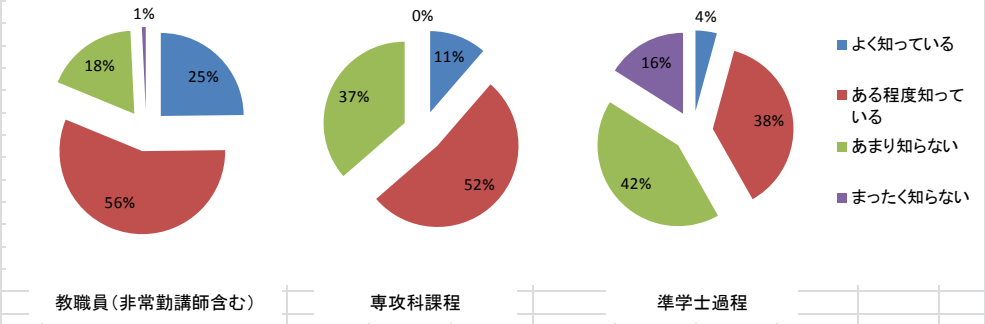
教育理念等に関する認知度アンケートの結果

実施日：平成24年1月17日～平成24年1月20日
対　象：平成23年度教職員　155人
回答数（回答率）：133人（85．8%）

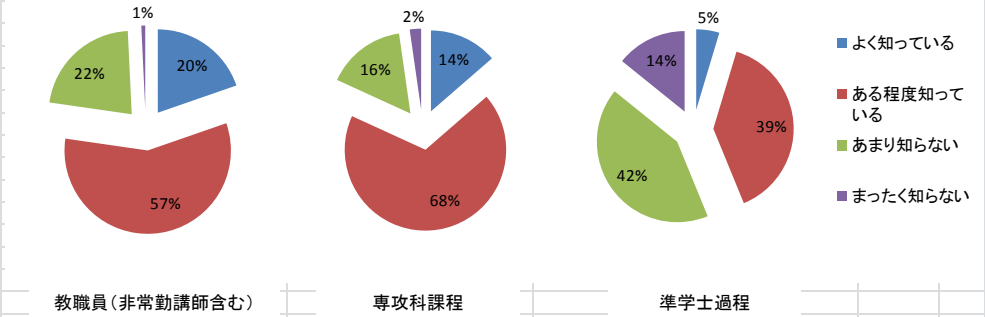
対　象：平成23年度専攻科課程学生　44人
回答数（回答率）：44人（100%）

対　象：平成23年度準学士課程学生　833人
回答数（回答率）：774人（92．9%）

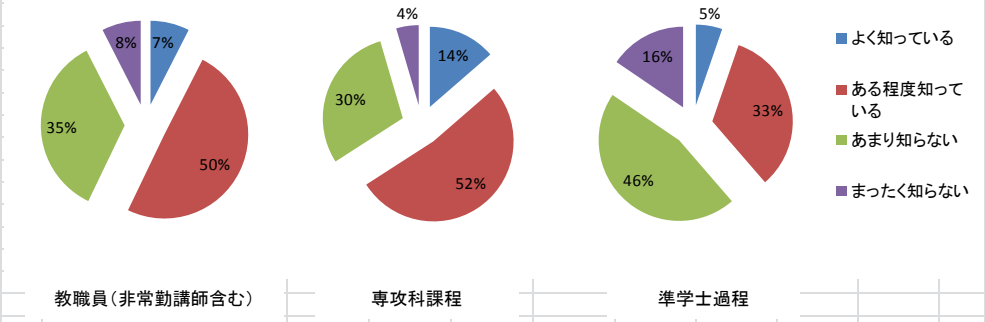
Q1　本校の教育理念を知っていますか。



Q2　本校の学習・教育目標を知っていますか。



Q3　専攻科課程修了時に身につけるべき学力や資質、能力を知っていますか。（準学士課程および専攻科修了課程のサブ目標）



〔出典：学生課資料〕

資料１－２－①－９

平成23年度末にあらためて教職員へ周知状況を改善する連絡

差出人:　　森茂龍一 nkg　2012年3月30日 11:33:56
件名:　教職員アンケート結果報告
宛先:　　全教職員
添付ファイル:　　７：教職員アンケート.xlsx　Microsoft Office Excel　[N V [g　21K
教育理念・準学士課程の学習・教育目標.doc　Microsoft Office Word 97-2003　78K

平成２４年３月３０日

教職員の皆様へ

教職員（非常勤講師含む）アンケート結果の報告

教務主事・認証評価委員長

今年の１月に実施致しました教職員（非常勤講師含む）アンケート結果の
資料を添付致します。アンケートにご協力くださりまして誠にありがとうございました。
回答率は、８５．８％でした。

教育理念や学習・教育目標を約２０％の方々があまり知らないと回答されております。
参考資料として本校の教育理念等の記載された資料を添付致しますのでご一読くだされば幸いです。

アンケート結果をもとに今後の学校運営や教育活動の改善に取り組む予定です。
今後とも教職員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

以上、ご報告致します。

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

目的は，学生に対しては学生便覧を配付するとともに，入学時のガイダンスや各教室への掲示，さらには全校集会等により周知を図る工夫を行っている。さらに，４年生進級時には「生産デザイン工学」プログラム（JABEE 対応）の説明とともに，JABEE 基準との整合性について解説を行い，さらなる周知を図っている。教員に対しては学生便覧及び教員手帳の配付，非常勤講師へは文書の配付を行い，事務職員については学内メールにより目的の周知を図っている。

これらの取組に対し，周知状況を把握するため，全教職員及び学生に対し認知度アンケートを行った。その結果，教職員には概ね周知されているものの，専攻科及び準学士課程の学生においては，前者の半数以上が認知しているのに対し，後者の認知度は半数を下回っていた。この結果を受けて，認知度改善の対応も行い，目的を周知する努力をしている。

以上，目的を全構成員に周知する努力，工夫をし，実際に認知度調査を実施する等，その把握に努めている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

学校要覧（資料１－２－①－１）及びホームページ（資料１－２－①－２）において，教育理念，学習・教育目標，学科の目的その他教育上の目的を掲載している。また，入学案内パンフレット（資料１－２－②－１）には教育理念を掲載し，学生募集要項（資料１－２－②－２）に教育理念及び学習・教育目標を掲載している。

さらに，オープンキャンパス（年１回実施）においては，入学案内パンフレットを配付し，毎年６月に実施する都城市近辺の中学校長及び進学担当教諭を対象とした「懇談会」においても学校要覧・入学案内パンフレット等の配付を行い，広く社会に公表するようにしている。

また，中学校には入学案内パンフレット及び学校要覧を毎年配付しており，宮崎県商工観光労働部商工政策課や宮崎県工業会等に対しても配付を行っている（資料１－２－②－３）。さらに，来校された就職先企業や進学先等については適宜資料配付を行っており，平成 24 年度からはさらに積極的に配付する予定である。

観点１－２－②　資料一覧

資料１－２－②－１　教育理念

〔出典：入学案内〕

資料１－２－②－２　教育理念、学習・教育目標

〔出典：学生募集要項〕

資料１－２－②－３　学校要覧送付先一覧

〔出典：総務課資料〕

資料１－２－②－１

教育理念

あなたの豊かな未来のために
若者よ世界のエンジニアに

都城高専は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とする5年制の国立学校で、こんな「あなた」に来てほしいと思っています。

- 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
- 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
- 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
- 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
- 心身ともに健全な人



※上記のマークは、本校の学習・教育目標のロゴマークです。

〔出典：入学案内〕

資料１－２－②－２

教育理念、学習・教育目標

入　学　案　内

１．創　立

昭和 39 年４月１日

２．目　的

本校は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、５年間の一貫教育により、豊かな創造性、優れた知性、高度な社会性、確かな実行力及び健全な心身をもった技術者を育成することを目的としています。

３．都城高専の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1) 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2) 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3) 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4) 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5) 心身ともに健全な人



※上記のマークは本校の学習・教育目標の口ゴマークです。

４．学習・教育目標

(1) あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
(2) 科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
(3) 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
(4) 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

〔出典：学生募集要項〕

資料１－２－②－３

学校要覧送付先一覧

「２０１１年度　学校要覧」送付先一覧

○各国立高専……５４部

○霧島工業クラブ……　３部

○宮崎県商工観光労働部商工政策課……　３部

○宮崎県工業会……　３部

○みやざき技術士の会……　３部

※高専機構本部には、総務係から別途３０部送付する。

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

目的は，ホームページに掲載して広く社会に公表している。また，学校要覧に教育理念，学習・教育目標及び学科の目的その他教育上の目的を記載し，中学校のみならず就職先企業や進学先等への配付・公表に努めている。また，都城市近辺の中学校長及び進学担当教諭を対象とした「懇談会」やオープンキャンパスでは，教育方針等について説明を行っている。

以上のことから，目的を社会に対して広く公表している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士及び専攻科課程において，完成度の高い理念と目標が定められている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準１の自己評価の概要

教育理念は，「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」であり，高度化及び多様化する社会の要請に応えることができる実践的技術者の育成を使命としている。また，４つの学習・教育目標を掲げて，教育理念の具現化を図り，使命を明確に定めており，学科及び専攻科それぞれについての目的・方針も明確に定めている。

さらに，成果の達成状況については，準学士及び専攻科課程において，ポートフォリオによる検証を行っており，達成状況は検証可能である。

以上のことから，目的は，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」とした学校教育法の目的と矛盾しない形で定めており，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定めている。

また，目的は，学生便覧やシラバス等に明記しており，入学時のガイダンスや各教室への掲示，さらには全校集会等により全構成員への周知徹底を図っている。さらに，目的は，ホームページや学校要覧に掲載する等，広く社会に公表している。また，学習・教育目標の５つのキーワード「豊かな創造性」，「優れた知性」，「高度な社会性」，「確かな実行力」及び「健全な心身」をロゴマークにして，施設内の至る所に掲示して全構成員への浸透を図り，来校した本校関係者の目にも止まるように工夫をしている。

現状，本校の目的及び教育目標を全構成員に周知する努力及び工夫をしており，実際の認知度を確認した結果から見て，教職員は概ね認知している。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程は，中学卒業生を対象に５年一貫教育により実社会で役立つ実践的技術者を育成することを教育理念とし，工業の分野を幅広くカバーすべく，機械工学，電気情報工学，物質工学及び建築学分野の４学科（各学科定員40名）で構成している（資料２－１－①－１～３）。

また，各学科の教育の目的を基に，時代の要請に適合させるため，電気情報工学科は従来の電力系主体のカリキュラムから，社会のニーズに応えて，電気・電子系科目と情報・通信系科目を柱にした複合的なカリキュラムへと変更し，そのカリキュラムに沿って平成19年度に電気工学科から電気情報工学科へ名称変更している（資料２－１－①－４～５）。物質工学科は，より専門性を高めるため，４年次から物質工学コースと生物工学コースの２コース制をとっている（資料２－１－①－６）。建築学科は，近年の建築業界の低迷の影響を受けて入学志願者が激減しているため，平成23年度に建築学科入学志願者増検討ワーキンググループを設置し，学科改組及びコース制を含めた短期的及び中・長期的対策を検討している（資料２－１－①－７）。

さらに，数年に一度，全学的に，卒業生や卒業生が就職した企業へ教育の目的，カリキュラム等についてのアンケートを実施し（資料２－１－①－８），科学技術の動向や社会のニーズに合わせてカリキュラムを変更する（資料２－１－①－９）等，学科構成の適切性を見直している。

観点２－１－①　資料一覧

資料２－１－①－１　学科の目的
〔出典：学校要覧〕

資料２－１－①－２　学科、学級数及び入学定員（学則第７条）
〔出典：学則〕

資料２－１－①－３　年度別及び学科別入学者数
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－４　電気情報工学科への名称変更計画
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題（平成 23 年１月刊行）〕

資料２－１－①－５　名称変更前後の入学志願者数の変化
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－６　物質工学科の年度別コース選択人数
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－７　建築学科志願者増ワーキンググループの答申書
〔出典：総務課資料〕

資料２－１－①－８　卒業生・企業アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－９　カリキュラム変更届（本科）
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－１

学科の目的

【機械工学科】
（1）機械工学の基礎知識、基礎技術を修得し、卒業研究や創造設計等の実践的科目を通して、設計から製作までの総合的な能力を身に付けた技術者を養成する。
（2）コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる、創造性豊かな技術者を養成する。

【電気情報工学科】
（1）主たる分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的技術者を養成する。
（2）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的技術者を養成する。

【物質工学科】
（1）講義と実験を通して物質工学とそれに関係する理論を確実に理解するとともに応用力を持った技術者を養成する。
（2）課題や現象に対する問題点を自ら見つけ、これらを解決できる自主性、創造性を持った技術者を養成する。
（3）英語関係科目及び卒業研究等での英語論文読解を通して国際化に対応した実践的化学英語力を持った技術者を養成する。

【建築学科】
（1）建築の企画、設計及び施工において責任能力を有し、環境への影響に配慮できる人材を養成する。
（2）建築の伝統を発展的に継承し、建築分野における最新技術を応用できる人材を養成する。

〔出典：学校要覧〕

資料２－１－①－２

学科、学級数及び入学定員（学則第７条）

（学科、学級数及び入学定員）

第７条　学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	学級数	入学定員
機械工学科	１	４０人
電気情報工学科	１	４０人
物質工学科	１	４０人
建築学科	１	４０人

２　前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

〔出典：学則〕

資料２－１－①－３

年度別及び学科別入学者数

学科名(定員)	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
機械工学科(40)	43	44	44	43	41
電気情報工学科(40)	43	41	42	40	42
物質工学科(40)	43	44	43	42	42
建築学科(40)	43	40	44	40	40
全体(160)	172	169	173	165	165

〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－４

電気情報工学科への名称変更計画

(3) 電気情報工学科教育の目的とカリキュラムの編成

電気情報工学科の現在の授業科目表を表Ⅱ4-1(3)-1に示す。

創立(昭和 39 年度)当初は、電力系主体のカリキュラムであったが、電子立国を目指す日本の社会情勢の変化や、コンピュータを中心に急速に発展した情報・通信技術に対応するために、電子・情報系科目の充実を図ってきた。その結果、現在は、電気・電子系科目と情報・通信系科目を柱にした複合的なカリキュラムとなっており、このような内容をより的確に表現するため、平成 19 年度より電気情報工学科と名称を変更した。

主な特徴は、4 年次後期に 5 年次の卒業研究への導入を円滑にすべく電気情報工学ゼミを開講していること、さらに5年次での一部授業科目を電力・エネルギー系を中心とした強電系（エネルギー変換工学、電力輸送工学、高電圧工学、法規及び施設管理）と情報・通信系を中心とした弱電系（知能情報処理、システムプログラミング、電磁波工学、情報工学特論）の選択とすることで、広範で多様な技術分野を学生が無理なく理解できるようにしたことである。

今後さらに専門性が進み学生の理解が厳しくなる状況が生じる事態になれば5年次からの選択科目の導入でなく、4年次からのコース制の導入も視野に入れた検討が必要となることも考えられる。

表Ⅱ4-1(3)-1　電気情報工学科の授業科目表

専門科目（ロ）　電気工学科 / 電気情報工学科　（平成16～18年度入学者用）（平成19年度以降入学者用）

（別表第2）

	授業科目	科目別単位数	学年別配当単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	微分方程式	2				2		
	応用数学	2				2		
	応用物理	4			2	2		
	情報基礎Ⅱ	2		2				
	電気基礎論Ⅰ	2	2					
	電気基礎論Ⅱ	2	2					
	電気磁気学	5			2	3		
	電気回路Ⅰ	4		4				
	電気回路Ⅱ	2			2			
	回路網理論	2				2		
	電子回路	4			2	2		
	半導体工学	2				2		
	電気材料工学	2					2	
	プログラミング言語Ⅰ	2		2				
	プログラミング言語Ⅱ	2			2			
	論理回路	2			2			
	計算機工学	2				2		
	電気機器	4			2	2		
	計測工学	2					2	
	制御工学	3				1	2	
	通信工学	2					2	
	電気製図	2	2					
	電気電子情報設計	3					3	
	電気情報工学ゼミ	1				1		
	電気情報工学実験	14		3	4	4	3	
	卒業研究	10					10	
履修単位計		84	6	11	18	25	24	
選択科目	エネルギー変換工学	2					2	7単位を選択
	電力輸送工学	2					2	
	高電圧工学	2					2	
	法規及び施設管理	1					1	
	知能情報処理	2					2	
	システムプログラミング	2					2	
	電磁波工学	2					2	
	情報工学特論	1					1	
	校外実習	1				1		
開設単位計		15				1	14	
履修単位計		7					7	
履修単位合計	専門科目計	91	6	11	18	25	31	
	一般科目計	83	29	23	16	10	5	
	合計	174	35	34	34	35	36	

－42－

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題（平成23年１月刊行）〕

資料２－１－①－５

名称変更前後の入学志願者数の変化

学科名（定員）	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
機械工学科（40）	43	41	42	43	44
電気工学科（40）	42	43			
電気情報工学科（40）			43	43	41
物質工学科（40）	40	42	44	43	44
建築学科（40）	41	41	41	43	40
全体（160）	166	167	170	172	169

〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－６

物質工学科の年度別コース選択人数

年度	物質工学コース	生物工学コース	計
20	26	15	41
21	28	17	45
22	26	16	42
23	25	14	39
24	31	18	49

〔出典：学生課資料〕

資料２－１－①－７

建築学科志願者増ワーキンググループの答申書

建築学科入学志願者増のための方策

最　終　答　申

平成２３年９月２８日

建築学科入学志願者増検討ワーキンググループ

平成２３年５月２６日に建築学科入学志願者増検討ワーキンググループ（以下「ＷＧ」という。）が設置され、校長からＷＧに対し次のとおり諮問があった。

【諮問内容】

建築学科の入試倍率は、別紙に示すとおり直近４年間（平成２０年度～平成２３年度）入試倍率平均が１．０９倍と他学科と比較して異常に低くなっています。また、平成２１年度及び平成２３年度では入試倍率が１．００倍以下となっており、建築学科の存続のみならず本校の将来計画にも大きな影響を及ぼす状況となっています。

ついては、これらの状況を踏まえ、建築学科の入学志願者増のための方策等を検討の上、即効力のある具体的な対策・方法並びに中・長期的な対策・方法を提案していただきたい。

この諮問を受けたＷＧでは、まず、本校建築学科の入学志願の現状と課題を把握し確認した。各学科のここ４年間（平成２０～２３年度）の入試倍率は、機械工学科１．８４倍、電気情報工学科１．７４倍、物質工学科１．９５倍、建築学科１．０９倍であり、建築学科が特に低くなっている。また、学力選抜における第２志望学科からの建築学科入学者数は、平成１９年度１人、平成２０年度８人、平成２１年度９人、平成２２年度１１人、平成２３年度１０人と平成２０年度から極端に多くなっている。なお、建築学科入学志願者が減った主な要因は、１５歳人口の減少や風評被害（建築学科卒業は就職がしにくい？）など様々なことが重なった結果だと考えられるが、要は魅力ある建築学科を再構築し、そのことを受験生やその保護者等にどのようにアピールするかが肝要と思われる。

ＷＧは、このような危機的状況を踏まえ、建築学科入学志願者増のための方策を短期対策と中期対策に分けて検討することとし、まず、短期対策については、「建築学科で取り組む事項」、「学校全体で取り組む事項」、「その他（中期対策であるが、現時点で早急に検討を要する事項）」という三つの視点により他高専の事例等も参考にして種々検討し、別紙のとおり方策を取りまとめるとともに、この短期対策は平成２４年度入試に向けて速やかに取り組む必要があったため、平成２３年６月２９日に中間答申を行った。

次にＷＧでは、中期対策について、建築学科の名称変更の是非等を中心に種々検討し、下記のとおり方策を取りまとめ、これをもって最終答申とすることとした。

なお、この中期対策は、あくまでも方策の方向性を提示しており、具体的な実施に当たっては、さらなるニーズ調査等を行い分析・解析するとともに、建築学科自体はもちろんのこと運営企画委員会、教務委員会、入試実施委員会等関係委員会での活発な議論を行う必要がありますので、早急に対処くださるようお願いいたします。

記

建築学科入学志願者増にかかる中期対策

１．「建築学科」から「建築デザイン学科」等への名称変更の検討
　○教員異動を考慮した計画的なカリキュラム変更が必須となる。
　○建築士の受験資格認定校としての資格を喪失しない。
　○できればコース制（例：建築コース、デザインコース）の導入が望ましい。

２．学生募集要項の見直し
　○学力検査による入学者の選抜の出願において、志望学科を第４志望まで記入できるようにして、なるべく成績優秀な学生を建築学科に入学させる。
　○第２志望での合格者は、原則として募集人員の２５％以内としている制限を撤廃する。

３．１年生の学習指導体制の見直し
　○１年生は、高専教育の導入において最も重要な時期である。そのため、１年学級担任に、一般科目又は専門学科の経験豊かな教員を配置する。
　○建築についての動機づけが重要であるため、早期に研究室訪問など建築に興味を抱かせるような取組の実施や授業内容等のより一層の工夫が望まれる。

４．ＰＲ活動の重点化
　○広報委員会の機能と活動の強化
　○新聞等メディアへの掲載の推進
　○宮崎県内の産学官連携イベントへの積極的参加
　○採用実績（大手ゼネコン、地元公務員）のアピール
　○地元建築会社・工務店との連携強化

５．外部有識者懇談会の開催
　○建築学科入学志願者増に向けた外部有識者（建築関係）との意見交換を目的とした懇談会を開催する。

６．その他
　○他高専では、１年生を混合学級とした学科大括り化によるコース制を導入している学校もある。本校においても今後の学生募集や学科、学校の在り方等を含め広く議論し検討してみる余地はあると考えられる。

別　　紙

建築学科入学志願者増にかかる短期対策

【建築学科で取り組む事項】

①中学校訪問（特に宮崎市内、宮崎県北及び鹿屋地域並びに在学生出身中学校）の実施

・良好な求人状況
・公務員への就職
・建築士受験資格の取得（分かり易い説明）
・優れた進学校
・出身中学校への在校生及び教員の訪問

②公開講座（現在１件）、出前授業（現在０件）を増加して実施

・対象を小学校や幼稚園に拡大する。

③オープンキャンパスの充実

・実験実習体験型の展示物の増加や見直し

④デザコンの PR

⑤宮崎県及び鹿児島県の中学校に受験案内等を送付する際に、建築学科紹介リーフレットを同封

⑥建築学科紹介リーフレットの都城市内中学校３年生全員への配付

⑦女子志望者の増加

・学生募集要項等に建築学科出身女子学生の就職先及び人数並びに卒業生のコラム掲載
・女子中学生向けパンフレット等の作成
・女性１級建築士やＯＧの講演会の開催

⑧現在の低学年生へ建築のおもしろさや興味を引くような取組の導入

・１年生の各研究室訪問イベントの実施
・デザコンへの低学年からの参加の促進

【学校全体で取り組む事項】

①全教員（一般科目教員を含む）による中学校訪問
②同窓会との連携強化
③受験生への過去の学力選抜試験問題（数学、英語）分析説明会の開催
④ホームページの活用

・「受験生の皆さんへ」のフォルダー設定
・出身中学校別の学生の声掲載
・リアルタイムな情報提供

⑤模擬授業、公開授業の導入（約１週間程度、高専オープン週間の導入）
⑥公務員養成学校との連携を図る。
⑦都城高専ネーム入りグッズの作成

⑧オープンキャンパスの充実
・入試相談コーナーの設置
・自由見学、在校生との自由会話時間帯の設定
・過去の学力選抜試験問題の配付
⑨１年学級担任にベテラン教員を配置

【その他（中期対策であるが、現時点で早急に検討を要する事項)】
①学力選抜において、第４希望までとる。
②建築学科の名称変更（カリキュラム内容の検討を含む）
③１年生の学習指導体制の見直し

〔出典：総務課資料〕

観点２－１－①－８

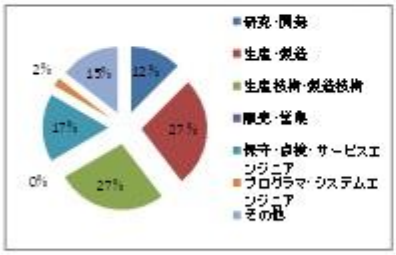
卒業生・企業アンケート

本校卒業に関する評価アンケート（企業）の結果

実施日：平成23年12月16日～平成24年1月27日
対　象：平成22年度卒業生就職先の企業等　69社
回答数（回答率）：33社（47．8%）

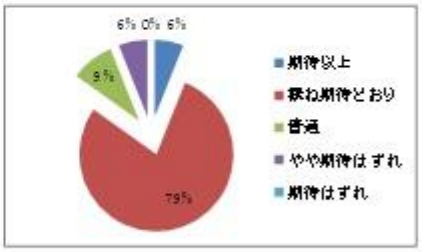
Q－01　御社に勤務する本校卒業生が、現在従事している職種についてお教えください。（複数回答可）

1	研究・開発	6	12%
2	生産・製造	13	27%
3	生産技術・製造技術	13	27%
4	販売・営業	0	0%
5	保守・点検・サービスエンジニア	8	17%
6	プログラマ・システムエンジニア	1	2%
7	その他	7	15%
		48	100%



Q－02　本校卒業生は、御社の期待に応えているでしょうか。

1	期待以上	2	6%
2	概ね期待どおり	26	79%
3	普通	3	9%
4	やや期待はずれ	2	6%
5	期待はずれ	0	0%
		33	100%



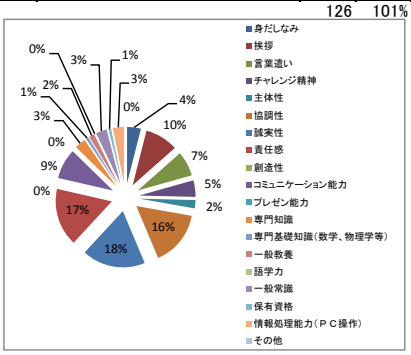
その他（設計、建設設計、積算士、施工管理、建設施工、航空機整備、工場生産設備の設計・開発業務）

Q－03　上記について、具体的な内容について差し支えない範囲でお教えください。

- ○概ね頑張って頂いているが、一部に意欲的にもの足りなかったり体調を崩して（これは仕方ありませんが）休職中の者がいる。
- ○真面目に業務に取り組んでいただいております。
- ○先輩、上司とコミュニケーションをとりながら業務に取り組んでいます。
- ○ターボチャージャーの組立手順、建設機械関係の生産計画、部品等の品質管理の業務にそれぞれ従事している。
- ○入社6ケ月後下記作業をマスターしている。①ブレンド作業が1人でできる。②ブレンドに関する日報、SAP処理ができている。③品種に使われる原材名を覚えている。（粉場配合）④設備の役割、原料フローの理解、制御盤で始業、終業の操作ができる。
- ○技術者として順調に成長しております。素養があるだけに今後の活躍を期待している所です。
- ○5名中2名は退職、現時点で期待に応えているかどうか判定できるのは2005年入社1名だが、少し仕事にムラがある。（残り2名は2009,2010入社のため判断が難しい。
- ○弊社が期待する「ものづくり」の仕事の意義をよく理解し、誠実に職務に取り組んで下さっています。
- ○業務に積極的に取り組まれており、必要な資格等についても早期に合格しているなど、非常に頑張っていると感じています。
- ○一般常識である身だしなみ、挨拶、言葉遣い、良好である。機械操作、メンテナンスの覚えが早い。
- ○教えられる側から教える側になり、成長が感じられたため
- ○入社時は、院卒や大卒の同期と比べると年下になるせいか、比較的控え目にしているように感じますが、施工現場に配属されると、上司や先輩社員の指導も受けながら、積極的に業務にあたっているようです。
- ○指示されたことの処理能力は高い。作業量の処理が多い。素直である。
- ○貴校卒業生は現在、製造設備の設計業務及び新製品開発業務を推進して頂いており、その仕事ぶりも期待通りそのものです。
- ○期待通りの活躍をしていただいていると存じます。活発で明るい方が多い印象です。
- ○個人によって能力・知識はもとより、入社後の配置・環境・経過・・・による取組みも異なるので、まとめての回答は難しいです。ちなみに、　　は会社選びにミスマッチがあったようで、入社3ケ月で退社、　　は4年目半ばで結婚退職。3人目の中 ヶは　　が住宅工務担当で頑張っていますが、彼も当初の希望（一般建築ではなく元々住宅を志望）にミスマッチがあったようです。
- ○専門分野における技術力・知識・協調性、モチベーション
- ○貴校で学んだ知識、経験をベースに、試験業務や行程作業に携わっております。様々な業務を通じて自身のスキルアップを図る姿勢があり、また圧倒的に年長者が多い職場において、うまくコミュニケーションをとっています。
- ○明るく前向きに指示した仕事を確実にこなし、スピード感ある仕事を推進してくれております。昨年度は慣れない海外業務においても現地人とコミュニケーション良く信頼を得て困難な仕事、テーマを克服してくれました。
- ○実験の準備及び実行、特性の評価、結果のまとめ等高専卒業生に期待される基本業務について、問題なく行うことができる。
- ○生産及び研究設備における新規設備導入および改造業務を担当しているが、上司、先輩の指導の基、積極的に業務に取り組んでいる。
- ○業務に前向きに取り組んでおり、報告書も理解しやすくまとめている。担当工程の通常操作は、一人で作業できるレベルに達しています。
- ○主体性が足りない

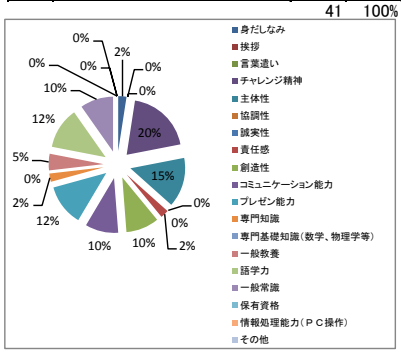
Q－04　本校卒業生は、以下のどのような点が優れているとお感じですか。(複数回答可)

1	身だしなみ	5	4%
2	挨拶	12	10%
3	言葉遣い	9	7%
4	チャレンジ精神	6	5%
5	主体性	3	2%
6	協調性	20	16%
7	誠実性	23	18%
8	責任感	21	17%
9	創造性	0	0%
10	コミュニケーション能力	11	9%
11	プレゼン能力	0	0%
12	専門知識	4	3%
13	専門基礎知識(数学、物理学等)	1	1%
14	一般教養	2	2%
15	語学力	0	0%
16	一般常識	4	3%
17	保有資格	1	1%
18	情報処理能力(PC操作)	4	3%
19	その他	0	0%
		126	101%



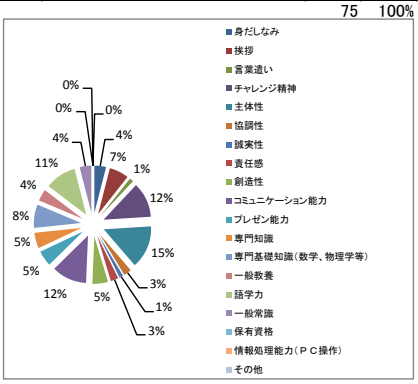
Q－05　本校卒業生は、以下のどのような点が劣っているとお感じですか。(複数回答可)

1	身だしなみ	1	2%
2	挨拶	0	0%
3	言葉遣い	0	0%
4	チャレンジ精神	8	20%
5	主体性	6	15%
6	協調性	0	0%
7	誠実性	0	0%
8	責任感	1	2%
9	創造性	4	10%
10	コミュニケーション能力	4	10%
11	プレゼン能力	5	12%
12	専門知識	1	2%
13	専門基礎知識(数学、物理学等	0	0%
14	一般教養	2	5%
15	語学力	5	12%
16	一般常識	4	10%
17	保有資格	0	0%
18	情報処理能力(PC操作)	0	0%
19	その他	0	0%
		41	100%



Q－06　本校が、力を入れるべきとお感じの教育内容を3つ以内でお教えください。

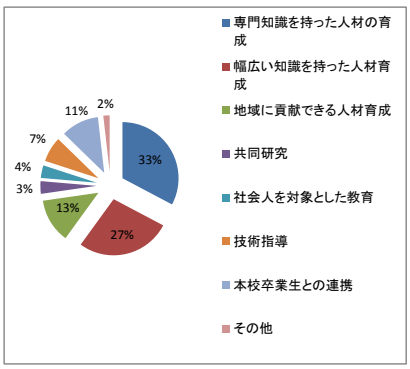
1	身だしなみ	3	4%
2	挨拶	5	7%
3	言葉遣い	1	1%
4	チャレンジ精神	9	12%
5	主体性	11	15%
6	協調性	2	3%
7	誠実性	1	1%
8	責任感	2	3%
9	創造性	4	5%
10	コミュニケーション能力	9	12%
11	プレゼン能力	4	5%
12	専門知識	4	5%
13	専門基礎知識(数学、物理学等)	6	8%
14	一般教養	3	4%
15	語学力	8	11%
16	一般常識	3	4%
17	保有資格	0	0%
18	情報処理能力(PC操作)	0	0%
19	その他	0	0%
		75	100%



Q－07　御社が、本校に期待されることは何でしょうか。(複数回答可)

1	専門知識を持った人材の育成	18	33%
2	幅広い知識を持った人材育成	15	27%
3	地域に貢献できる人材育成	7	13%
4	共同研究	2	3%
5	社会人を対象とした教育	2	4%
6	技術指導	4	7%
7	本校卒業生との連携	6	11%
8	その他	1	2%

その他(自ら学ぼうとする姿勢をもった人材の育成)



Q－08　本校に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

○ 2013年定期採用者の企業説明会等日程がお分かりでしたら、ご教示いただければ幸いです。（全学科が対象でしょうか？）

○ 社会人として自立する前（内定時期）に、子供ができての結婚などが過去相次いで発生しております。個人的なことで祝うべきものですが、会社のルール上、社宅への入居条件を満たしていない場合でも、金銭的な負担を考慮して、人事から担当部門にかけあって特例で入居を認めてもらっています。指導しにくい部分ではあると思いますが、まずは社会人としての自立が先決であることを念を押して御指導頂けましたら幸いです。

○ 大都市圏にある高専の学生と比較して、ややおとなしく、積極性（チャレンジ力）に欠ける面があります。上記について伸ばしていくご指導をお願いしたく存じます。（その他）ご送付いただいた名簿中　　様は退職済みです。

○ 貴校卒業生は、学生代に身に付けた専門知識を基に、当社にてそれぞれ異なる分野にて活躍されております。今後も引き続き貴校学生のご紹介を頂ければ幸甚に存じますので、宜しくお願い申し上げます。

○ 今後ともよろしくお願い申し上げます。

○ 将来の幹部候補（主任～最終工場長を目指して欲しい）

○ 貴校から毎年多くの学生様をご紹介頂き、また、多くの学生様にご入社頂いております。そして、その方々の弊社入社後に仕事に取り組まれる姿勢や態度は、入社当初より真剣さが伺えます。仕事以外にも、会社行事に積極的に取り組まれ、何事にも真剣に取り組まれるという印象を持っています。恐縮ながら要望をあげさせて頂きますと、貴校で本科4年生向けの企業説明会が開催される際には、是非お声掛けを頂きたいと存じます。卒業生にも同行させ、就職に向けて後輩の一助になるかと存じます。ご検討いただければ幸いです。

○ 近年学生も多様化し、就業にタイする意識も様々です。しかし、社会人として勤労と収入に対する納税は義務であり、個人的感情のみで仕事の好き嫌いを判断することは良くないと考えます。従って個人の将来への展望は様々ですが、働くこと、働かなければいけないという事を学校在学中にしっかり意識付けし、送り出していただきたいと考えます。

○ 保有資格を数多く取得（リフト、クレーン等）

○ 都城工業高等専門学校の方は素直で良い子です。又来年も宜しくお願い致します。

○ 将来、工場を支えてくれる人材として期待しております。本人の成長が会社の成長につながるような双方にとって良い関係を築ければと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

○ いつも大変お世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○ 卒業生の活用について、もっと回数が増えることを願っております。弊社は2011年、2012年と採用凍結の為、大変ご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。2013年以降についてはまだ結論は出ていませんが、早い時期に採用再開出来るよう努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

○ 企業で活躍できる人材（技術者）の育成を今後も宜しくお願いします。

○ いつも大変お世話になっております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

○ 基本的には現状で充分と思いますが、より強固な武器となりうる、コミュニケーション能力の指導育成に注力されるとより良いと思います。

○ 2007年以降、毎年卒業生を採用させていただいております。意欲的で優秀な人材をお送りくださり、誠にありがとうございます。入社からまだ年数が経っておらず、配属先部署で教育中という方もありますが、それぞれに現場の期待を担っております。弊社の現場では、化学系のみならず、機械、電気系の技術者も多数、必要としておりますので、物質工学科に加え、機械工学科、電気情報工学科の方々にも興味をもっていただけましたら幸いに存じます。

○ 貴校卒業生は、誠実で責任感があり、客先からの信頼も厚く会社でも重要なポストに就いています。今後も是非、貴校の学生（元気で優秀な方）からの応募をお待ちしています。2005年（1名）、2006年（1名）に入社された方が、残念ながら入社後3～4年で退職されています。当社におきましても、先輩との連携を深めるよう指導して参りたいと存じますので、今後共よろしくお願い申し上げます。

○ 貴高専からの優秀な卒業生を弊社へご推薦頂き、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

○ 専門的な知識については、配属先によっても内容が大きく異なるので、入社後に身に付けることで良いと思います。一般的な知識、特に語学に力を入れるのが入社後に力を発揮しやすいと思います。特許についても基礎的な知識があると良い。

○ 高専はすばらしい教育機関だと感じています。その証拠に高専の卒業生は入社後、大卒、学部卒と対等に業務遂行ができています。更に、人間性の面においては、いろいろなことにチャレンジする責任性や職場でのコミュニケーションの能力は高専卒者の方が優れていると思います。ただ、1点大卒者と比較して劣っている点は英語力ではないかと感じます。今後も各企業はグローバル展開が進んで行きます。この点についてのご検討をよろしくお願いします。今後も5年間一貫教育のメリットを活かして良い人材を社会へ送り出して頂くようよろしくお願いします。

○ 積極性、向上心、考える力を身に付けた学生の育成を期待します。有機化学や技術に対して好奇心をもって業務に取り組める人材の育成を期待します。

〔出展：学生課資料〕

資料２－１－①－９

カリキュラム変更届（本科）

教務委員会資料 平成20年10月27日	6

授業科目名称の変更について

【提案】

現行の「現代社会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を「総合社会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」へ変更する。

【提案理由】

①内容と名称が必ずしも一致しない。

②「現代社会」「世界史」「政治経済」と名称を変更することもあり得るが、将来、教員が交替し内容を変える事があり得るのを想定した場合、上記の名称が対応しやすい。

教務委員会資料 平成21年10月13日	4

教育課程の変更について

【変更内容】

以下のとおり授業科目および開設学年を変更し、平成22年度入学者から適用する。

現　行		変　更　後
「建築史Ⅰ」（1単位：4年後期）	→	「日本建築史」（1単位：3年後期）
「建築史Ⅱ」（1単位：5年前期）	→	「西洋建築史」（1単位：4年前期）
「建築史Ⅲ」（1単位：5年後期）	→	「近代建築史」（1単位：4年後期）
「建築法規」（1単位：3年後期） 「建築法規」（1単位：4年前期）	→	「建築法規」（2単位：5年通年）

【変更理由】

建築法規を効果的に理解するためには、ある程度、建築学の基礎知識を有することが必須であり、5年次開講が望ましい。また、建築史、特に日本建築史は、低学年での建築学の導入科目としては最適であると考えられるため。

教務委員会資料 平成22年1月25日	8

平成２２年１月２１日

教務主事　殿

一般科目文科長　崎山　強

学修単位科目の廃止について

下記の学修単位適用科目について、学修単位の適用を廃止いたしたいので承認ください。

なお、この廃止については、一般科目文科会議で承認しています。

記

整理番号	科目名	単位数	学科	学年	授業時間	適用開始年度
1	法学	2	全学科	4	40時間	平成２０年
2	歴史学概論	2	全学科	4	40	同上
3	社会学	2	全学科	4	40	同上
4	国際文化論Ⅰ	2	全学科	5	40	同上
5	国際文化論Ⅱ	2	全学科	5	40	同上
6	哲学	2	全学科	5	40	同上
7	産業財産権法	2	全学科	5	40	同上

一般科目文科長　殿

申請のあった上記の学修単位科目の廃止について、承認します。

平成２２年１月２１日　　教　務　主　事

教務委員会資料 平成23年10月24日	5

H23.10.21

カリキュラム変更届

建築学科

下記の理由により，平成24年度以降の入学者から建築学科専門科目における開講科目を変更します．

変更理由

宮崎県はスギの生産量が日本一であり，建築分野においても，本県では，木質構造を専門とする技術者の需要が高いと考える．そこで，本学科においても地域の需要に応えることができるような人材育成を目的として「木質構造」の科目を新たに開講する．また，東日本大震災，さらには新燃岳噴火などによる被害を受けて，今後，建築技術者においても防災に関する知識が益々求められる可能性があることから，「防災工学」を新たに開講する．

一方，学生の設計力および製図力の強化を目指し，必修科目における建築設計演習の単位数を１単位増設するとともに，就職進学を控えた高学年学生の多様なニーズに応えることができるように選択科目を開設する．

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程は，実社会で役立つ実践的技術者を育成することを教育理念として４学科で構成している。各学科の教育の目的を基に，社会のニーズに適合するために，電気情報工学科は平成19年度に電気工学科から電気情報工学科へ名称変更し，物質工学科は４年次から物質工学コースと生物工学コースの２コース制をとり，建築学科は建築学科入学志願者激減対策として平成23年度に建築学科入学志願者増検討ワーキンググループを設置する等，対応している。

また，科学技術の動向や社会のニーズを知るために，本科卒業生や企業へ教育の目的，カリキュラム等についてのアンケートを実施し，カリキュラムを変更する等，学科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程は，高専５年間の教育課程卒業後更に２年間の学修によって，高度な専門知識と技術を有機的に結合できる研究開発型技術者を育成することを目的として，機械工学科，電気情報工学科，物質工学科及び建築学科の４学科と整合する機械電気工学専攻（定員８名），物質工学専攻（定員４名）及び建築学専攻（定員４名）の３専攻で構成している（資料２－１－②－１～３）。

また，各専攻の教育の目的を基に時代の要請に適合させるため，平成 16，19，23 年に専攻科修了生や修了生が就職した企業へ，教育の目的，カリキュラム等についてのアンケートを実施し（資料２－１－②－４），カリキュラムを変更する（資料２－１－②－５）等，専攻科構成の適切性を見直している。

なお，専攻科の「生産デザイン工学」プログラム（資料２－１－②－６）は，JABEE認定プログラムに認定されており，専攻科入学生は，全員が本プログラムの履修者となる。

観点２－１－②　資料一覧

資料２－１－②－１　専攻科各専攻の教育目的
〔出典：専攻科学生便覧〕

資料２－１－②－２　専攻及び入学定員（学則第 40 条）
〔出典：学則〕

資料２－１－②－３　年度別及び専攻別入学者数
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－②－４　専攻科修了生・企業アンケート資料
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－②－５　カリキュラム変更届（専攻科）
〔出典：学生課資料〕

資料２－１－②－６　生産デザイン工学プログラム履修の手引き（表紙・目次）
〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料２－１－②－１

専攻科各専攻の教育目的

⑶　**専攻科各専攻の教育目的**

機械電気工学専攻

１）機械工学・電気情報工学の基礎知識と技能を基盤として、両工学分野の連携技術に対応できる技術者を養成する。

２）高度化した設計・開発・研究に対応できる創造的なデザイン能力と問題解決能力を備えた技術者を養成する。

物質工学専攻

１）物質工学の基礎的・実践的知識および技術の上に、より高度な新素材開発技術、物質生産技術および環境保全技術を有する技術者を養成する。

２）化学工業界の要望に応えることのできる総合的知識に基づいた幅広い視野と創造性を持つ技術者を養成する。

建築学専攻

１）建築の特定分野において、高度な責任能力を有し、自ら問題を発見し解決できる能力を有する人材を養成する。

２）建築文化の発展と豊かな都市空間の創造に寄与できる人材を養成する。

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料２－１－②－２

専攻及び入学定員（学則第40条）

（専攻及び入学定員）

第４０条　専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
機械電気工学専攻	８人
物質工学専攻	４人
建築学専攻	４人

〔出典：学則〕

資料２－１－②－３

年度別及び専攻別入学者数

学科名(定員)	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
機械電気工学専攻(8)	12	13	10	7	13
物質工学専攻(4)	8	7	8	8	8
建築学専攻(4)	5	3	6	6	8
全体(16)	25	23	24	21	29

〔出典：学生課資料〕

資料２－１－②－４

専攻科修了生・企業アンケート資料

プログラム委員会 資料2

アンケート調査結果分析のまとめ

技術者教育プログラム委員長
林田義伸（2011.11.17）

今回の調査項目である「数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力」「専門分野（工学）に関する知識、応用力」のいずれにおいても、また、修了生や学生の区別無く、必要性を示すものとなっている。

また、「社会性、コミュニケーション能力」においては、特に、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」の必要性が、修了生・企業共に高く（80ポイント以上）意識されており、教育に対する満足度（50ポイント代）が低いのが特徴的である。また、英語力に関しては、それを求める企業、求められる修了生は比較的少ないものの（それでも 60 ポイント代はある）、この能力に対する満足度は、企業で 50 ポイント、修了生に至っては 25 ポイントと、かなり低いものとなっている。

全体を前回のアンケート調査と比較しながら総括すれば、本校が目指している教育は、その全てにおいて、企業側も修了生も必要性を感じているものと判断でき、本校の教育目標は、現状で良いと判断できる。その教育の結果の満足度や達成度は、前回より高くなっているものも見られるが、総じて 60 ポイント代と若干低い傾向にある（「ある程度満足、ある程度身につけている、ある程度役立つ」より「どちらとも言えない」という回答が多いと判断される）。従って、今後も、教育目標の達成を目指し、努力する必要があると思われる。

特に、日本語及び英語におけるコミュニケーション能力については、本科を含み、専攻科全体で取り組まなければならない課題と思われる。

また、具体的に記述された内容から推察すれば、コミュニケーション能力とは、積極的にコミュニケーションを取ろうとする能力であり、専門的な事項を専門外の人にも分かり易い平易な言葉で説明できる能力であるように思われる。英語におけるコミュニケーション能力も同様であり、特に会話力が問われているように思われる。

以上

専攻科修了生による教育評価アンケート

平成23年8月実施

各設問項目の必要性、満足度、達成度、有用性について得られた回答をもとに0～100の数値で表した。

必要性：大いに必要:100　ある程度必要:75　どちらとも言えない:50　あまり必要ない:25　全く不要:0
満足度：十分満足:100　ある程度満足:75　どちらとも言えない:50　少し不足:25　全く不足:0
達成度：十分身につけることができた:100　ある程度身につけることができた:75　どちらとも言えない:50
あまり身につけることができなかった:25　全く身につけることができなかった:0
有用性：大いに役立っている:100　ある程度役立っている:75　どちらとも言えない:50　あまり役立っていない:25
全く役立っていない:0

(B) 数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力

	設問	必要性	満足度	達成度	有用性	前回との差
(B1-1)	あなたの仕事では、数学、自然科学(物理学、化学、生命科学など)、情報技術の知識、応用力は必要とされますか。81	74				-7
(B1-2)	設問(B1-1)の知識、応用力に関して、本校で学んだ内容はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。53		59			6

(C) 専門分野(工学)に関する知識、応用力

(C1-1)	あなたの職種では、本校の専門科目で学んだ工学の知識はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。67		63			-4
(C2-1)	あなたの仕事では、「いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行しデータを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力」は必要とされますか。73	74				1
(C2-2)	設問(C2-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。63		61			-2
(C3-1)	あなたの仕事では、「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」は必要とされますか。81	73				-8
(C3-2)	設問(C3-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。64		58			-6
(C4-1)	あなたの仕事では、「(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力」は必要とされますか。80	80				0
(C4-2)	設問(C4-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。59		61			2
(C5-1)	本校の卒業研究および専攻科特別研究を通して下記の能力を身につけることができました					
	(Ⅰ)自主的、継続的に学習できる能力。73			79		6
	(Ⅱ)与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。72			78		6
	(Ⅲ)種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力。52			62		10
(C5-2)	卒業研究、専攻科特別研究の経験は、あなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。66				71	5

(D) 社会性、コミュニケーション能力

(D1)	あなたの仕事では、「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」は必要とされますか。58	58				0
(D2)	あなたの仕事では、「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」が必要とされますか。84	74				-10
(D3-1)	あなたの仕事では、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が必要とされますか。89	87				-2
(D3-2)	設問(D3-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。61		56			-5
(D4-1)	あなたの仕事では、「英語の読解・表現等、国際的に通用するコミュニケーション能力」が必要とされますか。64	66				2
(D4-2)	設問(D4-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。42		25			-17

(E) 総括

(E1)	全体的に都城高専で学んだ教育内容について満足されていますか。72		76			4

【分析】平成19年度に同様の設問でアンケートを実施した。そのときの回答者は16名(70名中)、今回は34名(146名中)である。以下に、特徴的な結果を述べる。

(A) 基本事項

1)前回アンケート回答者の所属学科の割合(M:31%、E:6%、C:50%、A:13%)、今回のアンケート回答者の所属学科の割合(M:26%、E:15%、C:38%、A:18%)と毎回C科、M科所属卒業生の協力が多い。

2) 回答率は前回が23%(16/70)、今回も23%(34/146)と変わらないが、母数は2倍強(146/70)増えている。

(B) 数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力

1)必要だと思っているが74ポイント、満足度は59ポイントである。満足度は前回より6ポイント上がっている。

(C) 専門分野(工学)に関する知識、応用力

1)設問(C1),(C2),(C4)の必要性、満足度とも前回と同じようなポイント数である。

2)設問(C3)の「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」が必要性(-8)・満足度(-6)とも前回よりも下がっている。

3)設問(C5)の「卒業研究および専攻科特別研究による能力(Ⅰ),(Ⅱ),(Ⅲ)」の達成度および有用性が上がっている(5ポイント以上)。

(D) 社会性、コミュニケーション能力

1) 設問(D1) の「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」の必要性を感じる修了生が少ない(58)。

2) 設問(D2) の「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」の必要性が前回より10ポイント下がっている。

3) 設問(D3) の「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」の必要性は高い(87)が、満足度(56)は低い。

4)設問(D4-2)の「英語の読解・表現等、国際的に通用するコミュニケーション能力」の満足度(25)が極端に低い、また、前回より大幅(-17)に下がっている。

(E) 総括

1)設問(E1)の「全体的に都城高専で学んだ教育内容について満足されていますか」に対して満足度が76ポイント(前回より+4)で、個々の設問より満足度(個々の満足度の平均は55ポイント)は高い。

(F)採用時の待遇

1) 4年生大学卒と同等の待遇が68%と2/3程度である。他はそれ以下と考えられる。

専攻科修了生
就職先企業による教育評価アンケート
各設問項目の必要性、満足度、達成度、有用性について得られた回答をもとに0～100の数値で表した。

満足度: 十分満足:100　ある程度満足:75　どちらとも言えない:50　少し不足:25　全く不足:0
必要性: 大いに必要:100　ある程度必要:75　どちらとも言えない:50　あまり必要ない:25　全く不要:0

		今回		前回
数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力		必要度	満足度	必要・満足度
(4-1)	この職種では、自然科学(数学、物理学、化学、生命科学など)の基礎知識とそれらを用いた問題解決能力が必要とされていますか。	81.5		72
(4-2)	問(4-1)の知識・能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている自然科学の内容は業務を遂行する上で充分ですか。		69.6	66
専門分野(工学)に関する知識、応用力				
(5-1)	この職種では、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている専門学科の基礎工学の知識は、業務を遂行する上で充分と思われますか。	77.1		70
(6-1)	この職種では、「いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行しデータを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力」が必要とされますか。	77.2		70
(6-2)	問(6-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		66.3	67
(7-1)	この職種では、「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」が必要とされますか。	83.7		83
(7-2)	問(7-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		66.3	67
(8-1)	この職種では、「(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力」が必要とされますか。	92.4		80
(8-2)	問(8-1)の能力に関して、本校で受けた教育は本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		69.6	66
社会性、コミュニケーション能力				
(9-1)	この職種では「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」が必要とされますか。	60.9		59
(10-1)	この職種では「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」が必要とされますか。	77.2		70
(11-1)	この職種では、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が必要とされますか。	88		83
(11-2)	問(11-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		59.8	67
(12-1)	この職種では、「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」が必要とされますか。	68.5		56
(12-2)	問(12-1)の能力に関して、本校で受けた教育は本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		50	50
(13-1)	この職種では、「専門分野の実践に必要な基本的なスキル(実験・実習・製図など)」に関して本校で受けた教育は,業務を遂行する上で十分ですか。		71.7	66

【分析】
前回アンケート回答率は、34%(15社／44社中)、今回は、22%(23社／105社中)であった。
前回の数値と今回の数値を併記している。「数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力」については、必要度が81.5と高く、満足度は69.6と1割低くなっている。満足度は、前回より上昇している(66%→69.6%)。
「専門分野(工学)に関する知識、応用力」については、すべての項目で必要度が約8割と高く、満足度は66%を超え、数値としては前回と同等か上昇している。
「社会性、コミュニケーション能力」については、技術者倫理の必要性が上昇(70%→77%)。前回満足度の高かった「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が、大きく低下した(67%→59.8%)。前回必要性の低かった「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」は、上昇した(56%→68.5%)。その満足度については、変化無しであった(50%)。

以上のように、全体的には良好であった。過去のデータとの比較のためにも今後の変更は必要なしと考える。

〔出典：学生課資料〕

資料２－１－②－５

カリキュラム変更届（専攻科）

専攻科委員会資料 平成22年9月10日	1

「応用物性論」廃止理由書

応用物理担当　若生潤一

以下の理由により専攻科専門共通選択科目「応用物性論」を廃止いたします。

理由：　教員の人数削減により、物理・応用物理担当教員が３名から２名に削減されたことに伴い、専攻科における物理・応用物理担当教員による担当科目を３科目から２科目に削減いたします。

応用物性論は生産デザイン工学プログラムの学習・教育目標の(B1)「解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的な専門工学を学ぶのに必要な理論を理解して説明や応用ができること」を担う選択科目として導入されました。当初は建築学科卒業生がカリキュラムの上で４年応用物理を受講していなかったことに伴い、４年応用物理を補う役割を持っていました。その後のカリキュラムの変更により、平成17年度本科卒業生から全学科４年応用物理を履修することになり、応用物性論は必ずしも受講する必要のない、通常の選択科目となりました。よって廃止にはカリキュラム上の問題はありません。

以上

〔出典：学生課資料〕

資料２－１－②－６

生産デザイン工学プログラム履修の手引き（表紙・目次）

生産デザイン工学プログラム

Production Engineering Program

履修の手引き

2012 年度版



平成 24 年 4 月

都城工業高等専門学校

～ 目 次 ～

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 履修対象者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

3. 学習・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

4. 学習・教育目標とＪＡＢＥＥ基準１の（１）の対応関係 ・・・・・・・・・ 3

5. 「生産デザイン工学」プログラムを構成する科目について ・・・・・・ 4

6. 「生産デザイン工学」プログラムの修了要件 ・・・・・・・・・・・・ 6

7. 履修にあたっての注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

8. 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準
○ 表３　B2 対応科目を除く評価方法及び評価基準 ・・・・・・・・ 10
○ 表３付表　達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の
修了要件及び評価一覧 ・・・・・・・・ 11

学習・教育目標を達成するための科目群に必要な授業科目の流れ
○ 表４　全学科・全専攻共通 ・・・・・・・・・・・・・・ 12

B2 対応科目群（表５）
○ 機械工学科・機械電気工学専攻（機械系） ・・・・・・・・・・ 13
○ 電気情報工学科・機械電気工学専攻（電気系） ・・・・・・・・・・ 14
○ 物質工学科・物質工学専攻（物質工学コース出身者用） ・・・・・ 15
○ 物質工学科・物質工学専攻（生物工学コース出身者用） ・・・・・ 16
○ 建築学科・建築学専攻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

9. 「生産デザイン工学」プログラム教育課程
○ 「生産デザイン工学」プログラム教育課程について ・・・・・・・・・ 18
○ 機械工学科・機械電気工学専攻（機械系） ・・・・・・・・・ 20
○ 電気情報工学科・機械電気工学専攻（電気系） ・・・・・・・・・ 23
○ 物質工学科・物質工学専攻 ・・・・・・・・・・・・・ 26
○ 建築学科・建築学専攻 ・・・・・・・・・・・・・・ 29

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程は，高度な専門知識と技術を有機的に結合できる研究開発型技術者を育成することを目的として，準学士課程の学科構成と整合する３専攻で構成している。さらに，各専攻の教育の目的を基に，時代の要請に適合させるため，専攻科修了生や企業へ教育目的，カリキュラム等についてのアンケートを実施し，カリキュラムを変更する等，教育の目的を達成する上で適切な構成となっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

全学的なセンターとして，電子計算機センター，技術支援センター及び地域連携センターを設置している。

電子計算機センターは，本科及び専攻科学生の情報処理教育，英語教育，卒業研究，専攻科特別研究，課外活動等，全学科共通施設として利用している（資料２－１－③－１～４）。設備内容は，パソコン演習室３室（パソコン約 140 台），校内コンピュータネットワーク基幹装置群及びネットワークサーバー群及び教育上必要なソフトウエアを整備し，学内の 550 台を超えるパソコンすべてがキャンパス LAN 及びインターネットに接続し（資料２－１－③－５），情報収集や校外の機関との情報交換に適切に利用している。

技術支援センターは，平成 20 年度の高専機構における技術職員組織の規程整備に伴って，平成 21 年度に教育研究支援センターから技術支援センターへ名称変更した。また，運営組織は技術支援センター運営委員会と名称を変え，委員長に教務主事を充てることとした。名称変更後の技術支援センターも，専門４学科と一般科目の実験実習をカバーする４技術室（基礎加工部門，複合技術部門，環境材料・情報制御部門，分析測定部門）で構成し，実験実習，卒業研究，専攻科特別研究，課外活動及び教員研究に対して技術支援を行っている（資料２－１－③－６～８）。

地域連携センターは，本校と地域産業との産学官連携に係る支援（資料２－１－③－９）が主な業務であるが，その支援活動は，工場見学，卒業研究・専攻科特別研究における実践的教育の場の提供等，幅広いものとなっている（資料２－１－③－10）。さらに，企業だけでなく学生をも対象とした各種セミナー，講演会，フォーラム（資料 2－1－③－11）等も行っている。

観点２－１－③　資料一覧

資料２－１－③－１　都城工業高等専門学校電子計算機センター規則
〔出典：規則集〕

資料２－１－③－２　都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則
〔出典：規則集〕

資料２－１－③－３　電子計算機センター利用科目表
〔出典：電子計算機センター資料〕

資料２－１－③－４　電子計算機センター授業外利用状況
〔出典：情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート〕

資料２－１－③－５　電子計算機センター機器構成
〔出典：学校要覧〕

資料２－１－③－６　都城工業高等専門学校技術支援センター規則
〔出典：規則集〕

資料２－１－③－７　技術支援センター技術組織概要、組織構成図、教育研究・技術支援体制
〔出典：ホームページ〕

資料２－１－③－８　技術支援センター報告（表紙）
〔出典：技術支援センター報告〕

資料２－１－③－９　都城工業高等専門学校地域連携センター規則
〔出典：規則集〕

資料２－１－③－10　特許・共同研究アドバイザープログラム
〔出典：地域連携センター資料〕

資料２－１－③－11　産官学連携事業への出展状況
〔出典：地域連携センター資料〕

資料２－１－③－１

都城工業高等専門学校電子計算機センター規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生に対する情報処理教育、教員の教育研究及びネットワークに供するために、電子計算機センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 情報処理教育に関すること。

(2) 教員の教育研究のための電子計算機による処理に関すること。

(3) センターの機器等設備の運用及び保守に関すること。

(4) ネットワークの技術支援に関すること。

(5) 情報化対応室の技術支援に関すること。

(6) その他センターに関すること。

（組織）

第３条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長　　１人

(2) 副センター長　１人

(3) ネットワーク管理者　　若干人

(4) センター員　　若干人

２　センター長及び副センター長は、本校教員の中から校長が任命する。

３　ネットワーク管理者及びセンター員は、本校職員の中から校長が任命する。

（任期）

第４条　センター長、副センター長及びネットワーク管理者の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（任務）

第５条　センター長は、センターの業務を総括する。

２　副センター長は、センター長を補佐し、センター長不在のときは、その職務を代理する。

３　ネットワーク管理者は、他のセンター職員とともにネットワークに関する業務を処理する。

４　センター員は、センター長又は副センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

（委員会）

第６条　センターの運営を円滑にするため、電子計算機センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（連絡会）

第７条　ネットワークの運営を円滑にするため、校内ネットワーク担当者連絡会（以下連絡会」という。）を置く。

２　連絡会に関し必要な事項は、別に定める。

（利用）

第８条　センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

２　ネットワークの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規則は、昭和５４年１１月１６日から施行する。

２　都城工業高等専門学校情報処理教育センター規則（昭和５０年４月１日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、昭和５７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０月６月１１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２２年１０月７日から施行し、平成２２年９月２１日から適用する。

〔出典：規則集〕

資料２－１－③－２

都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校電子計算機センター規則（昭和 54 年 11 月 16 日制定）第８条第１項の規定に基づき、電子計算機センター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定める。

（利用者）

第２条　センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び職員

(2) 校長が特に認めた者

（開館時間）

第３条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。

(1) 平日　　８時３０分～１７時

（閉館日）

第４条　閉館日は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 土曜日及び日曜日

(3) 夏季休業、冬季休業及び春季休業中の一定期間

(4) 電子計算機（以下「電算機」という。）等の設置及び調整等に必要な一定期間

(5) その他、本校が定める休業日

（利用制限）

第５条　センター長が特に必要と認めたときは、電算機及び演習室の利用を制限することがある。

（休業日及び時間外の利用）

第６条　休業日及び開館時間外にセンターの利用を希望する者は、別紙様式により利用願を提出し、センター長の許可を受けるものとする。ただし、22 時以降の利用は原則として認めない。

附　則

１　この規則は、昭和 54 年 11 月 16 日から施行する。

２　都城工業高等専門学校情報処理センター使用細則（昭和 52 年４月１日制定）は、廃止する。

＜略＞

附　則

この規則は、平成20年6月11日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－１－③－３

電子計算機センター利用科目表

平成２３年度　前期　電子計算機センター時間割

		１・２	３・４	５・６	７・８
		8:45 ～ 10:20	10:30 ～ 12:05	13:00 ～ 14:35	14:45 ～ 16:20
月	第１演習室	３Ｅ（プログラミング言語Ⅱ）	２Ｃ（情報基礎Ⅱ）	１Ｍ（情報基礎Ⅰ）	
	第２演習室	専１ＭＥ（電子計測特論）			
	第３演習室	２Ｅ（プログラミング言語Ⅰ）			２Ａ（コンピュータ援用学）
火	第１演習室	２Ｅ（情報基礎Ⅱ）	４Ｍ（情報処理Ⅱ）	４Ｍ（創造設計）	
	第２演習室		１Ｅ（電気製図）		
	第３演習室				５Ｅ（知能情報処理）
水	第１演習室	２Ｃ（情報処理）	３Ｍ（設計製図）	２Ａ（情報基礎Ⅱ）	
	第２演習室				
	第３演習室	５Ａ（意匠ＣＡＤ演習）			
木	第１演習室	１Ａ（情報基礎Ⅰ）	専２ＭＥ（振動工学）	２Ｍ（情報基礎Ⅱ）	
	第２演習室				
	第３演習室	５全（産業財産権法）			
金	第１演習室		１Ｅ（情報基礎Ⅰ）	１Ｃ（情報基礎Ⅰ）	
	第２演習室			５Ｍ（設計製図）	
	第３演習室	３Ａ（建築ＣＡＤ演習）			

平成２３年度　後期　電子計算機センター時間割

		１・２	３・４	５・６	７・８	９
		8:45 ～ 10:20	10:30 ～ 12:05	13:00 ～ 14:35	14:45 ～ 16:20	16:25～17:10
月	第１演習室	４Ｍ（情報処理Ⅱ）	２Ａ（情報基礎Ⅱ）	２Ｃ（情報基礎Ⅱ）		
	第２演習室					
	第３演習室		３Ａ（建築ＣＡＤ演習）	４Ａ（建築設計演習）		
火	第１演習室	２Ｅ（情報基礎Ⅱ）	１Ｅ（情報基礎Ⅰ）	３Ｍ（設計製図）		
	第２演習室	４Ｅ（制御工学）			１Ｅ（電気製図）	
	第３演習室	２Ｅ（情報基礎Ⅱ）	５Ｅ（知能情報処理）			
水	第１演習室		４Ｍ（創造設計）			
	第２演習室	５Ｅ（電気電子情報設計）				
	第３演習室					
木	第１演習室		３Ｅ（プログラミング言語Ⅱ）	２Ｍ（情報基礎Ⅱ）	１Ｍ（情報基礎Ⅰ）	
	第２演習室					
	第３演習室	４Ｅ（計算機工学）	５Ａ（意匠ＣＡＤ演習）	４Ａ（建築設計演習）		
金	第１演習室	１Ａ（情報基礎Ⅰ）	３Ｍ（情報処理Ⅰ）	１Ｃ（情報基礎Ⅰ）		
	第２演習室					
	第３演習室	２Ａ（コンピュータ援用学）	２Ｅ（プログラミング言語Ⅰ）			

〔出典：電子計算機センター資料〕

資料２－１－③－４

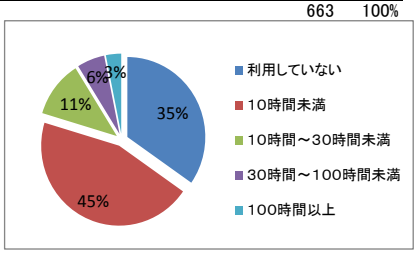
電子計算機センター授業外利用状況

情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート

実施日：平成24年4月23日～27日
対象：本科2年～5年　673人、専攻科1年～2年　51人、計724人
回答数（回答率）：本科2年～5年　627人、専攻科1年～2年　47人、計674人（93%）

Q2. 電気計算機センターを1年間に授業以外で何時間くらい利用していますか。

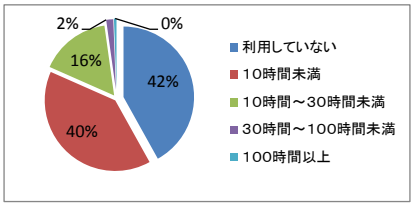
1	利用していない	230	35%
2	10時間未満	298	45%
3	10時間～30時間未満	76	11%
4	30時間～100時間未満	38	6%
5	100時間以上	21	3%
		663	100%



Q3. 電子計算機センターには、第1、第2、第3演習室がありますが授業以外で1年間に何時間くらい利用していますか。

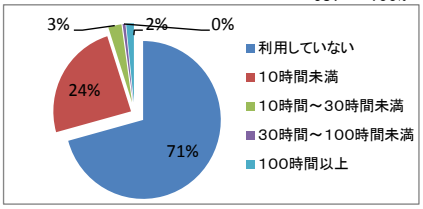
Q3-1.【第1演習室の使用状況】

1	利用していない	285	42%
2	10時間未満	270	40%
3	10時間～30時間未満	110	16%
4	30時間～100時間未満	11	2%
5	100時間以上	4	0%
		680	100%



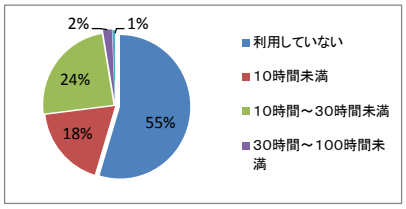
Q3-2.【第2演習室の使用状況】

1	利用していない	486	71%
2	10時間未満	167	24%
3	10時間～30時間未満	19	3%
4	30時間～100時間未満	4	0%
5	100時間以上	11	2%
		687	100%



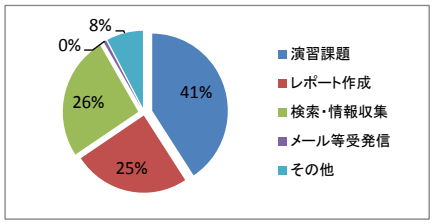
Q3-3.【第3演習室の使用状況】

1	利用していない	432	55%
2	10時間未満	145	18%
3	10時間～30時間未満	192	24%
4	30時間～100時間未満	16	2%
5	100時間以上	5	1%
		790	100%



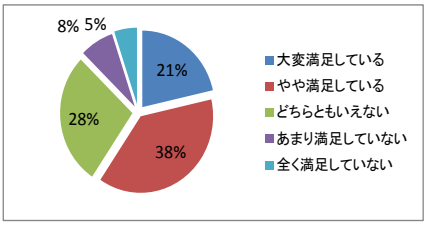
Q4. 利用内容をお聞かせください。

1	演習課題	329	41%
2	レポート作成	201	25%
3	検索・情報収集	209	26%
4	メール等受発信	5	0%
5	その他	63	8%
		807	100%



Q5. あなたの本校における情報教育設備の満足度をお聞かせください。

1	大変満足している	139	21%
2	やや満足している	246	38%
3	どちらともいえない	181	28%
4	あまり満足していない	49	8%
5	全く満足していない	33	5%
		648	100%



〔出典：情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート〕

資料２－１－③－５

電子計算機センター機器構成

電子計算機センター　Computer Center

電子計算機センターには，情報処理教育のための３つのパソコン（PC）室と，パソコンの制御とネットワーク管理のための２つのサーバー室があります。パソコン室には 142 セットのパソコンがあります。95 台は windows PC で 47 台はマッキントッシュです。それらすべてのパソコンは最新のテクノロジーであるシン・クライアントシステムによって自動的に制御されています。

本校の学生及びスタッフ全員は、学習、調査、及び研究のためにいつでもこれらの設備を使用できます。

校内の 550 台を超えるパソコンのすべてがキャンパス LAN 及びインターネットと接続しています。ネットワーク管理サーバーは、システムのすべてを制御して、互いの接続を維持することによって、メールシステムとセキュリティシステムとウェブシステムなどを管理します。

In the Computer Center, we have three personal computer's (PC's) rooms for the education of information processing, and have two server rooms for the PC control and network managements.

There are 142 sets of personal computer in PC's room. 95 are windows PCs and 47 are Macintoshes. All of those PCs are being controlled automatically by thin client system, which is the latest technology.

All students and staff of our school can use these facilities for learning, investigation and research anytime.

All of 550 or more PCs in our school are connected with campus LAN and Internet.

The network management servers control all of the systems, and manage the E-mail system, security system, web system, etc. by maintaining the mutual connection.

●第１パソコン演習室（平成 18 年更新）
・Windows XP パソコン（FMV D5250）×48
・Ardence シン・クライアントシステム
・Word、Excel、PowerPoint
・Visual Basic、Visual C++
・Intelli CAD、Solid Works、Vector Works（CAD）
・B2 Spice（論理回路設計）
・SkyMenu（授業支援）×1
等

●Personal Computer Room(Ⅰ) (renewed in 2008)
▪Windows XP Personal Computer (FMV D5250)×48
▪Ardence thin client system
▪Word, Excel, PowerPoint
▪Visual Basic, Visual C++
▪Intelli CAD, Solid Works, Vector Works(CAD)
▪B2 Spice (logical circuit design)
▪SkyMenu(teacher support system) ×1 set
etc.

●第２パソコン演習室（平成 18 年更新）
・Windows XP パソコン（FMV D5250）×47
・Ardence シン・クライアントシステム
・Kingsoft Office（文書、表計算、発表）
・Visual C++
・Intelli CAD、Solid Works、Vector Works（CAD）
・B2 Spice（論理回路設計）
・液晶プロジェクター・スクリーン ×1
等

●Personal Computer Room(Ⅱ) (renewed in 2008)
▪Windows XP Personal Computer (FMV D5250)×47
▪Ardence thin client system
▪Kingsoft Office(wordprocessor, spreadsheet, presentation)
▪Visual C++
▪Intelli CAD, Solid Works, Vector Works(CAD)
▪B2 Spice (logical circuit design)
▪LCD projector & screen ×1 set
etc.

●第３パソコン演習室（平成 18 年更新）
・Macintosh（iMac）×47
・OS X シン・クライアントシステム
・Apple Remote Desktop
・Word、Excel、PowerPoint
・Vector Works（CAD）
・Virtual Box（Windows XP, Ubuntu Linux 用）
・液晶プロジェクター・スクリーン ×1
等

●Personal Computer Room(Ⅲ) (renewed in 2008)
▪Macintosh (iMac)×47
▪OS X thin client system
▪Apple Remote Desktop
▪Word, Excel, PowerPoint
▪Vector Works(CAD)
▪Virtual Box for Windows XP and Ubuntu Linux
▪LCD projector & screen ×1 set
etc.

第１パソコン演習室
Personal Computer Room I



第３パソコン演習室
Personal Computer Room II



- 26-

〔出典：学校要覧〕

資料２－１－③－６

都城工業高等専門学校技術支援センター規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育及び研究に対する技術支援並びに地域社会との連携を推進するため、都城工業高等専門学校技術支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 教育及び研究に対する技術支援に関すること。

(2) 地域社会及び企業との連携及び技術協力に関すること。

(3) 学内の技術業務に対する窓口に関すること。

(4) その他センターに関すること。

（室）

第３条　センターに次の各号に掲げる室を置く。

(1) 第１技術室（基礎加工に関する室）

(2) 第２技術室（複合技術に関する室）

(3) 第３技術室（環境材料・情報制御に関する室）

(4) 第４技術室（分析測定に関する室）

（組織）

第４条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 室長

(3) 室員

（センター長）

第５条　センター長は、本校の技術長をもって充てる。

２　センター長は、センターの業務を総括する。

（室長）

第６条　室長は、本校の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。

２　室長は、当該室の業務を遂行するとともに、室員に対し技術的な指導及び育成に当たる。

（室員）

第７条　室員は、本校の技術専門職員又は技術職員の中から校長が任命する。

２　室員は、当該室の業務に従事する。

（運営委員会）

第８条　センターの円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校技術支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。

（事務）

第９条　センターの事務は、技術組織において処理する。

附　則

１　この規則は、平成２３年５月１２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

２　都城工業高等専門学校技術支援センター規則（平成２１年４月１日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料２－１－③－７

技術支援センター技術組織概要、組織構成図、教育研究・技術支援体制

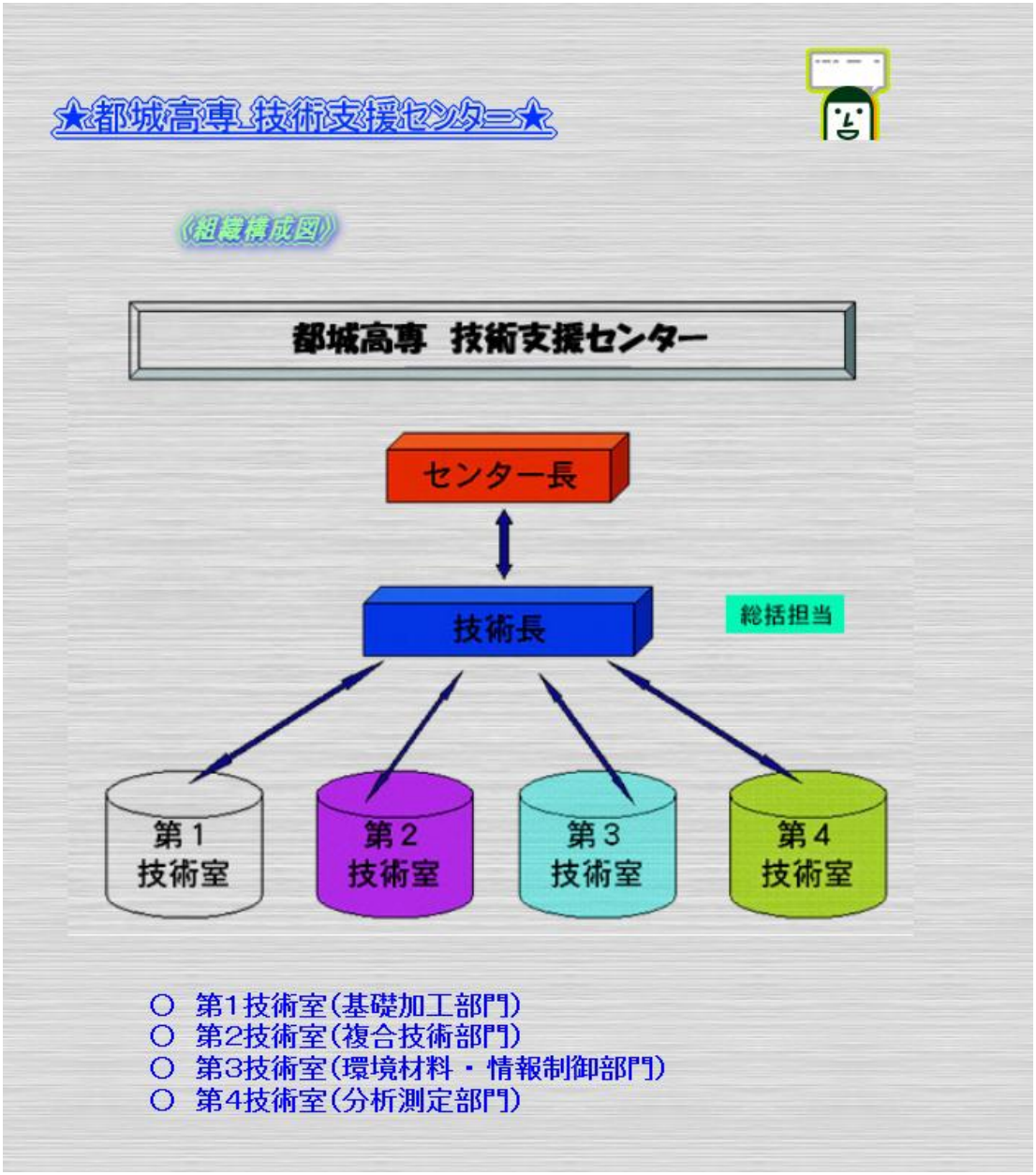
★技術組織概要★



都城高専「技術支援センター」は本高専における学生の教育及び各種研究活動の支援を行うとともに、地域に根ざした技術を社会に提供するスペシャリストスタッフとし編成され、平成10年4月1日に技術職員組織としてスタートしました。平成21年2月には新たに組織の改編が行われ、より一層力強いサポート体制が整い技術の提供ができるようになりました。

業務内容は以下の通りです

（1） 実験・卒研等の技術支援業務
（2） 教育・研究用装置等の開発、製作
（3） 各種実験・実習装置、工作関連機器装置の保守・管理
（4） 教員の研究等への補助
（5） 毒・劇物および危険物の処理・管理・分析
（6） 学内外へのものづくりを通した技術の支援および技術指導
（7） 公開講座・出前授業等への支援


★都城高専 技術支援センター★
〈組織構成図〉
都城高専　技術支援センター
センター長
技術長
総括担当
第１
技術室
第２
技術室
第３
技術室
第４
技術室
○ 第1技術室(基礎加工部門)
○ 第2技術室(複合技術部門)
○ 第3技術室(環境材料・情報制御部門)
○ 第4技術室(分析測定部門)

★教育研究・技術支援体制★　（内・外部技術相談支援）

◎教育支援業務

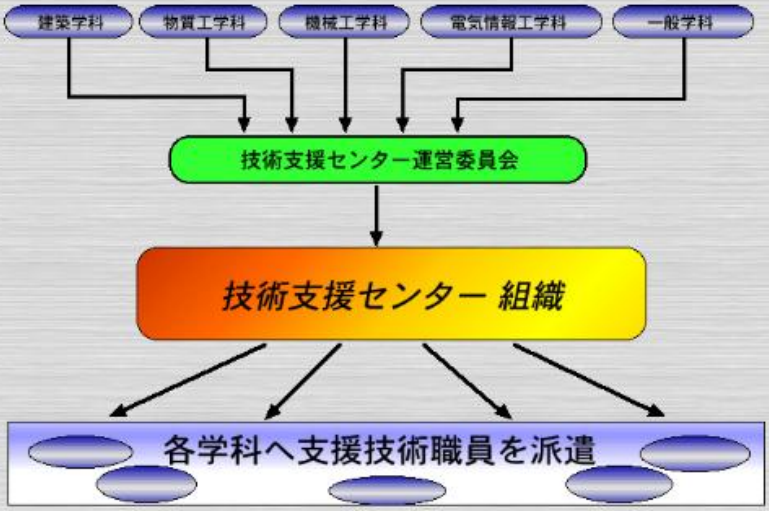


学生実験、実習技術指導、卒業研究支援
公開講座、出前授業等の支援

◎研究支援業務

各教員との連係支援

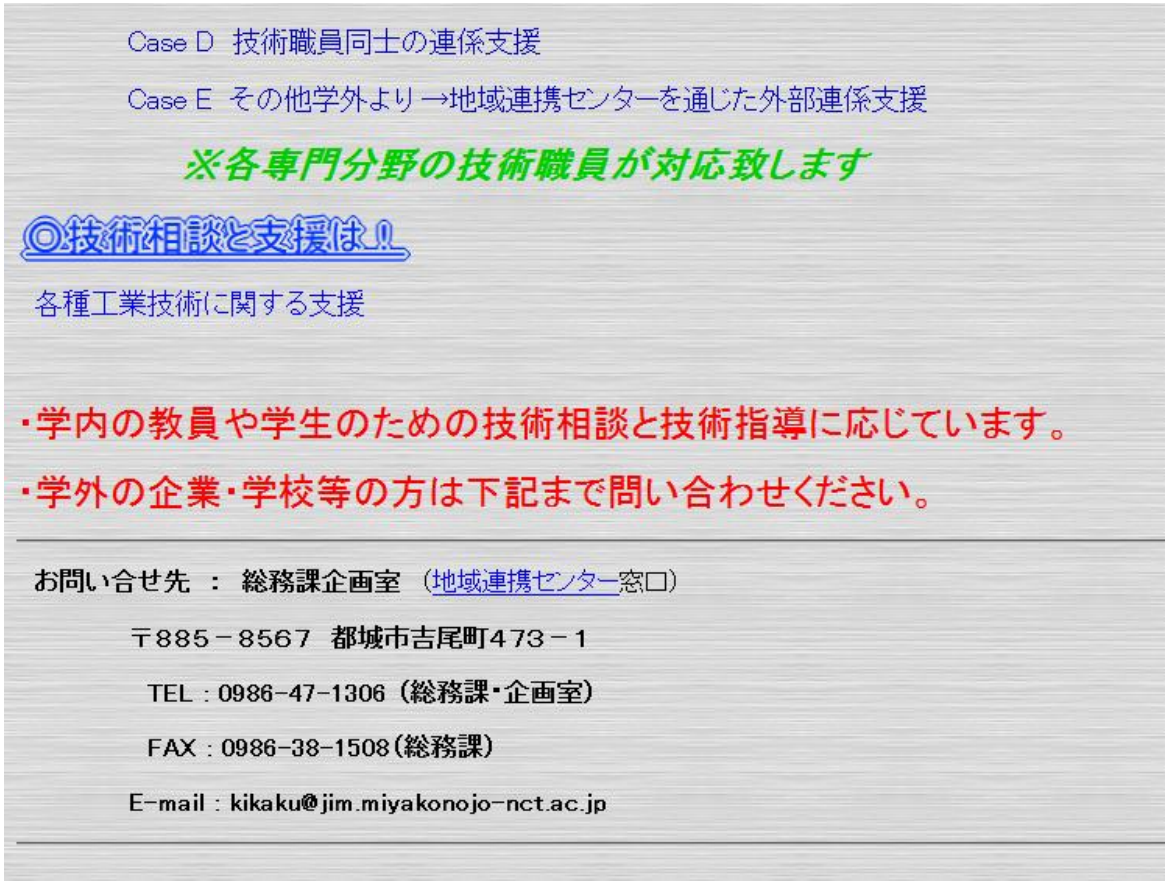
《実験・実習支援依頼フローチャート》



Case A　技術長→各室で検討→技術職員の派遣

Case B　依頼者（教員）→技術職員が直接依頼を受ける

Case C　技術職員会議で検討→技術職員が複数で支援業務に当たる


Case D 技術職員同士の連係支援
Case E その他学外より→地域連携センターを通じた外部連係支援
※各専門分野の技術職員が対応致します
◎技術相談と支援は！！
各種工業技術に関する支援
・学内の教員や学生のための技術相談と技術指導に応じています。
・学外の企業・学校等の方は下記まで問い合わせください。
お問い合せ先 ： 総務課企画室 （地域連携センター窓口）
〒885－8567 都城市吉尾町473－1
TEL：0986-47-1306（総務課・企画室）
FAX：0986-38-1508（総務課）
E-mail：kikaku@jim.miyakonojo-nct.ac.jp

〔出典：ホームページ〕

資料２－１－③－８

技術支援センター報告（表紙）

平成 23 年度

技術支援センター報告



都城工業高等専門学校

〔出典：技術支援センター報告〕

資料２－１－③－９

都城工業高等専門学校地域連携センター規則

（趣旨）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、技術開発における民間企業等との連携協力をより一層推進することを目的とする学内共同組織として、都城工業高等専門学校地域連携センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 地元企業等との共同研究の推進

(2) 地元企業等の技術相談に関する窓口業務

(3) 科学技術に関する公開講座等の開催

(4) その他必要な業務

（部門）

第３条　センターに次の各号に掲げる部門を置く。

(1) 技術開発部門

(2) 技術教育部門

(3) 計測・分析部門

（組織）

第４条　センターに次の各号に掲げる職員を置き、本校の教員から校長が任命する。

(1) センター長　　１人

(2) 副センター長　　１人

(3) センター員　各部門　若干人

（センター長）

第５条　センター長は、センターの業務を総括する。

２　センター長の任期は、２年とする。ただし、再任は妨げない。

３　センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第６条　副センター長は、センター長を補佐し、センター長不在のときは、その職務を代行する。

２　副センター長の任期は、１年とする。ただし、再任は妨げない。

３　副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター員）

第７条　センター員は、部門の業務を処理する。

２　センター員の任期は、２年とする。ただし、再任は妨げない。

３　センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（運営委員会）

第８条　センターの円滑な運営を図るため、地域連携センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。

（事務）

第９条　センターの事務は、総務課において処理する。

附　則

この規則は、平成２年２月１４日から施行する。

附　則

この規則は、平成７年４月７日から施行し、平成７年４月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成１５年９月１０日から施行する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０年９月１日から施行する。

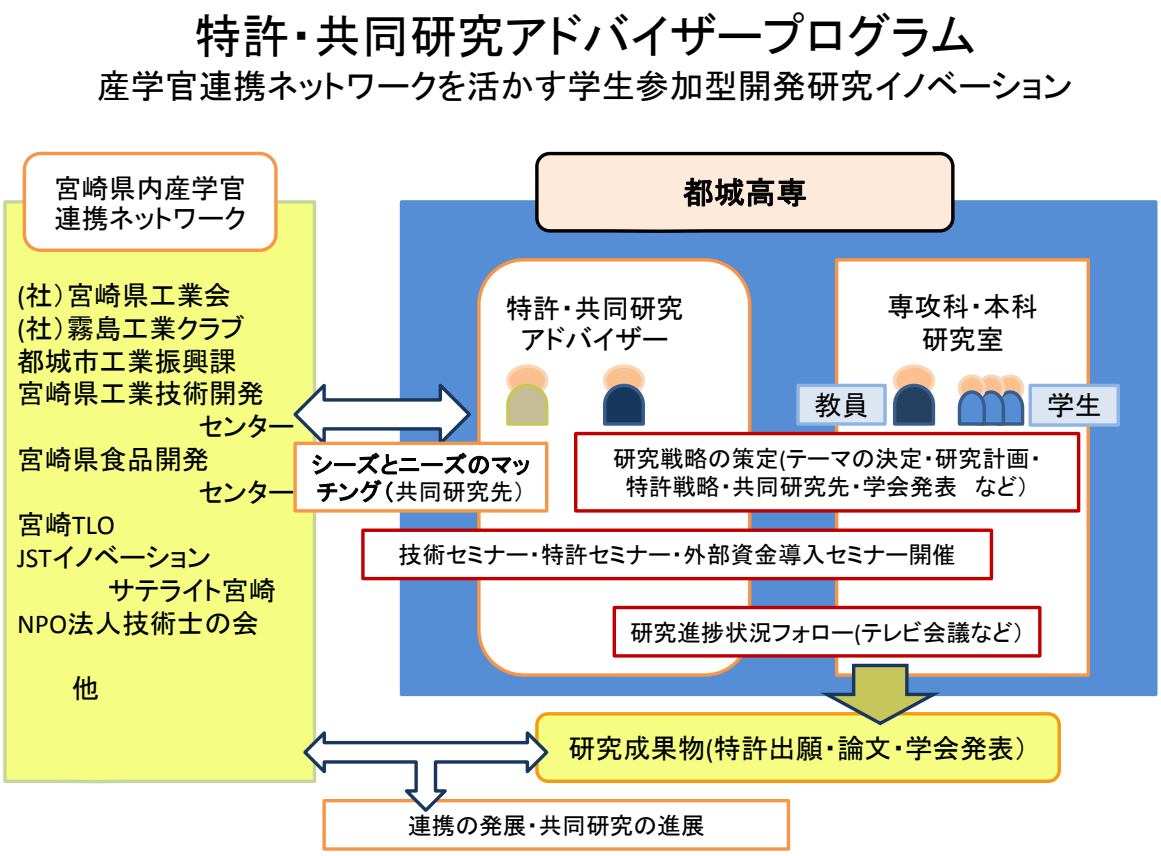
附　則

この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－１－③－10

特許・共同研究アドバイザープログラム



〔出典：地域連携センター資料〕

資料２－１－③－11

産官学連携事業への出展状況

年度	項　目	主　催	氏　名	出展課題
19	第5回産学官連携推進会議 6/16-17	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本学術会議	機械工学科　栗田伸幸	ローレンツ力を用いた電力貯蔵フライホイールの開発
			物質工学科　野口大輔	後酸化逆スパッタ法による機能性薄膜の高速低温成膜技術開発
	第5回全国高専テクノフォーラム 8/9-10	（独）国立高等専門学校機構	機械工学科　白岩寛之	サーモサイフォンの高性能化に関する研究
	第14回みやざきテクノフェア 11/1-3	（社）宮崎県工業会	機械工学科　栗田伸幸	磁気浮上技術を応用したデバイスの開発
			機械工学科　白岩寛之	サーモサイフォンの高性能化に関する研究
			電気情報工学科　臼井昇太	ネットワークを利用した遠隔制御に関する研究
			物質工学科　野口大輔	後酸化スパッタ法による高機能性薄膜の高速低温成膜技術開発
20	第6回産学官連携推進会議 6/16-17	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本学術会議	機械工学科　高橋明宏	竹繊維の強度物性評価及び実用化に向けた研究開発
			電気情報工学科　田中寿	MOSFETの弱反転領域を用いたアナログ回路設計（低歪み、低消費電力、低電圧動作OTAの設計）
	第6回全国高専テクノフォーラム 8/9-10	（独）国立高等専門学校機構	電気情報工学科　野地英樹	農工商連携をプロモートする技術者育成事業について
			建築学科　原田志津男 物質工学科　國府僚則 教育研究支援センター　奥野守人 教育研究支援センター　入部朱美 (株)TAK-QS　吉行那穂子	高機能竹炭複合多孔質セラミックスの諸性状
	第15回みやざきテクノフェア 11/1-3	（社）宮崎県工業会	機械工学科　高橋明宏	竹繊維の研究
			機械工学科　栗田伸幸	磁石の力を利用した製品の開発
			機械工学科　白岩寛之	サーモサイフォンに関する研究
			電気情報工学科　赤木洋二	赤木研究室（AKAKI Laboratory）
			物質工学科　野口大輔	高速低温スパッタ法による機能性薄膜の成膜技術開発
21	第7回産学官連携推進会議 6/20-21	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本学術会議	機械工学科　白岩寛之	サーモサイフォンを用いた廃熱回収・利用システム
			物質工学科　野口大輔	高速低温スパッタ法による機能性薄膜の成膜技術開発
	有明高専発産学官連携シンポジウム 9/4	（財）九州産業技術センター	一般科目　森　寛	複合界面活性剤液晶鋳型を用いたミクロ孔を有するメソ多孔質シリカナノ粒子の合成
			物質工学科　金澤亮一	感温性ゲルを利用した重金属吸・脱着剤の開発
	第7回全国高専テクノフォーラム 8/6-7	（独）国立高等専門学校機構	機械工学科　高橋明宏	鋼製材料用溶着法の新規開発
			物質工学科　金澤亮一	バイオリアクターを利用した都城圏における地下水の水質改善
	第16回みやざきテクノフェア 6/7	（社）宮崎県工業会	物質工学科　清山史朗	貫通孔を形成させたマイクロカプセルによる貴金属の抽出
			機械工学科　高橋明宏 教育研究支援センター　山元直行	全周溶接を変える”フュージョン溶着”
			電気情報工学科　赤木洋二	低コストで高品質な太陽電池用薄膜作製技術の開発
			物質工学科　野口大輔	高速低温スパッタ法による機能性薄膜の成膜技術開発
	熊本高専発ワークショップ 12/15	（独）国立高等専門学校機構、熊本高等専門学校	物質工学科　金澤亮一	感温性ゲルを利用した重金属吸・脱着剤の開発
			物質工学科　岡部勇二	高機能シクロデキストリン誘導体の開発と利用

年度	項　目	主　催	氏　名	出展課題
	南九州発新技術説明会 12/16	鹿児島大学、宮崎大学、鹿屋体育大学、鹿児島工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、（独）科学技術振興機構	物質工学科　高橋利幸	水棲生物操縦システム
	新技術・新工法展示商談会 1/28-29	（財）宮崎県産業支援財団、宮崎県	物質工学科　野口大輔	自動車用樹脂製親水ミラー薄膜作製技術
	南九州高専発新技術説明会 3/5	鹿児島工業高等専門学校、錦江湾テクノパーククラブ	電気情報工学科 赤木洋二	低コストで高品質な太陽電池用CuInS2薄膜の作製
			物質工学科　野口大輔	高速低温スパッタリング技術の機能性酸化物薄膜への応用
22	科学・技術フェスタin京都-平成22年度産学官連携推進会議 6/5	内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本経済団体連合会、日本学術会議、科学技術振興機構、新ｴﾈﾙｷﾞｰ・産業技術総合開発機構、情報通信研究機構、日本学術振興会、理化学研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、日本原子力研究開発機構、工業所有権情報・研修館、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構	機械工学科　白岩寛之 物質工学科　野口大輔	廃熱回収・利用を目的とした熱輸送デバイスの研究開発 コストダウンを可能にする新規成膜技術開発
	南九州発新技術説明会 6/16	鹿児島大学、宮崎大学、鹿屋体育大学、鹿児島工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、（独）科学技術振興機構	物質工学科　岩熊美奈子	チオアニリン誘導体を有する抽出剤の開発及びそれを用いる貴金属の分離
	第8回全国高専テクノフォーラム 8/18-19	（独）国立高等専門学校機構	機械工学科　小藪國夫 （社）霧島工業クラブ 専務理事　朝倉脩二	都城圏域における農商工連携の試み
			建築学科　中村裕文	光線追跡法を用いた景観影響物可視領域の定量的解析方法について
			物質工学科　野口大輔	高速低温スパッタリング技術の機能性酸化物薄膜への応用
	第17回みやざきテクノフェア 10/1-2	（社）宮崎県工業会	機械工学科　高橋明宏	数秒で完了する低熱ひずみ溶接施工技術の新規開発
			物質工学科　野口大輔	コストダウンを可能にする新規成膜技術
	九州・沖縄地区高専新技術マッチングフェア 10/15	（独）国立高等専門学校機構 九州沖縄地区高専	機械工学科　白岩寛之	サーモサイフォンによる暖房機の廃熱回収・利用技術
	第2回都城高専-鹿児島高専発新技術説明会 11/5	都城工業高等専門学校、（社）霧島工業クラブ、JSTｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ推進ﾗｲﾄ宮崎	機械工学科　高木夏樹	入力飽和を考慮した適応制御手法の開発
			電気情報工学科　御厨勝秀	RGB-白色LEDの測光測色特性
23	南九州発新技術説明会 6/28	鹿児島大学、宮崎大学、鹿児島高専、都城工業高等専門学校、（独）科学技術振興機構	物質工学科　野口大輔	スパッタリング法を用いた機能性薄膜の高速低温結晶化成膜技術
	第9回全国高専テクノフォーラム 8/4	（独）国立高等専門学校機構	機械工学科　高橋明宏	溶接スパッタ付着防止剤、新規溶接技術
			機械工学科　白岩寛之	流下液膜を用いた高性能熱交換器の開発
	九州・沖縄地区新技術マッチングフェア2011 10/26	（独）国立高等専門学校機構 九州・沖縄地区高専、（独）科学技術振興機構JSTｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝﾌﾟﾗｻﾞ福岡・JSTｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝﾗｲﾄ宮崎	機械工学科　高橋明宏	天然資源を用いたスパッタ付着防止剤の開発
			物質工学科　岩熊美奈子	水溶性ゲルを内包させた高機能性カプセルによる貴金属の回収技術の開発
	第18回みやざきテクノフェア 11/11-12	（社）宮崎県工業会	機械工学科　高橋明宏	低熱ひずみ溶接施工技術の新規開発
			機械工学科　白岩寛之	磁性流体ヒートパイプの熱輸送特性
	南九州高専発新技術説明会 11/25	鹿児島工業高等専門学校、錦江湾テクノパーククラブ	機械工学科　高橋明宏	南九州産天然資源を活かした工業利用技術
			物質工学科　岡部勇二	天然資源の有効利用法の検討

〔出典：地域連携センター資料〕

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育目標を達成する上で，電子計算機センターは，本科及び専攻科学生の情報処理教育，英語教育，卒業研究，専攻科特別研究，課外活動等，全学科共通施設として規模及び内容とも十分で，多くの学生が利用している。技術支援センターは，実験実習，卒業研究，専攻科特別研究，課外活動及び教員研究を支援する上で，適切な技術職員構成と部門構成になっている。地域連携センターは，教職員及び学生と社会・地域企業との橋渡し的役割を担っている。よって，３センターとも，その活用は十分に行っており，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

全ての委員会等を機能的に関連付け，総合的見地から審議・運営する機関として運営企画委員会（資料２－２－①－１）を設置している。また，教育課程の編成，特別教育活動及び教務に関する事項の審議を行う教務委員会（資料２－２－①－２），専攻科課程の教育課程の編成及び運営に関する事項の審議を行う専攻科委員会（資料２－２－①－３）及び本校の技術者教育プログラムの維持管理を図る技術者教育プログラム委員会（資料２－２－①－４）を設置し，さらに，これらの委員会の下に，それぞれ学年別授業担当者会議（資料２－２－①－５），専攻科授業担当者会議（資料２－２－①－６）及び学科教育点検班（資料２－２－①－７）を設け，点検・評価・改善を含めた教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動（資料２－２－①－８～14）を行っている。

観点２－２－①　資料一覧

資料２－２－①－１　都城工業高等専門学校運営企画委員会規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－２　都城工業高等専門学校教務委員会規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－３　都城工業高等専門学校専攻科委員会規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－４　都城工業高等専門学校技術者教育プログラム委員会規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－５　都城工業高等専門学校学年別授業担当者会議規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－６　都城工業高等専門学校専攻科授業担当者会議規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－７　都城工業高等専門学校学科教育点検班規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－①－８　運営企画委員会議事要録（抜粋）
〔出典：総務課資料〕

資料２－２－①－９　教務委員会議事要録（抜粋）
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－10　専攻科委員会議事要録（抜粋）
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－11　技術者教育プログラム委員会議事要録（抜粋）
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－12　学年別授業担当者会議議事要録（抜粋）
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－13　専攻科授業担当者会議議事要録（抜粋）
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－14　学科教育点検班議事要録（抜粋）
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－１

都城工業高等専門学校運営企画委員会規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の運営企画に関する事項を審議するため、都城工業高等専門学校運営企画委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 目標及び計画に関すること。

(2) 学校経営に関すること。

(3) 規則の制定及び改廃に関すること。

(4) 教育研究組織に関すること。

(5) 予算・決算に関すること。

(6) その他運営企画に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 校長補佐

(4) 専攻科長

(5) 学科長

(6) 一般科目の文科長及び理科長

(7) 事務部長

２　委員は、校長が任命する。

３　委員が委員会に出席できない場合は、委員長の同意を得て代理の者を委員会に出席させることができる。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する副校長が、その職務を代行する。

（定足数）

第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（議決）

第６条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第７条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（予算専門委員会）

第８条　委員会に、第２条第１項第５号を審議するため、予算専門委員会を置く。
２　予算専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第９条　委員会に関する事務は、総務課において処理する。
附　則
１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校運営委員会規則（平成８年４月１日制定）は、廃止する。
附　則
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２０年７月７日から施行する。
附　則
この規則は、平成２０年９月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－２

都城工業高等専門学校教務委員会規則

（趣旨）

第１条　都城工業高等専門学校に、校長の諮問に応じ教務に関する事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教育課程の編成に関すること。

(2) 授業時間割の編成に関すること。

(3) 履修及び単位の認定に関すること。

(4) 定期試験、再試験等試験に関すること。

(5) 教育点検及び改善に関すること。

(6) 授業評価アンケート、授業改善調査等に関すること。

(7) 学校行事予定表の作成に関すること。

(8) 特別活動に関すること。

(9) 非常勤講師時数の配分に関すること。

(10) その他教務に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の委員をもって組織する。

(1) 教務主事

(2) 各学科の教員の中から選出された者各１人

(3) 一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各１人

２　委員は、校長が任命する。

（委員の任期）

第４条　前条第１項第２号及び第３号の委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、委員のうちから、委員の互選により選出する。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

（定足数）

第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（委員以外の出席）

第７条　委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（学年別授業担当者会議）

第８条　委員会に、授業担当者の連携を強化し、教育点検及び改善を図るため、学年別授業担当者

議（以下「担当者会議」という。）を置く。
２　担当者会議に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第９条　委員会に関する事務は、学生課教務係において処理する。
附　則
１　この規則は、昭和５２年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校教務委員会規則（昭和３９年９月１２日制定）は廃止する。
附　則
この規則は、昭和５２年１２月７日から施行する。
附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－３

都城工業高等専門学校専攻科委員会規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校専攻科規則第４条第２項の規定に基づき、都城工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育課程の編成に関すること。

(2) 授業時間割の編成に関すること。

(3) 履修及び単位の認定に関すること。

(4) 定期試験、再試験等試験に関すること。

(5) 教育点検及び改善に関すること。

(6) 授業評価アンケート、授業改善調査等に関すること。

(7) 学校行事予定表の作成に関すること。

(8) 学生の進学及び就職に関すること。

(9) その他専攻科に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 専攻科長

(2) 専攻主任

(3) 専攻科を担当する一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各１人

(4) その他校長が必要と認めた者

２　委員は、校長が任命する。

３　委員が委員会に出席できない場合は、委員長の同意を得て代理の者を委員会に出席させることができる。

（委員の任期）

第４条　前条第１項第３号及び第４号の委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

（定足数）

第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（議決）

第７条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の出席）
第８条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。
（専攻科授業担当者会議）
第９条　委員会に、授業担当者の連携を強化し、教育点検及び改善を図るため、専攻科授業担当者会議（以下「担当者会議」という。）を置く。
２　担当者会議に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第１０条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。
附　則
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校専攻科委員会規程（平成１４年４月１日制定）は、廃止する
附　則
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－４

都城工業高等専門学校技術者教育プログラム委員会規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の技術者教育プログラム（以下「プログラム」という。）の維持管理を図るため、都城工業高等専門学校技術者教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) プログラムの作成、実施、点検及び改善に関すること。

(2) プログラムのための調査・研究に関すること。

(3) プログラムの日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の認定審査に関すること。

(4) その他プログラムに関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 専攻科長

(2) 各学科の教員の中から選出された者各１人

(3) 一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各１人

(4) その他校長が必要と認めた者

２　委員は、校長が任命する。

３　委員が委員会に出席できない場合は、委員長の同意を得て代理の者を委員会に出席させることができる。

（委員の任期）

第４条　前条第１項第２号から第４号までの委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

（定足数）

第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（議決）

第７条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第８条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（学科教育点検班）

第９条　委員会に、各学科におけるプログラムを点検し、学生支援のための具体的な施策を講じる

ため、学科教育点検班（以下「点検班」という。）を置く。
２　点検班に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第１０条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。
附　則
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校ＪＡＢＥＥ対応委員会規則（平成１４年８月７日制定）は、廃止する。
附　則
この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－５

都城工業高等専門学校学年別授業担当者会議規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校教務委員会規則（昭和５２年１２月７日制定）第８条の規定に基づき、都城工業高等専門学校学年別授業担当者会議（以下「担当者会議」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

（組織）

第２条　担当者会議は、本科の各学年に設置し、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

(1) 当該学年の学級担任

(2) 教務主事補

(3) 当該学年の授業担当者。ただし、第４学年及び第５学年担当者会議は、教務主事が必要に応じて指名した授業担当者とする。

（責任者）

第３条　担当者会議に責任者を置く。

２　責任者は、前条第１号の構成員の互選により選出する。

３　責任者は、担当者会議を招集し、その議長となる。

４　責任者は、年度末に、担当者会議の議事要録、今後の課題及び関係委員会への検討依頼事項をまとめ、教務委員会委員長に報告する。

（開催）

第４条　担当者会議は、原則として前期中間・期末及び後期中間試験終了後速やかに開催する。

（事務）

第５条　担当者会議に関する資料の保管等は、学生課において処理する。

附　則

１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

２　都城工業高等専門学校教育点検学年別授業担当者会議規則（平成１５年６月１６日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－６

都城工業高等専門学校専攻科授業担当者会議規則

（趣旨）

第１条　都城工業高等専門学校専攻科委員会規則（平成２０年４月１日制定）第８条の規定に基づく専攻科授業担当者会議（以下「担当者会議」という。）については、この規則に定めるところによる。

（組織）

第２条　担当者会議は、次の構成員をもって組織する。

(1) 専攻科長

(2) 専攻主任

(3) 各学科及び一般科目の技術者教育プログラム委員会委員

(4) 専攻科長が必要に応じて指名した授業担当者

（責任者）

第３条　担当者会議に責任者を置く。

２　責任者は、専攻科長をもって充てる。

３　責任者は、担当者会議を招集し、その議長となる。

４　責任者は、年度末に、担当者会議の議事要録、今後の課題及び関係委員会への検討依頼事項をまとめ、専攻科委員会委員長に報告する。

（開催）

第４条　担当者会議は、原則として定期試験終了後速やかに開催する。

（事務）

第５条　担当者会議に関する資料の保管等は、学生課において処理する。

附　則

この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－７

都城工業高等専門学校学科教育点検班規則

（趣旨）

第１条　都城工業高等専門学校技術者教育プログラム委員会（平成１９年４月１日制定）第９条の規定に基づく学科教育点検班（以下「点検班」という。）については、この規則の定めるところによる。

（構成）

第２条　点検班は、次の構成員をもって組織する。

(1) 学科長

(2) 教務委員会委員

(3) 専攻科委員会委員

(4) 技術者教育プログラム委員会委員

(5) 学科長が必要に応じて指名した者

２　点検班の責任者は、学科長とする。

（業務）

第３条　点検班は、各学科における次の業務を処理する。

(1) 授業科目の設定及び点検に関すること。

(2) 授業科目と技術者教育プログラム（以下「プログラム」という。）の適合性に関すること。

(3) プログラム履修者の単位取得に関すること。

(4) 補講及び小試験等学生の修学支援に関すること。

(5) 成績評価に関すること。

(6) 学生自身による学習・教育プログラムの達成度の評価システムに関すること。

(7) プログラム履修者の成績評価が６０点未満の授業科目の補講等支援体制に関すること。

(8) 工業高校からの編入学によるプログラム履修者への修学支援に関すること。

(9) 卒業研究及び専攻科特別研究の実施記録に関すること。

(10) オフィスアワーの実施と記録に関すること。

(11) その他、各学科等のプログラムに関すること。

２　責任者は、年度末に、前項に規定する業務の処理について取りまとめた報告書を、技術者教育プログラム委員会委員長に提出する。

附　則

この規則は、平成１５年５月２６日から施行する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－①－８

運営企画委員会議事要録（抜粋）

平成２３年度第１５回運営企画委員会議事要録

日　　時：平成２４年3月２６日（月）１５：００～１５：４０
場　　所：校長室
出 席 者：校長、教務主事、学生主事、寮務主事、校長補佐、
　　佐藤委員、渡辺委員、山下委員、原田委員、西村委員、森委員、事務部長
欠 席 者：専攻科長

議事に先立ち、平成２３年度第１４回運営企画委員会議事要録（配付資料１）が確認された。

１．審議事項
(1) 新任教員選考委員会について……（資料２）
　校長から、建築学科　　元教授の平成２４年１月３０日退職に伴い、「新任教員の採用に関する取扱要項」に基づき、新任教員選考委員会を設置する必要があるため委員の選出について依頼があった。具体的な選出方法については、人事係長から、配付資料２により説明があり、審議の結果、「主事が在籍していない学科」として、物質工学科から選出することとし、当該委員に山下委員がなることを了承した。
　なお、後日、建築学科から学科長を除く１名を選出することとなった。

(2) 平成２３年度教員表彰対象者の選考について……（席上配付資料）
　人事係長及び各推薦者から、平成２３年度教員表彰候補者について、席上配付資料により説明があり、選考の結果、次のとおり平成２３年度教員表彰対象者を決定した。
　○総合部門賞　　小原　聡司（建築学科・准教授）
　○教科教育部門賞　　吉井　千周（一般科目文科・講師）
　○学生指導部門賞　　永松　幸一（一般科目理科・准教授）
　○社会貢献部門賞　　森　寛（一般科目理科・教授）

(3) その他

２．報告事項
(1) 高専機構主催　校長・事務部長会議について……（資料３）
　校長から、３月２３日に開催された高専機構主催の校長・事務部長会議について、配付資料３により報告があった。

(2) 都城工業高等専門学校外国人留学生専門委員会規則の制定について……（資料４）
　総務係長から、都城工業高等専門学校外国人留学生専門委員会規則について、配付資料４のとおり制定した旨、報告があった。

(3) 平成２４年度校務分担について……（資料５）
総務課長から、平成２４年度校務分担について、配付資料５のとおり推薦されている

旨、報告があった。

(4)感謝状の贈呈について……（資料なし）
総務課長から、本校のカウンセラーの　　氏及び柔道部コーチの　　氏に対し、３月１５日に感謝状及び記念品を贈呈した旨、報告があった。

(5)平成２３年度実績報告について……（資料６）
総務課課長補佐（総務担当）から、本校の平成２３年度年度計画にかかる実績報告について、配付資料６のとおり高専機構に提出した旨、報告があった。

(6)正門移設に伴う樹木移植計画について……（資料７）
総務課課長補佐（財務担当）から、正門移設に伴う樹木移植について、配付資料７のとおり計画している旨、報告があった。

(7)その他
①全体歓送迎会の実施について……（資料なし）
総務課課長補佐（総務担当）から、全体歓送迎会について、平成２４年４月１２日（木）１８時３０分よりグリーンホテルで開催することとしている旨、報告があった。

②第６回ＩＳＡＴＥの発表者について……（資料なし）
教務主事から、平成２４年９月１９日より２１日まで北九州市で開催される第６回ＩＳＡＴＥ（国際工学教育研究集会）について、全教員に対し発表者２名の選出を依頼している旨、報告があった。

次回の運営企画委員会は、平成２４年４月９日(月)１６時３０分からを予定している旨、校長から報告があった。

以上

〔出典：総務課資料〕

資料２－２－①－９

教務委員会議事要録（抜粋）

平成２３年度第２３回教務委員会議事要録

日　時　　平成２４年3月１３日（火）１３：００～１４：５５
場　所　　図書館第２会議室
出席者　　教務主事、教務委員（高橋(勇)、永野(孝)、高橋（利)、板倉（中村（裕）の代理)、松﨑、武田）
列席者　　学生課課長補佐、教務係長

議事に先立ち、平成２３年度第２２回務委員会議事要録を資料１により行い、これを了承した。

１．平成２４年度以降の授業時間割編成業務について（継続審議）
学科下ろしの検討結果、原案に賛成：３学科等、大枠で賛成：２学科、反対：１学科であった。これを踏まえ、教務委員会としては原案どおり了承することとした。
その他、出された意見について、審議の結果、次のとおり整理した。
(1) コマ入れ作業は、事務的な作業であるため、教員が携わらなくても良いのではないか。→作業効率、間違い防止の観点から、教員にも作業をお願いするものである。
(2) これを機会に教員の仕事が増えるのではないか。→原案に示した作業以外に教員にお願いすることはない。今後、懸念されるようなことが具体的に発生した場合は、その時点で検討する。
(3) 教務主事補の仕事の引き継ぎに問題が残るのではないか。→教務主事補間の引き継ぎは、教務主事が責任を持って行う。
(4) 教務係再雇用職員退職後の補充を要求したらどうか。→人事権がからむ問題は、教務委員会では審議できない。

２．授業時間割編成要件の見直しについて（継続審議）
(1) 英語科から、新たに次の要件を追加願いたいとの意見があり、意見を反映させた授業時間割編成要件（案）をＦＣの教務委員会に送付し、教務委員が確認することとした。
『１・２年生の英語、オーラル英語、英文法は授業効率のため同一科目を２限連続とせず、１コマずつ編成する。ただし、やむを得ない場合は２年生の英語のみ英語科と相談して編成する。』
(2) その他、出された意見について、審議の結果、次のとおり整理した。
①時間割編成要件の周知徹底を図るべきである。→時間割編成要件は教員必携に掲載しており、教務委員会で決定した事項は、教員必携に反映させて全教員に配付する。
②時間割編成要件以外の要望事項は認めないことを記載しておくべきではないか。→時間割編成要件に次のとおり記載する。
『時間割編成要件以外の要望事項が生じた場合は、学科内で調整するものとし、時間割編成要件以外の要件は原則として認めない。ただし、他学科にも影響する等調整が困難な場合は、当該学科の教務委員から時間割編成室へ連絡し、正当な理由があると教務主事が認めた場合に限りこれを認める。』

３．カンニングに伴う処分の申し渡しについて（資料２）
厚生補導委員会で、カンニングに伴う処分の申し渡しは教務主事のみの立ち会いでよいとされたことについて、教務委員会として審議した結果、カンニング行為は、非行（学生主事所管）と試験における不正行為（教務主事所管）の２面制があるため、従来どおり

両主事が立ち会うべきであるとの意見が大半であった。これを受けて、教務主事が学生主事と話し合いをすることとなった。

４．要望書について（資料３）

教務主事から、資料３について報告があった。

(1) 要望書には７件の要望があった。教務委員会で報告する３件は教育会議でも話しをする。３件以外の要望で学生に周知すべき事項は、４月の全校集会で話しをする。

(2) ＳＨＲに遅刻する学生への対応は、学級担任に相談して学級担任と教務指導部で取り組む。

５．平成２４年度特別活動計画について（資料３）

教務主事から、新年度の特別活動計画表の作成を、昨年までは４月に入ってから依頼していたが、担任の先生方に考えていただく時間を設けるため、今回は３月中に新担任に送付の予定であるとの説明があった。

６．ＳＨＲのカウントについて（資料３）

教務主事から、ＳＨＲの授業時間数及び欠課時間数のカウントについて、教員必携に掲載されているが、担任によって解釈がまちまちであるようなので、今後見直しを含めて検討したいとの発言があった。

７．その他

(1)教務主事から、入学試験予備問題について、予備問題を作成してから数年経過しているため、今年の夏休み中までには新予備問題を作成予定であるとの発言があった。

(2) 委員から、５年生の後期中間試験は、行事予定にはないが、実際には物質工学科では試験を実施している。卒業研究に専念させるため行事予定に組まないのは理解できるが、試験範囲が広くなり過ぎないように試験を実施することも学生のためになると思われるので、再度検討願いたいとの意見があった。これに対し、授業時間内に出来る試験は実施してもよいし、放課後に実施するような試験は、好ましくないのではないか等の意見があった。この件については、一般科目の教科担当者の意見も聞いて今後検討することとした。

(3) 委員から、公欠願については、２週間を経過したものは受理しないよう厳格に処理して欲しいとの意見があり、教務主事が４月の全校集会で周知し、徹底を図るとの回答があった。

(4) 委員から、授業中にトイレに行く学生が増えているため、授業中のトイレは認めないよう決議して欲しいとの意見があり、審議の結果、授業中のトイレは一応認めるが、余りにも頻繁なようであれば、教科担当教員から教務指導部に連絡していただき、教務指導部と担任で本人から事情聴取の上判断し、指導することとなった。

(5) 委員から、アスペルガーの学生への対策として、当該学生が在籍する教室に内線電話を設置してもらえないかとの要望があり、教務主事から、学生相談支援室長及び看護師に相談のうえ何らかの対応策を検討してみるとの回答があった。

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－10

専攻科委員会議事要録（抜粋）

平成 23 年度 第 12 回 専攻科委員会　議事要録

日時	平成 24 年 3 月 1 日（木）　17：30-　18：45
場所	第２会議室（図書館２階）
出席者	林田、高橋勇、野地、清山、板倉、小塚、田村、（永野）
列席者	学生課長、教務係長
欠席者	なし
議事要録作成	専攻科長

１．専攻科修了判定会議資料の確認（資料１）
資料１の「専攻科修了判定会議資料」について、資料に不備が無いことを確認した。。

２．次年度行事予定について（資料２）
２年学年末試験後の特別時間割は、２月 14 日～15 日の２日間で編成することにした。ただし、授業は可能な限り２月 15 日に編成することにした。また、２年生の成績伝票は、２月 18 日の午前中までに提出することにした。その他は、原案通り承認された。

３．行事予定表の作成形式について
本科と専攻科の行事予定表を一つの表として作成するよう、電気情報工学科より提案された。審議した結果、表を一つにする積極的な理由がないとの意見が大半であり、この提案は却下された。

４．専攻科予算の使途について（資料３）
専攻科長より、専攻科予算残額の使途について、次のように報告があった。
「前回の委員会で建築学科から立体プリンター用消耗品（創造デザイン演習用）は、予算残高が不足し購入不能となった。そこで、これに代わり、電気情報工学科より要望のあった専攻科２年実験用備品を購入することにした。また、創造デザイン演習の１年前期で使用する消耗品等を、建築学科中村裕文教員からの予算移用 50,000 円を加えて購入することにした。」
委員会はこれを了承し、次年度の専攻科予算で、中村教員に 50,000 円返却することを了承した。

５．専攻科パンフレットについて（資料４）
専攻科パンフレットについて、以下の通り決定した。
１）各専攻の「学生の声」については、物質工学専攻修了生分を若干短くして貰うよう、検討して頂くことにした。
２）写真には、改めて各学科委員から教務係へ、ファイル名に写真タイトルを記載し、教務係に提出することにした。
３）一般科目及び各専攻の授業科目名に修正がある場合は、教務係に連絡することにした。
４）進路状況について、重複していた「ソーラーフロンティア、サントリーホールディングズ」を削除した。
５）教務係への連絡は、専攻科委員会の FC フォルダーへメールにて投稿するよう、教務係長より依頼がなされた。

６．その他
(1) ３月の委員会について
３月の委員会については、専攻科長不在のため、清山委員（次期専攻科長）が代行することとなった。

以上

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－11

技術者教育プログラム委員会議事要録（抜粋）

平成 23 年度 第 12 回 プログラム委員会　議事要録

日時	平成 24 年 3 月 1 日（木）16：50-17：30（入試検討委員会終了後）
場所	第２会議室（図書館２階）
出席者	林田、永野、野地、清山、板倉、小塚、田村、（高橋勇）
列席者	学生課長、教務係長
欠席者	なし
議事要録作成	プログラム委員長

１．プログラム修了判定会議資料の確認（資料１）

資料１の「プログラム修了判定会議資料」について、資料に不備が無いことを確認した。

２．その他

(1) 「JABEE 認定制度と 2012 年度基準改定」講演会について、「参加報告書」の内容が清山委員より報告された。

(2) 3 月の委員会については、委員長不在のため、清山副委員長が代行することとなった。

(3) ポートフォリオの記載が無い場合の処理（卒業式で記入をさせる方法）について、プログラム委員長より５年担任へメールで通達することにした。なお、通達後、プログラム委員から５年担任に補足説明することも確認された。

(4) 保存資料チェックを、年度内に実施し、チェック表を清山副委員長に提出することにした。

(5) 5 年間の保存期限を過ぎた保存資料は、廃棄する。例年どおり、廃棄資料を入れる段ボール箱を教務係が準備し、3 月末日までに整理された廃棄資料は、教務係が廃棄することとした。

以上

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－12

学年別授業担当者会議議事要録（抜粋）

第３回１年生授業担当者会議　議事録

平成２３年１２月２０日（火）16:00～

（出席者：１年各クラス担任，授業担当者）

1C,1A,1M,1E の順番で，各担任教員の進行のもと，授業・学生の状況について意見交換を行なった．

１．１C について

学生の自己評価では，９人の学生が１１単位以上の不合格を抱えている．特に危機的な学生が３名いる．無断欠席が出だしているので注意したい．

（国語）漢字テスト４回分を加算している．M かと比較して積極性に乏しい．読書感想文が未提出の学生が数名いる．

（基礎数学Ⅱ）公式を覚えていない学生はテストができていない．

（科学Ⅰ）補習を３回行った．

（英語）２名の学生は単位取得が無理である．

（オーラル英語）なるべく目立ちたくないという意思を感じる．

（分析化学）授業態度はよく，レポートの提出もよい．

（保健体育）武道の欠席が目立つ．

２．１A について

(国語)学力が低い．机の上に落書きをしている．感想文未提出が３名いる．

（基礎数学Ⅰ）演習の授業は良くやっている．最近素直になった学生がいる．

（基礎数学Ⅱ）一夜漬けでテストを受けている．

（英語）基本が全くわかっていない．白紙答案も数名いる．ノートを取ることができない．集中力がない．

（オーラル英語）テストの点数は上がった．

（情報基礎Ⅰ）授業中に雑談がある．演習に集中していない学生がいる．試験は宿題の問題を中心に出題した．

（建築設計演習）今回の試験は易しくした．直前に予想問題を配付した．紙資料で説明するように授業を工夫した．雑談が多い学生がいる．

（構造力学）授業態度はよい．熱心さも感じる．しかし，復習をしない．２次関数を理解できない学生がいる．

３．１Ｍについて
注意を要する学生が３名いる．保護者面談ができなかった学生が１名いる．
（国語）３名の学生が読書感想文未提出である．
（基礎数学Ⅱ）成績について気になる学生がいる．
（設計製図）３名心配な学生がいる．製図を提出しない，テスト成績も悪い学生が１名いる．寝ている学生が１名いる．
（保健体育）２名よく寝る学生がいる．授業はやりやすい．

４．１Ｅについて
　　は，退学となったことの説明あり．気分が乗らないと頑張れない学生がいる．
（国語）授業態度はよい．読書感想文はすべて提出．
（基礎数学Ⅰ）成績心配な学生がいる．
（基礎数学Ⅱ）成績がさらに悪くなっている学生がいる．
（英語）did を知らない学生がいる．
（オーラル英語）単位取得が難しい学生が２名いる．答案が汚い学生がいる．
（情報基礎Ⅰ）次回の試験で，９０点以上必要な学生が２名いる．
（電気基礎Ⅱ）授業中の私語が多い．質問が出ない．２名の学生は単位取得が難しい．基礎的な数学の公式を忘れている学生、分数計算ができない学生がいる．
（電気基礎Ⅰ）後期の課題は２テーマである．授業中に話を良く聞いていない．説明通りに作業をしない．課題提出をしない学生が１名いる．

以上のことについて，意見交換を行なった．

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－13

専攻科授業担当者会議議事要録（抜粋）

平成 23 年度 前期 専攻科授業担当者会議　議事要録

日時	平成 23 年 10 月 20 日（木）16：45-17：15
場所	第２会議室（図書館２階）
出席者	専攻科委員会　　：林田、高橋勇、野地、清山、板倉、田村、小塚
出席者	プログラム委員会：林田、永野、野地、清山、板倉、田村、小塚
議事要録作成	専攻科長

１．教員からの意見・要望について（資料 p.1, p.5）

１）専攻科インターンシップ期間について

電気情報工学科教員より、3 週間のインターンシップが長すぎるという意見が出された。理由は主に、3 週間という長期間、受け入れる企業等が殆どないということである。これを受けて、他学科でもインターンシップ先を探すのに非常に苦慮している旨、報告があった。また、宮崎大学のインターンシップは 2 週間であり、2 週間のインターンシップ先ならもう少し確保しやすいなどの意見があった。そこで、授業担当者会議では、インターンシップの期間短縮について、専攻科委員会に付議することとした。

２）専攻科インターンシップ（実務実習）の評価について

実務実習の評語とそれに対応した評点に、違和感があると、建築学科教員からの意見があった。そこで、評語と評点の対応について、専攻科委員会に付議することとした。

３）機械工学科からの意見

機械工学科教員より提出された意見については、特に授業担当者会議で取り上げるべき内容ではないと判断された。

２．非常勤講師からの意見・要望について（資料 p.2-4）

１）　先生（技術者倫理非常勤講師）からの意見

先生の授業については、その内容から他の講師の授業後に実施するのが望ましいとの意見があり、この件について、専攻科委員会に検討を依頼することにした。

２）　先生（技術者倫理非常勤講師）からの意見

先生から学生のレポートの書き方が訓練されていないとの意見が提出された。授業担当者会議では、授業によりレポートの書き方など異なるものの、レポートの書き方の一層の訓練が必要と判断した。そこで、授業担当者会議のメンバーより、各学科教員に対し、レポートの書き方指導の強化をお願いすることとした。

３．学生からの意見・要望について

今回は学生からの意見・要望のメールは無かったことが、専攻科長より報告された。

以上

平成 23 年度 前期 専攻科授業担当者会議　議事要録

日時	平成 24 年 3 月 1 日（木）00：00-00：00（専攻科委員会終了後）
場所	第２会議室（図書館２階）
出席者	専攻科委員会　　：林田、高橋勇、野地、清山、板倉、田村、小塚
出席者	プログラム委員会：林田、永野、野地、清山、板倉、田村、小塚
議事要録作成	専攻科長

１．学生からの意見・要望について

今回も学生からの意見・要望のメールは無かったことが、専攻科長より報告された。

２．教員からの意見・要望について

１）常勤講師からの意見・要望は無かった。

２）一般科目理科（４、５年生開講科目担当）の非常勤講師からの意見・要望は無かった。

以上

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－①－14

学科教育点検班議事要録（抜粋）

建築学科会議　議事要録　　**（作成：建築学科長）**

平成 23 年度　第 11 回　　平成 24 年　1 月　20 日（金）
出席者：　樋口，板倉，林田，中村（孝），小原，中村（裕），山本，　原田 欠席者：須田，後藤
１．学科運営企画事項
１．平成 23 年度の予算に関して 75 万円程度の残があり，新たに以下のものの購入を検討する． ・材料実験用高温電気炉 ・ものづくり室用コンピュータ ・大型プリンター用インク（30,000 円/本）
２．各種委員会からの報告事項及び審議依頼事項
１．教務委員会 １）時間割編成業務について ・補助要員は事務職員とすることを希望する． ・その際，特別時間割の編成業務など，仕事内容に関して曖昧な点があるので，仕事内容を明確にし，可能な限り負担軽減を図るよう依頼する． ２）平成 24 年度のオープンキャンパス実施日について ・7 月 27 日（金）を希望する． ２．小中学校教育支援担当者グループに関する申合せについて ・実施担当者の対象が全教員となるのかグループ員のみになるのか曖昧であるため，申合せ事項の再検討を依頼する． ３．専攻科委員会 １）実験実習費の執行について ・50 万円程度の残に対して，立体プリンター用石こうを要求する． ２）パンフレットの掲載写真について ・九州支部での発表風景，ギリシャでの遺跡調査風景および模型作製風景の中から選ぶ． ３．FD 委員会 １）公開授業に関する意見 ・担任にとっては，自分の授業以外でのクラス学生の授業中の様子を見学できて参考になった． ・公開する授業を選定し，公表したほうが参加しやすい． ・一斉に行うと，各授業 1 名程度の聴講者しかいないので，授業担当者にとっては複数の教員の意見をもらえない．
３．学科教育点検事項（学科教育点検班会議を含む）
１．モデルコアカリキュラムについての意見 ・全体的に指定された授業内容が多すぎるため，各科目，授業時間のほぼ 100%をその内容に費やしてしまい，余裕をもった授業ができない．

建築学科会議　議事要録　　**（作成：建築学科長）**

平成 23 年度　第 12 回　　平成 24 年　2 月　9 日（木）
出席者：　樋口，板倉，林田，中村（孝），小原，山本，後藤，　原田 欠席者：中村（裕）
１．学科運営企画事項
１．教員公募に関して 原案の担当科目から，耐震構造学は削除する（講義内容が誤解され，応募希望者に混乱を与える可能性があるため）
２．各種委員会からの報告事項及び審議依頼事項
１．専攻科委員会 １）専攻科入学試験問題のホームページへの掲載について 専攻科委員会原案「希望者に配布する」を了承. ２．運営企画委員会 １）外国人留学生専門委員会規則制定案について 指導部間での連絡協議会で対応可能であると考えられるので，制定には反対. ３．厚生補導委員会 休日等における学生の建物出入に関する申合せについて，E 科より，申合せ事項の撤回を求める議案が提出され，委員会が紛糾中であるとの報告があった（理由：処分に関する事項は厚生補導委員会管轄であり，教務主事が提案するのは越権行為である）
３．学科教育点検事項（学科教育点検班会議を含む）
１．専攻科 1 年特別研究中間発表 インフルエンザのため，1 名が 2/10 の発表会は欠席．欠席者の発表日は，後日当人と相談の上，決定する. ２．平成 25 年度の専攻科生の受け入れについて 希望者多数のため，各研究室 2 名程度の受入も検討いただきたいと，4 A 担任より依頼があった.

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

教務委員会，専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会を設置し，さらに，これらの委員会の下に，それぞれ学年別授業担当者会議，専攻科授業担当者会議及び学科教育点検班を設けており，教育活動を企画・展開する上で必要な運営体制を整備し，必要な活動を行っている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

低学年では学級担任会を組織し（資料２－２－②－１），試験終了ごとに各学年で授業担当者会議を開催し，学生の学習取組状況等に関する情報交換を行っている（資料２－２－②－２）。また，平成 21 年度教員研修（FD 委員会主催）では学科ごとの教科内容等の検討会を行い，一般科目と専門科目の教科教育内容上の連携を図った（資料２－２－②－３～４）。さらに，シラバスでも，低学年では「関連科目」として，高学年・専攻科では「履修上の注意・事前に行う準備作業」として，一般科目と専門科目の科目間の関連が確認できる（資料２－２－②－５）。

観点２－２－②　資料一覧

資料２－２－②－１　都城工業高等専門学校学級担任会規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－②－２　学年別授業担当者会議活動実績
〔出典：学年別授業担当者会議議事要録〕

資料２－２－②－３　都城工業高等専門学校ＦＤ委員会規則
〔出典：規則集〕

資料２－２－②－４　協議「シラバス内容の検討について」
〔出典：学生課資料〕

資料２－２－②－５　シラバス（抜粋）
〔出典：シラバス〕

資料２－２－②－１

都城工業高等専門学校学級担任会規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校の原則として第１学年、第２学年及び第３学年に、それぞれ学級担任会（以下「担任会」という。）を置く。

（目的）

第２条　担任会は、本校の教育理念と教育目標に基づいて、その学年の基本的運営方針を決めると共に、他の委員会及び指導部等と相互に連携し、円滑な学級運営を行うために組織する。

（組織）

第３条　担任会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 学年主任

(2) 学級担任

(3) その他校長が必要と認めた者

（学年主任）

第４条　担任会に学年主任を置き、その学年の学級担任の互選で選出する。

２　学年主任は、担任会を召集し、その議長となると共に、指導部等との連絡調整に当たる。

（任期）

第５条　第４条１項に掲げる学年主任の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の学年主任に事故が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（学年別授業担当者会議の召集）

第６条　学年主任は、必要に応じて学年別授業担当者会議を召集することができる。

（担任以外の出席）

第７条　学年主任は、必要に応じて担任以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（事務）

第８条　担任会に関する総括的事務は、学生課において処理する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－②－２

学年別授業担当者会議活動実績

学年別授業担当者会議まとめの教務委員会委員長宛報告書

平成　２４年　３月 13 日

教務委員会委員長　殿

１学年授業担当者会議責任者　氏名　武田　誠司

下欄のように、議事要録、今後の課題及び検討依頼事項を報告いたします。

議事要録　（会議日時、出席者、議事の要点を記載する。複数のページにわたっても可、議事録が別にある場合は、添付でも可で、欄内に添付した旨を記入する）

添付別紙の通り報告します.

今後の課題　（議事の中から特に今後の課題ととらえる事項を箇条書きに記入する）

（１）学習や学校生活へ適応できない学生への対応.

（２）特別活動を合同で行なう際の検討事項について

えびのアイススケートは，事前にスケート場の使用予定・状況を把握しておくことが望ましい．アイススケートを行なう際は，事前に資料等を用いて，安全に関する指導をすることが望ましい.

ケガに備えて，救急箱等の応急処置の準備をしておく.

（上記１、２は，次年度１学年会に引き継ぎます。）

学年別授業担当者会議まとめの教務委員会委員長宛報告書

平成２４年3月１２日

教務委員会委員長　殿

2学年授業担当者会議責任者　氏名（飯尾高明）

下欄のように、議事要録、今後の課題及び検討依頼事項を報告いたします。

議事要録　（会議日時、出席者、議事の要点を記載する。複数のページにわたっても可、議事録が別にある場合は、添付でも可で、欄内に添付した旨を記入する）
第１回（平成２３年6月２３日） 第２回（平成２３年１０月１３日） 第３回（平成２３年１２月２１日） 出席者の記録はとっていませんでした。 M:毎回、授業中の騒がしさを指摘された。授業内容に対する反応はよい。提出物を守らない学生が数名いる。 E:授業態度はおおむね良好だが、やや積極性に欠ける面がある。どこまで理解できているのかつかみにくい。提出物の悪い学生、授業中居眠りする学生は固定化の傾向がある。 C:授業態度はおおむね良好。成績に問題のある学生は少数いるが、個別指導で対応したい。 A:授業の当初ざわつくことが多いが、次第に静かになり授業自体はやりやすいという意見が多かった。しかし授業に集中しているかどうかは不明であり、自分で演習なり課題に積極的に取り組もうという姿勢に欠ける学生、課題提出が悪い学生も見受けられる。授業開始時に着席しておらず、雑談している学生は後期にも見受けられた。全体として、落ち着きがない。
今後の課題　（議事の中から特に今後の課題ととらえる事項を箇条書きに記入する）
（１） （２）

学年別授業担当者会議まとめの教務委員会委員長宛報告書

平成２４年　３月２９日

教務委員会委員長　殿

（３）学年授業担当者会議責任者　氏名（　赤木洋二　）

下欄のように、議事要録、今後の課題及び検討依頼事項を報告いたします。

議事要録　（会議日時、出席者、議事の要点を記載する。複数のページにわたっても可、議事録が別にある場合は、添付でも可で、欄内に添付した旨を記入する）
日時：6/24(金)　16 時 30 分～18 時 出席者：松崎、藤永、小塚、武田、黒木、野町、山中、佐藤、赤木、山下、高橋(利)、清山、樋口、中村(孝)、山本 議事：添付資料参照 日時：10/14(金)　16 時 30 分～18 時 出席者：松崎、小塚、友安、武田、崎山、野町、山中、佐藤、赤木、田中、小森、山下、高橋(利)、樋口、中村(孝)、原田 議事：添付資料参照
今後の課題　（議事の中から特に今後の課題ととらえる事項を箇条書きに記入する）
（１）特になし

学年別授業担当者会議まとめの教務委員会委員長宛報告書

平成２４年３月１５日

教務委員会委員長　殿

（４）学年授業担当者会議責任者　氏名（　小原　聡司　）

下欄のように、議事要録、今後の課題及び検討依頼事項を報告いたします。

議事要録　（会議日時、出席者、議事の要点を記載する。複数のページにわたっても可、議事録が別にある場合は、添付でも可で、欄内に添付した旨を記入する）

平成 24 年 2 月 7 日から 28 日にかけて 4 年生担任と学内 LAN を通して 4 学年全般に共通問題について意見聴取し，一旦意見なしであったが，再度責任者から原案を提示し各担任の同意を得た。(別紙参照)

今後の課題　（議事の中から特に今後の課題ととらえる事項を箇条書きに記入する）

（１）校外実習の企業問い合わせ業務範囲の確定

今年度の校外実習の問い合わせ方式に関して，教務係担当者と担任間で認識の違いがあり，また教務係担当者も別の書類送付に忙殺されたため，担任が行う実習の具体的交渉業務への引き継ぎがスムーズにいかなかった。

最初の企業への問い合わせは，回答が届くまでの問い合わせも含めて教務係で責任を持って行っていただきたい。

（２）水曜午後の共通行事設定時刻

時間割上全学科が空いているということで共通の説明会･講習会(企業・大学説明会，身だしなみ教室，マナー講座など)は水曜 6 限直後に行われるが，6 限終了後に多少時間があると教室での清掃･連絡等の指導がしやすい。

水曜午後の行事設定時刻についてはできれば 15 時頃からの開催をお願いしたい

（３）キャリア支援室の予算額及び執行計画の検討

２月中に産業 CD による４Ａ学生の面談をお願いしようとしたところ，予算がないので CD を呼べないため対応できないかもとの回答がキャリア支援室長からあった(結果的に学内の残予算を集めて実施して頂けた)。

キャリア支援室の予算計画は４年の２月や３月にも面談が行えるような予算執行計画あるいは額の確保が必要ではないか。

学年別授業担当者会議まとめの教務委員会委員長宛報告書

平成２４年２月１７日

教務委員会委員長　殿

（５）学年授業担当者会議責任者　氏名（白濱正尋）

下欄のように、議事要録、今後の課題及び検討依頼事項を報告いたします。

議事要録　（会議日時、出席者、議事の要点を記載する。複数のページにわたっても可、議事録が別にある場合は、添付でも可で、欄内に添付した旨を記入する）
日時：４月、出席者：５年担任、要点：授業担当者会議責任者の決定。
今後の課題　（議事の中から特に今後の課題ととらえる事項を箇条書きに記入する）
（１）特になし。 （２）

〔出典：学年別授業担当者会議議事要録〕

資料２－２－②－３

都城工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（定義）

第２条　この規則においてＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）とは、本校の教育内容及び方法に関する教員の資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取り組みをいう。

（目的）

第３条　委員会は、本校におけるＦＤの実施要項を決定するとともに、その企画運営を行い、本校の教育機能の向上に寄与する。

（組織）

第４条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 教務主事

(2) 各主事が推薦する主事補各１人

(3) 前２号の委員を除く各学科の教員の中から選出された者各１人

(4) 第１号及び第２号の委員を除く一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各１人

(5) その他校長が必要と認めた者

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（任期）

第６条　第４条第１項第２号から第５号の規定に掲げる委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（定足数）

第７条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（他の委員会等との連携）

第８条　委員会は、他の委員会等と相互に連携し、本校におけるＦＤ活動を推進する。

（事務）

第９条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－②－４

協議「シラバス内容の検討について」

平成２１年度教員研修会２　実施要領

FD委員会

主　題：シラバス内容の検討について

目　的：他教員の科目の授業内容，授業方法、達成目標及び成績評価方法等についての理解を通じて、学科内及び一般科目と専門科目間の科目間連携を強化し、本校の教育目標と学科の目的達成のための、学校全体及び学科の教育課程の合理性の向上を図る。

期　日：平成２１年１０月５日ー１０月６日

要　領：学科（一般文科、一般理科、機械工学科，電気情報工学科、物質工学科、建築学科）毎に検討会を開催し、各教員がシラバスにもとづいて、授業内容，授業方法、達成目標及び成績評価方法等について説明し、検討を行う。
一般科目の検討会に専門科目の教員が参加し、また、専門科目の検討会に一般科目の教員が参加する。
検討会の議事進行及びまとめは、所属学科のFD委員が行う。
FD委員は、まとめをFD委員会委員長に提出する。
FD委員会は、各検討会のまとめ及びアンケート結果について評価する。

日　程：検討会日程及び会場表

１０月５日	10:00ー12:00	13:00ー15:00	15:00ー1700
(会場)	一般科目文科検討会（多目的ホール１）	機械工学科検討会（多目的ホール１）	電気情報工学科検討会（多目的ホール２）
１０月６日	10:00ー12:00	13:00ー15:00	15:00ー1700
(会場)	一般科目理科検討会（多目的ホール１）	物質工学科検討会（多目的ホール１）	建築学科検討会（多目的ホール２）

１）１教員１教科発表時間７分＋質疑３分
（１１教員×１０分）＋全体質疑１０分＝１２０分（２時間）
検討会の設定時間は２時間であるが、３０分程度の延長は可能

２）多目的ホール２(多目的ホール半分区切りの東側)には、スクリーンとプロジェクターを準備する。

校長決裁	学生監督	教育研究	教務係長	教務係

教員研修会アンケート集計結果（FD委員会）

（平成21年10月5日・6日開催・シラバス内容の検討）
■アンケート回答者 29名

Q１：今回の研修会テーマは、研修会前、関心がありましたか。

質問事項	回答者数
1．大変関心があった	3
2．関心があった	7
3．あまり関心がなかった	17
4．関心がなかった	2

Q２：自分の学科のシラバス検討会は意義はありましたか。

質問事項	回答者数
1．大変意義があった	2
2．意義があった	18
3．あまり意義がなかった	8
4．意義がなかった	0

Q３：専門の方で一般科目の検討会に出席されたとか、一般科目の方で専門の検討会に出席された場合、どうでしたか。

質問事項	回答者数
1．大変意義があった	1
2．意義があった	12
3．あまり意義がなかった	1
4．意義がなかった	0
5．出席しなかった	10

Q４：今回の研修会について、ご意見やご感想があれば記入して下さい。

○各先生方が工夫を凝らしてシラバスを作成されていることが実感できて良かった。
○建築学科の検討会が印象に残った。
○各学科内でも教科間の連携があまりないのかと思った。今後も同様の会を開催して頂きたい。
○全専門の先生方と話したわけではないが、これからも専門、一般のコミュニケーションは、色々な形であった方がよいと考える。
○学生に対して一人の教員が言うより、何人もが同じ事を言うと効果的なので、この学校において、学生にとっては何が大事なのか、教員もよく協議しておくとよいであろう。
○各科目の教員が一人一人自分のシラバスについて説明する必要があったのか。大変疑問に思う。小生は自分のシラバスの記載内容に不満を抱いていたので、今度の研究でシラバスの本来の有様について学べると思っていたが、そういう期待は実現できなかった。
○自分の学科内の他の科目の内容を知ることはとても興味深かった。松崎先生の日本語の文章の授業は、可能なら自分も受けてみたいと思った。
○テーマ設定をもう少し具体化した方が良かったのでは。
○日程（２日間）、実施方法等をもっと企画段階で充分な検討が必要だと思った。
○シラバス作成の基本になる考え方が様々であった。関心があったのは、一般科目のシラバスについてで、何をどこまで学生に教授するかの考えの根底をどのように決定しているかであった。専門はその点、楽であるためである。学生に求められる質が変化するため、継続して勉強したい。
学科全体で最終的なシラバスの仕上がりのチェックは行わないような印象であった。元々シラバスを作成することがなかった時代からすれば、面倒な手間かもしれない。最低限、授業だけはしっかり実施したいという気持ちが更に強くなった。

○シラバスの検討とは何について検討するのか不明。検討という抽象的な言葉ではなく、具体的な言葉で表現する方がわかりやすい。ＦＤ委員会はシラバスをどうしたいと考えているのですか。
○各学科から数人をピックアップして全員参加の、１日で終了する方が良いのではないか。
○残念ながら、あまり関心が高いテーマではないためか、出席者が小数となり、活発とはいえない。やはり、目玉となる外部講師による講演等が欲しい。
○代休日に設定されていましたので、次回からは開催日を検討頂きたい。
○シラバスに関して他の先生方の意見を聞いて良かった。参考にしていきたいと思います。
○文章作成能力養成は、全学年的問題であることがわかりました。シラバス記載の書き方は改めてしっかり討論する必要性を感じました。
○各教科の授業のねらい、組み立ては参考になった。都城高専の将来を見据えた検討会にまで至っていないのが残念である。ＦＤ委員会で点検を。
○研修会開催の目的をもう少し明確にしておくべきであると痛感した。

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－②－５

シラバス（抜粋）

科目名（英語表記）	コンピュータ援用学 (Computer Aided science)			担当教員	中村裕文		
学年-学科	２Ａ	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	建築学科	授業形式	講義	オフィスアワー	月曜日　8限		
学習目標	プログラミング技術を習得する。 プログラム作成演習を通じて論理的思考能力を涵養する。						
進め方	授業時間の前半講義、後半をプログラミング演習とする。						

学習内容	学習項目	時間数	学習到達目標
	1．コンピュータプログラムの基礎		
	（1）コンピュータプログラム概論	4	プログラム作成、実行方法の習得。
	（2）画面表示・数値計算	4	オンラインマニュアルの利用方法の習得。
	（3）文字と数値	4	プログラムの概念理解。
	（4）関数の利用	4	変数、定数の理解。 文字と数字の違いの理解と文字関数の働きの理解。
	・・・中間試験	1	
	試験解説	1	関数の利用と計算の理解。 コンピュータ上の計算式の理解。
	（5）情報の入力・変数	4	プログラミング用語の理解。
	（6）条件による処理の変更	4	分岐条件を利用したプログラミングの理解。
	（7）繰り返し処理	4	繰り返し命令によるプログラミングの理解。
	前期末試験		
	前期末試験の返却と評価	1	
	（8）配列変数	4	配列変数の理解。
	（9）サブルーチンプログラム	4	サブルーチンプログラムの理解。
	（10）関数プログラム	4	関数プログラムの考え方と利用方法の理解
	（11）表計算との連携	2	表計算プログラムとの連携の理解
	・・・中間試験	1	
	試験解説	1	
	2．コンピュータプログラムの応用・数値計算法		コンピュータを利用した数値計算の理解。
	（1）代数方程式	4	
	（2）数値積分	4	
	（3）微分方程式	4	
	（4）一次方程式	2	
	学年末試験		
	学年末試験の返却と評価	1	

評価方法	学習項目ごとに課題を与え、その提出状況と定期試験の成績の平均を２：８の割合で評価して年間の成績とする。		
関連科目	基礎数学I, II、微分積分学I, II、代数学、数学特論		
教科書	授業内容に合わせてプリントを配布する。		
参考書			
備考	電算機センター第３演習室で演習を行う	【学習・教育目標サブ目標との対応】	2-2

101

構造力学 (Structual Mechanics)

専攻・学年	建築学科・４年	単位・別区	必修単位・通年選択時数（授業時数90時間）		
担当教員	坂倉　和則	連絡先	建築学科棟２階　第５研究室	オフィスアワー	火５限

【授業目的】
固定モーメント法及びたわみ角法により連続ばり・ラーメンのM図、Q図を理解する。
仮想仕事の原理、ひずみエネルギーを理解する。

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】
物理学、数学を十分に理解しておくことが望ましい。
小問題形式でレポートを出すので自己学習をしておくこと。

【授業の内容】

授業項目	内容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	0.5
梁のたわみ（復習）	モールの定理、積分法の確認	3.5
ラーメンの静定・不静定	ラーメンの静定・不静定の見分け方	2
仮想仕事の原理	仮想仕事の原理、ベッティの法則、梁のたわみ・たわみ角、ラーメンのたわみ・たわみ角	4
	不静定梁、不静定ラーメンの解法、高次不静定ラーメンの解法	4
前期中間試験		1.5
試験返却・説明	試験の返却・説明	1
仮想仕事の原理	トラスの変位、不静定トラスの解法	8
	ユネルギー保存則、カスティリアノの定理	4
固定モーメント法	不静定梁の解法、ピン支持梁の解法	4
前期末試験		(1.5)
試験返却・説明	試験の返却・説明、ポートフォーリオ記入	2
固定モーメント法	不静定ラーメンの解法、ピン支持ラーメンの解法	6
	対称変形・逆対称変形ラーメンの解法、節点が移動するラーメンの解法	8
後期中間試験		1.5
試験返却・説明	試験返却・説明	1
たわみ角法	基本式、節点が移動しない場合	7
	節点が移動する場合	9
学年末試験		(1.5)
試験返却・説明	試験の返却・説明、ポートフォーリオ記入	2
	合計時間	63

【達成目標】
1)仮想仕事の原理、2)固定モーメント法、3)たわみ角法が理解できること。4)、不静定トラス・ラーメンの変位・応力を求めることができること。

【成績の評価方法】
前期中間試験（20%）、前期末試験（20%）、後期中間試験（20%）、学年末試験（20%）、および小テスト（20%）で評価する。評価基準は、学年成績60点以上を合格とする。

【教科書】
なし

【参考書】
藤谷義信ほか共著「基礎構造力学演習」（培風館）

【学習・教育目標との対応】 b　【JABEE基準との対応】 (c), (d)

ポートフォーリオ

<記入上の注意>

【理解の度合い】（記入例）ファラデーの法則、交流の発生については比較的理解できたが、過電流については余り理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をして下さい。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

【総合達成度】では、【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか、記入して下さい。

【授業計画の説明】【実施状況の記入】

【理解の度合い】【担当教員の実施状況を記入】

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【理解の度合い】【担当教員の実施状況を記入】

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【理解の度合い】【担当教員の実施状況を記入】

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【理解の度合い】【担当教員の実施状況を記入】

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【総合達成度】　総合評価の点数（　　）

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入して下さい。

〔出典：シラバス〕

（分析結果とその根拠理由）

学級担任会や学年別授業担当者会議を整備し，学生の学習取組状況等に関する情報交換会を行っている。また，平成 21 年度教員研修では学科ごとの教科内容等の検討会を行い，一般科目と専門科目の教科教育内容上の連携を図っており，一般科目と専門科目を担当する教員間の連携を機能的に行っている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

学級担任による学級活動の指導（資料２－２－③－１）や教員による課外活動の指導（資料２－２－③－２～３）が円滑に行えるように，学生指導部（一般科目及び各学科の教員で構成，主事を含めて５人体制）及び教務指導部（主事を含めて２人体制）がサポートしている（資料２－２－③－４）。また，「担任の手引」，「教員必携」及び「クラブ・同好会のしおり」の小冊子（資料２－２－③－５～７）も指導支援に役立っている。

そのほか，地域連携センターを中心として，平成 20 年度から地域産業コーディネーターを任用し，インターンシップ，県内企業の開拓，就職模擬面接指導等のキャリア支援（資料２－２－③－８），それを継続・包含する形で，平成 23 年度に設置したキャリア支援室（資料２－２－③－９）による特別活動の講演等（女子学生の進路のためのキャリア研修会を含む。）の企画（資料２－２－③－10～11），学生相談支援室による学生の悩み事相談（資料２－２－③－12～13）等，教員の教育活動支援を行っている。

観点２－２－③　資料一覧

資料２－２－③－１　特別活動計画

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－③－２　クラブ顧問

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－③－３　課外指導願（様式）

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－③－４　校務分担表

〔出典：総務課資料〕

資料２－２－③－５　担任の手引（表紙）

〔出典：担任の手引〕

資料２－２－③－６　教員必携（表紙）

〔出典：教員必携〕

資料２－２－③－７　クラブ・同好会のしおり（表紙）

〔出典：クラブ・同好会のしおり〕

資料２－２－③－８　地域産業コーディネーター活用プログラム

〔出典：地域連携センター資料〕

資料２－２－③－９　都城工業高等専門学校キャリア支援室規則

〔出典：規則集〕

資料２－２－③－10　キャリア支援室活動状況

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料２－２－③－11　キャリア支援室活動状況（主に、「女子学生の進路のためのキャリア研修会」について）

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料２－２－③－12　学生相談支援室

〔出典：学校要覧〕

資料２－２－③－13　カウンセリングの状況

〔出典：基礎データ集〕

資料２－２－③－１

特別活動計画

平成２４年度前期特別活動年間計画書

月	日	学科	第１学年	学科	第２学年	学科	第３学年	AVR部	多目的ホール	図書館	体育施設	実施回数
4	4	M	始業式、HR、対面式、試験	M	始業式、HR、対面式	M	始業式、HR、対面式					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	11	M	図書館オリエンテーション	M	クラスマッチ準備	M	特活計画立案・前期個人目標（計画書作成）					
		E	特別活動オリエンテーション	E	担任講話	E	特活計画立案			1M		
		C	担任指示、レクリエーション	C	特活の計画、担任の話	C	特活計画およびポートフォリオの					
		A	担任指導	A	昨年度の反省と本年度の目標	A	担任指示					
	18	M	クラスマッチの練習	M	担任講話	M	1)クラスマッチ準備　2)放射線について語る					
		E	担任講話Ⅰ（担任指示の場合有）	E	担任指示	E	担任指示			2A	1A（1）	
		C	担任指示、レクリエーション	C	クラスマッチの練習	C	クラスマッチの準備					
		A	体育館１	A	図書館	A	担任指示					
	20	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ				全クラス	
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	25	M	学生指導部［心の健康管理］	M	図書館	M	1)工場見学説明　2)学科開設の取組(4M先輩生交えて)	2E	1全	2M	2C（1）2A（2）	
		E		E	AVR	E	担任指示					
		C		C	体育館1	C	工場見学について					
		A		A	体育館2	A	担任指示					
5	9	M	ビデオ鑑賞	M	キャリア　教務指導部［OB・OGのDVD紹介］	M	体育館１	3C	2全	1E	3M（1）3E（2）	
		E	図書館オリエンテーション	E		E	体育館2					
		C	担任指示	C		C	高専卒業生の体験談　AVR					
		A	担任指導	A		A	担任指示					
	16	M	体育館１	M	AVR	M	キャリア　教務指導部［新聞の読み方（就職）］	2M	3全	1C	1M（1）1E（2）	
		E	体育館２	E	担任指示	E						
		C	図書館オリエンテーション	C	学科長講話	C						
		A	担任指導	A	グループ討論	A						
	23	M	学生指導部［交通安全教室］	M	2分間スピーチ(1)	M	学科開放話し合い（1）	2A	1全	2E	3C（1）3A（2）	
		E		E	図書館	E	担任指示					
		C		C	企業・大学を知ろう（調査編集１）	C	体育館１					
		A		A	AVR	A	体育館２					
	30	M	専攻科生の話	M	学生指導部［交通安全教室］	M	AVR	3M	2全	専攻科学力入試		
		E	担任講話Ⅱ	E		E	担任指示					
		C	担任指示	C		C	高専祭（学科開放）時年の取り組み紹介					
		A	担任指導	A		A	担任指示					
6	6	M	AVR	M	M科教員講話	M	学生指導部［交通安全教室］	1M	3全	1A		
		E	担任講話Ⅲ	E	担任指示	E						
		C	担任指示	C	企業・大学を知ろう(調査編集2)	C						
		A	図書館オリエンテーション	A	前期中間試験に向けて	A						
	13	M	前期中間試験	M	前期中間試験	M	前期中間試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	20	M	高専祭の話し合い	M	学生指導部［エイズ講習］	M	図書館	1E	2全	3M	1C（1）	
		E	AVR	E		E	担任指示					
		C	体育館１	C		C	講演：就職に関する経営者側の視点					
		A	前期中間試験の反省	A		A	担任指示					
	27	M	キャリア　教務指導部［学校の歴史］	M	体育館１	M	前期中間試験の反省と前期末個人目標（計画書作成）	3A	1全	3E	2M（1）2E（2）	
		E		E	体育館2	E	図書館					
		C		C	企業・大学を知ろう(発表1)	C	学科開放の計画立案					
		A		A	前期中間試験のまとめ	A	AVR					
7	4	M	高専祭の準備	M	2分間スピーチ（2）	M	キャリア支援室［企業情報の収集法］	1C	3全	2C		
		E	担任講話Ⅳ	E	担任指示	E						
		C	高専祭準備　AVR	C	図書館	C						
		A	高専祭準備	A	友達に薦める本1	A						
	11	M	高専大会壮行会	M	高専大会壮行会	M	高専大会壮行会				全クラス	
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
9	5	M	高専祭の準備	M	夏休み反省	M	学科開放話し合い（2）	3E		3C		
		E	専門学科等講話Ⅰ（担任指示の場合有）	E	担任指示	E	AVR					
		C	高専祭準備	C	企業・大学を知ろう（発表2）	C	図書館					
		A	高専祭の準備	A	友達に薦める本2	A	担任指示					
	12	M	高専祭の準備	M	キャリア支援室［地域から世界へ］	M	前期末試験準備	1A	2全	3A		
		E	専門学科等講話Ⅱ（担任指示の場合有）	E		E	担任指示					
		C	高専祭準備	C		C	高専祭（学科開放）の計画					
		A	AVR	A		A	図書館					
	26	M	前期末試験	M	前期末試験	M	前期末試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
10	3	M	学生指導部［特別講演］	M	前期の反省	M	前期の反省と後期へ向けて（個人目標（計画書作成））	2C	1全			
		E		E	担任指示	E	担任指示					
		C		C	AVR	C	高専祭の計画・準備					
		A		A	前期の反省とまとめ	A	担任指示					

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－③－２

クラブ顧問

平成24年度　学生会クラブ顧問

（クラブ名）

ロボット製作局	濱田 次男	高木 夏樹	永野 茂憲	御園 勝秀
体育部				
サッカー部	山本 剛	金澤 亮一	（森 寛）	杉本 弘文
弓道部	中村 孝至	清山 史朗		
剣道部	藤永 伸	白濱 正尋		
柔道部	野地 英樹	松崎 陽		
陸上競技部	永松 幸一	西村 徳行	田中 寿	福留 功博
硬式野球部	笹谷浩一郎	小冢 和人	高橋 勇二	小數 國夫
ソフトテニス部	原田志津男	若生 潤一		
ラグビー部	武田 誠司	友安 一夫	岡部 勇二	
バレーボール部	飯尾 高明	渡辺 光庸	山中 昇	向江 頼士
バスケットボール部	佐藤 浅次	望月 高明	野口 太郎	
卓球部	永野 孝	小森 雅和		
バドミントン部	臼井 昇太	藤森 崇夫		
水泳部	野町 俊文	濱田 英介		
ハンドボール部	赤木 洋二	高橋 利幸		
テニス部	後藤 勝彦	山下 敏明		
ボクシング部	板倉 和則			
女子バスケット部	田村 理恵	野口 大輔		
女子バレーボール部	岩熊美奈子	宮沢 幸	林田 義伸	
空手部	豊廣 利信			
文化部				
語学部	崎山 強			
吹奏楽部	中村 裕文	吉井 千周	小原 聡司	
情報処理部	中村 博文	樋渡 幸次		
低燃費車製作研究部	白岩 寛之			
ジャグリング部	土井猛志			
同好会				
美術同好会	高木 夏樹	林田 義伸		
天文研究会	野口 太郎			
演劇同好会	吉井 千周			
茶道同好会	林田 義伸	山中 昇		
ボランティア同好会	武田 誠司			
ゴルフ同好会	濱田 次男			
サブカルチャー研究同好会	中村 博文	吉井 千周	中村 裕文	
フットサル同好会	友安 一夫	杉本 弘文		
ダンス同好会	宮沢 幸			
中国文化同好会	松崎 陽			
フリーサイエンス同好会	岡部 勇二			
園芸同好会	友安 一夫			
エレクトロニクス同好会	田中 寿			
写真映像同好会	小塚 和人	若生 潤一	高木 夏樹	
ものづくり同好会	中村 孝至	杉本 弘文		
合唱同好会	吉井 千周			
アコースティックギター同好会	山下 敏明			
棋道同好会	小塚 和人			
スラムダンク同好会	宮沢 幸			
（指導部預かり）				
軽音楽同好会				
モータースポーツ同好会				
映画同好会				

上記のとおり平成24年度学生会クラブ顧問を命ずる。

平成24年4月1日

都城工業高等専門学校校長

三村洋史

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－③－３

課外指導願（様式）

校　長	学生主事	事務部長	学生課長	課長補佐	学生係長	学生係	総務課長	勤務時間管理員

課　外　指　導　願

平成　年　月　日

都城工業高等専門学校長　殿

下記により（引率・合宿・家庭訪問等）を実施したいので、ご承認方お願いいたします。

職名氏名	□教授　□准教授　□講師　□助教 印
課外活動 内　容	クラブ名　□練習指導　□合宿指導　□対外試合引率 部・同好会活動（　　）　□その他（　　）参加人数（　　名） その他の活動　□家庭訪問
用　務 （詳細に）	
試合結果 （練習試合を含む）	
期　間	自　平成　年　月　日（　）（　時　分～　時　分まで） 至　平成　年　月　日（　）（　時　分～　時　分まで）　日間
行　先 （詳細に）	家庭訪問の場合は学生の氏名（　年　学科　）
交通機関	□公用車　□ｽｸｰﾙﾊﾞｽ　□列　車　□ﾊ゛ｽ　□自家用車
備　考	該当するものに、☑をお願いします。また、変形労働カレンダー区分を記入願います。 1.□変形労働（変形労働カレンダー区分：　）のため、休日に指導 （①□休日の振替及び教員特殊業務手当　②□課外指導手当 ③□休日給(25/100)　④□休日給(135/100)） 2.□労働日に指導

＊交通機関等を利用の場合は、支出明細書を添付してください。

＊休日とは、土・日・祝日及び12/29～1/3までの日をいいます。

＊３主事については、教員特殊業務手当及び休日給は支給対象外です。

＊課外指導願は人事係へ提出願います。

〔出典：学生課資料〕

資料２－２－③－４

校務分担表

平成24年度校務分担表（平成24年4月1日現在）

主事 副校長	教務主事 H23.4.1～ H25.3.31	森茂龍一	教務主事補 H24.4.1～ H25.3.31	岩熊美奈子			
	学生主事 H23.4.1～ H25.3.31	河野行雄	学生主事補 H24.4.1～ H25.3.31	小森雅和	岡部勇二	中村孝至	吉井千周
	寮務主事 H24.4.1～ H26.3.31	森　寛	寮務主事補 H24.4.1～ H25.3.31	高木夏樹	白濵正尋	金澤亮一	藤永　伸

校長補佐（社会連携担当） H24.4.1～H25.3.31	濵田英介

専攻科長 H24.4.1～ H26.3.31	清山史朗	専攻主任 H24.4.1～ H25.3.31	機械電気工学専攻		物質工学専攻	建築学専攻
			永野茂憲	野地英樹	野口太郎	中村裕文

図書館長 H23.4.1～ H25.3.31	望月高明

電子計算機センター長 H23.4.1～H25.3.31	樋渡幸次	副センター長 H23.4.1～ H25.3.31	中村博文	ネットワーク管理者 H23.4.1～ H25.3.31	臼井昇太	センター員	上野純包

ネットワーク担当者 H24.4.1～H25.3.31	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目	専攻科	教務主事補
	高木夏樹	田中　寿	岡部勇二	中村裕文	吉井千周	野口太郎	岩熊美奈子

技術支援センター長	山内辰郎	ロボコン推進者 H24.4.1～ H25.3.31	永野茂憲	高木夏樹	濵田次男	御園勝秀	

地域連携センター長 H23.4.1～H25.3.31	濵田英介	副センター長 H24.4.1～ H25.3.31	野地英樹	センター員 H23.4.1～ H25.3.31	白岩寛之	野地英樹	野口大輔	山本　剛	若生潤一

学生相談支援室長 H23.4.1～H25.3.31	笹谷浩一郎	内部相談員 H24.4.1～ H25.3.31	永松幸一	補助相談員 （看護師）	森岡みどり

キャリア支援室長 H24.4.1～H25.3.31	土井猛志	副室長 H24.4.1～ H25.3.31	山本　剛	キャリア専門員 H24.4.1～ H25.3.31	赤木洋二	福留功博

学科長 H24.4.1～H25.3.31	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目文科	一般科目理科
	佐藤浅次	渡辺光庸	山下敏明	林田義伸	西村徳行	小塚和人

学級担任 H24.4.1～ H25.3.31	学科／学年	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科
	1年	宮沢　幸	友安一夫	若生潤一	武田誠司
	2年	飯尾高明	赤木洋二	松崎　賜	田村理恵
	3年	山中　昇	田中　寿	高橋利幸	後藤勝彦
	4年	高橋勇二	濵田次男	野口大輔	原田志津男
	5年	永野茂憲	御園勝秀	福留功博	小原聡司

進学説明会担当者 H24.4.1～H25.3.31	職指定	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目文科	一般科目理科
	教務主事 教務主事補	山中　昇	永野　孝	山下敏明	原田志津男	崎山　強	永松幸一

小中学校教育支援グループ H24.4.1～H25.3.31	職指定	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目文科	一般科目理科	技術支援センター
	地域連携センター長・同副センター長	土井猛志	赤木洋二	高橋利幸	中村裕文	森　寛		富山光照

〔出典：総務課資料〕

資料２－２－③－５

担任の手引（表紙）

担 任 の 手 引

都城工業高等専門学校

〔出典：担任の手引〕

資料２－２－③－６

教員必携（表紙）

教　員　必　携

（教務関係）

平成２４年４月

都城工業高等専門学校

〔出典：教員必携〕

資料２－２－③－７

クラブ・同好会のしおり（表紙）

教員用

平成２３年度

クラブ・同好会のしおり

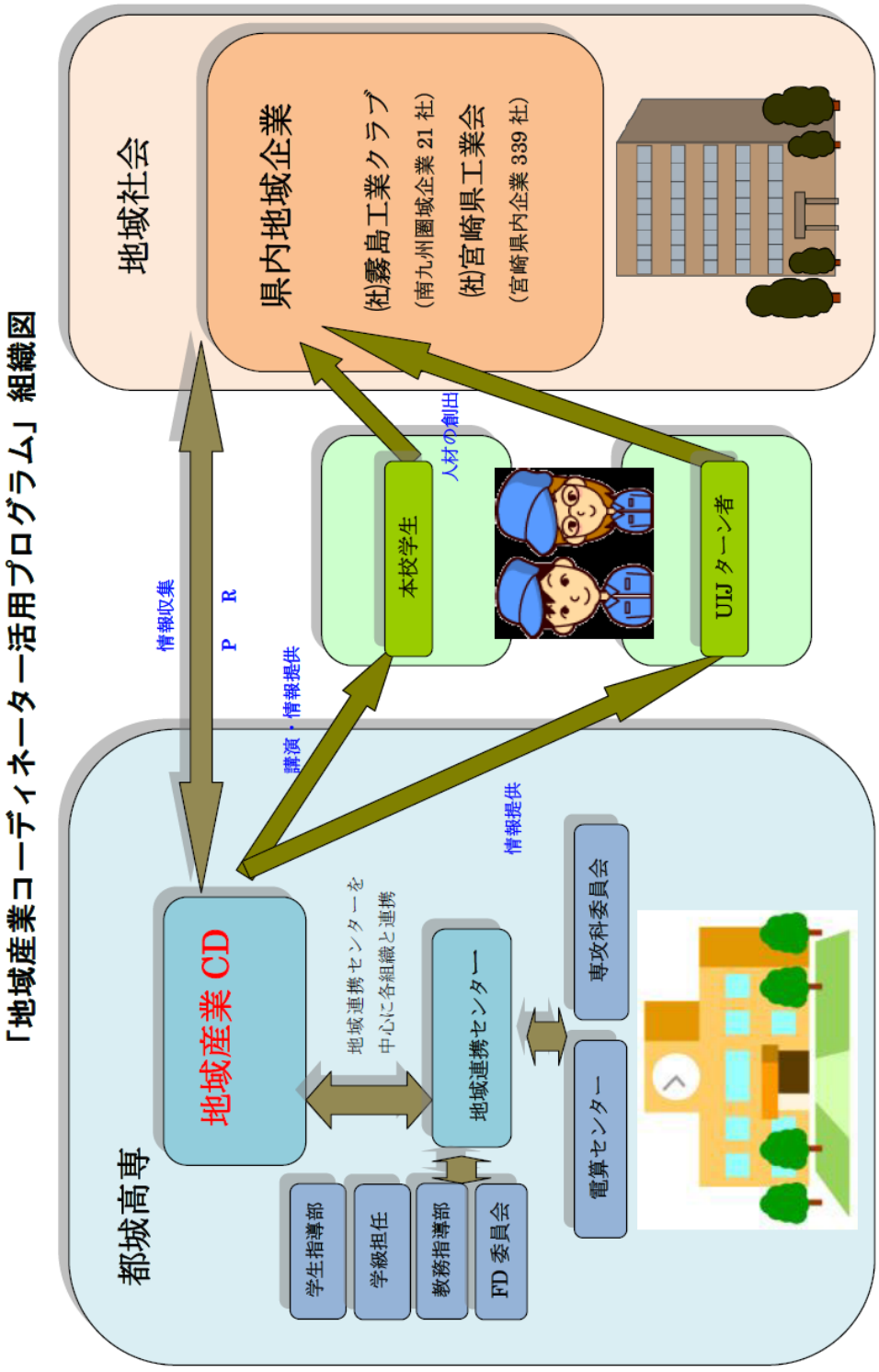


都　城　高　専

〔出典：クラブ・同好会のしおり〕

資料２－２－③－８

地域産業コーディネーター活用プログラム



〔出典：地域連携センター資料〕

資料２－２－③－９

都城工業高等専門学校キャリア支援室規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、低学年からのキャリア教育の推進を図り、学生に職業観・倫理観を育成するための支援を行うとともに、就職・進学活動、インターンシップ等に関する支援を行うことを目的として、都城工業高等専門学校キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（業務）

第２条　支援室においては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) キャリア教育の企画及び実施に関すること。

(2) 就職、進学ガイダンス等の企画及び実施に関すること。

(3) 就職及び進学に関する情報等の収集、管理及び提供に関すること。

(4) インターンシップに関すること。

(5) 進路相談に関すること。

(6) その他学生の進路支援に関すること。

（組織）

第３条　支援室に次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 室長

(2) 副室長

(3) キャリア専門員

(4) 地域産業コーディネーター

(5) その他校長が必要と認めた者

２　室長、副室長及びキャリア専門員は、本校の教員の中から校長が任命する。

３　地域産業コーディネーターは、キャリアに関する専門的知識及び経験を有する者に校長が委嘱する。

（任期）

第４条　室長、副室長及びキャリア専門員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　室長、副室長及びキャリア専門員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（任務）

第５条　室長は、支援室の業務を総括する。

２　副室長は、室長を補佐し、室長不在のときは、その職務を代理する。

３　キャリア専門員及び地域産業コーディネーターは、支援室の業務を処理する。

（支援室運営委員会）

第６条　支援室の円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校キャリア支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。

（事務）

第７条　支援室に関する事務は、学生課において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、支援室に関する必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料２－２－③－10

キャリア支援室活動状況

平成２３年度 第１３回 教育会議資料（キャリア支援室）

１．　キャリア支援室の今年度の取り組み

■　特別活動関連

（１） 学年別

各学年（1 年～3 年）毎に 1 回ずつ実施

演題　　：働くことの意義と楽しみ

講演者　：地域産業コーディネーター [redacted] 氏

◎アンケート結果（満足度%）

【1 年生】　平成 23 年 7 月 6 日実施

	M	E	C	A	全体
大いに満足	10.3	12.9	24.3	11.4	14.8
満足	61.5	54.8	56.8	74.3	62
普通	28.2	29	18.9	14.3	22.5
やや不満	0	3.2	0	0	0.7
不満	0	0	0	0	0

・普通まで含め、約 99%の学生が講演に満足している結果となった。

【2 年生】　平成 23 年 9 月 14 日実施

	M	E	C	A	全体
大いに満足	13.3	4.7	15.9	6.3	10
満足	31.1	41.9	43.2	27.1	35.6
普通	55.6	51.2	40.9	58.3	51.7
やや不満	0	0	0	2.1	0.6
不満	0	0	0	2.1	1.7

・普通まで含め、約 98%の学生が講演に満足している結果となった。

【3 年生】　平成 24 年 1 月 18 日実施

	M	E	C	A	全体
大いに満足	9.3	4.9	8.7	8.8	7.9
満足	30.2	29.3	32.6	47.1	34.1
普通	55.8	51.2	54.3	35.3	50
やや不満	2.3	7.3	0	2.9	3
不満	2.3	2.4	0	2.9	3

・普通まで含め、約 94%の学生が講演に満足している結果となった。

（２） 学科別

共通演題　　：『県内企業で働くこと、その魅力』

◎ 機械工学科 1～3 年生（平成 23 年 11 月 16 日実施）

講演者　：（株）ニチワ [redacted] 氏　　平成 19 年専攻科（ME）卒

アンケート結果（満足度%）

	1年	2 年	3 年	全体
大いに満足	11.4	20	4.8	12.2
満足	47.7	44.4	19	37.4
普通	38.6	33.3	69	46.6
やや不満	2.3	2.2	2.4	2.3
不満	0	0	4.8	1.5
未回答	0	0	0	0

・普通まで含め、約 96%の学生が講演に満足している結果となった。

◎ 電気情報工学科 1～3 年生（平成 23 年 11 月 30 日実施）

講演者 ：旭化成ケミカルズ（株） [redacted] 氏　 平成 17 年電気工学科卒

アンケート結果（満足度%）

	1年	2 年	3 年	全体
大いに満足	11.1	16.7	12.5	13.6
満足	69.4	45.2	45	52.5
普通	19.4	38.1	35	31.4
やや不満	0	0	2.5	0.8
不満	0	0	0	0
未回答	0	0	0	1.7

・普通まで含め、約 98%の学生が講演に満足している結果となった。

◎ 物質工学科 1～3 年生（平成 24 年 1 月 11 日実施）

講演者 ：太陽包装（株） [redacted] 氏　 平成 23 年物質工学科卒

アンケート結果（満足度%）

	1年	2 年	3 年	全体
大いに満足	14.3	30.2	26.1	23.7
満足	57.1	48.8	37	47.3
普通	28.6	18.6	37	28.2
やや不満	0	0	0	0
不満	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0.8

・普通まで含め、約 99%の学生が講演に満足している結果となった。

◎ 建築学科 1～3 年生（平成 24 年 2 月 1 日実施）

講演者 ：都北産業（株） [redacted] 氏　他 2 名　 平成 17 年建築学科卒

アンケート結果（満足度%）

	1年	2 年	3 年	全体
大いに満足	14.7	10.8	23.3	15.8
満足	38.2	51.4	60	49.5
普通	47.1	35.1	16.7	33.7
やや不満	0	2.7	0	1
不満	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0

・普通まで含め、約 99%の学生が講演に満足している結果となった。

■　特別講演

平成２３年度キャリア支援セミナー『建築学科ＯＧによる講演会』

① [redacted]「Ａ＆Ａ建築設計事務所（東京都）」　平成 6 年 3 月　建築学科卒業
② [redacted]「（株）シンケン（鹿児島市）」　平成 16 年 3 月 専攻科(建築学専攻)修了
③ [redacted]「東京ガス（株）（東京都）」　平成 16 年 3 月　建築学科卒業
④ [redacted]「礼設計事務所（宮崎市）」　昭和 52 年 3 月卒業　建築学科卒業

■　高学年生に対する教育・支援内容

（1）圏域内企業インターンシップ受入先の選定支援

（2）就職支援

・面接の練習や履歴書・エントリーシートの書き方などの指導

・圏域内企業就職希望者への情報提供や相談対応

・面談指導者　延べ 277 回

M	C	E	A	ME専	C専	A専	既卒者
21回	107回	1回	74回	11回	42回	7回	14回

（３）Ｕターン卒業生の就職支援
Ｕターンし、圏域企業に就職を希望する既卒者に対し、企業情報の提供や就職先の選定などの支援を行った。今年度は、計５名の面談を実施した。

■　進路指導等に関する情報交換会（旧進路指導委員会に相当）
（１）今年度の反省事項について
（２）４年担任へ引き継ぎについて

■　研修会【キャリア教育に関する九州沖縄地区高専・教職員研修会】（赤木先生）
日時　平成 24 年 3 月 23 日～24 日
場所　熊本高等専門学校　八代キャンパス

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料２－２－③－11

キャリア支援室活動状況（主に、「女子学生の進路のためのキャリア研修会」について）

平成２３年１０月１７日

平成２３年度 第６回 教育会議資料（キャリア支援室）

１．特別活動について

学年別に３回開催。「働くことの意義と楽しみ」という演題で講演を実施。

対　象	日　時	講　師（敬称略）	記
本科２年生	９月 14 日（水）	（コーディネーター）	実施済み

２．平成２３年度キャリア支援セミナー『建築学科ＯＧによる講演会』について

【講演会内容】

■開催日時　平成23年10月1日（土曜日）　13:30～16:00

■開催場所　都城工業高等専門学校 専攻科棟2F 多目的ホール

■対　象　都城高専建築学科女子学生（1年～5年）、専攻科建築学専攻女子学生、保護者、一般市民

■プログラム

１．開会のあいさつ

２．講師紹介（建築学科長）

３．講　演（講師敬称略）

１）「Ａ＆Ａ建築設計事務所（東京都）」
平成6年3月　建築学科卒業

２）「（株）シンケン（鹿児島市）」
平成16年3月 専攻科（建築学専攻）修了

３）「東京ガス（株）（東京都）」
平成16年3月　建築学科卒業

４）「礼設計事務所（宮崎市）」
昭和52年3月卒業　建築学科卒業

休　憩

４．　質疑応答およびフリーディスカッション

５．閉会のあいさつ

【講演会開催結果】

■ 参加者数

本校 Ａ科学生（専攻科含む）	54 名
他学科学生	2 名
本校 保護者	2 名
中学生	6 名
中学生保護者	7 名
その他	3 名
本校関係者（教職員）	12 名
計	86 名
講演者４名を含めると	90 名

■ アンケート結果

別紙参照

平成２３年１０月１７日

【講演会アンケート結果について】

アンケート回収数　75

１．性別

性別	人数
女	66
男	9

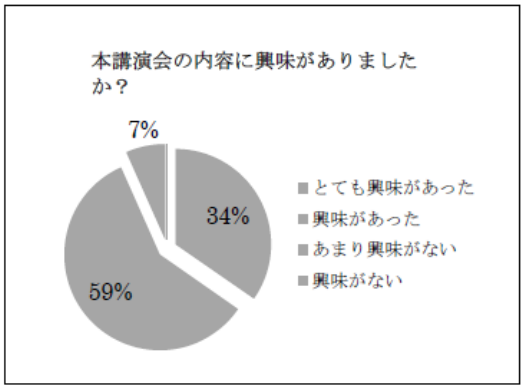
２．職業

	女	男	計
中学生	2	4	6
中学生保護者	4	1	5
高専生(A)	54	0	54
高専生(A以外)	2	0	2
高専生保護者	2	0	2
その他	1	1	2
中学校教諭	0	0	0
高専教職員	1	3	4
計	66	9	75

３．本講演会の内容に興味がありましたか？

① とても興味があった　② 興味があった　③ あまり興味がない　④ 興味がない

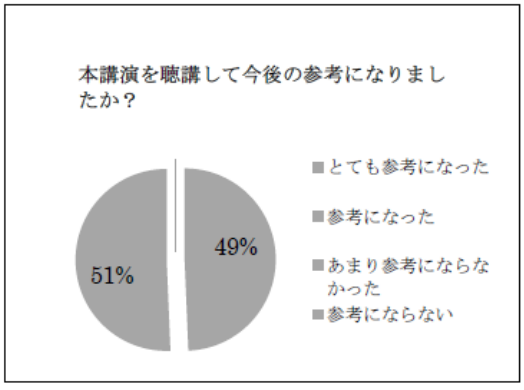
	①	②	③	④	計
中学生	1	5	0	0	6
中学生保護者	1	4	0	0	5
高専生(A)	18	31	5	0	54
高専生(A以外)	0	2	0	0	2
高専生保護者	2	0	0	0	2
その他	2	0	0	0	2
中学校教諭	0	0	0	0	0
高専教職員	2	2	0	0	4
計	26	44	5	0	75



４．本講演を聴講して今後の参考になりましたか？

① とても参考になった　② 参考になった　③ あまり参考にならなかった　④ 参考にならない

	①	②	③	④	計
中学生	1	5	0	0	6
中学生保護者	2	3	0	0	5
高専生(A)	27	27	0	0	54
高専生(A以外)	0	2	0	0	2
高専生保護者	2	0	0	0	2
その他	2	0	0	0	2
中学校教諭	0	0	0	0	0
高専教職員	3	1	0	0	4
計	37	38	0	0	75



平成２３年１０月１７日

５．４．で答えられたご回答に対する具体的な理由は何かお聞かせ下さい。（一部抜粋、編集）

■ 中学生

・今まで自分が知らなかったこともたくさん知ることができたから。

・建築の職業は、いろいろ大変だったり、全然違う内容だったりということが分かった。基礎を知っていたり、勉強をしたりしないと大変だということが分かった。

・就職した後、就職する前の学生時代のことを交えて話してもらえ、その時にどのようなことが大切だったかも話してもらえたから。高専の生徒であることが就職した後にどのように生かせるかが分かった。学生の時に自分のしたいことを決め、その決めた職についても、また新たにやりたいことが見つかること、その時の世の中の状況でどのようなことを考えることが大切かが分かった。

・今後の自分の生き方について考えるいい機会になったから。

・将来の計画を立てることで目標ができ頑張れることが分かったから。これからの生活を充実させるには勉強をして努力することが大切なことが分かったから。

■ 中学生保護者

・受験をひかえ、高専のこの科へ行きたいと急に言い出したため、地区説明会があった際、このような講演会があるとのことで鹿屋より参加しました。本人が何か感じてくれたらと願います。キャリアの話はとても参考に私はなったと思います。貴重なお話ありがとうございました。

・自分のキャリアを積むためには社会に出てからの勉強が大切であることを学んだ。私も、まだまだ前向きに勉強していきたいと思えた。外への目の向け方を教えて頂いたので参考にしたい。

・高専の建築学科を出てから現在に至るまでの道のり。どんな仕事に就いても女性として生かせる仕事、やりがいのある仕事ができると思いました。人として大事な所などアドバイス頂き参考になりました。

■ 本校学生

・自分は、二級建築士になることは決めていますが、どこに就職するか、どんな仕事をしたいのか決めていません。４人の方の話を聞いて、自分の将来を考えるきっかけとなったからです。

・高専の建築学科を卒業して、具体的にどんな仕事をしているのか知ることができたから。

・将来のことなど、ほとんど考えていなかったけど、今回の話を聞いて興味がわいてきたから。

・今の仕事での実態を生で聞けたこと。（女性であることの良い点や、高専（卒業生）の良い点など）

・興味は最初はなかったけれど、話を聞いてみて、今夢が無い私にはとても参考になりました。

・以前から今回のような講演があれば参加したいと思っていたからです。女性の目線からみた講演会が今まで無かったので今回の話はとても参考になりました。

・設計事務所を開いている方や、出産をされた方など、色々な方がいたり、どういうふうにして今の仕事をしているのかなども知ることができ参考になりました。

・いつもは男女合同の講演会で、ほとんど男性目線（業務・プライベート）の話しか聞けていなかったので、今回の講演で女性的な視線で話を聞くことができたのが良かった。特に出産からの復帰など参考になった。

・将来の道が増えたと思った。自分の興味のないと思っていた職種にも興味を持った。

・部活も終わって、進学先も決まって目標を見失っていたときなので、こういう機会があって良かった。

・主に建築学科を対象とする講演でしたが、分野は直結していなくても今すべきこと、大切にすることや就職後の取るべき行動など新しく気付くことが多くありました。

■ 高専生保護者

・就職の厳しい建築関係で、ＯＧによるこの機会での講話は、親にとってもどんな資格を取っていた方が良いか参考になりました。やる気がないといけないというのが分かりました。不安な気持ちが解消された気がします。ありがとうございました。

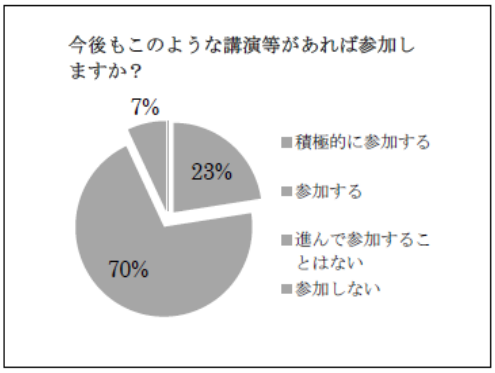
・女性の生の声が聞けて良かったです。人生につきものの結婚・出産はマイナスのイメージがありましたが、それもまた”ひとつの強み”と思って、これからの進路にがんがん突き進んでほしいです。

平成２３年１０月１７日

６．今後もこのような講演等があれば参加しますか？

① 積極的に参加する　② 参加する　③ 進んで参加することはない　④ 参加しない

	①	②	③	④	計
中学生	0	4	0	0	4
中学生保護者	2	3	0	0	5
高専生(A)	12	36	5	0	53
高専生(A以外)	0	2	0	0	2
高専生保護者	2	0	0	0	2
その他	0	2	0	0	2
中学校教諭	0	0	0	0	0
高専教職員	0	3	0	0	3
計	16	50	5	0	71



７．今後もキャリア（進路・資格・就職など）支援に関する講演会が開催される場合、どのような内容を希望しますか？

■ 中学生

・高専生で就職した際の人間関係、資格を取ることで就職する際、就職した後にどのような利点があるか。
・卒業するまでの学生生活の様子。就職先や進学の決め方。

■ 中学生保護者

・ＯＢによる進路講演会
・本日の内容で充分満足しました。ケースバイケースで沢山の方の今までの経験話を聞きたい
・卒業してからの資格や就職先での仕事の内容など、どのようにして、どんな考えを持ってやってきたか、アドバイスなどあれば参考にしますし、今後の夢も広がると思います。

■ 本校学生

・一級建築士や構造設計一級建築士に関すること
・資格について
・建築デザイン関係、インテリアコーディネーターなどすごく専門的な分野の方の話
・大学編入について
・学科とはあまり関係のない仕事に就いた人の話も聞きたいです。
・入社一年目の人の話も聞きたい。
・女性で大手ゼネコンに就職した方や海外留学した方の話が聞きたいです。
・施工管理の人の話も聞きたい。
・専門の資格、漢検・英検、TOEIC等の持っていた方が良いもの、持っていればどのようにいいのか、取得までにするべきこと等

８．その他【ご意見・ご要望等】

■ 中学生

・建築は社会に取ってとても重要なものですごいなと思いました。ますます建築に興味を持ちました。建築について勉強したくなりました。将来について考えさせられました。ありがとうございました。

■ 中学生保護者

・このような講演会に来れて良かったです。ありがとうございました。

■ 本校学生

・休憩をもう少し取って欲しい。一人一人の話の間に３分でもいいから休憩が無いと集中力が続きません！！
・すごく面白かったし、今後の参考になりました。

■ 高専生保護者

・これまでも日頃、娘と進路について考えていましたが、今日の話を参考にできますし、帰りの車の中で娘がどんな事を話し出すか楽しみです。

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料２－２－③－12

学生相談支援室

学生相談支援室 Student Counseling Room

学生相談支援室は、平成 12 年 4 月に設置されました。室長１名、内部相談員１名、看護師１名、外部カウンセラー（非常勤）３名で運営されています。本支援室では、学生の声に耳を傾け、悩みを共有し、学生が有意義な学校生活を送るためのサポートを提供することを使命としています。

第１相談室では、人間関係、性格、健康など、おもに学生生活に関する相談、第２相談室では、進路、勉学、就職活動のための面接指導など、おもに教務に関する相談についての支援を行っています。

相談日

内部相談員（室長、内部相談員、看護師）は、随時、学生及び保護者からの相談を受け付けています。カウンセラー及び外部相談員は、週１回の相談日を設けています。相談日は、毎月、各教室に掲示しています。授業中にカウンセリングを受ける場合は、授業を出席扱いにしています。

Student Counseling Room was established in April, 2000. The staff consists of two full-time teachers, one nurse and three part-time counselors. To realize our motto "For Your Fruitful Campus Life", we are willing to listen to students' voices, share their concerns, and offer appropriate advice. We do our best to help students have harmonious relationships on campus.

Counseling Room 1 is mainly used to counsel students with personal problems, while Room 2 is used for those with educational issues.

Full-time members are on hand every day to meet any student or parent with issues. Part-time members are available one day a week according to the monthly schedule. When a student needs to take counseling in classes, he/she is counted as present in the class.

〔出典：学校要覧〕

資料２－２－③－13

カウンセリングの状況

２３　カウンセリングの状況

年度		対人関係	性　格	学　業	進　路	寮	恋　愛	家庭問題	健康相談	登校拒否	その他	計
14	男	14	17	12	19	2	3	8	2	0	38	176
	女	7	12	4	9	0	8	3	2	0	16	
15	男	5	3	19	7	1	3	0	0	1	19	121
	女	4	3	9	12	0	5	6	1	2	21	
16	男	2	8	0	11	0	1	1	7	0	44	155
	女	8	3	4	11	0	5	7	5	0	38	
17	男	6	11	7	10	4	5	2	3	0	47	214
	女	4	14	18	12	1	5	9	7	0	49	
18	男	5	0	3	7	0	4	7	1	0	22	134
	女	10	4	4	13	2	6	16	2	1	27	
19	男	15	14	16	15	3	2	22	10	1	44	318
	女	20	16	10	33	7	6	27	7	2	48	
20	男	8	7	7	7	0	0	2	7	3	41	218
	女	24	15	22	12	5	6	9	7	2	34	
21	男	8	7	10	13	0	0	5	1	0	48	255
	女	26	16	14	17	3	10	22	6	3	46	
22	男	30	19	18	11	3	6	15	8	8	95	350
	女	18	13	23	11	0	7	11	3	7	44	
23	男	15	13	11	10	4	1	9	1	6	71	300
	女	23	15	22	10	9	7	18	4	5	46	

＊　表中の統計数字は、カウンセラー(外部委嘱)対応分のみを示す。

＊　数値は受診項目ごとの実人員であるが、同一人による複数受診もあり得る。

＊　平成12年度より、学生相談室1（心理カウンセラー）と相談室2（進学・学業に対する外部相談員）の合計数。

＊　平成15年度より、学生相談室1（学生対象の心理カウンセラー）・2（主に学生対象で進学・学業に対する外部相談員）・3（教職員・保護者対象の心理カウンセラー）の合計数。

〔出典：基礎データ集〕

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の支援体制として，学級担任による学級活動の指導や教員による課外活動の指導が円滑に行えるように，学生指導部及び教務指導部がサポートしている。また，「担任の手引」，「教員必携」及び「クラブ・同好会のしおり」の小冊子も指導支援に役立っている。そのほか，キャリア支援室によるキャリア教育支援，学生相談支援室による学生の悩み事相談等，教員の教育活動支援体制が機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

地域連携センターを中心として，平成20年度から地域産業コーディネーターを任用して行ったインターンシップ，県内企業の開拓，就職模擬面接指導等のキャリア支援，それを継続・包含する形で，平成23年度に設置したキャリア支援室による特別活動の講演の企画等，低学年生から高学年生までの系統的かつ総合的なキャリア教育・支援を行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程は，中学卒業生を対象に５年一貫教育により実社会で役立つ実践的技術者を育成することを教育理念とし，機械工学，電気情報工学，物質工学及び建築学分野の４学科で構成している。各学科の教育の目的を基に，社会のニーズに適合させるために，電気情報工学科は平成19年度に電気工学科から電気情報工学科へ名称変更し，物質工学科は４年次から物質工学コースと生物工学コースの２コース制をとり，建築学科は建築学科入学志願者激減対策として平成23年度に建築学科入学志願者増検討ワーキンググループを設置する等，対応している。専攻科課程は，高度な専門知識と技術を有機的に結合できる研究開発型技術者を育成することを目的として，準学士課程の学科構成と整合する機械電気工学専攻，物質工学専攻及び建築学専攻の３専攻で構成しており，本科及び専攻科とも教育の目的を達成する上で適切な学科構成となっている。

電子計算機センターは，本科及び専攻科学生の情報処理教育，英語教育，卒業研究，専攻科特別研究，課外活動等，全学科共通施設として規模及び内容とも十分で，多くの学生が利用しており，技術支援センターは，実験実習，卒業研究，専攻科特別研究，課外活動及び教員研究を支援する上で適切な技術職員構成と部門構成になっている。また，地域連携センターは，教職員及び学生と社会・地域企業との橋渡し的役割を担っている。よって，３センターとも，その活用を十分に行っており，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として，教育課程全体を企画調整するために，教務委員会，専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会を設置し，さらに，これらの委員会の下に，それぞれ学年別授業担当者会議，専攻科授業担当者会議及び学科教育点検班を設けており，適切に機能している。

相互に関連を持つ一般科目及び専門科目の教員間の連携に関しては，学級担任会や学年別授業担当者会議を整備し，適切に機能している。また，平成21年度教員研修では学科ごとの教科内容

等の検討会を行い，一般科目と専門科目の教科教育内容上の連携を図った。

教育活動の支援体制としては学生指導部及び教務指導部があり，そのほか，キャリア支援室による特別活動の講演等の企画，インターンシップ，県内企業の開拓，就職模擬面接指導等や学生相談支援室による学生の悩み事相談等，教員の教育活動を支援する体制が機能している。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

一般科目では，本校の学習・教育目標のうち，目標(３)「世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成」と目標(４)「自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み，継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成」を中心にカリキュラム編成を行っている（資料３－１－①－１）。例えば，目標(３)に関連する科目として英語，ドイツ語等の語学に関する科目，世界史，倫理，法学等の社会科学に関する科目が，これに該当する。また，目標(４)に関連する科目として保健体育，特別活動等があげられる。これらを担当する教員は，各科目において高い専門性を有している（資料３－１－①－２～３）。また，目標(３)の達成のため，英語科ではネイティブスピーカーを非常勤講師として採用している。

一般科目を担当する専任教員は20人で構成され，高等専門学校設置基準第６条で必要とされる専任教員数18人を満たしている。

観点３－１－①　資料一覧

資料３－１－①－１　教育課程表（一般科目）

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－①－２　教員と担当科目（一般科目）

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－①－３　研究者総覧（目次）

〔出典：ホームページ〕

資料３－１－①－１

教育課程表（一般科目）

教育課程 Curriculum

一般科目 General Education

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	国語 Japanese	9	3	2	2	2		
	総合社会Ⅰ Social Science Ⅰ	2	2					
	総合社会Ⅱ Social Science Ⅱ	2		2				
	総合社会Ⅲ Social ScienceⅢ	2			2			
	基礎数学Ⅰ Fundamental Mathematics Ⅰ	4	4					
	基礎数学Ⅱ Fundamental Mathematics Ⅱ	2	2					
	微分積分学Ⅰ Differential and Integral Calculus Ⅰ	4		4				
	代数学 Algebra	2		2				
	微分積分学Ⅱ Differential and Integral Calculus Ⅱ	4			4			
	数学特論 Special Lectures on Mathematics	2			2			
	物理 Physics	5	2	3				
	科学Ⅰ（化学） science Ⅰ （Chemistry）	4	4					
	科学Ⅱ Science Ⅱ	MECA2	C2	MEA2				
	保健体育 Health and Physical Education	10	3	2	2	2	1	
	英語 English	13	3	3	3	2	2	
	オーラル英語 Oral Communication	2	2					
	英作文 English Composition	1	1					
	英文法 English Grammar	2		2				
	英会話 English Conversation	2		1	1			
	情報基礎Ⅰ Information Basics Ⅰ	2	2					
履修単位小計 Sub-Total of Credits Completed		76	MEA28・C30	MEA23・C21	16	6	3	
選択科目 Elective Subjects	美術 Arts	1	1					いずれかを選択
	音楽 Music	1	1					
	英語 English	2				2		いずれかを選択
	ドイツ語 German	2				2		
	法学 Law	2				2		いずれかを選択
	歴史学概論 Introduction to History	2				2		
	社会学 Sociology	2				2		
	国際文化論Ⅰ Cross-Cultural Study Ⅰ	2					2	いずれかを選択
	国際文化論Ⅱ Cross-Cultural Study Ⅱ	2					2	
	哲学 Philosophy	2					2	
	産業財産権法 Industrial Property Law	2					2	
開設単位小計 Sub-Total of Credits Offered		20	2			10	8	
履修単位小計 Sub-Total of Credits Completed		7	1			4	2	
履修単位合計 Total of Credits Completed		83	MEA29・C31	MEA23・C21	16	10	5	
特別活動 Special Curricular Activities		合計授業時数 hours 144	学年別年間授業時数 Number of hours by Grades					
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd			
			48hrs	48hrs	48hrs			

（注）M：機械工学科　E：電気情報工学科　C：物質工学科　A：建築学科

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－①－２

教員と担当科目（一般科目）

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

	氏名 Name	職名 Title	担当科目 Subject	備考 Notes
人文社会	望月 高明 Komei Mochizuki	教授 Prof.	国語・（専攻科）中国古典学 Japanese, Chinese Classics	図書館長 Director of the Library
	松崎 賜 Tamao Matsuzaki	教授 Prof.	国語・（専攻科）文章表現法 Japanese, Japanese Writing	２C 学級担任 ２C Classroom teacher
	藤永 伸 Shin Fjinaga	教授 博士(文学) Prof. (Ph.D.)	総合社会 III・社会学・哲学・（専攻科）倫理学 Social Studies III, Sociology, Philosophy, Ethics	寮務主事補 Vice-Dean of Dor. Affairs
	吉井 千周 Senshu Yoshii	講師 Ast. Prof.	総合社会 I・法学・産業財産権法・（専攻科）知的財産権 Social Studies I, Jurisprudence, Industrial Property Law, Intellectual Property Law	学生主事補 Vice-Dean of St. Affairs
	田村 理恵 Rie Tamura	准教授 Ass. Prof.	総合社会 II・国際文化論 II・歴史学概論・（専攻科）歴史学 Social Studies II, Cross-Cultural Study II, Introduction to History, History	２A 学級担任 ２A Classroom teacher
外国語	崎山 強 Tsuyoshi Sakiyama	教授 Prof.	英語・（専攻科）総合英語・実用英語 English, General English, Practical English	
	西村 徳行 Noriyuki Nishimura	教授 Prof.	英語・英文法・オーラル英語 English , English Grammar, Oral English	一般科目文科長 Chief of the Department
	飯尾 高明 Takaaki Iio	准教授 Ass. Prof.	英語・英文法・ドイツ語・国際文化論 I English, English Grammar, German, Cross-Cultural Study I	２M 学級担任 ２M Classroom teacher
	笹谷 浩一郎 Koichiro Sasatani	准教授 Ass. Prof.	英語 English	学生相談支援室長 Director of student Counseling Room
	宮沢 幸 Sachi Miyazawa	准教授 Ass. Prof.	英語 English	１M 学級担任 １M Classroom teacher
自然	野町 俊文 Toshifumi Nomachi	教授 博士(理学) Prof. (Dr. of Sci.)	基礎数学 II・数学特論・応用数学・（専攻科）統計学特論 Fundamental Mathematics II, Mathematical Particular Theory, Applied Mathematics , Particular Statistics	
	小塚 和人 Kazuhito Kozuka	教授 理学博士 Prof. (Dr. of Sci.)	基礎数学 II・微分積分学 II・応用数学・（専攻科）線形数学 Fundamental Mathematics II, Differential and Integral II, Applied Mathematics , Linear Mathematics	一般科目理科長 Chief of the Department
	黒木 藤夫 Fujio Kuroki	嘱託准教授 Ass. Prof.	微分積分学 I・代数学 Differential and Integral I , Algebra	
	友安 一夫 Kazuo Tomoyasu	准教授 博士(理学) Ass.Prof. (Dr. of Sci.)	基礎数学 I・基礎数学 II・微分方程式・（専攻科）解析学特論 Fundamental Mathematics I , Fundamental Mathematics II, Differential Equation, Special Theory of Analysis	１E 学級担任 １E Classroom teacher
	向江 頼士 Raiji Mukae	講師 博士(学術) Ast. Prof. (Ph.D.)	基礎数学 I・微分積分学 I・微分積分学 II Fundamental Mathematics I , Differential and Integral I , Differential and Integral II	
	森茂 龍一 Ryuichi Morimo	教授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	物理・応用物理・（専攻科）応用物理特論 Physics, Applied Physics, Special Lecture of Applied Physics	教務主事 Vice-president Dean of Ed. Affairs
	若生 潤一 Junichi Wakou	准教授 博士(理学) Ass. Prof. (Dr. of Sci.)	物理・応用物理・（専攻科）一般力学 Physics, Applied Physics, Mechanics	１C 学級担任 １C Classroom teacher
	森 寛 Hiroshi Mori	教授 Prof.	科学 I・（専攻科）一般化学 Science I , General Chemistry	寮務主事 Dean of Dor. Affairs
武田 誠司 Seiji Takeda		准教授 博士(体育学) Ass. Prof. (Ph.D.)	保健体育 Health and Physical Education	１A 学級担任 １A Classroom teacher
永松 幸一 Kouichi Nagamatsu		准教授 Ass. Prof.	保健体育 Health and Physical Education	学生相談員 Student Counseling Room
中村 博文 Hirofumi Nakamura		教授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	情報基礎 I・情報基礎 II・（専攻科）応用情報工学 Information Basics I , Information Basics II , Applied Information Engineering	電子計算機センター 副センター長 Vice-Director of Computer Center

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

●非常勤講師　Part-Time Lecturer

学科 Department	氏名 Name	担当科目 Subject	備考 Notes
一般科目 文科 General Education (Humanities)	内田 涼子 Ryoko Uchida	国語 Japanese	
	山之内 文次 Bunji Yamanouchi	英作文・英文法 English Composition, English Grammar	
	満木 攻一 Koichi Mitsuki	美術 Fine Art	
	今村 祐子 Yuko Imamura	音楽 Music	
	田中 利砂子 Risako Tanaka	日本語 Japanese	
	ﾀﾞﾝｶﾝ ﾊﾞｯﾄﾗﾝﾄﾞ Duncan Butland	英会話 English Conversation	
一般科目 理科 General Education (Sciences)	肥後 昭治 Syoji Higo	基礎数学Ⅰ・基礎数学Ⅱ・微分積分学Ⅱ・数学特論 Fundamental Mathematics Ⅰ, Fundamental Mathematics Ⅱ, Differential and Integral Calculus Ⅱ, Mathematical Particular Theory	
	上之園 勝 Masaru Uenosono	代数学・微分積分学Ⅰ Algebra, Differential and Integral Calculus Ⅰ	
	田原 良信 Yoshinobu Tahara	物理 Physics	
	中﨑 忍 Shinobu Nakazaki	物理 Physics	
	山下 宗邦 Munekuni Yamashita	科学Ⅱ Science Ⅱ	
	松元 博子 Hiroko Matsumoto	保健体育 Health and Physical Education	
	瓜田 吉久 Yoshihisa Urita	保健体育 Health and Physical Education	鹿屋体育大学教授 N.I.F.S. in Kanoya
	下野 勉 Tsutomu Shimono	保健体育 Health and Physical Education	
	根上 優 Masaru Negami	保健体育 Health and Physical Education	宮崎大学教授 Miyazaki Univ.
	古藤 総一郎 Soichiro Koto	情報基礎Ⅱ Information Basics Ⅱ	
機械工学科 Mechanical Engineering	藤元 嘉安 Yoshiyasu Fujimoto	設計製図・材料力学 Design and Drawing, Strength of Materials	宮崎大学教授 Miyazaki Univ.
	岡部 匡 Tadashi Okabe	機構学 Theory of Mechanism	宮崎大学教授 Miyazaki Univ.
	山路 哲平 Teppei Yamaji	技術者倫理概論・生産工学 Introduction to Ethics for Engineer, Production Engineering	
	剣田 貫治 Kanji Tsurugida	電気工学概論 Introduction to Electrical Engineering	
	長瀬 慶紀 Yoshinori Nagase	熱機関・伝熱工学 Heat Engine, Engineering Heat Transfer	宮崎大学准教授 Miyazaki Univ.
	中澤 隆雄 Takao Nakazawa	材料力学・強度解析学 Strength of Materials, Strength Analysis	
電気情報工学科 Electrical and Computer Engineering	松本 寛樹 Hiroki Matsumoto	計測工学 Measurement Technology	宮崎大学准教授 Miyazaki Univ.
	金子 正光 Tadamitsu Kaneko	高電圧工学 High Voltage Engineering	宮崎公立大学教授 Miyazaki Municipal Univ.
	橋本 修輔 Shusuke Hashimoto	制御工学 Control System Engineering	
	井手口 満生 Mitsuo Ideguchi	法規及び施設管理 Law & Regulation on Electric Facilities	
	剣田 貫治 Kanzi Tsurugida	電気回路 Electric Circuits	
物質工学科 Chemical Science and Engineering	塩盛 弘一郎 Koichiro Shiomori	分離工学・安全工学 Separation Engineering, Safety Engineering	宮崎大学准教授 Miyazaki Univ.
	那須 真寿美 Masumi Nasu	情報処理 Information Processing	
	持永 良一 Ryoichi Mochinaga	計測制御工学 Measurement and Control Engineering	
	大坪 昌久 Masahisa Otsubo	電気工学基礎 Fundamentals of Electrical Engineering	
建築学科 Architecture	中島 喜一郎 Kiichiro Nakashima	建築法規 Building Law	
	平川 晃 Akira Hirakawa	建築設備 Building Equipment	
	岩佐 貢 Mitsugu Iwasa	建築経済 Building Economics	
	飯村 豊 Yutaka Iimura	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	宇都 博徳 Hironori Uto	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	柴 睦巳 Mutsumi Shiba	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	瀬川 洋一郎 Yoichiro Segawa	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	筒井 一雄 Kazuo Tsutsui	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	蒲牟田 健作 Kensaku Kamamuta	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	平田 光春 Mitsuharu Hirata	構造力学・RC 構造学・RC 構造演習 Structural Mechanics, RC Construction, Exercises in RC Construction	
専攻科 Advanced Courses	下津 義博 Yoshihiro Shimotsu	技術者倫理 Engineering Ethics	
	藤原 稔 Minoru Fujiwara	技術者倫理 Engineering Ethics	
	山路 哲平 Teppei Yamaji	技術者倫理 Engineering Ethics	
	岡崎 礼子 Reiko Okazaki	構造設計演習 Structural Design Exercises	

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－①－３

研究者総覧（目次）

研究者総覧目次 | 都城高専紀要目次 | 学外発表論文等リスト | 中学校への出前実験・授業

所属・職名・五十音 更新日：2012.5.8

学 科	職名	氏 名 (研究者総覧へリンク)	学 位	個人の HP
機械工学科	教授	河野 行雄	博士（工学）	
		小薮 國夫	工学博士	
		佐藤 浅次	博士（工学）	
		豊廣 利信	博士（工学）	
		山中 昇	博士（工学）	
	准教授	高橋 勇二	博士（工学）	
		土井 猛志	博士（工学）	
		永野 茂憲	博士（工学）	
	助教	白岩 寛之	博士（工学）	
		高木 夏樹	博士（工学）	
電気情報工学科	教授	濱田 次男	博士（工学）	
		御園 勝秀	博士（工学）	
		渡辺 光庸	博士（工学）	
	准教授	赤木 洋二	博士（工学）	
		小森 雅和	博士（工学）	
		白濱 正尋	修士（工学）	
		田中 寿	博士（工学）	
		永野 孝	博士（工学）	
		野地 英樹	博士（工学）	
		樋渡 幸次		
	助教	臼井 昇太	博士（工学）	
物質工学科	教授	清山 史朗	博士（工学）	●
		濱田 英介	農学博士	●
		山下 敏明	博士（工学）	●
	准教授	岩熊 美奈子	博士（工学）	●
		岡部 勇二	博士（薬学）	
		金澤 亮一	博士（工学）	
		野口 大輔	博士（工学）	●
		福留 功博		●
	講師	高橋 利幸	博士（理学）	
	助教	野口 太郎	博士（理学）	
		藤森 崇夫	博士（理学）	

建築学科	教授	板倉 和則	博士（工学）	
		小原 聡司	博士（工学）	
		林田 義伸	博士（工学）	●
		原田 志津男	博士（工学）	●
	嘱託教授	樋口 栄作	博士（工学）	
	准教授	後藤 勝彦	博士（工学）	
		中村 孝至	工学修士	
		中村 裕文	工学修士	
		山本 剛	修士（工学）	
	助教	杉本 弘文	博士（工学）	
一般科目文科	教授	崎山 強		
		西村 徳行		
		藤永 伸	博士（文学）	
		松崎 賜	文学修士	
		望月 高明	文学修士	
	准教授	飯尾 高明	文学修士	
		笹谷 浩一郎		
		田村 理恵	修士（比較社会文化）	
		宮沢 幸	修士（文学）	
	講師	吉井 千周	修士（政策・メディア学）	●
一般科目理科	教授	小塚 和人	理学博士	
		中村 博文	博士（工学）	
		野町 俊文	博士（理学）	
		森 寛	工学修士	
		森茂 龍一	博士（工学）	
	准教授	武田 誠司	博士（体育学）	
		友安 一夫	博士（理学）	●
		永松 幸一	修士（体育学）	
		若生 潤一	博士（理学）	
	嘱託准教授	黒木 藤夫	理学士	
	講師	向江 頼士	博士（学術）	

〔出典：ホームページ〕

（分析結果とその根拠理由）

一般科目は，本校の学習・教育目標のうち，目標(３)及び(４)を中心にカリキュラム編成を行い，これらを担当する一般科目教員は，各科目において高度な専門性を有している。また，目標(３)を達成するためにネイティブスピーカーや海外留学経験者，世界の歴史・文化に精通した教員を積極的に配置している。したがって，一般科目担当教員を適切に配置している。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専門科目は，機械工学科，電気情報工学科，物質工学科及び建築学科の各学科において，実践的技術者に必要な基礎専門科目及び専門科目から構成されている。専門科目では目標(１)「あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成」及び目標(２)「科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し，新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成」を中心としたカリキュラム編成を行っている（資料３－１－②－１）。例えば，目標(１)に関する科目として，機械工学科の「創造設計」，電気情報工学科の「電気電子情報設計」，物質工学科の「物質・生物工学演習」，建築学科の「建築設計演習」等が該当する。目標(２)に関する科目としては各専門学科のほぼ全ての科目が該当する。さらに，目標(１)～(４)全てを網羅する科目として，全学科に卒業研究が義務づけられている。これらを担当する教員は，非常勤講師を含め，各担当分野で高い専門性を有し，各専門分野で研究活動を行っている（資料３－１－②－２，前述資料３－１－①－３）。

専門科目を担当する専任教員は41人で構成され，高等専門学校設置基準で必要とされる専任教員数29人を満たしている。専門科目を担当する専任の教授及び准教授は合計34人であり，高等専門学校設置基準上必要な一般科目を担当する専任教員数20人と専門科目を担当する専任教員数41人の合計61人の２分の１の31人を上回っており，高等専門学校設置基準第８条を満たしている。

観点３－１－②　資料一覧

資料３－１－②－１　教育課程表（専門科目）

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－②－２　教員と担当科目（専門科目）

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－②－１

教育課程表（専門科目）

●機械工学科　Mechanical Engineering

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation	2				2		
	応用数学 Applied Mathematics	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	情報基礎Ⅱ Information Basics Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅰ Information Processing Ⅰ	1			1			
	情報処理Ⅱ Information Processing Ⅱ	2				2		
	材料力学 Strength of Materials	5			2	2	1	
	材料学Ⅰ Engineering Materials Ⅰ	3		1	2			
	材料学Ⅱ Engineering Materials Ⅱ	1				1		
	熱力学 Thermodynamics	2				2		
	水力学 Hydraulics	2				2		
	機械工作法 Manufacturing Process	4		2	2			
	機械設計法 Machine Design	3				2	1	
	設計製図 Design and Drawing	8	2	2	2		2	
	創造設計 Creative Design	4				4		
	図　学 Descriptive Geometry	1		1				
	工学実験 Experiments in Mechanical Engineering	4				2	2	
	基礎実験 Fundamental Experiment	3			3			
	工作実習 Workshop Practice	6	3	3				
	機構学 Theory of Mechanism	2			2			
	工業力学 Engineering Mechanics	2			2			
	熱機関 Heat Engine	3					3	
	機械力学 Dynamics of Machinery	2					2	
	自動制御 Automatic Control	2					2	
	流体機械 Hydraulic Machinery	1					1	
	機械工学概論 Introduction to Mechanical Engineering	1	1					
	電気工学概論 Introduction to Electrical Engineering	3				1	2	
	工業外国語 Engineering English	2					2	
	計測工学 Measurement and Instrumentation	1				1		
	技術者倫理概論 Introduction to Ethics for Engineer	1					1	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		89	6	11	18	25	29	
選択科目 Elective Subjects	流体力学 Hydrodynamics	1					1	｝3単位を選択
	伝熱工学 Engineering Heat Transfer	1					1	
	塑性加工 Manufacturing Process	1					1	
	生産工学 Production Engineering	1					1	
	メカトロニクス Mechatronics	1					1	
	強度解析学 Strength Analysis	1					1	
	校外実習 Training in Manufacture	1				1		
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered		7				1	6	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		3					3	
履修単位合計 Total of Credits Completed	専門科目計 Specialized Subject Credits	92	6	11	18	25	32	
	一般科目計 General Subject Credits	83	29	23	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed	175	35	34	34	35	37	

●電気情報工学科　Electrical and Computer Engineering

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation	2				2		
	応用数学 Applied Mathematics	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	情報基礎Ⅱ Information Basics Ⅱ	2		2				
	電気基礎論Ⅰ Electric Fundamentals Ⅰ	2	2					
	電気基礎論Ⅱ Electric Fundamentals Ⅱ	2	2					
	電気磁気学 Electromagnetism	5			2	3		
	電気回路Ⅰ Electric Circuits Ⅰ	4		4				
	電気回路Ⅱ Electric Circuits Ⅱ	2			2			
	回路網理論 Network Theory	2				2		
	電子回路 Electronic Circuits	4			2	2		
	半導体工学 Semiconductor Engineering	2				2		
	電気材料工学 Electric Materials Engineering	2					2	
	プログラミング言語Ⅰ Programming Languages Ⅰ	2		2				
	プログラミング言語Ⅱ Programming Languages Ⅱ	2			2			
	論理回路 Logical Circuits	2			2			
	計算機工学 Computer Engineering	2				2		
	電気機器 Electric Machinery and Apparatus	4			2	2		
	計測工学 Measurement Engineering	2					2	
	制御工学 Control System Engineering	3				1	2	
	通信工学 Communication Engineering	2					2	
	電気製図 Electrical Drawing	2	2					
	電気電子情報設計 Electronic and Information Design	3					3	
	電気情報工学ゼミ Seminar in Electrical and Information Engineering	1				1		
	電気情報工学実験 Experiment in Electrical and Information Engineering	14		3	4	4	3	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Required		84	6	11	18	25	24	
選択科目 Elective Subjects	エネルギー変換工学 Energy Transfer Engineering	2					2	9単位を選択
	電力輸送工学 Electric Power Transmission Engineering	2					2	
	高電圧工学 High Voltage Engineering	2					2	
	法規及び施設管理 Law&Regulation on Electric Facilities	1					1	
	知能情報処理 Intelligence Information Processing	2					2	
	システムプログラミング System Programming	2					2	
	電磁波工学 Electro-magnetic Wave Engineering	2					2	
	情報工学特論 Special Lectures on Information Engineering	1					1	
	校外実習 Training in Manufacture	1				1		
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered		15				1	14	
履修単位計 Sub-Total of Credits Required		7					7	
履修単位合計 Sub-Total of Credits Required	専門科目計 Specialized Subject Credits	91	6	11	18	25	31	
	一般科目計 General Subject Credits	83	29	23	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed	174	35	34	34	35	36	

物質工学科　Chemical Science and Engineering

授業科目 Subject			科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
共通必修科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation		2				2		
	応用数学 Applied Mathematics		2				2		
	応用物理 Applied Physics		4			2	2		
	情報基礎 II Information Basics II		2		2				
	情報処理 Information Processing		1		1				
	設計製図 Design and Drawing		2		2				
	分析化学 Analytical Chemistry		2		2				
	有機化学 I Organic Chemistry I		2		2				
	有機化学 II Organic Chemistry II		2			2			
	無機化学 Inorganic Chemistry		2			2			
	物理化学 Physical Chemistry		4			2	2		
	生物化学 Biological Chemistry		2			2			
	化学工学 I Chemical Engineering I		2			2			
	化学工学 II Chemical Engineering II		2				2		
	機器分析 Instrumental Analysis		2				2		
	高分子化学 Polymer Chemistry		1				1		
	電気化学 Electrochemistry		1					1	
	生物工学 Bioengineering		2					2	
	工業化学英語 Engineering English in Chemistry		2			2			
	工業英語 Industrial English in Chemistry		2				2		
	反応工学 Chemical Reaction Engineering		2					2	
	安全工学 Safety Engineering		1					1	
	基礎化学 Fundamental Chemistry		2		2				
	電気工学基礎 Fundamentals of Electrical Engineering		2					2	
	基礎化学実験 Experiments in Fundamental Chemistry		2	2					
	分析化学実験 Experiments in Analytical Chemistry		4	2	2				
	無機化学実験 Experiments in Inorganic Chemistry		2			2			
	有機化学実験 Experiments in Organic Chemistry		2			2			
	物理化学実験 Experiments in Physical Chemistry		2				2		
	機器分析実験 Experiments in Instrumental Analysis		2				2		
	卒業研究 Graduation Research		10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			72	4	13	18	19	18	
物質工学コース Materials Engineering Course	必修科目 Required Subjects	有機材料化学 Organic Material Chemistry	2				2		
		無機材料化学 Inorganic Material Chemistry	2				2		
		電子材料工学 Electronic Materials Engineering	2					2	
		工業熱力学 Industrial Thermodynamics	1					1	
		輸送現象論 Transport Phenomena	2					2	
		物質工学演習 Exercises in Material Engineering	1				1		
		化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering	4					4	
		物質工学実験 Experiments in Material Engineering	2				2		
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			16				7	9	
生物工学コース Biological Engineering Course	必修科目 Required Subjects	酵素工学 Enzymatic Engineering	2					2	
		微生物工学 Microbiological Engineering	2					2	
		細胞・遺伝子工学 Cell and Gene Engineering	1					1	
		分子生物学 Molecular Biology	2				2		
		環境工学 Environmental Technology	2				2		
		生物工学演習 Exercises in Biological Engineering	1				1		
		生物応用学実験 Experiments in Bioprocess Engineering	4					4	
		生物工学実験 Experiments in Bioengineering	2				2		
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			16				7	9	
共通選択科目 Elective Subjects	分離工学 Separation Engineering		1					1	1単位を選択
	生体高分子 Biopolymer		1					1	
	量子化学 Quantum Chemistry		1					1	1単位を選択
	生体機能工学 Biofunctional Engineering		1					1	
	計測制御工学 Measurement and Control Engineering		1					1	1単位を選択
	生体材料化学 Biomaterial and Chemistry		1					1	
	触媒化学 Catalysis		1					1	1単位を選択
	食品工学 Food Processing		1					1	
	校外実習 Training in Manufacture		1				1		
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered			9				1	8	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			4					4	
履修単位合計 Total of Credits Completed	専門科目計 Specialized Subject Credits		92	4	13	18	26	31	
	一般科目計 General Subject Credits		83	31	21	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed		175	35	34	34	36	36	

建築学科　Architecture

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation	2				2		
	応用数学 Applied Mathematics	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	情報基礎 II Information Basics II	2		2				
	建築計画 Architectural Planning Design	4			2	2		
	建築設計演習 Architectural Design Exercises	15	2	3	4	6		
	建築CAD演習 Architectural CAD Practice	2			2			
	意匠CAD演習 Design CAD Practice	2				1	1	
	都市計画学 City Planning	1					1	
	地域計画学 Town Planning	1					1	
	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	1					1	
	建築デザイン基礎 Fundamentals of Architectural Design	1	1					
	建築デザイン演習 Exercises of Architectural Design	1	1					
	日本建築史 History of Japanese Architecture	1			1			
	西洋建築史 History of European Architecture	1				1		
	構造力学 Structural Mechanics	6		2	2	2		
	材料力学 Strength of Materials	1			1			
	鋼構造学 Steel Structure	2				2		
	RC構造学 RC Construction	2				2		
	構造演習 Structural Design Exercises	2					2	
	木質構造 Timber Structural Engineering	2					2	
	防災工学 Disaster Prevention Engineering	1					1	
	コンピュータ援用学 Computer Aided Science	2		2				
	建築材料 Building Materials	2			2			
	建築生産学 Building Production	2					2	
	測量学 Surveying	1			1			
	建築環境工学 Architectural Environmental Engineering	4				2	2	
	建築設備 Building Equipment	2					2	
	建築構造 I Building Construction I	2	2					
	建築構造 II Building Construction II	2		2				
	建築法規 Building Law	2					2	
	建築学研究 Seminar	1				1		
	建築学実験 Experiments in Architecture	3			2		1	
	建築経済 Building Economics	1					1	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		90	6	11	19	25	29	
選択科目 Elective Subjects	校外実習 Training in Manufacture	1				1		
	建築デザイン Architectural Design	1					1	}1単位を選択
	耐震構造学 Earthquake Resistant Structures	1					1	
	近代建築史 History of Modern Architecture	1					1	}1単位を選択
	振動学 Vibration Engineering	1					1	
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered		5				1	4	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		2					2	
履修単位合計 Total of Credits Completed	専門科目計 Specialized Subject Credits	92	6	11	19	25	31	
	一般科目計 General Subject Credits	83	29	23	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed	175	35	34	35	35	36	

（注）※印は学修単位を示す。

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－②－２

教員と担当科目（専門科目）

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

氏　名 Name	職　名 Title	担　当　科　目 Subject	備　考 Notes
河野行雄 Yukio Kawano	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	熱機関・工学実験・機械工学概論・卒業研究・(専攻科) 機械電気工学特論、専攻科特別研究、機械電気工学特別実験 Heat Engine, Experiments in Mechanical Engineering, Introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research, Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering	学生主事 Dean of St.Affairs
小藪国夫 Kunio Koyabu	教　授 工学博士 Prof. (Dr. of Eng.)	自動制御・メカトロニクス・計測工学・工学実験・機械工学概論・卒業研究・（専攻科）機械電気工学特論・専攻科特別研究・超精密加工・メカトロニクス特論・機械電気工学特別実験 Automatic Control, Mechatronics, Mechanical Instrumentation, Experiments in Mechanical Engineering, Introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research, Ultra precision machining and processing, Advanced Mechatoronics , Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering	
山中　昇 Noboru Yamanaka	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	機械工作法・基礎実験・工学実験・機械工学概論・塑性加工・卒業研究・（専攻科）機械電気工学特論・専攻科特別研究・変形加工学 Manufacturing Process, Fundamental Experiment, Experiments in Mechanical Engineering, 1ntroduction to Mechanical Eng., Plastic Working, Graduation Research, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research, Deformation Processing Science	３Ｍ 学級担任 ３Ｍ Classroom teacher
豊廣利信 Toshinobu Toyohiro	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	機械設計法・設計製図・図学・基礎実験・工学実験・機械工学概論・卒業研究・（専攻科）機械電気工学特論・専攻科特別研究・機械設計特論・創造デザイン演習 Mechanical Design, Design and Drawing, Descriptive Geometry, Fundamental Experiment, Experiments in Mechanical Engineering, introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research, Special Lecture on Machine Design, Creative Design Practice	
佐藤浅次 Asaji Sato	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	工学実験・機械力学・機械工学概論・工業力学・情報処理・卒業研究・（専攻科）振動工学・専攻科特別研究 Experiments in Mechanical Engineering, Dynamics of Machinery, Introduction to Mechanical Eng. Engineering Mechanics, Information Processing, Graduation Research, Mechanical Vibration, Advanced Graduation Research	機械工学科長 Chief of the Department
永野茂憲 Takanori Nagano	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof.(Dr. of Eng.)	材料学Ⅰ、Ⅱ・工業外国語・基礎実験・工学実験・機械工学概論・卒業研究・（専攻科）機械電気工学特論・専攻科特別研究・材料強度学・科学技術英語・機械電気工学特別実験 Engineering Materials Ⅰ/Ⅱ, Engineering English, Fundamental Experiment, Experiments in Mechanical Engineering, introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Advanced Graduation Research, Strength and Fracture of Materials, English on Science and Technology, Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering	５Ｍ 学級担任 ５Ｍ Classroom teacher 専攻主任 Vice-Deans of the Advanced Courses
土井猛志 Takeshi Doi	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof.(Dr. of Eng.)	設計製図・機械設計法・創造設計・機械工学概論・卒業研究・（専攻科）機械電気工学特論・専攻科特別研究・CAE・創造デザイン演習 Design and Drawing, Mechanical Design, Creative Design, Introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research, Computer Aided Engineering, Creative Design Practice	キャリア支援室長 Director of the Career Support Office
高橋勇二 Yuji Takahashi	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof.(Dr. of Eng.)	水力学・流体機械・流体力学・機械工学概論・工学実験・卒業研究・（専攻科）流体力学特論・機械電気工学特論・専攻科特別研究 Hydraulics, Hydraulic Machinery, Hydrodynamics, Introduction to Mechanical Eng, Experiments in Mechanical Engineering, Graduation Research, Special Lecture on Fluid Dynamics Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	４Ｍ 学級担任 ４Ｍ Classroom teacher
白岩寛之 Hiroyuki Shiraiwa	助　教 博士(工学) Res. Ass(Dr. of Eng.)	工学実験・基礎実験・熱力学・機械工学概論・卒業研究・（専攻科）熱移動と流れの工学・機械電気工学特論・専攻科特別研究 Experiments in Mechanical Engineering, Fundamental Experiment, Thermodynamics, Introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Heat Transfer and Fluid Flow, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	
高木夏樹 Natsuki Takagi	助　教 博士(工学) Res. Ass(Dr. of Eng.)	設計製図・工作実習・工学実験・機械工学概論・卒業研究・（専攻科）機械電気工学特別実験 Design and Drawing, Workshop Practice, Experiments in Mechanical Engineering, Introduction to Mechanical Eng., Graduation Research, Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering	寮務主事補 Vice-Deans of Dor. Affairs

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

氏　名 Name	職　名 Title	担　当　科　目 Subject	備　考 Notes
渡　辺　光　庸 Mitsunobu Watanabe	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	通信工学・電磁波工学・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 科学技術英語・通信工学特論・機械電気工学特別実験 Communication Engineering, Electro-magnetic Wave Engineering, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, English on Science and Technology, Special Lectures on Communication Engineering, Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering	電気情報工学科長 Chief of the Department
御　園　勝　秀 Katsuhide Misono	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	回路網理論・電気基礎論Ⅱ・電力輸送工学・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 気体電子工学・放電工学・機械電気工学特論・専攻科特別研究 Network Theory, Electric Fundamentals Ⅱ, Electric Power Transmission Engineering, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Gas Electronic Engineering, Electric Discharge Engineering, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	5E 学級担任 5E Classroom teacher
濵　田　次　男 Tsugio Hamada	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	電気磁気学・エネルギー変換工学・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 電磁気学特論・電子材料プロセス工学・機械電気工学特論・専攻科特別研究 Electromagnetism, Energy Transfer Engineering, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Advanced Electromagnetism, Electronic Material for Processing, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	4E 学級担任 4E Classroom teacher
樋　渡　幸　次 Koji Hiwatari	准　教　授 Ass. Prof.	計算機工学・知能情報処理・電気電子情報設計・プログラミング言語Ⅰ・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 機械電気工学特別実験 Computer Engineering, Intelligence Information Processing, Electronic and Information Design, Programming Languages I, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering	電子計算機センター長 Director of the Computer Center
永　野　　孝 Takashi Nagano	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof(Dr. of Eng.)	電気機器・電気製図・電気情報工学ゼミ・電気情報工学実験・卒業研究・(専攻科) パワーエレクトロニクス Electric Machinery, Electrical Drawing, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Power Electronics	
野　地　英　樹 Hideki Noji	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof(Dr. of Eng.)	電気基礎論Ⅰ・電気機器・電気電子情報設計・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 電子計測特論・電子物性工学・専攻科特別研究 Electric Fundamentals Ⅰ, Electric Machinery, Electronic and Information Design ,Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Special Lectures on Electronic Instrumentation, Electronic Solid-State Engineering Practice, Advanced Graduation Research	専攻主任 Vice-Deans of the Advanced Courses
白　濵　正　尋 Masahiro Shirahama	准　教　授 Ass. Prof.	電気磁気学・電気材料工学・半導体工学・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 電子デバイス・創造デザイン演習・専攻科特別研究 Electromagnetism, Electric Materials Engineering, Semiconductor Engineering, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Electronic Devices, Creative Design Practice, Advanced Graduation Research	寮務主事補 Vice-Deans of Dor. Affairs
小　森　雅　和 Masakazu Komori	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof(Dr. of Eng.)	プログラミング言語Ⅱ・システムプログラミング・情報工学特論・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 情報システム工学・機械電気工学特別実験・専攻科特別研究 Programming Language Ⅱ, System Programming, Special Lectures on Information Engineering, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Information System Engineering, Special Experiment on Mechanical and Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	学生主事補 Vice-Deans of St. Affairs
赤　木　洋　二 Yoji Akaki	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof(Dr. of Eng.)	電気回路Ⅰ・電気回路Ⅱ・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 電気回路特論・機械電気工学特論・専攻科特別研究 Electric Circuits I, Electric Circuits Ⅱ, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Special Lectures on Electric Circuits, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	2E 学級担任 2E Classroom teacher
田　中　　寿 Hisashi Tanaka	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof(Dr. of Eng.)	電子回路・論理回路・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 創造デザイン演習・機械電気工学特論・専攻科特別研究 Electronic Circuits, Logical Circuits, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Creative Design Practice, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	3E 学級担任 3E Classroom teacher
臼　井　昇　太 Shota Usui	助　教 博士(工学) Res. Ass(Dr. of Eng.)	制御工学・電気電子情報設計・電気情報工学実験・電気情報工学ゼミ・卒業研究・(専攻科) 機械電気工学特論・専攻科特別研究 Control Engineering, Electronic and Information Design, Experiments in Electrical and Computer Engineering, Seminar in Electrical and Computer Engineering, Graduation Research, Special Lecture on Mechanical-Electrical Engineering, Advanced Graduation Research	ネットワーク管理者 Network Administrator

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

氏　名 Name	職　名 Title	担　当　科　目 Subject	備　考 Notes
濵　田　英　介 Eisuke Hamada	教　授 博士(農学) Prof. (Dr. of Agr.)	微生物工学・生物工学・細胞･遺伝子工学・生体材料化学・生物工学実験・生物反応工学実験・生物工学演習・卒業研究（専攻科）分子生態学・新素材論・物質工学特別実験・専攻科特別研究 Microbiological Engineering, Biological Engineering, Cell and Genetic Engineering, Biomaterial Chemistry, Experiments in Biological Engineering, Experiments in Bioreactional Engineering, Exercises in Biological Engineering, Graduation Research, Molecular Biology and Ecology, Development of New Materials and Technology in Chemistry, Special Experiments in Chemical Science and Engineering, Advanced Graduation Research	校長補佐（社会連携担当） Vice-President 地域連携センター長 Director of the Research and Education Collaboration Center
山　下　敏　明 Toshiaki Yamashita	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	有機化学Ⅰ,Ⅱ・工業化学英語・有機化学実験・機器分析実験・物質工学演習・卒業研究（専攻科）反応有機化学・有機光化学・科学技術英語・物質工学特別実験・物質工学特論・専攻科特別研究 Organic Chemistry Ⅰ,Ⅱ, Engineering English in Chemistry, Experimentsin Organic Chemistry, Experiments in Instrumental Analysis, Exercises in Material Engineering, Graduation Research, Reaction Organic Chemistry, Organic Photochemistry, English in Science and Technology, Special Experiments in Chemical Science and Engineering, Special Lectures on Chemical Science and Engineering, Advanced Graduation Research	物質工学科長 Chief of the Department
清　山　史　朗 Shiro Kiyoyama	教　授 博士(工学) Prof.(Dr. of Eng.)	化学工学Ⅰ・工学英語・反応工学・機器分析実験・物質工学実験・物質工学演習・化学工学実験・卒業研究（専攻科）微粒子工学・新素材論・創造デザイン演習・物質工学特別実験・専攻科特別研究 Chemical Engineering I, Industrial English, Chemical Reaction Engineering, Experiments in Instrumental Analysis, Experiments in Material Engineering, Exercises in Material Engineering, Experiments in Chemical Engineering, Graduation Research, Microsphere Engineering, Development of New Material and Technologies in Chemistry, Creative Desing Practice, Special Experiments in Chemical Science and Engineering, Advanced Graduation Research	専攻科長 Deans of the Advanced Courses
福　留　功　博 Norihiro Fukudome	准　教　授 Ass. Prof.	基礎化学・高分子化学・有機材料化学・生体高分子・分析化学実験・無機化学実験・生物工学実験・生物工学演習・卒業研究（専攻科）機能性高分子・新素材論・物質工学特別実験 Fundamental Chemistry, Polymer Chemistry, Organic Materials, Biological Polymer Chemistry, Experiments in Analytical Chemistry, Experiments in Inorganic Chemistry, Experiments in Biological Engineering, Exercises in Biological Engineering,Graduation Research, Functional Polymer, Development of New Material and Technologies in Chemistry, Special Experiments in Chemical Science and Engineering	５Ｃ 学級担任 ５Ｃ Classroom teacher
岡　部　勇　二 Yuji Okabe	准　教　授 博士(薬学) Ass. Prof.(Dr. of Pha.)	物理化学・電気化学・量子化学・有機化学実験・物理化学実験・物質工学演習・卒業研究（専攻科）化学反応論・科学技術英語・物質工学特別実験・創造デザイン演習・専攻科特別研究 Physical Chemistry, Electrochemistry, Quantum Chemistry, Experiments in Organic Chemistry, Experiments in Physical Chemistry, Exercises in Material Engineering, Graduation Research, Chemical reactions, English in Science and Technology, Special Experiments in Chemical Science and Engineering, Creative Design Practice, Advanced Graduation Research	学生主事補 Vice-Deans of St.Affairs
野　口　大　輔 Daisuke Noguchi	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof.(Dr. of Eng.)	無機材料化学・機器分析・電子材料工学・機器分析実験・物質工学実験・物質工学演習・校外実習・卒業研究（専攻科）応用触媒工学・無機機能性材料・新素材論・物質工学特別実験・物質工学特論・専攻科特別研究 Inorganic Materials, Instrumental Analysis, Electronic Material Engineering, Experiments in Instrumental Analysis, Exercises in Material Engineering, Experiments in Material Engineering, Training in Manufacture, Graduation Research, Applied Catalyst Technology, Functional Inorganic Materials, Development of New Material and Technologies in Chemistry, Special Experiments in Chemical Science and Engineering, Special Lectures on Chemical Science and Engineering, Advanced Graduation Research	4Ｃ 学級担任 4Ｃ Classroom teacher
岩　熊　美　奈　子 Minako Iwakuma	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof.(Dr. of Eng.)	分析化学・環境工学・工業熱力学・触媒化学・物質工学実験・物理化学実験・物質工学演習・卒業研究（専攻科）新素材論・水質環境工学・地球環境科学・物質工学特別実験 Analytical Chemistry, Environmental Engineering, Industrial Thermodynamics, Catalysts, Experiments in Material Engineering, Experiments in Physical Chemistry, Exercises in Material Engineering, Graduation Research, Development of New Material and Technologies in Chemistry,Water Environmental Engineering, Global Environmental Science, Special Experiments in Chemical Science and Engineering	教務主事補 Vice-Deans of Edu.Affairs
金　澤　亮　一 Ryoichi Kanazawa	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof.(Dr. of Eng.)	設計製図・化学工学 Ⅱ・輸送現象論・分析化学実験・化学工学実験・物質工学演習・卒業研究（専攻科）新素材論・移動現象論・物質工学特別実験 Design and Drawing, Chemical Engineering II, Transport phenomena, Experiments in Analytical Chemistry, Experiments in Chemical Engineering, Exercises in Material Engineering, Graduation Research, Development of New Material and Technologies in Chemistry, Advanced Transport phenomena, Special Experiments in Chemical Science and Engineering	寮務主事補 Vice-Deans of Dor.Affairs
高　橋　利　幸 Toshiyuki Takahashi	講　師 博士(理学) Ast.Prof.(Dr. of Sci.)	生物化学・酵素工学・食品化学・生体機能工学・基礎化学実験・生物反応工学実験・生物工学演習・卒業研究（専攻科）生物物理化学・科学技術英語・物質工学特別実験・専攻科特別研究 Biochemistry, Enzymatic Engineering, Food Engineering, Biofunctional Engineering, Experiments in Fundamental Chemistry, Experiments in Bioreactional Engineering, Exercises in Biological Engineering, Graduation Research, Biophysical Chemistry, English in Science and Thechology, Special Experiments in Chemical Science and Engineering, Advanced Graduation Research	３Ｃ 学級担任 ３Ｃ Classroom teacher
藤　森　崇　夫 Takao Fujimori	助教 博士(理学) Res. Ass.(Dr. of Sci.)	無機化学・分析化学実験・無機化学実験・物質工学実験・機器分析実験・物質工学演習・卒業研究（専攻科）無機合成化学・科学技術英語・物質工学特別実験 Inorganic Chemistry, Experiments in Analytical Chemistry, Experiments in Inorganic Chemistry, Experiments in Material Engineering, Experiments in Instrument Analysis, Exercises in Material Engineering, Graduation Research, Inorganic Synthesis Chemistry, English in Science and Technology, Special Experiments in Chemical Science and Engineering	
野　口　太　郎 Taro Noguchi	助教 博士(理学) Res. Ass.(Dr. of Sci.)	分子生物学・基礎化学実験・分析化学実験・生物工学実験・機器分析実験・生物反応工学実験・生物工学演習・卒業研究（専攻科）蛋白質工学・科学技術英語・物質工学特論・専攻科特別研究 Molecular Biology, Experiments in Fundamental Chemistry, Experiments in Analytical Chemistry, Experiments in Biological Engineering, Experiments in Instrument Analysis, Experiments in Bioreactional Engineering, Exercises in Biological Engineering, Graduation Research, Protein Engineering, English in Science and Technology, Special Lectures on Chemical Science and Engineering, Advanced Graduation Research	専攻主任 Vice-Deans of the Advanced Courses

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

氏　名 Name	職　名 Title	担　当　科　目 Subject	備　考 Notes
板　倉　和　則 Kazunori Itakura	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	構造力学・建築学実験・耐震構造学・建築学研究・卒業研究・(専攻科)構造設計演習・連続体力学・計算力学・建築英語・建築学特論・専攻科特別研究 Structural Mechanics, Experiments in Architecture, Seminar, Earthquake Resistant Structures, Graduation Research, Structural Design Exercise, Continuum Mechanics, Computational Mechanics, Architectural English, Special Seminar on Architecture, Advanced Graduation Research	
林　田　義　伸 Yoshinobu Hayashida	教　授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	建築デザイン演習・建築史・建築設計演習・建築学研究・卒業研究・(専攻科) 西洋建築デザイン史・創造デザイン演習・建築英語・建築学特論・専攻科特別研究 Fundamental Exercises of Architectural Design, History of Architecture, Architectural Design Exercises, Seminar, Graduation Research, History of West Architectural Design, Creative Design Practice, Architectural English, Special Seminar on Architecture, Advanced Graduation Research	建築学科長 Chief of the Department
原　田　志津男 Shizuo Harada	教　授 博士(工学) Prof.(Dr. of Eng.)	建築材料・建築生産学・建築学実験・建築学研究・卒業研究・(専攻科)建築材料施工特論・建築材料実験特論・建築英語・建築学特論・専攻科特別研究 Building Materials, Building Production, Experiments in Architecture, Seminar, Graduation Research, Advanced Lecture on Building Materials and Construction, Advanced Lecture on Building Materials Experiment, Architectural English, Special Seminar on Architecture, Advanced Graduation Research	４Ａ 学級担任 4 A Classroom teacher
小　原　聡　司 Satoshi Obara	教　授 博士(工学) Prof.(Dr. of Eng.)	建築環境工学・建築学実験・建築設計演習・建築学研究・卒業研究・(専攻科) 居住熱環境学・建築情報処理・建築英語・建築学特論・専攻科特別研究 Architectural Environmental Engineering, Experiments in Architecture, Architectural Design Exercises, Seminar, Graduation Research, Dwelling Thermal Environment, Architectural Information Processing, Architectural English, Special Seminar on Architecture, Advanced Graduation Research	５Ａ 学級担任 5 A Classroom teacher
樋　口　栄　作 Eisaku Higuchi	嘱託教授 博士(工学) Prof. (Dr. of Eng.)	建築設計演習・(専攻科) 建築計画学・地方住宅計画学 Architectural Design Exercises, Study on Architectural Planning and Design, Regional　Housing	
中　村　孝　至 Takashi Nakamura	准　教　授 Ass. Prof.	建築設計演習・建築計画・建築デザイン基礎・建築デザイン・建築学研究・卒業研究・(専攻科) 建築設計演習 Architectural Design Exercises, Architectural Planning, Fundamentals of Architectural Design, Architectural Design, Seminar, Graduation Research, Architectural Design Exercises	学生主事補 Vice-Deans of St. Affairs
中　村　裕　文 Hirofumi Nakamura	准　教　授 Ass. Prof.	コンピュータ援用学・都市計画・建築 CAD 演習・意匠 CAD 演習・建築学研究・卒業研究・(専攻科) 建築 CAD 設計演習・建築英語・建築学特論・創造デザイン演習・専攻科特別研究 Computer Aided Science, City Planning, Architectural CAD Exercises, Design CAD Exercises, Seminar, Graduation Research, Computer Aided Architectural Design, Architectural English, Special Seminar on Architecture, Creative Design Practice, Advanced Graduation Research	専攻主任 Vice-Deans of the Advanced Courses
山　本　　剛 Takeshi Yamamoto	准　教　授 Ass. Prof.	建築構造Ⅰ・建築構造Ⅱ・構造力学・測量学・建築学研究・卒業研究・(専攻科) 地震工学 Building Construction Ⅰ, Building Construction Ⅱ, Structural Mechanics, Surveying, Seminar, Graduation Research, Earthquake Engineering	キャリア支援室副室長 Vice-Director of the Career Support Office
後　藤　勝　彦 Katsuhiko Goto	准　教　授 博士(工学) Ass. Prof. (Dr. of Eng.)	鋼構造学・鋼構造演習・建築学実験・建築学研究・卒業研究・(専攻科)構造設計演習・建築英語・建築学特論・専攻科特別研究 Steel Structure, Steel Structure Exercise, Experiments in Architecture, Seminar, Graduation Research, Structural Design Exercise, Architectural English, Special Seminar on Architecture,　Advanced Graduation Research	３Ａ 学級担任 3 A Classroom teacher
杉　本　弘　文 Hirofumi Sugimoto	助　教 博士(工学) Res. Ass. (Dr. of Eng.)	建築設計演習・建築計画・建築学研究・卒業研究・(専攻科) 建築英語・建築学特論・専攻科特別研究 Architectural Design Exercises, Architectural Planning, Seminar, Graduation Research, Study on Architectural Planning and Design, Architectural English, Special Seminar on Architecture, Advanced Graduation Research	

■教員及び担当科目　Academic Staff and the Subject in Their Charge

●非常勤講師　Part-Time Lecturer

学科 Department	氏名 Name	担当科目 Subject	備考 Notes
一般科目 文科 General Education (Humanities)	内田 涼子 Ryoko Uchida	国語 Japanese	
	山之内 文次 Bunji Yamanouchi	英作文・英文法 English Composition, English Grammar	
	満木 攻一 Koichi Mitsuki	美術 Fine Art	
	今村 祐子 Yuko Imamura	音楽 Music	
	田中 利砂子 Risako Tanaka	日本語 Japanese	
	ﾀﾞﾝｶﾝ ﾊﾞｯﾄﾗﾝﾄﾞ Duncan Butland	英会話 English Conversation	
一般科目 理科 General Education (Sciences)	肥後 昭治 Syoji Higo	基礎数学Ⅰ・基礎数学Ⅱ・微分積分学Ⅱ・数学特論 Fundamental Mathematics Ⅰ, Fundamental Mathematics Ⅱ, Differential and Integral Calculus Ⅱ, Mathematical Particular Theory	
	上之園 勝 Masaru Uenosono	代数学・微分積分学Ⅰ Algebra, Differential and Integral Calculus Ⅰ	
	田原 良信 Yoshinobu Tahara	物理 Physics	
	中﨑 忍 Shinobu Nakazaki	物理 Physics	
	山下 宗邦 Munekuni Yamashita	科学Ⅱ Science Ⅱ	
	松元 博子 Hiroko Matsumoto	保健体育 Health and Physical Education	
	瓜田 吉久 Yoshihisa Urita	保健体育 Health and Physical Education	鹿屋体育大学教授 N.I.F.S. in Kanoya
	下野 勉 Tsutomu Shimono	保健体育 Health and Physical Education	
	根上 優 Masaru Negami	保健体育 Health and Physical Education	宮崎大学教授 Miyazaki Univ.
	古藤 総一郎 Soichiro Koto	情報基礎Ⅱ Information Basics Ⅱ	
機械工学科 Mechanical Engineering	藤元 嘉安 Yoshiyasu Fujimoto	設計製図・材料力学 Design and Drawing, Strength of Materials	宮崎大学教授 Miyazaki Univ.
	岡部 匡 Tadashi Okabe	機構学 Theory of Mechanism	宮崎大学教授 Miyazaki Univ.
	山路 哲平 Teppei Yamaji	技術者倫理概論・生産工学 Introduction to Ethics for Engineer, Production Engineering	
	剣田 貫治 Kanji Tsurugida	電気工学概論 Introduction to Electrical Engineering	
	長瀬 慶紀 Yoshinori Nagase	熱機関・伝熱工学 Heat Engine, Engineering Heat Transfer	宮崎大学准教授 Miyazaki Univ.
	中澤 隆雄 Takao Nakazawa	材料力学・強度解析学 Strength of Materials, Strength Analysis	
電気情報工学科 Electrical and Computer Engineering	松本 寛樹 Hiroki Matsumoto	計測工学 Measurement Technology	宮崎大学准教授 Miyazaki Univ.
	金子 正光 Tadamitsu Kaneko	高電圧工学 High Voltage Engineering	宮崎公立大学教授 Miyazaki Municipal Univ.
	橋本 修輔 Shusuke Hashimoto	制御工学 Control System Engineering	
	井手口 満生 Mitsuo Ideguchi	法規及び施設管理 Law & Regulation on Electric Facilities	
	剣田 貫治 Kanzi Tsurugida	電気回路 Electric Circuits	
物質工学科 Chemical Science and Engineering	塩盛 弘一郎 Koichiro Shiomori	分離工学・安全工学 Separation Engineering, Safety Engineering	宮崎大学准教授 Miyazaki Univ.
	那須 真寿美 Masumi Nasu	情報処理 Information Processing	
	持永 良一 Ryoichi Mochinaga	計測制御工学 Measurement and Control Engineering	
	大坪 昌久 Masahisa Otsubo	電気工学基礎 Fundamentals of Electrical Engineering	
建築学科 Architecture	中島 喜一郎 Kiichiro Nakashima	建築法規 Building Law	
	平川 晃 Akira Hirakawa	建築設備 Building Equipment	
	岩佐 貢 Mitsugu Iwasa	建築経済 Building Economics	
	飯村 豊 Yutaka Iimura	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	宇都 博徳 Hironori Uto	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	柴 睦巳 Mutsumi Shiba	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	瀬川 洋一郎 Yoichiro Segawa	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	筒井 一雄 Kazuo Tsutsui	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	蒲牟田 健作 Kensaku Kamamuta	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	
	平田 光春 Mitsuharu Hirata	構造力学・RC 構造学・RC 構造演習 Structural Mechanics, RC Construction, Exercises in RC Construction	
専攻科 Advanced Courses	下津 義博 Yoshihiro Shimotsu	技術者倫理 Engineering Ethics	
	藤原 稔 Minoru Fujiwara	技術者倫理 Engineering Ethics	
	山路 哲平 Teppei Yamaji	技術者倫理 Engineering Ethics	
	岡崎 礼子 Reiko Okazaki	構造設計演習 Structural Design Exercises	

〔出典：学校要覧〕

（分析結果とその根拠理由）

専門科目では，学習・教育目標のうち，目標(１)及び(２)を中心としたカリキュラム編成を行い，これらの専門分野において，基礎知識及び基礎技術を効果的に修得させるために各教員の専門性に即した教員配置が行われている。また，目標(１)～(４)を全て網羅した卒業研究が義務付けられており，これらを担当する専門科目教員は高度な専門性を有している。したがって，専門科目担当教員を適切に配置している。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，全専攻科共通のJABEE対応「生産デザイン工学」プログラムが設定されている。本教育プログラムは，出身学科の専門科目にとらわれることなく，複合領域でも対応できる実践的技術者として活躍できるための高度な専門知識と応用力を修得できるよう設計されている。すなわち，アイデアの提案・検証・改善能力，デザイン能力，科学知識の習得と説明及び応用能力，工学における問題解決能力，生活様式や価値観の多様性を認識できる能力，社会的責任を理解できる能力，外国語による日常的なコミュニケーション能力，日本語による文章作成能力，自然・社会環境問題の理解と説明能力，自主的・継続的に取り組む能力・チームワーク力を身に付けるものであり，学習・教育目標を全て網羅したものである（３－１－③－１）。これらを担当する教員は，教育指導経験と研究業績とを評価確認した上で配置されており，高い専門性を有している（前述資料３－１－①－２～３，前述資料３－１－②－２）。さらに，外部から技術士を招へいしての「技術者倫理」の開講等，より高度な実践的技術者の育成に取り組んでいる。

観点３－１－③　資料一覧

資料３－１－③－１　教育課程表（専攻科）

〔出典：学校要覧〕

資料３－１－③－１

教育課程表（専攻科）

専攻科教育課程 The Advanced Engineering Course Curriculum

一般科目及び専門共通科目 General & Special Common Subjects

区分 Classification		授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
一般科目 General Subjects	必修科目 Required Subjects	総合英語 General English	2	2	
	選択科目 Elective Subjects	実用英語 Practical English	2		2
		知的財産権 Intellectual Property Rights	2		2
		倫理学 Ethics	2	2	
		歴史学 History	2	2	
		中国古典学 Chinese Classics	2	2	
		文章表現法 Japanese Writing	2	2	
一般科目開設単位小計 General Subject Sub-total Offered			14	10	4
専門科目 共通科目	必修科目 Required Subjects	地球環境科学 Global Environment Science	2		2
		技術者倫理 Engineering Ethics	2		2
	選択科目 Elective Subjects	線形数学 Linear Mathematics	2	2	
		統計学特論 Particular Statistics	2		2
		解析学特論 Special Theory of Analysis	2	2	
		一般化学 General Chemistry	2		2
		一般力学 Mechanics	2		2
		応用物理特論 Special Lecture of Applied Physics	2	2	
		応用情報工学 Applied Information Engineering	2	2	
（共通科目開設単位） (Total of Credits Offered)			18	8	10

機械電気工学専攻 Mechanical and Electrical Engineering Advanced Course

区分 Classification			授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
専門科目 Specialized Subjects	専攻科目 Special advanced Subjects	必修科目 Required Subjects	科学技術英語 English on Science and Technology	2	2	
			機械電気工学特別実験 Special Experiment in Mechanical Engineering	4	2	2
			創造デザイン演習 Creative Design Practice	4	2	2
			実務実習 Business Practical Training	2	2	
			機械電気工学特論 Special Lecture in Mechanical Electrical Engineering	2	2	
			専攻科特別研究 Advanced Graduation Research	14	6	8
		選択科目 Elective Subjects	材料力学特論 Special Lecture on Mechanics of Materials	2		2
			変形加工学 Deformation Processing Science	2	2	
			機械設計特論 Special Lecture on Machine Design	2	2	
			CAE Computer Aided Design	2		2
			超精密加工 Ultra Precision Machining and Processing	2	2	
			材料強度学 Strength and Fracture of Materials	2	2	
			流体力学特論 Special Lecture on Fluid Dynamics	2	2	
			熱移動と流れの工学 Heat Transfer and Fluid Flow	2		2
			振動工学 Mechanical Vibration	2		2
			メカトロニクス特論 Advanced Mechatronics	2		2
			電磁気学特論 Advanced Electromagnetism	2	2	
			電気回路特論 Special Lecture on Electric Circuit	2	2	
			電子計測特論 Special Lecture on Electronic Instrumentation	2	2	
			情報システム工学 Information System Engineering	2	2	
			電子デバイス Electronic Devices	2	2	
			電子材料プロセス工学 Electronic Material for Processing	2		2
			電子物性工学 Electronic Solid-State Engineering	2		2
			気体電子工学 Gas Electronic Engineering	2		2
			放電工学 Electric Discharge Engineering	2		2
			パワーエレクトロニクス Power Electronics	2	2	
			通信工学特論 Special Lecture on Communication Engineering	2		2
		（専攻科目開設単位計） (Total of Credits Offered)		70	38	32
専門科目開設単位小計 Specialized Subject Sub-total Offered				88	46	42
一般・専門科目開設単位合計 Total of Credits Offered				102	56	46
一般・専門科目修得単位合計 Total of Credits Required				62 単位以上		

●物質工学専攻 Materials Engineering Advanced Course

区分 Classification			授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
専門科目 Specialized Subjects	専攻科目 Special advanced Subjects	必修科目 Required Subjects	科学技術英語 English in Science and Technology	2	2	
			物質工学特別実験 Special Experiments in Chemical Science and Engineering	4	4	
			創造デザイン演習 Creative Design Practice	4	2	2
			実務実習 Practical Training	2	2	
			物質工学特論 Special Lectures on Chemical Science and Engineering	2	2	
			専攻科特別研究 Advanced Graduation Research	14	6	8
		選択科目 Elective Subjects	化学反応論 Chemical Reactions	2		2
			無機合成化学 Inorganic Synthesis Chemistry	2	2	
			反応有機化学 Reaction Organic Chemistry	2	2	
			有機光化学 Organic Photochemistry	2		2
			分子生態学 Molecular Biology and Ecology	2		2
			蛋白質工学 Protein Engineering	2	2	
			生物物理化学 Biophysical Chemistry	2		2
			移動現象論 Transport Phenomena	2		2
			微粒子工学 Microsphere Engineering	2	2	
			応用触媒工学 Applied Catalyst Technology	2	2	
			新素材論 New Materials Development in Chemistry	2		2
			無機機能性材料 Functional Inorganic Materials	2		2
			機能性高分子 Functional Polymer	2	2	
			水質環境工学 Water Environmental Engineering	2		2
		（専攻科目開設単位計） (Total of Credits Offered)		56	30	26
専門科目開設単位小計 Specialized Subject Sub-total Offered				74	38	36
一般・専門科目開設単位合計 Total of Credits Offered				88	48	40
一般・専門科目修得単位合計 Total of Credits Required				62 単位以上		

●建築学専攻 Advancsd Course of Architecture

区分 Classification			授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
専門科目 Specialized Subjects	専攻科目 Special advanced Subjects	必修科目 Required Subjects	建築英語 Architectural English	2	2	
			創造デザイン演習 Creative Design Practice	4	2	2
			建築設計演習 Architectural Design Exercise	4	4	
			構造設計演習 Structural Design Exercises	4	4	
			建築実務実習 Practice of Architectural Design and Construction	2	2	
			建築学特論 Special Seminar in Architecture	2	2	
			専攻科特別研究 Advanced Graduation Research	14	6	8
		選択科目 Elective Subjects	建築計画学 Study on Architecture Planning and Design	2	2	
			地方住宅計画学 Local Housing	2		2
			西洋建築デザイン史 History of West Architectural design	2		2
			居住熱環境学 Dwelling Thermal Environment	2		2
			計算力学 Computational Mechanics	2		2
			連続体力学 Continuum Mechanics	2	2	
			コンクリート構造特論 Advanced Concrete Structure	2		2
			建築材料施工特論 Advanced Lecture on Building Materials and Construction	2	2	
			建築情報処理 Architectural Information Processing	2	2	
			建築 CAD 設計演習 Computer Aided Architectural Design	2	2	
			建築材料実験特論 Advanced Lecture on Building Materials Experiment	2		2
			地震工学 Earthquake Engineering	2	2	
		（専攻科目開設単位計） (Total of Credits Offered)		56	34	22
専門科目開設単位小計 Specialized Subject Sub-total Offered				74	42	32
一般・専門科目開設単位合計 Total of Credits Offered				88	52	36
一般・専門科目修得単位合計 Total of Credits Required				62 単位以上		

（注）建築設計演習及び構造設計演習は、いずれかの選択とする。

〔出典：学校要覧〕

（分析結果とその根拠理由）

専攻科では，「生産デザイン工学」プログラムを設定している。このプログラムは，学習・教育目標を全て網羅したものとなっており，プログラムの教育目標を達成するために必要な一般科目，専門共通科目及び専攻科目が設けられている。これらを担当する教員は，教育指導経験と研究業績とを評価確認した上で配置されている。また，より高度な実践的技術者の育成のために適切な非常勤講師を配置している。したがって，授業科目担当教員を適切に配置している。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

学科によっては年齢構成にやや不均衡が見られるが，学校全体としては年齢構成の均衡は保たれている。本校学習・教育目標に対応すべく，博士学位取得者，研究機関勤務経験者，企業勤務経験者等の採用により，教員組織の活動の活性化を図っている（資料３－１－④－１）。また，教員に対するキャリアアップの支援として，学位未取得者に対しての内地研究の推奨，博士後期課程への入学推進等，積極的な支援体制をとっている。

観点３－１－④　資料一覧

資料３－１－④－１　専任教員構成表

〔出典：総務課資料〕

資料３－１－④－１

専任教員構成表

学科名	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	平均年齢（歳）	男	女	教員数	博士号取得者数	取得率（%）	教育経験有り	実務経験有り	教育or実務経験有り	教育or実務経験有りの割合（%）
機械工学科	2	3	3	1	1	47	10	0	10	10	100%	1	5	6	60%
電気情報工学科	2	3	3	3	0	46	11	0	11	9	82%	2	5	6	55%
物質工学科	1	0	4	5	1	40	10	1	11	10	91%	3	1	4	36%
建築学科	1	3	3	2	0	48	9	0	9	6	67%	2	3	5	56%
（専門学科全体）	6	9	13	11	2	45	40	1	41	35	85%	8	14	21	51%
一般科目	1	10	5	3	1	48	18	2	20	9	45%	10	3	13	65%
全体	7	19	18	14	3	46	58	3	61	44	72%	18	17	34	56%
	11%	31%	30%	23%	5%										

※再雇用教員を含まず。

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

適正な年齢構成の配慮，博士学位取得者，研究機関勤務経験者，企業勤務経験者等の採用並びに学位未取得者に対する内地研究の推奨，博士後期課程への入学推進等，キャリアアップのための支援体制等を行っている。したがって，教員組織の活動を活性化するための措置を適切に講じている。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教育業績評価を実施する体制として，教育業績評価委員会が設置され，実際に評価が行われている（資料３－２－①－１～２）。教育業績評価方法の内容は，第１分野（教育活動），第２分野（学生指導），第３分野（学校運営）及び第４分野（地域連携及びその他）からなる。教育，研究，学校運営及び社会貢献において，特に顕著な功績をあげた教員に対する教員表彰を平成22年度から導入している（資料３－２－①－３～４）。教育業績評価に基づく教員組織の見直しは行っていないが，校長は教育業績評価の結果を十分に把握している。

また，教務委員会が毎年実施する学生による授業評価アンケート（資料３－２－①－５）に基づき，授業担当者が自己分析及び評価を行っている。この自己分析によって取り組まれた授業の改善については、授業改善調査を隔年ごとに実施している（資料３－２－①－６）。

観点３－２－①　資料一覧

資料３－２－①－１　都城工業高等専門学校教育業績評価実施要項
〔出典：規則集〕

資料３－２－①－２　都城工業高等専門学校教育業績評価委員会規則
〔出典：規則集〕

資料３－２－①－３　都城工業高等専門学校教員表彰規則
〔出典：規則集〕

資料３－２－①－４　都城工業高等専門学校教員表彰基準
〔出典：規則集〕

資料３－２－①－５　平成23年度授業評価アンケート報告書（表紙）
〔出典：学生課資料〕

資料３－２－①－６　授業改善調査結果（表紙）
〔出典：学生課資料〕

資料３－２－①－１

都城工業高等専門学校教育業績評価実施要項

１　目的

教員の教育業績等（研究活動を除く。）の評価を行い、教員の教育力の向上と教育活動及び学校運営への意欲の向上を図り、もって本校の高等教育機関としての質の向上を図ることを目的とする。

２　実施者

教育業績評価委員会の審議を踏まえて、校長が実施する。

３　評価項目

(1) 教育活動

・授業評価

・ＦＤ活動

(2) 学生指導

・学級担任

・就職進学業務

・校外実習等斡旋業務

・クラブ等指導

・学生相談支援室業務

(3) 学校運営

(4) 地域連携及びその他

・地域連携

・その他

４　評価及び調査方法

個々の教員は、自己点検評価に基づいて教育業績評価調査票に回答し、校長に提出する。（学生による評価及び他教員による評価は実施しない。）

５　教育業績評価の方法

提出された教育業績評価調査票をもとに、定められた評価点に基づき、項目毎の得点及び総合得点を算出して評価する。

６　評価結果の取扱い

校長は、全教員の教育業績評価（得点）結果を教育業績評価委員会に報告するとともに、各教員にその者の評価結果を、全体の得点分布等の参考資料を添付して通知する。

附　則

１　この要項は、平成２０年１２月２２日から施行する。

２　都城工業高等専門学校教育業績評価基礎調査実施要領（平成１７年４月１日制定）は、廃止する。

附　則

この要項は、平成２１年２月８日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－①－２

都城工業高等専門学校教育業績評価委員会規則

（趣旨）

第１条　都城工業高等専門学校における教員の教育業績評価の適切な実施と活用を検討するため、都城工業高等専門学校教育業績評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教員の個人別教育業績評価のための調査に関すること。

(2) 教員の個人別教育業績評価に関すること。

(3) 教員の個人別教育業績評価の活用に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、都城工業高等専門学校運営企画委員会規則第３条に規定する委員をもって組織する。ただし、事務部長は除く。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故あるときは、教務主事がその職務を代行する。

（定足数）

第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（委員以外の出席）

第６条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（事務）

第７条　委員会に関する事務は、総務課において処理する。

附　則

この規則は、平成１５年５月２６日から施行する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－①－３

都城工業高等専門学校教員表彰規則

（目的）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた教員を表彰することにより、本校の教育、研究等の諸活動の一層の向上を図ることを目的とする。

（表彰の時期）

第２条　教員表彰は、毎年４月に前年度の功績について表彰するものとする。

（表彰の種類）

第３条　この規則により行う教員表彰の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 総合部門賞（２人）　本校の教育、研究、学校運営、社会貢献等総合的に功績のあった教員を対象とするもの。

(2) 教科教育部門賞（１人）　講義、演習、実験・実習、卒業研究等教育において、特に功績のあった教員を対象とするもの。

(3) 学生指導部門賞（１人）　課外活動、クラス経営等学生の指導において、特に功績のあった教員を対象とするもの。

(4) 社会貢献部門賞（１人）　社会貢献により、特に本校の名誉を高めた教員を対象とするもの。

（推薦の方法）

第４条　副校長、校長補佐、専攻科長、学科長、一般科目文科長及び理科長は、前条第２号、第３号　及び第４号に規定する表彰に該当すると認められる教員（以下「候補者」という。）を別紙様式により校長に推薦するものとする。

（選考委員会）

第５条　教員表彰対象者の選考は、運営企画委員会（以下「委員会」という。）において行う。

２　委員会は、前条の規定により推薦のあった教員の中から教員表彰対象者を選考するものとする。

（表彰者の決定）

第６条　校長は、委員会の議に基づき、表彰する教員を決定する。

（表彰の方法）

第７条　教員表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。

２　前項の表彰状に添えて、記念品を贈呈することができる。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、教員表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成２２年１２月６日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成２３年５月１２日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－①－４

都城工業高等専門学校教員表彰基準

１　この基準は、都城工業高等専門学校教員表彰規則（平成２２年１２月６日制定）第８条の規定に基づき、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員表彰の対象者等具体的な基準を定める。

２　教員表彰の対象者は、当該年度の３月３１日現在で本校における勤務年数が３年以上の教員とする。

３　教員表彰を受賞した者は、当該受賞年度から５年間、同一部門での表彰の対象外とする。

４　総合部門賞の表彰対象者は、国立高等専門学校機構が実施する「国立高等専門学校教員顕彰」（以下「教員顕彰」という。）に校長が推薦した教員であり、かつ、本校が実施する「教育業績等自己評価アンケート」（以下「アンケート」という。）の総合得点において、成績が上位３分の１以内の教員とする。ただし、教員顕彰の各賞を受賞した教員は対象外とする。

５　教科教育部門賞の表彰対象者は、アンケートにおける「教育活動」の得点において、成績が上位３分の１以内の教員とする。

６　学生指導部門賞の表彰対象者は、アンケートにおける「学生指導」の得点において、成績が上位３分の１以内の教員とする。

７　社会貢献部門賞の表彰対象者は、アンケートにおける「地域連携及びその他」の得点において、成績が上位３分の１以内の教員とする。

８　総合部門賞の表彰対象者は、同年度の教科教育部門賞、学生指導部門賞及び社会貢献部門賞の表彰対象者から除くものとする。

附　則

この基準は、平成２２年１２月６日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

附　則

この基準は、平成２３年５月１２日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－①－５

平成23年度授業評価アンケート報告書（表紙）

平成２３年度
授業評価アンケート報告書
〔 本　科・専攻科 〕

平成２４年３月
都城工業高等専門学校

〔出典：学生課資料〕

資料３－２－①－６

授業改善調査結果（表紙）

平成２１・２２年度授業改善実績調査結果

調査期間：平成２３年１２月１日～１２月２２日
調査対象：全教員（非常勤講師を含む）
回答率：１００％

平成２４年２月
都城工業高等専門学校・教務委員会

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動に関する定期的な評価は，教育業績評価委員会が実施している。評価内容は第１分野（教育活動），第２分野（学生指導），第３分野（学校運営）及び第４分野（地域連携及びその他）とし，内容や実施体制が確立されている。また，教務委員会が毎年実施する学生による授業評価アンケートに基づき，授業担当者が自己分析及び評価を行い，授業改善に取り組んでいる。したがって，教員の教育活動に関する定期的な評価を行う体制を十分に整備し，実施している。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用については，基本方針・公募方法及び選考方法が定められている（資料３－２－②－１～２）。これらに基づき候補者の公募を行った上，定められた評価項目に基づき選考委員会において選考されている。昇格については，教員昇任に関する内規が定められ（資料３－２－②－３～４），定められた研究業績（論文数）及び教育実績（教育年数）によって昇任候補者が運営企画委員会で公開確認され，学級担任・主事補等の校務実績を考慮して校長が決定している。

観点３－２－②　資料一覧

資料３－２－②－１　都城工業高等専門学校における教員の採用に係る基本方針
〔出典：規則集〕

資料３－２－②－２　都城工業高等専門学校新任教員の採用に関する取扱要項
〔出典：規則集〕

資料３－２－②－３　都城工業高等専門学校の教員の昇任に関する内規
〔出典：規則集〕

資料３－２－②－４　都城工業高等専門学校の教員の昇任に関する内規の運用方針
〔出典：規則集〕

資料３－２－②－１

都城工業高等専門学校における教員の採用に係る基本方針

１　趣旨

都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に勤務する教授、准教授、講師（常時常勤する者に限る。）、助教及び助手（以下「教員」という。）の採用については、高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）に定めるもののほか、この基本方針の定めるところによる。

２　教員選考の原則

(1) 教員の選考は、本校の教育理念、教育目標及び将来構想に沿って行う。

(2) 教員の選考は、公募を原則とする。

(3) 教員の選考は、高等専門学校の特徴である５年一貫教育の中での実践的技術者の育成、学生生活指導等の教育能力並びに研究能力及びその他必要な能力を総合的に評価して行う。

(4) 教員の選考は、社会人、外国人及び障害者の採用について配慮し、特に女性教員の増加に努めるものとする。

３　教員の選考方法

(1) 教員選考の公募に当たっては、採用の条件等を明確にする。

(2) 教員の選考に当たっては、書類審査のほか、面接、模擬授業、講演等の多様な方法を用いて、教育の能力等を具体的に評価する。

(3) 教員の選考に関する取扱いについては、別に定める。

４　教員選考結果の公表

校長は、教員の選考過程の客観性・透明性を高めるために、応募者のプライバシーに配慮した上で、教員選考の経過及び結果を公表する。

附　則

この基本方針は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

この基本方針は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－②－２

都城工業高等専門学校新任教員の採用に関する取扱要項

１　新任教員採用の発議

(1) 教員の採用枠増、定年又は退職等の申し出による学外からの新任教員採用の発議は、校長が、学科又は一般科目（以下「学科」という。）の学科長と協議の上行う。

(2) 校長は、新任教員選考委員会の設置を運営企画委員会に要請する。

(3) 運営企画委員会は、この設置に関する事項を処理する。

２　新任教員選考委員会

(1) 設置及び構成

新任教員選考委員会（以下「委員会」という。）は、運営企画委員会への要請後１ヶ月以内に設置するものとする。

委員会の構成は、採用を予定している学科（以下「当該学科」という。）の教員２名、３主事、主事が在籍していない学科の中から選ばれた教員（原則として１名）とする。

当該学科には、学科長を含めることとする。ただし、一般科目の場合は、教科担当の責任者とすることができる。

主事が在籍していない学科については、運営企画委員会でその選出する学科を決定し、その学科は適当な委員を推薦する。

(2) 委員

委員は准教授以上で構成する。ただし、当該学科が一般科目の場合、その専門性に特殊な事情があるときは、講師（常時勤務する者に限る。）以上とすることができる。

(3) 委員長

委員会に委員長を置き、委員長は教務主事とする。

(4) 採用条件原案

委員長は、次の項目に関する採用条件原案の提出を当該学科長に求める。

１．所属学科　　２．職　名　　３．担当科目・専門分野

４．資格（学歴・研究歴・教育歴・年齢等）　　５．採用予定年月日

６．その他当該学科が必要とする項目

(5) 審議

採用条件原案に基づき、採用条件を決定する。

(6) 募集要項

募集要項は次の項目について作成する。

１．所属学科　　２．職　名　　３．担当科目・専門分野

４．資格（学歴・研究歴・教育歴・年齢等）　　５．採用予定年月日

６．提出書類　　７．応募締切日　　８．選考方法　　９．提出先

10．問合せ先　　11．募集方法（学術情報ネットワークを含む。）

(7) 公募

学内に募集要項を周知し、関係機関等に公募を行う。

(8) 選考方法

書類審査及び面接を行う。面接は、委員全員と校長が行う。

(9) 選考

委員会は、委員の合議により、応募者の中から採用候補者の選考を行い、原則として複数の採用候補者に順位を付ける。

(10) 選考経過報告書の作成・提出

委員長は、選考の経過及び採用候補者名を記した「選考経過報告書」を校長に提出する。

(11) 解散

委員会は、採用決定に関するすべての業務が終了したときに解散する。

(12) 事務

委員会に関する事務は、総務課において処理する。

3　採用予定者の決定

(1) 校長は、委員会からの「選考経過報告書」の提出を受けて、採用予定者を決定する。採用予定者が、「選考経過報告書」で示された採用候補者１位の者と異なる場合は、その理由を委員会に報告する。

(2) 運営委員会への報告

校長は、選考経過を含めて採用予定者の決定を運営企画委員会に報告する。

附　則

この要項は、平成１１年７月２８日から施行する。

附　則

この要項は、平成１４年６月１０日から施行する。

附　則

この要項は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この要項は、平成１７年６月６日から施行する。

附　則

この要項は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－②－３

都城工業高等専門学校の教員の昇任に関する内規

第１条　この内規は、本校に在職する教員の昇任の資格要件について定めることを目的とする。

第２条　教員の昇任選考は、この内規に基づき研究業績、教育補導業績及び年令等を考慮し行うものとする。

第３条　昇任の資格を有する者は、原則としてそれぞれ次に掲げる要件を有するものとする。

(1) 教授に昇任する場合は、博士の学位を有し、准教授及び助教授の経歴を通算して５年以上で論文５編以上

(2) 准教授に昇任する場合は、博士の学位を有し、講師（常時勤務する者に限る。）の経歴が３年以上で論文３編以上

(3) 講師（常時勤務する者に限る。）に昇任する場合は、大学院の修士課程修了者は助教又は助手の経歴が１年以上（ただし、大学の学部卒業者は４年以上）で論文１編以上

２　前項各号に掲げる者のほか、校長がそれぞれ各号と同等以上の能力があると認めた者

第４条　前条第１項の論文は研究論文及び教育論文とする。

第５条　前条の論文は、それぞれ昇任選考時の職名で発表したものに限る。

第６条　第３条第１項の論文の編数は、発表機関又は発表の形態により一定の範囲で調整することができる。

第７条　共同研究による論文については、共同研究の形態等を考慮して論文編数を調整するものとする。

第８条　前２条の調整は、運営企画委員会の議を経て行うものとする。

附　則

１　この内規は昭和５２年１１月１６日から施行する。

２　教官の昇格に関する内規（昭和４７年１月２６日施行）は廃止する。

附　則

この内規は平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この内規は平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この内規は平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－２－②－４

都城工業高等専門学校の教員の昇任に関する内規の運用方針

１．第３条第１項関係

第１号の教授の選考にあっては、学科内の教員の構成等を考慮する。

２．第３条第２項関係

本項の運用にあたっては、次に掲げる事項を考慮する。

(1) 学会賞等顕著な業績があった者

(2) 准教授に昇任させる場合にあっては、本校における講師の経歴をおおむね１０年程度有し、本校の教育活動、学生生活指導等に貢献したと認められる者

(3) 主事又は主事補に相当年数就任し、第３条第１項各号に定める論文数が若干不足する場合も考慮する。

(4) 相当の年令に達し第３条第１項各号に定める論文数が不足する場合は年令に応じて考慮する。

(5) 採用枠等の関係で第３条第１項各号の年数以上下位職にとどまっていた者については、その年数及びその職における業績を考慮して二段上位の職への昇任を選考することができる。

(6) 博士の学位取得者で第３条第１項各号に定める経歴年数が不足する場合は業績等に応じて考慮する。

３．第４条関係

(1) 「研究論文」とは、専攻に関する４ページ以上の論文をいう。

(2) 「教育論文」は、教務、厚生補導等学生の教育に関する４ページ以上の論文をいう。

４．第６条関係

(1) 本校の研究報告に発表した論文は１編とする。

(2) レフェリー付きの全国学会誌に発表した論文は、４ページ未満でも１編とみなす。

(3) レフェリー付きの全国学会誌で発表した論文は、単著又はファーストネームで２編、セカンドネーム以下で１編とする。

(4) 博士論文は１編で５編相当とする。

(5) 和文の論文を学会等の要請で英文で発表した論文は、内容が同一であれば１編としない。

(6) 学会又は学会に準じた機関に発表の講演概要集等で４ページ以上の論文形式をとるものは１編とする。ただし、レフェリー付きで国際学会等に発表の論文の形式をとるものは４ページ未満でも１編とする。

５．第７条関係

本校の研究報告に発表した共同研究による論文は、１編とする。

６．その他

特別の場合は、その都度運営企画委員会に諮り選考する。

附　則

この運用方針は、昭和５２年１１月１６日から施行する。

附　則

この運用方針は、平成１０年４月１日から施行する。

附　則

この運用方針は、平成１１年７月９日から施行し、平成１１年４月１日から適用する。

附　則

この運用方針は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この運用方針は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この運用方針は、平成１９年４月１日から施行する

〔出典：規則集〕

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用については，新任教員採用諸規則により候補者の公募を行った上，新任教員選考委員会において，定められた方法で選考されている。昇任については，教員昇任に関する内規が定められ，研究業績のみならず，教育実績及び校務実績も考慮した昇任が行われている。したがって，教員の採用・昇任について，関連諸規則を明確に定め適切に運用している。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

事務職員については，教務係，学生係及び図書係が教育課程を展開するために適正な人数で，機能的に配置されている（資料３－３－①－１～２）。また，技術職員は，技術支援センターに組織化され（資料３－３－①－３～４），各学科等の要請に対して，１）実験・卒研等の技術支援，２）教育・研究用装置等の制作・開発支援，３）各種実験・実習装置，工作関連機器装置の保守・管理支援，４）教員の研究等への補助，５）毒・劇物及び危険物の処理・管理等の支援を十分行えるように，必要な人材と人員を確保し配置している（資料３－３－①－４～８）。

観点３－３－①　資料一覧

資料３－３－①－１　都城工業高等専門学校事務組織規則
〔出典：規則集〕

資料３－３－①－２　都城工業高等専門学校事務分掌細則
〔出典：規則集〕

資料３－３－①－３　組織概要
〔出典：学校要覧〕

資料３－３－①－４　事務職員・技術職員の配置状況
〔出典：総務課資料〕

資料３－３－①－５　都城工業高等専門学校技術組織規則
〔出典：規則集〕

資料３－３－①－６　都城工業高等専門学校技術支援センター規則
〔出典：規則集〕

資料３－３－①－７　技術支援センター
〔出典：学校要覧〕

資料３－３－①－８　技術支援等一覧
〔出典：技術支援センター資料〕

資料３－３－①－１

都城工業高等専門学校事務組織規則

（趣旨）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成１６年４月１日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）及び都城工業高等専門学校学則（昭和３９年４月１日制定）第１１条の規定に基づき、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌について必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　本校事務部に総務課及び学生課を置く。

２　総務課に次の係を置く。

(1) 総務係

(2) 人事係

(3) 企画係

(4) 財務係

(5) 契約係

(6) 施設係

３　学生課に次の係を置く。

(1) 教務係

(2) 図書係

(3) 学生係

(4) 寮務係

（事務部長）

第３条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。

（課長）

第４条　課に課長を置く。

２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

（課長補佐）

第５条　課に課長補佐を置く。

２　課長補佐は、上司の命を受け、課の事務を処理し、課長を補佐する。

（係長）

第６条　係に係長を置く。

２　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

（主任）

第７条　係に主任を置くことができる。

２　主任は、係長を補佐し、所掌事務を処理する。

（総務課及び学生課の所掌事務）

第８条　総務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 中期目標・中期計画に関すること。
(2) 自己点検・評価に関すること。
(3) 外部評価に関すること。
(4) 評議員会に関すること
(5) 国際交流に関すること。
(6) 教職員の研修に関すること。
(7) 機密に関すること。
(8) 儀式及び会議に関すること。
(9) 渉外に関すること。
(10) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
(11) 公印の管守に関すること。
(12) 文書類の接受、発送、編集及び保管に関すること。
(13) 広報に関すること。
(14) 学術団体との連絡に関すること。
(15) 自動車の配車及び管理に関すること。
(16) 校内警備に関すること。
(17) 情報公開及び個人情報保護に関すること。
(18) 教職員の任免、人員管理等に関すること。
(19) 教職員の給与、所得税等に関すること。
(20) 教職員の服務に関すること。
(21) 労働時間の管理、休暇等に関すること。
(22) 教職員の賞罰に関すること。
(23) 事務系職員の業務改善等の評価に関すること。
(24) 教職員の安全衛生等に関すること。
(25) 教職員の災害補償等に関すること。
(26) 退職手当に関すること。
(27) 共済組合及び福利厚生に関すること。
(28) 労働組合に関すること。
(29) 人事記録に関すること。
(30) 教職員の出張に関すること。
(31) 内地研究員、在外研究員等に関すること。
(32) 科学研究費に関すること。
(33) 研究助成及び外部資金に関すること。
(34) 知的財産に関すること。
(35) 公開講座に関すること。
(36) 地域連携に関すること。
(37) 事務情報化に関すること。
(38) 情報セキュリティに関すること。

(39) 予算及び決算に関すること。
(40) 財務の監査に関すること。
(41) 収入及び支出に関すること。
(42) 債権管理に関すること。
(43) 有価証券に関すること。
(44) 不動産に関すること。
(45) 職員宿舎に関すること。
(46) 防災に関すること。
(47) 契約に関すること。
(48) 物品管理に関すること。
(49) 土地、施設及び設備の維持保全に関すること。
(50) 学校環境の整備保全に関すること。
(51) その他総務課の所掌に属すること。

第９条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜に関すること。
(2) 入試広報に関すること。
(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(4) 学生のインターンシップに関すること。
(5) 学生の特別活動に関すること。
(6) 学生の授業評価に関すること。
(7) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(8) 学生の修学指導及び進学支援に関すること。
(9) 学生の身分異動に関すること。
(10) 学位授与申請に関すること。
(11) 技術者教育プログラムに関すること。
(12) 研究生、聴講生及び科目等履修生に関すること。
(13) 図書館資料の受入れ及び管理運営に関すること。
(14) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関すること。
(15) 図書館資料の予算及び経理に関すること。
(16) 学生の福利厚生及び保健管理に関すること。
(17) 学生の厚生施設及び保健施設の管理運営に関すること。
(18) 学生の団体、集会、掲示及び出版物に関すること。
(19) 学生の課外活動に関すること。
(20) 学生の奨学金、入学料・授業料の減免及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関すること。
(21) 学生の就学支援金に関すること。
(22) 学生の旅客運賃割引証に関すること。
(23) 学生の職業指導及び就職に関すること。
(24) 学生の表彰及び懲戒に関すること。

(25) 学寮の管理運営に関すること。
(26) 学生の入寮及び退寮に関すること。
(27) 寮生の指導監督に関すること。
(29) その他学生課の所掌に属すること。
（事務の分掌）
第１０条　課長補佐及び各係の事務分掌については、別に定める。
附　則
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則は、廃止する。
附　則
この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－３－①－２

都城工業高等専門学校事務分掌細則

第１条　都城工業高等専門学校事務組織規則第１０条に基づく事務分掌は、この細則の定　めるところによる。

第２条　総務課課長補佐（総務担当）においては、次の事務をつかさどる。

(1) 総務課総務係、人事係及び企画係（以下「総務系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。

(2) 中期目標・中期計画に関すること。

(3) 自己点検・評価に関すること。

(4) 外部評価に関すること。

(5) 評議員会に関すること。

(6) 機関別認証評価による審査に関すること。

(7) 国際交流に関すること。

(8) 教職員の研修に関すること。

(9) その他総務課総務系に関する事務で重要な企画、調査に関すること。

第３条　総務係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 本校の事務に係る総括及び連絡調整に関すること。

(2) 機密に関すること。

(3) 儀式及び会議に関すること。

(4) 渉外に関すること。

(5) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。

(6) 公印の管守に関すること。

(7) 文書類の接受、発送、編集及び保管に関すること。

(8) 広報に関すること。

(9) 学校要覧及び学園だよりの発行に関すること。

(10) 学術団体との連絡に関すること。

(11) 自動車の配車及び管理に関すること。

(12) 校内警備に関すること。

(13) 情報公開に関すること。

(14) 個人情報保護に関すること。

(15) 総務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。

(16) 他の係の所掌に属しない事務を処理すること。

(17) その他総務に関すること。

第４条　人事係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 教職員の任免、休職等に関すること。

(2) 教職員の人員管理に関すること。

(3) 教職員の本給、諸手当、所得税等に関すること。

(4) 教職員の服務規律等に関すること。

(5) 教職員のハラスメント防止に関すること。
(6) 教職員の兼業に関すること。
(7) 労働時間の管理、休暇等に関すること。
(8) 名誉教授に関すること。
(9) 栄典及び表彰に関すること。
(10) 教職員の懲戒等に関すること。
(11) 事務系職員の業務改善等の評価に関すること。
(12) 教職員の安全衛生に関すること。
(13) 教職員の健康管理及びレクリエーションに関すること。
(14) 教職員の災害補償に関すること。
(15) 教職員の雇用保険に関すること。
(16) 退職手当に関すること。
(17) 共済組合に関すること。
(18) 勤労者財産形成貯蓄等に関すること。
(19) 労働組合に関すること。
(20) 人事記録に関すること。
(21) 教職員の身分証明その他諸証明に関すること。
(22) 教職員の出張に関すること。
(23) 内地研究員及び在外研究員に関すること。
(24) 高専・両技科大間教員交流に関すること。
(25) 人事係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(26) その他人事に関すること。

第５条　企画係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 科学研究費に関すること。
(2) 共同研究、受託研究及び寄附金に関すること。
(3) 研究助成に関すること。
(4) 知的財産に関すること。
(5) 公開講座及び出前授業に関すること。
(6) 地域連携に関すること。
(7) 地域連携センターに関すること。
(8) 事務情報化に関すること。
(9) 情報セキュリティに関すること。
(10) 企画係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(11) その他企画に関すること。

第６条　総務課課長補佐（財務担当）においては、次の事務をつかさどる。
(1) 総務課財務係、契約係及び施設係（以下「財務系」という。）に関する事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2) 財務の諸規則に関すること。

(3) 予算に関すること。
(4) 損害保険プログラムに関すること。
(5) その他総務課財務系に関する事務で重要な企画及び分析に関すること。

第７条　財務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 決算に関すること。
(2) 財務の監査に関すること。
(3) 収入及び支出に関すること。
(4) 債権管理に関すること。
(5) 有価証券に関すること。
(6) 旅費及び諸謝金に関すること。
(7) 科学研究費補助金等預り金の経理に関すること。
(8) 不動産に関すること。
(9) 職員宿舎に関すること。
(10) 防災に関すること。
(11) 財務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(12) 財務系の事務で他の係に属しない事項に関すること。
(13) その他財務に関すること。

第８条　契約係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 物品の調達、修理及び役務（以下「物品等」という。）の契約及び検査に関すること（施設係所掌の修理及び役務に属するものを除く。）。
(2) 物品の管理に関すること。
(3) 物品の寄附受入れに関すること。
(4) 不用物品の処分に関すること。
(5) 契約係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(6) その他契約に関すること。

第９条　施設係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 工事の企画、設計、入札、契約及び検査に関すること。
(2) 土地、建物、建物附属設備及び構築物の維持管理に関すること。
(3) 電気、水道、ガス、電話及び冷暖房設備等の維持保全に関すること。
(4) 環境マネジメントに関すること。
(5) 施設点検・評価等に関すること。
(6) 施設に係る安全管理に関すること。
(7) 修理及び役務の契約及び検査に関すること。
(8) 施設係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(9) その他施設に関すること。

第１０条　学生課課長補佐（教務担当）においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生課教務係及び図書係（以下「教務系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。

(2) 学生募集及び入学者の選抜に関すること。
(3) 入試広報に関すること。
(4) 電子計算機センター及び技術支援センターに関すること。
(5) その他学生課教務系に関する事務で重要な企画、調査に関すること。

第１１条　教務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 教育課程に関すること。
(2) 学生の工場見学及びインターンシップに関すること。
(3) 学生の特別活動に関すること。
(4) 教科書及び教材に関すること。
(5) 授業及び試験に関すること。
(6) 学生の授業評価に関すること。
(7) 学業成績及び指導要録の管理に関すること。
(8) 学生の修学指導及び進学支援に関すること。
(9) 学生の入学、進級及び卒業に関すること。
(10) 学生の休学、復学、転学及び退学に関すること。
(11) 学生の出欠等に関すること。
(12) 学位授与申請に関すること。
(13) 技術者教育プログラムに関すること。
(14) 研究生、聴講生及び科目等履修生に関すること。
(15) 学生課に属する公印の管守に関すること。
(16) 学生の身分、学業成績及び卒業等の諸証明に関すること。
(17) 学生便覧及び授業計画（シラバス）の発行に関すること。
(18) 教務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(19) 教務系の事務で他の係に属しない事項に関すること。
(20) その他教務に関すること。

第１２条　図書係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 図書原簿の保管に関すること。
(2) 図書館資料の受入れ及び登録に関すること。
(3) 図書館資料の整理及び保管に関すること。
(4) 図書館資料の収集及び広報に関すること。
(5) 寄贈図書に関すること。
(6) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関すること。
(7) 図書館資料の検索指導及び読書相談等に関すること。
(8) 他機関との相互利用に関すること。
(9) 図書館資料の予算及び経理に関すること。
(10) 図書館資料の契約に関すること。
(11) 研究紀要の発行に関すること。
(12) 図書係に係る調査統計その他諸報告に関すること。

(13) 図書情報システムの維持管理等に関すること。
(14) その他図書に関すること。
第１３条　学生課課長補佐（学生担当）においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生課学生係及び寮務係（以下「学生系」という。）の事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2) 学生の就職支援に関すること。
(3) 学生の課外活動に関すること。
(4) 学生の福利厚生に関すること。
(5) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
(6) 学生の厚生施設及び保健施設の管理運営に関すること。
(7) その他学生課学生系に関する事務で重要な企画、調査に関すること。
第１４条　学生係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 保健管理に関すること。
(2) 学生の団体、集会、掲示及び出版物に関すること。
(3) 学生の奨学金に関すること。
(4) 入学料・授業料の減免及び徴収猶予に関すること。
(5) 就学支援金に関すること。
(6) 学生の旅客運賃割引証に関すること。
(7) 日本スポーツ振興センター災害共済給付制度及び傷害保険に関すること。
(8) 学生相談に関すること。
(9) 学生の通学証明書に関すること。
(10) 学生係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(11) 学生系の事務で他の係に属しない事項に関すること。
(12) その他学生に関すること。
第１５条　寮務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学寮の管理運営に関すること。
(2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
(3) 寮生の生活指導に関すること。
(4) 寮生の食事及び栄養管理に関すること。
(5) 寮生の保健管理に関すること。
(6) 寮生の福利厚生に関すること。
(7) 寄宿料の免除に関すること。
(8) 学寮の教員宿直に関すること。
(9) 給食委託業者の管理指導に関すること。
(10) 外国人留学生に関すること。
(11) 寮務係に係る調査統計その他諸報告に関すること。
(12) その他寮務に関すること。
附　則

この細則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この細則は、平成１９年９月３日から施行する。

附　則

この細則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この細則は、平成２４年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料３－３－①－３

組織概要

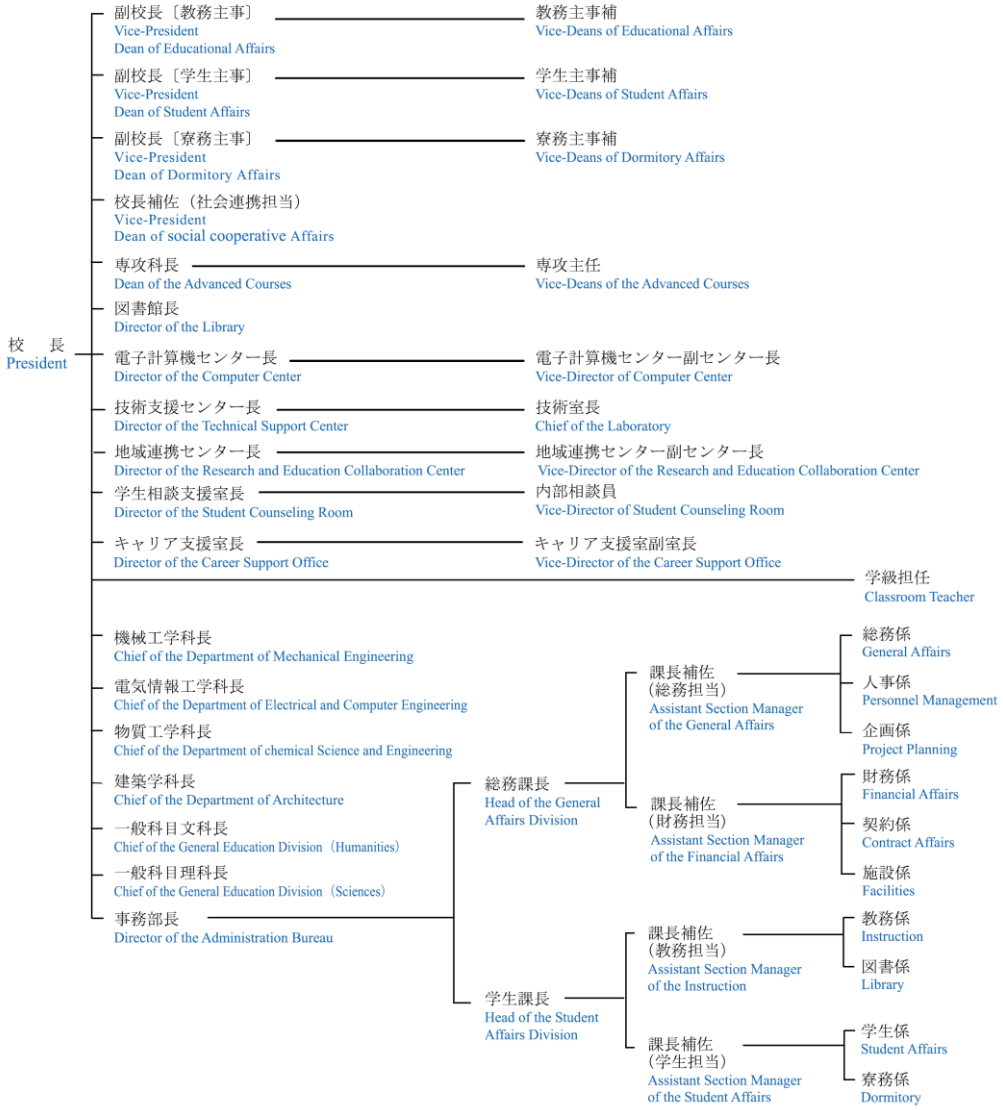
組織概要 Organization

現員 Present Number of Staff

平成 24 年 4 月 1 日現在　As of Apr. 1 ,2012

区　分 Classification	教　育　職　員 Academic Staff					事務系職員 Administrative staff	教室系技術職員 Educational technical staff	計 Total
	校　長 President	教　授 Professor	准教授 Associate professor	講　師 Assistant professor	助　教 Research associate			
現　員 Present Number	1	25	27	3	6	27	13	102

組織図 Organization



〔出典：学校要覧〕

資料３－３－①－４

事務職員・技術職員の配置状況

【事務部】

			事務職員	技術職員	看護師・栄養士	再雇用職員・有期雇用職員・非常勤職員
事務部	事務部長		1			
	総務課	課長	1			
		課長補佐	2			
		総務係	1			1
		人事係	3			1
		企画係	1			1
		財務係	3			
		契約係	2			1
		施設係		2		
	学生課	課長	1			
		課長補佐	2			
		教務係	3			7
		図書係	1			1
		学生係	1		1	1
		寮務係	1		1	
計			23	2	2	13

【技術支援センター】

		技術職員	再雇用職員
技術支援センター	センター長・技術長	1	
	第1技術室	3	1
	第2技術室	3	
	第3技術室	3	
	第4技術室	3	
計		13	1

※平成24年5月1日現在

〔出典：総務課資料〕

資料３－３－①－５

都城工業高等専門学校技術組織規則

（趣旨）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（機構規則第４号）第１２条及び都城工業高等専門学校学則（昭和３９年４月１日制定）第１１条の規定に基づき、都城工業高等専門学校において、教育研究に係る技術支援業務を行う技術組織について必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　技術組織に、技術長、技術専門員、技術専門職員及び技術職員を置く。

２　技術長は、技術専門員の中から校長が任命する。

３　技術長は、校長の命を受け、技術専門員、技術専門職員及び技術職員の業務を統括する。

４　技術専門員は、上司の命を受け、極めて高度の専門的な技術をもって、技術に従事する。

５　技術専門職員は、上司の命を受け、高度の専門的な技術をもって、技術に従事する。

６　技術職員は、上司の命を受け、専門的な技術をもって、技術に従事する。

（業務）

第３条　技術組織は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 学生の実験及び実習の技術的指導に関すること。

(2) 卒業研究の技術的指導に関すること。

(3) 学生の教育教材製作の技術的指導に関すること。

(4) 教員の研究活動の技術支援に関すること。

(5) 民間との共同研究の技術支援に関すること。

(6) 新技術の技術支援に関すること。

(7) 実験室、実習室等の設備及び備品の維持管理に関すること。

(8) 実習用材料の準備及び保管に関すること。

(9) 学生の課外活動の技術的指導に関すること。

(10) 公開講座、オープンキャンパスその他学校行事への技術的指導に関すること。

(11) 実験室、実習室等の事故防止に関すること。

(12) 技術組織に係る調査統計その他諸報告に関すること。

(13) 技術の継承及び保存並びに連絡調整に関すること。

附　則

この規則は、平成２３年５月１２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

〔出典：規則集〕

資料３－３－①－６

都城工業高等専門学校技術支援センター規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育及び研究に対する技術支援並びに地域社会との連携を推進するため、都城工業高等専門学校技術支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 教育及び研究に対する技術支援に関すること。

(2) 地域社会及び企業との連携及び技術協力に関すること。

(3) 学内の技術業務に対する窓口に関すること。

(4) その他センターに関すること。

（室）

第３条　センターに次の各号に掲げる室を置く。

(1) 第１技術室（基礎加工に関する室）

(2) 第２技術室（複合技術に関する室）

(3) 第３技術室（環境材料・情報制御に関する室）

(4) 第４技術室（分析測定に関する室）

（組織）

第４条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 室長

(3) 室員

（センター長）

第５条　センター長は、本校の技術長をもって充てる。

２　センター長は、センターの業務を総括する。

（室長）

第６条　室長は、本校の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。

２　室長は、当該室の業務を遂行するとともに、室員に対し技術的な指導及び育成に当たる。

（室員）

第７条　室員は、本校の技術専門職員又は技術職員の中から校長が任命する。

２　室員は、当該室の業務に従事する。

（運営委員会）

第８条　センターの円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校技術支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。

（事務）

第９条　センターの事務は、技術組織において処理する。

附　則

１　この規則は、平成２３年５月１２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

２　都城工業高等専門学校技術支援センター規則（平成２１年４月１日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料３－３－①－７

技術支援センター

技術支援センター Technical Support Center

組織概要

技術支援センターは、教育研究支援を行う技術職員の組織として平成 21 年 4 月に設置されました。本センターは、実験実習や研究及び課外活動等への技術的支援を行い、それらを通して学生をレベルのより高い技術者として育成することや、地域社会に対して広く技術的なサービスを提供し貢献することを目的としています。

業務内容

(1) 学生の行う実習、実験、研究等への技術支援
(2) 教育研究用装置等の開発及び設計制作
(3) 各種実験実習装置や工作機械等の保守管理
(4) 毒物、劇物や危険物の処置管理
(5) ロボット製作局や低燃費車製作部等の課外活動への技術指導
(6) 高専祭や文化祭での技術指導
(7) その他、学内外での技術支援や技術指導

The Purpose of This Center

This center was established in April, 2009 as an organization of the technical staff to assist education and research in our college. The center aims to bring up students to excellent engineers by providing technical support for experiments, practice, research and extracurricular activities, and to contribute to the community by offering technical services widely.

Details of Project

(1) Providing technical support for practice, experiments and research conducted by the students
(2) Designing and developing devices for education and research
(3) Maintaining devices and machine tools for practice and experiments
(4) Safekeeping and dealing with poisonous and dangerous substances
(5) Providing technical support for extracurricular activities such as robot contest club and fuel-efficient car club, for the events of college festival, and for other internal and external activities

〔出典：学校要覧〕

資料３－３－①－８

技術支援等一覧

○機械工学科
- 工作実習　1～3学年
- 基礎実験　3学年
- 工学実験　4～5学年
- 創造設計　4学年
- 卒業研究　5学年

○電気情報工学科
- 電気基礎実験　2～3学年（前期）
- 情報工学実験　4学年
- 電子・通信実験　4～5学年（前期）
- 電気機器実験　3～4学年
- 卒業研究　5学年

○物質工学科
- 基礎化学実験　1学年(前期)
- 分析化学実験　1学年(後期)
- 2学年(前期)
- 有機化学実験　3学年(前期)
- 無機化学実験　3学年(後期)
- 物質工学実験　4学年(前期)
- 機器分析実験　4学年
- 化学工学実験　5学年
- 卒業研究　5学年

○建築学科
- 建築学実験　3学年
- 建築学実験　5学年(前期)
- 建築学研究　4学年(後期)
- 卒業研究　5学年

○一般学科
- 科学実験　1学年
- 物理実験　2学年（後期）
- 応用物理実験　4学年（後期）

○専攻科
- 創造デザイン演習
- 専攻科特別研究
- 専攻科特別実験
- 建築材料実験特論

○課外活動等　技術指導
- ロボット製作局
- 低燃費車製作研究部
- 文化祭研究発表（各学科）
- デザコン

○地域貢献支援事業
- おもちゃ病院
- ロボットフェスティバル
- 出前授業・出前実験

○その他学内業務
- 廃液処理
- 電子計算機センター支援
- 地域連携センターＩＴ技術支援
- 情報基礎演習技術支援

○学外技術支援活動
- モンゴルでの技術支援
- 鹿屋体育大学への技術支援
- 宮大水力発電への技術支援
- ケーブルテレビへの技術支援

〔出典：技術支援センター資料〕

（分析結果とその根拠理由）

事務職員については，各係に適切な人材・人数を配置し，最適な運営を行っている。技術職員については，技術支援センターを中心として，分野の異なる各学科等を十分支援できるように，必要な人材と人員を確保している。したがって，教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者を適切に配置している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育の目的を達成するために，専門科目では，本校の学習・教育目標のうち，目標(１)「あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成」及び目標(２)「科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し，新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成」を中心としたカリキュラム編成を行っており，一般科目では，目標(３)「世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成」と目標(４)「自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み，継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成」を中心にカリキュラム編成を行っている。

教育業績評価は行われており，本校の教育，研究，学校運営及び社会貢献において，特に顕著な功績をあげた教員に対する教員表彰を平成22年度から導入している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

学校の目的を実現するための教育課程に設けられた一般科目及び専門科目には，それぞれを担当するにふさわしい，教育歴と研究実績に基礎づけられた専門性を有した教員が充てられており，目的達成のために適切な教員配置となっている。また，教員組織の活性化を図るために，適正な年齢構成の配慮，博士学位取得者，研究機関勤務経験者，企業勤務経験者等の様々な経歴をもつ教員を積極的に採用するとともに，教員に対するキャリアアップの支援として，学位未取得者に対しての内地研究の推奨，博士後期課程への入学推進等，積極的な支援体制をとっている。

教員の採用については，新任教員採用諸規則により，定められた方法で選考されており，昇格については，教員昇任に関する内規を定め，研究業績のみならず，教育実績及び校務実績も考慮した昇任を行っており，教員の採用・昇任のいずれにおいても，関連諸規則を明確に定め適切に運用している。

教員の教育活動に関する総括的な評価を実施する体制として，教育業績評価委員会を中心とする体制が確立している。また，教務委員会が毎年実施する学生による授業評価アンケートに基づき，授業担当者が自己分析及び評価を行っており，授業改善調査についても隔年ごとに実施している。したがって，教員の教育活動に関する定期的な評価を行う体制を十分に整備し，実施している。

事務職員については，各係に適切な人材を配置し，最適な運営を行っている。技術職員については，技術支援センターを中心として，分野の異なる各学科等を十分支援できるように，必要な

人材を確保し，適切に配置している。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校が求める学生像は，本科（準学士課程）及び専攻科のアドミッション・ポリシーとして示しており，本科学生募集要項，編入学生募集要項及び専攻科学生募集要項に記載している（資料４－１－①－１～３）。

アドミッション・ポリシーは，教育理念及び学習・教育目標に基づいて，平成16年度本科入学試験検討委員会（資料４－1－①－４）及び専攻科入学試験検討委員会(資料４－１－①－５)において審議を重ね，入学試験実施委員会において了承した（資料４－１－①－６）。平成17年３月以降ホームページ上に公表し（資料４－１－①－７），募集要項以外にも，入学案内パンフレットに明示している（資料４－１－①－８）。

また，毎年，本校主催の９地区における進学説明会及び中学校主催の学校説明会（毎年 50 校程度）の席上において，本科入学希望者に対して，教育理念及び学習・教育目標を説明し，本校が求める学生像への理解を求めてきた（資料４－１－①－９～10）。一方，編入学及び専攻科入学希望者に対しては，入学案内パンフレットやホームページ上の入学案内欄に教育理念及び学習・教育目標等を掲載し，本校が求める学生像を示している（資料４－１－①－11～14）。

教職員に対しては，教務指導部からアドミッション・ポリシーに関する通知を配付することで周知徹底を図っている（資料４－１－①－15）。

観点４－１－①　資料一覧

資料４－１－①－１　学生募集要項（アドミッション・ポリシー掲載頁）
〔出典：学生募集要項〕

資料４－１－①－２　編入学生募集要項（アドミッション・ポリシー掲載頁）
〔出典：編入学生募集要項〕

資料４－１－①－３　専攻科学生募集要項（アドミッション・ポリシー掲載頁）
〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－１－①－４　本部入学試験検討委員会議事要録（アドミッション・ポリシー決定関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－５　専攻科入学試験検討委員会議事要録（アドミッション・ポリシー決定関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－６　入学試験実施委員会議事要録（アドミッション・ポリシー決定関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－７　ホームページ（アドミッション・ポリシー掲載頁）
〔出典：ホームページ〕

資料４－１－①－８　入学案内パンフレット（アドミッション・ポリシー掲載頁）
〔出典：入学案内パンフレット〕

資料４－１－①－９　学校説明会資料（アドミッション・ポリシー掲載頁）
〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－10　入学志願者確保の施策の実績及び各年度志願倍率
〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－11　学生募集要項（教育理念、学習・教育目標掲載頁）
〔出典：学生募集要項〕

資料４－１－①－12　編入学生募集要項（教育理念、学習・教育目標掲載頁）
〔出典：編入学生募集要項〕

資料４－１－①－13　専攻科学生募集要項（学習・教育目標掲載頁）
〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－１－①－14　ホームページ（教育理念、学習・教育目標掲載頁）
〔出典：ホームページ〕

資料４－１－①－15　教務主事通知
〔出典：教務主事資料〕

資料４－１－①－１

学生募集要項（アドミッション・ポリシー掲載頁）

入　学　案　内

１．創　立

昭和 39 年４月１日

２．目　的

本校は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、５年間の一貫教育により、豊かな創造性、優れた知性、高度な社会性、確かな実行力及び健全な心身をもった技術者を育成することを目的としています。

３．都城高専の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1) 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2) 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3) 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4) 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5) 心身ともに健全な人



※上記のマークは本校の学習・教育目標の口ゴマークです。

４．学習・教育目標

(1) あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
(2) 科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
(3) 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
(4) 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

５．修業年限・学科等

学　科	修業年限	学級数	入学定員	総　定　員
機 械 工 学 科	5	1	４０	２００
電気情報工学科	5	1	４０	２００
物 質 工 学 科	5	1	４０	２００
建　築　学　科	5	1	４０	２００
計			１６０	８００

６．卒業生の称号

卒業生には、準学士の称号が授与されます。

－８－

〔出典：学生募集要項〕

資料４－１－①－２

編入学生募集要項（アドミッション・ポリシー掲載頁）

入　学　案　内

１．創　　立

昭和39年４月１日

２．目　　的

本校は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、５年間の一貫教育により、豊かな創造性、優れた知性、高度な社会性、確かな実行力及び健全な心身をもった技術者を育成することを目的としています。

３．都城高専の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1)　様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2)　科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3)　技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4)　責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5)　心身ともに健全な人

※上記のマークは、本校の学習・教育目標のロゴマークです。

４．学習・教育目標

(1)　あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
(2)　科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
(3)　世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
(4)　自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

５．修業年限・学科等

編入学生の修業年限　　２年

学　　科	修業年限	学 級 数	入学定員	総 定 員
機 械 工 学 科	5	1	４０	２００
電気情報工学科	5	1	４０	２００
物 質 工 学 科	5	1	４０	２００
建　築　学　科	5	1	４０	２００
計			１６０	８００

６．卒業生の称号

準学士の称号が付与されます。

－5－

〔出典：編入学生募集要項〕

資料４－１－①－３

専攻科学生募集要項（アドミッション・ポリシー掲載頁）

平成25年度 専攻科学生募集要項

Ⅰ. 募 集 定 員

専　　攻	定　　員
機械電気工学専攻	８ 人
物 質 工 学 専 攻	４ 人
建 築 学 専 攻	４ 人
計	１６ 人

Ⅱ. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、学校長の推薦による選抜、学力による選抜及び社会人特別選抜とし、次の日程で行います。

選 抜 の 種 類	選 抜 期 日	選 抜 人 数
1 学校長の推薦による選抜	平成24年 5月11日（金）	定員の５割程度
2 学力による選抜		定員の５割程度
① 前期学力選抜	平成24年 5月30日（水）	
② 後期学力選抜	平成24年 8月31日（金）	
3 社会人特別選抜	平成24年 8月31日（金）	若干人

第2次入学者選抜の実施に関する詳細情報

平成２４年１０月以降に本校のホームページに掲載する。

（※前期・後期・社会人特別選抜の結果、募集定員が満たない時に実施する場合がある。）

Ⅲ. 専攻科の入学者受入れ方針(アドミッションポリシー)

(1) 科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人
(2) より高い専門的な技術を磨く意欲のある人
(3) 技術者として地域社会および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
(4) 社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人
(5) 心身ともに健全な人

Ⅳ. 専攻科修了要件の確認について

(「生産デザイン工学」プログラムについては、11 頁を参照)

専攻科を修了するためには、本校が定める「生産デザイン工学」プログラムの修了要件（学位取得を除く。）を満たさなければなりません。このプログラムは、本科４年・５年・専攻科１年・２年で完成するものです。そこで、専攻科終了時点で、このプログラムを修了できるか、本科４年・５年又はこれに相当する教育課程での修得科目と単位数を事前に確認する必要があります。志願者側で確認できない場合、その他不明な場合は、入学願書受付開始日の２週間前までに本校学生課教務係へお問い合わせください。

〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－１－①－４

本科入学試験検討委員会議事要録（アドミッション・ポリシー決定関係）

平成１６年度第８回入試検討委員会議事要録

(本科)

日　　時　　平成１７年1月２６日（水）１６：００～１７：２５
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　樋渡、教務主事、渡部、森（寛）、樋口、藤永、武田
事務担当　　学生課長、専門員、教務係長

配布資料
資料１　　平成１７年度推薦入学選抜試験合否判定資料
資料２　　平成１７年度学力検査選抜実施要項
資料３　　アドミッションポリシー及び推薦選抜方法

議　　題
１　平成１７年度推薦入試の判定結果について
　１月２５日に行われた標記入試の合否判定資料について教務係長から説明があり、次に、教務主事から入試実施部局で作成した合格候補者の原案について次のとおり説明があった。

入試実施委員会に提案することが了承された。

２　平成１７年度学力検査選抜実施要項について
　２月２０日に行われる標記要項について、昨年度の実施方法を継承した内容全般について教務係長から説明があり、入試当日の実施体制については２月１６日の入試説明会において詳細を説明するとした上でこのことが了承された。

３　平成１８年度入試について（継続）

前回、学科協議となったアドミッションポリシーの原案について特に意見はなかったが、建築学科から出された修正案について配布資料３により建築学科から説明があった。

これによると学習・教育目標を基本にした５項目の原案に対し、基本的な考え方を示した導入部から推薦及び学力選抜までを含む包括的な構成となっている中で核となる５項目が述べられている。原案との比較検討の上、５項目については次のように修正した。

①様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
②科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
③技術者として社会に役立ちたいと考えている人
④責任をもって継続的にものごとを実行できる人
⑤心身ともに健全な人

「推薦選抜の基本方針」については、推薦入学者選抜実施要項により「推薦による入学者の選抜は、作文・面接、調査書、推薦書及び健康診断の総合判定により行い、入学定員の４０％程度とする。」とし、「学力選抜の基本方針」については学力検査選抜実施要項により「学力検査による入学者の選抜は、学力検査の成績、調査書及び健康診断の結果を総合評価し、総得点の高い順に志望学科ごとに選抜する。」とした。

建築学科の修正案を基に検討して作成した上記を新たに原案として次回２月７日(月)に集約する方向で学科に説明することが確認された。

〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－５

専攻科入学試験検討委員会議事要録（アドミッション・ポリシー決定関係）

平成１６年度第８回入試検討委員会議事要録

(専攻科)

日　　時　　平成１７年1月１９日（水）１８：２０～１９：００
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　専攻科長、山中、須田（代理）、松崎
欠 席 者　　教務主事、野地
事務担当　　学生課長、専門員、教務係長
配付資料
　資料１　　専攻科後期第３次学生募集要項
　資料２　　平成１７年度専攻科後期第３次学力選抜実施要項

議　　題
１　平成１７年度専攻科後期第３次学力選抜入学試験の実施について

２　平成１７年度専攻科後期第３次学力選抜実施要項について
　後期第２次学力選抜実施要項を準用した標記実施要項について、教務係長から配布資料２により説明があり、審議の結果、判定要件については前回と同じ方法により行うことを確認した。

３　専攻科のアドミッションポリシーについて
　前回に続き平成１８年度入試に向けアドミッションポリシーについて審議した。全専攻と各専攻を考える上で本科は教育・学習目標を基本にしていること、入試における面接で採用を想定した質問事項を満たすものであることなどを踏まえ審議した結果、全専攻共通とすること、面接調査書の内容・水準を満たすものであることとし、今週中に委員長と山中委員で原案を作成することが了承された。

〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－６

入学試験実施委員会議事要録（アドミッション・ポリシー決定関係）

平成１６年度第１０回入学試験実施委員会議事要録

日　　時　　平成１７年2月２３日（水）１６：１５～１６：５０
場　　所　　第1会議室
出 席 者　　校長、教務主事、学生主事、野村(代理)、剣田、国府、須田、渡部、樋渡、森（寛）、樋口、藤永、武田、崎山、野町、松崎、若生、事務部長、学生課長
欠 席 者　　寮務主事、武田、板倉
事務担当　　教務係長、

配付資料
資料１　平成１７年度入学試験合否判定資料
資料２　平成１７年度入学試験合格者原案
資料３　アドミッションポリシー

議　題
［本科関係］
１　平成１７年度入学学力試験の合否判定について
標記選抜試験の配布資料１の見方について教務係長から説明があり、次いで、入試検討委員会委員長から、合格候補者の原案について配布資料２により説明があった。審議の結果、機械工学科の合格候補者４３人を筆頭に４学科の合格候補者を以下のとおりとし、定員割れが生じた場合のみ追加合格候補の上位者から充当することが了承された。
（学科順位番号で表示）

なお、物質工学科から提案のあった追加合格者の取扱いについては、定員割れが生じた場合に学科と協議することが確認された。

２　アドミッションポリシーについて
　２月２２日の入試検討委員会において最終確認した５項目からなる標記内容について入試検討委員長から配布資料３により説明があり、審議の結果、このことが了承された。

３　その他
　２月２０日に実施された本年度の入試において主な反省点として教務主事から以下の意見があった。
①
②
③
④

⑤
⑥

〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－７

ホームページ（アドミッション・ポリシー掲載頁）

入学者受入方針（本科）

1. 都城高専では，本校の教育理念及び学習・教育目標に基づき，以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています．

（1）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
（2）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
（3）技術者として社会に役立ちたいと考えている人
（4）責任をもって継続的にものごとを実行できる人
（5）心身ともに健全な人

2. 推薦による入学者の選抜

推薦による入学者の選抜は，中学校長から提出された推薦書、調査書、及び作文・面接の総合判定により行います．

3. 学力検査による入学者の選抜

学力検査による入学者の選抜は、理科、英語、数学、国語、社会の5教科による筆答試験の結果と，中学校長から提出された調査書の総合判定により行います．

入学者受入方針（専攻科）

1. 都城高専専攻科では，以下の項目を満足する能力と適性を備えた学生を求めています．

（1）科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人
（2）より高い専門的な技術力を磨く意欲のある人
（3）技術者として地域および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
（4）社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人
（5）心身ともに健全な人

〔出典：ホームページ〕

資料４－１－①－８

入学案内パンフレット（アドミッション・ポリシー掲載頁）

あなたの豊かな未来のために

若者よ世界のエンジニアに

都城高専は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とする5年制の国立学校で、こんな「あなた」に来てほしいと思っています。

- 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
- 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
- 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
- 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
- 心身ともに健全な人



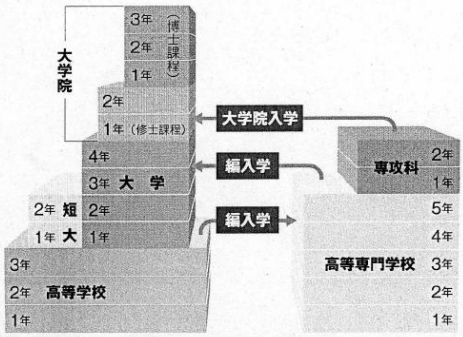
※上記のマークは、本校の学習・教育目標のロゴマークです。

入学すると、高等学校で学ぶ英語、数学、国語のような一般科目の他に、1年生のときから実験、実習、設計製図等をとくに重視した専門科目も学べるようにしてあります。卒業生には、「準学士」の称号が付与され、将来、エンジニアとしての活躍を夢見る無限の可能性を秘めた若者が学ぶのにふさわしい学校です。

5年間の学生時代は、年齢的にみて一番大切な時期にあたります。本校の学習教育目標の下に、あらゆる可能性を追求できる実践的技術者の育成が図られると同時に、学生生活を充実したものとするため、合宿研修、各種の学校行事、学生会活動等、学科を超えた全学生の交流の機会を計画、実施しています。また、課外活動が活発で、スポーツ、文化の両面にわたって成果をあげており、校内では、のびのびと成長し、勉学とクラブに活躍する学生の姿が見られます。

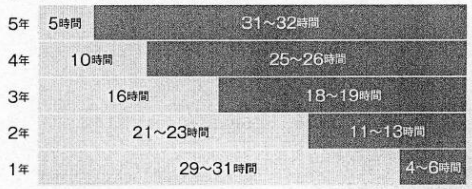
都城高専の特徴

- 本校には、機械工学科、電気情報工学科、物質工学科及び建築学科の4学科があります。
- 5年間にわたり、勉強と部活動を両立させながら、本校の専攻科を含む大学等への進学や就職ができます。
- 就職に関しては、各学科とも最大限の努力を払っており、毎年ほぼ100%の成果を上げています。
- 進学に関しては、全国ほとんどの国立大学第3学年へ編入学できる道が開かれています。進学者の多くは、大学院へ進学して専門の研究を深めています。
- 本校には専攻科が設置されており、専攻科で2年間学ぶことで大学と同じ**「学士」**の学位を得ることができます。
- 4年生からJABEE認定の「生産デザイン工学」プログラムを全員履修することになっています。専攻科を修了すると、**「技術士補」**の資格も得られるようになっています。
- 3年生から外国人留学生が在学し、校内において学生同士の国際化が図られている他、モンゴル国立科学技術大学と学術交流協定を結び共同研究を進めています。
- コミュニケーションのできる英語能力養成と自分の学力を知り、自信をもってさらに上達するように、英語検定やTOEICの受験を推進しています。
- 学生の図書館利用が活発で市民にも開放（午後8時閉館）しています。
- 学生数は843名（内女子が215名、外国人留学生が3名）
- 学習以外にロボットコンテスト、デザインコンペティション、プログラミングコンテスト等、自分の能力を発揮できる機会が用意されています。



本校の専攻科には、各専門学科を母体とし、「機械電気工学専攻」「物質工学専攻」及び「建築学専攻」の3専攻があります。

一般科目と専門科目の学年別比較



一般科目　専門科目

【注】時間:週当たりの授業時間数　学科により若干の差異があります。

-3-

〔出典：入学案内パンフレット〕

資料４－１－①－９

学校説明会資料（アドミッション・ポリシー掲載頁）

平成２４年度

都城圏域中学校への進学説明会資料



日　　時　　平成２４年６月１５日（金）

場　　所　　都城高専・多目的ホール

教務に関する説明資料

教務主事

１．都城高専の教育理念と求める人物像

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

都城高専は、次のような学生を求めています。（アドミッションポリシー）

１）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
２）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
３）技術者として社会に役立ちたいと考えている人
４）責任をもって継続的にものごとを実行できる人
５）心身ともに健全な人

オープンキャンパス　７月２７日（金）開催

２．学科について

都城高専には、次の４つの学科があります。いずれも１学年１クラスで、クラス定員は４０名です。

・機械工学科　　M（Mechanical Engineering）
・電気情報工学科　E（Electrical and Computer Engineering）
・物質工学科　　C（Chemical Science and Engineering）
・建築学科　　A（Architecture）

３．都城高専の歴史（学校歴）

昭和３９年に設立され、２年後に創立５０周年を迎えます。
中学を卒業した１５才から２２才までの若者、約９００名が学んでいます。そのうち、約３００名は、学生寮で生活しています。その学生寮の名前は、「高千穂寮」です。

都城高専は、全国に５１校ある国立高専の１つで、卒業後、工学の分野で活躍できる、***創造力と実践力***とを備えた人を育てる学校です。修業年限は１年から５年までの５年間です。最初の３年間は、高等学校にあたります。次の２年間は大学の１，２年にあたります。次の図の右側が、高等専門学校（高専）に該当します。

都城高専５年を卒業した学生の３分の２は企業などに就職します。３分の１は、本校専攻科（２年間）か国公立や私立大学の３年に編入学しています。専攻科を卒業した学生の一部は就職し、他は大学の大学院に進学しています。

〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－10

入学志願者確保の施策の実績及び各年度志願倍率

施策名	回数等	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
ポスター	部数	400	400	400	400	400
入学案内パンフレット	部数	10,000	12,000	12,000	10,000	10,000
中学校主催の進学説明会（本校単独説明を含む）	出席回数	37	56	48	49	48
本校主催地区別進学説明会	開催地区	延岡 日向 都城 小林 鹿屋 宮崎 鹿児島	延岡 日向 都城 小林 鹿屋 宮崎 鹿児島	延岡 日向 都城 小林 鹿屋 宮崎 鹿児島	延岡 日向 都城 小林 鹿屋 宮崎 鹿児島	延岡 日向 都城 小林 鹿屋 宮崎 鹿児島
都城圏域中学校への進学説明会（中学校長等対象）	出席校数	20	22	22	19	22
宮崎・西都・児湯地区中学校への進学説明会（中学校長等対象）	出席校数			16（初回）	11	8
オープンキャンパス	参加者数	427人 90校	418人 85校	584人 96校	510人 91校	541人 93校
高等教育コンソーシアム宮崎合同進学説明会・模擬授業への参加	有無	参加	参加	参加	参加	参加
学外試験会場の設置	会場	鹿児島 延岡	鹿児島 延岡	鹿児島 延岡 宮崎	鹿児島 延岡 宮崎	鹿児島 延岡 宮崎
志願倍率（入学年度ではなく入学試験実施年度に記載）	倍	1.78	1.70	1.71	1.40	1.70

〔出典：学生課資料〕

資料４－１－①－11

学生募集要項（教育理念、学習・教育目標掲載頁）

入　学　案　内

１．創　立

昭和 39 年４月１日

２．目　的

本校は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、５年間の一貫教育により、豊かな創造性、優れた知性、高度な社会性、確かな実行力及び健全な心身をもった技術者を育成することを目的としています。

３．都城高専の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1) 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2) 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3) 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4) 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5) 心身ともに健全な人



※上記のマークは本校の学習・教育目標の口ゴマークです。

４．学習・教育目標

(1) あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
(2) 科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
(3) 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
(4) 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

５．修業年限・学科等

学　科	修業年限	学級数	入学定員	総　定　員
機 械 工 学 科	5	1	４０	２００
電気情報工学科	5	1	４０	２００
物 質 工 学 科	5	1	４０	２００
建　築　学　科	5	1	４０	２００
計			１６０	８００

６．卒業生の称号

卒業生には、準学士の称号が授与されます。

〔出典：学生募集要項〕

資料４－１－①－12

編入学生募集要項（教育理念、学習・教育目標掲載頁）

入　学　案　内

１．創　　立

昭和39年４月１日

２．目　　的

本校は、「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、５年間の一貫教育により、豊かな創造性、優れた知性、高度な社会性、確かな実行力及び健全な心身をもった技術者を育成することを目的としています。

３．都城高専の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1)　様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2)　科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3)　技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4)　責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5)　心身ともに健全な人

※上記のマークは、本校の学習・教育目標のロゴマークです。

４．学習・教育目標

(1)　あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
(2)　科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
(3)　世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
(4)　自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

５．修業年限・学科等

編入学生の修業年限　　２年

学　　科	修業年限	学 級 数	入学定員	総 定 員
機 械 工 学 科	5	1	４０	２００
電気情報工学科	5	1	４０	２００
物 質 工 学 科	5	1	４０	２００
建　築　学　科	5	1	４０	２００
計			１６０	８００

６．卒業生の称号

準学士の称号が付与されます。

－5－

〔出典：編入学生募集要項〕

資料４－１－①－13

専攻科学生募集要項（学習・教育目標掲載頁）

入　学　案　内

１．専攻科の学習・教育目標

(1) あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
(2) 科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し，新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
(3) 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
(4) 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み，継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

２．専攻科名及び入学定員

機械電気工学専攻	８人
物質工学専攻	４人
建築学専攻	４人

３．修業年限及び修了要件

修業年限　２年
修了要件　62 単位以上修得
「生産デザイン工学」プログラムの修了要件（学位取得を除く。）を満たすこと。

４．専攻科の教育目的

○機械電気工学専攻
１）機械工学・電気情報工学の基礎知識と技能を基盤として、両工学分野の連携技術に対応できる技術者を養成する。
２）高度化した設計・開発・研究に対応できる創造的なデザイン能力と問題解決能力を備えた技術者を養成する。

○物質工学専攻
１）物質工学の基礎的・実践的知識および技術の上に、より高度な新素材開発技術、物質生産技術および環境保全技術を有する技術者を養成する。
２）化学工業界の要望に応えることのできる総合的知識に基づいた幅広い視野と創造性を持つ技術者を養成する。

○建築学専攻
１）建築の特定分野において、高度な責任能力を有し、自ら問題を発見し解決できる能力を有する人材を養成する。
２）建築文化の発展と豊かな都市空間の創造に寄与できる人材を養成する。

５．専攻科の履修方法

専攻科の履修科目は「一般科目」「専門共通科目」「専門専攻科目」で構成されています。専攻科修了要件は合計 62 単位以上ですが、「一般科目」を 6 単位以上、「専門共通科目」を 8 単位以上、「専門専攻科目」を 38 単位以上修得する必要があります。
なお、各専攻における開設科目については、別表の各専攻教育課程表を参照してください。

-11-

〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－１－①－14

ホームページ（教育理念、学習・教育目標掲載頁）

教育理念と教育目標

教 育 理 念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

学 習 ・ 教 育 目 標

1　あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
2　科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し，新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
3　世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
4　自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み，継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

〔出典：ホームページ〕

資料４－１－①－15

教務主事通知

タイトル: **アドミションポリシーについて : fcpri**　　ページ 1 / 1

差出人:　森茂龍一 nkg　　2012年4月16日 7:55:01

件名:　アドミションポリシーについて

宛先:　全教職員

教職員の皆様へ

アドミッションポリシーについて

教務主事／認証評価委員会

新年度が始まり約2週間が経過致しました。

早速ではありますが、昨年度1月に本校の教職員（非常勤講師含む）の皆様へ教育理念や学習・教育目標等のアンケートを実施致しました。
現在、認証評価委員会においてはアンケート等の分析結果を踏まえ、その対応について検討しております。

その中で本校のアドミッションポリシーの教職員の理解度が低いのではないか旨のご意見がありましたので下記のように掲載致します。
再度ご確認くだされば幸いです。

なお、本校のアドミッションポリシーは、入学案内等に記載され、また、新入生、編入生、保護者の各説明会、そして新任教員研修会では必ず説明しております。

以上、よろしくお願い申し上げます。

記

都城高専のアドミッションポリシー（本校は次のような学生を求めています。）

1）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人

2）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がる人

3）技術者として社会に役立ちたいと考えている人

4）責任をもって継続的にものごとを実行できる人

5）心身ともに健全な人

〔出典：教務主事資料〕

（分析結果とその根拠理由）

学習・教育目標を達成するため，本科及び専攻科でのアドミッション・ポリシーを設定している。そのアドミッション・ポリシーは，ホームページ，募集要項，入学案内パンフレット等により，社会及び本校の受験を考慮している中学生に理解されやすい形で公表しており，教職員に対しても文書等でアドミッション・ポリシーの周知を図っている。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，（資料４－２－①－１～３）に示す入学者選抜実施規則に従って学生選抜を行っている。

本科入学試験では，各学科の定員の40％程度を推薦選抜で選抜するが，その推薦基準は中学校における９教科３年間の内申点合計114以上であり，面接，作文及び調査書の内申点を総合して行っている。この推薦選抜では，調査書の成績を重視するとともに，アドミッション・ポリシーに基づいた作文課題（資料４－２－①－４）及び面接質問項目（資料４－２－①－１）を受験生に課している。作文においては，「ものづくりを楽しむ」等のアドミッション・ポリシーに則した内容の課題を課している。一方，面接試験においても（資料４－２－①－１）に示すように，質問票には，アドミッション・ポリシーに沿って，能力，資質等を問うことができるように，アドミッション・ポリシーを注記している。

本科入学試験の学力選抜では，５教科の学力検査（各科目100点満点）の結果と中学校における９教科３年間の５段階評価の合計とを総合して得点化し，選抜している。学科は第２志望まで志望させ，第２志望での入学者数を原則として定員の25％以内としている。

一方，編入学及び専攻科の入学試験においても，面接試験で本科推薦選抜と同様に，関心・意欲，学生生活，将来の目標及び基本的な生活態度に関する共通質問項目を設けることにより，アドミッション・ポリシーに適合する学生であるか否かを判断している（資料４－２－①－２～３）。さらに，編入学試験問題及び専攻科入学試験の学力選抜試験問題も，科学と工学の基礎学力を測る問題を出題している。専攻科のアドミッション・ポリシー（３）の「国際社会の発展に貢献できる素養のある人」という条件に，より明確に対応するために専攻科入学試験の推薦選抜においては，平成24年度から出願資格として「TOEICテスト300点以上」という条件を導入している（資料４－２－①－５～６）。また，専攻科入学試験の学力選抜においても，平成24年度から英語科目の筆記試験に代えて，TOEIC試験のスコアを100点満点に換算し，得点化している（資料４－２－①－７）。

観点４－２－①　資料一覧

資料４－２－①－１　入学者推薦選抜実施要項（アドミッション・ポリシー関連抜粋）
〔出典：入学者推薦選抜実施要項〕

資料４－２－①－２　編入学選抜実施要項（アドミッション・ポリシー関連抜粋）
〔出典：編入学選抜実施要項〕

資料４－２－①－３　専攻科入学者推薦選抜実施要項（アドミッション・ポリシー関連抜粋）
〔出典：専攻科入学者推薦選抜実施要項〕

資料４－２－①－４　推薦選抜における作文の課題
〔出典：ホームページ〕

資料４－２－①－５　専攻科入試推薦選抜
〔出典：ホームページ〕

資料４－２－①－６　専攻科推薦選抜の出願資格
〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－２－①－７　専攻科学力選抜の方法
〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－２－①－１

入学者推薦選抜実施要項（アドミッション・ポリシー関連抜粋）

平成２４年度　推薦選抜試験面接調査書

採点者　＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

1 受験者氏名＿＿＿＿＿＿　受験番号＿＿＿＿＿＿＿＿

2 志望学科＿＿＿＿＿＿

6 都城高専の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

(1) 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2) 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3) 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4) 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5) 心身ともに健全な人

〔出典：入学者推薦選抜実施要項〕

資料４－２－①－２

編入学選抜実施要項（アドミッション・ポリシー関連抜粋）

別紙３

平成２４年度編入学試験面接調査書

採点者　　㊞

1 受験者氏名＿＿＿＿＿＿　受験番号＿＿＿＿＿＿＿＿

2 志望学科＿＿＿＿＿＿

6 都城高専の入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1) 様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
(2) 科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
(3) 技術者として社会に役立ちたいと考えている人
(4) 責任をもって継続的にものごとを実行できる人
(5) 心身ともに健全な人

〔出典：編入学選抜実施要項〕

資料４－２－①－３

専攻科入学者推薦選抜実施要項（アドミッション・ポリシー関連抜粋）

別紙２

平成２３年度専攻科入試面接調査書（推薦選抜用）

採 点 者 ＿＿＿＿＿＿ ㊞

1 受験者氏名 ＿＿＿＿＿＿　受験番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿

2 志 望 専 攻 ＿＿＿＿＿＿

6 専攻科入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

(1) 科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人
(2) より高い専門的な技術を磨く意欲のある人
(3) 技術者として地域社会および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
(4) 社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人
(5) 心身ともに健全な人

〔出典：専攻科入学者推薦選抜実施要項〕

資料４－２－①－４

推薦選抜における作文の課題

★都城工業高等専門学校入学試験の「推薦による入学者の選抜」における過去５年間の「作文の課題」は、下記のとおりです。

記

入試年度	作　文　の　課　題
平成１９年度	高専に期待するもの
平成２０年度	私から見た高専の魅力
平成２１年度	将来の社会人としての夢と高専入学
平成２２年度	将来、社会人として社会にどのように貢献したいか
平成２３年度	夢を実現するため高専で何をしたいか

〔出典：ホームページ〕

資料４－２－①－５

専攻科入試推薦選抜

平成２４年度専攻科入試推薦選抜について

本校では、平成２４年度専攻科入試から、推薦選抜の「出願資格」として「TOEICテスト300点以上」の条件を導入します。それに伴い、出願の際、出願日からさかのぼって１年以内のTOEIC公開テストの公式認定証又はTOEIC-IPテストの個人成績表の原本を提出することとなります。（この原本の提出がない場合、出願できませんので注意願います。）

なお、詳細につきましては、平成２３年４月上旬に公表予定の平成２４年度専攻科学生募集要項に掲載します。

平成２２年１０月２８日

都城工業高等専門学校

〔出典：ホームページ〕

資料４－２－①－６

専攻科推薦選抜の出願資格

Ⅴ．学校長の推薦による選抜

１．出願資格

(1) 平成25年3月に高等専門学校を卒業見込みの者で、学校長が学業成績及び人物とも優れていると認め推薦する者
(2) TOEICテストのスコアが300点以上の者
(3) 本校に合格した場合、確実に入学する意志がある者

２．出願手続

(1) 願書受付
期　間　　平成24年4月23日（月）～5月2日（水）
(郵送の場合は、5月2日必着とします。)
時　間　　午前9時から午後5時まで
場　所　　都城工業高等専門学校　学生課教務係
〒885-8567　都城市吉尾町４７３番地の１

※①　郵送の場合は、必ず書留としてください。
②　郵送の場合は、速達料金350円切手を貼付した返信用封筒(末尾添付)を同封してください。

(2) 出願に必要な書類等

出願書類等	摘　　要
入学願書	本校所定の用紙により、必要事項を記入してください。
調査書	本校所定の用紙により、出身学校長が作成し厳封してください。
推薦書	本校所定の用紙により、出身学校長が作成してください。
TOEICの公式認定証等	出願日からさかのぼって1年以内のTOEIC公開テストの公式認定証又はTOEIC-IPテストの個人成績表の原本
受験票 受験写真票	写真（縦4cm×横3cm）は、出願以前3か月以内に撮影した正面・上半身・脱帽・無背景のものを所定の位置に貼付してください。
入学検定料	入学検定料16,500円は、本校所定の「振込依頼書」により志願者本人の氏名で、銀行等の窓口で振り込みください（郵便局では振り込みできません）。 振込み後、取扱銀行出納印のある「C票振込金受付証明書」を【振込金受付証明書「都城工業高等専門学校」「入学検定料」貼付欄】に貼付してください。
その他	現在、日本国内に在住する外国人は、市町村長が発行する「外国人登録済証明書」を提出してください。

(3) 出願に関する注意事項
① 出願書類の不備なものは受け付けできません。
② 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
③ 願書提出後の記載事項の変更は認めません。
④ 受理した出願書類及び検定料は、いかなる理由があっても返還しません。

-2-

〔出典：専攻科学生募集要項〕

資料４－２－①－７

専攻科学力選抜の方法

その他	現在、日本国内に在住する外国人は、市町村長が発行する「外国人登録済証明書」を提出してください。

(3) 出願に関する注意事項
学校長の推薦による選抜に同じ（2頁参照）

３．選抜の方法

入学者の選抜は、学力試験の成績、面接、ＴＯＥＩＣの成績及び調査書の結果を総合して行います。

○ 学力検査の出題科目

試験科目		摘要
英語		ＴＯＥＩＣのスコアを１００点満点に成績換算する。 （ＴＯＥＩＣのスコア３５０点が６０点となる換算式により換算）
数学		微分積分（微分方程式を含む。）及び線形代数
専門	機械電気工学	次の①②のうちいずれかを選択 ① 材料力学、水力学及び熱力学の3科目中2科目と機械工作法及び材料学の2科目中1科目の合計3科目を選択 ② 電気磁気学、電気回路、電子回路及び情報の4科目中2科目を選択
	物質工学	分析化学、有機化学、無機化学、物理化学、生物化学及び 化学工学の6科目中3科目を選択
	建築学	建築計画、建築環境工学及び建築構造力学

(注)　目盛付定規及び電卓の使用を許可することがありますので、準備すること。

４．選抜の日時及び場所

日時	科目	時間	場所
平成24年 5月30日(水)	数学 専門科目 面接	９：１０～１０：１０ １０：３０～１２：１０ １３：３０～	都城工業高等専門学校

(注) 開始30分前までに本校の指定する場所に集合してください。

５．合格者の発表

平成24年 6月7日(木)　午前10時
本校に掲示するとともに、合格者に合格通知書を交付します。
(電話等による合否の問い合わせには一切応じられません。)
また、同時刻にインターネット上の都城高専ホームページ（http：//www.miyakonojo-nct.ac.jp）で合格者の受験番号を発表します。

６．身体に障害を有する入学志願者の事前相談

身体に障害を有する志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、

-5-

〔出典：専攻科学生募集要項〕

（分析結果とその根拠理由）

本科入学試験の学力選抜においては，アドミッション・ポリシーに定めた資質等を備えた学生を選抜するために，学力試験の結果と調査書の内申点を総合して合否を判断している。編入学試験問題及び専攻科入学試験の学力選抜試験問題も，科学と工学の基礎学力を測る問題を出題している。

本科及び専攻科入学試験の推薦選抜に関しては，調査書の成績を重視し，面接試験においてもアドミッション・ポリシーに記載されている能力，資質等を問う質問を行っている。

編入学試験及び専攻科入学試験の面接試験においても，本科入学試験の推薦選抜と同様に，関心・意欲，学生生活，将来の目標及び基本的な生活態度に関する質問項目を設けることによって，アドミッション・ポリシーに適合する学生であるか否かを判断している。また，専攻科入学試験の英語科目の試験では，TOEIC 試験のスコアを判定に導入することにより，専攻科のアドミッション・ポリシー（３）の条件に適合した学生の受入れを行っている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

本校では，入学試験実施委員会（本科・専攻科別）において，合否判定を行うとともに，その委員会の下に設けている入学試験検討委員会（本科・専攻科別）において，入学試験の実施状況及び学生の受入状況を調査・検討し，その結果を入学者選抜方法等の改善に役立てている。例えば，平成18年度から本科入学試験の推薦選抜による合格者数を，定員の40%程度まで拡大するとともに，推薦基準（内申点）の見直しを行うこととした。平成18年度には，推薦選抜における評価基準の改訂（面接評価の点数化）も行った（資料４－２－②－１～２）。また，従来の鹿児島市，延岡市に加えて，宮崎市に学外検査会場を設け，受験者の増加を図っている（資料４－２－②－３～４）。これらの学外検査会場の設定が適切かどうかを，毎年入学試験検討委員会で調査及び検討している。なお，過去５年間における入学者の中学時代の調査書平均点は５点満点で4.1点以上であり（資料４－２－②－５），入学者の中学時代の学力は高い水準にある。

専攻科入学試験においても専攻科入学試験検討委員会を設置し，入学試験の実施状況等を調査及び検討し，改善を図っている。従来，学力試験の得点に傾きがちであった判定方法を，面接及び内申書を得点化することによって，総合的に判断するように変更したこと等が，その一例である（資料４－２－②－６～７）。

観点４－２－②　資料一覧

資料４－２－②－１　本科入学試験検討委員会議事要録（評価基準改訂関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－２　本科入学試験実施委員会議事要録（評価基準改訂関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－３　本科入学試験検討委員会議事要録（学外検査場追加関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－４　本科入学試験実施委員会議事要録（学外検査場追加関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－５　調査書平均点
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－６　専攻科入学試験検討委員会議事要録（学力選抜判定方法の見直し関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－７　専攻科入学試験実施委員会議事要録（学力選抜判定方法の見直し関係）
〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－１

本科入学試験検討委員会議事要録（評価基準改訂関係）

平成１８年度 第３回 入試検討委員会議事要録

日　　時　　平成18年5月24日（水）17：40 ～ 18:45
場　　所　　第２会議室
出 席 者　　教務主事，渡部，渡辺，野口，中村（孝），飯尾，永松
事務担当　　学生課長，教務係長，専門員
配付資料
1　推薦入学に於ける面接調査と作文について（案）
2　平成18年度一日見学会
3　平成19年度編入学試験日程，平成19年度入試関係業務予定表
4　平成19年度編入学生募集要項　入学案内

議　題

1　推薦入試における面接調査と作文について

2　一日見学会について

1）『一日見学会』の名称を『オープンキャンパス』に変更することを決議した．なお，5月24日に本委員会に先立って開催された教育会議にこの名称変更について諮ったところ，ほとんどの教員が『オープンキャンパス』とすることに賛同し，異議の申し立てはなかった．

2）教務係長から『オープンキャンパス』の実施要領（配布資料２）について説明があり，了承された．本実施要領は5月30日（火）の入試実施委員会に報告される予定である．また，教務係から各学科長に対して予算額・予算執行の手順に関する連絡並びに公開・見学テーマの確認依頼をすることにした．なお，予算額は昨年度と同じく１学科あたり１０万円を超えない額とするとの説明があった．

3　その他

1）入学試験について

① 教務係長から『平成19年度編入学試験日程』並びに『平成19年度入試関係業務予定表』（配布資料３）について説明があり，一部修正の上これを了承した．

② 第１回委員会における検討結果に基づいて改訂された『編入学生募集要項　入学案内』の平成１９年度版（配布資料４）が配布され，教務係長からその説明があった．それについて検討し，更に若干の修正を加えた後これを了承した．また，“学力検査範囲”や“卒業後の進路”などについて各学科に確認の依頼があった．変更のある場合には5月30日の入試実施委員会までに，あるいはその席上で申し出ることにした．

③ 上記の①と②項をまとめて5月30日（火）の入試実施委員会に諮ることにした．

2）入学案内ポスターについて

昨年度のポスターを中村委員の案に従って改訂し本年度版とすることで合意した．

３）　学校訪問について

教務主事から，中学校からの訪問要請が６月に多数集中しているため，指導部だけでは対応し切れない場合には各委員にも協力を依頼したいとの発言があり，そのために指導部作成の『訪問マニュアル』が用意されているとの報告があった．

４）　学力入試の試験監督者について（継続）

昨年度延岡会場を担当した物質工学科から「今後は各学科の輪番制にする」との学科の意見が報告された．

５）　宮崎高等教育コンソーシアム主催の学校説明会について

教務主事から今年度の開催予定（10月8日（日）・10月29日（日））と内容の概略並びに昨年度の担当学科について報告があり，昨年度の参加者が高校生だけで，本校にとってほとんど益がなかったと思われることから，本年度は，中学校に対して本校の発表（出前授業あるいは展示・実演）内容を事前に広報して，中学生に参加を呼び掛け，本校にとって実効のある学校説明会になるようにしたいとの説明があった．担当学科については，昨年度担当しなかった建築学科に検討を依頼した．もう１学科については後日改めて検討することにした．

以　上

〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－２

本科入学試験実施委員会議事要録（評価基準改訂関係）

平成１８年度　第１回　本科入学試験実施委員会議事要録

日　　時　　平成１８年５月３０日（火）１６：５５～１８：５０
場　　所　　第１会議室
出 席 者　　教務主事、寮務主事、専攻科長、河野、剣田、國府、樋口、渡部、渡辺、
野口、中村孝至、飯尾(英語)、永松、藤永(社会)、小塚：代理(数学)、
学生課長、専門員、教務係長、　　係員
欠 席 者　　校長、学生主事、事務部長、若生(理科)、松崎(国語)、

配付資料
資料１　平成19年度学生募集要項について
資料２　平成19年度編入学生募集要項について
資料３　平成19年度編入学試験日程及び入試関係業務予定表について
資料４　平成19年度推薦入学に於ける面接調査について(案)
資料５　平成18年度オープンキャンパスについて(依頼)
資料６　中学校長等の懇談会について(依頼)

議　題

１　資料１～２について

教務係長から、平成18年度募集要項に基づいて、日付及び大幅に変更となった箇所の説明をし、これを了承することとした。ただし、各委員より指摘された箇所を加筆修正し、後日委員へ再配布することとした。

２　資料３について

教務係長から、８月の編入学試験日程及び入試関係業務予定表について概要の説明をし、これを了承することとした。

３　資料４について

田原入試実施委員長から、

ため、面接に関して下記のように新基準を設けたい旨説明があった。また、昨年度の入試結果にこの新基準を適用した場合でも、ほぼ差異がなく矛盾が生じないことより、これを了承することとした。

する。

４　資料５について

田原入試実施委員長から、「一日見学会」の名称変更について、教育会議でも反対意見はなかったことを受けて、平成１８年度より「オープンキャンパス」に変更する提案がなされ、これを了承することとした。

また、本年度のオープンキャンパス実施に向けて各学科長へ見学箇所の確認及び協力依頼がなされた。

５　資料６について

田原入試実施委員長から、中学校長との懇談会実施要領に基づいて、説明及び協力依頼がなされた。

〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－３

本科入学試験検討委員会議事要録（学外検査場追加関係）

平成２０年度第６回本科入試検討委員会議事要録

日　　時　　平成２０年１０月２７日（月）１８：３０～１９：４５
場　　所　　第２会議室（図書館２階）
出 席 者　　教務主事、小藪、野地、持永、藤永、友安、須田（小原の代理）
欠 席 者　　小原

審議事項

１．平成２１年度の学力検査による入学者選抜を受験した者の入試成績の開示について

学生課課長補佐から、平成２１年度の学力検査による入学者選抜を受験した者の入試成績の開示について、配布資料１の原案により説明があり、審議した結果、開示内容の「志望学科における順位」を「第１志望学科における順位」に修正することとし、この原案を了承するとともに、本科入試実施委員会に提案することとした。

２．入学者選抜学力検査問題作成業務要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査問題作成業務要領について、配布資料２の原案により説明があり、審議した結果、この原案については、内容等を確認・検討するため、学科等持ち帰りとすることとした。

なお、タイトルを「編入学者選抜及び専攻科入学者選抜学力検査問題作成業務要領」に修正することとした。

３．入学者選抜学力検査監督者業務要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査監督者業務要領について、配布資料３の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承するとともに、本科入試実施委員会に提案することとした。

４．入学者選抜学力検査採点業務要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査採点業務要領について、配布資料４の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承するとともに、本科入試実施委員会に提案することとした。

５．入学者選抜学力検査における監督者等割り振り要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査における監督者等割り振り要領について、配布資料５の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承するとともに、本科入試実施委員会に提案することとした。

６．平成２２年度以降の学力検査会場について

教務主事から、平成２２年度以降の学力検査会場について、現在の学外検査会場である鹿児島及び延岡検査会場に加え、宮崎市周辺の受験者を対象とした宮崎検査会場を設けたい旨配布資料６の原案により説明があり、審議した結果、提案理由中の「宮崎会場を設けることの効果は推測しがたいが、可能なことはやっておくべきと考える。」を削除することとし、この原案を了承するとともに、本科入試実施委員会に提案することとした。

以　上

〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－４

本科入学試験実施委員会議事要録（学外検査場追加関係）

平成２０年度第４回本科入試実施委員会議事要録

日　　時　　平成２０年１１月１８日（火）１６：３０～１８：００
場　　所　　第１会議室（図書館２階）
出 席 者　　校長、教務主事、寮務主事、河野、渡辺、山下、原田、小藪、野地、持永、小原、藤永、友安、望月、田原、笹谷、事務部長、学生課長
欠 席 者　　学生主事

審議事項

１．平成２１年度の学力検査による入学者選抜を受験した者の入試成績の開示について

学生課課長補佐から、平成２１年度の学力検査による入学者選抜を受験した者の入試成績の開示について、配布資料１の原案により説明があり、審議した結果、次のとおり一部修正することとし、この原案を了承した。

○入試成績開示申請書の（注）１．中「受験票を紛失した場合は、本人確認できるもの（学生証等）を提示してください。」を「受験票を紛失した場合は、本人であることを確認できるもの（生徒手帳等）を提示してください。」に修正

２．編入学者選抜及び専攻科入学者選抜学力検査問題作成業務要領について

学生課課長補佐から、編入学者選抜及び専攻科入学者選抜学力検査問題作成業務要領について、配布資料２の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承した。

３．入学者選抜学力検査監督者業務要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査監督者業務要領について、配布資料３の原案により説明があり、審議した結果、検査室の保全管理のため、従来どおり休憩時間中は検査室から受験生を退室させることで原案を一部修正することとし、この原案を了承した。

なお、後日、修正した原案については、本科入試実施委員会委員に提示し確認することとした。

４．入学者選抜学力検査採点業務要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査採点業務要領について、配布資料４の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承した。

５．入学者選抜学力検査における監督者等割り振り要領について

学生課課長補佐から、入学者選抜学力検査における監督者等割り振り要領について、配布資料５の原案により説明があり、審議した結果、監督者の割り振り方法、学外試

験場の責任者等の疑義が生じたため、この原案については、本科入試検討委員会を通して学科等持ち帰りとし、本科入試検討委員会で意見調整の上、次回の本科入試実施委員会で審議することとした。

６．平成２２年度以降の学力検査会場について

教務主事から、平成２２年度以降の学力検査会場について、現在の学外検査会場である鹿児島及び延岡検査会場に加え、宮崎市周辺の受験者を対象とした宮崎検査会場を設けたい旨配布資料６の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承した。

なお、教務主事から、入学志願者確保の今後の方策として、宮崎市圏域中学校（対象は中学校長及び進路担当教諭）への説明会の開催、中学校訪問（本校受験希望者のいる中学校を訪問して、直接該当生徒に本校概要・学生募集要項等を説明）の実施等を検討している旨報告があった。

以　上

〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－５

調査書平均点

入学年度	入学者数（人）	調査書平均点（点）
H20年度	172	4.274
H21年度	169	4.272
H22年度	173	4.325
H23年度	165	4.169
H24年度	165	4.384

〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－６

専攻科入学試験検討委員会議事要録（学力選抜判定方法の見直し関係）

第 11 回　入試検討委員会　議事要録

日　　時　　平成 20 年 3 月 10 日（月）　16：00～16：40
場　　所　　専攻科多目的ホール
出 席 者　　山下専攻科長、樋口教務主事、豊広委員、赤木委員、清山委員、中村裕文委員、田村委員
事務担当　　学生課長、　教務係長
資料 1　専攻科入学試験合否判定の方法について
資料 2　平成 21 年度専攻科学生募集要項

【審議事項】

1）学力および推薦選抜試験の総合評価について（資料 1）

前回の委員会で学業成績と席次の両方を考慮に入れるのが望ましいとの意見が出されたため、再度点数化の方法をシュミレーションし検討を行った。その結果、以下を入試検討委員会案とし、20 年度当初の入試実施委員会で検討して頂くこととした。

学力選抜試験

推薦選抜試験

2）平成21年度専攻科学生募集要項について（資料2）

平成21年度専攻科学生募集要項について　　教務係長から説明があった。なお、受験票に記載する注意事項の取り扱いについては、専攻科長に一任された。

〔出典：学生課資料〕

資料４－２－②－７

専攻科入学試験実施委員会議事要録（学力選抜判定方法の見直し関係）

平成２０年度第１回専攻科入試実施委員会議事要録

日　　時　　平成２０年４月１０日（木）１６：３０～１７：２５
場　　所　　第１会議室（図書館２階）
出 席 者　　校長、教務主事、学生主事、河野、渡辺、山下、友安、林田、豊廣、赤木、清山、小原、田村、事務部長、学生課長、崎山＜笹谷の代理＞
欠 席 者　　寮務主事、原田、笹谷

議事に先立ち、学生課課長補佐から、「都城工業高等専門学校入学者選抜実施規則」及び「平成２０年度入学試験実施委員会委員名簿」について、配布資料１及び２により説明があった。

審議事項

１．平成２１年度専攻科学生募集要項（案）について
　学生課課長補佐から、平成２１年度専攻科学生募集要項（案）について、配布資料３の原案により説明があり、審議した結果、「Ⅳ．専攻科修了要件の確認について」の掲載内容を修正することとし、この原案を了承した。
　なお、この修正内容については、樋口委員長及び林田委員（平成２０年度専攻科入試検討委員会委員長）に一任することとした。

２．学力および推薦選抜試験の総合評価について
　山下委員（平成１９年度専攻科入試検討委員会委員長）から、専攻科入学試験合否判定の方法について、配布資料４の原案により説明があり、審議した結果、この原案を了承した。

３．その他
１）学生課課長補佐から、平成２１年度専攻科入学試験日程（平成２０年４月～６月）について、配布資料５により報告があった。

以　上

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

入学試験検討委員会において，学生の受入状況の検証を行っている。本科入学者の中学時代の調査書平均点は５点満点で4.1点以上であり，アドミッション・ポリシー（１）の「様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人」に合致する学生を確保している。また，本科入学試験の推薦選抜における定員枠を，平成18年度から40％程度までに拡大したが，さらなる変更の必要性を検討している。また，入学者の出身地を分析し，都城市以外の場所にも試験会場を新設する等，受験生の利便性に配慮し，広範囲の地域から優秀な学生を募集できるように努めている。このように，入学試験検討委員会において学生の受入状況を検証するとともに，その検証結果を入学試験制度の改善に役立てている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

本科の入学者数は，４学科入学定員160名に対し，過去５年間において，毎年165名～173名の範囲の中で推移しており（資料４－３－①－１），入学定員を下回ったことはなく，また上回った場合でも１割を超えていない。編入学者数は，過去５年間において，毎年２名～５名の範囲の中で推移している（資料４－３－①－２）。

専攻科の入学者数は，過去５年間において，毎年21名～29名の範囲の中で推移しており，入学定員である16名以上の入学者を常に確保している（資料４－３－①－３）。

観点４－３－①　資料一覧

資料４－３－①－１　本科学科別入学者数

〔出典：基礎データ集〕

資料４－３－①－２　編入学学科別入学者数

〔出典：基礎データ集〕

資料４－３－①－３　専攻科専攻別入学者数

〔出典：基礎データ集〕

資料４－３－①－１

本科学科別入学者数

（１）学科別入学者数

区分／年度	入学者数																	
	機械工学科			電気工学科			電気情報工学科			物質工学科			建築学科			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成20年度	39	4	43				36	7	43	25	18	43	33	10	43	133	39	172
平成21年度	44	0	44				35	6	41	20	24	44	29	11	40	128	41	169
平成22年度	43	1	44				35	7	42	21	22	43	25	19	44	124	49	173
平成23年度	41	2	43				37	3	40	14	28	42	30	10	40	122	43	165
平成24年度	41	0	41				38	4	42	18	24	42	24	16	40	121	44	165

〔出典：基礎データ集〕

資料４－３－①－２

編入学学科別入学者数

１０　４年次編入学

入学年度	機械工学科			電気工学科			電気情報工学科			物質工学科			建築学科			合　計		
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
平成20年度	1	1	1	3	1	0				1	0	0	7	4	2	12	6	3
平成21年度	1	0	0	3	3	1				1	1	1	1	0	0	6	4	2
平成22年度	4	1	1				6	3	2	1	1	1	2	1	1	13	6	5
平成23年度	4	1	1				2	2	1	0	0	0	6	1	1	12	4	3
平成24年度	3	2	2				6	1	1	2	2	2	0	0	0	11	5	5

〔出典：基礎データ集〕

資料４－３－①－３

専攻科専攻別入学者数

（２）専攻別入学者数

区分／年度	入学者数											
	機械電気工学専攻			物質工学専攻			建築学専攻			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成20年度	12	0	12	4	4	8	5	0	5	21	4	25
平成21年度	12	1	13	3	4	7	2	1	3	17	6	23
平成22年度	10	0	10	4	4	8	3	3	6	17	7	24
平成23年度	7	0	7	3	5	8	5	1	6	15	6	21
平成24年度	12	1	13	4	4	8	5	3	8	21	8	29

〔出典：基礎データ集〕

（分析結果とその根拠理由）

本科のいずれの学科も，入学者の入学定員を確保しており，適正に管理されている。平成22年度入学試験からは，従来，受験者数が伸びなかった宮崎市地区の受験者の利便性に配慮して，宮崎会場を設置している。なお，近年，建築学科の受験者が減少していたが，平成24年度は前年度に比べ受験者が大きく増加した。

専攻科の入学者数は，平成21年度に建築学専攻において１名定員割れとなったが，全体では23名の入学者を確保しており，それ以外の年度では，入学定員以上の入学者を確保している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本科及び専攻科とも入学試験検討委員会を設置し，常に入学試験に関する現状分析を行い，適正化を図っている。また，本科及び専攻科の入学定員に対する実入学者の数は，適正に管理している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準４の自己評価の概要

アドミッション・ポリシーは，教育理念及び学習・教育目標に基づき設定されており，募集要項，入学案内パンフレット，学校説明会等を通して，社会に公表している。入学者受入れについて，本科入学試験は，学力試験及び調査書に基づいた学力選抜，面接試験及び調査書による推薦選抜を行っており，編入学試験は，学力試験，調査書及び面接試験による選抜を行っている。また，専攻科入学試験は，学力試験及び調査書に基づいた学力選抜，調査書及び面接試験による推薦選抜を行っている。いずれの入学試験においても，アドミッション・ポリシーの内容を踏まえて実施している。

本科及び専攻科の入学試験については，定期的に開催される入学試験検討委員会において，入学者選抜方法，受験者の合否判定等を検討し，合格者の動向，入学者の成績，進路等の分析を行っている。また，分析結果は，本科入学試験における推薦選抜での合格者数の見直し，入学試験会場の増設等，入学者選抜方法の改善にも役立てている。さらに，本科及び専攻科のいずれにおいても，入学定員に比べ実入学者数は若干上回る程度であり，入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されている。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するために学習・教育目標を掲げ（資料５－１－①－１），一般科目と専門科目はこれらの目標の達成を念頭に置き，基礎的な内容から発展・応用的内容へと体系的に配置している。一般科目と専門科目はくさび型に配置しており，学年進行に伴って専門科目の時間数を増加させている（資料５－１－①－２）。すなわち，後期中等教育課程に相当する基礎となる科目を低学年に，専門基礎科目及び専門科目を高学年に配置している。専門科目における実験実習の時間も基礎的な知識を習得した高学年時に多く配置するよう設定している。専門科目では，各専門分野の基礎的な知識及び技術を体系的に学習することができるようにカリキュラムの編成を行うとともに，学生には各教科の関連性をシラバスで明記している（資料５－１－①－３～４）。準学士課程卒業後には，一定の実務経験を積むことにより，技術士補，電気主任技術者，建築士等に求められる水準の技術力を習得できる科目と教育内容を提供している（資料５－１－①－５）。

観点５－１－①　資料一覧

資料５－１－①－１　教育理念及び学習・教育目標
〔出典：学校要覧〕

資料５－１－①－２　教育課程表（全学科）
〔出典：学校要覧〕

資料５－１－①－３　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料５－１－①－４　化学工学Ｉシラバス
〔出典：シラバス〕

資料５－１－①－５　学科の目的
〔出典：学校要覧〕

資料５－１－①－１

教育理念及び学習・教育目標

教　育　理　念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

学習・教育目標

1．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
2．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
3．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
4．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

〔出典：学校要覧〕

資料５－１－①－２

教育課程表（全学科）

教育課程 Curriculum

一般科目 General Education

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	国語 Japanese	9	3	2	2	2		
	総合社会Ⅰ Social Science Ⅰ	2	2					
	総合社会Ⅱ Social Science Ⅱ	2		2				
	総合社会Ⅲ Social ScienceⅢ	2			2			
	基礎数学Ⅰ Fundamental Mathematics Ⅰ	4	4					
	基礎数学Ⅱ Fundamental Mathematics Ⅱ	2	2					
	微分積分学Ⅰ Differential and Integral Calculus Ⅰ	4		4				
	代数学 Algebra	2		2				
	微分積分学Ⅱ Differential and Integral Calculus Ⅱ	4			4			
	数学特論 Special Lectures on Mathematics	2			2			
	物理 Physics	5	2	3				
	科学Ⅰ（化学） science Ⅰ （Chemistry）	4	4					
	科学Ⅱ Science Ⅱ	MECA2	C2	MEA2				
	保健体育 Health and Physical Education	10	3	2	2	2	1	
	英語 English	13	3	3	3	2	2	
	オーラル英語 Oral Communication	2	2					
	英作文 English Composition	1	1					
	英文法 English Grammar	2		2				
	英会話 English Conversation	2		1	1			
	情報基礎Ⅰ Information Basics Ⅰ	2	2					
履修単位小計 Sub-Total of Credits Completed		76	MEA28・C30	MEA23・C21	16	6	3	
選択科目 Elective Subjects	美術 Arts	1	1					いずれかを選択
	音楽 Music	1	1					
	英語 English	2				2		いずれかを選択
	ドイツ語 German	2				2		
	法学 Law	2				2		いずれかを選択
	歴史学概論 Introduction to History	2				2		
	社会学 Sociology	2				2		
	国際文化論Ⅰ Cross-Cultural Study Ⅰ	2					2	いずれかを選択
	国際文化論Ⅱ Cross-Cultural Study Ⅱ	2					2	
	哲学 Philosophy	2					2	
	産業財産権法 Industrial Property Law	2					2	
開設単位小計 Sub-Total of Credits Offered		20	2			10	8	
履修単位小計 Sub-Total of Credits Completed		7	1			4	2	
履修単位合計 Total of Credits Completed		83	MEA29・C31	MEA23・C21	16	10	5	
特別活動 Special Curricular Activities		合計授業時数 hours 144	学年別年間授業時数 Number of hours by Grades					
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd			
			48hrs	48hrs	48hrs			

（注）M：機械工学科　E：電気情報工学科　C：物質工学科　A：建築学科

●機械工学科　Mechanical Engineering

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation	2				2		
	応用数学 Applied Mathematics	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	情報基礎Ⅱ Information Basics Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅰ Information Processing Ⅰ	1			1			
	情報処理Ⅱ Information Processing Ⅱ	2				2		
	材料力学 Strength of Materials	5			2	2	1	
	材料学Ⅰ Engineering Materials Ⅰ	3		1	2			
	材料学Ⅱ Engineering Materials Ⅱ	1				1		
	熱力学 Thermodynamics	2				2		
	水力学 Hydraulics	2				2		
	機械工作法 Manufacturing Process	4		2	2			
	機械設計法 Machine Design	3				2	1	
	設計製図 Design and Drawing	8	2	2	2		2	
	創造設計 Creative Design	4				4		
	図　学 Descriptive Geometry	1		1				
	工学実験 Experiments in Mechanical Engineering	4				2	2	
	基礎実験 Fundamental Experiment	3			3			
	工作実習 Workshop Practice	6	3	3				
	機構学 Theory of Mechanism	2			2			
	工業力学 Engineering Mechanics	2			2			
	熱機関 Heat Engine	3					3	
	機械力学 Dynamics of Machinery	2					2	
	自動制御 Automatic Control	2					2	
	流体機械 Hydraulic Machinery	1					1	
	機械工学概論 Introduction to Mechanical Engineering	1	1					
	電気工学概論 Introduction to Electrical Engineering	3				1	2	
	工業外国語 Engineering English	2					2	
	計測工学 Measurement and Instrumentation	1				1		
	技術者倫理概論 Introduction to Ethics for Engineer	1					1	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		89	6	11	18	25	29	
選択科目 Elective Subjects	流体力学 Hydrodynamics	1					1	｝3単位を選択
	伝熱工学 Engineering Heat Transfer	1					1	
	塑性加工 Manufacturing Process	1					1	
	生産工学 Production Engineering	1					1	
	メカトロニクス Mechatronics	1					1	
	強度解析学 Strength Analysis	1					1	
	校外実習 Training in Manufacture	1				1		
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered		7				1	6	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		3					3	
履修単位合計 Total of Credits Completed	専門科目計 Specialized Subject Credits	92	6	11	18	25	32	
	一般科目計 General Subject Credits	83	29	23	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed	175	35	34	34	35	37	

●電気情報工学科　Electrical and Computer Engineering

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation	2				2		
	応用数学 Applied Mathematics	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	情報基礎Ⅱ Information Basics Ⅱ	2		2				
	電気基礎論Ⅰ Electric Fundamentals Ⅰ	2	2					
	電気基礎論Ⅱ Electric Fundamentals Ⅱ	2	2					
	電気磁気学 Electromagnetism	5			2	3		
	電気回路Ⅰ Electric Circuits Ⅰ	4		4				
	電気回路Ⅱ Electric Circuits Ⅱ	2			2			
	回路網理論 Network Theory	2				2		
	電子回路 Electronic Circuits	4			2	2		
	半導体工学 Semiconductor Engineering	2				2		
	電気材料工学 Electric Materials Engineering	2					2	
	プログラミング言語Ⅰ Programming Languages Ⅰ	2		2				
	プログラミング言語Ⅱ Programming Languages Ⅱ	2			2			
	論理回路 Logical Circuits	2			2			
	計算機工学 Computer Engineering	2				2		
	電気機器 Electric Machinery and Apparatus	4			2	2		
	計測工学 Measurement Engineering	2					2	
	制御工学 Control System Engineering	3				1	2	
	通信工学 Communication Engineering	2					2	
	電気製図 Electrical Drawing	2	2					
	電気電子情報設計 Electronic and Information Design	3					3	
	電気情報工学ゼミ Seminar in Electrical and Information Engineering	1				1		
	電気情報工学実験 Experiment in Electrial and Information Engineering	14		3	4	4	3	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Required		84	6	11	18	25	24	
選択科目 Elective Subjects	エネルギー変換工学 Energy Transfer Engineering	2					2	9単位を選択
	電力輸送工学 Electric Power Transmission Engineering	2					2	
	高電圧工学 High Voltage Engineering	2					2	
	法規及び施設管理 Law&Regulation on Electric Facilities	1					1	
	知能情報処理 Intelligence Information Processing	2					2	
	システムプログラミング System Programming	2					2	
	電磁波工学 Electro-magnetic Wave Engineering	2					2	
	情報工学特論 Special Lectures on Information Engineering	1					1	
	校外実習 Training in Manufacture	1				1		
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered		15				1	14	
履修単位計 Sub-Total of Credits Required		7					7	
履修単位合計 Sub-Total of Credits Required	専門科目計 Specialized Subject Credits	91	6	11	18	25	31	
	一般科目計 General Subject Credits	83	29	23	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed	174	35	34	34	35	36	

物質工学科　Chemical Science and Engineering

授業科目 Subject			科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
共通必修科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation		2				2		
	応用数学 Applied Mathematics		2				2		
	応用物理 Applied Physics		4			2	2		
	情報基礎 II Information Basics II		2		2				
	情報処理 Information Processing		1		1				
	設計製図 Design and Drawing		2		2				
	分析化学 Analytical Chemistry		2		2				
	有機化学 I Organic Chemistry I		2		2				
	有機化学 II Organic Chemistry II		2			2			
	無機化学 Inorganic Chemistry		2			2			
	物理化学 Physical Chemistry		4			2	2		
	生物化学 Biological Chemistry		2			2			
	化学工学 I Chemical Engineering I		2			2			
	化学工学 II Chemical Engineering II		2				2		
	機器分析 Instrumental Analysis		2				2		
	高分子化学 Polymer Chemistry		1				1		
	電気化学 Electrochemistry		1					1	
	生物工学 Bioengineering		2					2	
	工業化学英語 Engineering English in Chemistry		2			2			
	工業英語 Industrial English in Chemistry		2				2		
	反応工学 Chemical Reaction Engineering		2					2	
	安全工学 Safety Engineering		1					1	
	基礎化学 Fundamental Chemistry		2		2				
	電気工学基礎 Fundamentals of Electrical Engineering		2					2	
	基礎化学実験 Experiments in Fundamental Chemistry		2	2					
	分析化学実験 Experiments in Analytical Chemistry		4	2	2				
	無機化学実験 Experiments in Inorganic Chemistry		2			2			
	有機化学実験 Experiments in Organic Chemistry		2			2			
	物理化学実験 Experiments in Physical Chemistry		2				2		
	機器分析実験 Experiments in Instrumental Analysis		2				2		
	卒業研究 Graduation Research		10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			72	4	13	18	19	18	
物質工学コース Materials Engineering Course	必修科目 Required Subjects	有機材料化学 Organic Material Chemistry	2				2		
		無機材料化学 Inorganic Material Chemistry	2				2		
		電子材料工学 Electronic Materials Engineering	2					2	
		工業熱力学 Industrial Thermodynamics	1					1	
		輸送現象論 Transport Phenomena	2					2	
		物質工学演習 Exercises in Material Engineering	1				1		
		化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering	4					4	
		物質工学実験 Experiments in Material Engineering	2				2		
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			16				7	9	
生物工学コース Biological Engineering Course	必修科目 Required Subjects	酵素工学 Enzymatic Engineering	2					2	
		微生物工学 Microbiological Engineering	2					2	
		細胞・遺伝子工学 Cell and Gene Engineering	1					1	
		分子生物学 Molecular Biology	2				2		
		環境工学 Environmental Technology	2				2		
		生物工学演習 Exercises in Biological Engineering	1				1		
		生物応用学実験 Experiments in Bioprocess Engineering	4					4	
		生物工学実験 Experiments in Bioengineering	2				2		
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			16				7	9	
共通選択科目 Elective Subjects	分離工学 Separation Engineering		1					1	1単位を選択
	生体高分子 Biopolymer		1					1	
	量子化学 Quantum Chemistry		1					1	1単位を選択
	生体機能工学 Biofunctional Engineering		1					1	
	計測制御工学 Measurement and Control Engineering		1					1	1単位を選択
	生体材料化学 Biomaterial and Chemistry		1					1	
	触媒化学 Catalysis		1					1	1単位を選択
	食品工学 Food Processing		1					1	
	校外実習 Training in Manufacture		1				1		
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered			9				1	8	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed			4					4	
履修単位合計 Total of Credits Completed	専門科目計 Specialized Subject Credits		92	4	13	18	26	31	
	一般科目計 General Subject Credits		83	31	21	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed		175	35	34	34	36	36	

建築学科　Architecture

授業科目 Subject		科目別単位数 Credits	学年別配当単位数 Number of Credits by Grades					備考 Notes
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
科目 Required Subjects	微分方程式 Differential Equation	2				2		
	応用数学 Applied Mathematics	2				2		
	応用物理 Applied Physics	4			2	2		
	情報基礎 II Information Basics II	2		2				
	建築計画 Architectural Planning Design	4			2	2		
	建築設計演習 Architectural Design Exercises	15	2	3	4	6		
	建築CAD演習 Architectural CAD Practice	2			2			
	意匠CAD演習 Design CAD Practice	2				1	1	
	都市計画学 City Planning	1					1	
	地域計画学 Town Planning	1					1	
	建築実務概論 Introduction to Practical Work of Architect	1					1	
	建築デザイン基礎 Fundamentals of Architectural Design	1	1					
	建築デザイン演習 Exercises of Architectural Design	1	1					
	日本建築史 History of Japanese Architecture	1			1			
	西洋建築史 History of European Architecture	1				1		
	構造力学 Structural Mechanics	6		2	2	2		
	材料力学 Strength of Materials	1			1			
	鋼構造学 Steel Structure	2				2		
	RC構造学 RC Construction	2				2		
	構造演習 Structural Design Exercises	2					2	
	木質構造 Timber Structural Engineering	2					2	
	防災工学 Disaster Prevention Engineering	1					1	
	コンピュータ援用学 Computer Aided Science	2		2				
	建築材料 Building Materials	2			2			
	建築生産学 Building Production	2					2	
	測量学 Surveying	1			1			
	建築環境工学 Architectural Environmental Engineering	4				2	2	
	建築設備 Building Equipment	2					2	
	建築構造 I Building Construction I	2	2					
	建築構造 II Building Construction II	2		2				
	建築法規 Building Law	2					2	
	建築学研究 Seminar	1				1		
	建築学実験 Experiments in Architecture	3			2		1	
	建築経済 Building Economics	1					1	
	卒業研究 Graduation Research	10					10	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		90	6	11	19	25	29	
選択科目 Elective Subjects	校外実習 Training in Manufacture	1				1		
	建築デザイン Architectural Design	1					1	}1単位を選択
	耐震構造学 Earthquake Resistant Structures	1					1	
	近代建築史 History of Modern Architecture	1					1	}1単位を選択
	振動学 Vibration Engineering	1					1	
開設単位計 Sub-Total of Credits Offered		5				1	4	
履修単位計 Sub-Total of Credits Completed		2					2	
履修単位合計 Total of Credits Completed	専門科目計 Specialized Subject Credits	92	6	11	19	25	31	
	一般科目計 General Subject Credits	83	29	23	16	10	5	
	合　計 Total of Credits Completed	175	35	34	35	35	36	

（注）※印は学修単位を示す。

〔出典：学校要覧〕

資料５－１－①－３

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

表５　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（B2対応科目群）

表５（1）　機械工学科・機械電気工学専攻（機械系）

平成19年度以降専攻科入学者に適用

	科目系統	本科４年（プログラム１年）		本科５年（プログラム２年）		専攻科１年（プログラム３年）		専攻科２年（プログラム４年）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学習・教育目標（B2）	機械材料・材料力学	材料力学Ⅱ（◎）	材料力学（◎）	材料力学（◎）	強度解析学（○）	材料強度学（○）		材料力学特論（○）	CAE（◎）
	機械工作・生産工学			塑性加工（○）	生産工学（○）	超精密加工（○）	変形加工学（◎）		
	設計工学・機械要素トライボロジー	創造設計（◎）	熱力学（◎）	設計製図（◎）		創造デザイン演習（◎）	機械設計特論（○）	創造デザイン演習（◎）	
	流体工学	機械設計法（◎）		機械設計法（◎）					
	機械力学・制御	水力学（◎）		流体力学（○）	流体機械（◎）	流体力学特論（○）		熱移動と流れの工学（◎）	
	知能機械学機械システム	計測工学（◎）		熱機関（◎）	伝熱工学（○）			振動工学（○）	
				機械力学（◎）					
				自動制御（◎）					メカトロニクス特論（◎）
				メカトロニクス（○）					
	研究			卒業研究（◎）		専攻村村研究（◎）		専攻村村研究（◎）	
						機械電気工学特論（◎）			
	実験	工学実験（◎）		工学実験（◎）		機械電気工学特別実験（◎）			
	実習					実務実習（◎）			
	演習								
	専門英語			工業外国語（◎）		科学技術英語（◎）			
	電気電子工学基礎					電磁気学特論（○）△ab　電気回路特論（○）△b 電子計測特論（○）△b		電子材料プロセス工学（○）△b	
	電気工学					パワーエレクトロニクス（○）△ab		放電工学（○）△b	
	電子工学					電子デバイス（○）△ab		電子物性工学（○）△b 気体電子工学（○）△b	
	通信・情報工学	情報処理Ⅱ（◎）				応用情報工学（○）　情報システム工学（○）△ab		通信工学特論（○）△b	
	化学							一般化学（◎）	
	汎用力学							一般力学（○）	

注1：生産デザイン工学プログラムに主体的に含まれる科目には（◎）を、付随的に含まれる科目には（○）で表記、イタリック体の科目はB2以外の目標にも対応している。
注2：ゴシック体：必修科目、必修選択科目（△a）は２科目以上を選択、選択必修科目（△b）は４科目以上選択、明朝体：選択科目

表５　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（B2対応科目群）

表５（2）　電気情報工学科・機械電気工学専攻（電気系）

平成19年度以降専攻科入学者に適用

	科目系統	本科４年（プログラム１年）		本科５年（プログラム２年）		専攻科１年（プログラム３年）		専攻科２年（プログラム４年）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学習・教育目標（B2）	電気電子工学基礎	電気磁気学（◎） 回路網理論（○）				電磁気学特論（○）	電気回路特論（○）		電子材料プロセス工学（○）
	電気工学	電気機器（○） 制御工学（○）		制御工学（○） エネルギー変換工学（○） 電力輸送工学（○） 高電圧工学（○） 法規及び施設管理（○）		パワーエレクトロニクス（○）		放電工学(○)	
	電子工学	電子回路（◎） 半導体工学（○）		計測工学（○） 電気材料工学（○）		電子計測特論（○）	電子デバイス（○）		電子物性工学（○） 気体電子工学（○）
	通信・情報工学	計算機工学（○）		システムプログラミング（○） 知能情報処理（○） 情報工学特論（○） 通信工学（◎） 電磁波工学（○）		*応用情報工学（○）*	情報システム工学（○）		通信工学特論（○）
	実験	*電気情報工学実験（◎）*		*電気情報工学実験（◎）*		*機械電気工学特別実験（◎）*			
	研究	電気情報工学ゼミ（○）		*卒業研究（◎）*		*専攻科特別研究（◎）* *機械電気工学特論（◎）*		*専攻科特別研究（◎）*	
	実習					*実務実習（◎）*			
	演習			*電気電子情報設計（◎）*		*創造デザイン演習（◎）*		*創造デザイン演習（◎）*	
	CAE					材料強度学（○）△b 超精密加工（○）△b	変形加工学（○）△ab 機械設計特論（○）△b	材料力学特論（○）△b	CAE（○）△ab
	熱･流体					流体力学特論（○）△b		熱移動と流れの工学（○）△ab	
	機械振動･メカトロニクス							振動工学（○）△b	メカトロニクス特論（○）△ab
	専門英語					*科学技術英語（◎）*			
	化学								一般化学(◎)
	汎用力学								一般力学(○)

注1：生産デザイン工学プログラムに主体的に含まれる科目には(◎)を、付随的に含まれる科目には(○)で表記、イタリック体の科目はB2以外の目標にも対応している。
注2：ゴシック体：必修科目、選択必修科目（△a）は２科目以上を選択、選択必修科目（△b）は４科目以上選択、明朝体：選択科目

表５　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（B2対応科目群）

表５（3-1）　物質工学科（物質工学コース）・物質工学専攻

平成19年度以降専攻科入学者に適用

	科目系統	本科4年（プログラム１年）		本科5年（プログラム２年）		専攻科１年（プログラム３年）		専攻科２年（プログラム４年）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学習・教育目標（B2）	物理化学	物理化学(◎)			量子化学(○)			化学反応論(○)	
	無機化学					無機合成化学(○)			
	有機化学					反応有機化学(○)			有機光化学(○)
	分析化学	機器分析(◎)							
	生物化学			生体高分子(○)					分子生態学(○) 生物物理化学(○)
	化学工学	化学工学II(◎)		反応工学(◎) 輸送現象論(◎) 分離工学(○)		微粒子工学(○)			移動現象論(○)
	化学 プロセス			工業熱力学(◎) 生物工学(◎) 電気化学(◎) 触媒化学(○) 食品工学(○) 計測制御工学(○)		蛋白質工学(○)	応用触媒工学(○)		水質環境工学(◎)
	材料化学	有機材料化学(◎) 無機材料化学(◎) 高分子化学(◎)		電子材料工学(○) 生体材料化学(○) 生体機能工学(○)			機能性高分子(○)	新素材論(◎) 無機機能性材料(○)	
	実験	*物理化学実験(◎)* *機器分析実験(◎)* *物質工学実験(◎)*		*化学工学実験(◎)*		*物質工学特別実験(◎)*			
	演習	*物質工学演習(◎)*				*創造デザイン演習(◎)*		*創造デザイン演習(◎)*	
	実習					*実務実習(◎)*			
	研究			*卒業研究(◎)*		*専攻科特別研究(◎)* *物質工学特論(◎)*		*専攻科特別研究(◎)*	
	専門英語	工業英語(◎)					*科学技術英語(◎)*		
	設計						機械設計特論(◎)		
	汎用力学								一般力学(◎)
	電気工学			電気工学基礎(◎)					
	安全工学				安全工学(◎)				

注1：生産デザイン工学プログラムに主体的に含まれる科目には(◎)を、付随的に含まれる科目には(○)で表記、イタリック体の科目はB2以外の目標にも対応している。
注2：ゴシック体：必修科目、明朝体：選択科目

表５　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（B2対応科目群）

表５（3-2）　物質工学科（生物工学コース）・物質工学専攻

平成19年度以降専攻科入学者に適用

	科目系統	本科４年（プログラム１年）		本科５年（プログラム２年）		専攻科１年（プログラム３年）		専攻科２年（プログラム４年）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学習・教育目標（B2）	物理化学	物理化学(◎)			量子化学(○)			化学反応論(○)	
	無機化学					無機合成化学(○)			
	有機化学					反応有機化学(○)			有機光化学(○)
	分析化学	機器分析(◎)							
	生物化学	分子生物学(◎)		生体高分子(○)					分子生態学(○)
									生物物理化学(○)
	化学工学	化学工学II(◎)		反応工学(◎)		微粒子工学(○)			移動現象論(○)
				分離工学(○)					
	化学プロセス	環境工学(◎)		生物工学(◎)		蛋白質工学(○)	応用触媒工学(○)		水質環境工学(◎)
				酵素工学(◎)					
				細胞・遺伝子工学(◎)					
				微生物工学(○)					
				食品工学(○)					
				電気化学(◎)					
				触媒化学(○)					
					計測制御工学(○)				
	材料化学		高分子化学(◎)		生体材料化学(○)		機能性高分子(○)	新素材論(◎)	
					生体機能工学(○)			無機機能性材料(○)	
	実験	*物理化学実験(◎)*		*生物反応工学実験(◎)*		*物質工学特別実験(◎)*			
		機器分析実験(◎)							
		生物工学実験(◎)							
	演習		*生物工学演習(◎)*			*創造デザイン演習(◎)*		*創造デザイン演習(◎)*	
	実習					*実務実習(◎)*			
	研究			*卒業研究(◎)*		*専攻科特別研究(◎)*		*専攻科特別研究(◎)*	
						物質工学特論(◎)			
	専門英語	工業英語(◎)					*科学技術英語(◎)*		
	設計						機械設計特論(◎)		
	汎用力学								一般力学(◎)
	電気工学			電気工学基礎(◎)					
	安全工学				安全工学(◎)				

注1：生産デザイン工学プログラムに主体的に含まれる科目には(◎)を、付随的に含まれる科目には(○)で表記、イタリック体の科目はB2以外の目標にも対応している。
注2：ゴシック体：必修科目、明朝体：選択科目

表５　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（B2対応科目群）

表５（4）　建築学科・建築学専攻

平成19年度以降専攻科入学者に適用

	科目系統	本科４年（プログラム１年）		本科５年（プログラム２年）		専攻科１年（プログラム３年）		専攻科２年（プログラム４年）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学習・教育目標（B2）	建築構造	構造力学（○）△b			耐震構造学(○)△b			計算力学（○）△b	
			鋼構造学（○）△a	鋼構造演習（○）△a			連続体力学（◎）△b		
			RC構造学（○）△a	RC構造演習（○）△a			地震工学（○）△b	ｺﾝｸﾘｰﾄ構造特論（○）	
	建築構法 材料施工			建築生産学（○）△a			建築材料施工特論（◎）		
	環境工学・設備	建築環境工学（○）		建築環境工学（○）				居住熱環境学（○）	
				建築設備（○）					
	建築計画	建築計画（○）△a				建築計画学（○）△a			
		建築法規（○）						地方住宅計画学（○）	
	都市計画			都市計画学（○）△a					
	建築史・意匠			建築実務概論（○）	建築デザイン（○）				
				意匠CAD演習（◎）△a					
			建築史Ⅰ（○）	建築史Ⅱ（○）	建築史Ⅲ（○）				西洋建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ史（○）
	建築設計製図	*建築設計演習（◎）*				*建築設計演習（◎）△c*			
						構造設計演習（◎）△c			
						建築CAD設計演習（◎）△a			
	測量					*創造デザイン演習（◎）*		*創造デザイン演習（◎）*	
	実験			*建築学実験（◎）*				*建築材料実験特論（◎）*	
	実習					*建築実務実習（◎）*			
	研究		建築学研究（○）	*卒業研究（◎）*		*専攻科特別研究（◎）*		*専攻科特別研究（◎）*	
						建築学特論（◎）			
	専門基礎					*建築英語（◎）*			
	情報処理					*応用情報工学（◎）*	建築情報処理（◎）		
	化学								一般化学（◎）
	汎用力学								一般力学（○）

注1：生産デザイン工学プログラムに主体的に含まれる科目には（◎）を、付随的に含まれる科目には（○）で表記、イタリック体の科目はB2以外の目標にも対応している。
注2：ゴシック体：必修科目、必修選択科目（△a, △b, △c のそれぞれにおいて、1科目以上選択）、明朝体：選択科目

資料５－１－①－４

化学工学Ｉシラバス

科目名	化学工学I Chemical Engineering I			担当教員	清山史朗		
学年・学科	３Ｃ	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	物質工学科	授業形式	講義	ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月8限		
学習目標	化学工学の基礎となる単位換算，物質・エネルギー収支，熱移動現象としての伝導伝熱，対流伝熱，放射伝熱及び物質分離・移動操作の基礎である蒸留に関しての基礎的知識を修得する．						
進め方	各単元毎に，説明及び例題解説を行った後，演習によってその知識を確かなものとする．						
学習内容	学習項目		時間数	学習到達目標			
	1．化学工学の基礎						
	(1)単位系		4	国際単位系を理解し，単位換算ができるようになる			
	(2)物質収支						
	(a)物理的操作をめぐる物質収支		6	物質の出入りのみの収支ができるようになる			
	(b)化学反応操作をめぐる物質収支		6	反応を伴う量的関係が計算できるようになる			
	前期中間試験		1				
	試験結果の解説・授業		1				
	(c)エネルギー収支						
	エンタルピー変化の計算		2	熱力学第一法則を理解し，使いこなせるようにする			
	物理的操作をめぐる熱収支		3	熱の出入りに関する物理的操作を理解し，計算できるようにする			
	化学反応をめぐる熱収支		3	化学反応の量論的関係を理解し，標準反応熱，燃焼エンタルピー，一般の温度における反応熱の計算ができるようにする			
	反応熱の計算		3				
	前期末試験		(1)				
	前期末試験の返却と評価		1				
	2．熱移動操作						
	(1)伝導伝熱		8	単位操作の重要な分野である熱移動操作において，熱移動についてのフーリエの法則を平板状固体層，多重平板状固体層，円筒状固体層，多重円筒状固体層で使えるようにする			
	(2)対流伝熱		6	熱交換器の簡単なモデルを理解し，二重管式熱交換器の問題を解けるようにする			
	(3)放射伝熱		4	二物体間の放射伝熱，放射及び対流の複合伝熱の計算ができるようにする			
	後期中間試験		1				
	試験結果の解説・授業		1				
	3．物質分離及び移動操作		7				
	(1)蒸留			物質分離の基礎である蒸留に関して，気液平衡関係の理解とその計算ができるようにする			
	学年末試験		(1)				
	学年末試験の返却と評価		1				
評価方法	定期試験による各期成績の総合評価						
関連科目	化学工学Ⅱ，分離工学						
教科書	小島和夫ら　著，入門化学工学（培風館）						
問題集	オリジナルのプリント						
備考	電卓を常に持参		【学習・教育目標サブ目標との対応】2-2				

〔出典：シラバス〕

資料５－１－①－５

学科の目的

学 科 の 目 的

【機械工学科】

（1）機械工学の基礎知識、基礎技術を修得し、卒業研究や創造設計等の実践的科目を通して、設計から製作までの総合的な能力を身に付けた技術者を養成する。

（2）コンピュータ支援による種々の工学的手法を駆使しかつ周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決できる、創造性豊かな技術者を養成する。

【電気情報工学科】

（1）主たる分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的技術者を養成する。

（2）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的技術者を養成する。

【物質工学科】

（1）講義と実験を通して物質工学とそれに関係する理論を確実に理解するとともに応用力を持った技術者を養成する。

（2）課題や現象に対する問題点を自ら見つけ、これらを解決できる自主性、創造性を持った技術者を養成する。

（3）英語関係科目及び卒業研究等での英語論文読解を通して国際化に対応した実践的化学英語力を持った技術者を養成する。

【建築学科】

（1）建築の企画、設計及び施工において責任能力を有し、環境への影響に配慮できる人材を養成する。

（2）建築の伝統を発展的に継承し、建築分野における最新技術を応用できる人材を養成する。

〔出典：学校要覧〕

（分析結果とその根拠理由）

低学年では，工学の基礎となる一般科目の習得に重点を置き，学年進行とともに専門科目の比重を増加させている。専門科目においては，実験実習科目により，座学で習得した基本的原理法則を実証することができるような科目配置を心掛けている。各専門分野の基礎的な知識及び技術を系統立てて配置し，職業に必要な能力及び知識を習得できるような教育内容を提供しており，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズに応えるため，九州沖縄地区高専との単位互換制度（資料５－１－②－１）及びコンソーシアム宮崎高等教育連携部会での単位互換制度（資料５－１－②－２）が確立されている。一方，校外実習は第４学年時に実施し，規定を満たした学生には単位認定を行っている（資料５－１－②－３）。国際社会に貢献できる技術者の素養として必要と考えられる諸外国の文化に関する理解と英語力の強化を目的として，第３学年時にはTOEIC Bridge，第４学年時にはTOEIC IPの受験を課し，第５学年時に国際文化論及び英語の講義科目を設定している（資料５－１－②－４～８）。社会からの要請に応えるため，企業及び卒業生に対してアンケートを実施している（資料５－１－②－９～10）。

観点５－１－②　資料一覧

資料５－１－②－１　九州地区単位互換協定書

〔出典：総務課資料〕

資料５－１－②－２　コンソーシアム宮崎高等教育連携部会協定書

〔出典：総務課資料〕

資料５－１－②－３　校外実習実績書

〔出典：学生課資料〕

資料５－１－②－４　英語シラバス（第３学年）

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－５　英語シラバス（第４学年）

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－６　英語シラバス（第５学年）

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－７　国際文化論Ｉシラバス

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－８　国際文化論 II シラバス

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－９　企業アンケート依頼文及びアンケート内容

〔出典：学生課資料〕

資料５－１－②－10　卒業生アンケート依頼文及びアンケート内容

〔出典：学生課資料〕

資料５－１－②－１

九州地区単位互換協定書

九州沖縄地区９国立高等専門学校間における
単位互換に関する協定書

九州沖縄地区の９国立高等専門学校（以下「高専」という。）相互間の交流を通じ、教育研究交流促進の一環として学生の学習環境の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援するため、次により単位互換を行う。

（参加高専）

第１　この協定に参加する高専は、次のとおりとする。

（１）　久留米工業高等専門学校
（２）　有明工業高等専門学校
（３）　北九州工業高等専門学校
（４）　佐世保工業高等専門学校
（５）　熊本高等専門学校
（６）　大分工業高等専門学校
（７）　都城工業高等専門学校
（８）　鹿児島工業高等専門学校
（９）　沖縄工業高等専門学校

（受入れ）

第２　この協定により受入れる学生の身分は、特別聴講学生と称する。

第３　入学を希望する学生は、所属する高専の校長の承認を得たうえ、特別聴講学生入学願書を所定の期日までに所属する高専に提出しなければならない。

第４　第３の書類を受理した高専は、受入れ高専に、特別聴講学生として入学の許可を求める。

第５　受入れる学生数、受入れ手続きは、受入れ高専で決める。

（成績評価）

第６　成績の評価については、受入れ高専で定める評価基準によるものとする。

第７　受入れ高専において取得した単位は、各高専の定めるところにより各高専の単位として認めることができる。

（授業料等）

第８　特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、相互に不徴収とする。

（有効期間）
第９　本協定書の有効期間は、平成２１年１０月１日から適用し、１年間とする。
第 10　この協定は、参加高専から文書による申出がない限り、延長するものとし、その後において期間満了するときもまた同様とする。
（疑義の決定）
第 11　この協定に定めない事項又はこの協定に定める事項に疑義が生じた場合は、その都度協議して定めるものとする。

上記協定の証として、協定書９通を作成し、各高専は各１通を所持するものとする。

この協定は、平成２１年１０月２９日から施行し、平成２１年１０月１日から実施する。

久留米工業高等専門学校
校　長　　前田三男

有明工業高等専門学校
校　長　　立居場光生

北九州工業高等専門学校
校　長　　塚本寛

佐世保工業高等専門学校
校　長　　井上雅弘

熊本高等専門学校
校長　宮川英明

大分工業高等専門学校
校長　大城桂作

都城工業高等専門学校
校長　三村洋史

鹿児島工業高等専門学校
校長　赤坂裕

沖縄工業高等専門学校
校長　糸村昌祐

〔出典：総務課資料〕

資料５－１－②－２

コンソーシアム宮崎高等教育連携部会協定書

高等教育コンソーシアム宮崎単位互換に関する協定書

高等教育コンソーシアム宮崎（以下，「コンソーシアム」という。）は，各高等教育機関（以下，「大学」という。）間の相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって教育課程の充実，学生の幅広い視野の育成，学習意欲の向上を図ることを目的として，次のとおり単位互換協定（以下，「協定」という。）を締結する。

（受入れ）
第１条　この協定により受け入れることができる学生は，原則として，コンソーシアムに所属する大学の学生とし，受入れ大学の長は，教育研究上支障のない限り，当該学生を受け入れる。
（受入れ学生の身分）
第２条　この協定により受け入れられた学生は，「特別聴講学生」として取り扱う。
（履修期間）
第３条　特別聴講学生の履修期間は当該年度を超えないものとする。
（履修科目の範囲及び単位数，受入れ学生数，受入れ手続）
第４条　特別聴講学生として履修できる科目の範囲，修得単位数，受け入れる学生数及び受入れ手続については，別に定めるところによる。
（履修方法等）
第５条　特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法は，受入れ大学の定めるところによる。
（単位の授与等）
第６条　特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価については，受入れ大学の定めるところによる。
２　特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については，所属大学の定めるところによる。
（授業料等）
第７条　特別聴講学生の検定料，入学料及び授業料は徴収しない。ただし，放送大学における特別聴講学生の授業料については，別に定める。
２　実習，教材等で別にかかる費用については，費用を徴収することができる。
（施設及び設備の利用）
第８条　特別聴講学生は図書館その他の施設及び設備を利用できるものとする。利用方法は，受入れ大学の定めるところによる。
（実施要領等）
第９条　この協定に定めるもののほか，単位互換の実施に関する必要な事項は，別に定める。
（有効期間等）
第１０条　本協定の有効期間は実施期日から３年間とする。ただし，協定書の有効期間満了の３ヵ月前までに，いずれかの大学からも特段の申し出がない場合には，この協定はその後３年毎に自動更新されるものとする。
（実施期日）
第１１条　この協定は平成２２年４月１日から実施する。

平成２２年　４月　１日

宮崎大学長　菅沼
宮崎県立看護大学長　薄井
宮崎公立大学長　中別府
南九州大学長　長谷川
宮崎産業経営大学長　大村
宮崎国際大学長　黒元
九州保健福祉大学長　和田
南九州短期大学長　田野
宮崎学園短期大学長　山下
都城工業高等専門学校長　三村
放送大学長　石弘光

〔出典：総務課資料〕

資料５－１－②－３

校外実習実績書

平成２３年度　機械工学科４年

No	会　社　名	実習期間	日数	実習届	証明書
1	ムラテックCCS株式会社	8/24-8/30	6	○	C
2	セイコーエプソン株式会社	8/22-9-2	10	○	C
3	三菱電機株式会社福山製作所	7/25-8/2	7	○	B
4	全日本空輸株式会社整備本部教育訓練部	8/22-8/26	5	○	A
5	修行自動車	8/8-8/12	5	○	C
6	修行自動車	8/1-8/5	5	○	C
7	京セラ株式会社鹿児島国分工場	8/2-8/10	7	○	A
8	武田薬品工業株式会社光工場	8/1-8/5	5	○	C
9	大阪ガス株式会社	7/20-7/28	7	○	C
10	全日本空輸株式会社整備本部教育訓練部	8/22-8/26	5	○	A
11	西日本プラント工業株式会社	8/8-8/12	5	○	C
12	東燃ゼネラル	8/15-8/26	10	○	○
13	旭化成株式会社	8/1-8/5	5	○	B
14	三菱重工業　長崎造船所	8/18-8/30	9	○	B
15	日本電産株式会社	8/1-8/5	5	○	A
16	日本原子力発電株式会社東海第二発電所	8/8-8/12	5	○	○
17	ユニチカ株式会社垂井事業所	8/17-8/26	8	○	A
18	日鐵プラント設計株式会社	8/18-8/31	10	○	C
19	出光興産株式会社徳山製油所	7/25-7/29	5	○	C
20	修行自動車	8/1-8/5	5	○	C
21	修行自動車	8/1-8/5	5	○	C
22	JFEスチール	7/25-8/5	10	○	C
23	株式会社トヨタ車体研究所	7/23-8/31	25	○	B
24	東京エレクトロンFE株式会社	8/1-8/10	8	○	A
25	三菱ガス化学株式会社	8/22-8/26	5	○	A
26	新日本製鐵株式会社大分製鉄所	8/22-9/2	10	○	A
27	シチズン時計鹿児島株式会社	8/1-8/5	5	○	A
28	日本電産株式会社	7/18-7/22	5	○	A
29	林テレンプ株式会社	8/27-9/7	10	○	A
30	修行自動車	8/8-8/12	5	○	C
31	花王株式会社和歌山工場	7/25-8/4	9	○	C
32	メタウォーター株式会社	8/29-9/2	5	○	B
33	丸善石油化学株式会社千葉工場	7/25-7/29	5	○	B
34	豊橋技術科学大学	7/25-7/29	5	○	A

平成２３年度　電気情報工学科４年

No	会　　社　　名	実習期間	日数	実習届	証明書
1	ソーラーフロンティア株式会社	8/1-8/10	8	○	A
2	NTTネオメイト九州支店宮崎事業所	8/1-8/5	5	○	B
3	宮崎県県民政策部総合政策課	8/22-9/2	10	○	B
4	九州電力株式会社宮崎電力センター総合制御所	8/15-8/19	5	○	A
5	日本情報クリエイト株式会社	8/25-8/31	5	○	A
6	西日本プラント工業株式会社	8/8-8/12	5	○	C
7	株式会社JPハイテック西日本カンパニー南九州事業所鶴田出張所	8/22-8/26	5	○	A
8	日本原子力発電株式会社敦賀発電所	8/1-8/5	5	○	○
9	株式会社シマノ	8/22-8/26	5	○	B
10	株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング	8/27-8/31	5	○	B
11	東燃ゼネラル石油株式会社和歌山工場	7/26-8/5	10	○	C
12	NTTファシリティーズ九州支店	8/22-8/26	5	○	B
13	株式会社IHIマリンユナイテッド横浜工場	8/18-8/31	10	○	B

平成２３年度　物質工学科４年

No	会　社　名	実習期間	日数	実習届	証明書
1	大口電子株式会社	8/22-8/26	5	○	A
2	三洋化成工業株式会社名古屋工場	8/8-8/12	5	○	A
3	宮崎県総合農業試験場生物工学部	8/1-8/5	5	○	A
4	日東電工株式会社尾道事業所	8/8-8/12	5	○	A
5	三洋化成工業株式会社京都工場	8/1-8/5	5	○	A
6	住友精化株式会社	7/25-7/29	5	○	A
7	協和発酵バイオ生産技術研究所	7/25-8/5	10	○	A
8	ソーラーフロンティア株式会社	8/1-8/10	8	○	A
9	株式会社資生堂大阪工場	7/26-8/3	7	○	C
10	第一工業株式会社滋賀事業所	8/22-8/26	5	○	B
11	コスモ石油株式会社堺製油所	8/1-8/5	5	○	B
12	東燃ゼネラル石油株式会社和歌山工場	7/26-8/5	10	○	○
13	チッソ石油化学株式会社五井製造所	8/16-8/26	9	○	B
14	京セラ株式会社鹿児島国分工場	8/2-8/10	7	○	A
15	南日本酪農協同株式会社	8/8-8/12	5	○	B
16	宇部興産株式会社宇部ケミカル工場	8/22-8/26	5	○	B
17	第一三共プロファーマ株式会社高槻工場	8/1-8/5	5	○	A
18	宮崎県木材利用技術センター	7/25-7/29	5	○	A
19	大日精化工業株式会社東京製造事業所	7/26-8/3	6.5	○	A
20	DIC株式会社埼玉工場	7/27-8/9	10	○	C
21	宮崎県総合農業試験場野菜部	8/8-8/12	5	○	A
22	武田薬品工業株式会社光工場	8/1-8/5	5	○	C
23	南日本酪農協同株式会社	8/8-8/12	5	○	B
24	住友精化株式会社精密化学品研究所	8/1-8/5	5	○	A
25	南日本酪農協同株式会社	8/8-8/12	5	○	A
26	株式会社ワコーケミカル	7/25-7/29	5	○	B
27	JSR株式会社千葉工場	8/22-8/26	5	○	A
28	京セラ株式会社鹿児島川内工場	8/19-8/31	10	○	○
29	矢崎総業株式会社	8/20-8/31	10	○	A
30	東レ株式会社岐阜工場	7/26-8/5	9	○	B
31	花王株式会社和歌山工場	7/25-8/4	9	○	C
32	独立行政法人九州沖縄農業研究センター	8/1-8/5	5	○	A
33	株式会社カネカ高砂工業所	8/8-8/12	5	○	B

平成２３年度　建築学科４年

No	会　　社　　名	実習期間	日数	実習届	証明書
1	霧島市建設部建築指導課･区画整理課	8/1-8/5	5	○	B/C
2	万代ホーム株式会社	7/21-7/25	5	○	A
3	株式会社NTTファシリティーズ九州支店	8/1-8/5	5	○	A
4	西松建設株式会社宮崎建築出張所	8/22-8/26	5	○	A
5	大阪ガス	7/20-7/28	7	○	B
6	株式会社フジタ	8/22-8/26	5	○	B
7	東レ建設株式会社	8/22-8/29	7	○	B
8	万代ホーム株式会社	7/21-7/25	5	○	A
9	都城木材株式会社	8/22-8/26	5	○	B
10	株式会社桜木組	8/17-8/23	5	○	A
11	三菱地所コミュニティ株式会社	7/25-8/5	10	○	B
12	都城木材株式会社	8/8-8/12	5	○	A
13	有限会社坂本住建	8/1-8/5	5	○	B
14	有限会社団一級建築設計事務所	7/19-8/8	15	○	A
15	SANAA設計事務所	8/8-13 8/22-27	12	○	A
16	株式会社竹中工務店	8/1-8/6	6	○	A
17	万代ホーム株式会社	7/21-7/25	5	○	A
18	有限会社団一級建築設計事務所	7/19-8/8	15	○	A
19	上田工業株式会社	8/22-8/27	6	○	B
20	都城木材株式会社	8/22-8/26	5	○	B
21	有限会社大和建装	8/10-8/17	5	○	B
22	株式会社下森建装	8/8-8/12	5	○	C
23	吉原建設株式会社	8/8-8/12	5	○	A
24	株式会社桜木組	8/17-8/23	5	○	A
25	宮崎県県土整備部営繕課	8/1-8/5	5	○	A
26	上田工業株式会社	8/22-8/27	6	○	B
27	日南市役所建築住宅課	8/8-8/12	5	○	A

〔出典：学生課資料〕

資料５－１－②－４

英語シラバス（第３学年）

科目名 (英語表記)	英語（ English ）			担当教員	崎山　　強		
学年・学科	3年・全科	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	オフィスアワー	月曜８限目：崎山研究室		
学習目標	過去2年間で学習してきたことをもとに、「聴くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を活用した演習を行う。英語検定準2級（既に準2級を取得している学生については2級）合格を目指す。同時にTOEICのテストの基礎的な問題に対応出来るようにする。						
進め方	使用テキストの難易度に応じて補助プリント等を用意するので、必ず予習しておくこと。授業中はなるべく多くの学生に指名して答えさせるが、予習の努力がうかがえる場合には正解、不正解にかかわらずプラス評価を行うので、積極的に授業に参加し、力をつけてほしい。						

	学習項目	時間数	学習到達目標
学習内容	Unit 1　Pedal Power Forerunner to Power-Up English 1 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 1 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 1	9	自転車の力 リスニングの力をつける 日常生活
	Unit 2　Crime and Punishment Forerunner to Power-Up English 2 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 2 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 2	9	安全な国日本 リスニングの力をつける
	Unit 3　Power to the People Forerunner to Power-Up English 3 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 3 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 3 前期中間試験	3	景観も環境問題 リスニングの力をつける
	Unit 4　Rise of the Vending Machine Forerunner to Power-Up English 4 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 4 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 4	9	自動販売機の落とし穴 リスニングの力をつける
	Unit 5　Lovely Day, isn't it? Forerunner to Power-Up English 5 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 5 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 5	9	変化に富んだ日本の気候 リスニングの力をつける
	Unit 6　A Chane For the Worse Forerunner to Power-Up English 6 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 6 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 6	3	食変化 リスニングの力をつける
	前期末試験		
	前期末試験の返却と評価	3	
	Unit 7　Is Bigger Always Better? Forerunner to Power-Up English7 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 7 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 7	9	自動車と環境問題 文法力をつける
	Unit 8　The Land of the Loudspeaker Forerunner to Power-Up English 8 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 8 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 8	9	日本の騒音事情 文法力をつける
	Unit 9　TAXI Forerunner to Power-Up English 9 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 9 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 9	3	諸国のタクシー事情 文法力をつける
	後期中間試験		
	Unit 10　Responsible Sleeping Forerunner to Power-Up English 10 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 10 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 10	9	充分な睡眠を 速読の力をつける
	Unit 11　That's rubbish! Forerunner to Power-Up English 11 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 11 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 11	9	ポイ捨て問題 速読の力をつける
	Unit 12　What's your type? Forerunner to Power-Up English 12 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 12 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 12	3	血液型が性格を？ 速読の力をつける
	学年末試験		
	学年末試験の返却と評価	3	

評価方法	4回の試験以外に、実力養成テスト、TOEIC BRIDGE TEST, 授業中に実施する小テスト、授業での積極性も考慮し、総合的な評価を行う。
関連科目	英会話、専門科目
教科書	Your Japan, My Japan (*Nan'un-do*), Forerunner to Power-Up English (Nan'un-do), TOEIC TEST ROUND THE CLOCK (Nan'un-do), Toeic Bridge First Steps to Success(Nan'un-do)
参考書	TOEIC BRIDGE WORKBOOK
備考	【学習・教育目標サブ目標との対応】３－１　３－３

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－５

英語シラバス（第４学年）

英語（English）						ポートフォリオ
専攻・学年	4年全科	単位・期間	必修2単位・通年履2時間（授業時間60時間）			<記入上の注意>
担当教員	笹谷浩一郎	連絡先	一般科棟３階　笹谷研究室	オフィスアワー	月８限	【達成の度合】（記入例）ファラデーの役割、交流の発生については正しく理解できたが、偏電流については余り理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。（記入例）ファラデーの役割に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】がおおむね目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 過去3年間で身につけた基礎学力をもとに英文読解能力を高めるとともに、演習を通してTOEICテストの基礎的な問題に対応できるリスニング力、語彙力、文法力を身につける。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習】 Skills for Better Readingについては、予習用資料に基づいて必ず予習をしておくこと。TOEIC Test: On Targetに関しては演習形式で行うため予習は不要。いずれも、復習を含む自習をしてほしい。毎週英単語テストを行う。						
【授業の内容】						【授業計画の説明】【実施状況の記入】
授業要目	内　容				時間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明				1	
TOEIC模擬試験	試験および解説				1	【達成の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Conclusion/Reason 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Conclusion/Reason 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Analysis 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Analysis 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Theory/Proof 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Theory/Proof 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
前期中間試験					1	【試験の結果】試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
Controversy 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	【達成の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Controversy 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Comparison/Contrast 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Comparison/Contrast 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Classification 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Classification 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
前期末試験					（１）	【試験の結果】試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Instructions 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				1	【達成の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Instructions 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Chronological Order 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Chronological Order 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Cause and Effect 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Cause and Effect 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
後期中間試験					1	【試験の結果】試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
Process 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	【達成の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Process 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Explanation 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Explanation 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Definition 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Definition 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
学年末試験					（１）	【試験の結果】試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
				合計時間	60	
【達成目標】 状況に応じて、適語、熟語を使い分けながら英文を読めるようになり、TOEICテストの基本的な問題に対応できること。						【総合達成度】総合評価の点数（　　）
【成績の評価方法】 それぞれの定期試験とTOEICIP結果を各20％の割合で総合評価する。						
【評価基準】 学年成績60点以上を合格とする。						
【教科書】 Skills for Better Reading, TOEIC Test: On Target Book						【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 理工系学生のための必修英単語						
【学習・教育目標との対応】　C　　【JABEE基準との対応】　(a), (f)						

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－６

英語シラバス（第５学年）

英語（English）						ポートフォリオ
専攻・学年	5年全学科	単位・期間	2単位・通年			＜記入上の注意＞
担当教員	吉村　徳行	連絡先	一般教科棟3階　吉村研究室	オフィスアワー	月曜日昼	【理解の度合】（記入例）ファラデーの法則、交流の等をについてはおよそ理解できたが、偏電流については余り理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 聴解能力・読解能力を中心に英語の運用能力の育成を目指す。また、理工系に必要な語彙力の習得を目指す。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】 授業前に、教科書のIntroductionとKey Vocabularyを予習しておく必要がある。授業中に扱った音声については、学内LANに整備されたパソコンで聴けるようにしておくので復習をしてほしい。語彙力については、授業以外の時間を利用して伸ばしていってほしい。						
【授業の内容】						【授業計画の説明】（実施状況の記入）
授業要目	内　容				時間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明				1	
Unit 1	The Beatles and Popular Music				5	【理解の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Unit 2	Extreme Sports				4	
Unit 3	Roller Coasters				4	
前期中間試験					1	【試験の結果】 試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Unit 4	Movies – Behind the Scenes				5	【理解の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Unit 5	Sightseeing: Death Valley				4	
Unit 6	Beer and Microbreweries				5	
前期末試験					（ 1 ）	【試験の結果】 試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Unit 7	Overseas Jobs				5	【理解の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Unit 8	Movie Reviews				4	
Unit 9	Television				4	
後期中間試験					1	【試験の結果】 試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Unit 10	Photography				5	【理解の度合】（教員は授業の実施状況を記入）
Unit 11	Carnival in Rio				5	
Unit 12	Winter Olympics				4	
学年末試験					（ 1 ）	【試験の結果】 試験の点数（　　）
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
				合計時間	60	
【達成目標】 書籍等の各種手段によって他者と意思などを疎通させる能力を伸ばす。						【総合達成度】 総合評価の点数（　　）
【成績の評価方法】 4回の定期試験と小テスト等を総合して評価する。						
【評価基準】 60点（100点満点）を合格とする。						
【教科書】 Video Magazine (Asahi Press)						【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 理工系学生のための必修英単語3300 (SHINKO)						
【学習・教育目標との対応】　C		【JABEE基準との対応】 (a), (f)				

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－７

国際文化論Iシラバス

国際文化論Ⅰ（Cross-Cultural Study Ⅰ）						ポートフォリオ
事攻・学年	5年全クラス		単位・期間	通年2単位		＜記入上の留意＞
担当教員	飯尾英明	連絡先	一般教科棟飯尾研究室	オフィスアワー	月曜日昼	【理解の度合】(記入例) ファラデーの伝記、交流の発生については概ね理解できたが、通電現については十分理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例) ファラデーの伝記に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 ドイツ語による基本的なコミュニケーションに必要な文法事項を習得するとともに、ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ文化の多様な側面に触れ、異文化理解の一助とする。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】 前年度選択ドイツ語で用いた教科書を継続して使用する。授業には辞書を持参すること。4年時でドイツ語を履修済みであることが求められる。 授業には必ず、指定の教科書、辞書、配布されたプリントを持参すること。 教科書に付随するCDであらかじめ音声を聞き発音練習しておくことが望ましい。						
【授業の内容】						【授業計画の概要】(実施状況の記入)
授業要目	内　容				時間	
授業計画の概説	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の概説				1	
Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor?	週末や休暇の予定／天候／一日の行動・日常生活 分離動詞／前置詞と定冠詞の融合形／話法の助動詞／非人称のes 日常生活で使う分離動詞／分離動詞に似た使い方をする費用／形容詞 会話練習・text問題練習 プリント問題練習				7 7	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
前期中間試験					1	【試験の結果】試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Lektion 6 Was hast du in den Sommerferien gemacht? Lektion 7 Wo warst du gestern Abend?	過去の出来事(1)／時を表す表現(2) 過去分詞／現在完了 過去の出来事(2)／位置の表現／～がある／曜日／メルヒェン 過去基本形／過去時制／前置詞(2)／es gibt…				3 3 3 3	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
前期末試験					(1)	【試験の結果】試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Lektion 8 Ich interessiere mich sehr für kochen. Lektion 9 Ich freue mich sehr, wenn du nach Japan kommst.	従属／副事／関係時間・関係時間／料理／比較の表現 受動文／再構代名詞と再構動詞／比較級・最上級 二つの文を一つにする／病気／色 zu不定句／従属の接続詞と副文				3 4 3 3	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
後期中間試験					1	【試験の結果】試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Lektion 10 Wenn ich Zeit hätte …	仮定文の復習 接続法2式				6 8	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
学年末試験					(1)	【試験の結果】試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
				合計時間	60	
【達成目標】 授業で扱われたドイツ語会話文を文法的に理解すること。 基本的な発音ができること。 授業で扱われた程度の文章を辞書等を利用して読解できること。、文法事項の基礎的な知識を有すること。 ヨーロッパ・ドイツ語圏地域についての基礎的な知識と異文化に対する理解を有すること。						【総合達成度】総合評価の点数(　　)
【成績の評価方法】 前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験を各25%として評価する。						
【評価基準】 評価基準は、学年成績60点以上を合格とする。						
【教科書】 アプファールト　スキットで学ぶドイツ語（三修社）						【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 エクセル独和辞典(郁文堂)						
【学習・教育目標との対応】C			【JABEE基準との対応】(a), (f)			

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－８

国際文化論IIシラバス

国際文化論 II (Cross-Cultural Study II)						ポートフォリオ
専攻・学年	全科・5年	単位・期間	選択2単位・通年2時間(授業時間60時間)			<記入上の注意> 【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生については概ね理解できたが、偏電流についてはあまり理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
担当教員	田村 源志	連絡先	一般教科棟2階 田村研究室	オフィスアワー	月8限	
【授業目的】 交通、通信の発達により、現在は海外との交流も活発になってきている。しかし、必ずしもそれが相互理解をともなっているわけではない。そこで、本授業では、日本にはこれまでなじみの少なかった民族、国家、宗教に焦点をしぼり、それらの背景がどのような背景をもっているのか、それらがなぜ現在問題となっているのかを理解し、それらについて議論できるようにする。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】 時事問題、世界情勢に広く関心をもつこと。少なくとも2年生で履修した現代社会IIを復習しておくこと。時事問題と歴史の関連を意識するので新聞に目を通し、授業で扱う問題との関連を常に意識することが必要である。						
【授業の内容】						【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授業要目	内　容				時間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明				1	
I 民族と国家 1 国民国家 1 国民国家の起源	国民国家とは、いつ頃成立した考え方なのか、どのような国家をそう呼ぶのかをヨーロッパを例に理解する。				5	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
2 日本での国民国家形成	日本における国民国家の形成期にとられた政策をみていくことによって、それが現在の生活や日本人の考え方にどのように関わっているのかを考える。				6	
2 多民族国家 1 アメリカ合衆国 歴史 現在の課題	現在の多くの国家にみられる多民族国家を考察する。 他民族国家なかで、多民族が混在する国の例としてアメリカ合衆国を取り上げる。その際、歴史的にどのように他民族が混在するようになったのか、その結果どのような国が出来たのかを考察する。				 6 4	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
2 バルカン半島諸国	民族を中心として形成された「小国家」を内部に持つ連邦国家をバルカン半島を例に歴史的経緯からみていく。				6	
3 まとめ	多民族国家と国民国家の違いとこれからの課題				2	
前期末試験					(1)	【試験の結果】 試験の点数(　　) レポートの点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
II 宗教と社会 1 宗教の役割	宗教が、人々の生活に密接に結びついていることを理解する。				2	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
2 世界の主要宗教 1 仏教 2 ユダヤ教 3 キリスト教 4 イスラム教	世界の主要な宗教の歴史と基本的な考え方を理解する。その際、中東で誕生した諸宗教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)は相互に影響を与えあっており、本来は関係が深いことに特に重点を置く。また、そのことが現在の宗教間、民族間に複雑な事情をもたらしていることを理解する。				 2 4 4 4	
3 中東問題 1 問題の始まり 2 パレスチナ問題 3 現在の問題	パレスチナ問題を中心として、中東で起こっている問題を考察する。それに民族と宗教がどう関係しているかを理解する。また、各組織が取り組んでいる解決の努力を取り上げる。				 2 6 2	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
学年末試験					(1)	【試験の結果】 試験の点数(　　) レポートの点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
				合計時間	60	
【達成目標】 現在世界各地で起こっている問題には歴史的背景があり、地域によって考え方が異なることを理解し説明できること。						【総合達成度】 総合評価の点数(　　)
【成績の評価方法】 2回のレポート(それぞれ20%)前期末試験(25%)学年末試験(25%)課題提出物(10%)で評価する。						
【評価基準】 学年成績60点以上を合格とする。						
【教科書】 使用しない						【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』						
【学習・教育目標との対応】　(C)　　【JABEE基準との対応】　(a)(f)						

〔出典：シラバス〕

資料５－１－②－９

企業アンケート依頼文及びアンケート内容

平成２３年１２月１６日

○　○　○　○　株式会社
人事担当者　様

都城工業高等専門学校
校　長　三　村　洋　史

本校卒業生に関する評価アンケートについて（お願い）

拝啓、貴社益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

本校では、より優れた人材を地域に輩出するために教育改善を行うことを目的に、本校の卒業生が御社の一員としてお役に立てているかを評価アンケートの形で確認させていただくことになりました。

ついては、平成19年度以降に採用いただいた本校卒業生について、別添のアンケートを送付しますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ご回答いただくにあたっては、本校卒業生が複数人の場合、個人の評価ではなく、本校卒業生全体に対する評価で結構です。参考までに、平成19年度以降採用いただいた本校卒業生の一覧を同封させていただきます。

なお、このアンケート結果は、本校の教育改善のための資料とすることに限って使用し、内容を外部に直接公表することはいたしません。

ご多忙の中恐縮ですが、平成24年1月27日（金）までに、ファックスで返信いただけると幸いです。

最後に、貴社の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

謹白

問い合わせ先
都城高専学生課教務係
電　話　０９８６－４７－１１３４
メール　kyoumu@jim.miyakonojo-nct.ac.jp

送　付　先：都城高専学生課教務係
ファックス：０９８６－４７－１１４３
※送付状は不要です。このまま送付してください。
問い合わせ：０９８６－４７－１１３４

【企業アンケート】

御　社　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご回答者様　（所属）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（氏名）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（連絡先・電話）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ－０１　御社に勤務する本校卒業生が、現在従事している職種についてお教えください。
（複数回答可）

１．研究・開発　２．生産・製造　３．生産技術・製造技術　４．販売・営業
５．保守・点検・サービスエンジニア　６．プログラマ・システムエンジニア
７．その他（　　）

Ｑ－０２　本校卒業生は、御社の期待に応えているでしょうか。

１．期待以上　２．概ね期待どおり　３．普通　４．やや期待はずれ　５．期待はずれ

Ｑ－０３　上記について、具体的な内容について差し支えない範囲でお教えください。

Ｑ－０４　本校卒業生は、以下のどのような点が優れているとお感じですか。（複数回答可）

１．身だしなみ　２．挨拶　３．言葉遣い　４．チャレンジ精神　５．主体性
６．協調性　７．誠実性　８．責任感　９．創造性　10．コミュニケーション能力
11．プレゼン能力　12．専門知識　13．専門基礎知識（数学、物理学等）14．一般教養
15．語学力　16．一般常識　17．保有資格　18．情報処理能力（PC 操作）
19．その他（　　）

Ｑ－０５　本校卒業生は、以下のどのような点が劣っているとお感じですか。(複数回答可)

１．身だしなみ　２．挨拶　３．言葉遣い　４．チャレンジ精神　５．主体性
６．協調性　７．誠実性　８．責任感　９．創造性　10．コミュニケーション能力
11．プレゼン能力　12．専門知識　13．専門基礎知識（数学、物理学等）14．一般教養
15. 語学力　16. 一般常識　17. 保有資格　18. 情報処理能力（PC 操作）
19. その他（　　）

Ｑ－０６　本校が、力を入れるべきとお感じの教育内容を３つ以内でお教えください。

１．身だしなみ　２．挨拶　３．言葉遣い　４．チャレンジ精神　５．主体性
６．協調性　７．誠実性　８．責任感　９．創造性　10．コミュニケーション能力
11．プレゼン能力　12．専門知識　13．専門基礎知識（数学、物理学等）14．一般教養
15. 語学力　16. 一般常識　17. 保有資格　18. 情報処理能力（PC 操作）
19. その他（　　）

Ｑ－０７　御社が、本校に期待されることは何でしょうか。(複数回答可)

１．専門知識を持った人材の育成　２．幅広い知識を持った人材育成　３．地域に貢献できる人材育成　４．共同研究　５．社会人を対象とした教育　６．技術指導　７．本校卒業生との連携　８．その他（　　）

Ｑ－０８　本校に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

〔出典：学生課資料〕

資料５－１－②－10

卒業生アンケート依頼文及びアンケート内容

平成２３年１２月

卒業生　各位

都城工業高等専門学校長　三村洋史

卒業生による教育・学校評価アンケートについて(お願い)

都城高専卒業生の皆様、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
本校では、教育内容の点検と改善のため、定期的な自己点検評価の実施、認証評価の受審、学生による授業評価アンケート（毎年）等を行い、改善を行ってまいりましたが、教育内容の有効な点検には、社会に出た卒業生の皆様による教育・学校評価を欠かすことはできません。
つきましては、このアンケートに是非ご回答いただき、点検と改善にご協力いただきますようお願い申し上げます。
なお、選択肢の＜その他（具体的に　　）＞や、＜具体的に指摘してください（記入：　　）＞は重要ですので、該当する場合は必ず記入してください。また、意見を求める問いには、是非、率直なご意見をお願いいたします。
ご回答後は、お手数ですが、同封の封筒で郵送してください。
できましたら、平成２４年１月末頃までには郵送してください。

問合先：都城高専教務主事　森茂健一

以下、A1～L3に、ご回答下さい。

（回答者事項）

A1 あなたの性別に○印をしてください。

1. 男性　　2. 女性

A2 卒業学科について、該当するものに○印をしてください。

1. 機械工学科　2. 電気工学科　3. 物質工学科　4. 建築学科

A3 卒業後、所属した勤務先（自営を含む）の業種について、該当するものに○印をしてください。

1. 機械・輸送機器　2. 電気機器　3. 電力・ガス・水道　4. コンピュータ・情報通信
5. 輸送　6. 化学工業　7. 繊維・材料　8. 医薬・化粧品　9. 食品
10. 石油・石炭　11. 建設　12. 官公庁　13. 学校・教育　14. 学校在学中
15. その他

A4 卒業後、在職した職種について、該当するものに○印をしてください。

1. 企画・経営　2. 研究開発　3. 設計　4. 生産製造　5. 販売
6. サービス　7. 行政　8. ITエンジニア　9. 教育　10. その他

A5 現在の職種について、該当するものに○印をしてください。

1. 企画・経営　2. 研究開発　3. 設計　4. 生産製造　5. 販売
6. サービス　7. 行政　8. ITエンジニア　9. 教育　10. その他

（教育内容）

B1　数学、物理、化学，生物，情報技術等の一般理科教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

B2　当時、不十分だった、又は、欠けていたと思う一般理科科目は、次のいずれですか。
該当するものに、○印をしてください。（複数回答可）

1. 基礎数学　2. 応用数学　3. 統計解析　4. 数値解析　5. 一般物理
6. 応用物理　7. 一般化学　8. 一般生物　9. 環境科学　10. 情報理論
11. コンピュータ援用技術　12. その他（具体的に　　）

C1　一般文科のうち国語及び社会系の教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

C2　当時、不十分だった、又は、欠けていたと思う一般文科の国語及び社会系の科目は、次のいずれですか。
該当するものに、○印をしてください。（複数回答可）

1. 現代文　2. 古文　3. 漢文　4. 文章表現法
5. 日本史　6. 世界史　7. 現代史　8. 現代日本社会　9. 現代国際社会
10. 経済学　11. 哲学　12. 社会学　13. 倫理学　14. 法学
15. 産業財産権法　16. その他（具体的に　　）

D1　一般文科のうち英語教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

D2　当時、不十分だった、又は、欠けていたと思う英語の分野（科目）は、次のいずれですか。
該当するものに、○印をしてください。（複数回答可）

1. 英語読解　2. 英会話　3. 英作文　4. リスニング
5. 口頭発表プレゼンテーション

E1　専門教育は、職業に就く基礎知識の学習として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（ 記入：　　）

E2　専門教育の実験・実習（設計演習）は、職業に就くための基礎として十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（ 記入：　　）

F1　卒業研究の経験は、職業に就く上で役に立ちましたか。該当するものに、○印をしてください。

1. 大変役に立った　2. ある程度役に立った　3. どちらとも言えない　4. 余り役に立たなかった
5. 役に立たなかった

（学生支援）

G　会社紹介、職種紹介、就職受験指導、進学受験指導等の進路支援は、十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　　2. やや不十分だった　　3. 不十分だった　　4. 分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（ 記入：　　）

H　在学中の悩み等についての相談支援は、十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　　2. やや不十分だった　　3. 不十分だった　　4. 分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（ 記入：　　）

I　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　　2. やや不十分だった　　3. 不十分だった　　4. 分からない

J　高専在学中に取得しておくべき資格がありましたら、記入してください。

（ 記入：　　）

（学習環境）

K1　図書館は、自学自習を進める上で十分な施設・蔵書内容でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　　2. やや不十分だった　　3. 不十分だった　　4. 分からない

K2　電子計算機センターは、自学自習を進める上で十分な環境でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　　2. やや不十分だった　　3. 不十分だった　　4. 分からない

（総合的視点）

L1　あなたが、本校を高く評価する点があれば、記入してください。

（ 記入：　　）

L2　あなたが、本校を低く評価する点があれば、記入してください。

（ 記入：　　）

L3　本校に関し、ご意見があれば、遠慮なく記入してください。

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

本校では，他の高等教育機関との連携による単位互換制度を確立しており，さらに，全学生に対して校外実習の受講を奨励している。このように学生の多様なニーズ，学術の発展動向及び社会からの要請等に配慮した教育課程の編成に努めている。国際社会に貢献できる実践的技術者としての素養を身に付けさせることを目的とし，各学年で英語力の強化を図っている。社会からの要請に対しては，企業及び準学士課程卒業生のアンケート調査を行っており，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮した編成となっている。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

一般科目と各専門科目は，学習・教育目標に対応するよう配置され（前述資料５－１－①－３），講義，演習，実験及び実習の授業形態をバランス良く配置している。専門学科では，学年進行に伴って実験，実習及び演習の時間を多く設定し（前述資料５－１－①－２），いずれの実験実習科目においても，確実な授業効果を得ることを目的とし，テーマごとに少人数で取り組むことができるように配慮されている（資料５－２－①－１）。国際社会に貢献できる技術者の素養として必要と考えられる基礎英語の強化を目的とし，低学年では英語検定準２級を目指した授業内容としており，第３学年時にTOEIC Bridgeを，第４学年以降ではTOEIC IPを導入し，英語力の向上に努めている（資料５－２－①－２～５）。一方，講義方法も，各教員が講義内容を考慮し，授業効果等を確認しながら情報機器等を適宜活用するようにしている（資料５－２－①－６）。これに対応できるよう，全教室にプロジェクターとスクリーンが設置されている。英語科及び数学科では，学生のより一層の学力向上を目指した補習授業を実施するとともに，他学科においてもオフィスアワーを十分に活用して学生の学力向上に努めている（資料５－２－①－７）。

観点５－２－①　資料一覧

資料５－２－①－１　物質工学科機器分析・物理化学実験計画書

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－①－２　第１学年英語シラバス

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－３　第２学年英語シラバス

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－４　第３学年英語シラバス

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－５　第４学年英語シラバス

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－６　授業改善報告書

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－①－７　補習記録

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－①－１

物質工学科機器分析・物理化学実験計画書

第4学年　　機　器　分　析　・　物　理　化　学　実　験

平成24年度前期(後半)4日～6限　4月12日～10月4日)

No	氏　名	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/21	6/28	7/5	9/6	9/13	10/4
1			A		B		C		D		E		F		
2															
3															
4			F		A		B		C		D		E		
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12			E		F		A		B		C		D		
13															
14															
15															
16			D		E		F		A		B		C		
17															
18															
19															
20			C		D		E		F		A		B		
21															
22															
23															
24			B		C		D		E		F		A		
25															
26		実験についての説明													機器および レポート整理
27				J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S		
28															
29				S	J	K	L	M	N	O	P	Q	R		
30															
31				R	S	J	K	L	M	N	O	P	Q		
32															
33				Q	R	S	J	K	L	M	N	O	P		
34															
35				P	Q	R	S	J	K	L	M	N	O	レポート整理	
36															
37				O	P	Q	R	S	J	K	L	M	N		
38															
39				N	O	P	Q	R	S	J	K	L	M		
40															
41				M	N	O	P	Q	R	S	J	K	L		
42															
43				L	M	N	O	P	Q	R	S	J	K		
44															

【機器分析実験テーマ】

A：核磁気共鳴（NMR）
B：ガスクロマトグラフィー
C：分光光度計
D：原子発光分析法
E：蛍光顕微鏡
F：赤外吸収スペクトル

【物理化学実験テーマ】

J：液体の密度測定
K：液体の粘土測定
L：液体の相互溶解度測定
M：液体の凝固点降下測定
N：一次反応の反応速度測定
O：合金の融点測定
P：分解電圧および電池の起電力測定
Q：導電率（電解伝導度）の測定
R：吸着平衡の測定
S：中和熱の測定

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－①－２

第１学年英語シラバス

科目名 (英語表記)	英語(English)			担当教員	宮沢　幸		
学年・学科	1年全	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	オフィスアワー	月曜8限		
学習目標	英語を読み、内容を理解する力を伸ばす。同時に、練習問題等を通して、英語を書く、話す、聞くことにも慣れる。実用英語技能検定試験(英検)3級未得者は3級受験を、3級既得者は準2級受験を身近な目標として頑張って欲しい。また、多読用英語図書(図書館所蔵)を利用して、できるだけ多くの英文を読むこと。						
進め方	前期は毎時間数科書を中心に進める。予習としては単語の意味を調べ、本文のおおまかな内容をつかむ努力をする。復習はワークブックを使って勉強することが求められる。また、後期からは週1時間の英文多読を通して、やさしい英文を大量に読み、日本語を介さない直接的な英文理解をめざす。英文和訳を避け、分からないところはとばし、英文読書を楽しむ。						
学習内容	学習項目		時間数	学習到達目標			
	L.1 Spring Festivals		7	基本的な5文型を理解し、使えるようになる。			
	L.2 A Story from Scotland		8	受け身・不定詞を理解し、使えるようになる。			
	L.3 Sushi and Kanji		8	現在完了・It is+形容詞+to do・S+V+O+O(=wh-/how節)を理解し、使えるようになる。			
	前期中間試験		1				
	L.4 Gift Giving		9	接続詞・名詞を修飾する過去分詞・S+V(=be動詞以外)+Cを理解し、使えるようになる。			
	実力養成テスト(英語検定3級予想問題集)		1	中学校の既習事項総復習			
	L.6 Eating Chocolate		9	動名詞・関係代名詞(主格)・S+V+O+動詞の原形を理解し、使えるようになる。			
	前期末試験						
	前期末試験の返却と評価		1				
	L.7 Get Over Your Fears!		9	過去完了・so ～ that...・関係代名詞(目的格)を理解し、使えるようになる。			
	L.8 Lance Armstrong		10	関係代名詞の非制限用法・否定表現・名詞を修飾する現在分詞・S+V+O+O(=that節)を理解し、使えるようになる。			
	英文多読		6	多読学習法を理解し、少しずつ読みやすさレベル(YL)を上げながら、辞書を使わずに英文読書を楽しむ。			
	後期中間試験		1				
	L.8 Lance Armstrong		2	中間試験前からの続き。			
	L.9 Sleepy Teens		12	(S+V+O+to do)の受け身・数量の差を表す比較・強調構文・関係副詞を理解し、使えるようになる。			
	英文多読		6	多読学習法を理解し、少しずつ読みやすさレベル(YL)を上げながら、辞書を使わずに英文読書を楽しむ。			
	学年末試験						
	学年末試験の返却と評価		1				
評価方法	4回の定期試験と実力養成試験を実施する。授業中に行う単語の小テストも成績に入れて、総合的な評価を行う。						
関連科目	オーラル英語・英作文						
教科書	LovEng.: English Course I (啓林館)						
参考書	LovEng.: English Course I (啓林館) コーパス3000 (東京書籍)						
備考			【学習・教育目標サブ目標との対応】 3-3				

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－３

第２学年英語シラバス

科目名（英語表記）	英語 (English)			担当教員	飯尾 高明		
学年・学科	2年M・C	学　期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分　野	一般	授業形式	講義	オフィスアワー	月曜8限		
学習目標	読解能力を中心とした総合的な英語の運用能力の育成（英検準2級程度）を目指す。実用英語技能検定試験（英検）は、3級未得者は3級受験を、3級既得者は準2級受験を身近な目標として努力してほしい。						
進め方	テキストの読解を中心に、音読にも力を入れながら進めていく。予習課題に全力で取り組み、復習として音読を取り入れること。						

学習内容	学習項目	時間数	学習到達目標
	L.1 What Day Is Today?	8	P-1 関係副詞 P-2 理由を表す接続詞 P-3 関係代名詞の省略
	L.2 Would you Like a Cup of Tea?	8	P-1 It is said that … P-2 seem to … P-3 if/whetherが導く目的語
	L.3 Okinawa–A Cultural Crossroads in Japan	8	P-1 知覚動詞を使ったSVOC構文 P-2 仮定法過去 P-3 過去完了進行形　P-4 SVOC構文（Cが過去分詞）
	前期中間試験	1	
	L.4 A Dream to Reproduce a Real Starry Sky	9	P-1 分詞構文（現在分詞） P-2 分詞構文（過去分詞） P-3 関係代名詞の非制限用法(which) P-4 関係代名詞の非制限用法(who)
	L.5 No Free lunch	10	P-1 関係副詞の非制限的用法(where) P-2 関係副詞の非制限的用法(when) P-3 同格のthat P-4 未来進行形
	前期末試験		
	前期末試験の返却と評価	1	
	L.6 Water and Living things	11	P-1 形式目的語のit P-2 使役動詞を使ったSVOC P-3 否定を表す形容詞、副詞 P-4 as if＋仮定法過去
	L.7 Putting the Forests Back	11	P-1 進行形の受動態 P-2 付帯状況を表すwith P-3 倒置 P-4 「疑問詞＋to不定詞」を使うSVOO
	後期中間試験	1	
	L.8 Canada–A Dynamic Mosaic of …	11	P-1 比較の程度 P-2 if/whether節を使うSVOO P-3 完了不定詞　P-4 形式目的語のit
	L.9 Mottainai: A Message from Africa	10	P-1 W.マータイさんは何をしてきたか。 P-2 マータイさんがノーベル賞を受賞したのはなぜか。 P-3 日本は環境保護をどのように考えているのか。 P-4 マータイさんの「もったいない」との出会いは。
	学年末試験		
	学年末試験の返却と評価	1	

評価方法	4回の定期試験と実力養成試験を実施する。授業中に行う単語の小テストも成績に入れて、総合的な評価を行う。
関連科目	英文法・英会話
教　材	教科書　:Power On ENGLISH Ⅱ（東京書籍） 参考書:理工系学生のための必修英単語3300（成美堂）
備　考	【学習・教育目標サブ目標との対応】 3-1、3-3

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－４

第３学年英語シラバス

科目名（英語表記）	英語（ English ）			担当教員	崎山　　強		
学年・学科	3年・全科	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	オフィスアワー	月曜８限目：崎山研究室		
学習目標	過去2年間で学習してきたことをもとに、「聴くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を活用した演習を行う。英語検定準2級（既に準2級を取得している学生については2級）合格を目指す。同時にTOEICのテストの基礎的な問題に対応出来るようにする。						
進め方	使用テキストの難易度に応じて補助プリント等を用意するので、必ず予習しておくこと。授業中はなるべく多くの学生に指名して答えさせるが、予習の努力がうかがえる場合には正解、不正解にかかわらずプラス評価を行うので、積極的に授業に参加し、力をつけてほしい。						

学習内容	学習項目	時間数	学習到達目標
	Unit 1　Pedal Power Forerunner to Power-Up English 1 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 1 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 1	9	自転車の力 リスニングの力をつける 日常生活
	Unit 2　Crime and Punishment Forerunner to Power-Up English 2 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 2 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 2	9	安全な国日本 リスニングの力をつける
	Unit 3　Power to the People Forerunner to Power-Up English 3 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 3 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 3 前期中間試験	3	景観も環境問題 リスニングの力をつける
	Unit 4　Rise of the Vending Machine Forerunner to Power-Up English 4 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 4 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 4	9	自動販売機の落とし穴 リスニングの力をつける
	Unit 5　Lovely Day, isn't it? Forerunner to Power-Up English 5 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 5 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 5	9	変化に富んだ日本の気候 リスニングの力をつける
	Unit 6　A Chane For the Worse Forerunner to Power-Up English 6 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 6 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 6	3	食変化 リスニングの力をつける
	前期末試験		
	前期末試験の返却と評価	3	
	Unit 7　Is Bigger Always Better? Forerunner to Power-Up English7 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 7 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 7	9	自動車と環境問題 文法力をつける
	Unit 8　The Land of the Loudspeaker Forerunner to Power-Up English 8 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 8 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 8	9	日本の騒音事情 文法力をつける
	Unit 9　TAXI Forerunner to Power-Up English 9 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 9 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 9	3	諸国のタクシー事情 文法力をつける
	後期中間試験		
	Unit 10　Responsible Sleeping Forerunner to Power-Up English 10 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 10 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 10	9	充分な睡眠を 速読の力をつける
	Unit 11　That's rubbish! Forerunner to Power-Up English 11 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 11 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 11	9	ポイ捨て問題 速読の力をつける
	Unit 12　What's your type? Forerunner to Power-Up English 12 TOEIC TEST ROUND THE CLOCK 12 Toeic Bridge Firrst Steps to Success 12	3	血液型が性格を？ 速読の力をつける
	学年末試験		
	学年末試験の返却と評価	3	

評価方法	4回の試験以外に、実力養成テスト、TOEIC BRIDGE TEST、授業中に実施する小テスト、授業での積極性も考慮し、総合的な評価を行う。
関連科目	英会語、専門科目
教科書	Your Japan, My Japan (*Nan'un-do*),　Forerunner to Power-Up English　(Nan'un-do), TOEIC TEST ROUND THE CLOCK　(Nan'un-do),　Toeic Bridge First Steps to Success(Nan'un-do)
参考書	TOEIC BRIDGE WORKBOOK
備考	【学習・教育目標サブ目標との対応】3－1　3－3

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－５

第４学年英語シラバス

英語(English)						ポートフォリオ
専攻・学年	4年全科	単位・期間	必修2単位・通年週2時間(授業時間60時間)			＜記入上の注意＞
担当教員	笹谷浩一郎	連絡先	一般科棟３階　笹谷研究室	オフィスアワー	月８限	【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生については ほぼ理解できたが、直電流についてはあまり理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 過去3年間で身につけた基礎学力をもとに英文読解能力を高めるとともに、演習を通してTOEICテストの基礎的な問題に対応できるリスニング力、語彙力、文法力を身につける。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習】 Skills for Better Readingについては、予習用資料に基づいて必ず予習をしておくこと。TOEIC Test: On Targetに関しては演習形式で行うため予習は不要。いずれも、音読を含む復習をしてほしい。毎週英単語テストを行う。						
【授業の内容】						【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授業要目	内　容				時間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明				1	
TOEIC模擬試験	試験および解説				1	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
Conclusions/Reasons 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Conclusions/Reasons 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Analysis 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Analysis 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Theory/Proof 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Theory/Proof 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
前期中間試験					1	【試験の結果】 試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
Controversy 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
Controversy 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Comparison/Contrast 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Comparison/Contrast 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Classification 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Classification 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
前期末試験					(1)	【試験の結果】 試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				1	
Instructions 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				1	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
Instructions 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Chronological Order 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Chronological Order 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Cause and Effect 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Cause and Effect 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
後期中間試験					1	【試験の結果】 試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
Process 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
Process 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Explanation 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Explanation 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Definition 1	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
Definition 2	単語テスト、英文読解、TOEIC演習				2	
学年末試験					(1)	【試験の結果】 試験の点数(　　)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入				2	
				合計時間	60	
【達成目標】 状況に応じて、速読、精読を使い分けながら英文を読めるようになり、TOEICテストの基本的な問題に対応できること。						【総合達成度】 総合評価の点数(　　)
【成績の評価方法】 それぞれの定期試験とTOEICIP結果をを20％の割合で総合評価する。						
【評価基準】 学年成績60点以上を合格とする。						
【教科書】 Skills for Better Reading, TOEIC Test: On Target Book						【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 理工系学生のための必修英単語						
【学習・教育目標との対応】　C			【JABEE基準との対応】 (a), (f)			

〔出典：シラバス〕

資料５－２－①－６

授業改善報告書

平成２１・２２年度授業改善実績調査結果

調査期間：平成２３年１２月１日～１２月２２日
調査対象：全教員（非常勤講師を含む）
回答率：１００％

平成２４年２月
都城工業高等専門学校・教務委員会

平成２４年２月２１日

教務委員　各位

平成２１～２２年度授業改善実績調査に関する分析結果

教務指導部

１．授業改善実績調査アンケート回収状況

１）常勤教員　　６２名（回収率：１００%）

２）非常勤講師　２４名（回収率：　６７%）

２．アンケート内容分析結果（開講科目により複数回答）

１）学生による授業評価学生アンケートの結果改善した。

常勤教員：４９名（７９%）　　非常勤講師：１８名（７５%）

２）学生アンケートの結果に関係なく改善した。

常勤教員：４１名（６６%）　　非常勤講師：１９名（７９%）

３）授業改善なし

常勤教員：１１名（１８%）　　非常勤講師：２名（８%）

３．主な授業改善内容

１）平常の授業への取り組みの姿勢を確認するためにノートの検査を実施した。

２）授業の単元の終わりには、出来るだけ多くの演習時間をとり学生の理解を確認した。

３）演習のプリントの配布を多くし、数多くの演習が行えるようにした。

４）授業の理解度をあげるたパワーポイントの資料の修正を行った。

５）自学自習を全く行っていない状況にあったので次の授業で使用するプリントを配布し、次の授業で解答させる形式にした。

６）多くの演習問題と解答例を示したプリントを配布した。

７）各章ごとに演習と小テストを実施した。

８）授業用のＷｅｂページを開設し復習や自学自習できるようにした。

９）教員から学生に質問する機会をつくり質問しやすい環境を与えるよう心がけた。

１０）教科書を変更しシラバスも大幅に変更した。

１１）映像教材を利用し、理解の促進を図った。

１２）授業への興味と自宅学習の便宜を図るため、独自の講義テキストを作成し配布した。

１３）授業の最後に１０分間の小テストを実施し、次の授業で解答し授業の継続性を工夫。

１４）授業中の音読練習を大幅に増やした。

１５）パソコンを用いて小テストを実施し過去の試験問題を宿題として活用した。

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－①－７

補習記録

平成23年度　授業に関する相談記録の実績

区分	M	E	C	A	G(文)	G(理)	合計
教員数	11	12	10	10	10	10	63
うち相談を受けた教員数	10	3	3	6	6	4	32
相談人数(延べ)	91	22	9	137	180	189	628

※教員数には内地研究員(H23.4.1～24.3.16)の数は含まない。

平成23年度　補習授業の実施記録の実績

区分	M	E	C	A	G(文)	G(理)	合計
教員数	11	12	10	10	10	10	63
うち補習を行った教員数	5	0	0	1	0	5	11
実施件数(延べ)	40	0	0	1	0	47	88

※教員数には内地研究員(H23.4.1～24.3.16)の数は含まない。

学生自ら記入してください。

平成２４年度　　授業に関する相談記録

（　　）学科　　担当教員（　　）

No.	月/日	学年学科	学生氏名	科目名	相談内容
例	6/12	２Ｃ	高専太郎	有機化学	ルイス式の書き方について
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

平成２４年度　補習授業実施記録簿

学科（　　）教員氏名（　　）

No.	月／日	実施時間（分）	科目名	クラス	人数	備　考

注）担当科目及び関連分野の、主に成績不振者対策として実施した、正規の時間割以外での授業を記録してください。オフィスアワーでの学生からの相談への対応が、時間的にも内容的

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

創造性豊かな実践的技術者に要求される原理法則の確実な理解と実践力の習得を目的とした実験実習科目の時間を学年進行に伴って多く配置するよう配慮している。また，適宜，情報機器を活用する等，効果的な授業形態の在り方を各教員が常に検討している。国際社会に貢献できる技術者の育成を目指し，英語科ではTOEIC BridgeやTOEIC IPを導入・活用し，英語力の強化を図っている。英語科及び数学科では，学生のより一層の学力向上を目指した補習授業を実施する等，それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫を常に行っており，授業形態のバランスが適切なものとなるように配慮するとともに，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を行っている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程修了時までに達成されるべき能力及び素養を明確に定めており，到達目標等を明記した全教科のシラバスを，低学年にはクラスごと，高学年には全学生に配付している。シラバスは，低学年用と高学年用に分けている（資料５－２－②－１～２）。いずれのシラバスにも授業目的（学習目標），授業内容（学習内容），達成目標（学習到達目標），成績の評価方法（評価方法），関連科目，参考書等を記載するようになっている。ただし，高学年用のシラバスは，学生自身が授業内容に関する理解度を自己評価するポートフォリオを兼用している。高学年用シラバスでは，学生が科目ごとの具体的な到達目標と本校の学習・教育目標の関係が理解できるように，学習・教育目標を達成するために必要な流れ図（前述資料５－１－①－３）や各教科の内容と学習・教育目標との対応関係が具体的に明記されている。シラバスの活用については，第１回目の講義ではシラバスに基づき各教科の概要説明を実施している。前期末及び学年末に実施される授業評価アンケートでは，質問項目としてシラバスに係る設問を設け，授業の実施状況とシラバスとの整合性に関して，学生による評価を受けるとともに（資料５－２－②－３），教員自身もシラバス記載どおりの授業が実施できたかどうかの自己評価を行うようにしている（資料５－２－②－４）。

観点５－２－②　資料一覧

資料５－２－②－１　低学年用シラバス（表紙）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－②－２　高学年用シラバス（表紙）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－②－３　授業評価アンケート（表紙・様式）

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－②－４　ポートフォリオ（様式）

〔出典：ポートフォリオ〕

資料５－２－②－１

低学年用シラバス（表紙）

平成２４年度

授　業　計　画

SYLLABUS

（本科第１～３学年）

都城工業高等専門学校

〔出典：シラバス〕

資料５－２－②－２

高学年用シラバス（表紙）

平成２４年度

授　業　計　画

SYLLABUS

（本科第４・５学年）

都城工業高等専門学校

〔出典：シラバス〕

資料５－２－②－３

授業評価アンケート（表紙・様式）

平成２３年度
授業評価アンケート報告書
〔 本　科・専攻科 〕

平成２４年３月

都城工業高等専門学校

＜平成23年度　前期・後期　授業評価アンケート調査＞

【回答方法】1)回答欄の該当数字のある（）内を鉛筆または黒ペンで、しっかり塗りつぶしてください。(1つ)
2)回答欄以外にはマークしないでください。
3)授業への要望がある場合、教務係に無記名の記入用紙が用意してありますので、その用紙に記入し提出してください。
4)授業評価アンケート調査の結果は学生に公開します。

（　　）学年（　　）学科 ・ 専攻　　科目名(　　)

NO	質　問	回答欄
Q1	黒板の字は読みやすいですか。 ① 大変読みやすい② 読みやすい③ たまに読みにくいことがある ④ 読みにくい ⑤ ほとんど読めない	① ② ③ ④ ⑤
Q2	教員の話は聞き取りやすいですか。 ①大変聞き取りやすい ② 聞き取りやすい③ たまに聞き取りにくい④ 聞き取りにくい⑤ ほとんど聞き取れない	① ② ③ ④ ⑤
Q3	この授業の説明は分かりやすいですか。 ① 大変分かりやすい ② 分かりやすい ③ 大体分かる ④ 分かりにくい ⑤ ほとんど分からない	① ② ③ ④ ⑤
Q4	この授業中、質問はしやすいですか。 ① 大変しやすい ② しやすい ③ 普通 ④ しにくい ⑤ ほとんどできない	① ② ③ ④ ⑤
Q5	授業中、学生の理解及び状況を確認しながら授業が進められていますか。 ① よくなされている ② なされている ③ 半々である ④ あまりなされていない ⑤ ほとんどなされていない	① ② ③ ④ ⑤
Q6	この授業は、準備や授業方法の工夫が、よくなされていますか。 ① 大変よくなされている ② よくなされている ③ 普通 ④ あまりなされていない ⑤ ほとんどなされていない	① ② ③ ④ ⑤
Q7	この授業に対する教員の意欲を感じますか。 ① 大変感じる ② 感じる ③ 普通 ④ あまり感じない ⑤ ほとんど感じない	① ② ③ ④ ⑤
Q8	この授業内容に興味がもてますか。 ① 大変もてる ② もてる ③普通 ④ もてない ⑤ ほとんどもてない	① ② ③ ④ ⑤
Q9	この授業の進度はどうですか。 ① 適切 ② 普通 ③ 遅すぎる ④ 速すぎる	① ② ③ ④
Q10	この科目の授業の内容を、よく理解できていますか。 ① よく理解できている ② 大体理解できている ③ 半分位理解できている④ ほとんど理解できていない ⑤ 全く理解できていない	① ② ③ ④ ⑤
Q11	この科目の定期試験の難易度はどうですか。（定期試験が実施されている場合のみ回答する） ① 適切 ② 普通 ③ 易しすぎる ④ 難しすぎる	① ② ③ ④
Q12	演習、宿題またはレポートは、この授業の理解を深めるために効果的でしたか。 （演習、宿題またはレポートがある場合のみ回答する） ① 非常に効果的 ② 効果的 ③ 普通 ④ あまり効果的でない ⑤ 全く効果的でない	① ② ③ ④ ⑤
Q13	定期試験（中間期末）以外の小テストは、この授業の理解を深めるために効果的でしたか。 （小テストがある場合のみ回答する） ① 非常に効果的 ② 効果的 ③ 普通 ④ あまり効果的でない ⑤ 全く効果的でない	① ② ③ ④ ⑤
Q14	以上の質問を考慮に入れ、この授業を総合評価するとどうなりますか。 ① 高く評価する ② 評価する ③ まあまあである ④ あまり評価しない ⑤ 全く評価しない	① ② ③ ④ ⑤
Q15	この科目についての、あなたの自学自習(授業時間外の予習復習等)の状況はどうですか。 ① 日常的にしている ② 宿題等必要に応じてしている ③ 試験前約１週間前から始める ④ 試験前一夜漬け ⑤ 全くしない	① ② ③ ④ ⑤

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－②－４

ポートフォリオ(様式)

化学工学実験（Experiments of Chemical Engineering）						ポートフォリオ
専攻・学年	物質工学科・5年		単位・履修	必修4単位・通年240時間（授業時間120時間）		＜記入上の注意＞
担当教員	清山史朗・会津茂一	連絡先	物質工学科棟1階　清山研究室	オフィスアワー	月曜	【理解の度合い】（記入例）ファラデーの法則、交流の扱いについては正しく理解できたが、通電性については、あまり理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をして下さい。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか、記入して下さい。
【授業目的】　各テーマごとの実験装置を操作してデータの取り方，データの解析を行い，装置内で発生する現象を工学的に処理する方法を学ぶ．実験を通して解析に用いる物質，運動量，エネルギー収支および伝熱現象を深く理解させる．						
【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】 数学，物理，物理化学，化学工学を十分に理解しておくことが望ましい． 自己学習に関しては，予習レポート実験前に提出し，行う実験に関して理解しておくこと．						
【授業の内容】						【授業計画の説明】（実施状況の記入）
授　業　要　目		内　　容			時間	
授業計画・実験の説明		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 教員が担当するテーマに関する操作と原理について説明する．			8	
二重管式熱交換器の総括伝熱係数		最も単純な熱交換器である二重管式熱交換器の基礎式を学ぶとともに，熱交換器の熱収支を行う．			12	【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）
管・流量計等の圧力損失		流体の基本的な測定方法の習得と共に，各エネルギー損失を測定して，これらの基本的処理方法を習得する．			12	
吸着		活性炭に対する酢酸エチルの吸着をラングミュア型吸着等温式を用いて解析し，吸着に関する基礎を修得する．			12	
充填塔と流動層		充填に水を用いて同層の圧力損失を測定し，Carmanの式が適用できる充填流量範囲の如何を得る．			12	
精留塔		10～15mol%のメタノールの精留実験を行い，マッケーブ・シーレ法による理論段数を求める．			12	
乾燥速度		水で湿らせた砂を回分式乾方式による乾燥実験を行い，定率乾燥の乾燥速度の値を求める．			12	
単蒸留		2成分系（メタノール―水系）を試料として単蒸留を行い，理論値と比較する．また物質収支を行う．			12	
粒度分布		サンプルを篩分法により各粒子径ごとに分け，重量度数分布図，粒度分布図を作成する．			12	
レポート最終確認		これまで行ったテーマの実験のレポート最終確認			16	
				合計時間	120	
【達成目標】 ・物質取扱操作を身につける． ・流動操作を身につける． ・熱移動操作を身につける． ・分離操作を身につける． ・原理を応用する能力とレポート作成能力を身につける．						【総合達成度】　総合評価の点数（　　）
【成績の評価方法】 予習状況，実験取り組み姿勢，質疑応答の合計点（50点）とレポート（50点）による総合評価						
【評価基準】学年成績60点以上を合格とする．						
【教科書】 「化学工学実験書」（都城高専物質工学科）						【評価の実施状況】総合評価を出した後に，教員が記入して下さい．
【参考書】 化学工学協会編「化学工学便覧」（丸善） 水科篤郎，棚original三郎「化学工学概論」（産業図書）						
【学習・教育目標との対応】　A，D　　【JABEE基準との対応】　(c)，(d)，(h)						

〔出典：ポートフォリオ〕

（分析結果とその根拠理由）

学習目標，教育方法や授業内容，評価方法等，記載すべき項目をすべて網羅したシラバスを作成している。高学年用のシラバスは学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ図や各教科の授業内容と本校の学習・教育目標との関連性を具体的に明記している。第１回目の授業では，シラバスに基づき講義概要の説明を行う等，シラバスの活用も図っている。授業とシラバスの内容との整合性に関しては，学生による評価を受けるとともに，教員自身による自己評価を行うようにしており，教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスを作成し，活用している。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

創造教育の一環として，文化祭（高専祭）において第４学年生に研究発表を課し，教員による評価を行っている（資料５－２－③－１）。その中で，平成21年度に物質工学科が発表した「廃棄物を利用した緑化キットの開発」は，“高専祭研究発表を通しての学生主体型PBL教育－物質工学科の取り組みを中心に－”という題目で，「高専教育」に掲載された（資料５－２－③－２）。毎年の第５学年卒業研究テーマの中には，民間企業との共同研究テーマをあげているものがある（資料５－２－③－３）。これらの卒業研究の中には，研究成果がほぼ実用化，製品化段階まで達している実践的研究例も含まれている（資料５－２－③－４）。卒業研究では，中間発表会及び卒業研究発表会を開催し，プレゼンテーション技法及びコミュニケーション能力の評価を行っている（資料５－２－③－５）。また，機械工学科においては「創造設計」（資料５－２－③－６），電気情報工学科においては「電気電子情報設計」（資料５－２－③－７），物質工学科においては「物質工学演習」及び「生物工学演習」（資料５－２－③－８），建築学科においては「建築設計演習」（資料５－２－③－９）を開講し，創造教育に重点を置いた科目を配置している。一方，校外実習は全学科４学年時に実施し，単位認定を行っている（前述資料５－１－②－３）。実習終了後は実習報告書を作成させることにより，職業意識の涵養，レポート作成能力及び自己表現能力の育成を行っている（資料５－２－③－10）。

観点５－２－③　資料一覧

資料５－２－③－１　高専祭研究発表テーマ一覧

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－③－２　山下敏明，清山史朗，徳楽清孝 ；“高専祭研究発表を通しての学生主体型 PBL 教育－物質工学科の取り組みを中心に－,”高専教育　第 34 号　pp. 263-268（2011)」

〔出典：高専教育第 34 号〕

資料５－２－③－３　共同研究の実績

〔出典：基礎データ集〕

資料５－２－③－４　民間企業との共同研究に係る卒業研究の成果記事

〔出典：日刊工業新聞〕

資料５－２－③－５　卒業研究発表要旨集及び達成度評価要綱（物質工学科）

〔出典：物質工学科資料〕

資料５－２－③－６　創造設計シラバス（機械工学科）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－７　電気電子情報設計シラバス（電気情報工学科）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－８　物質工学・生物工学演習シラバス（物質工学科）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－９　建築設計演習シラバス（建築学科）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－10　校外実習シラバス（物質工学科）

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－１

高専祭研究発表テーマ一覧

高専祭（文化祭）研究発表テーマ一覧

	4年　機械工学科	4年　電気情報工学科	4年　物質工学科	4年　建築学科
平成19年度	バイオディーゼルバイク	体感型・快感ゲームをつくります。 燃やせ、体脂肪！	産業廃棄物をTransformation	CIRCLE　。F　LIFE
平成20年度	すごい車いす	Social　Network　System	土手の上のポニョ	テンセグリティ
平成21年度	作ったバイクで走り出す18～20の夜	発電床	The 緑化	錦帯橋（木質アーチ）
平成22年度	エコ（電動バイクの製作）	次世代の乗り物リニアモーターカー	納豆菌を用いた水質浄化および 台所用洗剤の洗浄能力改善	Foresp （どこにでも建てられる休憩所）
平成23年度	飛行機！？飛ばします！！	electric car （電気自動車）	火山灰の有効活用	西都城駅周辺の広場の活性化を 企てたモニュメント制作

〔出典：学生課資料〕

資料５－２－③－２

山下敏明，清山史朗，徳楽清孝 ；“高専祭研究発表を通しての学生主体型PBL教育
－物質工学科の取り組みを中心に－,”高専教育　第34号　pp.263-268（2011）」

高専祭研究発表を通しての学生主体型 PBL 教育
― 物質工学科の取り組みを中心に ―

山下　敏明，清山　史朗，徳楽　清孝

The Student—centered PBL Education through a Research Presentation in the School Festival
— An Approach of the Department of Chemical Science and Engineering —

Toshiaki YAMASHITA, Shiro KIYOYAMA and kiyotaka TOKURAKU

論文集「高専教育」第34号　別刷
2011年3月

〔出典：高専教育第34号〕

資料５－２－③－３

共同研究の実績

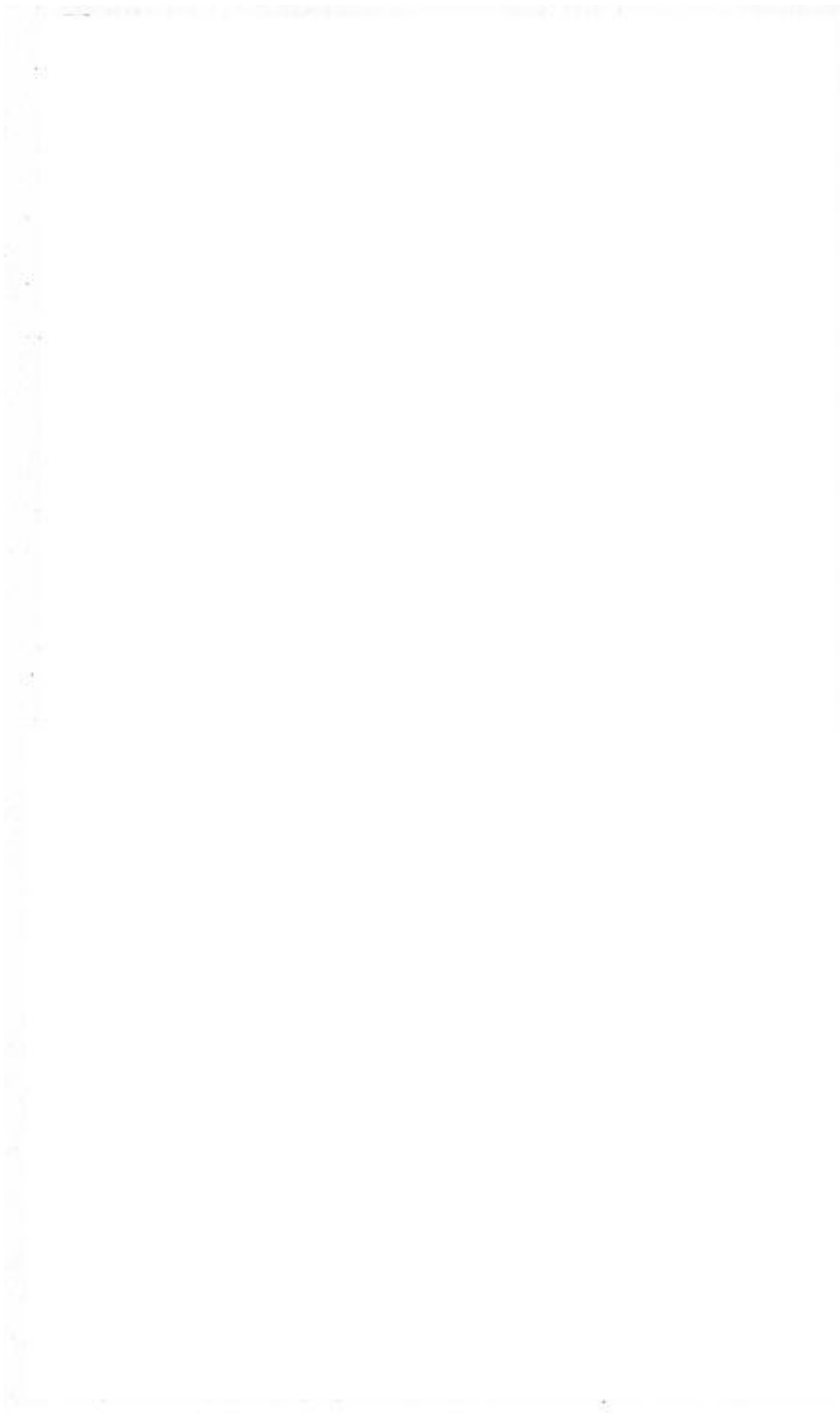
１０　共同研究受入状況

年度	研　究　題　目	研究代表者	金　額
19	鋼製材料の抵抗溶接に関する研究	機械工学科　高橋明宏	500
	県内休廃止鉱山からの廃水およびその処理沈殿物の有効利用	物質工学科　國府俊則	200
	小型燃焼炉内に形成される拡散火炎の燃焼特性の解明とモデリング	機械工学科　河野行雄	300
	信頼に裏付けられた高専との連携研究室構想の準備	物質工学科　國府俊則	200
	ウィンドミル工法の改良技術の共同開発	機械工学科　山中　昇	500
	高度処理嫌気ろ床システムにおける嫌気プロセスの解析と応用	物質工学科　濵田英介	750
	分散自律型センサーモジュールによるＡＩを用いた強調推論システムに関する研究	電気情報工学科　樋渡幸次	400
20	ウィンドミル工法の改良技術の共同開発	機械工学科　山中　昇	500
	耐食材料の抵抗溶接に関する研究	機械工学科　高橋明宏	450
	かさ歯車搬送ロボットの共同開発	機械工学科　山中　昇	800
	NH3/CO2二次ループシステムにおける天井冷却器の性能研究	機械工学科　白岩寛之	100
	ＰＤＰ用材料を軸とした異分野融合チーム編成の試み	物質工学科　國府俊則	300
21	鋼製材料の溶着法に関する研究	機械工学科　高橋 明宏	350
	高いシール強度を得るサイドシール方法の開発	機械工学科　土井 猛志	500
	高速低温スパッタ法における機能薄膜製造技術の研究	物質工学科　野口 大輔	1,000
	深層混合処理工法の改良技術の共同開発	機械工学科　山中　昇	500
	完全燃焼促進化装置「カテンＸ」の加温装置燃焼実験	機械工学科　河野 行雄	1,350
	水域使用時における電気炉特殊鋼スラグの安全性評価	物質工学科　高橋 利幸	270
	活性炭吸着を併用したセラミックス放電電極開発	物質工学科　國府 俊則	500
22	NH3/CO2二次ループシステムにおける天井冷却器の実用化研究	機械工学科　白岩 寛之	100
	機械要素の構造解析に関する研究	機械工学科　高橋 明宏	200
	金属射出成形品に関する研究	機械工学科　高橋 明宏	200
	マイクロカプセル製造技術開発	物質工学科　清山 史朗	200
	高速低温スパッタ法における機能薄膜製造技術の研究	物質工学科　野口 大輔	400
	水域使用時における電気炉特殊鋼スラグの安全性評価	物質工学科　高橋 利幸	250
	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発	物質工学科　高橋 利幸	0
	ショットピーニング処理を施したマルエージング鋼の疲労挙動の非破壊評価	機械工学科　永野 茂憲	350
	HPT法で作製されたサブミクロン結晶粒純Feの衝撃強度変形評価	機械工学科　高橋 明宏	350
	生体分子ナノマシンの運動制御機構の解明～専攻科インターンシップを活用した共同研究の推進～	物質工学科　徳樂 清孝	300
	比表面積3500m2/gハイパー活性炭の大量合成	物質工学科　國府 俊則	300
23	NH3/CO2二次ループシステムにおける汎用冷却器の実用化研究	機械工学科　白岩 寛之	100
	メカノケミカル法によるCuInS2結晶の合成	電気情報工学科　赤木 洋二	300
	高密度格子欠陥を有するバルクナノ金属材料の衝撃変形挙動	機械工学科　高橋 明宏	100
	太陽電池についての研究・教育のための高専-TUT-連携・協同プログラム	電気情報工学科　赤木 洋二	150
	土壌および水中での各種材料の溶出および分解とその生物への影響	物質工学科　高橋 利幸	200
	「人間力」養成プロジェクト～課外活動など～	物質工学科　高橋 利幸	0
	耐食性材料の接合に関する基礎的研究	機械工学科　高橋 明宏	200
	RAS法における全固体型自動防眩ミラー成膜技術の研究	物質工学科　野口 大輔	1,000
	スパッタリング法による高機能性薄膜の作製と物性評価	物質工学科　野口 大輔	500
	平成23年度環境リサイクル技術開発促進対策事業（技術開発支援）「バリゴム（産業廃棄物）の脱硫による再資源化」に基づく再生化された脱硫ゴムの評価	機械工学科　高橋 明宏 物質工学科　濵田 英介 物質工学科　野口 大輔 物質工学科　藤森 崇夫	100

〔出典：基礎データ集〕

資料５－２－③－４

民間企業との共同研究に係る卒業研究の成果記事



〔出典：日刊工業新聞〕

資料５－２－③－５

卒業研究発表要旨集及び達成度評価要綱（物質工学科）

平成 22 年度

都城工業高等専門学校　物質工学科

卒業研究発表要旨集

日時：平成 23 年２月 15 日（火）～17 日（木）

会場：多目的ホール

【発表スケジュール】

1日目：2月15日（火）
開会挨拶：
発表研究室：岩熊研究室，金澤研究室，徳楽研究室

2日目：2月16日（水）
発表研究室：清山研究室，國府研究室，山下研究室，野口研究室

3日目：2月17日（木）
発表研究室：岡部研究室，高橋研究室，福留研究室，濱田研究室

学科長講評
閉会挨拶：

【注意事項】
「1名で発表の場合」
発表時間：7分，質疑応答：3分　合計10分
[呼鈴]　6分：1鈴，7分：2鈴，10分3鈴

「2名で発表の場合」
発表時間：14分，質疑応答：6分　合計20分
[呼鈴]　13分：1鈴，14分：2鈴，20分3鈴

「3名で発表の場合」
発表時間：21分，質疑応答：9分　合計30分
[呼鈴]　20分：1鈴，21分：2鈴，30分3鈴

＊発表は13：10からスタートできるよう，準備しておく．（1研究室でファイルを1つのパソコンに入れてください）

＊13：00に多目的ホールに集合．多目的ホールにて点呼を取ります．

JABEE 対応委員会　2006.1.17

物質工学科　卒業研究　達成度評価要綱

Ⅰ．評価方針および評価方法

Ⅱ．評価項目

1．研究論文に対する評価事項 ⑥

1.1　研究内容の理解度

a）研究目的：研究の背景と目的をよく理解している。
b）アイデアの提案：社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案できる。
c）新規デザインのデザイン化：性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規技術をデザインできる。①
d）アイデアのデザイン化とその具現化：アイデアに基づいたデザイン化とその具現化ができる。②
e）解析スキル：得られた現象やデータを既習の工学的スキルを用いて解析できる。
f）現象の定性・定量的解釈：分析した結果の本質的な意味が理解でき、また、その結果を既習の知識や理論を用いて定性および（または）定量的に説明できる。
g）考察能力：得られた実験事実から考察を導き出すことができる。
h）結論の導出：分析結果から普遍的な結論を帰納的に引き出すことができる。

1.2　研究遂行能力、積極性

a）データ採取：実験やシミュレーションなどを通じて分析に必要なデータを取得できる。
b）準備：実験装置やプログラムの作成あるいは既存(市販)ツールの使いこなしができる。
c）結果の判断と改善の提案：採取したデータから処理方法(実験方法やツールの使い方)の妥当性を判断できる。あるいは、与えられたデータが目的に添うものかどうかを判断できる。
d）考察：採取したデータあるいは与えられたデータのもつ意味が理解・解釈ができる。
e）改善方法の提案：問題点を把握し、発展的に研究が遂行できる様に改善方法が提案できる。③

JABEE 対応委員会　2006.1.17

1.3　論文作成能力、文書力

a）論文・報告書の形式・体裁：表紙、見出し、段落などが統一的な様式で仕上げられている。
b）文章表現力：科学技術文書として客観的かつ専門的に適切な表現で文章表現がなされている。
c）論文・報告書の構成：背景と目的、方法、結果と考察、結論、参考文献などが必要に応じて図表を用いて順序立てて記述されている。④
d）論理的一貫性：報告書・論文の主張が論理的に首尾一貫している。⑤
e）結論の誘導：結論に至る論理展開に誤りがなく、残された問題点や課題についても十分な考察が加えられている。

2. 研究論文概要に対する評価事項

a）マージンと文字サイズ：マージンと文字サイズが執筆要項に決められたとおりになっている。
b）図、表の表示：図題、表題には Fig.1, Table 1 などと通し番号をふり、図題は図の下、表題は表の上に入っている。
c）写真、図および表：写真、図および表は、鮮明なものを用いている。
d）本文の内容：研究の背景、目的、研究および考察等が、要領良く纏められている。
e）論文概要の内容：口頭発表内容と論文概要の内容が一致している。

3. 研究発表に対する評価事項 ⑦

3.1　コミュニケーション能力

a）課題の背景：課題の内容に対する背景や周囲の状況が把握できている。
b）課題の目的：課題の目的が十分理解できており、明確である。
c）課題解決方法の適切性：課題解決の方法が適切であり、それらが上手に説明できる。
d）結果の信頼性：課題解決の結果が適切にまとめられており、高い信頼性がある。
e）質疑への適切な応答：質問の意味を正確に把握して的確な応答ができる。

3.2　プレゼンテーション能力

a）資料の提示:資料や OHP 等が適切に用意されている。
b）理解度:自分の発表内容を熟知しており、表現に曖昧さが無い。
c）発表の組み立てと要点の明確さ：発表内容の道筋が整理されており、要点が明確で分かり易い。
d）発表態度：原稿を見ないで発表し、発表の態度が堂々としている。
e）発表時間: 決められた時間内に発表できる。

〔出典：物質工学科資料〕

資料５－２－③－６

創造設計シラバス（機械工学科）

創造設計（Creative Design）						ポートフォリオ
専攻・学年	機械工学科・4年	単位・期間	必修4単位・前期週3時間、後期週5時間（授業時間120時間）			＜記入上の注意＞
担当教員	土井 猛志	連絡先	専攻科研究棟3階　土井研究室	オフィスアワー	月9限	【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生については概ね理解できたが、偏電流については余り理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 これまで修得してきた機械工学の知識をもとに以下の目標を設定し、複数グループに分けて実際のものづくりを行う。（1）企画～設計～製造までの"ものづくり"を体験・修得する。（2）創造的な"ものづくり"を通したグループ内の討議・共同作業を経験すると共に、グループ内外におけるプレゼンテーション能力を向上させる（3）自発性および創造性を高める。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】 本授業では全般的にテキストを使用した講義は行わない。従って、各個人で自主的に文献調査等を行っていく姿勢が重要である。また、これまで修得してきた専門、数学等の基礎知識は必須となるため、各自において適宜復習・確認しておくこと。（指定科目 A）						
【授業の内容】						
授業要目	内　容				時間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明				2	【授業計画の説明】(実施状況の記入)
1. 3D-CAD操作演習	3D-CADの操作演習および課題対象のモデリング				10	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
2. 製作課題のアイデア検討	構造・機構・駆動方法、3D-CADによる概略モデリング				12	
3. プレゼンテーション資料の作成	パワーポイント操作演習・プレゼンテーション資料作成				7	
4. 中間発表					3	
5. 製作課題の詳細設計	2D-CAD、3D-CADにより詳細設計を行う。				16	
6. 材料発注書作成	詳細設計終了後、購買予定の各種材料や部品等について、発注書を作成する				5	
7. 部品製作	詳細設計図をもとに部品製作を行う。				20	
8. 組立	詳細設計図をもとに組立を行う。				20	
9. 試運転・調整・評価	組み立てられた対象物の試運転と調整、自己評価を行う。さらに、テーマ選定から製作・測定評価の過程および結果をレポートに纏める。				15	
10. レポート・プレゼン資料作成	組み立てられた対象物の試運転と調整、自己評価を行う。さらに、テーマ選定から製作・測定評価の過程および結果をレポートに纏める。				5	
11. 最終発表	各グループの製作物に対する製作結果報告と実演を行う。				4.5	
ポートフォリオの記入					0.5	
				合計時間	120	
【達成目標】 (1)3D-CADによるモデリング手法について説明・実施できること (2)アイデア・概念を具現化できること (3)然るべき適切な計算を行い構造物、機械の設計をすることができること (4)自己の行動・考えについてしっかり説明できること (5)自主性をもって課題に取り組めること (6)納期遵守						【総合達成度】 総合評価の点数(　　)
【成績の評価方法】 中間報告およびコンテストにおけるそれぞれのレポート・発表、および最終的な製作物をもって総合評価する。 レポート(60%)＋ 発表(20%)＋ 製作物(20%)						
【評価基準】 学年成績60点以上を合格とする。						
【教科書】 栗山 弘，伊達 政秀 共著「3次元CAD完全マスター図解SolidWorks実習」 他、適宜プリントを配布						【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 米田 完，坪内 孝司，大隅 久 著「はじめてのロボット創造設計」(講談社) 伊藤 茂 著「メカニズムの事典」(朝工学社) 後閑哲也 著「PICマイコンではじめる作って遊べるロボット工作」(技術評論社)						
【学習・教育目標との対応】　(A),(B),(D)　　【JABEE基準との対応】　(a),(c)～(f),(h)						

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－７

電気電子情報設計シラバス（電気情報工学科）

電気電子情報設計(Electrical Design)

専攻・学年	電気情報工学科・5年		単位・期間	必修1単位・後期通2時間（授業時間30時間）		
担当教員	野地英樹	連絡先	専攻科棟3階　野地研究室	オフィスアワー		月8限

【授業目的】

電気・電子関係の器具や機器を製作したり、使用・修理・販売するときや、電気施設・設備の建設・保守・管理に際しては図面が用いられる。これらの図面はコンピュータ支援による製図（CAD: Computer Aided Drowing）によって描かれている。この授業では、電気技術者として必要なCAD製図能力を養う。初めにCADの基本的な機能を学習し、次にCADによる製図の実習（電気設備、電子機器用部品、電気器具、電気接続図）を通して理解を深める。

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習】

電気製図で学習した電気接続図の描き方、JISとの関連ならびに表示の仕方を復習しておくことが望ましい。CADソフト（Jw_cad Ver 6以降）を私有のPCにダウンロードし、基本操作や描画方法を習得するために、教科書の製図例1（線）と23-1（円錐曲線）を作図すること。

【授業の内容】

授業要目	内容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績評価方法等の説明	1
1. CAD基本操作	Jw-cadの起動と終了方法、マウスやキーボードの使い方、コマンドの実行方法、数値入力の方法、UndoとRedo、画面のコントロール、レイヤの操作について習得する。	2
2. CAD基本コマンド	線とスナップ、線とオフセット、線の長さと角度指定、線の長さと角度取得、消去、部分消去等の機能について習得する。CADにより小テスト1の作図を行う。	3
3. CAD作図コマンド	矩形、多角形、円、円弧、2線、接線・接円、中心線・連続線等を描く機能について習得する。CADにより小テスト2の作図を行う。	3
4. リフト展開接続図（電動機正逆転回路）	文字記号としてシーケンス制御用文字記号を使用し、リフト制御回路の展開接続図を完成させる。教科書の製図例23-1をCADにより作図する。	3
5. リフト展開接続図（電動機正逆転回路）	製図例23-1の作図の続きを行う。	3
6. 排水ポンプモータ制御回路展開接続図	文字記号としてシーケンス制御器具番号を使用し、排水ポンプモータ制御回路の展開接続図を完成させる。教科書の製図例24をCADにより作図する。	3
7. 排水ポンプモータ制御回路展開接続図	製図例24の作図の続きを行う。	3
8. 直流安定化電源回路接続図	直流安定化電源装置の系統図をもとにして、回路接続図を完成させる。教科書の製図例30-1をCADにより作図する。	3
9. 直流安定化電源回路接続図	製図例30-1の作図の続きを行う。	3
10. 木造平家建住宅電灯配線図	木造平家建住宅図をもとにして、電灯配線図を完成させる。教科書の製図例17をCADにより作図する。	3
	合計時間	30

【達成目標】

・基本的なCADコマンドの使い方を習得する。
・作図・編集に必要なCADコマンドの使い方を習得する。
・CADにより平面図形が作図できる。
・CADにより正確で明瞭な回路図を作図できる。

【成績の評価方法】

CADコマンドに関する練習問題（30%）とCAD図面（70%）で評価する。

【評価基準】

最終評価が60点以上を合格とする。

【教科書】

狩集伴義・久保寿之・中沢仁　共著　「電気・電子製図」（実教出版）

【参考書】

電気学会　「電気機器設計（第2次改訂版）」　（オーム社）

【学習・教育目標との対応】　(A), (B)　【JABEE基準との対応】 (c), (d), (e)

ポートフォーリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合い】（記入例）ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をして下さい。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

【総合達成度】では、【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか、記入してください。

【授業計画の説明】(実施状況の記入)

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【総合達成度】　総合評価の点数（　　）

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－８

物質工学・生物工学演習シラバス（物質工学科）

物質工学演習(Exercise in Material Enginering)&生物工学演習(Exercise in Biological Engineering)						ポートフォリオ
専攻・学年	物質工学科・4年	単位・期間	必修1単位・4年後期週2時間(授業時間30時間)			＜記入上の注意＞
担当教員	物質工学科担当教員	連絡先	物質工学科担当教員室	オフィスアワー	月9限	【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生については概ね理解できたが、過電流については余り理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 11テーマの中から2テーマを学生が選択し、これまでの自然科学や専門の知識を活かして各テーマのデザインを行う。4人一組とし、グループで計画、討論、製作を行い選択したテーマを完成させること。これを通して創造力、デザイン能力、実行力、問題解決能力を養う。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】 最終的に設計(デザイン)した図面を含むレポートを提出すること。						
【授業の内容】						【授業計画の説明】(実施状況の記入)

授業要目	内　容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	2
コスト面からみたバイオプロセスの設計	微生物変換による有用機能物質生産プロセスを収率とコスト面から検討した最適プロセスの提案	15
ビフェニルの光酸素酸化反応による安息香酸の合成装置の設計および安息香酸の連続分離装置の設計	酸素溶存下、光照射によりビフェニルを酸化し、安息香酸を合成する光反応装置の設計および安息香酸、原料、副生成物を分離させる装置の設計	15
非加熱条件における微粒子状ヒドロゲルの製造および凍結乾燥装置の設計	界面活性剤を利用し、有機溶媒中で微粒子状ポリアクリルアミドヒドロゲルを合成し、分散状態のまま凍結乾燥させる装置の設計	15
芋づるを原料としたエタノール製造プラントのデザイン	南九州地区の農業廃棄物である芋づるを原料とした「エタノール製造プラント」の基本デザインの製作	15
エポキシ樹脂の製造	小規模で多品種の製品を製造するために汎用されている回分式槽型反応器を使用したエポキシ樹脂製造プロセスの構成	15
連続式微粒子調整装置の設計	回分型反応器で行う微粒子調整のための、反応時間、ポンプ性能および反応器容積等を考慮した10kg/dayの生産能力を持つミニプラントの設計	15
AD変換器を使った電気化学測定システムの構築	コンピューターに装置したAD変換器を制御し、デジタル化された実験データの取得とデータ処理をプログラミングすることによる電気化学測定システムの設計	15
水溶液中の微量元素の定量法の設計	水溶液中にppm～sub-ppmレベルで溶存している元素について、吸光光度計を検出器とした化学分析系の設計と最適条件の提案	15
遺伝情報 DNA の増幅・可視化およびそれらを利用した各種診断法の設計	遺伝子DNAを増幅・可視化する基本的な分子生物学技術を利用し、それらの技術を応用した各種診断法や疾病治療法の設計	15
光触媒機能を利用した応用製品のプロセス設計	現在の市場ニーズを調査・理解した上で光触媒機能が応用できる分野を決定し、光触媒機能を利用した応用製品の製造プロセス設計	15
	合計時間	32

【達成目標】 各テーマごとの与えられた要求を満たした設計を行い、レポートを仕上げていること。	【総合達成度】総合評価の点数(　　)
【成績の評価方法】 各テーマのレポートを100点満点で評価し、その平均を総合評価とする	
【評価基準】 学年成績60点以上を合格とする.	
【教科書】 各テーマの担当教員より資料を配布	【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。
【参考書】 各テーマの担当教員に相談のこと	
【学習・教育目標との対応】　(A), (B), (D)　【JABEE基準との対応】　(b),(c),(d),(e),(g),(h)	

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－９

建築設計演習シラバス（建築学科）

建築設計演習(Architectural Design Exercise)						ポートフォリオ
専攻・学年	建築学科・4年	単位・履習	必修6単位・通年通6時間(授業時間180時間)			<記入上の注意>
担当教員	教職1：中村孝匡 教職2：中村孝匡 教職3：中村裕文 教職4：村本私文	連絡先	建築学科棟2階第2研究室(中村孝匡)、 同2階第2研究室(中村裕文)、 同2階第2研究室(村本私文)	オフィスアワー	月2回	【理解の度合】(記入例) ファラデーの法則、空間の発生については正確に理解できたが、誘電率については未だ理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例) ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【授業目的】 3学年及び課題開始までに習得した建築全般の知識を統合し、与えられた設計条件の下に必要な建築の位置や盛り込むべき空間性能の把握を行う力、住居・公共建築施設の基本設計ができる能力を養うとともにプレゼンテーション技法を習得する。						
【履修上の注意・事前に行う準備学習】 建築計画、建築構造Ⅰ,Ⅱを十分理解しておくこと。						
【授業の内容】						【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授業事項	内　容				時間	
1.中学校建築の設計	出題趣旨の理解と基本構想				12	
	ブロックプランニング				6	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
	平面計画・立面計画・断面計画				12	
	平面計画の作成				9	
	立面・断面図の作成				9	
	立体表現(透視図,模型,CGなどの作成)				6	
	配置図の作成,設計趣旨の書き込み				5	
作品の講評	ポートフォリオの記入				1	
						【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
2.小規模施設の設計	出題趣旨の理解と基本構想				12	
	配置計画・平面計画・立面計画・断面計画				6	
	平面・立面・断面図の作成				11	
作品の講評	ポートフォリオの記入				1	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
3.小規模施設のプレゼンテーション						
	レンダリング技法の解説				1	
	3DCGモデルの作成				7	
	提案建築の3DCGモデル作成				15	
	プレゼンテーション図面の作成				9	【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)
3.複合機能をもった地域コミュニティ施設の設計	①出題趣旨の理解と基本構想				12	
	②配置・外構（植栽等）計画				6	
	③平面計画・立面計画・断面計画				12	
	④配置図の作成				6	
	⑤平面図の作成				9	
	⑥立面・断面図の作成				9	
	⑦設計趣旨の書き込み、プレゼンテーション				6	
				合計時間	180	
【達成目標】 1. 公共複合施設の基本設計ができること。 2.設計条件に基づき適切な建築空間が計画できること。④立案した建築空間を設計図書として表現できること。 3. そのプレゼンテーション(図面表現)ができること。 ①プレゼンテーション図面が作成できること。②CAD, CGによってプレゼンテーションができること。						【総合達成度】総合評価の点数(　　)
【成績の評価方法】 レポート100%として総合的に評価する。						
【評価基準】 4課題の100点満点評価を単純平均して,学年末の成績とする.各課題の評価は構想図面そのもので評価する.						
【教科書】						【評価の実施状況】総合評価を含む全般に、教員が記入してください。
【参考書】 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」(丸善出版)						
【学習・教育目標との対応】 (A)(B)(D)		【JABEE基準との対応】 (d)(e),(g),(i)				

〔出典：シラバス〕

資料５－２－③－10

校外実習シラバス（物質工学科）

校外実習（Training in Manufacture）							ポートフォリオ
専攻・学年	物質工学科・4年		単位・期間	選択1単位・前期（授業時間30時間）			<記入上の注意> 【理解の度合い】（記入例）ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をして下さい。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。 【総合達成度】では、【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか、記入して下さい。
担当教員	野口大輔	連絡先	物質工学科1階　野口（大）研究室		オフィスアワー	月8限	
【授業目的】企業・教育機関等に於ける実習を通して，物質の合成・生産および製品の生産工程に用いられる現場の知識・技術を実際に体験させること．職業観と技術者倫理と専門知識・技術がどのように現場で活かされているか再認識させること．							
【履修上の注意・事前に行う準備や自己学習について】 実習中は実習先のルールを厳守し，安全面に注意を払い，学生らしい態度でテーマに取り組む．定められた実習期間を守り，実習した内容を報告書にとりまとめ，担当教員へ提出すること．							【授業計画の説明】（実施状況の記入）
【授業の内容】							
授　業　要　目	内　　容					時間	【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）
(1) 校外実習	1. 実習期間は夏期休暇中とする． 2. 実習先は，原則として企業，研究機関とする． 3. 実習期間は10日程度とする．						
(2) 校外実習体験報告会	1. 企業等に関する情報交換 2. 職業観意識の育成 3. レポート作成能力の育成 4. 自己表現力の育成						
					合計時間		
【達成目標】 実習先で求められる実習内容を理解し，実行できること，報告書を作成し，職業観意識をプレゼンテーションできること．							【総合達成度】　総合評価の点数（　　）
【成績の評価方法】 実習先で作成した実習内容（20%）・実習評価（40%），実習時間証明書および実習報告書（20%）と校外実習体験報告会でのプレゼンテーション（20%）を総合して評価する．							
【評価基準】学年成績60点以上を合格とする．							
【教科書】							【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入して下さい。
【参考書】							
【学習・教育目標との対応】 (A) (B) (C) (D)			【JABEE基準との対応】 (a),(b),(c),(d),(e),(f),(g),(h)				

〔出典：シラバス〕

（分析結果とその根拠理由）

文化祭（高専祭）において実施している第４学年による研究発表では，各クラス全員で取り組み，評価を行っている。平成21年度に物質工学科が発表した研究は，「高専教育」に掲載され，外部に本校の創造教育の一例として発表した。さらに，各学科においても創造教育に重点を置いた演習科目を開講している。また，企業等のニーズに応えた実践的研究を卒業研究のテーマとして学生に取り組ませている例が数多く見られる。卒業研究では，中間発表会及び卒業研究発表会を開催し，プレゼンテーション技法，コミュニケーション能力等の評価も行っている。一方，校外実習の単位認定を行う等，学生に対して校外実習の受講を奨励するとともに，受講後は，報告書の作成等を課し，職業意識の涵養，レポート作成能力，プレゼンテーション能力等の育成を行っている。したがって，創造性を育む教育方法の工夫を行い，インターンシップの活用を行っている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

第３学年以下の低学年に対して，毎週水曜日の７限目に学級担任，教務指導部，学生指導部及びキャリア支援室による特別活動を実施している（資料５－３－①－１）。年間30時間，低学年の３年間で90時間以上の特別活動の時間を確保している（資料５－３－①－２）。特別活動では，近郊の施設の見学会及びビデオ等の芸術鑑賞，さらには，外部講師を招へいして，保健衛生，契約関係，卒業後の進路等の講演会を実施し，人間性の涵養に努めている。高学年の学生に対しては，「テーブルマナー教室」及び「身だしなみ教室」を開催する等，社会人としてのマナー教育等を実施している（資料５－３－①－３～４）。毎週水曜日の放課後には，優れた人格を有する技術者を養成するための一環として，全学生による校内一斉清掃を実施している（資料５－３－①－５）。

生活指導面及び課外活動面においても，きめ細やかな指導が実施できる体制を整えている。学生全般の厚生補導を行う学生指導部，寮における生活指導を行う寮指導部は，一般科目及び各学科の教員から構成される５人体制で組織している（資料５－３－①－６）。また，第３学年までの低学年に対しては毎朝５分間，学級担任によるショートホームルームを実施している（資料５－３－①－７）。学習・教育目標である健全な心身を育むため，学生にクラブ・同好会への加入を推奨するとともに，学校全体としても学生のクラブ・同好会活動を積極的に支援する体制を整えている。クラブ顧問は，校長及び３主事を除く全教員が担当し（資料５－３－①－８），学生への直接指導あるいは対外試合等の引率等の任に当たっている（資料５－３－①－９）。その結果，多くの競技において優秀な成績を残している（資料５－３－①－10）。さらに，毎年，クラブ・同好会のキャプテン等に対して，外部講師を招へいして，リーダー研修会も実施している（資料５－３－①－11）。また，文化祭（高専祭），体育競技会等の学生会行事は教職員の支援の下で，学生会が主体となり，毎年盛大に開催している（資料５－３－①－12～13）。

観点５－３－①　資料一覧

資料５－３－①－１　授業時間割
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－２　特別活動計画
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－３　テーブルマナー教室開催資料
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－４　身だしなみ教室開催資料
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－５　校内清掃分担表
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－６　校務分担表
〔出典：総務課資料〕

資料５－３－①－７　授業日課
〔出典：学生便覧〕

資料５－３－①－８　クラブ顧問一覧
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－９　課外活動指導願
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－10　各クラブ同好会等の受賞記録
(出典：基礎データ集)

資料５－３－①－11　リーダー研修開催案内
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－12　体育競技会プログラム，体育競技会準備計画
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－13　文化祭プログラム
〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－１

授業時間割

授　業　時　間　割

第　１　学　年　　平成２４年度　前期

曜日		時限 1・2 8:45 ～ 10:20	3・4 10:30 ～ 12:05	5・6 13:00 ～ 14:35	7・8 14:45 ～ 16:20	9 16:25~17:10
月	M	情報基礎Ⅰ （中村博）	基礎数学Ⅰ （肥後）	オーラル英語 国語 （西村）（望月）	英語 （宮沢）	
	E	電気基礎論Ⅱ （御園）	総合社会Ⅰ （吉井）	物理 （田原）	基礎数学Ⅰ （友安）	
	C	オーラル英語 英語 （西村）（宮沢）	科学Ⅰ （森）	基礎数学Ⅰ （向江）	国語 （望月）	
	A	英語 国語 （宮沢）（松崎）	建築設計演習 小原	科学Ⅰ （森）	総合社会Ⅰ （吉井）	
火	M	機械工学概論 工作実習 （M科教員）（小藪）		物理 （田原）	オーラル英語 （西村）	
	E	電気基礎論Ⅰ （野地）	オーラル英語 国語 （西村）（内田）	科学Ⅰ （森）	英語 （宮沢）	
	C	総合社会Ⅰ （吉井）	国語 英語 （内田）（宮沢）	物理 （若生）	保健体育 （永松）	
	A	オーラル英語 英語 （西村）（宮沢）	科学Ⅰ （森）	基礎数学Ⅰ （向江）	情報基礎Ⅰ （中村博）	
水	M	基礎数学Ⅱ （友安）	美術・音楽 （満木・今村）	科学Ⅰ （森）	特活 （宮沢）	
	E	国語 オーラル英語 （松崎）（西村）	美術・音楽 （満木・今村）	電気製図 （永野）	特活 （友安）	
	C	基礎数学Ⅱ （野町）	国語 英語 （望月）（宮沢）	美術・音楽 （満木・今村）	特活 （若生）	
	A	基礎数学Ⅱ （小塚）	物理 （田原）	美術・音楽 （満木・今村）	特活 （武田）	
木	M	設計製図 （藤元）	国語 英語 （内田）（宮沢）	基礎数学Ⅰ （肥後）	科学Ⅰ （森）	
	E	英語 国語 （宮沢）（望月）	基礎数学Ⅱ （肥後）	基礎数学Ⅰ （友安）	保健体育 （武田）	
	C	基礎化学実験 （高橋利・野口太）		科学Ⅱ （山下宗）		
	A	基礎数学Ⅰ （向江）	英語 国語 （宮沢）（内田）	英文法 建築デザイン演習 （山之内）（林田）		
金	M	英作文 英語 （山之内）（宮沢）	保健体育 （永松）	総合社会Ⅰ （吉井）	国語 （望月）	
	E	英語 英作文 （宮沢）（山之内）	科学Ⅰ （森）	情報基礎Ⅰ （中村博）		
	C	情報基礎Ⅰ （中村博）	基礎数学Ⅰ （向江）	英作文 オーラル英語 （山之内）（西村）	科学Ⅰ （森）	
	A	国語 オーラル英語 （望月）（西村）	建築構造Ⅰ （山本）	保健体育 （武田）		

授　業　時　間　割

第　２　学　年　　平成２４年度　前期

曜日＼時限		１・２ 8:45 ～ 10:20	３・４ 10:30 ～ 12:05	５・６ 13:00 ～ 14:35	７・８ 14:45 ～ 16:20	９ 16:25～17:10
月	M	英語（飯尾） 英会話（ダンカン）	微分積分学Ⅰ（向江）	総合社会Ⅱ（田村）	保健体育 永松	
	E	プログラミング言語Ⅰ（樋渡）	英会話（ダンカン） 英語（西村）	物理（森茂）	英文法（飯尾）	
	C	物理（森茂）	英語（飯尾） 英会話（ダンカン）	情報基礎Ⅱ（中村博）	英文法（西村）	
	A	総合社会Ⅱ（田村）	コンピュータ援用学（中村裕）	建築構造Ⅰ（山本）		
火	M	微分積分学Ⅰ（向江）	科学Ⅱ（山下宗）	国語（内田）		
	E	総合社会Ⅱ（田村）	微分積分学Ⅰ（上之園）	電気情報工学実験（野地・赤木）		
	C	微分積分学Ⅰ（上之園）	保健体育（武田・松元）	国語（松崎）	代数学（黒木）	
	A	英会話（ダンカン） 英語（西村）	保健体育（武田・松元）	科学Ⅱ（山下宗）	英文法（飯尾）	
水	M	英語（飯尾） 工作実習（高木）		機械工作法（山中）	特活（飯尾）	
	E	電気回路Ⅰ（赤木）	微分積分学Ⅰ（上之園）	英文法（飯尾） 英語（西村）	特活（赤木）	
	C	微分積分学Ⅰ（上之園）	情報処理（那須）	分析化学（岩熊）	特活（松崎）	
	A	物理（森茂）	微分積分学Ⅰ（黒木）	情報基礎Ⅱ（中村博）	特活（田村）	
木	M	物理（森茂）	図学（豊廣）	情報基礎Ⅱ（古藤）	英文法（山之内） 物理（中﨑）	
	E	代数学（黒木）	科学Ⅱ（山下宗）	物理（中﨑） 英語（西村）	情報基礎Ⅱ（古藤）	
	C	有機化学Ⅰ（山下）	英語（飯尾） 英文法（西村）	基礎化学（福留）	物理（中﨑）	
	A	英語（西村） 建築設計演習（杉本）		英文法（飯尾） 物理（中﨑）	微分積分学Ⅰ（黒木）	
金	M	代数学（上之園）	英語（飯尾） 英文法（山之内）	設計製図（高木）		
	E	電気回路Ⅰ（赤木）	国語（内田）	保健体育（永松）		
	C	分析化学実験（福留・藤森）		総合社会Ⅱ（田村）	英語（飯尾）	
	A	構造力学（板倉）	代数学（上之園）	国語（松崎）	英語（西村）	

授　業　時　間　割

第 ３ 学 年　　平成２４年度　前期

曜日＼時限		１・２	３・４	５・６	７・８	９
		8:45 ～ 10:20	10:30 ～ 12:05	13:00 ～ 14:35	14:45 ～ 16:20	16:25～17:10
月	M	微分積分学Ⅱ （肥後）	保健体育 （永松）	英語 （崎山）		
	E	英会話（ダンカン）　英語（崎山）	国語 （松崎）	総合社会Ⅲ （藤永）	応用物理 （若生）	
	C	数学特論 （野町）	生物化学 （高橋）	有機化学実験 （山下・岡部）		
	A	測量学 （山本）	建築材料 （原田）	構造力学 （平田）	英語 （崎山）	
火	M	英語（崎山）　英会話（ダンカン）	設計製図 （豊廣）	機械工作法 （山中）		
	E	プログラミング言語Ⅱ （小森）	電子回路 （田中）	英語 （崎山）		
	C	微分積分学Ⅱ （小塚）	英語（崎山）　英会話（ダンカン）	保健体育 （武田・松元）		
	A	国語 （松崎）	英会話（ダンカン）　英語（崎山）	保健体育 （武田・松元）		
水	M	総合社会Ⅲ （藤永）	工業力学 （佐藤）	国語 （松崎）	特活 （山中）	
	E	電気機器 （野地）	微分積分学Ⅱ （向江）	電気回路Ⅱ （赤木）	特活 （田中）	
	C	有機化学Ⅱ （山下）	物理化学 （岡部）	総合社会Ⅲ （藤永）	特活 （高橋利）	
	A	英語（崎山）　建築設計演習（林田）		建築計画 （杉本）	特活 （後藤）	
木	M	機構学 （岡部）	材料力学 （藤元）	応用物理 （若生）	数学特論 （野町）	
	E	論理回路 （田中）	保健体育 （武田）	微分積分学Ⅱ （向江）		
	C	無機化学 （藤森）	国語 （松崎）	微分積分学Ⅱ （小塚）		
	A	建築構造Ⅱ （山本）	微分積分学Ⅱ （小塚）	応用物理 （森茂）	建築学実験 （板倉・原田）	
金	M	材料学Ⅰ （永野茂）	微分積分学Ⅱ （肥後）	基礎実験 （白岩）		
	E	数学特論 （肥後）	電気磁気学 （白濱）	電気情報工学実験 （濵田・田中）		
	C	工業化学英語 （山下）	化学工学Ⅰ （清山）	英語 （崎山）	応用物理 （森茂）	
	A	建築ＣＡＤ演習 （中村裕）	数学特論 （野町）	総合社会Ⅲ （藤永）	微分積分学Ⅱ （小塚）	

授　業　時　間　割

第 ４ 学 年　　平成２４年度　前期

曜日＼時限		１・２ 8:45 ～ 10:20	３・４ 10:30 ～ 12:05	５・６ 13:00 ～ 14:35	７・８ 14:45 ～ 16:20	９ 16:25～17:10
月	M	計測工学 （小藪）	電気工学概論 （剣田）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）	応用数学 （小塚）	
	E	電気磁気学 （濵田次）	微分方程式 （友安）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）	保健体育 （武田）	
	C	工業英語 （清山）	有機材料化学・分子生物学 （福留・野口太）	物質工学実験・生物工学実験 （清山・岩熊・野口・藤森・濵田英・福留・野口太）		
	A	鋼構造学 （後藤）	建築計画 （中村孝）	応用数学 （野町）	RC構造学 （平田）	
火	M	機械設計法 （豊廣）	微分方程式 （友安）	創造設計 （土井）		
	E	国語 （望月）	回路網理論 （御園）	電気情報工学実験 （永野孝・小森・白濱）		
	C	化学工学Ⅱ （金澤）	機器分析 （野口）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）	国語 （望月）	
	A	建築法規 （中島）	構造力学 （板倉）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）		
水	M	国語 （望月）	水力学 （高橋勇）	材料力学 （中澤）		
	E	電子回路 （田中）	英語 （笹谷）	応用数学 （小塚）		
	C	無機材料化学・環境工学 （野口・岩熊）	保健体育 （永松・瓜田・松元）	微分方程式 （友安）		
	A	建築環境工学 （小原）	保健体育 （永松・瓜田・松元）	建築設計演習 （中村孝）		
木	M	情報処理Ⅱ （佐藤）	保健体育 （永松）	選）社会学（藤永） 歴史学概論（田村） 法学（吉井）		
	E	電気機器 （永野孝）	計算機工学 （樋渡）			
	C	応用物理 （若生）	物理化学 （岡部）	機器分析実験・物理化学実験 （山下・清山・野口・藤森・野口太・岡部・岩熊）		
	A	英語 （笹谷）	応用物理 （若生）	建築設計演習 （中村孝）		
金	M	熱力学 （白岩）	応用物理 （若生）	英語 （笹谷）	材料学Ⅱ （永野茂）	
	E	応用物理 （若生）	電気磁気学 （濵田次）	半導体工学 （白濱）		
	C	英語 （笹谷）	選）社会学（藤永） 歴史学概論（田村） 法学（吉井）	応用数学 （野町）		
	A	微分方程式 （友安）		国語 （望月）		

授　業　時　間　割

第 ５ 学 年　　平成２４年度　前期

曜日＼時限		１・２ 8:45 ～ 10:20	３・４ 10:30 ～ 12:05	５・６ 13:00 ～ 14:35	７・８ 14:45 ～ 16:20	９ 16:25～17:10
月	M	電気工学概論 （剣田）	機械設計法 （豊廣）	卒業研究 （Ｍ科教員）		
	E	保健体育 （武田）	卒業研究 （Ｅ科教員）			
	C	生物工学 （濱田英）	英語 （笹谷）			
	A	建築史Ⅱ （林田）	ＲＣ構造演習 （平田）	建築学実験 （板倉・原田・小原・後藤）		
火	M	機械力学 （佐藤）	工業外国語 （永野茂）	工学実験 （河野・小藪・豊廣・佐藤・高橋勇・白岩・高木）		
	E	制御工学 （橋本）	電気材料工学 （白濱）	エネルギー変換工学・知能情報処理 （濵田次・樋渡）	英語 （笹谷）	
	C	反応工学 （清山）	工業熱力学・細胞遺伝子工学 （岩熊・濱田）	卒業研究 （Ｃ科教員）		
	A	建築環境工学 （小原）	建築設備 （平川）	卒業研究 （Ａ科教員）		
水	M	自動制御 （小藪）	材料力学 （中澤）	英語 （笹谷）		
	E	計測工学 （松本）	通信工学 （渡辺）	電力輸送工学・電磁波工学 （御園・渡辺）		
	C	化学工学実験・生物反応工学実験 （清山・金澤・濱田英・高橋利・野口太）		保健体育 （永松・瓜田・松元）		
	A	意匠ＣＡＤ演習 （中村裕）	建築経済 （岩佐）	保健体育 （永松・瓜田・松元）		
木	M	哲学 （藤永） 国際文化論Ⅰ （飯尾） 国際文化論Ⅱ （田村） 産業財産権法 （吉井）	熱機関 （長瀬）	卒業研究 （Ｍ科教員）		
	E		情報工学特論･法規及び施設管理 （小森・井手口）	卒業研究 （Ｅ科教員）		
	C		生体高分子・分離工学 （福留・塩盛）	電気工学基礎 （大坪）	輸送現象論・微生物工学 （金澤・濱田英）	
	A		都市計画学 （中村裕）	英語 （笹谷）	鋼構造演習 （後藤）	
金	M	塑性加工・流体力学 （山中・高橋勇）	保健体育 （武田）	設計製図 （土井）		
	E	ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ・高電圧工学 （小森・金子）	電気情報工学実験 （御園・渡辺・樋渡・臼井）			
	C	電気化学 （岡部）	電気材料工学・酵素工学 （野口・高橋）	卒業研究 （Ｃ科教員）		
	A	建築生産学 （原田）	建築実務概論 （林田他）	卒業研究 （Ａ科教員）		

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－２

特別活動計画

平成２４年度前期特別活動年間計画書

月	日	学科	第１学年	学科	第２学年	学科	第３学年	AVR室	多目的ホール	図書館	体育施設	実施回数
4	4	M	始業式、HR、対面式、試験	M	始業式、HR、対面式	M	始業式、HR、対面式					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	11	M	図書館オリエンテーション	M	クラスマッチ準備	M	特活計画立案・前期個人目標（計画書作成）					
		E	特別活動オリエンテーション	E	担任講話	E	特活計画立案			1M		
		C	担任指示、レクリエーション	C	特活の計画、担任の話	C	特活計画およびポートフォリオの説明					
		A	担任指導	A	昨年度の反省と本年度の目標	A	担任指示					
	18	M	クラスマッチの練習	M	担任講話	M	1）クラスマッチ準備　2）放射線について語る					
		E	担任講話Ⅰ（担任指示の場合有）	E	担任指示	E	担任指示					
		C	担任指示、レクリエーション	C	クラスマッチの練習	C	クラスマッチの準備			2A	1A（1）	
		A	体育館１	A	図書館	A	担任指示					
	20	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ					
		E		E		E					全クラス	
		C		C		C						
		A		A		A						
	25	M	学生指導部［心の健康管理］	M	図書館	M	1)工場見学説明　2)学科開放の取組（4M先輩を交えて）					
		E		E	AVR	E	担任指示	2E	1全	2M	2C（1）2A（2）	
		C		C	体育館1	C	工場見学について					
		A		A	体育館2	A	担任指示					
5	9	M	ビデオ観賞	M	キャリア　教務指導部［OB・OGのDVD紹介］	M	体育館１	3C	2全	1E	3M（1）3E（2）	
		E	図書館オリエンテーション	E		E	体育館2					
		C	担任指示	C		C	高専卒業生の体験談　AVR					
		A	担任指導	A		A	担任指示					
	16	M	体育館１	M	AVR	M	キャリア　教務指導部［新聞の読み方（就職）］	2M	3全	1C	1M（1）1E（2）	
		E	体育館２	E	担任指示	E						
		C	図書館オリエンテーション	C	学科長講話	C						
		A	担任指導	A	グループ討論	A						
	23	M	学生指導部［交通安全教室］	M	2分間スピーチ(1)	M	学科開放話し合い（1）	2A	1全	2E	3C（1）3A（2）	
		E		E	図書館	E	担任指示					
		C		C	企業・大学を知ろう（調査編集１）	C	体育館１					
		A		A	AVR	A	体育館２					
	30	M	専攻科生の話	M	学生指導部［交通安全教室］	M	AVR	3M	2全	専攻科学力入試		
		E	担任講話Ⅱ	E		E	担任指示					
		C	担任指示	C		C	高専祭（学科開放）昨年の取り組み紹介					
		A	担任指導	A		A	担任指示					
6	6	M	AVR	M	M科教員講話	M	学生指導部［交通安全教室］	1M	3全	1A		
		E	担任講話Ⅲ	E	担任指示	E						
		C	担任指示	C	企業・大学を知ろう(調査編集2)	C						
		A	図書館オリエンテーション	A	前期中間試験に向けて	A						
	13	M	前期中間試験	M	前期中間試験	M	前期中間試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	20	M	高専祭の話し合い	M	学生指導部［エイズ講習］	M	図書館	1E	2全	3M	1C（1）	
		E	AVR	E		E	担任指示					
		C	体育館１	C		C	講演：就職に関する経営者側の視点					
		A	前期中間試験の反省	A		A	担任指示					
	27	M	キャリア　教務指導部［学校の歴史］	M	体育館１	M	前期中間試験の反省と前期末個人目標（計画書作成）	3A	1全	3E	2M（1）2E（2）	
		E		E	体育館2	E	図書館					
		C		C	企業・大学を知ろう(発表1)	C	学科開放の計画立案					
		A		A	前期中間試験のまとめ	A	AVR					
7	4	M	高専祭の準備	M	２分間スピーチ（２）	M	キャリア支援室［企業情報の収集法］	1C	3全	2C		
		E	担任講話Ⅳ	E	担任指示	E						
		C	高専祭準備　AVR	C	図書館	C						
		A	高専祭準備	A	友達に薦める本1	A						
	11	M	高専大会壮行会	M	高専大会壮行会	M	高専大会壮行会					
		E		E		E					全クラス	
		C		C		C						
		A		A		A						
9	5	M	高専祭の準備	M	夏休み反省	M	学科開放話し合い（２）	3E		3C		
		E	専門学科等講話Ⅰ(担任指示の場合有)	E	担任指示	E	AVR					
		C	高専祭準備	C	企業・大学を知ろう（発表２）	C	図書館					
		A	高専祭の準備	A	友達に薦める本2	A	担任指示					
	12	M	高専祭の準備	M	キャリア支援室［地域から世界へ］	M	前期末試験準備	1A	2全	3A		
		E	専門学科等講話Ⅱ(担任指示の場合有)	E		E	担任指示					
		C	高専祭準備	C		C	高専祭（学科開放）の計画					
		A	AVR	A		A	図書館					
	26	M	前期末試験	M	前期末試験	M	前期末試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
10	3	M	学生指導部［特別講演］	M	前期の反省	M	前期の反省と後期へ向けて（個人目標（計画書作成））	2C	1全			
		E		E	担任指示	E	担任指示					
		C		C	AVR	C	高専祭の計画・準備					
		A		A	前期の反省とまとめ	A	担任指示					

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－３

テーブルマナー教室開催資料

ユーザ名: 学生係 njggakusei
タイトル: （１０／５〆切）テーブルマナーについて : pc-webmac
2011年8月9日 15:54:00
ページ 1 / 1

差出人: 学生係 njggakusei
件名: （10／5〆切）テーブルマナーについて
宛先: 5年担任
CC: 学生指導部連絡箱 学生課長 njg 学生補佐 njggakusei 教務係 njgkyoumu 寮務係 njgryou

平成23年9月12日

5年生クラス担任　各位

学生主事

テーブルマナーについて、連絡及びクラスの参加人数の依頼をお願いします。

今年度のテーブルマナーは、11月9日(水)に開催します。

つきましては、担任の先生方にクラスの参加人数を調べていただき、10月5日(水)までに学生係へ報告願います。
(名票を添付ファイルで送りますので、ご利用ください。)

なお、参加者が少ない場合は、中止する場合もあります。
テーブルマナー開催の有無及び参加費用の徴収は、後日通知します。

記

開催予定日 ： 11月9日(水)
会　　場 ：「霧島ロイヤルホテル」
鹿児島県姶良郡霧島町田口扇山2703－5
℡0995－57－2111
参加対象 ： 5年生
費　　用 ： 学生負担3,300円
当日の予定
14:40 専攻科棟1階ピロティーに集合(時間厳守)
14:50 本校発(ホテルバス利用)
15:35 ホテル着、テーブルマナー講習会
17:50 ホテル発
18:40 本校着
諸注意等 1)学生らしい服装をすること。
できれば、正装がのぞましい。(ジャージ、草履、下駄等は不可)
2)講習中は禁煙とする。
3)その他、不明な点があれば学生指導部に問い合わせること。

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－４

身だしなみ教室開催資料

ユーザ名: 学生係 njggakusei　　2012年1月6日 9:38:54
タイトル: (1／16〆切)「身だしなみ教室」への参加希望者調べ...　　ページ 1 / 1

差出人: 学生係 njggakusei　　2012年1月6日 9:37:26
件名: (1／16〆切)「身だしなみ教室」への参加希望者調べ
宛先: 4年担任
CC: 学生指導部連絡箱　学生課長 njg　学生補佐 njggakusei

添付ファイル: ★(参加)身だしなみ.xls / Microsoft Excel 97-2003 →→[→N→V→[→g (65K)

平成24年1月6日

4年学級担任　各 位

学生指導部

「身だしなみ教室」への参加希望者調べについて(依頼)

来年度の就職活動に備え、社会人としてふさわしい化粧の仕方等を学ぶための「身だしなみ教室」を下記のとおり開催いたします。

つきましては、準備等の都合もありますので、お手数ながら貴クラスの女子学生の同教室への参加希望者を調べていただき、別紙名簿を1月16日(月)までに学生係へ提出くださるようお願いいたします。

なお、女子学生には同教室になるべく参加するよう御指導いただければ幸いです。

記

日　時　平成24年2月1日(水)14:45～16:45

場　所　図書館2階 第1会議室

対　象　4年女子学生

講　師　資生堂販売(株)宮崎支社

費　用　無　料

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－５

校内清掃分担表

H24年度前期清掃場所の内訳案

		掃除区域①	教員	掃除区域②	教員
1年	M	M科棟横の一般教科棟階段1-2階階段および留学生対応室(踊り場・廊下も含む)	佐藤	第二体育館(トイレ含む)	永松
	E	E科棟横の一般教科棟1-2階階段、1E横の女子トイレ、専攻科1階男子トイレ、給湯器室、コミュニティースペース(踊り場・廊下も含む)	吉井	電算センター(男女トイレを含む)	樋渡
	C	第一体育館(トイレ含む)	金澤	楽友館1Fラウンジホール、1-2階階段、男子・女子トイレ(踊り場・廊下も含む)	西村
	A	A科棟横の一般教科棟階段1-2階階段および男子トイレ(踊り場・廊下も含む)	向江	選択棟1階バルコニー、1-2階階段(踊り場も含む)および第1選択教室	中村孝
2年	M	M科棟横の一般教科棟階段2-3階階段およびゼミ室(踊り場・廊下も含む)	小塚	専攻科棟1-4階の階段とバルコニー	髙木
	E	E科棟横の一般教科棟2-3階階段、2E横の男子トイレ、専攻科2階女子トイレ、給湯器室、廊下(踊り場も含む)	野地	M科棟横の一般教科棟3階踊り場および廊下	小森
	C	図書館1階AVR・中庭、情報化対応室	崎山	図書館2階の廊下および男子・女子トイレ	藤森
	A	A科棟横の一般教科棟階段2-3階階段および女子トイレ、女子更衣室(踊り場・廊下も含む)	笹谷	選択棟2階バルコニー、2-3階階段(踊り場も含む)	中村博
3年	M	図書館2階の第1・第2閲覧室、開架書庫	望月		
	E	E科棟横の一般教科棟3-4階階段、3E横の男子トイレ、専攻科3階女子トイレ、給湯器室、廊下(踊り場も含む)	臼井		
	C	図書館1階廊下および1-2階階段、男子・女子・多目的トイレ	藤永		
	A	選択棟3階バルコニー、3階踊り場および第3選択教室、第4選択教室	野町		
4年	M	図書館2階第1・第2会議室	白岩		
	E	楽信館2F廊下、ミーティングルーム1および2	永野孝		交代要員
	C	生物棟1-3階廊下、階段・トイレ(物質工学科棟2階廊下を含む)	野口太		濱田英
	A	A科棟横の一般教科棟3階男子トイレ、総合技術開発教育センター室(踊り場・廊下も含む)	杉本		
5年	M	機械工学科棟1-3階までのバルコニーおよび階段(トイレ含む)	小藪		
	E	電気工学科棟1-3階までのバルコニーおよび階段(トイレ含む)	渡辺		
	C	物質工学科棟1-3階までのバルコニーおよび階段(トイレ含む)	山下		
	A	建築学科棟1-3階までのバルコニーおよび階段(トイレ含む)	山本		
専攻科1・2年		専攻科棟4階の廊下・トイレ・給湯器室・情報処理演習室	清山		

*一般教科棟北側女子トイレ：岩熊
*一般教科棟南側女子トイレ：岩熊

*低学年クラス担任の先生方へ：教室を出たところの廊下の掃き掃除をお願いいたします。
*上記一覧表以外に各クラスの自転車・バイクの駐輪場のチリ拾い等の清掃もお願いいたします。

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－６

校務分担表

NO1

平成24年度校務分担表（平成24年4月1日現在）

主事 副校長	教務主事 H23.4.1～ H25.3.31	森茂龍一	教務主事補 H24.4.1～ H25.3.31	岩熊美奈子					
	学生主事 H23.4.1～ H25.3.31	河野行雄	学生主事補 H24.4.1～ H25.3.31	小森雅和	岡部勇二	中村孝至	吉井千周		
	寮務主事 H24.4.1～ H26.3.31	森　寛	寮務主事補 H24.4.1～ H25.3.31	高木夏樹	白濵正尋	金澤亮一	藤永　伸		
校長補佐（社会連携担当） H24.4.1～H25.3.31		濵田英介							
専攻科長 H24.4.1～ H26.3.31	清山史朗	専攻主任 H24.4.1～ H25.3.31	機械電気工学専攻		物質工学専攻	建築学専攻			
			永野茂憲	野地英樹	野口太郎	中村裕文			
図書館長 H23.4.1～ H25.3.31	望月高明								
電子計算機センター長 H23.4.1～H25.3.31		樋渡幸次	副センター長 H23.4.1～ H25.3.31	中村博文	ネットワーク管理者 H23.4.1～ H25.3.31	臼井昇太	センター員	上野純包	
ネットワーク担当者 H24.4.1～H25.3.31	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目	専攻科	教務主事補		
	高木夏樹	田中　寿	岡部勇二	中村裕文	吉井千周	野口太郎	岩熊美奈子		
技術支援センター長		山内辰郎		ロボコン担当者 H24.4.1～ H25.3.31	永野茂憲	高木夏樹	濵田次男	御園勝秀	
地域連携センター長 H23.4.1～H25.3.31		濵田英介	副センター長 H24.4.1～ H25.3.31	野地英樹	センター員 H23.4.1～ H25.3.31	白岩寛之	野地英樹	野口大輔	山本　剛	若生潤一
学生相談支援室長 H23.4.1～H25.3.31		笹谷浩一郎	内部相談員 H24.4.1～ H25.3.31	永松幸一	補助相談員 （看護師）	森岡みどり			
キャリア支援室長 H24.4.1～H25.3.31		土井猛志	副室長 H24.4.1～ H25.3.31	山本　剛	キャリア専門員 H24.4.1～ H25.3.31	赤木洋二	福留功博		
学科長 H24.4.1～H25.3.31	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目文科	一般科目理科			
	佐藤浅次	渡辺光庸	山下敏明	林田義伸	西村徳行	小塚和人			
学級担任 H24.4.1～ H25.3.31	学科／学年	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科				
	1年	宮沢　幸	友安一夫	若生潤一	武田誠司				
	2年	飯尾高明	赤木洋二	松崎　賜	田村理恵				
	3年	山中　昇	田中　寿	高橋利幸	後藤勝彦				
	4年	高橋勇二	濵田次男	野口大輔	原田志津男				
	5年	永野茂憲	御園勝秀	福留功博	小原聡司				
進学説明会担当者 H24.4.1～H25.3.31	職指定	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目文科	一般科目理科		
	教務主事 教務主事補	山中　昇	永野　孝	山下敏明	原田志津男	崎山　強	永松幸一		
小中学校教育支援グループ H24.4.1～H25.3.31	職指定	機械工学科	電気情報工学科	物質工学科	建築学科	一般科目文科	一般科目理科	技術支援センター	
	地域連携センター長・同副センター長	土井猛志	赤木洋二	高橋利幸	中村裕文	森　寛		冨山光照	

〔出典：総務課資料〕

資料５－３－①－７

授業日課

付３　授業終始時間

学則第６条に基づく授業終始時間を下記のとおり定める。

ＳＨＲ	８：35～８：40
第１限	８：45～９：30
第２限	９：35～10：20
第３限	10：30～10：15
第４限	11：20～12：05
	昼食(55分)
第５限	13：00～13：45
第６限	13：50～14：35
第７限	14：45～15：30
第８限	15：35～16：20
第９限	16：25～17：10

(注) 1　１単位は45分授業とする。
　　2　連続授業の途中チャイムは鳴らさない。

〔出典：学生便覧〕

資料５－３－①－８

クラブ顧問一覧

平成24年度　学生会クラブ顧問

（クラブ名）					
ロボット製作同	濱田 次男	高木 夏樹	永野 茂憲	御園 勝秀	
体育部					
サッカー部	山本 剛	金澤 亮一	（森 寛）	杉本 弘文	
弓道部	中村 孝至	堀山 史朗			
剣道部	藤永 伸	白濱 正尋			
柔道部	野地 英樹	松崎 聡			
陸上競技部	永松 幸一	西村 浩行	田中 寿	福留 功博	
硬式野球部	笹谷浩一郎	小塚 和人	高橋 勇二	小森 國夫	
ソフトテニス部	原田志津男	若生 潤一			
ラグビー部	武田 誠司	友安 一夫	岡部 勇二		
バレーボール部	鶴尾 高明	渡辺 光睿	山中 昇	向江 顧士	
バスケットボール部	佐藤 浅次	望月 高明	野口 太郎		
卓球部	永野 孝	小森 雅和			
バドミントン部	臼井 昇太	藤森 崇夫			
水泳部	野町 俊文	濱田 英介			
ハンドボール部	赤木 洋二	高橋 利幸			
テニス部	後藤 勝彦	山下 敏明			
ボクシング部	板倉 和則				
女子バスケット部	田村 理恵	野口 大輔			
女子バレーボール部	岩熊美奈子	宮沢 幸	林田 義伸		
空手部	豊廣 利信				
文化部					
語学部	嶋山 強				
吹奏楽部	中村 裕文	吉井 千周	小原 聡司		
情報処理部	中村 博文	隈護 幸次			
狂燃費車製作研究部	白岩 寛之				
ジャグリング部	土`井征志				
同好会					
美術同好会	高木 夏樹	林田 義伸			
天文研究会	野口 太郎				
演劇同好会	吉井 千周				
茶道同好会	林田 義伸	山中 昇			
ボランティア同好会	武田 誠司				
ゴルフ同好会	濱田 次男				
サブカルチャー研究部好会	中村 博文	吉井 千周	中村 裕文		
フットサル同好会	友安 一夫	杉本 弘文			
ダンス同好会	宮沢 幸				
中国文化同好会	松崎 聡				
フリーサイエンス同好会	岡部 勇二				
園芸同好会	友安 一夫				
エレクトロニクス同好会	田中 寿				
写真映像同好会	小塚 和人	若生 潤一	高木 夏樹		
ものづくり同好会	中村 孝至	杉本 弘文			
合唱同好会	吉井 千周				
アコースティックギター同好会	山下 敏明				
棋道同好会	小塚 和人				
スラムダンク同好会	宮沢 幸				
（指導部預かり）					
軽音楽同好会					
モータースポーツ同好会					
映画同好会					

上記のとおり平成24年度学生会クラブ顧問を命ずる。

平成24年4月1日

都城工業高等専門学校校長

三村 洋史

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－９

課外活動指導願

校　長	学生主事	事務部長	学生課長	課長補佐	学生係長	学生係	総務課長	勤務時間 管理員

課　外　指　導　願

平成　年　月　日

都城工業高等専門学校長　殿

下記により(引率・合宿・家庭訪問等)を実施したいので、ご承認方お願いいたします。

職名氏名	□教授　□准教授　□講師　□助教 印
課外活動 内　容	クラブ名　□練習指導　□合宿指導　□対外試合引率 部・同好会活動(　　)　□その他(　　)参加人数(　　名) その他の活動　□家庭訪問
用　務 (詳細に)	
試合結果 (練習試合を含む)	
期　間	自　平成　年　月　日(　)(　時　分～　時　分まで) 至　平成　年　月　日(　)(　時　分～　時　分まで)　日間
行　先 (詳細に)	家庭訪問の場合は学生の氏名(　年　学科　)
交通機関	□公用車　□ｽｸｰﾙﾊﾞｽ　□列　車　□ﾊ　ﾞｽ　□自家用車
備　考	該当するものに、☑をお願いします。また、変形労働カレンダー区分を記入願います。 1.□変形労働　(変形労働カレンダー区分:　　)のため、休日に指導 (①□休日の振替及び教員特殊業務手当　②□課外指導手当 ③□休日給(25/100)　④□休日給(135/100)) 2.□労働日に指導

＊交通機関等を利用の場合は、支出明細書を添付してください。

＊休日とは、土・日・祝日及び12/29～1/3までの日をいいます。

＊3主事については、教員特殊業務手当及び休日給は支給対象外です。

＊課外指導願は人事係へ提出願います。

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－10

各クラブ同好会等の受賞記録

年度 クラブ名	平成19年度 順 位	平成20年度 順 位	平成21年度 順 位	平成22年度 順 位	平成23年度 順 位
陸上			3		
ソフトテニス					
バドミントン	3(女子)		3(男子)	3(男子)	3(女子)
水泳					
ハンドボール		3			
ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	3				
硬式野球					3
男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ					
女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ					
卓球			2(男子)	2(男子)	2(男子)
剣道	3				
サッカー			3		
柔道				1	1
男子バレーボール	1	2	3	2	3
女子バレーボール	3	2	3	3	2
テニス		3(男子)	3(男子)		

（２）　個人戦の部

氏　　名(学科)	年　　度	19	20	21	22	23
	種　　目	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)
圖師(物質)小倉(物質)	卓球(女子ダブルス)	3(3)				
竹　下　幸　輝　(機械)	水泳(200m背泳)	3(3)				
川　野　将　太　(電気)	水泳(100m平泳)	2(3)				
皆　川　信　大　(電気)	水泳　(200M　平泳ぎ)	3(3)				
椿　坂　公　太　(電気)	陸上　(走幅跳)	3(5)				
隈　元　大　輔　(電気)	陸上　(走高跳)	1(5)				
染　矢　貴　洋　(電気)	陸上　(三段跳)	1(4)				
東　丸　幸　江　(物質)	テニス　　女子シングルス	3(4)				
黒木　沙織（物質）	テニス　　女子シングルス				1(1)	1(2)
浜砂　亜衣子　　(建築)	バドミントン　女子シングルス	3(4)				
斉　藤　剛　志　(物質)	バドミントン　男子シングルス	3(2)	3(3)			
斉藤剛志（物質）中道　慎也（物質）	バドミントン　男子ダブルス				3(3・5)	
髙　橋　泰　輝　(機械)	柔道個人７３ｋｇ以下級	3(5)				

＊　Sはシングルス、Dはダブルスの略である

氏　　名(学科)	年　　度	19	20	21	22	23
	種　　目	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)
山　下　浩　幸　(機械)	柔道個人６０ｋｇ以下級	2(5)				
田 中 優 帆（物質）	水泳 50M ﾊﾞﾀﾌﾗｲ		1(1)	1(2)	2(3)	
染矢貴洋（電気）	陸上 三段跳		1(5)			
川崎寛（電気）	陸上　男子　円盤投げ		1(3)	1(4)		
馬渕　浩之（物質）	弓道　男子個人戦		2(1)			
染川紗貴子（物質）	弓道　女子個人戦		2(3)			
石坂　隆宜（物質）	陸上　男子　やり投げ			2(4)	2(5)	
原﨑　駿　(機械)	陸上　男子　砲丸投げ			3(3)		
原﨑　駿　(機械)	陸上　男子　円盤投げ			3(3)	2(4)	3(5)
冨山　浩太郎（機械）	陸上　男子　砲丸投げ			1(2)	1(3)	1(4)
冨山　浩太郎（機械）	陸上　男子　やり投げ					1(4)
岩倉　愼　(機械)	陸上　男子　円盤投げ					2(2)
黒木　広大　(機械)	陸上 三段跳				3(5)	
田中　李紗　(物質)	陸上 走幅跳					2(4)
宇都　瑞希、田中李紗、赤崎正泉、二宮千莉	陸上 オープン ４×100mR				3(1・3・4)	
東　欣史郎　(機械)	水泳　男子２００ｍメドレー			2(1)	3(2)	
東　欣史郎　(機械)	水泳　男子４００ｍ自由形			1(1)	3(2)	
二見　敦史　(機械)	水泳　男子２００ｍメドレー					2(1)
二見　敦史　(機械)	水泳　男子１００ｍ平泳ぎ					2(1)
清家　章仁　(機械)	水泳　男子１００ｍ平泳ぎ					3(2)
森岡　瑞貴　(建築)	水泳　女子１００ｍ平泳ぎ					3(5)
山内麻由　廣山祐紀　杉尾史帆、森岡瑞貴	水泳　女子２００ｍメドレー					3(2・1・1・5)
野邊　走馬　(電気)	卓球(男子シングルス)			3(1)	3(2)	
松元　拓磨　(電気)	卓球(男子シングルス)			3(1)		
木村　匠吾　(物質)	卓球(男子シングルス)					3(2)
野邊　走馬（電気）　松元　拓磨（電気）	卓球(男子ダブルス)				2(2)	
馬場　義貴（機械）　中道　慎也（物質）	卓球(男子ダブルス)					3(3・4)
山本　安里沙（物質）木村 真琵子（物質）	卓球(女子ダブルス)				3(4・5)	
野田　瑞貴（建築）　前園　美恵（建築）	卓球(女子ダブルス)					3(1・1)
黒木　智紘　(建築)	柔道　男子個人戦　60kg以下		2(1)	2(2)	1(3)	1(4)
吉留　孝紀　(機械)	柔道　男子個人戦　60kg以下			3(2)		
中嶋　真太郎（物質）	柔道　男子個人戦　73kg以下			2(2)	2(3)	2(4)
本中野　翔吾（物質）	柔道　男子個人戦　73kg以下					1(5)
福元　健人　(機械)	柔道　男子個人戦　90kg以下				3(3)	2(4)
田中　　僚　(建築)	柔道　男子個人戦　90kg超級			3(2)		
宮元　薫平　(建築)	柔道　男子個人戦　90kg超級					3(4)

＊　Sはシングルス、Dはダブルスの略である

21 全国高専体育大会上位入賞記録

(1) 団体戦の部

年度 クラブ名	平成19年度 順 位	平成20年度 順 位	平成21年度 順 位	平成22年度 順 位	平成23年度 順 位
ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ					
剣　　道					
バレーボール	3	1	3		
テ　ニ　ス					

(2) 個人戦の部

氏名(学年)	年　度	19	20	21	22	23
	種　目	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)	順位(学年)
染 矢 貴 洋 (電気)	陸上(三段跳)	２ （４）				
川 野 将 太 (電気)	水泳(100m平泳ぎ)	２ （３）				
田 中 優 帆 (物質)	水泳　400M　女子混合ﾘﾚｰ		2(1)			
黒木智紘(建築)	柔道　男子個人戦　60kg以下				3(3)	3(4)
黒木 沙織(物質)	テニス　　女子シングルス				1(1)	1(2)
冨山 浩太郎 (機械)	陸上(砲丸投げ)			２(2)	２(3)	1(4)
冨山 浩太郎 (機械)	陸上(やり投げ)					3(4)
石坂 隆宜(物質)	陸上(やり投)				３(5)	
中屋敷創也 (電気)	陸上(5000m)			３(5)		

年度 クラブ等名（大会名）	平成19年度 順 位 等	平成20年度 順 位 等	平成21年度 順 位 等	平成22年度 順 位 等	平成23年度 順 位 等
弓　　道				2	
（西日本弓道大会）				男子団体	
弓　　道					3
（全国大会）					女子団体
吹　奏　楽	銀	金		銀	
（宮崎県吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ）					
吹　奏　楽		銀			
（九州吹奏楽ｺﾝｸｰﾙ）	銀				
低燃費車製作	7（ｸﾞﾙｰﾌﾟⅣ）		3（ｸﾞﾙｰﾌﾟⅣ）	4（ｸﾞﾙｰﾌﾟⅢ）	4（ｸﾞﾙｰﾌﾟⅢ）
（ﾎﾝﾀﾞｴｺﾉﾊﾟﾜｰ九州大会）	244.684km/l				
ロボット製作局	ＴＲＩ凸ＤＥ（トリデ）	麟麒応変：ﾘﾝｷｵｳﾍﾝ	さくらふぶき	はにーうぉーかー	飛魔
（ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ高専部門九州地区大会）	特別賞	生命大進化賞	マブチモーター賞	マブチモーター賞	マブチモーター賞
ロボット製作局			さくらふぶき		
（ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ高専部門全国大会）			マブチモーター賞		
少林寺拳法					
（九州地区高専少林寺拳法大会）					
デザインコンペティション	primitive		ランダとフウガ		霧島-kirishima-
	日刊建設工業新聞社賞		審査員特別賞		審査員特別賞
プログラムコンテスト	１９年度……敢闘賞（楽農楽座－農業情報化システム－）自由部門				
	２０年度……敢闘賞（ゆっくり農業をしていってねー野菜と楽しく対話する農業）課題部門				
	２１年度……敢闘賞（Ｔｅｍｏｔｏ－手元でパソコンを簡単操作）自由部門				

〔出典：基礎データ集〕

資料５－３－①－11

リーダー研修開催案内

ユーザ名: 学生係 n jgakusei
タイトル: Re: リーダー研修の講演者について　　: po-webmao
2011年8月8日 11:50:35
ページ 1 / 2

差出人: 河野行雄 nkm　　2011年8月8日 11:51:07

件名: Re:リーダー研修の講演者について

宛先: 学生係 njgakusei　学生指導部

添付ファイル: 2010リーダー研修資料.doc　37K

各位

平成２３年度リーダー研修の講師及び講演時間等が下記のように決まりましたのでお知らせ致します。
講演者への内諾は得れましたので、学校からの依頼文書の発送をお願いします。

なお、昨年度は研修担当の福留先生が取り纏めをされているようですので、本年度はリーダー研修の
取り纏めを岡部先生にお願いしたいと思っております。
よろしくお願い致します。

河野

記

1. 日 時　：10月1日(土)9時～10時
2. 場 所　：専攻科棟2階多目的ホール
3. 講 師　：宮崎シャイニングサンズマネージャ　　氏
4. 講演内容：クラブ学生のリーダーとしての心得

宮崎シャイニングサンズマネージャ
氏
（本校バスケットボールクラブコーチ）
住所、電話番号

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－12

体育競技会プログラム，体育競技会準備計画

平成23年度　体育競技会プログラム表

午前

開始時間	競技名	召集	入場	参加学生	競技場所
8:35	各クラス点呼			全学生	フィールド
8:45	開会式			全学生	フィールド
9:10	女子50m(一般):1年	開会式終了時		1年生女子	トラック
	女子50m(一般):2年	開会式終了時		2年生女子	トラック
	女子50m(一般):3年	開会式終了時		3年生女子	トラック
	男子70m(一般):1年	開会式終了時		1年生男子	トラック
	男子70m(一般):2年	開会式終了時		2年生男子	トラック
	男子70m(一般):3年	開会式終了時		3年生男子	トラック
9:30	女子棒取り	開会式終了時	男子70m:1年後	全学年女子	フィールド
9:48	男子200m選抜(予選)	男子70m:2年後	男子70m:3年後	全クラス男子選抜	トラック
9:51	男子100m選抜(予選)	男子70m:3年後	女子棒取り後	全クラス男子選抜	トラック
	女子100m選抜(予選)	女子棒取り後	男子200m選抜後	全クラス女子選抜	トラック
9:57	男子騎馬戦	女子棒取り中	男子200m選抜後	2･3年男子	フィールド
10:28	男子1500m競争	男子100m選抜後	女子100m選抜後	低学年クラス選抜	トラック
10:36	女子玉入れ	女子100m選抜後	男子騎馬戦後	全学年女子	フィールド
10:50	三輪車競争	男子騎馬戦後	男子1500m後	全学年	トラック
11:02	男子クラス対抗リレー(予選)	男子1500m後	女子玉入れ後	全クラス男子	トラック
	女子クラス対抗リレー(予選)	女子玉入れ後	三輪車競争後	全クラス女子	トラック
11:32	綱引き	三輪車競争後	開始前	全学年	フィールド

昼休み(12:00～13:20)

午後

(12:40)	(部活動写真撮影)	(昼休み)		(部活動生)	(トラック)
13:20	部活動紹介リレー	昼休み		部活動生	トラック
13:36	デモンストレーション			実行委員	
13:46	障害物リレー	デモ中	開始前	全学年	トラック
14:11	男子200m選抜(決勝)	デモ中	開始前	予選勝利者	トラック
14:13	女子100m選抜(決勝)	デモ中	男子200m選抜前	予選勝利者	トラック
	男子100m選抜(決勝)	デモ中	男子200m選抜前	予選勝利者	トラック
14:16	学科長の目	デモ中	男子200m選抜後	1年生	トラック
14:29	応援演舞	開始時		各学科応援団	フィールド
15:10	男子クラス対抗リレー(決勝)	応援演舞後	開始前	予選勝利チーム	トラック
	女子クラス対抗リレー(決勝)	応援演舞後	男子リレー前	予選勝利チーム	トラック
15:24	男子棒倒し	障害物リレー後	開始前	4･5年男子	フィールド
15:53	学科対抗リレー	女子リレー後	開始前	各クラス選抜	トラック
16:00	閉会式			全学生	フィールド
16:20	片付け等			全学生	
17:00	終了				

平成２３年度体育競技会雨天時プログラム

・雷や大雨の場合を除きグラウンドで決行する。

・天候の判断は、指導部、体育局によって行い、８時までには判断する。

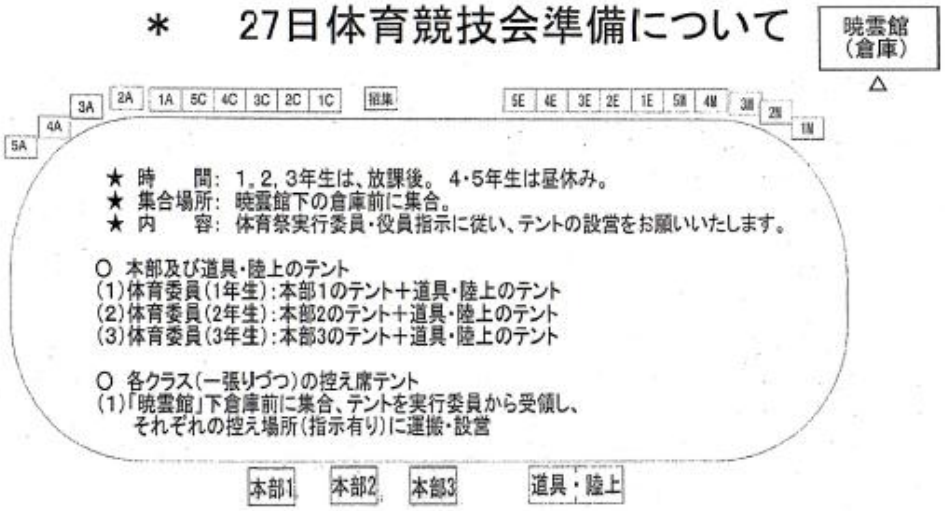
グラウンド決行

開始時間	競技名	招集	入場	参加学生	競技場所
8:35	各クラス点呼			全学生	フィールド
8:45	開会式			全学生	フィールド
9:10	女子棒取り	開会式終了時		全学年女子	フィールド
9:35	男子騎馬戦	開会式終了時	女子棒取り後	2･3年男子	フィールド
10:05	学科長の目	女子棒取り後	綱引き後	1年生	フィールド
10:20	応援演舞	開始時		各学科応援団	フィールド
11:00	男子棒倒し	応援演舞後	開始時	4･5年男子	フィールド
11:30	閉会式			全学生	フィールド
11:50	片付け			全学生	フィールド

屋内決行

開始時間	競技名	招集	入場	参加学生	競技場所
8:35	各クラス点呼			全学生	第１体育館
8:45	開会式			全学生	第１体育館
9:40	応援演舞	開始時		各学科応援団	第１体育館
10:20	閉会式			全学生	第１体育館

※屋内決行の場合は応援演舞だけとする。応援団は、第１体育館で演舞をしてそれをビデオカメラで撮り、全校生徒は、それをライブ映像で第２体育館で見ることにする。


＊　27日体育競技会準備について
暁雲館
（倉庫）
招集
5A
4A
3A
2A
1A
5C
4C
3C
2C
1C
5E
4E
3E
2E
1E
5M
4M
3M
2M
1M
★ 時　　間: 1, 2, 3年生は、放課後。 4・5年生は昼休み。
★ 集合場所: 暁雲館下の倉庫前に集合。
★ 内　　容: 体育祭実行委員・役員指示に従い、テントの設営をお願いいたします。
○ 本部及び道具・陸上のテント
(1)体育委員(1年生):本部1のテント＋道具・陸上のテント
(2)体育委員(2年生):本部2のテント＋道具・陸上のテント
(3)体育委員(3年生):本部3のテント＋道具・陸上のテント
○ 各クラス(一張りづつ)の控え席テント
(1)「暁雲館」下倉庫前に集合、テントを実行委員から受領し、
それぞれの控え場所(指示有り)に運搬・設営
本部1
本部2
本部3
道具・陸上

〔出典：学生課資料〕

資料５－３－①－13

文化祭プログラム


2011年都城工業高等専門学校文化祭
プログラム
PROGRAM

Morning　第1体育館

8:35 開会式（点呼確認）

8:45 開会宣言

9:00 1年生ステージ発表

10:05 4年生研究発表

11:55 吹奏楽部演奏

12:30 開会式終了（学生自由行動）


40　都城工業高等専門学校文化祭 2011


2011年都城工業高等専門学校文化祭
プログラム
PROGRAM

Afternoon

12:30 学生自由行動

EVENT（野外ステージ）
女装男装コンテスト
遠距離キッス 演劇
アームレスリング カラオケ

イベント（ピロティ）
ダンスバトル with DJ
じゃぐりんぐしょー

LIVE（第1体育館）
Lyre（1:00～）
牡丹電池（1:20～）
BLENDY（1:40～）
RITZ（2:00～）
ネコパチ（2:20～）
Chocolate Knights（2:55～）

展示等
ピタゴラスイッチ（2C教室）
お化け屋敷（3E教室）
ダイヤモンド合成の実験（3C教室）
いすと肌と指令（寄宿料横前）
写真展示・販売（1M教室）
茶道教室（表信館1階）
情報処理・中国文化（2E教室）
フリーサイエンス（1C教室）
エレクトロニクス（4E教室）
合唱（1A教室）
美術作品展示（2M教室）
サブカルチャー冊子配布（図書館前）

16:00 閉会式（点呼確認）

17:00 学生解散

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

厚生補導面における学生指導に関しては，学生指導部及び寮指導部による指導並びに毎朝の低学年学級担任によるショートホームルームでの指導等，個々の学生に対してきめ細やかな指導を実施している。また，課外活動も全教員がクラブ顧問として各種大会への引率業務等に従事し，各クラブ活動の活性化を支援している。また，学生会行事においても全教員が積極的に学生会を支援しており，人間性の涵養が図れるよう十分に配慮している。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

学業成績評価及び課程修了等の認定等は，「都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則」により実施されている。また，学生便覧に同規則を掲載することにより，学生への成績評価，単位認定等の規則の周知徹底を行っている。なお，追試験及び再試験についても同規則により実施している（資料５－４－①－１）。各教科の具体的な成績評価方法はシラバスに記載しており，成績評価に用いた答案等の資料は保管している（資料５－４－①－２）。各試験の答案等は，学生に一度返却し，解答解説時に試験の点数について学生の異議を受け付けている。進級判定会議及び卒業判定会議は毎年３月に校長が全教員を招集し（資料５－４－①－３），実施している（資料５－４－①－４）。学年ごとの成績評価は，修学簿として全保護者に送付している（資料５－４－①－５）。

観点５－４－①　資料一覧

資料５－４－①－１　都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則
〔出典：学生便覧〕

資料５－４－①－２　答案保存調査票（本科分）
〔出典：学生課資料〕

資料５－４－①－３　行事予定表
〔出典：学生便覧〕

資料５－４－①－４　卒業判定会議開催通知及び進級判定会議開催通知
〔出典：学生課資料〕

資料５－４－①－５　修学簿（様式）
〔出典：学生課資料〕

３．都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校学則に定める学生の学業成績評価及び課程の修了並びに進級・卒業の認定等について定める。

第２章　科目の履修及び単位の修得

（科目の履修及び単位の修得）

第２条　開設された授業科目のうち必修科目については全科目を、選択科目については所定科目を、それぞれ履修して、成績の評価を受け、当該科目に対する単位を修得しなければならない。

（選択科目の受講）

第３条　選択科目を履修する場合は、選択科目受講願（様式第１号）により、学級担任を経て教務係へ提出しなければならない。

２　前項の提出期限は通年及び前期のみの科目については、前年度の１月30日、後期については７月５日までとする。

第４条　受講科目の変更は、原則として認めない。ただし、特別の事由のある場合はこの限りでない。

２　受講生が極端に少ない科目がある場合は、教務委員会で審議し、受講科目を調整することがある。

３　前項により調整された学生への連絡は、学級担任が行い、当該学生は改めて受講願を提出しなければならない。

第５条　受講を許可された選択科目については、必修科目に準じて取り扱う。

（科目履修の認定要件）

第６条　当該科目の出席時数が４分の３以上の者は、履修したものと認定する。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者とすることができる。

（特別活動履修の認定要件）

第７条　特別活動の履修を認定するために必要とする出席時数については、前条を準用する。

（単位修得の認定要件）

第８条　履修した科目の評価が、第14条第３項に該当する場合、単位の修得が認められる。

第３章　学業成績の評価

（試験）

第９条　試験は、各期末に行う定期試験を原則とし、そのほか中間試験を行うことができる。

２　試験は、筆答試験とする。ただし、実験及び実習等特別な科目については、実技を課し、又は作品若しくは報告書等の提出によりこれに替えることができる。

３　試験の期日・時間割等は試験開始日の12日前に告示するものとする。

第10条　試験開始後20分を経過した遅刻者は、当該科目の試験を受けることができない。

第11条　正当な事由がなく試験を受けなかった者の当該試験の成績は０点とする。

（追試験）

第12条　正当な事由により試験を受けなかった者に対しては、願い出により追試験を行う。

２　前項の追試験を希望する者は、当該試験終了後授業開始日から５日以内（ただし、学年末試験にあっては３日以内とし、いずれも土日は含まない。）に追試験許可願（様式第２号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。

３　正当な事由がなく前項の追試験を受けなかった者の当該試験の成績は０点とする。

（不正行為）

第13条　試験中不正行為のあった者は、直ちに受験を停止し、当該試験期間の全試験の成績を０点とする。

２　不正行為をほう助（援助）した者については、前項に準じた扱いとする。

（成績の評価）

第14条　各期における成績の評価は、試験の成績及び平素の学習状況等を総合し、100点法により行う。ただし、100点法による評価が困難な科目については、合格又は不合格とする。

２　学年成績の評価は、次の各号により行うものとする。

(1)　学年を通じて履修する科目については、各期の成績を総合する。

(2)　前期又は後期のみで履修する科目については、各期の成績とする。

３　各科目の単位の修得については、その成績の評価が60点以上又は合格の場合とする。

第15条　前条２項の評価に当たっては、第６条に定める認定要件を充足しない科目の評価は、59点以下又は不合格とする。

（報告）

第16条　教員は、試験終了後速やかに担当科目についての成績を評価し、校長に報告しなければならない。

（評語及び評点）

第17条　学業成績の評語及び評点は、それぞれ次のとおりとする。

学業成績の点数	評語	評点
80点　～　100点	優	5
70点　～　79点	良	4
60点　～　69点	可	3
30点　～　59点	不可	2
29点以下	不可	1

（再試験）

第18条　未修得科目の追認のために行う試験（以下「再試験」という。）は前学年における単位未修得の科目について行う。

２　再試験を受験することができる者は、当該科目について第６条に定める履修を認定された者に限る。

３　再試験は筆答試験を原則とする。

第19条　再試験の実施時期は、前期にあっては５月とし、後期にあっては１月とする。ただし、第５学年については、前期にあっては６月とし、後期にあっては12月とする。

2　再試験の期日・時間割等については、その都度告示する。
第20条　再試験を受験希望の者は、当該年度前・後期に実施される再試験毎に再試験許可願（様式第３号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。
2　再試験許可願の提出期限は、前期実施分については４月21日まで、後期実施分については11月15日までとし、それぞれの期日までに提出のない者については、受験希望がないものとして処理する。
3　前期再試験の成績が、著しく不良と判定された者又は正当な事由がなく前期再試験を受けなかった者については、当該科目について後期再試験の受験を許可しないことがある。
第21条　正当な事由なく再試験を受けなかった者の当該試験の成績は０点とする。
第22条　教員は、再試験終了後速やかに担当科目についての成績を評価し、校長に報告しなければならない。
2　再試験に合格した科目の単位については、その科目の履修年度にさかのぼり追認し、その評価は60点とする。
第23条　正当な事由により再試験を受けなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことができる。
2　前項の追試験を希望する者は、当該試験終了後５日以内（土日は含まない。）に追試験許可願（様式第２号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。
第24条　第18条第１項の規定にかかわらず、次に掲げる科目は、再試験を実施しない。

学科等	再試験を実施しない科目
機械工学科	設計製図、創造設計、工学実験、基礎実験、工作実習、機械工学概論
電気情報工学科	電気製図、電気情報工学ゼミ
物質工学科	設計製図、物質工学演習、生物工学演習
建築学科	建築学研究、建築学実験
一般科目	保健体育、美術、音楽

2　前項に掲げる科目以外で再試験の実施に支障を来す科目がある場合は、その都度教務委員会で審議する。
（成績の通知）
第25条　前期の成績及び学年の成績は、その評価の確定後速やかに保護者に通知するものとする。
（成績の証明）
第26条　成績証明書への記入、外部に対する成績の通報等を行う場合は、評語又は評点により行うことを原則とする。

第４章　課程の修了及び進級・卒業の認定

（学年課程修了の認定）
第27条　校長は、次の各号に掲げるすべての要件を満たした者について、各学年の課程を修了したものと認定する。
(1)　学年末において、別表第１に定められた単位数以上を修得している者
(2)　第１学年から第３学年までにあっては、特別活動を履修したと認められる者
(3)　学年末において別表第２に該当する者
(4)　当該学年の出席時数が年間総授業時数の４分の３以上出席している者。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者とすることができる。
2　校長は、前項の認定に当たっては、進級判定会議に諮るものとする。
第28条　各学年の修了を認められた者は、上級学年に進級させる。
第29条　未修得科目を有したまま進級を認められた者についてその学生が原学年に留まることを希望する場合は、願い出により許可することがある。
第30条　原学年に留められた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。
（卒業の認定）
第31条　校長は、次の各号に掲げるすべての要件を満たした者について、卒業を認定する。
(1)　第５学年末において167単位以上（うち一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得している者
(2)　第５学年末において別表第２に該当する者
(3)　第５学年の出席時数が年間総授業時数の４分の３以上出席している者。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者とすることができる。
2　校長は、前項の認定に当たっては、卒業判定会議に諮るものとする。
（在学期間の制限）
第32条　同一学年には２年を超えて在学することはできない。ただし、休学の場合はこの限りでない。

附　則

1　この規則は、昭和58年４月１日から実施する。
2　都城工業高等専門学校進級及び卒業の認定に関する規則（昭和53年２月15日制定）、学業成績評価基準（昭和53年４月１日制定）及び再試験に関する内規（昭和53年４月１日）は、廃止する。
（中略）

附　則

この規則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成７年９月12日から施行する。

附　則

この規則は、平成15年４月１日から施行する。

附　則

1　この規則は、平成16年４月１日から施行する。
2　第14条第３項、第15条、第17条及び第22条第３項は、平成12年度入学者から適用する。
3　別表第２の「科目の評価がA欄中1･2･3年については50点以上、4･5年については60点以上、B欄については科目履修の認定要件を満たした上、評価が1・2・3年については25点以上、4･5年については30点以上である者」は、平成12年度入学者から適用する。
4　平成12年度入学者の４年次の学業成績の修得条件は50点以上または合格とし、４年次及び５年次の再試験制度については別途定める。
5　平成13～15年度入学者の４年次の進級条件並びに４年次及び５年次の再試験制度については別途定める。

附　則

1　この規則は、平成17年４月１日から施行する。
2　第14条第３項、第15条、第17条及び第22条第２項は、平成17年度入学者か

ら適用する。
　ただし、原学年に留まることにより平成17年度に第１学年となる者は平成17年度入学者として取り扱う。
３　第14条第３項にかかる平成16年度以前の入学者の各科目の単位の修得については、その成績の評価が第１学年から第３学年にあっては50点以上又は合格、第４学年以上にあっては60点以上又は合格の場合とする。
４　第15条にかかる平成16年度以前の入学者の第14条第２項の評価に当たっては、第６条に定める履修要件を充足しない科目の評価は、第１学年から第３学年にあっては49点以下又は不合格、第４学年以上にあっては59点以下又は不合格とする。
５　第17条にかかる平成16年度以前の入学者の学業成績の評語及び評点は、それぞれ次のとおりとする。

（平成16年度入学者）

（１～３年）

学業成績の点数	評語	評点
80点～100点	優	5
60点～79点	良	4
50点～59点	可	3
25点～49点	不可	2
24点以下	〃	1

（４・５年）

学業成績の点数	評語	評点
80点～100点	優	5
70点～79点	良	4
60点～69点	可	3
30点～59点	不可	2
29点以下	〃	1

（平成15年度以前入学者）

（１～３年）

学業成績の点数	評語	評点
80点～100点	優	5
60点～79点	良	4
50点～59点	可	3
25点～49点	不可	2
24点以下	〃	1

（４・５年）

学業成績の点数	評語	評点
80点～100点	優	5
60点～79点	良	4
30点～59点	不可	2
29点以下	〃	1

６　第22条第２項にかかる平成16年度以前の入学者の再試験に合格した科目の単位については、その科目の履修年度にさかのぼり追認し、その評価は第１学年から第３学年にあっては50点、第４学年以上にあっては60点とする。

附　則

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成20年９月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成22年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成23年４月１日から施行する。

別表第１

（１）機械工学科　（平成16年度以降入学者用）

	１年	２年	３年	４年	５年
履修単位（累積履修単位）	35	34（69）	34（103）	35（138）	37（175）
学年別累積単位	25	58	95	129	167

（２）電気工学科（平成16～18年度入学者用）
　　電気情報工学科（平成19年度以降入学者用）

	１年	２年	３年	４年	５年
履修単位（累積履修単位）	35	34（69）	34（103）	35（138）	36（174）
学年別累積単位	25	58	95	129	167

（３）物質工学科　（平成16年度以降入学者用）

	１年	２年	３年	４年	５年
履修単位（累積履修単位）	35	34（69）	34（103）	36（139）	36（175）
学年別累積単位	25	58	95	129	167

（４）建築学科　（平成16年度以降入学者用）

	１年	２年	３年	４年	５年
履修単位（累積履修単位）	35	34（69）	35（104）	35（139）	36（175）
学年別累積単位	25	58	95	129	167

※４年・選択科目の校外実習・１単位は履修単位に含めていない。
※第３学年末において第２学年までの単位を63単位以上修得していなければ第４学年に進級できない。

別表第２　　（平成17年度以降入学者用）

科目の評価がＡ欄については60点以上、Ｂ欄については科目履修の認定要件を満たした上、評価が30点以上である者

	区分	機械工学科	電気情報工学科※	物質工学科	建築学科
指定科目	A	設計製図(1･2･3･5年) 創造設計(4年) 工学実験(4･5年) 基礎実験(3年) 工作実習(1･2年) 卒業研究(5年)	電気情報工学実験(2～5年) 卒業研究(5年)	基礎化学実験(1年) 分析化学実験(1･2年) 無機化学実験(3年) 有機化学実験(3年) 物理化学実験(4年) 機器分析実験(4年) 物質工学実験(4年) 化学工学実験(5年) 生物工学実験(4年) 生物反応工学実験(5年) 卒業研究(5年)	卒業研究(5年)
	B	材料力学(3･4年) 熱力学(4年) 水力学(4年) 機械設計法(4年) 工業力学(3年)	電気基礎論Ⅰ(1年) 電気基礎論Ⅱ(1年) 電気磁気学(3･4年) 電気回路Ⅰ(2年) 電気回路Ⅱ(3年)		

※平成17年、18年度入学者は電気工学科

様式第１号

選択科目受講願

担当教員	学級担任

平成　年　月　日

都城工業高等専門学校長　殿

学科　学年（No.　）
氏名

下記の科目を受講したいので、ご許可くださるようお願いいたします。

記

種別	授業科目	単位数	備考
一般科目			
専門科目			

(注) 学級担任教員を経て、教務係に提出すること。（通年・前期は1月30日、後期は7月5日までとする。）

様式第２号

追試験許可願

学級担任印	教務主事印

平成　年　月　日

都城工業高等専門学校　校長殿

学科　学年　（平成　年度入学）
氏名

下記の理由により平成＿年度（前期中間・前期末・後期中間・学年末・再）試験の下記の科目を受験することが｛できません／できませんでした｝ので追試験を許可くださるようお願いいたします。

記

理由：

試験種目	試験科目	担当教員氏名	印	備考（追試験実施予定年月日等）

追試験願提出にあたっての注意事項
1. 押印の順序については、本人→学級担任→教科担任→教務係提出→教務主事とする。
2. 病気の場合は、医師の診断書をこの願いに添付すること。
3. 忌引き、受講事故、大災等の場合は、学級担任へその事情を説明すること。
4. 願い出は、当該試験終了後経過日数から５日以内（ただし、学年末試験にあっては３日以内とし、いずれも土日は含まない）とする。（厳守のこと）
5. 但し当該日の印が提出期限内にもらえない場合は、教務係へその旨届け出ること。

様式第３号

再試験許可願

平成　年　月　日

都城工業高等専門学校長　殿

学科　学年（平成　年度入学）

氏名

下記の科目の再試験をご許可くださるようお願いいたします。

記

受験科目	単位数	担当教員名	印	備考

注 1.提出先は教務係とする。
2.提出期限（前期分４月21日、後期分11月15日）厳守のこと（当該科目の担当教員が出張で許可印がもらえない場合は、教務係へ申し出ること。）
3.提出期限が休日の場合はその翌日とする。

［出典：学生便覧］

資料５－４－①－２

答案保存調査票（本科分）

答案等保存調査票(平成22年度分)

機械工学科プログラム対応科目

No	科目名	単位数	4年	5年	実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目(2)	点検者	備考
M01	情報処理Ⅱ	2	2		○	○	○			
M02	材料力学(4年)	2	2		○	○	○			
M03	材料力学(5年)	1		1	○	○	○			
M04	材料学Ⅱ	1	1		○	○	○			
M05	熱力学	2	2		○	○	○			
M06	水力学	2	2		○	○	○			
M07	機械設計法(4年)	2	2		○	○	○			
M08	機械設計法(5年)	1		1	○	○	○			
M09	創造設計	4	4		○	○	○			
M10	設計製図	2		2	○	○	○			
M11	工学実験(4年)	2	2		○	○	○			材料○、材力○、制御○、工作○、機力○、流○
M12	工学実験(5年)	2		2	○	○	○			熱○、制御○、設○、機力○流○
M13	熱機関	3		3	○	○	○			
M14	機械力学	2		2	○	○	○			
E16	自動制御	2		2	○	○	○			
M15	流体機械	1		1	○	○	○			
M16	工業外国語	2		2	○	○	○			
M17	計測工学	1	1		○	○	○			
M18	卒業研究	10		10						
M20	流体力学	1		1	○	○	○			
M21	伝熱工学	1		1	○	○	○			
M22	塑性加工	1		1	○	○	○			
M23	生産工学	1		1	○	○	○			
M24	メカトロニクス	1		1	○	○	○			
M25	強度解析学	1		1	○	○	○			

電気工学科プログラム対応科目

No	科目名	単位数	4年	5年	実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目(2)	点検者	備考
E01	電気磁気学A	3	2		○	○	○			
	電気磁気学B		1		○	○	○			
E02	回路網理論	2	2		○	○	○			
E03	電子回路	2	2		○	○	○			
E04	半導体工学	2	2		○	○	○			
E05	電気材料工学	2		2	○	○	○			
E06	計算機工学	2	2		×	×	×			
E07	電気機器	2	2		○	○	○			
E08	計測工学	2		2	○	○	○			
E09	制御工学(4年)	1	1		○	○	○			
E10	制御工学(5年)	2		2	○	○	○			
E11	通信工学	2		2	○	○	○			
E12	電気電子情報設計A	3		3	×	×	×			
	電気電子情報設計B				○	○	○			
E13	電気情報工学ゼミ	1	1		○	○	○			
E14	電気情報工学実験(4年)	4	4		○	○	○			
E15	電気情報工学実験(5年)	3		3	○	○	△			「情報」なし
E16	卒業研究	10		10						
E17	エネルギー変換工学	2		2	○	○	○			
E18	電力輸送工学	2		2	○	○	○			
E19	高電圧工学	2		2	○	○	○			
E20	法規及び施設管理	1		1	○	○	○			
E21	知能情報処理	2		2	×	×	×			
E22	システムプログラミング	2		2	○	○	○			
E23	電磁波工学	2		2	○	○	○			
E24	情報工学特論	1		1	○	○	○			

物質工学科プログラム対応科目

No	科目名	単位数	4年	5年	実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目 (2)	点検者	備考
C01	物理化学	2	2		○	○	○			
C02	化学工学Ⅱ	2	2		○	○	○			
C03	機器分析	2	2		○	○	○			
C04	高分子化学	1	1		○	○	○			
C05	電気化学	1		1	○	○	○			
C06	生物工学	2		2	○	○	○			
C07	工業英語	2	2		○	○	○			
C08	反応工学	2		2	○	○	○			
C09	安全工学	1		1	○	○	○			
C10	電気工学基礎	2		2	○	○	○			
C11	物理化学実験	2	2		○	○	○			
C12	機器分析実験	2	2		○	○	○			
C13	卒業研究	10		10	○	○	○			
C14	有機材料化学	2	2		○	○	○			
C15	無機材料化学	2	2		○	○	○			
C16	電子材料工学	2		2	○	○	○			
C17	工業動力学	1		1	○	○	○			
C18	輸送現象論	2		2	○	○	○			
C19	物質工学演習	1	1		○	○	○			
C20	化学工学実験	4		4	○	○	○			
C21	物質工学実験	2	2		○	○	○			
C22	醗酵工学	2		2	○	○	○			
C23	微生物工学	2		2	○	○	○			
C24	細胞・遺伝子工学	1		1	○	○	○			
C25	分子生物学	2	2		○	○	○			
C26	環境工学	2	2		○	○	○			
C27	生物工学演習	1	1		○	○	○			
C28	生物反応工学実験	4		4	○	○	○			
C29	生物工学実験	2	2		○	○	○			
C30	分離工学	1		1	○	○	○			
C31	生体高分子	1		1	○	○	○			
C32	量子化学	1		1	○	○	○			
C33	生体機能工学	1		1	○	○	○			
C34	計測制御工学	1		1	○	○	○			
C35	生体材料化学	1		1	○	○	○			
C36	触媒化学	1		1	○	○	○			
C37	食品工学	1		1	○	○	○			

建築学科プログラム対応科目

No	科目名	単位数	4年	5年	実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目 (2)	点検者	備考
A01	建築計画	2	2		○	○	○			
A02	建築設計演習	6	6		○	○	○			
A03	実務 CAD 演習	2		2	○	○	○			
A04	都市計画学	1		1	○	○	○			
A05	建築実務概論	1		1	○	○	○			
A06	建築デザイン	1		1	○	○	○			
A07	建築史Ⅰ	1	1		○	○	○			
A08	建築史Ⅱ	1		1	○	○	○			
A09	建築史Ⅲ	1		1	○	○	○			
A10	構造力学	2	2		○	○	○			再試験分含む
A11	耐震構造学	1		1	○	○	○			
A12	鋼構造学	2	2		○	○	○			
A13	鋼構造演習	2		2	○	○	○			
A14	RC 構造学	2	2		○	○	○			
A15	RC 構造演習	2		2	○	○	○			
A16	建築生産学	2		2	○	○	○			
A17	建築環境工学（4年）	2	2		○	○	○			
A18	建築環境工学（5年）	2		2	○	○	○			
A19	建築設備	2		2	○	○	○			
A20	建築法規	1	1		○	○	○			
A21	建築学研究	1	1		○	○	○			
A22	建築学実験	1		1	○○○○	○○○○	○○○○			坂倉，原田，後藤，小原の順
A23	卒業研究	10		10	○	○	○			AVI0準備室へ保存

一般科目プログラム対応科目一覧

No	科目名	単位数	4年	5年	実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目(2)	点検者	備考
G01	国語	2	2		○	○	○			
G02	英語（４年）	2	2		○	○	○			
G03	英語（５年）	2		2	MEA○ C×	MEA○ C×	MEA○ C×			
G04	選択英語	2	2		○	○	○			
G05	ドイツ語	2	2		○	○	○			
G06	法学	2	2		×	×	×			
G07	歴史学概論	2	2		○	○	○			
G08	社会学	2	2		○	○	○			
G09	国際文化論Ⅰ	2		2	○	○	○			
G10	国際文化論Ⅱ	2		2	○	○	○			
G11	哲学	2		2	○	○	○			
G12	産業財産権法	2		2	×	×	×			
G13	数分方程式	2	2		○	○	○			
G14	応用数学	2	2		○MEのみ	○MEのみ	○MEのみ			CA分（非常勤担当）は整理中。 実施報告書、提出依頼
G15	応用物理	2	2		×	○	○			実施報告書依頼

○	有り	
△	不十分	（不十分な理由を「備考」に記載する
×	無し	
－	受講者がいなかった。開講されなかった	

〔出典：学生課資料〕

資料５－４－①－３

行事予定表

平成24年度　教務関係行事予定（後期）

月	日	曜日	行　事　等　の　予　定
10	1	月	授業評価アンケート記入（全学年、10月５日まで） ポートフォリオ記入（４・５年、10月５日まで）
	9	火	後期授業開始　（１限目全校集会、２限目以降平常授業）
	17	水	１年授業担当者会議
	18	木	２年授業担当者会議
	19	金	３年授業担当者会議
	31	水	体育競技会準備（放課後～）
11	1	木	体育競技会
	2	金	高専祭準備
	3	土	高専祭（４日まで）
	5	月	高専祭の代休
	10	土	１・２年生保護者個別面談
	14	水	月曜日の授業
	15	木	後期再試験許可願提出締切（２～５年）
	21	水	後期中間試験時間割発表、後期再試験時間割発表（５年）
	27	火	金曜日の授業
12	3	月	後期中間試験（１～４年、７日まで） 後期再試験（５年放課後、７日まで）
	18	火	クラスマッチ、２年生授業担当者会議
	19	水	消防訓練、後期再試験時間割発表（２～４年）
	20	木	１年生授業担当者会議
	21	金	７限目全校集会
	25	火	冬季休業（１月６日まで）
1	7	月	放送集会
	10	木	学習到達度試験（３年のみ、試験終了後平常授業）
	11	金	後期再試験（２～４年、18日まで）
	25	金	学年末試験時間割発表（５年）
	30	水	選択科目受講願締切（３・４年）
2	1	金	学年末試験時間割発表（１～４年）
	6	水	学年末試験（５年、13日まで）
	13	水	月曜日の授業
	14	木	補講日（調整日）
	15	金	学年末試験（１～４年、25日まで） 授業評価アンケート及びポートフォリオ記入（５年、21日まで） 試験終了後清掃（1～3年）
	22	金	５年最終日、５年月曜日の授業
	26	火	特別時間割（３月１日まで）、授業評価アンケート記入（１～４年、３月１日まで）、ポートフォリオ記入（4年、3月1日まで）
3	1	金	午前中終業式
	4	月	特別休業（19日まで）、卒業判定会議
	12	火	卒業式
	13	水	進級判定会議
	21	木	学年末休業（31日まで）、修学簿発送

〔出典：学生便覧〕

資料５－４－①－４

卒業判定会議開催通知及び進級判定会議開催通知

校　長	教務主事	事務部長	学生課長	課長補佐	教務係長	教務係

下記のとおり通知してよろしいか伺います。

ユーザ名: 教務係 njgkyoum
タイトル: 平成23年度卒業判定会議等の開催について : Mail

2012年2月8日 13:59:02
ページ 1 / 1

専攻科長

差出人: 教務係 njgkyoumu
件名: 平成23年度卒業判定会議等の開催について
宛先: 全教職員
CC:

平成24年2月9日

教員各位

校　長

平成23年度卒業判定会議等の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますので、出席方よろしくお願いします。

記

1 日　時　平成24年3月5日(月)13時30分～

2 会　議　(1) 卒業判定会議
(2) プログラム修了判定会議
(3) 専攻科修了判定会議

3 場　所　図書館第1会議室

校　長	教務主事	事務部長	学生課長	課長補佐	教務係長	教務係

下記のとおり通知してよろしいか伺います。

ユーザ名: 教務係 njkyoumu
タイトル: 平成23年度進級判定会議の開催について

2年2月15日 12:51:07
ページ 1 / 1

差出人: 教務係 njkyoumu
件名: 平成23年度進級判定会議の開催について
宛先: 全教職員
CC:

平成24年2月16日

教 員 各 位

校　　長

平成23年度進級判定会議の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますので、出席方よろしくお願いします。

記

1 日　時　　平成24年3月14日(水)14時00分～
2 場　所　　図書館第1会議室

〔出典：学生課資料〕

資料５－４－①－５

修学簿（様式）

平成　　年度

修　学　簿

学　年	
学　科	
氏　名	

単位の修得状況		
学年	修得	未修得
第１学年		
第２学年		
第３学年		
第４学年		
第５学年		
合　計		
判　定		

担任教員の所見		
学級担任		印

平成　　年　月　日

都城工業高等専門学校長

三　村　　洋　史

科目名														
単位数														
得　点														
評　語														
級平均点														

科目名														
単位数														
得　点														
評　語														
級平均点														

※　得点欄の「／」は、選択科目で履修していない科目を示す。
※　得点の右横に「*」「#」のマークが付いている場合、「*」は６０点未満、「#」は出席時数が当該科目の授業時数の４分の３に満たないことを示す。
※　評語欄の「不可」は、単位が修得できなかったことを示す。なお、再試験を実施しない科目を除き、得点欄に「*」のマークが付いている科目は、４月以降に実施する再試験の受験資格がある。

全　科　目	
総得点	
平均点	
学級平均点	
級席次	
／	／
人　数	

出　席　状　況	
出席すべき日数	
欠席日数	
出席日数	
欠課時数	
／	／
総授業時数	
欠課率	

欠席日数は、欠課時数７時間をもって１日の欠席とする。

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

学業成績評価及び課程の修了並びに進級・卒業の認定等は，「都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則」に基づき行っている。同規則は学生便覧等に記載し，全学生及び教職員に周知徹底している。各教科の具体的な成績評価方法は，シラバスに記載し，学生に周知徹底している。成績評価，単位認定及び進級・卒業判定は，上記規則にのっとり，校長が全教員の審議結果を踏まえ行っている。以上のように，各規定を策定し，評価･認定を適切に行っている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程は，機械工学科及び電気情報工学科を母体とする機械電気工学専攻，物質工学科を母体とする物質工学専攻及び建築学科を母体とする建築学専攻の３専攻から構成している（資料５－５－①－１）。専攻科課程は，準学士課程４学年から始まる「生産デザイン工学」プログラムの後半２年間の教育課程で，４年間の連続した教育課程を修めることにより，専攻科課程修了時に各学習・教育目標が求める知識，能力及び素養が身に付くよう構成している（前述資料５－１－①－３，資料５－５－①－２）。「生産デザイン工学」プログラムは，JABEEにも対応しているため，専攻科修了時にはJABEEの求める知識，能力及び素養も身に付けることができるようになっている。

観点５－５－①　資料一覧

資料５－５－①－１　専攻及び入学定員（学則第 40 条）

〔出典：学則〕

資料５－５－①－２　学習・教育目標と JABEE 基準１の（１）の対応関係

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料５－５－①－１

専攻及び入学定員（学則第40条）

（専攻及び入学定員）

第４０条　専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
機械電気工学専攻	８人
物質工学専攻	４人
建築学専攻	４人

〔出典：学則〕

資料５－５－①－２

学習・教育目標と JABEE 基準１の（１）の対応関係

４．学習・教育目標と JABEE 基準１の（１）の対応関係

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
(c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力（分野別要件）
(1) 基礎工学の知識・能力
① 設計・システム系科目群、② 情報・論理系科目群、③ 材料・バイオ系科目群、④ 力学系科目群、⑤ 社会技術系科目群の５群からなり、各群から少なくとも１科目、合計最低６科目についての知識と能力
(2) 専門工学の知識・能力
a) 専門工学（工学（融合複合・新領域）関連分野）における専門工学の内容は申請高等教育機関が規定するものとする）の知識と能力
b) いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力
c) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力
d) (工学) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力
(e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
(g) 自主的、継続的に学習できる能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

表１　学習・教育目標と基準１の(１)の (a) ～ (h) との対応　◎印は主体的に、○印は付随的に含む。

学習・教育目標 ＼ 基準１の(１)の知識・能力		(a)	(b)	(c)	(d) (１)	(d) (2) a)	(d) (2) b)	(d) (2) c)	(d) (2) d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(A)	(A1)					◎		◎		○		○	
	(A2)					◎		◎		○			◎
(B)	(B1)			◎									
	(B2)				◎		◎	○					
	(B3)					○	◎	○	◎				
	(B4)					○		○		◎			
(C)	(C1)	◎											
	(C2)	◎											
	(C3)		◎						○				
	(C4)								○		◎		
	(C5)										◎	○	
	(C6)						◎				◎		○
(D)	(D1)		◎										
	(D2)					○	○					◎	
	(D3)					○	○						◎

3

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程は，「生産デザイン工学」プログラムの後半２年間の教育課程であるため，準学士課程の基礎知識及び基礎技術を重視した科目の上に，それらを発展させた科目や応用力を重視した科目を配置している。各学習・教育目標ごとに，準学士課程から科目の連続性や専門性の充実等を考慮している。以上のことから，本課程は準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科教育課程は，準学士課程との連携（前述資料５－１－①－３），学士取得に必要な科目の配置（資料５－５－②－１）及び各専攻の専門性に配慮した科目の設定を行っている。その上で最低限修得すべき科目として，「総合英語」，「科学技術英語」（建築学専攻は「建築英語」），「特別実験（設計演習）」，「実務実習」，「工学特論」及び「専攻科特別研究」を必修科目としている。また，「生産デザイン工学」プログラムにも対応できるよう「技術者倫理」及び「地球環境科学」も必修科目として追加した。さらに，学習・教育目標を達成するための全専攻共通及び各専攻の主要科目の選定を行っている（前述資料５－１－①－３）。これまで，「一般化学」，「一般力学」及び「歴史学」の科目の新設，学習・教育目標（３）への対応のための「倫理学」及び「文章表現法」の内容変更，授業効果を高めるための「物質工学特別実験」，「建築・構造設計演習」及び「総合英語」の開講時期の変更等，各学習・教育目標の達成度がより充実するための改善を行ってきた。各授業は，学習・教育目標及びJABEEが求める基準１の（１）を念頭に置いた，適切な達成目標及び評価方法・基準を定めた内容となっている（資料５－５－②－２）。

観点５－５－②　資料一覧

資料５－５－②－１　専攻科新入生オリエンテーション資料

〔出典：学生課資料〕

資料５－５－②－２　各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料５－５－②－１

専攻科新入生オリエンテーション資料

平成 24 年度　専攻科新入生オリエンテーション

都城高専専攻科委員会
2011 年 4 月 3 日（火）

１）平成 24 年度　専攻科について 1
２）平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて 3
３）平成 24 年度　学位取得に関して 5
４）平成 24 年度　学士への途（抜粋） 7
５）定期試験後の作業のまとめ 12

６）各種届出等に関する説明と記入作業

- ネットワーク利用のための手続き
  - 電子メールを含む，学校のネットワークを利用するための手続きを，専攻主任が行う．各自パスワードを決定し，専攻主任に連絡すること．また，パスワードは忘れないように管理すること．
- E-Mail について
  - 今後の事務連絡は基本的に E-mail で連絡する．１日１回は，メール確認の習慣をつけること．
  - メール連絡の応答は確実に．送信時は相手氏名と自分の氏名を忘れずに．
  - メールアドレスは，本校から配布するが，自宅でインターネットに接続している場合は，自宅でもメールを読むことが出来る（方法が不明の場合は専攻主任に相談）．
- 緊急時の連絡先（台風による休講など緊急連絡のため）
  - 各自の携帯電話の番号とメールアドレスを専攻科長に知らせて下さい．
    （携帯情報を専攻科長に知らせたくない場合は，その旨，連絡下さい．連絡は緊急を含めて PC の E-Mail で行います）
  - 携帯メールから「氏名，専攻名，携帯の電話番号」を本文に書き，下記の専攻科長当て，メールを出して下さい（本日中）．
  - 専攻科長(清山)メールアドレス：
  - 携帯の情報は，集約し，各学科の専攻主任のみに連絡しておきます．また，携帯の電話番号やメールアドレスが変更されたときは，その都度，専攻科長及び各学科の専攻主任宛，メールで連絡して下さい．
- 健康診断記録
  - この場で健康診断記録に記入（この場で回収）．
- 下宿開催カード
  - 対象者は，下宿開催カードを学生係に提出すること．
- 車両使用願
  - 対象者は，車両使用願に必要事項を記入し，専攻主任の押印後，任意保険の写しを添えて学生係に提出すること．

配付資料一覧　**専攻科学生便覧，履修の手引き**（専攻科１年生用）
専攻科１年生用のシラバス（「ポートフォリオ綴り」に綴じ込むこと）
健康診断記録，健康診断スケジュール，学生証

〔出典：学生課資料〕

資料５－５－②－２

各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準

８．各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準（表３）

平成17年度以降プログラム入学者に適用

学習・教育目標			関連する基準1の(1)の(a)～(h)の項目	評価方法	評価基準
(A)	(A1)	社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案し、その検証・改善が継続的にできること。	(d)-(2)a) (d)-(2)c) (e)(g)	◆ 特別研究において、アイデアの提案・検証・改善について記したレポートを評価する。また、特別研究論文に記載されたアイデアに関しても評価する。 ◆ 工学実験・特別実験、卒業研究・特別研究、実務実習、工学特論は各々の評価方法で評価する。	◆ 特別研究において、アイデアの提案・検証・改善に関するレポートの評価および特別研究論文に記載されたアイデアに関する評価が6割以上であること。 ◆ 工学実験・特別実験、卒業研究・特別研究、実務実習、工学特論を修得すること。
	(A2)	専門技術に関する創造的な構想を、デザイン化するためのトレーニングを通じて、具体的な成果としてまとめられること。	(d)-(2)a) (d)-(2)c) (h) (e)	◆ 創造的な構想のデザイン化とそのデザインの具現化については、卒業研究・特別研究の各研究論文および創造デザイン演習のレポートと製作物で評価する。 ◆ デザイン化のトレーニング科目(演習科目)は各々の評価方法により評価する。	◆ 卒業研究および特別研究論文ではデザイン化とそのデザインの具現化に関する評価が6割以上であること。 ◆ 創造デザイン演習ではレポートと製作物の評価の平均が6割以上であること。 ◆ 卒業研究・特別研究および創造デザイン演習を修得すること。 ◆ 機械工学科生は創造設計を、電気工学科生は電気電子情報設計を、物質工学科生は物質・生物工学演習を、建築学科(専攻)生は建築設計演習および建築・構造設計演習を修得すること
(B)	(B1)	解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的な専門工学を学ぶのに必要な理論を理解して説明や応用ができること。	(c)	◆ 数学については、微分方程式・応用数学・線形数学・解析学特論で評価する。 ◆ 物理については、応用物理・応用物理特論で評価する。 ◆ 情報通信技術については、応用情報工学で評価する。	◆ 数学に関する科目(微分方程式・応用数学・線形数学・解析学特論)を修得すること。 ◆ 物理に関する科目(応用物理・応用物理特論)を修得すること。 ◆ 情報通信技術に関する科目(応用情報工学)を修得すること。
	(B2)	技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解して説明や応用ができること。	(d)-(1) (d)-(2)b) (d)-(2)c)	◆ 表5に定める科目について、各々の評価方法により評価する。	◆ 各科目の必修・選択の別および修得条件は各学科・各専攻の規定に従うものとする(表5を参照)。
	(B3)	工学に関する問題点を見出し、その解決方法を提案できること。	(d)-(2)d) (d)-(2)a) (d)-(2)b) (d)-(2)c)	◆ 工学実験・特別実験、実務実習、工学特論について、各々の評価方法により評価する。 ◆ 卒業研究・特別研究では、中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点が最終的に解決されているかを評価する。	◆ 工学実験・特別実験、卒業研究・特別研究、実務実習、工学特論を修得すること。 ◆ 卒業研究・特別研究では中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点の解決に関する評価が6割以上であること。
	(B4)	性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規生産技術をデザインできること。	(e) (d)-(2)c) (d)-(2)a)	◆ 卒業研究・特別研究において、各研究論文に記載されたデザイン化について、性能・安全性・経済性・審美性または環境への影響などの観点から評価する。	◆ 卒業研究・特別研究では左記のデザイン化に関する評価が6割以上であること。 ◆ 卒業研究および特別研究を修得すること。
(C)	(C1)	地球的視点から世界の歴史・文化および倫理を学び、生活様式や価値観の多様性を認識できること。	(a)	◆ 倫理学では倫理学の概要と多様性に関するレポートにより評価する。 ◆ 歴史学では世界の文化の多様性を認識できていることをレポートで評価する。 ◆ 国語では近思録(中国)について試験により評価する。 ◆ 英語および総合英語では英語圏の文化、生活様式、価値観について試験により評価する。	◆ 倫理学、歴史学、国語、英語、総合英語を修得すること。 ◆ 倫理学、歴史学では、左記のレポートの評価が6割以上であること。
	(C2)	自分の住んでいる地域の文化を学び、その特徴を説明できること。	(a)	◆ 倫理学では倫理学と地域に関するレポートにより評価する。 ◆ 歴史学では自分の住んでいる地域の歴史・文化を説明ができるかどうかをレポートにより評価する。	◆ 倫理学および歴史学を修得すること。 ◆ 倫理学および歴史学では、左記のレポートの評価が6割以上であること。
	(C3)	具体的な事例をもとに、技術者が負っている社会的責任を理解できること(技術者倫理)。	(b)	◆ 技術者倫理では、異なる分野の具体的な事例に関する学生自らの判断や考えをレポートにより、また、基本的事項を試験により評価する。	◆ 技術者倫理を修得すること。
	(C4)	英語で書かれた専門分野の文献が読解できること。	(f) (d)-(2)d)	◆ 科学技術英語(建築学専攻は建築英語)の評価方法により評価する。	◆ 科学技術英語(建築学専攻は建築英語)を修得すること。
	(C5)	日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること。	(f) (g)	◆ 英語、選択英語では4回の定期試験と小テスト等により、総合英語、実用英語では4技能(読む・書く・聞く・話す)を各々の評価方法により評価する。 ◆ 英語の聞き取り能力・文法力・読解能力については、TOEIC/IPテストでも評価する。 ◆ ドイツ語では会話文によるコミュニケーション能力の修得度を定期試験により評価する。	◆ 英語、総合英語、実用英語を修得すること。 ◆ プログラム1年の選択英語とドイツ語のうち、どちらかを修得すること。 ◆ TOEIC試験400点相当以上補足2であること。
	(C6)	日本語で自分の意見や研究成果を論理的に記述し、その内容について口頭発表および討議ができること。	(f) (d)-(2)b) (h)	◆ 国語では、読解力・思索力・論理的な思考力を4回の定期試験により評価し、文章表現法では明晰な文章作成能力を論説作成と小テストにより評価する。 ◆ 実務実習では実務実習報告書が、卒業研究・特別研究では研究論文が、論理的に記述されているかを評価する。 ◆ 実務実習報告会および卒業研究・特別研究の発表会においてプレゼンテーション能力や質疑応答能力を評価する。	◆ 国語、文章表現法、実務実習、卒業研究、特別研究を修得すること。 ◆ 実務実習報告書の評価が6割以上であること。 ◆ 卒業研究論文および特別研究論文における論理的記述に関する評価が6割以上であること。 ◆ 実務実習報告会および卒業研究・特別研究発表のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること。
(D)	(D1)	科学技術が都城圏域をはじめ地球の自然・社会環境に及ぼす諸問題を理解し、説明できること。	(b)	◆ 倫理学では環境倫理・技術倫理についてレポートにより評価する。 ◆ 地球環境科学では環境科学(エネルギー・環境・生命)の基礎の理解度を試験とレポートにより評価する。	◆ 倫理学および地球環境科学を修得すること。 ◆ 倫理学では、環境倫理・技術倫理に関するレポートの評価が6割以上であること。
	(D2)	自分の研究や実験課題に関して、自主的、継続的に最新の技術情報を収集し、妥当な結論を導けること。	(g) (d)-(2)a) (d)-(2)b)	◆ 工学実験・特別実験、実務実習、卒業研究・特別研究において、妥当な結論の導出がなされているかを、実験レポート・実務実習報告・研究論文により評価する。 ◆ 卒業研究および特別研究では、研究に必要な参考文献が記載されているかを評価する。 ◆ 工学実験および特別実験では、調査した情報がレポートに記載されているかを評価する。	◆ 工学実験・特別実験、実務実習、卒業研究・特別研究を修得すること。 ◆ 卒業研究論文および特別研究論文の評価が6割以上であること。 ◆ 卒業研究および特別研究に必要な情報収集に関する評価が6割以上であること。工学実験・特別実験において調査した情報に関する評価基準は各テーマごとによる。
	(D3)	実習や研究に関連する人と協力し、期限内に成果をまとめられること。	(h) (d)-(2)a) (d)-(2)b)	◆ 卒業研究では研究論文の完成度を、特別研究では研究論文とその要旨(梗概)の完成度を評価する。 ◆ 実務実習では実務実習報告書の完成度を評価する。	◆ 卒業研究論文、特別研究論文とその要旨(梗概)、実務実習報告書は期限内に提出すること。 ◆ 卒業研究論文、特別研究論文とその要旨(梗概)、実務実習報告書の評価が各々6割以上であること。

補足1.　「実務実習」および「創造デザイン演習」は外部評価を含む。

補足2.　「TOEIC試験400点相当」とは、本校で実施するTOEIC IPテストあるいは公開のTOEICスコアが375点以上の場合　2)実用英語検定試験準2級に合格した場合　3)工業英語検定試験3級に合格した場合のいずれかを満たした場合(H19.4.1適用)

10

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

（分析結果とその根拠理由）

専攻科教育課程の編成は，「生産デザイン工学」プログラムにおける全専攻共通の学習・教育目標が達成できるよう必修科目を配置し，各専攻では，各専門の基礎工学の知識，能力及び素養が身に付くよう必修科目及び選択科目を配置している。各授業は，学習・教育目標及びJABEEが求める基準が達成できるよう授業の達成目標及び評価方法・基準を定め，実施しており，本課程の体系性は確保され，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の学習環境の充実を図るため，大学等で修得した単位認定制度（資料５－５－③－１）及び九州沖縄地区９高専間の単位互換制度の導入（前述資料５－１－②－１）並びに「実務実習」の単位認定を行っている（資料５－５－③－２）。学術の発展動向の配慮については，各教員が学協会での発表や実地調査により自主的に情報収集や情報発信に当たり，講義や専攻科特別研究等に役立てている（資料５－５－③－３）。また，社会からのニーズに応えるため，平成23年度に企業及び専攻科修了生に対して教育評価アンケートを実施している（資料５－５－③－４）。この教育評価アンケート調査は，教育評価点検・改善システムの中に設定しており（資料５－５－③－５），授業改善及びカリキュラム編成に役立てている。

観点５－５－③　資料一覧

資料５－５－③－１　大学等で修得した単位の認定（専攻科における授業科目の履修等に関する規則第 11 条）

〔出典：専攻科における授業科目の履修等に関する規則〕

資料５－５－③－２　「実務実習」の履修要領

〔出典：規則集〕

資料５－５－③－３　論文発表一覧

〔出典：研究報告第 46 号〕

資料５－５－③－４　企業及び専攻科修了生による教育評価アンケート結果及び教育評価アンケートの内容

〔出典：学生課資料〕

資料５－５－③－５　教育評価点検・改善システム

〔出典：ホームページ〕

資料５－５－③－１

大学等で修得した単位の認定（専攻科における授業科目の履修等に関する規則第11条）

（大学等で修得した単位の認定）

第１１条　大学及び他の教育施設で修得した単位で、当該専攻が開設する授業科目に相当する授業科目と認められるものに限り、履修したものとみなし、１６単位を超えない範囲で、当該専攻における単位として認定することができる。

第１２条　都城工業高等専門学校専攻科の他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、６単位を超えない範囲で、当該専攻における単位として認定することができる。

〔出典：専攻科における授業科目の履修等に関する規則〕

資料５－５－③－２

「実務実習」の履修要領

「実務実習」の履修要領

（目的）
第１　実務実習は、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の専攻科学生が産業界において業務を実習することにより、本校で習得した知識・技術の一層の発展及び向上並びに実践的な技術力を育むことを目指すとともに、技術者としての在り方について学ぶことを目的とする。
（実務実習学年及び期間）
第２　実務実習は、教育課程による授業科目（必修科目）として専攻科第１学年で行う。
２　実務実習を行う期間は、原則として２週間（実働１０日）以上とし、その時期については原則として夏季休業中とする。ただし、特別の事情がある場合については、別の時期に行うことができる。
３　前項において、１日の実務実習時間数は、８時間として換算するものとする。
４　第２項に規定する実務実習期間以外に、実務実習先との事前打合せ、実務実習後のレポート作成、発表会プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーション等を１０時間以上行わなければならない。
（実務実習機関）
第３　実務実習を行う機関（以下「実務実習場」という。）は、専攻科各専攻の実務実習担当教員の計画により、校長が選定する。
（実務実習届の提出）
第４　実務実習を履修する学生は、実務実習届（様式第１号）により、実務実習担当教員を経て、学生課教務係に提出するものとする。
（実務実習の履修）
第５　実務実習を履修する者は、実務実習場の定める規則及び指導責任者等の指示に従い、履修目的の達成に努力しなければならない。
２　実務実習の履修中、災害及び個人の不注意による事故等が発生した場合は、実務実習場の指導責任者を経て、直ちに実務実習担当教員に連絡しなければならない。
（実務実習報告書の提出）
第６　実務実習生は、実務実習終了後、実務実習報告書をまとめ、原則として実務実習場の指導責任者の認印を得て、速やかに実務実習担当教員に提出するものとする。
（実務実習の評価）
第７　実務実習生の履修にかかる評価は、実務実習場からの実務実習証明書（様式第２号）、実務実習生が提出した報告書等により、専攻科各専攻ごとに行い、その結果を実務実習担当教員が校長に報告する。
（実務実習の免除）
第８　社会人として１年以上の実務経験を有する者は、当該専門との関係により実務実習を免除することができる。
（事務）
第９　実務実習に関する事務は、学生課教務係が処理する。
附　則
この要領は、平成１４年５月２２日から施行する。
附　則
この要領は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この要領は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則
この要領は、平成２４年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料５－５－③－３

論文発表一覧

Ⅰ 著書

著　者	標　題	出版社	発行年月
吉井千周	市民不在の原子力発電所建設過程, 橋爪健郎編『九州の原発』	南方新社	2011/5/1 pp.249-295

Ⅱ 論文

著　者	標　題	誌　名	巻(Vol), 号(No), ページ(pp), 年
小塚和人	Some identities for multiple Dedekind sums attached to Dirichlet characters	ACTA ARITHMETICA	Vol.146, No.2, pp.103-114, 2011年
赤池祐次(呉高専) 知念直紹(広島工業大学) 友安一夫	The Smirnov remainders of uniformly locally connected proper metric spaces	Topology and its Applications	Vol.158, No. 1 pp. 69-83 2011年
杉江実郎(島根大学) 鬼塚政一	Integral conditions on the uniform asymptotic stability for two-dimensional linear systems with time-varying coefficients	Proceedings of the American Mathematical Society	Vol.138, No.7, pp.2493-2503, 2010年
杉江実郎(島根大学) 畑沙緒里(島根大学大学院生) 鬼塚政一	Global attractivity for half-linear differential systems with periodic coefficients	Journal of Mathematical Analysis and Applications	Vol.371, No.1, pp.95-112, 2010年
杉江実郎(島根大学) 尾上雄一(島根大学学部生) 鬼塚政一	Asymptotic stability for quasi-linear systems whose linear approximation is not assumed to be uniformly attractive	Annali di Matematica Pura ed Applicata	Vol.190, No.3, pp.409-425, 2011年
鬼塚政一	Uniform asymptotic stability for damped linear oscillators with variable parameters	Applied Mathematics and Computation	Vol.218, No.4, pp.1436-1442, 2011年
鬼塚政一 杉江実郎(島根大学)	Uniform global asymptotic stability for half-linear differential systems with time-varying coefficients	Proceedings of the Royal Society of Edinburgh Sect A	Vol.141, No.5, pp.1083-1101, 2011年
佐藤浅次 佐藤治(宮崎大学) 高橋伸弥(宮崎大学) 横道政裕(宮崎大学)	Analysis of a manipulator to collision between a link and an object	Artifcial Life and Robotics (2011)	Vol.15, No.2, pp.169-173, 2011年
林光介(鹿児島大学大学院) 永野茂憲 森山三千彦＊(都城高専名誉教授) 王清遠(四川大学) 皮籠石紀雄(鹿児島大学)	EFFECTS OF AGING STRUCTURES AND HUMIDITY ON FATIGUE PROPERTIES OF MARAGING STEEL	International Journal of Modern Physics: Conference Series	Vol.1,No.1,pp.1-5,2010年
永野茂憲 森山三千彦＊(都城高専名誉教授) 皮籠石紀雄(鹿児島大学) 小林祐次(新東工業)	Effect of Reverted Austenite and Hardness on Fatigue Properties of Shot Peened Maraging Steel in Long Life Region	Interenational Conference on Computational & Experimental Engineering and Sciences	ICCES'11CD-ROM, pp.1-8,2011年
東利樹(都城高専専攻科学生) 高橋明宏 山元直行 豊廣利信	Mechanical Properties on Consolidated Bamboo Powder Fabricated by Thermo-Pressing Method	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R Joint Friendship International Conference on Applied Electrical and Mechanical Engineering 2011	pp.61-64, 2011年
高橋明宏 山元直行 東利樹(都城高専専攻科学生) 豊廣利信	A Study on Buclkling Behavior of Aluminum Circular Tubes	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R Joint Friendship International Conference on Applied Electrical and Mechanical Engineering 2011	pp.92-96, 2011年
土'井猛志 高橋明宏	A Case of Robotics Class on Department of Mechanical Engineering in MNCT	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R Joint Friendship International Conference on Applied Electrical and Mechanical Engineering 2011	pp.226-229, 2011年

著　　者	標　　題	誌　　名	巻(Vol), 号(No), ページ(pp),　年
赤木洋二 山下恭平(九州大学) 吉武剛(九州大学) 中村重之(津山高専) 徳田剛大(宮崎大学) 吉野賢二(宮崎大学)	Effect of H_2S Annealing on Ag-Rich Ag-In-S Thin Films Prepared by Vacuum Evaporation	Japanese Journal of Applied Physics	Vol.50, pp.05FB06-1-2, 2011年
臼井昇太 長堂勤(琉球大学) 河野通夫(宮崎大学)	Controller Order Reduction Method With Alternative Gramian	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R. Joint Friendship International Conference of Applied Electrical and Mechanical Engineerring 2011	pp.126-129 2011年9月
臼井昇太 享保亮祐(都城高専学生)	Development of Biped Walking Robot Simulator With the Open Dynamics Engine	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R. Joint Friendship International Conference of Applied Electrical and Mechanical Engineerring 2011	pp.130-133 2011年9月
宮内真人(北九州高専) 平島繁紀(北九州高専) 森保仁(佐世保高専) 越地尚宏(久留米高専) 吉田正道(有明高専) 山崎充裕(熊本高専) 山本芳一(熊本高専) 大河内康正(熊本高専) 北辻安治*(熊本高専) 関豊(熊本高専) 森寛 大竹孝明(鹿児島高専) 松栄準治(沖縄高専) 工藤康紀(大分高専)	九州沖縄地区科学技術教育支援プロジェクト	工学教育	第59巻,第1号, pp.118－122, 2011年
宮内真人(北九州高専) 平島繁紀(北九州高専) 森保仁(佐世保高専) 越地尚宏(久留米高専) 吉田正道(有明高専) 山崎充裕(熊本高専) 山本芳一(熊本高専) 大河内康正(熊本高専) 北辻安治*(熊本高専) 関豊(熊本高専) 森寛 大竹孝明(鹿児島高専) 松栄準治(沖縄高専) 工藤康紀(大分高専)	九州沖縄地区高専の連携による「科学技術教育支援活動」 －ワーキンググループによる5年間の活動－	高専教育	第34巻, pp.613－618, 2011年
野口大輔	RAS法を用いた機能性薄膜の高速低温結晶化成膜技術	コンバーテック	Vol.444,pp.96-99, 2010年
野口大輔	RAS(Radical Assisted Sputtering)法による機能性薄膜高速低温結晶化成膜技術開発.	KITEC INFORMATION	Vol.257,pp.25,2011年
野口大輔 奥津加奈(都城高専専攻科学生) 鬼束さおり(都城高専学生) 河野慶彦((株)ホンダロック) 清文博((株)ホンダロック)	Preparation of TiO2 Thin Film Photocatalyst by High-rate Low-temperature Sputtering Method.	J. Vac. Soc. Jpn.	Vol.53,No.1,pp.41-45, 2010年

著　者	標　題	誌　名	巻(Vol), 号(No), ページ(pp),　年
野口大輔 江藤智弘(都城高専専攻科学生) 児玉和也(都城高専専攻科学生) 東丸幸江(都城高専専攻科学生) 福留政治((株)ホンダロック) 河野慶彦((株)ホンダロック) 塩野一朗((株)シンクロン) 清文博((株)ホンダロック)	A Technique for High-Rate, Low-Temperature Deposition of TiO2 Photocatalytic Thin Film Using Radical-Assisted Sputtering	Jpn. J. Appl. Phys.	Vol.50, pp. 010204-1-010204-3, 2011年
野口大輔 下新原恵美(都城高専学生) 福留政治((株)ホンダロック) 河野慶彦((株)ホンダロック) 清文博((株)ホンダロック)	Preparation of WO3 reduction coloring thin films by a high-speed low-temperature sputtering method.	J. Vac. Soc. Jpn.	Vol.54, No.5,pp.317-321, 2011年
横山誠二(豊橋技術科学大学) 下村徹也(豊橋技術科学大学) NIK H.M.Nof(豊橋技術科学大学) 兼松秀行(鈴鹿高専) 高橋利幸 小川亜希子(鈴鹿高専) 笹野順司(豊橋技術科学大学) 伊崎昌伸(豊橋技術科学大学)	Safety Assessment of Oxidizing Slag Discharged from EAF Used in Normal Steelmaking by Conventional Leaching Test and Biological Evaluation.	Proceedings of 17th Asian Symposium on Ecotechnology	p.35, 2010年
横山誠二(豊橋技術科学大学) 鈴木玲人(豊橋技術科学大学) NIK H.M.Nof(豊橋技術科学大学) 兼松秀行(鈴鹿高専) 小川亜希子(鈴鹿高専) 高橋利幸 伊崎昌伸(豊橋技術科学大学) 梅本実(豊橋技術科学大学)	普通鋼精錬プロセスから排出された電気炉酸化スラグの淡水への繰返し溶出試験	鉄と鋼　Tetsu-to-Hagané	第96巻,pp.26-33, 2010年
高橋利幸 横山誠二(豊橋技術科学大学) 兼松秀行(鈴鹿高専) 小川亜希子(鈴鹿高専)	電気炉酸化スラグ溶出成分の植物プランクトンを用いた影響評価	材料とプロセス	第24巻, 第1号,pp.101-102, 2011年
米澤敏男(竹中工務店) 松藤泰典(北九州市立大学) 原田志津男 小山智幸(九州大学) 前田悦孝(新日鉄高炉セメント)	Neutralization of concrete under weak sulfuric environment	2nd International Symposium on Service Life Design for Infrastructure	Vol.1,pp.99-pp.106, 2010年
小山智幸(九州大学) 松藤泰典(北九州市立大学) 原田志津男 米澤敏男(竹中工務店) 田中恭一(フローリック) 前田悦孝(新日鉄高炉セメント) 押田文雄(竹中工務店)	Durability of concrete against weak sulfuric acid in soil	2nd International Symposium on Service Life Design for Infrastructure	Vol.1,pp.213-pp.220, 2010年
後藤勝彦	Crack fracture type of H-section cantilever beam under strong cyclic load	Proceedings of 9th Pacific Structural Steel Conference	pp.1017-1023, 2010年
後藤勝彦 最相元雄*(熊本大学)	Crack damage of multi-story CFT frame under strong motion	Proceedings of the 13th International Symposium on Tubular Structures	pp.149-157, 2010年
望月高明	退溪学を形成するもの-『心経附註』の史的地位	退溪学論叢 (社)退溪学釜山研究院	第12輯,PP.95～PP.121, 2010年12月
吉井千周	Actualities and Issues of Intellectual Property Right Education in Japan	Fifth International Symposium on Advances in Technology Education 2011 (CD-ROM)	2011年9月

〔出典：研究報告第46号〕

資料５－５－③－４

企業及び専攻科修了生による教育評価アンケート結果及び教育評価アンケートの内容

都 高 専 教 第　　号
平成23年8月1日

（都城工業高等専門学校専攻科修了生）
就職先企業・進学先大学院　各位

都城工業高等専門学校長
三 村 洋 史
（公印省略）

教育評価アンケートのお願いについて（依頼）

謹啓　貴社益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本校は教育プログラム（カリキュラム）及び教育システム（教育方法）の改善に向け、鋭意取り組んでおりますが、専攻科を設置してから１０年、教育評価アンケート（平成１９年１２月実施）への回答の御願いをしてから４年余り経過いたしました。今回再度、教育プログラム及び教育システムの点検・評価を行うことになりました。その一環として、この度、専攻科修了生の進路先を対象にアンケートを実施することになりましたので、御多忙中に恐縮ですが、アンケートへの回答に御協力をお願い致します。得られた結果は、今後の教育改善に反映させて参りますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

なお、このアンケート結果は、本校の教育改善のための資料とさせていただき、内容を外部に直接公表することはいたしません。

最後に貴社の益々の御活躍、御発展をお祈り申し上げます。

謹白

同封物
・アンケートの質問及び回答用紙一式
・返信用封筒

平成 23 年 8 月実施

就職先企業アンケート

このアンケートは本校の教育改革のための基礎データとなるものです。無記名でのアンケートであり、このデータあるいはご意見を直接、外部に公表することはありません。本校専攻科出身の社員がおられない場合は、ご記入いただく必用はありませんので、そのまま本校宛ご返送下さい。回答は、選択式回答と記述式回答になっており、別紙回答用紙の該当する記入欄にご記入下さい。
なお、別紙回答用紙のみを同封の返信用封筒で，平成 23 年 9 月 30 日（金）までにご投函下さいますようお願い申し上げます。

（1）貴社の業種についてお答え下さい。

① 機械・輸送機器　② 電気機器　③ 電力・電気設備　④ コンピュータ・情報通信
⑤ 化学工業　⑥ 繊維・材料　⑦ 医薬・化粧品　⑧ 食品　⑨建設　⑩ 官公庁　⑪ 学校・教育
⑫ その他（具体的に回答用紙に記入して下さい）

（2）本校での出身専攻別に、性別と人数をお答え下さい。

（3）本校の専攻科修了生の配属される職種について、それぞれ人数を記入して下さい。

① 研究・開発　② 設計　③ 生産技術　④ 製造　⑤ 販売　⑥ 行政　⑦ サービス　⑧ 教育
⑨ その他(具体的に回答用紙に記入して下さい)

（4-1）～（13-3）の設問におきましては、前問（３）で本校専攻科修了生が最も多く配属されている職種についてお答え下さい。なお、選択された職種を回答欄(3-1)に①～⑨の番号でご記入下さい。同数の場合は、どちらかを選択してお答え下さい。

(4-1) この職種では、自然科学(数学、物理学、化学、生命科学など)の基礎知識とそれらを用いた問題解決能力が必要とされていますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(4-2) 問(4-1)の知識・能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている自然科学の内容は業務を遂行する上で充分ですか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(4-3) 問(4-2)で、不足（④、⑤）と答えられた方に質問します。本校専攻科修了生をみて、本校の行っている自然科学の基礎教育で不足していると思われる科目（内容）を選択して下さい。(いくつでも選択可)

① 微分積分学　② 代数・幾何　③ 微分方程式　④ 確率と統計　⑤ 数値解析　⑥ 一般物理
⑦ 一般化学　⑧ 地球物理学　⑨ 分子生物学　⑩ 遺伝子工学　⑪ 環境科学
⑫ その他(具体的に回答用紙に記入して下さい)

(4-4) 問(4-1)の知識・能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(5-1) この職種では、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている専門学科の基礎工学の知識は、業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(5-2) 問(5-1)で、不足（④、⑤）と答えられた方に質問します。不足している基礎工学の科目群を１つ選択して下さい。

① 設計・システム系科目　② 情報・論理系科目　③ 材料・バイオ系科目　④ 力学系科目

(5-3) 問(5-1)の基礎工学の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(6-1) この職種では、「いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行しデータを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力」が必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(6-2) 問(6-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(6-3) 問(6-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと、ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(7-1) この職種では、「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」が必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(7-2) 問(7-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(7-3) 問(7-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(8-1) この職種では、「(工学) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力」が必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(8-2) 問(8-1)の能力に関して、本校で受けた教育は本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(8-3) 問(8-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(9-1) この職種では「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」が必要とされますか。「地球的視点から多面的に物事を考える能力」とは、世界の歴史、文化、習慣、価値観、風土、経済などの知識をもち、自分自身の幸福、人生の目的について考える自己把握力や他者・他国の立場から物事を考える能力をさします。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない⑤ 全く不要

(9-2) 問(9-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(10-1) この職種では「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）」が必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(10-2) 問(10-1)の技術者倫理教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(11-1) この職種では，「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(11-2) 問(11-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(11-3) 問(11-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(12-1) この職種では，「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」が必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(12-2) 問(12-1)の能力に関して、本校で受けた教育は本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。

①十分満足　②ある程度満足　③どちらとも言えない　④すこし不足　⑤全く不足

(12-3) 問(12-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(13-1) この職種では，「専門分野の実践に必要な基本的なスキル（実験・実習・製図など）」に関して本校で受けた教育は，業務を遂行する上で十分ですか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ すこし不足　⑤ 全く不足

(13-2) 前問で不足(④,⑤)と回答した方は，それをどの時点で学ぶべきだと思いますか。

① 在学中　② 新入社員教育　③ 職場での実務体験を通して
④ その他(具体的に回答用紙に記入して下さい)

(13-3) 問(13-1)の能力の教育に関して本校教育に望むこと，ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(14) 本校の専攻科修了生の実力(能力)は４年制大学の学部卒業生と比較してどうですか。

①高い　②ほぼ同じ　③低い

(15) 都城高専の教育全体について、望むこと、ご提案があれば回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(16) 以上のアンケート，各質問内容についてご意見，ご感想を回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(17) 専攻科修了直後、採用時の待遇（給与など）についてご回答ください。

① ４年生大学卒と同等である　② 高専卒後２年就業者と同等である　③ 高専卒と同等である
④ その他(具体的に回答用紙に記入してください)

ご協力、誠に有難うございました。

平成２３年 ８ 月 １ 日

都城工業高等専門学校専攻科修了生　各位

都城工業高等専門学校長
三　村　洋　史
（公印省略）

教育評価アンケートのお願いについて（依頼）

謹啓　貴下益々御健勝のこととお喜び申し上げます。貴下におかれましては、各界でご活躍のことと存じます。

さて、本校は教育プログラム（カリキュラム）及び教育システム（教育方法）の改善に向け、鋭意取り組んでおりますが、専攻科を設置してから９年、教育評価アンケート（平成１９年１２月実施）への回答の御願いをしてから４年余り経過しましたので、再度、教育プログラム及び教育システムの点検・評価を行うことになりました。その一環として、再度、専攻科修了生を対象にアンケートを実施することになりましたので、御多忙中に恐縮ですが、母校の発展のためアンケートへの回答に御協力をお願い致します。得られた結果は、今後の教育改革に反映させて参りますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

なお、このアンケート結果は、本校の教育改革のための資料とさせていただき、内容を外部に直接公表することはいたしません。

最後に貴下の益々の御活躍、御発展をお祈り申し上げます。

謹白

同封物
・アンケートの質問及び回答用紙一式
・返信用封筒

都城高専卒業生による教育評価アンケート（専攻科修了生用）

平成２３年８月実施

このアンケートは本校の教育改革のための基礎データとなるものです。無記名でのアンケートであり、個人のデータあるいはご意見を直接、外部に公表することはありません。回答は、選択式回答と記述式回答になっており、別紙回答用紙の該当する記入欄にご記入ください。
尚、締め切りは平成２３年９月３０日までといたします。

（A）　基本的事項

(A1) 本校本科での出身学科はどの学科ですか。

① 機械工学科　② 電気工学科　③ 物質工学科　④ 建築学科　⑤ 本校の出身ではない

(A2) 本校専攻科での出身専攻はどの専攻ですか。

① 機械電気工学専攻　② 物質工学専攻　③ 建築学専攻

(A3) 現在在職中（自営も含む）の方はその業種を次の中から１つ選択してください。大学院在学中の方は⑫を選択して下さい）

① 機械・輸送機器　② 電気機器　③ 電力・電気設備　④ コンピュータ・情報通信　⑤ 化学工業
⑥ 繊維・材料　⑦ 医薬・化粧品　⑧ 食品　⑨ 建設　⑩ 官公庁　⑪ 学校・教育　⑫ 大学院在学
⑬ その他（具体的に回答用紙に記入してください）

(A4) 現在在職中の方はその職種について該当するものを１つ選択してください。

① 研究・開発　② 設計　③ 生産技術　④ 製造　⑤ 販売　⑥ 行政　⑦ サービス　⑧ 教育
⑨ その他（具体的に回答用紙に記入してください）

> 設問(A4)で選択された職種について、以下の設問にお答えください。なお、大学院在学中の方は、各設問内容を大学院での講義や研究についての設問に置き換えてお答え下さい。

（B）数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力

(B1-1) あなたの仕事では、数学、自然科学(物理学、化学、生命科学など)、情報技術の知識、応用力は必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(B1-2) 設問(B1-1)の知識、応用力に関して、本校で学んだ内容はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(B1-3) 設問(B1-2)で、不足(④,⑤)と答えられた方に質問します。本校で受けた教育で、就職後に不足していると感じた科目（内容）を選択してください。（複数選択可）

① 微分積分学　② 微分方程式　③ 代数・幾何　④ 統計・確率　⑤ 数値解析　⑥ 一般物理
⑦ 一般化学　⑧ 地球物理学　⑨ 分子生物学　⑩ 遺伝子工学　⑪ 環境科学　⑫ 情報
⑬ その他（具体的に回答用紙に記入してください）

(B2) 数学、自然科学、情報技術の教育に関して本校に御要望、御提案がありましたら回答用紙の該当欄に御記入ください。

(C) 専門分野(工学)に関する知識、応用力

(C1-1) あなたの職種では、本校の専門科目で学んだ工学の知識はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(C1-2) 設問(C1-1)で、不足(④,⑤)と答えられた方に質問します。本校で受けた教育で、就職後に不足していると感じた科目不足している工学の科目群を１つ選択してください。

① 設計・システム系科目群　② 情報・論理系科目群　③ 材料・バイオ系科目群　④ 力学系科目群

(C2-1) あなたの仕事では、「いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行しデータを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力」は必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(C2-2) 設問(C2-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(C3-1) あなたの仕事では、「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」は必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(C3-2) 設問(C3-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(C4-1) あなたの仕事では、「(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力」は必要とされますか。

① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(C4-2) 設問(C4-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(C5-1) 本校の卒業研究および専攻科特別研究を通して下記の能力を身につけることができましたか。下記の(ⅰ)、(ⅱ)、(ⅲ)のそれぞれについて御回答下さい。

(ⅰ) 自主的、継続的に学習できる能力
(ⅱ) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(ⅲ) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

① 十分身につけることができた　② ある程度身につけることができた　③ どちらとも言えない
④ あまり身につけることができなかった　⑤ 全く身につけることができなかった

(C5-2) 卒業研究、専攻科特別研究の経験は、あなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。

① 大いに役立っている　② ある程度役立っている　③ どちらとも言えない
④ 余り役立っていない　⑤ 全く役立っていない

(C6) 本校で学んだ専門学科以外の知識で修了後、最も必要としたものは何ですか。

① 機械　② 電気・電子　③ 化学　④ 物質　⑤ 建築　⑥ 土木　⑦ 情報処理
⑧ その他(具体的に回答用紙に記入してください)

(C7) 工学教育に関して本校に御要望、御提案がありましたら回答用紙の該当欄に御記入下さい。

(D) 社会性、コミュニケーション能力

(D1) あなたの仕事では、「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」は必要とされますか。
① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要
※「地球的視点から多面的に物事を考える能力」とは、世界の歴史、文化、習慣、価値観、風土、経済などの知識をもち、自分自身の幸福、人生の目的について考える自己把握力や他者・他国の立場から物事を考える能力をさします。

(D2)　あなたの仕事では、「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」が必要とされますか。
① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(D3-1) あなたの仕事では、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が必要とされますか。
① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(D3-2) 設問(D3-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。
① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(D4-1) あなたの仕事では、「英語の読解・表現等、国際的に通用するコミュニケーション能力」が必要とされますか。
① 大いに必要　② ある程度必要　③ どちらとも言えない　④ あまり必要ない　⑤ 全く不要

(D4-2) 設問(D4-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。
① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(D5) 社会性、コミュニケーション能力に関して本校の教育に御要望、御提案がありましたら回答用紙の該当欄に御記入下さい。

(E) 総括

(E1) 全体的に都城高専で学んだ教育内容について満足されていますか。
① 十分満足　② ある程度満足　③ どちらとも言えない　④ 少し不足　⑤ 全く不足

(E2) 本校の教育に関わる点で誇りに思ったこと、あるいは悔しい思いをしたことがありますか。差し支えのない範囲で、回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(E3) 以上のアンケートについてご意見、ご感想を回答用紙の該当欄にご記入下さい。

(F) 専攻科修了直後、採用時の待遇について

(F1) 採用時、4年生大学卒と同等として採用されましたか。
① 4年生大学卒と同等である　② 高専卒後2年就業者と同等である　③ 高専卒と同等である
④ その他(具体的に回答用紙に記入してください)

ご協力誠に有難うございました。

-3-

〔出典：学生課資料〕

資料５－５－③－５

教育評価点検・改善システム

９　教育点検･改善システム

本校では、「生産デザイン工学」プログラム（以下、プログラム）を効率よく機能させ、また、本プログラムの点検･改善を継続的に行えるように、教育点検･改善システム（PDCAサイクル）が構築されている。本システムでは、まず、学習･教育目標の設定や教育課程の編成などがなされ（plan：P）、それに基づき教育が実施され（do：D）、続いて学生個人の達成度の評価や教育の点検がなされた後に（check：C）、必要に応じて教育の改善が行われて（act：A）、PDCAサイクルが機能する仕組みになってる。なお、このシステムの核となる技術者教育プログラム委員会（以下、プログラム委員会）は、プログラムに係る業務を点検し、問題点があれば関係する委員会と連携してその改善を行う。

1）プログラムの学習･教育目標に関して

学習･教育目標の設定および点検･改善は、教務委員会および専攻科委員会がプログラム委員会と連携して行う。

2）プログラム履修生の達成度評価に関して

学生の履修科目の修得に関しては教務委員会及び専攻科委員会が認定する。また、プログラム達成の評価に関しては、その点検･改善を含めてプログラム委員会が管轄し、その判定はプログラム修了判定会議で行う。

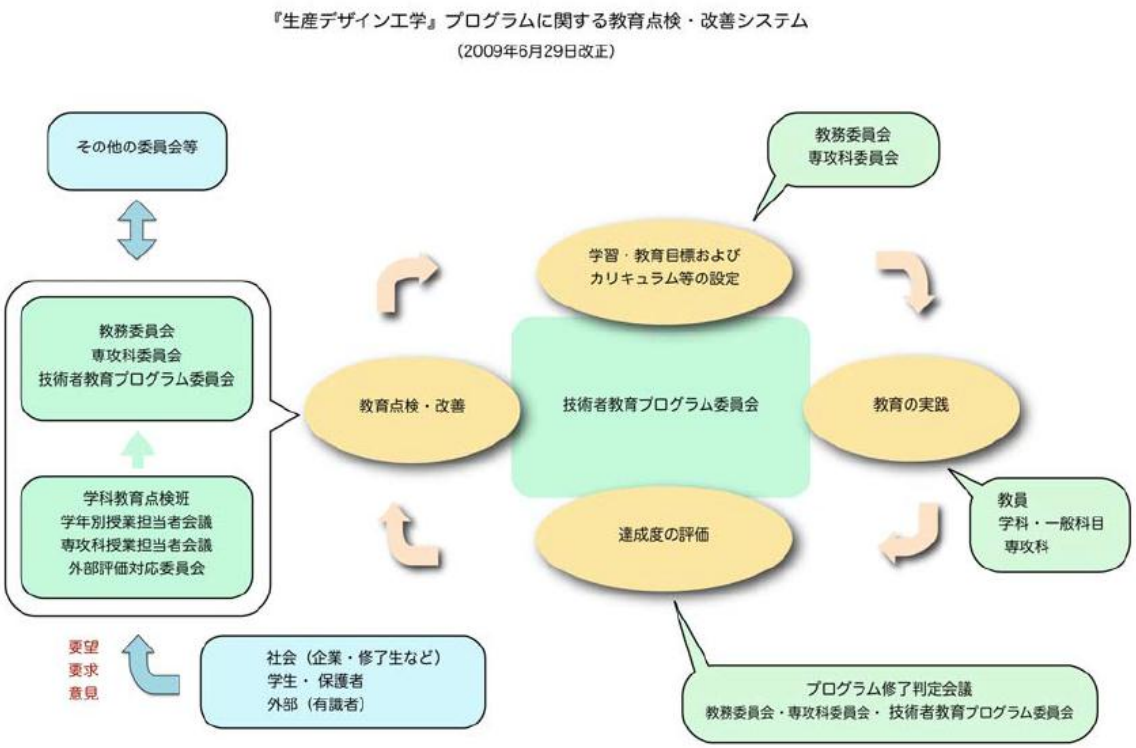
3）プログラムに関わる各種業務の点検･改善に関して

学習･教育目標の設定、学習･教育の量、教育手段、教育環境、学習･教育目標の達成、教育改善の6項目に関して、プログラム委員会が点検を行い、問題点があれば関係する委員会と連携してその改善を行う。6項目の詳細はPDCAサイクル点検･改善項目に記載する。

なお、各専門学科（各専攻も含む）の教育の点検･改善は、学科教育点検班（縦のつながり）が行い、学年ごとの授業や学生の成績に関する教育点検･改善は学年別授業担当者会議（専攻科授業担当者会議を含む。横のつながり）が行う。 学科教育点検班と学年別授業担当者会議の点検･改善事項は、独自で実施できる項目を除き、教務委員会及び専攻科委員会に報告され、さらに点検･改善が検討される。

4）社会の要求や学生･保護者の要望に関して

社会の要求に関しては、プログラム委員会が担当する。学生や保護者の要望、外部の意見に関しては、校長、教務主事、専攻科長が集約し、教育の改善に役立てる。



（2009年6月29日改正）

情報公開責任者:都城高専　技術者教育プログラム委員長　2009.7.7

〔出典：ホームページ〕

（分析結果とその根拠理由）

大学，他高専及び他学科間での単位認定のシステムを整備しており，実務実習においても学生の希望する企業等で実習を行うことが可能で，単位認定も行っている。学生の実習活動においては，良好な評価を得ているため，学生のニーズに応えていると言える。学術の発展動向に関しては，教員が学協会への参加や実地調査等に取り組むことで，学術の発展動向に目を向け，得た情報を授業に役立てている。社会からの要望に関しては，企業及び専攻科修了生のアンケート調査結果を授業改善，カリキュラム編成等に反映させるシステムになっており，学生の多様なニーズ，学術の発展動向及び社会からの要請等に対応した編成となっている。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

専攻科教育課程の授業形態を講義，演習及び実験の科目数の割合で比較すると，講義の占める割合が多くなっているが，時間数で比較すると実験実習に多くの時間を割いており，実践的技術者を重視した授業形態となっている（資料５－６－①－１）。教育内容に応じた適切な学習指導法として，「創造デザイン演習」，「特別実験」等における少人数授業（資料５－６－①－２），「西洋デザイン史」における対話・討論型授業及び情報機器を活用した授業を行い，工夫を凝らした授業を行っている。さらに，国際社会に貢献できる技術者の育成を目指し，英語力の向上を図るため，TOEIC受験を義務付け，一定のスコアを得るよう指導している（資料５－６－①－３）。

観点５－６－①　資料一覧

資料５－６－①－１　教育課程表（全専攻）

〔出典：学校要覧〕

資料５－６－①－２　創造デザイン演習計画書

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－①－３　達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の修了要件及び評価一覧

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

資料５－６－①－１

教育課程表（全専攻）

専攻科教育課程 The Advanced Engineering Course Curriculum

一般科目及び専門共通科目 General & Special Common Subjects

区分 Classification		授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
一般科目 General Subjects	必修科目 Required Subjects	総合英語 General English	2	2	
	選択科目 Elective Subjects	実用英語 Practical English	2		2
		知的財産権 Intellectual Property Rights	2		2
		倫理学 Ethics	2	2	
		歴史学 History	2	2	
		中国古典学 Chinese Classics	2	2	
		文章表現法 Japanese Writing	2	2	
一般科目開設単位小計 General Subject Sub-total Offered			14	10	4
専門科目 共通科目	必修科目 Required Subjects	地球環境科学 Global Environment Science	2		2
		技術者倫理 Engineering Ethics	2		2
	選択科目 Elective Subjects	線形数学 Linear Mathematics	2	2	
		統計学特論 Particular Statistics	2		2
		解析学特論 Special Theory of Analysis	2	2	
		一般化学 General Chemistry	2		2
		一般力学 Mechanics	2		2
		応用物理特論 Special Lecture of Applied Physics	2	2	
		応用情報工学 Applied Information Engineering	2	2	
（共通科目開設単位） (Total of Credits Offered)			18	8	10

機械電気工学専攻 Mechanical and Electrical Engineering Advanced Course

区分 Classification			授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
専門科目 Specialized Subjects	専攻科目 Specialized Subjects	必修科目 Required Subjects	科学技術英語 English on Science and Technology	2	2	
			機械電気工学特別実験 Special Experiment in Mechanical Engineering	4	2	2
			創造デザイン演習 Creative Design Practice	4	2	2
			実務実習 Business Practical Training	2	2	
			機械電気工学特論 Special Lecture in Mechanical Electrical Engineering	2	2	
			専攻科特別研究 Advanced Graduation Research	14	6	8
		選択科目 Elective Subjects	材料力学特論 Special Lecture on Mechanics of Materials	2		2
			変形加工学 Deformation Processing Science	2	2	
			機械設計特論 Special Lecture on Machine Design	2	2	
			CAE Computer Aided Design	2		2
			超精密加工 Ultra Precision Machining and Processing	2	2	
			材料強度学 Strength and Fracture of Materials	2	2	
			流体力学特論 Special Lecture on Fluid Dynamics	2	2	
			熱移動と流れの工学 Heat Transfer and Fluid Flow	2		2
			振動工学 Mechanical Vibration	2		2
			メカトロニクス特論 Advanced Mechatronics	2		2
			電磁気学特論 Advanced Electromagnetism	2	2	
			電気回路特論 Special Lecture on Electric Circuit	2	2	
			電子計測特論 Special Lecture on Electronic Instrumentation	2	2	
			情報システム工学 Information System Engineering	2	2	
			電子デバイス Electronic Devices	2	2	
			電子材料プロセス工学 Electronic Material for Processing	2		2
			電子物性工学 Electronic Solid-State Engineering	2		2
			気体電子工学 Gas Electronic Engineering	2		2
			放電工学 Electric Discharge Engineering	2		2
			パワーエレクトロニクス Power Electronics	2	2	
			通信工学特論 Special Lecture on Communication Engineering	2		2
		（専攻科目開設単位計） (Total of Credits Offered)		70	38	32
専門科目開設単位小計 Specialized Subject Sub-total Offered				88	46	42
一般・専門科目開設単位合計 Total of Credits Offered				102	56	46
一般・専門科目修得単位合計 Total of Credits Required				62 単位以上		

●物質工学専攻 Materials Engineering Advanced Course

区分 Classification			授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
専門科目 Specialized Subjects	専攻科目 Special advanced Subjects	必修科目 Required Subjects	科学技術英語 English in Science and Technology	2	2	
			物質工学特別実験 Special Experiments in Chemical Science and Engineering	4	4	
			創造デザイン演習 Creative Design Practice	4	2	2
			実務実習 Practical Training	2	2	
			物質工学特論 Special Lectures on Chemical Science and Engineering	2	2	
			専攻科特別研究 Advanced Graduation Research	14	6	8
		選択科目 Elective Subjects	化学反応論 Chemical Reactions	2		2
			無機合成化学 Inorganic Synthesis Chemistry	2	2	
			反応有機化学 Reaction Organic Chemistry	2	2	
			有機光化学 Organic Photochemistry	2		2
			分子生態学 Molecular Biology and Ecology	2		2
			蛋白質工学 Protein Engineering	2	2	
			生物物理化学 Biophysical Chemistry	2		2
			移動現象論 Transport Phenomena	2		2
			微粒子工学 Microsphere Engineering	2	2	
			応用触媒工学 Applied Catalyst Technology	2	2	
			新素材論 New Materials Development in Chemistry	2		2
			無機機能性材料 Functional Inorganic Materials	2		2
			機能性高分子 Functional Polymer	2	2	
			水質環境工学 Water Environmental Engineering	2		2
		（専攻科目開設単位計） (Total of Credits Offered)		56	30	26
専門科目開設単位小計 Specialized Subject Sub-total Offered				74	38	36
一般・専門科目開設単位合計 Total of Credits Offered				88	48	40
一般・専門科目修得単位合計 Total of Credits Required				62 単位以上		

●建築学専攻 Advancsd Course of Architecture

区分 Classification			授業科目 Subject	単位数 Credits	学年別配当（単位数） 1年 1st	2年 2nd
専門科目 Specialized Subjects	専攻科目 Special advanced Subjects	必修科目 Required Subjects	建築英語 Architectural English	2	2	
			創造デザイン演習 Creative Design Practice	4	2	2
			建築設計演習 Architectural Design Exercise	4	4	
			構造設計演習 Structural Design Exercises	4	4	
			建築実務実習 Practice of Architectural Design and Construction	2	2	
			建築学特論 Special Seminar in Architecture	2	2	
			専攻科特別研究 Advanced Graduation Research	14	6	8
		選択科目 Elective Subjects	建築計画学 Study on Architecture Planning and Dosing	2	2	
			地方住宅計画学 Local Housing	2		2
			西洋建築デザイン史 History of West Architectural design	2		2
			居住環境環境学 Dwelling Thermal Environment	2		2
			計算力学 Computational Mechanics	2		2
			連続体力学 Continuum Mechanics	2	2	
			コンクリート構造特論 Advanced Concrete Structure	2		2
			建築材料施工特論 Advanced Lecture on Building Materials and Construction	2	2	
			建築情報処理 Architectural Information Processing	2	2	
			建築 CAD 設計演習 Computer Aided Architectural Design	2	2	
			建築材料実験特論 Advanced Lecture on Building Materials Experiment	2		2
			地震工学 Earthquake Engineering	2	2	
		（専攻科目開設単位計） (Total of Credits Offered)		56	34	22
専門科目開設単位小計 Specialized Subject Sub-total Offered				74	42	32
一般・専門科目開設単位合計 Total of Credits Offered				88	52	36
一般・専門科目修得単位合計 Total of Credits Required				62 単位以上		

（注）建築設計演習及び構造設計演習は、いずれかの選択とする。

〔出典：学校要覧〕

資料５－６－①－２

創造デザイン演習計画書

平成24年度　創造デザイン演習（1年）

前期授業計画（週2時間）

開講日　水曜　第8, 9時限目

場所　専攻科棟4F情報処理演習室

日程	週	授業内様		担当学科	授業形式
	1. ガイダンス（全専攻共通）2h				
4月11日	1	本授業の目的、授業内容、達成目標等を理解する。 1）シラバスによる本授業の目的、授業内容、 達成目標、評価方法等の説明 2）年間スケジュールの説明 3）昨年度までの製作物について	土井	全専攻	全専攻共通
	2. 基礎演習（全専攻共通）26h				
4月18日	2	機械工学系演習① 各種工作機械の取り扱いについて学ぶ。	土井	機械工学科	全専攻共通
4月25日	3	機械工学系演習② 1）3次元CAD演習（基本的な操作方法） 2）3次元CAD演習（造形モデルの作成） 3）造形装置による実体化および動作確認	土井	機械工学科	全専攻共通
5月9日	4		土井	機械工学科	全専攻共通
5月16日	5		土井	機械工学科	全専攻共通
5月23日	6	電気情報工学系演習 1）電子部品について 2）ブレッドボードを用いた電子回路設計（回路作製） 3）ブレッドボードを用いた電子回路設計（測定評価）	白濱	電気情報工学科	全専攻共通
5月30日	7		白濱	電気情報工学科	全専攻共通
6月6日	8		白濱	電気情報工学科	全専攻共通
6月13日	前期中間試験				
6月20日	9	物質工学系演習 1）プラスチックの加工・成形について 2）プラスチックの成形実習（型取り） 3）プラスチックの成形実習（成形）	岡部	物質工学科	全専攻共通
6月27日	10		岡部	物質工学科	全専攻共通
7月4日	11		岡部	物質工学科	全専攻共通
7月11日	12	建築学系演習 1）建築模型・都市模型の作成方法 2）建築模型・都市模型の作製 3）建築模型・都市模型の作製	中村	建築学科	全専攻共通
9月5日	13		中村	建築学科	全専攻共通
9月12日	14		中村	建築学科	全専攻共通
9月19日	金曜日の授業				
9月26日	前期末試験				
	3. ガイダンス（後期分、全専攻共通）1h				
10月3日	15	後期からの授業についてガイダンスを行う。 アイデア提案から詳細設計までの流れや注意事項を理解する。 1）作製物テーマについて 2）スケジュールについて 3）予算について 4）注意事項 5）班編成	土井	全専攻	全専攻共通
	4. アイデア検討及びテーマ選定　1h				
	15	与えられた条件、テーマの中で、学生の興味、知識、技能を考慮し、アイデアを提案する。 進捗状況をまとめ、発表の準備をする。		各班担当教員	班別

後期授業計画（週2時間）

予定月日	時間	授業内容	発表	担当	授業形式
10月10日	アイデア検討およびテーマ選定				
	1	与えられた条件、テーマの中で興味、知識、技能を考慮し、アイデアを提案する。進捗状況のまとめ、発表の準備。		各班担当教員	班別
10月17日	2	第1回　進捗状況説明（発表）	○	全専攻	全専攻共通
10月24日	3	アイデアの具現化についての検討		各班担当教員	班別
10月31日	4	アイデアの具現化についての検討		各班担当教員	班別
11月7日	5	第2回　進捗状況説明（発表）	○	全専攻	全専攻共通
11月21日	6	アイデアの具現化についての検討		各班担当教員	班別
11月28日	7	設計		各班担当教員	班別
12月5日	後期中間試験				
12月12日	8	設計		各班担当教員	班別
12月19日	9	第3回　進捗状況説明会（発表）	○	全専攻	全専攻共通
1月9日	10	設計・部材発注		各班担当教員	班別
1月16日	11	設計・部材発注		各班担当教員	班別
1月23日	12	設計・部材発注		各班担当教員	班別
1月30日	13	中間発表準備		各班担当教員	班別
2月6日	14	中間発表会		全専攻	全専攻共通
2月13日	月曜日の授業				
2月20日	学年末試験				
2月27日	予備	特別時間割			

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－①－３

達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の修了要件及び評価一覧

表３付表　達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の修了要件及び評価一覧

項目	修了要件　Ⅰ、Ⅱ
学士の取得	学士取得（○）、受験したが学士は取得できていない（△）、受験していない（×）
学協会での発表	学協会名 （発表日時）

科	科目	学年	項目	達成度を総合評価で評価する以外の各達成度評価項目（表4より抜粋）
本科	工学実験			調査した情報（参考書、インターネット、文献など）とその出典をレポートに記載すること （評価は各実験ごとで異なる）（各実験の総合評価で評価する）
	卒業研究	5年	①	卒業研究論文の緒言では、デザイン化における、性能・環境への影響・安全性・経済性または審美性などについて明確に記載すること（6割以上の評価が必要）（3段階法）
			②	卒業研究論文はアイデアを基にした具体的な研究計画・方法に留意して作成すること （デザイン化とその具現化に関する評価が6割以上必要）（3段階法）
			③	中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点があれば、その点に留意して卒業論文を作成すること（問題解決に関する評価が6割以上必要）（3段階法）
			④	研究論文には研究に必要な参考文献を記載すること （情報収集についての評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑤	研究論文は、科学技術論文としてふさわしい表現で論理的に記述すること （論理的記述の評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑥	卒業研究論文の評価が6割以上であること。（100点法）
			⑦	発表会のプレゼンテーション能力（質疑応答能力を含む）の評価が6割以上であること（100点法）
専攻科	特別実験			調査した情報（参考書、インターネット、文献など）とその出典をレポートに記載すること（評価は各実験ごとで異なる）（各実験の総合評価で評価する）
	専攻科特別研究	1年	①	アイデアの提案（研究目的）に関するレポートを提出すること （期限内に提出すること、①,②あわせて合否で評価）
			②	中間発表会後、アイデアの検証・改善に関するレポートを提出すること （評価が6割以上であること、①,②あわせて合否で評価）
			③	中間発表会において指摘された問題点を記載したレポートを提出すること。（⑥で評価）
		2年	①	特別研究論文の緒言では、社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアについて記載すること（評価が6割以上必要）（3段階法）
			④	特別研究論文の緒言では、デザイン化における、性能・環境への影響・安全性・経済性または審美性などについて明確に記載すること（評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑤	特別研究論文は、アイデアを基にした具体的な研究計画や方法に留意して作成すること （デザイン化とその具現化に関する評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑥	中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点があれば、その点に留意して研究論文を作成すること（問題解決に関する評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑦	特別研究論文には研究に必要な参考文献を記載すること （情報収集についての評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑧	特別研究論文は、科学技術論文としてふさわしい表現で論理的に記述すること （論理的記述の評価が6割以上必要）（3段階法）
			⑨	特別研究論文の評価が6割以上であること（50点法）
			⑩	特別研究論文の概要（梗概）の評価が6割以上であること（25点法）
			⑪	発表会のプレゼンテーション能力（質疑応答能力を含む）の評価が6割以上であること（25点法）
	実務実習	1年	①	実務実習報告書の評価が6割以上であること（100点法）
			②	発表会のプレゼンテーション能力（質疑応答能力を含む）の評価が6割以上であること（100点法）
	創造デザイン演習	1,2年		レポートと製作物の評価の平均が6割以上であること（100点法）
	歴史学	1年	①	サブ目標（C1）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）
			②	サブ目標（C2）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）
	倫理学	1年	①	サブ目標（C1）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）
			②	サブ目標（C2）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）
			③	サブ目標（D1）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）
	TOEIC試験			TOEIC/IP試験で400点相当以上であること （右の欄にTOIECスコアを入力）

※1 専攻科特別研究（1年）①、②においては、「期限内の提出」を持って「合格」とする。

※2「TOEIC試験で400点相当」とは、1）本校で実施するTOEIC IPテストあるいは公開のTOEICスコアが375点以上の場合
2）実用英語検定試験準2級に合格した場合　3）工業英語検定試験3級に合格した場合　のいずれかを満たした場合

11

〔出典：生産デザイン工学プログラム履修の手引き〕

（分析結果とその根拠理由）

学士を取得するためには，大学評価・学位授与機構の学位授与申請に示してあるように，規定の多くの科目を修得する必要がある。一方，専攻科では研究を主体とした実験系科目や演習科目を重視している。したがって，本課程では，両者の条件を満たすよう講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスを適切に配置している。また，教育内容に応じて，少人数授業，対話・討論型授業，情報機器を活用した授業等を実施し，適切な学習指導方法の工夫を行っている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

「生産デザイン工学」プログラムの各学習・教育目標は，対応する科目の目標を達成し，総合評価することにより達成できる。したがって，学生が目標達成に向けて効果的な学習ができるように，シラバスには，授業目的，授業内容，達成目標，成績の評価方法，事前に行う準備学習，履修上の注意等を明記している（資料５－６－②－１）。教育目標との対応，要目ごとの時間数，オフィスアワー及び評価基準の項目もシラバスに追加し，シラバスの冒頭には，他の授業との関連が分かるように科目関連図も明記している（前述資料５－１－①－３）。また，シラバスが十分活用されるよう，学生のポートフォリオ及び教員の授業・評価実施状況の記入欄を設け，有効に活用している。授業の第１回目には，シラバスに基づき，授業方法，授業内容，達成目標及び評価方法を説明している。

観点５－６－②　資料一覧

資料５－６－②－１　専攻科用シラバス（表紙）

〔出典：シラバス〕

資料５－６－②－１

専攻科用シラバス（表紙）

平成２４年度

授　業　計　画

SYLLABUS

（専攻科）

都城工業高等専門学校

〔出典：シラバス〕

（分析結果とその根拠理由）

シラバスには，学生が授業を履修するに当たって，必要な授業及び達成目標，授業内容，履修上の注意，評価方法並びに評価基準を明記している。科目関連図の添付や学生のポートフォリオ記入等，シラバスが有効に活用できるような工夫・改善を行っている。授業の第１回目には，シラバスに基づき，授業方法，授業内容，達成目標及び評価方法を説明しており，シラバスは教育課程の編成に沿って適切に作成・整備し，有効に活用している。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育方法として，専攻科ではより実践的なPBL科目として，全学科共通の「創造デザイン演習」を開講している（資料５－６－③－１）。「創造デザイン演習」は，専攻の異なる学生がチームを組み，アイデアの提案，デザインの設計，制作，評価及び発表を通してものづくりに取り組む授業内容であり，外部審査員からも高い評価を受けている(資料５－６－③－２～５)。また，２年間の「専攻科特別研究」，３週間以上の「実務実習」（平成24年度より２週間以上）（資料５－６－③－６～８），１年間の「専攻科特別実験（建築学専攻は設計演習）」もPBL科目として位置付け，必修科目として開講している。

観点５－６－③　資料一覧

資料５－６－③－１　平成 23 年度「創造デザイン演習」シラバス
〔出典：シラバス〕

資料５－６－③－２　平成 23 年度「創造デザイン演習」外部発表会開催通知
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－３　平成 23 年度「創造デザイン演習」最終発表会開催通知
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－４　平成 23 年度「創造デザイン演習」最終レポート
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－５　平成 23 年度「創造デザイン演習」評価表
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－６　「実務実習」報告書（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－７　「実務実習」証明書（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－８　平成 23 年度第９回専攻科委員会議事要録
〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－１

平成23年度「創造デザイン演習」シラバス

創造デザイン演習（Creative Design Practice）

専攻・学年	全専攻・1年	単位・期間	必修2単位・通年週2時間（授業時間60時間）

担当教員		連絡先		オフィスアワー	月曜9限
	豊廣　剛健		機械工学科棟２階	豊廣研究室	
	土井　猛志		電気情報工学科棟３階	土井研究室	
	田中　修		電気情報工学科棟２階	田中研究室	
	白篠　正勇		電気情報工学科棟２階	白篠研究室	
	横山　史朗		物質工学科棟１階	横山研究室	
	岡部　勇二		物質工学科棟３階	岡部研究室	
	林田　義伸		建築学科棟２階	林田研究室	
	中村　裕文		建築学科棟２階	中村研究室	

【授業目的】

与えられた研究課題に対し社会への影響を勘案したテーマ選定を行い、そのテーマに対する技術的課題や解決手法について種々の制約条件を考慮しつつ複数のアイデア提示ができる能力を身につける。さらに、ものづくりに関する一連の流れを修得すると共に、これまで修得してきた様々な知識に対する応用力や創造力、専門分野が異なるパートナーとの共同作業を通して責任と協調性を身に付ける。

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】

カリキュラムの時間だけでは不足することもあるので、放課後や自由な時間などを利用して進捗が遅れないように注意し、また、パートナーとは十分に話し合いながら進めること。

【授業の内容】

授業要目	内　容	時間
1. ガイダンス（全期分）	本授業の目的、授業内容、達成目標等を理解する。 1）シラバスによる本授業の目的、授業内容、達成目標、評価方法等の説明 2）昨年度之の製作物の説明 3）年間スケジュールの説明	2
2. 基礎演習 （1）機械工学系演習①	各種工作機械の取り扱いについて学ぶ。	2
（2）機械工学系演習②	1）3次元CAD演習（基本的な操作方法） 2）3次元CAD演習（造形モデルの作成） 3）造形装置による実体化および操作維持	6
（3）電気情報工学系演習	1）電子部品について 2）ブレッドボードを用いた電子回路設計（回路作製） 3）ブレッドボードを用いた電子回路設計（測定評価）	6
（4）物質工学系演習	1）プラスチックの加工・成形について 2）プラスチックの成形実習（型取り） 3）プラスチックの成形実習（成形）	6
（5）建築学系演習	1）建築模型・都市模型の作成方法 2）建築模型・都市模型の作製 3）建築模型・都市模型の作製	6
3. ガイダンス（後期分）	アイデア提案から詳細設計までの流れや注意事項を理解する。 1）作製物テーマについて 2）スケジュールについて 3）予算について 4）注意事項 5）班編成	2
4. アイディア検討およびテーマ選定	与えられた条件の中で、学生の興味、知識、技術を考慮し、アイデアを提案する。	4
5. 進捗状況説明（第1回）	製作物のアイデアについて発表（抽象的表現）を行う。	2
6. アイデアの具現化についての検討	アイデア・概念を具現化する。	4
7. 進捗状況説明（第2回）	アイデア・概念の具現化について発表（具象的表現）を行う。	2
8. アイデアの具現化についての検討	製作物の機能的な部分についての検討を行う。	2
9. 設計	機能的部分の検討とともに、設計を開始する。	4
10. 進捗状況説明（第3回）	製作物の機能的表現について発表を行う。	2
11. 設計・部材発注	製作物の機能的表現を基にして、機能・仕様を決定し、詳細設	6
12. 中間報告会準備	詳細設計のプレゼンテーションの準備を行う。	2
13. 中間報告会	詳細設計のプレゼンテーションを行う。	2
	合計時間	60

【達成目標】

(1)アイデア・概念を具現化できること (2)コンピュータを利用し、機械・構造物(機構、強度、制御、デザイン、形状等)の最適化を図ることができること (3)自己の行動・考えについてしっかり説明できること (4)自主性をもって課題に取り組むこと (5)納期遵守

【成績の評価方法】

中間報告会・最終発表会(20%・平均)、最終レポート(60%)、最終的な製作物(20%)で、2年次に総合評価する。なお、最終発表会と製作物に関しては、学内評価と外部評価により評価し、その比率は70:30とする。

【評価基準】

学年成績60点以上を合格とする。

【教科書】

適宜プリントを配布

【参考書】

米田 完，坪内 孝司，大隅 久 著「はじめてのロボット創造設計」(講談社)
伊藤 茂 著「メカニズムの事典」(理工学社)

【学習・教育目標との対応】　　【JABEE基準との対応】

ポートフォリオ

<記入上の注意>

【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生については比較的理解できたが、倫電圧については余り理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。

【授業計画の説明】(実施状況の記入)

【理解の度合い】(教員は授業の実施状況を記入)

【理解の度合い】(教員は授業の実施状況を記入)

【総合達成度】 総合評価の点数(　　)

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。

〔出典：シラバス〕

資料５－６－③－２

平成23年度「創造デザイン演習」外部発表会開催通知

平成 23 年度　専攻科 2 年　創造デザイン演習外部発表会

1．課題内容

■　テーマ：懇（いこい）

■　条　件

- 都城高専の敷地内（屋外）に設置できる、動きのある製作物であること
- 5 万円以内の予算で製作すること
- 実物でなく縮小したモデルでも可

2．発表日時及び会場

■　発表日時：平成 23 年 11 月 30 日（水）16:00～18:00

■　会場：専攻科棟多目的ホール（2 階）およびピロティー（1 階）

3．発表方法

■　発表時間：15 分（5 分前 1 鈴、終了時 2 鈴）

■　質疑応答：10 分（終了時に長鈴）

■　タイムテーブル（時間は開始時間）

班	製作物名	発表	質疑応答
A 班	Mimie in Wonderland	16：00	16：15
B 班	神社ぁエール	16：25	16：40
C 班	池ノ上　懇	16：50	17：05
D 班	MKS48～会いに行ける四季～	17：15	17：25

■　実演：5 分（※全班の発表終了後に製作物の設置場所で実演を行う）

3．発表上の注意など

■　パワーポイントを使用して発表すること。

■　発表内容は、初めて発表を聞く人にも、内容が理解できるよう簡潔に表現すること。

■　製作物を売り込むような気持ちでアピールすること。

■　発表内容

- 標題：製作課題名、班名、担当者名（所属）
- 製作課題の概要：製作物のアイディアについて抽象的表現から具象的表現までの流れ、そのイメージ図などを示す。
- 設計について：各担当区分を明確にしながら、製作物の詳細設計について述べる。
- 製作について：各担当区分を明確にしながら、製作方法・過程について述べる。
- 製作費用について：これまでに要した費用を簡潔に示す。
- 問題点・反省点：製作上明らかになった問題点や反省点をあげ、その解決方法等を明示する。

4．提出物

■ 発表原稿（パワーポイント）　　提出期限：平成 23 年 11 月 30 日

※ ファイルを会場に準備したコンピュータに保存しておくこと。

■ 発表概要（ワード）　　提出期限：平成 23 年 11 月 30 日 15：30

※ 50 部（両面印刷のこと）印刷し、会場に持参すること。

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－３

平成23年度「創造デザイン演習」最終発表会開催通知

平成 23 年度　専攻科 2 年　創造デザイン演習　最終発表会

1．課題内容

■　テーマ：懇（いこい）

■　条　件

- 都城高専の敷地内（屋外）に設置できる、動きのある製作物であること
- 5 万円以内の予算で製作すること
- 実物でなく縮小したモデルでも可

2．発表日時及び会場

■　発表日時：平成 24 年 1 月 18 日（水）16:00～18:00

■　会場：専攻科棟多目的ホール（2 階）およびピロティー（1 階）

3．発表方法

■　発表時間：15 分（10 分前 1 鈴、終了時 2 鈴）

■　質疑応答：5 分（終了時に長鈴）

■　タイムテーブル（時間は開始時間）

班	製作物名	発表	質疑応答
A 班	Mimie in Wonderland	16：00	16：20
B 班	神社ぁエール	16：20	16：40
C 班	池ノ上　懇	16：40	17：00
D 班	MKS48～会いに行ける四季～	17：00	17：20

■　実演：5 分（※全班の発表終了後に製作物の設置場所で実演を行う）

3．発表上の注意など

■　パワーポイントを使用して発表すること。

■　発表内容は、初めて発表を聞く人にも、内容が理解できるよう簡潔に表現すること。

■　製作物を売り込むような気持ちでアピールすること。

■　発表内容

- 標題：製作課題名、班名、担当者名（所属）
- 製作課題の概要：製作物のアイディアについて抽象的表現から具象的表現までの流れ、そのイメージ図などを示す。
- 設計について：各担当区分を明確にしながら、製作物の詳細設計について述べる。
- 製作について：各担当区分を明確にしながら、製作方法・過程について述べる。
- 製作費用について：これまでに要した費用を簡潔に示す。
- 問題点・反省点：製作上明らかになった問題点や反省点をあげ、その解決方法等を明示する。

4．提出物

■ 発表原稿（パワーポイント）　　提出期限：平成 23 年 1 月 18 日

※ ファイルを会場に準備したコンピュータに保存しておくこと。

■ 発表概要（ワード）　　提出期限：平成 23 年 1 月 18 日 15：30

※ 50 部（両面印刷のこと）印刷し、会場に持参すること。

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－４

平成23年度「創造デザイン演習」最終レポート

平成２３年度　創造デザイン演習　最終レポート

テーマ「憩い」　製作物名「神社ぁエール」

B班　担当者：　　（機械）、　　・　　（電気）、　　（物質）、　　・　　（建築）

我々は「憩い」から「日本古来のもの」「人が集まる」「活力を得る」を連想した。これらから調査すると、人はパワースポットに赴いて、新たな活力、安らぎを得ようとする風潮があり、日本に点在するパワースポットは神社が多いことが分かった。神社は、「日本古来のもの」であること、もの珍しさに「人が集まる」こと、パワースポットで「活力が得られる」という３つの要素を持つ。これらのことから、B班は活力を与える神社を製作することとした。

1.　アイデアの検討および具現化

1.1　憩いについて

自分たちの憩いのイメージを出し合った。それらをまとめると、場所：日本庭園・公園・神社…、物：ししおどし・ベンチ・提灯…、その他：自然・現実逃避・人と集まりたい…、などに分類する事が出来た。それらの中から『日本古来のもの』、『人が集まる』、『活力を得る』というキーワードが出てきた。

1.2　都城高専の憩いについて

学生は日々の提出物や試験等に追われ、精神的・体力的に追い詰められている。それらは人と触れ合う事、何かしらの活力を得る事ことで解消できると考え、それが都城高専にとっての憩いではないかと考えた。

1.3　アイデアの具現化

『活力を得る』について調べたところ、人はパワースポットに赴いて、新たな活力、安らぎを得ようとする風潮があり、日本に点在するパワースポットは神社が多いことが分かった。神社『日本古来のもの』であり、高専内に設置すると注目を集めるため、『人が集まる』と考えた。さらに神社に情報交換の役割として、掲示板を付加することで、『人が集まる』要素を更に強めることが可能である。これらのことより、キーワードを全て取り入れた製作物として、モチーフを「神社」とし、掲示板機能を付加することにした。

2.　製作物

2.1　製作物の特徴

活力を与える神社でということで、どのような機能を持たせるか話し合い、以下の機能を持つ装置(御神体)を作製することにした。

機能

・熱いメッセージ
・オーラ(イルミネーション)
・お告げ(占い)

また、装置を納める神社には

・簾の巻き上げ機構
・お賽銭(募金)

以上の機能は現存する神社にはない機能であり、そして都城高専に特化したものである。

2.2　製作物の仕様

・ご神体

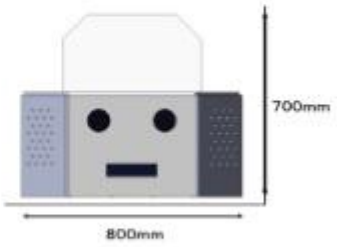


図１　ご神体の仕様

1

表１　ご神体の仕様

製品名	パルタ神
幅	８００mm
高さ	７００mm
奥行き	６００mm
重量	約４０００ｇ
使用電圧	AC１００V

・本殿

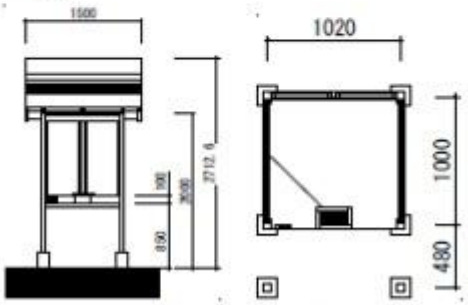


図２　本殿の仕様

表２　本殿の仕様

製品名	パルタ神
幅	１５００mm
高さ	２７１２．６mm
奥行き	１６８０mm

3.　設計・製作

3.1　メカ系（　　）

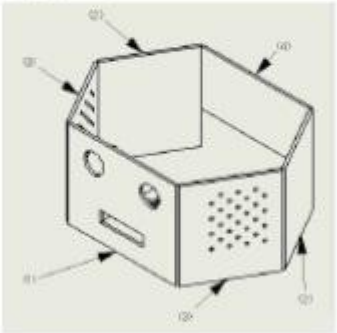


図３　顔部分

中空の６角柱を基本形状とした、神社御神体の顔部分(図３)を製作した。各面は厚さ 11.5mm のコンパネ板によって構成され、顔面には目と口、両頬にはスピーカー孔、後頭部には各ケーブルや排熱用の空間が開けられている。また、回路の取り付けや組み立てが容易に行えるよう板同士は蝶番で接合され、顔全体を展開させることができる。御神体の口内部にはセンサが取り付けられ、参拝客は口に手を入れることで占いやお告げ、応援メッセージを聞くことができる。目の部分には LED が配置され、口に手を入れる動作によって発光させることが出来る。



図４　アクリル板のイメージ

御神体の頭頂部には、表面にマークが彫りこまれたアクリルライトが設置されている(図４)。アクリルは下から LED によって照明され、掘り込まれた図案が浮かび上がるようになっている

ご神体を収める建物には簾を設け、雨による劣化や外乱による誤作動を防いでいる。簾の開閉は専用の剣を差し込むことで、それに応じて簾が巻き上がるという構造になっている(図５)。

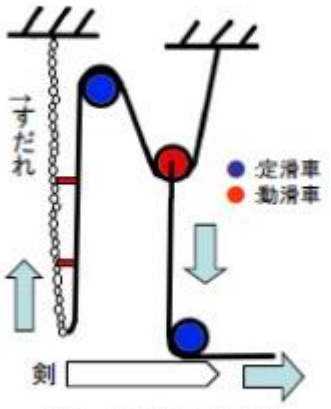


図５　簾の巻き上げ機構

3.2　制御系（　、　）

(1)　口

口に手を入れるとシステムが作動するという仕組みとした。そこで、口に搭載するセンサから検討を行った。候補として出てきたのは、フォトカプラと赤外線センサであった。今回は屋外に置くということであったため、光を使うフォトカプラは太陽光で誤動作の可能性が考えられたため、赤外線センサを使用した。図６に作製した赤外線センサを示す。赤外線 LED を口の下部に、受光部を上部に設置している。それぞれ PIC で制御を行っており、口に手を入れ、赤外線を遮ると、信号が送られる。



図６　赤外線送受信機

(2)　アクリルライトの LED

アクリルライトの LED 部分の作製を行った。様々な色を表現したかったので、フルカラーLED を使用した。フルカラーLED は３つの入力端子を有し、入力の組合せで７色の色を出すことが出来る（表３）。

表３　色の組合せ

	赤	緑	黄	青	紫	水	白
入力1	1	0	1	0	1	0	1
入力2	0	1	1	0	0	1	1
入力3	0	0	0	1	1	1	1

今回はフルカラーLED を 28 個使用した。そこで問題になってくるのが制御する PIC の数である。通常の常時点灯（スタティック点灯）を使用すると PIC のピンを３つ使用し、フルカラーLED を 28 個使用すると、ピン数は 84 個となり、一般的な 16F84A は使用できるピン数が 13 個であり、単純計算で７個は必要になる。これではコストが高くついてしまう。そこで、今回は、数字の表示に使われる７セグメント LED によく使用されるダイナミック点灯方式を試みた。

ダイナミック点灯は、LED の点灯を高速で切替えを行うことで制御する。短時間の間一つの LED を光らせたら、すぐ次の LED を光らせるということを高速で繰り返す。こうするとある瞬間では１個の LED だけが点灯していることになるが、人間の目には残像現象があり、一度光を見ると、約１００msec. 程度その光を連続して見ているように錯覚する。そこで、点灯を高速で繰り返すと、あたかも連続して各 LED が連続して点灯しているように見える。回路が複雑になるというデメリットがあるが、消費電力が小さい、必要な PIC 数は２個で済むというメリットからダイナミック点灯方式を採用した。

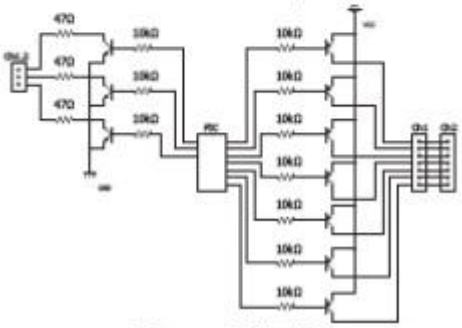


図７　LED 制御回路図

このダイナミック点灯を取り入れたことにより、ポート、部品の節約、フルカラーでの同時点灯が可能となった。その制御回路を図７に示す。この回路を用いて、無事点灯することに成功した。

(3)　音声

音声再生回路を PIC で制御しており、赤外線センサからの信号が PIC に入ると、ランダムに音声を再生する（図８）。

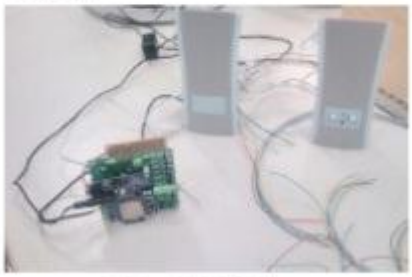


図８　音声再生部

音声は SD カードに保存してあり、編集が容易であ

る。再生する音声は、先生方とテキスト読み上げソフトである。スピーカーはアンプ内蔵の物を使用している。

(4)　目

LED で目を光らせている。しかし、単純に光らせるだけでは面白くないので、不思議なものを作製することにした。LED ブラックホールと呼ばれるもので、多くの LED が奥まで続いているように見える。材料はハーフミラーと LED であるが、ハーフミラーは高価であるため、今回はアクリル板とミラータイプの断熱フィルム、黒い紙を使用した。その構造を図９に示す。LED 部分で合わせ鏡状態になったものを外部から見ることによって LED がいくつも点灯しているように見える。また、点灯は PIC で制御し、点灯はタイマー方式にしている。

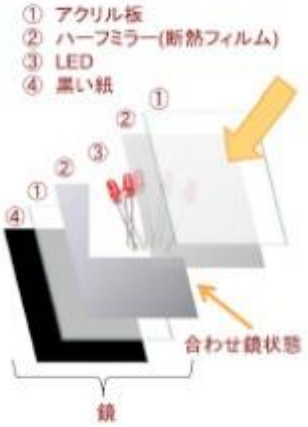


図９　目の構造

なお、電源は AC１００V/DC２４V 電源と、レギュレータを用いて５V に落としたものを使用している。

3.3　材質系（　　）

LED 用の表示部分の透明板は、透明度が高いアクリル板を使用した。類似品として、安価な塩化ビニル板もあったが、強度、透明度の面で難があったため、コストは少し高いが、アクリル板を使用した。

ペンキは、においが少ない、超微臭塗料であり、乾きが早く、日光に強い塗膜となり、つや消し仕上げが長時間維持されることを特徴とした、安価な防腐・防水用のものを選定し、使用した。

また、神社の隙間を埋めるために、高湿度および紫外線を含む苛酷な条件下でも接着性と弾力性を維持し、使いやすく、無臭性で、優れた耐久性を長期間に渡って維持するシリコンコーキング剤を使用した。

3.4　外装系（　　、　　、　　）

「憩い」のテーマから決定したコンセプトを実現するために、外装部分に求められるものとしては以下のような事が挙げられる。

・日本らしさの表現

「憩い」は日本特有の表現。例えば英語で「憩い」は"take a lest"となり＝休憩する、休みを取る というような熟語となる。すなわち、「憩い」に該当する単語はない。

・注目される、華やかな形状や色

憩いから連想されるモノには活気、人が集まるなどが挙げられ、外観としては人の注目を集め、目立ち、人が寄ってくる事にこだわる必要がある。



図１０　日本の神社様式の一例



図１１　完成予想３Ｄモデル

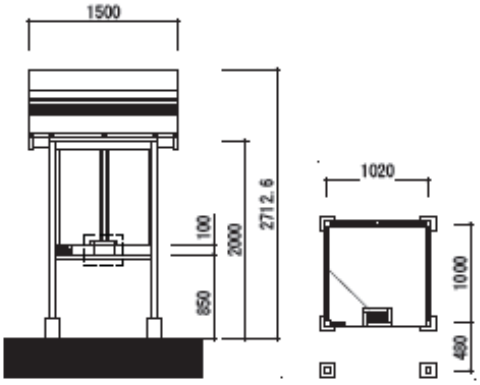


図１２　正面立面図（左）と平面図（右）

これらを考慮し、日本の「神社様式風」＋「明るく華やかな外観」とすることとした。

以上を基に設計した外観の完成予想３Ｄモデルおよび図面の一部を図１１、図１２に示す。外観は、最大で奥行き2m、幅1.5m、高さ2.7mとなる。壁で囲まれた部分が一辺約1mの正方形で、天井高さは2m、装置を設置する台の高さは床から0.95m。３Ｄモデルでは、目標とした神社様式風と目立つ外観が実現されている。

製作物には、学生会の活動等での募金活動を支援するための募金箱を設置した（図１２の破線）。神社様式として違和感のないよう、募金箱は賽銭箱のような形状とした。

また、工夫点としては以下のようなことが挙げられる。

(1) 神社建築の造りの1つである『流造り』の採用。本製作は予算に制限があるため、神社様式をそのまま実現しようとすると軸組・小屋組部材が多くなりコスト面で負担となる。対して簡易的な造りにすると、神社らしく見えずただの小屋のようになってしまう。そこで屋根の様式に流造りを採用し、屋根に重厚感を与えることで神社に見える建物とすることが出来た。なお、流造りは2段階の傾きの異なる垂木を配し、そこに薄いベニヤ板を押しつけるように貼ることで表現した。

(2) 各部寸法の工夫と材料の工夫

各部の寸法は、材料の無駄が生じないように設定した。例えば幅910㎜の板材を壁として使用するときは、柱間の内法寸法が910㎜になるような柱心芯距離を設定している。同様に柱や梁も無駄がなるべく出ないような寸法とした。また、材料は建築学科の実験で余ったコンクリートを基礎部分として使っており、また、外部から見えない小屋組の補強材はその型枠に使用した木材を再利用している。

(3) 内装、防水

3.1 メカ系 で述べたように、内部にはアクリルとＬＥＤライトを用いた機構が設置される。そのため内部は暗いほうがよく、また、音声のための回路等が内部に設置されるため防水性も持たせなくてはならない。そこで、内部は黒塗りとすることで少しでもＬＥＤライトの演出を見やすくし、また、施工上生じてしまった隙間にはシリコンコーキング剤を補填することで暗さと防水性を持たせた。



図１３　製作物の外観

このような工夫を行い、実際に完成した製作物の外観を図１３に示す。

また、製作物を実際に想定場所（高専内楽信館前）に設置したときのイメージパースを図１４に示す。



図１４　設置後のイメージパース

また、初期からの構想であった掲示板を作製し

た(図15)。当初は動く掲示板を考えていたが、動くメリットがないとの指摘を受け、動かない掲示板にすることにした。掲示板は絵馬型とし、

・磁石付きホワイトボード
・マーカー
・ホワイトボード消し

を備え、参拝しに来た人たちが、自由に書き込んで、情報交換をすることが出来る。マグネットによる文書の貼り付けも可能となっている。また、シートにより防水性も確保している。



図15　掲示板

また、今回の作製物の使用方法を別紙の資料1に示す。これは作製物にも掲示してあるものである。

4. 製作費用

これまでに要した費用を簡潔に示す。

表4　製作費用

	金額(円)
建築・物質	19367
機械	10369
電気	16120
合計	45856
残金	4144

5. 総合自己評価

・総合評価

当初は願というテーマから椅子やベンチを作製することにしたが、動きを取り入れづらく、途中から神社に変更した。相性診断の機能は予算の都合上カットをしてしまったが、占いや熱いメッセージ、お賽銭など初期の構想とほぼ同じ機能を取り付けることができた。

製作過程については、別紙の資料２に工程表に基づいてほぼ進行できたと思う。これも班全員で協力して作製できたためだと思う。また、発表も協力してすることが出来た。(班全体の自己評価95%)

製作物の総合達成度：96%

・取り組み

班全員で製作、発表に取り組むことが出来た。

・創造性

神社という独特のものと、ご神体及び機能の独創性は、受けも良く、良いものであったと思う。

・完成度

ご神体の機能にバグがあり、完全なものが出来ていないため、この点数とした。

・コスト

予算内で作製出来た。

・操作性

誰でも使いやすく、そして親しみやすい物が作成できた。

・時間

アイデアについての話し合い、製作物の設計、製作も定期的な話し合いによってスムーズに出来た。

・自己評価（貢献度トータル100%）

・　　(機械)

主にご神体部分の設計と材料の選定を行い、材料の切り出しや部品の加工を行った。また、簾の巻き上げ機構などの部品選定も担当した。CAD上での試作を行い、班での検討に役立てた。(貢献度18%)

・　　(電気)

音声再生部、赤外線による人検出の回路の設計及びプログラムを担当した。人検出の部分にバグがあり誤動作が残ってしまったが、一通り動作するようになった。(貢献度15%)

・　（電気）
部品の選定や回路の作製等を行った。配線や半田付のミスによる誤動作などがあったりしたが、首尾よく直すことが出来た。電気は二人で担当したため、情報交換を行い、良い物が出来たと思う。
（貢献度 17%）

・　（物質）
会計として班で使われる予算の管理・配分を行った。素材の選定の際に、金額の観点から考えることで、使用金額を予算内に収めることが出来た。また、外観部分の作製にも貢献できた。
（貢献度 16%）

・　（建築）
リーダーとして班を先導した。製作物の外観設計及び作製を行った。作業計画を立て、早い段階から取り掛かることが出来たので、余裕をもって作業を終了することが出来た。
（貢献度 18%）

・　（建築）
製作物の外観設計及び作製を行った。作業計画を立て、早い段階から取り掛かることが出来たので、余裕をもって作業を終了することが出来た。
（貢献度 16%）

6.　謝 辞
電気工学科の中村技官には回路の製作や部品の選定において様々なアドバイスをいただきました。
機械工学科の高橋(勇)先生には工具の貸出をしていただきました。
機械工学科の土井先生には 3D プリンターを使用させていただきました。
物質工学科の岡部先生には買い出しやご助言など、様々な面でフォローをいただきました。
物質工学科の山下先生にはアイデア抽象の際に、色々ご助言をいただきました。
建築学科の奥野技官には外装製作において大変お力添えいただきました。
また、森先生、森茂先生、小塚先生、友安先生、望月先生、松崎先生、宮沢先生、西村先生、武田先生には、メッセージの収録をさせていただきました。
先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－５

平成23年度「創造デザイン演習」評価表

創造デザイン演習の評価項目と基準

単位認定基準：60点以上

大項目	発表			製作物		レポート		合計
配分	20%			20%		60%		100%
項目	中間発表	外部評価	最終評価	外部	学内	総合成績	個人	合計
配分	10%	3%	7%	6%	14%	48%	12%	100%

※ 学外発表と学内発表の比率は、3：7とする。

平成18.19年度「生産デザイン工学」プログラムのための成績

項目	製作物		レポート		合計
	50%		50%		100%
比率	外部	学内	総合成績	個人	合計
	15%	35%	40%	10%	100%

1）中間発表評価（1年）

学科名		氏名	A班	B班	C班	D班
			発表	発表	発表	発表
担当教員	機械		88	88	86	88
			90	94		94
	電気		70	74	72	72
	物質		82	86	90	84
			84	88	94	98
	建築		66	66	88	72
			86	88	90	92
評価点（平均）			81	84	87	88

2）外部評価

団体名		氏名	A班		B班		D班	
			発表	製作物	発表	製作物	発表	製作物
外部評価員			80	40	95	90	72	50
			94	70	87	50	94	80
			77	80	88	100	90	80
			84	80	84	80	82	80
			65	60	82	70	85	50
			74	70	91	90	84	80
評価点（平均）			76	67	88	80	85	70

3）最終評価

学科名		氏名	A班		B班		D班	
			発表	製作物	発表	製作物	発表	製作物
担当教員	機械		85	70	97	100	91	80
			92	90	98	100	98	80
	電気		67	60	95	100	92	60
			77	70	80	80	87	90
	物質							
	建築		65	60	79	80	80	70
			78	70	94	100	81	90
評価点（平均）			78	70	91	94	89	79

4）レポート総合評価

学科名		氏名	A班	B班	D班
担当教員	機械		80	90	85
			90	100	80
	電気		80	95	90
			70	80	90
	物質		80	90	80
	建築		75	80	80
			80	90	90
評価点（平均）			83	90	85

創造デザイン演習の評価

A 総合成績

項目		発表 20%			製作物 20%		レポート 60%		総合成績
比率		中間発表 10%	外部評価 3%	最終評価 7%	外部 6%	学内 14%	総合成績 48%	個人 12%	
A班		81	76	78	67	70	83	86	80
								88	81
								80	80
								79	79
								65	78
	IBC	87						79	80
B班		84	88	91	80	94	90	88	90
								83	89
								88	90
								83	89
	IBC	87						85	90
	IBC	87						78	89
D班		86	85	89	70	79	85	90	85
								87	84
								80	84
								80	84
								72	83
								72	83
	IBC	87						85	84

B 平成19,20年度「生産デザイン工学」プログラムのための成績

項目		製作物 50%		レポート 50%		成績
比率		外部 15%	学内 35%	総合成績 40%	個人 10%	
A班		67	70	83	86	77
					88	77
					80	76
					79	76
					65	75
	IBC				79	76
B班		80	94	90	88	90
					83	90
					88	90
					83	90
	IBC				85	90
	IBC				78	89
D班		70	79	85	90	82
					87	81
					80	81
					80	81
					72	80
					72	80
	IBC				85	81

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－６

「実務実習」報告書（様式）

○○○○○会社における実務実習報告（MS ゴシック 14pt）
ステンレス意匠研摩作業の標準化（MS ゴシック 14pt）

具体的なテーマ名がない場合は省略しても良い。

機械電気工学専攻　１年　山田太郎
（MS ゴシック 12pt）

実習場所：○○○○○○会社　×××××部（MS ゴシック 12pt）
実習期間：平成 14 年○月××日～平成 14 年○月××日～（MS ゴシック 12pt）

1.　実習先概要（MS ゴシック 10pt）
1-1 会社概要（MS ゴシック 10pt）
社名：○○株式会社（MS 明朝 10pt）
所在地：○○県××市
1-2 事業内容
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○

2.　実習概要
この中で目的を明らかにすること。

3.　実務内容
適当に章立てしても構いません。図、表、写真を入れても構いません。どうしても、それらのが大きい場合はその部分のみ１段組にしても構いません。
各タイトルはゴシック体のこと。

4.　考察
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○

5.　まとめ
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
6.　感　想
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

7.　謝　辞
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

8.　参考文献
1)○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○2)
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○3)○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【注意】
○ ４ページあるいは６ページを原則とする。
○ マージンは以下の通り。
　上 30mm　下 25mm　左 20mm　右 20mm
○ 文字間隔および行間隔はこの作成例とだいたい同じにして下さい。
○ 各章のタイトルは参考ですので、どうしてもこれらのタイトルとあわない場合は変えても構いません
○ MS ゴシック MS 明朝体がない場合は適当なゴシックと明朝体に置き換えて作成して下さい。
◎ 各指導教官のチェックを受けて、9 月 13 日（金）までに紙の状態で各専攻科主任に提出のこと。
○ この報告書は全員分をまとめて 1 冊の報告書集にし、各実習先に郵送します。

○ 実習報告書を作成するに当たり、「研修で得た企業秘密・個人情報等の秘密保持に留意すること。

実務実習一覧

専攻科生１年

No	専攻	会社名	実習期間	日数	評価
1	ME(E)	宮崎県環境森林部環境森林課	8/2-8/15	10	B
		宮崎県立美術館	8/24-8/28	5	A
2	ME(E)	制電社電気控制系統(北京)有限公司	8/7-8/27	15	B
3	ME(E)	株式会社サニー・シーリング	7/19-8/6	15	A
4	ME(E)	日本情報クリエイト株式会社	8/10-8/31	15	A
5	ME(M)	株式会社九州コガネイ	7/25-8/12	15	A
6	ME(M)	株式会社サニー・シーリング	7/19-8/6	15	A
7	ME(E)	宮崎県環境森林部環境森林課	7/19-8/1	10	A
		宮崎県情報政策課	8/2-8/8	5	A
8	ME(E)	NTTネオメイト九州支店	7/25-8/5	10	A
		NTTネオメイト九州支店宮崎事業所	8/8-8/12	5	A
9	C	宮崎県木材利用技術センター	7/25-8/12	15	A
10	C	九州沖縄農業研究センター畑作研究領域	7/21-8/10	15	A
11	C	宮崎大学工学部	7/19-8/8	15	A
12	C	独立行政法人産業技術総合研究所	7/19-8/9	15	A
		室蘭工業大学応用理化学系学科	8/10-8/26	13	A
13	C	南日本酪農協同株式会社	7/19-8/4	15	A
14	C	株式会社ホンダロック	7/23-8/10	15	A
15	C	宮崎県木材利用技術センター	7/25-8/12	15	A
16	C	九州沖縄農業研究センター畑作研究領域	7/21-8/10	15	A
17	A	宮崎県木材利用技術センター	8/1-8/26	15	A
18	A	大淀開発株式会社	7/21-8/6	15	A
19	A	株式会社坂下組	8/17-8/30	10	A
		都城木材株式会社	8/1-8/5	5	B
20	A	熊本大学 古代ギリシア建築調査	8/1-8/31	21	B
21	A	株式会社坂下組	8/17-8/30	10	A
		都城木材株式会社	8/1-8/5	5	B
22	A	都生コン株式会社	7/25-8/12	15	A

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－７

「実務実習」証明書（様式）

様式第２号

実務実習証明書の発行について（依頼）

実務実習の終了に当たり、実習の評価、出席状況等について下記に証明くださいますようお願いいたします。

実　務　実　習　証　明　書

（この欄は、実務実習生本人が記入）

実務実習生　　都城工業高等専門学校専攻科 専攻　第１学年 氏　名	
実　習　テ　ー　マ	
出　欠　状　況	平成　　年　　月　　日から　　月　　日までの（　　）日間 （　）内は、実習した日数

（本人記入欄の内容を含め、下記のとおり証明する。）

出　欠　状　況	出勤すべき日数（　　）日 欠勤（　　）日　　遅刻（　　）回 早退（　　）回
評　　価	□A（優れている）　　□B（やや優れている） □C（普通）　　□D（やや劣る）　　□E（劣る）
総　　評	

都城工業高等専門学校長　殿

平成　　年　　月　　日

会社（実務実習場）名
実習指導責任者氏名　　㊞

〔出典：学生課資料〕

資料５－６－③－８

平成23年度第９回専攻科委員会議事要録

平成 23 年度 第 9 回 専攻科委員会　議事要録

日時	平成 23 年 11 月 17 日（木）　16：30　－　17：15
場所	第２会議室（図書館２階）
出席者	林田、高橋勇、野地、清山、板倉、小塚、田村、（永野）
列席者	学生課長、学生課課長補佐、教務係長
欠席者	なし
議事要録作成	専攻科長

１．平成 23 年度前期成績評価の確認（資料１）

資料１の通り、平成 23 年度前期成績を確認した。また、今後、再試験受験願の提出については、E-Mail で教務係から学生へ連絡することを確認した。なお、科学技術英語（物質工学専攻１年後期開講）の未修得者２名の再試験が実施されていないことについて、事情を鑑み、後期の再試験実施を許可することが、専攻科長より報告された。

また、これを事務的に執行するためには、専攻科授業の成績等提出の期限も厳守されねばならないことが、専攻科長より申し添えられた。

２．専攻科・各専攻の教育目的について

機械電気工学専攻の教育目的について、電気情報工学科での議論が終了しておらず、次回の委員会で審議することとした。

３．英語教育の見直しについて（資料２）

専攻科委員会は、専攻科の英語教育について資料２の下記の事項を了解した。

１）英語科は、「生産デザイン工学」修了要件の一つである「TOEIC400 点相当」の条件を、専攻科の修了要件から除外することについて支障はないと判断する。

２）英語科は、コア科目設定、認証評価対応などに起因する英語教育の見直しの際、専攻科での英語教育、生産デザイン工学専攻の「400 点相当」の要件などについても再検討する。

４．専攻科実務実習（インターンシップ）期間の短縮について

審議した結果、実務実習期間について、下記の通り決定した。

１）企業での実習は 10 日（2 週間）以上とする。

２）実習前の実習マナーについての指導、実習後のレポート作成、発表会プレゼンテーション資料作成の指導、及びプレゼンテーションで、合計 2 日、実施する。

３）以上を持って、実習期間 12 日間以上を確保する。

※ *実務実習は 2 単位の実習科目であるから、授業時間は 90 時間必要となる。企業での実習を、1 日 8 時間、10 日で 80 時間、学生のインターンシップ先との実習内容の打ち合わせ、学内でのレポート作成、実務実習発表会の資料作成、実務実習発表会での発表等が 2 日で 10 時間以上と見なす。従って、実務実習の授業時数は合計 90 時間以上と見なす。*

５．専攻科実務実習（インターンシップ）の評価について（資料３）

審議内容を整理し、下記の内容で、学科審議を依頼することとした。

１）実務実習評価表における「実習先での評価」の「普通」の評点「65 点」を。「70 点」とすることについて、各学科の意見を聞く。

２）上記を含め、全面的に見直す必要があるか、各学科の意見を聞く。

以上

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

「創造デザイン演習」では，専攻が異なる学生によって構成されたグループごとに，自らアイデアを提案させ，そのアイデアのデザイン化，デザインの具現化，成果の発表及びレポート作成という一連の作業を通して，創造性を育む教育を実施しており，本格的なPBL科目となっている。「専攻科特別研究」の履修期間は２年間と長いため，１年修了時にアイデアの検証や中間発表を行い，継続的に創造性が身に付くよう工夫している。「実務実習」では単なる作業とならないようテーマを選定し，ある程度の成果が出せるよう実習期間を３週間以上として，その報告会も実施している。したがって，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用を十分に行っている。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

教養科目として，一般科目に「実用英語」，「知的財産権」，「文章表現法」等を設定している（前述資料５－６－①－１）。「専攻科特別研究」の履修の際には，学生一人に対して１つの研究テーマを与え，研究計画に基づき，アイデアの提案，デザイン化，具現化，中間発表，アイデアの検証，論文作成及び最終報告を行っている（資料５－７－①－１～４）。これらの一連の作業は，定められた評価方法と評価基準に基づき，複数の教員により適切に評価されている（資料５－７－①－５～６）。得られた成果の一部は，学習評価レポートとして，大学評価・学位授与機構で審査され，さらには，学協会での発表も行わせ，プレゼンテーション能力や探求心を身に付けさせている（資料５－７－①－７）。技術職員は，技術支援センターに配属しており，各学科等からの要請を受けて，専攻科の研究・実験環境の整備，実験・実習・演習等の指導に当たっている（資料５－７－①－８）。

観点５－７－①　資料一覧

資料５－７－①－１　専攻科特別研究中間発表要旨集

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－２　アイデア報告書（様式）

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－３　中間報告回答書（様式）

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－４　専攻科特別研究最終発表要旨集

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－５　専攻科特別研究論文の達成度判定基準

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－６　専攻科特別研究評価表

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－７　生産デザイン工学プログラム学協会発表一覧

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－８　技術支援要請

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－１

専攻科特別研究中間発表要旨集

平成二十三年度

都城工業高等専門学校　専攻科　物質工学専攻

専攻科特別研究中間発表



要旨集

日時：平成二十四年三月二十二日（木）

会場：多目的ホール

目　次

専攻主任挨拶

1. 13：00～13：20
題　目：高脂質含有微細藻類のスクリーニングと脂質の特性評価　・・1-4
発表者：　指導教員：濱田　英介

2. 13：20～13：40
題　目：アクチンの構造変化の抑制が細胞機能に与える影響　・・5-8
発表者：　指導教員：野口　太郎

3. 13：40～14：00
題　目：シクロデキストリン誘導体の不斉選択性と構造解析　・・9-12
発表者：　指導教員：岡部　勇二

4. 14：00～14：20
題　目：細胞内における F-actin の構造分布の解析　・・13-16
発表者：　指導教員：野口　太郎

5. 14：20～14：40
題　目：共生藻を用いたバイオエタノール生産システムの構築　・・17-20
発表者：　指導教員：高橋　利幸

6. 14：40～15：00
題　目：Ta2O5 固体電解質薄膜の特性改善に関する研究　・・21-24
発表者：　指導教員：野口　大輔

7. 15：00～15：20
題　目：糖分泌型藻類を用いた新規アンモニア除去法　・・25-28
発表者：　指導教員：高橋　利幸

7. 15：00～15：20
題　目：混合剤内包マイクロカプセルを用いたニッケル・銅の抽出速度　・・29-32
発表者：　指導教員：清山　史朗

学科長講評

発表時間：15 分，質疑応答：5 分
（13 分：一鈴，15 分：二鈴，20 分：三鈴）

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－２

アイデア報告書（様式）

専攻科特別研究アイデアに関する報告書

○○○○○○専攻１年
学生氏名：○○○○
指導教員氏名：○○○○
中間報告会開催日：○月○○日

【１】社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアについて、その概略を記載すること。

例）現在、都城地区の養豚農家では、豚の糞尿を下水道に流すことが法律で禁止されたため、その処理に問題を抱えている。個人の零細養豚業者で大規模な糞尿処理施設を作ることは困難で、低コストな環境に負荷をかけない簡易型の糞尿処理装置の開発が望まれている。
　そこで、本研究では、天然の高分子凝集剤に注目し、この凝集剤を用いた固液分離法によって、糞尿処理装置の開発に取り組むこととした。この、高分子凝集剤の特性は、.....であることから、.....。

【２】これまでの研究を振り返り、アイデアの提案に問題がなかったか検証すること。（報告会後記載）

例）現在のところ、分析方法に問題点があるが、大体において順調に進んでおり、アイデアの提案に問題はなかったと考えている。

【３】アイデアの検証で問題点があった場合、その改善点を記入すること。（報告会後記載）

※ 中間報告書と一緒に、この報告書を専攻主任に提出して下さい。

1

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－３

中間報告回答書（様式）

専攻科特別研究　中間報告会　質疑回答書

○○○○○○専攻１年
学生氏名：○○○○
指導教員氏名：○○○○
中間報告会開催日：○月○○日

【１】中間報告会での質問事項およびその回答について記入すること。

＜質疑応答時に回答した事項＞

質問１：ニトロベンゼンの合成はどのようにして行われているか。

回答１：ニトロベンゼンあるいはフェノールの中間体とする間接的な方法により合成されていることを説明した。

質問２：○○の測定方法に問題はないのか。

回答２：○○の測定方法の原理を説明し、問題のないことを説明した。

＜調査後回答した事項＞

質問１：エポキシドは一般的に反応性の高い物質であるが、天然に存在する例はあるのか。
回答１：マイマイガは、フェロモンとしてジスパールア（エポキシド誘導体）をもち、何キロも先から雄のガを誘き寄せることが調査により分かった（参考書：基礎有機化学）

【２】中間報告会で指摘された問題点があれば、その問題点と改善案を記載すること。また、１年間の研究をまとめるにあたって、明らかになった問題点があれば、その問題点と改善案を記載すること。

問題点１：溶液中の pH の測定の必要性について指摘を受けた。

改善案１：生体内の pH は重要であるので、これまでの試料については、pH を測定し、次の操作に進むこととした。

質問２：○○の測定方法に問題があることが明らかになった。

回答２：これまで行った全ての試料について、再度、分析を行うこととした。

※ 中間報告後、２週間以内に専攻主任にこの報告書を提出して下さい。

1

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－４

専攻科特別研究最終発表要旨集

平成二十三年度

都城工業高等専門学校　専攻科　物質工学専攻

卒業研究発表要旨集



日時：平成二十四年二月十四日（火）

会場：多目的ホール

目次

1. 13：30～13：55
題　目：RAS（Radical Assisted Sputtering）法により作製した WO3 還元発色薄膜の物性評価と EC 特性制御技術に関する研究
発表者：　（野口大輔研究室）　……41-44

2. 13：55～14：20
題　目：窒素原子を有する新規吸着剤の合成とその貴金属の選択的吸着
発表者：　（岩熊研究室）　……45-48

3. 14：20～14：45
題　目：伝統的製造法による醤油諸味中の物質動態と菌叢解析
発表者：　（濱田研究室）　……49-52

4. 14：45～15：10
題　目：RAS(Radical Assisted Sputtering)法により作製した Ta2O5 固体電解質薄膜の物性評価とイオン伝導度制御技術に関する研究
発表者：　（野口大輔研究室）　……53-56

5. 15：10～15：35
題　目：バイオマスを利用した Pt 担持 TiO_2 光触媒による水からの H_2 生成
発表者：　（山下研究室）　……57-60

6. 15：35～16：00
題　目：廃棄物溶融スラグの水防腐剤としての機能評価
発表者：　（清山研究室）　……61-64

7. 16：00～16：25
題　目：MAP4 アイソフォームを介した微小管と F-アクチンの相互作用解析
発表者：　（野口太郎研究室）　……65-68

学科長講評

＊ 発表時間：15 分，質疑応答：10 分
（13 分：一鈴，15 分：二鈴，20 分：三鈴）

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－５

専攻科特別研究論文の達成度判定基準

JABEE 対応委員会　2006.1.17

専攻科特別研究　達成度評価要綱
（物質工学専攻）

Ⅰ．評価方針および評価方法

Ⅱ．評価項目

1．研究論文に対する評価事項 ⑨

1.1　研究内容の理解度

a）研究目的：研究の背景と目的をよく理解している。
b）アイデアの提案：社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案できる。①
c）新規デザインのデザイン化：性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規技術をデザインできる。④
d）アイデアのデザイン化とその具現化：アイデアに基づいたデザイン化とその具現化ができる。⑤
e）解析スキル：得られた現象やデータを既習の工学的スキルを用いて解析できる。
f）現象の定性・定量的解釈：分析した結果の本質的な意味が理解でき、また、その結果を既習の知識や理論を用いて定性および（または）定量的に説明できる。
g）考察能力：得られた実験事実から考察を導き出すことができる。
h）結論の導出：分析結果から普遍的な結論を帰納的に引き出すことができる。

1.2　研究遂行能力、積極性

a）データ採取：実験やシミュレーションなどを通じて分析に必要なデータを取得できる。
b）準備：実験装置やプログラムの作成あるいは既存(市販)ツールの使いこなしができる。
c）結果の判断と改善の提案：採取したデータから処理方法(実験方法やツールの使い方)の妥当性を判断できる。あるいは、与えられたデータが目的に添うものかどうかを判断できる。
d）考察：採取したデータあるいは与えられたデータのもつ意味が理解・解釈ができる。
e）改善方法の提案：問題点を把握し、発展的に研究が遂行できる様に改善方法が提案できる。⑥

JABEE 対応委員会　2006.1.17

1.3　論文作成能力、文書力

a）論文・報告書の形式・体裁：表紙、見出し、段落などが統一的な様式で仕上げられている。
b）文章表現力：科学技術文書として客観的かつ専門的に適切な表現で文章表現がなされている。
c）論文・報告書の構成：背景と目的、方法、結果と考察、結論、参考文献などが必要に応じて図表を用いて順序立てて記述されている。⑦
d）論理的一貫性：報告書・論文の主張が論理的に首尾一貫している。⑧
e）結論の誘導：結論に至る論理展開に誤りがなく、残された問題点や課題についても十分な考察が加えられている。

2. 研究論文概要に対する評価事項 ⑩

a）マージンと文字サイズ：マージンと文字サイズが執筆要項に決められたとおりになっている。
b）図、表の表示：図題、表題には Fig.1, Table 1 などと通し番号をふり、図題は図の下、表題は表の上に入っている。
c）写真、図および表：写真、図および表は、鮮明なものを用いている。
d）本文の内容：研究の背景、目的、研究および考察等が、要領良く纏められている。
e）論文概要の内容：口頭発表内容と論文概要の内容が一致している。

3. 研究発表に対する評価事項 ⑪

3.1　コミュニケーション能力

a）課題の背景：課題の内容に対する背景や周囲の状況が把握できている。
b）課題の目的：課題の目的が十分理解できており、明確である。
c）課題解決方法の適切性：課題解決の方法が適切であり、それらが上手に説明できる。
d）結果の信頼性：課題解決の結果が適切にまとめられており、高い信頼性がある。
e）質疑への適切な応答：質問の意味を正確に把握して的確な応答ができる。

3.2　プレゼンテーション能力

a）資料の提示:資料や OHP 等が適切に用意されている。
b）理解度:自分の発表内容を熟知しており、表現に曖昧さが無い。
c）発表の組み立てと要点の明確さ：発表内容の道筋が整理されており、要点が明確で分かり易い。
d）発表態度：原稿を見ないで発表し、発表の態度が堂々としている。
e）発表時間: 決められた時間内に発表できる。

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－６

専攻科特別研究評価表

物質工学専攻　専攻科特別研究　達成度判定表

学生氏名(　　)　　教員氏名(　　)

【論文】

研究担当教員のみが採点			
項目		点数	条件
1.1	a		
①	b		専攻科は2以上
④	c		2以上
⑤	d		2以上
	e		
	f		
	g		
	h		
1.2	a		
	b		
	c		
	d		
⑥	e		2以上
1.3	a		
	b		
⑦	c		2以上
⑧	d		2以上
	e		
点数の合計			
50点に換算			30点以上 ⑨

【概要】

物質工学科教員が採点			
項目		点数	条件
2	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
点数の合計			
25点に換算			15点以上 ⑩

【発表】

物質工学科教員が採点			
項目		点数	条件
3.1	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
3.2	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
点数の合計			
25点に換算			15点以上 ⑪

※ 各項目3段階(3,2,1)で評価すること。
ただし、全く満たしていない場合は0と記入のこと。

総合評価		60点以上

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－７

生産デザイン工学プログラム学協会発表一覧

学協会等発表一覧

No.	専攻	学協会等名	開催日	開催地	報告書	備考
1	機械電気工学専攻	JTL-AEME2011	H23.9.21	タイ	○	
2		第6回実験力学における先端科学技術に関する国際シンポジウム	H23.11.5	大阪	○	
3		第１７回高専シンポジウムｉｎ熊本	H24.1.28	熊本	○	
4		第１７回高専シンポジウムｉｎ熊本	H24.1.28	熊本	○	
5		第72回応用物理学会学術講演会	H23.8.30	山形	○	
6		日本機械学会九州支部宮崎地区第4回学生研究発表会	H23.3.18	宮崎	○	
7		第１７回高専シンポジウムｉｎ熊本	H24.1.28	熊本	○	
8		JTL-AEME2011	H23.9.21	タイ	○	
9		第１６回高専シンポジウムｉｎ米子	H23.1.22	鳥取	○	
10		第72回応用物理学会学術講演会	H23.8.30	山形	○	
11	物質工学専攻	第52回真空に関する連合講演会	H23.11.17	東京	○	
12		第47回化学関連支部合同九州大会	H22.7.10	福岡	○	
13		第18回日本生物工学会九州支部福岡大会	H23.12.10	福岡	○	
14		第52回真空に関する連合講演会	H23.11.17	東京	○	
15		２０１１年光化学討論会	H23.9.8	宮崎	○	
16		第22回廃棄物資源循環学会研究発表会	H23.11.4	東京	○	
17		第33回日本分子生物学会年会第83回日本生化学会大会合同大会	H22.12.7～H22.12.10	神戸	○	
18	建築学専攻	第１７回高専シンポジウムｉｎ熊本	H24.1.28	熊本	○	
19		第50回日本建築学会九州支部研究報告会	H23.3.6	鹿児島	○	
20		2010年度日本建築学会大会学術講演会	H22.9.11	富山	○	
21		第50回日本建築学会九州支部研究報告会	H23.3.6	鹿児島	○	
22		第１７回高専シンポジウムｉｎ熊本	H24.1.28	熊本	○	
23		第51回日本建築学会九州支部研究報告会	H24.3.4	福岡	○	

〔出典：学生課資料〕

資料５－７－①－８

技術支援要請

H24.3.27

技術支援センター長　殿

機械工学科平成24年度前期技術支援要請

下記の表中の矢印で示した部分について技術支援をお願いします。

機械工学科学科長

	月		火		水		木		金	
1						↑				
2			↑		↑					
3		↑	M1 実習		M2 実習	専2 特別 実験				
4			↓		↓					
5	↑		↑	↑			↑	↑	↑	
6	M５ 卒業研究	専1・2 特別研究	M4 創造 設計	M5 工学実験					M3 基礎 実験	
7			↓			↓	M５ 卒業研究	専1・2 特別研究	↓	
8	↓			↓		↑専1,2 創造 デザイン				
9		↓				↓演習	↓	↓		

※『専』は専攻科

1．実習・基礎実験

１学年	技術専門職員	７名
２学年	技術専門職員	７名
３学年	技術専門職員	７名

2．工学実験・専攻科特別実験

５学年	技術専門職員	４名
専攻科２年	技術専門職員	４名

3．卒研・専攻科特別研究

５学年	技術専門職員	８名
専攻科1,2年	技術専門職員	８名

4．創造設計

４学年	技術専門職員	７名

5．創造デザイン演習

専攻科１年	技術専門職員	４名

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

教養科目として，一般科目に適切な科目を設定している。専攻科特別研究は，シラバスに記載されている研究計画に基づき，計画的に実施している。研究の評価は，定められた評価方法と評価基準に基づき複数教員により適切に行い，得られた成果の一部は学修成果レポートとして，大学評価・学位授与機構でも審査されている。さらに，学協会等での発表も課しており，専攻科で修学するにふさわしい研究指導を行っている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価はシラバスに明記された方法により行っている。単位認定及び専攻科修了判定は，「都城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」に基づいて適切に行っている（資料５－８－①－１～２）。成績評価，単位認定及び修了判定に関しては，専攻科学生便覧に記載し，学生に周知している。「生産デザイン工学」プログラムの修了判定は，プログラム修了要件に基づいて適切に行っている（前述資料５－８－①－１）。修了要件に関しては，「生産デザイン工学」プログラム履修の手引きに記載し，学生に周知している。なお，追試験及び再試験についても同規則に基づいて適切に行っている（前述資料５－８－①－２）。成績評価に用いた答案等の資料は，保管している（資料５－８－①－３）。各試験の答案は，学生に一度返却し，解答解説時に試験の点数について学生の異議を受け付けている。専攻科修了判定会議及び「生産デザイン工学」プログラム修了判定会議は，毎年３月に校長が全教員を招集し（資料５－８－①－４），実施している（資料５－８－①－５）。

観点５－８－①　資料一覧

資料５－８－①－１　都城工業高等専門学校学則第８章

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料５－８－①－２　都城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料５－８－①－３　答案保存調査（専攻科分）

〔出典：学生課資料〕

資料５－８－①－４　専攻科行事予定

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料５－８－①－５　専攻科修了判定会議及び生産デザイン工学プログラム修了判定会議開催通知

〔出典：学生課資料〕

資料５－８－①－１

都城工業高等専門学校学則第８章

12. 都城工業高等専門学校学則（専攻科に関する第８章を抜粋）

第８章　専攻科

（設置）

第38条　本校に、専攻科を置く。

（目的）

第39条　専攻科は、高等専門学校教育の基盤の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）

第40条　専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械電気工学専攻	８人
物質工学専攻	４人
建築学専攻	４人

（入学資格）

第41条　専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1)　高等専門学校を卒業した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者

(4)　外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

(5)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者

(6)　我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(7)　その他、本校の専攻科が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選考及び入学許可）

第42条　校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選考の上、入学を許可する。

（修業年限）

第43条　専攻科の修業年限は、２年とする。ただし、４年を超えて在学することはできない。

（休学）

第44条　専攻科の学生の休学期間は、１年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、１年を限度として、休学期間の延長を認めることがある。

２　休学期間は、通算して２年を超えることができない。

３　休学期間は、前条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

（教育課程）

第45条　専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第３のとおりとする。

２　受講方法については、別に定める。

（修了）

第46条　専攻科に２年以上在学し、所定の授業科目のうち62単位以上を修得した者について、修了を認定する。

２　校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

３　授業科目の修得方法については、別に定める。

（準用規定）

第47条　専攻科の学生については、第３条から第６条、第12条、第13条の３、第19条、第21条、第22条から第24条、第25条の２第１項、第３項、第27条から第33条、第34条から第37条の規定を準用する。この場合において第13条の３第２項中「30単位」とあるのは「16単位」と、第25条の２第１項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは、「外国大学」と、第37条第２号中で「第21条第２項及び第３項」とあるのは「第44条」と、それぞれ読み替えるものとする。

第48条　本章に定めるもののほか、専攻科に関し必要な事項は、別に定める。

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料５－８－①－２

都城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則

13. 都城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校学則第45条第２項、第46条第３項及び第48条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修・修得方法及び成績の評価並びに修了の認定等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（授業）

第２条　授業は、１単位時間を標準50分とする。

２　授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

（単位の計算方法）

第３条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号に掲げる基準により計算するものとする。

(1)　講義については、15時間の授業をもって１単位とする。

(2)　演習については、30時間の授業をもって１単位とする。

(3)　実験及び実習については、45時間の授業をもって１単位とする。

（受講方法）

第４条　開設された授業科目のうち必修科目については全科目を、選択科目については所定科目を、それぞれ受講して、成績の評価を受けなければならない。

２　授業科目の受講に当たっては、当該授業科目の開講学期当初に、別に定める「授業科目受講届」を所定の期日までに校長に提出しなければならない。

（履修要件）

第５条　受講する授業科目の出席時数が５分の４以上の場合は、その授業科目を履修したものと認定する。

（試験）

第６条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

２　定期試験は、各学期末に実施する。

３　追試験は、次の各号の一に該当する理由により、定期試験を受験することができなかった者のうち、別に定める「追試験受験願」を所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。

(1)　病気（医師の診断書を要する。）

(2)　忌引

(3)　その他やむを得ない理由があると校長が認めた場合

４　再試験は、第５条に規定する履修要件を満たし、第７条に規定する成績の評価が60点未満であった者のうち、別に定める「再試験受験願」を所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。

５　追試験及び再試験の実施方法については、別に定める。

（成績評価）

第７条　成績は、授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

２　成績の評価は、100点法により行い、次の表に掲げる評語により区分する。ただし、100点法による評価が困難な授業科目については、合格又は不合格とする。

評　価	100～80	79～70	69～60	59以下
評　語	優	良	可	不可

３　再試験により合格した授業科目の評価は、60点とする。

４　履修要件を満たさない授業科目の評価は、59点以下又は不合格とする。

（単位の認定）

第８条　前条第２項の規定に基づき、優、良、可及び合格と評価された授業科目については、当該授業科目を修得したものとして、単位を認定する。

（再受講）

第９条　単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再受講することができる。

２　前項により再受講する場合も、第４条第２項に規定する手続きを行うものとする。

（修了に必要な単位等）

第10条　専攻科の修了は、学則第46条に規定するもののほか、次の表に掲げる区分による単位を修得し、かつ、「生産デザイン工学」プログラムの修了要件のうち、次の各号に掲げる要件以外の修了要件を満たさなければならない。

(1)　学士の学位を取得していること。

(2)　TOEIC試験400点相当以上であること。

専　　攻	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	合　計
機械電気工学専攻	6単位以上	8単位以上	38単位以上	62単位以上
物質工学専攻	6単位以上	8単位以上	38単位以上	62単位以上
建築学専攻	6単位以上	8単位以上	38単位以上	62単位以上

（大学等で修得した単位の認定）

第11条　大学及び他の教育施設で修得した単位で、当該専攻が開設する授業科目に相当する科目と認められるものに限り、履修したものとみなし、16単位を超えない範囲で、当該専攻における単位として認定することができる。

第12条　都城工業高等専門学校専攻科の他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、６単位を超えない範囲で、当該専攻における単位として認定することができる。

（雑則）

第13条　この規則に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修等に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成14年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成14年12月16日から施行する。

附　則

この規則は、平成21年５月18日から施行し、平成21年４月１日から適用する。

附　則

1　この規則は、平成23年９月５日から施行し、平成23年４月１日から適用する。

2　改正後の第10条の規定は、平成22年度入学者から適用する。

〔出典：専攻科学生便覧〕

資料５－８－①－３

答案保存調査（専攻科分）

答案等保存調査票（平成22年度分）

機械電気工学専攻（専攻科）

No	科目名	単位数	1年		2年		実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目（2）	点検者	備考
D ME01	科学技術英語（Ｍ）	2	1	1			○	○	○			前期M分
	科学技術英語（Ｅ）	2	1	1								
D ME02	機械電気工学特別実（Ｍ）	4		2	2		○	○	○			熱○、制御○、材料○
	機械電気工学特別実（Ｅ）	4		2	2							
D ME03	創造デザイン演習	4	1	1	1	1						
D ME04	実務実（Ｍ）	2	2				○	○	○			
	実務実（Ｅ）	2	2									
D ME05	機械電気工学特論（Ｍ）	2	1	1			○	○	○			材料○、工作○、材力○、流体○
	機械電気工学特論（Ｅ）	2	1	1								
D ME06	専攻科特別研究（Ｍ）	14	3	3	4	4						
	専攻科特別研究（Ｅ）											
D ME07	材料力学特論	2			2		－	－	－			開講なし
D ME08	変形加工学	2		2			○	○	○			
D ME09	機械設計特論	2		2			○	○	○			
D ME10	CAE	2				2	○	○	○			
D ME11	超精密加工	2	2				○	○	○			
D ME12	材料強度学	2	2				○	○	○			
D ME13	流体力学特論	2	2				○	○	○			
D ME14	熱移動と流れの工学	2			2		○	○	○			
D ME15	振動工学	2			2		－	－	－			開講なし
D ME16	メカトロニクス特論	2				2	○	○	○			

機械電気工学専攻（専攻科）

No	科目名	単位数	1年		2年		実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目（2）	点検者	備考
D ME01	科学技術英語（Ｍ）	2	1	1								
	科学技術英語（Ｅ）						○	○	○			
D ME02	機械電気工学特別実（Ｍ）	2		2								
	機械電気工学特別実（Ｅ）						○	○	○			
	機械電気工学特別実（Ｍ）				2							
	機械電気工学特別実（Ｅ）						○	○	△			「論理回路」なし
D ME03	創造デザイン演習	4	1	1	1	1						
D ME04	実務実（Ｍ）	2	2									
	実務実（Ｅ）	2	2				○	○	○			
D ME05	機械電気工学特論（Ｍ）	2	1	1								
	機械電気工学特論（Ｅ）						○	○	△			1名分欠
D ME06	専攻科特別研究（Ｍ）	14	3	3	4	4						
	専攻科特別研究（Ｅ）											
D ME17	電磁気学特論	2	2				○	○	○			
D ME18	電気回路特論	2		2			○	○	○			
D ME19	電子計測特論	2	2				○	○	○			
D ME20	情報システム工学	2		2			○	○	○			
D ME21	電子デバイス	2		2			○	○	○			
D ME22	電子材料プロセス工学	2				2	－	－	－			
D ME23	電子物性工学	2				2	－	－	－			
D ME24	気体電子工学	2				2	－	－	－			
D ME25	放電工学	2			2		－	－	－			
D ME26	パワーエレクトロニクス	2	2				○	○	○			
D ME27	通信工学特論	2				2	－	－	－			

物質工学専攻（専攻科）

No	科目名	単位数	1年		2年		実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目（2）	点検者	備考
D C01	科学技術英語	2		2			○	○	○			
D C02	物質工学特別実験	4	2	2			○	○	○			
D C03	創造デザイン演習	4	1	1	1	1						
D C04	実務実習	2	2				○	○	○			
D C05	物質工学特論	2	1	1			○	○	○			
D C06	専攻科特別研究	14	3	3	4	4						
D C07	化学反応論	2			2		－	－	－			
D C08	無機合成化学	2	2				○	○	○			
D C09	反応有機化学	2	2				○	○	○			
D C10	有機光化学	2				2	－	－	－			
D C11	分子生態学	2				2	○	○	○			
D C12	蛋白質工学	2	2				×	○	○			
D C13	生物物理化学	2				2	○	○	○			
D C14	移動現象論	2				2	－	－	－			
D C15	微粒子工学	2	2				○	○	○			
D C16	応用触媒工学	2		2			－	－	－			
D C17	新素材論	2			2		○	○	○			
D C18	無機機能性材料	2			2		○	○	○			
D C19	機能性高分子	2		2			○	○	○			
D C20	水質環境工学	2				2	○	○	○			
D C21	機械設計特論	2		2								機械電気専攻科書棚に保管

建築額専攻(専攻科)

No	科目名	単位数	1年		2年		実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目 (2)	点検者	備考
D A01	建築英語	2	2				○	○	○			
D A02	創造デザイン演習	4	1	1	1	1						
D A03	建築設計演習	4	2	2			○	○	○			
D A04	構造設計演習	4	2	2			○○○	○○○	○○○			板倉，須田，後藤の順，再履修含む
D A05	建築実務実習	2	2				○	○	○			
D A06	建築学特論	2	1	1			○	○	○			
D A07	専攻科特別研究	14	3	3	4	4	○	○	○			
D A08	建築計画学	2	2				○	○	○			
D A09	地方住宅計画学	2			2		ー	ー	ー			
D A10	西洋建築デザイン史	2				2	ー	ー	ー			
D A11	居住熱環境学	2			2		○	○	○			
D A12	計算力学	2			2		○	○	○			
D A13	連続体力学	2		2			○	○	○			
D A14	コンクリート構造特論	2			2		ー	ー	ー			
D A15	建築材料施工特論	2		2			○	○	○			
D A16	建築情報処理	2		2			○	○	○			
D A17	建築CAD設計演習	2	2				○	○	○			
D A18	建築材料実験特論	2			2		○	○	○			
D A19	地震工学	2		2			ー	ー	ー			

一般・共通科目(専攻科)

No	科目名	単位数	1年		2年		実施報告書	成績一覧	答案等保存状況	点検項目 (2)	点検者	備考
D G01	総合英語	2	1	1			○	○	○			
D G02	実用英語	2			2		○	○	○			
D G03	知的財産権	2			2		×	×	×			
D G04	倫理学	2		2			○	○	○			
D G05	歴史学	2	2				○	○	○			
D G06	中国古典学	2		2			ー	ー	ー			
D G07	文章表現法	2	2				○	○	○			
D G08	地球環境科学	2			2		△	○	○			評価の実施状況が未記入
D G09	技術者倫理	2			2		×	○	○			
D G10	線形数学	2	2				○	○	○			
D G11	統計学特論	2			2		-	-	-			
D G12	解析学特論	2		2			○	○	○			
D G13	一般化学	2				2	○	○	○			
D G14	一般力学	2				2	×	○	○			実施報告書依頼。
D G15	応用物性論	2			2		-	-	-			
D G16	応用物理特論	2		2			○	○	○			
D G17	応用情報工学	2	2				○	○	○			

○	有り
△	不十分　　(不十分な理由を「備考」に記載する
×	無し
-	受講者がいなかった。開講されなかった

〔出典：学生課資料〕

資料５－８－①－４

専攻科行事予定

平成２４年度　専攻科行事予定（前期）

4月				5月				6月				7月				8月				9月			
		授業	出席			授業	出席			授業	出席			授業	出席			授業	出席			授業	出席
1	日	春季休業（2日まで）		1	火	特別休業		1	金			7	38	1	日								
2	月	開業		2	水	特別休業		2	土					2	月								
3	火	入学式 新入生オリエンテーション		3	木	憲法記念日		3	日					3	火			12	59	2	木		
4	水	始業式（専攻生出席） 2年生オリエンテーション		4	金	みどりの日		4	月			8	39	4	水			12	60	3	金		
5	木	授業開始、身体測定・健康診断		5	土	こどもの日		5	火			8	40	5	木			12	61	4	土		
6	金			6	日			6	水			8	41	6	金			12	62	5	日		
7	土			7	月			7	木			8	42	7	土			12	63	6	月		
8	日			8	火			8	金			8	43	8	日					7	火		
9	月			9	水	バイク点検		9	土					9	月					8	水		
10	火			10	木			10	日					10	火			13	64	9	木		
11	水			11	金	専攻科推薦選抜		11	月	前期中間試験（15日まで）		9	44	11	水			13	65	10	金		
12	木			12	土			12	火			9	45	12	木	7限目 全校集会（本科生のみ） 開業		13	66	11	土		
13	金	前期学費口座振込 プログラム再試受験願締切（1,2年）		13	日			13	水			9	46	13	金	開校記念日の代休		13	67	12	日		
14	土			14	月			14	木			9	47	14	土			13	月				
15	日			15	火			15	金	欠課伝票提出		9	48	15	日			14	火				
16	月			16	水			16	土					16	月	海の日		15	水				
17	火			17	木			17	日					17	火	特別休業		16	木				
18	水			18	金			18	月					18	水	特別休業		17	金				
19	木			19	土	憲　法		19	火					19	木	特別休業		18	土				
20	金	クラスマッチ（1限～） 開校記念日		20	日			20	水					20	金			19	日				
21	土			21	月			21	木					21	土	夏季休業（8月31日まで）		20	月				
22	日			22	火			22	金	成績伝票提出				22	日			21	火				
23	月	前年度後期分再試願締切 （第1回、2年）		23	水			23	土					23	月			22	水				
24	火			24	木			24	日					24	火			23	木				
25	水			25	金			25	月					25	水			24	金				
26	木			26	土			26	火					26	木			25	土				
27	金	学校説明会		27	日			27	水					27	金	オープンキャンパス		26	日				
28	土			28	月			28	木					28	土			27	月				
29	日	昭和の日		29	火			29	金					29	日			28	火				
30	月	振替休日		30	水	専攻科前期学力選抜		30	土					30	月			29	水				
				31	木									31	火			30	木				
																		31	金	専攻科後期学力選抜・ 社会人特別選抜			

・心臓検診（新入生）　・交通安全教室　・献血　・授業料免除申請説明会　・前年度後期分再試験（第2回、2年21~28）

備考
・検尿　・胸部レントゲン撮影　・高千穂寮避難訓練　・準防寮（4/28-5/6）　・ポートフォリオ記入（1~2年、18-22日まで）　・第1回英検（一次試験）（10日）　・前年度後期分再試験（第1回、2年11~15）　・第1回英検（二次試験）（6日）

〔出典：専攻科学生便覧〕

平成２４年度　専攻科行事予定（後期）

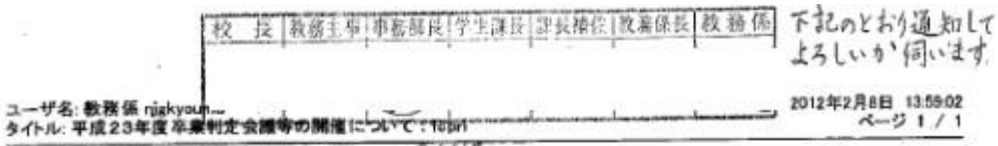
１０月			回数	出席	１１月			回数	出席	１２月			回数	出席	１月			回数	出席	２月			回数	出席	３月			回数	出席
1	月		16	86	1	木	体育競技会		18	1	土				1	火	元日			1	金		14	73	1	金	特別時間割　午前中　終業式　閉寮		90
2	火		16	87	2	金	高専祭準備		19	2	日				2	水				2	土				2	土			
3	水		16	88	3	土	高専祭，文化の日		20	3	月	後期中間試験（1年，12/7日まで）	8	40	3	木				3	日				3	日			
4	木	学位申請学内締切	16	89	4	日	高専祭		21	4	火		8	41	4	金				4	月		14	74	4	月	特別休業（19日まで），欠課・成績伝票提出，専攻科・プログラム修了判定会議		
5	金	欠課・成績伝票提出	16	90	5	月	高専祭の代休			5	水		8	42	5	土				5	火		14	75	5	火			
6	土				6	火		5	22	6	木		8	43	6	日	開寮			6	水	通常授業時間割により，学年末試験（２年、13日まで）	15	76	6	水			
7	日				7	水		5	23	7	金	欠課伝票提出	8	44	7	月	放送集会	11	55	7	木		15	77	7	木			
8	月	体育の日			8	木	寮生総会	4	24	8	土				8	火		10	56	8	金		15	78	8	金			
9	火	後期授業開始（２時限目より）	1	1	9	金		4	25	9	日				9	水		11	57	9	土				9	土			
10	水	バイク実技指導	1	2	10	土	デザコン（11日まで，小山高専）			10	月		9	45	10	木		11	58	10	日				10	日			
11	木		1	3	11	日				11	火		9	46	11	金		11	59	11	月	建国記念の日			11	月			
12	金		1	4	12	月		4	26	12	水		9	47	12	土				12	火		15	79	12	火	修了式		
13	土				13	火		6	27	13	木		9	48	13	日				13	水	月曜日の授業	15	80	13	水			
14	日				14	水	月曜日の授業	5	28	14	金	成績伝票提出	9	49	14	月	成人の日			14	木	補講日（調整日） ２年　特別時間割			14	木			
15	月		1	5	15	木	前期分再試験許可届締切	5	29	15	土				15	火		11	60	15	金	学年末試験（１年，25日まで） ２年 特別時間割，最終日		81	15	金			
16	火		2	6	16	金		5	30	16	日				16	水		12	61	16	土				16	土			
17	水	後期受講届締切	2	7	17	土				17	月		10	50	17	木		12	62	17	日	入学試験			17	日			
18	木		2	8	18	日				18	火	クラスマッチ		51	18	金		12	63	18	月	高専祭の代休 欠課・成績伝票午前中提出（2年）			18	月			
19	金		2	9	19	月		6	31	19	水	消防訓練	10	52	19	土	寮マッチ			19	火			82	19	火			
20	土				20	火		7	32	20	木		10	53	20	日				20	水			83	20	水	春分の日		
21	日	ロボコン地区大会（21日，熊本高専熊本キャンパス）			21	水	バイク点検	6	33	21	金	7限目全校集会（本科生のみ） 閉寮	10	54	21	月		12	64	21	木			84	21	木	成績発送（１年のみ） 学年末休業（31日まで）		
22	月		2	10	22	木		6	34	22	土				22	火		12	65	22	金			85	22	金			
23	火		3	11	23	金	勤労感謝の日			23	日	天皇誕生日			23	水		13	66	23	土				23	土			
24	水		3	12	24	土				24	月	振替休日			24	木		13	67	24	日				24	日			
25	木		3	13	25	日	ロボコン全国大会（両国国技館）			25	火	冬季休業（1月6日まで）			25	金		13	68	25	月			86	25	月			
26	金		3	14	26	月		7	35	26	水				26	土				26	火	特別時間割		87	26	火			
27	土				27	火	金曜日の授業	6	36	27	木				27	日				27	水	特別時間割		88	27	水			
28	日				28	水		7	37	28	金				28	月		13	69	28	木	特別時間割		89	28	木			
29	月		3	15	29	木		7	38	29	土				29	火		13	70						29	金			
30	火		4	16	30	金		7	39	30	日				30	水		14	71						30	土			
31	水	体育競技会準備（放課後～）	4	17						31	月				31	木	専攻科特別研究締切	14	72						31	日			

備考

- １０月
  - 専攻科授業担当者会議（前期分）
  - ポートフォリオ記入
    （10/1-10/5日まで）
  - 授業評価アンケート記入
    （10/1-10/5日まで）
  - 第２回英検（一次試験）（14日）
- １１月
  - 夜間ハイク（高千穂寮）
  - 第２回英検（二次試験）（11日）
- １２月
  - ポートフォリオ記入
    （1年，10-14日まで）
  - 前期分再試験（第１回、1，2年、3-7）
- １月
  - 第３回英検（一次試験）（27日）
- ２月
  - 授業料免除申請説明会
  - ポートフォリオ記入
    （2年，14-15日まで：1年，2/26-3/1日まで）
  - 授業評価アンケート記入
    （2年，14-15日まで：1年，2/26-3/1日まで）
  - 第３回英検（二次試験）（24日）
  - 前期分再試験（第2回、2年、6-13）
  - 前期分再試験（第2回、1年、15-25）
- ３月
  - 専攻科授業担当者会議（後期分）

資料５－８－①－５

専攻科修了判定会議及び生産デザイン工学プログラム修了判定会議開催通知



ユーザ名: 教務係 njgkyoun...
タイトル: 平成23年度卒業判定会議等の開催について - Mozi
2012年2月8日 13:59:02
ページ 1 / 1

専攻科長

差出人: 教務係 njgkyoumu
件名: 平成23年度卒業判定会議等の開催について
宛先: 全教職員
CC:

平成24年2月9日

教 員 各 位

校　　長

平成23年度卒業判定会議等の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますので、出席方よろしくお願いします。

記

1 日　時　　平成24年3月5日(月)13時30分～

2 会　議　　(1) 卒業判定会議
(2) プログラム修了判定会議
(3) 専攻科修了判定会議

3 場　所　　図書館第1会議室

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

成績評価は，シラバスにあらかじめ記載された評価方法により実施され，また，専攻科修了及び「生産デザイン工学」プログラム修了判定は，組織として策定された規則により判定会議で実施している。これらに関しては，学生便覧により学生に周知しており，成績評価，単位認定及び修了認定を適切に実施している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程

文化祭（高専祭）において実施している第４学年による研究発表は，創造性を育む教育方法の一つとして定着し，有効に活用している。

専攻科課程

該当なし

（改善を要する点）

準学士課程

該当なし

専攻科課程

該当なし

（３）基準５の自己評価の概要

（準学士課程）

本校では，本校が掲げる準学士課程修了時に達成されるべき能力及び素養に基づいて，学科ごとに授業科目の科目系統図を作成し，その適切な配置や学年間での連携を考慮したカリキュラム編成を行っており，授業形態にも工夫を施している。さらに，全学的あるいは各学科独自の研究発表会の開催，４年時のインターンシップへの参加の奨励等，創造性を育む教育も実施されている。一方，低学年生の学生に対しては，３年間で90時間以上の特別活動を課し，講演会等の各種事業を開催し，受講を義務付けている。また，生活指導面においては全教員が一丸となって取り組んでおり，人間の素養の涵養が図られるようきめ細やかな教育を実施している。さらに，学生の課外活動も全教員の支援の下で活発に行っており，課外活動は本校の学習・教育目標の一つである健全な心身の育成に重要な役割を果たしている。また，進級認定及び卒業認定は，「都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則」にのっとり，厳正かつ適切に行っている。

（専攻科課程）

専攻科課程は，準学士課程４学年から始まる「生産デザイン工学」プログラムの各学習・教育目標ごとに，科目の連続性，専門性，必修・選択科目等の配当などを考慮して構成しており，準学士課程の教育との連携及び教育課程の体系が確保された教育課程となっている。学生の学習環

境に関しては，他大学等で修得した単位の認定，九州沖縄地区９高専間の単位互換制度，実務実習，企業及び準学士課程卒業生・専攻科修了生による教育評価アンケート調査を実施することで，学生の多様なニーズに応えている。また，創造性を育む教育の実施に関しては，異なる専攻の学生チームで課題に取り組む「創造デザイン演習」（２年間），「専攻科特別研究」（２年間），「専攻科特別実験」（１年間），「実務実習」（３週間以上）等を重要科目として位置付け，取り組んでいる。また，個々の授業の計画，実施及び評価は，教務委員会及び専攻科委員会で定めた規則に従って作成されたシラバスに基づいて実施され，教員・学生双方によって実施の確認を行っている。研究指導に関しては，研究計画に基づき，アイデアの提案，デザイン化，具現化，中間発表，アイデアの検証，論文作成及び最終報告の作業を計画的に行っており，専攻科で修学するにふさわしい研究指導を行っている。各科目の成績評価は，シラバスに記載された方法により行い，単位認定や専攻科修了判定及び「生産デザイン工学」プログラム修了判定は，「都城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」及び「生産デザイン工学」プログラム修了要件にのっとり，厳正かつ適切に行っている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

学習・教育目標に沿った形で履修及び修得する科目を配置し，シラバスにその対応を明記している（資料６－１－①－１～３）。これに対して，学生が卒業又は修了時に身に付けるべき学力・能力等の達成状況の把握・評価を，準学士課程では進級判定会議及び卒業判定会議（資料６－１－①－４～５），専攻科課程では修了判定会議（資料６－１－①－６～７）を設置して審議を行っている。審議結果は校長に報告し，最終的な卒業又は修了の認定を決定する（資料６－１－①－８）。

観点６－１－①　資料一覧

資料６－１－①－１　低学年・高学年・専攻科シラバス
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－２　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標
〔出典：学生便覧〕

資料６－１－①－３　「生産デザイン工学」プログラムについて
〔出典：学生便覧〕

資料６－１－①－４　進級判定資料（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－５　卒業判定資料（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－６　専攻科修了判定資料（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－７　「生産デザイン工学」プログラム修了判定資料(様式)
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－８　都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則
〔出典：規則集〕

資料６－１－①－１

低学年・高学年・専攻科シラバス

科目名（英語表記）	基礎数学I (Fundamental Mathematics I)			担当教員	M:肥後昭治(非常勤講師) E:友安一夫 CA:向江頼士		
学年･学科	1年全	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	オフィスアワー	月曜8限		
学習目標	中学で学んだ数学の内容を受けて，その考え方や計算技能の習熟につとめながら，上学年における数学講義や専門科目において必要とされる方程式，関数の基本概念や簡単な図形の方程式に関して理解を深め，事象を数学的に処理する能力を深める．						
進め方	教科書に沿って基本事項を解説し，例題による具体的計算方法等を確認した後で類題による演習問題を学生各自が取り組むようにする．また，授業進度に沿って問題集を自学自習し，単元毎の小テストや演習などで理解を確認する．						

学習内容	学習項目	時間数	学習到達目標
	1. 整式の計算		
	(1) 整式の加法，減法，乗法	4	文字式の計算を素早く正確にできる．
	(2) 因数分解	5	因数分解の計算を素早く正確にできる．
	(3) 整式の除法，因数定理，組み立て除法	5	整式の除法と剰余の定理等を理解する．
	2. いろいろな数と式		
	(1) 分数式の計算	4	分数式の計算を素早く正確にできる．
	(2) 実数，平方根，複素数(複素数平面は省略可)	4	実数と複素数の基本的性質を理解する．
	3. 方程式		
	(1) 2次方程式と解と係数の関係	6	解の公式と解と係数の関係を使いこなせる．
	(2) いろいろな方程式	4	いろいろな方程式が解ける．
	[前期中間試験]	1	
	テスト返却と復習	1	
	(3) 恒等式と等式の証明	4	恒等式の扱いと等式の証明が出来る．
	4. 不等式		
	(1) 不等式の性質と不等式の解法 (2次不等式は2次関数の応用として扱い，高次不等式は省略)	2	不等号の記号の理解と1次不等式が解ける．
	(2) 不等式の証明	2	不等式の証明ができる．
	(3) 集合と命題 (時間が押した場合は簡単な説明か省略可)	4	集合記号，命題の真偽，必要･十分条件を理解する．
	5. 2次関数		
	(1) 関数のグラフと2次関数のグラフ	4	2次関数のグラフが描ける．
	(2) 2次関数の最大，最小	2	2次関数の最大値，最小値を求められる．
	(3) 2次関数と2次方程式，2次不等式	5	2次方程式，不等式への応用を理解する．
	前期末試験		
	前期末試験の返却と評価	1	
	5. いろいろな関数		
	(1) べき関数	2	偶関数，奇関数を理解する．
	(2) 分数関数	3	分数関数のグラフが描ける．
	(3) 無理関数	3	無理関数のグラフが描ける．
	(4) 逆関数	3	逆関数が求められる．
	6. 指数関数		
	(1) 累乗根と指数の拡張	6	累乗根や指数の計算を素早く正確にできる．
	(2) 指数関数	4	指数関数の性質を理解する．
	7. 対数関数		
	(1) 対数	4	対数の計算を素早く正確にできる．
	(2) 対数関数	3	指数関数の性質を理解する．
	(3) 常用対数	3	常用対数による応用問題ができる．
	[後期中間試験]	1	
	テスト返却と復習	1	
	8. 点と直線		
	(1) 2点間の距離と内分点	4	2点間の距離と内分点の座標を求められる．
	(2) 直線の方程式と2直線の関係	4	直線の方程式を自在に扱える．
	9. 2次曲線		
	(1) 円の方程式	4	円の方程式が自在に扱えるようになる．
	(1) 楕円，双曲線，放物線の方程式	6	2次曲線の方程式から曲線のグラフを描ける．
	(2) 2次曲線の接線	3	二次曲線のと直線の関係を式で記述できる．
	(3) 不等式と領域	6	不等式の表す領域を図示できる．
	学年末試験		
	学年末試験の返却と評価	1	

評価方法	各期中間試験を含む定期試験と年3回実施する実力試験と小テスト，レポート等による総合評価．	
関連科目	物理，専門科目	
教科書	新基礎数学(大日本図書)	
参考書	新基礎数学問題集(大日本図書)	
備考	問題集は各自授業に平行して行うこと．	【学習･教育目標サブ目標との対応】 2-1

微分方程式　(Differential Equation)

専攻・学年	機械工学科4年	単位・期間	必修2単位・通年週2時間(授業時間60時間)

担当教員	友安一夫	連絡先	一般科棟3階　友安研究室	オフィスアワー	月8限

【授業目的】

工学や自然科学の分野に於ける減少の記述には微分方程式が用いられることが多い．ここでは微分積分学と線形代数学で学んだ内容を踏まえて，線形微分方程式，ラプラス変換，フーリエ解析の基礎を学ぶ．授業においては問題演習を重視し，学生自身がより深い理解を得られることを目標とする．

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】

履修上の注意・事前に行う準備学習：微分積分学I，II及び線形代数学の内容を十分理解しておくことが求められる．また，3年時に学習した1階及び2階の線形微分方程式の解法を復習しておくことが望ましい．

自己学習：講義の単元毎に提示される課題のプリントを復習をかねて勉強する必要がある．

【授業の内容】

授業要目	内　容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1
1. 3年次の復習	1階・2階微分方程式の復習	1
2. 連立微分方程式の解法	連立微分方程式の解法についての解説	2
3. オイラーの斎次微分方程式	オイラーの微分方程式の初等的な解法についての解説	2
4. オイラーの非斎次微分方程式	オイラーの微分方程式の変数変換による解法についての解説	4
5. ラプラス変換の定義と計算法	ラプラス変換の定義と計算法についての解説	4
6. ラプラス変換の公式	ラプラス変換の公式についての解説と演習	2
前期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
7. 逆ラプラス変換	逆ラプラス変換の計算法の解説と演習	4
8. ラプラス変換と微分方程式	ラプラス変換による微分方程式の解法についての解説と演習	3
9. ラプラス変換と積分方程式	ラプラス変換による積分方程式の解法についての解説	3
10. ラプラス変換と種々の微分方程式	連立微分方程式や高階微分方程式の解法についての解説	1
前期末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	2
1. 周期2πのフーリエ級数	周期2πのフーリエ級数の解説と演習	3
2. 一般周期のフーリエ級数	一般周期のフーリエ級数の解説と演習	3
3. フーリエの収束定理	フーリエの収束定理の解説と演習	2
4. フーリエ級数と偏微分方程式	フーリエ級数を用いた偏微分方程式の解法についての解説と演習	6
後期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
5. フーリエ変換とフーリエ積分定理	フーリエ変換の計算法及びフーリエ積分定理の解説と演習	3
6. 偶関数，奇関数のフーリエ変換	偶関数，奇関数のフーリエ変換の計算法の解説と演習	3
7. フーリエ変換の公式	フーリエ変換の公式の解説と演習	3
8. フーリエ変換と偏微分方程式	フーリエ変換を用いた偏微分方程式の解法についての解説と演習	2
9. ラプラス変換と偏微分方程式	ラプラス変換を用いた偏微分方程式の解法についての解説と演習	2
学年末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
	合計時間	60

【達成目標】

(1) 1階・2階の常微分方程式及び連立常微分方程式が解けるようになる．
(2) ラプラス変換を使い高階の常微分方程式,連立常微分方程式,及び積分方程式を解けるようになる．
(3) フーリエ級数が計算でき,その応用として無限級数の計算や拡散方程式,波動方程式が解けるようになる．
(4) フーリエ変換が計算でき,その応用として特殊な無限積分や簡単な偏微分方程式が解けるようになる．

【成績の評価方法】

前期中間試験(20%)，前期期末試験(20%)，後期中間試験(20%)，学年末試験(20%)，演習課題(20%) より評価する．

学年末成績60点以上を合格とする．

【教科書】

微分積分II（大日本図書)，応用数学（大日本図書），
微分積分問題集（大日本図書)，応用数学問題集（大日本図書）

【参考書】

微分方程式入門：4CA微分方程式講義録（都城印刷）

【学習・教育目標との対応】　(B)　　【JABEE基準との対応】　(c)，(d)

ポートフォリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則,交流の発生についてはほぼ理解できたが,渦電流についてはあまり理解できなかった．

【試験の結果】定期試験の点数を記入し,試験全体の総評をしてください．(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが,応用問題が解けず,理解不足だった．

【総合達成度】では,【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか,記入してください．

【授業計画の説明】(実施状況の記入)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】 試験の点数(　　)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】 試験の点数(　　)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】 試験の点数(　　)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】 試験の点数(　　)

【総合達成度】 総合評価の点数(　　)

【評価の実施状況】総合評価を出した後に,教員が記入してください．

解析学特論 (Special Theory of Analysis)

専攻・学年	全専攻・１年	単位・期間	選択2単位・後期週2時間（授業時間30時間）		
担当教員	友安一夫	連絡先	一般科目棟３階　友安研究室	オフィスアワー	月曜日9限

【授業目的】

現代工学に欠かすことのできない簡単な常微分方程式や偏微分方程式を解けるようになることを目標とする.

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】

履修上の注意:事前に行う準備学習:本科における微分積分,線形代数,微分方程式を十分理解しておくことが望ましい.また,ラプラス変換,フーリエ級数,フーリエ変換の知識もあることが望ましい.
自己学習:講義の単元毎に提示される課題のプリントを毎回復習をかねて勉強する必要がある.

【授業の内容】

授業要目	内容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	0.5
1.偏微分方程式の一般解	変数変換することで偏微分方程式の一般解が簡単に求められる場合の解法と線形一階編微分方程式の特性曲線法による解法について解説をする.	5.5
2.連立偏微分方程式の解法	固有値,固有ベクトルの手法を用いて解ける連立線形偏微分方程式の解法の解説をする.	2
3.微分演算子と二階偏微分方程式	微分演算子を用いて二階線形偏微分方程式の一般解を1階線形偏微分方程式を解くことに帰着できる問題の一般解を求める解法について解説をする.	4
4.拡散方程式の解法	有限な領域における拡散方程式に対してフーリエの手法による解法について解説をする.	2
後期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	0.5
5.波動方程式の解法	有限な領域における波動方程式に対してフーリエの手法による解法について解説をする.	1.5
6.非斎次線形偏微分方程式の解法I	非斎次型の拡散方程式の解法について解説する.	2
7.非斎次線形偏微分方程式の解法II	非斎次型の波動方程式の解法について解説する.	2
8.フーリエ変換による無限な領域での拡散方程式の解法	無限な領域における拡散方程式の解法について解説をする.	2
9.フーリエ変換による無限な領域での波動方程式の解法	無限な領域における波動方程式の解法について解説をする.	2
10.ラプラス変換による線形微分方程式の初期値問題の解法	ラプラス変換による拡散方程式,波動方程式の解法について解説をする.	4
学年末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
	合計時間	30

【達成目標】

1) 適当な変数変換で常微分方程式に帰着できる偏微分方程式を解けるようになる.
2) 特性曲線法により簡単な1階及び2階の偏微分方程式を解けるようになる.
3) 拡散方程式,波動方程式,ラプラス方程式を解けるようになる.
4) ラプラス変換により簡単な線形偏微分方程式の初期値問題を解けるようになる.

【成績の評価方法】

レポート(20%), 中間試験(40%), 期末試験(40%)で評価する.

【評価基準】学年成績60点以上を合格とする.

【教科書】

偏微分方程式入門：解析学特論講義録（都城印刷）

【参考書】

洲之内源一郎、フーリエ解析とその応用(サイエンス社)

渋谷仙吉他著、偏微分方程式(裳華房)

【学習・教育目標との対応】　(B)　【JABEE基準との対応】　(c)、(d)

ポートフォリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合い】(記入例)ファラデーの法則, 交流の発生についてはほぼ理解できたが, 渦電流についてはあまり理解できなかった.

【試験の結果】定期試験の点数を記入し, 試験全体の総評をして下さい.（記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが, 応用問題が解けず, 理解不足だった.

【総合達成度】では,【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか, 記入して下さい.

【授業計画の説明】(実施状況の記入)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】 試験の点数(　　)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

【試験の結果】 試験の点数(　　)

【総合達成度】 総合評価の点数(　　)

【評価の実施状況】総合評価を出した後に, 教員が記入してください.

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－２

準学士課程の学習・教育目標とサブ目標

１．あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成

１－１
社会の要求あるいは学問的関心に基づいたアイデアを検証することができる基礎技術を身につけていること
１－２
専門技術に関する創造的構想を具現化するための基礎技術を身につけていること
１－３
社会の要求あるいは学問的関心に基づいた問題を自ら発見し、その問題を理論的に解決するための基礎知識および基礎技術を身につけていること

２．科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成

２－１
工学の専門科目の基礎となる数学、自然科学および情報科学の理論を理解し説明できること
２－２
技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解し説明できること
２－３
工学に関する問題点を理解し、適切に対処できること
２－４
性能、安全性、環境への影響、経済性または審美性などを配慮できること

３．世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成

３－１
日本の内外の歴史や文化に関するさまざまな事柄を認識できること
３－２
社会のさまざまな価値観や規範を理解し、社会の構成員としての自覚を持っていること
３－３
言語等の表現手段によって他者と意思などを疎通させる能力を持っていること

４．自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成

４－１
科学技術が自然・社会環境に影響を及ぼす諸問題を理解できること
４－２
関連する人々と協力して、自分の研究や実験課題に積極的・計画的に取り組むことができること
４－３
心身の健康を保持増進し、生涯にわたるスポーツ活動ができる基礎能力を身につけていること

〔出典：学生便覧〕

付5　「生産デザイン工学」プログラムについて

(1)　「生産デザイン工学」プログラム概要

「生産デザイン工学」プログラムとは、本校の教育理念である「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を目的とした４年間の教育プログラムである。また、本プログラムは、「豊かな創造性」、「優れた知性」、「高度な社会性」、「確かな実行力」、「健全な心身」（（2）に示す（A）～（D）のキーワード）を学習・教育目標として掲げ、各専門工学ばかりでなく、それらの専門分野が複合した幅広い工学領域でも活躍できる実践的技術者を育成できるように構成されている。さらに、本プログラムはJABEE※にも対応できるように作られている。

※　JABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education）とは、平成11年に設立された日本技術者教育認定機構（制度）のことで、大学や専攻科を設置している高等教育機関の教育プログラムの認定審査を行う機関である。

本校は平成16年度（2004年度）、「生産デザイン工学」プログラムをJABEEに申請し、平成17年５月、本プログラムが2004年度認定プログラムとして認定された。また、平成21年度（2009年度）にJABEE認定の継続審査を受け、平成26年度（2014年度）まで継続してJABEE対応プログラムとして認定された。これにより、本校の専攻科修了生は、専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが保証され、「修習技術者」の資格を得ることができるようになった。また、申請により技術士補の免許が得られ、この免許があれば技術者として最高レベルの１つである「技術士」の資格を取るとき、その１次試験が免除される。

(2)　学習・教育目標

「生産デザイン工学」プログラムには、以下の４つの学習・教育目標［（A）～（D）］が定められ、これらの学習・教育目標を達成するために、さらに具体的なサブ目標（A1）～（D3）が定められている。本プログラムを修了するには、これらのサブ目標（A1）～（D3）をすべて達成する必要があり、「生産デザイン工学」プログラムの修了要件を満たさなければならない。

（A）あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成
- (A1) 社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案し、その検証・改善が継続的にできること。
- (A2) 専門技術に関する創造的な構想を、デザイン化するためのトレーニングを通じて、具体的な成果としてまとめられること。

（B）科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成
- (B1) 解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的な専門工学を学ぶのに必要な理論を理解して説明や応用ができること。
- (B2) 技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解して説明や応用ができること。
- (B3) 工学に関する問題点を見出し、その解決方法を提案できること。
- (B4) 性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規生産技術をデザインできること。

(C) 世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成
- (C1) 地球的視点から世界の歴史・文化および倫理を学び、生活様式や価値観の多様性を認識できること。
- (C2) 自分の住んでいる地域の文化を学び、その特徴を説明できること。
- (C3) 具体的な事例をもとに、技術者が負っている社会的責任を理解できること（技術者倫理）。
- (C4) 英語で書かれた専門分野の文献が読解できること。
- (C5) 日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること。
- (C6) 日本語で自分の意見や研究成果を論理的に記述し、その内容について口頭発表および討議ができること。

(D) 自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力と健全な心身を有する技術者の育成
- (D1) 科学技術が都城圏域をはじめ地球の自然・社会環境に及ぼす諸問題を理解し、説明できること。
- (D2) 自分の研究や実験課題に関して、自主的、継続的に最新の技術情報を収集し、妥当な結論を導けること。
- (D3) 実習や研究に関連する人と協力し、期限内に成果をまとめられること。

(3)　「生産デザイン工学」プログラムを構成する科目について

「生産デザイン工学」プログラムは、１）文科系科目、２）自然科学系科目、３）専門の基礎科目、４）専門工学科目の４つの科目群より構成されている。以下に各々の科目群に属する主な科目を列挙した。（すべての科目については、「生産デザイン工学プログラム履修の手引き」を参照すること。）なお、本科で開講されている科目の中には、保健体育など一部の科目で、本プログラムに含まれないものもある。

1）文科系科目

【本　科】　語学系：国語、英語、ドイツ語
社会系：歴史学概論、社会学、法学、哲学、産業財産権法、国際文化論

【専攻科】　語学系：文章表現法、中国古典学、総合英語、実用英語
社会系：歴史学、倫理学、技術者倫理、知的財産権

2）自然科学系科目（専門科目を学ぶための基礎となる科目）

【本　科】　数学系：微分方程式、応用数学
物理系：応用物理

【専攻科】　数学系：線形数学、解析学特論、統計学特論
物理系：応用物理特論、応用物性論
自然科学系：一般化学、一般力学、地球環境科学
情報技術系：応用情報工学
専門英語：科学技術英語（建築英語）

3）基礎工学科目（各学科・専攻で異なり、次の５群からなる科目群が含まれる。）

①設計・システム系科目群　②情報・論理系科目群
③材料・バイオ系科目群　④力学系科目群　⑤社会技術系科目群

【本　科】　熱力学、電磁気学、物理化学、構造力学などの多くの専門科目

【専攻科】　本科と同様に各専攻の専門科目

4）専門工学科目（ここでの専門工学とは「生産デザイン工学」のことであり、本プログラムの特徴ある科目で、上記の１）～３）の科目の集大成とも言える科目である。）

【本　科】　実験、卒業研究
M科：創造設計　　E科：電気電子情報設計
C科：物質・生物工学演習　A科：建築設計演習

【専攻科】　実験、特別研究、実務実習、創造デザイン演習
建築・構造設計演習（A専攻）、その他

(4)　「生産デザイン工学」プログラムの修了要件

「生産デザイン工学」プログラムを修了するには、以下のⅠ～Ⅶの要件をすべて満たす必要がある。

Ⅰ．学士の学位を取得していること。

Ⅱ．学協会等で発表を行っていること。

Ⅲ．「生産デザイン工学」プログラムの学習・教育目標の達成度評価基準（表４）を満たしていること。

学習・教育目標（B2）を除く学習・教育目標の達成度評価基準については、表４付表、表５、表７を参照。

学習・教育目標（B2）の学習・教育目標の達成度評価基準については、表６、表７を参照。

Ⅳ．基礎工学の知識・能力を養うために、次の科目を修得していること。

1）自然科学系科目の内、下記の科目を修得していること。
数　学　系：微分方程式、応用数学、線形数学、解析学特論
物　理　系：応用物理、応用物理特論
自然科学系：一般化学（物質工学専攻生は専門科目で代用）、地球環境科学

2）基礎工学科目の内、下記の各科目群から少なくとも１科目、合計最低６科目を修得していること。
（表３・表７参照）
①設計・システム系科目群　②情報・論理系科目群
③材料・バイオ系科目群　④力学系科目群　⑤社会技術系科目群

Ⅴ．専門工学科目は全て修得していること。（表３・表７参照）

Ⅵ．「生産デザイン工学」プログラム科目を合計で124単位以上修得していること。

Ⅶ．プログラム１年～４年（本科４年～専攻科２年）の期間に、「生産デザイン工学」プログラム科目で修得した単位の授業時間（実時間）が、1,600 時間以上であること。実時間での１時間とは60分のことである。また、この1,600時間の中に、ア）～ウ）を含んでいること。

ア）人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習時間：250 時間以上

イ）数学、自然科学、情報技術の学習時間：250 時間以上

ウ）専門分野の学習時間：900 時間以上

※「表」については、「生産デザイン工学プログラム履修の手引き」を参照すること。

(5)　履修にあたっての注意事項

1）「生産デザイン工学」プログラムの対象科目について

本プログラムの対象となる科目は、本科４学年（生産デザイン工学プログラム１年）以上の科目となるので、本科３学年以下で修得した科目の単位を本プログラムの単位として認定することはできない。また、工業高等学校もしくは工業に関する学科から本科４年次に編入学する場合（生産デザイン工学プログラムの１年次に編入する場合）も、編入学前に修得した単位を、本

プログラムの単位として認定することはできない。

2）専攻科入学時に必要な科目および単位について

プログラム２年生から３年生に進む場合、プログラム２年生までに修得すべき科目および単位数は、次のとおりとする。

① 本校のプログラム２年生（本科５年生）から３年生（専攻科１年生）に進む場合

本科で修得すべき科目および単位数は、本校本科の卒業要件（学生便覧別表第１および別表第２）を満たしていれば良いこととする。ただし、本プログラムに必要な科目および単位数は、プログラム終了時までに、再試験等により、すべて修得する必要がある。

② 本校以外の教育機関からプログラム３年生（本校専攻科１年生）に進む場合

本校以外の教育機関からプログラム３年生（本校専攻科１年生）に進む場合は、専攻科入学試験があるので、専攻科学生募集要項入学案内の出願資格があれば、修得すべき科目および単位数の制限はない。ただし、本校以外の教育機関で修得した科目の単位については、本プログラムの単位として認定できるかどうか、審査が行われる。

3）他専攻において修得する単位認定について

他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、６単位を限度として修得単位数に加えることができる。

4）専攻科における他の高等教育機関で修得する単位認定について

専攻科１・２学年において、他の高等教育機関で修得した単位に関しては、プログラム対応科目への読み替えによって、本プログラム科目に加えることができる。本プログラム科目に加えることができる単位数は最大で16単位とする。

5）プログラム必修科目を修得できなかった場合の取り扱いについて

本科４・５年のプログラム必修科目は、本科在学中に単位を修得することが望ましい。しかし、修得できなかった場合は、出席時数が単位修得に必要な時数を上回っている場合は、「プログラム再試験制度」により60点以上の評価を受ければ、プログラムの修得単位として認定される。また、出席時数が単位修得に必要な時数に満たない場合は、「プログラム再履修制度」により、専攻科在学中に再受講（受講料は必要なし）し、単位修得としての評価を受ければ、プログラムの修得単位として認定される。両制度の適用を希望する場合、当該学生は教科担当教員の承諾を得て、「生産デザイン工学」プログラム用再試験受験願、もしくは「生産デザイン工学」プログラム用再履修許可願を専攻科入学後、所定の期日までに教務係へ提出しなければならない。なお、これらの制度の適用を受けた科目が、プログラムの修得単位として認定されても、本科成績には一切反映されない。

〔出典：学生便覧〕

進級判定会議資料 平成24年3月14日	1

取扱注意

平成２３年度
進級判定資料

（＊ページ）

進級判定一覧	1

	学科	判定資料	成績表	欠課表
１年	機械工学科	2	3	4
	電気情報工学科	5	6	7
	物質工学科	8	9	10
	建築学科	11	12	13

	学科	判定資料	成績表	欠課表
２年	機械工学科	14	15	16
	電気情報工学科	17	18	19
	物質工学科	20	21	22
	建築学科	23	24	25

	学科	判定資料	成績表	欠課表
３年	機械工学科	26	27	28
	電気情報工学科	29	30	31
	物質工学科	32	33	34
	建築学科	35	36	37

	学科	判定資料	成績表	欠課表
４年	機械工学科	38	39	40
	電気情報工学科	41	42	43
	物質工学科	44	45	46
	建築学科	47	48	49

	判定資料	成績表	欠課表
外国人留学生		50	51

平成２３年度　　進級判定一覧

平成２４年３月１４日現在

学年	学科	在籍者数	休学者数	在学者数	判定		備考
					進級	原級	
第1学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
第2学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
第3学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
第4学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
合計							

＊＊＊　１年　機械工学科　＊＊＊

１Ｍ

No.	氏名	前学年までの修得単位累計			当年度の修得単位数			修得単位累計			前学年までの未修得単位累計	未修得単位累計		特別活動			進級状況						前学年までの未修得科目（単位数）	指定科目Ａ	指定科目Ｂ	判定
		一般科目	専門科目	計	一般科目	専門科目	計	一般科目	専門科目	合計		合計	（うち回復可能単位数）	1	2	3	1	2	3	4	5					

＊＊＊　１年　機械工学科　＊＊＊

氏名	科目名	国語	総合社会Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ	物理	科学Ⅰ(化学)	保健体育	英語	オーラル英語	英作文	情報基礎Ⅰ	美術(選)	音楽(選)	設計製図	工作実習	機械工学概論	特別活動	計	平均	順位
	教員名	望月	吉井	野町	鬼塚	田原	森	永松他	宮沢	笹谷	山之内	中村博	満木	今村	白岩	小薮	M科	宮沢			
	単位	3	2	4	2	2	4	3	3	2	1	2	1	1	2	3	1				

＊＊＊　１年　機械工学科　＊＊＊

氏名	科目名	国語	総合社会Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ	物理	科学Ⅰ(化学)	保健体育	英語	オーラル英語	英作文	情報基礎Ⅰ	美術(選)	音楽(選)	製図	工作実習	機械工学概論	特別活動	計	合計	%	＊：2.5%
	教員名	望月	吉井	野町	鬼塚	田原	薗	永松他	宮沢	笹谷	山之内	中村博	満木	今村	白岩	小敷	M科	宮沢				
	ALL	91	60	120	60	62	117	88	89	60	31	62	30	30	61	90	30	60				
	MAX	22	15	30	15	15	29	22	22	15	7	15	7	7	15	22	7	15				
	番号 区分												選1	選2								

卒業判定会議資料 平成24年3月5日	1

取扱注意

平成　２３　年度

卒　業　判　定　資　料

卒業判定一覧		1
機械工学科	卒業判定資料（単位修得状況一覧）	2
	成績一覧（５年）	3
	欠課時数一覧（５年）	4
電気工学科	卒業判定資料（単位修得状況一覧）	5
	成績一覧（５年）	6
	欠課時数一覧（５年）	7
物質工学科	卒業判定資料（単位修得状況一覧）	8
	成績一覧（５年）	9
	欠課時数一覧（５年）	10
建築学科	卒業判定資料（単位修得状況一覧）	11
	成績一覧（５年）	12
	欠課時数一覧（５年）	13
外国人留学生	成績一覧・欠課時数一覧（５年）	14
	欠課時数一覧（５年）	15

平成　23　年度　　卒業判定一覧

平成　24 年　3月　5日現在

学　科	在籍者数	休学者数	在学者数	判　定		備　　考
				卒　業	原　級	
機械工学科						
電気情報工学科						
物質工学科						
建築学科						
計						

＊＊＊　５年　機械工学科　＊＊＊

５Ｍ

No.	氏名	前年度までの修得単位累計			当年度の修得単位数			修得単位累計			前年までの未修得単位数累計	未修得単位累計		特別活動			進級状況						前学年までの未修得科目（単位数）	指定科目Ａ	指定科目Ｂ	判定
		一般科目	専門科目	合計	一般科目	専門科目	計	一般科目	専門科目	合計		合計	（うち回復不可能単位数）	1	2	3	1	2	3	4	5				

＊＊＊　５年　機械工学科　＊＊＊

氏名	科目名	保健体育	英語	国際文化論Ⅰ(選)	国際文化論Ⅱ(選)	哲学(選)	産業財産権法(選)	材料力学	機械設計法	設計製図	工学実験	熱機関	機械力学	自動制御	流体機械	電気工学概論	工業外国語	技術者倫理概論	卒業研究	流体力学(選)	伝熱工学(選)	塑性加工(選)	生産工学(選)	メカトロニクス(選)	強度解析学(選)	計	平均	順位
	教員名	武田	西村	飯尾	田村	藤永	吉井	高橋明	豊廣	土井	M科	河野	佐藤	小藪	高橋勇	待木	高木	渡邉	M科	高橋勇	長瀬	山中	渡邉	小藪	野村			
	単位	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	3	2	2	1	2	2	1	10	1	1	1	1	1	1			

＊＊＊＊　５年　機械工学科　＊＊＊＊

氏名	科目名	保健体育	英語	国際文化論Ⅰ(選)	国際文化論Ⅱ(選)	哲学(選)	産業財産権概論(選)	材料力学	機械設計法	製図	工学実験	熱機関	機械力学	自動制御	流体機械	電気工学概論	工業外国語	技術者倫理	卒業研究	流体力学(選)	伝熱工学(選)	塑性加工(選)	生産工学(選)	メカトロニクス(選)	強度解析学(選)	計	合計	%	＊：2.5%
	教員名	武田	西村	飯尾	田村	藤永	吉井	高橋明	豊廣	土井	M科	河野	佐藤	小薮	高橋勇	待木	高木	渡邉	M科	高橋勇	長嶋	山中	渡邉	小薮	野村				
	ALL	32	60	61	60	60	60	32	30	64	60	90	60	60	30	61	61	30	300	32	30	32	30	30	30				
	MAX	8	15	15	15	15	15	8	7	16	15	22	15	15	7	15	15	7	75	8	7	8	7	7	7				
	番号	区分		選1	選2	選3	選4													選5	選6	選7	選8	選9	選10				

資料６－１－①－６

専攻科修了判定資料（様式）

平成２３年度

専攻科修了判定会議資料

平成24年3月5日

取扱注意

専攻科の修了要件

○都城工業高等専門学校学則

（修了）
第４６条　専攻科に２年以上在学し、所定の授業科目のうち６２単位以上を修得した者について、修了を認定する。

○都城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則

（修了に必要な単位等）
第１０条　専攻科の修了は、学則第４６条に規定するもののほか、次の表に掲げる区分による単位を修得し、かつ、「生産デザイン工学」プログラムの修了要件のうち、
次の各号に掲げる要件以外の修了要件を満たさなければならない。
(1)学士の学位を取得していること。
(2)ＴＯＥＩＣ試験４００点相当以上であること。

専攻	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	合計
機械電気工学専攻	6単位以上	8単位以上	38単位以上	62単位以上
物質工学専攻	6単位以上	8単位以上	38単位以上	62単位以上
建築学専攻	6単位以上	8単位以上	38単位以上	62単位以上

単位の修得状況

No.	専攻	氏名	一般科目			専門共通科目			専門専攻科目			修得単位数合計	「生産デザイン工学」プログラム修了要件（学位取得を除く。）	判定
			必修	選択	計	必修	選択	計	必修	選択	計			
			2単位		6単位以上	4単位		8単位以上	28単位		38単位以上	62単位以上		
1	機械電気工学専攻													
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11	物質工学専攻													
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18	建築学専攻													
19														
20														
21														
22														
23														

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－①－７

「生産デザイン工学」プログラム修了判定資料(様式)

平成２３年度

「生産デザイン工学」プログラム修了判定会議資料

平成２４年３月５日

平成２３年度「生産デザイン工学」プログラム修了要件

「生産デザイン工学」プログラムを修了するには、以下の(1)～(6)の要件を全て満たしていなければならない。

(1) 学習・教育目標(A)～(D)を全て達成していること（サブ目標(A1)～(D3)を全て達成していることが必要)。

※ 各サブ目標に記載された必修科目および選択必修科目を修得すること。
※ 各サブ目標に記載された条件（アイデアに関する評価や TOEIC 試験 400 点相当等）を満たすこと。

(2) プログラム 1～4 年（本科 4 年～専攻科 2 年）で、本教育プログラムの対象となっている科目のうち受講科目の総授業時数が、1,600 時間以上であること。なお、この 1,600 時間の中に、以下のア）～ウ）を含んでいること。

ア）人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習時間：250 時間以上
イ）数学、自然科学、情報技術の学習時間：250 時間以上
ウ）専門分野の学習時間：900 時間以上

※ ここでの 1 時間とは 60 分である。

(3) 以下の基礎工学科目を修得していること。

a）数学に関する科目（微分方程式・応用数学・線形数学・解析学特論）を修得していること（○a 印で記載）。
b）科学に関する科目（応用物理・応用物理特論・一般化学〔物質工学専攻は専門科目で代用〕）・地球環境科学）を修得していること（○b 印で記載）。
c）次の各科目群から少なくとも1科目、合計最低 6 科目を修得していること（c-①、c-②、c-③、c-④、c-⑤ 印で記載）。

① 設計・システム系科目群　② 情報・論理系科目群　③ 材料・バイオ系科目群
④ 力学系科目群　⑤ 社会技術系科目群

(4) プログラム 1～4 年（本科 4 年～専攻科 2 年）で、124 単位を修得していること。

(5) 学士を取得していること。

(6) 各学協会等で発表を行なっていること。

平成２３年度　学習・教育目標達成度評価　修了判定項目

プログラム 修了判定項目			（1）				（2）	（3）基礎工学			総合評価			判定
			学習・教育目標の達成					a)	b)	c)	（4）	（5）	（6）	
			(A)	(B)	(C)	(D)	学習保証時間の達成	数学の科目：微分方程式、応用数学、線形数学、解析学特論の修得	科学：応用物理、応用物理特論、一般化学（物質工学専攻生は専門科目で代用）、地球環境科学	①～⑤の科目群から少なくとも１科目、合計最低６科目の修得	① 全体で124単位以上の修得	② 学士の取得	③ 各学協会等での発表	
No.	専攻	氏名												
1	機械電気工学専攻													
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11	物質工学専攻													
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18	建築学専攻													
19														
20														
21														
22														
23														

平成２３年度専攻科修了生　専攻科特別研究等における各達成事項の評価一覧

番号	専攻名	科目	卒業研究							専攻科特別研究										実務実習		創造デザイン演習	歴史学			倫理学			
		学年	本科5年							専攻科1年		専攻科2年								専攻科1年		専攻科□2年	専攻科1年			専攻科1年			
		項目	①	②	③	④	⑤	⑥卒研論文（卒業設計）	⑦プレゼンテーション・質疑応答	①、②	③	①	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	①	②	レポートと製作物の評価	①	② C1	② C2	①	② C1	② C2	② D1
		採点方法 氏名	3段階法（2(6割)以上必要）					100点法（60点(6割)以上必要）		合否※		3段階法（2(6割)以上必要）						50点法（30点(6割)以上必要）	25点法（15点(6割)以上必要）		100点法（60点(6割)以上必要）		100点法（60点(6割)以上必要）	100点法（60点(6割)以上必要）				100点法（60点(6割)以上必要）			
1	機械電気工学専攻																												
2																													
3																													
4																													
5																													
6																													
7																													
8																													
9																													
10																													
11	物質工学専攻																												
12																													
13																													
14																													
15																													
16																													
17																													
18	建築学専攻																												
19																													
20																													
21																													
22																													
23																													

※専攻科特別研究（1年）①、②においては、合格をもって6割以上の評価とする。

表3の付録　履修にあたっての留意事項（表3より抜粋）

〔成19年度以降専攻科入学者に適〕

科目		単位の修得以外に注意すること（［　］内はサブ目標の対応を示す。）
本科	実験	調査した情報（参考書、インターネット、文献など）とその出典をレポートに記載すること（評価は各実験ごとで異なる）。［D2］
	卒業研究	①　卒業研究論文の緒言では、デザイン化における、性能・環境への影響・安全性・経済性または審美性などについて明確に記載すること（6割以上の評価が必要）。［B4］ ②　卒業研究論文はアイデアを基にした具体的な研究計画・方法に留意して作成すること　（デザイン化とその具現化に関する評価が6割以上必要）。[A2] ③　中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点があれば、その点に留意して卒業論文を作成すること（問題解決に関する評価が6割以上必要）。[B3] ④　研究論文には研究に必要な参考文献を記載すること　（情報収集についての評価が6割以上必要）。［D2］ ⑤　研究論文は、科学技術論文としてふさわしい表現で論理的に記述すること　（論理的記述の評価が6割以上必要）。　［C6］ ⑥　卒業研究論文の評価が6割以上であること。　［D2］, ［D3］ ⑦　発表会のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること。［C6］
専攻科	特別実験	調査した情報（参考書、インターネット、文献など）とその出典をレポートに記載すること（評価は各実験ごとで異なる）。［D2］
	特別研究（１年）	①　アイデアの提案（研究目的）に関するレポートを提出すること。［A1］ ②　中間発表会後、アイデアの検証・改善に関するレポートを提出すること　（①と②の評価が6割以上であること）。［A1］ ③　中間発表会において指摘された問題点を記載したレポートを提出すること。［B3］
	特別研究（２年）	①　特別研究論文の緒言では、社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアについて記載すること（6割以上必要）。[A1] ④　特別研究論文の緒言では、デザイン化における、性能・環境への影響・安全性・経済性または審美性などについて明確に記載すること（6割以上の評価が必要）。[B4] ⑤　特別研究論文は、アイデアを基にした具体的な研究計画や方法に留意して作成すること　（デザイン化とその具現化に関する評価が6割以上必要）。[A2] ⑥　中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点があれば、その点に留意して研究論文を作成すること（問題解決に関する評価が6割以上必要）。[B3] ⑦　特別研究論文には研究に必要な参考文献を記載すること　（情報収集についての評価が6割以上必要）。[D2] ⑧　特別研究論文は、科学技術論文としてふさわしい表現で論理的に記述すること　（論理的記述の評価が6割以上必要）。［C6］ ⑨　特別研究論文の評価が6割以上であること。[D2] [D3] ⑩　特別研究論文の概要（梗概）の評価が6割以上であること。[D3] ⑪　発表会のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること。［C6］
	実務実習	①　実務実習報告書の評価が6割以上であること。[C6] [D3] ②　発表会のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること。　［C6］
	創造デザイン演習	レポートと製作物の評価の平均が6割以上であること。　［A2］
	歴史学	①　総合評価が60点以上であること。 ②　サブ目標（C1）および（C2）に関するレポートの評価が各々6割以上であること。
	倫理学	①　総合評価が60点以上であること。 ②　サブ目標（C1），（C2），（D1）に関するレポートの評価が各々6割以上であること。

［出典：学生課資料］

資料６－１－①－８

都城工業高等専門学校学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校学則に定める学生の学業成績評価及び課程の修了並びに進級・卒業の認定等について定める。

第２章　科目の履修及び単位の修得

（科目の履修及び単位の修得）

第２条　開設された授業科目のうち必修科目については全科目を、選択科目については所定科目を、それぞれ履修して、成績の評価を受け、当該科目に対する単位を修得しなければならない。

（選択科目の受講）

第３条　選択科目を履修する場合は、選択科目受講願（様式第１号）により、学級担任を経て教務係へ提出しなければならない。

２　前項の提出期限は通年及び前期のみの科目については、前年度の１月３０日、後期については７月５日までとする。

第４条　受講科目の変更は、原則として認めない。ただし、特別の事由のある場合はこの限りでない。

２　受講生が極端に少ない科目がある場合は、教務委員会で審議し、受講科目を調整することがある。

３　前項により調整された学生への連絡は、学級担任が行い、当該学生は改めて受講願を提出しなければならない。

第５条　受講を許可された選択科目については、必修科目に準じて取り扱う。

（科目履修の認定要件）

第６条　当該科目の出席時数が４分の３以上の者は、履修したものと認定する。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者とすることができる。

（特別活動履修の認定要件）

第７条　特別活動の履修を認定するために必要とする出席時数については、前条を準用する。

（単位修得の認定要件）

第８条　履修した科目の評価が、第１４条第３項に該当する場合、単位の修得が認められる。

第３章　学業成績の評価

（試験）

第９条　試験は、各期末に行う定期試験を原則とし、そのほか中間試験を行うことができる。

２　試験は、筆答試験とする。ただし、実験及び実習等特別な科目については、実技を課し、又は作品若しくは報告書等の提出によりこれに代えることができる。

３　試験の期日・時間割等は試験開始日の１２日前に告示するものとする。

第１０条　試験開始後 20 分を経過した遅刻者は、当該科目の試験を受けることができない。

第１１条　正当な事由がなく試験を受けなかった者の当該試験の成績は０点とする。

（追試験）

第１２条　正当な事由により試験を受けなかった者に対しては、願い出により追試験を行う。

２　前項の追試験を希望する者は、当該試験終了後授業開始日から５日以内（ただし、学年

末試験にあっては３日以内とし、いずれも土日は含まない。）に追試験許可願（様式第２号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。

３　正当な事由がなく前項の追試験を受けなかった者の当該試験の成績は０点とする。

（不正行為）

第１３条　試験中不正行為のあった者は、直ちに受験を停止し、当該試験期間の全試験の成績を０点とする。

２　不正行為をほう助（援助）した者については、前項に準じた扱いとする。

（成績の評価）

第１４条　各期における成績の評価は、試験の成績及び平素の学習状況等を総合し、100 点法により行う。ただし、100 点法による評価が困難な科目については、合格又は不合格とする。

２　学年成績の評価は、次の各号により行うものとする。

(1) 学年を通じて履修する科目については、各期の成績を総合する。

(2) 前期又は後期のみで履修する科目については、各期の成績とする。

３　各科目の単位の修得については、その成績の評価が 60 点以上又は合格の場合とする。

第１５条　前条第２項の評価に当たっては、第６条に定める認定要件を充足しない科目の評価は、59 点以下又は不合格とする。

（報告）

第１６条　教員は、試験終了後速やかに担当科目についての成績を評価し、校長に報告しなければならない。

（評語及び評点）

第１７条　学業成績の評語及び評点は、それぞれ次のとおりとする。

学業成績の点数	評語	評点
８０点　～　１００点	優	5
７０点　～　７９点	良	4
６０点　～　６９点	可	3
３０点　～　５９点	不可	2
２９点以下	不可	1

（再試験）

第１８条　未修得科目の追認のために行う試験（以下「再試験」という。）は前学年における単位未修得の科目について行う。

２　再試験を受験することができる者は、当該科目について第６条に定める履修を認定された者に限る。

３　再試験は筆答試験を原則とする。

第１９条　再試験の実施時期は、前期にあっては５月とし、後期にあっては１月とする。ただし、第５学年については、前期にあっては６月とし、後期にあっては１２月とする。

２　再試験の期日・時間割等については、その都度告示する。

第２０条　再試験を受験希望の者は、当該年度前・後期に実施される再試験毎に再試験許可願（様式第３号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。

２　再試験許可願の提出期限は、前期実施分については４月２１日まで、後期実施分については１１月１５日までとし、それぞれの期日までに提出のない者については、受験希望がないものとして処理する。

３　前期再試験の成績が、著しく不良と判定された者又は正当な事由がなく前期再試験を受けなかった者については、当該科目について後期再試験の受験を許可しないことがある。

第２１条　正当な事由がなく再試験を受けなかった者の当該試験の成績は０点とする。

第２２条　教員は、再試験終了後速やかに担当科目についての成績を評価し、校長に報告しなければならない。

２　再試験に合格した科目の単位については、その科目の履修年度にさかのぼり追認し、その評価は 60 点とする。

第２３条　正当な事由により再試験を受けなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことができる。

２　前項の追試験を希望する者は、当該試験終了後５日以内（土日は含まない。）に追試験許可願（様式第２号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。

第２４条　第１８条第１項の規定にかかわらず、次に掲げる科目は、再試験を実施しない。

学　科　等	再試験を実施しない科目
機械工学科	設計製図、創造設計、工学実験、基礎実験、工作実習、機械工学概論
電気情報工学科	電気製図、電気情報工学ゼミ
物質工学科	設計製図、物質工学演習、生物工学演習
建築学科	建築学研究、建築学実験
一般科目	保健体育、美術、音楽

２　前項に掲げる科目以外で再試験の実施に支障を来す科目がある場合は、その都度教務委員会で審議する。

（成績の通知）

第２５条　前期の成績及び学年の成績は、その評価の確定後速やかに保護者に通知するものとする。

（成績の証明）

第２６条　成績証明書への記入、外部に対する成績の通報等を行う場合は、評語又は評点により行うことを原則とする。

第４章　課程の修了及び進級・卒業の認定

（学年課程修了の認定）

第２７条　校長は、次の各号に掲げるすべての要件を満たした者について、各学年の課程を修了したものと認定する。

(1)　学年末において、別表第１に定められた単位数以上を修得している者

(2)　第１学年から第３学年までにあっては、特別活動を履修したと認められる者

(3)　学年末において、別表第２に該当する者

(4)　当該学年の出席時数が年間総授業時数の４分の３以上出席している者。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者とすることができる。

２　校長は、前項の認定に当たっては、進級判定会議に諮るものとする。

第２８条　各学年の修了を認められた者は、上級学年に進級させる。

第２９条　未修得科目を有したまま進級を認められた者について、その学生が原学年に留まることを希望する場合は、願い出により許可することがある。

第３０条　原学年に留められた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。

（卒業の認定）

第３１条　校長は、次の各号に掲げるすべての要件を満たした者について、卒業を認定する。
(1)　第５学年末において 167 単位以上（うち一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得している者
(2)　第５学年末において別表第２に該当する者
(3)　第５学年の出席時数が年間総授業時数の４分の３以上出席している者。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者とすることができる。
２　校長は、前項の認定に当たっては、卒業判定会議に諮るものとする。
（在学期間の制限）
第３２条　同一学年には２年を超えて在学することはできない。ただし、休学の場合はこの限りでない。

附　則

１　この規則は、昭和５８年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校進級及び卒業の認定に関する規則（昭和５３年２月１５日制定）、学業成績評価基準（昭和５３年４月１日制定）及び再試験に関する内規（昭和５３年４月１日）は、廃止する。
（中略）

附　則

この規則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成７年９月１２日から施行する。

附　則

この規則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　第１４条第３項、第１５条、第１７条及び第２２条第３項は、平成１２年度入学者から適用する。
３　別表第２の「科目の評価がＡ欄中１・２・３年については 50 点以上、４・５年については 60 点以上、Ｂ欄については科目履修の認定要件を満たした上、評価が１・２・３年については 25 点以上、４・５年については 30 点以上である者」は、平成１２年度入学者から適用する。
４　平成１２年度入学者の４年次の学業成績の修得条件は 50 点以上または合格とし、４年次及び５年次の再試験制度については別途定める。
５　平成１３～１５年度入学者の４年次の進級条件並びに４年次及び５年次の再試験制度については別途定める。

附　則

１　この規則は、平成17年４月１日から施行する。
２　第１４条第３項、第１５条、第１７条及び第２２条第２項は、平成１７年度入学者から適用する。ただし、原学年に留まることにより平成１７年度に第１学年となる者は平成１７年度入学者として取り扱う。
３　第１４条第３項にかかる平成１６年度以前の入学者の各科目の単位の修得については、その成績の評価が第１学年から第３学年にあっては 50 点以上又は合格、第４学年以上にあっては 60 点以上又は合格の場合とする。

４　第１５条にかかる平成１６年度以前の入学者の第１４条第２項の評価に当たっては、第６条に定める履修要件を充足しない科目の評価は、第１学年から第３学年にあっては 49 点以下又は不合格、第４学年以上にあっては 59 点以下又は不合格とする。

５　第１７条にかかる平成１６年度以前の入学者の学業成績の評語及び評点は、それぞれ次のとおりとする。

（平成１６年度入学者）

（１～３年）

学業成績の点数	評語	評点
８０点　～　１００点	優	5
６０点　～　７９点	良	4
５０点　～　５９点	可	3
２５点　～　４９点	不可	2
２４点以下	〃	1

（４・５年）

学業成績の点数	評語	評点
８０点　～　１００点	優	5
７０点　～　７９点	良	4
６０点　～　６９点	可	3
３０点　～　５９点	不可	2
２９点以下	〃	1

（平成１５年度以前入学者）

（１～３年）

学業成績の点数	評語	評点
８０点　～　１００点	優	5
６０点　～　７９点	良	4
５０点　～　５９点	可	3
２５点　～　４９点	不可	2
２４点以下	〃	1

（４・５年）

学業成績の点数	評語	評点
８０点　～　１００点	優	5
７０点　～　７９点	良	4
６０点　～　６９点	良	4
３０点　～　５９点	不可	2
２９点以下	〃	1

６　第２２条第２項にかかる平成１６年度以前の入学者の再試験に合格した科目の単位については、その科目の履修年度にさかのぼり追認し、その評価は第１学年から第３学年にあっては 50 点、第４学年以上にあっては 60 点とする。

附　則

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０年９月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

（分析結果とその根拠理由）

学習・教育目標に沿った形で履修及び修得する科目を配置し，課程ごとに卒業又は修了時に身に付けるべき学力等を定めている。また，その達成状況は，準学士課程では進級判定会議及び卒業判定会議，専攻科課程では修了判定会議を設置し，単位修得数，特別活動及び校外実習の合否により全学的に把握・評価している。

したがって，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組を行っている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の過去５年間における学科・学年別進級率表（資料６－１－②－１）によれば，進級率（当該進級学生数の在籍学生数に対する割合）の平均は約 96％である。また，過去５年間の卒業率表（資料６－１－②－２）による卒業率（ある年度に入学した学生総数に対し５年後に卒業した学生数の割合）の平均は約 84％である。さらに，原級率（５学年の学生定員総数に対し原級した学生数の割合）の過去５年間での平均は約 3.7％であり，退学率（５学年の学生定員総数に対し退学した学生数の割合）の過去５年間での平均は約 2.3％である（資料６－１－②－３）。

平成 14 年度に設置された専攻科課程は，過去５年間の修了率（ある年度に入学した学生総数に対する２年間で修了した学生数の割合）によれば，平均して約 86％である（資料６－１－②－４）。

工学基礎教育である数学と物理に関しては，３年次に学習到達度試験を受験している。数学及び物理のいずれも選択領域での平均の合計は，対応する全国平均の合計と比較したとき相対的に高水準を維持している（資料６－１－②－５～６）。また，英語教育に関しては，３年次に TOEIC Bridge を受験し，本校の平均点は高専の平成 23 年度３年次全受験者 2,519 人の平均点 119.2 点を上回っている（資料６－１－②－７）。さらに，４年次では在籍する全学生が TOEIC IP を受験しており，高専の平成 23 年度４年次全受験者の平均点 336 点には若干及ばないものの，安定した成績を各年度で維持している（資料６－１－②－８）。

準学士課程における平成 23 年度の卒業研究の課題一覧を（資料６－１－②－９）に示す。卒業研究は，提出物（論文・作品），梗概及び発表に対して，各学科教員全員により，客観的に評価する。その結果が（資料６－１－②－10）である。

専攻科課程における平成 23 年度の専攻科特別研究のテーマ一覧を（資料６－１－②－11）に示す。各専攻科課程においても，準学士課程と同じ方法により客観的に評価している。その評価結果が（資料６－１－②－12）である。また，英語教育に関しては，全学生が TOEIC IP を受験しており，各年度において平均点は 400 点を超えている。さらに，平成 23 年度では高専専攻科生の全受験者の平均点を超えており，例年高い水準を維持している（資料６－１－②－13）。

観点６－１－②　資料一覧

資料６－１－②－１　学科・学年別進級率表

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－２　卒業率表

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－３　原級・休学・退学状況表

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－②－４　専攻科修了率表

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－５　学習到達度試験数学結果

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－６　学習到達度試験物理結果

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－７　TOEIC Bridge 結果

〔出典：英語科資料〕

資料６－１－②－８　TOEIC IP 結果

〔出典：英語科資料〕

資料６－１－②－９　卒業研究課題一覧

〔出典：物質工学科資料〕

資料６－１－②－10　卒業研究判定資料（様式）

〔出典：物質工学科資料〕

資料６－１－②－11　専攻科特別研究テーマ一覧

〔出典：物質工学専攻資料〕

資料６－１－②－12　専攻科特別研究判定資料（様式）

〔出典：物質工学専攻資料〕

資料６－１－②－13　専攻科のTOEIC得点の年度別平均

〔出典：英語科資料〕

資料６－１－②－１

学科・学年別進級率表

		M在籍者	M原級者	E在籍者	E原級者	C在籍者	C原級者	A在籍者	A原級者	学年別進級率
H15年度入学 H19年度卒業	1	40	0	43	0	43	0	43	0	100
	2	40	0	43	0	43	1	42	2	98.2
	3	41	2	45	3	43	0	40	3	95.2
	4	38	0	41	0	43	1	37	0	99.3
	5	38	0	41	0	42	0	36	0	100

		M在籍者	M原級者	E在籍者	E原級者	C在籍者	C原級者	A在籍者	A原級者	学年別進級率
H16年度入学 H20年度卒業	1	42	0	41	0	44	0	42	0	100
	2	42	3	40	1	45	1	41	1	96.4
	3	40	4	39	3	44	2	40	3	92.6
	4	39	3	38	0	42	1	39	3	95.5
	5	36	0	38	0	41	0	35	1	99.3

		M在籍者	M原級者	E在籍者	E原級者	C在籍者	C原級者	A在籍者	A原級者	学年別進級率
H17年度入学 H21年度卒業	1	43	0	41	0	40	0	41	2	98.7
	2	43	2	42	0	39	2	39	1	96.9
	3	43	6	43	2	39	2	40	5	90.9
	4	38	0	40	1	35	1	37	0	98.6
	5	38	0	39	0	34	0	38	1	99.3

		M在籍者	M原級者	E在籍者	E原級者	C在籍者	C原級者	A在籍者	A原級者	学年別進級率
H18年度入学 H22年度卒業	1	41	2	43	0	42	0	42	2	97.6
	2	40	1	43	2	42	0	41	1	97.5
	3	40	2	41	3	45	3	42	4	92.8
	4	38	0	41	3	41	1	39	2	96.2
	5	38	0	38	1	40	1	38	0	98.7

		M在籍者	M原級者	E在籍者	E原級者	C在籍者	C原級者	A在籍者	A原級者	学年別進級率
H19年度入学 H23年度卒業	1	43	2	42	1	44	0	42	0	98.2
	2	42	2	42	4	43	2	42	2	94
	3	42	4	40	1	42	0	39	2	95.7
	4	39	4	43	4	43	1	39	1	93.9
	5	35	0	40	0	42	0	37	1	99.3

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－２

卒業率表

学科	区分	平成20年3月卒業 平成15年度入学				平成21年3月卒業 平成16年度入学				平成22年3月卒業 平成17年度入学				平成23年3月卒業 平成18年度入学				平成24年3月卒業 平成19年度				合計
			3編入	4編入	計		3編入	4編入	計		3編入	4編入	計		3編入	4編入	計		3編入	4編入	計	
機械工学科	入学者数	40			40	42		1	43	43		1	44	41		1	42	42		3	45	214
	卒業者数	37			37	34		2	36	37		1	38	36			36	32	1	1	34	181
	卒業率				93%				84%				86%				86%				76%	85%
電気工学科	入学者数	43	1	1	45	41	1	1	43	42	1		43	43			43	0		2	2	176
	卒業者数	39	1		40	36		2	38	37			37	35		1	36			2	2	153
	卒業率				89%				88%				86%				84%				100%	87%
電気情報工学科	入学者数																	43			43	43
	卒業者数																	34			34	34
	卒業率																				79%	79%
物質工学科	入学者数	43		1	44	44	1	2	47	40	1		41	42			42	44	1	2	47	221
	卒業者数	40	1	1	42	41			41	31	1		32	36	1	1	38	40	1	1	42	195
	卒業率				95%				87%				78%				90%	91%			89%	88%
建築学科	入学者数	42		2	44	42		1	43	41		3	44	41		1	42	41	1	2	44	217
	卒業者数	34		1	35	32		2	34	29	1	2	32	33			33	35	1		36	170
	卒業率				80%	76%			79%				73%				79%	85%			82%	78%
合計	入学者数	168	3	6	177	169	2	5	176	166	4	4	174	167	0	2	169	170	2	13	181	877
	卒業者数	150	2	2	154	143	0	6	149	134	2	3	139	140	1	2	143	107	3	4	148	733
	卒業率				87%				85%				80%				85%	63%			82%	84%

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－３

原級・休学・退学状況表

原級者

原級年度	機械工学科			電気工学科			電気情報工学科			物質工学科			建築学科			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成19年度	12	0	12	4	0	4	1	0	1	3	0	3	6	3	9	26	3	29
平成20年度	4	0	4	4	1	5	6	1	7	4	2	6	5	2	7	23	6	29
平成21年度	5	0	5	4	0	4	2	0	2	1	0	1	8	1	9	20	1	21
平成22年度	10	0	10	2	0	2	6	2	8	3	5	8	8	1	9	29	8	37
平成23年度	8	0	8	0	0	0	6	1	7	1	3	4	13	1	14	28	5	33
合　計	39	0	39	14	1	15	21	4	25	12	10	22	40	8	48	126	23	149

休学者

【本　科】

年度	機械工学科			電気工学科			電気情報工学科			物質工学科			建築学科			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成19年度	1		1	2		2			0	1	1	2	2		2	6	1	7
平成20年度	1		1	2		2			0	1		1	3		3	7	0	7
平成21年度			0			0	1		1	2	1	3	1	1	2	4	2	6
平成22年度			0			0			0	1		1	1		1	2	0	2
平成23年度			0			0	1		1	1		1			0	2	0	2

【専攻科】

年度	機械電気工学専攻			物質工学専攻			建築学専攻			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成19年度		1	1			0			0	0	1	1
平成20年度			0	1	1	2			0	1	1	2
平成21年度			0		1	1	1		1	1	1	2
平成22年度	4		4			0	2		2	6	0	6
平成23年度	1		1			0			0	1	0	1

退学者

【本　科】

退学年度	機械工学科			電気工学科			電気情報工学科			物質工学科			建築学科			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成19年度	9		9	3		3	3		3	3	2	5	6	1	7	24	3	27
平成20年度	2		2	1	1	2	2		2	5	1	6	4	3	7	14	5	19
平成21年度	1		1	2		2	1		1	2	1	3	4	1	5	10	2	12
平成22年度	3		3	1		1	2		2	3	2	5	7	0	7	16	2	18
平成23年度	4		4			0	6	1	7		1	1	4		4	14	2	16

【専攻科】

退学年度	機械電気工学専攻			物質工学専攻			建築学専攻			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成19年度		1	1			0	3		3	3	1	4
平成20年度	2		2	1		1			0	3	0	3
平成21年度			0			0			0			0
平成22年度			0	1		1	1		1	2	0	2
平成23年度			0			0	1		1	1	0	1

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－②－４

専攻科修了率表

平成20年３月修了　平成21年３月修了　平成22年３月修了　平成23年３月修了　平成24年３月

学科	区分	平成18年度入学	平成19年度入学	平成20年度入学	平成21年度入学	平成22年度入学	合計
機械電気工学専攻	入学者数	9	11	10	13	10	53
	卒業者数	9	8	10	11	9	47
	修了率	100%	73%	100%	85%	90%	89%
物質工学専攻	入学者数	3	7	8	7	8	33
	卒業者数	3	6	7	7	7	30
	修了率	100%	86%	88%	100%	88%	91%
建築学専攻	入学者数	2	7	5	3	6	23
	卒業者数	2	4	4	1	6	17
	修了率	100%	57%	80%	33%	100%	74%
合計	入学者数	14	25	23	23	24	109
	卒業者数	14	18	21	19	22	94
	修了率	100%	72%	91%	83%	92%	86%

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－５

学習到達度試験数学結果

全国数学到達度試験データ

分野	実施年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	都城高専平均	36	28.9	**31.6**	28.9	35.4
	都城高専機械工学科平均	36	27.3	29.6	31.5	35.2
	都城高専電気情報工学科平均	**37.9**	**31.8**	**36.7**	31.3	**37**
	都城高専物質工学科平均	**36.3**	28.8	**31.4**	26.7	**36.4**
	都城高専建築学科平均	33.9	27.9	28.8	25.7	32.1
① 数と式の計算	**全国平均**	36.6	30.1	30.9	32.1	35.8
	都城高専平均	31.3	28.3	22	30.5	25.9
	都城高専機械工学科平均	30.7	**30.6**	19.1	**31.5**	25.1
	都城高専電気情報工学科平均	**32.1**	**33.1**	**25.1**	**31.2**	27.4
	都城高専物質工学科平均	31.7	26.6	22.6	30.7	**28.6**
	都城高専建築学科平均	30.9	23.1	21.3	28.4	21.3
② 方程式・不等式	**全国平均**	32	28.9	22.9	31.2	27.6
	都城高専平均	25.2	24.7	19.3	24	24.3
	都城高専機械工学科平均	24.8	**27.6**	17.9	**26.1**	25.7
	都城高専電気情報工学科平均	**28.8**	**27.5**	**23.7**	23.3	24
	都城高専物質工学科平均	24	24.1	17.4	23.9	26
	都城高専建築学科平均	22.8	19.8	18.3	22.3	20.4
③ 関数とグラフ	**全国平均**	27.4	26	20.1	24.8	26.3
	都城高専平均	**23**	**31.1**	**22.3**	**21.7**	**25.2**
	都城高専機械工学科平均	**22.3**	**34.1**	**22.3**	**24.4**	**25.8**
	都城高専電気情報工学科平均	**23.6**	**33.1**	**26**	20.7	**24.6**
	都城高専物質工学科平均	**22.1**	**30.1**	**23**	21.4	**26.5**
	都城高専建築学科平均	**24.1**	**27.3**	17.9	19.7	**23.2**
④ 場合の数と数列	**全国平均**	21.5	24.9	20.2	21.7	22.9
	都城高専平均	**24.1**	**24.2**	**19.8**	**26.1**	28.5
	都城高専機械工学科平均	**23.8**	**24.8**	**17.9**	**27.3**	26
	都城高専電気情報工学科平均	**31**	**27.1**	**26.2**	24.1	**32**
	都城高専物質工学科平均	21.3	**24.6**	**18.6**	**27.8**	**29.6**
	都城高専建築学科平均	19.8	**20.5**	16.9	**25.1**	25.4
⑤ 平面ベクトルの性質	**全国平均**	22.8	18.7	17.4	24.3	29.1
	都城高専平均	**25.3**	**29.3**	**24.4**	**29.4**	**30.8**
	都城高専機械工学科平均	24.8	**32.8**	**24.5**	**31.8**	25.9
	都城高専電気情報工学科平均	23.7	**30**	**31**	**28**	**33**
	都城高専物質工学科平均	**27.9**	**30.3**	20	26.9	**36.4**
	都城高専建築学科平均	24.9	23.9	22.3	**29.8**	26
⑥ 微分・積分の計算	**全国平均**	25	25.8	24.2	27.2	27.7
	都城高専平均	**20.9**	**26.2**	**13.7**	15	**17.6**
	都城高専機械工学科平均	**19.8**	**29.5**	11.6	**16**	13.4
	都城高専電気情報工学科平均	**21.7**	**28.8**	**15.3**	**15.3**	**19**
	都城高専物質工学科平均	**21.8**	**24.7**	**13.5**	13.2	**21.7**
	都城高専建築学科平均	**20.3**	22.3	**14.6**	**15.2**	15.4
⑦ 微分・積分の応用	**全国平均**	18.4	23.3	12.9	15.3	16.9
	都城高専平均	**17.5**	**26.6**	**14.9**	**16**	**26.9**
	都城高専機械工学科平均	**16.4**	**30.6**	12.4	**16**	**22.7**
	都城高専電気情報工学科平均	**21.7**	**28.4**	**19.6**	15.3	**28.9**
	都城高専物質工学科平均	**19.4**	**27.4**	**14.3**	**19.3**	**30.2**
	都城高専建築学科平均	12.4	**20**	**13.4**	14	**24.9**
⑧ 空間ベクトル・行列の計算	**全国平均**	15.6	18.6	12.7	15.6	20.6
	都城高専平均	20	**14.6**	12.6	17.1	**25.2**
	都城高専機械工学科平均	**20.8**	**16.9**	12.8	16	**24.4**
	都城高専電気情報工学科平均	**22.3**	**15.4**	13.7	**18.4**	**26**
	都城高専物質工学科平均	**22.3**	**14.6**	12.4	**22.6**	**28.4**
	都城高専建築学科平均	14.3	11.6	11.4	12.4	20.7
⑨ 行列の固有値と行列式	**全国平均**	20.2	13.1	14.3	18.3	21.6
	都城高専平均	13	**20**	10.8	19.3	**24**
	都城高専機械工学科平均	12.6	**19.5**	7.9	21.8	20.9
	都城高専電気情報工学科平均	14.2	**23.6**	**13.3**	20.5	**24.2**
	都城高専物質工学科平均	12.8	17.4	9.3	19.2	**28.8**
	都城高専建築学科平均	12.4	**19.8**	**12.9**	15.3	20.6
⑩ 2変数関数の微分・積分	**全国平均**	15.8	18.2	12.6	22	21.9
	都城高専平均	**236.3**	**254.1**	**191.2**	227.9	**263.7**
	都城高専機械工学科平均	231.9	**273.6**	**176.2**	**242.7**	245.2
	都城高専電気情報工学科平均	**257.2**	**278.8**	**230.6**	**228**	**276.2**
	都城高専物質工学科平均	**239.5**	**248.6**	**182.4**	231.7	**292.7**
	都城高専建築学科平均	215.5	**216**	**177.5**	207.9	230.1
	全国10領域選択校平均	235.7	215.9	173.3	213.9	258.9
指定10領域統計	**10領域平均合計**	235.3	227.6	188.2	232.5	250.4

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－６

学習到達度試験物理結果

全国数学到達度試験データ

分野	実施年度	21年度	22年度	23年度
① 速度・加速度・変位	都城高専平均	26.5	25.5	21.6
	都城高専機械工学科平均	30.5	29.8	25.1
	都城高専電気情報工学科平均	28.5	29.8	18.6
	都城高専物質工学科平均	23.3	21.4	23.2
	都城高専建築学科平均	24.3	21.3	19
	全国平均	26.4	24	23.2
② 力のつりあいと運動方程式	都城高専平均	30.1	26.7	28.7
	都城高専機械工学科平均	29.3	33	32.8
	都城高専電気情報工学科平均	32.8	32.5	27.4
	都城高専物質工学科平均	29.1	18.8	26.3
	都城高専建築学科平均	29.5	22.8	27.3
	全国平均	25.5	24.5	27.6
③ 力学的エネルギー・衝突	都城高専平均	27.8	25.8	20
	都城高専機械工学科平均	31.3	29.8	19.7
	都城高専電気情報工学科平均	28.3	33.8	20.1
	都城高専物質工学科平均	25.8	20.2	20.7
	都城高専建築学科平均	26	19.8	19.5
	全国平均	22	21.8	19.8
④ 円運動・万有引力・単振動	都城高専平均	23.2	18.4	12.7
	都城高専機械工学科平均	24.9	15.4	12.9
	都城高専電気情報工学科平均	27.1	24	18
	都城高専物質工学科平均	23.3	17.6	10.7
	都城高専建築学科平均	17.4	16.8	9.5
	全国平均	17.3	17	15.9
⑤ 熱	都城高専平均	18	12.1	29.9
	都城高専機械工学科平均	16.4	9.3	31.2
	都城高専電気情報工学科平均	18.6	15.5	30.8
	都城高専物質工学科平均	21.1	12.1	36.7
	都城高専建築学科平均	15.6	11.8	21.9
	全国平均	18.1	14.6	26.2
⑥ 波動	都城高専平均	25.2	13.9	10.8
	都城高専機械工学科平均	26	14.3	12.8
	都城高専電気情報工学科平均	28.9	16	9.3
	都城高専物質工学科平均	24.4	12	12.8
	都城高専建築学科平均	21.5	13.3	8.3
	全国平均	24.3	13.3	15.1
⑦ 電気	都城高専平均	14.8	5.2	14.8
	都城高専機械工学科平均	13.5	1.8	15.4
	都城高専電気情報工学科平均	20.5	14.1	19.1
	都城高専物質工学科平均	13.1	2.3	14.7
	都城高専建築学科平均	12.5	2.8	10.2
	全国平均	16.6	9	16.6
⑧ 磁気	都城高専平均			
	都城高専機械工学科平均			
	都城高専電気情報工学科平均			
	都城高専物質工学科平均			
	都城高専建築学科平均			
	全国平均			
7領域合計	都城高専合計	165.6	127.6	138.5
	都城高専機械工学科合計	171.9	133.4	149.9
	都城高専電気情報工学科合計	184.7	165.7	143.3
	都城高専物質工学科合計	160.1	104.4	145.1
	都城高専建築学科合計	146.8	108.6	115.7
	7領域平均合計	150.2	124.2	144.4

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－②－７

TOEIC Bridge 結果

平成２０年度

	受験者数	平均点	
M	41	128.5	
E	41	127.9	
C	45	133.3	132
A	42	121.1	
学年	169	127.7	127.4

平成２１年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	42	125.1	125.7
E	40	129.6	
C	42	128.3	129.5
A	41	121.1	122.4
学年	165	126.1	126.8

平成２２年度　　留学生を含めた平均点

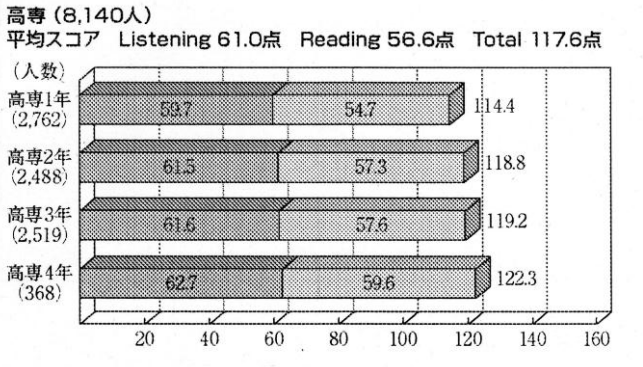
	受験者数	平均点	
M	50	122.7	124
E	38	122.6	
C	39	127.0	
A	45	120.5	121.3
学年	172	123.3	123.7

平成２３年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	44	124.2	
E	42	125.7	
C	48	134.7	135.5
A	34	124.2	
学年	168	127.5	127.8

〔参考〕平成22年度データ

学年別受験者数と平均スコア



〔出典：英語科資料〕

資料６－１－②－８

TOEIC IP 結果

平成19年度

	受験者数	平均点
M	39	343.1
E	38	357
C	42	342.9
A	39	310.6
学年	158	338.4

平成２０年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	38	303.2	
E	41	311.3	
C	34	313.5	331.4
A	36	302.3	301.4
学年	149	307.6	311.5

平成２１年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	38	312.5	
E	41	321	
C	40	330.9	334.8
A	39	296.5	
学年	158	319.3	318.6

平成２２年度　　留学生を含めた平均点

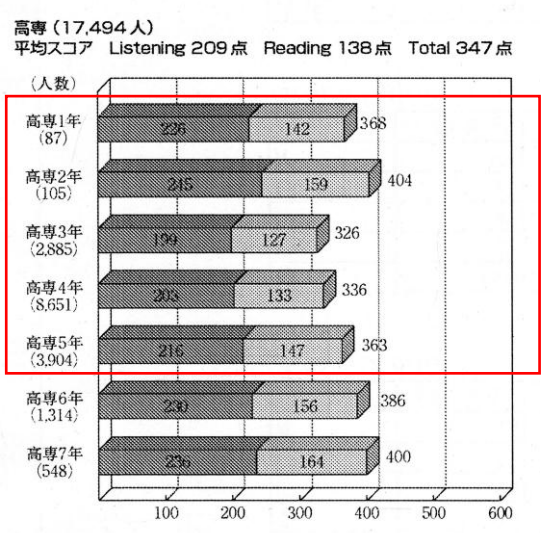
	受験者数	平均点	
M	39	316.2	328.4
E	43	317.8	
C	44	345.1	357.8
A	38	316.6	317.7
学年	164	324.2	330.9

平成２３年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	51	304.4	310
E	39	329.3	
C	35	328.7	
A	41	289.4	292.8
学年	166	319	323

〔参考〕平成 22 年度データ

学年別受験者数と平均スコア



〔出典：英語科資料〕

資料６－１－②－９

卒業研究課題一覧

平成23年度　物質工学科

	研究テーマ	学生氏名
1	活性汚泥槽に浸漬した散気板への微生物付着評価	
2	モンゴルウランバートル市における水道水等の調査研究	
3	光合成細菌による高濃度有機廃液の分解と水素生産	
4	乳酸菌を利用した大豆煮汁の有効利用	
5	硫黄原子とカルボン酸を有するゲル型抽出剤による貴金属の抽出特性	
6	チオ尿素を配位子にもつ吸着剤を含浸した磁性体の新規合成と貴金属の回収	
7	チオ尿素型抽出剤による貴金属抽出錯体の構造解析	
8	多孔質セラミックスによるリンの吸着実験	
9	11B、13C NMRを用いたリボース誘導体とホウ酸錯生成の熱力学的研究	
10	分子軌道計算を用いたリボース誘導体とホウ酸錯生成の構造的研究	
11	ポリオールをアミド結合で固定したホウ素吸着剤の開発	
12	RAS法により作製したNiOx酸化発色薄膜のEC特性評価	
13	ECD素子のリーク電流評価とその原因調査に関する研究	
14	RAS法の反応工程におけるプロセスパラメータの抽出とWO3還元発色薄膜の物性	
15	Ta2O5固体電解質薄膜のイオン伝導度測定技術開発に関する研究	
16	スパッタリング法によるAZO透明導電膜の作製	
17	マイクロチップを用いたシクロペンテンによる2-シクロペンテン-1-オンへの光付加	
18	グルコースを利用したPt担持TiO2薄膜による水からのH2生成の高効率化	
19	マイクロチップ中でのPt担持TiO2薄膜によるベンジルアルコールの光酸化反応	
20	TiO2修飾マイクロリアクターでのニトロベンゼンの光還元反応	
21	I341K変異アクチン発現プラスミドに構築	
22	コフィリンにより引き起こされたアクチンフィラメントの共同的構造変位と切断活性の関係解明	
23	高感度FRETプローブアクチンの開発	
24	ミオシンとの相互的作用中におけるアクチンの構造状態検出	
25	一本で見るヌクレオチド依存的なアクチンフィラメントの脱重合速度測定	
26	イオン液体内包マイクロカプセルによる金属イオンの抽出	
27	抽出剤内包カプセルによるNiの抽出	
28	架橋メラミンマイクロカプセルの調製条件最適化に関する研究	
29	LIX84I内包マイクロカプセルによる抽出速度	
30	高吸水性高分子のマイクロカプセル化	
31	ラクトース,p-ビニルベンジルラクトースアミドのガラクトースオキシダーゼによる酵素反応挙動	
32	メリビオース,p-ビニルベンジルメリビオースアミドのガラクトースオキシダーゼによる酵素反応挙動	
33	シクロデキストリンナノチューブを用いた活性炭の細孔制御方法の開発	
34	鱗由来ゼラチンの効率的抽出法の検討	
35	シクロデキストリンのポリマー化	
36	シクロデキストリン誘導体の不斉認識評価	
37	電気炉スラグの新規有効利用法の開発	
38	炭複合多孔質セラミックス浸透水の解析	
39	糖分泌型藻類の糖分泌因子の分子解析	
40	柑橘系細胞壁中からの植物性コラーゲン様物質の抽出	

〔出典：物質工学科資料〕

資料６－１－②－10

卒業研究判定資料（様式）

物質工学科　卒業研究　達成度判定表

学生氏名（　　）　　教員氏名（　　）

【論文】

研究担当教員のみが採点			
項目		点数	条件
1.1	a		
	b		専攻科は2以上
①	c		2以上
②	d		2以上
	e		
	f		
	g		
	h		
1.2	a		
	b		
	c		
	d		
③	e		2以上
1.3	a		
	b		
④	c		2以上
⑤	d		2以上
	e		
点数の合計			
50点に換算			30点以上 ⑥

【概要】

物質工学科教員が採点			
項目		点数	条件
2	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
点数の合計			
25点に換算			は15点以上

【発表】

物質工学科教員が採点			
項目		点数	条件
3.1	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
3.2	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
点数の合計			
25点に換算			15点以上 ⑦

※ 各項目3段階（3,2,1）で評価すること。
ただし、全く満たしていない場合は0と記入のこと。

総合評価		60点以上

物質工学科　卒業研究　達成度評価要綱

Ⅰ．評価方針および評価方法

Ⅱ．評価項目

1. 研究論文に対する評価事項 ⑥

1.1　研究内容の理解度

a) 研究目的：研究の背景と目的をよく理解している。
b) アイデアの提案：社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案できる。
c) 新規デザインのデザイン化：性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規技術をデザインできる。①
d) アイデアのデザイン化とその具現化：アイデアに基づいたデザイン化とその具現化ができる。②
e) 解析スキル：得られた現象やデータを既習の工学的スキルを用いて解析できる。
f) 現象の定性・定量的解釈：分析した結果の本質的な意味が理解でき、また、その結果を既習の知識や理論を用いて定性および（または）定量的に説明できる。
g) 考察能力：得られた実験事実から考察を導き出すことができる。
h) 結論の導出：分析結果から普遍的な結論を帰納的に引き出すことができる。

1.2　研究遂行能力、積極性

a) データ採取：実験やシミュレーションなどを通じて分析に必要なデータを取得できる。
b) 準備：実験装置やプログラムの作成あるいは既存(市販)ツールの使いこなしができる。
c) 結果の判断と改善の提案：採取したデータから処理方法(実験方法やツールの使い方)の妥当性を判断できる。あるいは、与えられたデータが目的に添うものかどうかを判断できる。
d) 考察：採取したデータあるいは与えられたデータのもつ意味が理解・解釈ができる。
e) 改善方法の提案：問題点を把握し、発展的に研究が遂行できる様に改善方法が提案できる。③

1.3　論文作成能力、文書力

a）論文・報告書の形式・体裁：表紙、見出し、段落などが統一的な様式で仕上げられている。
b）文章表現力：科学技術文書として客観的かつ専門的に適切な表現で文章表現がなされている。
c）論文・報告書の構成：背景と目的、方法、結果と考察、結論、参考文献などが必要に応じて図表を用いて順序立てて記述されている。④
d）論理的一貫性：報告書・論文の主張が論理的に首尾一貫している。⑤
e）結論の誘導：結論に至る論理展開に誤りがなく、残された問題点や課題についても十分な考察が加えられている。

2. 研究論文概要に対する評価事項

a）マージンと文字サイズ：マージンと文字サイズが執筆要項に決められたとおりになっている。
b）図、表の表示：図題、表題には Fig.1, Table 1 などと通し番号をふり、図題は図の下、表題は表の上に入っている。
c）写真、図および表：写真、図および表は、鮮明なものを用いている。
d）本文の内容：研究の背景、目的、研究および考察等が、要領良く纏められている。
e）論文概要の内容：口頭発表内容と論文概要の内容が一致している。

3. 研究発表に対する評価事項 ⑦

3.1　コミュニケーション能力

a）課題の背景：課題の内容に対する背景や周囲の状況が把握できている。
b）課題の目的：課題の目的が十分理解できており、明確である。
c）課題解決方法の適切性：課題解決の方法が適切であり、それらが上手に説明できる。
d）結果の信頼性：課題解決の結果が適切にまとめられており、高い信頼性がある。
e）質疑への適切な応答：質問の意味を正確に把握して的確な応答ができる。

3.2　プレゼンテーション能力

a）資料の提示:資料や OHP 等が適切に用意されている。
b）理解度:自分の発表内容を熟知しており、表現に曖昧さが無い。
c）発表の組み立てと要点の明確さ：発表内容の道筋が整理されており、要点が明確で分かり易い。
d）発表態度：原稿を見ないで発表し、発表の態度が堂々としている。
e）発表時間: 決められた時間内に発表できる。

〔出典：物質工学科資料〕

資料６－１－②－11

専攻科特別研究テーマ一覧

平成23年度　物質工学専攻

	研究テーマ	学生氏名
1	RAS(Radical Assisted Sputtering)法により作製したWO3還元発色薄膜の物性評価とEC特性制御技術に関する研究	
2	窒素原子を有する新規吸着剤の合成とその貴金属の選択的吸着	
3	伝統的製造法による醤油諸味中の物質動態と菌叢解析	
4	RAS(Radical Assisted Sputtering)法により作製したTa2O5固体電解質薄膜の物性評価とイオン伝導度制御技術に関する研究	
5	バイオマスを利用したPt担持TiO2光触媒による水からのH2生成	
6	廃棄物溶融スラグの水防腐剤としての機能評価	
7	MAP4アイソフォームを介した微小管とF-アクチンの相互作用解析	

〔出典：物質工学専攻資料〕

資料６－１－②－12

専攻科特別研究判定資料（様式）

物質工学専攻　専攻科特別研究　達成度判定表

学生氏名（　　）　　教員氏名（　　）

【論文】

研究担当教員のみが採点			
項目		点数	条件
1.1	a		
①	b		専攻科は2以上
④	c		2以上
⑤	d		2以上
	e		
	f		
	g		
	h		
1.2	a		
	b		
	c		
	d		
⑥	e		2以上
1.3	a		
	b		
⑦	c		2以上
⑧	d		2以上
	e		
点数の合計			
50点に換算			30点以上 ⑨

【概要】

物質工学科教員が採点			
項目		点数	条件
2	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
点数の合計			
25点に換算			専攻科は15点以上 ⑩

【発表】

物質工学科教員が採点			
項目		点数	条件
3.1	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
3.2	a		
	b		
	c		
	d		
	e		
点数の合計			
25点に換算			15点以上 ⑪

※ 各項目3段階（3,2,1）で評価すること。
ただし、全く満たしていない場合は0と記入のこと。

総合評価		60点以上

専攻科特別研究　達成度評価要綱
（物質工学専攻）

Ⅰ．評価方針および評価方法

Ⅱ．評価項目

1．研究論文に対する評価事項 ⑨

1.1　研究内容の理解度

a）研究目的：研究の背景と目的をよく理解している。
b）アイデアの提案：社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアを提案できる。①
c）新規デザインのデザイン化：性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規技術をデザインできる。④
d）アイデアのデザイン化とその具現化：アイデアに基づいたデザイン化とその具現化ができる。⑤
e）解析スキル：得られた現象やデータを既習の工学的スキルを用いて解析できる。
f）現象の定性・定量的解釈：分析した結果の本質的な意味が理解でき、また、その結果を既習の知識や理論を用いて定性および（または）定量的に説明できる。
g）考察能力：得られた実験事実から考察を導き出すことができる。
h）結論の導出：分析結果から普遍的な結論を帰納的に引き出すことができる。

1.2　研究遂行能力、積極性

a）データ採取：実験やシミュレーションなどを通じて分析に必要なデータを取得できる。
b）準備：実験装置やプログラムの作成あるいは既存(市販)ツールの使いこなしができる。
c）結果の判断と改善の提案：採取したデータから処理方法(実験方法やツールの使い方)の妥当性を判断できる。あるいは、与えられたデータが目的に添うものかどうかを判断できる。
d）考察：採取したデータあるいは与えられたデータのもつ意味が理解・解釈ができる。
e）改善方法の提案：問題点を把握し、発展的に研究が遂行できる様に改善方法が提案できる。⑥

1.3　論文作成能力、文書力

a）論文・報告書の形式・体裁：表紙、見出し、段落などが統一的な様式で仕上げられている。
b）文章表現力：科学技術文書として客観的かつ専門的に適切な表現で文章表現がなされている。
c）論文・報告書の構成：背景と目的、方法、結果と考察、結論、参考文献などが必要に応じて図表を用いて順序立てて記述されている。⑦
d）論理的一貫性：報告書・論文の主張が論理的に首尾一貫している。⑧
e）結論の誘導：結論に至る論理展開に誤りがなく、残された問題点や課題についても十分な考察が加えられている。

2. 研究論文概要に対する評価事項 ⑩

a）マージンと文字サイズ：マージンと文字サイズが執筆要項に決められたとおりになっている。
b）図、表の表示：図題、表題には Fig.1, Table 1 などと通し番号をふり、図題は図の下、表題は表の上に入っている。
c）写真、図および表：写真、図および表は、鮮明なものを用いている。
d）本文の内容：研究の背景、目的、研究および考察等が、要領良く纏められている。
e）論文概要の内容：口頭発表内容と論文概要の内容が一致している。

3. 研究発表に対する評価事項 ⑪

3.1　コミュニケーション能力

a）課題の背景：課題の内容に対する背景や周囲の状況が把握できている。
b）課題の目的：課題の目的が十分理解できており、明確である。
c）課題解決方法の適切性：課題解決の方法が適切であり、それらが上手に説明できる。
d）結果の信頼性：課題解決の結果が適切にまとめられており、高い信頼性がある。
e）質疑への適切な応答：質問の意味を正確に把握して的確な応答ができる。

3.2　プレゼンテーション能力

a）資料の提示:資料や OHP 等が適切に用意されている。
b）理解度:自分の発表内容を熟知しており、表現に曖昧さが無い。
c）発表の組み立てと要点の明確さ：発表内容の道筋が整理されており、要点が明確で分かり易い。
d）発表態度：原稿を見ないで発表し、発表の態度が堂々としている。
e）発表時間: 決められた時間内に発表できる。

〔出典：物質工学専攻資料〕

資料６－１－②－13

専攻科のTOEIC得点の年度別平均

平成21年度修了者

	受験者数	平均点
ME	12	430.8
C	7	477.1
A	5	391.0

平成22年度修了者

	受験者数	平均点
ME	15	431.0
C	8	467.5
A	3	398.3

平成23年度修了者

	受験者数	平均点
ME	11	447.3
C	7	402.1
A	7	390.0

平成24年度修了者

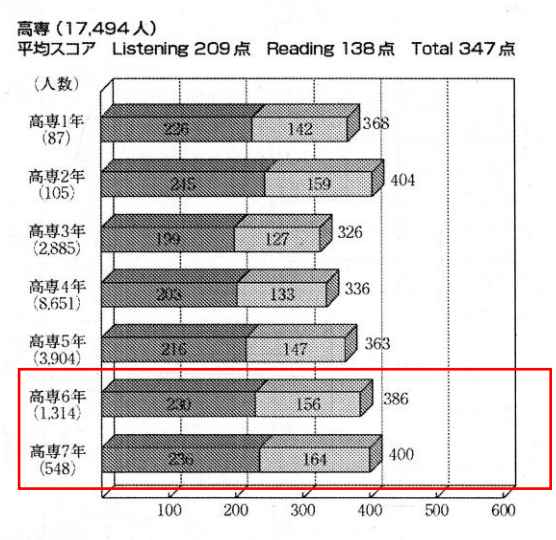
	受験者数	平均点
ME	7	435.0
C	8	523.8
A	6	377.5

平成25年度修了者

	受験者数	平均点
ME	14	400.4
C	8	426.9
A	8	388.8

〔参考〕平成 22 年度データ

学年別受験者数と平均スコア



〔出典：英語科資料〕

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程及び専攻科課程のいずれの課程においても，高い進級率，卒業率及び修了率を維持している。

準学士課程での卒業研究は，専門科目の教員が指導して行い，その評価に当たっては指導教員以外の教員が関与している。また，専攻科課程での専攻科特別研究は，学会発表を義務付けており，学内の評価でも指導教員以外の教員が関与して行っている。

さらに，工学基礎教育の数学及び物理においては学習到達度試験を課しており，英語教育においては TOEIC Bridge 及び TOEIC IP を課している。その結果を見ると，全高専の比較ではいずれの科目も平均点を上回っているか同程度である。

したがって，工学基礎教育，英語教育及び専門教育の成果や効果が客観的に上がっている。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程での卒業後の進路状況・求人及び就職決定状況を，過去５年間にわたり（資料６－１－③－１～２）に示す。就職率（当該年度の卒業者数に対する就職者数の割合）の平均は約 63%，進学率（当該年度の卒業者数に対する進学者数の割合）は約 34%であり，進路未決定率（当該年度の卒業者数に対する進路未決定者数）は約３%である。産業分類別では建設業，化学工業及び電気機械器具がほとんどを占めており（資料６－１－③－３），地域的には京浜地区及び宮崎県内で過半数を占めている（資料６－１－③－４）。（資料６－１－③－５）は，進学先の状況を示している。大学への編入学が約 53%であり，高専専攻科への進学が約 47%である。

専攻科課程の修了後の進路状況を（資料６－１－③－６）に示す。就職率が約 78%，進学率が約 20%であり，進路決定率は各年度約 98%である。（資料６－１－③－７～８）は，就職決定状況及び就職先を示している。産業分類別では，建設業，化学工業及び電気機械器具が大半である。また，専攻科生の進学先は，（資料６－１－③－９）で示したように全てが工学系である。

観点６－１－③　資料一覧

資料６－１－③－１　卒業者の進路状況（本科生）

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－③－２　求人及び就職決定状況（本科生）

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－③－３　産業分類別就職状況（本科生）

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－③－４　地域別就職状況(本科生)

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－③－５　高専専攻科入学及び大学編入学状況（本科生）

〔出典：学校要覧〕

資料６－１－③－６　修了者の進路状況（専攻科生）

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－③－７　就職決定状況（専攻科生）

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－③－８　就職先（専攻科生）

〔出典：学校要覧〕

資料６－１－③－９　大学院への入学状況（専攻科生）

〔出典：学校要覧〕

資料６－１－③－１

卒業者の進路状況（本科生）

学科	区分	19	20	21	22	23	計
M	卒業者数	38	36	38	38	35	185
	就職者数	27	16	29	28	26	126
	率	71.05	44.44	76.32	73.68	74.29	68.11
	進学者数	11	19	9	9	8	56
	率	28.95	52.78	23.68	23.68	22.86	30.27
E	卒業者数	41	38	39	37	40	195.00
	就職者数	26	21	27	21	30	125.00
	率	63.41	55.26	69.23	56.76	75.00	64.10
	進学者数	15	16	12	16	9	68.00
	率	36.59	42.11	30.77	43.24	22.50	34.87
C	卒業者数	42	41	34	39	42	198
	就職者数	24	24	17	22	29	116
	率	57.14	58.54	50.00	56.41	69.05	58.59
	進学者数	17	17	16	14	12	76
	率	40.48	41.46	47.06	35.90	28.57	38.38
A	卒業者数	36	34	37	38	37	182
	就職者数	24	20	20	23	23	110
	率	66.67	58.82	54.05	60.53	62.16	60.44
	進学者数	9	12	13	13	13	60
	率	25.00	35.29	35.14	34.21	35.14	32.97

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－③－２

求人及び就職決定状況（本科生）

年度	区分 / 学科	就職希望者数(A) 男	女	計	求人数(B)	就職決定者数(C) 男	女	計	求人倍率 (B/A)	就職決定率(C/A) 男	女	計
平成19年度	機械工学科	26	1	27	578	26	1	27	21.4	100	100	100
	電気工学科	25	1	26	560	25	1	26	21.5	100	100	100
	物質工学科	11	13	24	380	11	13	24	15.8	100	100	100
	建築学科	12	12	24	225	12	12	24	9.4	100	100	100
	計	74	27	101	1,743	74	27	101	17.3	100	100	100
平成20年度	機械工学科	16	0	16	602	16	0	16	37.6	100	－	100
	電気工学科	21	0	21	605	21	0	21	28.8	100	－	100
	物質工学科	12	12	24	343	12	12	24	14.3	100	100	100
	建築学科	13	7	20	195	13	7	20	9.8	100	100	100
	計	62	19	81	1,745	62	19	81	21.5	100	100	100
平成21年度	機械工学科	28	1	29	424	28	1	29	14.6	100	100	100
	電気工学科	23	4	27	420	23	4	27	15.6	100	100	100
	物質工学科	9	8	17	251	9	8	17	14.8	100	100	100
	建築学科	16	4	20	202	16	4	20	10.1	100	100	100
	計	76	17	93	1,297	76	17	93	13.9	100	100	100
平成22年度	機械工学科	28	0	28	398	28	0	28	14.2	100	－	100
	電気工学科	19	2	21	385	19	2	21	18.3	100	100	100
	物質工学科	8	14	22	217	8	14	22	9.9	100	100	100
	建築学科	20	3	23	212	20	3	23	9.2	100	100	100
	計	75	19	94	1,212	75	19	94	12.9	100	100	100
平成23年度	機械工学科	25	1	26	420	25	1	26	16.2	100	100	100
	電気工学科	4	0	4	415	4	0	4	13.8	100	－	100
	電気情報工学科	24	2	26		24	2	26		100	100	100
	物質工学科	12	17	29	226	12	17	29	7.8	100	100	100
	建築学科	15	8	23	261	15	8	23	11.3	100	100	100
	計	80	28	108	1,322	80	28	108	12.2	100	100	100

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－③－３

産業分類別就職状況（本科生）

年度	区分／学科	第１次産業			第２次産業														第３次産業							合計
		農業	林業	漁業	建設業	食料品・たばこ	繊維工業	出版・印刷等	化学工業	石油・石炭製品	鉄鋼業	非鉄金属	金属製品	一般機械器具	電気機械器具	輸送機械器具	精密機械器具	その他	電気・ガス・水道	運輸通信業	卸・小売業	不動産業	サービス業	官公庁	その他	
平成19年度	機械工学科	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	0	0	2	7	8	1	0	0	2	0	0	0	0	1	27
	電気工学科	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	0	1	6	1	0	0	8	3	0	0	0	0	2	26
	物質工学科	0	0	0	0	2	2	0	15	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	24
	建築学科	0	0	0	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	24
	計	0	0	0	19	4	2	1	22	1	2	0	0	3	17	9	3	0	9	5	0	1	0	0	3	101
平成20年度	機械工学科	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	0	0	4	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	16
	電気工学科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	6	3	0	0	5	2	0	0	0	1	0	21
	物質工学科	0	0	0	0	4	0	0	11	5	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	24
	建築学科	0	0	0	10	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	2	0	1	1	0	1	20
	計	0	0	0	10	6	2	1	14	5	0	0	0	8	8	6	4	0	7	6	0	1	1	1	1	81
平成21年度	機械工学科	0	0	0	0	3	0	1	3	0	0	0	1	2	1	10	0	5	3	0	0	0	0	0	0	29
	電気工学科	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	2	4	2	3	2	5	4	0	0	0	0	0	27
	物質工学科	0	0	0	0	1	1	0	8	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	17
	建築学科	0	0	0	12	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	20
	計	0	0	0	12	5	1	1	14	7	3	0	2	4	5	12	3	7	10	6	0	0	1	0	0	93
平成22年度	機械工学科	0	0	0	0	4	0	0	1	1	1	0	0	3	4	7	0	0	4	2	0	0	0	1	0	28
	電気工学科	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	2	6	0	1	0	4	3	0	0	0	1	0	21
	物質工学科	0	0	0	0	2	0	0	18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	22
	建築学科	0	0	0	14	1	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	23
	計	0	0	0	15	7	0	0	22	2	2	0	0	7	11	7	1	0	11	5	0	0	0	3	1	94
平成23年度	機械工学科	0	0	0	0	2	1	0	4	3	0	0	0	4	2	1	1	2	3	0	0	0	0	1	2	26
	電気工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	電気情報工学科	0	0	0	1	0	0	0	5	2	2	0	0	0	10	0	0	0	4	1	0	0	0	0	1	26
	物質工学科	1	0	0	0	3	0	0	16	3	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	29
	建築学科	0	0	0	16	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0	23
	計	1	0	0	17	5	1	0	25	9	2	0	0	8	16	1	1	2	11	3	0	1	0	1	4	108

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－③－４

地域別就職状況（本科生）

年度	区分／学科	就職者数			宮崎県内			京浜地区			京阪神地区			その他の地区		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成19年度	機械工学科	26	1	27	6	0	6	5	1	6	1	0	1	14	0	14
	電気工学科	25	1	26	2	0	2	9	0	9	5	0	5	9	1	10
	物質工学科	11	13	24	1	2	3	2	6	8	3	3	6	5	2	7
	建築学科	12	12	24	0	2	2	7	4	11	4	4	8	1	2	3
	計	74	27	101	9	4	13	23	11	34	13	7	20	29	5	34
平成20年度	機械工学科	16	0	16	1	0	1	8	0	8	3	0	3	4	0	4
	電気工学科	21	0	21	0	0	0	9	0	9	5	0	5	7	0	7
	物質工学科	12	12	24	0	0	0	4	5	9	4	5	9	4	2	6
	建築学科	13	7	20	1	1	2	8	3	11	2	3	5	2	0	2
	計	62	19	81	2	1	3	29	8	37	14	8	22	17	2	19
平成21年度	機械工学科	28	1	29	4	0	4	15	1	16	2	0	2	7	0	7
	電気工学科	23	4	27	2	1	3	10	2	12	4	1	5	7	0	7
	物質工学科	9	8	17	0	0	0	4	4	8	2	0	2	3	4	7
	建築学科	16	4	20	2	2	4	5	1	6	4	1	5	5	0	5
	計	76	17	93	8	3	11	34	8	42	12	2	14	22	4	26
平成22年度	機械工学科	28	0	28	0	0	0	10	0	10	6	0	6	12	0	12
	電気工学科	19	2	21	0	0	0	8	2	10	6	0	6	5	0	5
	物質工学科	8	14	22	0	3	3	4	8	12	2	1	3	2	2	4
	建築学科	20	3	23	2	2	4	12	1	13	4	0	4	2	0	2
	計	75	19	94	2	5	7	34	11	45	18	1	19	21	2	23
平成23年度	機械工学科	25	1	26	1	1	2	15	0	15	6	0	6	3	0	3
	電気工学科	4	0	4	1	0	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0
	電気情報工学科	24	2	26	1	0	1	14	0	14	2	2	4	7	0	7
	物質工学科	12	17	29	2	3	5	7	7	14	1	3	4	2	4	6
	建築学科	15	8	23	2	3	5	8	1	9	3	1	4	2	3	5
	計	80	28	108	7	7	14	47	8	55	12	6	18	14	7	21

〔出典：基礎データ集〕

資料６－１－③－５

高専専攻科入学及び大学編入学状況（本科生）

高専専攻科入学及び大学編入学状況 Number of Entrants into Universities

入学年度 Year / 大学名 Univ	20 '08	21 '09	22 '10	23 '11	24 '12
都城工業高等専門学校専攻科 Miyakonojo National College of Technology	25	23	24	21	28
その他の高専専攻科 The others					1
北海道大学 Hokkaido University					1
千葉大学 Chiba University				1	
東京農工大学 Tokyo University of Agriculture and Technology	2	3			1
長岡技術科学大学 Nagaoka University of Technology	2	7	4	6	
富山大学 Toyama University					1
豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology	4	4	3	6	3
大阪大学 Osaka University		1		1	
神戸大学 Kobe University			1		
広島大学 Hiroshima University		1	1		
山口大学 Yamaguchi University		2	2		
九州大学 Kyushu University	2	1		1	
九州工業大学 Kyushu Institute of Technology	3	4	4	2	
佐賀大学 Saga University		1			
長崎大学 Nagasaki University		1			
熊本大学 Kumamoto University	9	6	4	5	4
大分大学 Oita University	1			3	1
宮崎大学 Miyazaki University	1	5	1	2	
鹿児島大学 Kagoshima University	1	2	4	3	2
琉球大学 Ryukyu University				1	
北九州市立大学 University of Kitakyushu		1	1		
千葉工業大学 Chiba Institute of Technology	1				
東京工科大学 Tokyo University of Technology	1				
東京都市大学 Tokyo City University		1			
立命館大学 Ritsumeikan University		1	1		
合計 Total	52	64	50	52	42

〔出典：学校要覧〕

資料６－１－③－６

修了者の進路状況（専攻科生）

専攻	区分	19	20	21	22	23	計
ＭＥ	卒業者数	9	8	10	13	11	51
	就職者数	6	8	7	10	6	37
	率	66.67	100.00	70.00	76.92	54.55	72.55
	進学者数	2	0	3	3	4	12
	率	22.22	0.00	30.00	23.08	36.36	23.53
Ｃ	卒業者数	3	6	7	8	7	31
	就職者数	1	5	5	4	4	19
	率	33.33	83.33	71.43	50.00	57.14	61.29
	進学者数	2	1	2	4	2	11
	率	66.67	16.67	28.57	50.00	28.57	35.48
Ａ	卒業者数	2	4	4	2	6	18
	就職者数	2	4	4	2	6	18
	率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	進学者数	0	0	0	0	0	0
	率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－③－７

就職決定状況（専攻科生）

年度	区分 / 専攻	就職希望者数(A)			求人数(B)	就職決定者数(C)			求人倍率	就職決定率(C/A)		
		男	女	計		男	女	計	(B/A)	男	女	計
19	機械電気工学専攻	6	0	6	603	6	0	6	100.5	100	－	100
	物質工学専攻	1	0	1	287	1	0	1	287.0	100	－	100
	建築学専攻	0	2	2	8	0	2	2	4.0	－	100	100
	計	7	2	9	898	7	2	9	99.8	100	100	100
20	機械電気工学専攻	8	0	8	671	8	0	8	83.9	100	－	100
	物質工学専攻	3	2	5	228	3	2	5	45.6	100	100	100
	建築学専攻	4	0	4	268	4	0	4	67.0	100	－	100
	計	15	2	17	1,167	15	2	17	68.6	100	100	100
21	機械電気工学専攻	7	0	7	609	7	0	7	87.0	100	－	100
	物質工学専攻	2	3	5	135	2	3	5	27.0	100	100	100
	建築学専攻	4	0	4	202	4	0	4	50.5	100	－	100
	計	13	3	16	946	13	3	16	59.1	100	100	100
22	機械電気工学専攻	9	1	10	566	9	1	10	56.6	100	－	100
	物質工学専攻	0	4	4	152	0	4	4	38.0	－	100	100
	建築学専攻	1	1	2	212	1	1	2	106.0	100	100	100
	計	10	6	16	930	10	6	16	58.1	100	100	100
23	機械電気工学専攻	6	0	6	533	6	0	6	88.8	100	－	100
	物質工学専攻	1	3	4	191	1	3	4	47.8	100	100	100
	建築学専攻	3	3	6	35	3	3	6	5.8	100	100	100
	計	10	6	16	759	10	6	16	47.4	100	100	100

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－③－８

就職先（専攻科生）

就職先 List of employment

平成 23 年度修了者の就職先（順不同）(Graduates in 2011)

タマディック、旭テック、コマツ、セイコーエプソン、ソーラーフロンティア、メタウォーター、宮崎富士通コンポーネント、高田工業所、ソニーセミコンダクタ、竹中工務店、旭化成、JFE シビル、三菱化学エンジニアリング、サンホーム、宮崎県庁

平成 20～22 年度修了者の就職先（順不同）(Graduates in 2010, 2009, 2008)

トヨタプロダクションエンジニアリング、森精機製作所、いすゞエンジニアリング、東芝プラントシステム、東京エレクトロン九州、東洋インキ製造、田辺三菱製薬工場、ニコン、東洋新薬、中外製薬工業、サントリーホールディングス、浅井謙建築研究所、カネカ、ジェイアール東日本建築設計事務所、竹中工務店、戸田建設、日立建設設計、宮崎アスモ、 サンワテスコム、シャープ、ホンダロック、サントリー、スズキ、トヨタテクニカルディベロップメント、日東電工、吉川セミコンダクタ、綜企画設計、TAK-QS、協和発酵ケミカル、千住技研、大分キヤノン、大和ハウス工業、南日本酪農協同、関西電力、カルビー、ミツトヨ、沢井製薬、日本オーチスエレベータ、三菱重工・名古屋航空宇宙製作所、日本海洋掘削、オリンパス、九州コガネイ、キャデック、メタウォーター

〔出典：学校要覧〕

資料６－１－③－９

大学院への入学状況（専攻科生）

大学院への入学状況 Number of Entrants into Graduate Schools

大学院名 Univ（Graduate School） ＼ 入学年度 Year	20 '08	21 '09	22 '10	23 '11	24 '12
筑波大学大学院 University of Tsukuba			1		
東京工業大学大学院 Tokyo Institute of Technology			1		
豊橋技術科学大学大学院 Toyohashi University of Technology	1		1	1	1
大阪大学大学院 Osaka University			1		
九州大学大学院 Kyushu University	1		1	1	
九州工業大学大学院 Kyushu Institute of Technology	2			2	1
宮崎大学大学院 Miyazaki University					
鹿児島大学大学院 Kagoshima University					
北陸先端科学技術大学院大学 Japan Advanced Institute of Science Technology					2
奈良先端科学技術大学院大学 Nara Institute of Science and Technology		1		2	2
早稲田大学大学院 Waseda University				1	
合計 Total	4	1	5	7	6

〔出典：学校要覧〕

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の過去５年間の平均進路決定率は約 97％であり，高水準にある。また，割合は就職が約 63％，進学が残り約 34％と均衡のとれたものになっている。就職先の産業分類別割合では，本校が設置する４学科に対応している。

専攻科課程では，進路決定率が約 98％であり，準学士課程よりさらに優れた水準にある。また，進路のうち，就職が約 78％，進学が約 20％となっている。

したがって，卒業・修了後の進路状況から判断して，教育の成果や効果は上がっている。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

ポートフォリオの記入を実施することにより，全学生が自らの学習達成度を評価している。記入を行う学生は，準学士課程の４，５年生，専攻科課程では全学年であったが，平成23年度の前期末試験より１年生から３年生までの低学年生も実施に至り，全学生の受講する科目全てについて行っている。４，５年生及び専攻科生は，定期試験ごとに，各科目で求められる学習達成目標の達成度を自ら評価している（資料６－１－④－１）。また，１年生から３年生までは試験ごとに試験に対する取組と感想を記入している（資料６－１－④－２）。

さらに，５年修了時において，５年間における学習達成目標の達成度を自ら評価させ，その結果を次年度の教務委員会で確認している（資料６－１－④－３～４）。また，専攻科生に対しては，２年間における学習達成目標の達成度が，（資料６－１－④－５）により確認できるシステムを取り入れている。

また，（資料６－１－④－６～10）が示すように，平成17年度から平成22年度までの卒業生，平成22年度大学編入学者，平成23年度準学士課程学生及び平成23年度専攻科課程学生に対して，本校の教育に対する満足度についてのアンケートを実施し，その結果，一般科目及び専門科目の総合的な教育については，有効回答数の過半数が「満足」であった。

観点６－１－④　資料一覧

資料６－１－④－１　準学士課程・専攻科課程対応：ポートフォーリオ（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－２　低学年生対応：ポートフォーリオ(様式)
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－３　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検表（様式）
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－４　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価集計
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－５　専攻科課程：プログラム教育課程表
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－６　平成22年度卒業生アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－７　平成17年度～平成21年度卒業生アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－８　平成22年度卒業生大学編入学者アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－９　平成23年度準学士課程学生アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－10　平成23年度専攻科課程学生アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－１

準学士課程・専攻科課程対応：ポートフォーリオ（様式）

生産デザイン工学プログラム

Production Engineering Program

ポートフォリオ

２０１２年度



平成 ＿＿ 年度　　本科入学　機 械 工 学 科

平成 ＿＿ 年度　専攻科入学　＿＿＿＿＿＿ 専攻

氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

機械工学科　ポートフォリオ：本科4,5年生産デザイン工学プログラム対応科目群（プログラム1,2年）

区分	授業科目	成績（点数） 定期試験 前期中間	前期末	後期中間	学年末	成績（点数） 再試験 1	2	3	4	5	最終評価	学習・教育目標 (A) A1	A2	(B) B1	B2	B3	B4	(C) C1	C2	C3	C4	C5	C6	(D) D1	D2	D3
一般科目	国語																	○					○			
	英語（４年）																	○				◎				
	英語（５年）																	○				◎				
	選択英語																	○				◎				
	ドイツ語																					◎				
	法学																			○						
	歴史学概論																	◎								
	社会学																			○						
	国際文化論Ⅰ																					◎				
	国際文化論Ⅱ																	◎								
	哲学																	○								
	産業財産権法																			○						
専門科目	微分方程式													◎												
	応用数学													◎												
	応用物理													◎												
	情報処理Ⅱ														◎											
	材料力学（４年）														◎											
	材料力学（５年）														◎											
	材料学Ⅱ														◎											
	熱力学														◎											
	水力学														◎											
	機械設計法（４年）														◎											
	機械設計法（５年）														◎											
	設計製図														○											
	創造設計												◎													
	工学実験（４年）											○				◎									◎	
	工学実験（５年）											○				◎									◎	
	熱機関														◎											
	機械力学														◎											
	自動制御														◎											
	流体機械														◎											
	工業外国語														◎											
	計測工学														◎											
	卒業研究											◎	◎			◎	◎						◎		◎	◎
	流体力学														○											
	伝熱工学														○											
	塑性加工														○											
	生産工学														○											
	メカトロニクス														○											
	強度解析学														○											

【達成度評価】

4年	前期中間	
	前期末	
	後期中間	
	学年末	
5年	前期中間	
	前期末	
	後期中間	
	学年末	

機械電気工学専攻（機械系）　ポートフォリオ：専攻科1,2年生産デザイン工学プログラム対応科目群（プログラム3,4年）

区分	授業科目	成績（点数） 定期試験 前期中間	前期末	後期中間	学年末	成績（点数） 再試験 1	2	3	4	5	最終評価	学習・教育目標 (A) A1	A2	(B) B1	B2	B3	B4	(C) C1	C2	C3	C4	C5	C6	(D) D1	D2	D3
一般科目	総合英語																	○			◎	◎				
	実用英語																					◎				
	知的財産権																			○						
	倫理学																	◎	◎					○		
	歴史・学																	◎	◎							
	中国古典学																	○								
	文章表現法																						◎			
専門科目 共通科目	地球環境科学																							◎		
	技術者倫理																			◎						
	線形数学													◎												
	統計学特論													○												
	解析学特論													◎												
	一般化学														◎											
	一般力学														○											
	応用物理特論													◎												
	応用情報工学													◎												
専門科目 専攻科目	科学技術英語																				◎					
	機械電気工学特別実験											○				◎									◎	
	創造デザイン演習												◎													
	実務実習											○				◎							◎		○	◎
	機械電気工学特論											○				○										
	専攻科特別研究											◎	◎			◎	◎						◎		◎	◎
	メカトロニクス特論														◎											
	熱移動と流れの工学														◎											
	変形加工学														◎											
	CAE														◎											
	超精密加工														○											
	材料強度学														○											
	流体力学特論														○											
	機械設計特論														○											
	材料力学特論														○											
	振動工学														○											
	電磁気学特論														○											
	電子デバイス														○											
	情報システム工学														○											
	パワーエレクトロニクス														○											
	電気回路特論														○											
	電子計測特論														○											
	電子材料プロセス工学														○											
	電子物性工学														○											
	気体電子工学														○											
	放電工学														○											
	通信工学特論														○											

【達成度評価】

1年	前期中間	
	前期末	
	後期中間	
	学年末	
2年	前期中間	
	前期末	
	後期中間	
	学年末	

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－２

低学年生対応：ポートフォーリオ(様式)

平成　　年度　低学年用ポートフォリオ

授業科目＿＿＿＿＿＿　＿＿学年　＿＿学科　＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿

定期試験の成績を下記に記載し、その試験に対する取り組みと感想を記入してください。

記入したら授業担当の先生に提出してください。

前期中間試験（素点）　＿＿＿＿＿＿点
今回の試験に対する取り組みと成績についての感想（理解度と学習目標達成を含む）

前期末試験（素点）　＿＿＿＿＿＿点
今回の試験に対する取り組みと成績についての感想（理解度と学習目標達成を含む）

後期中間試験（素点）　＿＿＿＿＿＿点
今回の試験に対する取り組みと成績についての感想（理解度と学習目標達成を含む）

学年末試験（素点）　＿＿＿＿＿＿点
今回の試験に対する取り組みと成績についての感想（理解度と学習目標達成を含む）

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－３

準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検表（様式）

準学士課程の学習･教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価表

平成19年度入学生　　建築学科5年　　出席番号（　　）　氏名（　　）　　平成24年 2月 記入

学習・教育目標		サブ目標	1年次科目		2年次科目		3年次科目		4年次科目		5年次科目		目標達成度自己評価
1	1-1	社会の要求あるいは学問的関心に基づいたアイデアを検証することができる基礎技術を身につけていること					建築学実験				建築学実験		5 4 3 2 1
											卒業研究		
	1-2	専門技術に関する創造的構想を具現化するための基礎技術を身につけていること	建築設計演習		建築設計演習		建築設計演習		建築設計演習		卒業研究		5 4 3 2 1
	1-3	社会の要求あるいは学問的関心に基づいた問題を自ら発見し、その問題を理論的に解決するための基礎知識および基礎技術を身につけていること									卒業研究		5 4 3 2 1
2	2-1	工学の専門科目の基礎となる数学、自然科学および情報科学の理論を理解し説明できること	基礎数学1		微分積分学1		微分積分学1		微分方程式				5 4 3 2 1
			基礎数学2		代数学		数学特論		応用数学				
			物理		物理		応用物理		応用物理				
			科学1（化学）		科学2								
			情報基礎1		情報基礎2								
	2-2	技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解し説明できること	構造力学		構造力学		構造力学		構造力学		耐震構造学		5 4 3 2 1
					建築構造I		建築構造II		鋼構造学		鋼構造演習		
			建築デザイン基礎		コンピュータ援用学		建築CAD演習		RC構造学		RC構造演習		
			建築設計演習		建築設計演習		建築設計演習		建築設計演習		意匠CAD演習		
							建築計画		建築計画		都市計画学		
							建築法規		建築法規		都市計画学		
							測量学		建築環境工学		建築環境工学		
											建築設備		
									建築史I		建築史II		
											建築史III		
							建築材料				建築生産学		
											建築経済		
											建築デザイン		
									校外実習		建築実務概論		
							建築学実験				建築学実験		
									建築学研究		卒業研究		
	2-3	工学に関する問題点を理解し、適切に対処できること					建築学実験				建築学実験		5 4 3 2 1
	2-4	性能、安全性、環境への影響、経済性または審美性などを配慮できること									卒業研究		5 4 3 2 1
3	3-1	日本の内外の歴史や文化に関するさまざまな事柄を認識できること	現代社会1		現代社会2				歴史学概論		国際文化論2		5 4 3 2 1
			国語		国語		国語		国語		国際文化論1		
			英語		英語		英語		建築史 I		建築史 II		
											建築史III		
	3-2	社会のさまざまな価値観や規範を理解し、社会の構成員としての自覚を持っていること					現代社会3		社会学		哲学		5 4 3 2 1
			特別活動		特別活動		特別活動		法学		産業財産権法		
	3-3	言語等の表現手段によって他者と意思などを疎通させる能力を持っていること	英語		英語		英語		英語		英語		5 4 3 2 1
			オーラル英語		英会話		英会話		英語（選択）				
			英作文						ドイツ語（選択）		国際文化論1		
			国語		国語		国語		国語				
			音楽・美術								卒業研究		
4	4-1	科学技術が自然・社会環境に影響を及ぼす諸問題を理解できること	現代社会1		物理								5 4 3 2 1
	4-2	関連する人々と協力して、自分の研究や実験課題に積極的・計画的に取り組むことができること					建築学実験		建築設計演習		建築学実験		5 4 3 2 1
											卒業研究		
	4-3	心身の健康を保持増進し、生涯にわたるスポーツ活動ができる基礎能力を身につけていること	保健体育		保健体育		保健体育		保健体育		保健体育		5 4 3 2 1

記入例　関連科目1、2の単位を取得し、関連科目3の単位を取得見込の場合で、関連授業と授業外の自己学習成果を総合して、自己のサブ目標達成度を、3 と評価する場合、

		サブ目標内容					関連科目名1	○	関連科目名2	○	関連科目名3	△	5 4 (3) 2 1

目標達成度自己評価値　5 優れて達成している　4 達成している　3 概ね達成している　2 やや達成不足　1 達成不足である

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－４

準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価集計

平成２１年度　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価集計　　平成22年2月実施

	評価／学科	5	%	4	%	3	%	2	%	1	%	計	平 均
１－１	M	9	25%	18	50%	8	22%	1	3%		0%	36	3.97
	E	9	25%	14	39%	13	36%		0%		0%	36	3.89
	C	10	30%	18	55%	5	15%		0%		0%	33	4.15
	A	7	19%	16	44%	13	36%		0%		0%	36	3.83
	計	35	25%	66	47%	39	28%	1	1%	0	0%	141	3.96
１－２	M	9	25%	17	47%	9	25%	1	3%		0%	36	3.94
	E	5	14%	19	53%	11	31%	1	3%		0%	36	3.78
	C	7	21%	21	64%	5	15%		0%		0%	33	4.06
	A	6	16%	16	43%	14	38%	1	3%		0%	37	3.73
	計	27	19%	73	51%	39	27%	3	2%	0	0%	142	3.87
１－３	M	10	29%	14	40%	10	29%	1	3%		0%	35	3.94
	E	3	8%	21	58%	11	31%	1	3%		0%	36	3.72
	C	9	28%	17	53%	6	19%		0%		0%	32	4.09
	A	7	19%	18	49%	10	27%	2	5%		0%	37	3.81
	計	29	21%	70	50%	37	26%	4	3%	0	0%	140	3.89
２－１	M	8	24%	13	39%	11	33%	1	3%		0%	33	3.85
	E	9	25%	18	50%	9	25%		0%		0%	36	4.00
	C	6	18%	19	58%	7	21%	1	3%		0%	33	3.91
	A	9	24%	16	43%	11	30%	1	3%		0%	37	3.89
	計	32	23%	66	47%	38	27%	3	2%	0	0%	139	3.91
２－２	M	6	17%	15	43%	11	31%	3	9%		0%	35	3.69
	E	5	14%	18	50%	11	31%	2	6%		0%	36	3.72
	C	3	9%	19	58%	10	30%	1	3%		0%	33	3.73
	A	2	5%	14	38%	16	43%	5	14%		0%	37	3.35
	計	16	11%	66	47%	48	34%	11	8%	0	0%	141	3.62
２－３	M	12	32%	14	38%	10	27%	1	3%		0%	37	4.00
	E	7	19%	18	50%	9	25%	2	6%		0%	36	3.83
	C	6	18%	18	55%	9	27%		0%		0%	33	3.91
	A	11	31%	11	31%	10	28%	4	11%		0%	36	3.81
	計	36	25%	61	43%	38	27%	7	5%	0	0%	142	3.89
２－４	M	9	25%	17	47%	9	25%	1	3%		0%	36	3.94
	E	5	14%	19	54%	9	26%	1	3%	1	3%	35	3.77
	C	11	34%	14	44%	7	22%		0%		0%	32	4.13
	A	9	25%	16	44%	10	28%	1	3%		0%	36	3.92
	計	34	24%	66	47%	35	25%	3	2%	1	1%	139	3.94
３－１	M	8	23%	16	46%	9	26%	2	6%		0%	35	3.86
	E	6	17%	18	51%	11	31%		0%		0%	35	3.86
	C	9	27%	15	45%	8	24%	1	3%		0%	33	3.97
	A	7	19%	15	41%	14	38%	1	3%		0%	37	3.76
	計	30	21%	64	46%	42	30%	4	3%	0	0%	140	3.86
３－２	M	8	22%	13	36%	14	39%	1	3%		0%	36	3.78
	E	7	20%	16	46%	11	31%	1	3%		0%	35	3.83
	C	8	24%	17	52%	8	24%		0%		0%	33	4.00
	A	11	30%	12	32%	13	35%	1	3%		0%	37	3.89
	計	34	24%	58	41%	46	33%	3	2%	0	0%	141	3.87
３－３	M	8	23%	15	43%	9	26%	3	9%		0%	35	3.80
	E	3	8%	18	50%	14	39%		0%	1	3%	36	3.64
	C	9	27%	13	39%	9	27%	2	6%		0%	33	3.88
	A	9	24%	17	46%	10	27%	1	3%		0%	37	3.92
	計	29	21%	63	45%	42	30%	6	4%	1	1%	141	3.81
４－１	M	9	26%	11	32%	13	38%	1	3%		0%	34	3.82
	E	7	20%	20	57%	7	20%	1	3%		0%	35	3.94
	C	8	25%	16	50%	8	25%		0%		0%	32	4.00
	A	11	31%	9	26%	11	31%	4	11%		0%	35	3.77
	計	35	26%	56	41%	39	29%	6	4%	0	0%	136	3.88
４－２	M	12	33%	12	33%	11	31%	1	3%		0%	36	3.97
	E	8	22%	21	58%	6	17%	1	3%		0%	36	4.00
	C	8	25%	20	63%	4	13%		0%		0%	32	4.13
	A	9	24%	15	41%	12	32%	1	3%		0%	37	3.86
	計	37	26%	68	48%	33	23%	3	2%	0	0%	141	3.99
４－３	M	14	39%	12	33%	8	22%	2	6%		0%	36	4.06
	E	12	33%	16	44%	8	22%		0%		0%	36	4.11
	C	12	36%	17	52%	3	9%	1	3%		0%	33	4.21
	A	16	43%	13	35%	8	22%		0%		0%	37	4.22
	計	54	38%	58	41%	27	19%	3	2%	0	0%	142	4.15

目標達成度自己評価値　５ 優れて達成している　４ 達成している　３ 概ね達成している　２ やや達成不足　１ 達成不足である

平成２２年度　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価集計　　平成23年2月実施

	評価／学科	5	%	4	%	3	%	2	%	1	%	計	平 均
1－1	M	14	40%	18	51%	3	9%	0	0%	0	0%	35	4.31
	E	14	39%	12	33%	9	25%	1	3%	0	0%	36	4.08
	C	4	11%	17	47%	13	36%	2	6%	0	0%	36	3.64
	A	11	29%	16	42%	10	26%	0	0%	1	3%	38	3.97
	計	43	30%	63	43%	35	24%	3	2%	1	1%	145	4.00
1－2	M	17	49%	16	46%	2	6%	0	0%	0	0%	35	4.43
	E	14	39%	10	28%	9	25%	1	3%	2	6%	36	3.97
	C	3	8%	16	44%	16	44%	1	3%	0	0%	36	3.58
	A	7	18%	17	45%	11	29%	2	5%	1	3%	38	3.74
	計	41	28%	59	41%	38	26%	4	3%	3	2%	145	3.92
1－3	M	16	46%	17	49%	2	6%	0	0%	0	0%	35	4.40
	E	13	36%	13	36%	8	22%	1	3%	1	3%	36	4.03
	C	4	12%	15	44%	13	38%	2	6%	0	0%	34	3.62
	A	15	41%	11	30%	9	24%	0	0%	2	5%	37	4.05
	計	48	34%	56	39%	32	23%	3	2%	3	2%	142	4.03
2－1	M	14	41%	15	44%	3	9%	2	6%	0	0%	34	4.21
	E	15	42%	14	39%	7	19%	0	0%	0	0%	36	4.22
	C	6	17%	15	43%	12	34%	2	6%	0	0%	35	3.71
	A	8	21%	15	39%	12	32%	2	5%	1	3%	38	3.74
	計	43	30%	59	41%	34	24%	6	4%	1	1%	143	3.97
2－2	M	10	29%	19	54%	6	17%	0	0%	0	0%	35	4.11
	E	11	31%	16	44%	8	22%	1	3%	0	0%	36	4.03
	C	5	14%	13	36%	17	47%	1	3%	0	0%	36	3.61
	A	4	11%	19	50%	14	37%	1	3%	0	0%	38	3.68
	計	30	21%	67	46%	45	31%	3	2%	0	0%	145	3.86
2－3	M	15	43%	16	46%	4	11%	0	0%	0	0%	35	4.31
	E	13	36%	12	33%	10	28%	0	0%	1	3%	36	4.03
	C	6	17%	17	47%	12	33%	1	3%	0	0%	36	3.78
	A	12	32%	13	34%	13	34%	0	0%	0	0%	38	3.97
	計	46	32%	58	40%	39	27%	1	1%	1	1%	145	4.02
2－4	M	18	51%	13	37%	4	11%	0	0%	0	0%	35	4.40
	E	11	31%	16	46%	6	17%	0	0%	2	6%	35	4.03
	C	5	16%	14	45%	12	39%	0	0%	0	0%	31	3.77
	A	16	42%	11	29%	10	26%	0	0%	1	3%	38	4.11
	計	50	36%	54	39%	32	23%	0	0%	3	2%	139	4.09
3－1	M	13	38%	15	44%	4	12%	2	6%	0	0%	34	4.15
	E	13	37%	15	43%	7	20%	0	0%	0	0%	35	4.17
	C	6	17%	15	43%	13	37%	1	3%	0	0%	35	3.74
	A	9	24%	18	47%	8	21%	3	8%	0	0%	38	3.87
	計	41	29%	63	44%	32	23%	6	4%	0	0%	142	3.98
3－2	M	8	24%	18	53%	7	21%	1	3%	0	0%	34	3.97
	E	14	40%	15	43%	6	17%	0	0%	0	0%	35	4.23
	C	10	29%	14	40%	10	29%	1	3%	0	0%	35	3.94
	A	8	22%	23	62%	6	16%	0	0%	0	0%	37	4.05
	計	40	28%	70	50%	29	21%	2	1%	0	0%	141	4.05
3－3	M	11	31%	17	49%	5	14%	2	6%	0	0%	35	4.06
	E	11	31%	14	39%	9	25%	1	3%	1	3%	36	3.94
	C	7	19%	11	31%	15	42%	3	8%	0	0%	36	3.61
	A	8	21%	14	37%	13	34%	3	8%	0	0%	38	3.71
	計	37	26%	56	39%	42	29%	9	6%	1	1%	145	3.83
4－1	M	12	36%	18	55%	3	9%	0	0%	0	0%	33	4.27
	E	14	39%	11	31%	11	31%	0	0%	0	0%	36	4.08
	C	8	23%	16	46%	11	31%	0	0%	0	0%	35	3.91
	A	4	11%	18	49%	15	41%	0	0%	0	0%	37	3.70
	計	38	27%	63	45%	40	28%	0	0%	0	0%	141	3.99
4－2	M	16	46%	14	40%	4	11%	1	3%	0	0%	35	4.29
	E	14	39%	15	42%	7	19%	0	0%	0	0%	36	4.19
	C	6	17%	19	53%	9	25%	2	6%	0	0%	36	3.81
	A	11	29%	16	42%	10	26%	1	3%	0	0%	38	3.97
	計	47	32%	64	44%	30	21%	4	3%	0	0%	145	4.06
4－3	M	24	69%	9	26%	2	6%	0	0%	0	0%	35	4.63
	E	19	53%	11	31%	6	17%	0	0%	0	0%	36	4.36
	C	13	36%	10	28%	13	36%	0	0%	0	0%	36	4.00
	A	17	45%	16	42%	4	11%	1	3%	0	0%	38	4.29
	計	73	50%	46	32%	25	17%	1	1%	0	0%	145	4.32

目標達成度自己評価値　5　優れて達成している　4　達成している　3　概ね達成している　2　やや達成不足　1　達成不足である

平成２３年度　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価集計　　平成24年2月実施

	評価／学科	5	%	4	%	3	%	2	%	1	%	計	平 均
1－1	M	6	17%	12	34%	17	49%	0	0%	0	0%	35	3.69
	E	12	30%	17	43%	11	28%	0	0%	0	0%	40	4.03
	C	10	24%	20	49%	9	22%	2	5%	0	0%	41	3.93
	A	16	43%	13	35%	8	22%	0	0%	0	0%	37	4.22
	計	44	29%	62	41%	45	29%	2	1%	0	0%	153	3.97
1－2	M	6	17%	15	43%	13	37%	1	3%	0	0%	35	3.74
	E	9	23%	18	45%	11	28%	2	5%	0	0%	40	3.85
	C	9	21%	19	45%	13	31%	0	0%	1	2%	42	3.86
	A	17	46%	12	32%	8	22%	0	0%	0	0%	37	4.24
	計	41	27%	64	42%	45	29%	3	2%	1	1%	154	3.92
1－3	M	8	23%	17	49%	9	26%	1	3%	0	0%	35	3.91
	E	10	25%	16	40%	13	33%	1	3%	0	0%	40	3.88
	C	11	26%	16	38%	13	31%	1	2%	1	2%	42	3.86
	A	16	43%	13	35%	8	22%	0	0%	0	0%	37	4.22
	計	45	29%	62	40%	43	28%	3	2%	1	1%	154	3.96
2－1	M	6	17%	8	23%	16	46%	4	11%	1	3%	35	3.43
	E	13	33%	15	38%	10	26%	1	3%	0	0%	39	4.03
	C	8	19%	18	43%	15	36%	1	2%	0	0%	42	3.79
	A	15	41%	13	35%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.16
	計	42	27%	54	35%	50	33%	6	4%	1	1%	153	3.86
2－2	M	3	9%	15	43%	17	49%	0	0%	0	0%	35	3.60
	E	10	25%	14	35%	15	38%	1	3%	0	0%	40	3.83
	C	4	10%	18	43%	18	43%	1	2%	1	2%	42	3.57
	A	12	32%	16	43%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.08
	計	29	19%	63	41%	59	38%	2	1%	1	1%	154	3.77
2－3	M	5	14%	21	60%	6	17%	3	9%	0	0%	35	3.80
	E	12	30%	17	43%	11	28%	0	0%	0	0%	40	4.03
	C	10	24%	18	43%	12	29%	2	5%	0	0%	42	3.86
	A	15	41%	9	24%	13	35%	0	0%	0	0%	37	4.05
	計	42	27%	65	42%	42	27%	5	3%	0	0%	154	3.94
2－4	M	9	26%	15	43%	9	26%	2	6%	0	0%	35	3.89
	E	9	23%	17	44%	13	33%	0	0%	0	0%	39	3.90
	C	14	34%	18	44%	8	20%	0	0%	1	2%	41	4.10
	A	15	41%	12	32%	10	27%	0	0%	0	0%	37	4.14
	計	47	31%	62	41%	40	26%	2	1%	1	1%	152	4.01
3－1	M	5	15%	14	42%	11	33%	2	6%	1	3%	33	3.64
	E	12	30%	16	40%	11	28%	1	3%	0	0%	40	3.98
	C	15	37%	17	41%	8	20%	1	2%	0	0%	41	4.12
	A	16	44%	10	28%	9	25%	1	3%	0	0%	36	4.14
	計	48	32%	57	38%	39	26%	5	3%	1	1%	150	3.98
3－2	M	5	14%	18	51%	11	31%	1	3%	0	0%	35	3.77
	E	12	31%	15	38%	11	28%	1	3%	0	0%	39	3.97
	C	16	38%	19	45%	7	17%	0	0%	0	0%	42	4.21
	A	15	41%	13	35%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.16
	計	48	31%	65	42%	38	25%	2	1%	0	0%	153	4.04
3－3	M	8	23%	9	26%	14	40%	3	9%	1	3%	35	3.60
	E	11	28%	15	38%	13	33%	1	3%	0	0%	40	3.90
	C	13	31%	16	38%	10	24%	2	5%	1	2%	42	3.93
	A	16	44%	10	28%	9	25%	1	3%	0	0%	36	4.14
	計	48	31%	50	33%	46	30%	7	5%	2	1%	153	3.90
4－1	M	4	12%	15	45%	12	36%	2	6%	0	0%	33	3.64
	E	12	32%	16	43%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.08
	C	15	38%	13	33%	11	28%	0	0%	0	0%	39	4.10
	A	14	39%	11	31%	11	31%	0	0%	0	0%	36	4.08
	計	45	31%	55	38%	43	30%	2	1%	0	0%	145	3.99
4－2	M	10	29%	16	46%	8	23%	0	0%	1	3%	35	4.00
	E	13	33%	16	40%	11	28%	0	0%	0	0%	40	4.05
	C	15	37%	18	44%	7	17%	1	2%	0	0%	41	4.15
	A	15	42%	10	28%	11	31%	0	0%	0	0%	36	4.11
	計	53	35%	60	39%	37	24%	1	1%	1	1%	152	4.08
4－3	M	14	40%	15	43%	5	14%	1	3%	0	0%	35	4.20
	E	19	48%	14	35%	6	15%	1	3%	0	0%	40	4.28
	C	22	54%	13	32%	6	15%	0	0%	0	0%	41	4.39
	A	16	44%	13	36%	7	19%	0	0%	0	0%	36	4.25
	計	71	47%	55	36%	24	16%	2	1%	0	0%	152	4.28

目標達成度自己評価値　5　優れて達成している　4　達成している　3　概ね達成している　2　やや達成不足　1　達成不足である

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－５

専攻科課程：プログラム教育課程表

表６(3)-① プログラム教育課程表　物質工学科4,5年用

（平成22年以降のプログラム入学者に適用）

本科での区分	本科での選択・必修の別	授業科目	単位数	学年別配当（単位数） 本科4年（1年） 前期	本科4年（1年） 後期	本科5年（2年） 前期	本科5年（2年） 後期	授業時間（名目）(h)	授業時間（実時間）(h)	分類	「生産デザイン工学」プログラム修了要件 Ⅲ・教育目標達成評価科目	Ⅳ・基礎工学の科目	Ⅴ・専門工学科目	必修・選択必修のまとめ	Ⅶア・人文社会等科目	Ⅶイ・数学・自然科学等科目	Ⅶウ・専門分野科目	履修科目
											○:必修、△:選択必修				授業時間（実時間）			
本科一般科目	必修	国語	2	2				60	45.0	講義	○			○				
	必修	英語（４年）	2	2				60	45.0	講義	○			○				
	必修	英語（５年）	2			2		60	45.0	講義	○			○				
	1科目選択	選択英語	2	2				60	45.0	講義	△B			△B				
		ドイツ語	2	2				60	45.0	講義	△B			△B				
	1科目選択	法学	2	2				60	45.0	講義	△C			△C				
		歴史学概論	2	2				60	45.0	講義	△C			△C				
		社会学	2	2				60	45.0	講義	△C			△C				
	1科目選択	国際文化論Ⅰ	2			2		60	45.0	講義	△A			△A				
		国際文化論Ⅱ	2			2		60	45.0	講義	△A			△A				
		哲学	2			2		60	45.0	講義	△A			△A				
		産業財産権法	2			2		60	45.0	講義	△A			△A				
本科専門科目	必修	微分方程式	2	2				60	45.0	講義	○	○		○				
	必修	応用数学	2	2				60	45.0	講義	○	○		○				
	必修	応用物理	2	2				60	45.0	講義	○	○		○				
	必修	物理化学	2	2				60	45.0	講義	○			○				
	必修	化学工学Ⅱ	2	2				60	45.0	講義	○			○				
	必修	機器分析	2	2				60	45.0	講義	○			○				
	必修	高分子化学	1		1			30	22.5	講義	○			○				
	必修	電気化学	1			1		30	22.5	講義	○			○				
	必修	生物工学	2			2		60	45.0	講義	○	△③		○③				
	必修	工業英語	2	2				60	45.0	講義	○			○				
	必修	反応工学	2			2		60	45.0	講義	○			○				
	必修	安全工学	1				1	30	22.5	講義	○			○				
	必修	電気工学基礎	2			2		60	45.0	講義	○			○				
	必修	物理化学実験	2	2				60	45.0	実験	○			○				
	必修	機器分析実験	2	2				60	45.0	実験	○			○				
	必修	卒業研究	10			10		300	225.0	実験	○		○	○				
物質コース	必修	有機材料化学	2	2				60	45.0	講義	○	△③		○③				
	必修	無機材料化学	2	2				60	45.0	講義	○	△③		○③				
	必修	電子材料工学	2			2		60	45.0	講義		△③		△③				
	必修	工業熱力学	1			1		30	22.5	講義	○			○				
	必修	輸送現象論	2			2		60	45.0	講義	○			○				
	必修	物質工学演習	1		1			30	22.5	演習	○		○	○				
	必修	化学工学実験	4			4		120	90.0	実験	○		○	○				
	必修	物質工学実験	2	2				60	45.0	実験	○		○	○				
生物コース	必修	酵素工学	2			2		60	45.0	講義	○	△③		○③				
	必修	微生物工学	2			2		60	45.0	講義		△③		△③				
	必修	細胞・遺伝子工学	1			1		30	22.5	講義	○	△③		○③				
	必修	分子生物学	2	2				60	45.0	講義	○	△③		○③				
	必修	環境工学	2	2				60	45.0	講義	○	△⑤		○⑤				
	必修	生物工学演習	1		1			30	22.5	演習	○		○	○				
	必修	生物反応工学実験	4			4		120	90.0	実験	○		○	○				
	必修	生物工学実験	2	2				60	45.0	実験	○		○	○				
本科共通選択科目	1単位を選択	分離工学	1			1		30	22.5	講義								
		生体高分子	1			1		30	22.5	講義		△③		△③				
	1単位を選択	量子化学	1				1	30	22.5	講義								
		生体機能工学	1				1	30	22.5	講義		△③		△③				
	1単位を選択	計測制御工学	1				1	30	22.5	講義								
		生体材料化学	1				1	30	22.5	講義		△③		△③				
	1単位を選択	触媒化学	1			1		30	22.5	講義		△③		△③				
		食品工学	1			1		30	22.5	講義								

※ 教育目標達成度評価科目【△A,△B,△C】から、それぞれ1科目以上を修得
※ 基礎工学の科目【△①～△⑤】から、それぞれ1科目以上、全体で6科目以上を修得
※ 上記選択必修科目はプログラム1年～4年を対象とする。

授業時間（実時間）		

表６ (3)-② プログラム教育課程表　物質工学専攻1,2年用

（平成23年度以降の専攻科入学者に適用）

専攻科での区分		専攻科での選択・必修の別		授業科目	単位数	学年別配当（単位数） 専攻科1年（3年） 前期	専攻科1年（3年） 後期	専攻科2年（4年） 前期	専攻科2年（4年） 後期	授業時間（名目） (h)	授業時間（実時間） (h)	分類	「生産デザインエ学」プログラム修了要件 Ⅲ・教育目標達成度評価科目	Ⅳ・基礎工学の科目	Ⅴ・専門工学科目	必修・選択必修のまとめ	Ⅷア・人文社会等科目	Ⅷイ・数学・自然・情報等科目	Ⅷウ・専門分野科目	履修科目
													○:必修、△:選択必修				授業時間（実時間）			
一般科目		必修	2	総合英語	2	1	1			30	22.5	講義	○			○				
		選択	4単位以上	実用英語	2			2		30	22.5	講義	○			○				
		選択		知的財産権	2			2		30	22.5	講義								
		選択		倫理学	2		2			30	22.5	講義	○			○				
		選択		歴史学	2	2				30	22.5	講義	○			○				
		選択		中国古典学	2		2			30	22.5	講義								
		選択		文章表現法	2	2				30	22.5	講義	○			○				
専門科目	共通科目	必修	4	地球環境科学	2			2		30	22.5	講義	○	○⑤		○⑤				
		必修		技術者倫理	2			2		30	22.5	講義	○			○				
		選択	4単位以上	線形数学	2	2				30	22.5	講義	○	○		○				
		選択		統計学特論	2			2		30	22.5	講義								
		選択		解析学特論	2		2			30	22.5	講義	○	○		○				
		選択		一般化学	2				2	30	22.5	講義								
		選択		一般力学	2				2	30	22.5	講義	○	△④		○④				
		選択		応用物理特論	2		2			30	22.5	講義	○	○		○				
		選択		応用情報工学	2	2				30	22.5	講義	○	△②		○②				
	専攻科目	必修	2	科学技術英語	2		2			30	22.5	講義	○			○				
		必修	4	物質工学特別実験	4	2	2			180	135.0	実験	○		○	○				
		必修	4	創造デザイン演習	4	1	1	1	1	120	90.0	演習	○		○	○				
		必修	2	実務実習	2	2				90	67.5	実習	○		○	○				
		必修	2	物質工学特論	2	1	1			60	45.0	演習	○		○	○				
		必修	14	専攻科特別研究	14	3	3	4	4	630	472.5	実験	○		○	○				
		選択	10単位以上	化学反応論	2			2		30	22.5	講義								
		選択		無機合成化学	2	2				30	22.5	講義								
		選択		反応有機化学	2	2				30	22.5	講義								
		選択		有機光化学	2				2	30	22.5	講義								
		選択		分子生態学	2				2	30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		蛋白質工学	2	2				30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		生物物理化学	2				2	30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		移動現象論	2				2	30	22.5	講義								
		選択		微粒子工学	2	2				30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		応用触媒工学	2		2			30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		新素材論	2			2		30	22.5	講義	○	△③		○③				
		選択		無機機能性材料	2			2		30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		機能性高分子	2		2			30	22.5	講義		△③		△③				
		選択		水質環境工学	2				2	30	22.5	講義	○	△⑤		○⑤				
		選択		機械設計特論	2		2			30	22.5	講義	○	△①		○①				

※ 教育目標達成度評価科目【△A,△B,△C】から、それぞれ1科目以上を修得
※ 基礎工学の科目【△①～△⑤】から、それぞれ1科目以上、全体で6科目以上を修得
※ 上記選択必修科目はプログラム1年～4年を対象とする。

授業時間（実時間）		

表3付表 学習・教育目標の達成度を履修科目の総合評価で判定する以外の修了要件及び達成度評価一覧

項目	修了要件　Ⅰ、Ⅱ		評価	合否判定
学士の取得	学士取得（○）、受験したが学士は取得できていない（△）、受験していない（×）			－
学協会での発表	学協会名 （発表日時）			－

科	科目	学年	項目	達成度を総合評価で評価する以外の各達成度評価項目（表4より抜粋）	評価	合否判定
本科	工学実験			調査した情報（参考書、インターネット、文献など）とその出典をレポートに記載すること （評価は各実験ごとで異なる）（各実験の総合評価で評価する）		
	卒業研究	5年	①	卒業研究論文の緒言では、デザイン化における、性能・環境への影響・安全性・経済性または審美性などについて明確に記載すること（6割以上の評価が必要）（3段階法）		－
			②	卒業研究論文はアイデアを基にした具体的な研究計画・方法に留意して作成すること （デザイン化とその具現化に関する評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			③	中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点があれば、その点に留意して卒業論文を作成すること（問題解決に関する評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			④	研究論文には研究に必要な参考文献を記載すること （情報収集についての評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑤	研究論文は、科学技術論文としてふさわしい表現で論理的に記述すること （論理的記述の評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑥	卒業研究論文の評価が6割以上であること。（100点法）		－
			⑦	発表会のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること（100点法）		－
専攻科	特別実験			調査した情報（参考書、インターネット、文献など）とその出典をレポートに記載すること（評価は各実験ごとで異なる）（各実験の総合評価で評価する）		
	専攻科特別研究	1年	①	アイデアの提案（研究目的）に関するレポートを提出すること （期限内に提出すること、①,②あわせて合否で評価）		－
			②	中間発表会後、アイデアの検証・改善に関するレポートを提出すること （評価が6割以上であること、①,②あわせて合否で評価）		
			③	中間発表会において指摘された問題点を記載したレポートを提出すること。（⑥で評価）		
		2年	①	特別研究論文の緒言では、社会の要求あるいは学究的関心に基づいたアイデアについて記載すること（評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			④	特別研究論文の緒言では、デザイン化における、性能・環境への影響・安全性・経済性または審美性などについて明確に記載すること（評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑤	特別研究論文は、アイデアを基にした具体的な研究計画や方法に留意して作成すること （デザイン化とその具現化に関する評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑥	中間発表会で指摘されたり、明らかになった問題点があれば、その点に留意して研究論文を作成すること（問題解決に関する評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑦	特別研究論文には研究に必要な参考文献を記載すること （情報収集についての評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑧	特別研究論文は、科学技術論文としてふさわしい表現で論理的に記述すること （論理的記述の評価が6割以上必要）（3段階法）		－
			⑨	特別研究論文の評価が6割以上であること（50点法）		－
			⑩	特別研究論文の概要（梗概）の評価が6割以上であること（25点法）		－
			⑪	発表会のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること（25点法）		－
	実務実習	1年	①	実務実習報告書の評価が6割以上であること（100点法）		－
			②	発表会のプレゼンテーション能力(質疑応答能力を含む)の評価が6割以上であること（100点法）		－
	創造デザイン演習	1,2年		レポートと製作物の評価の平均が6割以上であること（100点法）		－
	歴史学	1年	①	サブ目標（C1）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）		－
			②	サブ目標（C2）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）		－
	倫理学	1年	①	サブ目標（C1）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）		－
			②	サブ目標（C2）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）		－
			③	サブ目標（D1）に関するレポートの評価が6割以上であること（100点法）		－
TOEIC試験				TOEIC/IP試験で400点相当以上であること （右の欄にTOIECスコアを入力）	TOEIC	－

※1 専攻科特別研究（1年）①、②においては、「期限内の提出」を持って「合格」とする。

※2「TOEIC試験で400点相当」とは、1）本校で実施するTOEIC IPテストあるいは公開のTOEICスコアが375点以上の場合
2）実用英語検定試験準2級に合格した場合　3）工業英語検定試験3級に合格した場合　のいずれかを満たした場合

総合判定	－

〔出典：学生課資料〕

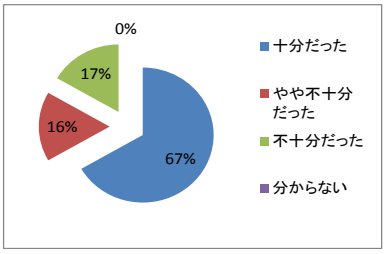
資料６－１－④－６

平成22年度卒業生アンケート

実施日：平成23年12月～平成24年1月末
対　象：平成22年度卒業生　52人
回答数（回答率）：6人（11．5%）

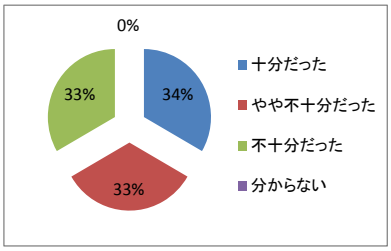
（教育内容）
B1　数学、物理、化学、生物、情報技術等の一般理科教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	1	16%
3	不十分だった	1	17%
4	分からない	0	0%
		6	100%



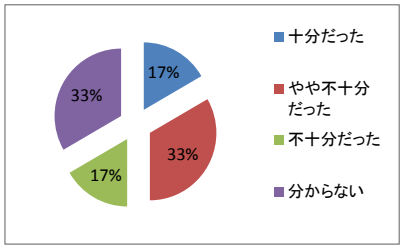
C1　一般文科のうち国語及び社会系の教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてくだ

1	十分だった	2	34%
2	やや不十分だった	2	33%
3	不十分だった	2	33%
4	分からない	0	0%
		6	100%



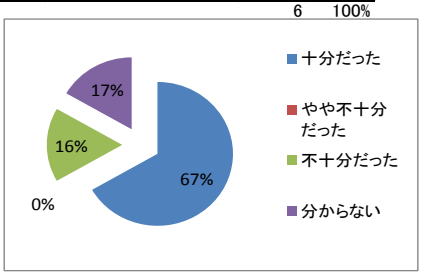
D1　一般文科のうち英語教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	1	17%
2	やや不十分だった	2	33%
3	不十分だった	1	17%
4	分からない	2	33%
		6	100%



E1　専門教育は、職業に就く基礎知識の学習として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

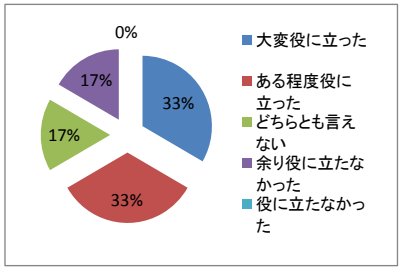
1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	0	0%
3	不十分だった	1	16%
4	分からない	1	17%
		6	100%



※不十分だった場合、何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
〇建築の専門知識、こと、どういう風に施工されているかもっと知っているべき

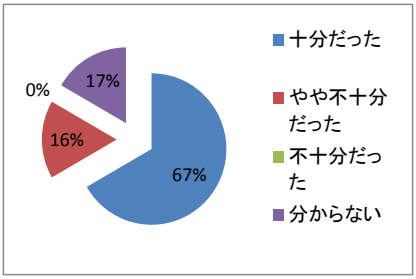
F1　卒業研究の経験は、職業に就く上で役に立ちましたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	大変役に立った	2	33%
2	ある程度役に立った	2	33%
3	どちらとも言えない	1	17%
4	余り役に立たなかった	1	17%
5	役に立たなかった	0	0%
		6	100%



I　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	1	16%
3	不十分だった	0	0%
4	分からない	1	17%
		6	100%



〔出典：学生課資料〕

資料６－１－④－７

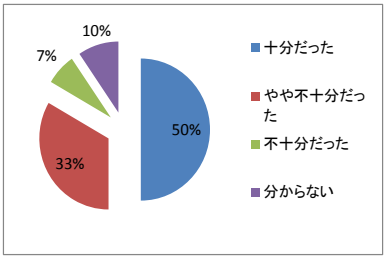
平成17年度～平成21年度卒業生アンケート

実施日：平成22年8月～平成22年10月末
対　象：平成17年度～平成21年度卒業生　269人
回答数（回答率）：43人（16．0%）

（教育内容）

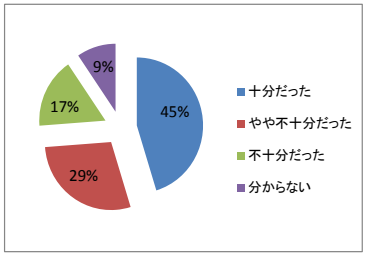
B1　数学、物理、化学、生物、情報技術等の一般理科教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	21	50%
2	やや不十分だった	14	33%
3	不十分だった	3	7%
4	分からない	4	10%
		42	100%



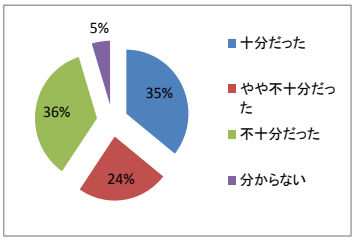
C1　一般文科のうち国語及び社会系の教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	19	45%
2	やや不十分だった	12	29%
3	不十分だった	7	17%
4	分からない	4	9%
		42	100%



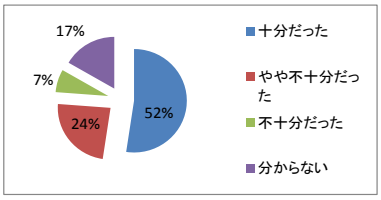
D1　一般文科のうち英語教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	15	35%
2	やや不十分だった	10	24%
3	不十分だった	15	36%
4	分からない	2	5%
		42	100%



E1　専門教育は、職業に就く基礎知識の学習として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

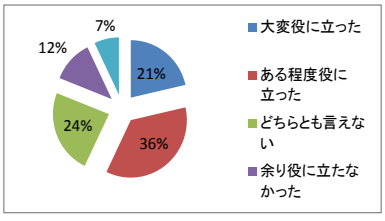
1	十分だった	22	52%
2	やや不十分だった	10	24%
3	不十分だった	3	7%
4	分からない	7	17%
		42	100%



※不十分だった場合、何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
○研究用ばかりの知識で、あまり現場で使う事はない。PCやサーバ、ルータ等NWの実践実習はどうか。
○電機系の教科
○有機化学
○有機化学素反応スキーム、修士卒、博士卒に比較すると、圧倒的に専門知識が少ない
○デザイン能力の劣化
○全体的に内容が浅い。教科が多いので仕方がないのかもしれないが。
○机上のものではなく、具体的な例（例題）をもっとやるべき
○医学系に進んだため、医学系の生化学が全くわからなかった。しかし、自学で対応できた。
○全体的に

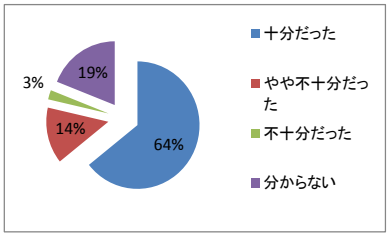
F1　卒業研究の経験は、職業に就く上で役に立ちましたか。該当するものに、○印をしてください。

1	大変役に立った	9	21%
2	ある程度役に立った	15	36%
3	どちらとも言えない	10	24%
4	余り役に立たなかった	5	12%
5	役に立たなかった	3	7%
		42	100%



I　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	27	64%
2	やや不十分だった	6	14%
3	不十分だった	1	3%
4	分からない	8	19%
		42	100%



〔出典：学生課資料〕

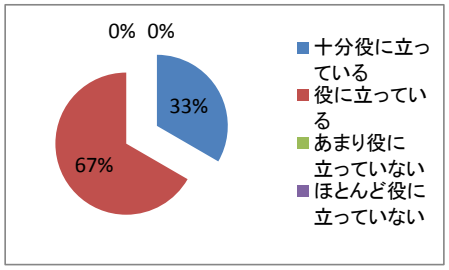
資料６－１－④－８

平成22年度卒業生大学編入学者アンケート

実施日：平成23年12月16日～平成24年1月27日
対　象：平成22年度卒業生大学編入学者　31人
回答数（回答率）：9人（29．0%）

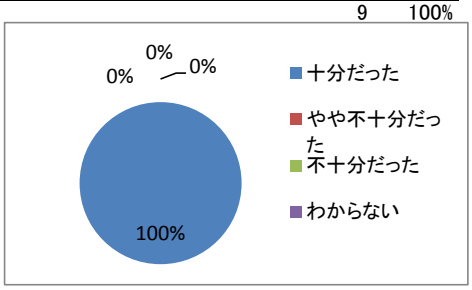
A5　都城高専で学んだことは、進学先で役に立っていますか？

1	十分役に立っている	3	33%
2	役に立っている	6	67%
3	あまり役に立っていない	0	0%
4	ほとんど役に立っていない	0	0%
		9	100%



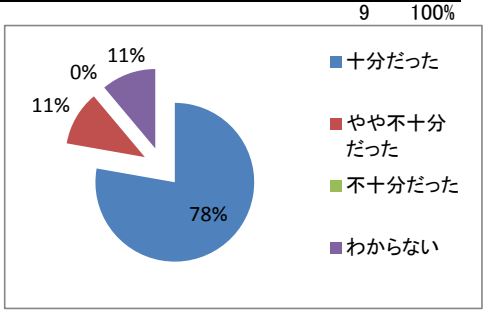
A8　進学受験指導等の進路支援は、十分でしたか。

1	十分だった	9	100%
2	やや不十分だった	0	0%
3	不十分だった	0	0%
4	わからない	0	0%
		9	100%



A10　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	7	78%
2	やや不十分だった	1	11%
3	不十分だった	0	0%
4	わからない	1	11%
		9	100%



〔出典：学生課資料〕

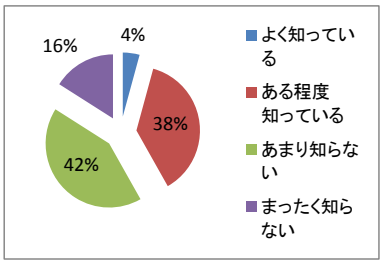
資料６－１－④－９

平成23年度準学士課程学生アンケート

実施日：平成24年1月17日～平成24年1月20日
対　象：平成23年度準学士課程学生　833人
回答数（回答率）：774人（92．9%）

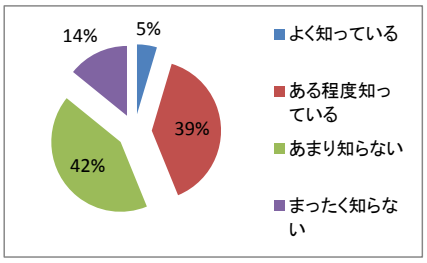
Q1　本校の教育理念を知っていますか。

1	よく知っている	33	4%
2	ある程度知っている	290	38%
3	あまり知らない	326	42%
4	まったく知らない	124	16%
		773	100%



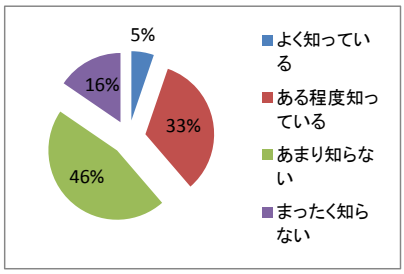
Q2　本校の学習・教育目標を知っていますか。

1	よく知っている	36	5%
2	ある程度知っている	303	39%
3	あまり知らない	325	42%
4	まったく知らない	110	14%
		774	100%



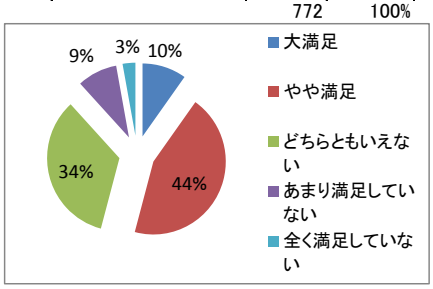
Q3　本校卒業時に身につけるべき学力や資質、能力（準学士課程のサブ目標）を知っていますか。

1	よく知っている	41	5%
2	ある程度知っている	258	33%
3	あまり知らない	355	46%
4	まったく知らない	120	16%
		774	100%



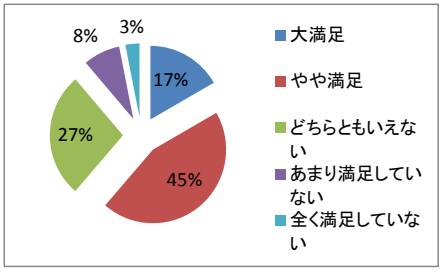
Q4　本校の学習（授業、実験、実習など）に関しての満足度を1つ選んでください。

1	大満足	76	10%
2	やや満足	342	44%
3	どちらともいえない	263	34%
4	あまり満足していない	69	9%
5	全く満足していない	22	3%
		772	100%



Q6　本校に進学しての総合満足度を1つ選んでください。

1	大満足	129	17%
2	やや満足	345	45%
3	どちらともいえない	212	27%
4	あまり満足していない	63	8%
5	全く満足していない	24	3%
		773	100%



〔出典：学生課資料〕

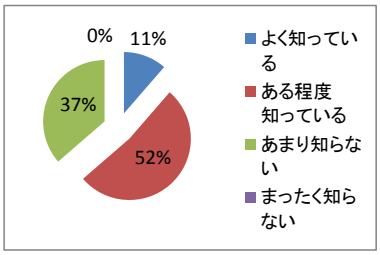
資料６－１－④－10

平成23年度専攻科課程学生アンケート

実施日：平成24年1月17日～平成24年1月20日
対　象：平成23年度専攻科課程学生　44人
回答数（回答率）：44人（100%）

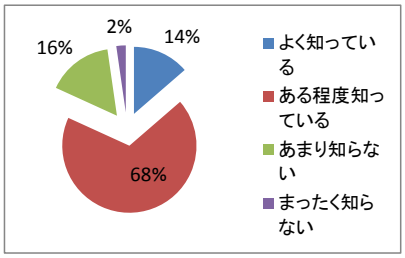
Q1　本校の教育理念を知っていますか。

1	よく知っている	5	11%
2	ある程度知っている	23	52%
3	あまり知らない	16	37%
4	まったく知らない	0	0%
		44	100%



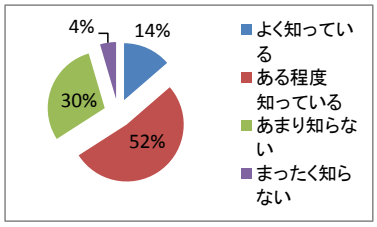
Q2　本校の学習・教育目標を知っていますか。

1	よく知っている	6	14%
2	ある程度知っている	30	68%
3	あまり知らない	7	16%
4	まったく知らない	1	2%
		44	100%



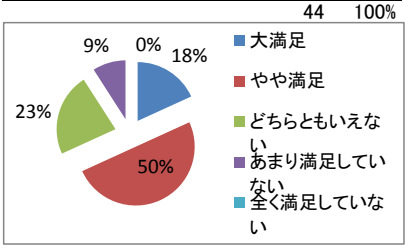
Q3　専攻科課程修了時に身につけるべき学力や資質、能力（学士課程のサブ目標）を知ってい

1	よく知っている	6	14%
2	ある程度知っている	23	52%
3	あまり知らない	13	30%
4	まったく知らない	2	4%
		44	100%



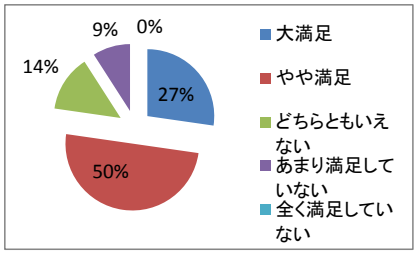
Q4　本校の学習（授業、実験、実習など）に関しての満足度を1つ選んでください。

1	大満足	8	18%
2	やや満足	22	50%
3	どちらともいえない	10	23%
4	あまり満足していない	4	9%
5	全く満足していない	0	0%
		44	100%



Q6　高専専攻科に進学しての総合満足度を1つ選んでください。

1	大満足	12	27%
2	やや満足	22	50%
3	どちらともいえない	6	14%
4	あまり満足していない	4	9%
5	全く満足していない	0	0%
		44	100%



〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程・専攻科課程対応の「ポートフォリオ」は，学年ごと及び学生ごとに収集・保管している。卒業生は，「準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検表」の記入を行っており，５年間における学習達成目標の達成度を自ら評価している。その結果は，次年度の教務委員会で問題点がないことを確認している。加えて，卒業生等によるアンケートの結果，一般科目及び専門科目の総合的な教育については，有効回答数の過半数が「満足」という結果を得ている。したがって，教育の成果や効果は上がっている。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程卒業生に対しては，平成17年度から「卒業生による教育・学校評価アンケート」を実施しており，この結果を集計し，全教職員に周知している（資料６－１－⑤－１）。また，平成23年度に，卒業生の就職先，進学先である大学等を対象として，卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するアンケートを実施した。平成22年度卒業生の就職先企業等による評価アンケート（有効回答率：33/69=47.8%）を分析した結果，受け入れた準学士課程の卒業生に対して，「期待以上」と「概ね期待どおり」の回答は85%に達している（資料６－１－⑤－２）。また，平成22年度卒業生の編入学先機関による評価アンケートの結果（有効回答率：44/65=67.7%）を分析した結果，受け入れた準学士課程の卒業生の学力レベルに対して「優秀」と「概ね優秀」の回答は60%に達しており，さらに「普通」の評価を加えた回答は88%に達している（資料６－１－⑤－３）。

専攻科修了生に対しては，平成19年度及び平成23年度において，修了生，進学先及び就職企業先を対象とした教育評価アンケートを実施した（平成19年度有効回答率：16/70=22.9%，平成23年度有効回答率：34/146=23.3%）。この２回のアンケートの結果を比較すると，教育の成果や効果が確実に上がっている。（資料６－１－⑤－４）。

観点６－１－⑤　資料一覧

資料６－１－⑤－１　卒業生による教育・学校評価アンケート調査
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－⑤－２　平成22年度卒業生就職先企業等による評価アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－⑤－３　平成22年度卒業生編入学先機関による評価アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－⑤－４　専攻科修了生及び就職先企業による教育評価アンケート
〔出典：学生課資料〕

資料６－１－⑤－１

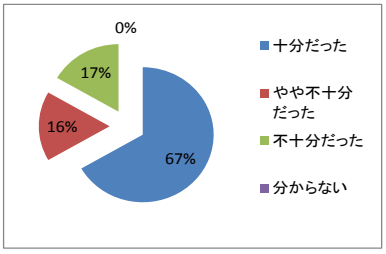
卒業生による教育・学校評価アンケート調査

平成22年度卒業生アンケート

実施日：平成23年12月～平成24年1月末
対　象：平成22年度卒業生　52人
回答数（回答率）：6人（11．5%）

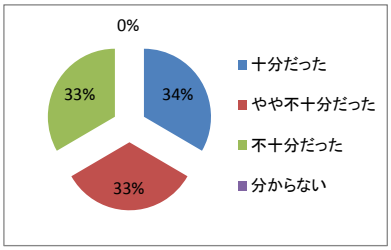
（教育内容）
B1　数学、物理、化学、生物、情報技術等の一般理科教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	1	16%
3	不十分だった	1	17%
4	分からない	0	0%
		6	100%



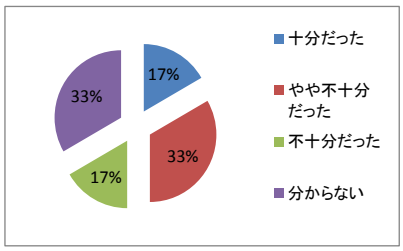
C1　一般文科のうち国語及び社会系の教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてくだ

1	十分だった	2	34%
2	やや不十分だった	2	33%
3	不十分だった	2	33%
4	分からない	0	0%
		6	100%



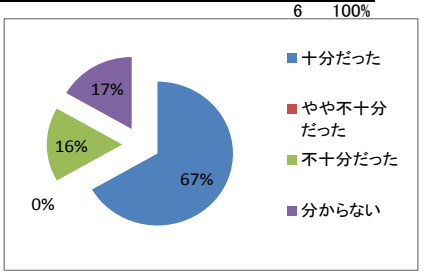
D1　一般文科のうち英語教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	1	17%
2	やや不十分だった	2	33%
3	不十分だった	1	17%
4	分からない	2	33%
		6	100%



E1　専門教育は、職業に就く基礎知識の学習として十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

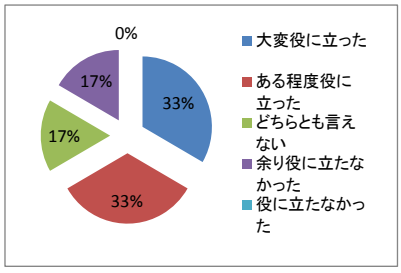
1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	0	0%
3	不十分だった	1	16%
4	分からない	1	17%
		6	100%



※不十分だった場合、何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
〇建築の専門知識、こと、どういう風に施工されているかもっと知っているべき

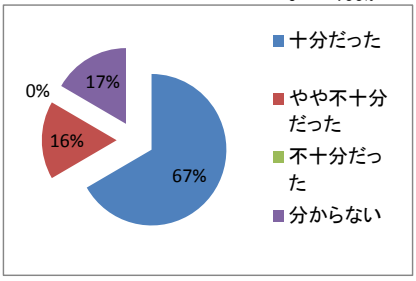
F1　卒業研究の経験は、職業に就く上で役に立ちましたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	大変役に立った	2	33%
2	ある程度役に立った	2	33%
3	どちらとも言えない	1	17%
4	余り役に立たなかった	1	17%
5	役に立たなかった	0	0%
		6	100%



I　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、〇印をしてください。

1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	1	16%
3	不十分だった	0	0%
4	分からない	1	17%
		6	100%



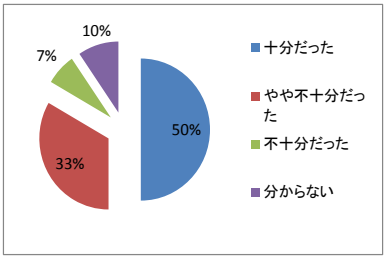
平成17年度～平成21年度卒業生アンケート

実施日：平成22年8月～平成22年10月末
対　象：平成17年度～平成21年度卒業生　269人
回答数（回答率）：43人（16．0%）

（教育内容）

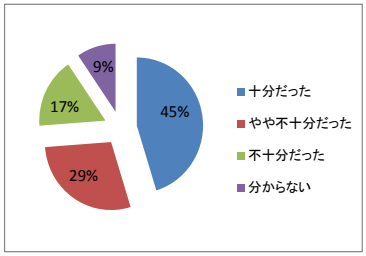
B1　数学、物理、化学、生物、情報技術等の一般理科教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	21	50%
2	やや不十分だった	14	33%
3	不十分だった	3	7%
4	分からない	4	10%
		42	100%



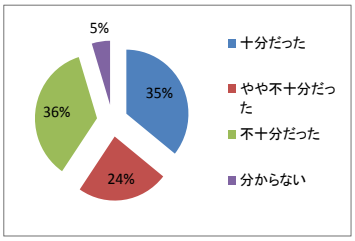
C1　一般文科のうち国語及び社会系の教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	19	45%
2	やや不十分だった	12	29%
3	不十分だった	7	17%
4	分からない	4	9%
		42	100%



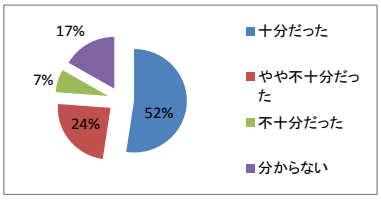
D1　一般文科のうち英語教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	15	35%
2	やや不十分だった	10	24%
3	不十分だった	15	36%
4	分からない	2	5%
		42	100%



E1　専門教育は、職業に就く基礎知識の学習として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

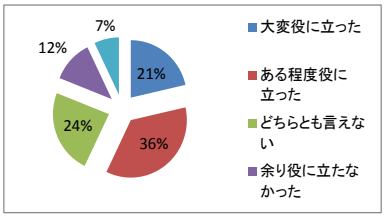
1	十分だった	22	52%
2	やや不十分だった	10	24%
3	不十分だった	3	7%
4	分からない	7	17%
		42	100%



※不十分だった場合、何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
○研究用ばかりの知識で、あまり現場で使う事はない。PCやサーバ、ルータ等NWの実践実習はどうか。
○電機系の教科
○有機化学
○有機化学素反応スキーム、修士卒、博士卒に比較すると、圧倒的に専門知識が少ない
○デザイン能力の劣化
○全体的に内容が浅い。教科が多いので仕方がないのかもしれないが。
○机上のものではなく、具体的な例（例題）をもっとやるべき
○医学系に進んだため、医学系の生化学が全くわからなかった。しかし、自学で対応できた。
○全体的に

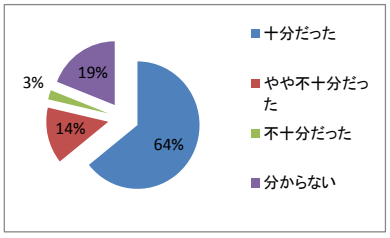
F1　卒業研究の経験は、職業に就く上で役に立ちましたか。該当するものに、○印をしてください。

1	大変役に立った	9	21%
2	ある程度役に立った	15	36%
3	どちらとも言えない	10	24%
4	余り役に立たなかった	5	12%
5	役に立たなかった	3	7%
		42	100%



I　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	27	64%
2	やや不十分だった	6	14%
3	不十分だった	1	3%
4	分からない	8	19%
		42	100%



〔出典：学生課資料〕

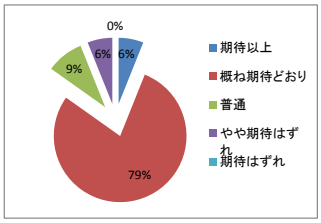
資料６－１－⑤－２

平成22年度卒業生就職先企業等による評価アンケート

実施日：平成23年12月16日～平成24年1月27日
対　象：平成22年度卒業生就職先の企業等　69社
回答数（回答率）：33社（47．8%）

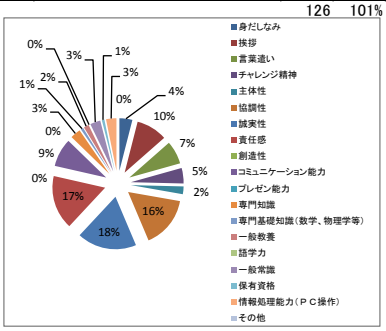
Q－02　本校卒業生は、御社の期待に応えているでしょうか。

1	期待以上	2	6%
2	概ね期待どおり	26	79%
3	普通	3	9%
4	やや期待はずれ	2	6%
5	期待はずれ	0	0%
		33	100%



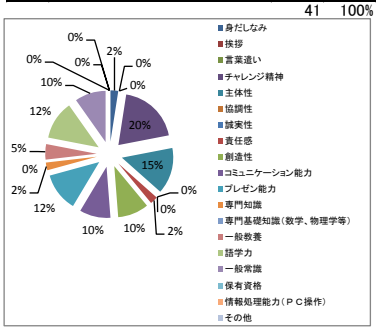
Q－04　本校卒業生は、以下のどのような点が優れているとお感じですか。（複数回答可）

1	身だしなみ	5	4%
2	挨拶	12	10%
3	言葉遣い	9	7%
4	チャレンジ精神	6	5%
5	主体性	3	2%
6	協調性	20	16%
7	誠実性	23	18%
8	責任感	21	17%
9	創造性	0	0%
10	コミュニケーション能力	11	9%
11	プレゼン能力	0	0%
12	専門知識	4	3%
13	専門基礎知識（数学、物理学等）	1	1%
14	一般教養	2	2%
15	語学力	0	0%
16	一般常識	4	3%
17	保有資格	1	1%
18	情報処理能力（PC操作）	4	3%
19	その他	0	0%
		126	101%



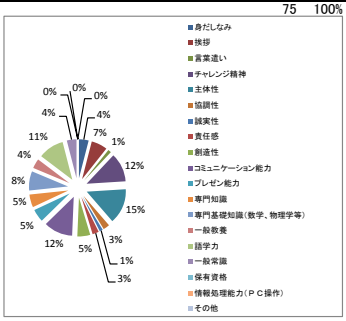
Q－05　本校卒業生は、以下のどのような点が劣っているとお感じですか。（複数回答可）

1	身だしなみ	1	2%
2	挨拶	0	0%
3	言葉遣い	0	0%
4	チャレンジ精神	8	20%
5	主体性	6	15%
6	協調性	0	0%
7	誠実性	0	0%
8	責任感	1	2%
9	創造性	4	10%
10	コミュニケーション能力	4	10%
11	プレゼン能力	5	12%
12	専門知識	1	2%
13	専門基礎知識（数学、物理学等	0	0%
14	一般教養	2	5%
15	語学力	5	12%
16	一般常識	4	10%
17	保有資格	0	0%
18	情報処理能力（PC操作）	0	0%
19	その他	0	0%
		41	100%



Q－06　本校が、力を入れるべきとお感じの教育内容を3つ以内でお教えください。

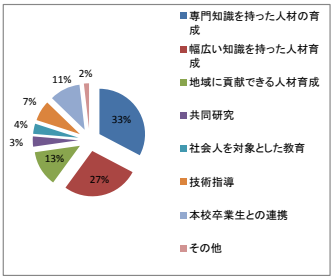
1	身だしなみ	3	4%
2	挨拶	5	7%
3	言葉遣い	1	1%
4	チャレンジ精神	9	12%
5	主体性	11	15%
6	協調性	2	3%
7	誠実性	1	1%
8	責任感	2	3%
9	創造性	4	5%
10	コミュニケーション能力	9	12%
11	プレゼン能力	4	5%
12	専門知識	4	5%
13	専門基礎知識（数学、物理学等）	6	8%
14	一般教養	3	4%
15	語学力	8	11%
16	一般常識	3	4%
17	保有資格	0	0%
18	情報処理能力（PC操作）	0	0%
19	その他	0	0%
		75	100%



Q－07　御社が、本校に期待されることは何でしょうか。（複数回答可）

1	専門知識を持った人材の育成	18	33%
2	幅広い知識を持った人材育成	15	27%
3	地域に貢献できる人材育成	7	13%
4	共同研究	2	3%
5	社会人を対象とした教育	2	4%
6	技術指導	4	7%
7	本校卒業生との連携	6	11%
8	その他	1	2%

その他（自ら学ぼうとする姿勢をもった人材の育成）



〔出典：学生課資料〕

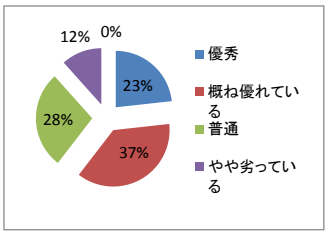
資料６－１－⑤－３

平成22年度卒業生編入学先機関による評価アンケート

実施日：平成23年12月16日～平成24年1月27日
対　象：平成22年度卒業生編入学先の教育機関　65機関
回答数（回答率）：44機関（67．7%）

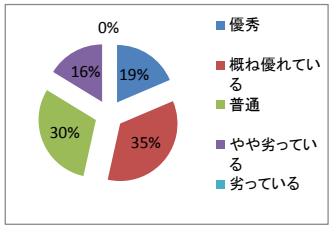
Q－01　本校卒業生の専門分野に関する学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。

1	優秀	10	23%
2	概ね優れている	16	37%
3	普通	12	28%
4	やや劣っている	5	12%
5	劣っている	0	0%
		43	100%



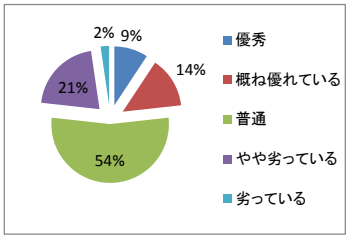
Q－02　本校卒業生の専門基礎分野（数学、物理学、化学等）に関する学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。

1	優秀	8	19%
2	概ね優れている	15	35%
3	普通	13	30%
4	やや劣っている	7	16%
5	劣っている	0	0%
		43	100%



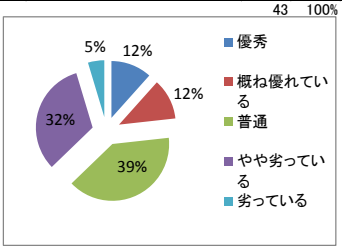
Q－03　本校卒業生の一般科目分野（国語、社会等）に関する学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。

1	優秀	4	9%
2	概ね優れている	6	14%
3	普通	23	54%
4	やや劣っている	9	21%
5	劣っている	1	2%
		43	100%



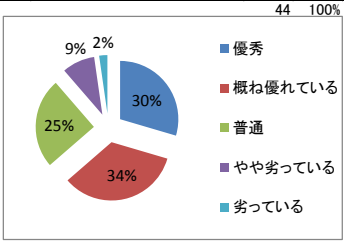
Q－04　本校卒業生の語学（英語）の学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。

1	優秀	5	12%
2	概ね優れている	5	12%
3	普通	17	39%
4	やや劣っている	14	32%
5	劣っている	2	5%
		43	100%



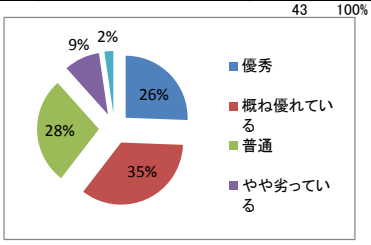
Q－05　本校卒業生の研究遂行能力の学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。

1	優秀	13	30%
2	概ね優れている	15	34%
3	普通	11	25%
4	やや劣っている	4	9%
5	劣っている	1	2%
		44	100%



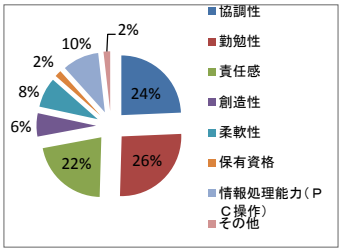
Q－06　本校卒業生の自学自習の態度について、どのような印象をお持ちかお教えください。

1	優秀	11	26%
2	概ね優れている	15	35%
3	普通	12	28%
4	やや劣っている	4	9%
5	劣っている	1	2%
		43	100%



Q－07　本校卒業生が優れていると感じる点についてお教えてください。（複数回答可）

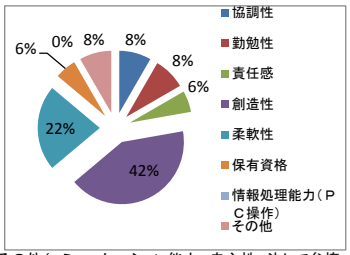
1	協調性	27	24%
2	勤勉性	29	26%
3	責任感	24	22%
4	創造性	7	6%
5	柔軟性	9	8%
6	保有資格	2	2%
7	情報処理能力（PC操作）	11	10%
8	その他	2	2%
		111	100%



その他（熱意、専門知識）

Q－08　本校卒業生が劣っていると感じる点についてお教えてください。（複数回答可）

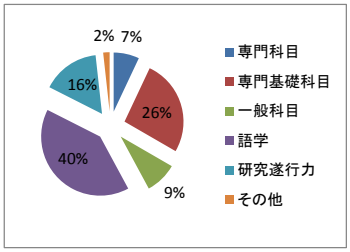
1	協調性	3	8%
2	勤勉性	3	8%
3	責任感	2	6%
4	創造性	15	42%
5	柔軟性	8	22%
6	保有資格	2	6%
7	情報処理能力（PC操作）	0	0%
8	その他	3	8%
		36	100%



その他（コミュニケーション能力、自主性、決して怠惰という訳ではないのですが、費やす時間がやや少ないものの、効率良く、勉学や研究活動を行っていたと

Q－09　本校が、強化すべきと感じる教育内容についてお教えください。（複数回答可）

1	専門科目	4	7%
2	専門基礎科目	15	26%
3	一般科目	5	9%
4	語学	23	40%
5	研究遂行力	9	16%
6	その他	1	2%
		57	100%



その他（主体性、英語力）

〔出典：学生課資料〕

資料６－１－⑤－４

専攻科修了生及び就職先企業による教育評価アンケート

プログラム委員会 資料2

アンケート調査結果分析のまとめ

技術者教育プログラム委員長
林田義伸（2011.11.17）

今回の調査項目である「数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力」「専門分野（工学）に関する知識、応用力」のいずれにおいても、また、修了生や学生の区別無く、必要性を示すものとなっている。

また、「社会性、コミュニケーション能力」においては、特に、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」の必要性が、修了生・企業共に高く（80ポイント以上）意識されており、教育に対する満足度（50ポイント代）が低いのが特徴的である。また、英語力に関しては、それを求める企業、求められる修了生は比較的少ないものの（それでも 60 ポイント代はある）、この能力に対する満足度は、企業で 50 ポイント、修了生に至っては 25 ポイントと、かなり低いものとなっている。

全体を前回のアンケート調査と比較しながら総括すれば、本校が目指している教育は、その全てにおいて、企業側も修了生も必要性を感じているものと判断でき、本校の教育目標は、現状で良いと判断できる。その教育の結果の満足度や達成度は、前回より高くなっているものも見られるが、総じて 60 ポイント代と若干低い傾向にある（「ある程度満足、ある程度身につけている、ある程度役立つ」より「どちらとも言えない」という回答が多いと判断される）。従って、今後も、教育目標の達成を目指し、努力する必要があると思われる。

特に、日本語及び英語におけるコミュニケーション能力については、本科を含み、専攻科全体で取り組まなければならない課題と思われる。

また、具体的に記述された内容から推察すれば、コミュニケーション能力とは、積極的にコミュニケーションを取ろうとする能力であり、専門的な事項を専門外の人にも分かり易い平易な言葉で説明できる能力であるように思われる。英語におけるコミュニケーション能力も同様であり、特に会話力が問われているように思われる。

以上

専攻科修了生による教育評価アンケート

平成23年8月実施

各設問項目の必要性、満足度、達成度、有用性について得られた回答をもとに0～100の数値で表した。

必要性：大いに必要:100　ある程度必要:75　どちらとも言えない:50　あまり必要ない:25　全く不要:0
満足度：十分満足:100　ある程度満足:75　どちらとも言えない:50　少し不足:25　全く不足:0
達成度：十分身につけることができた:100　ある程度身につけることができた:75　どちらとも言えない:50
あまり身につけることができなかった:25　全く身につけることができなかった:0
有用性：大いに役立っている:100　ある程度役立っている:75　どちらとも言えない:50　あまり役立っていない:25
全く役立っていない:0

(B) 数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力

	設問	必要性	満足度	達成度	有用性	前回との差
(B1-1)	あなたの仕事では、数学、自然科学(物理学、化学、生命科学など)、情報技術の知識、応用力は必要とされますか。81	74				-7
(B1-2)	設問(B1-1)の知識、応用力に関して、本校で学んだ内容はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。53		59			6

(C) 専門分野(工学)に関する知識、応用力

(C1-1)	あなたの職種では、本校の専門科目で学んだ工学の知識はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。67		63			-4
(C2-1)	あなたの仕事では、「いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行しデータを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力」は必要とされますか。73	74				1
(C2-2)	設問(C2-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。63		61			-2
(C3-1)	あなたの仕事では、「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」は必要とされますか。81	73				-8
(C3-2)	設問(C3-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。64		58			-6
(C4-1)	あなたの仕事では、「(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力」は必要とされますか。80	80				0
(C4-2)	設問(C4-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。59		61			2
(C5-1)	本校の卒業研究および専攻科特別研究を通して下記の能力を身につけることができました					
	(Ⅰ)自主的、継続的に学習できる能力。73			79		6
	(Ⅱ)与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。72			78		6
	(Ⅲ)種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力。52			62		10
(C5-2)	卒業研究、専攻科特別研究の経験は、あなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。66				71	5

(D) 社会性、コミュニケーション能力

(D1)	あなたの仕事では、「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」は必要とされますか。58	58				0
(D2)	あなたの仕事では、「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」が必要とされますか。84	74				-10
(D3-1)	あなたの仕事では、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が必要とされますか。89	87				-2
(D3-2)	設問(D3-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。61		56			-5
(D4-1)	あなたの仕事では、「英語の読解・表現等、国際的に通用するコミュニケーション能力」が必要とされますか。64	66				2
(D4-2)	設問(D4-1)の能力に関して、本校で受けた教育はあなたの業務を遂行する上で充分と思われますか。42		25			-17

(E) 総括

(E1)	全体的に都城高専で学んだ教育内容について満足されていますか。72		76			4

【分析】平成19年度に同様の設問でアンケートを実施した。そのときの回答者は16名(70名中)、今回は34名(146名中)である。以下に、特徴的な結果を述べる。

(A) 基本事項

1)前回アンケート回答者の所属学科の割合(M:31%、E:6%、C:50%、A:13%)、今回のアンケート回答者の所属学科の割合(M:26%、E:15%、C:38%、A:18%)と毎回C科、M科所属卒業生の協力が多い。

2) 回答率は前回が23%(16/70)、今回も23%(34/146)と変わらないが、母数は2倍強(146/70)増えている。

(B) 数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力

1)必要だと思っているが74ポイント、満足度は59ポイントである。満足度は前回より6ポイント上がっている。

(C) 専門分野(工学)に関する知識、応用力

1)設問(C1),(C2),(C4)の必要性、満足度とも前回と同じようなポイント数である。

2)設問(C3)の「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」が必要性(-8)・満足度(-6)とも前回よりも下がっている。

3)設問(C5)の「卒業研究および専攻科特別研究による能力(Ⅰ),(Ⅱ),(Ⅲ)」の達成度および有用性が上がっている(5ポイント以上)。

(D) 社会性、コミュニケーション能力

1) 設問(D1) の「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」の必要性を感じる修了生が少ない(58)。

2) 設問(D2) の「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」の必要性が前回より10ポイント下がっている。

3) 設問(D3) の「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」の必要性は高い(87)が、満足度(56)は低い。

4)設問(D4-2)の「英語の読解・表現等、国際的に通用するコミュニケーション能力」の満足度(25)が極端に低い、また、前回より大幅(-17)に下がっている。

(E) 総括

1)設問(E1)の「全体的に都城高専で学んだ教育内容について満足されていますか」に対して満足度が76ポイント(前回より+4)で、個々の設問より満足度(個々の満足度の平均は55ポイント)は高い。

(F)採用時の待遇

1) 4年生大学卒と同等の待遇が68%と2/3程度である。他はそれ以下と考えられる。

専攻科修了生
就職先企業による教育評価アンケート
各設問項目の必要性、満足度、達成度、有用性について得られた回答をもとに0～100の数値で表した。

満足度：十分満足:100　ある程度満足:75　どちらとも言えない:50　少し不足:25　全く不足:0
必要性：大いに必要:100　ある程度必要:75　どちらとも言えない:50　あまり必要ない:25　全く不要:0

		今回		前回
数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力		必要度	満足度	必要・満足度
(4-1)	この職種では、自然科学(数学、物理学、化学、生命科学など)の基礎知識とそれらを用いた問題解決能力が必要とされていますか。	81.5		72
(4-2)	問(4-1)の知識・能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている自然科学の内容は業務を遂行する上で充分ですか。		69.6	66
専門分野(工学)に関する知識、応用力				
(5-1)	この職種では、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている専門学科の基礎工学の知識は、業務を遂行する上で充分と思われますか。	77.1		70
(6-1)	この職種では、「いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行しデータを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力」が必要とされますか。	77.2		70
(6-2)	問(6-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		66.3	67
(7-1)	この職種では、「工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力」が必要とされますか。	83.7		83
(7-2)	問(7-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		66.3	67
(8-1)	この職種では、「(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力」が必要とされますか。	92.4		80
(8-2)	問(8-1)の能力に関して、本校で受けた教育は本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		69.6	66
社会性、コミュニケーション能力				
(9-1)	この職種では「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」が必要とされますか。	60.9		59
(10-1)	この職種では「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)」が必要とされますか。	77.2		70
(11-1)	この職種では、「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が必要とされますか。	88		83
(11-2)	問(11-1)の能力に関して、本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		59.8	67
(12-1)	この職種では、「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」が必要とされますか。	68.5		56
(12-2)	問(12-1)の能力に関して、本校で受けた教育は本校専攻科修了生をみて、本校の行っている教育は業務を遂行する上で十分だと思われますか。		50	50
(13-1)	この職種では、「専門分野の実践に必要な基本的なスキル(実験・実習・製図など)」に関して本校で受けた教育は、業務を遂行する上で十分ですか。		71.7	66

【分析】
前回アンケート回答率は、34%(15社／44社中)、今回は、22%(23社／105社中)であった。
前回の数値と今回の数値を併記している。「数学、自然科学、情報技術に関する知識、応用力」については、必要度が81.5と高く、満足度は69.6と1割低くなっている。満足度は、前回より上昇している(66%→69.6%)。
「専門分野(工学)に関する知識、応用力」については、すべての項目で必要度が約8割と高く、満足度は66%を超え、数値としては前回と同等か上昇している。
「社会性、コミュニケーション能力」については、技術者倫理の必要性が上昇(70%→77%)。前回満足度の高かった「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」が、大きく低下した(67%→59.8%)。前回必要性の低かった「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」は、上昇した(56%→68.5%)。その満足度については、変化無しであった(50%)。

以上のように、全体的には良好であった。過去のデータとの比較のためにも今後の変更は必要なしと考える。

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の卒業者，就職先及び進学先を対象としたアンケートの結果，準学士課程の教育の成果や効果が上がっている。また，専攻科課程の修了生，進学先及び就職企業先を対象とした教育評価アンケートの結果，専攻科課程の教育の成果や効果も確実に上がっている。

したがって，教育の成果や効果は上がっており，総合的に高い水準を保っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

該当なし

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準６の自己評価の概要

各学年や卒業時及び修了時に学生が身に付けるべき学力や資質・能力等については，進級判定会議，卒業判定会議及び修了判定会議において，所定の基準に照らし合わせて把握・評価されている。その内容は，進級率，卒業率及び修了率に示されるように，かなり高い水準にある。また，卒業研究及び専攻科特別研究の判定は，複数の教員によって行っている。特に，専攻科特別研究は学協会での発表を経たものであり，外部的にも水準が保障されている。また，工学基礎教育の数学及び物理の学習到達度試験結果並びに英語教育におけるTOEIC Bridge及びTOEIC IPの結果は，全高専の比較において，いずれの科目も平均点を上回っているか同程度である。以上のような状況から，専門教育，工学基礎教育及び英語教育においては，成果や効果が客観的に上がっている。

卒業生及び修了生の進路に関しては，決定率約 100％を長年にわたって維持しており，進学及び就職の比率もバランスがとれている。また，就職先の産業分類別割合は学科及び専攻と対応している。進路状況から見ても，本校が目的とする教育の成果や効果は高い水準で安定している。

準学士課程の５年生による学習達成度評価並びに平成 23 年度に実施した平成 17 年度から平成 22 年度までの卒業生及び平成 23 年度の準学士課程や専攻科課程に在籍中の学生を対象としたアンケートの結果，卒業生及び在学生等は概ね本校の教育に満足している。また，専攻科修了生及びその進路先も，本校の教育に対して概ね満足している。

以上の結果，本校の教育理念に掲げてある学生が身に付ける学力や資質及び養成する人材像等に照らして，教育の成果や効果は確実に上がっている。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学習を進める上でのガイダンスとして，１年生合宿研修，「生産デザイン工学」プログラム説明会及び専攻科オリエンテーションを整備・実施している。

１年生合宿研修は，入学当初に実施し，各種オリエンテーションにより教育方針や内容について理解をさせている（資料７－１－①－１）。年度当初には，４年生対象の「生産デザイン工学」プログラム（JABEE対応）説明会を各学科で実施している（資料７－１－①－２）。さらに，専攻科１年生に対しては各専攻において（資料７－１－①－３），専攻科２年生に対しては全体で，「生産デザイン工学」プログラム及び学位申請のための講習会を行っている（資料７－１－①－４）。

以上のガイダンスのほかに，４年生学内研修を実施し（毎年４月），今後の学生生活の在り方を考えさせる場を設けている（資料７－１－①－５）。

相談・助言を行う体制については，各教員がオフィスアワーを設定しており，時間と場所をシラバスに記載（資料７－１－①－６）し，学生の相談・助言が行える体制としている。本体制の学生への周知は，各教員が授業の１回目に説明を行っている。さらに，ホームページにおいてもシラバスは閲覧可能であり，相談・助言を行う体制を整備している。また，オフィスアワーを含む全ての相談・助言について，各教員は「相談記録簿」（資料７－１－①－７）に記録しており，その実施状況（資料７－１－①－８）から見て，本体制は機能している。

観点７－１－①　資料一覧

資料７－１－①－１　平成24年度１年生合宿研修のしおり
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－２　「生産デザイン工学」プログラム説明会資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－３　1年専攻科生用オリエンテーション資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－４　2年専攻科生用オリエンテーション資料及び学位申請資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－５　平成24年度４年生学内研修実施要項
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－６　オフィスアワーの設定
〔出典：シラバス〕

資料７－１－①－７　授業に関する相談記録簿
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－８　授業に関する相談記録簿集計結果
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－１

平成24年度１年生合宿研修のしおり

平成２４年度
１年生合宿研修のしおり

都城工業高等専門学校

第１学年

（　　）学科　（　　）番

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

於　宮崎県青島青少年自然の家

平成２４年４月６日・７日

１年生合宿研修実施要項

１．目　　的

①　都城高専の教育方針、教育内容等および将来の展望を理解する。
②　合宿生活を通じてクラスの融和を図り、教職員並びに上級生との親睦、信頼関係を作る
③　高専生として必要な知識およびふさわしい態度を身につける。

２．期　　間

平成２３年 ４月６日・７日　（１泊２日）

３．研修場所

宮崎県青島青少年自然の家
《場所》　宮崎市大字熊野字藤兵衛中州（〒８８９－２１５１）
《電話》　（０９８５）５８－１７１１（代表）

４．集　　合：

《日時》　４月６日（金）午前８時３５分
《場所》　専攻科研究棟２階多目的室（服装は制服）

５．必要なもの：

- 研修のしおり
- 学生便覧
- 学生証
- 筆記用具
- 学校指定のジャージ上下（半袖・短パンの体操服も）
- 運動靴１足
- 時計、日用品（洗面用具など）、シャンプー
- 健康保険証またはその写し

＊革靴は不要なので、６日の朝は運動靴で登校すること
＊飲食物・携帯電話・音楽プレイヤー・貴重品の持ち込み禁止
＊研修中の私服の着用は禁止

６．費　　用：

3,500 円

2

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－２

「生産デザイン工学」プログラム説明会資料

平成 24 年度　プログラム１年生（本科４年生）
「生産デザイン工学プログラム」説明会

都城高専技術者教育プログラム委員会
2012 年 4 月

１）平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて 1
配布資料　履修の手引（2012 年度版）

２）定期試験後の作業のまとめ 3
「ポートフォリオ」、「授業評価アンケート調査」「授業実施アンケート調査」について
配布資料　ポートフォリオ綴り

３）都城高専 専攻科進学の勧め 5

平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて

１）プログラム担当教員（技術者教育プログラム委員会委員）

清山史朗（委員長）
白岩寛之（M），野地英樹（E），野口太郎（C），中村裕文（A），野町俊文（G理），田村理恵（G文）

２）「生産デザイン工学」プログラムについて

(1) 本科 4 年から専攻科 2 年までの教育プログラム．
(2) 本科 4 年以上及び専攻科の全学生がこのプログラムを履修する．
(3) JABEE に対応したプログラムである．

３）「履修の手引き」の記載概要

1. はじめに
2. 履修対象者
3. 学習・教育目標
   学修・教育目標及びサブ目標について記載．
4. 学習・教育目標とＪＡＢＥＥ基準１の(1)の対応関係
5. 「生産デザイン工学」プログラムを構成する科目について
   「生産デザイン工学」プログラムは，文化系科目・自然科学系科目・基礎工学科目・専門工学科目で構成されており，その科目が表 2 を含めて全科目示される．
6. 「生産デザイン工学」プログラムの修了要件
   Ⅰ～Ⅶまでの修了要件が示される．これに関連する各表について簡単な説明がなされる．
7. 履修にあたっての注意事項
8. 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準
   表３　B2 対応科目を除く評価方法及び評価基準
   表３付表　達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の修了要件及び評価一覧
   表 3 で，B2 対応科目を除く全ての評価基準が示される．表 3 付表は抜粋
   表４　学習・教育目標を達成するための科目群に必要な授業科目の流れ（全学科専攻共通）
   表 4 に，全科・全専攻共通の科目の必修・選択必修・選択の区別が示される．
   表５　同上（B2 対応科目群）
   表 5 に，専門科目の必修・選択必修・選択の区別が示される．
9. 「生産デザイン工学」プログラム教育課程
   表６　各学科，各専攻の教育課程表が示される．
   この表に，「生産デザイン工学」プログラムにおける「必修」「選択必修」「選択」の区分が，まとめて示される．また，表 6 を用いて，プログラム修了に必要な様々な条件をチェックすることができる．表 7 の活用法については，履修の手引(p.18)を参照．

４）修習技術者（技術士補）について（技術士について）

「生産デザイン工学」プログラムの修了により，専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが保証され，「修習技術者」の資格を得ることができ，申請により技術士補の免許が得られる．この免許があれば技術者として最高レベルの 1 つである「技術士」の資格を取るとき，その 1 次試験が免除される．

５）「定期試験後の作業のまとめ」について

プログラムでは，学生自身により教育目標の達成度を評価するシステムが必要となっている．これを目的として学生は「ポートフォリオ」を作成し，達成度を自己評価しなければならない．「定期試験後の作業のまとめ」には，「ポートフォリオ」の記載の方法や時期などが纏められている．

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－３

1年専攻科生用オリエンテーション資料

平成 24 年度　専攻科新入生オリエンテーション

都城高専専攻科委員会
2011 年 4 月 3 日（火）

１）平成 24 年度　専攻科について 1
２）平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて 3
３）平成 24 年度　学位取得に関して 5
４）平成 24 年度　学士への途（抜粋） 7
５）定期試験後の作業のまとめ 12

６）各種届出等に関する説明と記入作業

- ネットワーク利用のための手続き
  - 電子メールを含む，学校のネットワークを利用するための手続きを，専攻主任が行う．各自パスワードを決定し，専攻主任に連絡すること．また，パスワードは忘れないように管理すること．
- E-Mail について
  - 今後の事務連絡は基本的に E-mail で連絡する．1 日 1 回は，メール確認の習慣をつけること．
  - メール連絡の応答は確実に．送信時は相手氏名と自分の氏名を忘れずに．
  - メールアドレスは，本校から配布するが，自宅でインターネットに接続している場合は，自宅でもメールを読むことが出来る（方法が不明の場合は専攻主任に相談）．
- 緊急時の連絡先（台風による休講など緊急連絡のため）
  - 各自の携帯電話の番号とメールアドレスを専攻科長に知らせて下さい．
    （携帯情報を専攻科長に知らせたくない場合は，その旨，連絡下さい．連絡は緊急を含めて PC の E-Mail で行います）
  - 携帯メールから「氏名，専攻名，携帯の電話番号」を本文に書き，下記の専攻科長当て，メールを出して下さい（本日中）．
  - 専攻科長(清山)メールアドレス：
  - 携帯の情報は，集約し，各学科の専攻主任のみに連絡しておきます．また，携帯の電話番号やメールアドレスが変更されたときは，その都度，専攻科長及び各学科の専攻主任宛，メールで連絡して下さい．
- 健康診断記録
  - この場で健康診断記録に記入（この場で回収）．
- 下宿間借カード
  - 対象者は，下宿間借カードを学生係に提出すること．
- 車両使用願
  - 対象者は，車両使用願に必要事項を記入し，専攻主任の押印後，任意保険の写しを添えて学生係に提出すること．

配付資料一覧　**専攻科学生便覧，履修の手引き**（専攻科 1 年生用）
専攻科 1 年生用のシラバス（「ポートフォリオ綴り」に綴じ込むこと）
健康診断記録，健康診断スケジュール，学生証

平成 24 年度　専攻科について

１）専攻科担当教員

専攻科長　：清山史朗（委員長）
専攻主任　：永野茂憲（M），野地英樹（E），野口太郎（C），中村裕文（A）
専攻科委員：野町俊文（G理），田村理恵（G文）

２）専攻科の概要及び履修上の注意点（「専攻科学生便覧」参照）

(1) 本校の教育理念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

(2) 専攻科の学習・教育目標

専攻科の学修・教育目標は本科と同じであり，そのキーワードは「豊かな創造性，優れた知性，高度な社会性，確かな実行力，健全な心身」である．

(3) 専攻科の修了要件

・ 専攻科を修了するためには，実質的に，次の２つの条件を満たす必要がる．
① 専攻科に２年以上在籍し，所定の単位を修得する（教育課程表に示される）．
②「生産デザイン工学」プログラムの修了要件（英語外部試験，学位を除く）を満たす．

(4) 「生産デザイン工学」プログラム（JABEE 対応）について

①「生産デザイン工学」履修の手引の参照
② 本科 4，5 年での修得単位も必要

(5) 学位取得について

① 学位取得のための必要単位
本科 4，5 年での修得単位も必要（「新しい学士への途」参照）．
必要な単位は申請する専攻区分ごとに異なる．
現在までの修得単位を「単位修得状況申告書」「内訳表」に書き込み，チェックする．
②「新しい学士への途」「単位修得状況申告書」「内訳表」等の入手方法．
大学評価・学位授与機構のＨＰからダウンロード可能（2 年生には冊子を配布）．
URL: http://www.niad.ac.jp/n_gakui/shinseishiryou/index.html

(6) 必修科目の意味

必修科目とは本当の意味での必修である．本科と異なり，1 単位でも修得できない場合，修了要件を満たさないことになるので注意すること．

(7) 受講届

① 「受講届」の用紙は，メールにて電子ファイルとして送付する．
メールが使用できる状況でない場合，「受講届」の用紙は，教務係に取りに行くこと．
② 前期・後期共に，決められた期日迄に，必ず受講届を教務係まで提出すること．（学生便覧「行事予定表」参照）

(8) 再履修・再試

① 専攻科では，修得できなかった科目については「再履修」が原則である．
② 再試験・再履修について
・ 試験で評価可能な科目は，再試験が実施される．
・ 再試験の時期は，単位が確定した次の学期に 2 回実施される．
・ 再試験で合格した科目は 60 点となる．
・ 1 年次で単位が修得できない場合，あるいは再試験で評価が不可能な科目（通年の開講授業や実験・演習等）の場合，翌年に再履修が可能である．ただし，必修科目以外は，時間

割が他の科目と重なり受講できない可能性がある．必修科目も，場合によっては他の科目と重なる場合がある．
・ 再履修については，出来るだけ早い時点で専攻主任に相談しておくこと．
③ プログラム再試験・プログラム再再履修
・ 「本科」の JABEE 対応の科目で 60 点未満の科目の内，プログラムの修了に必要な科目は「プログラム再試験」で修得することができる．ただし，出席時数がす即する場合は「プログラム再履修」によって，単位を修得しなければならない．
・ 「プログラム再試験」「プログラム再履修」が必要な科目がある場合，直ちに専攻主任に申し出，相談すること．

３）専攻科の主な行事（学生便覧「行事予定表」参照）

(1) 中間試験，期末試験
・ 本科と同様，試験時間割に組み込まれる．
・ 中間試験が実施されず，1 回だけの試験で合否が決定される科目が多い．

(2) 本科行事にあわせた日程表
・ 基本的に本科とあわせた日程となる．
・ 多くの先生が係わる本科行事の際は休講となるが，特別研究を行うこと．先生によっては授業をされる場合もあるので，担当教員の指示に従うこと．
・ クラスマッチ等の参加は「自由参加」となっている．

(3) 実務実習（１年夏季休業中）
・ 実習は 2 週間と長期であるので事前に夏休みの計画を立てておくこと．また，企業とは早めに連絡する必要があるので，希望の実習先を早めに決めておくこと．

(4) 学位申請手続き，学習成果レポート提出，小論文試験（２年次）

(5) 特別研究中間発表会（1 年次・学年末）

(6) 特別研究論文提出（２年次・1 月末日，末日が休日の場合は休日の前日）

(7) 特別研究発表会（２年次・学年末）

４）その他の手続き

(1) TOEIC・英検等受験と本校基準における合格後の手続き
1）TOEIC/IP 試験は，年 4 回（4 月，9 月，11 月，1 月）実施する予定である．
2）TOEIC 公開テストを受験し，375 点を超えたスコアの証明書は，コピーを教務係に提出すること．（本校で受験した IP テストの場合は，コピーの提出は不要．専攻科長がスコア証明書配布前にコピーを取り，教務係に提出する）
3）英検準 2 級に合格したときは，合格証書のコピーを教務係に提出すること．
専攻科 1 年末までに TOEIC「375 点」を超えない場合，2 年になって直ちに「英検準 2 級」を受験すること．
4）工業英語 3 級に合格したときは，合格証書のコピーを教務係に提出すること．

(2) 学位試験の手続き
・ 「大学評価・学位授与機構小論文試験報告書」を作成し，専攻主任へ提出．

(2) 学協会等発表の手続き
・ 2 年間で 1 回分は旅費の一部が補助される（自己負担が 0 円の場合もある）．
・ **旅費申請書類**（領収書が必要）を，教務係に提出すること．
・ **学協会等発表報告書**（募集要項・発表プログラム・梗概や発表要旨等を添付）を教務係に提出すること．

平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて

１）プログラム担当教員（技術者教育プログラム委員会委員）

清山史朗（委員長）
白岩寛之（M），野地英樹（E），野口太郎（C），中村裕文（A），野町俊文（G理），田村理恵（G文）

２）「生産デザイン工学」プログラムについて

(1) 本科 4 年から専攻科 2 年までの教育プログラム．
(2) 本科 4 年以上及び専攻科の全学生がこのプログラムを履修する．
(3) JABEE に対応したプログラムである．

３）「履修の手引き」の記載概要

1. はじめに
2. 履修対象者
3. 学習・教育目標
   学修・教育目標及びサブ目標について記載．
4. 学習・教育目標とＪＡＢＥＥ基準１の(1)の対応関係
5. 「生産デザイン工学」プログラムを構成する科目について
   「生産デザイン工学」プログラムは，文化系科目・自然科学系科目・基礎工学科目・専門工学科目で構成されており，その科目が表 2 を含めて全科目示される．
6. 「生産デザイン工学」プログラムの修了要件
   Ⅰ～Ⅶまでの修了要件が示される．これに関連する各表について簡単な説明がなされる．
7. 履修にあたっての注意事項
8. 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準
   表３　B2 対応科目を除く評価方法及び評価基準
   表３付表　達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の修了要件及び評価一覧
   表 3 で，B2 対応科目を除く全ての評価基準が示される．表 3 付表は抜粋
   表４　学習・教育目標を達成するための科目群に必要な授業科目の流れ（全学科専攻共通）
   表 4 に，全科・全専攻共通の科目の必修・選択必修・選択の区別が示される．
   表５　同上（B2 対応科目群）
   表 5 に，専門科目の必修・選択必修・選択の区別が示される．
9. 「生産デザイン工学」プログラム教育課程
   表６　各学科，各専攻の教育課程表が示される．
   この表に，「生産デザイン工学」プログラムにおける「必修」「選択必修」「選択」の区分が，まとめて示される．また，表 6 を用いて，プログラム修了に必要な様々な条件をチェックすることができる．表 7 の活用法については，履修の手引(p.18)を参照．

４）修習技術者（技術士補）について（技術士について）

「生産デザイン工学」プログラムの修了により，専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが保証され，「修習技術者」の資格を得ることができ，申請により技術士補の免許が得られる．この免許があれば技術者として最高レベルの 1 つである「技術士」の資格を取るとき，その 1 次試験が免除される．

５）「定期試験後の作業のまとめ」について

プログラムでは，学生自身により教育目標の達成度を評価するシステムが必要となっている．これを目的として学生は「ポートフォリオ」を作成し，達成度を自己評価しなければならない．「定期試験後の作業のまとめ」には，「ポートフォリオ」の記載の方法や時期などが纏められている．

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－４

2年専攻科生用オリエンテーション資料及び学位申請資料

平成 24 年度　専攻科２年生オリエンテーション

都城高専専攻科委員会
2012 年 4 月 4 日（水）

１）平成 24 年度　専攻科について 1

２）平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて 3
資料　履修の手引き（ポートフォリオ綴りに閉じられている）

３）平成 24 年度　学位取得に関して 5
資料　新しい学士への途（平成 24 年度版の配布）

４）定期試験後の作業のまとめ 7
「ポートフォリオ」、「授業評価アンケート調査」「授業実施アンケート調査」について

配付資料一覧　新しい学士への途、学位授与申請書類
専攻科２年生用のシラバス（「ポートフォリオ綴り」に綴じ込むこと）
健康診断記録、健康診断スケジュール

平成 24 年度　専攻科について

１）専攻科担当教員

専攻科長　：清山史朗（委員長）
専攻主任　：永野茂憲（M），野地英樹（E），野口太郎（C），中村裕文（A）
専攻科委員：野町俊文（G理），田村理恵（G文）

２）専攻科の概要及び履修上の注意点（「専攻科学生便覧」参照）

(1) 本校の教育理念

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

(2) 専攻科の学習・教育目標

専攻科の学修・教育目標は本科と同じであり，そのキーワードは「豊かな創造性，優れた知性，高度な社会性，確かな実行力，健全な心身」である．

(3) 専攻科の修了要件

・ 専攻科を修了するためには，実質的に，次の２つの条件を満たす必要がる．
① 専攻科に２年以上在籍し，所定の単位を修得する（教育課程表に示される）．
②「生産デザイン工学」プログラムの修了要件（英語外部試験，学位を除く）を満たす．

(4) 「生産デザイン工学」プログラム（JABEE 対応）について

①「生産デザイン工学」履修の手引の参照
② 本科 4，5 年での修得単位も必要

(5) 学位取得について

① 学位取得のための必要単位
本科 4，5 年での修得単位も必要（「新しい学士への途」参照）．
必要な単位は申請する専攻区分ごとに異なる．
現在までの修得単位を「単位修得状況申告書」「内訳表」に書き込み，チェックする．
②「新しい学士への途」「単位修得状況申告書」「内訳表」等の入手方法．
大学評価・学位授与機構のＨＰからダウンロード可能（2 年生には冊子を配布）．
URL: http://www.niad.ac.jp/n_gakui/shinseishiryou/index.html

(6) 必修科目の意味

必修科目とは本当の意味での必修である．本科と異なり，1 単位でも修得できない場合，修了要件を満たさないことになるので注意すること．

(7) 受講届

① 「受講届」の用紙は，メールにて電子ファイルとして送付する．
メールが使用できる状況でない場合，「受講届」の用紙は，教務係に取りに行くこと．
② 前期・後期共に，決められた期日迄に，必ず受講届を教務係まで提出すること．（学生便覧「行事予定表」参照）

(8) 再履修・再試

① 専攻科では，修得できなかった科目については「再履修」が原則である．
② 再試験・再履修について
・ 試験で評価可能な科目は，再試験が実施される．
・ 再試験の時期は，単位が確定した次の学期に 2 回実施される．
・ 再試験で合格した科目は 60 点となる．
・ 1 年次で単位が修得できない場合，あるいは再試験で評価が不可能な科目（通年の開講授業や実験・演習等）の場合，翌年に再履修が可能である．ただし，必修科目以外は，時間

割が他の科目と重なり受講できない可能性がある．必修科目も，場合によっては他の科目と重なる場合がある．
・ 再履修については，出来るだけ早い時点で専攻主任に相談しておくこと．

③ プログラム再試験・プログラム再再履修
・ 「本科」の JABEE 対応の科目で 60 点未満の科目の内，プログラムの修了に必要な科目は「プログラム再試験」で修得することができる．ただし，出席時数がす即する場合は「プログラム再履修」によって，単位を修得しなければならない．
・ 「プログラム再試験」「プログラム再履修」が必要な科目がある場合，直ちに専攻主任に申し出，相談すること．

３）専攻科の主な行事（学生便覧「行事予定表」参照）

(1) 中間試験，期末試験
・ 本科と同様，試験時間割に組み込まれる．
・ 中間試験が実施されず，1 回だけの試験で合否が決定される科目が多い．

(2) 本科行事にあわせた日程表
・ 基本的に本科とあわせた日程となる．
・ 多くの先生が係わる本科行事の際は休講となるが，特別研究を行うこと．先生によっては授業をされる場合もあるので，担当教員の指示に従うこと．
・ クラスマッチ等の参加は「自由参加」となっている．

(3) 実務実習（１年夏季休業中）
・ 実習は 2 週間と長期であるので事前に夏休みの計画を立てておくこと．また，企業とは早めに連絡する必要があるので，希望の実習先を早めに決めておくこと．

(4) 学位申請手続き，学習成果レポート提出，小論文試験（２年次）

(5) 特別研究中間発表会（1 年次・学年末）

(6) 特別研究論文提出（２年次・1 月末日，末日が休日の場合は休日の前日）

(7) 特別研究発表会（２年次・学年末）

４）その他の手続き

(1) TOEIC・英検等受験と本校基準における合格後の手続き
1）TOEIC/IP 試験は，年 4 回（4 月，9 月，11 月，1 月）実施する予定である．
2）TOEIC 公開テストを受験し，375 点を超えたスコアの証明書は，コピーを教務係に提出すること．（本校で受験した IP テストの場合は，コピーの提出は不要．専攻科長がスコア証明書配布前にコピーを取り，教務係に提出する）
3）英検準 2 級に合格したときは，合格証書のコピーを教務係に提出すること．
専攻科 1 年末までに TOEIC「375 点」を超えない場合，2 年になって直ちに「英検準 2 級」を受験すること．
4）工業英語 3 級に合格したときは，合格証書のコピーを教務係に提出すること．

(2) 学位試験の手続き
・ 「大学評価・学位授与機構小論文試験報告書」を作成し，専攻主任へ提出．

(2) 学協会等発表の手続き
・ 2 年間で 1 回分は旅費の一部が補助される（自己負担が 0 円の場合もある）．
・ **旅費申請書類**（領収書が必要）を，教務係に提出すること．
・ **学協会等発表報告書**（募集要項・発表プログラム・梗概や発表要旨等を添付）を教務係に提出すること．

平成 24 年度　「生産デザイン工学」プログラムについて

１）プログラム担当教員（技術者教育プログラム委員会委員）

清山史朗（委員長）
白岩寛之（M），野地英樹（E），野口太郎（C），中村裕文（A），野町俊文（G理），田村理恵（G文）

２）「生産デザイン工学」プログラムについて

(1) 本科 4 年から専攻科 2 年までの教育プログラム．
(2) 本科 4 年以上及び専攻科の全学生がこのプログラムを履修する．
(3) JABEE に対応したプログラムである．

３）「履修の手引き」の記載概要

1. はじめに
2. 履修対象者
3. 学習・教育目標
   学修・教育目標及びサブ目標について記載．
4. 学習・教育目標とＪＡＢＥＥ基準１の(1)の対応関係
5. 「生産デザイン工学」プログラムを構成する科目について
   「生産デザイン工学」プログラムは，文化系科目・自然科学系科目・基礎工学科目・専門工学科目で構成されており，その科目が表 2 を含めて全科目示される．
6. 「生産デザイン工学」プログラムの修了要件
   Ⅰ～Ⅶまでの修了要件が示される．これに関連する各表について簡単な説明がなされる．
7. 履修にあたっての注意事項
8. 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準
   表３　B2 対応科目を除く評価方法及び評価基準
   表３付表　達成度の評価が履修科目の総合評価である以外の修了要件及び評価一覧
   表 3 で，B2 対応科目を除く全ての評価基準が示される．表 3 付表は抜粋
   表４　学習・教育目標を達成するための科目群に必要な授業科目の流れ（全学科専攻共通）
   表 4 に，全科・全専攻共通の科目の必修・選択必修・選択の区別が示される．
   表５　同上（B2 対応科目群）
   表 5 に，専門科目の必修・選択必修・選択の区別が示される．
9. 「生産デザイン工学」プログラム教育課程
   表６　各学科，各専攻の教育課程表が示される．
   この表に，「生産デザイン工学」プログラムにおける「必修」「選択必修」「選択」の区分が，まとめて示される．また，表 6 を用いて，プログラム修了に必要な様々な条件をチェックすることができる．表 7 の活用法については，履修の手引(p.18)を参照．

４）修習技術者（技術士補）について（技術士について）

「生産デザイン工学」プログラムの修了により，専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが保証され，「修習技術者」の資格を得ることができ，申請により技術士補の免許が得られる．この免許があれば技術者として最高レベルの 1 つである「技術士」の資格を取るとき，その 1 次試験が免除される．

５）「定期試験後の作業のまとめ」について

プログラムでは，学生自身により教育目標の達成度を評価するシステムが必要となっている．これを目的として学生は「ポートフォリオ」を作成し，達成度を自己評価しなければならない．「定期試験後の作業のまとめ」には，「ポートフォリオ」の記載の方法や時期などが纏められている．

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－５

平成24年度４年生学内研修実施要項

目　　的　　学生に高専の４年生として、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。また、厳しい就職状況下における学生生活の在り方を考えさせる。

期　　日　　平成２４年４月１３日（金）

日　　程　　１０：２５　専攻科棟２階　多目的ホールに集合
１０：３０　校長挨拶（講師紹介を含む。）
１０：４０　全体特別講演『長く思い続けること』
（講師：　　建築設計事務所　　氏）
＊昼食（学科別研修講師は学科で対応）

１３：００　学科別研修（学科で企画）

場　　所　　全体特別講演……専攻科棟２階　多目的ホール
学科別研修……機械工学科：楽信館２階　研修室
電気工学科：多目的ホール
物質工学科：図書館ＡＶＲ室
建築学科：建築学科　多目的演習室

平成 24 年度　機械工学科４年生学内研修計画

研修目的：
高専の４年生として、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。
また、来年度の就職・進学活動へ向けての学生生活の在り方を考える。

日　時：平成 24 年 4 月 13 日（金）13：00ー16：45
但し 4 月 9 日ー12 日の 4 日間は研修週間の一部とし、1 日 20 分程度、機械工学科教員から 4 年生へ高学年生としての心構えの話をする。4 月 13 日はその最終日としての締めくくりの日とする。

参加者：４年機械工学科学生・本校機械工学科卒業生・機械工学科教員

場　所：　楽信館 2F 研修室

研修内容：

13:00　　集合（出欠確認）

1. 特別講演　　司会：４M 担任（高橋）

13:05~13:10　講師紹介　　学科長　（佐藤）

13:10~13:30　講演 1　　（平成 19 年 3 月卒）株式会社　ニコン，専攻科修了
13:55~14:00　質疑応答

13:35~13:55　講演 2　　（平成 15 年 3 月卒）三菱重工業(株)　長崎研究所
13:30~13:35　質疑応答

14:00~14:20　講演 3　　（平成 7 年 3 月卒）日鐵プラント設計(株)
14:20~14:25　質疑応答

14:25~14:35　休憩

2.懇談会（司会：４M 学生 2 人予定）

14:35~16:35 研修前日までに、学生が考えた今後の学園生活の過ごし方や目標について意見発表を行う。意見発表は 10 名程度のグループに分かれて各自行う。この意見発表についてのコメントを卒業生から述べて頂く。その他学生からの質問にも答えてもらう。
16:35~16:40　先輩からのメッセージ
今回の研修全体を通して、先輩から後輩へのメッセージがあれば述べて頂く。
16:40~16:45　エンディング
（４M 学生側から先輩への謝辞、4M 担任から卒業生へのお礼及び感想文等の連絡）

平成 24 年度　電気情報工学科４年生の学内研修計画

研修目的：
　高専の４年生となった学生に、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。また、社会で活躍している本校卒業生の話を聴くことにより、厳しい就職・社会状況下における学生生活・社会人としての在り方について考えさせる動機付けとする。

日時：平成 23 年 4 月 13 日（金）13：00～
（午前中は全体特別講演）

場　所：多目的ホール

４Ｅ研修プログラム：
13：00～　講師紹介、講演 2 件
講演 1　高専の学生時代になすべきこと

ＮＴＴ西日本　ネットワーク部　企画部門　設備企画担当

講演 2　今の学生に“喝”

社団法人日本能率協会　ものづくり支援事業ユニット

講演後、休憩 10 分

懇談会　講演に対する質疑応答、先輩からのメッセージ

15:30 頃懇談会終了　学生側から先輩への謝辞、および担任から卒業生へのお礼

～16:00　解散。

（以上）

平成24年度4年生学内研修実施要項

目　　的　学生に高専の4年生として、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。また、厳しい就職状況下における学生生活の在り方を考えさせる。

期　　日　平成24年4月13日（金）

日　　程　10：25　専攻科棟2階多目的ホールに集合
10：30　校長挨拶および講師紹介
10：40　全体特別講演（講師：　　氏）
12：00　講演終了
13：00　学科別研修

場　　所　全体特別講演:専攻科棟２階多目的ホール
学科別研修:物質工学科：図書館AVR室

日　　程

13：00ー13：05	出欠確認
13：05ー13：15	学科長挨拶
13：15ー13：35	担任講話「就職・進学活動における心構え」 進路希望調査
13：35ー13：40	講師紹介
13：40ー14：30	講演1　　氏（平成20年度専攻科卒業生） 株式会社ホンダロック 生産本部基幹技術課(開発Gr) 演題名「高専→専攻科→社会人」
14：30ー14：40	質疑応答
14：40ー14：45	休憩
14：45ー15：35	講演2　　氏（平成19年度専攻科卒業生） 九州大学大学院工学府 化学システム専攻 演題名「高専から進学する意義」
15：35ー15：45	質疑応答
15：45ー16：20	講演者を囲んでの座談会
16：20ー16：30	総括　担任

平成 24 年度都城高専建築学科４年学内研修

● 学科別研修（建築学科）スケジュール

Ⅰ．研修の目的　　13 時 00 分

Ⅱ．担任講話　　13 時 05 分

1．高学年次での進級要件および卒業要件
2．卒業までの主な行事
3．校外実習およびオープンデスクについて
4．建築学研究について
5．研修旅行について
6．卒業研究について

（休憩）

7．進路について
8．推薦書の内容
9．エントリーシート作成および面接試験に備えて（今から考え始めておくこと）

（休憩）

Ⅲ．卒業生による講話および懇談　　15 時 00 分～16 時 10 分

演題：「高専卒業生でよかったこと」

パネラー：　　氏（平成 13 年３月卒業）　（株）熊谷組
　　氏（平成 20 年３月卒業）　大和ハウス工業（株）

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－６

オフィスアワーの設定

機械設計法(Machine Design)

専攻・学年	機械工学科・４年	単位・期間	必修２単位・通年週２時間（授業時間６０時間）

担当教員	前期　豊廣 利信 後期　上井 猛志	連絡先	機械工学科棟2階 豊廣研究室 専攻科研究棟3階 上井研究室	オフィスアワー	月８限

【授業目的】
機械を設計する場合に必要な各種機械要素について基本的な設計方法を修得する。

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】
物理学、数学および材料力学を十分に理解しておくことが望ましい。
指定科目　B

【授業の内容】

授　業　要　目	内　　容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
1．設計上の基本通則	材料強度、設計計算、標準規格、標準数、寸法公差とはめあいについて理解する。	8
2．締結用機械要素の設計	ねじ、キー、コッタ、ピン、リベット継手、溶接継手の設計について理解する。	8
前期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
3．軸および軸継手の設計	軸の種類、軸の強度、永久継手、クラッチの設計について理解する。	6
4．軸受および潤滑法	すべり軸受、ころがり軸受の設計について理解する。	5
前期末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	2
5．摩擦伝動装置	摩擦車の動力伝達方法を理解し、各種摩擦車（円筒摩擦車、みぞ付き摩擦車、円すい摩擦車）のそれぞれの特徴について理解する。	1
6．歯車 6.1 歯車の種類、歯車各部の名称	歯車の種類および平歯車の各部名称を理解する。	4
6.2 歯の大きさの基準および歯形	歯の大きさを表すモジュールや、インボリュート歯車について理解する。	8
6.3 転位歯車	転位歯車について理解する。	2
後期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
6.4 平歯車	歯車強度、寸法、設計上の注意について理解する。	4
6.5 はすば歯車	はすば歯車の特性や強度について理解する。	3
6.6 ねじ歯車	ねじ歯車の特性について理解する。	0.5
6.7 かさ歯車	かさ歯車の寸法と形式、強度について理解する。	1.5
6.8 ウォームギヤ	ウォームギヤの特性と強度について理解する。	3
学年末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	2
	合計時間	62

【達成目標】
(1)機械要素の基本的構造が理解できる。
(2)機械要素の機構が理解できる。
(3)授業で取り上げた機械要素の設計の基礎が理解できる。
(4)授業で取り上げた機械要素の基礎的設計計算ができる。

【成績の評価方法】
最終評価点は、前期中間試験(25%)、前期末試験(25%)、後期中間試験(25%)、後期末試験(25%)で評価する。　評価基準は、学年成績60点以上を合格とする。

【教科書】
林則行ほか共著「機械設計法」（森北出版）

【参考書】
大西清　著「機械設計入門」（理工学社）
鳴瀧良之助　著「機械設計演習」（学献社）

【学習・教育目標との対応】　(B)　　【JABEE基準との対応】　(c),(d)

ポートフォーリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合い】（記入例）ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、満電流についてはあまり理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をして下さい。（記入例）ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

【総合達成度】では、【達成目標】通りに目標を達成することができたかどうか、記入して下さい。

【授業計画の説明】（実施状況の記入）

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【理解の度合い】（教員は授業の実施状況を記入）

【試験の結果】　試験の点数（　　）

【総合達成度】　総合評価の点数（　　）

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入して下さい。

〔出典：シラバス〕

資料７－１－①－７

授業に関する相談記録簿

学生自ら記入してください。

平成２２年度　　授業に関する相談記録

（　　）学科　　担当教員（友安一夫）

No.	月/日	学年学科	学生氏名	科目名	相談内容
例	6/12	2C	高専太郎	有機化学	ルイス式の書き方について
1	4/20	4M		微分方程式	と進学のこと
2	4/26	5E		数学	大学編入問題
3	4/26	1ME		数学	基礎的な数学の話題
4	4/26	2M		微分方程式	宿題プリントについて。
5	4/28	4A		数特.	再試について
6	5/10	5E		数学	編入試験の問題
7	5/18	4M		数学	線形微分方程式の解
8	5/20	5E		数学	編入の問題
9	5/20	5M		数学	編入の問題
10	5/25	5M		数学	〃
11	5/31	5C		数学	〃
12	6/2	5M		数学	〃
13	6/3	3A		数学	線形変換について。
14	6/3	5E		数学	専攻科入試について。
15	6/7	4C		〃	中間テストについて
16	6/10	2M		微積	前期中間テストについて
17	6/18	2ME		微積	院試について
18	6/23	2ME		〃	〃
19	7/15	4C		微分方程式	宿題プリントについて
20	7/20	2M		微積	夏期課題について

学生自ら記入してください。

平成２２年度　　授業に関する相談記録

（　　）学科　　担当教員（友安一夫　　）

No.	月/日	学年学科	学生氏名	科目名	相談内容
例	6/12	2C	高専太郎	有機化学	ルイス式の書き方について
1	7/21	5M		微分方程式	入試問題
2	7/22	5M		〃	〃
3	7/30	5E		数学	編入試験問題
4	8/18	3A		〃	夏休み課題
5	8/18	3E		数学	夏休み課題
6	8/20	3A		数学	〃
7	8/23	3A		〃	〃
8	9/1	2A		微分	テスト対策
9	9/8	4C		微分方程式	〃
10	9/8	2A		微積	〃
11		2A		〃	〃
12	〃	〃		〃	〃
13	9/13	3A		〃	〃
14		3A		〃	〃
15	10/21	専ME2		数学	微分方程式について
16	10/25	2A		微積	log について
17	11/4	2A		微積	積分
18	11/10	4M		応数	極形式について
19	11/16	4C		微方	ラプラス変換
20	11/16	4C		微積	完全微分
	11/16	4C		微方	ラプラス変換

学生自ら記入してください。

平成２２年度　　授業に関する相談記録

（　　）学科　　担当教員（ 友安一夫 ）

No.	月/日	学年学科	学生氏名	科目名	相談内容
例	6/12	２C	高専太郎	有機化学	ルイス式の書き方について
1	11/18	2C		微積	微分積分の基本定理
2	11/22	2M		微積	テスト範囲の復習
3	11/25	4C		応数	〃
4	11/29	4A		応数	ーン次変換
5	11/30	2M		代数	行列式の計算
6	11/30	3A		微積	積分順序の変更
7	12/2	専1A		解析学特論	ヘビサイドの公式について
8	〃	〃		〃	〃
9	12/16	専1A		数数値解析	最小二乗法の証明
10	1/13	3M		微積	微分方程式
11		〃		〃	〃
12		〃		〃	〃
13	1/14	〃		〃	〃
14	1/19	専1A		微積	指数・対数関数
15	1/20	4M		応数	ラプラス
16	1/25	2M		微積	分数関数の積分
17	1/31	4C		〃	フーリエ級数
18	2/1	2M		微積・代数	クラメルと重積分
19	2/3	4A		応数	フーリエ級数
20	2/8	2M		微積	積分

学生自ら記入してください。

平成２２年度　　授業に関する相談記録

（ 一般 ）学科　　担当教員（ 友安一夫 ）

No.	月/日	学年学科	学生氏名	科目名	相談内容
例	6/12	２C	高専太郎	有機化学	ルイス式の書き方について
1	2/09	2A		微積	例題問題を聞きにきた．
2	2/10	4C		〃	フーリエ級数
3	2/10	4C		〃	〃
4	2/10	1ME		解析学特論	Jordanの定理の証明，人生相談
5	2/10	2A		微積	ヘビサイド
6	2/10	2A		微積	ヘビサイド
7	2/14	4A		微方・応数	複素関数 フーリエ級数の収束定理
8	〃	4C		〃	〃
9	〃	4C		〃	〃
10	2/15	4A		〃	拡散方程式の解き方
11	2/15	4A		〃	〃
12	2/15	4C		〃	〃
13	2/15	4A		〃	フーリエ変換
14	2/28	4M		〃	微方
15	3/1	専1A		解析学	2階偏微分の解法．
16					
17					
18					
19					
20					

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－①－８

授業に関する相談記録簿集計結果

平成22年度　授業に関する相談記録の実績

区分	M	E	C	A	G(文)	G(理)	合計
教員数	11	12	11	10	10	12	66
うち相談を受けた教員数	9	2	2	6	5	6	30
相談人数(延べ)	95	10	9	163	200	149	626

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

ガイダンスは，高専入学当初の１年生合宿研修に始まり，「生産デザイン工学」プログラム説明会，専攻科オリエンテーション等，適切に実施している。各授業科目にオフィスアワーを設け（シラバス記載），授業計画説明の際に学生へ直接周知している。さらに，ホームページ上にはシラバスを記載し，学生自ら確認することも可能である。また，その利用実績の検証から，学生の相談に確実に応じており，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制を十分整備しており，機能している。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主的学習に対する施設として，図書館，電子計算機センター及び情報化対応室を整備している。５年生及び専攻科生は，それぞれ卒業研究，専攻科特別研究等のため専門学科教員の研究室や卒研室・ゼミ室も利用できる。

図書館は，平日及び土曜日に開館しており，定期試験中は日曜日も開館している。帯出可能な図書の冊数は通常５冊，長期休業期間中は７冊までとし，自主的学習への配慮をしている（資料７－１－②－１～３）。図書館内の利用については，１年生対象の「図書館オリエンテーション」を実施（資料７－１－②－４）し，ホームページにおいても利用案内を掲載している（前述資料７－１－②－３）。

図書館には，自由開架書架，第１閲覧室及び第２閲覧室がある。第２閲覧室には，自学自習室があり，ＤＶＤ資料閲覧用の機器，テレビ及び学習用パソコンを設置し，学生の自主的学習支援を行っている（資料７－１－②－５）。

学生の図書館利用状況については，平成17年度から平成21年度までの実績がまとめられており（資料７－１－②－６），1日当たりの入館者数を見ると，平成19年度の141名／日を除き，ほぼ同程度の約130名／日となっている。現状の施設において，利用可能な座席数は全102席であることから，高い利用率となっている。

電子計算機センターは，平日の8時30分～17時まで開館している。開館時間の延長に関し，授業担当責任者から申出があった場合には時間を延長している（資料７－１－②－７）。同センターには，演習室が３室あり，演習用パソコンとして，それぞれ48台（Windows系），47台（Windows系），48台（Unix系）を設置している（資料７－１－②－８）。

学生の電子計算機センター利用状況について，平成22年度の時間割上では，前・後期の占有利用率は，それぞれ41%，53%であった（情報処理教育に関するカリキュラムの改訂がなければ，年度ごとにおける利用時間の大きな差はない。）（資料７－１－②－９）。自主的学習を行う上での利用状況については，それを判断するデータ等を計測しておらず，分析できていない。このため，平成24年度内に計測システムを導入する予定である。

また，情報化対応室は，平日19時30分まで開館している（資料７－１－②－10～11）。

福利厚生施設としては，「楽信館」が設置され，館内では食堂，売店，保健室，学生相談支援室等の施設が利用できる（資料７－１－②－12）。また，ラウンジホールには自動販売機を設置し，学生が利用できるようになっている。

観点７－１－②　資料一覧

資料７－１－②－１　都城工業高等専門学校図書館規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－②－２　都城工業高等専門学校図書館利用規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－②－３　図書館利用案内
〔出典：ホームページ〕

資料７－１－②－４　特別活動計画
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－②－５　図書館施設・設備
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－P.114〕

資料７－１－②－６　図書館利用状況
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－P.115～117〕

資料７－１－②－７　都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－②－８　電子計算機センター施設・設備
〔出典：ホームページ「電子計算機センター」〕

資料７－１－②－９　電子計算機センター利用状況
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－P.121〕

資料７－１－②－10　情報化対応室利用の手引き
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－②－11　情報化対応室利用アンケート用紙及び結果
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－②－12　都城工業高等専門学校福利施設使用規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－②－１

都城工業高等専門学校図書館規則

（設置）
第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生及び教職員の学習・教育・研究の向上並びに豊かな人間性の育成を図ることを目的として、都城工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）を置く。
（業務）
第２条　図書館においては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 図書等の収集、整理及び保存に関すること。
(2) 図書等の閲覧及び貸出に関すること。
(3) 図書館利用の指導及び調整に関すること。
(4) 学生の学習・研究に対する協力に関すること。
(5) 教職員の行う教育・研究に対する協力に関すること。
(6) 図書館に関する調査及び渉外活動に関すること。
(7) その他図書館の運営に関すること。
（組織）
第３条　図書館に図書館長を置く。
２　図書館長は、本校の教員の中から校長が任命する。
（任期）
第４条　図書館長の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　図書館長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（任務）
第５条　図書館長は、図書館の業務を総括する。
（図書館運営委員会）
第６条　図書館の運営に関する重要事項を審議するため、都城工業高等専門学校図書館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。
（個人情報の漏えい防止）
第７条　図書館において管理する歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料に記録されている個人情報（公文書等の管理に関する法律施行令第４条第５号で規定する個人情報をいう。）については、独立行政法人国立高等専門学校機構個人情報管理規則（機構規則第６５号第４０条）の規定に基づき、その漏えい防止のための措置を講ずるものとする。
（事務）
第８条　図書館に関する事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、図書館に関する必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校図書館規則（昭和４９年４月１日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－②－２

都城工業高等専門学校図書館利用規則

（趣旨）
第１条　この規則は、都城工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）の図書館資料（以下「図書」という。）の利用について定める。
（図書）
第２条　図書館には、次の図書を備え付ける。
(1) 貴重図書
(2) 特殊図書
(3) 辞書・百科事典等参考図書
(4) 普通図書
(5) 視聴覚資料
(6) 逐次刊行物等各種資料
第３条　図書は、その一部を次の場所に備え付けることができる。
(1) 校長室及び各教員室
(2) 事務部長室及び各事務室
（利用者）
第４条　図書を利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。
(1) 本校教職員
(2) 本校学生
(3) 本校非常勤講師
(4)図書館の利用を申し出た一般利用者
（利用方法）
第５条　図書の利用法は、次のとおりとする。
(1) 室内閲覧
(2) 室外帯出
(3) 書庫内検索
（開館時間）
第６条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、図書館長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。
(1) 平日　　９時～２０時
(2) 土曜日　　９時～１７時
（休館日）
第７条　休館日は、次のとおりとする。ただし、図書館長が必要と認めるときはこれを変更することができる。
(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(2) 日曜日
(3) 春季休業、冬季休業及び学年末休業期間中の土曜日
(4) １２月２８日から翌年１月４日まで
(5) 夏季休業期間中の一定期間
(6) 図書整理日（原則として毎月の初日とする）
（閲覧）
第８条　開架方式の図書は、その室内に限り閲覧することができる。
第９条　閲覧を終えた図書は、正確にもとの場所に返さなければならない。
第１０条　開架方式によらない図書は、係員に申し出て利用することができる。
（帯出禁止）
第１１条　次の図書は、室外帯出を認めない。
(1) 辞書・百科事典等の参考書
(2) 貴重図書及び特殊図鑑
(3) 逐次刊行物の最新号

（帯出）
第１２条　帯出できる図書の冊数は５冊以内とし、期間は１０日とする。ただし、春季・夏季・冬季及び学年末の休業期間中の帯出期間については、別に定める。
２　本校教職員の研究又は教育上必要な図書については、前項にかかわらず次のとおり特別な取扱いをすることができる。ただし、図書館長が必要と認めたときはこの限りでない。
(1) 研究費購入図書
各自の研究費で購入した図書は、必要な冊数だけ帯出することができ、帯出期間購入後１０年間を限度とするが、その期間は更新できるものとする。
(2) 長期貸出図書
研究費購入図書以外の図書で長期に帯出する必要がある場合には、１０冊を限度と、帯出日の属する年度の３月末日まで帯出することができる。
第１３条　図書の帯出を希望する者は、利用者バーコードを貼った学生証若しくは図書館利用券を係員に提出しなければならない。
第１４条　帯出図書は、他人に転貸してはならない。
（返却）
第１５条　帯出図書は、係員に返却しなければならない。
第１６条　帯出を受けている者が、本校の教職員、学生又は非常勤講師としての身分を失う場合、若しくは休学となる場合は、直ちに帯出中の図書を返却しなければならない。
第１７条　図書館長が必要と認め返却の請求をしたときは、速やかに帯出中の図書を返却しなければならない。
（弁償）
第１８条　図書を汚損又は紛失したときは、事情の如何を問わず現物又は相当の代金を返却しなければならない。
（検索）
第１９条　書庫内図書の検索を希望する者は、係員に申し出て、入庫者名簿に所定事項を記入しなければならない。
（書庫への入室）
第２０条　書庫に入室するときは、ノート・筆記具以外の所持品は持ち込んではならない。ただし、教科書等の持込みが必要なときは係員に申し出て、退出の際、その本を提示しなければならない。
（閲覧室の注意）
第２１条　閲覧室にあっては静粛を保ち、音読・談話・喫煙・飲食その他館内の秩序を乱すような行為をしてはならない。
（館内での注意）
第２２条　館内では掲示に注意し、係員の指示に従わなければならない。
（利用の禁止・停止）
第２３条　この規則に違反した者は、図書の利用を禁止又は停止することがある。
（雑則）
第２４条　図書を利用者の閲覧に供するため、図書の目録及びこの規則を常時閲覧室内に備え付けるものとする。
（附則途中省略）
附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－②－３

図書館利用案内

ご利用案内

図書館開放について

本校の図書館は，開かれた図書館としてすべての学生・一般のみなさんに開放しています。

（利用方法）
・図書館での図書・雑誌等は自由に閲覧できます。
・貸出を希望する方(一般の方)は，「図書貸出カード」の交付を受けてください。
　学生証，運転免許証又は健康保険証等身元を証明する証書が必要です。
・DVDを利用する場合は，窓口へ申し出てください。

開館時間

平日　　9:00～20:00
土曜日　9:00～17:00(12:00～13:00は閉館します。)

（夏季休業期間）
平日 9:00～20:00(ただし，8月は17時まで)
土曜日　9:00～17:00(12:00～13:00は閉館します。)

（春季・冬季・学年末休業期間）
平日 9:00～17:00

休館日

日曜日(ただし，冬季・春季休業期間中は土，日曜日)
国民の祝日
年末年始(12月28日～1月4日)
その他(年間開館カレンダーをご覧ください。)
※都合により臨時休館することがあります。

貸出冊数，期間

・学生・・・5冊以内，10日間以内(休業期間中は7冊まで)
・教職員・・・10冊以内，10日間以内
・一般の方・・・5冊以内，10日間以内

利用上の注意

・図書館では迷惑にならないよう私語は慎み，図書及び備品は大切に扱ってください。
・飲食禁止です。

蔵書数

図書の冊数　　平成24年4月1日現在

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
和漢書	3,765	3,483	4,120	4,237	12,625	19,447	539	2,134	2,767	10,102	63,219
洋書	425	541	67	138	1,293	547	5	51	479	599	4,145
合計	4,190	4,024	4,187	4,375	13,918	19,994	544	2,185	3,246	10,701	67,364

雑誌の種類数

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
和雑誌	332	5	4	55	42	194	4	20	30	8	694
洋雑誌	8	1	3	1	48	27	0	0	3	1	92
合計	340	6	7	56	90	221	4	20	33	9	786

トップページへもどる　TOP

〔出典：ホームページ〕

資料７－１－②－４

特別活動計画

平成２４年度前期特別活動年間計画書

月	日	学科	第１学年	学科	第２学年	学科	第３学年	ＡＶＲ室	多目的ホール	図書館	体育施設	実施回数
4	4	M	始業式、HR、対面式、試験	M	始業式、HR、対面式	M	始業式、HR、対面式					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	11	M	図書館オリエンテーション	M	クラスマッチ準備	M	特活計画立案・前期個人目標（計画書作成）					
		E	特別活動オリエンテーション	E	担任講話	E	特活計画立案			1M		
		C	担任指示、レクリエーション	C	特活の計画、担任の話	C	特活計画およびポートフォリオの					
		A	担任指導	A	昨年度の反省と本年度の目標	A	担任指示					
	18	M	クラスマッチの練習	M	担任講話	M	1)クラスマッチ準備　2)放射線について語る					
		E	担任講話Ⅰ（担任指示の場合有）	E	担任指示	E	担任指示			2A	1A（1）	
		C	担任指示、レクリエーション	C	クラスマッチの練習	C	クラスマッチの準備					
		A	体育館１	A	図書館	A	担任指示					
	20	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ					
		E		E		E					全クラス	
		C		C		C						
		A		A		A						
	25	M	学生指導部［心の健康管理］	M	図書館	M	1)工場見学説明　2)学科開放の取組(4M先輩を交えて)	2E	1全	2M	2C（1）2A（2）	
		E		E	AVR	E	担任指示					
		C		C	体育館1	C	工場見学について					
		A		A	体育館2	A	担任指示					
5	9	M	ビデオ観賞	M	キャリア　教務指導部［OB・OGのDVD紹介］	M	体育館１	3C	2全	1E	3M（1）3E（2）	
		E	図書館オリエンテーション	E		E	体育館2					
		C	担任指示	C		C	高専卒業生の体験談　AVR					
		A	担任指導	A		A	担任指示					
	16	M	体育館１	M	AVR	M	キャリア　教務指導部［新聞の読み方（就職）］	2M	3全	1C	1M（1）1E（2）	
		E	体育館２	E	担任指示	E						
		C	図書館オリエンテーション	C	学科長講話	C						
		A	担任指導	A	グループ討論	A						
	23	M	学生指導部［交通安全教室］	M	2分間スピーチ(1)	M	学科開放話し合い（１）	2A	1全	2E	3C（1）3A（2）	
		E		E	図書館	E	担任指示					
		C		C	企業・大学を知ろう（調査編集１）	C	体育館１					
		A		A	ＡＶＲ	A	体育館２					
	30	M	専攻科生の話	M	学生指導部［交通安全教室］	M	ＡＶＲ	3M	2全	専攻科学力入試		
		E	担任講話Ⅱ	E		E	担任指示					
		C	担任指示	C		C	高専祭（学科開放）昨年の取り組み紹介					
		A	担任指導	A		A	担任指示					
6	6	M	ＡＶＲ	M	M科教員講話	M	学生指導部［交通安全教室］	1M	3全	1A		
		E	担任講話Ⅲ	E	担任指示	E						
		C	担任指示	C	企業･大学を知ろう(調査編集2)	C						
		A	図書館オリエンテーション	A	前期中間試験に向けて	A						
	13	M	前期中間試験	M	前期中間試験	M	前期中間試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	20	M	高専祭の話し合い	M	学生指導部［エイズ講習］	M	図書館	1E	2全	3M	1C（1）	
		E	ＡＶＲ	E		E	担任指示					
		C	体育館１	C		C	講演:就職に関する経営者側の視点					
		A	前期中間試験の反省	A		A	担任指示					
	27	M	キャリア　教務指導部［学校の歴史］	M	体育館１	M	前期中間試験の反省と前期末個人目標(計画書作成)	3A	1全	3E	2M（1）2E（2）	
		E		E	体育館2	E	図書館					
		C		C	企業･大学を知ろう(発表1)	C	学科開放の計画立案					
		A		A	前期中間試験のまとめ	A	AVR					
7	4	M	高専祭の準備	M	２分間スピーチ（２）	M	キャリア支援室［企業情報の収集法］	1C	3全	2C		
		E	担任講話Ⅳ	E	担任指示	E						
		C	高専祭準備　AVR	C	図書館	C						
		A	高専祭準備	A	友達に薦める本1	A						
	11	M	高専大会壮行会	M	高専大会壮行会	M	高専大会壮行会					
		E		E		E					全クラス	
		C		C		C						
		A		A		A						
9	5	M	高専祭の準備	M	夏休み反省	M	学科開放話し合い（２）	3E		3C		
		E	専門学科等講話Ⅰ(担任指示の場合有)	E	担任指示	E	ＡＶＲ					
		C	高専祭準備	C	企業・大学を知ろう（発表２）	C	図書館					
		A	高専祭の準備	A	友達に薦める本2	A	担任指示					
	12	M	高専祭の準備	M	キャリア支援室［地域から世界へ］	M	前期末試験準備	1A	2全	3A		
		E	専門学科等講話Ⅱ(担任指示の場合有)	E		E	担任指示					
		C	高専祭準備	C		C	高専祭（学科開放）の計画					
		A	AVR	A		A	図書館					
	26	M	前期末試験	M	前期末試験	M	前期末試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
10	3	M	学生指導部［特別講演］	M	前期の反省	M	前期の反省と後期へ向けて（個人目標（計画書作成））	2C	1全			
		E		E	担任指示	E	担任指示					
		C		C	AVR	C	高専祭の計画・準備					
		A		A	前期の反省とまとめ	A	担任指示					

平成２４年度後期特別活動年間計画書（指導部）

月	日	学科	第１学年	学科	第２学年	学科	第３学年	ＡＶＲ	多目的ホール	図書館	体育施設	実施回数
10	10	M	体育館１	M	ＡＶＲ	M	学生指導部［契約とクレジット］	２M	３全	２A	１M（１）１E（２）	
		E	体育館２	E		E						
		C		C		C						
		A		A	図書館	A						
	17	M		M		M	図書館	２C		３M	１C（１）１A（２）	
		E		E		E						
		C	体育館１	C	ＡＶＲ	C						
		A	体育館２	A		A						
	24	M	キャリア支援室［自己分析してみよう］	M		M		２E	１全	３E	２C（１）２A（２）	
		E		E	ＡＶＲ	E	図書館					
		C		C	体育館１	C						
		A		A	体育館２	A						
	31	M		M	体育館１	M		２A		３C	２M（１）２E（２）	
		E		E	体育館２	E						
		C		C		C	図書館					
		A		A	ＡＶＲ	A						
11	7	M	図書館	M		M	キャリア　教務指導部［エントリーシートの書き方］	１E	３全	１M		
		E	ＡＶＲ	E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	21	M	M科キャリア支援	M	M科キャリア支援	M	M科キャリア支援	１C	M全	１E	３C（１）３A（２）	
		E	図書館	E		E						
		C	ＡＶＲ	C		C	体育館１					
		A		A		A	体育館２					
	28	M		M	学生指導部［たばこ及び薬物講習会］	M	体育館１	1A	2全	1C	３M（１）３E（２）	
		E		E		E	体育館２					
		C	図書館	C		C						
		A	ＡＶＲ	A		A						
12	5	M	後期中間試験	M	後期中間試験	M	後期中間試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	12	M	ＡＶＲ	M		M		1M	E全	3A		
		E	E科キャリア支援	E	E科キャリア支援	E	E科キャリア支援					
		C		C		C						
		A		A		A	図書館					
	19	M	消防避難訓練	M	消防避難訓練	M	消防避難訓練					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
1	9	M		M	図書館	M	ＡＶＲ	３M	C全	２M		
		E		E		E						
		C	C科キャリア支援	C	C科キャリア支援	C	C科キャリア支援					
		A		A		A						
	16	M		M	キャリア教務指導部［ＯＢによる講演会］	M		３E	２全	１A		
		E		E		E	ＡＶＲ					
		C		C		C						
		A	図書館	A		A						
	23	M		M		M		３C		２E		
		E		E	図書館	E						
		C		C		C	ＡＶＲ					
		A		A		A						
	30	M		M		M		３A		２A		
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A	図書館	A						
2	6	M		M		M			A全	２C		
		E		E		E						
		C		C	図書館	C						
		A	A科キャリア支援	A	A科キャリア支援	A	A科キャリア支援					
	20	M	学年末試験	M	学年末試験	M	学年末試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－②－５

図書館施設・設備

５　図書館

(1) 施設・設備の整備状況

① 図書館の室構成

ア　第１閲覧室（100 ㎡）	閲覧座席数は 48 席。辞書やハンドブックなどの参考図書が約３千冊設置されている。
イ　第２閲覧室（146 ㎡）	閲覧座席数は 42 席。雑誌類・多読用英文図書が設置されている。また、自学自習用のパソコン 12 台と DVD 機器４台を設置。
ウ　自由開架書架（200 ㎡）	閲覧座席数は 12 席。一般図書の棚数 1,032、大型本棚数 40、文庫本棚数 28 で、１棚当たりの収容能力を 30 冊とすると、収容能力は約３万２千冊である。第１閲覧室に連続している。
エ　事務室（48 ㎡）	図書貸出・返却業務と図書発注受入整理業務を行う。
オ　閉架書庫（144 ㎡）	集密式書架設置。その他絵画等を５点所蔵している。

② ブックディテクション・システム

平成２年に導入設置されたもので、入館者数の自動計測装置を付設する。

③ DVD 機器

DVD 資料閲覧用として、第２閲覧室に４台設置している。平成 22 年３月に、薄型液晶テレビを４台設置。

④ 学習用パソコン

平成 22 年３月に、自学自習用として 12 台のパソコンを第２閲覧室に設置。インターネット接続、Word、Excel などの利用が可能。

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－P. 114〕

資料７－１－②－６

図書館利用状況

(2) 図書館の利用状況

図書館の利用状況は、表Ⅳ5(2)-1～表Ⅳ5(2)-4 のとおり、入館者数が一旦増加の傾向を見るも、学生・学外者・教職員いずれも平成 19 年度をピークに減少している。その背景には、コンピュータやインターネットの普及により、情報入手の手段が多様化し、図書館に赴いて書籍を使って調べる必要が減少したことが考えられる。入館者数の減少に伴って、帯出冊数についても同様に減少の傾向が見られる。

① 利用拡大に向けての取組

本校図書館の図書利用を一層促進するためには、利用者数(入館者数)の確保が必要である。利用拡大に向けた実際の取組は以下のとおりである。

ア 平成 20 年度には、第 1 閲覧室の壁面の改修及び第 2 閲覧室の拡張工事を行った。翌 21 年には、第 2 閲覧室に自学自習用の個別利用机、パソコンの設置を行った。これにより第 2 閲覧室は旧来の面目を一新して、利便性が非常に高くなった。また、開架書庫の空調設備は旧式なものであったため、利用者への配慮から冷暖房対応の新しい機器へ更新を図った。図書館 1 階入口にはスロープが設置され、車椅子使用の利用者も入館できるようになった。しかし、2 階の図書館閲覧室を利用するためには、本館のエレベータを使用しなければならず、利用者へ不便を強いている。

イ 学校図書館にとって、選書による蔵書構成はその質を規定する生命ともいうべきものである。図書の購入については、例年かなりの予算を措置して、各学科教員の協力を得て、専門図書や就職・資格関連図書の充実を図っている。また、学生の教養の底上げを図るために、毎年一定額の予算を確保して、関連書籍の購入を行っている。一例をあげると、10 年前に学生の科学に対する関心を高めるために始められた『ブルーバックス』の購入は、現在ではおよそ 440 冊を所蔵するに至っている。このように計画的に図書を購入していることから、前回(平成 16 年度)の JABEE 受審の折りには審査員から本が古いとの指摘を受けたが、平成 21 年度の受審の際は指摘を受けなかった。

ウ 本校図書館を活力あるものにするためには、教職員の努力だけでは限界があり、若い力が不可欠である。このような趣旨から、平成 20 年度より図書館長の指導のもと、学生図書委員へはたらきかけて、学生の図書館運営への参加を図っている。ブックハンティングのための事前準備、読書週間中の各種イベント(「蔵書紹介」の作成・DVD 上映会)等は、その成果の一端である。

エ 平成 21 年度には、学生の読書意欲を喚起する一助として、外部講師による講演を新たに企画して実施に移した。同年 11 月には三股町在住の昆虫写真家・新開孝氏を迎えて、1 年生を対象に講演会を開催した。なお、この企画は今後も毎年実施する予定である。

オ 本校図書館では“開かれた図書館”を目指して一般市民に向けて図書館開放を行っている。特に夏期における高校生及び中学生の利用を確保するため、パンフレットを作成し、図書館スタッフが近隣の高校・中学校へ直接赴いて利用の拡大を図っている。

カ 本校図書館の現状を把握するとともに、今後の課題を見出して改善を図る目的で、平成 21 年 2 月に学生対象のアンケートを行った。アンケートの項目は、１．施設について２．蔵書について３．図書館の運用についての三部から成る。

キ アンケート結果から、第 2 閲覧室の大規模改修及び個人用机の新規購入による利便性の改善が図られたことがうかがわれる。蔵書については、専門書・教養書・参考書類・雑誌等全般的に揃っていると好意的な意見が多く寄せられた。

表Ⅳ5(2)-1　年度別学生図書館利用状況

年　度	学生数	開館日数	入館者総　計	１日当たり入館者数	帯出冊数総　計	１日当たり帯出冊数	一人当たり帯出冊数
平成 17 年度	853	264	33,565	127.1	8,760	33.2	10.3
平成 18 年度	853	268	33,906	126.5	6,387	23.8	7.5
平成 19 年度	865	264	37,277	141.2	6,175	23.4	7.1
平成 20 年度	863	248	32,629	131.6	5,475	22.1	6.3
平成 21 年度	871	265	34,320	129.5	5,640	21.3	6.5

表Ⅳ5(2)-2　年度別教職員図書館利用状況

年　度	帯出者数	開館日数	帯出冊数総　計	１日当たり帯出冊数	一人当たり帯出冊数
平成 17 年度	35	264	413	1.6	11.8
平成 18 年度	34	268	542	2.0	15.9
平成 19 年度	31	264	560	2.1	18.1
平成 20 年度	31	248	385	1.6	12.4
平成 21 年度	32	265	331	1.2	10.3

表Ⅳ5(2)-3　年度別学外者図書館利用状況

年　度	帯出者数	開館日数	入館者総　計	１日当たり入館者数	帯出冊数総　計	１日当たり帯出冊数	一人当たり帯出冊数
平成 17 年度	17	264	190	0.7	183	0.7	10.8
平成 18 年度	35	268	820	3.1	178	0.7	5.1
平成 19 年度	38	264	1,120	4.2	584	2.2	15.4
平成 20 年度	19	248	824	3.3	156	0.6	8.2
平成 21 年度	23	265	662	2.5	294	1.1	12.8

表Ⅳ5(2)-4　分類別帯出冊数

年　度	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学
平成 17 年度	343	163	103	135	1,349	2,453	27	279	253	3,655
平成 18 年度	259	88	52	90	813	2,113	22	178	122	2,650
平成 19 年度	245	136	47	107	769	2,103	9	167	153	2,439
平成 20 年度	249	155	62	133	796	1,891	10	132	124	1,923
平成 21 年度	236	129	65	163	1,293	1,943	14	154	135	1,508

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－P. 115～117〕

資料７－１－②－７

都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則

［昭和 54 年 11 月 16 日制定］

（趣旨）
第１条　この規則は、都城工業高等専門学校電子計算機センター規則（昭和 54 年 11 月 16 日制定）第８条第１項の規定に基づき、電子計算機センター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定める。
（利用者）
第２条　センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。
(1) 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び職員
(2) 校長が特に認めた者
（開館時間）
第３条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。
(1) 平日　　８時３０分～１７時
（閉館日）
第４条　閉館日は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、これを変更することができる。
(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(2) 土曜日及び日曜日
(3) 夏季休業、冬季休業及び春季休業中の一定期間
(4) 電子計算機（以下「電算機」という。）等の設置及び調整等に必要な一定期間
(5) その他、本校が定める休業日
（利用制限）
第５条　センター長が特に必要と認めたときは、電算機及び演習室の利用を制限することがある。
（休業日及び時間外の利用）
第６条　休業日及び開館時間外にセンターの利用を希望する者は、別紙様式により利用願を提出し、センター長の許可を受けるものとする。ただし、22 時以降の利用は原則として認めない。

附　則

1　この規則は、昭和 54 年 11 月 16 日から施行する。
2　都城工業高等専門学校情報処理センター使用細則（昭和 52 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 20 年 6 月 11 日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－②－８

電子計算機センター施設・設備



都城工業高等専門学校電子計算機センターホームページ

情報公開責任者：電子計算機センター長　連絡先：

電子計算機センターの現在の主な設備は、パソコン演習室3室、校内コンピュータネットワーク基幹装置群及びネットワークサーバ群です。
これらは、情報処理教育（全学生）、卒業研究・学術研究（5年生・専攻科生・教職員）、クラブ活動、事務連絡（教職員）等に提供、利用されています。
センターのコンピュータを含め、校内の550台を超えるコンピュータが校内コンピュータネットワークに接続されています。それらはすべてインターネットを利用でき、情報収集や校外の機関との情報交換に利用されています。

教室系ネットワークでの無線LANアクセスポイント接続については、校内専用演習室パソコンホームページへ
マイクロソフト社との包括的ライセンス契約に基づく特典についても、校内専用演習室パソコンホームページへ

●第1パソコン演習室（平成20年更新）

・Fujitsu FMV D5250×48（Ardence シンクライアントシステム）
・Windows XP
・SkyMenu（授業支援）
・Word、Excel、Power Point
・Visual Studio（Basic、C++）
・Intelli CAD、Solid Works、Vector Works(CAD)
・B2 Spice(論理回路設計)
等

●第2パソコン演習室（平成20年更新）

・Fujitsu FMV D5250×47（Ardence シンクライアントシステム）
・Windows XP
・KingsoftOffice（文書、表計算、発表）
・Visual C++
・Intelli CAD、Solid Works、Vector Works(CAD)
・B2 Spice(論理回路設計)
・液晶プロジェクター・スクリーン
等

●第3パソコン演習室（平成20年更新）

・iMac×48（OS X シンクライアントシステム）
・OS X
・Apple Remote Desktop
・Word、Excel、Power Point
・Vector Works(CAD)
・液晶プロジェクター・スクリーン
等

□ 利用案内

開館時間（平日）8：30～17：00
- 自動ロック装置により定刻に確実に施錠（閉館）されます。
- 閉じこめられる可能性があるので、定刻5分前までには退出してください。

利用方法
- 演習室は、利用者原則として自動ログインによる。
- ネットワークはIDとパスワードを入力して利用する。

注意事項
- センター内での飲食は厳禁
- システムの設定変更は禁止
- 公序良俗に反するサイトの閲覧禁止／公序良俗に反する画像等のダウンロード禁止
- 個人所有のパソコンのネットワーク接続は厳禁

□ 演習室パソコンホームページ（校内専用）

〔出典：ホームページ「電子計算機センター」〕

資料７－１－②－９

電子計算機センター利用状況

⑵ 電子計算機センターの利用状況

センターの総面積は611㎡であり、3つの演習室、ネットワーク管理室、計算機室、教員研究室、事務室、2つの倉庫（一部は学生の部室［情報処理部］）、トイレ、玄関、ロビー兼通路で占められる。

① 部屋割り

ア 演習室 （Windows系OS及びUnix系OSを中心とした情報処理教育・演習環境）

Windows系OSとUnix系OSに基盤を置き2対1の割合で計3部屋に教育演習用パソコンを配置している。Windows系OSは実社会での占有率が大きく、特に業務・実務的アプリケーションについては普遍化しているという社会的な現状を踏まえ設置比率を大きくし、第1、第2演習室に配備した。一方Unix系OSはネットワークやサーバー系といった情報工学教育上必要なOSである。元来、本校では歴史的にCADやマルチメディア界で広く利用されているApple社のパソコン（LC630）を1つの演習室に配置していたが、同社の製品がUnix系のOSXを採用し、さらにOSの仮想化が容易であることからCADやマルチメディアに加えてWindowsOSとLinuxOSを併用できる利便性の高いOSX環境を第3演習室に配置している。

なお、第1､第2及び第3演習室は全てリースである。

［第1演習室］
利用目的：プログラミング、CAD、その他の情報リテラシー教育
収容台数：Windows XP SP3 49 台（富士通）
システム形態：シンクライアント方式

［第2演習室］
利用目的：プログラミング、CAD、その他の情報リテラシー教育
収容台数：Windows XP SP3 45 台（富士通）
システム形態：シンクライアント方式

［第3演習室］
利用目的：プログラミング、CAD、Unix 教育、その他の情報リテラシー教育
収容台数：iMac OSX 45 台（ Apple ）
システム形態：シンクライアント方式
仮想化 OS：Linux［ Ubuntu Linux］、Windows XP のマルチブート可能

平成22年度の上記の3演習室の時間割上での割当時間は以下のようになっている。

（前期）占有利用率＝49/120=41%

［月曜日］	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目	8限目
第1演習室	――――――		（情報基礎1）		（情報基礎1）	――――――		
第2演習室	――――――							
第3演習室	（知能情報）		（建築ＣＡＤ）	――――――				
［火曜日］	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目	8限目
第1演習室	（情報基礎2）	――――――		（　創造設計　）	――――			
第2演習室	――――――	（電気設計）	――――――					
第3演習室	――――――							
［水曜日］	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目	8限目
第1演習室	（情報処理）	（設計製図）	――――――					
第2演習室	――――――	（電子計測）	――――――					
第3演習室	（意匠ＣＡＤ）	――――――	（コ援用学）	――――――				
［木曜日］	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目	8限目
第1演習室	（情報基礎2）	――――――	（情報基礎2）	（情報基礎2）				

第２演習室　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
第３演習室　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
［金曜日］　１限目　２限目　３限目　４限目　５限目　６限目　７限目　８限目
第１演習室　（情報基礎１）　（ 振動工学 ）　（情報基礎１）　（情報基礎２）
第２演習室　（ シスプロ ）－－－－－－－－－－（　　機械設計製図　　）
第３演習室　（ プロ言２ ）－－－－－－－－－－（ プロ言１ ）－－－－－－－－

（後期）占有利用率＝64/120=53%
［月曜日］　１限目　２限目　３限目　４限目　５限目　６限目　７限目　８限目
第１演習室　－－－－－－－－（情報基礎２）　（情報基礎２）－－－－－－－－
第２演習室　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
第３演習室　（建築ＣＡＤ）－－－－－－－－－－（　　建築設計　　）
［火曜日］　１限目　２限目　３限目　４限目　５限目　６限目　７限目　８限目
第１演習室　（情報基礎２）－－－－－－－－－－（情報基礎１）　（ 設計製図 ）
第２演習室　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
第３演習室　（情報基礎２）－－－－－－－－－－（ プロ言１ ）－－－－－－－－
［水曜日］　１限目　２限目　３限目　４限目　５限目　６限目　７限目　８限目
第１演習室　（意匠ＣＡＤ）　（　　創造設計　　）－－－－－－－－
第２演習室　（　　電気電子情報設計　　）－－－－－－－－
第３演習室　（　　電気電子情報設計　　）－－－－－－－－
［木曜日］　１限目　２限目　３限目　４限目　５限目　６限目　７限目　８限目
第１演習室　－－－－－－－－（情報処理２）　（情報基礎２）　（情報基礎１）
第２演習室　－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
第３演習室　（ 知能情報 ）－－－－－－－－－－（　　建築設計　　）
［金曜日］　１限目　２限目　３限目　４限目　５限目　６限目　７限目　８限目
第１演習室　（情報基礎１）　（情報処理１）　（情報基礎２）－－－－－－－－
第２演習室　（ シスプロ ）－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
第３演習室　（ コ援用学 ）－－－－－－－－－－（ プロ言２ ）－－－－－－－－

情報処理教育に関係するカリキュラムの改訂がない限り上記の利用時間に大きな変化はないので平成22年度分のみを示した。なお、平成13年度以降でのカリキュラムの大きな見直しは、平成16年度以降、情報基礎２が４学科の２年時に８時間（２時間×4=8時間）増えている。

実際の年度の違いによる演習室の利用割当ては、その年度の時間割で大きく異なっている。特にWindows を使う演習室の方が圧倒的に多い。理由の一つは、情報基礎１、同２の16時間がほぼ同じ環境で行われるためで、その要因は第１演習室に対面式の演習アシスト装置（SkyMenu）が導入されているためと考えられる。

なお、休み時間や放課後の利用状況は計測していない。

イ　ネットワーク管理室、計算機室

ネットワーク管理室では、本校の基幹ネットワークに関する事務系サーバ以外の全てのサーバ及びグループウェア、Web等の全ての業務用サーバを収容し24時間稼働している。

また、計算機室には第１、第２、第３演習室の集中制御のための６台のサーバがあり、夏休み等の長期休暇中を除いて24時間稼働している。

ウ　その他の部屋については記載しない。（事務室、研究室、倉庫、部屋等）

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－P.121〕

資料７－１－②－10

情報化対応室利用の手引き

教　務　主　事

１．対応室を利用する事が出来る者は、本校の学生、職員および校長が特に認めた者とします。

２．利用時間は、平日の午前９時より午後７時３０分までとします。
タイムロックになっていますので、利用時間を必ず守って下さい。

３．入室する時は、必ずスリッパに履き替えて下さい。

４．対応室は教育的施設ですので、以下の点を厳守して下さい。
・　ゲーム等の遊び目的では利用しない。
・　飲食物の持ち込みをしない。
・　ネット上のサーバー等に不正なアクセスはしない。
・　ネット上のホームページ等に不正な書き込みはしない。
・　公序良俗に反する内容のファイルや著作権の問題が生じる恐れのあるソフト等をダウンロードしない。
・　アプリケーションのインストールはしない。
・　システムの設定を変更しない。

５．利用にあたっては他人の迷惑にならないよう心がけ、利用後のパソコンは、必ず初期状態に戻しておいて下さい。

６．異常を発見した場合は直ちに教務係に連絡して下さい。

７．対応室には監視カメラが設置されています。不正等が発見された場合は、入室禁止、対応室閉鎖、場合によっては処分等の処置をとります。

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－②－11

情報化対応室利用アンケート用紙及び結果

情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート

認証評価委員会

今後の学校の情報教育設備および活動の充実・改善のための基礎資料としますので、次のアンケートにご回答くださるようお願い致します。(該当項目に○をつけてください。)

専攻科　学年（１年、２年、）　　専攻（　ME，　C，　A　）

Ｑ１．あなたは情報化対応室（図書館１階）を１年間で何時間ぐらい利用していますか。

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満

４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ２．電子計算機センターを１年間に授業以外で何時間くらい利用していますか。

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満

４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ３．電子計算機センターには第１、第２、第３演習室がありますが授業以外で１年間に何時間くらい利用していますか。

Ｑ３－１．【第１演習室の使用状況】

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満

４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ３－２．【第２演習室の使用状況】

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満

４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ３－３．【第３演習室の使用状況】

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満

４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ４．利用内容をお聞かせください。

１）演習課題　２）レポート作成　　３）検索・情報収集　　４）メール等受発信

５）その他

Ｑ５．あなたの本校における情報教育設備の満足度をお聞かせください。

１）大変満足している　　２）やや満足している　３）どちらともいえない

４）あまり満足していない　５）全く満足していない

Ｑ６．本校の情報教育設備について要望や改善がありましたら記入してください。

アンケートにご協力くださりまして誠にありがとうございました。

情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート

認証評価委員会

今後の学校の情報教育設備および活動の充実・改善のための基礎資料としますので、次のアンケートにご回答くださるようお願い致します。（該当項目に○をつけてください。）

学年（１年、２年、３年、４年、５年）　　学科（M，E，　C，　A）

Ｑ１．あなたは情報化対応室（図書館１階）を１年間で何時間ぐらい利用していますか。

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満
４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ２．電子計算機センターを１年間に授業以外で何時間くらい利用していますか。

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満
４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ３．電子計算機センターには第１、第２、第３演習室がありますが授業以外で１年間に何時間くらい利用していますか。

Ｑ３－１．【第１演習室の使用状況】

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満
４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ３－２．【第２演習室の使用状況】

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満
４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ３－３．【第３演習室の使用状況】

１）利用していない　　２）１０時間未満　　３）１０時間～３０時間未満
４）３０時間～１００時間未満　５）１００時間以上

Ｑ４．利用内容をお聞かせください。

１）演習課題　２）レポート作成　　３）検索・情報収集　　４）メール等受発信
５）その他

Ｑ５．あなたの本校における情報教育設備の満足度をお聞かせください。

１）大変満足している　　２）やや満足している　３）どちらともいえない
４）あまり満足していない　５）全く満足していない

Ｑ６．本校の情報教育設備について要望や改善がありましたら記入してください。

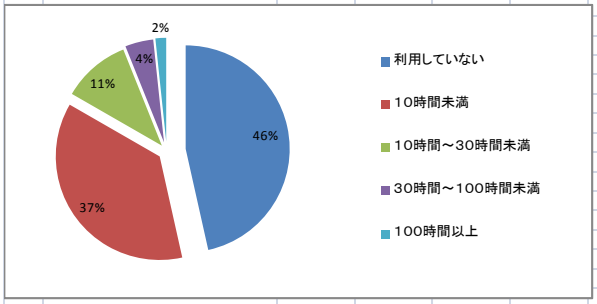
アンケートにご協力くださりまして誠にありがとうございました。

情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート

実施日：平成24年4月23日～27日
対象：本科2年～5年　673人、専攻科1年～2年　51人、計724人
回答数（回答率）：本科2年～5年　627人、専攻科1年～2年　47人、計674人（93%）

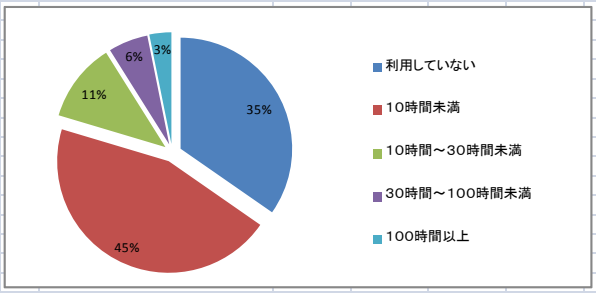
Q1. あなたは情報科対応室（図書館1階）を1年間で何時間ぐらい利用していますか。

1	利用していない	307	46%
2	10時間未満	243	37%
3	10時間～30時間未満	70	11%
4	30時間～100時間未満	29	4%
5	100時間以上	11	2%
		660	100%



Q2. 電気計算機センターを1年間に授業以外で何時間くらい利用していますか。

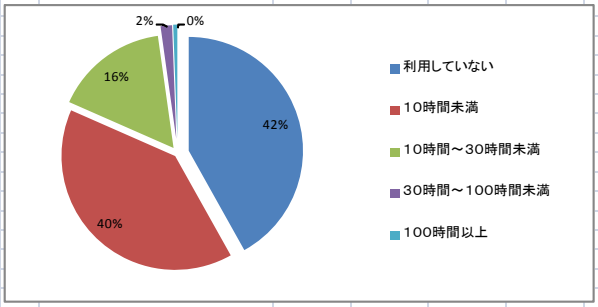
1	利用していない	230	35%
2	10時間未満	298	45%
3	10時間～30時間未満	76	11%
4	30時間～100時間未満	38	6%
5	100時間以上	21	3%
		663	100%



Q3. 電子計算機センターには、第1、第2、第3演習室がありますが授業以外で1年間に何時間くらい利用していますか。

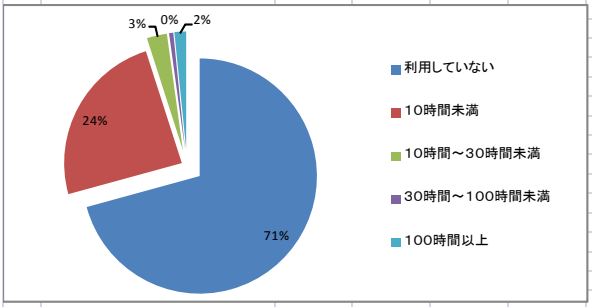
Q3-1.【第1演習室の使用状況】

1	利用していない	285	42%
2	10時間未満	270	40%
3	10時間～30時間未満	110	16%
4	30時間～100時間未満	11	2%
5	100時間以上	4	0%
		680	100%



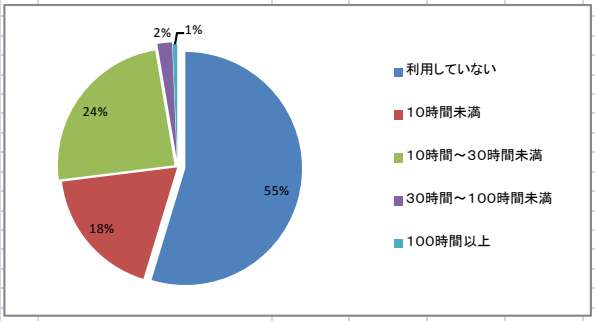
Q3-2.【第2演習室の使用状況】

1	利用していない	486	71%
2	10時間未満	167	24%
3	10時間～30時間未満	19	3%
4	30時間～100時間未満	4	0%
5	100時間以上	11	2%
		687	100%



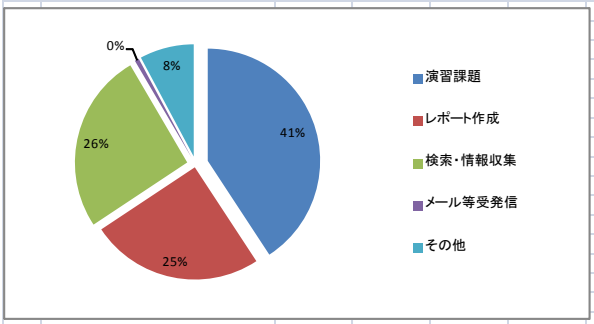
Q3-3.【第3演習室の使用状況】

1	利用していない	432	55%
2	10時間未満	145	18%
3	10時間～30時間未満	192	24%
4	30時間～100時間未満	16	2%
5	100時間以上	5	1%
		790	100%



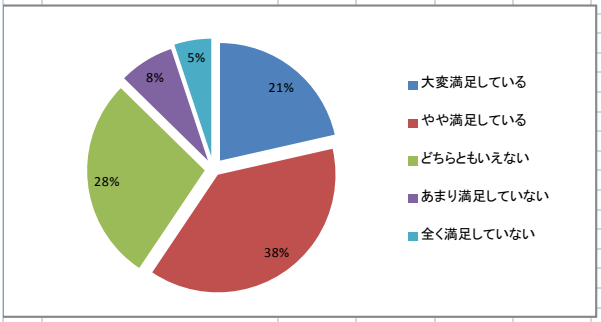
Q4. 利用内容をお聞かせください。

1	演習課題	329	41%
2	レポート作成	201	25%
3	検索・情報収集	209	26%
4	メール等受発信	5	0%
5	その他	63	8%
		807	100%



Q5. あなたの本校における情報教育設備の満足度をお聞かせください。

1	大変満足している	139	21%
2	やや満足している	246	38%
3	どちらともいえない	181	28%
4	あまり満足していない	49	8%
5	全く満足していない	33	5%
		648	100%



Q6. 本校の情報教育設備について要望や改善がありましたら記入してください。

【情報科対応室】
・情報化対応室を土日あけてほしい。
・情報化対応室にMACをあと2台くらいあればいいと思う。
・情報化対応室にもう1台程MACをおいてほしい。
・情報化対応室でのYoutubeの処理がとても遅い、または見れない。
・図書館1階のパソコン室にダラダラ居座る人達の退室

【電子計算機センター】
・第一演習室のパソコンをWndows7にしてほしい。
・第一演習室のパソコンをWndows7にしてほしい。
・電算センターのパソコンを最新のOSにしてほしい。
・電子計算機センター男子トイレの便器とべんきの間のまじきりがガコガコして怖いです。
・電算センターが17時以降原則部活動生以外に解放していないのはもったいないのではないかと思う。
・電算センターせめて6時くらいまで利用できるようにしたい。
・電算センターでなぜキー　**になっているのか
・Macで使えるのが他の演習室で使いたい
・電算センターが閉まるのが早すぎます
・電子計算機センターの閉館を19時までにして欲しい。
・iMacのOSアップデートをお願いします。あと部室を広くしてください。(情報処理部)
・休日に、電算センター(少なくとも情報化対応室)を開けてほしい。
・電算センター利用時間を延ばしてほしい。17時以降の利用やコピーの時間の延長をしてほしい。
・電算センターの利用時間が5時までというのがとても不便。プリンターが4時半までというのも不便
・電算センターの使用開始時刻を早めて欲しい
・閉館時間が早い(電算センター)
・電算を6時までにしてほしい。
・第2演習室のCADのVector worksを使っていると、途中で終了されて保存されない。
・第3演習室の11のマウスの反応が悪い。

【共通】
・youtubeの起動が遅いので、スムーズにみれるようにして欲しい
・プリンターを増やしてほしいです。
・勝手に使っていいか定かでない。
・低学年でも気軽に使える環境にしてほしい
・18時まで開放してほしい
・もう少しネットの速度をあげてほしい
・回線速度
・使い方がわからないので、操作方法などをある程度は掲示してほしいと思います。
・利用できる時間を長くしてほしい。
・ネット回線の高速化
・暖房か冷房のききすぎで、空気がよどんで気分が悪くなりかける時があるのでそれを改善してほしいです。
・OSを新しくしてほしい。FAにMicrosoftを入れてほしい。
・ソフトウェアのバージョンを上げて欲しい
・インターネットの通信速度を改善してほしい
・閉館時間がのびてくれると嬉しい
・Wi-Fiスポットの設置（パスは学生証の裏とか）
・自習室のPCだけ相当古いのであそこの設備は新しくして欲しい。
・基本的に重い
・検索エンジンによって重かったりするので何とかしてほしい。
・officeが2007なので2010にして欲しい
・くさい
・時間の拡大
・インターネットをみるにあたり回線が悪いので良くしてほしい
・17時にカギが閉まるのがダメ！
・回線速度が遅い
・windows7搭載のパソコン求む
・寮の回線と学校の回線を別にしてほしい。今の寮回線ではウイルス対応ソフトのアップデートができなので、認証を無くしてほしい
・17時にカギが閉まるのが面倒くさい。
・5時に使用不可になること。
・光にしてほしい（回線が遅すぎる）
・ネットが遅い
・におう
・ネットの回線速度を上げてほしい。
・印刷時間がおかしい。もっと昼休みに印刷できるように時間を見直してほしい。
・ネット環境の不備
・回線速度を上げてほしい。
・回線が遅い
・OSを新しいものにしてほしい。
・綺麗に使用してもらいたい
・トイレをキレイにして欲しい
・OSが古く、新しい環境に対応していない。
・YouTobe等が遅い、見れないです。
・LANの解放
・印刷がしたいです。
・時間制限が厳しい
・通信速度が遅いです！！
・土、日、休日の解放を希望
・土日も利用できるようになればいい
・時間制限の延長
・光がいい
・光回線つないで
・スピーカーの音が悪い
・プリンタの紙をセットしてほしい。スキャナがほしい。
・プリンタを使える時間を増やしてほしい。
・土日の利用可に
・印刷がしたいです
・印刷をもっと自由にしてほしい
・印刷時間が短い
・利用時間を延ばしてほしい
・時間延長、休日開放
・なぜに5時まで？
・利用時間を5時以降も増やす。
・土・日も開けてほしい。
・プリンターが16時半で使えなくなるので大変不便。延ばしてほしい。退室時間が早すぎる。
・閉まるのが早い、もっと自由にコピーできるようにしてください。
・時間制限を撤廃してほしい。
・学内LANをもっと気軽に扱えるようにしてほしい。
・時間制限を廃止または緩和してほしい。
・17：00降や休みの日以外にも開放して頂けると有り難いです。（B2 spiceやSoid woeksを利用したいです。）
・物質工学科では化学反応式をコンピュータで作成する機会があるので、ChewDrawソフトを入れてもらえると助かります。
・閉館があまりにも早い。9限（5：10に終了）の時は利用できない。
・プリンターの使用時間をせめて午後5時まで自由に使えるようにしてほしい。
・閉まるのが早い。
・中村博文せんせいはとても親切ですばらしい先生です。
・研究室にPCがあるので、利用する機会がない。

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－②－12

都城工業高等専門学校福利施設使用規則

［昭和 60 年 4 月 1 日制定］

（趣旨）
第 1 条　都城工業高等専門学校福利施設（以下「施設」という。）の使用については、都城工業高等専門学校施設管理規則（昭和 43 年 1 月 20 日制定。以下「管理規則」という。）によるもののほか、この規則の定めるところによる。
（設置目的）
第 2 条　施設は、学生、教職員の福利及び厚生に寄与することを目的とする。
（名称）
第 3 条　施設の名称は、「楽信館」とする。
（管理及び運営）
第 4 条　施設の管理及び運営は、校長の命を受けて学生主事が当たり、その事務は、学生課学生係で処理する。
（使用の範囲）
第 5 条　施設を使用できるのは、次の各号に該当する場合とする。
(1) 学生指導のための研修、集会
(2) 学生の課外活動のための集会
(3) 教職員のための研修、集会
(4) その他校長が適当と認めたもの
2　学生が使用するときは、原則としてクラブ等の指導教員又はこれに代わる教職員（以下「使用責任者」という。）が指導に当たるものとする。
（使用の方法）
第 6 条　施設を使用しようとする者は、原則として使用する前日までに福利施設使用届（別記様式）により学生課を経て、校長に届け出なければならない。ただし、次の各号に掲げる施設については、次項に規定する場合を除き届出をしないで使用することができる。
(1) 食堂及び売店
(2) 医務室及びカウンセリングルーム
(3) ラウンジホール（1・2 階）及びバルコニー（2 階）
2　前項第 3 号の施設を集会、絵画、写真の展示等に独占的に使用する場合は、前項本文の規定を適用する。
3　第 1 項本文の規定により、使用を届け出た者が、都合により使用日時等を変更し、又は使用を中止する必要が生じたときは、速やかに学生課に申し出なければならない。
（施設の使用時間）
第 7 条　施設の使用時間は、次の各号のとおりとする。ただし、校長が必要と認めた場合は変更することができる。
(1) ミーティングルーム、談話室及び研修室
　8 時 30 分から 19 時まで
(2) 食　堂
　10 時 30 分から 13 時 30 分まで
(3) 売　店
　8 時から 17 時まで
(4) 医務室及びカウンセリングルーム
　8 時 30 分から 17 時まで
(5) ラウンジホール
　8 時から 17 時 30 分まで

（施設の休館日）
第８条　施設の休館日は、土曜日、日曜日、祝日及び年末年始とする。ただし、校長が必要と認めた場合は変更することができる。
（使用上の遵守事項）
第９条　施設の使用に当たっては、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
(1) 管理規則第７条ただし書に掲げる行為を行わないこと。
(2) 届け出た使用の場所及び期間・時間を守ること。
(3) 届け出た目的以外に施設を使用し、又は他人に使用させないこと。
(4) 室内の秩序を守り、他人に迷惑をかけるような行為をしないこと。
(5) 設備及び備品は大切に取り扱い、使用中に破損、汚損又は亡失したときは、速やかに学生課に届け出て係員の指示に従うこと。
(6) 火気の取扱いについては十分注意すること。
(7) 使用後は設備並びに備品の整理、整頓及び戸締消灯等を確実に行うこと。
（鍵の保管、貸与、返納）
第10条　施設の各室等の鍵は、学生課学生係で保管する。ただし、勤務時間外は守衛室で保管するものとする。
2　第５条の規定により使用届を受理したときは、使用責任者に鍵を貸与する。
3　使用責任者は、施設使用後施錠し、学生課学生係に鍵を返納しなければならない。ただし、勤務時間外は守衛室に返納するものとする。
（使用の禁止）
第11条　校長は、施設を使用している者に不当な行為があった場合又はこの規則若しくは施設の使用に関する指示事項に違反する行為があった場合は、施設の使用を禁止する。
（弁償責任）
第12条　使用者が、故意若しくは過失により施設、設備又は備品を破損、汚損若しくは亡失したときは、使用者の責任においてこれを弁償しなければならない。
（雑則）
第13条　この規則に定めるもののほか、施設の使用について必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この規則は、昭和60年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成５年３月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成16年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

（分析結果とその根拠理由）

学生が自主的学習に利用できる図書館，電子計算機センター，情報化対応室等の学習スペースを設けている。図書館内の利用案内については，有効利用を促す目的で１年生対象の「図書館オリエンテーション」を実施している。図書館の利用状況については，その調査結果から有効利用していることを確認した。生活面で自由に利用できる楽信館等の施設を設け利用している。

以上のことから，自主的学習環境及び生活環境を整備し，効果的に利用している。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

個別の資格や検定試験等に関し，学生のニーズを把握するための取組を実施している。英語教育の一環として３年生全員に対しTOEIC Bridgeを受験させており，１・２年生の授業で指導を行っている。その活動状況（資料７－１－③－１）から見て，支援体制は十分機能している。また，高学年生及び専攻科生においては，TOEIC IPの受験を必修化している。適宜ガイダンスを行い，学校が一括して受験申込みを行っており，支援体制は整備され，機能している（資料７－１－③－２）。受験料の一部は後援会によって補助されており（資料７－１－③－３），さらに本校はTOEIC正式会員であることから，IP試験受験の経済的負担を軽減している。

外国留学のための支援について，留学等に関する情報は随時提供しており，それに関する学生のニーズについては，主に学級担任が個別に把握している（資料７－１－③－４）。

また，学生の様々な意見を収集するために，意見箱を設置している。さらに，学生会が教務関係についての学生の要望を年２回調査し，教務指導部に提示している。これに対し，教務指導部では教育会議で要望を報告するとともに，改善可能な事項から順次対応しており，支援体制は機能している（資料７－１－③－５）。

資格試験について，各学科で在学中に修得できるリストを作成し，保護者懇談会にて資料を配付している（資料７－１－③－６）。また，資格試験の情報は学生係が各クラスに随時掲示し告知している（資料７－１－③－７）。

さらに，各専門学科のカリキュラムは資格取得に対応できるよう配慮しており，建築学科では２級建築士の受験資格が得られる（７－１－③－８）。また，「生産デザイン工学」プログラムを修了することにより，全学科において技術士補の資格に対応できる。その他の資格についても各学科で受験を推奨し，学習指導や受験者の公欠措置等の対応を取っている（７－１－③－９）。本支援体制による活動状況（資料７－１－③－10～11）から見て，支援体制は機能している。

観点７－１－③　資料一覧

資料７－１－③－１　TOEIC Bridge実施状況及び参加人数
〔出典：英語科資料〕

資料７－１－③－２　TOEIC IP実施状況及び参加人数
〔出典：英語科資料〕

資料７－１－③－３　TOEIC補助金
〔出典：後援会費一般会計決算書〕

資料７－１－③－４　外国留学者一覧
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－③－５　教務主事からの学生の要望に関する報告
〔出典：教員会議資料〕

資料７－１－③－６　各学科で修得できる資格等に関する資料
〔出典：保護者懇談会資料〕

資料７－１－③－７　資格試験に関する案内例
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－③－８　建築学科カリキュラム
〔出典：ホームページ〕

資料７－１－③－９　都城工業高等専門学校公欠の取扱い要領における事務手続き
〔出典：学生便覧〕

資料７－１－③－10　二級建築士合格者
〔出典：建築学科資料〕

資料７－１－③－11　資格取得状況資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－③－１

TOEIC Bridge実施状況及び参加人数

３年生TOEIC Bridge実施記録

平成２０年度

	受験者数	平均点	留学生を含めた平均点
M	41	128.5	
E	41	127.9	
C	45	133.3	132
A	42	121.1	
学年	169	127.7	127.4

平成２１年度

	受験者数	平均点	留学生を含めた平均点
M	42	125.1	125.7
E	40	129.6	
C	42	128.3	129.5
A	41	121.1	122.4
学年	165	126.1	126.8

平成２２年度

	受験者数	平均点	留学生を含めた平均点
M	50	122.7	124
E	38	122.6	
C	39	127.0	
A	45	120.5	121.3
学年	172	123.3	123.7

平成２３年度

	受験者数	平均点	留学生を含めた平均点
M	44	124.2	
E	42	125.7	
C	48	134.7	135.5
A	34	124.2	
学年	168	127.5	127.8

〔出典：英語科資料〕

資料７－１－③－２

TOEIC IP実施状況及び参加人数

4年生IP実施記録

平成19年度

	受験者数	平均点
M	39	343.1
E	38	357
C	42	342.9
A	39	310.6
学年	158	338.4

平成２０年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	38	303.2	
E	41	311.3	
C	34	313.5	**331.4**
A	36	302.3	**301.4**
学年	149	307.6	**311.5**

平成２１年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	38	312.5	
E	41	321	
C	40	330.9	**334.8**
A	39	296.5	
学年	158	319.3	**318.6**

平成２２年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	39	316.2	**328.4**
E	43	317.8	
C	44	345.1	**357.8**
A	38	316.6	**317.7**
学年	164	324.2	**330.9**

平成２３年度　　留学生を含めた平均点

	受験者数	平均点	
M	51	304.4	**310**
E	39	329.3	
C	35	328.7	
A	41	289.4	**292.8**
学年	166	319	**323**

〔出典：英語科資料〕

資料７－１－③－３

TOEIC補助金

平成23年度　後援会一般会計決算書

【一般会計】　　平成23年4月1日～平成24年3月31日

［収入の部］　　（単位：円）

項　　目	予 算 額	決 算 額	増　減	摘　　要
1. 前年度繰越金	4,538,080	4,538,080	0	
2. 入会金	1,540,000	1,530,000	-10000	153名　在校生に兄弟がいる学生15名は免除
3. 年会費	22,070,000	21,841,000	-229000	23年度分 870名 21,750,000- 23年度分分割　1名　3,000- 中途退学者･中途休学者分　8名　88,000-
4. 雑収入	0	770	770	預金利息
収入の部(計)	28,148,080	27,909,850	-238230	

［支出の部］

項　　目	予 算 額	決 算 額	増　減	摘　　要
1. 事　業　費				
教育助成費	(2,893,000)	(2,326,802)	(566198)	
(1)進学指導広報費	200,000	166,938	33062	オープンキャンパス経費
(2)新入生合宿研修補助費	143,000	132,505	10495	合宿指導学生の宿泊料等
(3)表彰副賞補助費	250,000	120,950	129050	学業成績優秀賞･皆勤賞等副賞
(4)学内研修費	515,000	416,196	98804	4年生学内研修補助、テーブルマナー講習補助、 特別活動、研究発表優秀賞、バイク点検等
(5)適性検査受験補助費	340,000	330,000	10000	4年生適性検査受験料補助(一般常識･SPI)　一 般常識164名、SPI 166名　計330名×1,000円
(6)TOEIC受験補助	275,000	270,425	4575	4年生TOIEC受験料補助168名×1,000円、 年会費、振込料
(7)研究発表等補助費	900,000	729,430	170570	専攻科学生の学会発表･学位授与試験旅費補助
(8)ティーチングアシスタント補助	100,000	66,150	33850	専攻科学生による本科授業助手手当の補助
(9)特別補講実施経費	140,000	94,208	45792	TOEIC試験監督･補講手当
(10)学外研修費	30,000	0	30000	専攻科生のサマーレクチャー参加旅費
学生厚生補導経費	(3,096,000)	(2,743,723)	(352277)	
(1)就職開拓補助費	1,200,000	1,069,087	130913	就職先新規開拓用経費補助
(2)学生指導費	180,000	82,040	97960	学生の校外指導、家庭訪問等旅費手当
(3)アルバム作成助成金	1,216,000	1,216,000	0	卒業生全員にアルバムを贈呈
(4)チャレンジ支援事業	100,000	57,000	43000	国家資格受験補助1資格×1,000円、2級建築士補講
(5)キャリア支援教育事業	100,000	49,596	50404	面接を主体にしたマナー講習会他
(6)インフルエンザ予防接種補助	300,000	270,000	30000	270名×1,000円

2. 通 言 費				
後援会	(4030250)	(3852447)	(177803)	
(1)支部補助費	520250	520250	0	10支部×@30,000＋881名×@250円
(2)保護者懇談会経費	20000	0	20000	支部総会出席者旅費　H23年度支出なし
(3)会議費及び旅費	650000	569708	80292	理事会、代議員会等会議費及び出席者旅費
(4)交流会	470000	456430	13570	文化祭参加経費、合同支部総会経費
(5)事務用物品費	160000	86945	73055	印刷費、消耗事務用品等
(6)慶弔費	140000	205852	-65852	学生・保護者慶弔費、見舞金
(7)通信諸雑費	180000	134685	45315	通信費、その他雑費
(8)人件費	1960000	1956068	3932	後援会職員給与、社保・労保事業主負担分
(9)旅費	0	0	0	平成23年度予算措置なし
(10)施設使用料	5000	4679	321	事務局使用料
(11)手数料	25000	17830	7170	自動引落手数料・振込手数料
3. 繰 出 金				
繰出金	(16523760)	(16523760)	(0)	
(1)体育大会特別会計繰出金	9350000	9350000	0	
(2)文化部活動特別会計繰出金	2250000	2250000	0	
(3)特定事業特別会計繰出金	1043760	1043760	0	
(4)寄附金	3680000	3680000	0	
(5)記念行事基金繰出金	200000	200000	0	記念行事の為の積立金
4. 予 備 費				
予備費	(1605070)	(0)	(1605070)	
支出の部(計)	28148080	25446732	2701348	
次年度繰越【収入の部(計)－支出の部(計)】	0	2463118		
合　　計	28148080	27909850		

次年度繰越額	（収入総額）	—	（支出総額）	＝	（次年度繰越金）
	27,909,850 円	—	25,446,732 円	＝	2,463,118 円

【監査報告】

上記の後援会収支決算書について、預金通帳、帳簿及び証拠書類を監査照合の結果、異常のないことをここに報告します。

平成24年4月4日

後援会監事　　㊞

後援会監事　　㊞

〔出典：後援会費一般会計決算書〕

資料７－１－③－４

外国留学者一覧

平成20年度外国留学者		
学年/学科・専攻科	氏名	留学期間
4A		H20.4.1～H21.3.31
1adc		H20.10.1～H21.9.30

平成22年度外国留学者		
学年/学科・専攻科	氏名	留学期間
1ada		H22.4.1～H23.3.31
1adme		H22.4.5～H23.3.31
2ADME		H22.4.1～H23.3.31

平成24年度外国留学者		
学年/学科・専攻科	氏名	留学期間
5M		H24.4.1～H25.3.31

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－③－５

教務主事からの学生の要望に関する報告

平成２３年１１月１７日

学生　各位

学生会からの教務関係に関する質問や要望についての回答

教務指導部

１.授業について（特に問題となっていることに関して）

１）授業時間を守らない先生がいる。（５分の休憩がない場合は５分前に終わってほしい。）
２）テスト開始のチャイムが鳴る前に問題用紙と解答用紙を配布してほしい。
３）授業アンケートの結果が反映されていない。
４）プロジェクターを使った授業だと説明が不十分。
５）レポートの採点基準をしっかりと明示してほしい。
６）選択授業の平均点が同じくらいになるようにしてほしい。
７）授業中自由にトイレに行けるようにしてほしい。
８）清掃が徹底されていない。

【回答】

上記の意見や要望については、教育会議で先生方に報告し、改善できることから迅速に対応致します。

２.設備、施設の改善について

１）３Ｃのブラインドとスクリーンを修理してほしい。→ブラインドは修理致します
２）プロジェクターの画質が悪い。
３）選択棟の放送の改善について
４）図書館の８時開館について

【回答】

３Ｃについては、現状を確認し修理が必要な場合は対応致します。
プロジェクターについては、故障のため今年度２クラス（１Ｅ、４Ｍ）は交換済み。
ただ予算の関係で全クラスのプロジェクターを交換することは難しい状況です。
選択棟の放送状況を確認し、改善が可能ならば対応致します。
図書館は、事務職員の方々の勤務時間が制限されておりますので現状通りです。

３.その他

１）ＪＡＢＥＥの廃止　２）赤点が高い

【回答】

ＪＡＢＥＥは、高専機構の中期計画、目標に記載されていますので現状で廃止は困難です。高専は大学と同じ高等教育機関ですので合格点６０点の変更はできません。

〔出典：教員会議資料〕

資料７－１－③－６

各学科で修得できる資格等に関する資料

高専在学中または卒業後の取得資格及びで受験資格等

学　科	得られる資格・受験資格	資格取得及び受験に必要な卒業後の実務年数	備　考
機械工学科	（申請により）第二種ボイラータービン主任技術者の資格	４年	
	自動車整備士（１級）受験資格	２級合格後３年	
	自動車整備士（２級）受験資格	３級合格後３年	
	自動車整備士（３級）受験資格	６月	
	自動車整備管理者受験資格	１年	
	エネルギー管理士受験資格	３年	
	ボイラー技士（特級）受験資格	１級取得後３年	
	ボイラー技士（１級）受験資格	２級取得後１年	
	ボイラー技士（２級）受験資格	講習修了又は３ヶ月	
	航空整備士（１等）受験資格	３年	
	航空整備士（２等）受験資格	３年	
	機械設計技術者（３級）受験資格		在学中に受験可能
	ＣＡＤ利用技術者（１級、２級）受験資格		在学中に受験可能
電気情報工学科	（申請により）第三種電気主任技術者の資格	（２年）	在学中にも受験可能
	（申請により）第二種電気主任技術者の資格	（５年）	在学中にも受験可能
	第一種及び第二種電気工事士（筆記試験免除）受験資格		在学中に受験可能
	基本情報技術者受験資格		在学中に受験可能
	ソフトウェア開発技術者受験資格		在学中に受験可能
	初級システムアドミニストレータ受験資格		在学中に受験可能
	１級電気工事施工管理技士受験資格	５年以上	
	２級電気工事施工管理技士受験資格	２年以上	
	第二級海上無線通信士・第二級陸上無線技術士受験資格		
物質工学科	公害防止管理者受験資格		在学中に受験可能
	火薬類取扱保安責任者受験資格		在学中に受験可能
	高圧ガス製造保安責任者受験資格		在学中に受験可能
	高圧ガス販売主任者受験資格		在学中に受験可能
	一般計量士受験資格		在学中に受験可能
	環境計量士受験資格		在学中に受験可能
	危険物取扱者受験資格		在学中に受験可能
	エネルギー管理士受験資格		在学中に受験可能
	第一種及び第二種放射線取扱主任者受験資格		在学中に受験可能
	エックス線作業主任者受験資格		
	卒業後、申請により毒物・劇物取扱責任者の資格付与		
建築学科	木造建築士受験資格※	０年	
	２級建築士受験資格※	０年	指定科目の単位取得が必要
	１級建築士受験資格※	４年以上	指定科目の単位取得が必要
	２級建築施工管理技士受験資格	２年以上	
	１級建築施工管理技士受験資格	５年以上	
	コンクリート技士	２年以上	
	コンクリート主任技士	４年以上	
	コンクリート診断士	６年以上	
	宅地建物取引主任者受験資格		在学中に受験可能
	マンション管理士受験資格		在学中に受験可能
	測量士補受験資格		在学中に受験可能
	積算士補		5学年次に受験可能（建築経済履修時）
	ＣＡＤ利用技術者２級受験資格		在学中に受験可能
	インテリアコーディネーター受験資格		在学中に受験可能

〔出典：保護者懇談会資料〕

資料７－１－③－７

資格試験に関する案内例

平成２４年　４月　４日

２年～５年担任　各位

学生課学生係

危険物取扱者試験の実施に関する公示について（通知）

標記の件について、別紙のとおり通知いたします。貴クラス学生への通知方よろしくお願い申し上げます。

なお、公示文書につきましては、各クラスへ掲示しております。

また、受験願書につきましては、学生課学生係窓口に準備しておりますので、受験を希望する学生は、各自取りに行くようにご指導いただきますようお願いいたします。

危険物取扱者試験の実施に関する公示

消防法（昭和23年法律第186号）第13条の５第１項の規定により、宮崎県知事から委任された危険物取扱者試験について、次のとおり公示する。

平成２４年３月１５日

財団法人　消防試験研究センター
理事長　山　本　信　一　郎

１．試　験　地　　宮崎市、都城市、延岡市、日南市、小林市、日向市

２．試験の種類、実施年月日、試験会場

試験の種類	実施年月日	試験会場
甲　種 乙　種 （第1類から第6類まで全類） 丙　種	平成24年6月17日(日)	宮崎県立宮崎工業高等学校 宮崎市天満町９－１
		宮崎県立都城農業高等学校 都城市祝吉１－５－１
		宮崎県立延岡工業高等学校 延岡市緑ヶ丘１－８－１
		宮崎県立日南振徳高等学校 日南市大字板敷４１０
		宮崎県立小林秀峰高等学校 小林市水流迫６６４－２
		宮崎県立日向工業高等学校 日向市大字平岩８７５０

３．受験願書申請先

（財）消防試験研究センター　宮崎県支部

※　願書は学生課学生係窓口に準備してあります。

４．受験願書申請方法

持参・郵送
電子（インターネット）※一定条件あり

５．受験願書申請期間

持参・郵送　　平成２４年４月９日（月）～４月２３日（月）
※ 持参の場合、土・日を除く 9:00 ～ 17:00
※ 郵送の場合、４月２３日(月)の消印有効

電子（インターネット）　平成２４年４月６日（金）～４月２０日（金）
※ 受付時間 … 受付開始日 9:00 ～ 受付締切日 17:00（24時間対応）

６．受験願書配布場所

（1）（財）消防試験研究センター　宮崎県支部
（2）県内各消防局・消防本部（予防課）

７．問い合わせ先

（財）消防試験研究センター　宮崎県支部
〒880-0805　宮崎市橘通東２－７－１８　宮崎県住宅供給公社ビル４階
電　話　０９８５（２２）０２３９
ホームページ http://www.shoubo-shiken.or.jp

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－③－８

建築学科カリキュラム

本科 教育課程表（平成23年度用）

建築学科

「学年別単位数」をクリックすればシラバス（pdfファイル）を見ることができます。

授業科目		科目別単位数	学年別単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	微分方程式	2				2		
	応用数学	2				2		
	応用物理	4			2	2		
	情報基礎Ⅱ	2		2				
	建築計画	4			2	2		
	建築設計演習	14	2	3	3	6		
	建築CAD演習	2			2			
	意匠CAD演習	2					2	
	都市計画学	1					1	
	建築実務概論	1					1	
	建築デザイン	1					1	
	建築デザイン基礎	1	1					
	建築デザイン演習	1	1					
	建築史Ⅰ	1				1		
	建築史Ⅱ	1					1	
	建築史Ⅲ	1					1	
	構造力学	8	2	2	2	2		
	耐震構造学	1					1	
	鋼構造学	2				2		
	鋼構造演習	2					2	
	RC構造学	2				2		
	RC構造演習	2					2	
	コンピュータ援用学	4		2				
	建築材料	2			2			
	建築生産学	2					2	
	測量学	1			1			
	建築環境工学	4				2	2	
	建築設備	2					2	
	建築構造Ⅰ	2		2				
	建築構造Ⅱ	2			2			
	建築法規	2			1	1		
	建築学研究	1				1		
	建築学実験	3			2		1	
	建築経済	2					2	
	卒業研究	10					10	
履修単位計		92	6	11	19	25	31	
選択科目	校外実習	1				1		
開設単位計		1				1		
履修単位合計	専門科目計	92	6	11	19	25	31	
	一般科目計	83	29	23	16	10	5	
	合計	175	35	34	35	35	36	

〔出典：ホームページ〕

資料７－１－③－９

都城工業高等専門学校公欠の取扱い要領における事務手続き

1　公欠願に事実確認が必要な場合は、原則として学級担任が行うものとする。
2　公欠の取扱い要領（以下「要領」という。）第１の区分Ｂの１に該当する就職試験の受験等の場合、学生の願い出を承認した学級担任は、就職関係（公欠）一覧表に理由及び期間を記載し、授業担当教員に明示するものとする。
3　要領第１の区分Ｂの２に該当するクラブ活動等の場合、学生の願い出を承認したクラブ顧問は、公欠する学生の一覧表を作成し、事前に学内メール等により学生係を通して学生主事に願い出なければならない。ただし、前日までに願い出ができなかった場合は、当該学生に公欠願を提出するように指導しなければならない。願い出を受理した学生係は、学生主事の許可を得て公欠一覧表を出席簿に添付するものとする。
4　要領第１の区分Ｂの３に該当する告別式に参列する場合、学生の願い出を受けた学級担任は、告別式の前日までに公欠する学生の一覧表を作成し、事前に学内メール等により教務係を通して教務主事に願い出なければならない。ただし、前日までに願い出ができなかった場合は、当該学生に公欠願を提出するように指導しなければならない。願い出を受理した教務係は、教務主事の許可を得て公欠一覧表を出席簿に添付するものとする。
5　要領第１の区分Ｃに該当するカウンセリングの場合、カウンセラーの報告に基づき教務係が該当の授業担当教員に公欠の処理を依頼するものとする。

4．公欠の取扱要領

学生の公欠の取扱いは、次に掲げる要領によるものとする。

第１　公欠と認められる事由及び期間は、次のとおりとする。

区分		事　　由	期　間　等
A	1	忌引（親族の死亡に伴う行事等のため出席できない場合。）	(1)　父母　　7日 (2)　祖父母　　3日 (3)　兄弟姉妹　　3日 (4)　伯・叔父母　1日 (5)　曾祖父母　　1日 遠隔地に赴く場合は、上記の日数に往復に要する最小の日数を加えることができる。
	2	交通機関の事故等のため出席できない場合	交通機関の証明等により必要と認められた時間
	3	法定伝染病（インフルエンザを含む。）による疾患	医師の証明により必要と認られた期間
	4	自宅が、地震、水害、火災その他の災害に被災したため出席できない場合	認められた期間又は時間
	5	学級担任が認めた就職試験、入学試験及び資格試験の受験等（５年生に係るものは除く。）	
	6	卒業研究担当教員が認めた学会発表及び教務主事が認めた学会に準ずる場での発表	
	7	その他教務主事、学生主事及び寮務主事が特に必要と認めたもので事後に承認を得た場合	
B	1	５年生に係る学級担任が認めた就職試験の受験等 (1)　就職試験の受験又は就職先の選択を目的とする会社訪問 (2)　入学試験、編入学試験及び資格試験の受験	
	2	クラブ顧問及び学生主事が認めたクラブ活動に関連ある国体、県体、高校総体及び公式試合並びに公共団体が主催する演奏会及びコンテスト等への参加	
	3	学生の保護者（父母）の死去に伴い、原則としてクラブ代表２、３名が学級担任（代理を含む。）の引率による告別式への参列	
	4	その他（献血、研修等）、教務主事、学生主事及び寮務主事が特に必要と認めたもので事前に承認を得た場合	
C	1	カウンセリングを受けた場合	

〔出典：学生便覧〕

資料７－１－③－10

二級建築士合格者

専攻科生　2級建築士合格者数

年度	学科試験 合格者数	合格者数
平成19年度	3	2
平成20年度	3	2
平成21年度	1	0
平成22年度	2	0
平成23年度	5	5
合計	14	9

〔出典：建築学科資料〕

資料７－１－③－11

資格取得状況資料

建築積算士補試験実績及び登録状況		
平成22年度より開始		
年度	試験 合格者数	登録者数
平成22年度	33	15
平成23年度	23	18
合計	56	33

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

学習支援に関する学生のニーズについて，英語教育の一環としてTOEIC BridgeやTOEIC IPの受験を必修化しており，支援体制は整備され，機能している。また，資格試験の受験，留学等に関する学生のニーズは，主に学級担任が個別に把握している。さらに，意見箱の利用や学生会と連携しながら学習改善や支援等についての要望を把握・改善に努めていること等，学習支援体制は機能している。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生に対しては，入学当初，教務指導部及び学生指導部によるオリエンテーションを実施している（資料７－１－④－１）。各留学生にはチューターが付き，学業面でのアドバイザーの役割も果たしている（資料７－１－④－２～３）。また，履修免除科目を設け，その代替として日本語及び専門基礎科目を受講させ，学習を支援している（資料７－１－④－４～５）。

４年次編入学生に対しては，入学前にオリエンテーションを実施し，数学等の習得不十分な科目について学習指導を行っている（資料７－１－④－６～７）。

現状において，社会人学生を受け入れる制度はなく，また，障害を持つ学生の受入実績がないことから，これに係る学習支援体制は未整備であるが，身障者に対する施設のバリアフリー化は行っている。

観点７－１－④　資料一覧

資料７－１－④－１　留学生オリエンテーション資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－２　チューター配置一覧
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－３　チューター手引
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－４　留学生対応特別編成カリキュラム
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－５　留学生の受入状況・指導体制
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書-　P.125〕

資料７－１－④－６　編入学生オリエンテーション資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－７　編入学生の指導体制
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－１

留学生オリエンテーション資料

平成24年4月4日

留学生のみなさまへ

教務主事

留学生研修（教務指導部）

【はじめに】

入学、おめでとうございます。

今日から都城高専の一員となりました。

国立高専は学校創設から約半世紀になります。全国に51校の高専があり、日本の教育機関においては特殊な教育体系をもっています。卒業生は約6000名で産業界を中心に広く活躍しております。

このような中で我々都城高専のスタッフは,人材を育成を念頭において学生諸君が有意義なな学園生活を送れるように支援しております。

【1】学校説明

【都城高専の教育理念】

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

都城高専は、つぎのような学生を求めています。（アドミッションポリシー）

1）　さまざまな分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人

2）　科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人

3）　技術者として社会に役立ちたいと考えている人

4）　責任をもって継続的にものごとを実行できる人

5）　心身ともに健全な人

1）校章について（Origin of College Emblem）

都城高専は、霧島山系高千穂の峰が美しく見える都城市の郊外にあります。そして校章は、その霧島に美しく咲く、ミヤマキリシマをデザインしたものです。

初代　吉村　恂校長の発案により校章となりました。





2. ロゴマークについて(MNCT)

平成22年度に新しく都城高専のシンボルマークとして作成されたロゴマークです。

平成21年度建築学科卒業生の宮本梨沙さんがデザインしました。

***M**iyakonojo **N**atinal **C**ollege of **T**echnology*

3. 学科について(Departements)

都城高専には、次の4つの学科があります。いずれも1学年1クラスで、クラス定員は約40名です。

・機械工学科　　M(Mechanical Engineering)

・電気情報工学科　E(Electrical and Computer Engineering)

・物質工学科　　C(Chemical Science and Engineering)

・建築学科　　A(Architecture)

4. 学校の歴史(History of College)

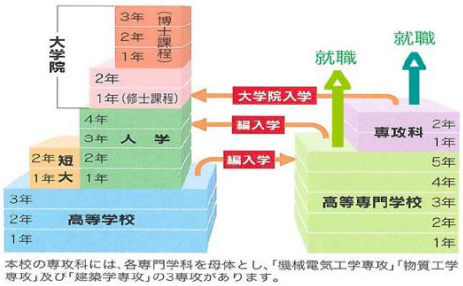
昭和39年に設立され今年で創立48年、中学を卒業した15才から22才までの若者、約900名が学んでいます。そのうち、約300名は、学生寮で生活しています。

その学生寮の名前は、「高千穂寮」です。

都城高専は、全国に51校ある国立高専の1つで、卒業後、工学の分野で活躍できる、**創造力と実践力**とを備えた人を、中学卒業後の頭がやわらかいうちに育てる学校です。1年から5年まで，5年間学びます。最初の3年間は、高等学校にあたります。

次の2年間は大学にあたります。図の右側が、**高等専門**学校(高専)に該当します。

都 城 高専5年を卒業した学生の3分の2は企業などに就職します。3分の1は、本校専攻科（2年間）か国公立や私立大学の3年に編入学しています。専攻科を卒業した学生の一部は就職し、他は大学の大学院に進学しています。



本校の専攻科には、各専門学科を母体とし、「機械電気工学専攻」「物質工学専攻」及び「建築学専攻」の3専攻があります。

【卒業後の進路について】

大学編入学試験は、高専の成績と面接と合格を決める**推薦選抜**と、**学力選抜**があります。それぞれ試験の期日は違います。推薦で合格を決める人数は、どの学科も、数名程度です。就職率は100％で、昨年の求人倍率は1人あたり12社です。

創造力と実践力を育てるために、体験による学習ー実験とか演習とか研究を、たくさんとりいれています。もちろん、教室で，理論も学び、実験後は**レポート**を提出します。そのため、実験室、実験装置は大変充実しています。

先生方は、一般科目の先生（約20名）と専門科目の先生（約40名）で現在64名です。このほか技術専門職員と事務の方々を含めると総数は105名です。

5. キャンパス　カレンダー(Campus calendar)

学期	月	行事
前期	4月(Apr)	入学式・開校記念日(4月20日)
	5月(May)	鹿児島高専との親善試合
	6月(June)	**前期中間試験**(Exam)
	7月(July)	九州沖縄地区高専大会・夏休み
	9月(Sep)	**前期末試験(Exam)**
後期	10月(Oct)	後期開始
	11月(Nov)	体育競技会・高専祭（文化祭）
	12月(Dec)	**後期中間試験(Exam)**・冬休み
	2月(Feb)	**学年末試験(Exam)**
	3月(Mar)	春休み

6. 単位について(学生便覧　p24)

例えば、国語の毎週1時間を1年間(30時間)を受けて試験に合格すると1単位取得したことになります。数学の場合は週4時間授業を受けて試験に合格すると4単位となります。3年生までに103単位授業が開講され95単位以上を取得すると4年生になります。努力が足りなくて94単位の場合は留年になります。2年続けて留年した場合は退学となります。

7. 試験および成績評価について(学生便覧　p55、p59、60)

1)定期試験は年4回です。3年生は９月に実力養成試験があります。

2)3年生は、1月に全国到達度試験(数学と物理)があります。

【成績の評価について】

学業成績の点数	評価	評点
80点～100点	優	5
70点～79点	良	4
60点～69点	可	3
30点～59点	不可	2
29点以下	不可	1

1)　成績はテストの点数だけではなく、日頃の学習状態(出席、授業態度、宿題やレポート提出)も加味されます。

2)　成績は、定期試験や実力養成試験などを含めた1年間の総合成績です。

3)　単位を落とした場合は翌年の5月と1月の2回、再試験が実施されます。なお、実験科目はレーポートが未提出の場合は再試験を受けることができません。

8. 授業計画(シラバス)と学生による授業評価

1)授業の始まりに必ず授業担当者が、授業の目標、内容、評価、参考書等についての説明を実施します。これに基づいて授業が行われます。

2)授業改善のための学生による授業評価を毎年実施しています。

無記名のアンケートです。

9.授業などでの注意事項

1)遅刻や欠席はしないようにしてください。

2)わからないことは授業担当の先生に聞いてください。

3)午前8時35分から午後4時20分までは低学年生は携帯電話の使用は禁止です。

授業中に携帯電話の着信音が鳴ったり、使用した場合は、学生係で1ケ月の預かり

となりまので注意してください。

4)なるべく早くクラス学生の名前を覚えてください。

10. 連絡先(授業関係)

【教務係】 学内電話番号 1134

Vice-president(Dean of Education affairs)

【教務主事】　森茂 龍一　電話番号

Vice Dean of Education affairs

【教務主事補】岩熊 美奈子 電話番号

【 クラス担任】Room teacher

高橋 利幸 先生

【チューター】Tutor

君

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－２

チューター配置一覧

平成２２年度外国人留学生及びチューター

留学生		チューター		備考
学年･学科	氏　名	学年･学科	氏　名	
3M		3M		2/23　飯尾先生（2M担任）から連絡
3A		3A		1/27　中村孝至先生（3A担任）から連絡
4M		4M		2/9　豊廣先生（3M担任）から連絡
4C		4C		2/2　岡部先生（3C担任）から連絡
4A		4A		1/27　中村孝至先生（3A担任）から連絡

平成２３年度外国人留学生及びチューター

留学生		チューター		備考
学年･学科	氏　名	学年･学科	氏　名	
3C		3C		3/24　山下C科長から推薦
4M		4M		3/4　河野M科長から推薦
4A		4A		2/15　原田A科長から推薦

平成２４年度外国人留学生及びチューター

留学生		チューター		備考
学年･学科	氏　名	学年･学科	氏　名	
3C		3C		2/29　山下C科長から推薦
4C		4C		2/29　山下C科長から推薦

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－３

チューター手引

チューターのみなさんへ

１　はじめに

本校は、平成５年度から毎年、アジア地域を中心として２～３名の外国人留学生を第３学年に受け入れています。

留学生が日本の高度の専門知識、科学技術を修得して高専を卒業するためには、本校のカリキュラムにそって勉強するのは当然ですが、その前にまず日本語の勉強や衣食住について、日本の生活習慣を身につけなければなりません。

本校では、早く日本の生活に慣れるように各留学生に入学してから２年間、本校学生がチューターとして、修学や生活の面で相談相手となることになっています。

チューターとなった皆さんは、留学生の良き友達として献身的なお世話をしていただきたいと思っています。そのためには留学生の指導教員（担任）や学生課職員との連絡を密にしていただき留学生が無事卒業できるよう、また各留学生の留学目的が達成できるよう支援をお願いします。

この資料は、チューターの皆さんに心掛けていただきたいことを簡単に記載していますので参考にしてください。

２　チューターの心構えについて

チューターとなった皆さん、チューターを引き受けられた動機、理由はそれぞれ異なることでしょうが、引受けた以上留学生のために、良き理解者、良き相談相手となってください。そしてあなたにとっても、良き友人となるよう誠意を持って接してください。

学校では指導教員（担任）をはじめとして、多くの教職員が留学生の世話を行っています。チューターやその他の関係者が留学生に接するときに必要な心構えは、その担当する地位、職務内容等によって当然違いますが、一応以下のことについて心得ていてください。

１　留学生は、まず先に外国人であるとの認識

日本人学生と同じ扱いでよい、特別扱いは不要であるという考え方は疑問です。留学生にとって母国と異なる言語、日本文化・習慣等は大きなハンディです。日本人学生と同じ生活ができる程度まで、日本語をはじめ様々の支援をしなければなりません。

２　相手の身になって考える

自分が相手の立場であれば、どうして欲しいか。自分が外国に留学していると仮定し、よく考えて対応してください。

３　温かい世話

修学上の問題、生活上の問題など来日当初は、戸惑うことも多いはずです。親身になって相談に応じてください。

４　日本人の考え方や日本の生活を強制しない

外国人には外国人の生活の仕方があります。例えば、肉食（牛肉、豚肉）の禁止、禁酒、菜食主義、毎日のお祈り、服装の決まり等、これらはすべて母国の宗教、伝統文化に根ざしたものであり、最大限の配慮が必要です。日本人の作法を教え、日本の生活習慣に慣れさせることは必要ですが、強制しないでください。

５　人種的偏見を持たない

人種、民族、国家を超え、人類はもはや地球市民として、みんなで協力して生きていかなければならない時代です。アジア人も欧米人もみんな平等です。

6　中途半端な対応はしない
　留学生対応の心構えとして、「イエス」、「ノー」をハッキリいう必要があります。重要なことについては、「多分、おそらく、だろう」といった曖昧な返事をしないように注意してください。

7　学校の規則、習慣を杓子定規に振りかざさない
　留学生にとって、日本語の必要書類を所定の期限までにきちんと作成し、提出することは、難しいことです。事前のガイダンスでは、念には念を入れてください。留学生が、たとえ「わかりました」と言っても、細部まで理解されていないことが多いことを心得ていてください。

8　時には指導も必要である
　留学生のルーズ、わがまま、自分勝手な行動（例えば約束、時間、期限を守らない。）については、時には厳しく指導してください。

9　新聞を通して世界の動きを見る
　留学生の母国の動きを知れば、話題も豊富になります。

10　言葉遣い、正しい日本語
　留学生の日本語は とかく「てにをは」がおかしいものです。正しい日常会話ができるよう、相手のプライドを傷つけないよう配慮しながら、アドバイスしてください。

11　チューターは、留学生と指導教員のパイプ役
　チューターと指導教員は、一体となって留学生のサポートをしなければなりません。そのためには、チューターは、日頃から留学生の様々な相談に応じてください。

12　日本人の友達
　留学生は、日本人の友達を求めています。チューターは友達を紹介するなどして、留学生が友達を作るチャンスを与えてください。

3　留学生の支援体制

留学生にとって留学生活は、大変な大事業です。精神的な悩みは我々日本人にとっては想像を絶するものがあることと思います。最悪の場合は、ストレスのため学業を断念し、帰国せざるを得ないこととなるかもしれません。本校の留学生として受け入れた以上、教職員はもとより、一般学生も留学生のためにできる限りの支援をしていただきたいと思います。

留学生にとって、日本の文化、生活様式は特異なものであり、渡日の途端にまず、カルチャー・ショックを受けることでしょう。このような留学生が直面する衣食住に始まる諸々の悩みをどう解決するか、本校における留学生の支援体制は次のようになっています。

支援組織	分担業務
教務指導部 学生指導部 寮務指導部	教務、課外活動、保健衛生、寮生活等に関する指導
指導教員 （学級担任）	留学生に適合するように特別に編成した教育課程の学習その他生活面等に関して、必要な指導助言を与えます。本校では、留学生の所属するクラスの担任が担当します。
チューター	入学後の２年間については、すべての留学生に同じクラスの学生がチューターとなって、修学上や日常生活上の相談に応じて援助、助言を行います。指導教員と連絡をとりながら留学生が、安心して留学生活を送れるよう支援する役割を担うこととなります。

＊参考　都城工業高等専門学校外国人留学生規則（抜粋）

（教育課程）

第７条　留学生の教育課程は、留学生に適合するように特別に編成することができる。

第８条 留学生に対し、前条の特別な教育課程の学習その他生活面等に関して、必要な指導助言を与えるため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

（チューター）

第９条　留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言を行うため、チューターを置く。

２　前項のチューターは、学生の中から留学生の在籍する学科長の推薦に基づき校長が委嘱する。

４　チューターの仕事例

チューターの具体的な仕事は、留学生がどれだけ生活上の援助を求めるか、即ち留学生のニーズの問題であり、自分でできることは無理にアドバイス等の必要はありません。チューターにわからないことは、指導教員（学級担任）や学生課と相談してください。

１　日本語指導

・日常生活に必要な会話ができ、買い物等ができるように日本語会話能力の向上を図る。

２　履修指導

・予習・復習のアドバイス、学務関係手続きの指導

３　主な日常の世話（特に入学時）

・市内案内、買い物等の案内

・課外活動の紹介

・病院紹介・案内

４　各種交流事業の紹介・案内

５　留学生指導教員（学級担任）への連絡

・留学生の現況について、適宜、連絡・報告

５　チューター謝金について

チューターの仕事に対し、１時間につき８００円の謝金が支給されます。（ただし、予算の都合により年間１００時間まで）

チューターの仕事を行った場合は、毎月、業務実施確認表（別紙様式）を作成し、学級担任（指導教員）から確認者印をもらって、翌月２日（２日が休日の場合は３日以降の平日）までに学生課寮務係に提出してください。ただし、７月分は７月１２日（木）まで に、１２月分は１２月２１日（金）までに、３月分は３月１日（金）までに提出してください。

チューター謝金は、次のとおり銀行振込とします。

４月～　６月分　　７月振込
７月～　９月分　１０月振込
１０月～１２月分　　１月振込
１月～３月分　　３月振込

（注）　業務実施確認表は、毎月忘れずに提出してください。チューター全員分の業務実施確認表が揃ってから謝金の支給手続きをしますので、１人でも提出が遅れると、決められた月に振込ができなくなります。

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－４

留学生対応特別編成カリキュラム

２　留学生の定期試験とその評価について

（平成５年６月 15 日　　教務委員会）

＊　ここでの定期試験とは、前期中間、前期末、後期中間、学年末を指す

（定期試験とその成績記録）

1. －(1)クラスで共通に受講している教科目については、クラス学生と同じに扱う。
1. －(2)３学年国語、４学年国語、３学年社会（必修科目）の代替科目については
   (ｱ)　前期、後期中間試験は実施しない。評価の提出もしない。
   (ｲ)　前期末、学年末試験については、当該試験日程の中では行わず、担当教員が適当な時間に適宜実施し、その評価を提出する。
2. 定期試験成績は、クラスの定期試験成績一覧表には記載せず、留学生用の一覧表を別に作成し、最終ページに綴じ込む。クラス席次は記載しない。
   クラス席次の必要な場合には、上記の合計点による平均点を参考にすることを原則とする。

（欠課伝票とその記録）

3. 1－(1)による科目については、クラス学生と同じに扱う。
   1－(2)による科目については、前期末、学年末にそれぞれ当該期間の累計を記録し、担当教員より提出。

4. 欠課時数は、クラス欠課時数一覧表に記載せず、留学生用の一覧表を別に作成し、最終ページに綴じ込む。

（＊）上記のことについては、今後問題点が指摘された時点で整備していくものとする。

3　除籍者の単位認定について

授業料未納により除籍した学生の当該年度に取得した単位は認めない。ただし、前期のみの開講科目で前期分の授業料を納めている場合は、当該科目に限り単位を認める。

（平成２１年４月２１日　教務委員会）

授　業　時　間　割

第　３　学　年留学生　　平成２４年度　前期

曜日＼時限		１・２ 8:45 ～ 10:20	３・４ 10:30 ～ 12:05	５・６ 13:00 ～ 14:35	７・８ 14:45 ～ 16:20	９ 16:25～17:10
月	M	微分積分学Ⅱ （肥後）	保健体育 （永松）	英語 （崎山）		
	E	英会話 英語 （ダンカン）（崎山）	国語 （松崎）	総合社会Ⅲ （藤永）	応用物理 （若生）	
	C	数学特論 （野町）	生物化学 （高橋）	有機化学実験 （山下・岡部）		
	A	測量学 （山本）	建築材料 （原田）	構造力学 （平田）	英語 （崎山）	
火	M	英語 英会話 （崎山）（ダンカン）	設計製図 （豊廣）	機械工作法 （山中）		
	E	プログラミング言語Ⅱ （小森）	電子回路 （田中）	英語 （崎山）		
	C	微分積分学Ⅱ （小塚）	英語 英会話 （崎山）（ダンカン）	保健体育 （武田・松元）		
	A	国語 （松崎）	英会話 英語 （ダンカン）（崎山）	保健体育 （武田・松元）		
水	M	総合社会Ⅲ （藤永）	工業力学 （佐藤）	国語 （松崎）	特活 （山中）	
	E	電気機器 （野地）	微分積分学Ⅱ （向江）	電気回路Ⅱ （赤木）	特活 （田中）	
	C	有機化学Ⅱ （山下）	物理化学 （岡部）	日本語 （田中）	特活 （高橋利）	
	A	英語 建築設計演習 （崎山）（林田）		建築計画 （杉本）	特活 （後藤）	
木	M	機構学 （岡部）	材料力学 （藤元）	応用物理 （若生）	数学特論 （野町）	
	E	論理回路 （田中）	保健体育 （武田）	微分積分学Ⅱ （向江）		
	C	無機化学 （藤森）		微分積分学Ⅱ （小塚）		
	A	建築構造Ⅱ （山本）	微分積分学Ⅱ （小塚）	応用物理 （森茂）	建築学実験 （板倉・原田）	
金	M	材料学Ⅰ （永野茂）	微分積分学Ⅱ （肥後）	基礎実験 （白岩）		
	E	数学特論 （肥後）	電気磁気学 （白濱）	電気情報工学実験 （濵田・田中）		
	C	工業化学英語 （山下）	化学工学Ⅰ （清山）	英語 （崎山）	応用物理 （森茂）	
	A	建築ＣＡＤ演習 （中村裕）	数学特論 （野町）	総合社会Ⅲ （藤永）	微分積分学Ⅱ （小塚）	

授　業　時　間　割

第 ４ 学 年留学生　　平成２４年度　前期

曜日＼時限		１・２ 8:45 ～ 10:20	３・４ 10:30 ～ 12:05	５・６ 13:00 ～ 14:35	７・８ 14:45 ～ 16:20	９ 16:25～17:10
月	M	計測工学 （小藪）	電気工学概論 （剣田）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）	応用数学 （小塚）	
	E	電気磁気学 （濵田次）	微分方程式 （友安）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）	保健体育 （武田）	
	C	工業英語 （清山）	有機材料化学・分子生物学 （福留・野口太）	物質工学実験・生物工学実験 （清山・岩熊・野口・藤森・濵田英・福留・野口太）		
	A	鋼構造学 （後藤）	建築計画 （中村孝）	応用数学 （野町）	RC構造学 （平田）	
火	M	機械設計法 （豊廣）	微分方程式 （友安）	創造設計 （土井）		
	E	国語 （望月）	回路網理論 （御園）	電気情報工学実験 （永野孝・小森・白濱）		
	C	化学工学Ⅱ （金澤）	機器分析 （野口）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）		
	A	建築法規 （中島）	構造力学 （板倉）	選）英語・ドイツ語 （宮沢・飯尾）		
水	M	国語 （望月）	水力学 （高橋勇）	材料力学 （中澤）		
	E	電子回路 （田中）	英語 （笹谷）	応用数学 （小塚）		
	C	無機材料化学・環境工学 （野口・岩熊）	保健体育 （永松・瓜田・松元）	微分方程式 （友安）		
	A	建築環境工学 （小原）	保健体育 （永松・瓜田・松元）	建築設計演習 （中村孝）		
木	M	情報処理Ⅱ （佐藤）	保健体育 （永松）	選）社会学（藤永） 歴史学概論（田村） 法学（吉井）		
	E	電気機器 （永野孝）	計算機工学 （樋渡）			
	C	応用物理 （若生）	物理化学 （岡部）	機器分析実験・物理化学実験 （山下・清山・野口・藤森・野口太・岡部・岩熊）		
	A	英語 （笹谷）	応用物理 （若生）	建築設計演習 （中村孝）		
金	M	熱力学 （白岩）	応用物理 （若生）	英語 （笹谷）	材料学Ⅱ （永野茂）	
	E	応用物理 （若生）	電気磁気学 （濵田次）	半導体工学 （白濱）		
	C	英語 （笹谷）	選）社会学（藤永） 歴史学概論（田村） 法学（吉井）	応用数学 （野町）		
	A	微分方程式 （友安）		国語 （望月）		

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－５

留学生の受入状況・指導体制

Ⅴ　国際交流

１　留学生の受入状況、指導体制

本校は、平成５年４月から毎年2～4人の留学生を３年次に受け入れており、平成22年度までの受入総数は43人となっている。種別内訳では、国費留学生22人、マレーシア政府派遣留学生21人で、国別内訳では、マレーシア22人、パキスタン１人、モンゴル１人、フィリピン１人、ブラジル３人、大韓民国１人、ラオス６人、フィジー1人、ベトナム３人、メキシコ１人、カンボジア１人、インドネシア２人となっており、東南アジア諸国を中心にして12ヶ国から受け入れてきている。

指導体制としては、学級担任を指導教員として発令するとともに、３年次・４年次の留学生一人一人に同クラスで寮生の学生をチューターとして委嘱し、かつ、留学生担当の事務職員を配備する等して、毎日の学習及び生活面に支障を来さないようにきめ細かな配慮・指導を行っている。教育課程面では、留学生の日本語理解力を考慮して、３年次・４年次の国語、社会の履修を免除し、代替科目として、日本語、日本事情、専門科目の基礎を履修させており、場合によっては、時間外に週1～2時間程度の特別補講を行っている。

留学生の学習意欲は非常に高く、大半の留学生がクラスの上位の成績で卒業しており、平成21年度までの卒業生35人のうち27人が日本国内の国立大学３年次に編入学しており、本校学生の国際化にも大きな影響を及ぼしている。

日本政府は平成20年、「留学生30万人計画」を発表し、日本への留学生を平成32年までに、現在の12万人から30万人に増やすこととしており、今後、本校においても現在の３倍程度の留学生を受け入れていくこととなるため、私費留学生の受入問題を含め早急に留学生の受入体制の抜本的な見直しを行う必要がある。

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書-　P.125〕

資料７－１－④－６

編入学生オリエンテーション資料

４年編入学予定者への説明資料

教務指導部

【都城高専の教育理念】
「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」

都城高専は、つぎのような学生を求めています。
１）　さまざまな分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
２）　科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
３）　技術者として社会に役立ちたいと考えている人
４）　責任をもって継続的にものごとを実行できる人
５）　心身ともに健全な人

１．校章について

都城高専は、霧島山系高千穂の峰が美しく見える都城市の郊外にあります。そして校章は、その霧島に美しく咲く、ミヤマキリシマをデザインしたものです。
初代　吉村　恂校長の発案により校章となりました。





２．ロゴマークについて（ＭＮＣＴ）

平成２２年度に新しく都城高専のシンボルマークとして作成されたロゴマークです。平成２１年度建築学科卒業生の宮本りささんがデザインしました。
Miyakonojo Natinal College of Technology

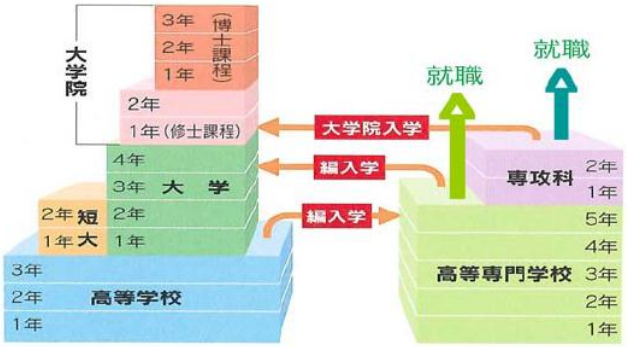
３．学科について

都城高専には、次の４つの学科があります。いずれも１学年１クラスで、クラス定員は約４０名です。
・機械工学科　　M (Mechanical Engineering)
・電気情報工学科　E (Electrical and Computer Engineering)
・物質工学科　　C (Chemical Science and Engineering)
・建築学科　　A (Architecture)

４．学校の歴史（学校歴）

昭和３９年に設立され今年で創立４８年、中学を卒業した１５才から２２才までの若者、約９００名が学んでいます。そのうち、約３００名は、学生寮で生活しています。その学生寮の名前は、「高千穂寮」です。２年後に創立５０周年を迎えます。

都城高専は、全国に５１校ある国立高専の１つで、卒業後、工学の分野で活躍できる、**創造力と実践力**とを備えた人を、中学卒業後の頭がやわらかいうちに育てる学校です。１年から５年まで，５年間学びます。最初の３年間は、高等学校にあたります。
次の２年間は大学にあたります。図の右側が、**高等専**門学校（高専）に該当します。
都城高専５年を卒業した学生の３分の２は企業などに就職します。３分の１は、本校専攻科（２年間）か国公立や私立大学の３年に編入学しています。専攻科を卒業した学生の一部は就職し、他は大学の大学院に進学しています。



本校の専攻科には、各専門学科を母体とし、「機械電気工学専攻」「物質工学専攻」及び「建築学専攻」の3専攻があります。

【卒業後の進路について】
大学編入学試験は、高専の成績と面接と合格を決める**推薦選抜**と、**学力選抜**があります。それぞれ試験の期日は違います。推薦で合格を決める人数は、どの学科も、数名程度です。就職率は１００％で、昨年の求人倍率は１人あたり１２．５社です。

創造力と実践力を育てるために、体験による学習−実験とか演習とか研究を、たくさんとりいれています。もちろん、教室で，理論も学び、実験後は**レポート**を提出します。そのため、実験室、実験装置は大変充実しています。
先生方は、一般科目の先生（約２０名）と専門科目の先生（約４０名）で現在６４名です。このほか技術専門職員と事務の方々を含めると総数は１０５名です。

５．キャンパス　カレンダー

学期	月	行事
前期	４月	入学式・開校記念日(４月２０日)
	５月	鹿児島高専との親善試合
	６月	前期中間試験・高校総体
	７月	九州沖縄地区高専大会・夏休み
	９月	前期末試験
後期	１０月	後期開始
	１１月	体育競技会・高専祭（文化祭）
	１２月	後期中間試験・冬休み
	２月	学年末試験
	３月	春休み

６．単位について（学生便覧　ｐ２４）

例えば、国語の毎週１時間を１年間（３０時間）を受けて試験に合格すると１単位取得したことになります。数学の場合は週４時間授業を受けて試験に合格すると４単位となります。４年生は３５単位授業が開講されます。努力が足りなくて単位未修得の場合は留年になります。２年続けて留年した場合は退学となります。

７．試験および成績評価について（学生便覧　ｐ５５、ｐ５９、６０）

１）定期試験は年４回です。この他夏休み明けに実力養成テストがあります。
２）３年生になると全国到達度試験（数学と物理）があります。

【成績の評価について】

学業成績の点数	評価	評点
８０点～１００点	優	5
７０点～７９点	良	4
６０点～６９点	可	3
３０点～５９点	**不可**	**2**
２９点以下	**不可**	**1**

１）成績はテストの点数だけではなく、日頃の学習状態（出席、授業態度、宿題やレポート提出）も加味されます。
２）成績は、定期試験や実力養成試験などを含めた１年間の総合成績です。
３）単位を落とした場合は翌年の５月と１月の２回、再試験が実施されます。なお、実験科目はレーポートが未提出の場合は再試験を受けることができません。

８．授業計画（シラバス）と学生による授業評価

１）授業の始まりに必ず授業担当者が、授業の目標、内容、評価、参考書等についての説明を実施します。これに基づいて授業が行われます。
２）授業改善のための学生による授業評価を毎年実施します。無記名のアンケートです。授業担当者は、この授業評価を分析し授業を改善しております。
３）改善がなされない場合には、無記名の投書箱も準備してあります。
平成２０年度から昨年度まで毎年１件ずつ投書があり改善しました。

９.休学について（学生便覧　ｐ１７）

病気や経済的な理由などにより休学届けを提出し、認められれば休学となります。

１０．連絡先(学習関係)

【教務係】　０９８６－４７－１１３４

１１.入学までの諸注意

１）数学などの課題の出された科目は必ず自宅で学習してください。
２）**入学式では制服かスーツ等を必ず着用してください。**
３）入学までに基礎科目（英語、数学）は復習をしておいてください。

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－④－７

編入学生の指導体制

都高専教　第５３７号
平成２３年８月２６日

合　格　者　各　位

都城工業高等専門学校長
三　村　洋　史
【公印省略】

平成24年度編入学者選抜試験合格者の出校について（通知）

時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、本校では、平成２４年度編入学者選抜試験合格者を対象に、入学時までの事前指導として、学校概要の説明及び教科オリエンテーションを、平成２３年９月９日（金）に下記のとおり計画していますので、必ず出席してください。
なお、あなたの所属する学校長には、この出校について配慮していただくよう別途文書で依頼していますので申し添えます。

記

【日　程】
平成２３年９月９日（金）

１２：３０	本校学生課に集合
１２：４０～１３：００	教務主事オリエンテーション（２０分）
１３：００～１３：１０	休　憩
１３：１０～１３：３０	応用数学指導（２０分）
１３：３０～１３：５０	応用物理指導（２０分）
１３：５０～１４：００	休　憩
１４：００～１４：２０	英語指導（２０分）
１４：２０～１４：３０	各専門学科へ移動、休憩
１４：３０～１５：２０	各専門学科指導（５０分）
１５：２０	解　散

【場　所】
本校留学生室（一般教科棟１階）等

※TOEIC Bridge公式ワークブック（英語のワークブック）で、入学前までに英語の勉強をしていただきます。
つきましては、9月9日の出校日当日にワークブックをお渡ししますので、代金 1,575円を持参してください。
（おつりのないようにお願いいたします。）

【本件連絡先】
所属：都城工業高等専門学校学生課
職名：学生課課長補佐
氏名：
住所：〒885-8567 都城市吉尾町４７３－１
電話：０９８６－４７－１１３３
FAX：０９８６－４７－１１４３
Ｅメール：g-hosa@jim.miyakonojo-nct.ac.jp

(11)　編入学生の指導体制

①　一般科目文科

英語科では、工業高校の英語の授業時間が週３時間程度と少なく、例年編入生が学力不足のため苦労している現状に鑑み、９月に実施される編入生ガイダンスの際に、４月までにできるだけ英語の学習をしてくるよう指導している。特に、TOEIC の IP 試験を４年生全員に受験させるようになってからは、４年時の「英語」でのリスニング指導が重視されてきたため、高校在学時にリスニングの学習が少ない編入生に対して、リスニングに特に力を入れて学習するよう指導している。具体的には、英語検定準２級の問題集等の CD 付き教材を購入して学習するよう指導している。ただ、１回の指導ではなかなか徹底しない状況であるので、今後は、編入学時までに学習する教材の指定や編入学後に学習状況をチェックするテストの実施等の対策が必要であると思われる。

②　一般科目理科

（応用数学及び微分方程式）

編入生は、高専生が３年終了までに履修する内容の多くを履修しないまま編入してくる。

そのため、入学後の授業について行くことが非常に困難な場合が多い。その対応策として、第１回目の登校日に（１年から３年までの）高専の数学について説明し、宅習課題を配布して、各自学習し提出するよう指導している。

ただ、自学自習では限界があり、ここ数年入学後放課後に補講をせざるを得ない状況である。しかし、編入後の補講は短期間で終了するのが難しく４年生での授業に支障がでることも多い。

そのため、できるならば編入以前に補講を終了できていることが望ましい。また、今後は、編入学者の指導に関しては全学的な検討が必要であるものと思われる。

（応用物理）

応用物理の４年編入生への指導は、編入生登校日に行っている。４年生の応用物理は、前期の授業内容は各学科で異なっているが、後期は全学科共通の応用物理実験を開講している。最近の工業高校では、物理を１年生の時だけ選択で受講している場合が多く見られる。本校の在校生と比較するとベクトル、微分、積分等を学習していないために、４年に編入して新たに応用物理を履修する編入生との間にはかなりの開きがある。それを補うために、編入以前の指導として簡単な微分、積分ができるように指導している。

③　機械工学科

入学以前から事前指導を行う。各教員と面談し、編入学までの準備について教科ごとの指導を行っている。４年編入後は、主として学級担任が状況に応じて個別に指導する。学習面では、高校との学習内容の相違等により授業についていけないと思われる科目（材料力学等）において、放課後に補習を行っている。

平成 19 年度に編入学生の退学者が出た。学力不足や欠課増加が主因だがクラスにとけ込めずに孤立していた姿も見られた。問題点として、学生本人の性格等に因るところが大きいと思われ一概には言えないが、編入学生がうまくクラスにとけ込めない場合に学級担任のみの指導では限界がある点が挙げられる。年度当初、あるいは定期的に他の教員との関係を作れる機会や編入学生の声を聞く機会を作る必要がある。編入学生は寮生になることも多く、なじめない場合は寮指導部との連携も重要になる。全教員で見守り、指導できる体制ができると良い。

④　電気情報工学科

電気情報工学科では、編入学試験合格者に対しては、10月上旬の出校日に学科内でオリエンテーションを開いている。その中で、電気磁気学、電気回路、論理回路、プログラミング言語の科目について、教科担当者が授業内容を説明し、編入学するまでに不足すると思われる知識を勉強するように喚起している。また、工業高校で全く習っていない教科等は、編入学後に個人的な補講や簡単なディスカッションを交えて教えているのが現状である。

⑤　物質工学科

編入学生に対しては入学前に事前指導として課題を課している。これらは編入学後に授業についていけるよう、３年次までの最低限の内容を網羅したものである。ただし、これらはシステム的に実施方法が確立されているわけではなく、各担当教員（担任等）の裁量による部分が多いため、今後の検討が必要と思われる。

⑥　建築学科

編入学試験合格者に対しては、編入学の前年度の９月から 10 月に行われる事前指導日の午後に建築学科内でも事前指導を行っている。担当は高学年の主要科目を担当する教員４～５名で、指導内容は編入後に学ぶ科目の特徴や必要な事前準備に関してのガイダンスである。時間は１教員あたり 10～15 分程度であり、この日だけで済ませている。編入学生の編入学後の扱いは基本的に通常の学生と同じで、学科としての指導方針・指導方法は特にない。そのため、編入後はもっぱら担任教員が編入学生の学習面や生活面について注意を払うことになるが、近年は基礎学力の不足した編入生が多く、特に編入後に学力面で苦労している学生が多い印象がある。このような学生への対応に関しては、担任の個人的な努力に頼っている面が多い。しかし、当該学生の能力、科目への適性、担任の受け持ち科目など、編入生及び周囲の条件により対応程度にばらつきがでやすいため、今後学科としての取組が必要と思われる。

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，入学当初からオリエンテーションや補習によって，学習支援を行っている。また，チューターが学業面でのアドバイザーの役割も果たしている。４年次編入学生に対しては，入学前にオリエンテーションを実施し，数学等の習得不十分と考えられる科目について学習指導を行っている。したがって，留学生及び編入学生については，学習支援体制を適切に整備しており，機能している。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の部活動については，各部に顧問教員として全教員を配置している（資料７－１－⑤－１～２）。顧問教員は，各種大会等の引率業務等に従事・支援している。また，要請があれば外部コーチも招へいしている（資料７－１－⑤－３）。

体育系クラブの活動場所は，屋内・屋外ともに部活動を行うために必要な場所を整備している（資料７－１－⑤－４）。

文化系サークルの活動場所は，暁雲館，電子計算機センター，楽信館，実習工場等を利用している（資料７－１－⑤－５～７）。

また，長期休業中の部活動のために，合宿施設を整備している（資料７－１－⑤－８）。

各部活動における支援活動の実績（資料７－１－⑤－９）から見て，本支援体制は有効に機能している。

学生会活動の拠点として学生会室を整備しており，校長の命を受けて学生主事の総括の下で指導・支援を行っている（資料７－１－⑤－10）。学生会活動の支援の一つとして，学生指導部による学生会役員研修（資料７－１－⑤－11）及びリーダー研修（対象者はクラブの部長及び学生会役員）を毎年実施している（資料７－１－⑤－12）。

学生会主体の行事（クラスマッチ，体育競技会，文化祭等）についても，学生指導部と学級担任を中心に指導を行っている（資料７－１－⑤－13～15）。

クラブ及び同好会の活動や学生会活動の経済支援として，後援会費を有効に活用している（資料７－１－⑤－16）。

学校管理下にある学生の負傷，不慮の事故等に備えて，学生全員を「学生傷害保険」に加入させており（資料７－１－⑤－17），「日本スポーツ振興センター法」に基づく給付制度も利用できる（資料７－１－⑤－18）。また，学生の学校管理下における事故に対する補償や学校に法律上の損害賠償責任が発生した場合の対策として，学校管理者賠償責任保険に加入している（資料７－１－⑤－19）。

観点７－１－⑤　資料一覧

資料７－１－⑤－１　クラブ及び同好会顧問に関する申し合せ事項
〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－２　顧問表
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－３　クラブ・コーチ名簿
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－４　建物配置図，施設の整備状況
〔出典：総務課資料〕

資料７－１－⑤－５　都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－６　都城工業高等専門学校福利施設使用規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－７　都城工業高等専門学校音楽系サークル施設使用規則
〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－８　長期休暇中のクラブ合宿の計画表、注意事項
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－９　部活における支援活動の実績を示す資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－10　都城工業高等専門学校学生準則（抜粋）
〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－11　学生会役員研修実施要項
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－12　リーダー研修のしおり
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－13　クラスマッチ資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－14　体育競技会資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－15　平成23年度文化祭資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－16　クラブ・同好会等のサークル活動や学生会活動の経済支援
〔出典：後援会資料〕

資料７－１－⑤－17　傷害保険
〔出典：ホームページ〕

資料７－１－⑤－18　日本スポーツ振興センター
〔出典：学生便覧〕

資料７－１－⑤－19　国立高等専門学校機構学生傷害保険制度
〔出典：学生便覧〕

資料７－１－⑤－１

クラブ及び同好会顧問に関する申し合せ事項

［昭和 50 年 2 月 1 日制定］

本校におけるクラブ及び同好会活動は、学生の多面的、自発的活動をとおして人間形成を助長することを目的とする。顧問は、学生の自主的活動を尊重しながらも可能な範囲での指導助言をし、健全な活動が行われるよう配慮しなければならない。この立場を背景に顧問として次のことを行う。

(1) 平常の活動について下記の事項を把握する。
　（イ）部員氏名
　（ロ）年間活動計画
　（ハ）活動状況
　（ニ）施設、設備の概況
(2) 校外活動については、校外活動届を学生から提出させ、必要に応じ顧問又はそれに替わる者が引率する。
(3) 合宿について
　（イ）学校で定められた校内で行う合宿の宿直は、顧問又はそれに替わる者が行う。
　（ロ）上記以外の合宿は、その概況を把握する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－２

顧問表

平成24年度　学生会クラブ顧問

（クラブ名）				
ロボット製作局	**濱田 次男**	高木 夏樹	永野 茂憲	御園 勝秀
体育部				
サッカー部	**山本 剛**	金澤 亮一	（森 寛）	杉本 弘文
弓道部	**中村 孝至**	清山 史朗		
剣道部	**藤永 伸**	白濵 正尋		
柔道部	**野地 英樹**	松崎 賜		
陸上競技部	**永松 幸一**	西村 徳行	田中 寿	福留 功博
硬式野球部	**笹谷浩一郎**	小塚 和人	高橋 勇二	小薮 國夫
ソフトテニス部	**原田志津男**	若生 潤一		
ラグビー部	**武田 誠司**	友安 一夫	岡部 勇二	
バレーボール部	**飯尾 高明**	渡辺 光庸	山中 昇	向江 頼士
バスケットボール部	**佐藤 浅次**	望月 高明	野口 太郎	
卓球部	**永野 孝**	小森 雅和		
バドミントン部	**臼井 昇太**	藤森 崇夫		
水泳部	**野町 俊文**	濵田 英介		
ハンドボール部	**赤木 洋二**	高橋 利幸		
テニス部	**後藤 勝彦**	山下 敏明		
ボクシング部	**板倉 和則**			
女子バスケット部	**田村 理恵**	野口 大輔		
女子バレーボール部	**岩熊美奈子**	宮沢 幸	林田 義伸	
空手部	**豊廣 利信**			
文化部				
語学部	**崎山 強**			
吹奏楽部	**中村 裕文**	吉井 千周	小原 聡司	
情報処理部	**中村 博文**	樋渡 幸次		
低燃費車製作研究部	**白岩 寛之**			
ジャグリング部	**土井猛志**			
同好会				
美術同好会	**高木 夏樹**	林田 義伸		
天文研究会	**野口 太郎**			
演劇同好会	**吉井 千周**			
茶道同好会	**林田 義伸**	山中 昇		
ボランティア同好会	**武田 誠司**			
ゴルフ同好会	**濱田 次男**			
サブカルチャー研究同好会	**中村 博文**	吉井 千周	中村 裕文	
フットサル同好会	**友安 一夫**	杉本 弘文		
ダンス同好会	**宮沢 幸**			
中国文化同好会	**松崎 賜**			
フリーサイエンス同好会	**岡部 勇二**			
園芸同好会	**友安 一夫**			
エレクトロニクス同好会	**田中 寿**			
写真映像同好会	**小塚 和人**	若生 潤一	高木 夏樹	
ものづくり同好会	**中村 孝至**	杉本 弘文		
合唱同好会	**吉井 千周**			
アコースティックギター同好会	**山下 敏明**			
棋道同好会	**小塚 和人**			
スラムダンク同好会	**宮沢 幸**			
（指導部預かり）				
軽音楽同好会				
モータースポーツ同好会				
映画同好会				

上記のとおり平成24年度学生会クラブ顧問を命ずる。

平成24年4月1日

都城工業高等専門学校校長

三村洋史

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－３

クラブ・コーチ名簿

平成２４年度クラブコーチ名簿

No	クラブ名	コーチ氏名
1	柔道部	
2	柔道部	
3	ラグビー部	
4	ラグビー部	
5	空手部	
6	水泳部	
7	ﾎﾞｸｼﾝｸﾞ部	
8	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ部	
9	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ部	
10	茶道同好会	
11	吹奏楽部	
12	ロボット製作局	
13	ロボット製作局	
14	低燃費車製作研究部	
15	低燃費車製作研究部	
16	低燃費車製作研究部	
17	剣道部	
18	野球	
19	陸上	
20	女子バレーボール部	
21	ソフトテニス	
22	合唱同好会	
23	バスケット（男）	
24	男子バレーボール部	

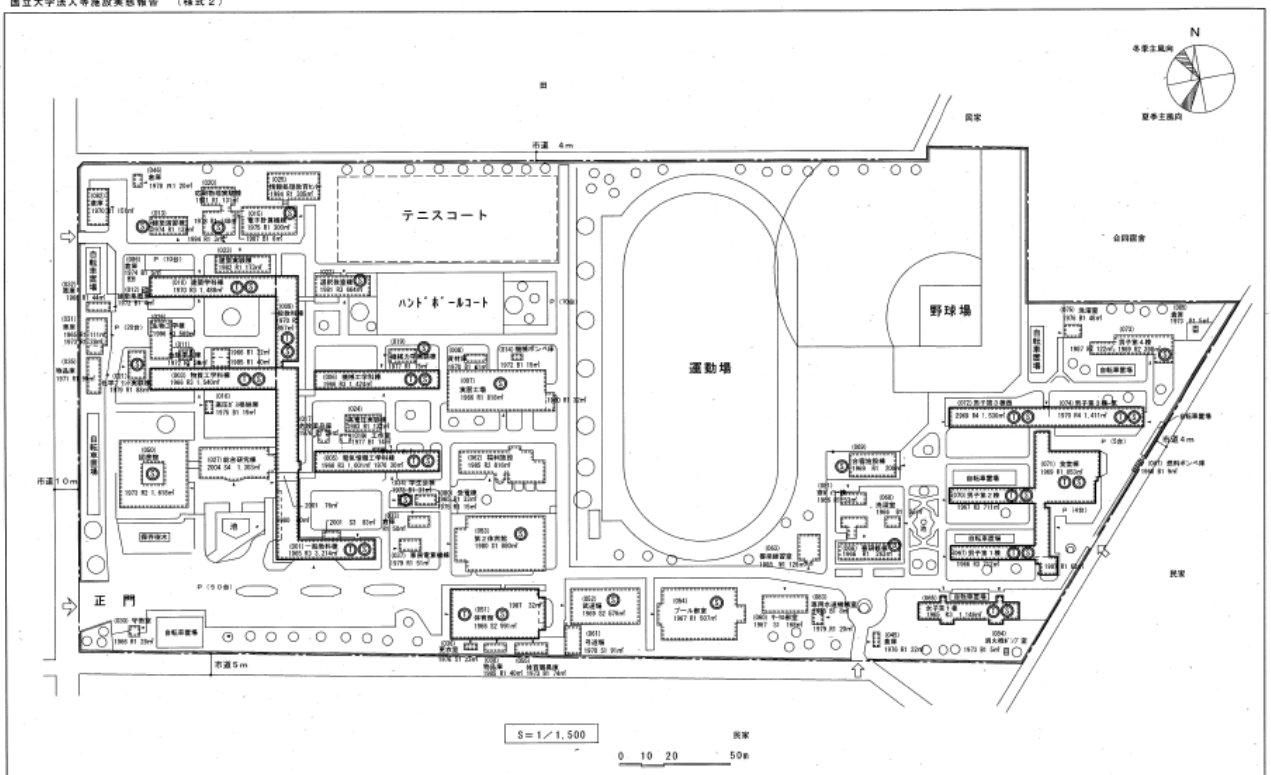
〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－４

建物配置図，施設の整備状況

配置図

国立大学法人等施設実態報告　（様式２）



敷地面積	建築面積	建築延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所　在　地	学校番号	学　校　名	作成年度
105,739㎡	15,622㎡	29,707㎡	１５　％	２８　％	８３２人	工業高専	００１	吉　尾	都城市吉尾町４７３番地の１	６７１２	都城工業高等専門学校	Ｈ２４

１２　施設の整備状況

１）土　地

区　分	学校敷地	寄宿舎敷地	運動場敷地	小　計	職員宿舎敷地	合　計
面　積	51,978㎡	17,330㎡	36,431㎡	105,739㎡	4,912㎡	110,651㎡

※職員宿舎敷地の内訳

花繰地区　497㎡
年見地区　2,270㎡
吉尾地区　2,145㎡

２）建物及び工作物

	名　称	構造階数	建築年	延　面　積	備　考
	一　般　教　科　棟	R・２～３	昭40・45,平13	３，４９６㎡	危険薬品庫共(29)
	専　攻　科　研　究　棟	S・４	平１６	１，３０３㎡	
	物　質　工　学　科　棟	R・３	昭４１	１，６４２㎡	危険薬品庫共(30)
校	生　物　工　学　棟	R・３	平８	５６９㎡	
	機　械　工　学　科　棟	R・３	昭４１	１，４２４㎡	
	機　械　実　習　工　場	R・１	昭４１	８５０㎡	
	電　気　情　報　工　学　科　棟	R・３	昭41・平14	１，６３９㎡	
舎	建　築　学　科　棟	R・３	昭４５	１，４９２㎡	集塵庫共(4)
	資　材　庫	B・１	昭45・47	５６㎡	ボンベ庫共(15)
	図　書　館	R・２	昭４８	１，６１８㎡	
	建　築　演　習　棟	R・１	昭４９	１３２㎡	
関	高　圧　ガ　ス　格　納　庫	B・１	昭５０	１９㎡	
	工　作　室	B・１	昭５２	１４㎡	
	電　子　計　算　機　棟	R・１	昭５０	３０６㎡	
	情　報　処　理　教　育　ｾﾝﾀｰ	R・１	平６	３０５㎡	
係	機　械　力　学　実　験　棟	R・１	昭５２	７５㎡	
	化　学ﾌﾟﾗﾝﾄ実　験　棟	R・１	昭５４	８８㎡	
	建　築　実　験　棟	R・１	昭５７	１７３㎡	
	選　択　教　室　棟	R・３	昭５６	６６４㎡	
	応　用　物　理　実　験　棟	R・１	昭53・56	２８２㎡	
	高　電　圧　実　験　棟	R・１	昭５８	１３２㎡	
福	サ　ー　ク　ル　部　室	S・１	昭４２	１６８㎡	
利	合　宿　施　設　棟	R・１	昭４４	２００㎡	
関	福　利　施　設	R・２	昭６０	８１６㎡	
係	器　楽　練　習　棟	W・１	昭６３	１２６㎡	

	名　　称	構造階数	建築年	延　面　積	備　　考
管	管　理　棟	Ｒ・３	昭40･55,H13	８２３㎡	
理	守衛室・その他	Ｒ・１	昭４１	６４７㎡	車庫･倉庫･変電室･物品庫･更衣室
関	学　生　会　棟	Ｂ・１	昭４８	３１㎡	
係	事務電算機棟	Ｒ・１	昭５４	５１㎡	
	自　転　車　置　場	Ｓ・１		一　式	３箇所
体	体　育　館	Ｓ・２	昭41･62	１，０２３㎡	
育	プール（部室）	Ｒ・１	昭４２	５０７㎡	25m･7ｺｰｽ
関	武　道　場	Ｓ・２	昭４４	５７６㎡	
係	弓　道　場	Ｓ・１	昭４５	９１㎡	
	第二体育館	Ｓ・１	昭５５	８８０㎡	
	体育器具庫	Ｂ・１	昭４８	７４㎡	
設	専用水道機械室	R･1・B･1	昭54･60	２８㎡	
備					
関					
係					
	校舎地区計			２２，３２０㎡	
	女子第１棟	Ｒ・３	昭４０	１，１４６㎡	
寄	寮　研　修　棟	Ｒ・１	昭４１	２６３㎡	
	寮ボイラー棟	Ｒ・１	昭４１	５３㎡	
	洗　濯　室	Ｂ・１	昭41･51	８４㎡	２箇所
宿	物　干　場	Ｓ・１		一　式	
	男子第一棟	Ｒ・３	昭４１	７１２㎡	
	男子第二棟	Ｒ・３	昭４２	７１１㎡	
舎	男子第三棟西	Ｒ・４	昭４４	１，５３０㎡	
	男子第三棟東	Ｒ・４	昭４５	１，４１１㎡	
	男子第四棟	Ｒ・２	昭44･62	５２０㎡	
関	食　堂　棟	Ｒ・１	昭44･62	９１６㎡	
	燃料ボンベ庫	Ｂ・１	昭４３	９㎡	
	消火栓ポンプ室	Ｂ・１	昭４８	５㎡	
係	倉　庫	R･1・B･1	昭４８・５１	２７㎡	２箇所
	自　転　車　置　場	Ｓ・１		一　式	６箇所
	寄宿舎地区計			７，３８７㎡	
職員宿	年　見　宿　舎	Ｗ・１	昭39･42	４１３㎡	６棟
舎関係	花　繰　宿　舎	Ｗ・１	昭３９	１０３㎡	１棟
	吉　尾　住　宅	Ｒ・５	平５	１，４３４㎡	１棟
				１，９５０㎡	
	総　合　計			３１，６５７㎡	

〔出典：総務課資料〕

資料７－１－⑤－５

都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則

［昭和 54 年 11 月 16 日制定］

（趣旨）
第１条　この規則は、都城工業高等専門学校電子計算機センター規則（昭和 54 年 11 月 16 日制定）第８条第１項の規定に基づき、電子計算機センター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定める。
（利用者）
第２条　センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。
(1) 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び職員
(2) 校長が特に認めた者
（開館時間）
第３条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。
(1) 平日　　８時３０分～１７時
（閉館日）
第４条　閉館日は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、これを変更することができる。
(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(2) 土曜日及び日曜日
(3) 夏季休業、冬季休業及び春季休業中の一定期間
(4) 電子計算機（以下「電算機」という。）等の設置及び調整等に必要な一定期間
(5) その他、本校が定める休業日
（利用制限）
第５条　センター長が特に必要と認めたときは、電算機及び演習室の利用を制限することがある。
（休業日及び時間外の利用）
第６条　休業日及び開館時間外にセンターの利用を希望する者は、別紙様式により利用願を提出し、センター長の許可を受けるものとする。ただし、22 時以降の利用は原則として認めない。

附　則

1　この規則は、昭和 54 年 11 月 16 日から施行する。
2　都城工業高等専門学校情報処理センター使用細則（昭和 52 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 20 年 6 月 11 日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－６

都城工業高等専門学校福利施設使用規則

［昭和 60 年 4 月 1 日制定］

（趣旨）
第 1 条　都城工業高等専門学校福利施設（以下「施設」という。）の使用については、都城工業高等専門学校施設管理規則（昭和 43 年 1 月 20 日制定。以下「管理規則」という。）によるもののほか、この規則の定めるところによる。
（設置目的）
第 2 条　施設は、学生、教職員の福利及び厚生に寄与することを目的とする。
（名称）
第 3 条　施設の名称は、「楽信館」とする。
（管理及び運営）
第 4 条　施設の管理及び運営は、校長の命を受けて学生主事が当たり、その事務は、学生課学生係で処理する。
（使用の範囲）
第 5 条　施設を使用できるのは、次の各号に該当する場合とする。
(1) 学生指導のための研修、集会
(2) 学生の課外活動のための集会
(3) 教職員のための研修、集会
(4) その他校長が適当と認めたもの
2　学生が使用するときは、原則としてクラブ等の指導教員又はこれに代わる教職員（以下「使用責任者」という。）が指導に当たるものとする。
（使用の方法）
第 6 条　施設を使用しようとする者は、原則として使用する前日までに福利施設使用届（別記様式）により学生課を経て、校長に届け出なければならない。ただし、次の各号に掲げる施設については、次項に規定する場合を除き届出をしないで使用することができる。
(1) 食堂及び売店
(2) 医務室及びカウンセリングルーム
(3) ラウンジホール（1・2 階）及びバルコニー（2 階）
2　前項第 3 号の施設を集会、絵画、写真の展示等に独占的に使用する場合は、前項本文の規定を適用する。
3　第 1 項本文の規定により、使用を届け出た者が、都合により使用日時等を変更し、又は使用を中止する必要が生じたときは、速やかに学生課に申し出なければならない。
（施設の使用時間）
第 7 条　施設の使用時間は、次の各号のとおりとする。ただし、校長が必要と認めた場合は変更することができる。
(1) ミーティングルーム、談話室及び研修室
　　8 時 30 分から 19 時まで
(2) 食　堂
　　10 時 30 分から 13 時 30 分まで
(3) 売　店
　　8 時から 17 時まで
(4) 医務室及びカウンセリングルーム
　　8 時 30 分から 17 時まで
(5) ラウンジホール
　　8 時から 17 時 30 分まで

（施設の休館日）
第８条　施設の休館日は、土曜日、日曜日、祝日及び年末年始とする。ただし、校長が必要と認めた場合は変更することができる。
（使用上の遵守事項）
第９条　施設の使用に当たっては、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
(1) 管理規則第７条ただし書に掲げる行為を行わないこと。
(2) 届け出た使用の場所及び期間・時間を守ること。
(3) 届け出た目的以外に施設を使用し、又は他人に使用させないこと。
(4) 室内の秩序を守り、他人に迷惑をかけるような行為をしないこと。
(5) 設備及び備品は大切に取り扱い、使用中に破損、汚損又は亡失したときは、速やかに学生課に届け出て係員の指示に従うこと。
(6) 火気の取扱いについては十分注意すること。
(7) 使用後は設備並びに備品の整理、整頓及び戸締消灯等を確実に行うこと。
（鍵の保管、貸与、返納）
第10条　施設の各室等の鍵は、学生課学生係で保管する。ただし、勤務時間外は守衛室で保管するものとする。
2　第５条の規定により使用届を受理したときは、使用責任者に鍵を貸与する。
3　使用責任者は、施設使用後施錠し、学生課学生係に鍵を返納しなければならない。ただし、勤務時間外は守衛室に返納するものとする。
（使用の禁止）
第11条　校長は、施設を使用している者に不当な行為があった場合又はこの規則若しくは施設の使用に関する指示事項に違反する行為があった場合は、施設の使用を禁止する。
（弁償責任）
第12条　使用者が、故意若しくは過失により施設、設備又は備品を破損、汚損若しくは亡失したときは、使用者の責任においてこれを弁償しなければならない。
（雑則）
第13条　この規則に定めるもののほか、施設の使用について必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この規則は、昭和60年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成５年３月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成16年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－７

都城工業高等専門学校音楽系サークル施設使用規則

［昭和 63 年 4 月 1 日制定］

（趣旨）
第 1 条　都城工業高等専門学校音楽系サークル施設（以下「施設」という。）の使用については、都城工業高等専門学校施設管理規則（昭和 43 年 1 月 20 日制定。以下「管理規則」という。）によるもののほか、この規則の定めるところによる。
（設置目的）
第 2 条　施設は、学生の音楽系サークルの課外活動等を通じて幅広い人間形成に寄与することを主たる目的とする。
（名称）
第 3 条　施設の名称は、「暁雲館」とする。
（管理及び運営）
第 4 条　施設の管理及び運営は、校長の命を受けて学生主事が当たり、その事務は、学生課学生係で処理する。
（使用の範囲）
第 5 条　施設を使用できるのは、次の各号に該当する場合とする。
(1) 音楽系サークルの課外活動
(2) 学校行事
(3) その他校長が適当と認めたもの
2　学生が使用するときは、原則としてクラブ等の指導教員又はこれに代わる教職員（以下「使用責任者」という。）が指導に当たるものとする。
（使用の許可）
第 6 条　施設を使用しようとする者は、原則として使用する前日までに都城工業高等専門学校学生準則（昭和 39 年 4 月 1 日制定）に定める校内施設・設備使用許可願（様式第 12 号）により学生課を経て、校長の許可を得なければならない。
2　前項の規定により、使用を許可された者が、都合により使用日時等を変更し、又は使用を中止する必要が生じたときは、速やかに学生課に申し出なければならない。
（施設の使用時間）
第 7 条　施設の使用時間は、次の各号のとおりとする。ただし、校長が必要と認めた場合は、変更することができる。
(1) 課外活動で使用する場合
　　前期　正課の授業終了後 19：00 まで
　　後期　正課の授業終了後 18：30 まで
(2) 学校行事等で使用する場合
　　その都度必要と認められた時間
（使用上の遵守事項）
第 8 条　施設の使用に当たっては、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
(1) 許可された使用日時を守ること。
(2) 許可された目的以外に施設を使用し、又は他人に使用させないこと。
(3) 設備及び備品は大切に取り扱い、使用中に破損、汚損又は亡失したときは、速やかに学生課に届け出て係員の指示に従うこと。
(4) 火気の使用は一切禁止する。
(5) 使用後は設備並びに備品の整理、整頓及び戸締消灯等を確実に行うこと。
（鍵の保管、貸与、返納）
第 9 条　施設の鍵は、学生課学生係で保管する。ただし、休日、祝祭日及び勤務時間外は、守衛室で保管するものとする。
2　第 6 条の規定により使用を許可したときは、使用責任者に鍵を貸与する。
3　使用責任者は、施設使用後施錠し、学生課学生係に鍵を返納しなければならない。ただし、休日、祝祭日及び勤務時間外は、守衛室に返納するものとする。

（使用の禁止）
第 10 条　校長は施設を使用している者に不当な行為があった場合又はこの規則若しくは施設の使用に関する指示事項に違反する行為があった場合は、施設の使用を禁止する。
（弁償責任）
第 11 条　使用者が、故意若しくは過失により施設、設備又は備品を破損、汚損若しくは亡失したときは、使用者の責任においてこれを弁償しなければならない。
（雑則）
第 12 条　この規則に定めるもののほか、施設の使用について必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この規則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 5 年 3 月 1 日から施行する。

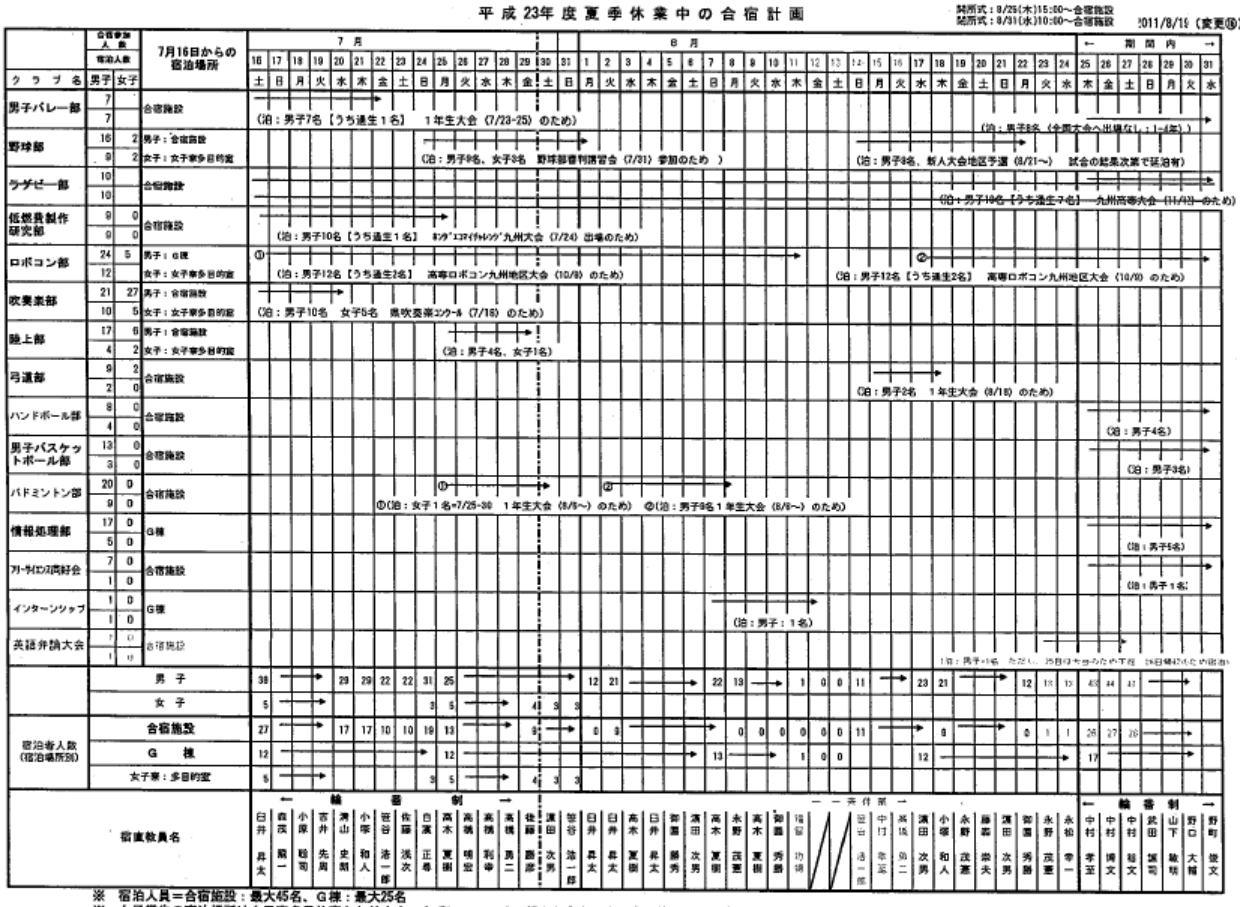
附　則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－８

長期休暇中のクラブ合宿の計画表、注意事項



※　宿泊人員＝合宿施設：最大45名、G棟：最大25名
※　女子学生の宿泊場所は女子寮多目的室となります。点呼については、朝夕とも女子寮の玄関前で行います。
※　一斉休業中の8/12～8/16間は守衛さんが常駐されます。 寮務係：8/12～8/16間は不在です。
※　8/12（金）は9:00～16:00までの間断水します。合宿における宿泊施設等については13:00～16:00の間です。
　　当日は学内全般が断水となります。なるべく節水のほどよろしくお願いいたします。
※　インターンシップ学生１名が8/7（日）－8/12（金）にG棟に宿泊します。（教務主事、学生主事、寮務主事、了解されてます）
※　英語弁論大会学生１名が8/24（水）－8/26（金）に合宿施設に宿泊します。（学生主事了解されてます）

平成23年冬季合宿計画表

2011/12/21

クラブ名	宿泊場所	12月 22 木	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金	31 土	1月 1 日	2 月	3 火	4 水	5 木	6 金	7 土	8 日	9 月
男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部	合宿施設		（泊：男子=6名） ※霧島盆地ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ大会出場のため																	
陸上部	男子：合宿施設 女子：女子寮 （多目的室）		（泊：男子=5名、女子=4名） ※西日本地区高専駅伝大会出場のため：12/24-25　※女子の宿泊は25日まで																	
フットサル同好会	合宿施設																	（泊：男子=8名） （フットサル都城　2012出場のため		
宿泊者合計	男子		11	6	11	5	5	0										8	8	
	女子		4	0	4	0	0	0												
宿直者			高橋利幸 先生	福留功博 先生	佐藤浅次 先生	野口太郎 先生	西村徳行 先生	田中寿 先生										友安一夫 先生	友安一夫 先生	

※閉寮：12／23（金）10：00です。開寮：1／9（月・祝）12：00です。
※寮警備員の最終日：12／23（金）17：00、開始日：1／9（月・祝）からです。
※12／23（金）～27（火），1/7（土）～1/8（日）間を関係クラブ顧問による宿直をお願いします。
※入浴については、男子は合宿施設風呂、女子は女子寮風呂を使用してください。

平成23年度春季合宿計画表

2012/3/19

開所式：3月27日（火）：合宿施設　16：00～
閉所式：4月2日（月）：11:30～（歓喜集会終了後）

クラブ名	宿泊場所	3月 1 木	2 金	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	22 木	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金	31 土	4月 1 日	2 月	3 火
野球部	合宿施設	①泊＝男子：9名、3/20～女子3名追加　【九州高校野球宮崎県大会のための強化合宿（大会は3/20～　試合結果（3/22）により宿泊延泊有）】																										②泊＝男子：9名　女子：2名						
男子ﾊﾞｽｹｯﾄ部	合宿施設																	泊＝男子：3名																	
吹奏楽部	男子：合宿施設 女子：女子寮 （多目的室）																										泊＝男子：4名　女子：3名								
情報処理部	合宿施設																										泊＝男子：3名								
陸上部	男子：合宿施設 女子：女子寮 （多目的室）						泊＝男子：3名　女子：3名																													
ロボコン製作局	合宿施設		泊＝男子：13																																
男子バレー部	合宿施設																													泊＝男子：8名					
ハンドボール部	合宿施設																				泊＝男子：5名													
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ同好会	合宿施設		泊＝男子：3名																																
宿泊場所別人数	男子 合宿施設		16	13	13		3				9							12			17						21	16							
	女子 女子寮：多目的室						3														3※（試合結果（3/22）により延泊有）						5								
宿泊者数合計																																		
宿直教員名		輪番 藤永伸 先生	溝田次男 先生	高木重樹 先生	溝田次男 先生		永松幸一 先生	堀留功博 先生	西村徳行 先生	野口太郎 先生		藤森崇夫 先生	牧谷浩一郎 先生	高橋勇二 先生	小窪和人 先生	藤森崇夫 先生	小窪和人 先生	佐藤浅次 先生	高橋勇二 先生	田中寿 先生	赤木洋二 先生	望月高明 先生	牧谷浩一郎 先生	望月高明 先生	高橋利幸 先生	牧谷浩一郎 先生	高橋利幸 先生	吉井千陽 先生	中村博文 先生	U口昇 先生	牧谷浩一郎 先生	小原聡司 先生	→ 輪番 ←		

※　体育館使用について・・・4／3（火）の入学式および準備のために、第一体育館については3／30（金）12:00から使用出来ません。第二体育館は4／3（火）のみ、15:00まで使用出来ません。
※　開所式・閉所式について・・・合宿に参加するクラブ部員は全員出席してください。
※　雑費について・・・1泊@200　合宿最終日より1週間以内に必ず寮務事務へ支払ってください。
※　合宿の報告について・・・合宿最終日より1週間以内に必ず学生係へ提出して下さい。
※　女子寮浴室の工事が3月13日（火）から入ります。

春季合宿の注意事項

（平成２３年度春季合宿）

合宿生は、合宿期間中、次の各事項を必ず守ること。

１．顧問教員等関係教職員の指示に従い、規律正しい生活を行うこと。
２．食事、入浴及び消灯時刻等は、次のとおり定める。
　＊合宿期間　　別紙のとおり
　＊宿泊場所　　男子：合宿施設
　　女子：女子寮【多目的室】
　＊食　事　　各クラブで確保すること
　＊入浴場所と時間　　男子：合宿施設内風呂（16:30～20:00）
　　女子：女子寮内風呂（16:30～19：00）
　＊門　限　　２０：００
　＊点呼報告　　男子　２２：００、７：３０の２回
　　女子　２０：００、７：３０の２回（点呼場所は女子寮前）
　＊消灯時間　　２３：００
３．合宿を許可された者以外は、絶対宿泊をさせないこと。
４．合宿中は、割当てられた部屋・許可された設備のみ使用すること。
５．飲酒・喫煙・電熱器その他火気の使用は厳禁する。
６．保健衛生に留意すること（宿泊者で風呂掃除およびトイレ掃除を行うこと）
７．合宿施設設備品を破損した場合は、速やかに届け出ること。なお、修復に要する経費は、全額破損者負担とする。
８．合宿施設設備品及び清掃用具を勝手に移動しないこと。
９．テレビの個人搬入は、禁止する。
10．合宿終了時には、清掃･整頓を必ず行い、搬入した物品はすべて搬出し、原状に復すること。
11．各部の部長は、２２:００（男子）と７：３０に当直教員へ必ず点呼報告を行うこと。
12．合宿生が、万一合宿期間中に、不詳事を起こした場合、当該クラブ（又は当該者）の合宿を中断させることもあるので、十分留意すること。
13．食事は各クラブで責任をもって確保すること。なお、食事代金も各クラブで責任をもって支払うこと。（栄養面等を考慮し、原則として楽信館食堂へ依頼すること）
14．雑費は、各クラブの代表者が、合宿最終日から１週間以内に寮務係に納入すること。納入期限を守れない場合には、次回の合宿許可を認めないことがある。
　雑費……１人１泊当り　２００円（光熱費等）
15．合宿所を出る時は必ず掃除をして、ゴミ等は分別してゴミ集積場に運ぶこと。

16．合宿開所式および合宿閉所式には全部員参加すること。

合宿開所式　３月２７日(火)　１６：００～　　合宿施設
合宿閉所式　４月　２日(月)　調整中　後日連絡します。　　合宿施設

※ 緊急連絡先

寮教員宿直室　　１１４６　／　１１４７
守　衛　室　　１１１２　／　１１１３（留守電）
学　生　係　　１１３６　／　１１３７

※　体育館利用について
第一体育館：３月３０日（金）１２：００～４月３日（火）１７:００は入学式準備および入学式のため使用できません。
第二体育館：４月３日（火）新入学生のための物品販売会場となっているので、１６：００まで使用できません。

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－９

部活における支援活動の実績を示す資料

後

校　長	学生主事	事務部長	学生課長	課長補佐	学生係長	学生係	総務課長	勤務時間管理員

課　外　指　導　願

平成 23年 6月 20日

都城工業高等専門学校長　殿

下記により（引率）・合宿・家庭訪問等）を実施したいので、ご承認方お願いいたします。

職名氏名	□教授　□准教授　☑講師　□助教
課外活動内容	女子バスケットボール部　□練習指導　□合宿指導　☑対外試合引率 （引率・同行合宿等（　　）□その他（　　）参加人数（　14　名） その他の活動　□家庭訪問
用務（詳細に）	熊本高専八代キャンパスチームとの練習試合
試合結果（練習試合を含む）	都城高専　60　－　48　熊本高専八代 都城高専　39　－　49　熊本高専八代
期間	自　平成 23年　6月　18日（土）（11時 00分～　時　分まで） 至　平成 23年　6月　18日（土）（　時　分～　19時　00分まで）　1日間
行先（詳細に）	熊本高専八代キャンパス。 家庭訪問の場合は学生の氏名（　　年　　学科　　）
交通機関	□公用車　□ｽﾀｰﾚｰｽ　□列　車　☑ﾊﾞｽ　□自家用車
備考	該当するものに、☑ して下さい。 また変形労働カレンダー区分（①、②、③-1、③-2、④）を記入ください。 1. ☑変形労働　（変形労働カレンダー区分　①－　　）のため、休日に指導 （☑①休日の振替及び教員特殊業務手当　②☑課外指導手当） 2. □労働日に指導

＊交通機関等を利用の場合は、支出明細書を添付してください。
＊休日とは、土・日・祝日及び12/29～1/3までの日をいいます。
＊３主事については教員特殊業務手当は支給されません。
＊課外指導願は人事係へ提出願います。

（資料）平成23年度顧問の課外指導従事状況（平成23年4月～10月までに提出された課外指導願いによる）

（1）従事時間数順

	クラブ名称	顧問数	日（8時間）	時間	一人当たり時間数
1	バレーボール部	4	71	565	141.3
2	陸上競技部	4	54	429	107.2
3	硬式野球部	4	50	398	99.5
4	ロボット製作局	4	33	266	66.4
5	ラグビー部	3	27	219	72.9
6	弓道部	2	21	167	55.6
7	バドミントン部	2	20	164	81.9
8	バスケットボール部	3	20	160	53.3
9	低燃費車製作研究部	1	17	134	134.4
10	テニス部	2	17	134	67.1
11	ハンドボール部	2	15	122	60.8
12	剣道部	2	14	110	54.9
13	女子バレーボール部	3	13	103	34.2
14	サッカー部	3	12	98	32.8
15	卓球部	2	12	98	48.9
16	ソフトテニス部	2	11	88	44.0
17	女子バスケット部	2	11	87	43.5
18	吹奏楽部	3	10	77	25.5
19	水泳部	2	9	72	36.0
20	柔道部	2	8	64	32.0
21	ジャグリング部	1	2	15	15.0
22	ボクシング部	1	0	0	0.0
23	空手部	1	0	0	0.0
24	語学部	1	0	0	0.0
25	情報処理部	2	0	0	0.0

（2）引率回数

	クラブ名称	顧問数	回数
1	バレーボール部	4	37
2	硬式野球部	4	37
3	陸上競技部	4	32
4	バドミントン部	2	18
5	ハンドボール部	2	15
6	弓道部	2	14
7	サッカー部	3	14
8	テニス部	2	13
9	女子バレーボール部	3	13
10	バスケットボール部	3	12
11	卓球部	2	10
12	水泳部	2	10
13	剣道部	2	9
14	ソフトテニス部	2	9
15	女子バスケット部	2	8
16	吹奏楽部	3	7
17	柔道部	2	4
18	ラグビー部	3	4
19	ジャグリング部	1	2
20	低燃費車製作研究部	1	1
21	ロボット製作局	4	
22	ボクシング部	1	
23	空手部	1	
24	語学部	1	
25	情報処理部	2	

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－10

都城工業高等専門学校学生準則（抜粋）

［昭和 39 年 4 月 1 日制定］

第 26 条　学生会の指導については、校長の命を受けて学生主事が総括する。
2　各部門及び各部に、それぞれ指導教員を置く。
3　指導教員は、校長が命じ、学生主事の総括のもとに、部門又は部の活動の指導に当たる。

〔出典：規則集〕

資料７－１－⑤－11

学生会役員研修実施要項

平成 24 年 4 月 18 日

学生会役員研修

実施要項



独立行政法人　国立工業高等専門学校機構

都城工業高等専門学校　学生会

- 1 -

平成 24 年度　学生会役員研修概要

目的：学生会役員の自覚と役割を認識させ、学生会活動を活発化させる。また、自分の仕事への責任感を強めるとともに、学生会役員や学生指導部の親睦を図ることを目的とする。

日時：平成 24 年 4 月 18 日（水）　8：50～

会場：○図書館２階　第１会議室
　　○楽信館２階　ミーティングルーム 1、ミーティングルーム 2　研修室
　　○専攻科棟２階　多目的ホール

参加者：学生会役員　38 名
　　学生指導部　 5 名
　　計　43 名

日程：

8：50	多目的ホールに集合
9：00～9：25	開会式
9：30～11：00	個別会議（各自で会議室へ移動、途中休憩あり）
11：00～12：00	全体会議（専攻科棟２階 多目的ホール）
12：00～12：55	昼食（専攻科棟２階 多目的ホール）
13：00～15：15	全体会議（図書館２階 第１会議室、途中休憩あり）
15：15～15：30	閉会式

研修内容

9：00～9：25　　開会式(専攻科棟２階 多目的ホール)
１．開会の言葉
２．学生主事挨拶および趣旨説明
３．学生会長挨拶
４．研修内容の説明

9：30～11：00　　個別会議
A 班：学生会主体の新しい行事の発案及び去年の行事の反省（楽新館２階 研修室）
B 班：№1 クラスコンテストの見直しとあいさつ運動、清掃活動の見直し（楽信館 ミーティングルーム１）
C 班：役員の選出・配置方法や学生会の活動が不透明なことについて。その対策である広報活動について（楽信館２階 ミーティングルーム２）
D 班：全員参加型の学生会活動を実現するためには？（楽信館２階 和室）

11：00～12：00　　全体会議
・個別会議の内容を報告
・学生会役員全員で協議
・決定事項の確認

12：00～12：55　　昼食
楽信館２階 研修室にて昼食

13：00～15：15　　全体会議
・その他の議題について
※その他の議題は６ページ参照

15：15～15：30　　閉会式
１．学生指導部の先生方から一言
２．学生主事総括
３．閉会の言葉

- 3 -

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－12

リーダー研修のしおり

２０１１　リーダー研修資料

学生指導部

１．　クラブ・同好会等の運営について

１）クラブ・同好会の目標設定（体育系であれば九州大会優勝など）
２）年間のスケジュールをたてる。（主要試合やコンテスト等）
３）危機および健康管理の徹底（救急病院の確保と緊急連絡等）**資料**
４）顧問やコーチとの連携（対外試合や合同練習等）
５）練習計画やメニューを考える。（メリハリのある内容にする。）
６）新入生や体力が落ちる部員にはハードな練習はさせない。
７）チームの運営費の管理（部費等の管理）
８）練習時間の厳守（後期は午後７時に帰宅）
９）１週間に１回は休日を設ける。１年間の計画に必ずオフの期間を
を設定する。（休む事も練習の内）
１０）部員・会員のやる気を引き出す工夫をする。
１１）部室、使用道具、器具等を大切に扱う。
１２）ミーティングの開催。（練習試合やコンテスト等の VTR の活用）
１３）保護者の会の設立やＯＢとの連携も視野に入れて活動する。
１４）対外試合等では、相手チームの分析や自分のチームの欠点等を研鑽
し、ただ試合をするだけでなく戦略や戦法を研究する。
１５）科学的なトレーニングやメンタルを強化する方法を導入する。
１６）部や同好会においてコミュニケーションがとれるように工夫する。

２．合宿について（春季、夏季）

１）学校では年２回の合宿は、学校の合宿期間として認められている。
２）合宿の目的は、集団生活によりクラブとして一体感を育むことにある。
３）日常とは違う環境で多くの時間があるので色々なことを体験できる。
４）長期の合宿は精神的にも肉体的にもリスクが大きいので短期間にする。
５）合宿施設は、来た時よりもきれいにして帰る。
６）合宿の内容や期間については顧問の先生と充分に協議する。

1

３．リーダーとしての在り方

１）人は６０兆個の細胞があり細胞には１セットの遺伝子があるために６０兆のコピーをもっている。遺伝子はストレスによってもオンになったりオフになったりする。高い志をもてば良い遺伝子がオンになる。
人の遺伝子は９９．９％同じである。人として生まれたら９９．９％同じ可能性をもって生まれてきている。
人に花を咲かせるのはリーダーの務めです。花は違うのでその花に応じてスイッチのオンを入れるか。リーダーがそのスイッチがオンになっていなかったら他人をオンにはできない。自分のスイッチをオンにして部員をオンにする。

２）リーダーというのは部員の魂に火をつける人間でなければならない。
たとえ部員の心が眠っていても強い愛情で覚まさせる。いったん彼等の魂に火をつければその炎は簡単に消えることはない。
その火を灯させるためには自分が燃えていなくて，どうして他人に火をつけてやれるのだろうか。

３）この人がいないと成り立たないという組織ほどもろいものはない。
常にリーダーに代わって仕事をこなせる補佐役，マネージャーの育成がチームの強さに直結する。

４）心は体のまねをする。

５）クラブ・同好会活動が活性化すると学校がよくなり，その結果、地域が元気になります。

６）多くの人は自分にプラスのものだけを取り入れてマイナスを放り出そうとする。しかし，プラスを人にマイナスを自分にという心がけを持てばいつかは自分にプラスが戻ってくるのではないでしょうか。

７）リーダーは部員に対して何を語っているのか、どういう態度で接しているのか，　どういう後ろ姿を見せているのか、言葉と行動の一致が原則。

2

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－13

クラスマッチ資料

平成２４年度

新入生歓迎クラスマッチ

平成２４年度　新入生歓迎クラスマッチ開会式

日時：４月　２０日（金）８：４５～

場所：グラウンド　　（雨天時：第２体育館）

プログラム	担当	時間
1. 学生、教員集合（点呼）		8:45～
2. 開会のことば	体育局長	8:50～
3. 校長挨拶	校長　　三村　洋史	8:52～
4. 学生会長挨拶	学生会長	8:56～
5. 諸注意	体育局委員	8:58～
6. 閉会のことば	副体育局長	9:00～

注意事項

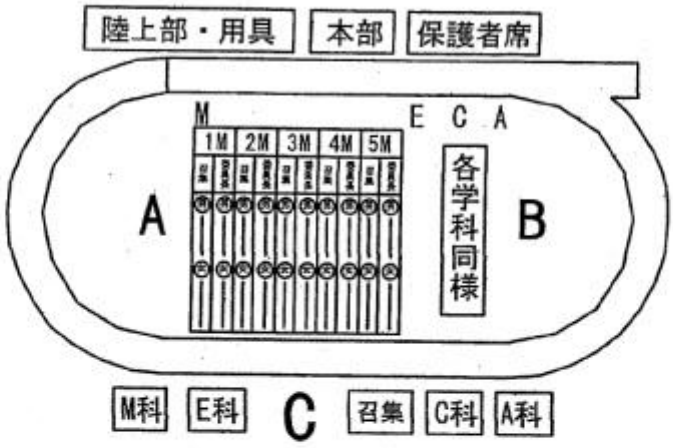
・開始時間に遅れないように開始時間５分前には集合してください。
・スパイクの使用は全面的に禁止です。スパイクの使用はせずに靴を使用してください。
・校舎の中に入るときは、靴についている土を落としてください。
・午後の点呼は１時になっているので担任の指示に従って点呼を受けてください。
・クラスマッチ中の貴重品の管理は各自で行うか、貴重品袋に入れて学生係で管理するようにしてください。
・寮食は１１：３０～１３：００までとなっているので試合の時間を考えてこの時間内に食べるようにしてください。
・雨の場合は室内競技のみとする。
・クラスマッチで使う道具は、学生会と体育局、体育の備品なので試合以外での持ち出しは禁止します。
・開始時間に人数がそろっていないクラスは失格にします。

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－14

体育競技会資料

1. 開会式・諸準備



1. 参加者

『全学年』

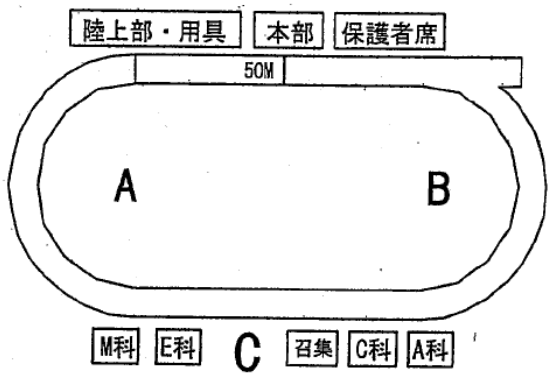
2. 備考

開会式次第

1. 開会宣言(実行委員長　　)
2. 優勝旗返還(5C　　)
3. 校長挨拶(学校長　三村　洋史)
4. 学生会長挨拶(学生会長　　)
5. 選手宣誓(各学科代表者)
6. 競技上の注意(副実行委員長　　)
7. 準備運動(ラジオ体操第１　実行委員　　)
8. 諸注意(副実行委員長　　)
9. 閉会の言葉、召集(副実行委員長　　)

◎低学年は開会式終了後すぐにプログラム①の徒競走があるので、召集の指示に従って準備してください

2. 女子 50m 一般



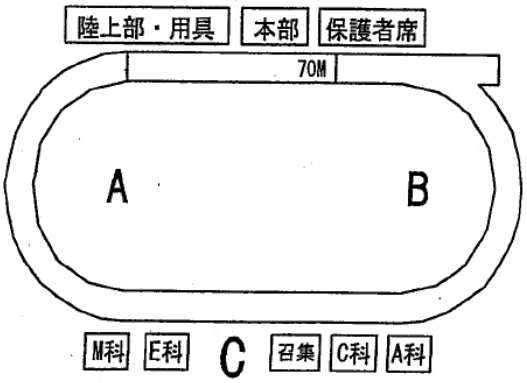
1. 参加者

『1～3 年生女子全員』:計 127 名

2. 備考

スタートはスタンディングスタートとする

3. 男子 70m 一般



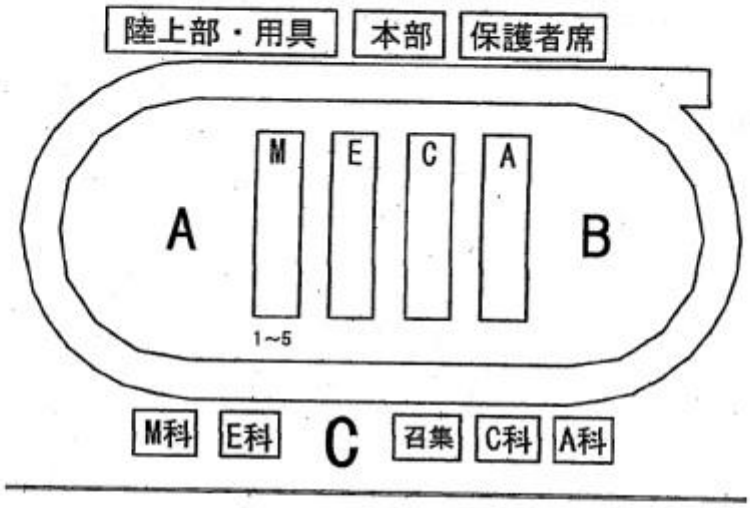
1. 参加選手

『1～3 年生男子全員』:計 394 名

2. 備考

スタートはスタンディングスタートとする

26. 閉会式



1. 参加者

『全生徒』

2. 備考

閉会式次第

1. 成績発表・表彰　（実行委員　　）　2. 学校長講評（学校長　三村　洋史）
3. 実行委員長挨拶（実行委員長　　）　4. 閉会宣言（副実行委員長　　）
5. 片付け・諸連絡（副実行委員長　　）

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－15

平成23年度文化祭資料


2011年都城工業高等専門学校文化祭
プログラム
PROGRAM

Morning　第１体育館

8：35　開会式（点呼確認）

8：45　開会宣言

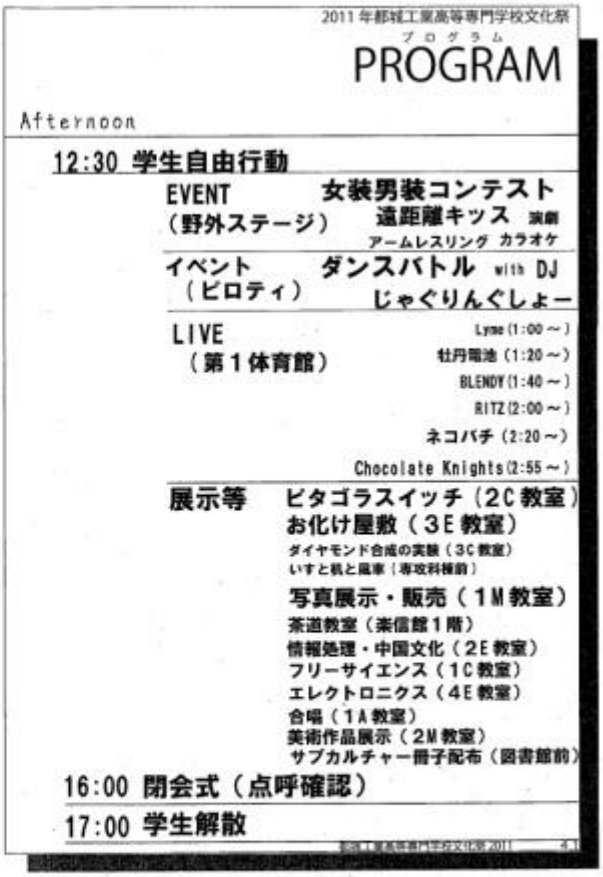
9：00　１年生ステージ発表
ダンス／映像発表

10：05　４年生研究発表
4M「空への憧れ」／4E「electric car」／
4C「アルプスの少年訪人」／4A「moku」

11：55　吹奏楽部演奏

12：30　開会式終了（学生自由行動）




2011年都城工業高等専門学校文化祭
プログラム
PROGRAM

Afternoon

12:30　学生自由行動

EVENT（野外ステージ）
女装男装コンテスト
遠距離キッス　演劇
アームレスリング　カラオケ

イベント（ピロティ）
ダンスバトル　with DJ じゃぐりんぐしょー

LIVE（第１体育館）
Lyne（1:00～）
牡丹電池（1:20～）
BLENDY（1:40～）
RITZ（2:00～）
ネコパチ（2:20～）
Chocolate Knights（2:55～）

展示等
ピタゴラスイッチ（2C教室）
お化け屋敷（3E教室）
ダイヤモンド合成の実験（3C教室）
いすと机と風車〔専攻科棟前〕
写真展示・販売（1M教室）
茶道教室（楽信館1階）
情報処理・中国文化（2E教室）
フリーサイエンス（1C教室）
エレクトロニクス（4E教室）
合唱（1A教室）
美術作品展示（2M教室）
サブカルチャー冊子配布（図書館前）

16:00　閉会式（点呼確認）

17:00　学生解散

〔出典：学生課資料〕

資料７－１－⑤－16

クラブ・同好会等のサークル活動や学生会活動の経済支援

平成２３年度　体育大会特別会計決算書

【特別会計】

平成23年4月1日～平成24年3月31日

【収入の部】

（単位：円）

項　　目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘　　要
1．前年度繰越金	1,201,292	1,201,292	0	
2．一般会計から繰入金	9,350,000	9,350,000	0	
3．雑　収　入	0	528	528	預金利息
収　入　の　部　（　計　）	10,551,292	10,551,820	528	

【支出の部】

項　　目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘　　要
1．九州地区高専体育大会	5,727,520	4,147,680	1,579,840	
2．西日本地区駅伝競走大会	168,600	184,550	-15,950	
3．西日本地区弓道大会	1,098,520	709,525	388,995	
4．高校総体	912,000	647,980	264,020	
5．全九州高校体育大会	253,280	22,890	230,390	
6．鹿児島高専親善試合	350,500	247,205	103,295	
7．各種分担金等	713,000	708,397	4,603	
8．課外活動補助費等	1,250,000	924,345	325,655	
9．予備費	77,872	0	77,872	
支　出　の　部　（　計　）	10,551,292	7,592,572	2,958,720	
次年度繰越【収入の部(計)－支出の部(計)】	0	2,959,248		
合　　計	10,551,292	10,551,820	528	

【 支出の部　内訳 】

項　　目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘　　要
1．九州・沖縄地区高専体育大会	(5,727,520)	(4,147,680)	(1,579,840)	
バス借上げ	4,012,780	2,940,300	1,072,480	第一担当:久留米高専 第二担当:佐世保高専 第三担当:北九州高専
学生宿泊費補助	1,162,000	775,870	386,130	陸上 22名、野球 17名、サッカー 18名、 ソフトテニス 14名、男バスケ 14名、柔道 8名、 バドミントン 14名、女バスケ 13名、男子バレー 13名、 水泳 20名、卓球 12名、女子バレー 14名、 ハンドボール 16名、剣道 10名、テニス 15名、 ラグビー 18名、野球…沖縄高専
その他経費	552,740	431,510	121,230	その他経費は運転手・コーチ宿泊費、会場移動タクシー代等 第一担当:久留米高専 1,303,305 円 第二担当:佐世保高専 1,911,740 円 第三担当:北九州高専 932,635 円
2．西日本地区駅伝競走大会	(168,600)	(184,550)	(-15,950)	山口県きらら博記念公園
バス借上げ	124,600	155,450	-30,850	大型バス　1台
学生宿泊費補助	24,000	11,330	12,670	11名　1泊
その他経費	20,000	17,770	2,230	その他経費：大会参加料、運転手宿泊費等
3．西日本地区弓道大会	(1,098,520)	(709,525)	(388,995)	阿南高専(徳島県鳴門市　鳴門ｽﾎﾟｰﾂﾊﾟｰｸ弓道場)
学生交通費補助	797,980	659,000	138,980	航空券：宮崎⇔大阪、大型バス1台：大阪⇔鳴門
学生宿泊費補助	204,000	42,500	161,500	17名　1泊
その他経費	96,540	8,025	88,515	その他経費：運転手宿泊費、振込手数料等

【 支出の部　内訳 】

項　　目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘　　要
4．高校総体	(912,000)	(647,980)	(264,020)	宮崎県内
バス借上げ	912,000	637,400	274,600	バス 18台　小型11台 中型 4台 大型 3台
学生交通費補助	0	10,580	-10,580	
その他経費	0	0	0	
5．全九州高校体育大会	(253,280)	(22,890)	(230,390)	
学生交通費補助	60,280	9,890	50,390	水泳(鹿児島市)　学生　2名　3泊
学生宿泊費補助	93,000	11,000	82,000	陸上　総体予選　出場なし
その他経費	100,000	2,000	98,000	陸上　高校総体　出場なし
				その他経費：タクシー代
6．鹿児島高専親善試合	(350,500)	(247,205)	(103,295)	都城高専⇔鹿児島高専
バス借上げ	283,500	204,300	79,200	バス　5台：大型4台・中型1台
その他経費	67,000	42,905	24,095	その他経費：審判手当、審判懇親会代、水代等
7．各種分担金等	(713,000)	(708,397)	(4,603)	
全国高専体育大会	93,000	92,735	265	全国高専体育大会参加費、大会分担金
九州地区高専体育大会	240,000	236,388	3,612	九州地区高専体育大会参加費、大会分担金
西日本地区高専弓道大会	20,000	19,525	475	西日本地区高専弓道大会参加費、大会分担金
クラブの登録料等	360,000	359,749	251	各部活動連盟・協会団体登録料、加盟料
8．課外活動補助費等	(1,250,000)	(924,345)	(325,655)	引率・大会応援・部活練習指導
課外指導手当	1,250,000	924,345	325,655	時間外の部活学生引率手当、練習指導手当など
体育館使用補助	0	0	0	23年度予算措置なし
9．予 備 費	(77,872)	(0)	(77,872)	
合　　計	10,551,292	7,592,572	2,958,720	

次年度繰越額　(収入総額) 10,551,820 円 — (支出総額) 7,592,572 円 = (次年度繰越金) 2,959,248 円

【 監 査 報 告 】

上記の後援会体育大会特別会計収支決算書について、預金通帳、帳簿及び証拠書類を監査照合の結果、異常のないことをここに報告します。

平成24年4月4日

後援会監事

後援会監事

平成２３年度　文化部活動特別会計決算書

【特別会計】　　平成23年4月1日～平成24年3月31日

【収入の部】　　（単位：円）

項　　目	予　算　額	決　算　額	増　減　額	摘　　要
1．前年度繰越金	2,225,383	2,225,383	0	
2．一般会計から繰入金	2,250,000	2,250,000	0	
3．雑　収　入	0	426	426	預金利息
収入総額	4,475,383	4,475,809	426	

【支出の部】

項　　目	予　算　額	決　算　額	増　減　額	摘　　要
1．ロボットコンテスト	1,117,000	932,740	184,260	
2．九州地区高専英語弁論大会	103,200	54,150	49,050	
3．吹奏楽	645,000	186,425	458,575	
4．低燃費車競技九州大会	267,400	207,300	60,100	
5．プログラミングコンテスト	610,440	166,207	444,233	
6．デザインコンペティション	1,476,400	720,714	755,686	
7．交流ロボコン開催経費	0	0	0	平成23年度開催なし
8．課外活動費等	180,000	165,540	14,460	
9．共　通　費	0	0	0	平成23年度計上なし
10．予　備　費	75,943	0	75,943	
支出総額	4,475,383	2,433,076	2,042,307	
次年度繰越(収入総額－支出総額)	0	2,042,733		
合　　計	4,475,383	4,475,809		

【 支出の部 内訳 】

項　　目	予　算　額	決　算　額	増　減　額	摘　　要
1．ロボットコンテスト	(1,117,000)	(932,740)	(184,260)	
(1) ロボコン制作補助費	400,000	400,000	0	
(2) ロボコン高専負担金	96,000	95,735	265	九州地区大会高専負担金
(3) ロボコン九州地区大会	621,000	437,005	183,995	北九州高専
バス借上げ・学生交通費補助	287,400	200,700	86,700	大型バス　　1台
学生宿泊費補助	96,000	80,000	16,000	学生　16名 2泊
その他経費	237,600	156,305	81,295	その他経費：運転手宿泊費、ﾄﾗｯｸ運搬料1台等
2．九州地区高専英語弁論大会	(103,200)	(54,150)	(49,050)	大分高専
学生交通費補助	49,200	24,670	24,530	ＪＲ
学生宿泊費補助	24,000	3,600	20,400	学生　2名 1泊
その他経費	30,000	25,880	4,120	その他経費：分担金、タクシー代等
3．吹奏楽	(645,000)	(186,425)	(458,575)	
(1) 宮崎県吹奏楽コンクール	150,000	126,425	23,575	開催地：宮崎市
バス借上げ	57,600	47,600	10,000	大型バス・高速代　学生 55名
その他経費	92,400	78,825	13,575	その他経費：参加料
(2) 九州地区吹奏楽コンクール	435,000	0	435,000	開催地：福岡市
バス借上げ	155,500	0	155,500	平成２３年度参加なし
学生宿泊費補助	120,000	0	120,000	
その他経費	159,500	0	159,500	
(2) 演奏会助成金	60,000	60,000	0	定期演奏会経費、指揮者謝礼
演奏会	60,000	60,000	0	

項　　目	予　算　額	決　算　額	増　減　額	摘　　要
4. 低燃費車競技九州大会	(267,400)	(207,300)	(60,100)	熊本機電技術大津町(HSR九州)
バス借上げ	92,700	82,200	10,500	大型バス　1台
学生宿泊費補助	30,000	3,840	26,160	学生　8名　1泊
その他経費	144,700	121,260	23,440	その他経費：運転手宿泊費・ﾄﾗｯｸ運賃料1台 参加料・練習走行料等
5. プログラミングコンテスト	(610,440)	(166,207)	(444,233)	競技高専(京都府舞鶴市)
学生交通費補助	478,440	103,980	374,460	航空券ﾊﾞｽ券・バス
学生宿泊費補助	72,000	18,020	53,980	学生　3名 3泊
その他経費	60,000	44,207	15,793	その他経費：年会費・学生交流会費・振込料等
6. デザインコンペティション	(1,476,400)	(720,714)	(755,686)	競技高専(北海道)
学生交通費補助	1,121,400	598,824	522,576	航空券ﾊﾞｽ券・JR
学生宿泊費補助	180,000	0	180,000	学生　8名 3泊
その他経費	175,000	121,890	53,110	その他経費：参加校負担金・作品配送料・ 学生交流会費・振込料等
7. 交流ロボコン開催経費	(0)	(0)	(0)	交流ロボコン開催経費
				開催なし
8. 課外活動費等	(180,000)	(165,540)	(14,460)	引率・時間外部活動指導手当、大会会議等
課外指導手当	180,000	165,540	14,460	
9. 共　通　費	(0)	(0)	(0)	
10. 予　備　費	(75,943)	(0)	(75,943)	
支出の部（計）	4,475,383	2,433,076	2,042,307	

次年度繰越金　　（収入総額）－（支出総額）＝（次年度繰越金）

4,475,809 円 － 2,433,076 円 ＝ 2,042,733 円

【監査報告】

上記の後援会文化部活動特別会計収支決算書について、預金通帳、帳簿及び証拠書類を監査照合の結果、異常のない事をここに報告します。

平成24年4月4日

後援会監事

後援会監事

平成２３年度　特定事業特別会計決算書

【特別会計】　　平成23年4月1日～平成24年3月31日

【収入の部】　　（単位：円）

項　　目	予 算 額	決 算 額	増　減	摘　　要
1．前年度繰越金	3,956,240	3,956,240	0	
2．一般会計からの繰入金	1,043,760	1,043,760	0	
3．雑収入	0	585	585	預金利息
収入の部(計)	5,000,000	5,000,585	585	

【支出の部】

項　　目	予 算 額	決 算 額	増　減	摘　　要
1．九州地区高専体育大会開催経費	0	0	0	
2．全国大会出場経費	5,000,000	1,569,051	3,430,949	全国大会出場経費　内訳
3．全国高専体育大会開催経費	0	0	0	
				・全国高専体育大会　1,032,791円 内訳 陸　上 5名　431,166円 柔　道 7名　392,943円 水　泳 2名　147,375円 テニス 1名　61,285円
				・全国高専選抜弓道大会　485,360円
				・日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会　50,900円
支出の部(計)	5,000,000	1,569,051	3,430,949	
次年度繰越(収入(計)－支出(計))	0	3,431,534		
計	5,000,000	5,000,585	585	

次年度繰越金

（収入総額）	－	（支出総額）	＝	（次年度繰越額）
5,000,585円	－	1,569,051円	＝	3,431,534円

【監査報告】

上記の後援会特定事業特別会計収支決算書について、預金通帳、帳簿及び証拠書類を監査照合の結果、異常のない事をここに報告します。

平成24年4月4日

後援会監事

後援会監事

平成23年度 寄附金収支決算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

〈都城工業高等専門学校教育活動支援奨学金〉　（単位：円）

繰入の部（計）	平成23年度 予算額	平成23年度 決算額	増減	摘要
1．前年度繰越金	2,369,171	2,369,171	0	
2．一般会計からの繰入金	3,680,000	3,680,000	0	
3．雑収入	0	0	0	
合計	6,049,171	6,049,171	0	

（支出の部）

支出の部	平成23年度 予算額	平成23年度 決算額	増減	摘要
1．一般会計	(800,000)	(806,240)	(-6,240)	工場見学等教職員旅費・図書購入費他
2．体育大会	(3,398,900)	(1,407,966)	(1,990,934)	各種大会出場学生引率等の教職員旅費
（1）地区大会	[1,560,700]	[841,386]	[709,804]	
（2）全国大会	[1,838,200]	[566,580]	[1,239,820]	
3．文化部活動	(1,850,271)	(430,470)	(1,419,801)	各種大会出場学生引率等の教職員旅費
支出の部（計）	6,049,171	2,644,676	3,404,495	
次年度繰越（収入の部(計)－支出の部(計)）	0	3,404,495		
合計	6,049,171	6,049,171	0	

平成24年度 寄附金繰入額算出内訳

平成24年4月1日～平成25年3月31日

〈都城工業高等専門学校教育活動支援奨学金〉　（単位：円）

繰入の部（計）	平成23年度 決算額	平成24年度 予算額	増減	摘要
1．前年度繰越金	2,369,171	3,404,495	1,035,324	
2．一般会計からの繰入金	3,680,000	2,100,000	-1,580,000	
3．雑収入	0	0	0	
合計	6,049,171	5,504,495	-544,676	

（支出の部）

支出の部	平成23年度 決算額	平成24年度 予算額	増減	摘要
1．一般会計	(806,240)	(830,000)	(23,760)	工場見学等教職員旅費・図書購入費他
2．体育大会	(1,407,966)	(2,966,000)	(1,558,034)	各種大会出場学生引率等の教職員旅費
（1）地区大会	[841,386]	[1,449,200]	[607,814]	
（2）全国大会	[566,580]	[1,516,800]	[950,220]	
3．文化部活動	(430,470)	(1,708,495)	(1,278,025)	各種大会出場学生引率等の教職員旅費
支出の部（計）	2,644,676	5,504,495	2,859,819	
次年度繰越（収入の部(計)－支出の部(計)）	3,404,495	0		
合計	6,049,171	5,504,495	-544,676	

〔出典：後援会資料〕

資料７－１－⑤－17

傷害保険

・ 傷害保険

平成12年度以降の校内で発生した負傷の時間帯別件数、負傷内容別件数を医務室のページへ表-30・31をそれぞれ示す。負傷のうち、内容別では捻挫・骨折が多く、クラブ活動時に発生したものが多い。クラブ活動における準備運動などを徹底させることが必要である。この様な学校管理下にある学生の負傷、不慮の事故等に対応して、学生全員に「日本スポーツ振興センター共済」「学生傷害保険」に加入させて万一の場合に備えている。表-30　に示されたように、クラブ活動を含め学校管理下における負傷件数は例年数多い。

不慮の傷害に際し、多額の医療費に対する保護者の負担がこの保険制度により軽減され役立っている。また、学生の学校管理下における事故に対する補償、および、学生の教育活動中の事故により、学校に法律上の損害賠償責任が発生した場合の対策として、本校は平成４年度から学校管理者賠償責任保険に加入している。
一方、現在女子学生数が200名近くに達し、男女間の交際の在り方や性教育が重要な問題となっている。放課後暗がりにいるアベックなど目に余る男女交際の形態については、その都度、学科・学年・氏名を記録して注意するとともに担任へ連絡し、改善されない場合には双方の保護者を召喚して指導している。また、性病やエイズ教育も避けられない問題である。エイズ教育については、特別教育活動の時間を使用し「エイズ講習」を都城保健所の専門家に委嘱して実施している。

情報公開責任者：都城高専学生主事

〔出典：ホームページ〕

資料７－１－⑤－18

日本スポーツ振興センター

32. (独)日本スポーツ振興センター

(独)日本スポーツ振興センターとは、(独)日本スポーツ振興センター法に基づいて学校安全の普及充実を図るとともに、学校管理下における学生の負傷・廃疾又は死亡に対して必要な給付を行い、もって学校教育を円滑にすすめることを目的とした制度である。

① 災害共済給付金と対象となる災害の範囲

別 表

災害の種類	災害の範囲	給付金
負傷	(1)学校管理下における事故によるもの (2)療養に要した費用が5,000円以上のもの	医療費 健康保険なみの診療月額の「４割」 支給期間 初診以後７か年間
疾病	(1)疾病の原因である行為が学校管理下においてなされたもの (2)療養に要した費用が5,000円以上のもの	
廃疾	学校管理下の負傷・疾病がなおった後に残った疾病でその程度により１級～14級に区分される	疾病見舞金 廃疾の程度に応じ73万円～3,370万円 ただし通学中の負傷、疾病に起因する障害の場合は２分の１の額
死亡	学校管理下の事故による死亡又は疾病に直接起因することが明らかな死亡であること	死亡見舞金2,500万円 ただし通学中の死亡については1,250万円、突然死の場合（運動中に発生したものは除く）及び通学中の死亡の場合は２分の１の額

② 学校管理下の範囲

ア 授業中

イ 休憩時間中

ウ 通学中（登下校中）

〔出典：学生便覧〕

資料７－１－⑤－19

国立高等専門学校機構学生傷害保険制度

33.（独）国立高等専門学校機構学生傷害保険制度

（目　的）

この保険は、（独）国立高等専門学校機構における学校安全の普及充実を図るとともに学校管理下における不慮の災害に対し、必要な給付を行い、学校教育活動の円滑なる運営に資することを目的とする。

（災害の範囲）

学校教育計画に基づく学校管理下にある諸活動中急激かつ偶然なる事故により被った傷害について、一定の見舞金を支払う。

学校管理下とは、授業中及び休憩時間中、授業開始前又は終了後の在学中、正規の通学路による登下校中、文部科学省その他の機関又は団体が行う教育活動行事へ参加中をいう。

（災害給付の制限）

次のような事由により生じた傷害に対しては、保険金は支払われない。

ア　被保険者や保険金受取人の故意、重大な過失

イ　被保険者の違反行為、闘争、自殺行為

ウ　被保険者の脳疾患、疾病、心神喪失

エ　地震、噴火、津波その他地殻変動による天災

オ　戦争その他の変乱

カ　核燃料物質の特性による事故又は放射線照射・放射線汚染

（見舞金の範囲）

見舞金の種類	内　　容	保　険　金
傷害見舞金	事故の日からその傷害がもとで８日以上、病院又は診療所に通院又は入院した場合、その初日から日数につき支払われる。（ただし、通院90日限度、入院は180日限度とし、いかなる場合にも事故の日から180日を支払い限度とする。）	通院１日につき 2,000円 入院１日につき 3,000円

見舞金の種類	内　　容	保　険　金
後遺障害見舞金	事故の日から180日以内にその障害がもとで後遺障害が残った場合	障害の程度に応じて 7.1万円～ 238.7万円
死亡見舞金	事故の日から180日以内にその障害がもとで死亡した場合	238.7万円

ただし、治療費は給付の対象外となる。

（掛金保険料）

学生１名につき、卒業時まで一括払込み保険料は、次のとおりとする。

第１学生　５年間契約　10,000円

（その他）

万一、上記の「災害の範囲」の要項に該当すると思われる事故が発生した場合は、速やかに学生係に届け出て所定の手続きをとること。

〔出典：学生便覧〕

（分析結果とその根拠理由）

学生の課外活動の活性化に向けて，施設整備並びに人的及び経済的支援を行っており，多くの部及びサークルが，対外試合等にも積極的に参加している。したがって，学生の課外活動に対する支援体制を十分整備しており，有効に機能している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活面に係わる指導・相談・助言を行う体制について，準学士課程では各クラスに学級担任を配置している（資料７－２－①－１～２）。特に，１～３年生については毎朝ショートホームルームを実施しており，連絡事項の伝達及び学生の状況把握を行っている（資料７－２－①－３）。専攻科生においては，専攻主任と特別研究指導教員が準学士課程の学級担任とほぼ同様な役割を果たしている。

学習及び生活上の全学的な方針は，教務指導部及び学生指導部から提出され，学級担任はその方針に従って，クラス内の学生指導を行っている。また，学生の厚生補導等に関する全学的な判断を必要とする場合は，厚生補導委員会において審議を行っており，全学的な体制は整備されている（資料７－２－①－４～５）。

毎年，保護者懇談会を実施しており，教員と保護者間の情報共有や相互理解を深め，学生指導に役立てられるよう努めている（資料７－２－①－６）。

さらに，学生の健康管理のための保健室や学生の様々な精神的悩みに対して学生相談支援室を設けている（資料７－２－①－７～10）。学生相談支援室は，学生相談支援室長の他，内部相談員及び外部カウンセラーで構成しており，その利用実績から見て，機能している（資料７－２－①－11）。

学生の経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制について，就学支援金制度，日本学生支援機構奨学制度並びに入学料及び授業料の免除及び猶予制度を整備・実施しており，機能している（資料７－２－①－12～18）。

観点７－２－①　資料一覧

資料７－２－①－１　都城工業高等専門学校教員内部組織規則第５条
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－２　担任の手引き
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－①－３　授業終始時間
〔出典：学生便覧〕

資料７－２－①－４　厚生補導委員会規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－５　学生指導に関する内容
〔出典：厚生補導委員会議事録〕

資料７－２－①－６　保護者懇談会資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－①－７　保健衛生
〔出典：学生便覧〕

資料７－２－①－８　保健室
〔出典：ホームページ〕

資料７－２－①－９　学生相談支援室
〔出典：ホームページ〕

資料７－２－①－10　都城工業高等専門学校学生相談支援室規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－11　カウンセリングの受診内容
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書-　P.24〕

資料７－２－①－12　都城工業高等専門学校日本学生支援機構奨学生の推薦選考基準内規
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－13　奨学制度
〔出典：学生便覧〕

資料７－２－①－14　都城工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予に関する規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－15　都城工業高等専門学校入学料免除及び徴収猶予選考基準
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－16　都城工業高等専門学校授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－17　都城工業高等専門学校授業料免除選考基準
〔出典：規則集〕

資料７－２－①－18　奨学金受給者数、授業料免除者数
〔出典：基礎データ集〕

資料７－２－①－１

都城工業高等専門学校教員内部組織規則第５条

都城工業高等専門学校教員内部組織規則

（趣旨）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）第５条及び都城工業高等専門学校学則（昭和３９年４月１日制定。以下「学則」という。）第１１条の規定に基づき、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員内部組織について、必要な事項を定める。
（副校長）
第２条　本校に副校長を置く。
２　副校長は、学則第９条第１項に定める教務主事、学生主事及び寮務主事をもって充てる。
３　副校長は、校長の職務を助ける。
４　副校長は、校長が命ずる。
（校長補佐）
第３条　本校に校長補佐若干名を置く。
２　校長補佐は、校長が指名する者をもって充てる。
３　校長補佐は、校長の命により特命事項について校長を補佐する。
４　校長補佐は、校長が命ずる。
（学科長）
第４条　学科及び一般科目（以下「学科等」という。）に次の区分により、それぞれ長（以下「学科長」という。）を置く。
機械工学科
電気情報工学科
物質工学科
建築学科
一般科目文科
一般科目理科
２　学科長は、教授又は准教授をもって充てる。
３　学科長は、それぞれの学科等を代表し、当該学科等の運営に関することを掌る。
４　学科長は、校長が命ずる。
（学級担任）
第５条　各学級にそれぞれ学級担任を置く。
２　学級担任は、原則として講師以上の専任教員をもって充てる。
３　学級担任は、当該学級の教育指導、生活指導及び厚生補導に関することを掌る。
４　学級担任は、各学年ごとに学年代表を互選し、学年代表は、それぞれ担当する学年における各学級担任の連絡調整に当たるものとする。
５　学級担任は、校長が命ずる。
（主事補）
第６条　本校に教務主事補、学生主事補及び寮務主事補（以下「主事補」という。）を若干名置く。
２　主事補は、本校専任教員をもって充てる。
３　主事補は、それぞれの主事を補佐する。
４　主事補は、校長が命ずる。
（任期）
第７条　校長補佐、学科長、学級担任及び主事補の任期は１年とし、再任を妨げない。
２　前項の任期は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。
３　第１項の職に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
４　主事補の選任期間は、１０月又は１１月を、学級担任の選任時期は、１２月を原則とする。
（雑則）
第８条　専攻科長、図書館長、電子計算機センター長、電子計算機センター副センター長、地域連携センター長、地域連携センター副センター長、技術支援センター長、学生相談支援室長、キャリア支援室長及びキャリア支援室副室長については、別に定めるところによる。
附　則
この規則は、昭和６１年５月６日から施行し、昭和６１年４月１日から適用する。

附　則
この規則は、平成元年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成５年４月１日から施行する。
附　則
１　この規則は、平成７年４月１日から施行する。
２　改正後の第２条第１項の裁定にかかわらず、工業化学科が存続する間は、物質工学科は工業化学科を含むものとする。
附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
２　校長補佐の任期について、第７条第２項の適用にあたっては、「４月１日」とあるのは「任命の日」と、「翌年３月３１日」とあるのは「当該年度の３月３１日」と読み替えるものとする。
附　則
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２０年９月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２４年２月６日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－２

担任の手引き

担 任 の 手 引

都城工業高等専門学校

目　　次

第１章　学級担任の主な仕事 ……1
1.1　学年のはじめ ……1
1.2　後期はじめ ……1
1.3　学年末 ……1
1.4　試験前後・進路・就職の指導及び高専入試前の指導 ……1
1.5　日常 ……2
1.6　不定期 ……2

第２章　学級担任の月別にみた主な仕事 ……3
2.1　１年生、３年留学生、４年編入学生 ……3
4 月
2.1.1　入学式前 ……3
2.1.2　入学式当日 ……3
2.1.3　留学生及び編入学生の入学式等について ……3
2.1.4　入学式後（始業式当日以降） ……4
2.2　第２～第５年生 ……5
4 月
2.2.1　始業式前 ……5
2.2.2　始業式当日 ……5
2.2.3　始業式以降 ……5
2.3　第１～第５年生関係 ……6
5 月～3 月

第３章　学級運営に関すること ……9
3.1　教室の管理 ……9
3.1.1　教室の整備 ……9
3.1.2　掃除当番 ……9
3.2　クラス活動 ……9
3.2.1　クラス委員等の選出 ……9
3.2.2　学級日誌（1～3 年生） ……9
3.2.3　特別活動（1～3 年生） ……9
3.2.4　学級懇談会 ……10
3.2.5　1・2 年生保護者個別面談 ……10
3.2.6　研修・校外実習・工場見学・見学旅行 ……10
3.2.7　バスの利用 ……10
3.2.8　家庭訪問・見舞い等 ……10
3.2.9　葬儀等 ……11

第４章　学生指導に関する主なこと ……12
4.1　事務関係 ……12
4.1.1　新入生が、入学前の３月末日までに提出する書類 ……12
4.1.2　新入生に、入学式当日交付する文書類の主なもの(学生課から担任経由で交付) ……12

4.1.3　その他 ……12
4.2　学生証 ……12
4.3　教育環境確保について ……12
4.4　自習時間について ……12
4.5　出席簿の記入について ……13
4.6　出席状況の把握 ……13
4.7　試験（追試験・再試験を含む）の受験心得等指導について ……13
4.8　年間授業時数のカウント方法について ……14
4.9　試験成績の学生及び保護者への通知 ……14
4.9.1　再試験・学年末成績について ……14
4.9.2　試験結果の通知について ……14
4.10　学生指導要録 ……14
4.11　学級担任の引継 ……14
4.12　退学・休学・復学 ……14
4.13　全校集会 ……15
4.14　教務関連願届類 ……15
（資料）「生産デザイン工学」プログラムについて（平成 23 年度現在） ……16

第５章　厚生補導関係 ……17
5.1　補導関係 ……17
5.1.1　学則第 36 条による懲戒の取り扱いについて ……17
5.1.2　生活関係（本校学生としての品位） ……17
5.1.3　交通関係 ……18
5.2　福利厚生関係 ……19
5.2.1　入学料免除及び徴収猶予・授業料免除 ……19
5.2.2　就学支援金制度（1～3 年生） ……19
5.2.3　(独)日本学生支援機構奨学制度 ……19
5.2.4　学生旅客運賃割引証 ……20
5.2.5　健康診断・病気 ……20
5.2.6　傷害保険について ……20
5.2.7　遠隔地健康保険証 ……20

（巻末資料）１．　学生寮規則違反等の処分及び指導について ……21

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－①－３

授業終始時間

付３　授業終始時間

学則第６条に基づく授業終始時間を下記のとおり定める。

ＳＨＲ	８：35～８：40
第１限	８：45～９：30
第２限	９：35～10：20
第３限	10：30～11：15
第４限	11：20～12：05
	昼食（55分）
第５限	13：00～13：45
第６限	13：50～14：35
第７限	14：45～15：30
第８限	15：35～16：20
第９限	16：25～17：10

(注)１　１単位は45分授業とする。
　　２　連続授業の途中チャイムは鳴らさない。

〔出典：学生便覧〕

資料７－２－①－４

厚生補導委員会規則

都城工業高等専門学校厚生補導委員会規則

（設置）
第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、校長の諮問に応じ、本校学生の厚生補導に関することを審議するため、都城工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 厚生補導にかかる規則の制定及び改廃に関すること。
(2) 学生の停学以上の処分（交通関係については、停学７日以下の処分を除く。）に関すること。
(3) 奨学金及び授業料減免等に関すること。
(4) その他厚生補導に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 学生主事
(2) 寮務主事
(3) 各学科の教員の中から選出された者各１人
(4) 一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各１人
２　委員は、校長が任命する。
３　委員が委員会に出席できない場合は、委員長の同意を得て代理の者を委員会に出席させることができる。
（委員の任期）
第４条　前条第１項第３号及び第４号の委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。
２　委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
（定足数）
第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
（議決）
第７条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
（委員以外の出席）
第８条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。
（専門委員会）
第９条　委員会に、次の専門委員会を置く。
(1) 学生指導委員会
(2) 寮務委員会
２　専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第１０条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。
附　則
１　この規則は、昭和５３年４月７日から施行する。
２　都城工業高等専門学校補導委員会規則（昭和３９年９月１日制定）は、廃止する。
附　則
１　この規則は、平成１１年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校厚生補導委員会規則の運用に関する申合せ（平成８年４月１日制定）は、廃止する。
附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－５

学生指導に関する内容

学生主事	学生課長	課長補佐	学生係長	学生係

H23.11.17
球技授業ルール通知について
よろしくお願いします(学生)

平成２３年度（第１１回）　厚生補導委員会議事要録（案）

日　時　　平成２３年１１月９日（水）　１６：４５～１７：４２

場　所　　図書館２階　第１会議室

出席者

欠席者

配布資料

(1)学生の処分調書(喫煙等)	……	資料1
(2)交通関係の処分について	……	資料2
(3)寮務委員会資料	……	資料3
(4)平成23年度後期寮生総会	……	資料4

議　題

１．学生の処分について（喫煙の疑い）
　寮務主事より、資料１について説明された。
　１０月１４日（金）２０時過ぎ頃、寮務主事補が寮生の部屋でタバコの吸い殻が入った茶色の小瓶を発見した。この寮生は、喫煙の疑いで５月に寮務主事注意、９月２１日に、タバコの空箱を発見され１０月に校長訓告を受けていた。今回発見されたタバコの吸い殻は９月２１日以降購入し喫煙したものであった。

（１）　処分原案として、次のとおり提案された。
前回発見時の９月２１日以降も喫煙の事実を認めていること及び担任から退寮した場合の憂慮の申し出を考慮して、停学３日の処分とする。停学期間は、１１月１０日（木）～１１月１２日（土）とする。
審議の結果、原案のとおり了承された。

（２）　寮外退去についてはすでに寮務委員会で審議し、退寮も考慮したが指導の意を考え21日間の通学としたことが寮務主事より報告された。
（寮生活については、寮外退去の指導も含め、寮務委員会での審議事項である）

２．交通関係の処分について
　学生主事より、資料２について、次のとおり経緯等を説明の上、提案された。
（１）　今年の６月、バイクで通学していた２Ａの女子学生が、赤信号で停止している自動車に追突した。この事故で、女子学生は自動車の後部座席のガラスを割り、右腕を骨折した。後部座席に赤ちゃんが乗車していたが被害はなかった。
一歩誤れば、人命に関わる大惨事になる事故であったため、当学生の指導について学生指導部で慎重に検討し、免許証を２年生の終わりまで預かることにしたが、規則として明記されていないため、保護者に理解を求めるのが容易でなかった。そのため、交通事故（第１当事者）の場合に免許証を預かることを規則化しておく必要性があると判断し、資料２のとおり交通事故（第１当事者）の処分を追加した。
（２）　交通事故（第１当事者）の場合、免許証預かりを原則とするが、軽度の物損事

故程度であれば、免許証預かりはしない。
（３） 免許証預りの期間については、事故の状況、代替通学手段の有無、家庭の状況等を考慮して短縮される場合がある。ただし、保護者からの「免許証預り期間短縮願い」が担任を経由して提出された場合に限り、保護者と面談し、学生指導部で免許証預り期間の短縮を検討する。
（４）委員は、上記の内容及び資料２を各学科に報告すること。

審議の結果、提案のとおり了承された。

３．高千穂寮男子寮及び女子寮日課について
資料３の男子寮及び女子寮日課については、本日委員が少ないため、次回審議することとなった。

４． 平成２３年度後期寮生総会の報告
寮務主事より、資料４について、次のとおり報告された。
（１） 寮生総会で寮生会より夜間ハイクの実施について検討された。
11月の夜間ハイクは、近隣の住民から騒音等に対する苦情があること、近年の交通量の増加などにより危険性も増大していること、立ち番など寮生会の運営上の負担が大きいことなどを考慮し、今年度は実施しないことが寮生会より提案され了承された。なお代替えの行事案を検討中である。

（２） 寮生会規約の会費について、自販機業者からの収入が減り、行事の適正な運営ができなくなるため、現状の２４００円を来年度より３０００円にすることが提案され了承された。

５．次回開催について
１１月２８日（月）に定例厚生補導委員会を開催する。

〔出典：厚生補導委員会議事録〕

資料７－２－①－６

保護者懇談会資料

平成２３年度学級懇談会実施要項

１．目　　的

①　学級担任が学級運営方針を説明し、保護者に理解と協力を依頼する。
②　学級担任が保護者との情報交換により相互理解を深め、学生の指導に役立てる。

２．期　　日
平成２３年６月２５日（土）
主に出席番号１～２０番（２年建築・３年物質・４年機械は１～２５番）の１～４年生の保護者
平成２３年７月　２日（土）
主に出席番号２１番（２年建築・３年物質・４年機械は２６番）以降の１～４年生の保護者
＊ 個人面談の時間設定にアンバランスが生じないようにするため出席番号で分け、なるべく決められた日に出席してもらう。ただし、どうしても都合が悪い場合は、都合の良い日に出席してもよい。

３．日　　程

９：３０～１０：００	受　　付(専攻科研究棟１階ピロティ)
１０：００～１０：１０	学校側の諸連絡(教務主事)
１０：１０～１０：２０	学校側の諸連絡(学生主事)
１０：２０～１０：３０	学校側の諸連絡(寮務主事)
１０：３５～１２：００	学級懇談会、個人面談
１２：００～１３：００	(昼　食)
１３：００～	個人面談

４．場　　所

学校側の諸連絡	：	専攻科研究棟２階多目的ホール
学級懇談会	：	各教室
個人面談	：	学級担任の研究室等

５．そ の 他

１）昼食について
・寮生の保護者
希望者には、寮食堂で日頃寮生が食べている昼食を準備します。(代金不要)

・通学生の保護者
弁当を持参していただく等、各自で準備してください。
昼食持参の方は、専攻科研究棟２階多目的ホールが利用できます。

２）寮生保護者の寮見学について
見学は、１２時００分から１３時００分の間に各自でお願いします。

３）連絡先について
当懇談会に関する問合せ等は、学生課教務係（℡0986-47-1134）へご連絡ください。

平成23年度

学級懇談会関係資料

（第1学年）

10月15日（土）
10月22日（土）

都城工業高等専門学校

平成２３年度学級懇談会実施要項

１．目　　的

①　学級担任が学級運営方針を説明し、保護者に理解と協力を依頼する。
②　学級担任が保護者との情報交換により相互理解を深め、学生の指導に役立てる。

２．期　　日
平成２３年１０月１５日（土）　主に出席番号１～２０番の１年生の保護者
平成２３年１０月２２日（土）　主に出席番号２１番以降の１年生の保護者
＊ 個人面談の時間設定にアンバランスが生じないようにするため出席番号で分け、なるべく決められた日に出席してもらう。ただし、どうしても都合が悪い場合は、都合の良い日に出席してもよい。

３．日　　程
９：３０～１０：００　受　　付(専攻科研究棟１階ピロティ)
１０：００～１０：１０　学校側の諸連絡(教務主事)
１０：１０～１０：２０　学校側の諸連絡(学生主事)
１０：２０～１０：３０　学校側の諸連絡(寮務主事)
１０：３５～１２：００　学級懇談会、個人面談
１２：００～１３：００　(昼　食)
１３：００～　　個人面談

４．場　　所
学校側の諸連絡　：　専攻科研究棟２階多目的ホール
学級懇談会　：　各教室
個人面談　：　学級担任の研究室等

５．そ の 他

１）昼食について
・寮生の保護者
希望者には、寮食堂で日頃寮生が食べている昼食を準備します。(代金不要)

・通学生の保護者
弁当を持参していただく等、各自で準備してください。
昼食持参の方は、専攻科研究棟２階多目的ホールが利用できます。

２）寮生保護者の寮見学について
見学は、１２時００分から１３時００分の間に各自でお願いします。

３）連絡先について
当懇談会に関する問合せ等は、学生課教務係（℡0986-47-1134）へご連絡ください。

〔出典：学生課資料〕

33. 保健衛生

1　保健室

学生の健康管理のため保健室を設け、救急医薬品器具等を常備し、校医の指示にしたがって、看護師により疾病、傷害に対する応急処置及び軽症者治療投薬を行っている。

2　定期健康診断

学校保健法第６条に基づき、毎年定期に学生の健康診断を実施する。この健康診断の目的は、学生の健康状態を知り、健康管理の重要な資料とするとともに疾患を有する学生を早期発見し、適切な治療方法を指導し、学生の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果の確保にあたる。したがって、学生はこの健康診断を必ず受けるよう義務づけられている。

やむを得ない事由により診断を受けられなかったときは、その旨を学生係に届け出て後日診断を受けなければならない。

3　健康相談

学校保健法第16条に基づき学校医、歯科医師及び薬剤師を下記のとおり委嘱している。学生係又は看護師を通じて健康相談をすることができる。

区　分	医　院　名	医　師　名
内　科	宇宿医院	
歯　科	永井歯科医院	
薬剤師		

4　学生相談支援室

学生が当面する諸問題に関する相談に応じることにより、学生生活の充実と人間的成長を助けることを目的として、学生相談支援室を設けている。

５か年にわたって一貫した教育課程に基づき、豊かな教養と高度の専門技術を体得することを目指している学生諸君には、この期間は、また多情多感な青春時代であり、わずかなゆきづまりから劣等感、無力感などに陥りやすい。個人的面での不満や問題をかかえ、それが克服できないときの苦悩は大きく、時には、そのために大きな不幸を経験しなければならないことさえある。このようなときは、まず担任の先生が相談に応ずるが、その内容や度合いによっては、次のとおり定期的に専門の心理学者により、個別の助言や指導が行われるようになっているので、自発的に進んで相談を受けるようにしよう。なお、相談を受けたいときは看護師に申し出てください。

・カウンセラー

（内　容）学習面…学習意欲がわかない。
心理面…自分自身の性格。友だちとうまくいかない（対人関係）。
その他…家庭的な悩み。眠れない。性の悩み等。

（相談日）毎週１回

・外部相談員

（内　容）主に学習に関すること…進路、単位、修学等。

（相談日）毎週１回

どんなことを話しても個人の秘密を守るので、率直に話し合いながら、自己の問題を自主的に解決できるように助言を受けて、以前にもまして、健全な学生生活を送れるようにしてほしい。

〔出典：学生便覧〕

資料７－２－①－８

保健室

保健室



学生と談話中の看護師

今や本校学生にとって欠かすことのできない保健室と　　看護師。

明るく開放的な室内には常に多くの学生達が集い語らう姿が見られます。

.....

保健管理

本校では、学生の保健管理のために保健室を設け、看護婦が学生の日常生活の健康相談に対応している。応急手当等のほか、健康上必要な助言援助も行っている。また、病気等で保健室で休養している学生については、担任および授業担当に学内メールで連絡している。

４月には、定期健康診断のほか、歯科検診、心臓検診、胸部X線撮影、検尿を実施して学生の健康状態を把握し、精密検査の必要な者には本人に連絡すると共に保護者にも通知するなど、健康状態のチェックには万全の体制をとっている。体育授業、クラブ活動、競技会等において、要注意者には徹底した事前指導を行うとともに、冬季の持久走大会前には参加する全学生の血圧検査と健康状態のヒアリングを実施している。

平成12年度以降の健康診断受診状況を 表-29 に示す。胸部X線撮影、心電図は新入生及び編入生、検尿は全学生をそれぞれ対象として実施した。平成18年まで、胸部X線撮影（間接）で要管理者と診断された学生は出ていない。心電図と検尿の診断結果では要管理者がいるため、該当者には看護婦と担任から本人に対し、専門医の診断を受けるように指導するとともに、健康管理について特に注意するように指導している。心電図の要管理者については、体育の授業担当教官にも連絡するとともに、専門医から指示がある学生については、持久走大会への参加を自粛させている。

平成12年度以降の校内で発生した負傷の時間帯別件数、負傷内容別件数を表-30,31にそれぞれ示す。負傷のうち、内容別では捻挫・骨折が多く、クラブ活動時に発生したものが多い。クラブ活動における準備運動などを徹底させることが必要である。この様な学校管理下にある学生の負傷、不慮の事故等に対応して、学生全員に「日本体育・学校健康センター共済」「学生傷害保険」に加入させて万一の場合に備えている。表-31 に示されたように、クラブ活動を含め学校管理下における負傷件数は例年数多い。

表 -29　定期健康診断受診状況　　（単位：人）

区 分		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
X線（間接）	受診者	821	818	831	854	854	856	169	181	176	174	180	169
	要精密検査	7	4	31	16	6	6	0	0	0	0	0	0
	要管理者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 電 図	受診者	169	171	191	194	194	189	169	181	176	174	180	169
	二次検査	6	6	2	5	13	11	5	9	12	3	11	1
	要管理者	4	2	0	1	4	2	1	1	2	3	3	0
検 尿	受診者	795	797	794	816	852	840	826	835	853	855	855	859
	二次検査	51	57	54	44	59	64	89	39	48	48	34	33
	要管理者	6	12	7	1	6	4	4	5	8	8	2	3

注（対象者）：X線は平成12年度～17年度は全学生。　平成18年より新入生及び編入生に実施。
：心電図は、新入生及び編入生。　平成14年度～16年度は専攻科1年に対しても実施
：検尿は、全学生。

表-30　負傷時間帯別件数　　（単位：件）

区　分	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
クラブ活動	13	21	21	25	23	36	27	23	26	20	19	18
体　育	2	5	8	12	10	14	13	5	10	8	10	5
その他の授業	0	1	0	1	0	4	0	1	2	1	0	4
行　事	3	2	6	8	10	6	6	4	1	2	3	3
実験実習	3	0	1	1	1	0	2	1	2	2	1	1
登下校	0	2	1	2	2	3	2	1	1	0	4	0
休憩時間	2	2	3	1	0	0	2	2	0	4	0	0
寮	4	0	0	0	0	0	1	1	4	1	2	4
計	27	33	40	50	46	63	53	38	46	38	39	35

不慮の傷害に際し、多額の医療費に対する保護者の負担がこの保険制度により軽減され役立っている。また、学生の学校管理下における事故に対する補償、および、学生の教育活動中の事故により、学校に法律上の損害賠償責任が発生した場合の対策として、本校は平成４年度から学校管理者賠償責任保険に加入している。
　一方、現在女子学生数が200名近くに達し、男女間の交際の在り方や性教育が重要な問題となっている。放課後暗がりにいるアベックなど目に余る男女交際の形態については、その都度、学科・学年・氏名を記録して注意するとともに担任へ連絡し、改善されない場合には双方の保護者を召喚して指導している。また、性病やエイズ教育も避けられない問題である。エイズ教育については、特別教育活動の時間を使用し「エイズ講習」を都城保健所の専門家に委嘱して実施している。

表-31　負傷内容別件数　　（単位：件）

内　容	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
骨　折	4	19	23	20	18	24	10	11	10	9	13	7
捻　挫	6	2	3	7	8	11	21	11	10	13	8	8
脱　臼	0	0	2	0	1	4	3	1	0	1	0	1
挫 切 創	10	4	4	6	3	5	6	3	10	6	6	6
靱 帯 創	2	5	3	4	6	4	4	4	4	1	8	3
打　撲	1	3	2	8	8	5	5	5	4	6	4	5
眼	2	0	1	2	1	2	1	1	2	1	0	0
歯	0	0	0	3	1	2	1	0	0	0	0	3
熱　傷	2	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	1
そ の 他	0	0	1	0	0	6	1	2	4	0	0	1
計	27	33	40	50	46	63	53	38	46	38	39	35

〔出典：ホームページ〕

資料７－２－①－９

学生相談支援室

「自分探しをしませんか？」

学生相談室は学生諸君の悩みごと、相談ごとはもちろんメンタルヘルスに関する事業として「自分探しをしませんか」をキャッチフレーズに活動しています。
最近、世の中が変わり、学生だけでなく教育に携わる人々もストレスにさらされています。そのためカウンセラーを１名増員し学生を支える人々も相談ができるように学生相談室は、
『誰でも利用できる相談室』
に拡充されました。

学生相談
・支援室

○ 学生相談室へのメール：（保健室の　　宛です）

学生相談・支援室（E-mail）

学生相談・支援室

本校の学生相談室は平成１２年4月に開設されました。相談室は第1相談室と第2相談室に別れ、学生はもとより、保護者、教職員の悩みや相談事を受けております。第1相談室では2名のカウンセラーが対応し、第2相談室ではアドバイザー（本校の元ベテラン教員）が対応致します。
大きく成長するための一歩として「学生相談室」をご利用ください。
※ご利用は都城高専関係者（在学生・教職員・在学生の父母等）に限らせていただいております。ご了承ください。
※相談内容やプライバシーに関する秘密は固く守られます。
安心してご相談ください。

CONTENTS

ア）学生相談・支援室って何？
イ）学生相談・支援室の相談日は？
ウ）大切な情報（ストーカー、ハラスメント、悪徳商法、薬物等）
エ）2005～2006年の活動と研修（学内のみ参照）
オ）学生相談・支援室の活動のあゆみ（学内のみ参照）
・いままでの活動と研修記録
・6年ごとの相談件数の変遷
・平成18年度学生の意識調査（調査年月：平成18年10月）

ア1）・どんな相談を受けてくれるの？
ア2）・相談はどうすればいいの？
ア3）・相談室の場所はどこ？
ア4）・相談まではないけど、なにか話をしたい？
ア5）・相談スタッフはどんな人？（都城高専相談室のメンバー）
イ1）・相談室カレンダー（都城高専相談室の月別計画）
イ2）・カウンセリングと授業とが重なったときが心配？
ウ1）・安全な学生生活を送るための大切な情報
★1・ストーカー何ですか
2.1）ストーカー規制法を知っていますか？
2.2）ストーカー相談Q＆A
2.3）身を守るための安全チェック　～身近な生活から～

★2・ハラスメント（いやがらせ）について
3.1）ハラスメントとは、何ですか
3.2）ハラスメントの被害にあったら

ウ2）・悪徳商法
4.1）悪質商法とは何？
4.2）悪質商法への対策
4.3）被害者の声
4.4）クーリング・オフ制度
4.5）消費生活センター案内

ウ3）・薬物（シンナー、覚醒剤等）について

〔出典：ホームページ〕

資料７－２－①－10

都城工業高等専門学校学生相談支援室規則

［平成 12 年 4 月 1 日制定］

（設置）
第 1 条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生が当面する諸問題に関する相談に応じることにより、学生生活の充実と人間的成長を助けることを目的として、都城工業高等専門学校学生相談支援室（以下「相談室」という。）を置く。

（業務）
第 2 条　相談室においては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 学生の修学、進路、その他個人的な相談に関すること。
(2) 学生の精神衛生上の必要な相談及び援助に関すること。
(3) 前各号の業務に必要な資料の作成及び調査研究に関すること。
(4) その他相談室に関すること。

（組織）
第 3 条　相談室に次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 室長
(2) 内部相談員
(3) 外部相談員　若干名
(4) カウンセラー
(5) 補助相談員
(6) その他校長が必要と認めた者
2　室長及び内部相談員は、本校の教員の中から校長が任命する。
3　外部相談員及びカウンセラーは、学生相談に関する専門的知識及び経験を有する者に校長が委嘱する。
4　補助相談員は、本校の看護師をもって充てる。

（任期）
第 4 条　室長の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。
2　内部相談員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。
3　室長及び内部相談員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（任務）
第 5 条　室長は、相談室の業務を総括する。
2　内部相談員、外部相談員及びカウンセラーは、室長を補佐し、相談室の業務を処理する。
3　カウンセラーは、専門的な立場から室長、内部相談員及び外部相談員に助言を与え、カウンセリングを指導、援助する。
4　補助相談員は、内部相談員及び外部相談員を補佐するとともに、学生とカウンセラー、内部相談員及び外部相談員との連絡調整等相談室の補助的業務を処理する。

（他との連携）
第 6 条　室長は、必要に応じ副校長と緊密な連携をとり、業務の効果的推進を図るものとする。

（相談室への連絡）
第 7 条　第 3 条に掲げる職員以外の教員が、相談室の職員の助言、援助が必要と思われる学生を認めたときは、速やかに相談室に連絡するものとする。

（相談室運営委員会）
第８条　相談室の円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校学生相談支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
2　委員会の組織及び運営等については、別に定める。
（守秘義務等）
第９条　相談室の職員及び相談業務に関わった職員は、職務上知り得た個人的な秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後といえども同様とする。
2　相談内容をもとに、当該個人に係る不利益な処置等については、一切これを行ってはならない。

（事務）
第 10 条　相談室に関する事務は、学生課学生係において処理する。

（雑則）
第 11 条　この規則に定めるもののほか、相談室に関する必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成 12 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 16 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 18 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 22 年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－11

カウンセリングの受診内容

表Ⅱ2(5)-1　カウンセリングの受診内容

年度		対人関係	性　格	学　業	進　路	寮	恋　愛	家庭問題	健康相談	不登校	その他	計
17	男	6	11	7	10	4	5	2	3	0	47	214
	女	4	14	18	12	1	5	9	7	0	49	
18	男	5	0	3	7	0	4	7	1	0	22	134
	女	10	4	4	13	2	6	16	2	1	27	
19	男	15	14	16	15	3	2	22	10	1	44	318
	女	20	16	10	33	7	6	27	7	2	48	
20	男	8	7	7	7	0	0	2	7	3	41	218
	女	24	15	22	12	5	6	9	7	2	34	
21	男	8	7	10	13	0	0	5	1	0	48	255
	女	26	16	14	17	3	10	22	6	3	46	

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書-　P.24〕

資料７－２－①－12

都城工業高等専門学校日本学生支援機構奨学生の推薦選考基準内規

［昭和 61 年 4 月 1 日制定］

（趣旨）
第 1 条　都城工業高等専門学校の日本学生支援機構奨学生の推薦選考については、この内規によるものとする。
（推薦選考機関）
第 2 条　推薦選考は、厚生補導委員会で行う。
（推薦基準）
第 3 条　推薦基準は、次のとおりとし人物、学力及び家計のいずれも該当するものとする。
（人物）学習活動その他生活の全般を通じて態度、行動力が学生にふさわしく、将来良識ある社会人として活動できる見込みがあること。
（学力）
1　本校での成績が判明していない新入生及び編入学生は、中学校及び高等学校における最終学年の学習成績の評定を全履修教科について平均した値が、3．5 以上の者
2　本校での成績が判明している学生は、本人の属する学級の上位 3 分の 2 以内の者
3　専攻科第二種奨学金を申し込む者で、本校専攻科における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められるもの。
（家計）　日本学生支援機構の基準以内の者
ただし、学力又は家計のいずれかの一つが上記項目に該当しない者であっても、その項目が別紙日本学生支援機構特例推薦基準に該当する場合は、基準を満たしている者として取り扱う。

（選考の方法）
第 4 条　選考の方法は、第 3 条に規定する基準を満たしている者の中から家計の困窮度の高い順に選考するものとする。

附　則
この内規は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。
附　則
この内規は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
附　則
この内規は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
附　則
この内規は、平成 18 年 6 月 26 日から施行する。

別紙
日本学生支援機構特例推薦基準
1　学力
内規に規定した学力に達しない者でも、家計が基準以内であり次の各号の一に該当し、特に人物が優れ、かつ、奨学金を貸与することによって特に優れた学業成績を修める見込みがあると認められる者。ただし、中学校及び高等学校における最終学年の学習成績の評定を全履修教科について平均した値が、3．3 以上の者及び本校での成績が本人の属する学級の上位 4 分の 3 以内の者に限る。
(1) 新入生で、本校の入学試験の成績が入学者（推薦人学者を含む。）の上位 2 分の 1 以内である者
(2) 主たる家計支持者を失った者
(3) 出願前 1 箇年以内において火災・風水害の災害によって著しい被害を受けた者及び著しい被害を受けた者の子弟

(4) 生活保護法による被保護世帯及びこれに準ずると認められる世帯に属する者
(5) 出願者が障害者である者
(6) 原子爆弾による被爆者及び被爆者の子弟

2　家計

日本学生支援機構の収入基準額を超える者についても、学力が基準以内であり、収入基準額を超える金額が収入基準額の 10%程度の額以内の者であって、次の各号の一に該当し、かつ、人物・学力ともに特に優れていると認められる者

(1) 長期療養者のいる世帯に属する者
(2) 障害者である者及び障害者のいる世帯に属する者
(3) 原子爆弾による被爆者及び被爆者の子弟

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－13

奨学制度

31. 奨学制度

1　日本学生支援機構奨学制度について

本学の学生で、学業、人物ともに優秀、かつ、健康で、学資の支弁が困難と認められる者で、将来の奨学金返還に対して明確な自覚と強固な責任遂行の意思をもつ者は、選考の上、日本学生支援機構の奨学生として奨学金の貸与を受けることができる。

(1)　奨学生の貸与月額

種　　類		貸与月額 1・2年	貸与月額 3年	貸与月額 4年	貸与月額 5年	備　考
第1種 奨学生	自　宅	21,000	21,000	45,000	45,000	上段又は下段を選択する
	通　学	10,000	10,000	30,000	30,000	
	自宅外	22,500	22,500	51,000	51,000	
	通　学	10,000	10,000	30,000	30,000	

(2)　貸与期間

貸与期間は、高等専門学校での採用時から最短在学年期間である。ただし、学業成績の低下その他で、貸与の廃止及び停止を受けることがある。

(3)　奨学生の募集及び出願の手続

日本学生支援機構の奨学生募集は、原則として４月に募集している。（第一種１年生、第二種が４～５年生を対象）

ただし、第２次募集として９～10月にかけて、第二種（４～５年生を対象）の募集を行うこともある。

なお、家計の急変が発生した場合は、緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）制度もありますので、申請を希望する場合は、随時受け付けている。

その都度、学生係から掲示等により指示するので、奨学金貸与希望者は、学生係において所定の願書用紙の交付を受け、本人と連帯保証人が必要事項を正確に詳しく記入し提出する。

また、平成16年度以降、機関保証制度が開始された。これは、連帯保証人に代わって保証機関が連帯保証するものである。ただし、保証料が月々の奨学金から差し引かれる。

(4)　奨学生の選考採用

選考の際は提出された願書等により、選考委員会において総合審査し、校長が適格者を日本学生支援機構へ推薦する。採否は日本学生支援機構が決定し、学校へ通知される。奨学生には、奨学生採用通知書及び奨学生証が交付される。

(5)　奨学金の交付

奨学金は、奨学生が取扱銀行に設けた普通預金口座に振り込まれ、毎月11日以降、随時引き出すことができる。

奨学生が、口座から奨学金を引き出す時は、通常の普通預金支払手続による。したがって、預金高の範囲内であれば、随時、任意の金額を払い出すことができる。

(6)　学業成績等の報告

学校では、「適格認定」の報告を、各奨学生からは「奨学生継続願」の提出を毎年日本学生支援機構に行うことになっている。その結果成績不振者には、次の基準により督励される。そのほか、性行不良あるいは奨学生としての責務を怠り奨学生として適当でないときは、奨学金交付を廃止されることがある。

（廃止）

イ．原級にとどまった者

ロ．取得科目数が非常に少なく、他の学生に較べ著しく成績が悪く奨学生には不適と思われる者

（１か年停止）

原級にとどまった者でも、素質が優秀であり、事情やむを得ないと認められ、かつ、成業の見込みがある者

（警告・激励）

成績その他からみて日本学生支援機構名で警告・激励したほうが今後の向上に益すると考えられる者

(7)　異動と届出

奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、所定の様式により早急に届け出なければならない。

イ．休学、長期欠席、復学、転学、又は退学したとき

ロ．停学その他の処分を受けたとき

ハ．連帯保証人を変更したとき

ニ．本人又は連帯保証人の氏名、住所、その他重要な事項に変更があったとき

（注）休学中は奨学金の交付が中止され、２年以上継続する場合は、辞退扱いとなる。

(8)　奨学金借用証書の提出

奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、在学中貸与を受けた奨学金の金額について、連帯保証人及び保証人連署で返還誓約書又は奨学金借用証書並びに奨学金返還明細書を本校を経てただちに提出しなければならない。

イ．奨学金の貸与期間が終了（満期）したとき

ロ．奨学金を辞退、あるいは退学したとき

ハ．奨学金の交付を廃止されたとき

ニ．死亡したとき

(9)　奨学金の返還

日本学生支援機構奨学金は貸与されるものであるから返還の義務があり、この返還金はただちに後輩の奨学金として貸与されるので、日本学生支援機構所定の方法により速やかに奨学金を返還しなければならない。

(10)　奨学金の返還猶予

卒業後、上級学校に進学したとき、災害又は疾病により返還が困難になったときは、願出により返還を猶予されることがある。

(11)　奨学金の返還免除

奨学生又は奨学生であった者が死亡又は不具廃疾となり、返還が不能となったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除されることがある。

2　その他の奨学生

日本学生支援機構奨学生のほか、地方公共団体、民間団体の育英事業、会社等の奨学制度がある。これらの出願資格は特に成績優秀で、かつ、団体の所在地出身に限るものが多い。出願、採用時期もまちまちで、取扱いも異なるが普通新学期開始後に行われることが多い。

手続き等は本人が直接手続きするものと、学校の推薦を必要とするものとがあるので、推薦を要するときは学生係に申し出ること。なお、採用された場合はただちに学生係に報告すること。

〔出典：学生便覧〕

資料７－２－①－14

都城工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予に関する規則

［平成 15 年 4 月 1 日制定］

（趣旨）

第 1 条　都城工業高等専門学校学則（昭和 39 年 4 月 1 日制定）第 33 条第 5 項に基づき入学料の免除及び徴収猶予の取扱いについては、この規則の定めるところによる。

（入学料免除及び徴収猶予の対象者）

第 2 条　入学料免除の対象者は、次の各号の一に該当する特別な事情により納付が著しく困難であると認められる者とする。

(1) 入学前 1 年以内において、本校に入学する者の学資を主に負担している者（以下入学資負担者」という。）が死亡し、又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前項に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合

2　入学料の徴収猶予の対象者は、次の各号の一に該当する特別な事情により納付が著しく困難であると認められる者とする。

(1) 経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

(2) 入学前 1 年以内において、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められた場合

(3) その他やむ得ない事情があると、校長が認める場合

（申請手続）

第 3 条　前条に該当するもので免除及び徴収猶予を受けようとする者は、別に定める願書及び必要書類を添え、入学手続終了の日までに校長に申請しなければならない。

2　免除の申請をした者については、免除の不許可及び半額免除の許可を告知した日から起算して 14 日以内に徴収猶予申請を行うことができる。

（免除及び徴収猶予の許可）

第 4 条　入学料の免除は、前条により受理した本人の申請に基づき、厚生補導委員会（以下「委員会」という。）の議を経て独立行政法人国立高等専門学校機構理事長の承認の上、校長が許可する。

2　入学料の徴収猶予は、前条により受理した本人の申請に基づき、委員会の議を経て、校長が許可する。

（免除の額）

第 5 条　入学料の免除の額は、原則として全額又は半額とする。

（入学料徴収猶予）

第 6 条　免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間は、免除又は徴収猶予の申請をした者に係る入学料の徴収を猶予する。

2　免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除を許可された者（第 3 条第 2 項により徴収猶予を申請した者を除く）については、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して 14 日以内に、納付すべき入学料を納付しなければならない。

3　第 2 条第 2 項に該当し入学料の徴収猶予を許可された者は、入学年度の 9 月 30 日までに入学料を納付しなければならない。

（死亡等による免除）

第 7 条　入学料の免除又は徴収猶予を申請した者で、前条第 1 項により徴収を猶予している期間内において死亡した場合は、未納の入学料の全額を免除する。

2　免除若しくは徴収猶予を不許可された者又は半額免除の許可された者について、前条第 2 項に規定する期間内において死亡した場合は、未納の入学料の全額を免除する。

3　前条第 3 項による徴収猶予を許可された者で、納付期間内において死亡した場合は、未納の入学料の全額を免除する。

4　免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除の許可された者で、納付すべき入学料を納付しないことにより学籍を除いた場合は、未納の入学料の全額を免除する。
5　徴収を猶予した入学料に係る延滞金は、その全額を免除する。
（入学料の免除の許可取消）
第８条　この規則に定める免除及び徴収猶予を許可された者で、許可決定後その理由が消滅し、又は虚偽の事実が判明したときは、委員会の議を経て校長がその許可を取り消す。
附　則
この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行し、平成 15 年度入学者から適用する。
附　則
この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－15

都城工業高等専門学校入学料免除及び徴収猶予選考基準

［平成８年４月１日制定］

（趣旨）

1　入学料免除の選考については、都城工業高等専門学校入学料免除及び徴収猶予に関する規則（平成15年４月１日制定。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この基準によるものとする。

（入学料免除の家計基準）

2　規則第２条第１項に規定する「納付が著しく困難であると認められる者」とは、収入が文部科学省の定めた収入基準額以下の者をいう。

（特別な事情）

3　規則第２条第１項第２号に規定する「校長が相当と認める事由」とは、次の各号の一に該当する者の事由をいう。

(1) 生活保護世帯の者
(2) 母子・父子世帯の者
(3) 学資負担者が長期療養者（出願時現在において、６か月以上にわたる期間療養中の者又は療養を必要と認められる者）である者
(4) 学資負担者が身体障害者である者
(5) 学資負担者が原子爆弾による被爆者である者
(6) 前各号に準じると厚生補導委員会で判断した者

（入学料徴収猶予の家計基準）

4　規則第２条第２項第１号の経済的理由とは入学料免除の家計基準に準じることとする。

（徴収猶予の学力基準）

5　規則第２条第２項第１号の学業成績優秀者とは、次の各号の一に該当する者をいう。

(1) 新入生
入学試験の成績が、全体又はクラスで上位３分の２以内の者及び推薦入学者
(2) 第４学年編入生
(3) 専攻科生
学業成績が３点以上の者及び推薦入学者。ただし、学業成績は取得科目の評価の「優」を５点「良」を３点及び「可」を１点として換算し、その平均点で評価する。
なお、学業成績は出身校における最終学年の成績で評価する。

（徴収猶予家計基準の特例）

6　学力基準を満たしている者で、次の各号の一に該当し、かつ、家計の支出が多額となる特別の事情のある者は、収入基準額を超える金額が10％の額以内であれば、特例として徴収猶予の申請を行うことができる。

(1) 長期療養者がいる世帯
(2) 身体障害者及び身体障害者がいる世帯
(3) 原子爆弾による被爆者及び被爆者の子

附　則

この基準は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この基準は、平成15年４月１日から施行し、平成15年度入学者から適用する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－16

都城工業高等専門学校授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する規則

（趣旨）
第１条　都城工業高等専門学校学則（昭和 39 年 4 月 1 日制定）第 33 条第 5 項の規定に基づく授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除の取扱いについては、この規則の定めるところによる。
（授業料免除の基準）
第２条　授業料の免除は、経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる者について、本人の願い出により選考の上、校長がこれを許可する。
第３条　前条に定めるもののほか、次の各号に掲げる授業料についてもこれを免除することができる。
(1) 死亡又は行方不明のため学籍を除いた場合は、当該学生に係る未納の授業料
(2) 授業料の各期ごとの納期前６月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前１年以内）において、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付が困難と認められた場合は、当該事由の発生した年度の授業料について、当該事由発生の翌期に納付すべき授業料。ただし、当該事由発生の時期が当該期授業料の納付期限以前の場合は、当該期分の授業料

(3) 授業料の未納を理由として退学を命じた場合は、当該学生に係る未納の授業料
(4) 授業料の徴収猶予を許可している学生が、願い出により退学を許可された場合は、月割計算により退学を許可した日の属する月の翌月以降に納付すべき授業料
(5) 休学を許可した場合、月割計算により休学の当月の翌月から復学の当月の前月までの授業料
（授業料免除許可の区分）
第４条　授業料の免除の許可は、前期と後期の区分によるものとし、定められた期日までに受理した申請に対して行うものとする。
２　前項の許可は、当該期限りとし、引き続き免除を必要とする場合は、改めて願書を提出するものとする。
（授業料免除の額）
第５条　授業料の免除額は、原則として各期分の授業料についてその全額又は半額とし、免除の総額は毎年度定められた一定の額の範囲内とする。
（授業料徴収猶予の基準）
第６条　授業料の徴収猶予は、次の各号の一に該当する場合に限り、本人（行方不明の場合は、本人に代わる者）の申請により選考の上、校長がこれを許可する。
(1) 経済的理由により、納付期日までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる場合
(2) 行方不明の場合
(3) 学生又は学資負担者が、災害を受け納付が困難と認められる場合
(4) その他やむ得ない事情があると認められる場合
２　猶予の期間は、前期にあっては 9 月 30 日まで、後期にあっては 2 月末までとする。

３　特別の事情のある学生に対しては、選考の上、その期の授業料について、月割分納を許可することができる。この場合の月割分納額は、授業料年額の 12 分の 1 に相当する額とし、毎月 15 日までに納付させるものとする。ただし、８月分及び３月分は前月の１５日までに納付させるものとする。
（授業料の免除及び徴収猶予の申請）
第７条　授業料の免除又は徴収猶予の許可を受けようとする学生は、別に定める願書及びその他の必要書類を校長に提出するものとする。

２　前項の願書の提出期限は、次のとおりとする。ただし。特別の事情がある場合は、校長がその都度定める。

前期　　４月１０日
後期　　１０月１０日

（寄宿料の免除）

第８条　寄宿料の免除は、次の各号に掲げる寄宿料についてこれを免除することができる。

(1) 死亡又は行方不明のため、学生の学籍を除いた場合においては、当該学生に係る未納の寄宿料

(2) 学生又は学資負担者が、風水害の災害を受け、納付困難と認められる場合は、災害の当月の翌月から起算して６月間の範囲内に納付すべき寄宿料

２　前項に規定する寄宿料の免除については、第７条の規定を準用する。

（授業料等の免除等の決定）

第９条　授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除を行う場合は、委員会の議を経て校長がこれを決定する。

（授業料等の免除等の許可取り消し）

第１０条　この規則に定める免除及び猶予を許可された学生について、許可決定後その理由が消滅し、又は虚偽の事実が判明したときは、委員会の議を経て校長がその許可を取り消す。

附　則

この規則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０年１２月１日から施行し、平成２０年１０月１日から適用する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－17

都城工業高等専門学校授業料免除選考基準

［昭和 62 年 4 月 21 日制定］

（趣旨）

１　授業料免除の選考については、都城工業高等専門学校授業料免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する規則（平成１５年４月１日制定。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この基準によるものとする。

（家計基準）

２　規則第２条に規定する「経済的理由により納付が困難であり」とは、文部科学省が定めた全額免除又は半額免除に係る収入基準額（以下「収入基準額」という。）を超えないことをいう。

（学力基準）

３　規則第２条に規定する「学業成績優秀と認められる者」（以下「学業成績優秀者」という。）とは次の者をいう。

３．１　第１学年から第５学年

(1) 学業成績が、クラスの在籍者者数（休学者を除く。）で上位２分の１以内の者。ただし、学業成績は、前期にあっては前年度学年末の成績、後期にあっては当該年度の前期末成績による。また、当該前期末試験に未受験科目があり、全ての未受験科目の追試験が許可されている者は、当該年度前期の選考基準による学業成績とする。

(2) 前期における新入生の場合は、入学試験の成績が、全体又はクラスで上位２分の１以内の者及び推薦入学の者。なお、推薦入学者は、全体及びクラス、いずれの場合においても、学力試験合格者よりも上位の席次に位置づける。

(3) 第４学年前期の選考における編入学生

３．２　専攻科

(1) 学業成績が３．５以上の者の者。ただし、学業成績は、修得科目の標語の「優」を５点、「良」を３点及び「可」を１点として換算し、その平均点で評価する。なお、学業成績は、前期にあっては前年度学年末の成績、後期にあっては当該年度の前期末成績による。また、前期の選考における新入生の場合は、出身校における最終学年の成績で評価する。

(2) 第１学年前期の選考における推薦入学の者

（家計基準の特例）

４　学力基準を満たしている者で、次の各号の一に該当し、かつ、家計の支出が多額となる特別の事情がある者は、収入基準額を超える金額が１０％の額以内であれば、特例として免除の対象とすることができる。

(1) 長期療養者がいる世帯

(2) 身体障害者及び身体障害者がいる世帯

(3) 原子爆弾による被爆者及び被爆者の子弟

（学力基準の特例）

５　家計基準を満たしている者で、次の各号の一に該当する者は、学業成績がクラスで上位３分の２以内であれば、特例として免除の対象とすることができる。なお、専攻科の学生においては、学業成績が３点以上であれば、特例として免除の対象とする。

(1) 母子家庭

(2) 生活保護世帯

(3) 身体障害者

(4) 原子爆弾による被爆者及び被爆者の子弟

(5) その他特別の事情があると認められる者

（選考方法）
６　前各項に規定する条件を満たしている者の中から、生活困窮度の高い順に選考するものとする。ただし、規則第５条に定められた額を超えて免除を行う必要が生じた場合は、超過免除申請を行うことができるものとする。
（適用除外）
７　次の各号の一に該当する者は、免除の対象から除くものとする。ただし、第３号から第５号の各号の一に該当するもので、特別な事情があると認められる場合は、この限りではない。
(1) １２５ccを超える自動二輪車又は四輪車を使用していると厚生補導委員会で判断した者。ただし、専攻科の学生は除く。
(2) 過去１箇年以内に停学処分を受けた者
(3) 自宅以外のアパート生活をしている者。ただし、以下の者は除く。
1) 寮生定員の関係により入寮不許可になった者
2) 食事制限等の体質により入寮できない者
3) 専攻科の学生
(4) 同一学年を再履修している者
(5) 修業年限を超えた者
(6) 後期の選考において、当該年度前期末試験における未受験科目の追試験許可願を提出しなかった者又は追試験が許可されない科目のある者
(7) その他学校生活状況等により厚生補導委員会が不適当と認めた者

附　則
１　この基準は、昭和６２年４月２１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校授業料免除選考内規（昭和６０年９月１日制定）は、廃止する。

附　則
この基準は、平成７年７月１３日から施行し、平成６年１０月１日から適用する。

附　則
この基準は、平成８年７月５日から施行する。

附　則
この基準は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則
この基準は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則
この基準は、平成１４年１０月１日から施行する。

附　則
この基準は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則
この基準は、平成１６年１０月１日から施行する。

附　則
この基準は、平成１９年１１月２６日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－①－18

奨学金受給者数、授業料免除者数

18　奨学金受給者数

年　度	区　分	1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	合計（人）
19	日本学生支援機構	23	21	14	23	19	9	5	114
	そ　の　他	22	16	17	9	4	0	0	68
	合　計	45	37	31	32	23	9	5	182
20	日本学生支援機構	26	23	21	19	24	9	9	131
	そ　の　他	9	22	18	16	8	0	0	73
	合　計	35	45	39	35	32	9	9	204
21	日本学生支援機構	28	25	24	21	22	7	8	135
	そ　の　他	8	10	22	19	14	0	0	73
	合　計	36	35	46	40	36	7	8	208
22	日本学生支援機構	20	28	25	24	20	9	8	134
	そ　の　他	20	9	10	24	17	0	0	80
	合　計	40	37	35	48	37	9	8	214
23	日本学生支援機構	20	21	27	24	24	6	9	131
	そ　の　他	19	19	10	11	19	0	0	78
	合　計	39	40	37	35	43	6	9	209

19　授業料免除者数

年　度	区　分	全額免除	半額免除	計（人）
19	前期	45	61	106
	後期	45	69	114
20	前期	45	42	87
	後期	45	59	104
21	前期	45	37	82
	後期	49	49	98
22	前期	28	21	49
	後期	25	16	41
23	前期	26	22	48
	後期	38	8	46

〔出典：基礎データ集〕

（分析結果とその根拠理由）

学生の生活上の支援は，学級担任，学生指導部及び学生相談支援室が，それぞれに応じた立場で指導・相談・助言等を行っている。したがって，学生の生活に係わる指導・相談・助言を行う体制を十分整備しており，機能している。経済的支援として，就学支援金制度，奨学制度並びに入学料及び授業料の免除及び猶予制度を整備している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生は，優先的に学生寮に入寮できる。指導・支援体制としては，主に学級担任，教務指導部・学生指導部・寮務指導部の留学生担当教員及び学生課が，留学生の生活面における指導・支援を担当している。さらに，各留学生と同じクラスから選考されたチューター学生が，学業面・生活面のアドバイザーの役割を果たしている（資料７－２－②－１～２）。学生寮における事務連絡等は，必要に応じて放送で呼び出している。また，留学生に対しては，長期休業開始前に生活面のアドバイスも行っている（７－２－②－３）。

障害のある学生の受入経験がないことから，学習支援体制は未整備であるが，身障者に対する施設のバリアフリー化は行っている。

観点７－２－②　資料一覧

資料７－２－②－１　チューター配置一覧

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－②－２　チューター手引

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－②－３　夏期休業中の注意事項

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－②－１

チューター配置一覧

平成22年度外国人留学生及びチューター

留学生		チューター		備考
学年・学科	氏　名	学年・学科	氏　名	
3M		3M		2/23　飯尾先生(2M担任)から連絡
3A		3A		1/27　中村孝至先生(3A担任)から連絡
4M		4M		2/9　豊廣先生(3M担任)から連絡
4C		4C		2/2　岡部先生(3C担任)から連絡
4A		4A		1/27　中村孝至先生(3A担任)から連絡

平成23年度外国人留学生及びチューター

留学生		チューター		備考
学年・学科	氏　名	学年・学科	氏　名	
3C		3C		3/24　山下C科長から推薦
4M		4M		3/4　河野M科長から推薦
4A		4A		2/15　原田A科長から推薦

平成24年度外国人留学生及びチューター

留学生		チューター		備考
学年・学科	氏　名	学年・学科	氏　名	
3C		3C		2/29　山下C科長から推薦
4C		4C		2/29　山下C科長から推薦

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－②－２

チューター手引

チューターのみなさんへ

１　はじめに

本校は、平成５年度から毎年、アジア地域を中心として２～３名の外国人留学生を第３学年に受け入れています。

留学生が日本の高度の専門知識、科学技術を修得して高専を卒業するためには、本校のカリキュラムにそって勉強するのは当然ですが、その前にまず日本語の勉強や衣食住について、日本の生活習慣を身につけなければなりません。

本校では、早く日本の生活に慣れるように各留学生に入学してから２年間、本校学生がチューターとして、修学や生活の面で相談相手となることになっています。

チューターとなった皆さんは、留学生の良き友達として献身的なお世話をしていただきたいと思っています。そのためには留学生の指導教員（担任）や学生課職員との連絡を密にしていただき留学生が無事卒業できるよう、また各留学生の留学目的が達成できるよう支援をお願いします。

この資料は、チューターの皆さんに心掛けていただきたいことを簡単に記載していますので参考にしてください。

２　チューターの心構えについて

チューターとなった皆さん、チューターを引き受けられた動機、理由はそれぞれ異なることでしょうが、引受けた以上留学生のために、良き理解者、良き相談相手となってください。そしてあなたにとっても、良き友人となるよう誠意を持って接してください。

学校では指導教員（担任）をはじめとして、多くの教職員が留学生の世話を行っています。チューターやその他の関係者が留学生に接するときに必要な心構えは、その担当する地位、職務内容等によって当然違いますが、一応以下のことについて心得ていてください。

１　留学生は、まず先に外国人であるとの認識

日本人学生と同じ扱いでよい、特別扱いは不要であるという考え方は疑問です。留学生にとって母国と異なる言語、日本文化・習慣等は大きなハンディです。日本人学生と同じ生活ができる程度まで、日本語をはじめ様々の支援をしなければなりません。

２　相手の身になって考える

自分が相手の立場であれば、どうして欲しいか。自分が外国に留学していると仮定し、よく考えて対応してください。

３　温かい世話

修学上の問題、生活上の問題など来日当初は、戸惑うことも多いはずです。親身になって相談に応じてください。

４　日本人の考え方や日本の生活を強制しない

外国人には外国人の生活の仕方があります。例えば、肉食（牛肉、豚肉）の禁止、禁酒、菜食主義、毎日のお祈り、服装の決まり等、これらはすべて母国の宗教、伝統文化に根ざしたものであり、最大限の配慮が必要です。日本人の作法を教え、日本の生活習慣に慣れさせることは必要ですが、強制しないでください。

5　人種的偏見を持たない

人種、民族、国家を超え、人類はもはや地球市民として、みんなで協力して生きていかなければならない時代です。アジア人も欧米人もみんな平等です。

6　中途半端な対応はしない

留学生対応の心構えとして、「イエス」、「ノー」をハッキリいう必要があります。重要なことについては、「多分、おそらく、だろう」といった曖昧な返事をしないように注意してください。

7　学校の規則、習慣を杓子定規に振りかざさない

留学生にとって、日本語の必要書類を所定の期限までにきちんと作成し、提出することは、難しいことです。事前のガイダンスでは、念には念を入れてください。留学生が、たとえ「わかりました」と言っても、細部まで理解されていないことが多いことを心得ていてください。

8　時には指導も必要である

留学生のルーズ、わがまま、自分勝手な行動（例えば約束、時間、期限を守らない。）については、時には厳しく指導してください。

9　新聞を通して世界の動きを見る

留学生の母国の動きを知れば、話題も豊富になります。

10　言葉遣い、正しい日本語

留学生の日本語は とかく「てにをは」がおかしいものです。正しい日常会話ができるよう、相手のプライドを傷つけないよう配慮しながら、アドバイスしてください。

11　チューターは、留学生と指導教員のパイプ役

チューターと指導教員は、一体となって留学生のサポートをしなければなりません。そのためには、チューターは、日頃から留学生の様々な相談に応じてください。

12　日本人の友達

留学生は、日本人の友達を求めています。チューターは友達を紹介するなどして、留学生が友達を作るチャンスを与えてください。

3　留学生の支援体制

留学生にとって留学生活は、大変な大事業です。精神的な悩みは我々日本人にとっては想像を絶するものがあることと思います。最悪の場合は、ストレスのため学業を断念し、帰国せざるを得ないこととなるかもしれません。本校の留学生として受け入れた以上、教職員はもとより、一般学生も留学生のためにできる限りの支援をしていただきたいと思います。

留学生にとって、日本の文化、生活様式は特異なものであり、渡日の途端にまず、カルチャー・ショックを受けることでしょう。このような留学生が直面する衣食住に始まる諸々の悩みをどう解決するか、本校における留学生の支援体制は次のようになっています。

支　援　組　織	分　担　業　務
教務指導部 学生指導部 寮務指導部	教務、課外活動、保健衛生、寮生活等に関する指導
指導教員 （学級担任）	留学生に適合するように特別に編成した教育課程の学習その他生活面等に関して、必要な指導助言を与えます。本校では、留学生の所属するクラスの担任が担当します。
チューター	入学後の２年間については、すべての留学生に同じクラスの学生がチューターとなって、修学上や日常生活上の相談に応じて援助、助言を行います。指導教員と連絡をとりながら留学生が、安心して留学生活を送れるよう支援する役割を担うこととなります。

＊参考　都城工業高等専門学校外国人留学生規則（抜粋）

（教育課程）

第７条　留学生の教育課程は、留学生に適合するように特別に編成することができる。

第８条 留学生に対し、前条の特別な教育課程の学習その他生活面等に関して、必要な指導助言を与えるため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

（チューター）

第９条　留学生の学習上の援助及び日常生活上の助言を行うため、チューターを置く。

２　前項のチューターは、学生の中から留学生の在籍する学科長の推薦に基づき校長が委嘱する。

４　チューターの仕事例

チューターの具体的な仕事は、留学生がどれだけ生活上の援助を求めるか、即ち留学生のニーズの問題であり、自分でできることは無理にアドバイス等の必要はありません。チューターにわからないことは、指導教員（学級担任）や学生課と相談してください。

１　日本語指導

・日常生活に必要な会話ができ、買い物等ができるように日本語会話能力の向上を図る。

２　履修指導

・予習・復習のアドバイス、学務関係手続きの指導

３　主な日常の世話（特に入学時）

・市内案内、買い物等の案内

・課外活動の紹介

・病院紹介・案内

４　各種交流事業の紹介・案内

５　留学生指導教員（学級担任）への連絡

・留学生の現況について、適宜、連絡・報告

５　チューター謝金について

チューターの仕事に対し、１時間につき８００円の謝金が支給されます。（ただし、予算の都合により年間１００時間まで）

チューターの仕事を行った場合は、毎月、業務実施確認表（別紙様式）を作成し、学級担任（指導教員）から確認者印をもらって、翌月２日（２日が休日の場合は３日以降の平日）までに学生課寮務係に提出してください。ただし、７月分は７月１２日（木）までに、１２月分は１２月２１日（金）までに、３月分は３月１日（金）までに提出してください。

チューター謝金は、次のとおり銀行振込とします。

４月～　６月分　　７月振込
７月～　９月分　１０月振込
１０月～１２月分　　１月振込
１月～３月分　　３月振込

（注）　業務実施確認表は、毎月忘れずに提出してください。チューター全員分の業務実施確認表が揃ってから謝金の支給手続きをしますので、１人でも提出が遅れると、決められた月に振込ができなくなります。

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－②－３

夏期休業中の注意事項

寮務主事 | 教務主事 | 学生課長 | 課長補佐 | 教務係長 | 教務係 |

※ 留学生とホストファミリーの懇談会終了後，留学生へ説明済
・教務主事，寮務主事，学生課長 同席．

平成２３年７月４日

留学生のみなさんへ

夏季休業中の注意事項について

１．７月１９日と７月２０日が特別休業、その後８月３１日まで夏季休業です。
２．宿直の先生は、合宿のためにクラブ顧問の先生がだれか１人はおられますが、一般的な生活指導は特にされませんので、留学生のみなさんはそれぞれ規律ある生活を行う必要があります。
　夜間は、外部の者が寮敷地内に出入する場合がありますので、玄関、窓の戸締を必ずしてください。
　また、火（ガス）を使う場合は、取り扱いにも十分気をつけてください。
　日本の夏は、お盆（８月中旬）といって、都会で働いている多くの人がふるさとに帰って来ます。交通事故の多い時期ですので、学校外に出る場合は、車両等に十分気をつけてください。
３．在寮している留学生は、毎日、午後９時００分頃に、正門のガードマン（内線１１１２）へ帰寮している人の氏名を電話で報告してください。
　なお、その時間に帰寮できない人は、帰寮する時間を電話等で連絡して、帰寮した時にガードマンに電話で報告してください。
４．寮以外のところに泊まる場合は、事前に別紙「外泊届」を寮務係またはガードマンへ提出してください。（急に泊まることになった場合も寮務係またはガードマンに電話などで連絡してください。）
５．帰国または旅行をする場合は、別紙「帰国・旅行届」に学級担任の印鑑をもらって、学生課（　　）に提出してください。
　なお、寮を出発する時と寮へ帰った時は、寮務係に連絡してください。
６．ホームスティを希望する場合は、事前に学生課（　　）へ相談してください。
７．アルバイトをする場合は、入管に資格外活動許可申請書を提出する必要がありますので、アルバイトをする３週間前までに学生課（　　）へ相談してください。
８．休み期間中にトラブルがあった場合は、ガードマンや別紙「平成２２年度夏季休業中の留学生緊急連絡用電話一覧」の教職員の誰かに連絡してください。

その他．
３Ｃ　　さんへ（教務主事から）
夏季休業終了後，９月２日に実力テストがあるので，しっかり勉強しておくこと．

平成23年度留学生夏季休業中予定表（7月16日～8月31日）

月	日	曜日							備　考
7	16	土	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	旅行	
	17	日	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	18	月	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	19	火	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	20	水	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	21	木	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	22	金	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	23	土	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	24	日	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	帰国	
	25	月	在寮	在寮	在寮	インターンシップ	在寮	帰国	
	26	火	在寮	在寮	在寮	インターンシップ	在寮	帰国	
	27	水	在寮	在寮	在寮	インターンシップ	在寮	帰国	
	28	木	在寮	在寮	在寮	インターンシップ	在寮	帰国	
	29	金	在寮	在寮	在寮	インターンシップ	在寮	帰国	
	30	土	在寮	旅行(東京)	在寮	旅行	在寮	帰国	
	31	日	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
8	1	月	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	2	火	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	3	水	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	4	木	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	5	金	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	6	土	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	7	日	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	8	月	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	在寮	帰国	
	9	火	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	10	水	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	11	木	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	12	金	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	13	土	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	14	日	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	15	月	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	16	火	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	17	水	旅行(大阪)	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	18	木	旅行(大阪)	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	19	金	旅行(大阪)	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	20	土	旅行(大阪)	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	21	日	在寮	受験(北海道)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	22	月	在寮	受験(北海道)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	23	火	在寮	受験(北海道)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	24	水	在寮	受験(北海道)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	25	木	在寮	受験(北海道)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	26	金	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	27	土	在寮	旅行(東京)	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	28	日	在寮	在寮	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	帰国	
	29	月	在寮	在寮	在寮	帰国	旅行(アメリカ)	旅行	
	30	火	在寮	在寮	在寮	帰国	在寮	旅行	
	31	水	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	在寮	

取 扱 注 意

平成23年度夏季休業中の留学生緊急連絡用電話一覧

【留学生】

学年学科	氏　名	電　話	E-mail
3C			
4M			
4A			
5M			
5C			
5A			

【教職員】

職 名 等	氏　名	電話(学校)	電話(自宅又は携帯)	E-mail
5A学級担任				
5C学級担任				
5M学級担任				
4A学級担任				
4M学級担任				
3C学級担任				
教務主事				
教務主事補				
学生主事				
学生主事補				
寮務主事				
教務係長				
寮務係				
ガードマン				

ユーザ名: 教務係 njgkyoumu
タイトル: 留学生情報 : *

2011年7月11日 10:20:30
ページ 1 / 1

差出人: 教務係 njgkyoumu　2011年7月6日 13:18:12

件名: 留学生情報

宛先: 教務指導部連絡箱　寮指導部連絡箱　学生指導部連絡箱

添付ファイル:
- Taro-23夏季休業中注意事項.pdf　85K
- 23留学生予定・点呼表:夏季.xls　41K
- 23夏季留学生緊急連絡用電話一覧.xls　33K

関係各位

夏季休業中の留学生の予定等について、添付ファイルのとおりお知らせいたします。
夏季休業中の注意事項については、留学生を集めて説明しました。
今回は、夜の点呼報告(毎日21時頃に内線電話で正門ガードマンさん(内線1112)へ連絡)は8月8日までは　　君へ、8月9日以降は　　君と　　君へお願いしました。

教務係

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

入学当初のオリエンテーションにおいて，留学生は生活面の基本的なアドバイスを得ることができる。また，学生寮に優先的に入寮することができる。職員側では，学級担任，教務指導部・学生指導部・寮務指導部の留学生担当教員及び学生課により，留学生の指導体制を整えている。留学生は，普段，生活面でのアドバイスを身近なチューター学生に求めることができる。したがって，留学生の生活面での支援は適切に行っている。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

教育理念及び学習・教育目標の達成に資することを目的とした教育寮として，学生寮を設置しており（資料７－２－③－１），平成24年４月現在で304名の学生が生活している（資料７－２－③－２）。寮の居室は２人部屋を原則とし，人数分の学習机，ベッド，収納等を整備している。また，洗濯室，共同浴場，集会室兼食堂，ラウンジ等も整備している（資料７－２－③－３～５）。寮生活では，寮日課を定めており，寮指導部が管理している（７－２－③－６～８）。また，教員及び警備員が宿直し，不測の事態に備えている。宿直教員は，学習時間において低学年生居室を巡回し，学習指導や健康状態等をチェックしている（資料７－２－③－９）。学習時間外の学習を希望する者に対しては，適宜学習室の提供や延灯措置等により希望に応じている（資料７－２－③－10～11）。寮生と通学生との定期試験における成績（平均点）を比較して見ても，ほぼ同程度か寮生の平均点が高い場合が多く，教育寮として機能している（資料７－２－③－12）。

また，寮の自治組織として寮生会があり，寮指導部と連携しながら自治運営している（資料７－２－③－13）。

観点７－２－③　資料一覧

資料７－２－③－１　都城工業高等専門学校寄宿舎規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－③－２　寮生数等の推移
〔出典：データ集〕

資料７－２－③－３　寮館内図
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－４　設備一覧
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－５　整備状況
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書- P.35〕

資料７－２－③－６　寮生規範
〔出典：学生便覧〕

資料７－２－③－７　寮生活日課
〔出典：学生便覧〕

資料７－２－③－８　寮指導体制
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－９　学習巡回記録
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－10　学習室の数及び利用実績・学習室利用実績に関する資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－11　延灯措置に関する実績資料あるいは延灯に関する規則等
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－12　中間（期末）試験の成績表
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書- P.32〕

資料７－２－③－13　都城工業高等専門学校高千穂寮寮生会規約
〔出典：規則集〕

資料７－２－③－１

都城工業高等専門学校寄宿舎規則

［平成６年１月 24 日制定］

（趣旨）
第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 49 条第２項の規定に基づく、本校における寄宿舎（以下「学寮」という。）の管理運営については、この規則の定めるところによる。
（学寮の目的）
第２条　学寮は、学生の修学に便宜を供与し、かつ、共同生活を通じて人間形成を助長し、本校の教育理念及び教育目標の達成に資することを目的とする。
（名称及び構成）
第３条　本校の学寮は、高千穂寮と称する。
２　高千穂寮には、男子寮と女子寮を置く。
（遵守義務）
第４条　学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、第２条に掲げる目的の達成のため、この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規則を遵守しなければならない。
（学寮生活の基本）
第５条　寮生は、相互に敬愛啓発して自己及び共同生活の向上に努め、寮生活の充実に心掛けなければならない。
２　寮生活の規律を規定した寮生規範は、別に定める。
（所管）
第６条　寄宿舎の管理運営に関する事項は、校長の命を受けて、寮務主事が処理する。
（入寮）
第７条　自宅外通学生は、校長の許可を受けて入寮することができる。ただし、校長が特別に許可した場合は、自宅通学生を入寮させることができる。
２　疾病その他の事由により共同生活に適さないと認めた者は、入寮を許可しない。
３　入寮を希望する者は、別紙様式第１号による入寮願を提出し、寮務主事の選考を経て校長の許可を得なければならない。
４　入寮の許可は当該年度限りとし、翌年度も引き続き入寮を希望する者でも、前項の手続を行わなければならない。
５　入寮の時期は、学年初めを原則とする。
６　入寮募集及び選考に関し必要な事項は、別に定める。
（入寮手続）
第８条　入寮を許可された者は、指定された期日までに別紙様式第２号による入寮誓約書を提出し、入寮手続きをしなければならない。

２　入寮を許可された者が前項の手続きをしないときは、その許可を取り消すことができる。
（居室の決定）
第９条　寮生の居室の決定及び変更は、寮務主事が行う。
（退寮）
第10条　寮生が退寮を希望するときは、別紙様式第３号による退寮願を提出して、校長の許可を受けなければならない。
２　本校の学則及び学生準則並びにこの規則に違反した者、又は、教育上、病気及びその他の事由により共同生活に適さないと認めた者に、校長は退寮を命じることがある。
３　退寮の許可を受けた者又は退寮処分を受けた者は、直ちに退寮しなければならない。
（生活区域）
第11条　寮生は、別に定める異性の生活区域に立ち入ってはならない。
（居室への立ち入り）
第12条　厚生補導、学習指導及び学寮施設の管理上において必要がある場合は、本校教職員又は本校の委託を受けた業者が居室に立ち入ることができる。

（寮生会）
第 13 条　学寮に寮生全員で構成する寮生会を置く。
2　寮生会は、寮務主事の指導の下に、寮生の自主的活動を通じて共同生活を自律的に運営し、学寮の目的達成に資することを目的とする。
3　寮生会は、規約を制定及び改廃しようとするときは、校長の承認を受けなければならない。
（門限）
第 14 条　学寮の目的達成及び秩序維持のため、男子寮、女子寮及び学年等の特性に応じて、門限時刻を別に定める。
2　寮生は、外出、外泊、旅行及び帰省した場合には、前項の門限時刻を厳守しなければならない。
（外出、外泊、旅行及び帰省）
第 15 条　寮生が外出、外泊、旅行及び帰省をする場合の必要な手続きは、別に定める。
2　本校学則第 5 条に定めた休業日以外の帰省泊及び外泊は、原則として認めない。ただし、あらかじめ寮務主事を経て校長の許可を受けた場合は、その限りでない。
（開寮及び閉寮）
第 16 条　学寮は、春季、夏季及び冬季休業の終る日に開寮し、春季、夏季、冬季及び学年末休業の始まる日に閉寮する。
2　学寮は、春季、夏季、冬季及び学年末休業中は閉寮する。
3　寮務主事は、前 2 項により難い事由があるときはこれを変更することができる。
（外来者との面会及び外来者の立ち入り等）
第 17 条　外来者との面会は、寮務主事、寮務主事補、宿日直者又は係官（以下「関係教職員」という。）の許可を待て指定された場所で行うものとする。
2　門限時間以降の面会は、原則として禁止する。ただし、やむを得ない事由があると関係教職員が判断した場合には、これを許可することがある。
3　外来者が見学等のため、寮内に立ち入りを希望する場合は、関係教職員の許可を受け、その指示に従わなければならない。
4　外来者は、校長が特別に許可した場合を除き、学寮の施設設備を使用してはならない。
5　外来者が学寮に宿泊することを禁止する。ただし、やむを得ない事由があると校長が判断した場合には、これを許可することがある。
（寄宿料等）
第 18 条　寄宿料の月額は独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 35 号）の定めるところにより納付するものとする。
2　寄宿料は、学寮に入寮した日の属する月から退寮する日の属する月まで毎月 20 日までにその月の分を納付しなければならない。ただし、8 月分は 7 月 20 日までに納付するものとする。
3　寮生の生活上、各人が負担すべき経費（以下「寮費」という。）は、別に定めるところにより納付しなければならない。
4　寮生又は寮生の学資を主として負担している者が災害を受け、納付困難と認められる場合は、別に定めるところにより寄宿料を免除することがある。
5　寄宿料及び寮費を納付しない者は、退寮させることがある。
（防災安全）
第 19 条　寮生は、火災その他の災害の防止について常時注意するとともに、学校が行う防火訓練その他の措置について協力しなければならない。
2　火気の使用は、指定の場所以外でしてはならない。
3　寮生は、災害又は事故の発生を知った場合は、直ちに、関係教職員にその旨を報告し、以後職員の指示に従って行動しなければならない。
4　寮生は、危険防止のため、居室棟の廊下、階段及びその周辺に物を置いてはならない。

（保健衛生）
第 20 条　寮生は、各自健康の維持及び増進に留意するとともに、学寮内の清潔に努めなければならない。
2　身体に異常があるときは、関係教職員に届け出て適切な指示を受けなければならない。
3　校長は、伝染病の発生及びその他の事由により必要がある場合、健康診断及び予防接種の実施、その他寮生の健康を守るための必要な処置をとることがある。
（施設・設備の使用）
第 21 条　学寮の施設・設備の使用については、別に定める。
（注意義務及び損害賠償等）
第 22 条　寮生は、学寮の施設・設備及び備品を常に愛護の精神をもって使用しなければならない。
2　寮生が故意又は重大な過失により施設、設備及び備品を損傷し、又は焼失若しくは紛失したときは、これを現状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。
（雑則）
第 23 条　この規則に定めるもののほか、学寮運営について必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成 6 年 1 月 24 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－③－２

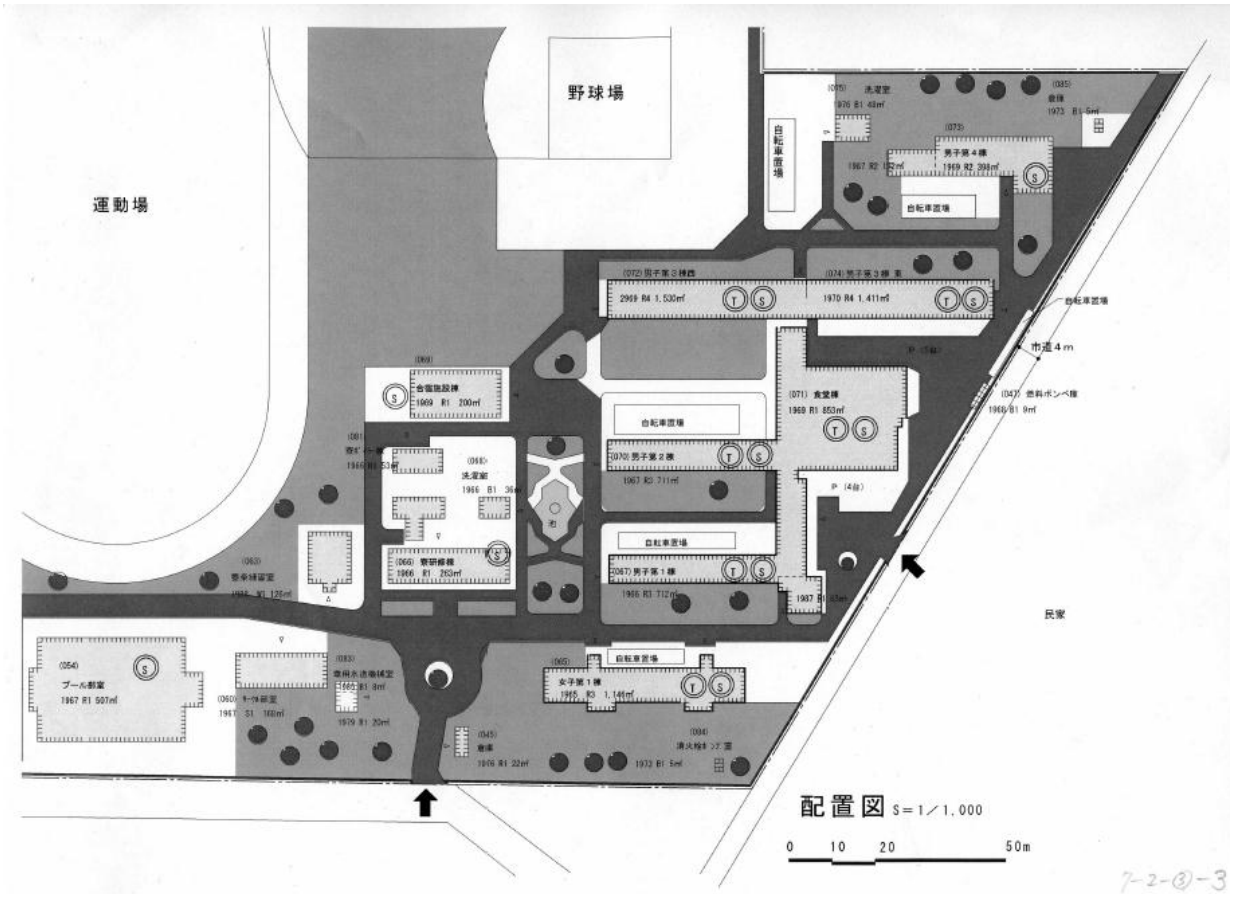
寮生数等の推移

年　度	定　員	全寮生数	男子寮生	女子寮生	留学生数	入寮率	女子比率
平成２０年度	384	282	232	50	3	73.4	17.7
平成２１年度	384	271	224	47	6	70.6	17.3
平成２２年度	384	291	242	49	6	75.8	16.8
平成２３年度	384	309	255	54	6	80.5	17.5
平成２４年度	384	304	250	54	3	79.2	17.5

〔出典：データ集〕

資料７－２－③－３

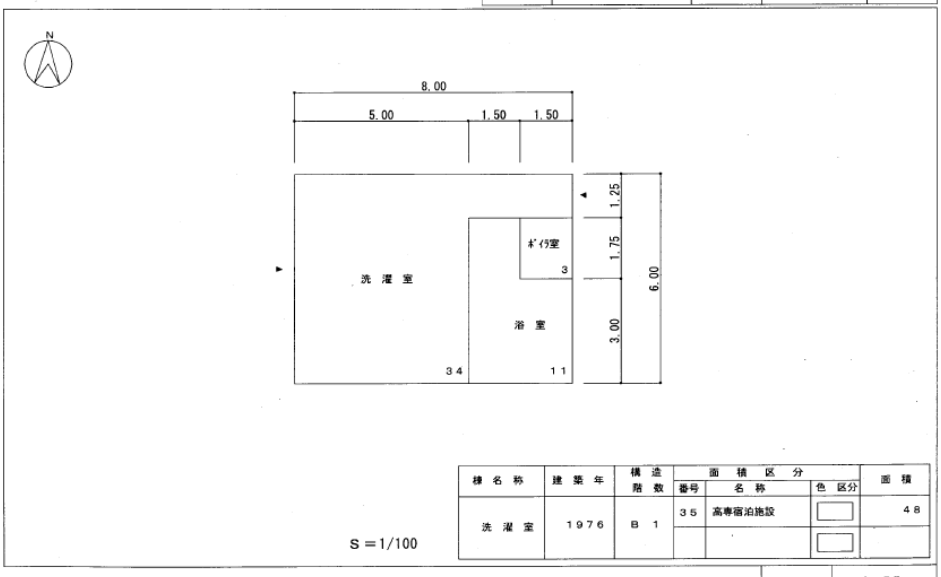
寮館内図



棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態報告　（様式３）

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	075



S＝1/100

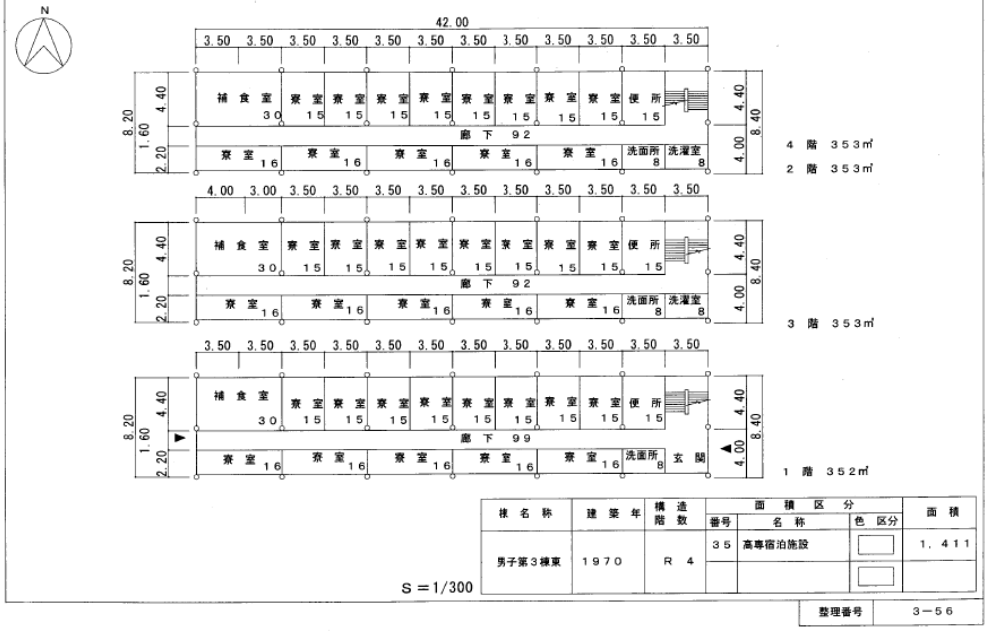
棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
洗濯室	1976	B 1	35	高専宿泊施設		48

整理番号	3－57

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	074



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
男子第3練東	1970	R 4	35	高専宿泊施設		1,411

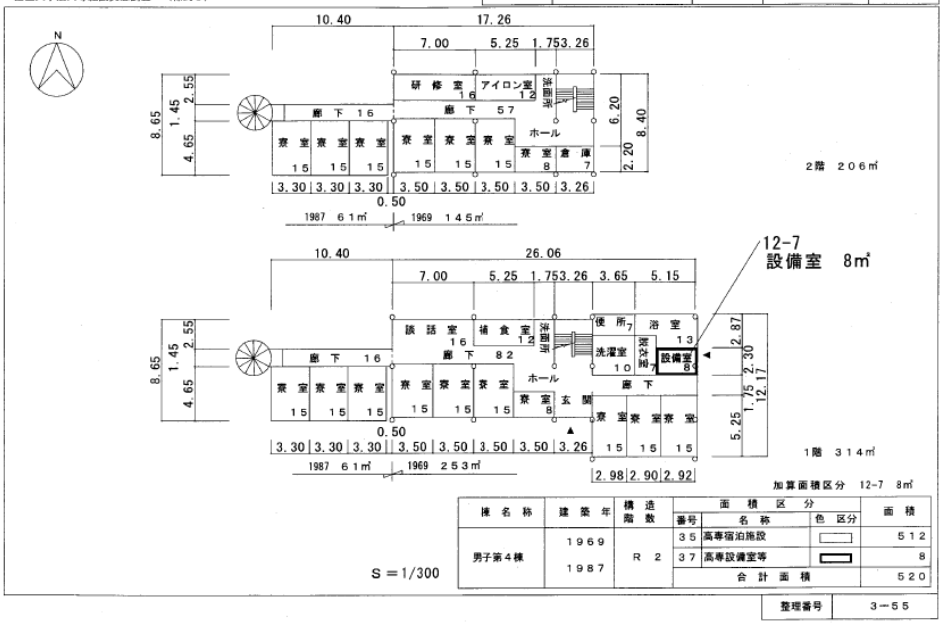
S＝1/300

整理番号	3－56

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	073



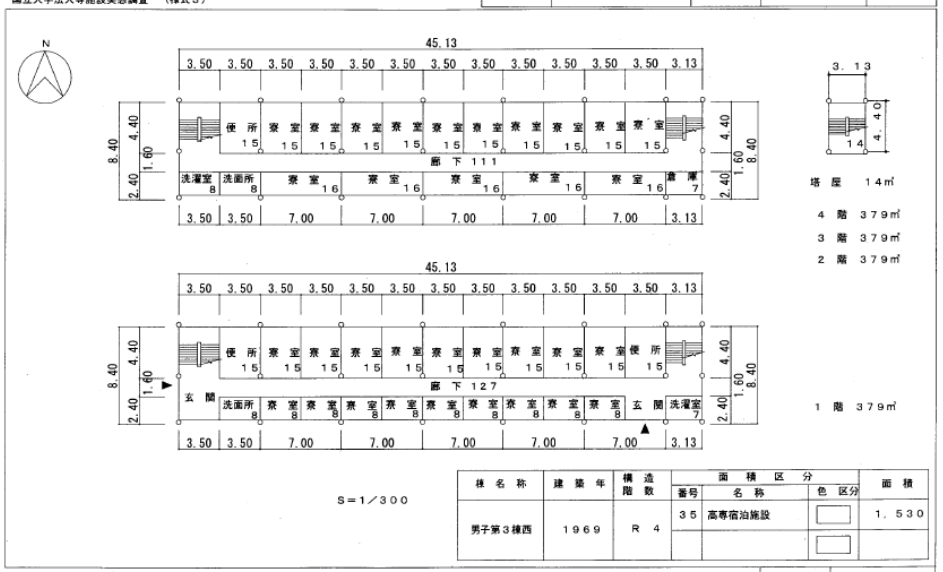
棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
男子第４棟	1969 1987	R 2	35	高専宿泊施設		512
			37	高専設備室等		8
			合計面積			520

整理番号	3－55

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	072



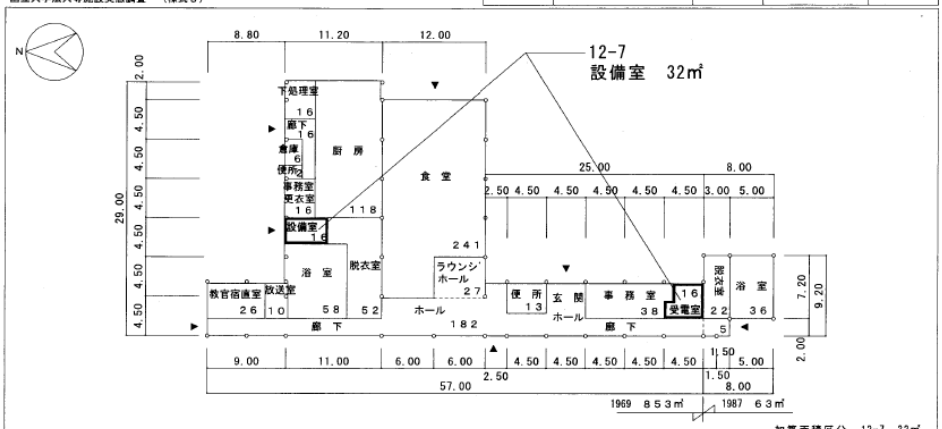
棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
男子第３種西	1969	R 4	35	高専宿泊施設		1,530

整理番号	3－54

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	071



S＝1/400

加算面積区分　12-7　32㎡

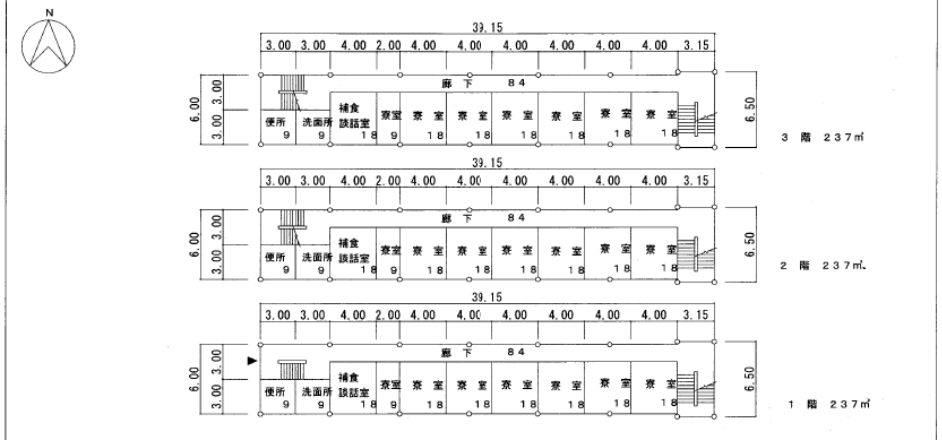
棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
食堂棟	1969 1987	R 1	35	高専宿泊施設		884
			37	高専設備室等		32
			合計面積			916

整理番号	3－53

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	070



S＝1/300

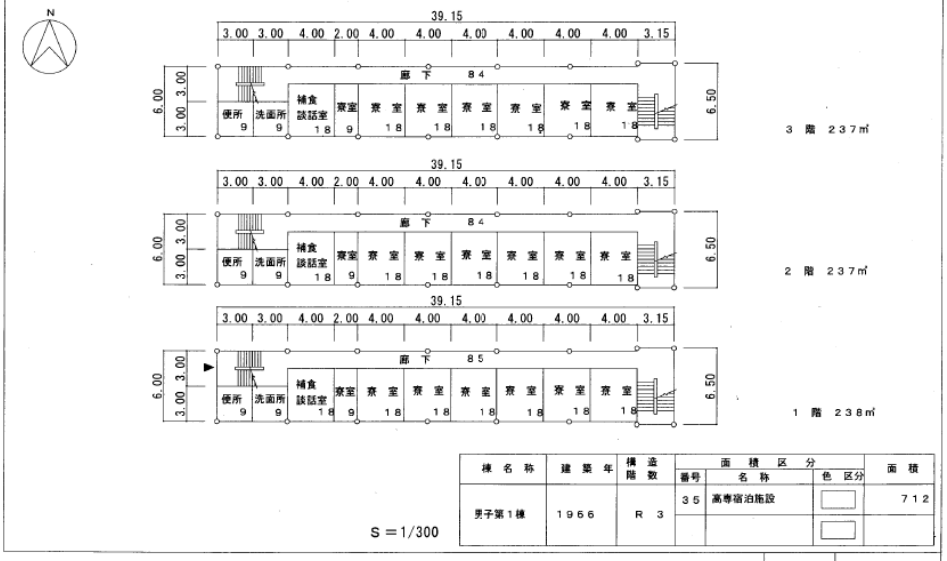
棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
男子第２棟	1967	R 3	35	高専宿泊施設		711

整理番号	3－52

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	067



S＝1/300

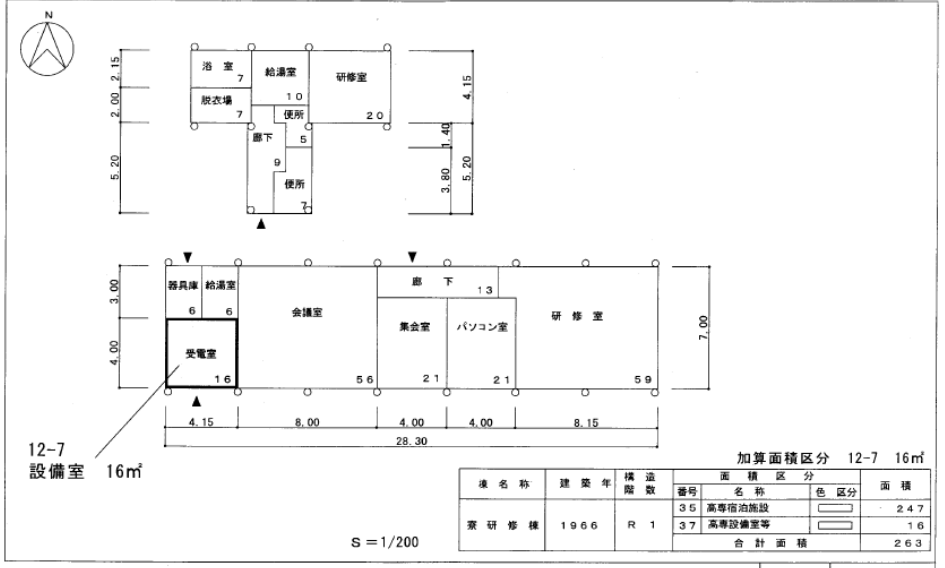
棟名称	建築年	構造階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
男子第１棟	1966	R 3	35	高専宿泊施設		712

整理番号	3－49

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態報告　（様式３）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	066



S＝1/200

加算面積区分　12-7　16㎡

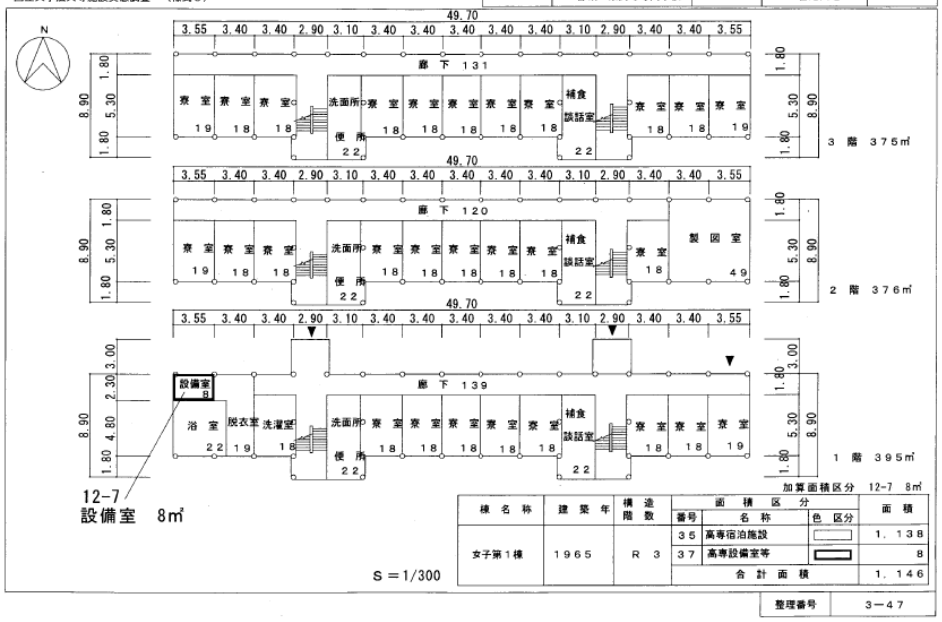
棟名称	建築年	構造階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
寮研修棟	1966	R 1	35	高専宿泊施設		247
			37	高専設備室等		16
			合計面積			263

整理番号	3－48

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態調査　（様式３）

学校番号	学　校　名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	065



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
女子第１棟	1965	R 3	35	高専宿泊施設		1,138
			37	高専設備室等		8
			合計面積			1,146

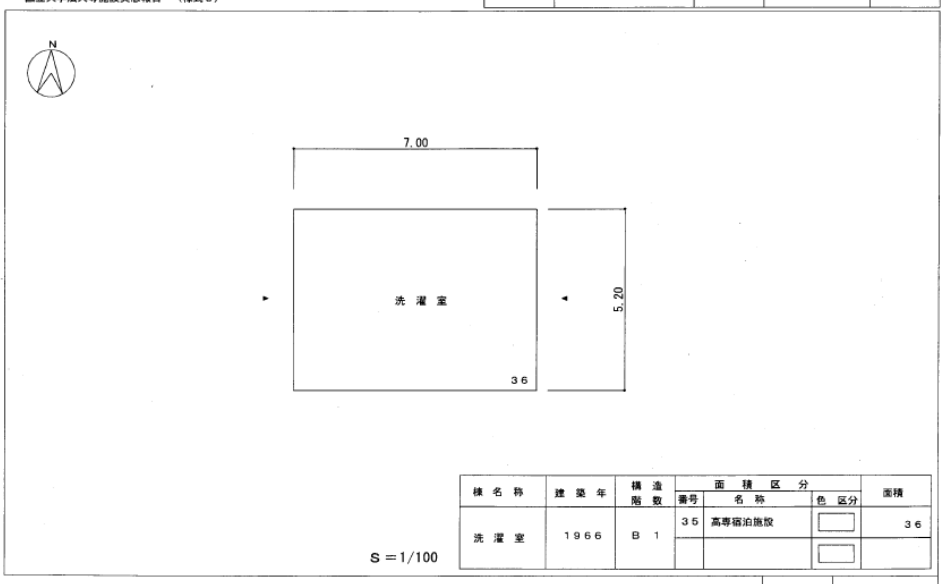
加算面積区分　12-7　8㎡

整理番号	3－47

棟　別　平　面　図

国立大学法人等施設実態報告　（様式３）

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6712	都城工業高等専門学校	001	吉尾団地	068



棟名称	建築年	構造 階数	面積区分 番号	名称	色区分	面積
洗濯室	1966	B 1	35	高専宿泊施設		36

整理番号	3－50

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－４

設備一覧

談話室名	電子レンジ	トースター	給湯器	IHコンロ	冷蔵庫	製氷機	テレビ	ビデオデッキ
男子第１棟談話室(高学年)	3	3	3	3	3		3	
男子第２棟談話室(高学年)	3	3	3	3	3		3	
男子第３棟談話室	7	7	4	4	11	1	4	4
男子第４棟談話室	2	2	1	2	2	1	2	
女子第１棟談話室	3	3	3	3	3	1	3	1

洗濯棟名	洗濯機	電気衣類乾燥機	ガス衣類乾燥機
男子第3棟東西･中央洗濯室	21	20	
高学年洗濯室	12		12
低学年洗濯室	12		10
女子第１棟洗濯室･ベランダ	19	10	
男子第4棟洗濯室･屋上	7	5	

※各部屋には２段ベッド・机・椅子・書棚・書庫・クローゼット・カーテン・空調機・各談話室にテーブル・ソファー設置
女子寮にアイロン５台、ミシン２台、製図台７台設置

寮食堂に　６５型テレビ・４２型テレビ・ビデオデッキ設置　　製氷機２台　　ラウンジ　製氷機１台

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－５

整備状況

(5) 設備の状況

平成 19 年度：男子第１棟、第２棟：耐震工事完了

平成 20 年度：男子第３棟：耐震工事完了、　ベッド、机の更新　、女子棟の玄関の更新（オートロック）

平成 21 年度：女子第１棟、第２棟（男子４棟）：耐震工事完了、女子棟の入口（電子錠）、デジタルテレビ、無線 LAN 工事終了

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書- P.35〕

29. 高千穂寮寮生規範

前文

高千穂寮々生は寮生活を通じて下記の目的を達成するよう努めなければならない。

① 寄宿舎規則及び規律を遵守し、規則正しい日常生活を送る。

② 将来の技術者として必要な教養を身につけ、さらに、学生の本分である学業の達成。

③ 寮生は寮の共同生活を通じて、自主的かつ民主的に行動する態度を養い、社会に適応していく能力と社会の一員として行動する能力を身につける。

第1条 都城工業高等専門学校寄宿舎規則第5条2項に基づき前文の目的達成のために以下の規範を定める。

第2条 寮生活

① 低学年寮生は基本的生活習慣と規律ある生活を身につけなければならない。

② 高学年寮生は学究的生活習慣を身につけ、高学年としての自覚をもち生活しなければならない。

第3条 寮日課

① 寮生は右記に定める寮日課表によって行動しなければならない。

② 健康状態その他の理由でこの日課表によりがたいときは、速やかに寮指導部または宿直教員に届けなければならない。

第4条 秩序風紀について

① 寮生は貸与された室に居住し、許可なく室内備品の位置を替えてはならない。

② 寮生は許可無く他の者を宿泊させたり、立ち入らせてはならない。

③ 寮内においては常にドアの開閉、歩行等の諸動作は静かにし、他人の妨げにならないように留意すること。

④ 礼儀及び服装について

ⅰ寮生は、教職員、来訪者並びに寮生間相互において、常に礼儀正しく、言葉使い等に注意すること。

ⅱ寮生は時と場所を考えた服装を念頭におき本校の学生として常に礼儀に適した服装をし、身だしなみを整えること。

⑤ 寮生は、友愛の精神を重んじ、お互いに助け合うように心がけなければならない。

⑥ 寮内において飲酒、喫煙をしてはならない。

⑦ 異性の寮に立ち入ってはならない。

⑧ 門限以降の面会は禁止されているが保護者等の面会、あるいは、やむを得ない場合は宿直教員の指示を受けること。

⑨ 門限、点呼及び施錠について

ⅰ各寮の日課に定める門限時刻を守ること。

ⅱ門限以降、指導部又は宿直教員の在室確認がある場合は速やかに自室に帰ること。

ⅲ点呼は廊下に出て受けることもある。

ⅳ点呼報告は正確に行わなければならない。

⑩ 外出について

ⅰ門限時刻以降から翌朝7時まで無断で外出してはならない。

ⅱ朝の点呼前の外出、門限にかかる外出あるいは門限以降に外出を必要とする寮生は事前に外出願を寮務主事を経由して校長に提出し、その許可を受けなければならない。

iii外出許可基準は下記の３項目であるから注意すること。

校長は下記の（一）（三）の事項について外出を許可することがある。ただし、許可条件として保護者の同意を求めることがある。
（一）学校の認めた教育活動等
（二）学校の許可したアルバイト
（三）その他、校長が特別に認めた場合
※（一）、（二）及び（三）については帰寮後、直ちに宿直教員へ帰寮報告をしなければならない。
※（三）については寮務主事が保護者に同意の確認を行うことがある。

iv外出願は希望外出日の３日前までに提出しなければならない。ただし、緊急の場合はその限りではない。

v外出願は緊急時に連絡が取れるように、目的地及び電話番号を正確に記入すること。

vi外出許可中に病気又はその他の事故で予定された帰寮の時刻に遅れる場合は、速やかに宿直教員に連絡してその指示を受け、帰寮後は直ちに宿直教員にその事情を報告しなければならない。

vii暗くなってからの帰寮に当たっては安全な経路を選ぶこと。特に、女子は一人歩きで帰寮することがないように十分注意すること。

⑪　帰省泊について

i帰省泊は学校の定めた休業日（学則第５条：前夜から）に行うこと。ただし、次の事項に関しては事前に寮務主事を経由して校長の許可を受けなければならない。

（一）低学年が単休日に帰省泊を希望する場合

（二）病気治療あるいは家庭の事情等で平日に帰省泊を希望する場合

ii帰省泊を希望する者は必要事項を記入の上、帰省泊届を事前に寮務主事を経由して校長へ提出しなければならない。

⑫　帰省泊以外の外出について

i外泊は学校の定めた休業日（学則第５条：前夜から）に行うこと。ただし、次の事項に関しては事前に寮務主事を経由して校長の許可を受けなければならない。

（一）低学年が単休日に外泊を希望する場合

（二）研修旅行、就職試験あるいは入学（編入）試験等で平日に外泊を希望する場合

ii外泊願は遅くとも外泊による外出日の３日前までに提出すること。ただし、緊急の場合はその限りでない。

iii外泊願は緊急時に連絡が取れるように、目的地、電話番号等を正確に記入すること。

iv友人宅等への外泊については下記の３項目に注意すること。

（一）通学生の友人宅等（保護者のある家庭等）へ外泊する場合には次の手続きを経なければならない。
(1)事前に保護者の同意を得た上で外泊届を寮務主事を経由して校長に提出する。
(2)外泊先の保護者等から所定の外泊証明書に証明印をもらい、帰寮後、速やかに寮務主事を経由して学校長へ提出する。
（二）高学年生が友人宅｛(一）以外｝へ外泊する場合は、事前に外泊願を寮務主事を経由して学校長へ提出しその許可を受けなければならない。
※原則として電話連絡の取れること。女子の外泊については保護者の同意を得なければならない。
（三）１年生～３年生は保護者のいないところ及び下宿生宅への外泊は禁止する。
※⑫のivの（一）～（二）については寮務主事がその確認のため本人の保護者あるいは外泊先へ連絡をとることがある。

⑬　帰省泊及び外泊に当たっての注意

ⅰ帰省泊又は外泊前には掃除を行い、私物等を整理整頓し帰省泊又は外泊すること。

ⅱ門限時刻までに帰寮すること。

ⅲ帰省泊、外泊及び旅行中に病気又はその他の事故で予定された帰寮の日時及び門限時刻に遅れるときは、速やかに宿直教員、寮務指導部あるいは寮務係に連絡してその指示を受け、帰寮後は直ちに宿直教員にその事情を報告しなければならない。

ⅳ貴重品は持ち帰り盗難を予防すること。

ⅴ明るいうちに帰寮することが望ましいが、やむを得ず暗くなってから帰寮する場合は安全な経路を選ぶこと。特に、女子は一人歩きで帰寮することがないように十分注意すること。

第５条　来訪者について

①　寮生に部外者の訪問のあった場合、８時30分から17時15分の間は寮務係へ、その他の時間は宿直教員に申し出て許可を受けた後、面会すること。

②　部外者が女子棟建物又は防犯柵の内部に立ち入る場合は、事前に寮務主事を経由して校長の許可を受けなければならない。

③　部外者を22時以降、寮内にとどめてはならない。

④　校長が特に許可した者の他は部外者を仮泊させてはならない。

第６条　貴重品等・私物の持ち込みについて

①　教育の場であること、居室の広さ及び防犯・防災を鑑み、貴重品・私物の持ち込みは必要最小限におさえること。大型の物を持ち込んではならない。

②　ステレオ、ラジカセ、無線通信機、楽器等の私物を持ち込む場合、利用に当たっては他人に迷惑にならない適当な音量をもって使用すること。

③　なお、ドラムスの持ち込みは禁止する。テレビやゲーム機等の映像機器及び花札、蚊取り線香、お香、麻雀牌は持ち込んではならない。

④　自転車及びバイクを寮に持ち込む場合は、寮務係において登録を行うこと。ただし、バイクの持ち込みは高学年に限る。

※特に、寮生は車両及び自転車での通学は禁止されている。

⑤　所持品には必ず記名し、貴重品の管理は各自責任をもって行うこと。

⑥　第12条（災害防止及び設備の保全について）に抵触する物件は絶対に持ち込んではならない。

⑦　扇風機、電気蚊取り器の使用は認めるが、使用後はスイッチを切るなり、コンセントから外すなりして安全の確保を図ること。

⑧　エアーガン等の危険物を持ち込んではならない。

第７条　寮生のアルバイトについて（都城高専アルバイト規則による。）

①　低学年はアルバイトをしてはならない。ただし、担任を経由して校長が必要と認めた場合はその限りではない。

②　高学年がアルバイトを行う場合、その安全を確保するために次の事項を遵守しなければならない。

ⅰアルバイトを希望する寮生は、まず学生主事に所定の書式により届け出なければならない。

ⅱ学生主事よりアルバイトの承認を受けたならば寮務係を経由し寮務主事に届けなければならない。

ⅲアルバイトを許可された者は門限を守ること。なお、女子学生は21時までに帰寮しなければならない。ただし、家庭教師の場合は22時までに帰寮すること。

※門限時刻にかかるアルバイトは事前に寮務主事を経由して校長に外出許可を受けなければならない。

ⅳ帰途の手段には、十分に注意すること。

第８条　防犯等について

①　盗難を予防するため、各自、所持品の管理を十分にしなければならない。

②　登校、就寝、外出及び帰省時は自室、ロッカー、窓等の施錠をすること。

③　寮内における物品の紛失、盗難及び物品の拾得に際しては、直ちに宿直教員、寮指導部又は寮務係に届けること。

第９条　学習について

① 学習時間帯は学習に専念しなければならない。

② 各自、学習計画を立て、常に学力の向上に努める習慣を身につけていくように心掛けること。

③ 学習時間帯は静粛にし、他人に迷惑とならないよう心掛けなければならない。またステレオ、ラジカセ、楽器、その他の音響機器等は使用してはならない。

（低学年について：④～⑥）

④ 休日は次のことを守らなければならない。

ⅰ連休日前夜からの学習は強制しないが学習時間帯は静粛にすること。
ⅱ連休最終日、単体日の前夜及び単休日は平日どおりとする。

⑤ 平時の延灯について

ⅰ学習延灯願を宿直教員に提出してその許可を受けなければならない。

ⅱ学習延灯許可を受けた時間帯は学習に専念しなければならない。

ⅲ夏季に暑気対策としての臨時延灯（コンセントのみ）は寮生の睡眠確保のための措置であるからその目的以外に使用してはならない。

※ⅱ、ⅲともその目的以外に使用した場合は延灯を取り消すことがある。

学習延灯願の許可基準（午前１時まで）
翌日に、学年統一あるいはクラス別の試験がある場合。
ただし、レポート、製図、再試験及び小試験（授業時間内に実施される30分未満の試験）は除く。

⑥ 定期試験時の延灯について

ⅰ試験延灯時間帯は学習に専念しなければならない。

※次の延灯時間を厳守すること、もしその目的以外に使用した場合は延灯の取り消し又は延灯時間の短縮を行うことがある。

（一）定期試験前１週間の延灯は午前１時まで。
（二）中間試験中の延灯は午前２時まで。
（その前夜から終了前夜まで）
（三）期末試験中の延灯は午前２時まで。
（その前夜から終了前夜まで）

第10条　登校下校

① 登校完了時刻を厳守すること。

② 登校後、授業が休講の場合、無断で帰寮し、寮室にて休憩してはならない。

※図書館等で自習すること。

第11条　保健衛生について

① 寮生は毎日責任をもって指定された場所及び居室の整理、整頓、清掃及び環境の美化に努めなければならない。

※原則として毎月１回大掃除をおこなうこと。

② 寝具類の日光消毒、衣類の洗濯、室内の換気等を励行すること。

③ 身体に異常があるときは、寮務係、寮務指導部あるいは宿直教員に届け出ること。

④ 食堂の食器類は居室内に持ち込んではならない。ただし、病気等のため食事を食堂で摂取できないときは、寮務係、寮務指導部あるいは宿直教員に届け出て、寮務主事の許可を受けなければならない。

⑤ 入浴時、タオルを浴槽内で使用してはならない。

⑥ 浴槽では洗濯をしてはならない。

第12条　災害防止及び設備の保全について

① 電灯配線には、絶対に工作を施してはならない。

② 許可なく室内備品の位置を替えてはならない。

③　火気の使用について

ⅰ使用場所は補食談話室にかぎること。

ⅱ学校側の配備した機器以外は使用してはならない。

ⅲ火気は指定された時間以外は使用してはならない。

④　ストーブ、電気コタツ、ヒーター、コンロ、ズボンプレッサー、アイロン、トースター、電気毛布、電気アンカ、電気ポット、マッチ、ライター、冷蔵庫、冷風扇等の電気機器を持ち込んではならない。ただし、扇風機及び電気蚊取り器の持ち込みは例外とする。

⑤　ガソリン､火薬及び化学薬品等の危険物を絶対に持ち込んではならない。

⑥　配管等に物をぶら下げてはならない。

⑦　備え付けの消火器及び消火栓等にはみだりに触れてはならない。なお、消火栓等の使用法は平素から熟知しておくように心掛けること。

⑧　廊下や階段及びその付近に物を置いてはならない。

⑨　寮生は、災害又は事故の発生を知った場合は、直ちに臨機に処置を取るとともに、寮務係あるいは宿直教員に報告し、その指示に従って行動しなければならない。

⑩　施設、備品の使用について

ⅰ常に大切に取り扱い、保全に留意しなければならない。万一損傷を与えた場合は、速やかに寮務主事に届け出て、その指示を受けること。

ⅱ使用後は後始末をよくし、次の使用する者に対して不快感を与えないように留意しなければならない。

第13条　住民登録について

寮生は学寮に居住する期間中、必要な場合はその所在地に住民登録をすること。

第14条　寮生会について

寮生会は、寮務主事と緊密な連絡をとって運営し、寮生会における決議事項等は寮務主事に報告しその指導を受けなければならない。

第15条　入寮・退寮に関する事項

①　寮生会申し合わせ事項

ⅰ新入学時に入寮した者は、２学年終了まで継続して在寮することを原則とする。

ⅱ新入学時に入寮した者のうち、２学年終了以前に退寮した者については、原則として３学年以降の入寮を認めないが、退寮時の理由が家庭の特殊事情等、特別の理由がある場合については例外とする。

ⅲ１学年から３学年終了までの入寮経験が、２年に満たない者については原則として４・５学年までの入寮を認めない。４年時編入学生の入寮については例外とする。

ⅳ次に該当する者について、寮生会は退寮を勧める。

（一）寮生会費を６カ月以上滞納した者

（二）寮紀役員へ始末書を３枚以上書く行為のあった者

（三）その他寮生活上での寮役員の指導に従わない者

上の運用に当たってのその決定は、寮務主事に一任する。

②　退寮希望者は退寮しようとする10日前までに退寮願を、学級担任の所見、押印を得て寮務主事へ提出すること。

ⅰ校長の許可を受けるまでは退寮してはならない。

ⅱ退寮願の記入に当たっては、下記の注意事項を厳守すること。

（一）退寮期日は担任の指導に従うこと。

（二）退寮後の住所が自宅以外の場合、退寮願用紙と同時に寮務係から渡される下宿･間借カードに記入の上、退寮願に添えて担任へ届けること。

第16条　共同施設利用について

①　研修棟について

ⅰ寮生の集会、学習・研究及び文化行事等に使用すること。

ⅱ施設・備品等は使用上の注意などを守り、万一破損した場合は、速やかに寮務係あるいは宿直教員を経由して寮務主事に届けること。

ⅲ目的に反する集会や利用をしてはならない。

※目的に反する集会や利用と認められた場合は寮務指導部や宿直教員はその使用を中止させることがある。

ⅳその他特別な理由がある場合は、その都度寮務主事の許可を受けること。

②　補食談話室及び多目的室の利用について

ⅰ補食談話室には流し台、給湯器、IH調理器、コンロ、トースター、テレビ、ソファー、テーブル等及び清掃道具（電気掃除機）が配備されている。
ⅱ多目的室にはテレビ・ビデオ、アイロン、乾燥機及び製図板が配備されている。

（三）目的に反する利用はしてはならない。

※目的に反する利用と認められた場合は寮務指導部や宿直教員はその使用を中止させることがある。

（四）最終利用者は電源を切り、火の元の安全を確認すること。

③　電話の使用について

ⅰ携帯電話を持たない寮生のために、保護者からの伝言は伝えるが、電話の取り次はしない。（ただし、緊急の場合はこの限りではない。）

ⅱ電話の使用は簡潔に行い、長電話にならないように心掛けなければならない。

ⅲ学習時間帯（20時から22時まで）の呼び出しは学習の妨げになるので、急用以外はこの時間帯中に電話をしないよう家族、友人等に協力を求めておくこと。

ⅳ試験前１週間から試験終了前日まで電話の受付は行っていないので、保護者等へ事前に連絡しておくこと。

第17条　開寮及び閉寮について

①　開寮に際しては所定の日時までに必ず帰寮しなければならない。

②　閉寮時帰省前には寮生全員で大掃除を行い、私物等を整理整頓した後、寮務指導部の点検を受けなければならない。

第18条　女子寮の臨時閉寮について

長期休業時以外の休日に帰省等で女子第１棟と女子第２棟の寮生数がそれぞれ規定数に達しない場合は寮の安全管理の立場から臨時に閉寮する。ただし、校長が管理上安全であると判断した場合は、寮生をいずれかの寮に統合して開寮することがある。
※その際、許可を受ければ昼間は閉寮された寮へ立ち入ることができる。

①　各寮の寮生数が規定数以下になった場合の事前連絡体制について

ⅰ休日前夜あるいは休日中に帰省等で各棟の寮生数が規定数以下になる場合は女子寮（第１棟、２棟）の役員は、17時15分まで寮務係に残寮者名を連絡し、寮務指導部あるいは宿直教員の指示を受けなければならない。

②　臨時閉寮になった場合、保護者の同意を受ければ高学年は自宅生か下宿生のところへの外泊を許可するが低学年は原則として帰省すること。

第19条　残寮等について

①　登校完了後、残寮（在室）を希望する場合は、寮務係を経由して寮務主事にその旨届け許可を受けなければならない。

〔出典：学生便覧〕

資料７－２－③－７

寮生活日課

寮　日　課

男子寮

区分／日課	平　日	休　日
起床・点呼	7:00、7:30(定期考査時)	7:30
洗面	7:05～7:30	7:35～8:00
朝食	7:05～8:10	8:00～8:40
登校完了	8:15	
昼食	12:00～12:40	12:00～12:40
入浴	17:00～19:50、17:00～19:50 22:10～22:40、20:00～21:50(低学年) 17:00～23:00(高学年)	
夕食	18:00～19:30	
学習時間	20:00～22:00	
門限	20:00(低学年)　22:00(高学年)	
点呼	20:00(低学年)　22:00(高学年)	
清掃	22:00～22:10	
自習(自由)	22:10～23:00	
消灯	23:30(低学年)　天井灯 24:00(低学年)　コンセント　高学年生は自主消灯	
就寝	24:00(低学年)	

女子寮

区分／日課	平　日	休　日
起床・点呼	7:00、7:30(定期考査時)	7:30
清掃・洗面	7:05～7:30	7:35～8:00
朝食	7:05～8:10	8:00～8:40
登校完了	8:15	
昼食	12:00～12:40	12:00～12:40
入浴	前期　16:30～20:00　22:00～23:00(低学年) 16:30～23:00(高学年) 後期　16:30～19:30　21:30～23:00(低学年) 16:30～23:00(高学年) 休日・試験期間中は15:30～	
夕食	18:00～19:30	
学習時間	前期　20:00～22:00 後期　19:30～21:30	
門限	前期　20:00 後期　19:30	
点呼	前期　20:00 後期　19:30	
自習(自由)	22:00～23:00	
消灯	23:30(低学年)　天井灯 24:00(低学年)　コンセント　高学年生は自主消灯	
就寝	24:00(低学年)	

〔出典：学生便覧〕

資料７－２－③－８

寮指導体制

１．　学寮の指導体制

（１）　寮務一般

寮務主事１名、寮務主事補４名

（２）　寮務委員会の構成

寮務主事（委員長）１名

寮務主事補　　４名

寮務主事補のいない学科　１名

（３）　宿日直

宿直：１名教員１名で輪番制

勤務時間 17 時 15 分～8 時 30 分

半当直：１名　主事補４名、女性教員３名で輪番制

勤務時間 19 時 30 分～21 時 30 分

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－９

学習巡回記録

平成１５年４月
寮務主事

低学年学習時間中の状況記録方法-Ver.1.1

本年度，学習時間設定日の 20:00 ～ 22:00 には低学年は必ず自室で机にむかって学習し(洗濯・トイレを除く)，クラスメートへの質問等で自室を出るのは 22 時以降にする，という指導を行います。また寮生活の規則違反を点数化するため，宿直教官が学習巡回を行う際に学生の状況をきちんと「学習時間状況簿」に記録して頂くことになります。そこで「学習時間状況簿」の□内には以下のような要領で記録してください。
なお，宿直教官巡回時は「黒」で，二度目の寮務指導部巡回時は「赤」でご記入ください。

1．勉強している　→　□　(何も記入しない)

2．室不在(規則違反の不在のみ)→　／

規則違反以外の室不在は，次のとおり記入してください。

トイレ　／ト　洗濯　／セ　放送当番　／放　指導学生巡回　／巡

二部制(届出有)　／二　ロボコン(届出有)　／ロ　外出届・外泊届(届出有)　／届

3．再確認時※1 在室→　×

※1　最初の巡回時に不在の者については適宜時間をおいて在・不在を再確認してください。

4．他室にいた→「タ」(２の不在と重なる時は　／タ　のように記録する)(意味：他室にいた)

5．マンガ・雑誌等を読んでいた→「マ」(意味：マンガ等を読んでいた) 没収し，寮指導部へ。

6．ゲームをしていた→「ゲ」(意味：ゲームなどをして遊んでいた) 没収し，寮指導部へ。

7．ベッド等で居眠り（寝ていた)→「ネ」(意味：寝ていた)

8．風邪や頭痛などの病気で寝込んでいた→「ビ」(意味：病気で寝込んでいた)

9．話をしたりふざけていたりした→「ハ」(意味：話しをしていた)

10．弁当などの食事等をしていた(菓子類，飲み物を除く)→「シ」(意味：食事をしていた)

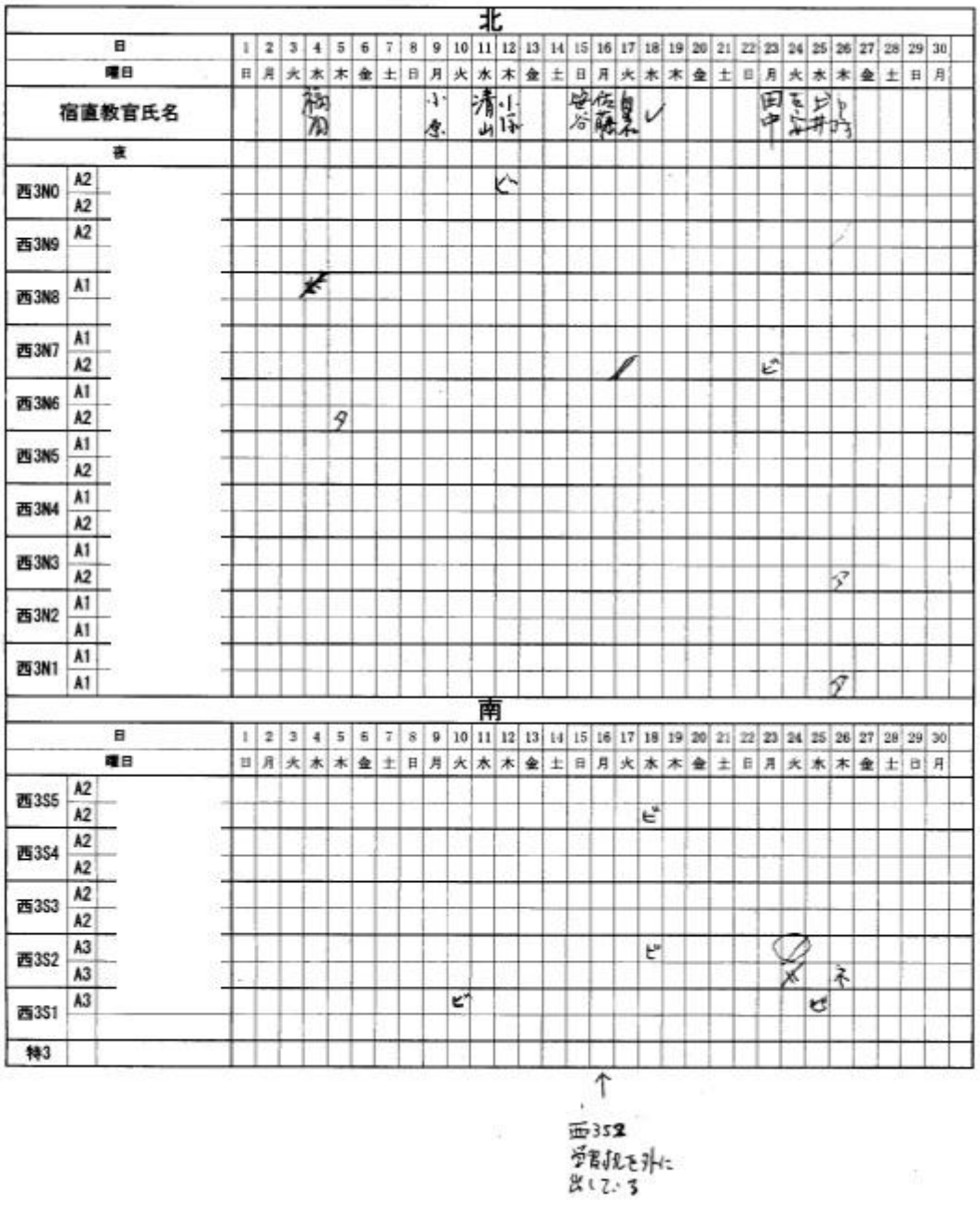
11．携帯電話の使用・電源 on※2→「デ」(意味：携帯電話の使用等)
※2　自習時間中と就寝時間中は携帯電話の使用はもちろん，電源を入れて待ち受け状態にしておくことも禁止しています。発見したら没収し，寮務指導部へお渡しください。

12．その他の非学習状態→「ソ」(意味：その他)を記入し，宿直教官日誌に状況を記録する。
例：第3棟　東1S1　A1　○山　ぼーっとしてヘッドフォンで音楽を聴いていた。

※学習状況ではありませんが
廊下へのゴミ放置→「ゴ」(意味：ゴミ放置)　発見した場合は火災等の緊急時に避難の邪魔になる旨の注意をし，室内へ入れさせてください。

以上

第３棟　西３階　　４月


北
日
曜日
宿直教官氏名
夜
西3N0 A2 A2
西3N9 A2
西3N8 A1
西3N7 A1 A2
西3N6 A1 A2
西3N5 A1 A2
西3N4 A1 A2
西3N3 A1 A2
西3N2 A1 A1
西3N1 A1 A1
南
日
曜日
西3S5 A2 A2
西3S4 A2 A2
西3S3 A2 A2
西3S2 A3 A3
西3S1 A3
特3
西352
受信機を外に
出している

第３棟　東３階　　４月

北

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
宿直教官氏名																														
夜																														
東3N8 C1												✓																		
東3N8 C1												✓																		
東3N7 C1										ビ																				
東3N7 C2																														
東3N6 C1																														
東3N6 C2																									ビ					
東3N5 C1																														
東3N5 C2																		ビ												
東3N4 C1															✓															
東3N4 C2										↓																				
東3N3 C1												✓			✓															
東3N3 C2																														
東3N2 C1												✓			✓															
東3N2 C2																										ネ				
東3N1 C1										ビ		✓																		
東3N1 C2																									ビ	ビ				
補食談話室																														

南

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
東3S5																														
東3S4 C3																														
東3S4 C3																										ネ				
東3S3 C3																														
東3S3 C3																														
東3S2 C3																														
東3S2 C3																										ネ				
東3S1 A3																														
東3S1 A3					ビ																									

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－10

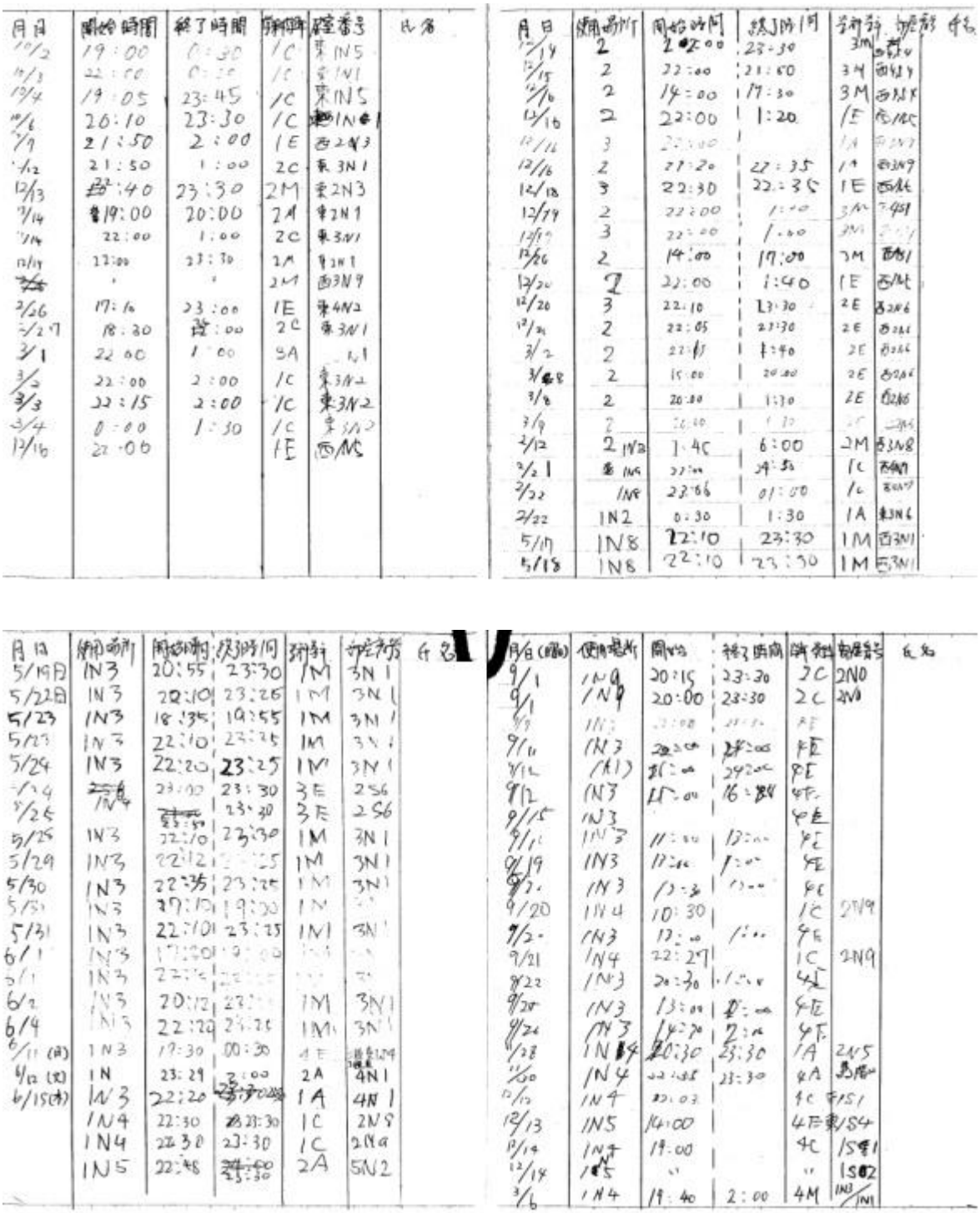
学習室の数及び利用実績・学習室利用実績に関する資料

平成 24 年 5 月 7 日

「自習勉強室の開放」

自習勉強室（第３棟東１Ｓ２）を２３時３０分まで開放しますので、使用を申し出てください。

寮務主事



〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－11

延灯措置に関する実績資料あるいは延灯に関する規則等

⑤　平時の延灯について

ⅰ学習延灯願を宿直教員に提出してその許可を受けなければならない。

ⅱ学習延灯許可を受けた時間帯は学習に専念しなければならない。

ⅲ夏季に暑気対策としての臨時延灯（コンセントのみ）は寮生の睡眠確保のための措置であるからその目的以外に使用してはならない。

※ⅱ、ⅲともその目的以外に使用した場合は延灯を取り消すことがある。

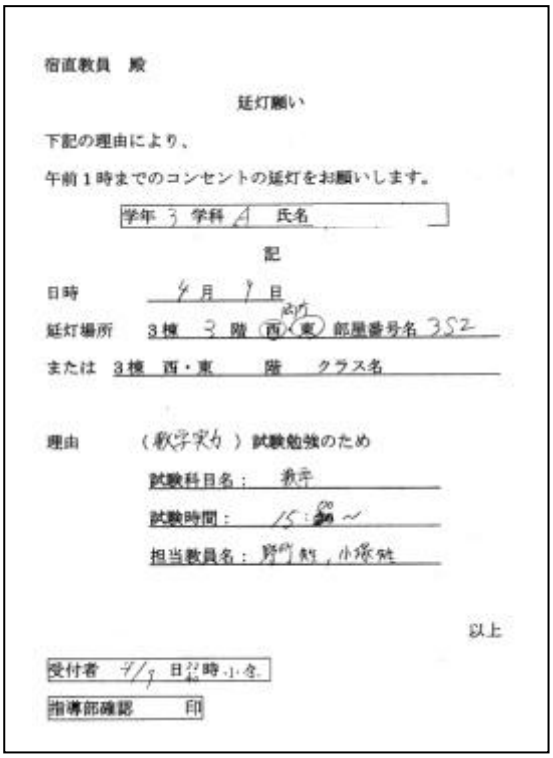
学習延灯願の許可基準（午前１時まで）
翌日に、学年統一あるいはクラス別の試験がある場合。
ただし、レポート、製図、再試験及び小試験（授業時間内に実施される30分未満の試験）は除く。

⑥　定期試験時の延灯について

ⅰ試験延灯時間帯は学習に専念しなければならない。

※次の延灯時間を厳守すること、もしその目的以外に使用した場合は延灯の取り消し又は延灯時間の短縮を行うことがある。

（一）定期試験前１週間の延灯は午前１時まで。
（二）中間試験中の延灯は午前２時まで。
（その前夜から終了前夜まで）
（三）期末試験中の延灯は午前２時まで。
（その前夜から終了前夜まで）



宿直教員　殿

延灯願い

下記の理由により、

午前１時までのコンセントの延灯をお願いします。

学年 3 学科 A 氏名

記

日時　9月 7日

延灯場所　3棟 3 階 西・東 部屋番号名 352

または 3棟 西・東 階 クラス名

理由　（教学実力）試験勉強のため

試験科目名：数学

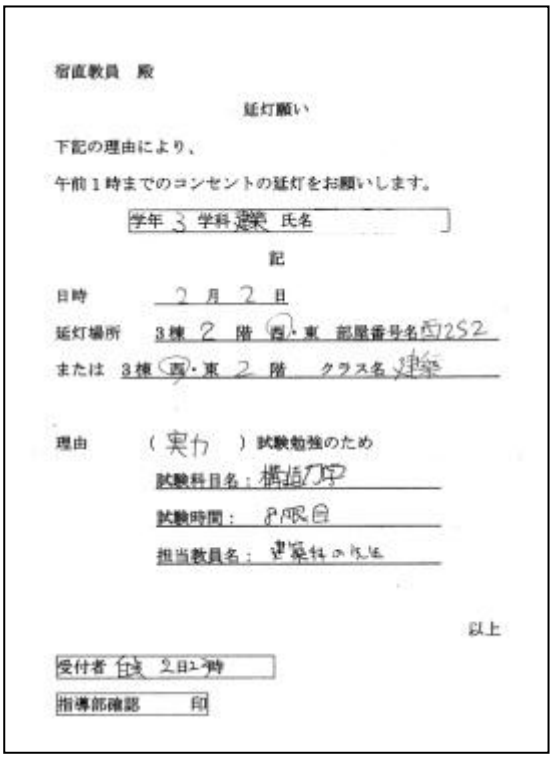
試験時間：15:00～

担当教員名：[illegible]

以上

受付者 9/7 日22時.小金

指導部確認　印



宿直教員　殿

延灯願い

下記の理由により、

午前１時までのコンセントの延灯をお願いします。

学年 3 学科 建築 氏名

記

日時　2月 2日

延灯場所　3棟 2 階 西・東 部屋番号名 西252

または 3棟 西・東 2 階 クラス名 3建築

理由　（実力）試験勉強のため

試験科目名：構造力学

試験時間：8限目

担当教員名：建築科の先生

以上

受付者 住友 2日21時

指導部確認　印

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－③－12

中間（期末）試験の成績表

表Ⅱ3(2)-1　中間（期末）試験の成績表（平成17年度～平成22年度）

〔平成22年度前期末試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	77.7	78.1	80.6	74.7
(通学生)	75.6	76.8	80.1	72.3
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	76.6	76.6	79	70.8
(通学生)	72.1	73.3	74.6	66.4
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	75.3	70.9	69	77
(通学生)	74.7	69.3	72.1	70.4
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	67.6	72.4	74.3	74.8
(通学生)	74.6	73.4	70.4	72.9
5年	機械	電気	物質	建築
寮生	81.3	78.2	88.8	73.6
(通学生)	77.8	78.5	86.8	72.9

〔平成21年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	73.3	75.6	77.7	65.3
(通学生)	66.4	69.1	74.2	63.3
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	79.1	80.0	72.4	78.3
(通学生)	75.5	73.3	74.7	74.0
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	60.9	75.1	73.9	71.1
(通学生)	69.2	71.1	70.6	67.5
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	82.2	72.1	78.1	70.6
(通学生)	76.3	70.4	67.9	72.8
5年	機械	電気	物質	建築
寮生	75.8	75.3	70.2	69.7
(通学生)	69.9	80.5	72.6	68.1

〔平成20年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	78.3	78.8	63	71.3
(通学生)	76.1	72.1	71.7	71.1
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	66.6	74.6	69.7	70.4
(通学生)	72.3	74.7	70.4	71
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	82.3	74.7	79.8	72.6
(通学生)	76.5	70.6	68.9	73.9
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	74.5	72.8	72.3	67.5
(通学生)	66	75.6	69.5	62.3
5年	機械	電気	物質	建築
寮生	70.3	68.9	70.7	70.3
(通学生)	78.1	69.8	79.7	63

〔平成19年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	62.9	79.8	68.7	71.5
(通学生)	67.9	74.9	69.5	70
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	78.2	65.2	77.2	71.7
(通学生)	70.3	70.1	70.7	69.5
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	65.9	72.8	60.9	71.6
(通学生)	62.4	75.2	66.9	60.6
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	75.6	70.4	69.7	68.4
(通学生)	77.5	75.2	70.5	61.4

〔平成18年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	74.2	71.5	80.5	69.7
(通学生)	71.2	71.1	73.5	67.2
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	74	64.6	64.3	69.5
(通学生)	67.7	69.2	69	66.4
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	70.8	67.6	72.6	69.7
(通学生)	69.4	69.6	66.5	60.2

〔平成17年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	69.2	69.9	75.3	63
(通学生)	67.6	77.1	74.6	63.6
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	70.3	74.4	75.2	72
(通学生)	64.8	73.7	73	66.4

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書- P.32〕

資料７－２－③－13

都城工業高等専門学校高千穂寮寮生会規約

［平成７年９月 12 日制定］

都城工業高等専門学校寮生会規約（昭和 63 年 10 月１日制定）の全部を改正する。

第１章　総則

第１条　本会は、都城工業高等専門学校高千穂寮寮生会と称する。
第２条　本会は、都城工業高等専門学校高千穂寮の共同生活を自律的に営み、その活動を通じて寮生の人間形成を助長することを目的とする。
第３条　本会は、都城工業高等専門学校の寮生全員をもって構成され、寮生は、入寮と同時に本会の構成員（以下「会則という。）となるものとする。
第４条　本規約の制定及び改廃並びに毎年度の事業計画及び収支予算書等の議決を必要とする事項については、校長の承認又は事業報告書及び収支報告書を校長に提出するものとする。

第２章　組織

第５条　本会は、第２条の目的を達成するため、次の組織を置く。
(1) 寮生総会（以下「総会」という。）
(2) 寮評議会
(3) 総務
(4) 男子寮役員会
(5) 女子寮役員会
(6) 議長団
(7) 会計監査委員会
(8) 選挙管理委員会
(9) 寮学級会
(10) 週番
(11) 指導学生

２　本会の組織は、別図のとおりとする。

第３章　総会

第６条　総会は、本会の最高議決機関である。
第７条　定期総会は、毎年２回５月と 11 月に開催するものとする。
第８条　臨時総会は、次の各号に掲げる場合に開催しなければならない。
(1) 会員の３分の１以上の要求があった場合
(2) 総務の開催要求があった場合
第９条　総会の開催は、議長団に要求しなければならない。
第 10 条　総会は、議長団がこれを招集し、日時、場所及び議題の告示は、原則として定期総会の場合は開催日の５日前、臨時総会の場合は３日前までに行わなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りではない。
第 11 条　総会は、次の各号に掲げる事項について審議決定する。
(1) 予算及び決算の承認
(2) 規約の制定及び改廃
(3) その他の本会運営上の重要事項
第 12 条　総会は、会員の３分の２以上の出席をもって成立する。
第 13 条　総会の議決は、出席者の過半数の賛成をもって決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第４章　寮評議会

第 14 条　寮評議会は、総会の代行議決機関として、本会の運営に関する重要な事項を審議する。
第 15 条　寮評議会は、寮学級委員長をもって構成員（以下「寮評議員」という。）とする。
第 16 条　寮評議会は、原則として毎月１回開催するものとする。

第 17 条　寮評議会は、定例会議のほか、次の各号に掲げる場合、臨時寮評議会を開催しなければならない。
(1) 総務が必要と認めた場合
(2) 寮評議員の 3 分の 2 以上から要請があった場合
(3) 選挙管理委員長から要請があった場合
2　寮評議会の招集は、会長がこれを行う。ただし、会長が罷免されて新会長が選ばれる間は、男子副寮長がこれを行う。
第 18 条　定例寮評議会の開催については、3 日以前に期日、場所及び議題を公示して開催するものとする。
第 19 条　寮評議会の議長は、議長団をもって充てる。
第 20 条　寮評議会は、寮評議員の 5 分の 3 以上の出席により成立する。ただし、委任状を認める議決は、出席寮評議員の過半数の賛成をもって決定し、可否同数のときは、議長が決するところによる。
第 21 条　総務の役員は、寮評議会に出席してその分掌に応じて提案、説明、答弁及び会議の進行運営を促す義務を負うが、議決権ほ有しない。ただし、総務が寮評議会の決定に対し再考を促した場合、寮評議会は、寮学級会の意見など幅広い寮生の意見を聴取して、再度寮評議会を開催しなければならない。なお、それでも寮評議会の決定に変更がない場合は、寮評議会の決定とみなす。
第 22 条　総務及び議長団に対して罷免が成立した場合、寮評議会は、総務及び議長団の行動について規制又は停止を命ずることができる。
第 23 条　寮評議会は、総務及び議長団選出の選挙が公平を欠いたと認めたときは、選挙の無効、再選挙の実施、立候補者の失格及び当選者の無効を決定することができる。

第 5 章　総務

第 24 条　総務は、次の各号に掲げる役員をもって構成し、総会の決定に対し、その執行に当たる。また、寮の運営に関する重要事項を起案する。
(1) 会長
(2) 男子寮長
(3) 女子寮長
(4) 男子副寮長
(5) 女子副寮長
(6) 書記長
(7) 会計委員長
(8) 指名役員　　5 人
2　前項に掲げる役員の選出法は、次のとおりとする。
(1) 会長、寮長、副寮長、書記長及び会計委員長は、会員の直接選挙により選出する。ただし、会長はその所属寮の寮長を兼任するものとする。
(2) 指名役員は、文化、寮紀、厚生、管理及び交通安全委員長とし、直接選挙により選出された役員の協議によって会長が指名し、寮評議会の承認を得るものとする。
3　書記長は、書記局を構成し、書記局員 2 人を指名することができる。
4　会計委員長は、会計委員 2 人を指名することができる。
5　役員名簿は、寮務主事を経て、校長に提出しなければならない。
第 25 条　総務の任務は、次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し、総務役員会の議長を務める。
(2) 寮長は、会員の融和と規律の保持に努め、寮生活の向上を図る。
(3) 副寮長は、寮長を補佐し、寮長不在のときはその任務を代行する。また、指導学生を統括する。
(4) 書記長は、総務の庶務を処理するとともに、総会及び総務役員会の議事録を作成し、保管する。

(5) 会計委員長は、本会の予算及び決算並びに出納経理に関することを処理する。
(6) 文化委員長は、会員のレクリエーション及び本会主催の諸行事に関することを処理する。
(7) 寮紀委員長は、寮規則の遵守に関することを処理し、週番を統括する。
(8) 厚生委員長は、会員の保健衛生及び清掃並びに救急箱の管理及び急患の応急処置に関することを処理する。
(9) 管理委員長は、会員の使用する施設設備及び本会購入用具の管理に関することを処理し、防災防止に務め、消防役員を統括する。
(10) 交通安全委員長は、交通安全及び使用車両の整理に関することを処理する。
2　前項第9号に規定する消防役員に関する事項については、別に定める。
第26条　総務役員会は、次の各号に掲げる場合に会長がこれを招集する。
(1) 原則として毎月1回
(2) 会長が必要と認めた場合
(3) 総務役員の要請があった場合
第27条　会計委員長を除く各委員長は、各委員会を構成することができる。
2　各委員会の委員は、各委員長が各寮学級会より1人を指名する。
第28条　総務の役員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
第29条　総務の役員は、任期満了後であっても後継者が就任するまではその任務に当たり、十分な引継ぎをしなければならない。
第30条　総務の役員は、総会及び寮評議会に出席しなければならない。
第31条　総務が、本規約に定める以外の委員会を別に組織する場合ほ、寮評議会の承認を得なければならない。
第32条　直接選挙で選出された総務の役員が辞任するときは、総会の承認を得なければならない。
第6章　男子寮役員会及び女子寮役員会
第33条　男子寮役員会及び女子寮役員会は、次の各号に掲げる役員をもってそれぞれ構成し、v男子寮及び女子寮の独自の問題に関する重要事項を起案し、執行する。
(1) 寮長
(2) 副寮長
(3) 書記
(4) 会計
(5) 指名役員　　5人
2　前項に掲げる役員の選出法は、次のとおりとする。
(1) 寮長は、総務の寮長が兼任する。
(2) 副寮長は、総務の副寮長が兼任する。
(3) 所属寮の会員が、総務の書記長、会計委員長及び指名役員に選出若しくは指名されている場合は、その者が関係役員を兼任する。
(4) 前各号に掲げる役員以外の役員は、所属寮における総務兼任の役員の協議により寮長が指名し、寮評議会の承認を得るものとする。
(5) 指名役員は、寮文化、寮寮紀、寮厚生、寮管理及び寮交通安全委員長とする。
3　役員名簿は、寮務主事を経て、校長に提出しなければならない。
第34条　寮役員会の任務は、第25条に規定する総務の任務に準じて行い、総務と協力してその任に当たる。
第7章　議長団
第35条　議長団は、会員の直接選挙により選出された4人（以下団員」という。）によりこれを構成する。
第36集条　議長団を統括するために団長を置き、団員の互選とする。
2　議長団の招集は、団長が行う。

第 37 条　議長団の任務は、次のとおりとする。
（1）第 9 条に該当する場合は、総会の招集を行う。
（2）総会及び寮評議会の正副議長を務める。
（3）総会の日時、場所及び議題を決定し、告示する。
第 38 条　議長団の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。
第 39 条　正副議長は、総会において出席会員の過半数の議長交替要求があった場合は、交替しなければならない。

第 8 章　会計監査委員会

第 40 条　会計監査委員会は、本会の会計のすべてを監査し、その結果を定期総会に報告しなければならない。
第 41 条　会計監査委員会は、前条の目的達成のため必要のあるときは本会のすべての組織に対して、必要書類の提出を求めることができる。
第 42 条　会計監査委員会は、会計監査委員長及び会計監査委員の 2 人によりこれを構成する。
2　会計監査委員長及び会計監査委員は、総務が推薦し総会の承認を得るものとする。
第 43 条　会計監査委員長及び会計監査委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

第 9 章　運挙管理委員会

第 44 条　選挙管理委員会は、本会の選挙に関する管理を行う。
第 45 条　選挙管理委員会は、選挙管理委員長及び選挙管理委員の 2 人によりこれを構成する。
2　選挙管理委員長及び選挙管理委員は、総務が推薦し、総会の承認を得るものとする。
第 46 条　選挙管理委員長及び選挙管理委員の任期は 1 年とする。ただし再任を妨げない。
第 47 条　選挙に関する事項については、別に定める。

第 10 章　寮学級会

第 48 条　寮学級会は、本会活動の基盤をなすもので、男子寮においては学級別の会員をもって構成し、女子寮においては学年別の会員をもって構成する。
第 49 条　寮学級会には、その活動を行うため次の各号に掲げる役員を置き、構成員の互選とする。ただし、寮学級副委員長は男子寮の低学年の寮学級会のみに置く。
（1）寮学級委員長
（2）寮学級副委員長
2　寮学級委員長は、寮学級会の運営を総括するとともに、寮学級会を代表して寮評議会に出席する。
3　寮学級副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その任務を代行する。
4　寮学級会の役員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。
第 50 条　通番は、点呼及び寮の日課の励行に関することを処理する。
第 51 条　週番は、各棟各階ごとに構成する。

第 12 章　指導学生

第 52 条　週番は、原則として部屋ごとの 1 週交替とする。
第 53 条　指導学生は、自己の所属する寮学級委員長との連絡を図り、会員の意見の反映を助長するとともに、低学年生の寮生活全般についての指導と助言を行う。
第 54 条　指導学生は、男子寮においては各学科 4 年生から 1 人ずつとし、女子寮においては 4 年生から 1 人とする。
2　指導学生は、総務が推薦し、校長が委嘱する。
第 55 条　指導学生の任期は、1 年とする。

第 13 章　罷免

第 56 条　会長、寮長、副寮長、書記長、会計委員長及び団員の寵免については、会員の 3 分の 1 以上の連署による罷免の要請があった場合、その要請のあった日から 1 週間以内に信任投票を行わなければならない。
2　信任投票の結果、会員の過半数の不信任があった場合ほ罷免が成立する。
3　前 2 項に規定する信任投票の管理は、選挙管理委員会が行う。

第 57 条　総務兼任の者を除く寮役員会の書記及び会計の罷免については、所属の会員の 3 分の 1 以上の連署による罷免の要請があった場合、その要請のあった日から 1 週間以内に信任投票を行わなければならない。
2　信任投票の結果、所属寮の会員の過半数の不信任があった場合は罷免が成立する。
3　前 2 項に規定する信任投票の管理は、寮長が行う。
第 58 条　罷免が成立した場合は、その者は解任されるものとし、罷免成立の日から 1 週間以内に新たな者を選出しなければならない。
第 59 条　会長が罷免された場合は、会計委員長を除く総務の委員長は解任される。
第 60 条　寮長が罷免された場合は、総務兼任の委員長を除く所属寮役員会の委員長は解任される。

第 14 章　補則

第 61 条　総務の役員、寮評議員、団員、会計監査委員長、会計監査委員、選挙管理委員長及び選挙管理委員の兼任はこれを禁止する。
第 62 条　会員は、年間 1 人当たり 3，000 円の会費を納入しなければならない。
第 63 条　本規約の改廃は、次の各号に掲げる場合に発議できるものとする。
(1) 会員の 3 分の 1 以上の連署による要求のあった場合
(2) 総務が必要と認めた場合
(3) 寮評議会が必要と認めた場合
第 64 条　本規約の改廃は、総会の承認を必要とする。

附　則

この規約は、平成 7 年 9 月 12 日から施行する。

附　則

この規約は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

〔出典：規則集〕

（分析結果とその根拠理由）

学生寮は，入寮生数と学生構成に対して適切な施設内容と規模になっている。また，寮生が規則正しい生活を送れるよう，寮日課を定めており，寮務指導部が管理している。学習時間外の学習を希望する者に対しては，学習室の提供や延灯措置等により希望に応じている。したがって，学生寮は，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しており，教育寮としての役割も果たしている。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

各学科の学級担任を中心に，学科主体で進路指導を行っている（資料７－２－④－１）。全体的な進路指導の一環として，４年次には，適性検査（資料７－２－④－２）や学内研修において卒業生による講演等を実施している（資料７－２－④－３）。さらに，必要に応じて保護者との三者面談も実施している（資料７－２－④－４）。

また，就職・進学の面接試験指導として模擬面接を各学科で実施している（資料７－２－④－５）。さらに，地域産業コーディネーター２名を任用し，平成23年度設立の「キャリア支援室」においても支援を行っている（資料７－２－④－６～８）。また，推薦進学を希望する学生に対しては，校長による面接指導も行っている。

さらに，種々の求人情報，卒業生の現状把握及び求人枠の拡大を図るために，教員が企業訪問を実施し，得られた情報を進路指導に活用している（資料７－２－④－９）。平成23年度には，キャリア支援室において，平成17年度から平成21年度の卒業生を対象に「進路」に関するアンケートを実施し（資料７－２－④－10～11），今後の進路指導体制の充実化を図るべく情報収集を行った。今後，それをもとに支援体制の充実化を図っていく予定である。

大学編入学や公務員試験等については，コミュニティスペースに関係資料を置き，自由に閲覧できるようにしている（資料７－２－④－12）。

また，キャリア支援室では，進路指導方針や反省事項を総括的に協議し（資料７－２－④－13～14），その内容を次年度からの支援体制に反映させるようにしており，進路指導を行う体制は総合的に機能している。

観点７－２－④　資料一覧

資料７－２－④－１　卒業予定者・専攻科修了予定者の進路指導
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書-〕

資料７－２－④－２　就職・進路適性検査実施要領
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－３　平成24年度４年生学内研修実施要項
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－４　三者面談資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－５　模擬面接指導資料
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－６　都城工業高等専門学校キャリア支援室規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－④－７　地域産業コーディネーターによる模擬面接・面談等の実績
〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－８　地域産業コーディネーターの活動内容
〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－９　各学科における訪問先
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－10　「都城高専の進路指導に関するアンケート」実施報告
〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－11　「都城高専の進路指導に関するアンケート」（集計編）抜粋
〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－12　コミュニティスペース保管資料一覧
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－13　都城工業高等専門学校キャリア支援室運営委員会規則
〔出典：規則集〕

資料７－２－④－14　就職業務反省会及び打合せ議事録
〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－１

卒業予定者・専攻科修了予定者の進路指導

表Ⅱ7(2)-5　平成21年度学年別講演内容

対　象	日　時	講　師
本科1年生	平成21年10月14日（水）	（コーディネーター）
本科2年生	平成21年10月28日（水）	〃
本科3年生	平成22年2月3日（水）	〃

イ　オリエンテーション②

本科低学年生（1～3年生）を対象とし、圏域企業で働いている高専OB・OGを講師に「県内企業で働くこと、その魅力」という演題で講演を行っている。

表Ⅱ7(2)-6　平成21年度学科別講演内容

対　象	日　時	講　師
電気情報工学科 （1～3年生）	平成21年12月9日（水）	ツカサ電工㈱ （茨城高専電子制御工学科卒）
物質工学科 （2・3年生）	平成22年1月20日（水）	㈱サニー・シーリング （都城高専工業化学科卒）
建築学科 （1～3年生）	平成22年1月27日（水）	㈱都城木材 （都城高専建築学科卒）
機械工学科 （1～3年生）	平成22年2月10日（水）	㈱システム技研 （都城高専機械工学科卒）

ウ　県内企業のデータ収集

コーディネーターが、求人票を出している企業や過去に採用実績のある県内企業を訪問し、経営者や採用担当者より情報を収集している。その情報内容としては、企業の概況、高専生の採用動向、高専生の評価（採用実績があれば）、Uターン既卒者の採用の可能性、どんな人材がほしいか等である。また、圏域内企業のインターンシップ受入先の選定支援も行っている。

この他、就職活動における面接試験対策や指導、圏域内企業就職希望者への情報提供や相談対応、Uターン卒業生の就職支援、各科で企業見学を行う場合に、見学先の選定のための情報提供や交渉先の紹介などを行う。

(3) 機械工学科・機械電気工学専攻（機械系）の進路指導と進路状況

①　進路指導

ア　指導体制

当学科には企業経験のある教員が多く、企業で従事した専門分野も多岐にわたっている。そのため、進路指導に関する部署を限定しないで、担任を中心として機械工学科の教員全体で学生の進路指導に当たっている。特に4・5年次は担任教員を連続させ、学生に助言しやすい環境を作ってもらっている。また、企業のリクルーターへの対応は、5年のクラス担任が行っているが、授業等の場合は学科長なども対応するシステムとなっている。その際に配布された会社パンフレット等は、学生が所定時間帯にいつでも閲覧できる専用の資料室に整備される。その資料室には、インターネットに接続可能なパソコンが3台完備され、学生は自由に活用できる。なお、学科長、専攻主任及び4・5年のクラス担任は様々な企業に対して就職開拓を行っている。

さて、ものづくりの現場を見学することは学生の就業意識を向上させるとして、工場見学を頻繁に実施している。1年次では宮崎県内の工場を見学し、2年次は毎年11月に行われている宮崎テクノフェア

を見学する。どちらも県内企業を知る上で良い経験となっている。3 年次は継続して北九州地区の大企業の工場を見学している。4 年次は春季休業を活用した恒例の関西・東海地区の大企業工場見学を実施している。関西へは大型旅客フェリーを利用するが、船長による操舵室の説明や、機関長から熱機関ルームを案内していただき、内容の濃い見学となっている。

4 年次は特に進路を決定する上で大切な時期として位置づけ、多くの指導的行事を行っている。まず、4 月には学内研修を行っている。これは当科卒業生 3 名を迎えた対話形式の研修であり、卒業生は親身になって後輩の将来への悩みや質問にじっくりと回答してくれるため、4 年生にとって自らの進路を熟考するきっかけになっている。これら卒業生の中には進学をした後に会社に就職したケースもあり、進学を希望している学生にも貴重な研修となっている。

4 年次の 7 月～8 月は、インターンシップを実施する時期である。本学では選択授業と定めているが、生の現場を経験することで社会人としての心を涵養させる目的を含むため、当科ではインターンシップへの参加を勧めている。近年では、夏季休業中に豊橋・長岡の両技術科学大学がインターンシップを開講したため、進学を希望する学生が最先端の研究を体験できる場として活用できるようになっている。インターンシップ終了後は、担任の裁量で進路情報の提供や学生一人ひとりへの進路希望調査及びアドバイス等の指導を充実させている。

最近の数年は、企業の求人活動の様相が大きく変化しており、5 月半ばには求人活動を終了する企業が出てきた。そういった状況に対応するため、ここ数年は 4 年次の春季休業中に保護者を含めた三者面談を計画している。4 年のクラス担任は、学生がどういった希望先を受験するのかをこの時期に決定させるのではなく、学生の進路設計に対する支援を指導目的としている。

5 年次になると 4 月に一人 15 分程度の模擬面接を行っている。当科教員及び事務部門に協力していただいて実行している。入退出のおじぎから話し方まで細かい指導を行っている。さらに平成 20 年度に本学では二人の地域産業コーディネーターを雇っており、全学科横断的に面接指導を行っていただいている。

近年、ゴールデンウィーク前後に就職試験が集中し、6 月～8 月は進学受験（推薦選抜及び学力選抜）の時期になってきている。5 年のクラス担任は、就職・進学受験に必要な書類の準備やエントリーシートあるいは履歴書の書き方等を指導すると同時に、合否に関わらず試験状況を細かく記載した報告書の提出までを指導している。

専攻科 2 年生になれば就職か進学を決する時期となる。専攻科生の進路指導は、専攻主任が行っている。専攻科 2 年始業早々、学生―専攻主任の面談などで各学生の進路について方針を決める。

大学院進学希望者には、過去の進学状況などを説明している。

イ　就職指導

表Ⅱ7(3)-1 は平成 17 年～21 年度の民間企業等からの求人数を示したものである。常時 350 社を越えており、多種多様な企業から高専生を求める声が高まっている。こういった状況であるため、学生には会社に関する正確な情報の取得を目指すことを求め、インターネットのホームページや会社資料の他に、事前に工場見学を出向いてエンジニアの方々との話を介するなどして総合的に進路希望先を選定するように指導している。最近は、放課後に企業説明会を実施したいと要望してくる企業が増えており、気になる企業であれば積極的に説明会へ参加し聴講するように指導している。最終的には本人の意志を尊重し、工業界の事情を良く理解させた上で、適材適所の就職になるよう指導している。なお、学生には就職受験に際して学校推薦と自由応募の相違を理解してもらうように指導している。

表Ⅱ7(3)-1　機械工学科の求人企業の総数　　(単位:社)

平成・年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
企 業 数	363	499	578	602	424

表Ⅱ7(3)-3　機械工学科の進学状況　　＊（ ）は専攻科修了生で内数　（単位：人）

区　分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	計
都城工業高等専門学校・専攻科	4	6	7	9	4	30
熊本大学	2	1	3	2	1	9
九州工業大学	1	2		3	1	7
長岡技術科学大学		2		2	1	5
豊橋技術科学大学・大学院	1(1)		1(1)	1	1(1)	4(3)
鹿児島大学				1	2	3
宮崎大学				2(1)		2(1)
広島大学	1					1
東京理科大（経営工学科）	1					1
千葉工業大学			1			1
その他（専門学校）	1	1				1

(4) 電気情報工学科・機械電気工学専攻（電気系）の進路指導と進路状況

① 進路指導

当学科では企業経験のある教員の比率が徐々に増加しており、企業的視点も取り込んだ進路指導ができるようになってきつつある。

新入生オリエンテーションで、学科長が就職・進学の話を行うのを皮切りに、学科教員による低学年での特別活動を利用した就職・進学の話や企業見学など、学生に対し日頃から将来への関心を持たせるようにしている。

４年次からは、さらに強い意識付けをすることを目的に、校内研修で、様々な分野で活躍する２名のOB/OGの講話を聴かせている。学級懇談会では保護者との意見交換を行い、進路に関する大枠で齟齬が生じないようにしている。また、就職希望の学生には夏季校外実習にできるだけ参加するように指導している。こうした４、５年次は担任を連続させ、学生の適性把握に万全を期し、進路に関する齟齬をできる限り生じにくくしている。

企業のリクルーター対応は、主に５年のクラス担任が行っているが、授業等の場合には学科長、専攻科主任、４年のクラス担任なども対応している。その際の資料や郵送されてきたリクルート資料などは、ナンバリング、整理された上で、学生共用室に配備し、学生が放課後などいつでも閲覧できるようになっている。なお、学科長、専攻主任及び４、５年のクラス担任は、主に地区別に分担し、様々な企業に対して就職開拓を行っている。

＜進路指導に関する主な流れ＞

１年次　新入生オリエンテーション
２年次　特別活動を利用した企業見学
３年次　同上
４年次　校内研修（全体研修、学科内研修）
　　学級懇談会（保護者）
　　夏季校外実習
　　春季企業訪問
５年次　模擬面接（随時、学科教員）
　　就職試験及び大学編入試験

② 進路状況

過去５年間の求人企業数と就職希望者数を表Ⅱ7(4)-1に示す。常時350社以上の企業からの求人があり、

(5) 物質工学科・物質工学専攻の進路指導と進路状況

① 進路指導

物質工学科では、1・2学年の低学年より、就職・進学の話を学科長や学科の教員が行い、学生が日頃より将来に対して関心を持つように気を配っている。3学年では、工場見学を行い将来の夢を描いてもらい、4学年では本格的な就職・進学活動に入る。4学年での学科内研修では、2名の卒業生（企業人と大学院生）による講話により自覚を持って就職・進学活動に取り組んでもらうとともに、保護者に対しても就職・進学状況を知ってもらい、学生と共に取り組んでもらう。夏季休業中での校外実習では、主に就職希望者に対して、就職を意識して実習に望んでもらう。12月には三者面談を行い、学生の意志決定を行い、3月には模擬面接を行う。物質工学科では4月より、就職試験が始まり、6月までにほぼ内々定する。なお、4、5年の学級担任は、指導の連続性を考慮して持ち上がりとしている。

進路指導の流れ

1学年	新入生オリエンテーション
2学年	特別活動での就職・進学の講話
3学年	工場見学（北九州あるいは関西方面）
4学年	校内研修（全体研修、学科内研修）
	学級懇談会（対保護者）
	校外実習
	三者面談
	模擬面接
5学年	就職試験及び大学受験

② 進路状況

過去5年間の本科及び専攻科の就職先を表Ⅱ7(5)-1,2に、進学先を表Ⅱ7(5)-3,4に、本科の求人者数を表Ⅱ7(5)-5に示す。ここ5年間の就職と進学の比率はほぼ6：4であり、就職率100%である。物質工学科本科の就職先は、求人倍率が10倍を超える中でも、ほぼ、同じ企業に就職する傾向がある。これは、学生の選択に左右されるが、これまでの採用企業が本物質工学科の学生を高く評価していることを示唆している。また、これらの採用企業に対しては、5年学級担任、学科長、専攻主任が企業訪問を毎年行っていることも影響していると思われる。優秀な学生を送り出し、また、企業との信頼関係を保つことが重要だと思われる。専攻科の就職については、平成20、21年度では増加傾向にある。専攻科の企業への認知度も増し、大企業への就職も可能になったことがその要因の一つだと思われる。

物質工学専攻の入学者は、設立当時に比べ約2倍となり、専攻科の良さが学生に浸透したものと思われる。他大学への編入学は多い順に豊橋・長岡技科大、熊本大学、九州工業大学、東京工業大学、宮崎大学、その他の順になっている。進学率はほぼ4割を維持している。高専の使命から考えると、妥当な数字ではないかと考えている。専攻科からの大学院への進学率は、ここ3年ほど、大企業への就職が多くなったため進学率が減少している。

以前に比べ企業や大学の情報は格段に入手しやすくなった。しかしながら、進路をなかなか決めきれない学生も少なくなく、面接の仕方、適性検査の訓練、履歴書の書き方の指導の他に、低学年のうちから学生自らが将来を考える環境、すなわちキャリア支援の確立が必要である。

表Ⅱ7(5)-5 物質工学科本科生に対する求人数及び求人倍率

年　度	17	18	19	20	21
求人数	190	267	380	343	251
求人倍率	7.3	10.7	15.8	14.3	14.8

(6) 建築学科・建築学専攻の進路指導と進路状況

① 進路指導

本科生の進路指導は、5年担任が主体的に行っている。なお、建築学科では、他学科同様、4年担任が引き続き5年担任を担当するようにしており、本科生の実質的な進路指導は、4年学内研修（担任講話、卒業生による講演）、個人面談及び校外実習への申込み・参加等を通して4年次の前期から本格的に開始されている。さらに、4年次後期になると、建築学研究の一部の時間（5時間程度）を利用し、以下のような進路指導を実施している。

・5年生の進学・就職内定状況の説明（担当：5年担任）
・エントリーシートの書き方指導（担当：4年担任）
・面接に関するビデオ聴講（担当：4年担任）
・模擬面接（担当：建築学科全教員）
・模擬面接後の個別指導（担当：4年担任）

また、全学的にも、SPI試験、一般常識試験及びTOEIC IP試験が4年次に実施されている。

さらに、実際の履歴書、エントリーシート等の応募書類の作成に際しては、担任及び卒業研究指導教員等がきめ細やかな指導を行い、応募書類に遺漏なきよう努めるとともに、必要に応じて、面接試験直前には、個別指導を行うなど、個々の学生が可能な限り万全な体制で就職試験に臨むことができるよう指導している。

一方、専攻科生の進路指導に関しては、学生数が少人数であるため、学科長、専攻科主任及び特別研究指導教員が適宜行っている。

なお、ほぼ毎年、建築学科教員が分担し、東京、大阪等方面の企業訪問を実施し、次年度の求人動向、求人活動スケジュール、学校側に対する要望および卒業生の動向等に関する情報収集を行っている。これらの情報は、学科内での教育点検会議等を通して建築学科教員全員に周知するようにしている。過去5年間の企業訪問の実施状況は表Ⅱ7(6)-1に示すとおりである。近年、多くの企業では、就職試験の開始時期が4年次の3月初旬から開始されることから、ほとんどの学生の進路希望は、1月下旬から2月中に決定するようにしている。

以上、建築学科の進路指導は、学生に対して可能な限りきめ細やかな指導ができているものと判断する。ただし、求人数の減少や選考試験の内容の多様化に伴い、従来どおりの就職率を確保するための進路指導教員の業務量は10年前の比ではない。現在、進路指導業務は、5年担任を筆頭に一部の教員のみに集中している。今後は、教員の負担軽減に向けたより効率的な進路指導体制の構築を図る必要がある。

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題-自己点検評価報告書-〕

資料７－２－④－２

就職・進路適性検査実施要領

平成２３年度４年生就職・進路適性検査実施要領

１．検査日時、場所

・適性検査　　９月７日（水）
Ｍ・Ｅ・Ｃ・Ａ(専攻科棟２階多目的ホール)
１４：４５～１６：１５

・一般常識　　９月８日（木）
Ｍ・Ｅ科(専攻科棟２階多目的ホール)
１４：４５～１６：００

Ｃ・Ａ科(専攻科棟２階多目的ホール)
１６：２５～１７：４０

２．検査対象　　４年生全員（Ｍ・Ｅ・Ｃ・Ａ科）　１７０名

３．監督者

適性検査　　Ｍ、Ｅ、Ｃ、Ａ・・（有）福岡心理テストセンター
一般常識　　Ｍ、Ｅ、Ｃ、Ａ・・（有）福岡心理テストセンター

４．検査内容

適性検査　　適性検査ＳＰ１（実務教育出版）８０分
一般常識　　一般常識　（時事通信出版局）　７０分

５．受検料　　（後援会全額負担）

（注）当日、学生名表を配布・回収いたしますので、担任は、会場での出席確認をよろしくお願いします。

出席確認後は、監督者が資料説明及び試験監督を行います。

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－３

平成24年度４年生学内研修実施要項

目　　的　学生に高専の４年生として、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。また、厳しい就職状況下における学生生活の在り方を考えさせる。

期　　日　平成２４年４月１３日（金）

日　　程　１０：２５　専攻科棟２階　多目的ホールに集合
１０：３０　校長挨拶（講師紹介を含む。）
１０：４０　全体特別講演『長く思い続けること』
（講師：　　建築設計事務所　　氏）
＊昼食（学科別研修講師は学科で対応）

１３：００　学科別研修（学科で企画）

場　　所　全体特別講演……専攻科棟２階　多目的ホール
学科別研修……機械工学科：楽信館２階　研修室
電気工学科：多目的ホール
物質工学科：図書館ＡＶＲ室
建築学科：建築学科　多目的演習室

平成 24 年度　機械工学科４年生学内研修計画

研修目的：

高専の４年生として、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。
また、来年度の就職・進学活動へ向けての学生生活の在り方を考える。

日　時：平成 24 年 4 月 13 日（金）13：00ー16：45
但し 4 月 9 日ー12 日の 4 日間は研修週間の一部とし、1 日 20 分程度、機械工学科教員から 4 年生へ高学年生としての心構えの話をする。4 月 13 日はその最終日としての締めくくりの日とする。

参加者：４年機械工学科学生・本校機械工学科卒業生・機械工学科教員

場　所：　楽信館 2F 研修室

研修内容：

13:00　　集合（出欠確認）

1. 特別講演　　司会：４M 担任（高橋）

13:05~13:10　講師紹介　　学科長　（佐藤）

13:10~13:30　講演 1　　（平成 19 年 3 月卒）株式会社　ニコン，専攻科修了
13:55~14:00　質疑応答

13:35~13:55　講演 2　　（平成 15 年 3 月卒）三菱重工業(株)　長崎研究所
13:30~13:35　質疑応答

14:00~14:20　講演 3　　（平成 7 年 3 月卒）日鐵プラント設計(株)
14:20~14:25　質疑応答

14:25~14:35　休憩

2.懇談会（司会：４M 学生２人予定）

14:35~16:35 研修前日までに、学生が考えた今後の学園生活の過ごし方や目標について意見発表を行う。意見発表は 10 名程度のグループに分かれて各自行う。この意見発表についてのコメントを卒業生から述べて頂く。その他学生からの質問にも答えてもらう。
16:35~16:40 先輩からのメッセージ
今回の研修全体を通して、先輩から後輩へのメッセージがあれば述べて頂く。
16:40~16:45 エンディング
（４M 学生側から先輩への謝辞、4M 担任から卒業生へのお礼及び感想文等の連絡）

平成 24 年度　電気情報工学科４年生の学内研修計画

研修目的：
高専の４年生となった学生に、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。また、社会で活躍している本校卒業生の話を聴くことにより、厳しい就職・社会状況下における学生生活・社会人としての在り方について考えさせる動機付けとする。

日時：平成 23 年 4 月 13 日（金）13：00～
（午前中は全体特別講演）

場　所：多目的ホール

４Ｅ研修プログラム：
13：00～　講師紹介、講演 2 件
講演 1　高専の学生時代になすべきこと

ＮＴＴ西日本　ネットワーク部　企画部門　設備企画担当

講演 2　今の学生に“喝”

社団法人日本能率協会　ものづくり支援事業ユニット

講演後、休憩 10 分

懇談会　講演に対する質疑応答、先輩からのメッセージ

15:30 頃懇談会終了　学生側から先輩への謝辞、および担任から卒業生へのお礼

～16:00　解散。

（以上）

平成24年度4年生学内研修実施要項

目　　的　学生に高専の4年生として、学業及び生活面における自主性と責任感を自覚させる。また、厳しい就職状況下における学生生活の在り方を考えさせる。

期　　日　平成24年4月13日（金）

日　　程　10：25　専攻科棟2階多目的ホールに集合
10：30　校長挨拶および講師紹介
10：40　全体特別講演（講師：　　氏）
12：00　講演終了
13：00　学科別研修

場　　所　全体特別講演:専攻科棟２階多目的ホール
学科別研修:物質工学科：図書館AVR室

日　　程

13：00ー13：05	出欠確認
13：05ー13：15	学科長挨拶
13：15ー13：35	担任講話「就職・進学活動における心構え」 進路希望調査
13：35ー13：40	講師紹介
13：40ー14：30	講演1　　氏（平成20年度専攻科卒業生） 株式会社ホンダロック 生産本部基幹技術課(開発Gr) 演題名「高専→専攻科→社会人」
14：30ー14：40	質疑応答
14：40ー14：45	休憩
14：45ー15：35	講演2　　氏（平成19年度専攻科卒業生） 九州大学大学院工学府 化学システム専攻 演題名「高専から進学する意義」
15：35ー15：45	質疑応答
15：45ー16：20	講演者を囲んでの座談会
16：20ー16：30	総括　担任

平成 24 年度都城高専建築学科４年学内研修

● 学科別研修（建築学科）スケジュール

Ⅰ．研修の目的　　13 時 00 分

Ⅱ．担任講話　　13 時 05 分

1．高学年次での進級要件および卒業要件
2．卒業までの主な行事
3．校外実習およびオープンデスクについて
4．建築学研究について
5．研修旅行について
6．卒業研究について

（休憩）

7．進路について
8．推薦書の内容
9．エントリーシート作成および面接試験に備えて（今から考え始めておくこと）

（休憩）

Ⅲ．卒業生による講話および懇談　　15 時 00 分～16 時 10 分

演題：「高専卒業生でよかったこと」

パネラー：　　氏（平成 13 年３月卒業）　（株）熊谷組
　　氏（平成 20 年３月卒業）　大和ハウス工業（株）

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－４

三者面談資料

保護者のみなさまへ

5M 担任　永野茂憲

最終成績を発送し、ご報告いたします。みなさま、進級おめでとうございます。学生たちの努力により勝ち取った成果、大いに褒めてやってください。

早速ですが、最終の５年生となります。進学・就職を決定し、早期に書類づくりを進めなければなりません。（進学希望の場合、４月中に決定すればよいので、少し余裕があります。）現在、数名の学生が、就職先を決め、工場見学や履歴書作りをしている状況です。どういう状況か学生に御確認をお願いいたします。全く進んでいない学生（担任と話をしていない）には、M 科就職資料室へ行くよう、ご指導ください。（現在、３００社の求人があります。）特に工場見学に参加していない学生が、出遅れている状況だと思います。

３者面談をご希望の保護者にみなさまは、平日・土日曜日の希望時間をお知らせください。希望は、午前・午後とご指定ください。また、直接面談ではなく電話でも対応可能です（通話料金の心配もありますので、原則、学校電話で対応します）。（学校　　）（自宅　　）。よろしくお願いいたします。（**面談は、3/19 からすでに実施しています。**）

のため終日対応不可能です。それ以外は、対応可能です。ただし、企業対応を行なっている場合がありますので、根気強くお電話をお願い致します。　　こちらから、電話する場合もあります。

就職活動でクラスメイトが行動している企業データ

志布志備蓄基地。関西電力（もう一名枠あり）。三菱重工長崎。IHI マリンユナイテッド。メタウオーター（複数名可）。三浦工業。高エネ研究所。日鉄プラント。旭化成。九州電力。トヨタ車体。トヨタプロダクションエンジニアリング。本田技研。シマノ。

＊企業が求める人材に共通しているのは、「元気・明るさ・コミニケーション能力・挨拶（マナー）」です。

＊成績に自信のない学生は、SPI 試験の勉強をしておくこと！！

以上が、内定をもらうためには必要です！

4/4 水　始業式　8：35～5M 教室　この日に時間割を配布。

4/5 木　健康診断・卒研説明会

4/6 金　１年生合宿研修

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－５

模擬面接指導資料

2012-4-11
都城高専　電気情報工学科
御園　勝秀

就職面接試験の想定質問集

想定質問

視点：会社に入ってからどのくらい貢献してくれそうか？
これまでにどのように成長してきたか？今後、どのくらい成長しそうか？

Q 1：なぜ弊社を志望したのですか？
Q 2：弊社に入社したら何を/どの職種をやりたいですか？なぜですか？
Q 3：将来は弊社でどうなりたいですか/将来の夢は何ですか？
入社～5 年、10 年後、20 年後、30 年後・・・
Q3’：そのために入社後はどのように取り組んで生きたいですか？
Q 4：将来は管理職になりたいですか？専門職になりたいですか？
Q 5：希望しない職場/職種に配属されたらどうしますか？
Q 6：職場の上司/仲間とウマが合わない場合はどうしますか？
Q 7：用事がある日に残業（or 用事がある休日に出勤）を命じられたらどうしますか？
Q 8：（工場見学がある場合）工場見学をしてどのように感じましたか？
Q 9：上司に頼まれた仕事がうまく進まない場合、どうしますか？
Q10：海外と仕事を進める上で大切なことは何だと思いますか？
Q11：英語（他の語学）はどのくらいできますか？
Q12：会社で仕事を進める上で何が大切だと思いますか？
Q13：社会人としてやってはいけないこととして、何を第1にあげますか？
Q14：卒業研究の概要を説明してください。
Q15：学生時代に力を入れたこと、印象残っていることを話してください。
Q16：なぜ高専を選んだのですか？
Q17：これまでに失敗したこと/困難だと感じたことはありますか？そこから何を学びましたか？
Q18：クラブ活動/アルバイトをしていますか？そこから何を学びましたか？
Q19：あなたの長所と短所を教えてください。短所はどうしていきたいですか？
Q20：あなたはどのような性格だと思いますか？
Q21：あなたの得意な科目と苦手な科目を教えてください。
Q22：資格を持っていますか？/特技はありますか？
Q23：健康には気を配っていますか？（スポーツ/体力づくりは何かしていますか？）
Q24：最近、関心のあるニュースは何ですか？（今朝のニュースで/最近のニュースで・・・がありましたがどう思いますか？）
Q25：本や新聞はどのくらい読みますか？インターネットはどのような目的に使いますか？

面接時の注意点

・部屋に入るときは、ノックしてからドアを開け、「失礼します。」と言ってから入る。入ったら椅子のそばまで進み、高専名、学科名、氏名を言う。「席についてください」と言われてから着席する。面接が終わったら、「ありがとうございました。」と言ってから席を立つ。部屋のドアを閉めるときは、正面（面接官の方）を向いて一礼しながら「失礼します。」と言ってから静かに閉める。

・相手の目を見て話す。（目を見るのが苦手な人は、ネクタイの結び目あたりを見て話す。）

・両手はひざの上。両足は少し広げて床につける。足を組まない。背筋は伸ばす。

・意識的にゆっくりと、大きな声で話す。

・一般的な答えより、具体的な答え。自分の経験に基づいて、自分の言葉で、わかりやすく話す。

・語尾ははっきりと話す。

「・・・です。」、「・・・ます。」、「・・・と思います。」など。

・だらだらと話さないで、短く答える。

×:「・・・で、・・・。・・・だけど、・・・。・・・でも、・・・。」など。

〇:「・・・です。」、「そして・・・。」、「でも・・・。」、「そこで・・・。」、「ところが・・・。」など。

・質問がわからない場合は聞き直す。

「もう一度お願いします。」、「今の質問は・・・という意味ですか？」など。

・考えがまとまらない場合は、「考えをまとめるので少し時間をください」と言ってから、考えて答える。（考える時間は長くても 10 秒程度。）

・答えるときは、まず結論から話す。その後で理由を説明する。

・プライバシーに関する質問には答える必要はないが、微妙なところは臨機応変に対応する。

宗教、支持政党、生活信条、座右の銘、付き合っている彼女/彼氏、など。

（以上）

模擬面接注意事項_職員用 1.doc　'12/02/07　小原

模擬面接のお願い

2/10(金)の「建築学研究」の時間は模擬面接(個人)を行いますのでご協力をお願いします。

各学生の就職／進学に対する取り組み姿勢や心構えはまちまちですが，遅れていたり考えの甘さが目立つ学生には適宜厳しい指導をお願いします。また準備できている学生にもすぐ間近に迫った本番に対する講評，助言も併せてお願いします。

Ⅰ．実施要領

日程：2012(平成23)年2月10日(金)3,4限(10:30～12:05)

場所：4会場(図書館第1，第2会議室，楽信館ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ1,2)。学生及び教職員の割り振りは別紙「11H23_4A模擬面接班分け1.xls」参照。

面接形式：個人面接

面接担当者：1班あたり学科教員他2人　合計8人

時間：学生1人あたり8～9分程度(うち最後の3分ぐらいは口頭で総括･指導)。1班あたり10～11人で所要時間約90～100分。

Ⅱ．事前配布資料(事前配付のものをご持参ください。エントリーシートは小原が印刷物を用意します)

①11H23_4A 模擬面接注意事項_職員用 1.doc：本資料。

②11H23_4A 模擬面接班分け 1.xls：学生及び教職員の班別割り振り･面接順。右の評価やコメント欄は記入不要です。

③面接質問事項 2.doc：過去の採用試験･大学受験時の質問事項。

④11H23_4A 模擬面接評価シート 1.doc：模擬面接時評価用。

⑤個人情報(印刷物を後日配布します。これまで学生に書かせたエントリーシート)。

Ⅲ．面接担当者向け注意事項

①当日は　　に 10 時ぐらいから各室の開錠と暖房開始，設営を行って頂きます。3 限開始前に各会場へお入りください。

②事前配付のⅡ①～⑤の資料をご持参ください。筆記用具はご自分のものをご持参ください。

③模擬面接時は以下の要領でお願いします。

a)所属･氏名を確認後，「希望先」「会社･学校名」「学業･学生生活について」「自己紹介に関する質問」を適宜行ってください。学生の回答内容によってはさらに突っ込んだ鋭い質問をされて結構です。

特に将来の展望に対して意識の低い学生や，進路先に対する調査の甘い学生へ助言をしてください。

b)「11H23_4A 模擬面接評価シート 1.doc」に口頭で注意できなかった点をメモとして書いて頂けると助かります。可能な限りで結構です。

d)面接終了後，各学生分の「11H23_4A 模擬面接評価シート 1.doc」を速やかに小原までご提出ください。学科教員は小原(または研究室のポスト)へ直接で結構です。

(※以下は学生に配付した資料です。)

Ⅳ．模擬面接注意事項(学生用)

１．当日持参資料(室内への持ち込みは不可)

①模擬面接注意事項_学生用 1.doc：本資料。

②模擬面接班分け 1.xls：学生及び教職員の班別割り振り・面接順。

③面接質問事項 2 簡略版.doc：過去の採用試験・大学受験時の質問事項。

④これまで書かせたエントリーシート等のコピー。

２．参考：学生向け注意事項

①当日は可能な限り面接にふさわしい服装をすること。スーツでなくてもよいが，あまり華美なもの，だらけた印象を与えるものは避けること。

②10:35 から始めるので，各班の最初の学生は時間になったら**ノックして入室許可をとる**こと。

③入室時一礼後(30 度程度)，椅子横まで歩き，椅子の　**左側**　に立ち，所属と氏名を述べる。指示されてから着席する。

※入室時の声の出し方，挨拶，席までの歩き方等は事前注意の通り行うこと。最後まで本番を意識して行動すること。

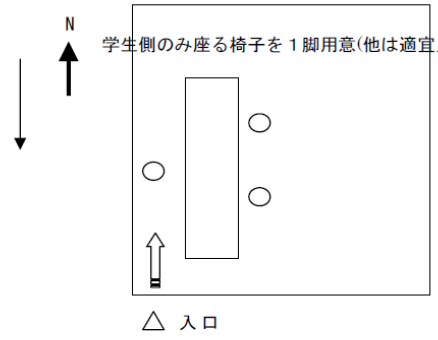
④面接時間は約 9 分。最初の 6～7 分は模擬面接，残りは担当者側から総括やアドバイスが行われるのでよく聞いておくこと(メモを取ると良い)。

⑤前の学生が退室したら 20 秒ほどおいて次の学生がノックすること。廊下等で待機中は騒がないこと。

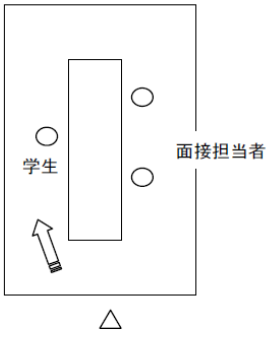
⑥後日自分に対する面接評価シートが担任から配布される予定。本番時の参考にすること。

３．参考：各会場レイアウト

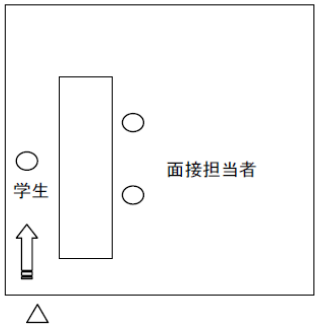
①図書館第１会議室



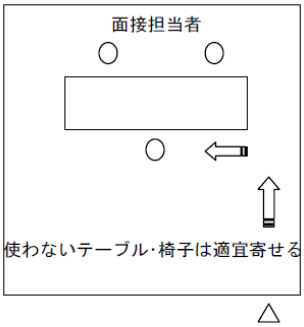
②図書館第２会議室



③楽信館ミーティングルーム１



④楽信館ミーティングルーム２



2

別紙１　2011(H23)年度4A模擬面接班分け一覧　　'12/02/10 09:00 小澤

No.	担当者&場所	番号	氏　名	更新	順番	第1志望	志望先(第1,2,3・・・)	評価5段階	コメント
第１班		4		2/1	1	ｾﾞﾈｺﾝ	未定		
		6		2/1	2	ｾﾞﾈｺﾝ	橋松 建設（戸田建設）		
		14		2/8	3	ｾﾞﾈｺﾝ	東レ 建設（施工管理）		エントリーシート一部記入少なし
	板倉	16		2/1	4	ｾﾞﾈｺﾝ	東亜建設工業、前田建設工業、電力系		
	中村（裕）	30		1/20	5	建築 ｾﾞﾈｺﾝ	東京製鉄（鉄は大半建築）、戸田建設、三井建設		
	高専機2F	35		1/20	6	ｾﾞﾈｺﾝ	大林組（施工管理）		
	ミーティング	1		1/20	7	未定	（従来はJR系列、NTTファシリティーズ、地元設計事務所）		
	ルーム１）	3		2/1	8	ｴﾈﾙｷﾞｰ	京セラ（大阪ガス、東京ガス、関西電力、九電）		インフルエンザで欠席
		12		2/1	9	ｴﾈﾙｷﾞｰ	大阪ガス、関西電力、地元企業		
		28		2/1	10	ｴﾈﾙｷﾞｰ	関西電力、旭化成、大阪ガス		
第２班		7		2/1	1	住宅系	大和ハウス、万里設備、ダイダン		
		39		2/1	2	住宅系	三井ホーム、住友林業、旭化成ホームズ		インフルエンザで欠席
		40		2/1	3	住宅系	住友林業、大和ハウス工業、積水ハウス		
	林田	25		2/1	4	プラント	三菱化学エンジニアリング（建設、設備専門）		
	中村（孝）	34		1/20	5	プラント	プラント系、三菱造船所、鉄道系企業、東京製		
	高専機2F	5		2/1	6	設備	高砂熱学、三菱空調、三洋建設）		
	ミーティング	13		2/1	7	設備	ダイダン、万里設備		
	ルーム２）	20		2/1	8	設備	三菱空調、ダイダン、高砂熱学		インフルエンザで欠席
		2		2/1	9	建築	九州工業大学		エントリーシート　2枚
		31		2/1	10	建築	TAK-GE、コプラ建築士設備会社		
		29		1/20	11	事務所	イタヤエマサユキアトリエ		
第３班		26		2/1	1	建築	京都工芸繊維大学建築学科（意匠設計）、岩国立大		
		36		1/20	2	建築	熊本大学、東京製、大林組		
		39		1/20	3	建築	未定（建築インフラ系大学）		
	福口	9		2/1	4	建築	都城高専東京製（、鹿児島大学）		
	坂田	10		2/1	5	建築	都城高専東京製（構造系）（内定NTTF）		
	図書棟2F	15		2/1	6	建築	都城高専東京製（ものづくり建築開発）		
	第１会議室）	17		2/1	7	建築	都城高専東京製		
		20		1/20	8	建築	都城高専東京製		エントリーシートほとんど白紙
		21		2/1	9	建築	都城高専東京製		
		24		2/1	10	建築	都城高専東京製（、就職（設備系））		
		42		2/1	11	建築	都城高専東京製		
第４班		22		2/1	1	公務員	公務員(or公務員専門学校)		
		8		2/1	2	未定	（JR系列、NTTファシリティーズ、三菱重工）		
	小原	18		1/20	3	未定	未定（設計は避けたい）		
	未定	32		2/8	4	未定	未定（建築設計）		
	（地域産業	33		2/3	6	未定	未定（映像系専門学校）		
	CD先ないと	38		2/5	8	未定	未定		
	他科数量）	37		2/1	7	未定	鉄道設系（特に？、日本ﾘﾋﾞｱｰﾄ、関西電力		
	図書棟2F	41		1/20	8	建築	未定（経営系専門学校？）		建築と映像で欠席
	第２会議室）	27		2/10	9	留学	TOTO、アメリカ		エントリーシート　親子に別のもの を流用
		43			10	建築	未定（大学デザイン系）		エントリーシート未提出（説明後入力）
		11		—	11	就学中	—	—	—

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－６

都城工業高等専門学校キャリア支援室規則

（設置）
第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、低学年からのキャリア教育の推進を図り、学生に職業観・倫理観を育成するための支援を行うとともに、就職・進学活動、インターンシップ等に関する支援を行うことを目的として、都城工業高等専門学校キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。
（業務）
第２条　支援室においては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) キャリア教育の企画及び実施に関すること。
(2) 就職、進学ガイダンス等の企画及び実施に関すること。
(3) 就職及び進学に関する情報等の収集、管理及び提供に関すること。
(4) インターンシップに関すること。
(5) 進路相談に関すること。
(6) その他学生の進路支援に関すること。
（組織）
第３条　支援室に次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 室長
(2) 副室長
(3) キャリア専門員
(4) 地域産業コーディネーター
(5) その他校長が必要と認めた者
２　室長、副室長及びキャリア専門員は、本校の教員の中から校長が任命する。
３　地域産業コーディネーターは、キャリアに関する専門的知識及び経験を有する者に校長が委嘱する。
（任期）
第４条　室長、副室長及びキャリア専門員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。
２　室長、副室長及びキャリア専門員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（任務）
第５条　室長は、支援室の業務を総括する。
２　副室長は、室長を補佐し、室長不在のときは、その職務を代理する。
３　キャリア専門員及び地域産業コーディネーターは、支援室の業務を処理する。
（支援室運営委員会）
第６条　支援室の円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校キャリア支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。
（事務）
第７条　支援室に関する事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか、支援室に関する必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－④－７

地域産業コーディネーターによる模擬面接・面談等の実績

平成２３年度 第１３回 教育会議資料（キャリア支援室）

１．キャリア支援室の今年度の取り組み

■ 特別活動関連

（１） 学年別

各学年（１年～３年）毎に１回ずつ実施

演題　：働くことの意義と楽しみ

講演者：地域産業コーディネーター　　氏

◎アンケート結果（満足度%）

【１年生】　平成 23 年７月６日実施

	M	E	C	A	全体
大いに満足	10.3	12.9	24.3	11.4	14.8
満足	61.5	54.8	56.8	74.3	62
普通	28.2	29	18.9	14.3	22.5
やや不満	0	3.2	0	0	0.7
不満	0	0	0	0	0

・普通まで含め、約 99%の学生が講演に満足している結果となった。

【２年生】　平成 23 年９月 14 日実施

	M	E	C	A	全体
大いに満足	13.3	4.7	15.9	6.3	10
満足	31.1	41.9	43.2	27.1	35.6
普通	55.6	51.2	40.9	58.3	51.7
やや不満	0	0	0	2.1	0.6
不満	0	0	0	2.1	1.7

・普通まで含め、約 98%の学生が講演に満足している結果となった。

【３年生】　平成 24 年１月 18 日実施

	M	E	C	A	全体
大いに満足	9.3	4.9	8.7	8.8	7.9
満足	30.2	29.3	32.6	47.1	34.1
普通	55.8	51.2	54.3	35.3	50
やや不満	2.3	7.3	0	2.9	3
不満	2.3	2.4	0	2.9	3

・普通まで含め、約 94%の学生が講演に満足している結果となった。

（２） 学科別

共通演題　：『県内企業で働くこと、その魅力』

◎ 機械工学科１～３年生（平成 23 年 11 月 16 日実施）

講演者：（株）ニチワ　　氏　平成 19 年専攻科（ME）卒

アンケート結果（満足度%）

	１年	２年	３年	全体
大いに満足	11.4	20	4.8	12.2
満足	47.7	44.4	19	37.4
普通	38.6	33.3	69	46.6
やや不満	2.3	2.2	2.4	2.3
不満	0	0	4.8	1.5
未回答	0	0	0	0

・普通まで含め、約 96%の学生が講演に満足している結果となった。

◎ 電気情報工学科１～３年生（平成 23 年 11 月 30 日実施）

講演者：旭化成ケミカルズ（株）　　氏　平成 17 年電気工学科卒

アンケート結果（満足度%）

	１年	２年	３年	全体
大いに満足	11.1	16.7	12.5	13.6
満足	69.4	45.2	45	52.5
普通	19.4	38.1	35	31.4
やや不満	0	0	2.5	0.8
不満	0	0	0	0
未回答	0	0	0	1.7

・普通まで含め、約 98%の学生が講演に満足している結果となった。

◎ 物質工学科１～３年生（平成 24 年１月 11 日実施）

講演者 ：太陽包装（株）　　氏　　平成 23 年物質工学科卒

アンケート結果（満足度%）

	1年	2年	3年	全体
大いに満足	14.3	30.2	26.1	23.7
満足	57.1	48.8	37	47.3
普通	28.6	18.6	37	28.2
やや不満	0	0	0	0
不満	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0.8

・普通まで含め、約 99%の学生が講演に満足している結果となった。

◎ 建築学科１～３年生（平成 24 年２月１日実施）

講演者 ：都北産業（株）　　氏　他２名　　平成 17 年建築学科卒

アンケート結果（満足度%）

	1年	2年	3年	全体
大いに満足	14.7	10.8	23.3	15.8
満足	38.2	51.4	60	49.5
普通	47.1	35.1	16.7	33.7
やや不満	0	2.7	0	1
不満	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0

・普通まで含め、約 99%の学生が講演に満足している結果となった。

■ 特別講演

平成２３年度キャリア支援セミナー『建築学科ＯＧによる講演会』

① 「Ａ＆Ａ建築設計事務所（東京都）」　平成６年３月　建築学科卒業
② 「(株) シンケン（鹿児島市）」　平成 16 年３月 専攻科（建築学専攻）修了
③ 「東京ガス（株）（東京都）」　平成 16 年３月　建築学科卒業
④ 「礼設計事務所（宮崎市）」　昭和 52 年３月卒業　建築学科卒業

■ 高学年生に対する教育・支援内容

（１）圏域内企業インターンシップ受入先の選定支援

（２）就職支援

・面接の練習や履歴書・エントリーシートの書き方などの指導

・圏域内企業就職希望者への情報提供や相談対応

・面談指導者　延べ 277 回

M	C	E	A	ME専	C専	A専	既卒者
21回	107回	1回	74回	11回	42回	7回	14回

（３）Ｕターン卒業生の就職支援

Ｕターンし、圏域企業に就職を希望する既卒者に対し、企業情報の提供や就職先の選定などの支援を行った。今年度は、計５名の面談を実施した。

■ 進路指導等に関する情報交換会（旧進路指導委員会に相当）

（１）今年度の反省事項について

（２）４年担任へ引き継ぎについて

■ 研修会【キャリア教育に関する九州沖縄地区高専・教職員研修会】（赤木先生）

日時　平成 24 年３月 23 日～24 日

場所　熊本高等専門学校　八代キャンパス

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－８

地域産業コーディネーターの活動内容

平成23年度地域産業コーディネーター活動内容について

平成24年1月24日

1．オリエンテーション①

平成23年度は学年別に３回開催。「働くことの意義と楽しみ」という演題で講演を行う。

対　象	日　時	講　師
本科１年生	平成23年7月6日（水）	（コーディネーター）
本科2年生	平成23年9月14日（水）	〃
本科3年生	平成24年1月18日（水）	〃

2．オリエンテーション②

本科低学年生（1～3年生）を対象とし、圏域企業で働いている高専ＯＢ・ＯＧを講師に「県内企業で働くこと、その魅力」という演題で講演を行う。

平成23年度は学科別に4回開催

対　象	日　時	講　師
機械工学科	平成23年11月16日（水）	（株）ニチワ　氏　平成19年専攻科（ＭＥ）卒
電気情報工学科	平成23年11月30日（水）	旭化成ケミカルズ（株）　氏　平成17年電気工学科卒
物質工学科	平成24年1月11日（水）	太陽包装（株）　氏　平成23年物質工学科卒
建築学科	平成24年2月1日（水）	都北産業（株）　氏他２名　平成17年建築学科卒

3．県内企業のデータ収集

コーディネーターが求人票を出している企業や過去に採用実績のある県内企業を訪問し、経営者や採用担当者より情報を収集した。

企業の概況、高専生の採用動向、高専生の評価（採用実績があれば）、Ｕターン既卒者の採用が可能か、その場合どんな人材が欲しいかなど

4．インターンシップ支援

圏域内企業インターンシップ受入先の選定支援を行った。

①本科4年生　5社（メタル・テクノ、サニー・シーリング、都城木材、吉原建設、大淀開発）

②専攻科1年生　3社（メタル・テクノ、大和工機、都城木材）

5．就職支援

面接の練習や履歴書・エントリーシートの書き方などの指導

圏域内企業就職希望者への情報提供や相談対応（求人票が出ていなくても採用担当者と交渉し内定になる場合もある。）

面談指導者　延べ277回（平成23年12月末現在）

M	C	E	A	ME	C専	A専	既卒者
21回	107回	1回	74回	11回	42回	7回	14回

6．Ｕターン卒業生の就職支援

Ｕターンし、圏域企業に就職を希望する既卒者に対し、企業情報の提供や就職先の選定などの支援を行った。　面談5名

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－９

各学科における訪問先

平成21年度　就職開拓費帳簿

機械工学科

月	日	先生名	行き先	日 程	訪 問 会 社	備 考
					後援会より入金	
		高橋明宏	関西方面	3月9日 3月10日 3月11日	住友金属鉱山㈱, JFEスチール㈱, 今治造船㈱ 住友重機械工業㈱, 住友化学㈱	
		河野行雄	延岡方面	8月31日	旭化成エンジニアリング㈱	
		高橋勇二	関東方面	8月20日 8月21日	TMCシステム㈱ ㈱AGP ㈱IHIマリンユナイテッド メタウォータ㈱ 東京電力㈱ ㈱JAL航空機整備成田	
		永野茂憲	関東方面	7月22日 7月24日	旭化成㈱ 東洋インキ製造㈱ いすゞエンジニアリング㈱	

平成22年度　就職開拓費帳簿

機械工学科

月	日	先生名	行き先	日 程	訪 問 会 社	備 考
					後援会より入金	
		小藪国夫	和歌山、 三重、 神奈川方面	7月30日、 8月3日、 8月4日	花王㈱（和歌山市）, ㈱森精機製作所（三重県、伊賀市） 三菱重工業（株）汎用機・特赦事業本部 （神奈川県相模原市） ㈱ｱｲ・ｴｲﾁ・ｱｲ ﾏﾘﾝﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ横浜工場（神奈川県横浜市）	4M学生インターンシップ関連企業への会社訪問
		高橋明宏	京都、 千葉、 東京方面	8月4日、 8月5日	三洋化成工業（株）（京都市） 関西電力（株）（京都市） 資生堂（株）（東京都 日立住友重機械建機クレーン（株）（東京都） ANAフライトラインテクニクス（株）（東京都） （株）Mテック （千葉県浦安市）	5M学生の内定先への会社訪問
		永野茂憲	名古屋、 静岡、 東京方面	8月17日、 8月18日、 8月19日	三菱重工（株）名古屋航空宇宙システム製作所（名古屋市） スズキ（株）（浜松市） カルビー（株）（東京都） 日本オーチスエレベータ（株）（東京都）	専攻科2年生の内定先への会社訪問

平成23年度　就職開拓費帳簿

機械工学科

月	日	先生名	行き先	日 程	訪 問 会 社	備 考
					後援会より入金	
		永野茂憲	関西・中部	7月21日 7月22日 7月22日	ダイキン工業㈱, 関西電力㈱, 森精機㈱ 日本ガイシ㈱, 新東工業㈱, 豊橋技科大学	4M学生インターンシップ関連企業への会社訪問
		永野茂憲	関東方面	3月29日 3月30日 3月31日	ANA整備工場、コニカミノルタ、メタウォーター、富士ゼロックス	新5M学生の希望先への会社訪問

建築学科企業訪問リスト

平成21年度	平成22年度	平成23年度
株式会社NTTファシリティーズ	荏原エンジニアリングサービス株式会社	大阪ガス株式会社
大阪ガス株式会社	大阪ガス株式会社	関西電力株式会社
関西電力株式会社	関西電力株式会社	五洋建設株式会社
株式会社熊谷組	JR西日本コンサルタンツ株式会社	JFEシビル株式会社
株式会社 TAK-QS	大和ハウス工業株式会社	株式会社 TAK-QS
大和ハウス工業株式会社	株式会社 TAK-QS	東レ建設株式会社
東京ガス株式会社	東芝エレベーター株式会社	戸田建設株式会社
東京地下鉄株式会社（東京メトロ）	東洋建設株式会社	三菱地所コミュニティ株式会社
東レ建設株式会社	東レ建設株式会社	
戸田建設株式会社	日本化学産業株式会社	
西日本旅客鉄道株式会社	日立アプライアンス株式会社	
株式会社日立建設設計		
株式会社フジタ		
前田建設工業株式会社		

企業訪問実績リスト

年度	月	訪問者	訪問地域	訪問企業数
平成20年度（2008）	10	原田	東京方面	5
	12	原田・山本	大阪方面	6
	計			11
平成21年度（2009）	10	原田・山本	大阪方面	6
	12	板倉	東京方面	8
	計			14
平成22年度（2010）	12	原田・山本	大阪方面	6
	2	板倉	東京方面	5
	計			11
平成23年度（2011）	11	原田	東京方面	4
	12	原田	大阪方面	4
	計			8

平成22,23年度　企業訪問リスト

物質工学科

年度	日	先生名	行き先	訪　問　会　社
22	2/6～2/9	野口　大輔	関東方面	東燃ゼネラル石油(株)、サントリーホールディングス(株)、サントリープロダクツ(株)、中外製薬工業(株)、第一三共プロファーマ(株)、丸善石油化学(株)、DIC(株)、横浜国立大
	2/7～2/10	福留功博	関西・山口方面	花王(株)、日本ペイント㈱、ダイキン工業㈱、関西ペイント㈱、ユニチカ㈱、日本触媒㈱、田辺三菱製薬工場㈱、第一工業製薬㈱、武田薬品工業㈱
23	11/10～12	山下敏明	関西 方面	関西電力、ユニチカ、日本触媒、ダイキン工業
	1/27	福留功博	福岡方面	企業と大学・高専の人材育成懇談会参加
	2/13～15	福留功博	関西・山口方面	宇部興産、武田薬品工業、第一工業製薬、三洋化成、花王
	3/6～3/10	野口　大輔	関東方面	中外製薬工業(株)、東燃ゼネラル石油(株)、第一三共プロファーマ(株)、大日精化工業(株) 、極東石油工業(株)、丸善石油化学(株) 、(株)高千穂、(株)高純度化学研究所

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－10

「都城高専の進路指導に関するアンケート」実施報告

平成 23 年 11 月 21 日
キャリア支援室

「都城高専の進路指導に関するアンケート」実施報告

１．アンケートの目的
本校の進路指導の改善のため、卒業生が在学時に受けた進路指導や就職支援に対する満足度および要望等を調査する。

２．実施概要
１）実施期間：2011 年 4 月 15 日～5 月 13 日
２）対象者　：2005～2009 年度の卒業生
３）アンケートの方法　ＰＣ及び携帯電話を利用した WEB アンケート
４）アンケート送付数 223
５）回答率　　61%
６）企画 H22 年度学生指導部
７）実施　キャリア支援室

３．質問項目
1)進路決定に関する質問
2)進路意識に関する質問
3)高専の進路指導に関する質問

４．結果概要
現在の進路先に満足しているＯＢは６２％であった。進路先に満足していない理由として、「学校で得た知識と実態が異なっていた」、「業界研究が不十分なまま進路を選んだ」、「第一志望でなかった」、「将来を真剣に考えずに進路を選んだ」をあげていた。
在学時に受けた進路指導に満足しているＯＢは４６％であり、具体的な進路指導は３年生からはじめるべきだとする回答が６９％、個人の適性について指導すべきであるとする回答が７３％あった。また、担任の個人面談が進路決定に役立ったと回答した OB は６２％、インターンシップが進路決定に役立ったと回答したＯＢは６３％であった。
進路決定に影響を与えた人物は担任２２％、親１９％、先輩・OB １３％の順に多く、本校の進路指導に関する自由回答式の質問では、ＯＢからの情報は進路決定の際に非常に有益でありＯＢと学校との連携の必要性を指摘する記述が多く見られた。

〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－11

「都城高専の進路指導に関するアンケート」（集計編）抜粋

都城高専の進路指導に関するアンケート(集計編)　目次

１　進路決定に関する質問・・・・・・・・・・・・・・３ページ

２　進路意識に関する質問・・・・・・・・・・・・・・５ページ

３　高専の進路指導に関する質問・・・・・・・・・・・７ページ

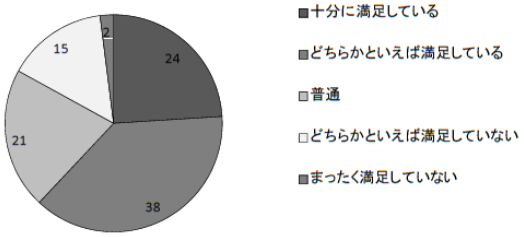
４　自由記述１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６ページ

５　自由記述２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０ページ

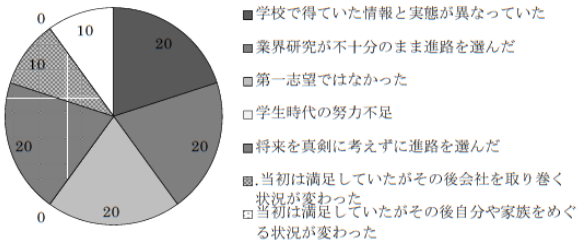
（参考）　回答属性に関する質問・・・・・・・・・・・２７ページ

１　進路決定に関する質問

質問１．現在の進路先について満足していますか。
（１．十分に満足している　２．どちらかといえば満足している　３．普通　４．どちらかといえば満足していない　５．まったく満足していない）
質問１で４．または５．を選択した方は質問２．を回答してください。



質問２．その原因は何だと思いますか。（複数回答可）
（１．学校で得ていた情報と実態が異なっていた　２．業界研究が不十分のまま進路を選んだ　３．第一志望ではなかった　４.学生時代の努力不足　５．将来を真剣に考えずに進路を選んだ　６.当初は満足していたがその後会社を取り巻く状況が変わった　７.当初は満足していたがその後自分や家族をめぐる状況が変わった　８．その他）



〔出典：キャリア支援室資料〕

資料７－２－④－12

コミュニティスペース保管資料一覧

コミュニティスペース

コミュニティスペースには下記の資料を置いてあります。自由に閲覧してください。何か不明な点があれば学生課まで問い合わせてください。

【教務関係】

1	学生便覧
2	授業計画
3	大学編入学学生募集要項
4	高専専攻科学生募集要項
5	大学院博士前期課程・修士課程学生募集要項
6	大学編入学試験過去問題
7	各大学入学案内・パンフレット
8	大学編入学資料
9	専門学校資料

【学生関係】

1	公務員関係募集要項
2	就職ガイドブック
3	アルバイト募集綴
4	大学と学生
5	学生対象パンフレット

〔出典：学生課資料〕

資料７－２－④－13

都城工業高等専門学校キャリア支援室運営委員会規則

（趣旨）
第１条　この規則は、都城工業高等専門学校キャリア支援室規則（平成２３年４月１日制定）第６条第２項の規定に基づき、都城工業高等専門学校キャリア支援室運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は、都城工業高等専門学校キャリア支援室（以下「支援室」という。）に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 支援室の運営に関すること。
(2) 支援室の施設、設備等に関すること。
(3) その他支援室に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 副校長（教務主事）
(2) 副校長（学生主事）
(3) 校長補佐
(4) 専攻科長
(5) 各学科長
(6) キャリア支援室長
(7) キャリア支援室副室長
(8) キャリア専門員
(9) 学生課長
２　委員は、校長が任命する。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、キャリア支援室長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故あるときは、キャリア支援室副室長が、その職務を代行する。
（定足数）
第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
（議決）
第６条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
（委員以外の出席）
第７条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。
（事務）
第８条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。

附　則

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。
２　都城工業高等専門学校進路指導委員会規則（平成１７年４月１日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料７－２－④－14

就職業務反省会及び打合せ議事録

平成２３年度　（第１回）進路指導等に関する情報交換会議事要録

日　時　　平成２４年１月２５日（水）　１６：３０～１８：３１

場　所　　図書館　第１会議室

出席者　学生主事、教務主事、土井キャリア支援室長、林田委員、赤木委員、山本委員、
原田委員、小藪委員、白濱委員、野口大輔委員、中村（裕）委員、
永野（茂）委員、御園委員、福留委員、小原委員、学生係長

配布資料

（１）各学科の反省点等　・・・・・・・・・　資料１
（２）地域産業コーディネーター活動内容について　・・・・　資料２
（３）平成２３年３月卒業者の進路状況（本科・専攻科）　・・・・・　参考１
（４）キャリア支援室運営委員会規則　・・・・　参考２
（５）進路指導委員会規則　・・・・　参考３
（６）キャリア支援室における来年度進路指導の対応について　・・　席上配布１
（７）平成２３年度都城高専の進路状況について（教務指導部）・　席上配布２

土井キャリア支援室長より、進路指導等に関する情報交換会について、次のとおり説明された。昨年までは、進路指導委員会が開催されていたが、キャリア支援室運営委員会の設置に伴い、先の委員会が廃止された。これにより、キャリア支援室運営委員会がその役割を担うこととなったが、旧進路指導委員会の構成メンバーと現支援室運営委員会の構成メンバーが異なること（５年担任の先生方がメンバーに入っていない）及び本情報交換会が「引き継ぎ・情報交換」の意味合いが大きいと判断できることから、本会の案内を旧進路指導委員会における構成メンバーの先生および４年担任の先生を中心に通知した。
本判断については、旧進路指導委員会の委員長の学生主事に相談をし、これまでの流れを極力継承するようにした。

議　題

１．今年度の反省事項について
土井キャリア支援室長より、地域産業コーディネーター活動内容について、資料２のとおり報告された。

（１）進路指導に関する反省点や課題について
・M科及びC科より、進路指導に対するキャリア支援室と５年担任の分担が不明確であるため、担任として就職指導のしにくさを感じたこと等について、資料１のとおり報告された。

この件については、土井キャリア支援室長より、席上配布されたキャリア支援室における来年度進路指導の対応について説明された。平成２４年４月以降に月１回程度キャリアＣＤと担任が集まり情報交換会を行う予定である。

・電気工学科では震災の影響で４月から２ケ月遅れで混沌した。

２．４年担任へ引き継ぎについて

機械工学科
・資料１のとおり、担任へ応募書類の提出は、企業の応募期限の１週間前を守らせる。
・学生へは第３志望までアンケートで調べた。志望の系列は固定されていない。志望が決定していないため、志望動機を記入する際に時間がかかった。
・学生が何を基準に資料を探しているか不明であるため、企業を決めるポイントが必要である。
・企業説明会へは、学生は強制的に出席させた方が良いので指導が必要である。特に先輩が説明会へ来訪している場合は、出席が必要である。
・学校推薦と自由応募がある。企業に対して学校推薦又は自由応募の確認を行う必要がある。
・キャリアＣＤからの紹介は、学校推薦として取り扱うこと。

物質工学科
・資料１のとおり、成績不振者(成績表に占める”可”の割合が50%程度のもの)はSPI等の訓練がかなり重要である。
・履歴書は市販用とエントリーシートがある。市販用はアルバイト目的のものであり、志望動機がない。学校用のエントリーシートがあると学生への指導がしやすい。
この件については、キャリア支援室で今後検討することとなった。

建築学科
・インターネットエントリーで企業から受け取るメールアドレスは、携帯用のメールアドレスではだめである。グーグル、Ｙａｈｏｏ等のメールアドレスを４年生の段階で取得する必要がある。また担任がメールアドレスを把握する必要がある。
この件については、キャリア支援室で今後検討することとなった。

専攻科
・専攻科の就職は、全般的に良好であった。

教務主事より、席上配布の平成２３年度都城高専の進路状況について報告された。
・この資料は、３年生に配布して情報を与えた。
・平成２４年度から３年生後期にエントリーシートを配布して記入させることを考えている。

体調不良について
・精神的に不安定な学生が数人いたが、問題はなかった。
・会社に対して敏感になってはいるが、体調不良はなかった。
この件については、キャリア支援室で今後検討することとなった。

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

適性試験，学内研修，三者面談，資料の配備等，学生が進路を決定するために，適切な支援体制を整備しており，種々の求人情報収集のために，教員による企業訪問も積極的に行っている。また，面接指導を積極的に行っており，十分な進路指導を行っている。さらに，キャリア支援室を設け，進路指導方針や反省事項を総括的に協議している。以上のように，就職や進学などの進路指導を行う体制を整備しており，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

課外活動，生活面及び進路指導に関する支援体制が優れている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準７の自己評価の概要

学習支援として，入学当初の１年生合宿研修，JABEE関連の説明会及び専攻科オリエンテーションを実施し，全教員がオフィスアワーを設定している。学習施設として，図書館，電子計算機センター及び情報化対応室を整備している。資格取得支援として，TOEIC IP等の受験必修化と受験料の後援会費による補助，専門分野の資格取得等の指導を行っている。留学生支援として，入学当初のオリエンテーション，チューター制度及び補講を実施しているほか，留学生は学生寮に優先して入寮できる。４年次編入学生には，オリエンテーションや学習指導を入学前から行っている。

クラブ・同好会等の活動支援のため，全教員を顧問教員として配置し指導を行っているほか，外部コーチの配置，活動場所の整備及び長期休業中の活動に対する合宿施設の整備を行っている。また，学生指導部主催による学生会役員研修等を実施している。学生会主催の行事にも教職員が協力及び指導を行っている。課外活動の経済支援として，後援会費を有効に活用し，学生傷害保険にも加入している。日本スポーツ振興センター法に基づく給付制度も利用できる。また，本校は，学校管理者賠償責任保険に加入し，法的に損害賠償責任が発生した場合に備えている。準学士課程では，学級担任が学習・生活面の指導を綿密に行い，教員と保護者間の理解を深めるため，保護者懇談会を実施している。専攻科生の指導は，専攻主任と特別研究指導教員が中心に行っている。

学生の健康管理のために，保健室や学生相談支援室を設けている。経済的支援として，就学支援金制度，奨学制度並びに入学料及び授業料の免除及び猶予制度を整備している。

学生寮では，寮日課を定めて規則正しい生活をさせている。学習時間外の勉学希望者用の学習室を設けたり，定期試験中等における学習時間確保のために消灯時間を延長している。

進路指導として，適性試験，４年学内研修，三者面談，模擬面接等を実施している。教員の企業訪問も行っており，求人情報や企業要望等の情報を入手している。コミュニティスペースでは，大学編入学や公務員試験等の資料を自由に閲覧できる。学校としての進路指導の方針や反省事項の協議を行うため，キャリア支援室運営委員会を設置している。

以上，学習，資格取得，課外活動，生活，進路決定等の各面の学生支援を十分行っている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

教育課程を実現するために，一般教科棟，各学科棟，専攻科研究棟，実習工場，演習・実験棟，電子計算機センター，運動場，体育館及び図書館を整備している（資料８－１－①－１）。一般教科棟は，低学年生が主に一般科目を学習する。各学科棟や実習工場及び演習・実験棟は，各学科の専門科目における演習，実験及び卒業研究に使用している。運動場や体育館等の設備は，授業での使用はもとより，学校全体の集会や課外活動及び各種行事に使用する。電子計算機センターは，情報処理教育や演習・研究等に利用し，その他にクラブ活動を含めた自主学習ができる環境も整備している（資料８－１－①－２～３）。図書館は，学習や研究及びその他の文化活動に利用される。遠方に自宅があり授業日課の遂行が困難である場合は，寄宿舎を利用できる（資料８－１－①－４）。これら施設の利用については，学生便覧に利用規則を掲載し，利用における注意等を喚起している（資料８－１－①－５～７）。また，通常使用する教室には液晶プロジェクター及びスクリーンを導入し，教室のAV環境を整備している。施設の点検，改善及び改修は，５年間の整備計画を立案し，それに沿って計画的に実施している（資料８－１－①－８）。

平成16年４月に独立行政法人へ移行後，労働安全衛生法が適用され，全教職員及び学生に「安全の手引き」と「実験実習安全必携」を配付し，実験や実習等の危険を伴う作業に対して，安全な遂行を徹底している（資料８－１－①－９～10）。また，毎月校内巡視を行い，教育・研究等の活動における労働災害の防止に努めている（資料８－１－①－11～14）。

施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮の取組は，一部完了し，今後の取組促進のために，現状の整備状況及び今後の整備計画（年度計画）を立案し，それに沿って営繕要求等による予算要求や計画実行を図っている（資料８－１－①－15）。

観点８－１－①　資料一覧

資料８－１－①－１　施設概況

〔出典：学校要覧〕

資料８－１－①－２　施設の利用状況（平成23年度前期）

〔出典：学生課資料〕

資料８－１－①－３　施設の利用状況（平成23年度後期）

〔出典：学生課資料〕

資料８－１－①－４　学寮概要

〔出典：ホームページ〕

資料８－１－①－５　都城工業高等専門学校図書館利用規則

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－６　都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－７　都城工業高等専門学校寄宿舎規則

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－８　長期計画書（表紙）

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－９　安全の手引き（表紙）

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－10　実験実習安全必携（表紙）

〔出典：国立高等専門学校機構〕

資料８－１－①－11　都城工業高等専門学校安全衛生委員会規則

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－12　都城工業高等専門学校安全衛生管理体制規則

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－13　安全衛生委員会議事録

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－14　巡視記録

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－15　年度計画

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－１

施設概況

施設概況 Lands and Buildings

建物・工作物 Building

(平成 24 年 4 月 1 日現在)
(As of Apr, 1 .2012)

校舎及び付属建物 School Buildings,etc.				
名称 Name		構造階数 Structure	延面積 Areas	備考 Note
校舎関係 School Building	一般教科棟 General Education Building	R 2-3	3,263 ㎡	薬品庫含む Chemical Storehouse
	専攻科研究棟 Advanced Engineering Building	S 4	1,303	
	機械工学科棟 Mechanical Engineering Build	R 3	1,424	
	実習工場 Training Center	R 1	850	
	材料庫 Mechanical Engineering Storehouse	R 1	56	ボンベ庫含む Cylinder Storehouse
	自動制御実験室 Mechanical Dynamics Laboratory	R 1	75	
	電気情報工学科棟 Electrical and Computer Engineering Building	R 3	1,639	
	工作室 Workshop	B 1	14	
	物質工学科棟 Chemical Science and Engineering Building	R 3	1,642	薬品庫含む Chemical Storehouse
	生物工学棟 Bioengineering Building	R 3	569	
	プラント実験室 Chemical Plant Laboratory	R 1	88	
	高圧ガス庫 High-Pressure Gas Storehouse	R 1	19	
	建築学科棟 Architecture Building	R 3	1,492	集塵庫含む Cleaner Storehouse
	建築演習棟 Structural Calculating Room	B 1	132	
	電子計算機室 Computer Center	R 1	306	
	情報処理教育センター Information Processing Education Center	R 1	305	
	応用物理実験棟 Applied Physics Laboratory	R 1	282	
	図書館 Library	R 2	1,618	
	選択教室棟 Elective Classroom Building	R 3	664	
	第二材料実験室 Architecture Laboratory	R 1	173	
	高電圧実験室 High-Voltage Laboratory	R 1	132	
文化系 Extra-Curicular Activities Facility	文科系課外活動室 Club House	S 1	168	
福利関係 Welfare Facilities	福利施設(楽信館) Club House for Staff and Students	R 2	816	
	合宿施設 Lodging House for Club Activities	R 1	200	
	器楽練習室(暁雲館) Musical Instrument Exercise Room	W 1	126	
管理関係 Administration Office	管理棟 Administration Office Building	R 3	1,056	
	事務電算室 Official Computer Facility	R 1	51	
	学生会室 Student Union Room	B 1	31	
	守衛室・その他 Gatekeeper House, etc	R 1	647	車庫・倉庫・変電室・物品庫 Garage Storehouse Substation Room
	自転車置場 Bicycle Parking Area	S 1	一式(1set)	3 ヶ所 3 area
体育関係 Physical Education Facilities	第一体育館 1st Gymnasium	S 1-2	1,023	
	第二体育館 2nd Gymnasium	S 1-2	880	
	武道館 Martial Arts Gymnasium	S 1-2	576	
	弓道場 Archery Ground	S 1	91	
	プール(部室) Swimming Pool (Club House)	R 1	507	25m・7 コース 25m. 7lanes
	体育器具庫 Physical Edu. Implement Storehouse	R 1	74	
設備関係 Equipment	給水施設 Water Supply Facilities	R 1	28	
計 Total			22,320	

寄宿舎及び職員宿舎 Dormitory and Personnel Housing				
名称 Name		構造階数 Structure	延面積 Areas	備考 Note
寄宿舎関係 Dormitory	女子寮 第一棟 Dormitory for Female Boarders 1	R 3	1,146 ㎡	
	男子寮 第一棟 Dormitory for Male Boarders 1	R 3	712	
	〃 第二棟 Dormitory for Male Boarders 2	R 3	711	
	〃 第三棟 西 Dormitory for Male Boarders 3-West	R 4	1,530	
	〃 第三棟 東 Dormitory for Male Boarders 3-East	R 4	1,411	
	男子寮 第四棟 Dormitory for Male Boarders 4	R 2	520	
	寮研修棟 Welfare Center	R 1	263	
	管理棟・食堂厨房 Dormitory Refectory	R 1	916	
	洗濯室 Laundry	B 1	84	2 ヶ所 2area
	物干場 Drying Room	S 1	一式(1set)	
	自転車置場 Bicycle Parking Area	S 1	一式(1set)	6 ヶ所 6area
	プロパン庫 Gas Storehouse	B 1	9	
	ボイラー室 Boiler House	B 1	53	
	加圧ポンプ室 Pump House	B 1	5	
	倉庫 Storehouse	R 1	27	2 ヶ所 2area
	計 Total		7,387	
職員宿舎関係 Personnel	花繰宿舎 Hanaguri Personnel Housing	W 1	103	1 戸 1 house
	年見宿舎 Toshimi Personnel Housing	W 1	413	6 戸 6 houses
	吉尾住宅 Yoshio Personnel Housing	R 5	1,434	1 棟 20 戸 1area20houses
	計 Total		1,950	

土地 Land

(平成 24 年 4 月 1 日現在)
(As of Apr, 1.2012)

区分 Classification	校舎敷地 College Buildings	屋外運動場 Playground	寄宿舎敷地 Dormitory	小計 Sub-Total	職員宿舎敷地 Staff Housing	合計 Total
面積 Area	51,978 ㎡	36,431 ㎡	17,330 ㎡	105,739 ㎡	4,912 ㎡	110,651 ㎡

〔出典：学校要覧〕

資料８－１－①－２

施設の利用状況（平成23年度前期）

23前期					
教室名	普通教室　1M	普通教室　2M	普通教室　3M	普通教室　4M	普通教室　5M
利用率%	68	70	65	60	45
教室名	普通教室　1E	普通教室　2E	普通教室　3E	普通教室　4E	普通教室　5E
利用率%	75	65	60	55	45
教室名	普通教室　1C	普通教室　2C	普通教室　3C	普通教室　4C	普通教室　5C
利用率%	65	65	65	55	50
教室名	普通教室　1A	普通教室　2A	普通教室　3A	普通教室　4A	普通教室　5A
利用率%	75	65	60	55	50
教室名	第1選択教室	第2選択教室	第3選択教室	第4選択教室	ゼミ室(2階)
利用率%	60		40	40	35
教室名	AVR室	多目的ホール	情報処理演習室	第1体育館	第2体育館
利用率%	53	20	40	80	80
教室名	留学生対応室				
利用率%	25				

〔出典：学生課資料〕

資料８－１－①－３

施設の利用状況（平成23年度後期）

23後期					
教室名	普通教室　1M	普通教室　2M	普通教室　3M	普通教室　4M	普通教室　5M
利用率%	70	65	65	45	55
教室名	普通教室　1E	普通教室　2E	普通教室　3E	普通教室　4E	普通教室　5E
利用率%	78	65	60	55	40
教室名	普通教室　1C	普通教室　2C	普通教室　3C	普通教室　4C	普通教室　5C
利用率%	68	65	65	60	45
教室名	普通教室　1A	普通教室　2A	普通教室　3A	普通教室　4A	普通教室　5A
利用率%	78	65	60	55	50
教室名	第1選択教室	第2選択教室	第3選択教室	第4選択教室	ゼミ室(2階)
利用率%	65		40	45	33
教室名	AVR室	多目的ホール	情報処理演習室	第1体育館	第2体育館
利用率%	48	20	50	80	80
教室名	留学生対応室				
利用率%	25				

〔出典：学生課資料〕

資料８－１－①－４

学寮概要

学寮概要

学寮概要　寮日課　寮行事　寮の食事　寮指導部　寮生会

本校には、学生の修学に便宜を供与し、かつ、共同生活を通じて人間形成を助長し、本校の教育理念及び教育目的の達成に資するために、学寮が設けられています。 学寮は鉄筋コンクリート造で、「**高千穂寮**」と呼ばれ、寮生は一部屋2名で生活しています。また、女子学生のための女子寮も独立棟として設置されています。 寮生は、寮指導部のもとで寮日課にしたがって規則正しい生活を送っています。また寮生が共同生活を自立的に行うため寮生会のもとに寮祭、寮マッチ、夜間ハイクなど楽しい行事が年間を通して行われ、上級生と下級生との親睦の場となっています。

学寮収容現員

（ 平成24年 4月15日 現在）

男子寮							女子寮							現員総数
低学年			高学年		専攻科	計	低学年			高学年		専攻科	計	
1年	2年	3年	4年	5年			1年	2年	3年	4年	5年			
50	61	49	44	41	5	250	17	12	11	7	8	0	55	305

〔出典：ホームページ〕

資料８－１－①－５

都城工業高等専門学校図書館利用規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校図書館規則（平成２３年４月１日制定）第９条の規定に基づき、都城工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）の利用について必要な事項を定める。

（図書）

第２条　図書館には、次の図書館資料（以下「図書」という。）を備え付けるものとする。

(1) 貴重図書

(2) 特殊図書

(3) 辞書・百科事典等参考図書

(4) 普通図書

(5) 視聴覚資料

(6) 逐次刊行物等各種資料

第３条　図書は、その一部を次の各号に掲げる場所に備え付けることができる。

(1) 校長室

(2) 教員の研究室

(3) 事務部長室

(4) 事務部の事務室

（利用者）

第４条　図書を利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員

(2) 本校の学生

(3) 本校の非常勤講師

(4) 図書館の利用を申し出た一般利用者

（利用方法）

第５条　図書の利用法は、次のとおりとする。

(1) 室内閲覧

(2) 室外帯出

(3) 書庫内検索

（開館時間）

第６条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、図書館長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。

(1) 平日　　９時～２０時

(2) 土曜日　９時～１７時

（休館日）

第７条　休館日は、次のとおりとする。ただし、図書館長が必要と認めるときは、これを変更する

ことができる。
(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
(2) 日曜日
(3) 春季休業、冬季休業及び学年末休業期間中の土曜日
(4) １２月２８日から翌年１月４日まで
(5) 夏季休業期間中の一定期間
(6) 図書整理日（原則として毎月の初日とする。）

（閲覧）

第８条　開架方式の図書は、その室内に限り閲覧することができる。

第９条　閲覧を終えた図書は、正確にもとの場所に返さなければならない。

第１０条　開架方式によらない図書は、係員に申し出て利用することができる。

（帯出禁止）

第１１条　次の図書は、室外帯出を認めない。
(1) 辞書・百科事典等の参考書
(2) 貴重図書及び特殊図鑑
(3) 逐次刊行物の最新号

（貸出し）

第１２条　貸出しできる図書の冊数は５冊以内とし、期間は１０日とする。ただし、春季・夏季・冬季及び学年末の休業期間中の貸出期間については、別に定める。

２　前項の規定にかかわらず、本校の教職員の研究又は教育上必要な図書については、次の各号に掲げるとおり特別な取扱いをすることができる。ただし、図書館長が必要と認めたときは、この限りでない。
(1) 各自の研究費で購入した図書（研究費購入図書）は、必要な冊数だけ貸出しすることができ、貸出期間は購入後１０年間を限度とするが、その期間は更新できるものとする。
(2) 研究費購入図書以外の図書で長期に貸出しする必要がある図書（長期貸出図書）は、１０冊を限度とし、貸出日の属する年度の３月末日まで貸出しすることができる。

第１３条　図書の貸出しを希望する者は、利用者バーコードを貼った学生証又は図書館利用券を係員に提出しなければならない。

第１４条　貸出図書は、他人に転貸してはならない。

（返却及び貸出停止）

第１５条　貸出図書は、係員に返却しなければならない。

第１６条　貸出しを受けている者が、本校の教職員、学生若しくは非常勤講師としての身分を失う場合又は学生が休学となる場合は、直ちに貸出中の図書を返却しなければならない。

第１７条　図書館長が必要と認め返却の請求をしたときは、速やかに貸出中の図書を返却しなければならない。ただし、貸出期間を過ぎても図書を返却しない場合は、その返却が終わるまでの間、新規の貸出しを停止することができる。

（弁償）

第１８条　図書を汚損、破損又は紛失したときは、直ちに届出の上、現物又は相当の代金を返却し

なければならない。

（検索）

第１９条　書庫内図書の検索を希望する者は、係員に申し出て、入庫者名簿に所定事項を記入しなければならない。

（書庫への入室）

第２０条　書庫に入室するときは、ノート・筆記具以外の所持品は持ち込んではならない。ただし、教科書等の持込みが必要なときは、係員に申し出て、退出の際、その本を提示しなければならない。

（閲覧室の注意）

第２１条　閲覧室においては、静粛を保ち、音読、談話、喫煙、飲食等図書館内の秩序を乱すような行為をしてはならない。

（図書館内での注意）

第２２条　図書館内では、掲示に注意するとともに、係員の指示に従わなければならない。

（利用の禁止・停止）

第２３条　この規則に違反した者は、図書の利用を禁止又は停止することがある。

（雑則）

第２４条　図書を利用者の閲覧に供するため、図書の目録及びこの規則を常時閲覧室内に備え付けるものとする。

附　則

１　この規則は、昭和５３年２月１５日から施行する。

２　都城工業高等専門学校図書室利用規則（昭和４０年９月１日制定）は、廃止する。

＜略＞

附　則

この規則は、平成２３年１２月５日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－６

都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校電子計算機センター規則（昭和 54 年 11 月 16 日制定）第８条第１項の規定に基づき、電子計算機センター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定める。

（利用者）

第２条　センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び職員

(2) 校長が特に認めた者

（開館時間）

第３条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。

(1) 平日　　８時３０分～１７時

（閉館日）

第４条　閉館日は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 土曜日及び日曜日

(3) 夏季休業、冬季休業及び春季休業中の一定期間

(4) 電子計算機（以下「電算機」という。）等の設置及び調整等に必要な一定期間

(5) その他、本校が定める休業日

（利用制限）

第５条　センター長が特に必要と認めたときは、電算機及び演習室の利用を制限することがある。

（休業日及び時間外の利用）

第６条　休業日及び開館時間外にセンターの利用を希望する者は、別紙様式により利用願を提出し、センター長の許可を受けるものとする。ただし、22 時以降の利用は原則として認めない。

附　則

１　この規則は、昭和 54 年 11 月 16 日から施行する。

２　都城工業高等専門学校情報処理センター使用細則（昭和 52 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

＜略＞

附　則

この規則は、平成20年6月11日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－７

都城工業高等専門学校寄宿舎規則

（趣旨）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 49 条第２項の規定に基づく、本校における寄宿舎（以下「学寮」という。）の管理運営については、この規則の定めるところによる。

（学寮の目的）

第２条　学寮は、学生の修学に便宜を供与し、かつ、共同生活を通じて人間形成を助長し、本校の教育理念及び教育目標の達成に資することを目的とする。

（名称及び構成）

第３条　本校の学寮は、高千穂寮と称する。

２　高千穂寮には、男子寮と女子寮を置く。

（遵守義務）

第４条　学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、第２条に掲げる目的の達成のため、この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規則を遵守しなければならない。

（学寮生活の基本）

第５条　寮生は、相互に敬愛啓発して自己及び共同生活の向上に努め、寮生活の充実に心掛けなければならない。

２　寮生活の規律を規定した寮生規範は、別に定める。

（所管）

第６条　寄宿舎の管理運営に関する事項は、校長の命を受けて、寮務主事が処理する。

（入寮）

第７条　自宅外通学生は、校長の許可を受けて入寮することができる。ただし、校長が特別に許可した場合は、自宅通学生を入寮させることができる。

２　疾病その他の事由により共同生活に適さないと認めた者は、入寮を許可しない。

３　入寮を希望する者は、別紙様式第１号による入寮願を提出し、寮務主事の選考を経て校長の許可を得なければならない。

４　入寮の許可は当該年度限りとし、翌年度も引き続き入寮を希望する者でも、前項の手続を行わなければならない。

５　入寮の時期は、学年初めを原則とする。

６　入寮募集及び選考に関し必要な事項は、別に定める。

（入寮手続）

第８条　入寮を許可された者は、指定された期日までに別紙様式第２号による入寮誓約書を提出し、入寮手続きをしなければならない。

２　入寮を許可された者が前項の手続きをしないときは、その許可を取り消すことができる。

（居室の決定）

第９条　寮生の居室の決定及び変更は、寮務主事が行う。

（退寮）

第 10 条　寮生が退寮を希望するときは、別紙様式第 3 号による退寮願を提出して、校長の許可を受けなければならない。
2　本校の学則及び学生準則並びにこの規則に違反した者、又は、教育上、病気及びその他の事由により共同生活に適さないと認めた者に、校長は退寮を命じることがある。
3　退寮の許可を受けた者又は退寮処分を受けた者は、直ちに退寮しなければならない。
（生活区域）
第 11 条　寮生は、別に定める異性の生活区域に立ち入ってはならない。
（居室への立ち入り）
第 12 条　厚生補導、学習指導及び学寮施設の管理上において必要がある場合は、本校教職員又は本校の委託を受けた業者が居室に立ち入ることができる。
（寮生会）
第 13 条　学寮に寮生全員で構成する寮生会を置く。
2　寮生会は、寮務主事の指導の下に、寮生の自主的活動を通じて共同生活を自律的に運営し、学寮の目的達成に資することを目的とする。
3　寮生会は、規約を制定及び改廃しようとするときは、校長の承認を受けなければならない。
（門限）
第 14 条　学寮の目的達成及び秩序維持のため、男子寮、女子寮及び学年等の特性に応じて、門限時刻を別に定める。
2　寮生は、外出、外泊、旅行及び帰省した場合には、前項の門限時刻を厳守しなければならない。
（外出、外泊、旅行及び帰省）
第 15 条　寮生が外出、外泊、旅行及び帰省をする場合の必要な手続きは、別に定める。
2　本校学則第 5 条に定めた休業日以外の帰省泊及び外泊は、原則として認めない。ただし、あらかじめ寮務主事を経て校長の許可を受けた場合は、その限りでない。
（開寮及び閉寮）
第 16 条　学寮は、春季、夏季及び冬季休業の終る日に開寮し、春季、夏季、冬季及び学年末休業の始まる日に閉寮する。
2　学寮は、春季、夏季、冬季及び学年末休業中は閉寮する。
3　寮務主事は、前 2 項により難い事由があるときはこれを変更することができる。
（外来者との面会及び外来者の立ち入り等）
第 17 条　外来者との面会は、寮務主事、寮務主事補、宿日直者又は係官（以下「関係教職員」という。）の許可を待て指定された場所で行うものとする。
2　門限時間以降の面会は、原則として禁止する。ただし、やむを得ない事由があると関係教職員が判断した場合には、これを許可することがある。
3　外来者が見学等のため、寮内に立ち入りを希望する場合は、関係教職員の許可を受け、その指示に従わなければならない。
4　外来者は、校長が特別に許可した場合を除き、学寮の施設設備を使用してはならない。
5　外来者が学寮に宿泊することを禁止する。ただし、やむを得ない事由があると校長が判断した場合には、これを許可することがある。

（寄宿料等）
第 18 条　寄宿料の月額は独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 35 号）の定めるところにより納付するものとする。
2　寄宿料は、学寮に入寮した日の属する月から退寮する日の属する月まで毎月 20 日までにその月の分を納付しなければならない。ただし、8 月分は 7 月 20 日までに納付するものとする。
3　寮生の生活上、各人が負担すべき経費（以下「寮費」という。）は、別に定めるところにより納付しなければならない。
4　寮生又は寮生の学資を主として負担している者が災害を受け、納付困難と認められる場合は、別に定めるところにより寄宿料を免除することがある。
5　寄宿料及び寮費を納付しない者は、退寮させることがある。
（防災安全）
第 19 条　寮生は、火災その他の災害の防止について常時注意するとともに、学校が行う防火訓練その他の措置について協力しなければならない。
2　火気の使用は、指定の場所以外でしてはならない。
3　寮生は、災害又は事故の発生を知った場合は、直ちに、関係教職員にその旨を報告し、以後職員の指示に従って行動しなければならない。
4　寮生は、危険防止のため、居室棟の廊下、階段及びその周辺に物を置いてはならない。
（保健衛生）
第 20 条　寮生は、各自健康の維持及び増進に留意するとともに、学寮内の清潔に努めなければならない。
2　身体に異常があるときは、関係教職員に届け出て適切な指示を受けなければならない。
3　校長は、伝染病の発生及びその他の事由により必要がある場合、健康診断及び予防接種の実施、その他寮生の健康を守るための必要な処置をとることがある。
（施設・設備の使用）
第 21 条　学寮の施設・設備の使用については、別に定める。
（注意義務及び損害賠償等）
第 22 条　寮生は、学寮の施設・設備及び備品を常に愛護の精神をもって使用しなければならない。
2　寮生が故意又は重大な過失により施設、設備及び備品を損傷し、又は焼失若しくは紛失したときは、これを現状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。
（雑則）
第 23 条　この規則に定めるもののほか、学寮運営について必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成 6 年 1 月 24 日から施行する。

＜略＞

附　則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－８

長期計画書（表紙）

（国立高等専門学校機構）

長期計画書

－創造性を育むﾆｭｰｷｬﾝﾊﾟｽﾌﾟﾗﾝ－

平成19年 10月

都城工業高等専門学校



〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－９

安全の手引き（表紙）

安全の手引き

第2次改訂版

機械工学科・・・・・・3

電気情報工学科・・・・29

物質工学科・・・・・・37

建築学科・・・・・・・77

情報機器の利用・・・89

一般科目・・・・・・91

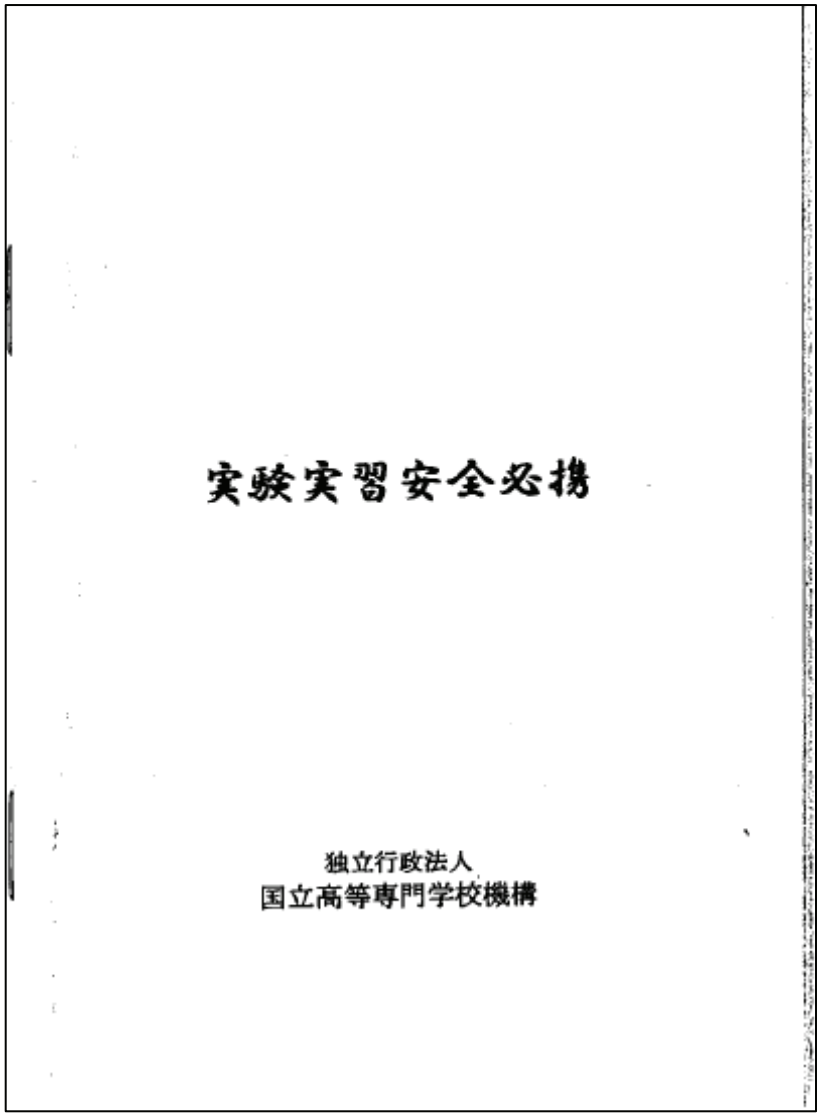
廃液処理の指針・・・103

平成２２年４月
都城工業高等専門学校

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－10

実験実習安全必携（表紙）



〔出典：国立高等専門学校機構〕

資料８－１－①－11

都城工業高等専門学校安全衛生委員会規則

（目的）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則第１３条第１項の規定に基づき、都城工業高等専門学校安全衛生委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

（任務）

第２条　委員会は、本校における教職員の安全衛生に関し、次の各号に掲げる事項を調査審議する。

一　教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。

二　教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。

三　労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること。

四　前３号に掲げるもののほか、教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項

２　委員会は、次の各号に掲げる事項を調査審議することができる。

一　教職員の危険を防止するための基本となるべき対策に関すること。

二　労働災害の原因及び再発防止対策で、安全に係るものに関すること。

三　前２号に掲げるもののほか，教職員の危険の防止に関する重要事項

３　委員会は、本校における環境マネジメントの実施について監査を行い、監査結果を校長に報告し、又は改善勧告する。

４　委員会は、前３項に掲げるもののほか、校長が必要と認める事項について調査審議することができる。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもつて充てる。

一　統括安全衛生管理者

二　産業医

三　衛生管理者

四　安全管理者

五　労働者の過半数で組織する労働組合があるときにおいてはその労働組合、労働者の過半数で組織する労働組合がないときにおいては労働者の過半数を代表する者の推薦に基づき校長が指名した者３名

２　委員会に委員長を置き、統括安全衛生管理者をもつて充てる。

（委員の任期）

第４条　前条第１項第５号の委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第４条　委員会は、毎月１回以上開催するものとする。ただし、必要がある場合は臨時に開催することができる。

２　委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員が職務を代行する。

（定足数）

第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもつて成立する。

（委員以外の出席）

第６条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（事務）

第７条　委員会に関する事務は、総務課人事係において行う。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員会が定める。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１８年３月２８日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－12

都城工業高等専門学校安全衛生管理体制規則

（目的）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則（以下「規則」という。）第２章の規定に基づき、都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）における安全衛生管理体制に関し、必要な事項を定める。

（安全管理体制）

第２条　本校の安全管理体制は別紙のとおりとする。

２　安全管理体制の構成員のうち、衛生管理者、産業医、作業主任者については、教職員又は外部の有資格者の中から校長が選任し、その他の者については次の各号に掲げる者をもって充てる。

一　統括安全衛生管理者　校長

二　安全管理者　事務部長

三　安全衛生管理担当者　総務課長

四　安全衛生責任者

(1) 専門学科棟（附属施設を含む）及び一般教科棟（附属施設を含む）各学科長

(2) 技術支援センター及び実習工場　　技術支援センター長

(3) 地域連携センター　地域連携センター長

(4) 電子計算機センター　電子計算機センター長

(5) 専攻科研究棟　専攻科長

(6) 事務部（管理棟）　総務課長

(7) 上記以外の施設（図書館、学生寮、３年以下の教室、選択教室棟、体育施設棟）　学生課長

五　火元責任者　規則第１１条の規定に基づき選任された者

（任務）

第３条　前条に掲げる者のうち、規則に規定されていない者の任務は次のとおりとする。

一　統括安全衛生管理者　本校における安全及び衛生管理の業務を統括管理すること。

二　安全衛生責任者　作業を行う上での安全衛生に関する教職員への周知及び事故等が発生した場合の安全管理者又は衛生管理者への報告に関すること。

附　則

この規則は平成１６年６月７日から施行し、平成１６年４月１日から適用する。

附　則

この規則は平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規則は平成２０年９月１日から施行する。

附　則

この規則は平成２１年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－①－13

安全衛生委員会議事録

平成２４年度第１回安全衛生委員会議事要録

日　時　平成２４年４月２４日（火）１６：３０～１６：４５
場　所　校長室
出席者　三村校長（統括安全衛生管理者）、　　委員（産業医）、
　　邊見事務部長（安全管理者）、岡部委員（衛生管理者）、高木委員、永松（幸）委員、立山委員
列席者　人事係長、　　人事係員

議　題

（１）巡視報告について
　衛生管理者から、資料１に基づき報告があった。

（２）指摘事項の改善について
　衛生管理者から、資料２に基づき概要説明があり、処置を確認後、改めて報告することとなった。

（３）平成２４年度安全衛生事業計画（案）について
　人事係長から、資料３に基づき説明があり、審議の結果、校内巡視場所について、ある程度改善が見られる場所については巡視の回数を減らし、問題箇所の多い場所を重点的に見ることとなり、今後、検討していくことが了承された。

（４）職場環境の問題箇所等の報告について
　人事係長から、資料４に基づき説明があり、審議の結果、教職員への報告依頼について、年に一度ではなく、三ヶ月に一度、依頼することが了承された。

（５）その他
・校内における怪我の発生について
　衛生管理者から、資料５に基づき、３月１１日（日）に、本校グラウンドにて、野球部の練習試合中に相手校の保護者が、ネットの昇降機に接触したことに伴う誤作動により怪我をした件について、業者に昇降機の調査を依頼したところ、老朽化による劣化が見られたこと、昇降機は既に更新済みであり、ハンドルは顧問の教員が管理していること、怪我をされた方には、高専機構の保険から治療費を支払うこととなっており、適正な対応が取られているとの報告があった。

以　上

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－14

巡視記録

巡　視　記　録

統括安全衛生管理者(校長)	産業医	安全管理者（事務部長）	事務関係者供閲欄

巡視者　産　業　医
衛生管理者　岡　部　勇　二

巡視同伴者（○を付ける）	安全管理者 ・ ~~安全衛生管理担当者~~ ・ 施設係長 その他（ 財務課長 ・ 人事係長 ）		
巡視年月日	平成~~25~~ 26年　3月13日	天気	晴れ
巡視時間	15時　30分　～　16時　10分		

NO	巡視場所	立会者氏名	チェック	記事
A-1	専攻科研究棟			
A-2	図書館			<指摘事項> ● 制御工学実験室のパソコンへのネットワークケーブルを床に沿って配線する場合はケーブルカバーを使い、固定してください。 ● 情報工学実験室のエッチング液の廃液は適正な廃液タンク等に貯蔵し、冷暗所等に保管してください。また当面利用しない場合は処分してください。 <口頭注意> なし <注意事項> なし
A-3	物質工学科棟			
A-4	生物工学棟			
A-5	化学ﾌﾟﾗﾝﾄ実験棟			
A-6	建築学科棟			
A-7	建築実験棟			
A-8	建築演習棟			
A-9	応用物理実験棟			
A-10	電子計算機棟・情報教育センター			
B-1	選択教室棟			
B-2	機械工学科棟			
B-3	実習工場			
B-4	高電圧実験棟	下村先生	✓	
B-5	電気工学科棟	〃	✓	
B-6	福利施設	学生課長		
B-7	管理棟			
B-8	一般教科棟			
C-1	女子第２棟			
C-2	第３棟			
C-3	浴室			
C-4	食堂			
C-5	第２棟			
C-6	第１棟			
C-7	女子第１棟			
C-8	寮研修棟			
D-1	第２体育館			
D-2	第１体育館			
D-3	武道館			
D-4	プール部室			
D-5	サークル部室			
D-6	専用水道機械室			
D-7	器楽練習室			
D-8	合宿施設棟			
D-9	野球場			
D-10	運動場			
D-11	テニスコート			
D-12	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙｺｰﾄ			
	その他			

巡　視　記　録

統括安全衛生管理者(校長)	産業医	安全管理者（事務部長）	事務関係者供閲欄

巡視者　~~産　業　医~~　~~印~~

衛生管理者　岡　部　勇　二

巡視同伴者（○を付ける）	安全管理者・~~安全衛生管理担当者~~・施設係長 その他（　財務課係長　、　人事係長　）		
巡視年月日	平成２４年　４月１８日	天気	晴れ
巡視時間	１３時　３０分　～　１４時　００分		

NO	巡視場所	立会者氏名	ﾁｪｯｸ	記事
A-1	専攻科研究棟	学生課長	√	
A-2	図書館	〃	√	＜指摘事項＞ ● 物質工学科プラント実験棟の東側に放置されている足場は、所有業者等を調査の上、引き取ってもらう等の措置を取ってください。 ● 北門そばの自転車置き場東側の立木に剪定された枝が他の枝と絡み合った状態で放置されていますので、剪定業者に撤去するよう指導してください。 ● 北門北側の粗大ごみ置き場に粗大ごみを廃棄する場合は、必ず教職員が立ち合い、ゴミ置き場の奥の方から詰めて廃棄し、ゴミ置き場を整理された安全な状態に維持するように周知してください。 ＜口頭注意＞ なし ＜注意事項＞
A-3	物質工学科棟	〃	√	
A-4	生物工学棟	〃	√	
A-5	化学ﾌﾟﾗﾝﾄ実験棟	〃	√	
A-6	建築学科棟	〃	√	
A-7	建築実験棟	〃	√	
A-8	建築演習棟	〃	√	
A-9	応用物理実験棟	〃	√	
A-10	電子計算機棟・情報教育ｾﾝﾀｰ	〃	√	
B-1	選択教室棟			
B-2	機械工学科棟			
B-3	実習工場			
B-4	高電圧実験棟			
B-5	電気工学科棟			
B-6	福利施設			
B-7	管理棟			
B-8	一般教科棟			
C-1	女子第２棟			
C-2	第３棟			
C-3	浴室			
C-4	食堂			
C-5	第２棟			
C-6	第１棟			
C-7	女子第１棟			
C-8	寮研修棟			
D-1	第２体育館			
D-2	第１体育館			
D-3	武道館			
D-4	プール部室			
D-5	サークル部室			
D-6	専用水道機械室			
D-7	器楽練習室			
D-8	合宿施設棟			
D-9	野球場			
D-10	運動場			
D-11	テニスコート			
D-12	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙｺｰﾄ			
	その他			

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－①－15

年度計画

別紙 1

平成24年度営繕事業一覧表

学校名　都城工業高専

学校番号	学校名	要求順位	整備方針	事業内容の区分	事業名称	事業の概要	構造階	面積（㎡）	棟番号	棟名称	工事金額（千円）	工事発注予定	工事完了予定	技術支援の要望 建	技術支援の要望 電	技術支援の要望 管	特記事項	Is値	緊急度ランク	防災地域の指定	避難所指定	施設整備要求事業との関連
		①	①	②	③	④	⑤				⑥	⑦	⑧	⑨			⑩			⑪		⑫
49	都城工業高専	1	6 学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上	① 安全対策事業（耐震補強、老朽環境整備等）	基幹環境整備Ⅰ期（正門移設等）	正門の位置は、交通量の多い交差点に隣接しているため、通学生の自転車・バイクなどによる登下校時に非常に危険な状態となっている。また、地域住民からも、朝の通勤時間と重なるため危険との声が上がっている。以上のような理由により安全を確保するため、正門を移設するにより学生が安心して通学できるようにしたい。															
49	都城工業高専	2	6 学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上	④ 老朽改善事業	第２体育館屋根及び外壁等改修	第二体育館は、昭和５４年に建築されおよそ３２年経過しており屋根及び外壁の塗料化による雨漏りのため施設上げ材の腐食や外部建具、出入口のスチール製建具、もと折化しており周囲環境が状況である。これらを改修し学生の授業やクラブ活動等の環境を整備したい。	S1	880	053	第２体育館	25,452	H24.6.22	H24.9.30				設計が完了している。					平成23年度営繕事業から営繕事業へ変更しているが、雨漏等により緊急性が高いため前倒しして整備事業にて要求する。
49	都城工業高専	3	6 学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上	④ 老朽改善事業	武道場屋根及び外部建具等改修	武道場は、昭和４４年に建築され築４２年経過しており屋根及び外壁の塗料化による劣化や折化の著しい屋根・外部建具（雨漏りや開閉困難な建具）・外壁（南北面）改修のみを実施し学生の授業やクラブ活動等の環境を整備したい。	S2	504	052	武道場	24,990	H24.6.22	H24.9.30				設計が完了している。					平成23年度営繕事業から営繕事業へ変更しているが、雨漏等により緊急性が高いため前倒しして整備事業にて要求する。
49	都城工業高専	4	2 施設マネジメントによる施設の有効活用に伴う整備	⑥ その他事業	実習工場増築及び改修Ⅰ期	創機開実験室は、機器のため屋外に仮設テント実験室として使用しており実験実習室そのものの機能を設置を設けていない、又近年、ロボコンや文化祭等で実工場における学生の製作活動が増えている が、製作活動のスペースがなく、仮設テント内で製作している状況である。いずれも、天候に左右されるなど、実験実習及びものづくりなどの教育活動に支障をきたしている状況であるため増築したい。既存部分でも老朽化が著しいため改修したい。	R1 S1	850 144	007	実習工場	38,808	H24.6.29	H24.11.30	○	○	○	３年次計画の１年目 ２年目以降 H25要求予定 改修497㎡・増築48㎡ 48,027千円 H26要求予定 改修127㎡・増築42㎡ 24,465千円					施設整備要求事業から営繕事業へ変更し３カ年計画にて整備する。
49	都城工業高専	5	6 学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上	④ 老朽改善事業	寄宿舎防水改修	寄研修棟・男子第１棟・男子第２棟・食堂棟は、昭和62～平成２年度にかけて大規模改修を行ったが、21年～24年経過し、屋上防水部分の劣化に伴う雨漏りや躯体内部の錆発生による鉄筋の膨張による剥離部分やアルミサッシ等でも保護者から同様意見等がだされているため、防水等の改修を行い寄住環境の改善に図る。	R1 R3 R3 R1	263 712 711 916	066 067 070 071	寄研修棟 男子第１棟 男子第２棟 食堂棟	24,853	H24.6.22	H24.9.30				入寮率　80.5% 全体　78.4% 女子　100.0% 男子留学生　50.00% 女子留学生　50.00%					平成27年度寄宿舎改修事業として、雨漏等により緊急性が高いため前倒しして整備事業にて要求する。

（記載における注意事項）

1. 要求事業数は原則５事業までとし、６事業目以降は評価対象外とする。
2. 工事金額は概ね2,500万円程度とし、これを超える場合はその理由を工事概要書に記載すること。
3. 二桁の学校番号を記載し、学校名は○○工業高専、○○商船高専、○○高専（○○キャンパス）と記載する。シート名も同様とする。
4. ①整備方針による重点分野の分類は以下により選択すること。
   1 安全・安心な教育研究施設の確保
   2 施設マネジメントによる施設の有効活用に伴う整備
   3 環境に配慮した老朽施設等の再生整備
   4 女子学生・女性教員のための環境改善
   5 学生の視点に立った安心・安全なキャンパス環境整備
   6 学生の視点に立ったキャンパスアメニティの向上
   7 ユニバーサルデザイン導入によるバリアフリー化の推進
   8 地域と連携した施設の整備
   9 高度化再編に伴う施設の充実
5. ②事業内容の区分は、事業目的や内容により最も相応しい分類を以下より選択すること。
   ① 安全対策事業（耐震補強、基幹環境整備等）
   ② システム改善事業
   ③ 機能対策事業
   ④ 老朽改善事業
   ⑤ ユニバーサルデザイン事業
   ⑥ その他事業
6. ③事業名については、高専名を省略し、○○棟○○改修と工事を実施する建物名称と主な工事内容を示す名称とする。
   （記載例：○○棟空調設備更改設、○○棟屋上防水改修　など）
7. ④事業の概要は、事業内容を簡潔に記載し、アピールポイントとして必要性・緊急性等を記載すること。また、年次計画による整備の場合は、概要欄に年次計画であることを記載すること。（記載例：○年次計画の△年目）
8. ⑤構造・階：面積等は、記入例にならい当該建物の構造、階数、改修面積、棟番号、棟名称を記載すること。
9. ⑥工事金額は、事業の実施に必要な金額（税込み）を記載すること。
10. ⑦工事発注予定日は、当該事業の発注予定日を記載すること。
11. ⑧工事完了予定日は、当該事業の完了予定日を記載すること。
12. ⑨技術支援を要望する場合は、支援を要望する分野に○を記載すること。
13. ⑩特記事項については、当該事業の実施による効果、事業実施にあたっての配慮事項や公的性能について記載すること。なお、寄宿舎改修の場合は、入寮率等を必ず記載すること。
14. ⑪Is値、緊急度ランク、防災地域地域、避難場所指定の各欄については、耐震補強を行う場合に必ず記載すること。
15. ⑫施設整備要求事業との関連については、平成２４年度概算要求に提出した様式B-1-1「年次計画表１」と関連する事業である場合、その概要を記載すること。

身障者対策について（学内予算年度計画）　H24年度

（千円）

建物名称等	対応策	整備済み		営繕要求予定	24年度	25年度	26年度	27年度	緊急度	備考
寄宿舎地区										
女子第1棟	スロープ設置			1,864					A	24年度営繕要求
	身障者対応浴室・トイレの設置			4,347					B	24年度営繕要求
男子第2棟	スロープ設置			1,088					B	24年度営繕要求
	身障者対応浴室・トイレの設置			4,347					B	24年度営繕要求
男子第3棟　西	スロープ設置			1,088					B	24年度営繕要求
食堂棟	スロープ設置			2,500					A	24年度営繕要求
	多目的便所設置			3,140					A	24年度営繕要求
	身障者対応浴室・トイレの設置			6,271					B	24年度営繕要求
男子第4棟 西	スロープ設置			1,088					A	24年度営繕要求
寮研修棟	スロープ設置			1,088					A	24年度営繕要求
合宿施設棟	スロープ設置			1,088					A	24年度営繕要求
男子第1棟	スロープ設置							概算要求		大規模改修時設置
男子第3棟　東	スロープ設置							概算要求		大規模改修時設置
校舎地区										
一般教科棟（管理棟を含む）	エレベーター設置	◎	13,650							
	多目的便所設置	◎	33,356							
	職員玄関スロープ設置	◎	3,606							
	自動扉設置	◎	1,683							
	学生玄関スロープ設置	●	1,176							
	北側スロープ設置	●	1,368							
電気情報工学科棟	スロープ設置	◎	1,071							
機械工学科棟	多目的便所設置	◎	14,880							
物質工学科棟	スロープ設置	◎	1,424							
	多目的便所設置	◎	1,240							
建築学科棟	エレベーター設置	◎	9,555							
	多目的便所設置	◎	1,860							
	スロープ設置	◎	2,434							
実習工場	スロープ設置									
図書館	エレベーター設置							概算要求		大規模改修時設置
	多目的便所設置　2階	◎	7,932							
	多目的便所設置　1階のみ	●	7,932							
	玄関スロープ設置	●	2,081							
専攻科棟	多目的便所設置	◎	11,160							
	エレベーター設置	◎	13,440							
電子計算機棟	スロープ設置	●	1,069							
（情報処理教育センターを含む）	多目的便所設置									大規模改修時設置　25年度以降
福利施設	スロープ設置	●	575							
	多目的便所設置	●	2,332							
第1体育館	スロープ設置	●	1,382							
	多目的便所設置							概算要求		大規模改修時設置
第2体育館	スロープ設置	●	1,642							
	多目的便所設置							概算要求		大規模改修時設置
その他の実験棟	スロープ設置							概算要求		大規模改修時設置
	小計		136,848	27,909						

凡例
○：整備済み(学内予算)
◎：整備済み(文教施設整備費)
●：整備済み(営繕費)

緊急度：高↑ 低↓
A…支障があるため、要改善
B…支障はあるが、迂回等で対応可
C…応急措置のため、今後徐々に改善予定

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程のカリキュラムの遂行において，受講する学生数に対する施設・設備は「高等専門学校設置基準」を満たしている。各学科教室，図書館及び電子計算機センターは，授業以外に自主学習の環境を提供している。運動場や体育館等の体育施設やその設置設備により，さらなる教育・研究環境の充実を図っている。また，全寮制ではないが，寄宿舎の利用状況は，平成24年4月時点で入居率が約80％と高く，十分な活用を行っている。施設の管理について，経年数の長い施設は５年間計画に沿って段階的に改善及び改修を実施している。

学生実験や研究等における機器の操作や試薬の取扱い等，マニュアル化されていなかった注意点等を労働安全衛生法に基づき「安全の手引き」及び「実験実習安全必携」に集約し，教職員及び学生へ周知している。また，安全衛生管理体制を整備し，毎月校内巡視を行い，施設・設備の安全な運用を図り，事故を未然に防止している。

多様な人材育成の場及び環境面への配慮も備えた教育研究機関として機能するためには，施設・設備のバリアフリー化と環境面への配慮の一層の取組が重要である。校舎は，平成21年度に校舎バリアフリー工事を実施し，今後のさらなる環境整備を計画している。

以上のことから，教育課程の実施にふさわしい施設・設備を整備し，有効に活用している。また，バリアフリー化や環境面への継続的な取組も十分に実施している。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

情報ネットワークは，電子計算機センターで管理・運営しており，同センターは，教育研究用電子計算機システム，パソコン演習室，校内コンピュータネットワーク基幹装置群及びネットワークサーバー群の設備を備えている（前述資料８－１－①－１）。これらの設備は，「電子計算機センター規則」等の諸規則に基づき，電子計算機センター委員会において情報処理教育担当者の要望に沿って立案し，整備している。電子計算機センター及び情報化対応室のコンピュータを含め校内の550台超のコンピュータが校内ネットワークに接続し，情報処理教育，学生の自主学習，卒業研究・学術研究，クラブ活動，事務連絡等に利用している（資料８－１－②－１～11）。

本校のセキュリティポリシーは，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー基本指針に沿って設定している（資料８－１－②－12，13）。外部との情報のアクセスは，電子計算機センターを介して行っている（資料８－１－②－14）。また，寄宿舎を含む校内LANの高速・無線化及び外部接続の高速化に加え，侵入検知システムにより不正アクセスを防止している。さらに，平成23年度からマイクロソフト包括ライセンス及び学生支援プログラムソフト（DreamSpark）の学生への提供や英語及びその他の e-Learning システムも稼働しており，昨今の高等教育機関に適した教育環境を実現している（資料８－１－②－15，16）。ICT環境の充実度を在学生及び卒業生対象のアンケートで随時調査し，より一層のICT環境の整備に取り組んでいる（資料８－１－②－８～11）。

観点８－１－②　資料一覧

資料８－１－②－１　情報処理教育環境に関する整備
〔出典：電子計算機センター資料〕

資料８－１－②－２　ネットワーク構成図
〔出典：電子計算機センター資料〕

資料８－１－②－３　基幹ネットワークと学生無線LANに関する整備
〔出典：電子計算機センター資料〕

資料８－１－②－４　都城工業高等専門学校電子計算機センター規則
〔出典：規則集〕

資料８－１－②－５　都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則
〔出典：規則集〕

資料８－１－②－６　都城工業高等専門学校校内ネットワーク利用規則
〔出典：規則集〕

資料８－１－②－７　電子計算機センター演習室の授業時間内における利用状況及び稼働状況
〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－８　電子計算機センター演習室の授業時間外における利用状況及び稼働状況
〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－９　図書館情報化対応室の利用状況及び稼働状況
〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－10　図書館閲覧室の利用状況及び稼働状況
〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－11　卒業生による教育・学校評価アンケートの結果（学習環境）
〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－12　セキュリティポリシー基本方針
〔出典：国立高等専門学校機構資料〕

資料８－１－②－13　セキュリティポリシー概要図
〔出典：国立高等専門学校機構資料〕

資料８－１－②－14　電子計算機センターの管理・運営
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題（平成23年１月刊行）P.123〕

資料８－１－②－15　マイクロソフト包括ライセンス
〔出典：総務課資料〕

資料８－１－②－16　e-Learningシステムの稼働状況
〔出典：地域連携センター資料〕

資料８－１－②－１

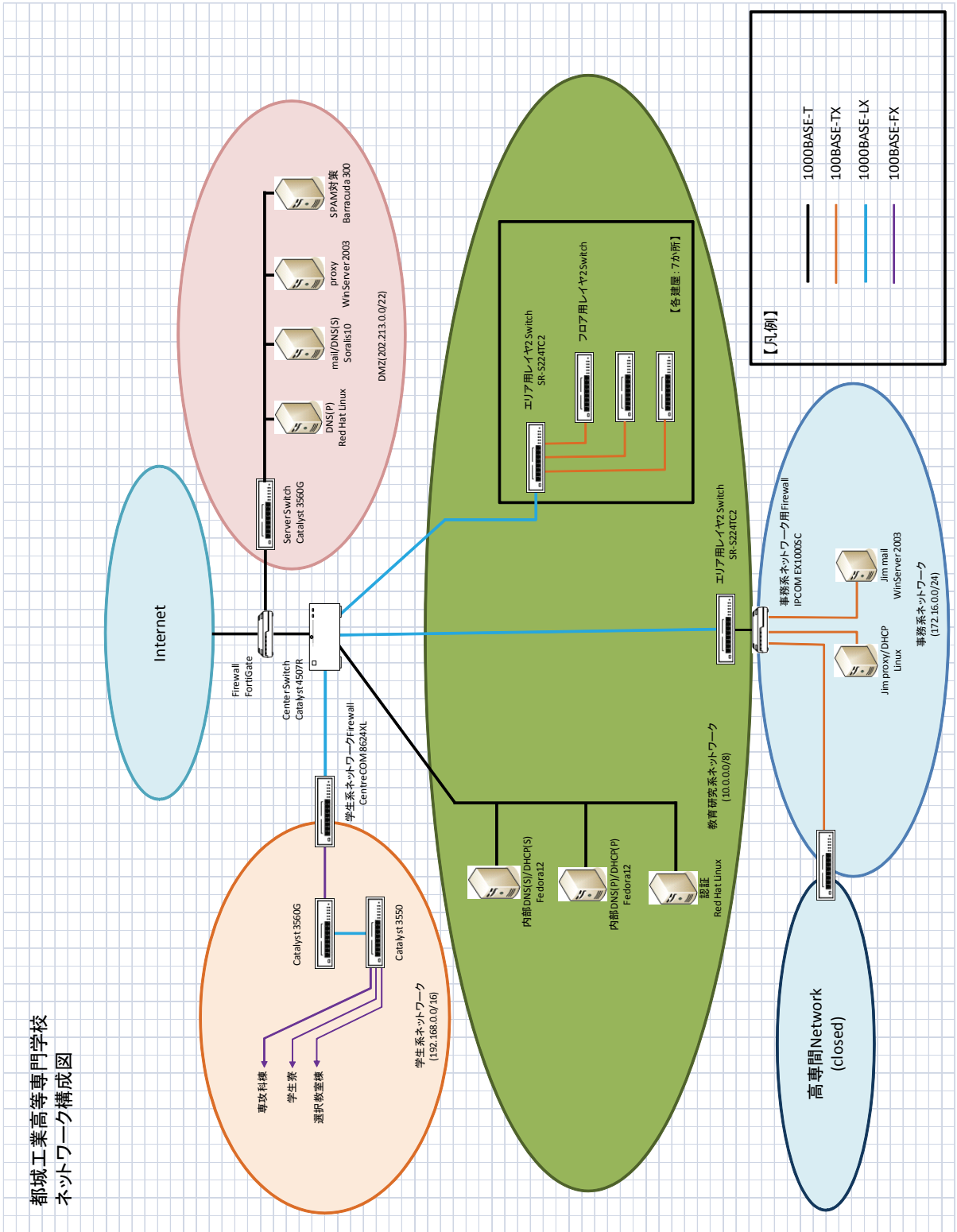
情報処理教育環境に関する整備

年度(平成)	設備機器	場所	目的
19年度	Windowsパソコン2室とOS X パソコン1室更新	第1・2演習室 第3演習室	学生の演習環境設備及びシンクライアント方式による安定化
21年度	Windowsパソコン及び OS X パソコン更新	情報化対応室	Web、e-Learning を含む学生の情報利用と学習環境の設備
22年度	マイクロソフト包括契約関連システム(ソフトウェア販売管理)の構築	校内	学生のソフトウェア購入の把握と管理
23年度	マイクロソフト包括契約関連システム(ソフトウェアダウンロード、アクセスキー配布・管理)の構築	校内	学生及び教職員のソフトウェア利用の把握と管理

〔出典：電子計算機センター資料〕

資料８－１－②－２

ネットワーク構成図



〔出典：電子計算機センター資料〕

資料８－１－②－３

基幹ネットワークと学生無線LANに関する整備

年度(平成)	整備機器	場所	目的
20年度	マルチホーム接続装置導入	ネットワーク管理室	対外接続のバックアップ回線(100Mbps)の確保
21年度	センタースイッチ更新	ネットワーク管理室	保守終了に伴う更新、校内総プライベートアドレス化
21年度	ファイアウォール導入	ネットワーク管理室	校内LANのセキュリティ確保
21年度	教室及び学寮の無線LANアクセスポイント導入	全教室、学寮全棟	Web、e-learningを含む学生の学習環境整備
22～23年度	対外接続回線及び接続機器更新	校外及びネットワーク管理室	対外接続を最大1Gbpsに増速
23年度	Webサーバ、校内グループウェアサーバの更新	ネットワーク管理室	システムの安定化と性能向上
23年度	ファイアウォールの導入	ネットワーク管理室	校内LANのセキュリティ確保
23年度	認証システムの導入	ネットワーク管理室	高専共通システム及び学術への展開

〔出典：電子計算機センター資料〕

資料８－１－②－４

都城工業高等専門学校電子計算機センター規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生に対する情報処理教育、教員の教育研究及びネットワークに供するために、電子計算機センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 情報処理教育に関すること。

(2) 教員の教育研究のための電子計算機による処理に関すること。

(3) センターの機器等設備の運用及び保守に関すること。

(4) ネットワークの技術支援に関すること。

(5) 情報化対応室の技術支援に関すること。

(6) その他センターに関すること。

（組織）

第３条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長　　１人

(2) 副センター長　１人

(3) ネットワーク管理者　　若干人

(4) センター員　　若干人

２　センター長及び副センター長は、本校教員の中から校長が任命する。

３　ネットワーク管理者及びセンター員は、本校職員の中から校長が任命する。

（任期）

第４条　センター長、副センター長及びネットワーク管理者の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（任務）

第５条　センター長は、センターの業務を総括する。

２　副センター長は、センター長を補佐し、センター長不在のときは、その職務を代理する。

３　ネットワーク管理者は、他のセンター職員とともにネットワークに関する業務を処理する。

４　センター員は、センター長又は副センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

（委員会）

第６条　センターの運営を円滑にするため、電子計算機センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（連絡会）

第７条　ネットワークの運営を円滑にするため、校内ネットワーク担当者連絡会（以下連絡会」という。）を置く。

２　連絡会に関し必要な事項は、別に定める。

（利用）

第８条　センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

２　ネットワークの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規則は、昭和５４年１１月１６日から施行する。

２　都城工業高等専門学校情報処理教育センター規則（昭和５０年４月１日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、昭和５７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０月６月１１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２２年１０月７日から施行し、平成２２年９月２１日から適用する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－②－５

都城工業高等専門学校電子計算機センター利用規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校電子計算機センター規則（昭和 54 年 11 月 16 日制定）第８条第１項の規定に基づき、電子計算機センター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定める。

（利用者）

第２条　センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び職員

(2) 校長が特に認めた者

（開館時間）

第３条　開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、臨時にこれを変更することができる。

(1) 平日　　８時３０分～１７時

（閉館日）

第４条　閉館日は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 土曜日及び日曜日

(3) 夏季休業、冬季休業及び春季休業中の一定期間

(4) 電子計算機（以下「電算機」という。）等の設置及び調整等に必要な一定期間

(5) その他、本校が定める休業日

（利用制限）

第５条　センター長が特に必要と認めたときは、電算機及び演習室の利用を制限することがある。

（休業日及び時間外の利用）

第６条　休業日及び開館時間外にセンターの利用を希望する者は、別紙様式により利用願を提出し、センター長の許可を受けるものとする。ただし、22 時以降の利用は原則として認めない。

附　則

１　この規則は、昭和 54 年 11 月 16 日から施行する。

２　都城工業高等専門学校情報処理センター使用細則（昭和 52 年４月１日制定）は、廃止する。

＜略＞

附　則

この規則は、平成20年6月11日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－②－６

都城工業高等専門学校校内ネットワーク利用規則

［平成9年１月13日制定］

（趣旨）
第1条　この規則は、都城工業高等専門学校電子計算機センター規則（昭和54年11月16日制定）第8条第2項の規定に基づき、校内ネットワーク（以下「MNCTNET」という。）の利用について必要な事項を定めるものである。
（利用原則）
第2条　MNCTNETの利用は、電子計算機センター長（以下「センター長」という。）が認めた学術研究、教育及び学校運営上必要なものに限る。
（利用者）
第3条　MNCTNETの利用できる者は、次の各号に掲げる者とする。
（1）都城工業高等専門学校の職員
（2）その他センター長が適当と認める者
（利用申請）
第4条　MNCTNETを利用しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出しなければならない。
2　センター長は、前項の申請が適当であると認めるときは、ユーザID等利用に必要な事項を付して許可するものとする。
（遵守事項）
第5条　MNCTNETの利用を許可された者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
（1）MNCTNETを第2条に規定する利用原則以外の目的のために利用してはならない。
（2）MNCTNETによって得られた情報を、不正に改ざん、転用又は引用してはならない。
（3）センター長から利用の状況の報告、動作試験の協力等を求められたときは、これに応じなければならない。
（4）申請書の記載事項に変更を生じたときは、その旨を直ちにセンター長に届け出なければならない。
（利用の禁止）
第6条　利用者がこの規則に違反し、又はMNCTNETの機能及び運用に重大な支障を生じさせ、若しくは生じさせるおそれがあるときは、センター長はMNCTNETの利用を禁止することができる。
（雑則）
第7条　この規則に定めるもののほか、MNCTNETの利用に関し必要な事項は、電子計算機センター委員会の議を経て、センター長が定める。
附　則
この規則は、平成9年1月13日から施行する。
附　則
この規則は、平成20年6月11日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－１－②－７

電子計算機センター演習室の授業時間内における利用状況及び稼働状況

平成２３年度　前期　電子計算機センター時間割

		１・２	３・４	５・６	７・８
		8:45 ～ 10:20	10:30 ～ 12:05	13:00 ～ 14:35	14:45 ～ 16:20
月	第１演習室	３Ｅ（プログラミング言語Ⅱ）	２Ｃ（情報基礎Ⅱ）	１Ｍ（情報基礎Ⅰ）	
	第２演習室	専１ＭＥ（電子計測特論）			
	第３演習室	２Ｅ（プログラミング言語Ⅰ）			２Ａ（コンピュータ援用学）
火	第１演習室	２Ｅ（情報基礎Ⅱ）	４Ｍ（情報処理Ⅱ）	４Ｍ（創造設計）	
	第２演習室		１Ｅ（電気製図）		
	第３演習室				５Ｅ（知能情報処理）
水	第１演習室	２Ｃ（情報処理）	３Ｍ（設計製図）	２Ａ（情報基礎Ⅱ）	
	第２演習室				
	第３演習室	５Ａ（意匠ＣＡＤ演習）			
木	第１演習室	１Ａ（情報基礎Ⅰ）	専２ＭＥ（振動工学）	２Ｍ（情報基礎Ⅱ）	
	第２演習室				
	第３演習室	５全（産業財産権法）			
金	第１演習室		１Ｅ（情報基礎Ⅰ）	１Ｃ（情報基礎Ⅰ）	
	第２演習室			５Ｍ（設計製図）	
	第３演習室	３Ａ（建築ＣＡＤ演習）			

平成２３年度　後期　電子計算機センター時間割

		１・２	３・４	５・６	７・８	９
		8:45 ～ 10:20	10:30 ～ 12:05	13:00 ～ 14:35	14:45 ～ 16:20	16:25~17:10
月	第１演習室	４Ｍ（情報処理Ⅱ）	２Ａ（情報基礎Ⅱ）	２Ｃ（情報基礎Ⅱ）		
	第２演習室					
	第３演習室		３Ａ（建築ＣＡＤ演習）	４Ａ（建築設計演習）		
火	第１演習室	２Ｅ（情報基礎Ⅱ）	１Ｅ（情報基礎Ⅰ）	３Ｍ（設計製図）		
	第２演習室	４Ｅ（制御工学）			１Ｅ（電気製図）	
	第３演習室	２Ｅ（情報基礎Ⅱ）	５Ｅ（知能情報処理）			
水	第１演習室		４Ｍ（創造設計）			
	第２演習室	５Ｅ（電気電子情報設計）				
	第３演習室					
木	第１演習室		３Ｅ（プログラミング言語Ⅱ）	２Ｍ（情報基礎Ⅱ）	１Ｍ（情報基礎Ⅰ）	
	第２演習室					
	第３演習室	４Ｅ（計算機工学）	５Ａ（意匠ＣＡＤ演習）	４Ａ（建築設計演習）		
金	第１演習室	１Ａ（情報基礎Ⅰ）	３Ｍ（情報処理Ⅰ）	１Ｃ（情報基礎Ⅰ）		
	第２演習室					
	第３演習室	２Ａ（コンピュータ援用学）	２Ｅ（プログラミング言語Ⅰ）			

〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－８

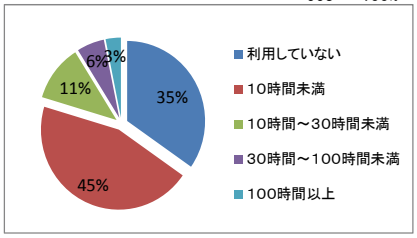
電子計算機センター演習室の授業時間外における利用状況及び稼働状況

情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート

実施日：平成24年4月23日～27日
対象：本科2年～5年　673人、専攻科1年～2年　51人、計724人
回答数（回答率）：本科2年～5年　627人、専攻科1年～2年　47人、計674人（93%）

Q2. 電気計算機センターを1年間に授業以外で何時間くらい利用していますか。

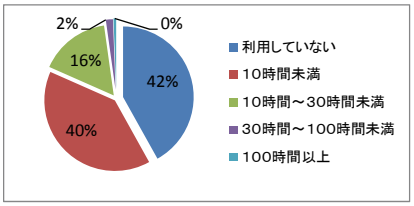
1	利用していない	230	35%
2	10時間未満	298	45%
3	10時間～30時間未満	76	11%
4	30時間～100時間未満	38	6%
5	100時間以上	21	3%
		663	100%



Q3. 電子計算機センターには、第1、第2、第3演習室がありますが授業以外で1年間に何時間くらい利用していますか。

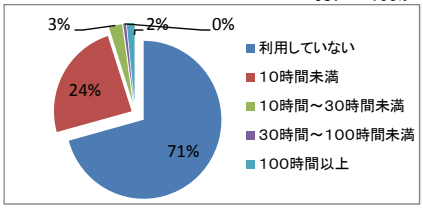
Q3-1.【第1演習室の使用状況】

1	利用していない	285	42%
2	10時間未満	270	40%
3	10時間～30時間未満	110	16%
4	30時間～100時間未満	11	2%
5	100時間以上	4	0%
		680	100%



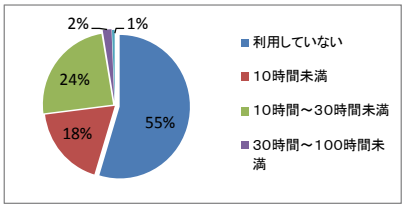
Q3-2.【第2演習室の使用状況】

1	利用していない	486	71%
2	10時間未満	167	24%
3	10時間～30時間未満	19	3%
4	30時間～100時間未満	4	0%
5	100時間以上	11	2%
		687	100%



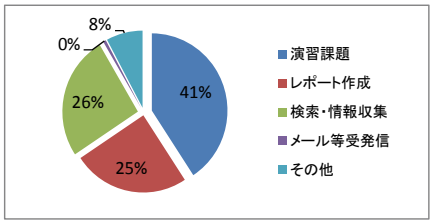
Q3-3.【第3演習室の使用状況】

1	利用していない	432	55%
2	10時間未満	145	18%
3	10時間～30時間未満	192	24%
4	30時間～100時間未満	16	2%
5	100時間以上	5	1%
		790	100%



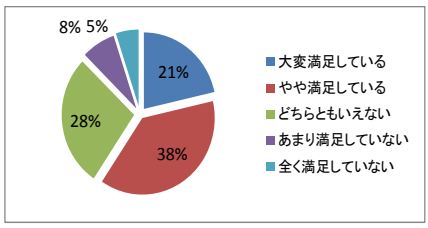
Q4. 利用内容をお聞かせください。

1	演習課題	329	41%
2	レポート作成	201	25%
3	検索・情報収集	209	26%
4	メール等受発信	5	0%
5	その他	63	8%
		807	100%



Q5. あなたの本校における情報教育設備の満足度をお聞かせください。

1	大変満足している	139	21%
2	やや満足している	246	38%
3	どちらともいえない	181	28%
4	あまり満足していない	49	8%
5	全く満足していない	33	5%
		648	100%



〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－９

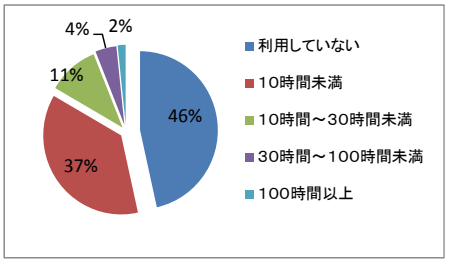
図書館情報化対応室の利用状況及び稼働状況

情報化対応室および電算センターの利用状況アンケート

実施日：平成24年4月23日～27日
対象：本科2年～5年　673人、専攻科1年～2年　51人、計724人
回答数（回答率）：本科2年～5年　627人、専攻科1年～2年　47人、計674人（93%）

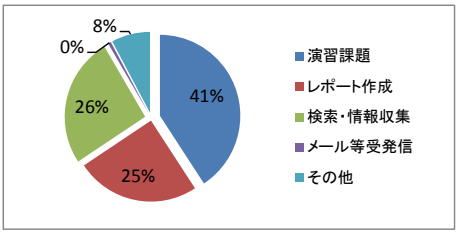
Q1. あなたは情報科対応室（図書館1階）を1年間で何時間ぐらい利用していますか。

1	利用していない	307	46%
2	10時間未満	243	37%
3	10時間～30時間未満	70	11%
4	30時間～100時間未満	29	4%
5	100時間以上	11	2%
		660	100%



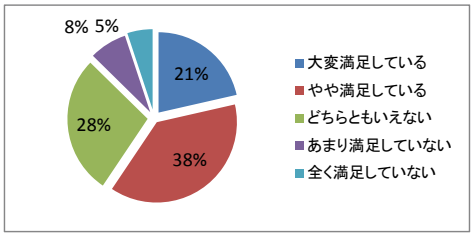
Q4. 利用内容をお聞かせください。

1	演習課題	329	41%
2	レポート作成	201	25%
3	検索・情報収集	209	26%
4	メール等受発信	5	0%
5	その他	63	8%
		807	100%



Q5. あなたの本校における情報教育設備の満足度をお聞かせください。

1	大変満足している	139	21%
2	やや満足している	246	38%
3	どちらともいえない	181	28%
4	あまり満足していない	49	8%
5	全く満足していない	33	5%
		648	100%



〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－10

図書館閲覧室の利用状況及び稼働状況

入室者数集計

平成21年度

	第二閲覧室			
	14時半		17時	
	延べ人数	平均	延べ人数	平均
6月	156	7.8	104	5.5
7月	112	6.6	52	2.9
8月	140	7.4	20	5.0
9月	182	9.1	163	10.9
10月	100	4.5	67	3.5
11月	66	3.5	103	6.1
12月	123	5.6	72	4.8
1月	48	2.8	89	6.4
2月	100	5.0	121	7.1
3月	17	0.8	9	0.4
合計	1044	5.3	800	5.3

平成22年度

	第二閲覧室			
	14時半		17時	
	延べ人数	平均	延べ人数	平均
4月	36	1.9	50	3.1
5月	113	6.6	120	7.1
6月	194	8.1	173	8.2
7月	161	6.7	80	4.2
8月	177	9.3	61	7.6
9月	197	8.2	193	10.2
10月	95	4.3	78	4.6
11月	112	5.1	193	10.2
12月	172	9.6	115	8.2
1月	88	4.9	115	9.6
2月	168	8.8	210	13.1
3月	73	3.5	1	1.0
合計	1586	6.4	1389	7.3

平成23年度

	第二閲覧室			
	14時半		17時	
	延べ人数	平均	延べ人数	平均
4月	125	6.0	77	4.5
5月	76	3.5	136	8.0
6月	150	5.8	155	7.4
7月	130	5.7	89	4.9
8月	229	10.4	72	4.0
9月	165	7.5	153	8.5
10月	45	1.9	61	3.2
11月	86	3.9	131	6.6
12月	134	6.1	71	4.7
1月	39	2.2	94	6.3
2月	151	7.2	185	9.7
3月	37	1.9	1	1.0
合計	1367	5.2	1225	5.7

〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－11

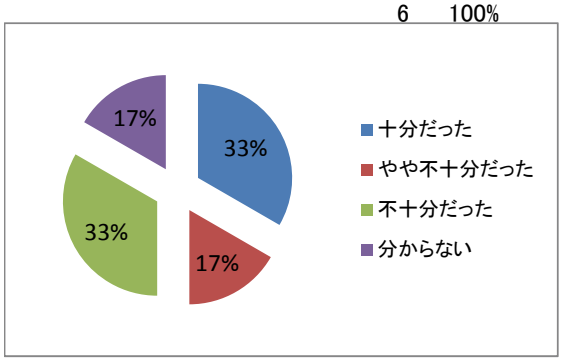
卒業生による教育・学校評価アンケートの結果（学習環境）

卒業生による教育･学校評価アンケートの結果

実施日:平成23年12月～平成24年1月末
対　象:平成22年度卒業生　52人
回答数(回答率):6人(11．5%)

K2　電子計算機センターは、自学自習を進める上で十分な環境でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	2	33%
2	やや不十分だった	1	17%
3	不十分だった	2	33%
4	分からない	1	17%
		6	100%



〔出典：学生課資料〕

資料８－１－②－12

セキュリティポリシー基本方針

独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー基本方針

平成２０年３月１３日
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

１．趣旨

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）が保有する情報資産（情報及び情報を利用するための機器）は，実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するため，機構全ての教育，研究活動及び運営の基盤として保持され運用されるものである。

機構情報セキュリティポリシー基本方針及び機構情報セキュリティポリシー対策基準（以下「情報セキュリティポリシー」という。）は，円滑で効果的な情報資産の運用を図るため，機構全体に適用される。

２．適用範囲

情報セキュリティポリシーの適用範囲は，機構の保有する情報資産すべてとする。

３．適用対象者

情報セキュリティポリシーの適用対象者は，機構の情報資産を利用する者や運用の業務に携わる者（以下「利用者」という。）すべてとする。

４．組織及び体制

機構に最高情報セキュリティ責任者を置き，機構における情報セキュリティ対策を推進する組織及び体制を整備する。

５．利用者の義務

利用者は，関係法令のほか，情報セキュリティポリシーに基づいて定められる利用と運用に関する実施規程及び実施手順を遵守しなければならない。

６．情報の格付けと管理

機構が保有するすべての情報資産について，情報の格付け，情報の管理方法，管理責任を規定する。

７．評価及び見直し

情報セキュリティポリシーは，定期的に評価及び見直しを行い，必要な措置を定める。

８．違反者に対する措置

利用者が実施規程及び実施手順に違反した場合の措置については，それぞれの実施規程に定めることができる。

〔出典：国立高等専門学校機構資料〕

資料８－１－②－13

セキュリティポリシー概要図



〔出典：国立高等専門学校機構資料〕

資料８－１－②－14

電子計算機センターの管理・運営

これまでセンターでは、開館時間の拡大やプリント用紙の提供、センタースタッフによるスリッパの整理等という人手に任せたサービスでセンターの利用者を増やすという、いわば本来の業務を犠牲にしたソフト面のサービスによる非合理的な対策がとられていた。加えて、全てのパソコンの電源投入時間のデータを集計したり、休み時間や放課後の演習室の利用人数を調べる等々の数値データに時間をさき、センタースタッフの本来の業務への視点と展望がない状況にあった。

センターを如何に運営するかは、単に施設・設備ばかりではない。むしろ運営スタッフ全員のビジョンと責任感の維持であり、結果として合理的でかつ高効率な施設・設備の整備に結びつく。そこで、長期にわたり形骸化した感があった副センンター長の一時的な交代やネットワーク員の入れ替えを行った。特にネットワーク員については非常に高度なスキルが要求される。そのため、平成19年に、システムエンジニアとしての企業経験を持つ新採用の教員（電気情報工学科教員）を配置し現在に至っている。

センタースタッフはセンター長（1名）、副センター長（1名）、ネットワーク員（若干名）、センター員（若干名）で構成される。また、ネットワークは学内広域に張られているためネットワーク担当者としてセンタースタッフ以外の協力を得られる体制になっている。ネットワーク担当者は所属する部局のネットワークアドレスを管理していたが、学内の端末を総じてDHCPにすることで負担軽減になる。

そのため、平成21年度にセンタースイッチの変更（1500万円）に合わせて、IPアドレスを主要サーバを除いて動的割当に変更した。また、センター員については多くの人手を必要とする局面で本校の教育技術支援センターの総合的な支援を受けることとし、不必要と考えられるデータの収集を廃し、特に日常的には１名分の支援を受けないこととした。

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題（平成23年１月刊行）P.123〕

資料８－１－②－15

マイクロソフト包括ライセンス

２１高機総第７１号
平成２１年１０月　８日

各国立高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
最高情報責任者（CIO）
情報基盤委員会委員長　木谷　雅人
【公印省略】

マイクロソフト包括ライセンス契約の締結について（通知）

標記の件につきまして，学習・教育環境の充実による学生に対するサービス向上，不正コピー防止などの組織的なコンプライアンスの徹底，ライセンス管理業務の人為的作業コストの軽減，機構一括契約による各高専の契約業務の軽減等総合的に検討した結果，国立高専機構としてマイクロソフト包括ライセンス契約を締結（平成２２年３月２日からの予定）することと致しましたので，お知らせいたします。

各高専におきましては，本件について関係各所へ周知して頂き，包括ライセンス契約の対象となるマイクロソフト社製のソフトウェアについて，調達しないようお願いいたします。

【担　当】
本部事務局総務課
情報企画係
TEL：０４２－６６２－３１６４
FAX：０４２－６６２－３１３１
E-mail：joho@kosen-k.go.jp

〔出典：総務課資料〕

資料８－１－②－16

e-Learningシステムの稼働状況

表　　23年度e-learning 等ICT教育の実施状況(1/2)

システム、ソフトの名称

Ub!Point （e-learningシステム）

対象学生	人数（延数）	授業等の名称	コンテンツ テーマ	コンテンツ 小テーマ	コンテンツ数	目的	備考（敬称略）
機械電気専攻科　1年生	16名	電子計測特論	電子計測特論	演習	4	授業の予習・復習	野地
				小テスト	4	同	
				定期レポート	1	同	
専攻科生	64名	（無し）	E-learning OP1		1	導入	濱田（英）
			近未来超電導ケーブル		1	教養	野地
			国際文化交流	モンゴル国の文化	1	教養	濱田（英）
			地域文化の理解法Ⅰ	都城大弓	1	教養	山中
			地域文化の理解法Ⅱ	都城の木工	1	教養	山中
電気情報工学科　5年生	40名	電気電子情報設計	電気電子情報設計	CAD	22	授業の予習・復習	野地
物質工学科　5年生	55名	生物工学・生物工学実験・	微生物と発酵1	微生物の種類	1	授業の予習・復習	濱田(英)
		微生物工学	微生物と発酵2	微生物の取り扱い	1	授業・実験の予習・復習	
				計	38		

Smart　HTM（教材作成支援ソフト）

対象学生	人数（延数）	授業等の名称	コンテンツ テーマ	コンテンツ 小テーマ	コンテンツ数	目的	備考（敬称略）
本科4、5年生	320名	英語	英語			TOIEC受験対策・準備	西村
本科1、2年生	640名	オーラル英語・英語	英語			授業の予習・復習	

COCET3300(英単語e-learningソフト)

対象学生	人数（延数）	授業等の名称	コンテンツ テーマ	コンテンツ 小テーマ	コンテンツ数	目的	備考（敬称略）
本科4、5年生	320名	英語	英語			授業の予習・復習	西村
本科1、2年生	640名	オーラル英語・英語	英語			TOIEC受験対策・準備	
						その他自学自習用	

表　　23年度e-learning 等ICT教育の実施状況(2/2)

システム、ソフトの名称

インターネット（HP）

対象学生	人数	授業等の名称	コンテンツ テーマ	コンテンツ 小テーマ	コンテンツ数	目的	備考（敬称略）
建築学科、4年生	40	建築史Ⅰ	西洋建築史	古代	21	授業の復習	林田
				中世			
				近世			
建築学科、4年生	40	建築史Ⅱ	日本建築史	古代	18	授業の復習	
				中世			
				近世			
建築学科、5年生	40	建築史Ⅲ	近代西洋史	西洋	14	授業の復習	
				日本			
				計	54		

FACE BOOK, HP

対象学生	人数	授業等の名称	内　　容	目的	備考（敬称略）
本科、5年生	50	産業財産権（選択）	FACE BOOKを利用して課題を提出し、インターネット等を利用して調べ、レポートを作成し、提出させる。	授業の予習・復習	吉井
本科、4年生	50	法学（選択）	FACE BOOKを利用して課題を提出し、インターネット等を利用して調べ、レポートを作成し、提出させる。	授業の予習・復習	

遠隔講義システム（テレビ会議システム）

対象学生	人数（延数）	授業等の名称	内　　容	目的	備考（敬称略）
専攻科生	5	特許・共同研究プログラム	テレビ会議システムにより自宅にいる本校の知財アドバイザーから本校で学生が講義を受ける。	課外の技術教育	上野・濱田(英)

〔出典：地域連携センター資料〕

（分析結果とその根拠理由）

電子計算機センターは，情報処理教育や自主学習等に利用できる情報ネットワークを管理・運営している。授業時間内での電子計算機センター演習室３部屋を合わせた稼働状況は，年間平均で52時間／週である。また，授業時間外における電子計算機センターの演習室及び図書館情報化対応室のコンピュータの利用状況・稼働状況も随時調査し，情報ネットワークに関する利用者ニーズの継続的な把握に努めている。卒業生に対する調査でも６割以上が本校ICT環境に満足している。今後も設備の更新は必要であるが，現在のところ学生に十分な利便性を提供できている。セキュリティに関する事案は，国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー基本指針に沿って運営・管理を遂行している。

以上のことから，情報ネットワーク及びセキュリティの管理及び整備を行い，それらを有効に活用している。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館の運営や予算等に関することについては，図書館運営委員会により審議等を行っている（資料８－２－①－１～２）。図書館は，７万冊以上の蔵書及び学術雑誌並びに視聴覚資料を所有し，１日平均130～140人の学生及び教職員が利用している（資料８－２－①－３～４）。これらの蔵書等は，各学科の専門分野において，毎年各学科の教員による推薦により図書を購入し，基礎から応用に至るまでの学習に応じた図書を系統的に整備している（資料８－２－①－５～６）。また，図書の配置は区分に分類するだけでなく，新着図書や留学生用図書，JABEE関連図書，シラバス図書等の各コーナーに分けて配置し，閲覧者が興味を引くように工夫している。教職員及び学生による図書の利用状況は，1日当たりの入館者数・貸出冊数やクラス別・分類別の貸出冊数等の利用状況調査・分析を実施している（資料８－２－①－７～13）。さらに，図書設備の充実度は，卒業生対象のアンケートでも随時調査し，設備のより一層の充実に努めている（資料８－２－①－14～15）。

図書館の利用促進のために，学生向けのホームページを作成し，適宜情報の発信を行っている（資料８－２－①－16）。ホームページの検索システムから，書籍や文献の検索や所在の確認を容易に行える。また，必要な文献を調べるために，学内限定で Genii，JDreamⅡ，SCIENCE DIRECT 及び MathSciNet の４種類の電子ジャーナル・データベースを利用できる（資料８－２－①－17～18）。特に，独立行政法人科学技術振興機構から講師を招へいしてデータベース講習会を実施し，学生が卒業研究等にも活用できる文献検索手法を指導している（資料８－２－①－19）。さらに，「図書館だより」を発行し，推薦図書や新刊図書の紹介も行っている（資料８－２－①－20）。

観点８－２－①　資料一覧

資料８－２－①－１　都城工業高等専門学校図書館運営委員会規則
〔出典：規則集〕

資料８－２－①－２　学生用図書等購入予算配分及び決算の推移
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－３　蔵書数
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－４　雑誌の種類数と種類数推移
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－５　各学科推薦による購入数
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－６　ブックハンティングによる購入数
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－７　図書の利用状況
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－８　図書館利用状況
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－９　分類別受入冊数
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－10　分類別帯出冊数
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－11　学級別帯出冊数
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－12　DVD 利用統計
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－13　レファレンス利用統計2011
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－14　図書館利用アンケート結果
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－15　卒業生による教育・学校評価アンケートの結果（学習環境）
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－16　学生関連図書情報
〔出典：ホームページ〕

資料８－２－①－17　蔵書検索
〔出典：ホームページ〕

資料８－２－①－18　電子ジャーナル・データベース
〔出典：ホームページ〕

資料８－２－①－19　DB 講習会資料

〔出典：JDream研修会〕

資料８－２－①－20　図書館だより（表紙）

〔出典：図書館だより〕

資料８－２－①－１

都城工業高等専門学校図書館運営委員会規則

（趣旨）
第１条　この規則は、都城工業高等専門学校図書館規則（平成23年4月1日制定）第6条第2項の規定に基づき、都城工業高等専門学校図書館運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第2条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 図書館の運営に関すること。
(2) 図書館の予算に関すること。
(3) 図書館利用規則の制定及び改廃に関すること。
(4) その他図書館に関すること。
（組織）
第3条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 図書館長
(2) 各学科の教員の中から選出された者各1人
(3) 一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各1人
2　委員は、校長が任命する。
3　委員が委員会に出席できない場合は、委員長の同意を得て代理の者を委員会に出席させることができる。
（委員の任期）
第4条　前条第1項第2号及び第3号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
2　委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第5条　委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。
2　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
（定足数）
第6条　委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
（議決）
第7条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
（委員以外の出席）
第8条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。
（事務）
第9条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。
附　則
1　この規則は、昭和49年4月1日から施行する。
2　都城工業高等専門学校図書館運営委員会規則（昭和39年9月1日制定）は、廃止する。
附　則
この規則は、平成元年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成16年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成19年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成20年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料８－２－①－２

学生用図書等購入予算配分及び決算の推移

（平成１９年度～平成２３年度）

（円）

項目	平成１９年度（予算）	平成１９年度（決算）	平成２０年度（予算）	平成２０年度（決算）	平成２１年度（予算）	平成２１年度（決算）	平成２２年度（予算）	平成２２年度（決算）	平成２３年度（予算）	平成２３年度（決算）
校費	1,131,000	1,131,000	1,000,000	920,000	900,000	920,000	920,000	920,000	920,000	920,000
○ 図書館長推薦図書費	131,000	126,492	50,000	49,869	50,000	51,981	50,000	65,347	50,000	205,971
○ 推薦図書費	220,000	224,389	260,000	413,821	260,000	318,689	260,000	278,797	260,000	190,995
○ 学生希望図書費	180,000	247,184	180,000	51,096	130,000	99,657	130,000	47,291	120,000	111,482
○ 教養図書費	100,000	107,730	60,000	60,546	60,000	0	60,000	82,919	60,000	61,691
○ 共通図書費	100,000	94,338	60,000	61,854	60,000	70,466	70,000	35,568	70,000	46,071
○ 共通雑誌費	180,000	16,357	190,000	9,276	190,000	44,923	190,000	71,104	190,000	177,458
○ シラバス図書費	60,000	193,727	60,000	190,788	50,000	190,288	50,000	190,961	70,000	60,922
○ 就職・資格図書	60,000	11,056	40,000	13,612	30,000	78,302	40,000	75,658	40,000	9,936
○ 視聴覚充実費	100,000	109,727	100,000	69,138	70,000	65,694	70,000	72,355	60,000	55,474
項目	平成１９年度（予算）	平成１９年度（決算）	平成２０年度（予算）	平成２０年度（決算）	平成２１年度（予算）	平成２１年度（決算）	平成２２年度（予算）	平成２２年度（決算）	平成２３年度（予算）	平成２３年度（決算）
後援会から寄付金	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
○ 学生希望図書	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	90,066	100,000	88,476	100,000	146,957
○ 視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○ 推薦図書費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	209,934	200,000	211,524	200,000	153,043
合　計	1,431,000	1,431,000	1,300,000	1,220,000	1,200,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－３

蔵書数

(1)　図書の冊数

区　分	総　記 0	哲　学 1	歴　史 2	社会科学 3	自然科学 4	工　学 5	産　業 6	芸　術 7	語　学 8	文　学 9	合　計
和　漢　書	3,765	3,483	4,120	4,237	12,625	19,447	539	2,134	2,767	10,102	63,219
洋　書	425	541	67	138	1,293	547	5	51	479	599	4,145
合　計	4,190	4,024	4,187	4,375	13,918	19,994	544	2,185	3,246	10,701	67,364

(2)　図書の冊数推移

区　分		総　記 0	哲　学 1	歴　史 2	社会科学 3	自然科学 4	工　学 5	産　業 6	芸　術 7	語　学 8	文　学 9	合　計
平20年	和漢書	3,815	3,434	4,129	4,247	12,730	19,580	543	2,163	2,796	10,105	63,542
	洋　書	433	541	70	138	1,263	540	5	53	486	598	4,127
	小　計	4,248	3,975	4,199	4,385	13,993	20,120	548	2,216	3,282	10,703	67,669
平21年	和漢書	3,821	3,448	4,130	4,252	12,771	19,613	543	2,165	2,802	10,121	63,666
	洋　書	434	541	70	138	1,266	541	5	53	486	598	4,132
	小　計	4,255	3,989	4,200	4,390	14,037	20,154	548	2,218	3,288	10,719	67,798
平22年	和漢書	3,823	3,466	4,133	4,252	12,802	19,641	543	2,165	2,804	10,134	63,763
	洋　書	434	541	70	138	1,271	541	5	53	486	598	4,137
	小　計	4,257	4,007	4,203	4,390	14,073	20,182	548	2,218	3,290	10,732	67,900
平23年	和漢書	3,754	3,454	4,126	4,223	12,687	19,521	539	2,133	2,755	10,101	63,293
	洋　書	426	541	68	138	1,291	542	5	50	483	597	4,141
	小　計	4,180	3,995	4,194	4,361	13,978	20,063	544	2,183	3,238	10,698	67,434
平24年	和漢書	3,765	3,483	4,120	4,237	12,625	19,447	539	2,134	2,767	10,102	63,219
	洋　書	425	541	67	138	1,293	547	5	51	479	599	4,145
	小　計	4,190	4,024	4,187	4,375	13,918	19,994	544	2,185	3,246	10,701	67,364

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－４

雑誌の種類数と種類数推移

(3)　雑誌の種類数

区　分	総　記 0	哲　学 1	歴　史 2	社会科学 3	自然科学 4	工　学 5	産　業 6	芸　術 7	語　学 8	文　学 9	合　計
和　雑　誌	332	5	4	55	42	194	4	20	30	8	694
洋　雑　誌	8	1	3	1	48	27	0	0	3	1	92
合　計	340	6	7	56	90	221	4	20	33	9	786

(4)　雑誌の種類数推移

区　分		総　記 0	哲　学 1	歴　史 2	社会科学 3	自然科学 4	工　学 5	産　業 6	芸　術 7	語　学 8	文　学 9	合　計
20年	洋雑誌	7	4	0	4	53	35	0	4	8	2	117
	小　計	7	4	0	4	53	35	0	4	8	2	117
平21年	和雑誌	36	8	5	26	23	292	0	23	34	4	451
	洋雑誌	7	4	0	4	53	35	0	4	8	2	117
	小　計	43	12	5	30	76	327	0	27	42	6	568
平22年	和雑誌	36	8	5	26	23	292	0	23	34	4	451
	洋雑誌	7	4	0	4	53	35	0	4	8	2	117
	小　計	43	12	5	30	76	327	0	27	42	6	568
平23年	和雑誌	337	5	3	63	45	199	4	17	30	6	709
	洋雑誌	8	2	3	1	43	21	0	0	2	2	82
	小　計	345	7	6	64	88	220	4	17	32	8	791
平24年	和雑誌	332	5	4	55	42	194	4	20	30	8	694
	洋雑誌	8	1	3	1	48	27	0	0	3	1	92
	小　計	340	6	7	56	90	221	4	20	33	9	786

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－５

各学科推薦による購入数

推薦図書冊数内訳

学科	冊数
M	143
E	212
C	174
A	125
一般理	280
一般文	47
合計	981

数学・物理学・化学参考書および一般理科寄贈図書のコーナーに設置の図書は、一般理科推薦にカウントしています。

社会学参考書のコーナーに設置の図書は、一般文科推薦にカウントしています。

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－６

ブックハンティングによる購入数

ブックハンティング購入冊数推移

年度	冊数
2005	91
2006	？
2007	81
2008	79
2009	78
2010	77
2011	105
合計	511

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－７

図書の利用状況

（１）学生

年　　度	学生数	開館日数	入館者数 総　　計	１日当たり 入館者数	帯出冊数 総　　計	１日当たり 帯出冊数	１人当たり 帯出冊数
平成１９年度	865	264	37,277	141.2	6,175	23.4	7.1
平成２０年度	863	248	32,629	131.6	5,475	22.1	6.3
平成２１年度	871	265	34,320	129.5	5,640	21.3	6.5
平成２２年度	843	267	38,899	145.7	6,115	22.9	7.3
平成２３年度	898	268	38,834	144.9	6,791	25.3	7.6

（２）学外者

年　　度	帯出者数	開館日数	入館者数 総　　計	１日当たり 入館者数	帯出冊数 総　　計	１日当たり 帯出冊数	１人当たり 帯出冊数
平成１９年度	38	264	1,120	4.2	584	2.2	15.4
平成２０年度	19	248	824	3.3	156	0.6	8.2
平成２１年度	23	265	662	2.5	294	1.1	12.8
平成２２年度	21	267	656	2.5	242	0.9	11.5
平成２３年度	28	268	1,234	4.6	392	1.5	14.0

（３）教職員

年　　度	帯出者数	開館日数	帯出冊数 総　　計	１日当たり 帯出冊数	１人当たり 帯出冊数
平成１９年度	31	264	560	2.1	18.1
平成２０年度	31	248	385	1.6	12.4
平成２１年度	32	265	331	1.2	10.3
平成２２年度	33	267	397	1.5	12.0
平成２３年度	29	268	470	1.8	16.2

※帯出した実人数

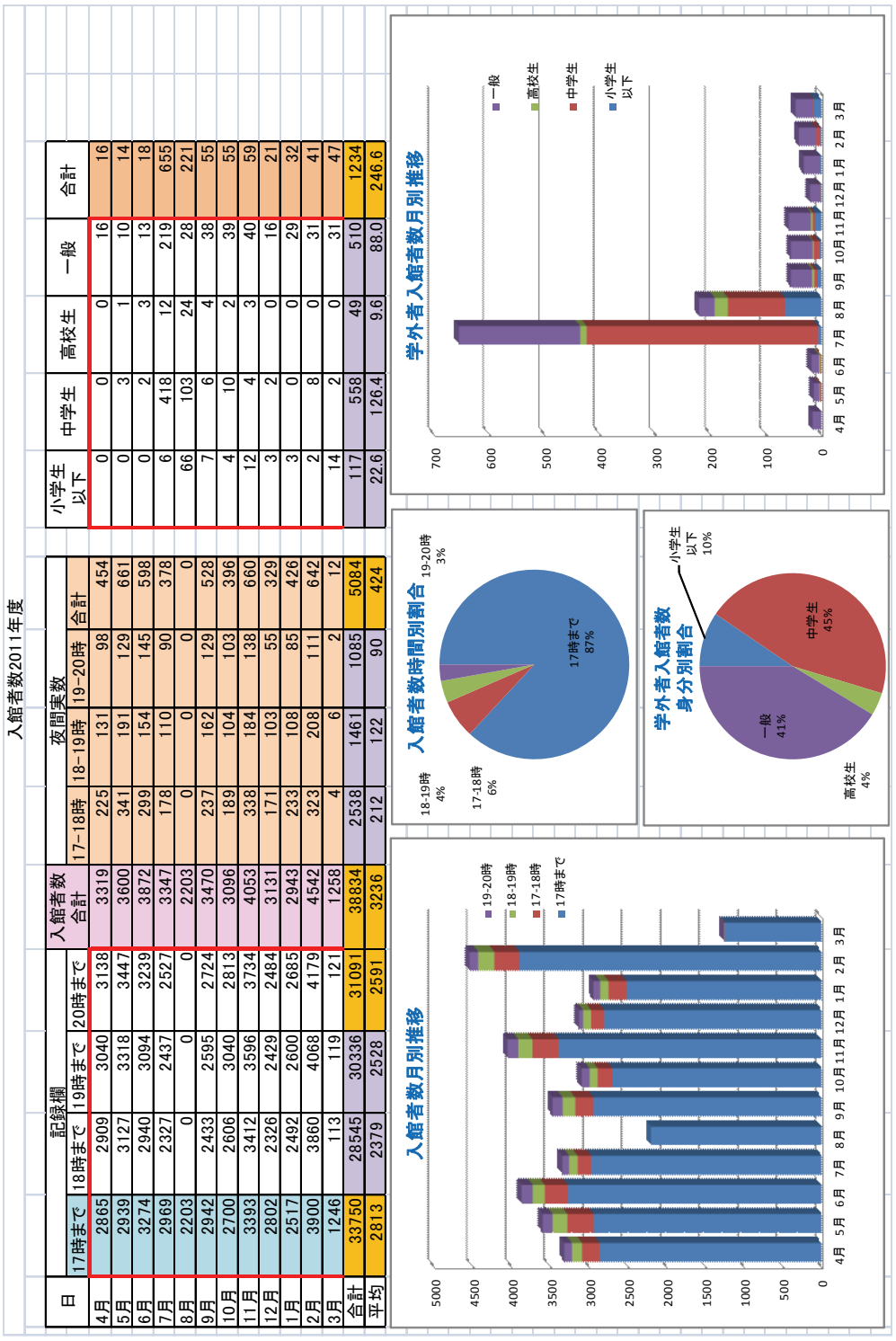
〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－８

図書館利用状況

入館者数2011年度

日	記録欄 17時まで	18時まで	19時まで	20時まで	入館者数 合計	夜間実数 17-18時	18-19時	19-20時	合計	小学生以下	中学生	高校生	一般	合計
4月	2865	2909	3040	3138	3319	225	131	98	454	0	0	0	16	16
5月	2939	3127	3318	3447	3600	341	191	129	661	0	3	1	10	14
6月	3274	2940	3094	3239	3872	299	154	145	598	0	2	3	13	18
7月	2969	2327	2437	2527	3347	178	110	90	378	6	418	12	219	655
8月	2203	0	0	0	2203	0	0	0	0	66	103	24	28	221
9月	2942	2433	2595	2724	3470	237	162	129	528	7	6	4	38	55
10月	2700	2606	3040	2813	3096	189	104	103	396	4	10	2	39	55
11月	3393	3412	3596	3734	4053	338	184	138	660	12	4	3	40	59
12月	2802	2326	2429	2484	3131	171	103	55	329	3	2	0	16	21
1月	2517	2492	2600	2685	2943	233	108	85	426	3	0	0	29	32
2月	3900	3860	4068	4179	4542	323	208	111	642	2	8	0	31	41
3月	1246	113	119	121	1258	4	6	2	12	14	2	0	31	47
合計	33750	28545	30336	31091	38834	2538	1461	1085	5084	117	558	49	510	1234
平均	2813	2379	2528	2591	3236	212	122	90	424	22.6	126.4	9.6	88.0	246.6



〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－９

分類別受入冊数

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
平成19年度	備品	56	64	122	29	53	42	0	6	1	186	559
	消耗品	46	17	9	61	141	95	6	29	1,809	99	2,312
平成20年度	備品	7	14	1	5	44	34	0	2	6	16	129
	消耗品	53	16	27	37	269	215	6	22	562	350	1,557
平成21年度	備品	2	18	3	0	36	28	0	0	2	13	102
	消耗品	38	19	11	145	172	260	2	20	495	68	1,230
平成22年度	備品	7	6	0	7	27	50	0	1	1	0	99
	消耗品	90	7	35	141	189	201	16	36	81	98	894
平成23年度	備品	1	31	4	7	72	55	0	3	13	11	197
	消耗品	56	49	42	80	174	202	11	60	28	115	817
合計		356	241	254	512	1,177	1,182	41	179	2,998	956	7,896

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－10

分類別帯出冊数

年　度	総　記 0	哲　学 1	歴　史 2	社会科学 3	自然科学 4	工　学 5	産　業 6	芸　術 7	語　学 8	文　学 9	合　計
平成１９年度	245	136	47	107	769	2,103	9	167	153	2,439	6,175
平成２０年度	249	155	62	133	796	1,891	10	132	124	1,923	5,475
平成２1年度	236	129	65	163	1,293	1,943	14	154	135	1,508	5,640
平成２２年度	259	172	72	417	1,366	2,172	13	154	184	1,945	6,754
平成２３年度	181	171	130	435	1,469	2,803	25	150	178	2,118	7,660

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－11

学級別帯出冊数

年度／クラス	平成19年度	平成２０年度	平成２1年度	平成２２年度	平成２３年度
１M	216	176	298	307	359
１E	377	369	422	575	220
１C	398	310	763	691	424
１A	54	176	240	196	138
２M	237	97	80	77	75
２E	93	139	63	236	366
２C	166	187	131	284	203
２A	128	42	53	70	129
３M	475	413	463	142	514
３E	539	293	461	147	543
３C	179	206	236	193	576
３A	156	99	145	179	74
４M	650	415	397	441	185
４E	431	374	233	525	187
４C	321	318	430	365	648
４A	338	231	159	350	740
５M	217	409	158	136	144
５E	489	389	136	213	183
５C	196	124	150	320	362
５A	165	260	195	248	251
専攻科１年ME	143	189	163	139	110
専攻科１年C	58	79	39	42	71
専攻科１年A	14	71	0	85	110
専攻科２年ME	101	59	165	101	89
専攻科２年C	18	46	48	53	54
専攻科２年A	16	4	12	0	36
合　計	6,175	5,475	5,640	6,115	6,791

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－12

DVD 利用統計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成19年度	件	19	27	58	79	68	27	38	55	31	39	34	18	493
	人	36	57	132	171	133	64	75	105	66	78	65	31	1,013
平成20年度	件	31	39	41	75	37	0	0	0	39	18	24	23	327
	人	58	65	86	164	73	0	0	0	59	33	52	38	628
平成21年度	件	31	33	47	53	33	15	28	11	20	8	7	0	286
	人	67	63	99	113	66	36	60	25	40	12	13	0	594
平成22年度	件	7	16	26	44	29	18	11	12	25	6	11	7	212
	人	11	30	54	84	51	33	21	20	52	12	28	16	412
平成23年度	件	18	11	16	29	28	14	38	4	20	16	13	5	212
	人	35	22	30	61	46	27	89	10	42	43	29	7	441

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－13

レファレンス利用統計2011

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1			2			2	0		1			1
2			1	0	1			0	1		3	
3			3		0	0			0		6	
4			0	1	0		1	6	0		2	
5				3	0	2	1	0	0			1
6			0	2	2	3	1		0	2	0	0
7			1	2		0	1	0	3	0	1	0
8			2	2	0	0	3	0	1		0	0
9			0	1	0	3		0	3		0	0
10			0		0	4	0	0	1	0	1	
11			1	1	2		0	0		0		
12				4		0	0	1	5	3		0
13			2	5		0	0		0	2	0	1
14			2	5		1	4	4	0	1	0	0
15			1	1		0	2	4	2		0	2
16			2	1	0	0		0	2	0	1	1
17			0		0	1	2	4	0			
18			0	0	1		1	4				
19				0	1		0	1	1	0		1
20			0	0	2	0	0		0	1	0	
21			2	0		0	2	1	3	1	1	1
22			0	0	2	3	0	0	1		1	1
23		1	1	3	1					1	0	2
24		3	0		0	0	0	1		2	0	
25		4	1	2	0	0	1	3		0	2	
26		5		3	0	1	0	2	0	1		0
27		3	5	1	1	0	0		2	2	0	0
28		1	3	1		0	1	0		0	0	0
29			3	0	2	0	2	1			2	0
30		0	1	0	2			2		0		0
31		1			2		0			0		
合計	0	18	33	38	19	20	22	34	26	16	20	11
平均		2.3	1.3	1.5	0.8	0.9	0.9	1.5	1.2	0.8	1.0	0.6

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－14

図書館利用アンケート結果

技術者教育プログラム委員会
委員長　林田　義伸　　殿

図　書　館　長
望　月　　高　明

図書館利用アンケート集計結果報告書

都城高専図書館の現状と課題

はじめに

都城高専図書館は、本校の学生に対して、良質の図書とその図書を読む場所、更には自学自習の場を、提供する責務を負っている。図書館では、外装及び第２閲覧室の大規模な改修(平成２０年１１月竣工)を機会に、本校の学生を対象にしてアンケートを実施した。これによって、上記の使命を実現する施設としての本校図書館の現状を把握するとともに、今後の課題を見出して、学校図書館として更なる改善を企図するものである。なお、アンケート項目は、図書館側が作成した原案を基にして、２回にわたって図書館運営委員会を開催して細部にわたって検討を加え、選定した。アンケート項目は１．施設について、２．蔵書について、３．図書館の運用についての三部から構成されている(別紙参照)

調査対象　：　１年生から５年生までの全２０クラス×５人
（ただし、各クラスの図書委員１名を必ず含む）
実施日　：　平成２１年２月３日　～　２月９日
実施方法　：　各クラスの図書委員を介してアンケート用紙を配布
配布枚数　：　１００部
回収部数　：　８５部(回収率：８５%)

分析結果

以下の分析は、アンケートの集計作業が終了した後、図書館運営委員会を開催し、討論を重ねて得た結果である。

１．施設について

現代の図書館は、従前の読書の場・勉学の場を提供する施設としての機能に加えて、その他の様々な機能性を求められている。とはいえ、学校図書館においては、依然として読書の場・勉学の場としての機能の重要性が追求されなければならない。

現　状　：　アンケートの結果から、このたびの図書館改修によって、従前に比べて利便性が高くなったと、好意的な意見が圧倒的に多かった。一、二例をあげると、１階のトイレが改装されて利用しやすくなった、第２閲覧室が広くなり、仕切りのついた机が増えたことで、個人での学習がしやすくなった・・・等々。

課　題　：　第２閲覧室は、自学自習の場という性格が濃厚であるが、その同じ空間内に仕切りもない状態で DVD 鑑賞のスペースがあることの矛盾。

・　第２閲覧室が、その部屋をコンスタントに利用している特定のグループのたまり場になる傾向があること。
・　今回の図書館の施設の大規模な改修のように、巨額な予算を必要とするケースとは別に、もっと日常的に工夫することによって、快適な空間を作り出す努力が必要ではないか。

２．蔵書について

どのような傾向の書籍を、どれだけ所蔵しているかは、その図書館の性格、あるいは質を規定する最も重要なファクターといってよい。アンケートでは、１)専門書について、２)一般書・教養書について、３)参考書類について、４)雑誌についての、４項目について実施した。

現　状　：　アンケート結果から、専門書、一般書・教養書については、全般的に「揃っている」と回答したものが多かった。参考書類、雑誌については、「普通である」と回答したものが多かった。また、アンケート結果から、図書館に配架している専門書が全般的に古く、学生のニーズに十分に対応し得ていない実状が浮き彫りになった。

課　題　：　学生の自学自習の場でもある図書館の専門書が全般的に古いということは、既に外部評価においても指摘されたところである。図書館の年間予算は減額の一途を辿っているが、長期的な展望に立って計画的に予算を行使して、専門書の購入に努める必要がある。

・　学生の自学自習の支援の一環として、参考書類の充実が急務である。なお、図書館では平成２０年度にある程度の予算を投じて、基礎科目である数学・物理・化学の参考書類を購入して、特に本校の低学年生の便に供している。
・　学生の「新しい本を揃えてほしい」、「専門書を揃えてほしい」等のニーズに応えるために、次回のアンケート調査では、アンケート項目の中に揃えてほしいと思う書籍の専門分野を具体的に取り込み、専門分野の細分化を図ったならば、学生の要望を反映した書籍の購入につながるのではないか。

３．図書館の運用について

アンケートでは、１)ブックハンティングについて、２)ＨＰ閲覧用パソコンについて、３)図書館蔵書検索用パソコンについて、４)開館時間についての４項目について実施した。

現　状　：　ブックハンティングは現在、１年～３年の各クラスの図書委員によって実施されているが、個人の趣味に偏っているとか、シリーズ本の部分的購入とかいった問題が指摘されている。

・　ＨＰ閲覧用パソコンについて、現在の環境に「満足していない」と回答した者が３分の１に上った。
・　検索システムについては、多数利用者がいることが分かった。検索システムの問題点について具体的に記述してもらったところ、検索結果と蔵書位置が明確でないこと、ジャンルからの絞り込み検索になっていないこと等の問題点が指摘された。
・　開館時間については、定期試験期間中の日曜日も開館を希望する意見がある。

課　題　：　ブックハンティングを実効あるものにするためには、各クラスの図書委員に人材を得ることが不可欠である。図書館では、図書委員に図書委員らしく活動してもらうために、平成２０年に学生図書委員会を立ち上げて、図書館活動を通して意識改革に努めている。

・　ＨＰ閲覧用パソコンの設置台数を現状より増やすことによって、ある程度不満を解消することができるが、その予算をどのように確保するかという問題。
・　図書館所蔵図書の検索の主要な手段である検索用パソコンの使い勝手に不満が多いことは、やはり問題で、速やかに是正されねばならない。ただし、システムの変更には外注業者に委託する必要があるが、そのための費用をどうやって捻出するかという問題。
・　定期試験中の日曜日開館は、経費の問題をクリアーしなければならないが、学生へのサービスの提供という見地からいえば、検討に値する。

〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－15

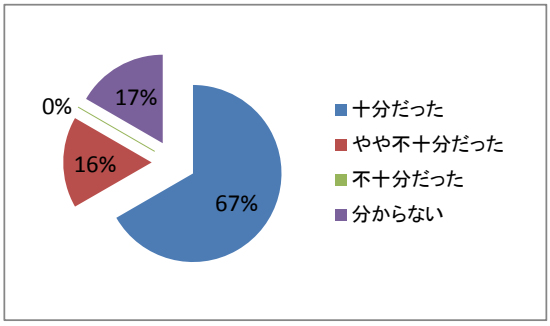
卒業生による教育・学校評価アンケートの結果（学習環境）

卒業生による教育･学校評価アンケートの結果

実施日:平成23年12月～平成24年1月末
対　象:平成22年度卒業生　52人
回答数(回答率):6人(11．5%)

(学習環境)
K1　図書館は、自学自習を進める上で十分な施設･蔵書内容でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1	十分だった	4	67%
2	やや不十分だった	1	16%
3	不十分だった	0	0%
4	分からない	1	17%
		6	100%



〔出典：学生課資料〕

資料８－２－①－16

学生関連図書情報



〔出典：ホームページ〕

資料８－２－①－17

蔵書検索



〔出典：ホームページ〕

資料８－２－①－18

電子ジャーナル・データベース



〔出典：ホームページ〕

資料８－２－①－19

DB 講習会資料

JDream研修会

都城工業高等専門学校
2011年11月

<配布資料>
・スライドを印刷したもの
・検索ガイド・ポケットガイド・参考文献の役割と書き方
・アンケート（記入をお願いします）

(独)科学技術振興機構　情報提供部

本日の内容

□ 講義
- 科学技術振興機構（JST）について
- 科学技術文献情報とは？
- 文献の入手方法
- 検索のコツ

実習は、講義の途中に行います

2

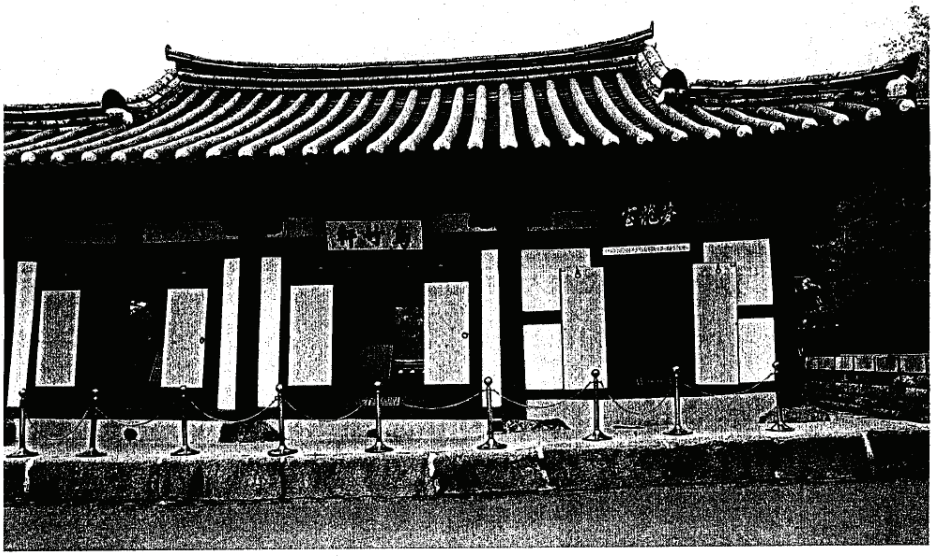
〔出典：JDream研修会〕

資料８－２－①－20

図書館だより（表紙）

図書館だより

都城工業
高等専門学校
図書館
No.70
FEBRUARY 2012



「韓国　江陵（カンヌン）の烏竹軒（オジュッコン）」

特集
校内読書感想文コンクール入賞者発表

都城工業高等専門学校
Miyakonojo National College of Technology

〔出典：図書館だより〕

（分析結果とその根拠理由）

図書館は，「高等専門学校設置基準」に従い，毎年の各学科推薦による推薦図書や学術雑誌等を系統的に整備している。また，図書館設備の充実度について，在学生と卒業生を対象として随時調査し，図書館の環境設備の一層の充実に努めている。在学生への調査では，専門書及び一般書・教養書について「全般的に揃っている」との回答が多く，必要な図書が揃っていることが分かる。また，卒業生に対して実施した調査でも８割弱が図書館の設備に満足している。新着図書や推薦図書を含む図書館の情報は，ホームページからも見ることができる。図書資料の電子化及び蔵書検索システムの導入により，校内LANから書籍や文献の検索が容易に行える。特に，文献検索では，講習会を実施し，学生が使いこなせるように指導し，図書館を十分に有効に活用できるように工夫している。さらに，「図書館だより」による情報発信やブックハンティングの実施により，学生のさらなる利用促進を図っている。

以上のことから，図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に整備し，それらを有効に活用している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育課程の実現に必要な設備・施設，ICT環境及び図書館に関する設備環境は十分優れているが，定期的に教職員，在学生及び卒業生に対し各種環境設備の充実度を調査し，ニーズを把握の上，改善を図っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準８の自己評価の概要

耐震改修やバリアフリー化を含む各学科棟及び専攻科研究棟の改修に伴い，教室，運動場，体育館，実験・実習室，研究室，電子計算機センター及び図書館を，教育課程に対して適切に整備しており，これらの施設・設備を授業や課外活動に有効に利用している。寄宿舎は，非全寮制でありながら，高い入居率であり，十分に有効に活用している。これらの施設の利用については，入学時に学生に配付する学生便覧に利用規則を掲載しており，周知している。また，独立行政法人化以降，労働安全衛生法の遵守を目的として，教職員の安全衛生に対する意識をより一層高めるために，全教職員に対し安全衛生教育講習会を開催している。さらに，実験や実習等の危険を伴う作業を安全に行うために，「安全の手引き」及び「実験実習安全必携」を作成し，全教職員及び学生に配付している。

情報ネットワークの基幹をなす電子計算機センターは，情報処理教育，研究，自主学習，課外活動，事務連絡等において活用している。セキュリティポリシーは，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティーポリシー基本指針に沿って設定し，管理及び運営している。ネットワークの利用に関しては，電子計算機センター以外にも各学科の研究室や情報化対応室に端末を設置し，情報の検索等に利用できる。これらの情報ネットワークは，校内LANの高速化・無線化及び外部接続の高速化を実現し，また，情報セキュリティにおいては，外部からの不正アクセス

を監視するシステムを導入している。

図書館は，図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育上必要な資料を系統的に整備し，有効に活用している。自主学習の便宜を図るため，各学科の推薦図書やブックハンティングによる図書の購入も実施している。また，ホームページによる情報発信や蔵書検索システムにより利便性を図り，さらなる図書館の利用促進を行っている。図書館機能の一端をなす文献検索については，専門とする講師による講習会の実施を通して学生に十分に使用方法を指導し，自主学習や卒業研究等に役立つシステムを構築している。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育活動に関する基礎的データや資料は，各学科及び専攻科から教務委員会，専攻科委員会，技術者教育プログラム委員会及び自己点検評価委員会に提出し，点検を行い，教務係や資料室に蓄積保管している。これらの資料を基に（資料９－１－①－１）の体制で評価している。教務委員会，専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会では，各課程のシラバス及びチェックリストのほか，学生の成績答案及び進級・卒業（修了）判定の資料をデータベース化し，自己点検評価委員会では，授業評価アンケート，学生による学習達成度評価，各学科の自己点検評価の資料等を収集・蓄積している。また，「生産デザイン工学」プログラムの試験問題・学生の答案・模範解答例，成績評価に係る小テスト・レポート類から製図類，卒業論文等の資料は，全学生分収集・蓄積している（資料９－１－①－２）。３学年以下の試験問題・解答例・学生の試験答案（60 点前後と最高点）及び平成 23 年度後期からポートフォリオも保存している（資料９－１－①－３～４）。さらに，教育の結果を中間試験及び定期試験ごとに確認するため，学年別授業担当者会議及び専攻科授業担当者会議を開催している（資料９－１－①－５）。

教育点検評価は，平成 15 年度から平成 16 年度に体制の整備を行い，平成 21 年度に教育点検・改善システムを構築した（資料９－１－①－６）。これにより，教育点検・改善を中心として教務委員会，専攻科委員会，技術者教育プログラム委員会，学科長を責任者とする学科教育点検班等で，学生・学外の評価を十分に把握し，問題点を協議する体制を確立している（前述資料９－１－①－５）。

観点９－１－①　資料一覧

資料９－１－①－１　データや資料の収集・評価を実施する体制
〔出典：総務課資料〕

資料９－１－①－２　教育活動に係るデータ・資料の管理
〔出典：総務課資料〕

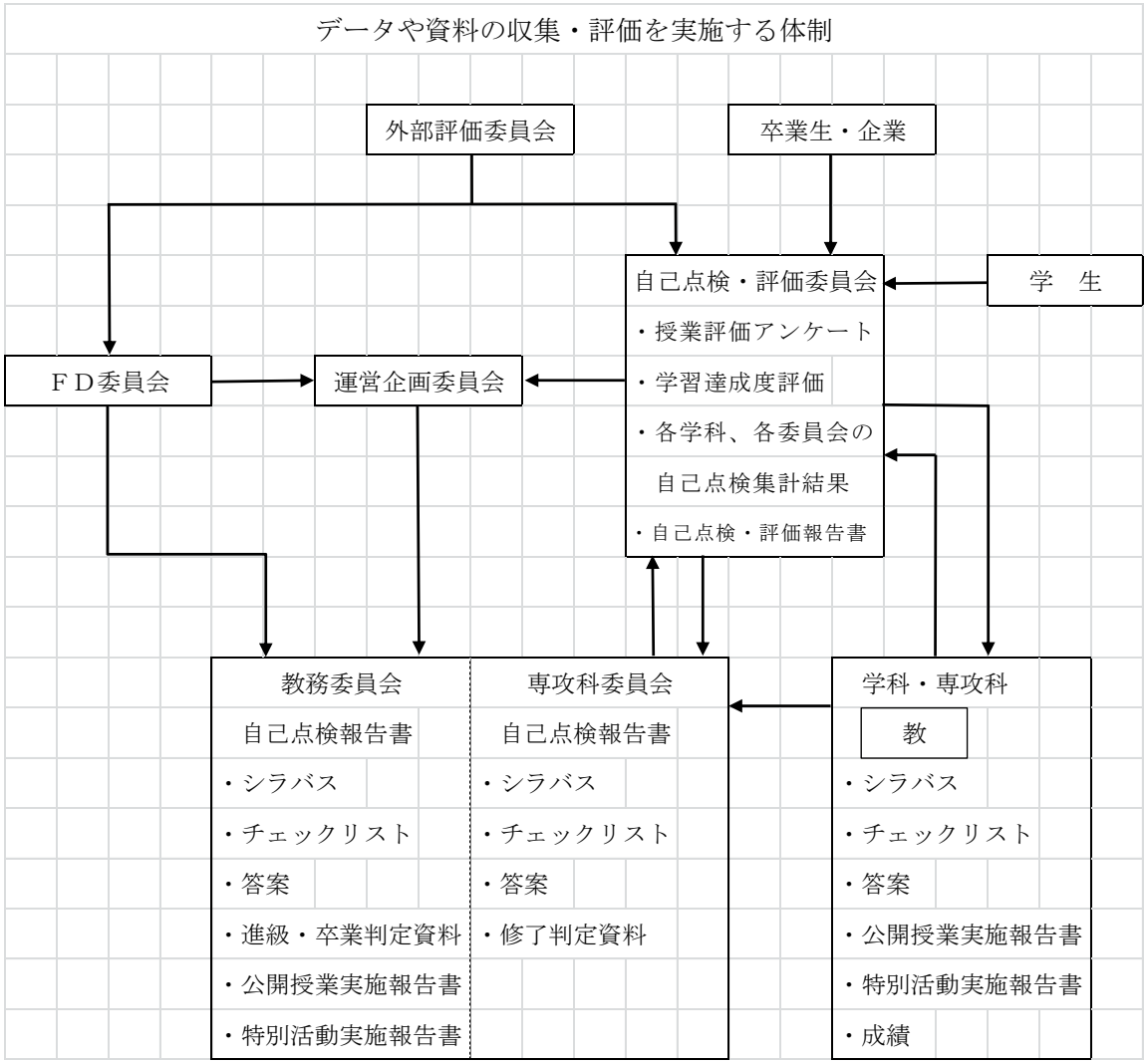
資料９－１－①－３　３学年以下の試験問題・解答例・学生の試験答案
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－①－４　ポートフォリオ管理
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－①－５　学年別授業担当者会議・専攻科授業担当者会議の実施記録
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－①－６　「生産デザイン工学」プログラムに関する教育点検・改善システム図
〔出典：ホームページ〕

資料９－１－①－１



〔出典：総務課資料〕

資料９－１－①－２

教育活動に係るデータ・資料の管理		
教育活動に関するデータ、資料	収集担当委員会	蓄積場所
学生成績表（準学士課程）	教務委員会	学生課
答案（準学士課程）	教務委員会	学生課
進級・卒業判定の資料（準学士課程）	教務委員会	学生課
シラバス	教務委員会	学生課
学生成績表（専攻科課程）	専攻科委員会	学生課
答案（準学士課程）	専攻科委員会	学生課
修了判定の資料（専攻科課程）	専攻科委員会	学生課
シラバス	教務委員会	学生課
授業評価アンケート	自己点検・評価委員会	評価資料室
学生による達成度評価（準学士課程）	自己点検・評価委員会	評価資料室
学生による達成度評価（専攻科課程）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（機械工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（電気情報工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（物質工学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（建築学科）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（教務委員会）	自己点検・評価委員会	評価資料室
自己点検・評価の資料（専攻科委員会）	自己点検・評価委員会	評価資料室

〔出典：総務課資料〕

資料９－１－①－３

３学年以下の試験問題・解答例・学生の試験答案

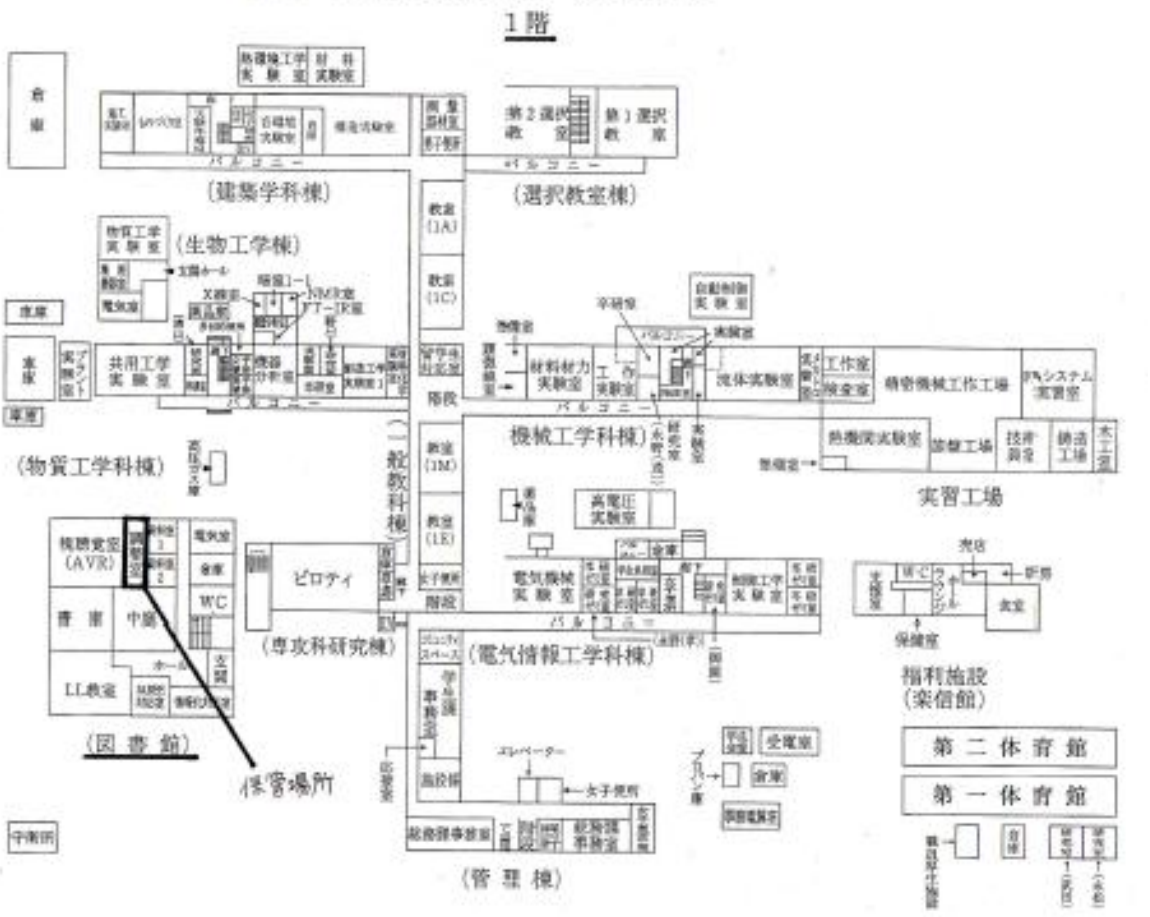
平成２３年度第１０回教務委員会議事要録

日　時　　平成２３年9月１２日（月）１６：３０～１８：００
場　所　　図書館第２会議室
出席者　　教務主事、教務委員（高橋(勇)、永野(孝)、福留、中村(裕)、松﨑、武田）
列席者　　学生課長、学生課課長補佐、教務係長

議事に先立ち、平成２３年度第９回教務委員会議事要録の確認を資料１により行い、審議事項２．なお書き部分中の氏名を削除することで、これを了承した。（修正済）

１．平成２３年度低学年用ポートフォリオの記入指導等について（資料２）
教務主事から配付資料の説明及び提案があり、審議の結果提案内容を下線部のとおり一部修正のうえ、これを了承した。
１　３年生以下の試験を実施する授業科目が記入対象です。
２　低学年用ポートフォリオの用紙は、授業評価アンケート用紙を配付する際に、授業評価アンケート用紙とは別の封筒に入れて配付します。
４　記入済のポートフォリオは、回収のうえ授業担当者又は学科事務室で保管してください。
８(2) 教務委員は、ポートフォリオの提出状況を確認（未提出者（教員）には催促）し、提出されたポートフォリオを、図書館１Ｆ東側の倉庫へ運ぶ。

44. 都城工業高等専門学校　校舎平面図



〔出典：学生課資料〕

資料９－１－①－４

ポートフォリオ管理

平成23年度

シラバス
&
ポートフォリオ

本科第5学年用

都城工業高等専門学校

学 科 _____

番 号 ___

氏 名 _____

英語 (English)

専攻・学年	5年全学科	単位・期間	2単位・通年		
担当教員	西村　徳行	連絡先	一般教科棟3階　西村研究室	オフィスアワー	月曜8限

【授業目的】

読解能力・聴解能力を中心に英語の運用能力の育成を目指す。また、理工系に必要な語彙力の習得を目指す。

【履修上の注意・事前に行う準備学習や自己学習について】

授業前に、教科書のIntroductionとKey Vocabularyを予習しておく必要がある。授業中に扱った音声については、学内LANに繋がれたコンピュータで聴けるようにしておくので復習をしてほしい。語彙力については、授業以外の時間を利用して伸ばしていってほしい。

【授業の内容】

授業要目	内　容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1
Unit 1	The Beatles and Popular Music	5
Unit 2	Extreme Sports	4
Unit 3	Roller Coasters	4
前期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
Unit 4	Movies – Behind the Scenes	5
Unit 5	Sightseeing: Death Valley	4
Unit 6	Beer and Microbreweries	5
前期末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
Unit 7	Overseas Jobs	5
Unit 8	Movie Reviews	4
Unit 9	Television	4
後期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
Unit 10	Photography	5
Unit 11	Carnival in Rio	5
Unit 12	Winter Olympics	4
学年末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
	合計時間	60

【達成目標】

言語等の表現手段によって他者と意思などを疎通させる能力を伸ばす。

【成績の評価方法】

4回の定期試験と小テスト等を総合して評価する。

【評価基準】

60点(100点満点)を合格とする。

【教科書】

Video Magazine (Asahi Press)

【参考書】

理工系学生のための必修英単語3300 (SEIBIDO)

【学習・教育目標との対応】 C　**【JABEE基準との対応】** (a), (f)

ポートフォリオ

＜記入上の注意＞

【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。

【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。

【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。

【授業計画の説明】(実施状況の記入)

小テストが大変そう

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

小テストのおかげで
点数があがった。

【試験の結果】 試験の点数(72)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

問題文の読みまちがいをしていた。

リスニングが苦手。

【試験の結果】 試験の点数(76)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

単語ミスがおおかった。

【試験の結果】 試験の点数(69)

【理解の度合】(教員は授業の実施状況を記入)

最後のテストで点数あがった。
でも方法がわからず文章での解答のできがわるかった。

【試験の結果】 試験の点数(77)

【総合達成度】 総合評価の点数(74)

全体的に英語はいつもできていなかった。
これからは必要になってくると思うので
少しでも勉強をしていきたい。

【評価の実施状況】総合評価を出した後に、教員が記入してください。

専門科目

物質工学科

電気化学(Electrochemistry)

専攻・学年	物質工学科・5年	単位・時間	必修1単位・計時間30時間(授業時間30時間)
担当教員	野口大輔	連絡先	物質工学科棟1階野口研究室 オフィスアワー 月曜

【授業目的】

化学エネルギーと電気エネルギーとの相互作用、電極/溶液界面で進行する反応(電極反応)、電極/溶液界面の構造・電解質溶液でのイオンの移動について理解する。

【履修上の注意・事前に行う準備学習】

微分方程式・物理化学を理解していることが望ましい。

【授業の内容】

授業項目	内　容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1
1. 電気化学的な系と現象	化学反応と電気，電池の放電と充電，電極反応と電解電池，水の電気分解について理解する。	7
2. 電極反応	電極反応速度と電流，電極反応速度定数の電位電流依存性，電気二重層と電極反応機構，電極反応の解析について理解する。	7
前期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
3. 起電力と平衡電極電位	電池の起電力，平衡電極電位，酸化還元反応の平衡と起電力，様々な電極の平衡電極電位について理解する。	7
4. 電解質溶液の電気伝導性	溶液の電気伝導率，電解質の伝導率と濃度，イオンの移動度の濃度依存性について理解する。	7
前期末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
	合計時間	30

【達成目標】

電気化学の基礎概念を理解し，Nernst式を使って熱力学的事象を考察できる。

【成績の評価方法】

前期中間試験(45%)・前期末試験(45%)・課題(10%)を総合評価とする。

【評価基準】

学年成績60点以上を合格とする。

【教科書】

泉生一郎ら著「基礎からわかる電気化学」(森北出版株式会社)

【参考書】

喜多英明ら著「電気化学の基礎」(技術堂出版株式会社)

【学習・教育目標との対応】 B　【JABEE基準との対応】 (c),(d)

ポートフォリオ

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－①－５

学年別授業担当者会議・専攻科授業担当者会議の実施記録

学年別授業担当者会議まとめの教務委員会委員長宛報告書

平成２４年3月１５日

教務委員会委員長　殿

（4）学年授業担当者会議責任者　氏名（　小原　聡司　）

下欄のように、議事要録、今後の課題及び検討依頼事項を報告いたします。

議事要録　（会議日時、出席者、議事の要点を記載する。複数のページにわたっても可、議事録が別にある場合は、添付でも可で、欄内に添付した旨を記入する）
平成 24 年 2 月 7 日から 28 日にかけて 4 年生担任と学内 LAN を通して 4 学年全般に共通問題について意見聴取し，一旦意見なしであったが，再度責任者から原案を提示し各担任の同意を得た。(別紙参照)
今後の課題　（議事の中から特に今後の課題ととらえる事項を箇条書きに記入する）
（1）校外実習の企業問い合わせ業務範囲の確定 今年度の校外実習の問い合わせ方式に関して，教務係担当者と担任間で認識の違いがあり，また教務係担当者も別の書類送付に忙殺されたため，担任が行う実習の具体的交渉業務への引き継ぎがスムーズにいかなかった。 最初の企業への問い合わせは，回答が届くまでの問い合わせも含めて教務係で責任を持って行っていただきたい。 （2）水曜午後の共通行事設定時刻 時間割上全学科が空いているということで共通の説明会･講習会(企業・大学説明会，身だしなみ教室，マナー講座など)は水曜 6 限直後に行われるが，6 限終了後に多少時間があると教室での清掃･連絡等の指導がしやすい。 水曜午後の行事設定時刻についてはできれば 15 時頃からの開催をお願いしたい （3）キャリア支援室の予算額及び執行計画の検討 ２月中に産業 CD による４A学生の面談をお願いしようとしたところ，予算がないので CD を呼べないため対応できないかもとの回答がキャリア支援室長からあった(結果的に学内の残予算を集めて実施して頂けた)。 キャリア支援室の予算計画は４年の２月や３月にも面談が行えるような予算執行計画あるいは額の確保が必要ではないか。

平成 23 年度 前期 専攻科授業担当者会議　議事要録

日時	平成 23 年 10 月 20 日（木）16：45-17：15
場所	第２会議室（図書館２階）
出席者	専攻科委員会　　：林田、高橋勇、野地、清山、板倉、田村、小塚
出席者	プログラム委員会：林田、永野、野地、清山、板倉、田村、小塚
議事要録作成	専攻科長

１．教員からの意見・要望について（資料 p.1, p.5）

１）専攻科インターンシップ期間について

電気情報工学科教員より、3 週間のインターンシップが長すぎるという意見が出された。理由は主に、3 週間という長期間、受け入れる企業等が殆どないということである。これを受けて、他学科でもインターンシップ先を探すのに非常に苦慮している旨、報告があった。また、宮崎大学のインターンシップは 2 週間であり、2 週間のインターンシップ先ならもう少し確保しやすいなどの意見があった。そこで、授業担当者会議では、インターンシップの期間短縮について、専攻科委員会に付議することとした。

２）専攻科インターンシップ（実務実習）の評価について

実務実習の評語とそれに対応した評点に、違和感があると、建築学科教員からの意見があった。そこで、評語と評点の対応について、専攻科委員会に付議することとした。

３）機械工学科からの意見

機械工学科教員より提出された意見については、特に授業担当者会議で取り上げるべき内容ではないと判断された。

２．非常勤講師からの意見・要望について（資料 p.2-4）

１）　先生（技術者倫理非常勤講師）からの意見

先生の授業については、その内容から他の講師の授業後に実施するのが望ましいとの意見があり、この件について、専攻科委員会に検討を依頼することにした。

２）　先生（技術者倫理非常勤講師）からの意見

先生から学生のレポートの書き方が訓練されていないとの意見が提出された。授業担当者会議では、授業によりレポートの書き方など異なるものの、レポートの書き方の一層の訓練が必要と判断した。そこで、授業担当者会議のメンバーより、各学科教員に対し、レポートの書き方指導の強化をお願いすることとした。

３．学生からの意見・要望について

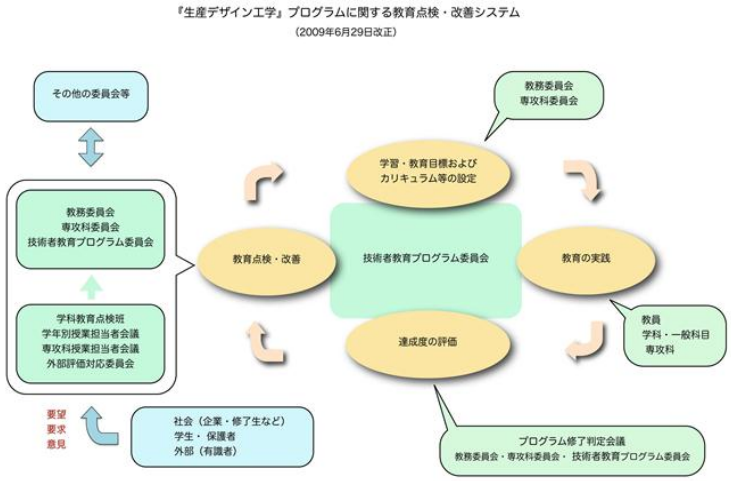
今回は学生からの意見・要望のメールは無かったことが、専攻科長より報告された。

以上

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－①－６

「生産デザイン工学」プログラムに関する教育点検・改善システム図



（2009年6月29日改正）

〔出典：ホームページ〕

（分析結果とその根拠理由）

教育活動のデータや資料は，収集・蓄積し，専用の保管場所に保管している。教育点検評価を実施する体制は，システム図及び諸規則等で明らかなように，教務委員会，専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会を中心として整備しており，点検評価自体も機能している。したがって，教育活動の実態は把握しており，評価体制も整備している。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

平成 18 年９月に評議員会を設置し，毎年２月に会議を開催して，提言や意見のあった事項は改善に努めている（資料９－１－②－１～２）。例えば，平成 21 年度の評議員会では，建築学科の志願者増の一環として建築学科のカリキュラム充実の提言があり，平成 23 年度にカリキュラムの一部見直しを行った（資料９－１－②－３）。なお，評議員には同窓会長もメンバーとして参加しており，卒業生の声を本校の学校運営に反映している。毎年実施している保護者対象の学校説明会，学級懇談会及び学科別説明会においては，アンケートを実施している（資料９－１－②－４～６）。そのアンケートの結果は，全教員へ学内メールで配信し，改善事項は各種委員会や学科で対応している。さらに，３主事は保護者へメールアドレスを伝達し，直接意見や提言が聴取できるようにしている。同窓会の協力を得ながら，平成 22 年度には約 2,000 名の卒業生へのアンケートを実施した。さらに，平成 23 年度には卒業生の就職先企業や編入学先大学へのアンケートも実施した（資料９－１－②－７）。学生の意見聴取は，年２回行う授業評価アンケートで実施している。前期のアンケート結果を後期の授業に反映させ，学年末の報告書には教員個々に「分析と課題」を記入して自己点検している（資料９－１－②－８）。学生課に設置の学生意見箱や学生会総会で教務主事及び学生主事が直接聴取した意見は，各主事がまとめ，教育会議で教員へ周知し，各種委員会等で改善の検討を行っている（資料９－１－②－９～10）。また，授業改善実績調査を２年に１回実施し，授業改善に取り組んでいる（資料９－１－②－11）。本科５年生は，平成 21 年度から毎年２月に５年間の準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価を実施している。この結果は，教務委員会で分析し，教員へフィードバックしている（資料９－１－②－12）。さらに，「生産デザイン工学」プログラムの学生には，シラバスとポートフォリオを一体化して到達度を詳しく分析させ，学生の分析内容を教科担当者がチェックし，担当者自身も自己点検している（前述資料９－１－①－２）。専攻科生の要望・意見は，メールで調査し，専攻科授業担当者会議で検討している（前述資料９－１－①－５）。

観点９－１－②　資料一覧

資料９－１－②－１　都城工業高等専門学校評議員会規則

〔出典：規則集〕

資料９－１－②－２　評議員会評議員名簿

〔出典：学校要覧〕

資料９－１－②－３　平成21年度の評議員会議事概要（建築学科のカリキュラムの充実の提言）

〔出典：総務課資料〕

資料９－１－②－４　学校説明会のアンケート内容及び結果一覧表

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－５　学級懇談会のアンケート内容及び結果一覧表

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－６　学科別説明会のアンケート内容及び結果一覧表

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－７　卒業生、就職先企業、編入学先大学へのアンケート内容

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－８　授業評価アンケート内容及び結果一覧表

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－９　学生課に設置された意見箱についての説明文書

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－10　学生総会等で聴取した意見等に対する改善文書

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－11　授業改善実績調査（平成19～20・21～22年度）

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－12　本科５年生の５年間の準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己評価点検一覧表

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－１

都城工業高等専門学校評議員会規則

平成１８年９月４日制定

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に都城工業高等専門学校評議員会（以下「評議員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　評議員会は、本校の教育研究活動、地域貢献活動等運営に関する重要事項について審議し、校長に対して助言を行う。

（組織）

第３条　評議員会は、本校の教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから校長が委嘱する１０人以内の評議員で組織する

（任期）

第４条　評議員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長）

第５条　評議員会に会長を置き、評議員の互選により選出する。

２　会長は、評議員会を招集し、その議長となる。

３　会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名した評議員がその職務を代行する。

（評議員会の開催）

第６条　評議員会は、年１回以上開催するものとする。

２　評議員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務）

第７条　評議員会に関する事務は、総務課において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、評議員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規則は、平成１８年９月４日から施行する。

２　この規則の施行後、最初に委嘱される評議員の任期は、第４条の規定にかかわらず、平成２０年３月３１日までとする。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料９－１－②－２

評議員会評議員名簿

都城工業高等専門学校評議員会評議員　Councilors

氏　名	所　属　・　職　（敬称略、50 音順）
今　井　富士夫	宮崎大学工学部長
下　沖　　晋	都城工業高等専門学校同窓会会長
仙　塩　　洋	社団法人宮崎県工業会副会長　宮崎高砂工業株式会社代表取締役社長
津　曲　洋　一	社団法人霧島工業クラブ代表理事　えびの電子工業株式会社代表取締役社長
得　能　　剛	宮崎県中学校長会会長　宮崎市立宮崎西中学校長
飛　田　　洋	宮崎県教育委員会教育長
長　峯　　誠	都城市長
山　本　展　也	日本放送協会宮崎放送局長

〔出典：学校要覧〕

資料９－１－②－３

平成21年度の評議員会議事概要（建築学科のカリキュラムの充実の提言）

平成２１年度都城工業高等専門学校評議員会議事概要

日　　時　　平成２２年３月３日（水）１３：３０～１４：５５

場　　所　　都城工業高等専門学校校長室（管理棟２階）

出 席 者　　【評議員】
大坪　昌久、木村　誠、下沖　晉、橋本　明久、
朝倉　脩二（社団法人霧島工業クラブ代表理事代理）
【本　校】
三村校長、樋口副校長（教務主事）、森茂副校長（学生主事）、
野町副校長（寮務主事）、濱田校長補佐（社会連携担当）、
林田専攻科長、遵見事務部長
【陪　席】
総務課長、学生課長、総務課課長補佐（総務担当）、
総務課課長補佐（財務担当）、学生課課長補佐、総務係長

配付資料　　資料１　都城工業高等専門学校評議員会評議員名簿
資料２　都城工業高等専門学校評議員会規則
資料３　平成２０年度都城工業高等専門学校評議員会での提言に対する対応
資料４　都城工業高等専門学校第２期中期計画
資料５　独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画
資料６　都城工業高等専門学校第２期中期計画における平成２１年度計画の実施状況
資料７　同上　基礎資料
資料８　都城工業高等専門学校研究活動に関する自己点検評価報告書
資料９　都城工業高等専門学校公開講座等の自己点検評価書
印刷物　「２００９　学校要覧」
印刷物　「２０１０　入学案内」

議事に先立ち、出席者の紹介があり、その後、大坪評議員をこの評議員会の議長として選出した。

議　　題

１．平成２０年度都城工業高等専門学校評議員会での提言に対する対応について
三村校長から、平成２０年度都城工業高等専門学校評議員会での提言に対する対応について、配付資料３により説明があり、審議した結果、特に質問・意見はなかった。

２．都城工業高等専門学校第２期中期計画について
三村校長から、都城工業高等専門学校第２期中期計画について、配付資料４及び５により説明があり、審議した結果、次のとおり質問・意見があった。
〔質問〕
○女子学生の確保に関し、特に就職面において何か方策を講じていますか。
○先般発足された「都城工業高等専門学校・宮崎県連携協議会」とは、どのような協議会ですか。
〔意見〕
○都城工業高等専門学校を中核とした産官学連携のネットワークについては、さらに拡大してほしい。
○来年度の「宮崎・児湯地区中学校長等への進学説明会」の開催日決定に当た

-

っては、宮崎県校長会等と事前に連絡調整してほしい。
○「卒業者のネットワーク作り」や「就職キャリア支援室（仮称）の設置準備」に当たっては、霧島工業クラブや同窓会等との情報共有等連携を強化してほしい。

３．都城工業高等専門学校第２期中期計画における平成２１年度計画の実施状況について

樋口副校長（教務主事）等から、都城工業高等専門学校第２期中期計画における平成２１年度計画の実施状況について、配付資料６及び７により説明があり、審議した結果、次のとおり質問・意見があった。

〔質問〕
○高等教育コンソーシアム宮崎が実施している単位互換制度について、利用した実績はありますか。
○地域共同テクノセンターの全国の設置状況は、どうなっていますか。
○教員のメンタルヘルスにおいて、問題はありませんか。

〔意見〕
○地域共同テクノセンターを是非設置してほしい。
○研究活動の活発化策として、産官学連携を利用した研究プロジェクトの設置は効果的であると思う。

４．その他

１）三村校長から、平成２０年度に研究活動及び公開講座等にテーマを絞って自己点検評価を行い、その結果を配付資料８及び９のとおり報告書として取りまとめた旨報告があった。

以　上

平成２０年度 都城工業高等専門学校評議員会 改善要望事項

評議員会委員からの改善要望事項	審議依頼先
１．教育全般・進学状況について (1)志願者を確保するため都城から約１時間かかる宮崎を入試会場にすることはよいが、高等学校は私立・県立高校５６校のネットワーク化が進んでおり、宮崎ではまだまだ高専の認知度が低い。さらなる努力が必要。 (2)宮崎ケーブルテレビを利用して高専をアピールするということも認知度向上には必要では。マスコミをうまく利用した方が効果がある。 (3)企業は、技術面から高専卒業生がほしいという意見があり、ケーブルテレビで話題性を提供し、企業の採用意欲を刺激したらどうか。 (4)学校紹介用の映像（動画）を作成し、それを利用するとＰＲ効果がある。 (5)宮崎県では中高一貫教育の導入などの情報提供について、高等学校はかなり努力されている状況がある。中学校に高等学校の校長が自ら行くこともあり、その学校の特色をアピールされている。連携・協力体制を強化するためにも校長会を利用されたらどうか。 ２．寮運営について (1)経済的に負担の少ない寮に入れて勉強ができる環境を持つ高専は恵まれており、もっとＰＲされてよい。	教務委員会、 専攻科委員会
３．学生の進路、就職状況等について (1)地元への就職定着率を向上させるには学校が中心になってＵターン・Ｉターン希望者の受入体制を整備することも必要。 (2)地元工業会にもＵターン・Ｉターン希望者の窓口組織を設けているので、地元工業会にも情報を頂きたい。また、学生には卒業までのケアではなく、卒業後のケアもお願いしたい。 (3)Ｕターン希望者の有無について、直接卒業生から得ることは容易ではないと思われるので、同窓会に情報を頂ければ、各支部から情報発信を行う中で学校の窓口を拠点に情報の共有が可能。 (4)就職希望者６３名中２名しか宮崎県内に就職できないという状況を解消するには、企業マインドに訴えるしかない。	厚生補導委員会
４．研究に関する事項 (1)科研費の申請状況について、宮崎大学では申請しないと研究費削減のペナルティが課せられ、採択者には研究費のインセンティブが与えられる。宮崎大学の科研費申請は、ほぼ１００％であり、評価方法の見直しがあってもいい。	予算専門委員会
５．社会との連携、国際交流等に関する事項 (1)霧島工業クラブと高専との関係強化が重要である。 (2)平成２１年度は、都城でテクノフェアの開催が予定され、関係企業に働きかけているので、高専にも協力願いたい。	地域連携センター運営委員会
６．その他 (1)競争倍率１．７倍ではあるが、建築学科の定員割れという事態は、都城高専創設以来初めてのことではないかと思われる。都城高専では、これまでも工業化学科や電気工学科の改組を行い、難局に対応してきたが、学科の改組・名称変更やカリキュラム変更等について検討されたらどうか。建築学科の魅力を高める努力をするか、改組等の思い切った措置が必要と思われ、今後の検討をお願いしたい。	建築学科

〔出典：総務課資料〕

資料９－１－②－４

学校説明会のアンケート内容及び結果一覧表

平成23年度学校説明会（4月28日）アンケート

都城工業高等専門学校

保護者　各位

今後の検討の参考といたしますので、お手数ですが、ご回答ください。

○印をしてください。【学科】　Ｍ　・　Ｅ　・　Ｃ　・　Ａ　【学年】　２　・　３　・　４

Ａ 授業参観をされた方にお尋ねします。

1 授業担当教員の授業（説明及び板書を含む）は丁寧でしたか。該当するものに○をしてください。

1　丁寧と思った
2　普通と思った
3　丁寧さに欠けると思った

2 学生はクラス全体として、授業に集中していましたか。該当するものに○をしてください。

1　集中していると思った
2　普通と思った
3　あまり集中していないと思った

3 今年度も学校説明会に授業参観を設けましたが、学校説明会に授業参観を設けた方がよいと思いますか。該当するものに○をしてください。

1　設けた方がよい
2　設けなくてよい
3　どちらでもよい

4 授業に関しての感想、ご意見があれば記入してください。

Ｂ 学校説明会に出席された方にお尋ねします。

1 説明内容（資料を含む）は十分でしたか。該当するものに○をしてください。

1　十分だった
2　不足と思った
3　分からない

2 学校側の説明は分かりやすかったですか。該当するものに○をしてください。

1　分かりやすかった
2　普通
3　分かりにくかった

3 今回、授業参観、学校説明会とも午後に開催しました。これに関し、該当するものに○をしてください。

1　授業参観、学校説明会とも午後開催がよい
2　授業参観、学校説明会とも午前開催がよい
3　午前中授業参観、午後学校説明会と午前午後にまたがった方がよい。
4　その他

4 学校説明会や学校についての感想、ご意見、学校についてもっと知りたい点があれば記入してください。

平成23年度学校説明会アンケート集計結果

	2M	2E	2C	2A	3M	3E	3C	3A	4M	4E	4C	4A	不明	合計
【授業参観について】														
Ａ－１　担当教員の授業（説明及び板書）は丁寧でしたか														
１ 丁寧	6	7	3	7	5	7	10	3	3	0	3	2	3	**59**
２ 普通	9	9	4	7	4	6	10	0	4	3	3	2	4	**65**
３ 丁寧さに欠ける	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	**3**
Ａ－２　学生は授業に集中していましたか														
１ 集中していると思った	7	10	4	8	3	2	15	3	3	0	6	3	6	**70**
２　普通	9	7	5	6	6	11	5	0	4	3	1	1	2	**60**
３ あまり集中していないと思った	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
Ａ－３　学校説明会に授業参観を設けた方がよいと思いますか														
１ 設けた方がよい	15	14	9	14	9	10	19	4	7	2	5	4	8	**120**
２ 設けなくてよい	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	**1**
３ どちらでもよい	2	3	0	0	0	2	0	0	1	2	2	1	0	**13**
【学校説明会について】														
Ｂ－１　説明内容（資料を含む）は十分でしたか														
１ 十分だった	16	17	10	16	11	14	22	5	11	8	8	8	9	**155**
２ 不足と思った	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**2**
３ 分からない	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**3**
Ｂ－２　学校側の説明は分かりやすかったですか														
１ 分かりやすかった	9	15	5	12	8	12	19	4	9	7	5	6	9	**120**
２ 普通	8	5	5	4	3	3	3	1	2	1	3	2	0	**40**
３ 分かりにくかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
Ｂ－３　授業参観、学校説明会の開催時間について														
１ 午後開催がよい	18	18	10	16	10	14	21	5	11	8	5	8	9	**153**
２ 午前開催がよい	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	3	0	0	**7**
３ 午前午後にまたがった方がよい	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**1**
４ その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－５

学級懇談会のアンケート内容及び結果一覧表

平成23年度学級懇談会アンケート（10月）

都城高専

保護者　各位

今後の検討の参考といたしますので、お手数ですが、ご回答ください。

学科の該当するものに○をしてください。
学科（M,　E,　C,　A ）

A 担任との学級懇談会について

1 学級懇談会に出席されましたか。該当するものに○をしてください。
1　出席した
2　欠席した

以下、2、3、4は、学級懇談会に出席された方にお尋ねします

2 学級担任の指導方針、学級状況等の説明は十分でしたか。該当するものに○をしてください。
1　十分だった
2　普通と思った
3　不十分だった

3 担任は、保護者の質問に対して、十分答えましたか。該当するものに○をしてください。
1　十分答えられた
2　まあまあ答えられた
3　不十分だった

4 学級懇談会は有意義でしたか。該当するものに○をしてください。
1　大変有意義だった
2　有意義だった
3　意義がなかった

B 担任との個別面談について

1 あなたの知りたいことが分かりましたか。該当するものに○をしてください。
1　十分分かった
2　だいたい分かった
3　不十分だった

2 担任の意見は十分参考になりましたか。該当するものに○をしてください。
1　参考になった
2　まあまあ参考になった
3　参考にならなかった

3 担任との個別面談は有意義でしたか。該当するものに○をしてください。
1　大変有意義だった
2　有意義だった
3　意義がなかった

C 学級懇談会を、今回は、個人面談の偏りを解消するため、クラスを出席番号で単純に2分しました。
このことについて、該当するものに○をしてください。
1　これでよい
2　原則、通学生と寮生に分ける方がよい
3　（　　）

学級懇談会又は学校について、何か、ご意見があれば、記入してください。

平成23年度学級懇談会アンケート（10月）集計結果

都城高専

保護者　各位

今後の検討の参考といたしますので、お手数ですが、ご回答ください。

学科の該当するものに○をしてください。

学科（M,　E,　C,　A ）	クラス	1M	1E	1C	1A	合計
A 担任との学級懇談会について						
1 学級懇談会に出席されましたか。該当するものに○をしてください。	A-1					
1　出席した	1	16	13	14	10	**53**
2　欠席した	2	2	1	0	0	**3**
以下、2、3、4は、学級懇談会に出席された方にお尋ねします						
2 学級担任の指導方針、学級状況等の説明は十分でしたか。該当するものに○をしてください。	A-2					
1　十分だった	1	16	8	8	8	**40**
2　普通と思った	2	1	5	6	2	**14**
3　不十分だった	3	0	0	0	0	**0**
3 担任は、保護者の質問に対して、十分答えましたか。該当するものに○をしてください。	A-3					
1　十分答えられた	1	12	8	10	6	**36**
2　まあまあ答えられた	2	1	2	2	3	**8**
3　不十分だった	3	0	0	0	0	**0**
4 学級懇談会は有意義でしたか。該当するものに○をしてください。	A-4					
1　大変有意義だった	1	11	4	6	4	**25**
2　有意義だった	2	7	9	8	6	**30**
3　意義がなかった	3	0	0	0	0	**0**
B 担任との個別面談について						
1 あなたの知りたいことが分かりましたか。該当するものに○をしてください。	B-1					
1　十分分かった	1	13	12	7	3	**35**
2　だいたい分かった	2	5	2	7	7	**21**
3　不十分だった	3	0	0	0	0	**0**
2 担任の意見は十分参考になりましたか。該当するものに○をしてください。	B-2					
1　参考になった	1	17	14	12	7	**50**
2　まあまあ参考になった	2	1	0	2	3	**6**
3　参考にならなかった	3	0	0	0	0	**0**
3 担任との個別面談は有意義でしたか。該当するものに○をしてください。	B-3					
1　大変有意義だった	1	14	10	5	5	**34**
2　有意義だった	2	4	4	9	5	**22**
3　意義がなかった	3	0	0	0	0	**0**
C 学級懇談会を、今回は、個人面談の偏りを解消するため、クラスを出席番号で単純に2分しました。このことについて、該当するものに○をしてください。	C					
1　これでよい	1	15	12	11	6	**44**
2　原則、通学生と寮生に分ける方がよい	2	2	1	1	2	**6**
3　その他	3	1	1	1	1	**4**

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－６

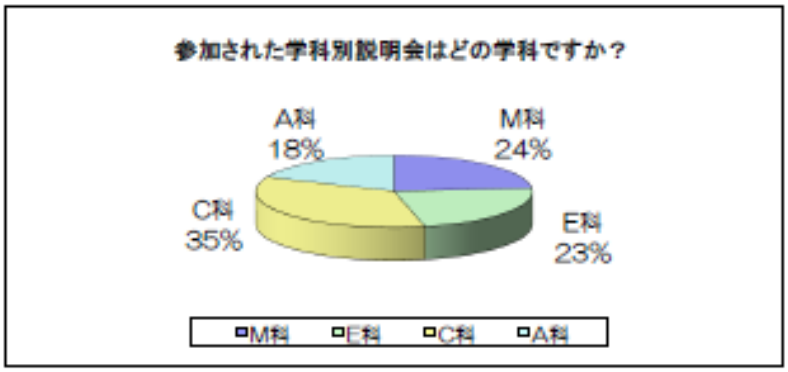
学科別説明会のアンケート内容及び結果一覧表

平成23年度 学科別説明会 アンケート 集計結果

●開催日　　平成23年8月6日(土) 11:00～
●出席者数　215名
●回答者数　 97名

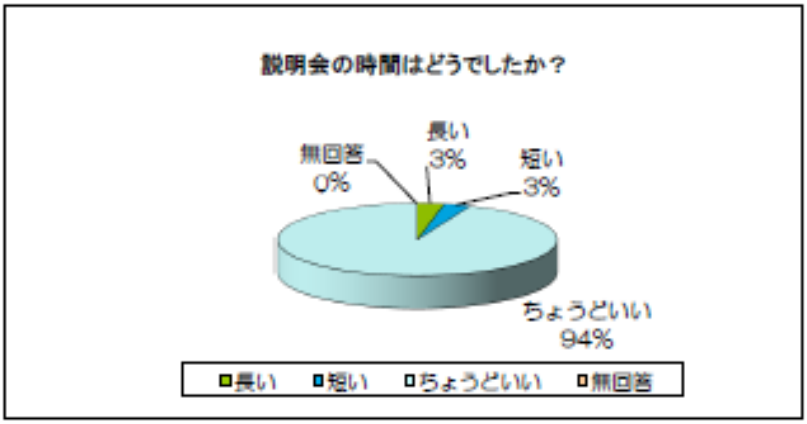
【1】参加された学科別説明会はどの学科ですか。

	M科	E科	C科	A科	無回答	計
11月20日	23名	22名	34名	18名	0名	97名



【2】説明会の時間はどうでしたか。

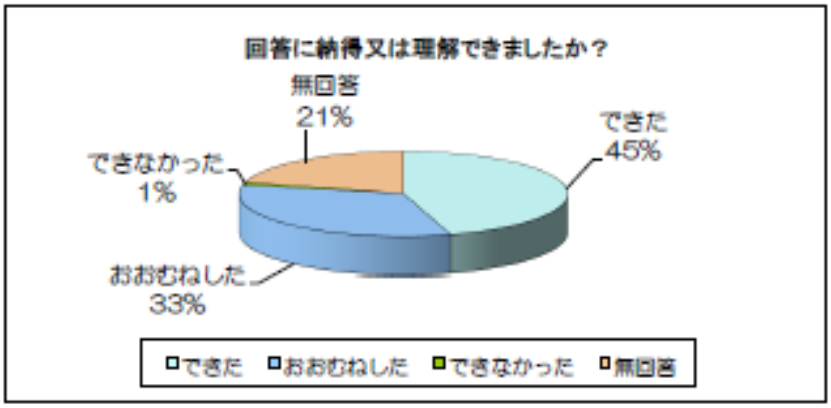
	長い	短い	ちょうどいい	無回答	計
8月6日	3名	3名	91名	0名	97名



平成23年度 学科別説明会　アンケート　集計結果

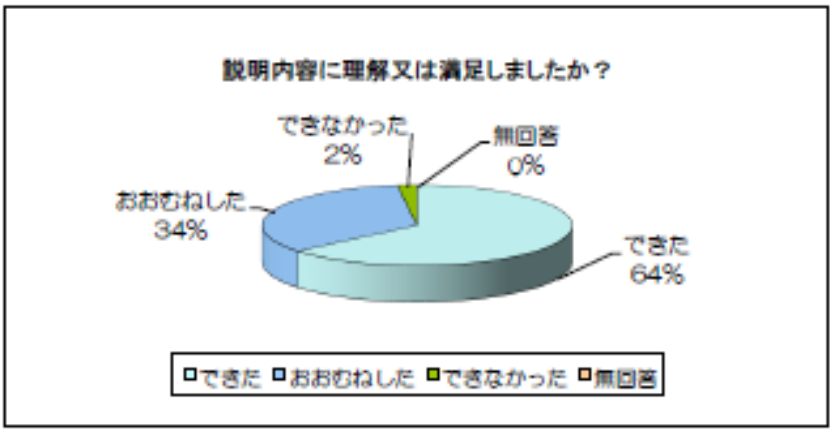
【3】質疑に対する学校の回答には納得又は理解できましたか。

	できた	おおむねした	できなかった	無回答	計
8月6日	44名	32名	1名	20名	97名



【4】説明内容について理解又は満足できましたか。

	できた	おおむねした	できなかった	無回答	計
8月6日	62名	33名	2名	0名	97名



〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－７

卒業生、就職先企業、編入学先大学へのアンケート内容

平成２２年７月

卒業生　各位

都城工業高等専門学校長　三村洋史

卒業生による教育・学校評価アンケートについて（お願い）

都城高専卒業生の皆様、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
本校では、教育内容の点検と改善のため、定期的な自己点検評価の実施、認証評価の受審、学生による授業評価アンケート（毎年）等を行い、改善を行ってまいりましたが、教育内容の有効な点検には、社会に出た卒業生の皆様による教育・学校評価を欠かすことはできません。
つきましては、このアンケートに是非ご回答いただき、点検と改善にご協力いただきますようお願い申し上げます。
なお、選択肢の＜その他（具体的に　　）＞や、＜具体的に指摘してください（記入：　）＞は重要ですので、該当する場合は必ず記入してください。また、意見を求める問いには、是非、率直なご意見をお願いいたします。
ご回答後は、お手数ですが、同封の封筒で郵送してください。
できましたら、１０月末頃までに郵送してください。

問合先：都城高専教務主事　樋口栄作　　（直通）

以下、A1～L3に、ご回答下さい。

（回答者事項）

A1　卒業後の経過年数で、該当するものに○印をしてください。

(1) 0～5年　2. 6～10年　3. 11～15年　4. 16～20年　5. 21～30年
6. 31年以上

A2　卒業学科について、該当するものに○印をしてください。

1. 機械工学科　(2) 電気工学科　3. 工業化学科（現：物質工学科）　4. 建築学科

A3　卒業後最も長く所属した勤務先（自営を含む）の業種について、該当するものに○印をしてください。

1. 機械・輸送機器　2. 電気機器　(3) 電力・ガス・水道　4. コンピュータ・情報通信
5. 輸送　6. 化学工業　7. 繊維・材料　8. 医薬・化粧品　9. 食品
10. 石油・石炭　11. 建設　12. 官公庁　13. 学校・教育　14. 学校在学中
15. その他

A4　卒業後最も長く在職した職種について、該当するものに○印をしてください。

1. 企画・経営　2. 研究開発　3. 設計　(4) 生産製造　5. 販売
6. サービス　7. 行政　8. ITエンジニア　9. 教育　10. その他

A5　現在の職種について、該当するものに○印をしてください。

1. 企画・経営　2. 研究開発　3. 設計　(4) 生産製造　5. 販売
6. サービス　7. 行政　8. ITエンジニア　9. 教育　10. その他

（教育内容）

B1　数学、物理、化学，生物，情報技術等の一般理科教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1．十分だった　(2) やや不十分だった　3．不十分だった　4．分からない

B2　当時、不十分だった、又は、欠けていたと思う一般理科科目は、次のいずれですか。
該当するものに、○印をしてください。（複数回答可）

1．基礎数学　2．応用数学　3．統計解析　4．数値解析　(5) 一般物理
(6) 応用物理　(7) 一般化学　8．一般生物　9．環境科学　(10) 情報理論
11．コンピュータ種用技術　12．その他（具体的に　　）

C1　一般文科のうち国語及び社会系の教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

(1) 十分だった　2．やや不十分だった　3．不十分だった　4．分からない

C2　当時、不十分だった、又は、欠けていたと思う一般文科の国語及び社会系の科目は、次のいずれですか。
該当するものに、○印をしてください。（複数回答可）

1．現代文　2．古文　3．漢文　4．文章表現法
5．日本史　6．世界史　7．現代史　8．現代日本社会　9．現代国際社会
10．経済学　11．哲学　12．社会学　13．倫理学　14．法学
15．産業財産権法　16．その他（具体的に　　）

D1　一般文科のうち英語教育は、職業に就く基礎として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1．十分だった　(2) やや不十分だった　3．不十分だった　4．分からない

D2　当時、不十分だった、又は、欠けていたと思う英語の分野（科目）は、次のいずれですか。
該当するものに、○印をしてください。（複数回答可）

1．英語読解　(2) 英会話　3．英作文　4．リスニング
5．口頭発表プレゼンテーション

E1　専門教育は、職業に就く基礎知識の学習として十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1．十分だった　(2) やや不十分だった　3．不十分だった　4．分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（記入：全体的に　　）

E2　専門教育の実験・実習（設計演習）は、職業に就くための基礎として十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

(1) 十分だった　2．やや不十分だった　3．不十分だった　4．分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（記入：　　）

F1　卒業研究の経験は、職業に就く上で役に立ちましたか。該当するものに、○印をしてください。

1．大変役に立った　2．ある程度役に立った　(3) どちらとも言えない　4．余り役に立たなかった
5．役に立たなかった

（学生支援）

G　会社紹介、職種紹介、就職受験指導、進学受験指導等の進路支援は、十分でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　(3) 不十分だった　4. 分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（ 記入：いろいろな会社説明 ）

H　在学中の悩み等についての相談支援は、十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　(4) 分からない

不十分だった場合，何が不十分でしたか、具体的に指摘してください。
（ 記入： ）

I　教科学習への支援は、十分でしたか。該当するものに、○印をしてください。

(1) 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

J　高専在学中に取得しておくべき資格がありましたら、記入してください。
（ 記入：就職分野の資格 ）

（学習環境）

K1　図書館は、自学自習を進める上で十分な施設・蔵書内容でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

(1) 十分だった　2. やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

K2　電子計算機センターは、自学自習を進める上で十分な環境でしたか。
該当するものに、○印をしてください。

1. 十分だった　(2) やや不十分だった　3. 不十分だった　4. 分からない

（総合的視点）

L1　あなたが、本校を高く評価する点があれば、記入してください。
（ 記入：就職率が高い ）

L2　あなたが、本校を低く評価する点があれば、記入してください。
（ 記入： ）

L3　本校に関し、ご意見があれば、遠慮なく記入してください。

送　付　先：都城高専学生課教務係
ファックス：０９８６－４７－１１４３
※送付状は不要です。このまま送付してください。
問い合わせ：０９８６－４７－１１３４

【企業アンケート】

御　社　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご回答者様　（所属）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（氏名）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（連絡先・電話）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ－０１　御社に勤務する本校卒業生が、現在従事している職種についてお教えください。（複数回答可）

１．研究・開発　２．生産・製造　３．生産技術・製造技術　４．販売・営業
５．保守・点検・サービスエンジニア　６．プログラマ・システムエンジニア
７．その他（　　）

Ｑ－０２　本校卒業生は、御社の期待に応えているでしょうか。

１．期待以上　２．概ね期待どおり　３．普通　４．やや期待はずれ　５．期待はずれ

Ｑ－０３　上記について、具体的な内容について差し支えない範囲でお教えください。

Ｑ－０４　本校卒業生は、以下のどのような点が優れているとお感じですか。（複数回答可）

１．身だしなみ　２．挨拶　３．言葉遣い　４．チャレンジ精神　５．主体性
６．協調性　７．誠実性　８．責任感　９．創造性　10．コミュニケーション能力
11．プレゼン能力　12．専門知識　13．専門基礎知識（数学、物理学等）14．一般教養
15．語学力　16．一般常識　17．保有資格　18．情報処理能力（PC 操作）
19．その他（　　）

Q－０５　本校卒業生は、以下のどのような点が劣っているとお感じですか。（複数回答可）

１．身だしなみ　２．挨拶　３．言葉遣い　４．チャレンジ精神　５．主体性
６．協調性　７．誠実性　８．責任感　９．創造性　10．コミュニケーション能力
11．プレゼン能力　12．専門知識　13．専門基礎知識（数学、物理学等）14．一般教養
15. 語学力　16. 一般常識　17. 保有資格　18. 情報処理能力（PC 操作）
19. その他（　　）

Q－０６　本校が、力を入れるべきとお感じの教育内容を３つ以内でお教えください。

１．身だしなみ　２．挨拶　３．言葉遣い　４．チャレンジ精神　５．主体性
６．協調性　７．誠実性　８．責任感　９．創造性　10．コミュニケーション能力
11．プレゼン能力　12．専門知識　13．専門基礎知識（数学、物理学等）14．一般教養
15. 語学力　16. 一般常識　17. 保有資格　18. 情報処理能力（PC 操作）
19. その他（　　）

Q－０７　御社が、本校に期待されることは何でしょうか。（複数回答可）

１．専門知識を持った人材の育成　２．幅広い知識を持った人材育成　３．地域に貢献できる人材育成　４．共同研究　５．社会人を対象とした教育　６．技術指導　７．本校卒業生との連携　８．その他（　　）

Q－０８　本校に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

送　付　先：都城高専学生課教務係
ファックス：０９８６－４７－１１４３
※送付状は不要です。このまま送付してください。
問い合わせ：０９８６－４７－１１３４

【教育機関向けアンケート】

貴大学名・部局名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご回答者様　（所属） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（氏名） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（連絡先・電話） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ－０１　本校卒業生の専門分野に関する学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。
１．優秀　２．概ね優れている　３．普通　４．やや劣っている　５．劣っている

Ｑ－０２　本校卒業生の専門基礎分野（数学、物理学、化学等）に関する学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。
１．優秀　２．概ね優れている　３．普通　４．やや劣っている　５．劣っている

Ｑ－０３　本校卒業生の一般科目分野（国語、社会等）に関する学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。
１．優秀　２．概ね優れている　３．普通　４．やや劣っている　５．劣っている

Ｑ－０４　本校卒業生の語学（英語）の学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。
１．優秀　２．概ね優れている　３．普通　４．やや劣っている　５．劣っている

Ｑ－０５　本校卒業生の研究遂行能力の学力レベルについて、どのような印象をお持ちかお教えください。
１．優秀　２．概ね優れている　３．普通　４．やや劣っている　５．劣っている

Ｑ－０６　本校卒業生の自学自習の態度について、どのような印象をお持ちかお教えください。
１．優秀　２．概ね優れている　３．普通　４．やや劣っている　５．劣っている

Q－０７　本校卒業生が優れていると感じる点についてお教えください。（複数回答可）
1．協調性　2．勤勉性　3．責任感　4．創造性　5．柔軟性　6．保有資格
7．情報処理能力（PC 操作）　8．その他（　　）

Q－０８　本校卒業生が劣っていると感じる点についてお教えください。（複数回答可）
1．協調性　2．勤勉性　3．責任感　4．創造性　5．柔軟性　6．保有資格
7．情報処理能力（PC 操作）　8．その他（　　）

Q－０９　本校が、強化すべきと感じる教育内容についてお教えください。（複数回答可）
1．専門科目　2．専門基礎科目　3．一般科目　4．語学　5．研究遂行力
6．その他（　　）

Q－１０　本校に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

〔出典：学生課資料〕

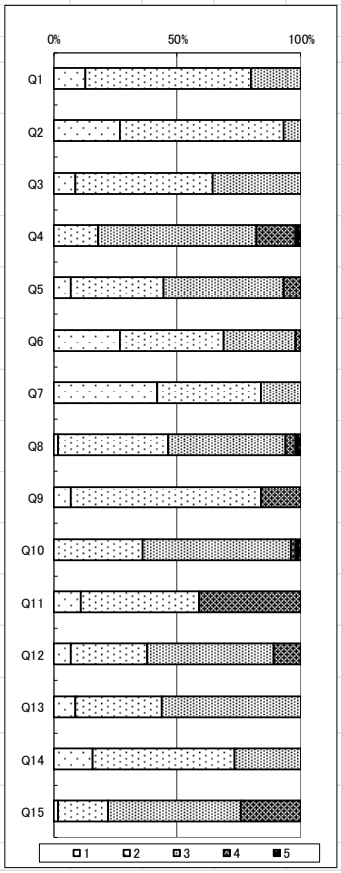
資料９－１－②－８

授業評価アンケート内容及び結果一覧表

学科	学年	科目名	必・選	単位数
機械工学科	2	物理	必	2

【集計結果】

	質問項目	平均値	回答者数						割合(%)				
			1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5
Q1	黒板の字は読みやすいですか	2.1	6	30	9	0	0	45	13	67	20	0	0
Q2	教員の話は聞き取りやすいですか	1.8	12	30	3	0	0	45	27	67	7	0	0
Q3	この授業の説明は分かりやすいですか	2.3	4	25	16	0	0	45	9	56	36	0	0
Q4	この授業中、質問はしやすいですか	3.0	0	8	29	7	1	45	0	18	64	16	2
Q5	授業中、学生の理解及び状況を確認しながら授業が進められていますか	2.6	3	17	22	3	0	45	7	38	49	7	0
Q6	この授業は、準備や授業方法の工夫が、よくなされていますか	2.1	12	19	13	1	0	45	27	42	29	2	0
Q7	この授業に対する教員の意欲を感じますか	1.7	19	19	7	0	0	45	42	42	16	0	0
Q8	この授業に興味がもてますか	2.6	1	20	21	2	1	45	2	44	47	4	2
Q9	この授業の進度はどうですか	2.1	3	35	0	7		45	7	78	0	16	
Q10	この科目の授業の内容を、よく理解できていますか	2.7	0	16	27	1	1	45	0	36	60	2	2
Q11	この授業の定期試験の難易度はどうですか	2.3	5	21	0	18		44	11	48	0	41	
Q12	演習、宿題またはレポートは、この授業の理解を深めるために効果的でしたか	2.7	3	14	23	5	0	45	7	31	51	11	0
Q13	定期試験（中間期末）以外の小テストは、この授業の理解を深めるために効果的でしたか	2.5	4	15	24	0	0	43	9	35	56	0	0
Q14	以上の質問を考慮に入れ、この授業を総合評価するとどうなりますか	2.1	7	26	12	0	0	45	16	58	27	0	0
Q15	この科目についての、あなたの自学自習（授業時間外の予習復習等）の状況はどうですか	3.0	1	9	24	11	0	45	2	20	53	24	0



（注１）Q9およびQ11の評価4は、値を3として平均値を評価する。

（注２）回答番号と評価の関係例　１：大変分かりやすい　２：分かりやすい　３：大体わかる　４：分かりにくい　５：ほとんど分からない
１：高く評価する　２：評価する　３：まあまあである　４：あまり評価しない　５：全く評価しない

担当教員による分析課題

【分析結果】

1)質問がしやすくするために双方向型の授業を取り入れる工夫をする。
2)理解力を深めるために１０分程度の小テストの回数を増やす。

【今後の課題】

1)授業内容を精選し理解を深めるためにより研鑽する。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－９

学生課に設置された意見箱についての説明文書

平成２２年８月２５日

学　生　各　位

都城工業高等専門学校長
三　村　洋　史

「高専意見箱」の設置について

平成22年8月1日から、本校では学生諸君の意見等を受け付ける「高専意見箱」の運用を開始しました。
本校の学校運営の課題、問題点に関することであればどのようなことでもかまいません。

１．受付方法
(1)「高専意見箱」への直接投函
学生課横コミュニティースペース内に設置している「高専意見箱」に直接投函してください。
(2) メールによる「意見」
下記メールアドレスに、タイトルを「高専意見箱」として送ってください。
ikenbako@jim.miyakonojo-nct.ac.jp

２．「意見」を寄せる際のお願い
(1) 匿名でも受け付けますが、事実関係が具体的に確認できない場合、十分な対応ができない可能性があります。可能な限り、名前、学年、学科、連絡先（電話、メール等）を明記してください。
(2) どのようなことに対する「意見」なのか、具体的にわかるようにお願いします。
(3) 単に、特定の個人を攻撃したり、中傷するようなものは受け付けません。

３．「意見」の公表について
「意見」への対応について公表する場合、「意見」をいただいた方に関する情報は一切公表しません。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－10

学生総会等で聴取した意見等に対する改善文書

平成２３年１１月１７日

学生　各位

学生会からの教務関係に関する質問や要望についての回答

教務指導部

１.授業について（特に問題となっていることに関して）

１）授業時間を守らない先生がいる。（５分の休憩がない場合は５分前に終わってほしい。

２）テスト開始のチャイムが鳴る前に問題用紙と解答用紙を配布してほしい。

３）授業アンケートの結果が反映されていない。

４）プロジェクターを使った授業だと説明が不十分。

５）レポートの採点基準をしっかりと明示してほしい。

６）選択授業の平均点が同じくらいになるようにしてほしい。

７）授業中自由にトイレに行けるようにしてほしい。

８）清掃が徹底されていない。

【回答】

上記の意見や要望については、教育会議で先生方に報告し、改善できることから迅速に対応致します。

２.設備、施設の改善について

１）３Ｃのブラインドとスクリーンを修理してほしい。→ブラインドは修理致します

２）プロジェクターの画質が悪い。

３）選択棟の放送の改善について

４）図書館の８時開館について

【回答】

３Ｃについては、現状を確認し修理が必要な場合は対応致します。

プロジェクターについては、故障のため今年度２クラス（１Ｅ、４Ｍ）は交換済み。

ただ予算の関係で全クラスのプロジェクターを交換することは難しい状況です。

選択棟の放送状況を確認し、改善が可能ならば対応致します。

図書館は、事務職員の方々の勤務時間が制限されておりますので現状通りです。

３.その他

１）ＪＡＢＥＥの廃止　２）赤点が高い

【回答】

ＪＡＢＥＥは、高専機構の中期計画、目標に記載されていますので現状で廃止は困難です。高専は大学と同じ高等教育機関ですので合格点６０点の変更はできません。

平成２４年５月９日

学生　各位

学生総会アンケートの教務関係に関する回答

教務指導部

１.授業について（特に問題となっていることに関して）

１）２時間連続授業の場合、５分休憩または５分前に終わってほしい。
２）テスト１週間前までにはテスト範囲を終わらせてほしい、試験範囲を教えてほしい。
３）授業評価アンケートの結果を各教室に掲示するなどの工夫がほしい。
また、多くの先生が結果を受け止めず改善が見られない。
４）文系の授業であまりプロジェクターを使わないでほしい。書き写すことで手一杯になってしまうから。
５）補講するくらいならしかりと授業してほしい。
６）学生のことをもっと考えて授業してほしい。
７）テストの配点を書いてほしい。テストが始まる前に問題用紙を配布してほしい。

【回答】

上記の意見や要望については、教育会議で先生方に報告し、改善できることから迅速に対応致します。また、個別の教員への要望は、先生方へ伝達し改善を依頼します。

２.設備、施設の改善について

１）破損ブラインドを取り替えてほしい。
２）教室の場所がわからないので標識みたいなものがほしい。
３）図書館情報化対応室のパソコンを新しくしてほしい。

【回答】

１）ブラインドの破損については、現状を確認し修理が必要な場合は対応致します。
２）教室の場所は明示されてはいますが、より分かりやすくする方法について良い考えがあれば教務指導部に提案してください。
３）図書館情報化対応室のパソコンは、平成２２年３月１９日に新しいパソコンに更新しています。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－11

授業改善実績調査（平成19～20・21～22年度）

平成１９～２０年度授業改善実績調査　　2009.5　都城工業高等専門学校

（記入要領）
平成１９年度から平成２０年度の間、なんらかの授業改善をされましたら、科目名と改善内容を記入してください。特になければ、授業改善なしの□にチェックを入れて提出してください。
なお、授業改善が、学生による授業評価アンケートの結果を受けての場合は、学生による授業評価アンケートの結果によるの□にチエックを入れてください。アンケートの結果とは関係ない場合は、アンケートの結果と関係なくの□にチェックを入れてください。内容が両方を含む場合は、両方にチェックしてください。
（注意）
・授業科目は、専攻科の科目も含みます。
・記入欄が不足の場合は、２ページ以上になっても構いません。
・印字（プリンター出力）したものを提出してください。手書きでも結構です。
（提出先）学生課／教務主事／未決済箱　　（提出期限）平成２１年５月３１日

教員氏名	松崎　賜	所属学科等	一般科目	☑常勤 □非常勤
□　授業改善なし コメント：				
科目名（　国語　）学科（　全　）学年（　３年　）				改善の契機
（改善内容） （１）漢字テストの予習がしやすいように出題数を考慮するなどした。 （２）文章の解読だけでなく、授業内容に関する説明事項を増やした。				☑学生による授業評価アンケートの結果による □アンケートの結果とは関係なく
（改善理由） （１）テストする実質的な効果があるようにするため。 （２）授業内容に興味を持たせるため。ただし、かえって説明が難しくなった面もある。				
科目名（　国語　）学科（　全　）学年（　１年　）				改善の契機
（改善内容） 文章の解読だけでなく、授業内容に関する説明事項を増やした。				☑学生による授業評価アンケートの結果による □アンケートの結果とは関係なく
（改善理由） 授業内容に興味を持たせるため。その効果はなかったわけではないが、試験のポイントが何かつかみにくくなったなどの印象を持たれた面もある。				
科目名（　文章表現法　）学科（　専攻科　）学年（　１年　）				改善の契機
（改善内容） 授業内容に特に変更はないが、各項目に配分する時間数を調整した。				☑学生による授業評価アンケートの結果による ☑アンケートの結果とは関係なく
（改善理由） 講義と実技トレーニングとの間にうまくバランスをとるため。学生の要望をふまえるなどして、継続的に時間数調整をすることにしている。				

平成２１～２２年度授業改善実績調査　　2011.12　都城工業高等専門学校

（提出先）学生課教務係（ＦＣ提出可）
（提出期限）平成２３年１２月２２日(木)

教員氏名	森茂　龍一	所属学科等	一般科目	■常勤 □非常勤
□ 授業改善なし コメント：				
科目名（　物理　）学科（　全　）学年（　2　）			改善の契機	
（改善内容） 平成２２年度より２年生後期の授業内容に電磁気を新たに開講した。			□ 学生による授業評価アンケートの結果による ■アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由） 全国高専到達度試験において、電磁気の項目を受験するために電磁気の授業を低学年で開講する必要があった。				
科目名（　物理　）学科（　全　）学年（　2　）			改善の契機	
（改善内容） 実験時間を３時間から２時間に変更し、実験テーマと内容を精選し新しい実験書を作成した。			□ 学生による授業評価アンケートの結果による ■アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由） 平成２１年度までは、後期は実験を３時間実施していたが、座学の電磁気を１時間開講する必要があったため授業時間と実験内容を変更した。				
科目名（　物理　）学科（　全　）学年（　2　）			改善の契機	
（改善内容） 授業の最後に小テスト（約１０分程度）を実施するようにした。小テストの回答を翌週の授業で行い、継続した授業となるように工夫した。			■学生による授業評価アンケートの結果による □ アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由） アンケート結果から復習の時間が少ないことわかったので授業の理解力を深めることと授業内容の継続性を高めるために改善をした。				
科目名（　　）学科（　　）学年（　　）			改善の契機	
（改善内容）			□ 学生による授業評価アンケートの結果による □ アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由）				
科目名（　　）学科（　　）学年（　　）			改善の契機	
（改善内容）			アンケートの結果による □ アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由）			学生による授業評価	

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－②－12

本科５年生の５年間の準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度
自己評価点検一覧表

平成２３年度　準学士課程の学習・教育目標とサブ目標の達成度自己点検評価　　平成24年2月実施

	評価／学科	5	%	4	%	3	%	2	%	1	%	計	平 均
1－1	M	6	17%	12	34%	17	49%	0	0%	0	0%	35	3.69
	E	12	30%	17	43%	11	28%	0	0%	0	0%	40	4.03
	C	10	24%	20	49%	9	22%	2	5%	0	0%	41	3.93
	A	16	43%	13	35%	8	22%	0	0%	0	0%	37	4.22
	計	44	29%	62	41%	45	29%	2	1%	0	0%	153	3.97
1－2	M	6	17%	15	43%	13	37%	1	3%	0	0%	35	3.74
	E	9	23%	18	45%	11	28%	2	5%	0	0%	40	3.85
	C	9	21%	19	45%	13	31%	0	0%	1	2%	42	3.86
	A	17	46%	12	32%	8	22%	0	0%	0	0%	37	4.24
	計	41	27%	64	42%	45	29%	3	2%	1	1%	154	3.92
1－3	M	8	23%	17	49%	9	26%	1	3%	0	0%	35	3.91
	E	10	25%	16	40%	13	33%	1	3%	0	0%	40	3.88
	C	11	26%	16	38%	13	31%	1	2%	1	2%	42	3.86
	A	16	43%	13	35%	8	22%	0	0%	0	0%	37	4.22
	計	45	29%	62	40%	43	28%	3	2%	1	1%	154	3.96
2－1	M	6	17%	8	23%	16	46%	4	11%	1	3%	35	3.43
	E	13	33%	15	38%	10	26%	1	3%	0	0%	39	4.03
	C	8	19%	18	43%	15	36%	1	2%	0	0%	42	3.79
	A	15	41%	13	35%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.16
	計	42	27%	54	35%	50	33%	6	4%	1	1%	153	3.86
2－2	M	3	9%	15	43%	17	49%	0	0%	0	0%	35	3.60
	E	10	25%	14	35%	15	38%	1	3%	0	0%	40	3.83
	C	4	10%	18	43%	18	43%	1	2%	1	2%	42	3.57
	A	12	32%	16	43%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.08
	計	29	19%	63	41%	59	38%	2	1%	1	1%	154	3.77
2－3	M	5	14%	21	60%	6	17%	3	9%	0	0%	35	3.80
	E	12	30%	17	43%	11	28%	0	0%	0	0%	40	4.03
	C	10	24%	18	43%	12	29%	2	5%	0	0%	42	3.86
	A	15	41%	9	24%	13	35%	0	0%	0	0%	37	4.05
	計	42	27%	65	42%	42	27%	5	3%	0	0%	154	3.94
2－4	M	9	26%	15	43%	9	26%	2	6%	0	0%	35	3.89
	E	9	23%	17	44%	13	33%	0	0%	0	0%	39	3.90
	C	14	34%	18	44%	8	20%	0	0%	1	2%	41	4.10
	A	15	41%	12	32%	10	27%	0	0%	0	0%	37	4.14
	計	47	31%	62	41%	40	26%	2	1%	1	1%	152	4.01
3－1	M	5	15%	14	42%	11	33%	2	6%	1	3%	33	3.64
	E	12	30%	16	40%	11	28%	1	3%	0	0%	40	3.98
	C	15	37%	17	41%	8	20%	1	2%	0	0%	41	4.12
	A	16	44%	10	28%	9	25%	1	3%	0	0%	36	4.14
	計	48	32%	57	38%	39	26%	5	3%	1	1%	150	3.98
3－2	M	5	14%	18	51%	11	31%	1	3%	0	0%	35	3.77
	E	12	31%	15	38%	11	28%	1	3%	0	0%	39	3.97
	C	16	38%	19	45%	7	17%	0	0%	0	0%	42	4.21
	A	15	41%	13	35%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.16
	計	48	31%	65	42%	38	25%	2	1%	0	0%	153	4.04
3－3	M	8	23%	9	26%	14	40%	3	9%	1	3%	35	3.60
	E	11	28%	15	38%	13	33%	1	3%	0	0%	40	3.90
	C	13	31%	16	38%	10	24%	2	5%	1	2%	42	3.93
	A	16	44%	10	28%	9	25%	1	3%	0	0%	36	4.14
	計	48	31%	50	33%	46	30%	7	5%	2	1%	153	3.90
4－1	M	4	12%	15	45%	12	36%	2	6%	0	0%	33	3.64
	E	12	32%	16	43%	9	24%	0	0%	0	0%	37	4.08
	C	15	38%	13	33%	11	28%	0	0%	0	0%	39	4.10
	A	14	39%	11	31%	11	31%	0	0%	0	0%	36	4.08
	計	45	31%	55	38%	43	30%	2	1%	0	0%	145	3.99
4－2	M	10	29%	16	46%	8	23%	0	0%	1	3%	35	4.00
	E	13	33%	16	40%	11	28%	0	0%	0	0%	40	4.05
	C	15	37%	18	44%	7	17%	1	2%	0	0%	41	4.15
	A	15	42%	10	28%	11	31%	0	0%	0	0%	36	4.11
	計	53	35%	60	39%	37	24%	1	1%	1	1%	152	4.08
4－3	M	14	40%	15	43%	5	14%	1	3%	0	0%	35	4.20
	E	19	48%	14	35%	6	15%	1	3%	0	0%	40	4.28
	C	22	54%	13	32%	6	15%	0	0%	0	0%	41	4.39
	A	16	44%	13	36%	7	19%	0	0%	0	0%	36	4.25
	計	71	47%	55	36%	24	16%	2	1%	0	0%	152	4.28

目標達成度自己評価値　5　優れて達成している　4　達成している　3　概ね達成している　2　やや達成不足　1　達成不足である

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

授業評価アンケートや学生会総会及び意見箱による学生からの意見は広く聴取しており，教科担当者の自己点検及び教育状況への評価に役立っている。卒業生，就職先の企業，保護者，学外関係者等の意見や提言を聴取し，学校運営や教育に反映しており，自己点検・評価は機能している。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

平成５年に自己点検評価委員会を設置し，教育の計画，実践，評価，改善システム（PDCA サイクル）を整備し，各種委員会と連携しながら教育の点検・改善を継続的に行うシステムを構築している（資料９－１－③－１～３）。また，学習・教育目標及び教育内容の改善は，教務委員会，専攻科委員会，技術者教育プログラム委員会，学科教育点検班等で検討している。教育の評価は，進級判定会議，プログラム修了判定会議及び評議員会で行っている（資料９－１－③－４～６）。毎年，学級懇談会や学校説明会等を定期的に開催し，学生の学力向上等の要望に応えて改善を行っている（資料９－１－③－７）。保護者の評価は，授業参観直後に開催される学校説明会・学級担任との懇談会等で学校側に伝えられ，教務主事を中心に対応している。例えば，平成 22 年度からは編入学生の数学の基礎力向上のため，非常勤講師による入学前の数学の補講を実施している。平成 22 年度の JABEE 審査も大きな外部評価であり，カリキュラムや学内組織・教育体制を見直した。これらの教育改善状況は自己点検評価委員会が集約し，平成 23 年度に自己点検報告書を作成した（資料９－１－③－８）。卒業生や就職先からの意見聴取は，平成 22 年度に（前述資料９－１－②－７）約 2,000 名の卒業生を対象にアンケートを実施した。このアンケート結果から，離職者や転職者を減少させることや学生時代からの職業観・倫理観を涵養させるために，平成 23 年度にはキャリア支援室を設置し，本科１年生からのキャリア教育を特別活動において開始した（資料９－１－③－９～11）。

観点９－１－③　資料一覧

資料９－１－③－１　都城工業高等専門学校自己点検評価委員会規則
〔出典：規則集〕

資料９－１－③－２　都城工業高等専門学校自己点検評価等実施要項
〔出典：規則集〕

資料９－１－③－３　自己点検評価の大綱
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料９－１－③－４　進級判定会議資料
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－５　プログラム修了判定会議資料
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－６　評議員会の議事概要
〔出典：総務課資料〕

資料９－１－③－７　学級懇談会や学校説明会等の開催案内
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－８　自己点検評価報告書（表紙）
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料９－１－③－９　都城工業高等専門学校キャリア支援室規則
〔出典：規則集〕

資料９－１－③－10　キャリア支援室概要及び組織図
〔出典：学校要覧、学生課資料〕

資料９－１－③－11　キャリア教育の特別活動における実例集（特別活動計画表）
〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－１

都城工業高等専門学校自己点検評価委員会規則

［平成 4 年 7 月 10 日制定］

（目的）

第 1 条　都城工業高等専門学校における自己点検評価を通して教育研究水準の向上を図るため自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第 2 条　委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 自己点検評価の基本方針に関すること。

(2) 自己点検評価の実施体制並びに実施方法に関すること。

(3) 自己点検評価の総括及び公表に関すること。

(4) 改善事項の指摘に関すること。

(5) その他自己点検評価に関すること。

（組織）

第 3 条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 校長

(2) 教務主事、学生主事及び寮務主事

(3) 事務部長

(4) その他校長が必要と認めた者

（委員長）

第 4 条　委員会に委員長を置く。

2　委員長は、校長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する者が、その職務を代行する。

（定足数）

第 5 条　委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

（意見の聴取）

第 6 条　委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴取することができる。

（事務）

第 7 条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）

第 8 条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員会において定めるものとする。

附　則

１　この規則は、平成 20 年 10 月 6 日から施行する。

２　都城工業高等専門学校自己評価検討委員会設置要項（平成 4 年 7 月 10 日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料９－１－③－２

都城工業高等専門学校自己点検評価等実施要項

都城工業高等専門学校自己点検評価等実施要項

平成５年２月２５日制定

第１条　本校における自己点検及び評価（以下「自己評価等」という。）については、当分の間、本要項により行うものとする。

第２条　自己評価等は、次の各号に掲げる委員会等が、校長が別に定める点検・評価項目により行うものとする。

(1) 校長
(2) 教務主事
(3) 学生主事
(4) 寮務主事
(5) 学科長
(6) 図書館長
(7) 電子計算機センター長
(8) 地域連携センター長
(9) 技術支援センター長
(10) 自己点検評価委員会
(11) 運営企画委員会
(12) 教務委員会
(13) 入試実施委員会
(14) 厚生補導委員会
(15) 図書館運営委員会
(16) 電子計算機センター委員会
(17) 地域連携センター運営委員会
(18) 技術支援センター運営委員会
(19) 研究報告編集委員会

（20）国際交流委員会

（21）研究活動委員会

（22）事務部長

第３条　自己評価等は、前年度における目標の設定、教育研究活動の実施、目標達成のための取り組み及び点検・見直し状況並びに次年度の目標設定、改善措置を第２条に掲げる委員会等がまとめ、4月30日までに文書により校長に報告するものとする。

第４条　自己評価等の公表は、第3条により実施した文書を自己点検評価委員会において取りまとめ、原則として、年次報告書として作成するものとする。

第５条　自己点検評価委員会は、年次報告書に基づき、本校の教育水準の向上を図るため目標の設定、実施計画の策定を行うものとする。

第６条　自己点検評価委員会は、自己点検評価システムの開発に努めるものとする。

附　則

この要項は、平成5年3月1日から施行するものとし、自己評価等については平成５年度分から行うものとする。

附　則

この要項は、平成12年8月1日から施行する。

附　則

この要項は、平成20年5月19日から施行する。

附　則

この要項は、平成20年9月1日から施行する。

附　則

この要項は、平成20年10月6日から施行する。

附　則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

〔出典：規則集〕

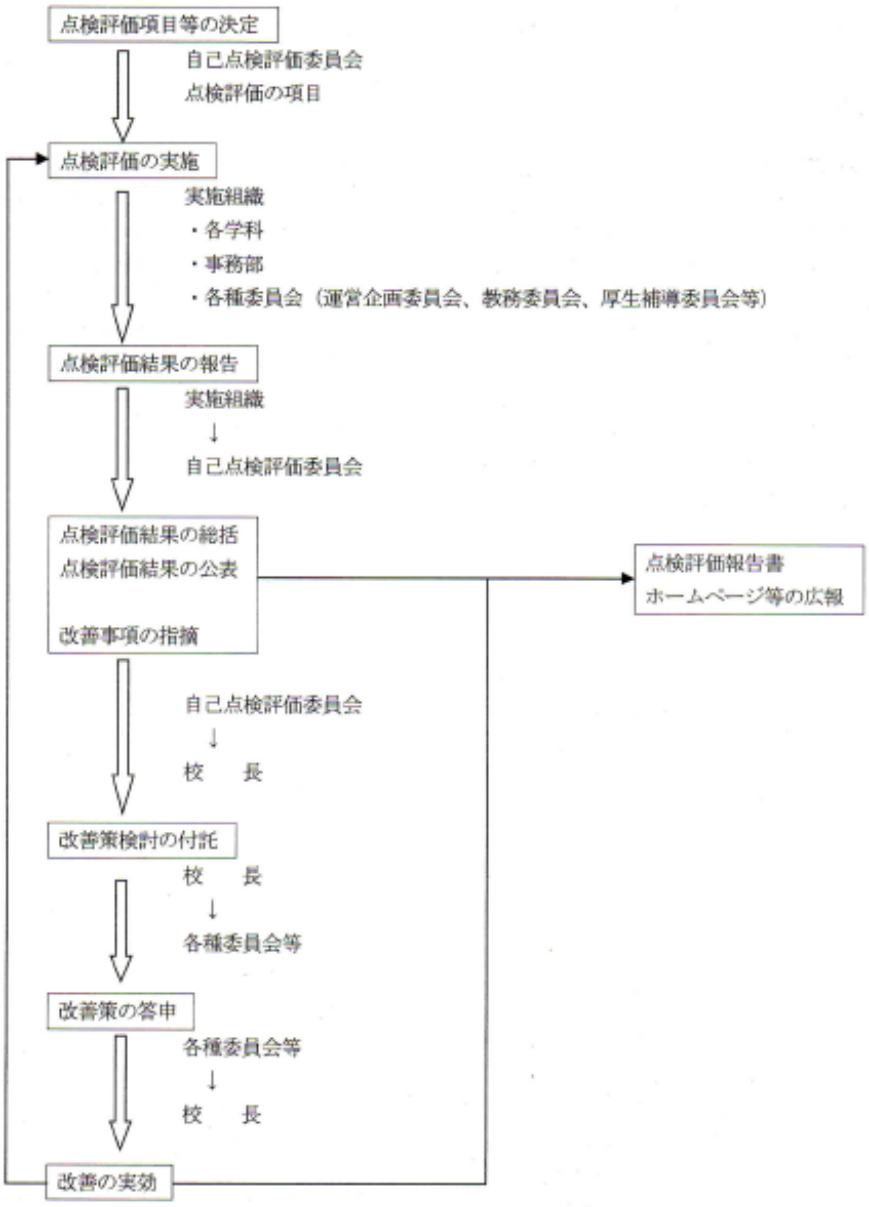
資料９－１－③－３

自己点検評価の大綱

３　評価をフィードバックするための仕組み

本校における評価をフィードバックするための仕組み（大綱）は、次のとおりである。

都城工業高等専門学校自己点検評価の大綱



〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料９－１－③－４

進級判定会議資料

進級判定会議資料 平成24年3月14日	1

取扱注意

平成２３年度

進級判定資料

（＊ページ）

進級判定一覧	1

	学科	判定資料	成績表	欠課表
1年	機械工学科	2	3	4
	電気情報工学科	5	6	7
	物質工学科	8	9	10
	建築学科	11	12	13

	学科	判定資料	成績表	欠課表
2年	機械工学科	14	15	16
	電気情報工学科	17	18	19
	物質工学科	20	21	22
	建築学科	23	24	25

	学科	判定資料	成績表	欠課表
3年	機械工学科	26	27	28
	電気情報工学科	29	30	31
	物質工学科	32	33	34
	建築学科	35	36	37

	学科	判定資料	成績表	欠課表
4年	機械工学科	38	39	40
	電気情報工学科	41	42	43
	物質工学科	44	45	46
	建築学科	47	48	49

	判定資料	成績表	欠課表
外国人留学生		50	51

平成２３年度　進級判定一覧

平成２４年３月１４日現在

学年	学科	在籍者数	休学者数	在学者数	判定		備考
					進級	原級	
第1学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
第2学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
第3学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
第4学年	機械工学科						
	電気情報工学科						
	物質工学科						
	建築学科						
	計						
合計							

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－５

プログラム修了判定会議資料

平成２３年度

「生産デザイン工学」プログラム修了判定会議資料

平成２４年３月５日

平成２３年度「生産デザイン工学」プログラム修了要件

「生産デザイン工学」プログラムを修了するには、以下の(1)～(6)の要件を全て満たしていなければならない。

(1) 学習・教育目標(A)～(D)を全て達成していること（サブ目標(A1)～(D3)を全て達成していることが必要)。

※ 各サブ目標に記載された必修科目および選択必修科目を修得すること。
※ 各サブ目標に記載された条件（アイデアに関する評価や TOEIC 試験 400 点相当等）を満たすこと。

(2) プログラム 1～4 年（本科 4 年～専攻科 2 年）で、本教育プログラムの対象となっている科目のうち受講科目の総授業時数が、1,600 時間以上であること。なお、この 1,600 時間の中に、以下のア）～ウ）を含んでいること。

ア）人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習時間：250 時間以上
イ）数学、自然科学、情報技術の学習時間：250 時間以上
ウ）専門分野の学習時間：900 時間以上

※ ここでの 1 時間とは 60 分である。

(3) 以下の基礎工学科目を修得していること。

a）数学に関する科目（微分方程式・応用数学・線形数学・解析学特論）を修得していること（○a 印で記載）。
b）科学に関する科目（応用物理・応用物理特論・一般化学〔物質工学専攻は専門科目で代用〕）・地球環境科学）を修得していること（○b 印で記載）。
c）次の各科目群から少なくとも1科目、合計最低６科目を修得していること（c-①、c-②、c-③、c-④、c-⑤ 印で記載）。

① 設計・システム系科目群　② 情報・論理系科目群　③ 材料・バイオ系科目群
④ 力学系科目群　⑤ 社会技術系科目群

(4) プログラム 1～4 年（本科 4 年～専攻科 2 年）で、124 単位を修得していること。

(5) 学士を取得していること。

(6) 各学協会等で発表を行なっていること。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－６

評議員会の議事概要

平成２３年度都城工業高等専門学校評議員会議事概要

日　　時　　平成２４年２月１日（水）１３：３０～１５：３０

場　　所　　都城工業高等専門学校校長室（管理棟２階）

出 席 者　　【評議員】
今井　富士夫、内　忠雄、下沖　晋、仙・　洋、山本　展也、
（長峯　誠都城市長代理）、
（渡辺　義人宮崎県教育委員会教育長代理）
【本　校】
三村校長、森茂副校長（教務主事）、河野副校長（学生主事）、
野町副校長（寮務主事）、濱田校長補佐（社会連携担当）、
林田専攻科長、邊見事務部長
【陪　席】
総務課長、学生課長、総務課課長補佐（総務担当）、
総務課課長補佐（財務担当）、学生課課長補佐、総務係長

配付資料　　資料１　平成２３年度都城工業高等専門学校評議員会評議員名簿
資料２　都城工業高等専門学校評議員会規則
資料３　都城工業高等専門学校の最近の動向
資料４　平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応
資料５　都城工業高等専門学校の現状と課題（自己点検評価報告書）［平成２３年１月刊行］における課題のフォローアップ
資料６　都城工業高等専門学校第２期中期計画
印刷物　「都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－」（平成２３年１月刊行）
印刷物　「２０１１　学校要覧」
印刷物　「入試広報用チラシ」
印刷物　「２０１２　入学案内」

議事に先立ち、出席者の紹介があった。

議　　題

１．都城工業高等専門学校の最近の動向について

三村校長から、都城工業高等専門学校の最近の動向について、配付資料３により説明があ

り、審議した結果、次のとおり質問及び意見があった。

〔質問〕

○キャリア支援室を具体的に詳しく教えてほしい。

○建築学科の改組、名称変更等への取組を教えてほしい。また、１月２６日開催の「建築学科にかかる懇談会」の状況も教えてほしい。

〔意見〕

○改組又は名称変更を行う場合は、既存の免許及び特典がなくなることがあるので注意してほしい。

２．平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応について

三村校長から、平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応について、配付資料４により説明があり、審議した結果、次のとおり意見があった。

〔意見〕

○学校は、コミュニケーション能力、生き方等を培うところであり、そのことを全教員が意識して取り組むことが肝要である。

○小中学校と連携して、キャリア教育を推進する必要がある。

○宮崎県内企業へ就職することにより、宮崎県産業界の活性化に寄与してほしい。

○少子化時代にあって、新しいビジョンによる学生募集の在り方が求められている。

３．都城工業高等専門学校の現状と課題（自己点検評価報告書）〔平成２３年１月刊行〕における課題のフォローアップについて

森茂副校長（教務主事）から、都城工業高等専門学校の現状と課題（自己点検評価報告書）〔平成２３年１月刊行〕における課題のフォローアップについて、配付資料５により説明があり、審議した結果、次のとおり質問及び意見があった。

〔質問〕

○モデルコアカリキュラムとは、どのようなものですか。

○建築学科の目的と教育概要（１頁）で「地域及び社会から今後求められるであろうニーズを鑑み」と記述されているが、そのニーズはどのようにして抽出されたのか。また、ニーズとカリキュラム改訂は関係ないのではないか。

○寮生活の現状と課題を教えてほしい。

○アルバイトとインターンシップの関係を教えてほしい。

○科研費の実績、状況等を教えてほしい。

○公開講座で延期となっているものがあるが、その後どうなりましたか。

○宮崎県内への就職が少ないのはなぜですか。

○工業高校からの編入学試験において、一般入試なのに入学辞退した者の学校長から辞退届を提出させることができるのか。

〔意見〕

○学力選抜における第４志望までの拡大に当たっては、現行の第２志望で入学した学

生の退学状況を調査の上、慎重に検討してほしい。

○アドミッションポリシーとして「心身ともに健全な人」を求める必要はないのではないか。（違和感を感じる。）

○学園祭の利用の一つとして、模擬授業等を実施して地域連携を図ってはどうか。

○教員個々が高専なりのＦＤの必要性を認識することが大事であり、そのシステムを構築してほしい。

４．その他

次のとおり意見があった。

〔意見〕

○平成２５年度から防衛大学校が高専からの編入学を受け入れる予定なので、そのことをアピールしてほしい。

○宮崎県産業界との連携を強化の上、相互理解を深め、求人を早めにしていただくよう依頼できないか。

○地元に優秀な人材を確保するため、Ｕターンを希望している卒業生名簿を作成してほしい。

以　上

平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応

【提言】
１．学生へのキャリア教育を充実させてほしい。

【対応】
本校では、低学年時からのキャリア教育充実を図る目的で、平成２３年４月１日にキャリア支援室を設立した。現在、本校ＯＢ・ＯＧを講師として招聘し、様々な講演会を開催しており、さらに今後、系統的なキャリア教育が可能となるような制度設計を進めていく予定である。

【提言】
２．高専と工業高校との連携をお願いしたい。

【対応】
平成２４年２月２７日に、宮崎県立都城工業高等学校の各学科主任等が来校し、種々意見交換を行うこととしている。

【提言】
３．日本の建築歴史や建築様式を知らない学生が増えている。時間をいただければ学生に話をさせてほしい。

【対応】
１２月２１日（水）７限目３年建築特別活動の時間に、宮崎高砂工業株式会社取締役社長の仙臺氏を講師として招へいし、〔「もし・ドラ」と覚文化＆社会人への心構え〕と題して講演を実施した。

【提言】
４．中学校の教員は、高専のことをあまり理解していないので、宮崎県内７地区で開催されている中学校進学主任又は進路指導主事の会で高専の紹介をしてほしい。

【対応】
今年度は、日程調整がつかず宮崎県の進学主任、進路指導主事会議には参加できなかった。
しかし、都城圏域、宮崎・児湯地区校長等への進学説明会は、本年度も継続して実施した。
本年度は、学校紹介用ＤＶＤやチラシを作成し県内全中学校へ送付した。また、１１月には宮崎市内のケーブルＴＶを利用し高専のピーアル番組（約１５分程度）を放送した。

【提言】
５．学生が就職先を決定する際、日本の大企業にだけ目を向けるのではなく、日本への需要が高い中国等海外企業へも目を向けてほしい。（学生に大きな夢を持ってほしい。）

【対応】
キャリア支援室では、現在、ＯＢ・ＯＧ以外にも講師を招聘し、講演会を実施しているが、今後、海外で活躍している講師を招聘するなど、海外へ視野を広げるきっかけとなるような講演会や取組を実施していきたいと考えている。また、最近では、専攻科生が海外留学をする機会も増えていることから、留学経験者が実体験を通して感じた他国学生の考え方や様子などを話してもらうことで、さらに海外への興味や活動の場を海外に目を向ける端緒となればと考えている。

【提言】
６．高専は、今日のグローバル社会に対応して、もっと英語教育を充実・強化させてほしい。

【対応】
英語科では、ヒヤリングや会話力の向上に力点をおいた授業を展開している。３年生は、４年前から全員１０月にＴＯＥＩＣ　ＢＲＩＧＤＥ試験を受験している。本校の今年度の４学科の成績の平均点は１２４点で全国高専の平均点を約５点上回っている。また、４年生も１１月にＴＯＥＩＣ　ＩＰ試験を毎年実施し、英語教育をより一層、充実・強化している。さらに、専攻科生や本科の５年生は最近、国際学会等で発表する機会が多くなっている。

〔出典：総務課資料〕

資料９－１－③－７

学級懇談会や学校説明会等の開催案内

都高専教第　５１６　号
平成２３年５月２５日

１～４学年保護者　　各　位

都城工業高等専門学校長
三　村　洋　史
【公印省略】

平成２３年度学級懇談会の開催について（案内）

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
かねてから、本校の教育及び学生の指導方針にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、標記のことについて下記のとおり開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。
ついては、出欠を同封のはがきで６月１６日（木）までにお知らせ願います。

記

１．目　　的
１）学級担任が学級運営方針を説明し、保護者に理解と協力を依頼する。
２）学級担任が保護者との情報交換により相互理解を深め、学生の指導に役立てる。

２．期　　日
平成２３年６月２５日（土）
主に出席番号１～２０番（２年建築・３年物質・４年機械は１～２５番）の学生の保護者
平成２３年７月　２日（土）
主に出席番号２１番（２年建築・３年物質・４年機械は２６番）以降の学生の保護者
＊　個人面談の時間設定にアンバランスが生じないようにするため、出席番号で分けましたので、なるべく決められた日に出席してください。ただし、どうしても都合が悪い場合は、都合の良い日に出席していただいても構いません。

３．日　　程　　９：３０～１０：００　受　　付（専攻科研究棟１Ｆピロティ）
１０：００～１０：１０　学校側の諸連絡（教務主事）
１０：１０～１０：２０　学校側の諸連絡（学生主事）
１０：２０～１０：３０　学校側の諸連絡（寮務主事）
１０：３５～１２：００　学級懇談会、個人面談
１２：００～１３：００　昼食
１３：００～　　個人面談
＊　個人面談の順番によっては、午後になりますので予めご承知おきください。

４．場　　所　　学校側の諸連絡　：　専攻科研究棟２階多目的ホール
学級懇談会　：　各教室
個人面談　　：　学級担任の研究室等

５．そ の 他
１）昼食について
・寮生の保護者
希望者には、寮食堂で日頃寮生が食べている昼食を準備します。（代金不要）
・通学生の保護者
弁当を持参していただく等、各自で準備してください。
昼食持参の方は、専攻科研究棟２階多目的ホールが利用できます。
２）寮生保護者の寮見学について
見学は、１２時００分から１３時００分の間に各自でお願いします。
３）連絡先について
当懇談会に関する問合せ等は、学生課教務係（℡0986-47-1134）へご連絡ください。

都高専教第５６７号
平成２４年３月２２日

新２学年生～新４学年生の保護者　各位

都城工業高等専門学校長
三　村　洋　史
（公印省略）

平成２４年度学校説明会及び授業参観の開催について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
かねてから、本校の教育及び学校行事等にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、本校では、本校の教育方針等について理解していただくため保護者の皆様を対象に学校説明会及び授業参観を実施しており、平成２４年度は裏面の実施要項のとおり計画しましたので、是非ご出席くださるようお願いします。
ついては、出欠確認のため返信用のはがきを４月１８日(水)までにご返送くださるようお願いします。
なお、ご欠席の保護者の皆様には、当日配付する資料を郵送いたします。

敬具

平成２４年度学校説明会及び授業参観実施要項

１．目　　的　　本年度の教育方針等を説明し、保護者の理解を得ることを目的とする。

２．開催期日　　平成２４年４月２７日(金)

３．会　　場　　専攻科研究棟２階多目的ホール

４．日　　程

１２：３０～１４：００	受　付
１３：００～１３：４５	５限目の授業参観
１４：００～	学校説明会
１４：００～１４：１０	校長挨拶・全体説明
１４：１０～１４：２０	２～４年学級担任紹介（教務主事紹介）
１４：２０～１４：３５	教務主事説明(教務関係)
１４：３５～１４：５０	学生主事説明(学生関係)
１４：５０～１５：０５	寮務主事説明(寮関係)
１５：０５～１５：２０	学生相談支援室長説明（学生相談関係）
１５：２０～１５：３０	専攻科長説明(専攻科関係)
１５：３０～１５：５０	質疑応答
１５：５０～	アンケート記入

５．対　　象　　第２学年～第４学年の学生の保護者

★今後の予定（参考）

◎学級懇談会及び個別面談

６月３０日(土)：主に出席番号２０番以下の学生（１～４年生）の保護者

７月　７日(土)：主に出席番号２１番以降の学生（１～４年生）の保護者

◎１・２年生保護者個別面談

１１月１０日（土）：成績不振者及び生活面等で特に指導が必要な学生の保護者

平成２３年6月１０日

保 護 者 各 位

都城工業高等専門学校後援会
会 長

平成２３年度 学科別説明会開催のご案内

拝啓　初夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、都城高専後援会活動へのご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。
さて、下記のとおり後援会主催により**「学科別説明会」**を開催する運びとなりました。
支部によっては当日下記の日程で**支部総会**を実施しますので、該当支部からの連絡をご確認ください。　皆様のご参加をお待ちしております。

記

開 催 日　　**平成23年8月6日（土）**
場　　所　　都城高専 多目的ホール・図書館２階第１会議室
図書館１階ＡＶＲ室・教室他
日　　程

※学科別説明会は本科保護者を中心とした内容となっております。

時　間		内　容
1	9:30~10:00	受　付
2	10:00~10:50	支 部 総 会
3	11:00~12:00	学 科 別 説 明 会

※当日支部総会を高専内で開催しない支部の受付は、10：30~11：00になります。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－③－８

自己点検評価報告書（表紙）

都城工業高等専門学校の

現状と課題

―自己点検評価報告書―

平成２３年１月

都城工業高等専門学校

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料９－１－③－９

都城工業高等専門学校キャリア支援室規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、低学年からのキャリア教育の推進を図り、学生に職業観・倫理観を育成するための支援を行うとともに、就職・進学活動、インターンシップ等に関する支援を行うことを目的として、都城工業高等専門学校キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（業務）

第２条　支援室においては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) キャリア教育の企画及び実施に関すること。

(2) 就職、進学ガイダンス等の企画及び実施に関すること。

(3) 就職及び進学に関する情報等の収集、管理及び提供に関すること。

(4) インターンシップに関すること。

(5) 進路相談に関すること。

(6) その他学生の進路支援に関すること。

（組織）

第３条　支援室に次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 室長

(2) 副室長

(3) キャリア専門員

(4) 地域産業コーディネーター

(5) その他校長が必要と認めた者

２　室長、副室長及びキャリア専門員は、本校の教員の中から校長が任命する。

３　地域産業コーディネーターは、キャリアに関する専門的知識及び経験を有する者に校長が委嘱する。

（任期）

第４条　室長、副室長及びキャリア専門員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

２　室長、副室長及びキャリア専門員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（任務）

第５条　室長は、支援室の業務を総括する。

２　副室長は、室長を補佐し、室長不在のときは、その職務を代理する。

３　キャリア専門員及び地域産業コーディネーターは、支援室の業務を処理する。

（支援室運営委員会）

第６条　支援室の円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校キャリア支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。

（事務）

第７条　支援室に関する事務は、学生課において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、支援室に関する必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料９－１－③－10

キャリア支援室概要及び組織図

キャリア支援室 Career Support Office

1.　設立目的

キャリア支援室は、一貫したキャリア教育の推進を図ることを目的に平成 23 年 4 月に設置されました。本支援室では、学生の職業観・倫理観育成のための支援や、就職・進学活動、インターンシップ等に関する支援を行っています。

2.　構成メンバー

支援室は、以下のメンバーで構成されています。

（1）室長
（2）副室長
（3）キャリア専門員
（4）地域産業コーディネーター

3.　業務内容

支援室では、次のような業務を行っています。

（1）キャリア教育の企画及び実施
（2）就職、進学ガイダンス等の企画及び実施
（3）就職・進学に関する情報等の収集、管理及び提供
（4）インターンシップに関すること
（5）進路相談及び進路支援に関すること

1. The Purpose of This Office

This Office was established in April 2011 in order to promote a consistent education in various professional careers. We teach students about job conscientiousness and professional ethics. We also help students find internships.

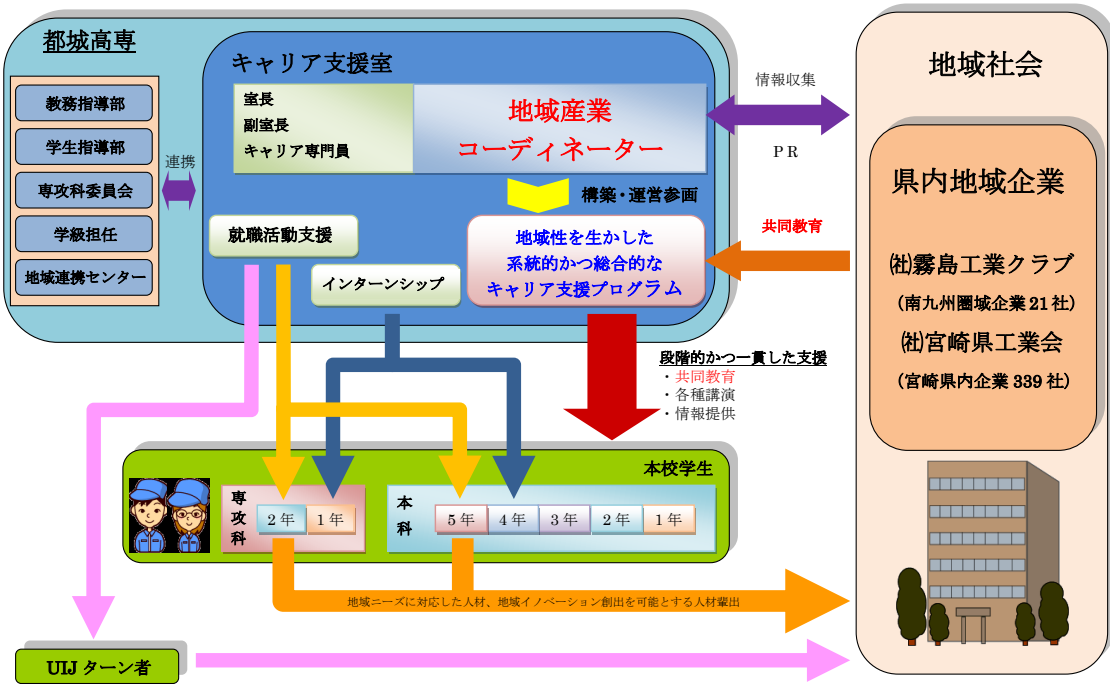
2. Constituent Members

1) Director of the Career Support Office
2) Vice-Director of the Career Support Office
3) Careet Advisors
4) Coordinators of Local Industries

3. Duties of Career Advisors

1) Planning and carrying out career education
2)Planning and carrying out guidance on job hunting and applying for entrance into universities
3) Collecting, managing, and offering information on employment and universities
4) Helping students with internships
5) Advising and supporting a student's future educational and professional course

「キャリア支援室」組織図



〔出典：学校要覧、学生課資料〕

資料９－１－③－11

キャリア教育の特別活動における実例集（特別活動計画表）

平成２３年度前期特別活動実施計画書

月	日	学科	第１学年	学科	第２学年	学科	第３学年	AVR室	多目的ホール	図書館	体育施設	実施回数
4	6	M	特活計画立案	M	特活計画立案	M	特活計画立案／実習安全教育					
		E	合宿研修説明会	E		E	特活計画立案					
		C	合宿研修説明会	C		C	特活計画立案					
		A	特活計画立案	A		A	特活計画立案・自己紹介					
	13	M	体育館１	M	図書館利用	M	ＡＶＲ利用	3M		2M	1M（1）1E（2）	
		E	体育館２	E	クラス目標の検討など	E	担任講話					
		C	担任指示	C	1）将来について（企業の紹介） 2）私の将来（長期目標設定） 3）企業研究及び大学研究（趣旨説明・　パートナー選択）	C	クラスマッチの準備と工場見学について					
		A	グラウンド使用	A	自己紹介、クラスマッチ計画	A	小作文（この地点に立って）					
	20	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ	M	クラスマッチ					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	27	M	AVR利用	M	2分間スピーチ1	M	キャリア学生	1M	3全	2E	1C（1）1A（2）	
		E	担任指示	E	図書館利用	E						
		C	第一体育館	C	1)ポートフォリオ記入(1年の成績) 2)実際のエントリーシートの紹介 3)目標設定(1年間の短期目標、進路決定までの中期目標)	C						
		A	体育館使用2	A	個人の年間目標、計画	A						
5	11	M	キャリア教務	M	体育館１	M	学科開放の取組みについて	3E	1全	2C	2M（1）2E（2）	
		E		E	体育館利用	E	AVR					
		C		C	図書館	C	高専生の就職活動･進学状況について					
		A		A	担任指示	A	担任の話					
	18	M	５M学生の話	M	2分間スピーチ2	M	図書館利用	3C		3M	2C（1）2A（2）	
		E	担任指示	E	担任指示	E	担任指示					
		C	担任指示	C	担任指示	C	担任指示					
		A	担任指示	A	体育館利用	A	超ニーチェ入門					
	25	M	キャリア学生	M	2分間スピーチ3	M	第一体育館利用	3A	1全	2A	3M（1）3E（2）	
		E		E	前期中間試験に向けて	E	体育館					
		C		C	企業および大学の紹介（前半）	C	担任指示					
		A		A	図書館利用	A	ＡＶＲ利用					
6	1	M	担任指示	M	キャリア教務	M	前期中間試験準備	1E	2全	3E	3C（1）3A（2）	
		E	ＡＶＲ利用	E		E	図書館					
		C	担任指示	C		C	体育館利用					
		A	中間試験対策指導	A		A	体育館利用					
	8	M	前期中間試験	M	前期中間試験	M	前期中間試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
	15	M	高専祭の計画	M	キャリア学生	M	学科開放話し合い（1）	1C	2全	3C		
		E	担任指示	E		E	担任指示					
		C	ＡＶＲ	C		C	図書館利用					
		A	中間試験の反省	A		A	建築学科教員の講演					
	22	M	図書館	M	前期中間試験の反省	M	キャリア教務	1A	3全	1M		
		E	担任指示	E	前期中間試験の反省	E						
		C	担任指示	C	1）ポートフォリオ記入（試験の反省・計画） 2）グループワーク（ＧＷ）の趣旨説明	C						
		A	ＡＶＲ利用	A	中間試験の反省	A						
	29	M	高専祭の計画	M	ＡＶＲ利用	M	キャリア教務	2M	3全	1E		
		E	図書館	E	担任指示	E						
		C	担任指示	C	企業および大学研究(後半)	C						
		A	ビデオ鑑賞	A	担任指示	A						

7	6	M	キャリア地域	M	担任指示	M	前期中間試験の反省と前期末試験に向けて	２Ｅ	１全	３Ａ		
		E		E	ＡＶＲ利用	E	担任指示					
		C		C	グループワーク（ＧＷ１）	C	担任指示					
		A		A	担任指示	A	図書館利用					
	13	M	高専祭の準備	M	夏休みに向けて	M	キャリア地域	2C	3全	1C		
		E	担任指示	E	夏季休業に向けて	E						
		C	図書館	C	AVR	C						
		A	プール使用	A	夏休みの計画	A						
9	7	M	夏休みを終えて	M	夏休みの反省	M	学科開放話し合い（２）	２Ａ		１Ａ		
		E	担任指示	E	1分間スピーチ	E	担任指示					
		C	担任指示	C	グループワーク（ＧＷ2）	C	高専祭(学科開放)の計画					
		A	図書館使用	A	AVR利用	A	夏休の体験(全員スピーチ)					
	14	M	高専祭の準備	M	キャリア地域	M	前期末試験準備		２全			
		E	担任指示	E		E	担任指示					
		C	担任指示	C		C	期末試験対策					
		A	前期末試験対策指導	A		A	担任の話					
	２１	M	前期末試験	M	前期末試験	M	前期末試験					
		E		E		E						
		C		C		C						
		A		A		A						
１０	5	M	キャリア学生	M	前期の反省	M	前期の反省、後期へ向けて		1全			
		E		E	前期を振り返って(学校生活全般)	E	担任指示					
		C		C	ポートフォリオ記入及び試験の反省・計画	C	高専祭の計画・準備					
		A		A	前期の反省	A	担任の話					

平成２３年７月２０日

教員　各位

平成２３年度教員研修　『特別活動の在り方について』

教務指導部

１．ＬＨＲの在り方についての提言（担任、指導部、キャリア・学生相談支援室の連携）

本校のＬＨＲの形態は、ほとんどが教員（担任）の裁量に委ねられおり、担任は、個人の経験にもとづいて年間のスケジュール計画を立て授業を展開しているのが実状である。ほとんどの教員は、特別活動の目的や意義について深く考慮することなく運用しているのが現状ではないかと考える。高専５ヶ年の一貫教育の中で、低学年においては倫理観、社会性などの多くの人間育成に関する時間が確保されているのは、週１回のＬＨＲである。このＬＨＲを学校として より一層活用することは高専教育（技術者育成）においては重要である。以上の観点から、今後の都城高専におけるＬＨＲの在り方について議論し、本校の教育目標を達成するために、ＬＨＲの新しい指針を示すことは有益であると考える。

【具体的方策】

１）低学年における進路指導対策（職業観、技術者養成）の教務指導部による導入。

高専において進路を決定するのは４年時からだと推察される。最近は自分の将来像を描けぬまま入学し、勉学意欲もない学生が低学年生に見られるようになってきた。

このような状況下でＬＨＲを活用して低学年における進学方法や進学先、また就職先の企業や職種、卒業生の意見等の情報の提供する場を学校として設ける。具体的には学年ごとに職業観や技術者の育成のための本校独自のキャリアプログラムを作成し、低学年から指導を行う。例えば都城市内や近郊在住のＯＢやＯＧの講演会の開催やエントリーシート（履歴書等）の書き方などが考えられる。

２）学年の横の連携ばかりでなく、学科合同（１−３年）の縦の関係を考えた専門学科との連携を強化する。

学科主任を中心として各専門学科として低学年教育へ取り組みを強化する。例えば年１回程度、１−３年生と専門学科教員とのＱ＆Ａ方式での全体会を実施する。更に専門学科ごとの最近の専門分野でのトッピクスや資格取得などを紹介し、専門意識の向上を図る。

３）ＬＨＲについての教員研修の場を設定する。

ＬＨＲやＳＨＲの実践例等を数人の教員に紹介していただきディスカッション形式での研修の場を設定する。（教育懇話会）

２．本校の特別活動の目標（教員必携　ｐ２２－２３）

学校生活を、より効果的に送るために必要な生活態度を身につけるとともに、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、将来、技術者として活動するために必要な幅広い人間性、社会性を養う。

【参考】高校の特別活動の指導要領の目標

望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。

３．特別活動の時間とその実施内容　（４８時間）

１）ショートホームルーム（ＳＨＲ）（毎朝５分間実施）→年間１５時間
２）ロングホームルーム（ＬＨＲ）活動→1年生（１８時間）、２，３年生（２０時間）
３）学校行事等にかかる活動→1年生（１５時間）、２，３年生（１３時間）
４）ＬＨＲの活動内容として、特別講演（学生指導部）、学級討論、担任講話、学科講演
図書館活動、レクリエーション、ボランティア活動、工場見学等がある。

４．特別活動の意義と役割

１）特別活動の効果を他の授業へ波及させる。（たかが特活、されど特活）
２）時間厳守やルールを順守することによる学校生活の安定を図る。
３）教室や学校における環境づくり（黒板清掃、ごみの分別、机やロッカーの整理整頓）
４）人間関係の構築やコミニケーション能力の向上
５）共同作業やボランティア活動による人間性や社会性の涵養。
６）人材育成のための倫理観（道徳意識）の向上。

５．都城高専における特別活動（ＬＨＲ）の問題点について

１）特別活動に関するテキストや教材がない。
２）教員が特別活動の経験が乏しく難しさを感じている。
３）ＬＨＲやＳＨＲの実践例についての教員研鑽の場が少ない。

６．低学年生へのキャリアデザイン（進路設計）に関する特別活動の取り組みについて

（平成２２年７月の教務委員会にて決定）

１）キャリア支援室との連携　　２）ＬＨＲの内容の精選
３）工場見学、地元企業の紹介、ＯＢ・ＯＧの講演等
４）ＯＢ，ＯＧや産業コーディネーター等の講演会開催

【特別活動予定表の表示について】

キャリア教務（教務指導部）　キャリア学生（学生指導部）　キャリア地域（地域連携）

【キャリア教務の内容】（本年度より導入）

【１年生】　前期　学校の歴史　後期　地域の講話（神水地区）

【２年生】　前期　ＯＢ・ＯＧのＤＶＤ紹介　後期　ＴＯＩＥＣに関する卒業生の講演

【３年生】　前期　日経新聞社による新聞の読み方（２週間）

後期　エントリーシートの書き方（２週間）

【参考】高校指導要領について　『指導計画の作成と内容の取扱い』

1　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　学校の創意工夫を生かすとともに，学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し，教師の適切な指導の下に，生徒による自主的，実践的な活動が助長されるようにすること。その際，ボランティア活動や，就業体験など勤労にかかわる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れるとともに，家庭や地域の人々との連携，社会教育施設等の活用などを工夫すること。

(2)　生徒指導の機能を十分に生かすとともに，教育相談（進路相談を含む。）についても，生徒の家庭との連絡を密にし，適切に実施できるようにすること。

(3)　学校生活への適応や人間関係の形成，教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては，ガイダンスの機能を充実するようホームルーム活動等の指導を工夫すること。

(4)　人間としての在り方生き方の指導がホームルーム活動を中心として，特別活動の全体を通じて行われるようにすること。その際，他の教科，特に公民科との関連を図ること。

2　内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　ホームルーム活動については，学校や生徒の実態に応じて取り上げる指導内容の重点化を図るようにすること。また，個々の生徒についての理解を深め，信頼関係を基礎に指導を行うとともに，指導内容の特質に応じて，教師の適切な指導の下に，生徒の自発的，自治的な活動が助長されるようにすること。

(2)　生徒会活動については，教師の適切な指導の下に，生徒の自発的，自治的な活動が展開されるようにすること。

(3)　学校行事については，学校や地域及び生徒の実態に応じて，各種類ごとに，行事及びその内容を重点化するとともに，行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること。また，実施に当たっては，幼児，高齢者，障害のある人々などとの触れ合い，自然体験や社会体験などを充実するよう工夫すること。

(4)　特別活動の一環として学校給食を実施する場合には，適切な指導を行うこと。

3　　入学式や卒業式などにおいては，その意義を踏まえ，国旗を掲揚するとともに，国歌を斉唱するよう指導するものとする。

4　ホームルーム活動については，主としてホームルームごとにホームルーム担任の教師が指導することを原則とし，活動の内容によっては他の教師などの協力を得ることとする。

-3-

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

教育の教育点検システムは，外部評価，卒業生及び保護者の意見を聴取し，各種委員会と連携しながら，教育の点検や改善方策を継続的に行える体制（PDCA サイクル）を整備しており，機能している。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

教員（非常勤講師含む。）の教育改善は，授業評価アンケートの分析により毎年実施している。また，平成 23 年度から低学年生は定期試験終了ごとにシラバス到達度確認を行っている。個々の教員は，授業評価アンケート結果を自己分析し，教員コメントを校内 LAN によりアップしている。授業等の改善状況は，各教員が記載した文書を教務委員会で文書化し，教員にフィードバックしている（資料９－１－④－１～３）。

評価・改善を全学的に行う教育点検評価システムを整備している（前述資料９－１－③－１）。自己点検評価委員会は，校長，３主事等で構成され，学生，保護者，卒業生等からのアンケート結果を含む全学的な観点や各学科教育点検班及び各センターからの教育に関する問題点・改善案を提案している。改善案は，教務委員会，専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会を経て各学科教育点検班等で審議され，再び教務委員会，専攻科委員会及び技術者教育プログラム委員会で改善方策を決定している。非常に重要な教育的事項については，教育会議において報告及び意見聴取を行い，教員に周知徹底している。全学的な諸改善の実態は，自己点検評価委員会により組織的に把握し（前述資料９－１－③－１），教育理念及び学習・教育目標の認知度調査を行い，本校の教育の理想を見失わないよう教職員と学生に周知している（資料９－１－④－４）。

教育課程の改善等は，教務委員会，専攻科委員会，技術者教育プログラム委員会等で継続的に審議され，専門・一般科目の増設等を行っているほか，外部評価・学生の評価を踏まえた教育点検評価により，教育形態の改善を行っている（前述資料９－１－③－３）。

教員は，授業評価結果に基づき，専門・一般科目ともに授業内容の変更・精選，パワーポイントやビデオ教材の導入，プリント配付・補足，説明の仕方・話し方の工夫や板書の改善等の取組を行っている。こうした個々の教員の改善実態を把握するために，平成 17 年度から隔年ごとに教務委員会で教員全体の授業改善状況を調査している（前述資料９－１－②－11）。

観点９－１－④　資料一覧

資料９－１－④－１　教員（非常勤講師含む）の授業評価アンケート内容及び分析結果

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－④－２　平成23年度の低学年生シラバス到達度確認書

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－④－３　授業改善調査

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－④－４　平成23年度教育理念・学習教育目標の認知度アンケート内容及び結果一覧

〔出典：総務課資料〕

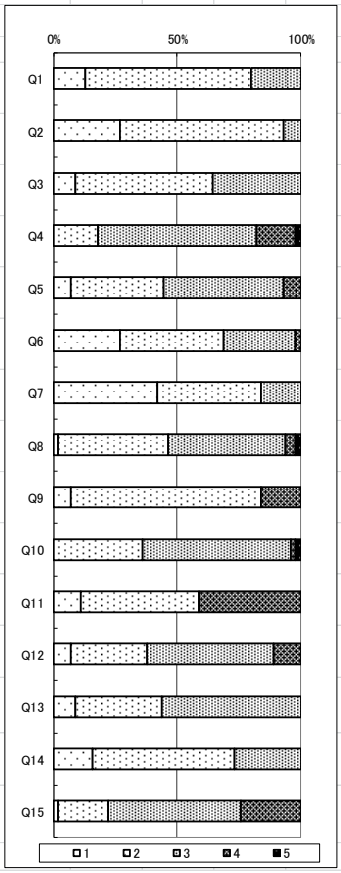
資料９－１－④－１

教員（非常勤講師含む）の授業評価アンケート内容及び分析結果

学科	学年	科目名	必・選	単位数
機械工学科	2	物理	必	2

【集計結果】

	質問項目	平均値	回答者数						割合(%)				
			1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5
Q1	黒板の字は読みやすいですか	2.1	6	30	9	0	0	45	13	67	20	0	0
Q2	教員の話は聞き取りやすいですか	1.8	12	30	3	0	0	45	27	67	7	0	0
Q3	この授業の説明は分かりやすいですか	2.3	4	25	16	0	0	45	9	56	36	0	0
Q4	この授業中、質問はしやすいですか	3.0	0	8	29	7	1	45	0	18	64	16	2
Q5	授業中、学生の理解及び状況を確認しながら授業が進められていますか	2.6	3	17	22	3	0	45	7	38	49	7	0
Q6	この授業は、準備や授業方法の工夫が、よくなされていますか	2.1	12	19	13	1	0	45	27	42	29	2	0
Q7	この授業に対する教員の意欲を感じますか	1.7	19	19	7	0	0	45	42	42	16	0	0
Q8	この授業に興味がもてますか	2.6	1	20	21	2	1	45	2	44	47	4	2
Q9	この授業の進度はどうですか	2.1	3	35	0	7		45	7	78	0	16	
Q10	この科目の授業の内容を、よく理解できていますか	2.7	0	16	27	1	1	45	0	36	60	2	2
Q11	この授業の定期試験の難易度はどうですか	2.3	5	21	0	18		44	11	48	0	41	
Q12	演習、宿題またはレポートは、この授業の理解を深めるために効果的でしたか	2.7	3	14	23	5	0	45	7	31	51	11	0
Q13	定期試験（中間期末）以外の小テストは、この授業の理解を深めるために効果的でしたか	2.5	4	15	24	0	0	43	9	35	56	0	0
Q14	以上の質問を考慮に入れ、この授業を総合評価するとどうなりますか	2.1	7	26	12	0	0	45	16	58	27	0	0
Q15	この科目についての、あなたの自学自習（授業時間外の予習復習等）の状況はどうですか	3.0	1	9	24	11	0	45	2	20	53	24	0



（注１）Q9およびQ11の評価4は、値を3として平均値を評価する。

（注２）回答番号と評価の関係例　１：大変分かりやすい　２：分かりやすい　３：大体わかる　４：分かりにくい　５：ほとんど分からない
１：高く評価する　２：評価する　３：まあまあである　４：あまり評価しない　５：全く評価しない

担当教員による分析課題

【分析結果】

1)質問がしやすくするために双方向型の授業を取り入れる工夫をする。
2)理解力を深めるために１０分程度の小テストの回数を増やす。

【今後の課題】

1)授業内容を精選し理解を深めるためにより研鑽する。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－④－２

平成23年度の低学年生シラバス到達度確認書

【平成２３年度】　　シラバスと試験範囲の確認調査

【本科】　　**教員名**

授業科目	学科	学年	前期中間	前期末	後期中間	学年末	備考欄	チェック欄
(例)　分析化学	C	2	○	△	△	○	前期末はシラバスよりも進度が遅れ、後期中間にさらに進度が遅くなった。学年末ではシラバス通り試験範囲で実施することが出来た。	

○・・・シラバス通り　　△・・・シラバスよりも範囲が遅かった、もしくは早かった　×・・・シラバス通りの範囲ではなかった。

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－④－３

授業改善調査

平成２１～２２年度授業改善実績調査　　2011.12　都城工業高等専門学校

（提出先）学生課教務係（ＦＣ提出可）

（提出期限）平成２３年１２月２２日(木)

教員氏名	森茂　龍一	所属学科等	一般科目	■常勤 □非常勤
□ 授業改善なし コメント：				
科目名（　物理　）学科（　全　）学年（　2　）			改善の契機	
（改善内容） 平成２２年度より２年生後期の授業内容に電磁気を新たに開講した。			□ 学生による授業評価アンケートの結果による ■アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由） 全国高専到達度試験において、電磁気の項目を受験するために電磁気の授業を低学年で開講する必要があった。				
科目名（　物理　）学科（　全　）学年（　2　）			改善の契機	
（改善内容） 実験時間を３時間から２時間に変更し、実験テーマと内容を精選し新しい実験書を作成した。			□ 学生による授業評価アンケートの結果による ■アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由） 平成２１年度までは、後期は実験を３時間実施していたが、座学の電磁気を１時間開講する必要があったため授業時間と実験内容を変更した。				
科目名（　物理　）学科（　全　）学年（　2　）			改善の契機	
（改善内容） 授業の最後に小テスト（約１０分程度）を実施するようにした。小テストの回答を翌週の授業で行い、継続した授業となるように工夫した。			■学生による授業評価アンケートの結果による □ アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由） アンケート結果から復習の時間が少ないことわかったので授業の理解力を深めることと授業内容の継続性を高めるために改善をした。				
科目名（　　）学科（　　）学年（　　）			改善の契機	
（改善内容）			□ 学生による授業評価アンケートの結果による □ アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由）				
科目名（　　）学科（　　）学年（　　）			改善の契機	
（改善内容）			アンケートの結果による □ アンケートの結果とは関係なく	
（改善理由）			学生による授業評価	

〔出典：学生課資料〕

資料９－１－④－４

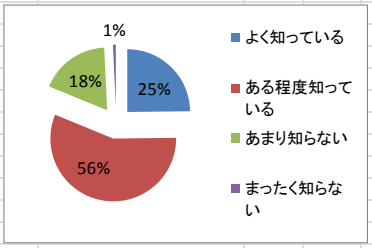
平成23年度教育理念・学習教育目標の認知度アンケート内容及び結果一覧

教職員（非常勤講師）に対するアンケートの結果

実施日：平成24年1月17日～平成24年1月20日
対　象：平成23年度教職員　155人
回答数（回答率）：133人（85．8%）

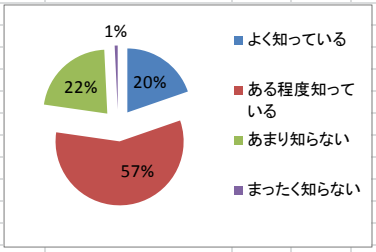
Q1　本校の教育理念を知っていますか。

1	よく知っている	33	25%
2	ある程度知っている	75	56%
3	あまり知らない	24	18%
4	まったく知らない	1	1%
		133	100%



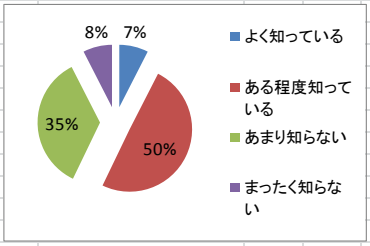
Q2　本校の学習・教育目標を知っていますか。

1	よく知っている	26	20%
2	ある程度知っている	76	57%
3	あまり知らない	29	22%
4	まったく知らない	1	1%
		132	100%



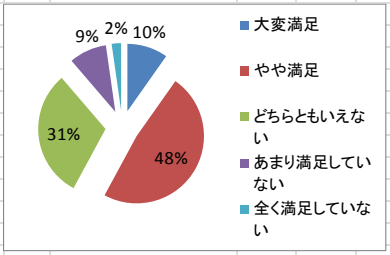
Q3　専攻科課程修了時に身につけるべき学力や資質、能力を知っていますか。（準学士課程および専攻科修了課程のサブ目標）

1	よく知っている	10	7%
2	ある程度知っている	66	50%
3	あまり知らない	47	35%
4	まったく知らない	10	8%
		133	100%



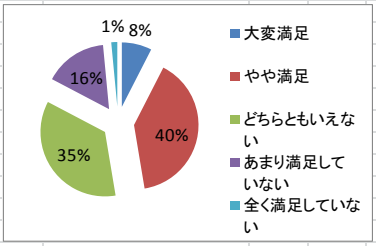
Q4　本校の教育研究施設、設備（教室、図書館等）に関しての満足度を1つ選んでください。

1	大変満足	13	10%
2	やや満足	64	48%
3	どちらともいえない	41	31%
4	あまり満足していない	12	9%
5	全く満足していない	3	2%
		133	100%



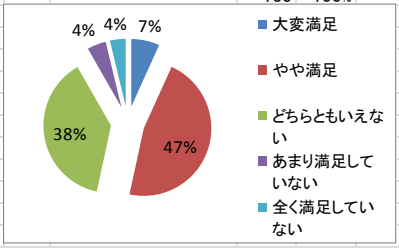
Q5　本校の福利厚生施設、設備（保健室、食堂等）に関しての満足度を1つ選んでください。

1	大変満足	10	8%
2	やや満足	53	40%
3	どちらともいえない	47	35%
4	あまり満足していない	21	16%
5	全く満足していない	2	1%
		133	100%



Q6　本校の教育研究体制の総合満足度を1つ選んでください。

1	大変満足	9	7%
2	やや満足	62	47%
3	どちらともいえない	51	38%
4	あまり満足していない	6	4%
5	全く満足していない	5	4%
		133	100%



〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

各種委員会及び学科教育点検班が有効に機能しており，授業改善調査で明らかなように教育改善を行っている。したがって，教育の質の向上・改善のためのシステムを整備しており，各評価結果を改善に結びつける対策をとっている。

また，教員個々に教育改善を継続的に行っており，その改善活動状況を学校として把握している。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

低学年の授業や実験から高学年の授業や卒業研究，専攻科特別研究等に至るまで，教員の研究活動を教育に活かしており，その例として，研究で得られた知見の授業への導入，自著・論文の授業への活用，自己の研究方法による実験・実習の実施，研究調査で得られた資料の学生への公開等がある。具体的には，一般科目の英語科では，英語教育法を教員研究テーマに掲げ，１年生から英語学習に対する抵抗を少なくするように，平成 20 年度から英語多読を授業に取り入れており，図書館の多読用英文図書は，この３年間で 3,000 冊になっている。その結果，３年生の TOEIC Bridge では，全国高専の平均点よりも高くなっている。専門学科では，例えば，卒業研究・専攻科特別研究の内容は，担当教員の研究テーマと関連しており，教員の研究活動が学生の専門性を育成し，高度化につながっている。その成果は，学生の学会発表として結実し，学会から高い評価を得ているものもある（資料９－１－⑤－１～２）。

観点９－１－⑤　資料一覧

資料９－１－⑤－１　学生の学会発表一覧表

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料９－１－⑤－２　学会表彰事例

〔出典：ホームページ〕

資料９－１－⑤－１

学生の学会発表一覧表

(8) 学協会等発表の実施状況

「生産デザイン工学」プログラムでは、研究の質の確保やプレゼンテーション能力を育むために、学協会等での発表を義務づけ、修了要件としている。平成19年度専攻科入学生より、専攻科の修了要件に「生産デザイン工学」プログラムの修了が義務づけられたことより、事実上、専攻科の修了要件となっている。したがって、平成20年度以降の修了生に、学協会等での未発表者は存在しない。また、専攻科では設置当初から、学協会等での論文の発表を推奨してきており、平成19年度以前の専攻科修了生にも、学協会等での未発表者は存在していない。

専攻科生が学協会等での発表を行うことに対し、1回分のみ、交通費・宿泊費を、後援会より補助していただいている。また、「学協会等での発表」とは、下記の条件を満たした場合のみ認めている。

（学協会等での発表）
1. 学協会等での発表は、本人が口頭（ポスターセッションも可）で行うこと。
2. 学協会等は都城高専以外の「学生」若しくは「一般の研究者」等が発表していること。
3. 発表会には、「一般の研究者」の参加があり、発表に対するコメントがなされていること。
注意：「一般の研究者」とは、研究機関（大学・高専、研究所等）の職員、大学院生以上の学生等のことである。

なお、下に過去2年間の発表学協会名を記す。

平成21年度修了生 発表学協会等名及び開催日

No.	専攻名	学生名	発表学協会等名	開催日
1	ME(M)		第2回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H20. 3. 21
			日本材料学会 第57期学術講演会	H20. 5. 24－25
			第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
2	ME(M)		日本機械学会九州学生会第39回卒業研究発表後援会	H20. 3. 18
			日本機械学会九州学生会第40回卒業研究発表後援会	H21. 3. 9
3	ME(M)		第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
4	ME(M)		第3回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H21. 3. 23
5	ME(M)		第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
6	ME(M)		第2回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H20. 3. 21
7	ME(M)		第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
8	ME(E)		第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
9	ME(E)		平成21年度電気関係学会九州支部連合大会	H21. 9. 28－29
10	ME(E)		第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
11	ME(E)		第56回応用物理学関係連合講演会	H21. 3. 31－4. 2
12	ME(M)		第3回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H21. 3. 23
13	C		第45回化学関連支部合同九州大会	H20. 7. 5
			第46回化学関連支部合同九州大会	H21. 7. 11

14	C	第50回真空に関する連合講演会	H21. 11. 4ー6
15	C	第19回九州沖縄地区高専フォーラム	H21. 12. 5
		第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
16	C	園芸学会 平成21年度秋季大会	H21. 9. 26ー27
17	C	第47回日本生物物理学会年会	H21. 10. 31ー11. 1
18	C	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
19	C	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
20	A	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
21	A	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23
22	A	第48回日本建築学会九州支部研究発表会	H21. 3. 8
23	A	第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
24	A	第15回高専シンポジウム in いわき	H22. 1. 23

平成20年度修了生 発表学協会等名及び開催日

No.	専攻名	学生名	発表学協会等名	開催日
1	MEM		日本機械学会九州学生会 第39回卒業研究発表講演会	H20. 3. 18
2	MEM		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
3	MEM		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
4	MEM		第2回日本機械学会九州支部宮崎地区学生研究発表会	H20. 3. 21
5	MEM		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
6	MEM		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
7	MEE		(進学)	
8	MEE		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
9	MEE		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
10	MEE		(未発表)	
11	C		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
12	C		第45回化学関連支部合同九州大会	H20. 7. 5
			化学工学会 第74年会	H21. 3. 18ー20
13	C		2007年応用物理学会九州支部学術講演会	H19. 12. 1ー2
			第49回真空に関する連合講演会	H20. 10. 28ー31
			2008年応用物理学会九州支部学術講演会	H20. 11. 29ー30
14	C		2007年応用物理学会九州支部学術講演会	H19. 12. 1ー2
			第49回真空に関する連合講演会	H20. 10. 28ー31
			2008年応用物理学会九州支部学術講演会	H20. 11. 29ー30
15	C		第45回化学関連支部合同九州大会	H20. 7. 5
16	C		第45回化学関連支部合同九州大会	H20. 7. 5
			化学工学会 第74年会	H21. 3. 18ー20
17	A		第13回高専シンポジウム in 久留米	H20. 1. 26ー27
18	A		第47回日本建築学会九州支部研究発表会	H20. 3. 2
19	A		第14回高専シンポジウム in 高知	H21. 1. 24
20	A		第13回高専シンポジウム in 久留米	H20. 1. 26ー27

注: MEM:機械電工工学専攻(機械系)、MEE:機械電工工学専攻(電気系)
C:物質工学専攻、A:建築学専攻

－78－

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料９－１－⑤－２

学会表彰事例

	平成23年10月7日　全校集会　表彰
番号	大会名等
1	○機械及び機械工学に関する日本・タイ・ラオスの共同国際学会2011
	・ベスト論文賞　　東　俊樹　　機械電気工学専攻2年
	・ベスト論文賞　　宇都　大輔　機械電気工学専攻2年

〔出典：ホームページ〕

（分析結果とその根拠理由）

教員が行う専門分野の研究に関し，専門学科では，卒業研究・専攻科特別研究において，教員の専門能力が学生の研究レベルを高め，その成果が学会賞等として評価されている。したがって，研究活動は教育の質の改善に寄与している。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

教務主事を中心とし，教務・学生・寮各指導部の主事補１名，各学科から選出された教員で構成される FD 委員会を設置している（資料９－２－①－１）。具体的な活動としては，教員研修会（資料９－２－①－２）の企画・運営，教員研修会や外部機関との合同 FD 活動等への参加要請がある。

教員研修会は，毎年夏季休業中又は９月の前期末試験中に実施している。学生及び教職員の抱える問題を議論し，外部から講師を招き活性化を図っており，５年間の平均では 80％の教員が参加している。平成 21 年度と平成 22 年度の２年間の教員研修会では，テーマに「キャリア教育の導入」を取り上げ検討した（資料９－２－①－３）。また，平成 23 年度は「科学研究費補助金の獲得」及び「性同一障害や発達障害」について，講演会を実施し討論した。これらの結果を受けて，平成 23 年度からキャリア支援室を設置し，本科の低学年生からのキャリア教育を導入し，特別活動の時間を用いて活発に展開している（前述資料９－１－③－11）。また，科学研究費補助金獲得のための講演会開催やワーキンググループを設置し，科学研究費補助金の申請件数を平成 22 年度より６件増やし，教員の意識を向上させた。この定例の教員研修会以外にも，FD 委員会の主催で，全教職員を対象とした研修会（教育懇話会）を行っている（資料９－２－①－４）。

外部での FD 活動として，例えば，鹿児島市で開催された全国高専教員研究集会（資料９－２－①－５），全国教員研修会，九州沖縄地区教育研究集会等への参加は，主に教育体制の改善に寄与している。ほかにも，高等教育コンソーシアム宮崎等で地域・大学との交流による FD 活動や学生援助（資料９－２－①－６～７）等を行っている。高等教育コンソーシアム宮崎では，教員が公開授業を実施し，教育改善への視点を得ている。さらに，授業改善への取組の一環として，校内公開授業を実施している(資料９－２－①－８～９)。平成 22 年度までは２ケ月に１回程度の教員による公開授業を実施していたが，参加者が年々減少してきたため，平成 23 年度は『校内公開授業週間』を導入し，多くの教員が授業を公開し参加できるように改善した(資料９－２－①－10)。保護者が授業を参観できる公開授業は，毎年４月に実施している。

観点９－２－①　資料一覧

資料９－２－①－１　都城工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

〔出典：規則集〕

資料９－２－①－２　ＦＤ実施要項

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－３　ＦＤ活動実績

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－４　教育懇話会の実績

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－５　全国高専教育フォーラム及び九州沖縄地区国立高等専門学校教員研究集会

〔出典：総務課資料〕

資料９－２－①－６　高等教育コンソーシアム宮崎規約

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－７　高等教育コンソーシアム宮崎単位互換に関する協定書

〔出典：総務課資料〕

資料９－２－①－８　平成21年度校内公開授業実施案内及び出席者記録

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－９　平成22年度校内公開授業実施要項及び出席者記録

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－10　平成23年度『校内公開授業週間』導入案内及び参加実績

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－１

都城工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

都城工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

［平成１６年４月１日制定］

（設置）
第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（定義）
第２条　この規則においてＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）とは、本校の教育内容及び方法に関する教員の資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取り組みをいう。
（目的）
第３条　委員会は、本校におけるＦＤの実施要項を決定するとともに、その企画運営を行い、本校の教育機能の向上に寄与する。
（組織）
第４条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
⑴ 教務主事
⑵ 各主事が推薦する主事補各１人
⑶ 前２号の委員を除く各学科の教員の中から選出された者各１人
⑷ 第１号及び第２号の委員を除く一般科目の教員の中から選出された者文科、理科各１人
⑸ その他校長が必要と認めた者
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
（任期）
第６条　第４条第１項第２号から第５号の規定に掲げる委員の任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（定足数）
第７条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
（他の委員会等との連携）
第８条　委員会は、他の委員会等と相互に連携し、本校におけるＦＤ活動を推進する。
（事務）
第９条　委員会に関する事務は、学生課において処理する。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料９－２－①－２

ＦＤ実施要項

都城工業高等専門学校ＦＤ実施要項

平成１９年９月３日制定
平成２２年４月２７日改正
都城工業高等専門学校FD委員会

１．都城工業高等専門学校（以下，「本校」という。）ＦＤ委員会規則第３条にもとづき、ＦＤ実施項目と実施方法を以下のように定める。

２．ＦＤとして、以下を実施する。
（１）校内教員研修会
（２）校内各種講演会等
（３）機構本部等本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣
（４）校内公開授業

３．校内教員研修会
（１）講演又は協議とする。
（２）講演及び協議事項は、教務主事、各指導部代表委員及び各学科代表委員から提案をもらい、FD委員会で調整し決定する。
なお、委員以外から要望があった場合には、委員長はFD委員会に諮ることができる。
（３）全教員を対象として実施する。
（４）開催時期及び回数は、原則として、夏季休業中の１日とする。
（５）出席者を記録する。
（６）実施後、出席者に対しアンケート調査を実施する。

４．校内各種講演会等
（１）主事及びセンター長等が独自に企画する講演会等について、ＦＤとして位置づけ可能なものは、企画者とFD委員会の共催として実施する。
（２）出席者数を記録し、必要と判断される場合、アンケート調査を実施する。

５．機構本部等本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣
（１）FD委員長が、全教員に案内を行い、候補者を人選し、校長が決定する。
（２）参加者は、終了後、報告書（書式自由：実施要項等と復命書のコピーで可）をFD委員会に提出する。

６．校内公開授業
（１）１年度に１０回程度実施する。実施月は、４月、５月、７月、９月、10月、11月、12月、１月、２月とする。
（２）前年度に公開授業教員とその授業月を決定する。
（３）教員の決定において、学科等バランス、全教員（常勤）が概ね６年に１回経験するよう配慮する。
（４）FD委員会は、公開授業実施日の約２週間前に公開授業の案内（教員名、科目名、日時，時限）を行う。
（５）FD委員会は授業参観希望者を募集し、参観者数は、教室の大きさ等を考慮し

て調整する。また、FD 委員会は、適当と認められる教員に参観を求める。
（６） 授業参観者アンケートを実施する。FD 委員会は、アンケートのコピーを公開授業教員に提供する。

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－３

ＦＤ活動実績

ＦＤ委員会資料 平成24年3月26日	1

平成２４年３月２６日

ＦＤ委員　各位

平成２３年度ＦＤ委員会総括

ＦＤ委員長　森茂雄一

１．平成２３年度校内教員研修参加状況

１）特別講演Ⅰ　科学研究費補助金申請について（　　先生）
（豊橋技術科学大学大学院工学研究科機械工学専攻・教授）
教員　５１名（８３．６％）　事務職員：１３名

２）全体会議Ⅰ　議題：LHR の在り方について（教務指導部）
教員　４２名（６８．８％）

３）全体会議Ⅱ　学生指導の在り方について（学生指導部）
教員　４２名（６８．８％）

４）特別講演Ⅱ　演題：性同一障害、発達障害について（　　先生）
（宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野・教授）
教員　４３名（７０．５％）　事務職員：７名

２．校内公開授業参加状況

平成２４年１月１６日（月）～１月２０日（金）
校内公開授業の実施について（実施教員：３３名／６２名：５６％）
M科：５８．３％　E科：１６．６％　C科：５０％　A科：５５．５％
GL科：８１．８％　GS科：７７．８％

＊平成２３年度公開授業の見直しについて
委員長から配付資料２に基づき趣旨説明があり、種々意見交換、審議の結果、今年度の公開授業は次のとおり実施することが了承された。
○年度当初に実施計画されていた「公開授業日程」については、取りやめとする。
○新たに平成２４年１月１６日（月）～１月２０日（金）を「校内公開授業週間」として設定し、校内公開授業を実施する。
○教員は全教員が参加し、１名以上の教員の授業参観（各教員で一つ以上の授業を選択）を行い、授業参観者は授業内容等に関するアンケートを作成し学生課教務係へ提出する。
なお、今年度の公開授業担当予定教員に対しては、今回の変更等について委員長からメールでお知らせし、併せて全教員へ周知を図ることとした。

３．平成２３年度校外研修参加状況

１）平成２３年度九州沖縄地区国立高等専門学校教員研究集会

土井先生（M科）、藤森先生（C科）

2）平成２３年度高専機構教員研修（クラス運営・生活指導研修会）
期間：Ｈ２３年９月７日（水）～９月９日（金）
会場：学術総合センター（東京都千代田区一ツ橋２－１－２）
田中先生（E科）、野口（太郎）先生（C科）

3）平成２３年度高専・技科大連携教員研究集会
期間：Ｈ２１年１月６日（金）
会場：豊橋技術科学大学　森茂先生（ＧＳ科）

4）第２回ＰＢＬ利用教育に関する教員研修会
期間：Ｈ２４年１月１３日（金）～１月１４日（土）
会場：熊本高専熊本キャンパス　山本先生（A科）

【今後の校外研修に関する学科ローテーション案】

過去５年間の累計　M科５名、E科２名、C科６名、A科２名、ＧＬ３名、ＧＳ４名
平成２４年度ローテーション予定
E科→A科→ＧＬ科→E科→A科→ＧＳ科→E科→A科

4.公開授業について

公開授業について２つの意見がありました。

1）実施するのであれば、回数を減らして（密度を高くして）、全学的に取り組んだほうが参加者も増え、また、関心も高まるのではないか。

2）（改善が主旨であれば）自分自身の授業をビデオで撮り、それを見るだけでも効果があるではないか。

5.来年度の教員研修テーマについて（確認事項）

○講演会、ディスカッションを含めて１日で行う。

○９月の前期末試験期間中の午後行う。

【学生指導部提案】

1）心の悩みを抱えた学生への対応

2）保護者や地域からのクレーム等への対応

【C科提案】

3）学科で協議しましたが、テーマは出てきませんでした。
私個人の案ですが、学生の学業不振の行き着く原因はやる気ですので、脳科学の観点より、無理でしょうが、茂木健一郎氏講師に招き、やる気を出させるような、取り組みを考えては如何でしょうか。

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－４

教育懇話会の実績

平成２３年度　第１回教育懇話会

教務指導部

1. 日時　６月８日（水）　午後４時～午後５時

2. 会場　図書館第１会議室

3. 内容　授業の在り方とその取り組み方法

ロールプレイ（吉井先生）　約１０分

《授業のエッセンス》

１）コミュニケーション（学生諸君の名前を覚える）

２）授業するクラスの空気を読む（学生諸君の反応を観察する）

３）教員の前向きに取り組む姿勢（教員のやる気・情熱、手抜きをしない！）

４）授業はクラスの平均値をターゲットとする。（成績上位と下位者への対応）

５）授業内容は極力シンプルに伝達する！

６）授業の始めは時事に関することから始める。（授業のマクラ）

７）知識を『伝えること』と『考えさせる』授業の構築

８）声に抑揚を！

【具体的な授業方法】

１）板書方法

＊見やすい板書方法について（板書したら左右に大きく動く）

＊チョークの選択（赤、黄色などの活用方法）

＊ノートの取り方の問題（学生諸君の速記能力の退化）

２）授業評価アンケート結果に対する改善

＊日頃の授業チェック（講義中にプリント等で簡単なアンケート実施）

＊授業評価のフィードバッグの在り方（授業への反映、授業評価のマンネリ化防止）

３）シラバスと授業進度

＊授業内容の精選とその工夫（講義時間に比べ、講義内容が多すぎる→**教えすぎ**）

＊特に１年生の４、５、６月は授業進度に配慮する。

＊シラバスの書き方の工夫（１年間の授業の終わりに各人で整理検討する。）

４）授業の準備

＊授業教材開発や教授法の改善

＊グループ学習の（演習問題）、授業中の小テストなど復習の時間の設定。（理解度）

＊ディスカションの場の設定**（双方向授業）**

＊教材の利用やリアルな体験（実験）、実物を見てさわる。→**体感**

＊授業に先端的なトピックスを導入する。

＊授業中の教室内の巡回指導

５）プロジェクターやＤＶＤ等の活用方法（教材の多様性）

＊ＮＨＫ等の教育番組の活用（ＤＶＤの編集）

＊ソフトウエアーの活用

＊パワーポイントの作成と可視化の有効性（スライドは視覚、講話は聴覚）

＊スライドはシンプルに作成する。

６）宿題やレポートの出し方やその利用方法

＊宿題のチェックと返却方法（宿題は、次回の授業の冒頭に添削し返却解答）

＊レポート返却（提出日の厳守、コメントの記載）

＊レポート提出後のプレゼンテーションの実施（実験・実習）

７）試験問題作成で心がけていること。

＊授業内容の理解度の確認と過去問の排除

＊記述能力と問題解決能力（学習の努力量）をチェックする。

＊宿題や配布プリントの活用

８）公開授業の在り方について

＊授業見学フリーな期間を設定し教員全員が自己研鑽できるようにする。

＊授業研究会の実施

９）授業方法について本校ライブラリィーの作成（ウエブサイトへのオープン化）

＊公開授業のＤＶＤ化とその活用方法

１０）その他

＊専攻科生によるティーチングアシスタント（ＴＡ）の活用

＊非常勤講師への授業改善の時期とその対応方法

＊授業評価アンケートの取り方とアンケート実施時期の問題

平成２３年度　第２回教育懇話会

教務指導部

１.日時　１２月６日（火）　午後２時４５分～午後３時４５分

２.会場　図書館第１会議室

３.内容

＊平成２３年度全国高専教員研修報告

（田中　寿先生、野口太郎先生

＊本校のクラス運営と生活指導状況について

《問題点》

１）クラス運営や学生状況の把握は、担任の経験と勘に任された部分が大きい。

２）成績不振者への対応（成績の二極化、基礎学力の問題、補修授業等）

３）不登校、発達障害学生への対応

４）編入学生への指導（学校の指導体制、４年担任の裁量）

５）カウンセリングマインドの育成

６）保護者との対応

７）後輩教員へのノウハウの伝達不足。

【生活指導状況】

１）服装や素行

２）交通問題

３）教員間の情報発信・共有や連携の問題。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【メモ】

平成２４年　第３回教育懇話会

教務指導部

1.日時　４月２４日（火）　午後４時３０分～午後５時３０分

2.会場　図書館第１会議室

3.内容

＊グループワーク報告：武田先生　（前本校カウンセラー：　　先生）

《本校のクラス運営の問題点》

１）クラス運営や学生状況の把握は、担任の経験と勘に任された部分が大きい。

２）成績不振者への対応（成績の二極化、基礎学力の問題、編入学生・留学生等）

３）不登校、発達障害学生、休学生への対応

４）教員のカウンセリングマインドの育成、教員間の情報共有や連携の問題

５）保護者との対応

【参考資料：本校の過去５年間】

１）退学者数は減少傾向　Ｈ１９（２７名）→Ｈ２３（１６名）

２）休学者数は減少傾向　Ｈ２０（７名）→Ｈ２４（２名）

３）女子学生数の急増　　Ｈ２０（１８５名）→Ｈ２４（２１５名）

＊＊

【発達障害資料】：読売新聞　教育ルネサンス　発達障害と大学

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－５

全国高専教育フォーラム及び九州沖縄地区国立高等専門学校教員研究集会

平成２３年度
全国高専教育フォーラム

日　程：平成 23 年 8 月 23 日（火）～25 日（木）
（於：鹿児島大学）

主　催　　独立行政法人国立高等専門学校機構
共　催　　国立大学法人長岡技術科学大学
　　国立大学法人豊橋技術科学大学
主幹校　　鹿児島工業高等専門学校

KOSEN
国立高等専門学校機構

進化する高専
KOSEN 50
2012
高専制度創設５０周年

平成 23 年度
九州沖縄地区国立高等専門学校
教員研究集会報告書

テーマ
「 高専におけるエンジニアリングデザイン教育、
共同教育の在り方について 」

期　日 ： 平成 23 年 11 月 24 日（木）～ 11 月 25 日（金）

当番校 ： 久留米工業高等専門学校

〔出典：総務課資料〕

資料９－２－①－６

高等教育コンソーシアム宮崎規約

高等教育コンソーシアム宮崎規約

平成16年6月29日
制　　定

（名称）
第１条　本会は、「高等教育コンソーシアム宮崎（以下「コンソーシアム」という。）」と称する。
２　通称を「アカデミアみやざき」とする。

（目的）
第２条　コンソーシアムは、宮崎県の高等教育機関が相互に連携・協力し、県内高等教育全体の質的向上を推進することにより、地域の教育・学術研究の充実・発展を図るとともに魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的とする。

（事業）
第３条　コンソーシアムの目的達成のため、次の事業を行う。
（１）県内高等教育機関相互の教育・研究における連携・協力に関する事業
（２）県内高等教育機関の教職員・学生の交流に関する事業
（３）県内高等教育機関と地域社会との交流及び連携に関する事業
（４）県内高等教育機関と初等・中等教育との連携に関する事業
（５）宮崎県の高等教育環境の広報に関する事業
（６）その他コンソーシアムの目的達成に必要な事業

（会員）
第４条　コンソーシアムは、別表に掲げる正会員、特別会員及び賛助会員をもって構成する。
２　正会員は、第２条第１項に掲げる目的及び第３条第１項に掲げる事業に賛同する県内高等教育機関とする。
３　特別会員は、コンソーシアムが行う事業に賛同する地方公共団体とする。
４　賛助会員は、コンソーシアムが行う事業に協賛する団体及び個人とする。
５　特別会員及び賛助会員に関する必要事項は、代表者会議の議を経て別に定める。

（役員）
第５条　コンソーシアムに、次の役員を置く。
（１）会長（１名）
（２）副会長（１名）
（３）監事（２名）
２　役員は、正会員である高等教育機関の学長、理事長、校長又は所長のうちから代表者会議において互選により選任する。
３　役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
４　補欠による者の任期は、前任者の残任期間とする。

（役員の職務）
第６条　会長は、コンソーシアムを代表し代表者会議を主宰する。
２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または会長が欠けたときは、その職

務を代行する。
３　監事は会計を監査する。

（代表者会議）
第７条　代表者会議は、正会員である高等教育機関の学長、理事長、校長又は所長で構成する。
２　代表者会議は、次の事項を審議・決定する。
（１）コンソーシアムの運営に関する重要事項
（２）会員の入会及び退会
（３）役員の選任
（４）コンソーシアムの予算の決議及び決算の承認
３　代表者会議は、会長が招集する。
４　代表者会議の議長は会長または副会長、またはその委任を受けた正会員とする。
５　代表者会議は、正会員現在数の３分の２以上の出席をもって成立する。
６　議決は議長を除く出席した正会員の過半数の同意でこれを決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
７　やむを得ない理由のため、代表者会議に出席できない構成員は、予め通知された事項について、書面または代理人をもって表決権を行使することができる。これにより表決権を行使した構成員は本条第５項の規定については出席したものとみなす。

（運営委員会）
第８条　コンソーシアムは、事業運営のため運営委員会を置く。
２　運営委員会に関する必要な事項については、別に定める。

（代表者会議及び運営委員会への特別会員の出席）
第９条　コンソーシアムは、コンソーシアムの事業を推進するため、特別会員に、代表者会議及び運営委員会への出席を要請することができる。

（事務局）
第１０条　コンソーシアムの会務を処理するため、事務局を会長の所属する高等教育機関に置く。

（会計）
第１１条　コンソーシアムの運営のための経費は、会員の会費及び負担金、寄付金、補助金、その他収入をもって充てることとし、その内容は代表者会議において協議・決定する。
２　会計年度は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。
３　会計の取り扱いに関しては、別途会長が定める。
４　監事は経理について年１回の監査を行い、その監査結果を代表者会議に報告する。

（規約の改廃）
第１２条　本規約の改廃については、代表者会議で審議・決定する。

（その他）
第１３条　本規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に必要な事項は、代表者会

議の議を経て、会長が別に定める。

附　則

1．この規約は、コンソーシアム設立の日から施行する。

2．第１０条の規定に関わらず、必要に応じて、コンソーシアムの事務局の分室を会長の所属する高等教育機関以外の場所に置くことができる。

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－７

高等教育コンソーシアム宮崎単位互換に関する協定書

高等教育コンソーシアム宮崎（以下，「コンソーシアム」という。）は，各高等教育機関（以下，「大学」という。）間の相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって教育課程の充実，学生の幅広い視野の育成，学習意欲の向上を図ることを目的として，次のとおり単位互換協定（以下，「協定」という。）を締結する。

（受入れ）
第１条　この協定により受け入れることができる学生は，原則として，コンソーシアムに所属する大学の学生とし，受入れ大学の長は，教育研究上支障のない限り，当該学生を受け入れる。
（受入れ学生の身分）
第２条　この協定により受け入れられた学生は，「特別聴講学生」として取り扱う。
（履修期間）
第３条　特別聴講学生の履修期間は当該年度を超えないものとする。
（履修科目の範囲及び単位数，受入れ学生数，受入れ手続）
第４条　特別聴講学生として履修できる科目の範囲，修得単位数，受け入れる学生数及び受入れ手続については，別に定めるところによる。
（履修方法等）
第５条　特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法は，受入れ大学の定めるところによる。
（単位の授与等）
第６条　特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価については，受入れ大学の定めるところによる。
２　特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については，所属大学の定めるところによる。
（授業料等）
第７条　特別聴講学生の検定料，入学料及び授業料は徴収しない。ただし，放送大学における特別聴講学生の授業料については，別に定める。
２　実習，教材等で別にかかる費用については，費用を徴収することができる。
（施設及び設備の利用）
第８条　特別聴講学生は図書館その他の施設及び設備を利用できるものとする。利用方法は，受入れ大学の定めるところによる。
（実施要領等）
第９条　この協定に定めるもののほか，単位互換の実施に関する必要な事項は，別に定める。
（有効期間等）
第１０条　本協定の有効期間は実施期日から３年間とする。ただし，協定書の有効期間満了の３ヵ月前までに，いずれかの大学からも特段の申し出がない場合には，この協定はその後３年毎に自動更新されるものとする。
（実施期日）
第１１条　この協定は平成２２年４月１日から実施する。

平成２２年　４月　１日

宮崎大学長
菅沼龍夫

宮崎県立看護大学長
薄井坦子

宮崎公立大学長
中別府温和

南九州大学長
長谷川二郎

宮崎産業経営大学長
大村昌弘

宮崎国際大学長
隈元正行

九州保健福祉大学長
和田明彦

南九州短期大学長
田野光彦

宮崎学園短期大学長
山下忍

都城工業高等専門学校長
三村洋史

放送大学長
石弘光

〔出典：総務課資料〕

資料９－２－①－８

平成21年度校内公開授業実施案内及び出席者記録

ユーザ名: 樋口栄作 nka
タイトル: 公開授業案内:*
2009年 5月 1日 金曜日 1:40:25 PM
ページ 1 / 1

差出人: 樋口栄作 nka　2009年 5月 1日 金曜日 1:40:15 PM
件名: 公開授業案内
宛先: 全教員

添付ファイル: 公開授業計画.xls　40K

平成２１年５月１日

教員　各位

FD委員会委員長

公開授業のご案内

下記の公開授業を実施いたします。
案内が遅れましたが、出席をお願いいたします。
（なお、２１年度，２２年度の公開授業実施予定者を記した、公開授業計画のファイルを添付しています。
確認ください）

記

（１）公開授業実施者：建築学科　樋口栄作
（２）科目名　　：建築設計演習
（３）クラス　　：2A
（４）公開月日時限　：平成２１年５月１２日（火）3限目（授業は２～４限）
（５）内　容　　：透視図法の基礎（測点法）
（６）アンケート　：有り
（７）実施者コメント：授業は演習中心ですが、黒板を使った説明の場面です。

公開授業出席者記録				FD委員会	
実施期日	H21　5月12日	公開授業者	樋口栄作		
		科目名	建築設計演習	対象クラス	2年建築学科

	出席者氏名		出席者氏名
1	中村祐文	25	
2	中村博文	26	
3	徳藤勝彦	27	
4		28	
5		29	
6		30	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－９

平成22年度校内公開授業実施要項及び出席者記録

都城工業高等専門学校ＦＤ実施要項

平成１９年９月３日制定
平成２２年４月２７日改正
都城工業高等専門学校FD委員会

１．都城工業高等専門学校（以下,「本校」という。）ＦＤ委員会規則第３条にもとづき、ＦＤ実施項目と実施方法を以下のように定める。

２．ＦＤとして、以下を実施する。
（１）校内教員研修会
（２）校内各種講演会等
（３）機構本部等本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣
（４）校内公開授業

３．校内教員研修会
（１）講演又は協議とする。
（２）講演及び協議事項は、教務主事、各指導部代表委員及び各学科代表委員から提案をもらい、FD委員会で調整し決定する。
なお、委員以外から要望があった場合には、委員長はFD委員会に諮ることができる。
（３）全教員を対象として実施する。
（４）開催時期及び回数は、原則として、夏季休業中の１日とする。
（５）出席者を記録する。
（６）実施後、出席者に対しアンケート調査を実施する。

４．校内各種講演会等
（１）主事及びセンター長等が独自に企画する講演会等について、ＦＤとして位置づけ可能なものは、企画者とFD委員会の共催として実施する。
（２）出席者数を記録し、必要と判断される場合、アンケート調査を実施する。

５．機構本部等本校以外の機関が実施する教員研修及び講演会等への派遣
（１）FD委員長が、全教員に案内を行い、候補者を人選し、校長が決定する。
（２）参加者は、終了後、報告書（書式自由：実施要項等と復命書のコピーで可）をFD委員会に提出する。

６．校内公開授業
（１）１年度に１０回程度実施する。実施月は、４月、５月、７月、９月、10月、11月、12月、１月、２月とする。
（２）前年度に公開授業教員とその授業月を決定する。
（３）教員の決定において、学科等バランス、全教員（常勤）が概ね６年に１回経験するよう配慮する。
（４）FD委員会は、公開授業実施日の約２週間前に公開授業の案内（教員名、科目名、日時，時限）を行う。
（５）FD委員会は授業参観希望者を募集し、参観者数は、教室の大きさ等を考慮し

て調整する。また、FD 委員会は、適当と認められる教員に参観を求める。
（６） 授業参観者アンケートを実施する。FD 委員会は、アンケートのコピーを公開授業教員に提供する。

公開授業出席者記録				FD委員会	
実施期日	H22　12月21日	公開授業者	友安一夫		
		科目名	微分方程式	対象クラス	4年建築学科

	出席者氏名		出席者氏名
1	橋口栄作	25	
2	若宮潤一	26	
3	鬼塚政一	27	
4	ゆみ博文	28	
5	ゆま裕文	29	
6		30	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

〔出典：学生課資料〕

資料９－２－①－10

平成23年度『校内公開授業週間』導入案内及び参加実績

平成２３年１１月９日

関係　各位

平成２３年度公開授業の実施について

ＦＤ委員長

本校では校内公開授業を１年間に数回実施して参りましたが、参加者は年々減少傾向にありました。本年度のＦＤ委員会で公開授業の改善について各委員に意見を求め検討致しました。その結果、全学的に取り組むことや教員の関心を高めるための方策として下記のような校内公開週間を導入することとなりました。
初めての事でご迷惑をおかけすることがあると思いますが、教員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

【概　要】

１．**平成２４年１月１６日（月）～１月２０日（金）**までの期間を**「校内公開授業週間」**とし、校内公開授業を実施する。

２．教員は全教員が参加し、上記期間内に１名以上の教員の授業参観（各教員で一つ以上の授業を選択）を行い、授業参観者は授業内容等についてのアンケートに記載し提出する。アンケートの提出先は、各学科事務等を
通じて教務係とする。参観時間は、２０分から４５分以内とする。

３．提出されたアンケートは、公開授業担当教員へ配付し、授業の改善等に役立てて頂く。

４．従来の校内公開授業の対象となっておられた今年の２月からの授業担当教員の公開授業は、今年は実施致しません。この件については、ＦＤ委員長から各授業担当予定の先生方へメールにて連絡する。

【平成２３年１１月４日 第２回ＦＤ委員会了承】

ＦＤ委員会資料 平成24年3月26日	1

平成２４年３月２６日

ＦＤ委員　各位

平成２３年度ＦＤ委員会総括

ＦＤ委員長　森茂龍一

１．平成２３年度校内教員研修参加状況

１）特別講演Ⅰ　科学研究費補助金申請について（　　先生）
（豊橋技術科学大学大学院工学研究科機械工学専攻・教授）
教員　５１名（８３．６%）　事務職員：１３名

２）全体会議Ⅰ　議題：LHR の在り方について（教務指導部）
教員　４２名（６８．８%）

３）全体会議Ⅱ　学生指導の在り方について（学生指導部）
教員　４２名（６８．８%）

４）特別講演Ⅱ　演題：性同一障害、発達障害について（　　先生）
（宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野・教授）
教員　４３名（７０．５%）　事務職員：７名

２．校内公開授業参加状況

平成２４年1月１６日（月）～1月２０日（金）
校内公開授業の実施について（実施教員：３３名／６２名：５６%）
M科：５８．３%　E科：１６．６%　C科：５０%　A科：５５．５%
GL科：８１．８%　GS科：７７．８%

＊平成２３年度公開授業の見直しについて
委員長から配付資料２に基づき趣旨説明があり、種々意見交換、審議の結果、今年度の公開授業は次のとおり実施することが了承された。
○年度当初に実施計画されていた「公開授業日程」については、取りやめとする。
○新たに平成２４年１月１６日（月）～１月２０日（金）を「校内公開授業週間」として設定し、校内公開授業を実施する。
○教員は全教員が参加し、１名以上の教員の授業参観（各教員で一つ以上の授業を選択）を行い、授業参観者は授業内容等に関するアンケートを作成し学生課教務係へ提出する。
なお、今年度の公開授業担当予定教員に対しては、今回の変更等について委員長からメールでお知らせし、併せて全教員へ周知を図ることとした。

３．平成２３年度校外研修参加状況

１）平成２３年度九州沖縄地区国立高等専門学校教員研究集会

〔出典：学生課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

FD 活動については，FD 委員会を中心に組織的に行っている。学内での FD 活動は，教員研修会が主であり，多数の教員が参加して継続的に行っている。また，外部での FD 活動にも多くの教員が継続的に参加している。したがって，FD 活動を組織として適切な方法で実行している。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

事務職員は事務部長，技術職員は技術支援センター長が管轄し，文部科学省，高専機構，大学等が主催する研修会等への参加を奨励し，教育支援者は積極的に参加している（資料９－２－②－１）。平成７年度に教育に対する技術支援及び地域社会との連携協力を促進するために教育研究支援センターを設置した。さらに，平成 21 年度には，教育支援を強化するために，技術支援センターとして整備した（資料９－２－②－２）。技術支援センターは，学内の教育支援（実験，実習，卒業研究，クラブ活動，ロボット製作等）のみならず，モンゴルでの風力発電機開発や瀬戸内国際芸術祭 2010 への技術支援，そして市民を対象に年２回開催している「都城高専おもちゃ病院」や出前授業等で地域に貢献しながら資質の向上を図っている。なお，技術支援センターでは，平成 23 年度から技術支援センター報告書を作成し，センターの取組状況を公開している（資料９－２－②－３）。さらに，科学技術振興機構（JST）の平成 21 年度第１回研究成果展開事業に，技術職員が応募し採択された。

観点９－２－②　資料一覧

資料９－２－②－１　事務職員及び技術職員の研修会等への参加実績一覧

〔出典：総務課資料〕

資料９－２－②－２　都城工業高等専門学校技術支援センター規則

〔出典：規則集〕

資料９－２－②－３　平成23年度技術支援センター報告書(表紙)

〔出典：技術支援センター報告〕

資料９－２－②－１

事務職員及び技術職員の研修会等への参加実績一覧

事務職員及び技術職員の年度別各種研修参加状況				
年度	事務職員		技術職員	
	研修参加件数	延べ参加人数	研修参加件数	延べ参加人数
21	14	20	1	1
22	21	29	3	3
23	19	28	5	5

〔出典：総務課資料〕

資料９－２－②－２

都城工業高等専門学校技術支援センター規則

（設置）
第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育及び研究に対する技術支援並びに地域社会との連携を推進するため、都城工業高等専門学校技術支援センター（以下「センター」という。）を置く。
（業務）
第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 教育及び研究に対する技術支援に関すること。
(2) 地域社会及び企業との連携及び技術協力に関すること。
(3) 学内の技術業務に対する窓口に関すること。
(4) その他センターに関すること。
（室）
第３条　センターに次の各号に掲げる室を置く。
(1) 第１技術室（基礎加工に関する室）
(2) 第２技術室（複合技術に関する室）
(3) 第３技術室（環境材料・情報制御に関する室）
(4) 第４技術室（分析測定に関する室）
（組織）
第４条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。
(1) センター長
(2) 室長
(3) 室員
（センター長）
第５条　センター長は、本校の技術長をもって充てる。
２　センター長は、センターの業務を総括する。
（室長）
第６条　室長は、本校の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。
２　室長は、当該室の業務を遂行するとともに、室員に対し技術的な指導及び育成に当たる。
（室員）
第７条　室員は、本校の技術専門職員又は技術職員の中から校長が任命する。
２　室員は、当該室の業務に従事する。
（運営委員会）
第８条　センターの円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校技術支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。
（事務）
第９条　センターの事務は、技術組織において処理する。
附　則
１　この規則は、平成２３年５月１２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。
２　都城工業高等専門学校技術支援センター規則（平成２１年４月１日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料９－２－②－３

平成23年度技術支援センター報告書(表紙)

平成 23 年度

技術支援センター報告

都城工業高等専門学校

〔出典：技術支援センター報告〕

（分析結果とその根拠理由）

教育支援者等に対する研修等への参加を奨励しており，その資質の向上を図るための取組を適切に行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・教員自ら自発的に４ケ月に１回程度の教育懇話会を開催し，教員間での連携や授業方法，特別活動の在り方等について，自主学習を行っている。
・３年間実施した公開授業を見直して，「校内公開授業週間」を導入し，教員の相互啓発と教育の質の改善を図っている。
・技術支援センターは，報告書を作成して，学内外の支援を強化し，資質の向上に努めている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

教育活動のデータや資料は，教育点検評価に必要なものを収集・蓄積している。また，教育点検評価を実施する体制は，十分に機能している。さらに，教育活動と評価体制とは密接に関わり，教育活動の実態を十分に把握している。

学生からの意見聴取は，授業評価アンケート，学生会，意見箱等の方法により実施しており，教科担当者の自己点検に役立っている。また，外部評価での有識者の意見，卒業生・就職先からの意見聴取も実施し，教育に反映している。

教員が行う専門分野の研究については，一般科目，専門科目，専攻科特別研究等での授業に取り入れ，その結果，学生の研究レベルが向上しており，学会賞の受賞等として評価されている。研究活動は，教育の質の改善に寄与している。

FD 活動については，FD 委員会を中心に組織的に行っている。

外部での FD 活動は教育体制の改善に寄与し，FD 活動に基づいた学内体制の改善・教育関連行事により，教育改善を行っている。また，公開授業の評価は，教員の相互啓発として，授業ごとに記録している。授業等に関する保護者からの意見・要望聴取を実施し，これらを教育改善に役立てている。本校の FD 活動は，教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校は，本自己評価書のⅡ「目的」に掲げる目的に基づいて教育研究活動を行っている。この活動を安定的に行うためには，相応の資産が必要であり，現時点で有する総資産及び債務は（資料１０－１－①－１）に示すとおりである。

観点10－１－①　資料一覧
資料10－１－①－１　貸借対照表
〔出典：総務課資料〕

資料10－１－①－１

貸借対照表

平成19～23年度　貸借対照表（報告式）

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
[資産の部]	3,656,886,591	3,611,868,180	3,802,153,873	3,633,966,991	3,409,128,611
流動資産	14,896,672	5,269,932	77,383,614	47,362,155	9,379,813
現金及び預金	9,939,306	3,356,215	6,029,746	7,616,508	6,859,558
現金	0	0	361,820	0	0
当座預金	0	0	0	0	0
普通預金	9,939,306	3,356,215	5,667,926	7,616,508	6,859,558
定期預金	0	0	0	0	0
その他預金	0	0	0	0	0
有価証券	0	0	0	0	0
有価証券	0	0	0	0	0
受取手形	0	0	0	0	0
受取手形	0	0	0	0	0
未収学生納付金収入	253,800	338,400	846,000	1,015,200	1,438,200
未収学生納付金収入（授業料）	0	0	0	0	0
未収学生納付金収入（入学金）	253,800	338,400	846,000	1,015,200	1,438,200
棚卸資産	4,071,949	1,365,978	251,192	0	974,389
未成研究支出金	4,071,949	1,365,978	251,192	0	974,389
未成事業支出金	0	0	0	0	0
貯蔵品	0	0	0	0	0
未収入金	0	0	70,152,758	38,400,000	0
未収入金	0	0	70,152,758	38,400,000	0
前渡金	0	0	0	0	0
前渡金	0	0	0	0	0
前払費用	343,617	109,539	103,918	66,727	64,986
前払費用	49,667	109,539	88,848	66,727	64,986
法定福利費	0	0	0	0	0
未経過賃借料	0	63,834	48,510	15,070	16,320
未経過保険料	49,667	45,705	40,338	51,657	48,666
未経過支払利息	0	0	0	0	0
その他の前払費用	293,950	0	15,070	0	0
未収収益	0	0	0	0	0
未収収益	0	0	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	0	0
その他の流動資産	288,000	99,800	0	263,720	42,680
仮払金	288,000	99,800	0	263,720	42,680
仮払消費税	0	0	0	0	0
旅費仮払	288,000	99,800	0	263,720	42,680
立替金	0	0	0	0	0
その他流動資産	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
固定資産	3,641,989,919	3,606,598,248	3,724,770,259	3,586,604,836	3,399,748,798
有形固定資産	3,641,477,119	3,606,020,570	3,724,061,004	3,585,660,190	3,398,487,577
建物	2,557,712,786	2,652,447,843	2,849,775,079	2,867,912,520	2,886,469,754
建物	1,843,442,311	1,923,696,090	2,044,804,596	2,049,032,011	2,049,292,577
建物附属設備	714,270,475	728,751,753	804,970,483	818,880,509	837,177,177
建物減価償却累計額	−859,185,343	−1,029,675,152	−1,162,015,146	−1,331,573,288	−1,494,843,092
建物減損損失累計額	0	0	0	0	0
構築物	327,560,996	327,560,996	334,234,078	334,916,578	336,002,578
構築物減価償却累計額	−146,967,986	−169,081,240	−188,850,946	−207,175,894	−224,894,088
構築物減損損失累計額	0	0	0	0	0
機械装置	0	0	0	0	0
機械装置減価償却累計額	0	0	0	0	0
機械装置減損損失累計額	0	0	0	0	0
船舶	0	0	0	0	0
船舶減価償却累計額	0	0	0	0	0
船舶減損損失累計額	0	0	0	0	0
車両運搬具	8,418,605	8,418,605	8,418,605	9,048,522	9,048,522
車両運搬具減価償却累計額	−4,682,040	−6,131,518	−6,932,095	−7,536,534	−8,182,967
車両運搬具減損損失累計額	0	0	0	0	0
工具器具備品	169,658,819	251,613,635	347,632,053	411,771,640	433,841,380
工具器具備品減価償却累計額	−118,338,718	−142,730,599	−169,259,624	−202,363,354	−249,299,510
工具器具備品減損損失累計額	0	0	0	0	0
土地	1,707,300,000	1,707,300,000	1,707,300,000	1,707,300,000	1,707,300,000
土地減損損失累計額	0	0	0	0	0
建設仮勘定	0	6,298,000	3,759,000	3,360,000	3,045,000

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
その他の有形固定資産	0	0	0	0	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	0	0	0	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	0	0	0	0
無形固定資産	477,750	559,230	679,572	916,770	1,214,158
特許権	0	0	0	0	0
借地権	0	0	0	0	0
商標権	0	0	0	0	0
実用新案権	0	0	0	0	0
意匠権	0	0	0	0	0
ソフトウェア	0	0	0	0	0
電話加入権	105,000	105,000	105,000	105,000	105,000
その他の無形固定資産	0	0	0	0	0
著作権	0	0	0	0	0
特許権仮勘定	372,750	454,230	574,572	811,770	1,109,158
投資その他の資産	35,050	18,448	29,683	27,876	47,063
投資有価証券	0	0	0	0	0
長期貸付金	0	0	0	0	0
長期前払費用	22,220	5,618	16,853	9,526	18,713
未収財源措置予定額	0	0	0	0	0
長期性預金			0	0	0
敷金・保証金	0	0	0	0	10,000
長期未収入金	0	0	0	0	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	0	0	0	0
その他の投資その他の資産	12,830	12,830	12,830	18,350	18,350
貸倒引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
[資産の部]合計	0	0	0	0	0
[本支店勘定]	230,995,165	287,167,734	252,109,754	104,879,436	42,805,592
[本支店]機構本部	6,716,316	−1,692,492			
[本支店]機構本部(統括)			−947,861	−3,180,289	−6,079,761
[本支店]鶴岡工業高専	0	0	0	−1	−1
[本支店]機構本部　管理課	224,278,849	288,860,226	253,057,615	108,059,726	48,885,354
[本支店勘定]合計	0	0	0	0	0
[負債の部]	355,489,389	505,828,281	610,805,172	479,314,600	377,833,771
流動負債	261,191,169	314,264,307	348,285,059	173,165,303	76,067,773
運営費交付金債務	0	0	0	0	100,000
授業料債務	0	0	0	0	0
承継剰余金債務	0	0	0	0	0
預り施設費	0	0	0	0	0
預り補助金等	0	0	0	0	0
預り寄附金	6,825,028	6,742,553	8,565,727	11,126,395	11,511,153
前受受託研究費等	3,600,000	1,650,000	1,200,000	400,000	1,600,000
前受受託研究費	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
前受共同研究費	3,600,000	1,650,000	1,200,000	400,000	1,600,000
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	3,600,000	1,650,000	1,200,000	400,000	1,600,000
前受受託事業費等	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
短期借入金	0	0	0	0	0
1年以内返済予定長期借入金	0	0	0	0	0
未払金	230,979,853	282,662,238	314,598,849	134,994,528	36,922,989
退職金	152,771,533	161,777,676	98,553,288	33,486,540	0
リース債務	0	5,765,130	5,917,963	6,074,844	6,235,814
その他未払金	78,208,320	115,119,432	210,127,598	95,433,144	30,687,175
未払消費税等	0	0	0	0	0
未払費用	18,419,704	15,493,071	14,174,469	16,205,295	13,308,433
給与	5,307,535	5,043,904	5,035,476	6,020,291	2,185,903
法定福利費	188,931	253,544			
社会保険料			311,148	345,378	0
労働保険料			0	0	0
賃借料	542,950	195,300	198,240	198,240	118,440
水道光熱費	6,179,985	3,425,696	3,780,220	5,416,271	6,800,036
未払利息	0	53,405	40,848	27,959	14,728
その他未払費用	6,200,303	6,521,222	4,808,537	4,197,156	4,189,326
前受金	0	0	0	0	0
預り金	401,478	6,493,771	8,638,046	10,439,085	12,625,198
科学研究費	0	0	0	0	2,504,420
社会保険料	0	0	0	0	0

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
労働保険料	0	0	0	0	0
源泉所得税	151,272	150,000	138,500	138,500	129,450
住民税	0	0	0	0	0
職員宿舎貸付料	0	0	0	0	0
補助金等返還	0	0	29,543	2,341	95,940
その他預り金	250,206	6,343,771	8,470,003	10,298,244	9,895,388
前受収益	0	0	0	0	0
前受利息	0	0	0	0	0
その他前受収益	0	0	0	0	0
引当金	965,106	1,222,674	1,107,968	0	0
賞与引当金	965,106	1,222,674	1,107,968	0	0
修繕引当金	0	0	0	0	0
損害補償損失引当金	0	0	0	0	0
その他の引当金	0	0	0	0	0
その他の流動負債	0	0	0	0	0
仮受金	0	0	0	0	0
その他の流動負債	0	0	0	0	0
固定負債	94,298,220	191,563,974	262,520,113	306,149,297	301,765,998
資産見返負債	93,146,700	172,472,203	249,282,815	299,913,483	301,765,998
資産見返運営費交付金等	73,392,034	157,610,896	199,841,062	222,757,310	235,337,435
資産見返運営費交付金	65,502,242	127,014,086	130,507,613	130,812,785	138,056,790
資産見返授業料	7,889,792	30,596,810	69,333,449	91,944,525	97,280,645
資産見返補助金等	0	0	39,369,337	68,731,998	57,786,878
資産見返寄附金	5,673,370	4,690,641	3,609,524	2,959,277	3,838,621
資産見返物品受贈額	13,708,546	3,418,436	2,129,320	1,293,128	648,906
建設仮勘定見返運営費交付金等	0	0	3,759,000	3,360,000	3,045,000
建設仮勘定見返運営費交付金	0	0	3,759,000	2,362,500	2,362,500
建設仮勘定見返授業料	0	0	0	997,500	682,500
建設仮勘定見返施設費	0	6,298,000	0	0	0
建設仮勘定見返補助金等	0	0	0	0	0
建設仮勘定見返寄附金	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返運営費交付金等	372,750	454,230	574,572	811,770	1,109,158
特許権仮勘定見返運営費交付金	372,750	372,750	372,750	372,750	372,750
特許権仮勘定見返授業料	0	81,480	201,822	439,020	736,408
特許権仮勘定見返補助金等	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返寄附金	0	0	0	0	0
長期預り補助金等	0	0	0	0	0
長期預り寄附金	0	0	0	0	0
長期前受受託研究費等	750,000	200,000	0	0	0
長期前受受託研究費	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
長期前受共同研究費	750,000	200,000	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	750,000	200,000	0	0	0
長期前受受託事業費等	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
長期借入金	0	0	0	0	0
長期未払金	0	18,228,621	12,310,658	6,235,814	0
引当金	401,520	663,150	926,640	0	0
退職給付引当金	401,520	663,150	926,640	0	0
追加退職給付引当金	0	0	0	0	0
その他の引当金	0	0	0	0	0
資産除去債務					0
その他の固定負債	0	0	0	0	0
[負債の部]合計	0	0	0	0	0
[純資産の部]	3,532,392,367	3,393,207,633	3,443,458,455	3,259,531,827	3,074,100,432
資本金	3,788,759,062	3,788,759,062	3,788,759,062	3,788,759,062	3,788,759,062
政府出資金	3,788,759,062	3,788,759,062	3,788,759,062	3,788,759,062	3,788,759,062
その他出資金	0	0	0	0	0
資本剰余金	−256,418,226	−394,806,798	−347,534,635	−532,125,107	−714,305,722
資本剰余金	817,120,732	876,192,631	1,113,037,760	1,117,581,125	1,117,591,125
資本剰余金施設費	237,727,257	296,799,156	533,644,285	539,894,439	539,894,439
資本剰余金運営費交付金	0	0	0	0	0
資本剰余金授業料	0	0	0	0	10,000
資本剰余金補助金等	574,249,000	574,249,000	574,249,000	572,542,211	572,542,211
資本剰余金寄附金	0	0	0	0	0
資本剰余金目的積立金	4,829,475	4,829,475	4,829,475	4,829,475	4,829,475
資本剰余金譲与	315,000	315,000	315,000	315,000	315,000
その他の資本剰余金	0	0	0	0	0

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
損益外減価償却累計額	−1,013,155,045	−1,205,818,483	−1,356,469,613	−1,541,701,755	−1,720,278,150
損益外減損損失累計額	−210,000	−210,000	−210,000	−210,000	−210,000
損益外固定資産除売却差額	−60,173,913	−64,970,946	−103,892,782	−107,794,477	−111,408,697
損益外利息費用累計額					0
利益剰余金	51,531	−744,631	2,234,028	2,897,872	−352,908
前中期目標期間繰越積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
積立金	0	0	0	0	0
当期未処分利益	51,531	−744,631	2,234,028	2,897,872	−352,908
繰越欠損金	0	0	0	0	0
当期未処理損失	0	0	0	0	0
その他の有価証券評価差額金	0	0	0	0	0
[純資産の部]合計	0	0	0	0	0
資本・負債の部合計	0	0	0	0	0

※常勤教員・常勤職員の給与・賞与・退職金等の人件費については、平成23年度から本部で一括処理のため、未払金の退職金および未払費用の給与・社会保険料は本調書に計上されていない。

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

現有する資産は，（前述資料１０－１－①－１）に示すとおりであり，これまで本校が行ってきた教育研究活動の内容に照らして，今後の教育研究活動を中長期的に安定的に行うために，十分な資産を有している。また，実質上の債務はない。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校の経常的収入は，「運営費交付金等」及び「授業料等」である。「授業料等」の収入は，学生が納める入学検定料，入学金，授業料及びその他の自己収入からなる。「授業料等」は（資料10－１－②－１）に示すように，過去５年間において，年間１億8,000万円～２億円の範囲の中で推移している。

観点10－１－②　資料一覧

資料10－１－②－１　決算額（経常的収入受入状況）

〔出典：総務課資料〕

資料10－１－②－１

決算額（経常的収入受入状況）

決算報告書より

（単位：円）

区　　分	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額	平成23年度 決算額
運営費交付金	1,087,284,358	1,150,292,645	1,030,073,161	907,915,155	101,997,083
授業料収入	182,811,050	183,687,800	186,190,200	198,981,200	196,947,450
入学料収入	16,666,200	16,268,300	16,606,700	15,228,000	15,481,800
検定料収入	5,433,400	5,070,400	5,313,000	4,488,000	5,214,000
職員宿舎貸付料収入	5,083,217	5,135,498	4,884,921	4,804,072	4,569,362
寄宿料収入	2,497,700	2,347,100	2,280,000	2,440,300	2,573,100
学校財産貸付料収入	860,683	731,232	864,416	972,436	555,163
刊行物売払代	0	0	0	0	0
講習料	230,000	136,400	247,600	126,600	98,800
不用物品売払代	0	120,940	383,880	338,860	193,340
弁償及違約金	0	0	0	0	0
受取保険料			0	0	0
助成金等収入			150,457	92,606	157,947
雑入	0	773,136	850,764	22,590	0
合　　計	1,300,866,608	1,364,563,451	1,247,845,099	1,135,409,819	327,788,045

※常勤教員・常勤職員の給与・賞与・退職金等の人件費が、平成23年度から本部で一括処理となったため
　運営費交付金が減少している。

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

経常的収入は，本校が掲げる教育研究活動の目標を安定して遂行するために，継続的に確保されている。そのうち，「授業料等」の収入は特に安定している。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

「外部資金等（科学研究費補助金，寄附金等を含む。）」は，過去５年間において，年間2,300万円～3,400万円の範囲の中で推移している（資料10－１－③－１～２）。平成22年度から科学研究費補助金の申請者に対するインセンティブとして，校長裁量経費から新規申請者一人当たり５万円の予算配分を行うこととし，科学研究費の申請状況を予算配分に反映することとした。また，平成23年４月には，科学研究費補助金検討ワーキンググループが設置され，平成22年度及び平成23年度の新規採択の減少に歯止めをかけるための方策に関して，ガイダンスの実施，学科単位の複数の共同申請の推進，若手教員の申請の推進，学科をまたいだ共同研究の推進等を議論し，校長に答申し，その具体策を実施している（資料10－１－③－３）。

観点10－１－③　資料一覧

資料10－１－③－１　科学研究費補助金採択状況

〔出典：基礎データ集〕

資料10－１－③－２　外部資金受入状況

〔出典：総務課資料〕

資料10－１－③－３　科研費獲得のための方策（具体策）

〔出典：科学研究費補助金獲得のための方策（答申）〕

資料10－１－③－１

科学研究費補助金採択状況

〔採択内容〕

年度	研究種目	所属・職名	氏　名	研　究　課　題　名	配分額(千円) 直接経費	配分額(千円) 間接経費
20	基盤研究Ｃ	一般科目 准教授	中村 博文	正整数のユニバーサル符号化における理論的符号語長関数に応じた具体的符号語割り当て	500	150
	基盤研究Ｃ	電気情報工学科准教授	野地 英樹	超電導ケーブルの実用化に資する多芯金属バリア超電導テープの作製と評価	1,500	450
	若手研究Ｂ	物質工学科 准教授	岩熊美奈子	機能性ゲルを内包させた高機能カプセルによる貴金属の回収技術の開発	500	150
	基盤研究Ｃ	建築学科 教授	林田 義伸	古代アテネのアクロポリスに建設された建築の設計法に関する研究	900	270
	基盤研究Ｃ	一般科目 教授	藤永　伸	文献学的手法と図像分析を併用したジャイナ教宇宙論の包括的研究	900	270
21	若手研究Ｂ	一般科目 講師	吉井 千周	発展途上国における法化現象の研究	1,200	360
	若手研究Ｂ	物質工学科 助教	高橋 利幸	微生物由来のレアメタル結合物質の探索と同定	1,000	300
	基盤研究Ｂ海外	一般科目 教授	森茂 龍一	モンゴルの首都ウランバートルにおける環境汚染の可視化	4,200	1,260
	基盤研究Ｃ一般	一般科目 教授	中村 博文	正整数のユニバーサル符号化における理論的符号語長関数に応じた具体的符号語割り当て	500	150
	基盤研究Ｃ一般	一般科目 教授	藤永　伸	文献学的手法と図像分析を併用したジャイナ教宇宙論の包括研究	900	270
	基盤研究Ｃ一般	建築学科 教授	林田 義伸	古代アテネのアクロポリスに建設された建築の設計法に関する研究	1,200	360
	基盤研究Ｃ一般	電気情報工学科准教授	野地 英樹	ケーブル導体を構成するための超電導線材の開発	2,500	750
	基盤研究Ｃ一般	物質工学科 准教授	清山 史朗	抽出剤内包マイクロカプセルの特性制御による迅速な金属回収システムの開発	2,400	720
22	若手研究Ｂ	一般科目 講師	吉井 千周	発展途上国における法化現象の研究	1,000	300
	若手研究Ｂ	物質工学科 助教	高橋 利幸	微生物由来のレアメタル結合物質の探索と同定	800	240
	基盤研究Ｂ海外	一般科目 教授	森茂 龍一	モンゴルの首都ウランバートルにおける環境汚染の可視化	3,400	1,020
	基盤研究Ｃ一般	一般科目 教授	藤永　伸	文献学的手法と図像分析を併用したジャイナ教宇宙論の包括研究	500	150
	基盤研究Ｃ一般	建築学科 教授	林田 義伸	古代アテネのアクロポリスに建設された建築の設計法に関する研究	500	150
	基盤研究Ｃ一般	電気情報工学科准教授	野地 英樹	ケーブル導体を構成するための超電導線材の開発	600	180
	基盤研究Ｃ一般	物質工学科 准教授	清山 史朗	抽出剤内包マイクロカプセルの特性制御による迅速な金属回収システムの開発	600	180
23	若手研究Ｂ	一般科目 講師	鬼塚 政一	２次元非自励系の不安定性理論の構築とその応用	1,300	390
	若手研究Ｂ	一般科目 講師	吉井 千周	発展途上国における法化現象の研究	1,000	300
	基盤研究Ｂ海外	一般科目 教授	森茂 龍一	モンゴルの首都ウランバートルにおける環境汚染の可視化	1,100	330
	基盤研究Ｂ海外	建築学科 教授	林田 義伸	アテネのアクロポリスに建つローマとアウグストゥス神殿の実測調査及びその復元的研究	6,600	1,980
	基盤研究Ｃ一般	電気情報工学科准教授	野地 英樹	ケーブル導体を構成するための超電導線材の開発	600	180
	基盤研究Ｃ一般	物質工学科 准教授	清山 史朗	抽出剤内包マイクロカプセルの特性制御による迅速な金属回収システムの開発	600	180
	挑戦的萌芽研究	物質工学科 講師	高橋 利幸	糖分泌型藻類を利用したエネルギー創生	900	270
24	若手研究Ｂ	一般科目 講師	吉井 千周	近代法制度におけるマイノリティの固有法と法化現象	900	270
	基盤研究Ｂ海外	建築学科 教授	林田 義伸	アテネのアクロポリスに建つローマとアウグストゥス神殿の実測調査及びその復元的研究	3,700	1,110
	基盤研究Ｃ一般	一般科目 教授	藤永　伸	『ヴィヤヴァハーラ経』を中心とするジャイナ教出家者戒律の総合的研究	1,200	360
	挑戦的萌芽研究	物質工学科 講師	高橋 利幸	糖分泌型藻類を利用したエネルギー創生	1,000	300

※平成１９年度から基盤研究に間接経費が適用されることになった。

〔出典：基礎データ集〕

資料10－１－③－２

外部資金受入状況

（単位：千円）

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
科学研究費補助金	6	8,760	5	5,590	8	18,070	7	9,620	7	15,730
受託研究費	3	10,695	3	7,645	2	2,500	2	800	2	2,700
共同研究費	7	2,850	5	2,150	7	4,470	11	2,650	10	2,650
受託事業										
受託試験	4	58	3	34	1	9	3	98	0	0
寄附金	12	7,100	17	8,283	16	7,168	32	15,440	27	12,959
合計	32	29,463	33	23,702	34	32,217	55	28,608	46	34,039

〔出典：総務課資料〕

資料10－１－③－３

科研費獲得のための方策（具体策）

【科研費申請件数の増加】

①本校が夏季休業中に開催する教員研修の中で科研費ガイダンスを実施する。なお、ガイダンスでは豊橋技術科学大学教員等外部講師による講演・質疑応答、本校で過去に採択された教員によるアドバイス等を行う。〔ＦＤ委員会〕

②各学科等単位で少なくとも１件は複数教員が共同申請することを検討する。〔各学科等〕

③若手教員は、できるだけ「若手研究(B)」分野で申請するよう要請する。〔各学科等、総務課〕

④事前に応募の有無を確認し、申請予定のない教員については、校長名及び研究活動委員会委員長名で申請するよう要請する。〔研究活動委員会〕

⑤平成２１年度から実施している「申請者に対するインセンティブの付与」を継続実施する。ただし、３年後（平成２６年度）に見直しを行う。〔総務課〕

⑥研究活動委員会が実施している「学内共同研究推進のための情報交換会」を推進強化し、学科等横断的な研究課題で共同申請できないか検討する。〔研究活動委員会〕

⑦科研費以外の外部資金への応募を推進することにより、科研費に応募する雰囲気（意識）を高める。〔地域連携センター〕

【科研費申請内容の充実】

⑧過去に採択された申請書を全教員が閲覧できるようにする。〔総務課〕

⑨過去１０年以内に採択された教員を査読委員として発令し、希望する教員には申請書の査読を行う。〔総務課〕

⑩研究活動委員会が実施している「外部資金導入のためのガイダンス」を推進強化する。〔研究活動委員会〕

⑪若手教員へのアドバイス、情報提供等を行う。〔各学科等、総務課〕

⑫希望する教員に外部の専門の方の個別指導が受けられるシステムを検討する。〔総務課〕

注１）〔　〕は実施部署等を示す。

注２）「各学科等」とは、機械工学科、電気情報工学科、物質工学科、建築学科、一般科目文科及び一般科目理科をいう。

注３）「若手教員」とは、研究開始年度の４月１日現在において３９歳以下の教員をいう。

〔出典：科学研究費補助金獲得のための方策（答申）〕

（分析結果とその根拠理由）

「外部資金等」は，年度により多少の変動があるが，3,000 万円前後を推移している。今後，収入を更に増加させるために，科学研究費補助金検討ワーキンググループで提示された科学研究費補助金増に向けて具体策を実施している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

教育研究活動を円滑に推進できるように，収支にかかる計画等は主に予算専門委員会で行っている（資料 10－２－①－１～２）。立案においては，各部署からの要望等を踏まえて，全体的な視野をもって審議する（資料 10－２－①－３）。審議した内容は，校長の決定を経て各部署で実行している。予算の具体的項目を（資料 10－２－①－４）に示す。

観点10－２－①　資料一覧

資料10－２－①－１　都城工業高等専門学校予算専門委員会規則
〔出典：規則集〕

資料10－２－①－２　予算専門委員会議事要録
〔出典：総務課資料〕

資料10－２－①－３　学内予算編成方針等
〔出典：総務課資料〕

資料10－２－①－４　収入・支出予算配分案（当初予算）
〔出典：総務課資料〕

資料10－２－①－１

都城工業高等専門学校予算専門委員会規則

（趣旨）

第１条　この規則は、都城工業高等専門学校運営企画委員会規則第８条第２項の規定に基づき、都城工業高等専門学校予算専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 概算要求事項等に関すること。

(2) 予算（案）の作成に関すること。

(3) 決算に関すること。

(4) 外部資金導入の活性化に関すること。

(5) 施設・設備の整備に関すること。

(6) その他予算に関すること。

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 専攻科長

(2) 各学科長

(3) 一般科目の文科及び理科の科長

(4) 事務部長

(5) 総務課長

(6) 学生課長

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員会に副委員長を置き、委員長の指名する委員をもって充てる。

４　副委員長は、委員長を助け、委員長に事故があるときはその職務を代行する。

（会　議）

第５条　委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

（事　務）

第８条　委員会の事務は，総務課において処理する。

（その他）

第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

〔出典：規則集〕

資料10－２－①－２

予算専門委員会議事要録

予算専門委員会（第１回）議事要録

日　時　　平成２３年４月４日（月）　１５：００～１６：３０
場　所　　楽信館ミーティングルーム１
出席者　　山下委員長、渡辺委員、林田委員、佐藤委員、西村委員、森委員
　　事務部長、総務課長、学生課長
欠席者　　原田委員

議　題
１．委員長選出について
　委員長に山下委員を、副委員長に原田委員を選出した。

２．平成２３年度センター関係予算要求（ヒアリング）について
　各センターからの予算要求について、①地域連携センター②電子計算機センター③技術支援センターの順で各センター長から説明があり、質疑を行った。
　なお、各センターへ、昨年度配分額に対しての決算報告を提出願いたい旨の説明があった。
　また、各センターへの配分については、機構本部からの当初予算配分を受けて検討し決定することとした。

３．学内ＣＡＬＬシステム保守経費について
　平成２１年度に導入したＣＡＬＬシステムは、平成２２年度でシステム保守（無償保証期間）が終了したことから、西村委員から配付資料により説明があり、審議の結果、全体経費から捻出することが了承された。

予算専門委員会（第２回）議事要録

日　時　　平成２３年６月１日（水）　１６：３０～１７：３０
場　所　　楽信館ミーティングルーム１
出席者　　山下委員長、渡辺委員、原田委員、林田委員、佐藤委員、西村委員
　　森委員、事務部長、総務課長、学生課長

議　題

１．平成２２年度決算について
　財務補佐から配付資料「平成２２年度決算報告書」に基づき平成２２年度における予算の執行状況について報告があり、了承された。

２．ＩＳＡＴＥ参加に伴う費用（旅費）について
　今年度のＩＳＡＴＥ参加に伴う費用については、全体経費から按分で捻出することが了承された。

３．平成２３年度予算配分（案）について
　財務補佐から配付資料「平成２３年度収入・支出予算配分案（当初予算）」に基づき説明があり、審議の結果了承され、次回の運営企画委員会へ報告することとなった。

〔出典：総務課資料〕

資料10－２－①－３

学内予算編成方針等

学 内 予 算 編 成 方 針

本校の平成２３年度における予算編成にあたっては、効率化係数による機構配分予算の削減及び再雇用に必要な経費の確保等に対応するため、次の要領により行うものとする。

１．物件費

（１）効率化係数への対応策

効率化係数による減額分を機構予算の費目毎に按分し、費目毎の予算案の原資とする。

（２）非常勤職員雇用経費については、必要額を一般管理費から確保する。

２．在外研究員旅費

在外研究員旅費については、機構配分額の１／２（１５０万円を上限とする。）を教育研究費から確保する。

３．予算案

（１）予算費目

予算案における予算費目は、下記のとおり人件費、教育研究費、教育研究支援経費、一般管理費及び予備費に区分する。

①人件費：雇用等に係る経費
- 非常勤講師経費
- 非常勤職員雇用経費

②教育研究費：教育研究に係る経費

③教育研究支援経費：教育研究支援（図書館・センター運営費等）に係る経費

④一般管理費：学校の管理運営に係る経費

⑤予備費：収入減、臨時の支出にあてるための経費

（２）予算案作成要領

予算案の作成にあたっては、次の配分方法によることとする。

①人件費：非常勤講師経費、非常勤職員雇用経費を計上する。

②教育研究費：原則として従来の配分方法により配分する。
プロジェクト費は、研究費へ戻して研究費として配分する。

③教育研究支援経費：各センターからの要求に基づき、精査した額を計上し、予算額に過不足がある場合は、教育研究費で調整する。

④一般管理費：事務部からの要求に基づき、精査した額を計上する。

⑤光熱水料：光熱水料については、全体経費から前年度実績額を確保する。

⑥備費：予備費については、自己収入減及び臨時の支出にあてるための経費として全体経費から最大５００万円を確保する。

学内予算配分要項

Ⅰ　基本方針

1　教育研究水準の維持向上を目指したものとする。

2　自立制、競争的原理を導入する。

3　社会情勢の変化に柔軟に対応できるものとする。

4　地域社会の連携を推進できるものとする。

Ⅱ　配分方針

1　財源と経費費目について

次のとおり財源を経費費目に配分する。

○　教育経費（本科）、教育経費（専攻科）、学生支援経費（本科）、学生支援経費（専攻科）、国費留学生経費（教育経費）、国費留学生経費（学生支援経費）を教育費、設備充実費、共通費に配分する。

○　研究経費を研究費、プロジェクト費に配分する。

○　管理運営費、維持管理費を管理運営費、予備費に配分する。

なお、財源については、平成１６年度財源配分比率（平成１６年度の各財源配分額を財源配分合計額で除して得た比率）を各年度の財源配分合計額に乗じて得た額により再配分する。

2　教育費について

1）実験実習費、教材費、卒業研究費等教育に必要な予算を配分する。

2）財源の教育経費（専攻科）及び学生支援経費（専攻科）は、専攻科の教育費として直接配分する。

3　研究費について

1）研究旅費、機器の購入・更新・維持管理等研究に必要な予算を配分する。

2）専攻科の研究費は、学生現員に応じて予算を配分する。

4　設備充実費について

教育研究設備の充実・維持管理に必要な予算を配分する。

5　共通費について

関連学科等へ所要額を配分する。

6　プロジェクト費について

1）効果的な教育方法の開発や研究の推進等に必要な予算を配分する。

2）申請制度によるものとする。

7　管理運営費について

光熱水料費、人件費、通信費等の所要額を配分する。

8　予備費について

偶発的な経費に対応できる予算を留保する。

9　財源の増減について

学内積算単価及び配分額は、平成１６年度財源をベースとして算出しており、財源が増減した場合は、その増減に比例して経費費目を按分し予算を配分する。

Ⅲ　配分方法

1　教育費

1）実験実習費

①学内積算単価（6,815 円）により、学生定員に基づき各学科へ配分する。

②一般科目（物理、化学）及び応用物理については、物理：348 千円、化学：434 千円、応用物理：348 千円をそれぞれ配分する。

③専攻科に 1,436 千円を配分する。

2）教材費

①学内積算単価（33,000 円）により、教員現員（当該年度の４月１日現在。以下同じ。）に基づき各学科等へ配分する。

②一般科目（英語、数学、体育）については、演習等に必要な予算（英語：216 千円、数学：609 千円、体育：262 千円）を含めて配分する。

③専門共通・一般共通として 87 千円を配分する。

3）卒業研究費

学内積算単価（174,139 千円）により、教員現員に基づき各学科等へ配分する。

2　研究費

①学内積算単価（426,335 千円）により、教員現員に基づき各学科等へ配分する。

②専攻科分については、学内積算単価（122,793 千円）により、専攻科学生現員（当該年度の４月１日現在）に基づき各学科へ配分する。

3　設備充実費

①各学科へ１学科当たり 1,351 千円を配分する。

②一般科目（物理、化学）及び応用物理については、507 千円をそれぞれ配分する。

③専門共通・一般共通として 337 千円を配分する。

4　共通費

研究紀要費：633 千円、非常勤講師（音楽、美術、外国人教師）教材費：78 千円、ＡＶＲ運営費：93 千円、実習工場運営費：260 千円を関連学科等に配分する。

5　プロジェクト費

各教員からの申請に基づき校長の裁量により配分する。

6　管理運営費

事務部に管理運営費を配分する。

7　予備費

5,000 千円を予備費とし、運営企画委員会の議を経て配分する。

附　則

この要項は、平成２３年４月１日から施行する。

平成23年度財源・経費費目関連表

単位〔千円〕

【財　源】

事　　項	本部配分額	合　計	再配分額
教育経費（本科）	23,472		
教育経費（専攻科）	1,190		
学生支援経費（本科）	4,856	29,904	28,255
学生支援経費（専攻科）	246		
国費留学生経費（教育経費）	116		
国費留学生経費（学生支援経費）	24		
研究経費	35,303	35,303	33,645
合　　計	65,207	65,207	61,900

【経費費目】

事　　項	配分率	配分額
教育費	0.6651	18,792
設備充実費	0.257	7,262
共通費	0.0779	2,201
研究費		33,645
小　　計		61,900
在外研究員旅費		0
合　　計		61,900

	①H23配分額	②（非常勤人件費）	①－②	拠出額	配分額	教育支援経費補填額	再配分額
教育経費	29,435		29,435	−1,806	27,629	625	28,255
研究経費	35,051		35,051	−2,150	32,901	745	33,645
教育研究支援経費	15,385		15,385	−944	14,441	−1,370	13,071
一般管理費	175,662	**−55,333**	120,329	−7,381	112,948		112,948
合　計	255,533	**−55,333**	200,200	−12,281	187,919		187,919

,

55,333＝非常勤講師給与(23,822)、非常勤職員給与(31,511)

12,281＝予備費(5,000)、CALLｼｽﾃﾑ保守(786)、ISATE旅費(500)、ネットワーク関係経費(5,995)

ネットワーク関係不足額＝8,175−2,180(機構配分額)＝5,995

教育研究支援経費＝14,441−13,071(教育研究支援経費必要額)＝1,370

平成23年度教育研究等経費配分額内訳

区分		教員数	教育費				設備充実費	研究費	共通費	合計	備考
			実験実習費	教材費	卒業研究費	計					
校長		1	0	0	0	0	0	588	0	588	
専攻科			1,436	0	0	1,436	0	0	0	1,436	
専門学科	機械工学科	11	1,363	363	1,915	3,641	1,351	5,550	195	10,737	
	電気情報工学科	11	1,363	363	1,915	3,641	1,351	6,163	195	11,350	
	物質工学科	11	1,363	363	1,915	3,641	1,351	6,532	195	11,719	
	建築学科	10	1,363	330	1,743	3,436	1,351	5,860	178	10,825	
	計	43	5,452	1,419	7,488	14,359	5,404	24,105	763	44,631	
専門共通	応用物理	1	348	33		381	507	426	18	1,332	
	応用数学	1	0	33		33		426	18	477	
	電算機センター	1	0	33		33		426	18	477	
	計	3	348	99	0	447	507	1,278	54	2,286	
一般理科	物理	1	348	33		381	507	426	18	1,332	
	化学	1	434	33		467	507	426	18	1,418	
	体育	2	0	328		328		853	35	1,216	
	数学	4	0	741		741		1,706	71	2,518	
	計	8	782	1,135	0	1,917	1,014	3,411	142	6,484	
一般文科	国語	2	0	66		66		853	35	954	
	哲学	1	0	33		33		426	18	477	
	歴史	1	0	33		33		426	18	477	
	法学・経済学	1	0	33		33		426	18	477	
	英語	5	0	381		381		2,132	89	2,602	
	計	10	0	546	0	546	0	4,263	178	4,987	
専門共通・一般共通				87		87	337		0	424	
学内共通						0			1,064	1,064	
合計		65	8,018	3,286	7,488	18,792	7,262	33,645	2,201	61,900	

（備考）

1. 実験実習費は、学生定員に学内積算単価（6,815円）を乗じて算出したものである。なお、専攻科に1,436千円、応用物理、物理に348千円、化学に434千円をそれぞれ配分する。
2. 教材費は、教員定員（23年4月1日現在）に学内積算単価（33,000円）を乗じて算出したものである。
   なお、体育に262千円、数学に609千円、英語に216千円をそれぞれ含めて配分し、専門共通・一般共通分として87千円を配分する。
3. 卒業研究費は、教員定員（23年4月1日現在）に学内積算単価（174,139円）を乗じて算出したものである。
4. 設備充実費は、各専門学科に1,351千円、応用物理・物理・化学に507千円、専門共通・一般共通に337千円をそれぞれ配分する。
5. 研究費は、教員定員（23年4月1日現在）に学内積算単価（426,335円）を乗じて算出したものであり、さらに専門学科については専攻科学生現員（23年5月1日現在）に学内積算単価（122,793円）を乗じて算出した額を加えたものである。
6. 共通費は、研究紀要費633千円、非常勤講師（音楽、美術、外国人教師）教材費78千円、AVR運営費93千円、実習工場運営費260千円に配分し、残額は教員当（17,765円）を配分する。

※参考　○教員定員…機械工学科11人、電気情報工学科11人、物質工学科11人、建築学科10人、一般21人

　　○学生定員…各学科200人　○専攻科学生現員…機械工学科7人、電気工学科12人、物質工学科15人、建築学科13人

［出典：総務課資料］

資料10－２－①－４

収入・支出予算配分案（当初予算）

平成23年度収入・支出予算配分案（当初予算）

（単位：千円）

事　　項	①予算額(H23)	①予算額(H22)	増減額(①－②)	備　　考
収入				
(1)運営費交付金	41,976	812,529	−770,553	
常勤教職員人件費	0	720,151	−720,151	(H23機構本部一括管理)
退職手当	0	33,402	−33,402	〃
赴任旅費	0	0	0	
その他の経費	41,976	58,976	−17,000	
(2)自己収入	231,679	231,712	−33	
入学料収入	16,746	16,968	−222	
授業料収入	200,418	199,801	617	
検定料収入	5,054	5,206	−152	
雑収入	9,461	9,737	−276	
合　　計	273,655	1,044,241	−770,586	
支出				
(1)人件費	55,333	821,158	−765,825	
常勤教職員給与	0	735,256	−735,256	超過勤務手当含む
退職手当	0	33,402	−33,402	
非常勤教員給与	23,822	20,423	3,399	
非常勤職員給与	31,511	32,077	−566	(H23見込額)
再雇用職員経費	0	0	0	(H23機構本部一括管理)
(2)教育研究費	71,909	70,843	1,066	
校長	588	536	52	
専攻科	1,436	1,317	119	
機械工学科	11,358	11,616	−258	実習工場(260千円)含む
電気情報工学科	12,577	11,886	691	
物質工学科	12,618	12,032	586	
建築学科	10,980	10,093	887	
一般科目	14,352	13,463	889	音楽・美術、AVR(171千円)含む
小計	63,909	60,943	2,966	
教育充実設備費	7,000	7,000	0	
非常勤講師旅費	1,000	2,900	−1,900	(H23見込額)
(3)教育研究支援経費	20,126	21,331	−1,205	
地域連携センター	1,689	1,721	−32	
電子計算機センター	400	820	−420	
技術支援センター	2,477	3,373	−896	
ネットワーク関係経費	8,175	7,997	178	(FCサーバ、メールサーバ)
教育用電子計算機借料	6,325	6,325	0	
小計	19,066	20,236	−1,170	
学生図書購入費	920	920	0	(H22実績額)
留学生経費	140	175	−35	(機構配分額)
(4)一般管理費	111,287	118,909	−7,622	
厚生補導経費	13,315	13,315	0	(H23見込額)
厚生補導設備充実費	6,000	10,000	−4,000	(機構配分額)　(学生寮生活環境整備経費)
公開講座実施経費	745	800	−55	(H23見込額)　(開講数 11件)
光熱水料	32,000	30,090	1,910	〃
通信費	3,300	3,300	0	〃
業務委託・保守等経費	18,750	19,760	−1,010	〃
維持管理費	6,000	9,000	−3,000	〃
校地維持・整備経費	2,000	2,400	−400	〃
寄宿舎費	1,000	2,000	−1,000	〃
車両維持費	1,400	1,500	−100	〃
職員厚生経費	800	800	0	〃
一般旅費	8,500	7,000	1,500	〃　(内地研究員2,121千円)含む
その他管理経費	17,477	18,944	−1,467	〃
(5)校長裁量経費	10,000	7,000	3,000	科研費新規申請者配分予定額　800千円
(6)予備費	5,000	5,000	0	
合　　計	273,655	1,044,241	−770,586	

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

計画立案が一部の関係者ではなく，全学的な視野を持った予算専門委員会で行っており，最終的には校長が決定している。また，決定事項は予算専門委員会委員を通じて，学内の関係者に策定計画等を伝達している。したがって，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示している。

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

予算に基づく計画的な執行を行っており，収支をまとめた損益計算書によれば，経常利益（経常収益－経常費用）は，過去５年間において，90 万円～3,280 万円の中で推移しており，支出超過となっていない（資料 10－２－②－１）。

観点10－２－②　資料一覧

資料10－２－②－１　損益計算書

〔出典：総務課資料〕

資料10－２－②－１

損益計算書

平成19年度～平成23年度　損益計算書(報告式)

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
[経常費用]	1,341,049,349	1,329,218,293	1,271,137,025	1,153,254,840	361,934,449
業務費	1,290,102,899	1,278,340,903	1,229,196,286	1,094,502,306	320,188,325
教育・研究経費	224,442,845	236,924,233	282,032,673	222,826,884	237,892,853
消耗品費	68,299,865	75,363,115	99,012,100	58,833,801	56,949,026
備品費	18,714,820	19,473,156	36,161,586	13,391,012	18,794,374
印刷製本費	3,837,622	2,488,968	2,457,514	2,525,306	2,785,367
水道光熱費	26,678,186	27,339,143	23,383,324	29,066,181	29,401,792
電気料	19,067,317	19,144,258	16,971,846	18,696,137	19,998,358
ガス料	6,007,588	6,866,909	5,506,207	8,874,981	7,869,112
水道料	1,603,281	1,327,976	905,271	1,495,063	1,534,322
旅費交通費	9,481,847	12,228,655	12,698,206	11,564,261	13,554,606
通信運搬費	2,312,714	1,897,604	2,173,852	2,294,189	1,980,492
賃借料	4,867,219	3,108,081	4,080,193	3,647,263	3,325,895
車両燃料費	0	2,313	3,091	17,730	14,222
福利厚生費	0	0	0	0	0
保守費	4,906,661	5,530,523	7,369,396	6,102,513	6,720,488
修繕費	11,692,519	20,333,361	21,133,445	19,798,729	20,235,481
損害保険料	0	0	0	0	0
広告宣伝費	0	0	309,795	331,665	1,211,114
行事費	0	0	0	0	0
諸会費	1,356,593	1,573,823	1,671,287	2,046,026	2,081,012
会議費	0	0	0	0	0
委託調査研究費	0	0			
文献複写費	52,132	82,374			
支払派遣費	0	0			
プログラム開発費	0	0			
業務委託費	6,606,545	7,260,424			
支払報酬	1,954,450	7,664,545			
諸謝金	1,954,450	7,664,545			
報酬・委託・手数料			15,358,224	17,664,625	14,546,300
委託調査研究費			0	0	0
文献複写費			73,190	87,566	45,216
支払派遣費			0	0	0
プログラム開発費			0	0	0
業務委託費			7,488,384	7,927,131	6,996,570
支払報酬・諸謝金			6,484,150	9,544,928	7,399,514
支払手数料			1,312,500	105,000	105,000
奨学費	18,266,100	16,649,850	16,213,350	8,489,100	10,137,900
奨学交付金(授業料)	18,181,500	16,480,650	16,128,750	7,896,900	9,207,300
奨学交付金(入学金)	84,600	169,200	84,600	592,200	930,600
奨学交付金(検定料)			0	0	0
奨学交付金(その他)	0	0	0	0	0
留学生給与	0	0	0	0	0
減価償却費	20,227,695	25,559,593	26,946,676	37,007,758	46,594,466
貸倒損失	0	234,600	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
雑費	25,187,877	10,134,105	13,060,634	10,046,725	9,560,318
傭船料	0	0	0	0	0
特許出願費	0	0	0	0	0
環境整備費	6,439,233	6,058,128	6,096,951	7,415,946	7,058,136
移設撤去費	0	0	0	0	233,510
損害賠償費	0	0	0	0	0
雑役務費	18,748,644	4,075,977	6,963,683	2,630,779	2,268,672
教育研究支援経費	20,660,418	17,803,739	26,134,139	28,284,067	27,520,685
消耗品費	3,538,928	2,547,819	5,399,585	8,568,004	4,251,690

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
備品費	149,800	755,079	6,415,024	2,366,660	1,268,486
印刷製本費	0	0	0	0	279,544
水道光熱費	1,848,995	1,919,139	1,627,887	2,069,378	2,053,906
電気料	1,238,991	1,262,239	1,113,987	1,237,731	1,299,564
ガス料	483,367	552,509	443,027	714,077	633,147
水道料	126,637	104,391	70,873	117,570	121,195
旅費交通費	0	235,120	916,145	2,703,960	1,426,850
通信運搬費	1,885,118	1,949,055	1,884,325	1,988,228	1,951,529
賃借料	6,493,000	0	0	0	0
車両燃料費	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0
保守費	2,566,409	4,160,403	4,074,841	3,426,707	3,823,815
修繕費	1,297,445	2,641,359	1,602,748	662,966	4,066,655
損害保険料	0	0	0	0	0
広告宣伝費	0	0	0	0	0
行事費	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	20,120	8,120	0
会議費	0	0	0	0	0
支払派遣費	1,601,460	1,106,014			
プログラム開発費	0	0			
業務委託費	425,268	505,854			
支払報酬	0	0			
諸謝金	0	0			
報酬・委託・手数料			1,541,981	1,531,611	2,160,537
支払派遣費			0	0	596,804
プログラム開発費			0	0	0
業務委託費			1,541,981	1,531,611	1,563,733
支払報酬・諸謝金			0	0	0
支払手数料			0	0	0
減価償却費	276,455	529,104	1,490,012	3,911,794	3,971,207
貸倒損失	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
雑費	577,540	1,454,793	1,161,471	1,046,639	2,266,466
環境整備費	486,922	417,964	524,751	505,259	687,228
移設撤去費	0	0	0	0	0
損害賠償費	0	0	0	0	0
雑役務費	90,618	1,036,829	636,720	541,380	1,579,238
受託研究費	11,095,000	7,645,000	2,499,999	800,000	2,307,693
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の受託研究費	0	0	0	0	0
その他	11,095,000	7,645,000	2,499,999	800,000	2,307,693
謝金	0	63,880	0	0	99,640
旅費交通費	60,760	572,840	101,160	0	296,060
人件費	0	0	0	0	0
物件費	9,387,765	5,456,197	1,170,540	800,000	1,558,468
減価償却費	0	0	997,499	0	0
租税公課	0	24,033	0	0	0
その他の受託研究費	1,646,475	1,528,050	230,800	0	353,525
共同研究費	4,499,998	4,650,000	5,120,000	3,450,000	1,450,000
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	0	0	0	0	0

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の共同研究費	0	0	0	0	0
その他	4,499,998	4,650,000	5,120,000	3,450,000	1,450,000
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	445,500	531,080	331,850	184,044
人件費	0	0	0	0	0
物件費	2,716,936	3,970,479	3,706,836	2,863,164	1,254,326
減価償却費	1,282,998	0	0	0	0
租税公課	64	0	3,949	744	0
その他の共同研究費	500,000	234,021	878,135	254,242	11,630
受託事業費	58,800	34,300	9,800	98,000	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の受託事業費	0	0	0	0	0
その他	58,800	34,300	9,800	98,000	0
謝金	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0
物件費	58,800	34,300	9,800	98,000	0
減価償却費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
その他の受託事業費	0	0	0	0	0
教員人件費	657,163,854	618,896,653	558,956,842	562,589,569	23,134,914
常勤教員給与	636,508,053	603,470,405	538,623,282	538,529,591	0
常勤教員給与	378,569,965	379,732,036	369,589,845	372,482,944	0
常勤教員賞与	150,403,322	150,664,093	131,987,590	126,483,323	0
常勤教員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
常勤教員退職給付費用	100,241,362	65,913,882	32,053,656	33,319,320	0
常勤教員法定福利費	7,293,404	7,160,394	4,992,191	6,244,004	0
非常勤教員給与	20,655,801	15,426,248	20,333,560	24,059,978	23,134,914
非常勤教員給与	20,560,093	15,340,436	20,271,940	23,460,940	23,134,914
非常勤教員賞与	0	0	0	526,880	0
非常勤教員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
非常勤教員退職給付費用	0	0	0	0	0
非常勤教員法定福利費	95,708	85,812	61,620	72,158	0
職員人件費	372,181,984	392,386,978	354,442,833	276,453,786	27,882,180
役員報酬	0	0	0	0	0
役員報酬	0	0	0	0	0
役員賞与	0	0	0	0	0
役員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
役員退職給付費用	0	0	0	0	0
役員法定福利費	0	0	0	0	0
常勤職員給与	345,979,355	358,088,531	315,001,587	235,554,198	0
常勤職員給与	214,126,627	191,288,950	186,439,120	179,145,167	0
常勤職員賞与	75,357,856	67,418,253	59,119,224	53,489,897	0
常勤職員賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0
常勤職員退職給付費用	52,530,171	95,863,794	66,697,832	0	0
常勤職員法定福利費	3,964,701	3,517,534	2,745,411	2,919,134	0
非常勤職員給与	26,202,629	34,298,447	39,441,246	40,899,588	27,882,180
非常勤職員給与	20,003,543	25,235,323	29,604,719	31,790,793	25,209,246
非常勤職員賞与	2,042,758	3,578,776	3,913,303	3,708,386	2,671,261
非常勤職員賞与引当金繰入額	965,106	1,222,674	1,107,968	0	0
非常勤職員退職給付費用	0	0	0	167,220	0
非常勤職員退職給付引当金繰入額	201,750	261,630	263,490	0	0
非常勤職員法定福利費	2,989,472	4,000,044	4,551,766	5,233,189	1,673

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
一般管理費	50,946,450	50,168,943	41,381,173	58,345,801	41,496,272
一般管理費	50,946,450	50,168,943	41,381,173	58,345,801	41,496,272
消耗品費	9,294,336	8,168,215	10,132,723	9,199,251	5,785,072
備品費	1,605,860	709,660	627,030	1,142,715	1,101,642
印刷製本費	3,011,982	2,870,595	2,613,085	3,607,254	3,073,918
水道光熱費	2,203,557	2,517,782	2,927,342	2,062,934	1,844,783
電気料	1,454,023	1,494,832	1,918,300	1,060,911	1,113,909
ガス料	414,318	728,257	803,737	612,067	542,697
水道料	335,216	294,693	205,305	389,956	188,177
旅費交通費	9,497,397	11,743,851	8,682,572	9,628,117	11,268,695
通信運搬費	1,688,475	1,302,017	1,593,180	2,440,904	2,235,938
賃借料	984,540	476,280	476,280	476,280	502,740
車両燃料費	632,673	679,890	721,632	687,178	828,416
福利厚生費	699,000	570,000	634,646	628,641	676,275
保守費	1,367,472	1,527,838	1,688,214	1,544,482	1,404,846
修繕費	5,250,203	4,754,916	2,971,659	8,463,173	2,882,963
損害保険料	60,287	55,284	51,322	52,208	57,894
広告宣伝費	0	0	0	235,200	331,309
行事費	0	119,840	245,000	555,675	410,740
諸会費	763,030	847,115	752,000	821,625	797,885
会議費	0	0	0	0	0
委託調査研究費	0	0			
支払派遣費	0	0			
プログラム開発費	0	0			
業務委託費	1,091,738	5,068,087			
諸謝金	209,102	82,057			
支払手数料	412,393	127,260			
銀行手数料	374,593	101,850			
その他手数料	37,800	25,410			
報酬・委託・手数料			1,678,274	2,923,363	1,518,608
委託調査研究費			0	0	0
支払派遣費			0	0	0
プログラム開発費			0	0	0
業務委託費			678,044	2,109,538	676,028
諸謝金			886,830	706,725	735,480
その他報酬			0	0	0
支払手数料・銀行手数料			100,800	100,800	100,800
支払手数・その他手数料			12,600	6,300	6,300
租税公課	1,442,405	1,376,483	1,409,018	1,364,330	1,382,990
自動車重量税	81,900	81,900	119,700	72,600	95,000
固定資産税	1,281,600	1,281,600	1,277,100	1,280,500	1,280,500
収入印紙代	0	5,800	1,100	2,100	2,200
消費税等	0	0	0	0	0
その他の租税公課	78,905	7,183	11,118	9,130	5,290
減価償却費	2,773,856	3,220,466	1,757,340	1,443,844	1,485,838
貸倒損失	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
雑費	7,958,144	3,951,307	2,419,856	11,068,627	3,905,720
環境整備費	1,578,396	667,858	542,367	9,255,598	1,851,423
移設撤去費	0	0	136,815	0	0
雑役務費	6,379,748	3,283,449	1,740,674	1,813,029	2,054,297
財務費用	0	708,447	559,566	406,733	249,852
財務費用	0	708,447	559,566	406,733	249,852
支払利息	0	708,447	559,566	406,733	249,852
その他の財務費用	0	0	0	0	0
雑損	0	0	0	0	0
雑損	0	0	0	0	0
[経常費用]合計	0	0	0	0	0
[経常収益]	1,373,802,504	1,337,148,397	1,290,335,465	1,154,531,478	362,927,437
[経常収益]運営費交付金収益	1,068,362,808	1,078,456,954	1,008,544,915	894,208,565	82,108,367

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
[経常収益]授業料収益	193,241,893	176,527,830	158,369,934	171,137,168	181,898,684
[授業料収益]授業料収益	193,011,893	176,391,430	158,122,334	171,010,568	181,799,884
[授業料収益]講習料収益	230,000	136,400	247,600	126,600	98,800
[経常収益]入学金収益	16,920,000	16,522,100	17,198,900	15,989,400	16,835,400
[経常収益]検定料収益	5,433,400	5,070,400	5,313,000	4,488,000	5,214,000
[経常収益]受託研究等収益	15,595,000	12,295,000	7,620,000	4,250,000	4,150,000
受託研究収益	11,095,000	7,645,000	2,500,000	800,000	2,700,000
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	11,095,000	7,645,000	2,500,000	800,000	2,700,000
共同研究収益	4,500,000	4,650,000	5,120,000	3,450,000	1,450,000
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	4,500,000	4,650,000	5,120,000	3,450,000	1,450,000
[経常収益]受託事業等収益	58,800	34,300	9,800	98,000	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	58,800	34,300	9,800	98,000	0
[経常収益]補助金等収益	0	0	28,544,135	864,600	0
[経常収益]寄附金収益	7,280,404	12,341,643	8,739,708	13,397,496	15,107,688
[経常収益]施設費収益	25,633,608	1,605,101	18,539,371	2,394,846	0
[経常収益]資産見返負債戻入	31,664,991	23,387,163	24,272,028	36,535,129	45,514,386
資産見返運営費交付金等戻入	8,772,242	11,546,969	19,614,909	26,875,956	31,897,218
資産見返運営費交付金戻入	8,681,377	10,323,847	14,275,274	14,797,918	12,870,860
資産見返授業料戻入	90,865	1,223,122	5,339,635	12,078,038	19,026,358
資産見返補助金等戻入	0	0	2,239,286	8,172,739	12,325,870
資産見返寄附金戻入	10,370,850	1,717,729	1,128,717	650,247	647,076
資産見返物品受贈額戻入	12,521,899	10,122,465	1,289,116	836,187	644,222
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返授業料戻入	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返寄附金戻入	0	0	0	0	0
[経常収益]財務収益	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0
有価証券利息			0	0	0
その他の財務収益	0	0	0	0	0
[経常収益]雑益	9,611,600	10,907,906	13,183,674	11,168,274	12,098,912
財産貸付料収入	8,441,600	8,213,830	8,029,337	8,216,808	7,697,625
寄宿料収入			2,280,000	2,440,300	2,573,100
職員宿舎貸付料収入			4,884,921	4,804,072	4,569,362
学校財産貸付料収入			864,416	972,436	555,163
文献複写料	0	0	0	0	0
物品受贈益	0	0	0	0	0
債権受贈益	0	0	0	0	0
承継剰余金債務戻入	0	0	0	0	0
間接経費収入	1,170,000	1,800,000	4,620,000	2,520,000	4,050,000
科学研究費補助金等間接経費収入			4,620,000	2,520,000	4,050,000
補助金等間接経費収入			0	0	0
刊行物売払代			0	0	0
不用物品売払代			383,880	338,860	193,340
弁償及び違約金			0	0	0
受取保険料			0	0	0
版権及び特許権等収入			0	0	0
助成金等収入			150,457	92,606	157,947
その他の雑益	0	894,076	0	0	0
[経常収益]合計	0	0	0	0	0
経常利益	0	0	0	0	0
[臨時損失]	−32,701,624	−8,842,380	−19,653,376	1,785,735	3,403,215
[臨時損失]固定資産除却損	32,701,624	8,842,380	19,653,376	1,729,455	1,345,896
固定資産除却損(固定資産簿価)			1,838,200	5	0
固定資産除却損(解体撤去費)			17,815,176	1,729,450	1,345,896
[臨時損失]固定資産売却損	0	0	0	0	0
[臨時損失]災害損失	0	0	0	0	0

勘定科目表示名称	平成19年度 明細金額	平成20年度 明細金額	平成21年度 明細金額	平成22年度 明細金額	平成23年度 明細金額
[臨時損失]減損損失	0	0	0	0	0
[臨時損失]国庫納付金					0
[臨時損失]その他の臨時損失	0	0	0	56,280	2,057,319
[臨時損失]合計	0	0	0	0	0
[臨時利益]	0	167,645	2,688,964	3,406,969	2,057,319
[臨時利益]固定資産売却益	0	0	0	0	0
[臨時利益]貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入	0	0	0	0	0
[臨時利益]退職給付引当金戻入	0	0	0	926,640	0
[臨時利益]資産見返負債戻入	0	167,645	1,838,200	5	0
資産見返運営費交付金等戻入	0	0	0	0	0
資産見返運営費交付金戻入	0	0	0	0	0
資産見返授業料戻入	0	0	0	0	0
資産見返補助金等戻入	0	0	0	0	0
資産見返寄附金戻入	0	0	1,838,200	0	0
資産見返物品受贈額戻入	0	167,645	0	5	0
[臨時利益]その他引当金戻入	0	0	0	0	0
[臨時利益]運営費交付金収益					0
[臨時利益]授業料収益					0
[臨時利益]補助金等収益					0
[臨時利益]施設費収益					0
[臨時利益]その他の臨時利益	0	0	850,764	2,480,324	2,057,319
[臨時利益]合計	0	0	0	0	0
[当期純利益(純損失)]	51,531	−744,631	2,234,028	2,897,872	−352,908
[前中期目標期間繰越積立金取崩額]			0	0	0
[目的積立金取崩額]	0	0	0	0	0
[当期総利益(総損失)]	51,531	−744,631	2,234,028	2,897,872	−352,908

※常勤教員・常勤職員の給与・賞与・退職金等の人件費については、平成23年度から本部で一括処理のため本調書には計上されていない。

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

収支の状況は，過去５年間において経常利益を計上しており，支出超過とはなっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

教育活動に関する資源配分を検討する予算専門委員会は，全学の各部署からの代表者によって構成しており，その審議は一部に偏ることなく全体的な見地に立って行っている。また，その審議結果は全学の最高責任者である校長の決定によって最終的に実行される（前述資料10－２－①－４）。

教育研究上，特に必要とされる経費については，教員からの申請により「高等教育充実設備費」として予算を重点的に配分している（資料10－２－③－１）。また，大型の施設・設備の整備に必要な予算については，「設備整備費マスタープラン」等により高専機構に予算要求を行っている（資料10－２－③－２）。

観点10－２－③　資料一覧

資料10－２－③－１　高等教育充実設備費年度別申請一覧

〔出典：総務課資料〕

資料10－２－③－２　設備整備費マスタープラン等採択一覧

〔出典：総務課資料〕

資料10－２－③－１

高等教育充実設備費年度別申請一覧

（単位：千円）

年度	学科等名	設　　備　　名	要求金額	示達額 (配分額)
19	建築学科	学生演習用３次元ＣＡＤ用システム	4,688	4,688
	機械工学科	３次元ＣＡＤ教育用システム	8,505	2,470
	図書館	閲覧室内個別学習スペースの整備	2,170	1,442
	計		15,363	8,600
20	電気情報工学科	ホール効果測定装置	7,000	7,000
	計		7,000	7,000
	機械工学科	ディーゼルエンジン性能試験装置	5,697	
	物質工学科	原子吸光光度計	7,000	
	一般科目理科	蛍光分光光度計	2,142	
21	建築学科	立体意匠造形演習システム	7,000	7,000
	計		7,000	7,000
	物質工学科	材料分離解析装置	7,000	
	一般科目理科	蛍光分光光度計・ジャンプ能力測定フォースプレート	4,604	
22	機械工学科	試作品を利用した動的挙動評価システム	6,986	6,986
	一般科目理科	エクスジャパー(Ex-Juumper)	1,153	1,153
	計		8,139	8,139
	電気情報工学科	測光・測色評価設備	7,000	
	建築学科	表面温度分布可視化システム	6,033	
	一般科目理科	イオンクロマトグラフ	6,993	
	技術支援センター	ガス溶解炉	6,878	
23	物質工学科	高機能マイクロリアクター製造装置及び評価装置	6,504	6,504
	計		6,504	6,504
	電気情報工学科	測光・測色評価設備	7,000	
	実習工場	ガス溶解炉	6,878	
	図書館	ブックディテクションシステム	2,100	

〔出典：総務課資料〕

資料10－２－③－２

設備整備費マスタープラン等採択一覧

（単位：千円）

年度	学科等名	設　　備　　名	要求金額	示達額
20	機械工学科	ディーゼルエンジン性能試験装置	5,699	5,130
	物質工学科	原子吸光光度計	6,033	5,430
	地域連携センター	e-learning用コンテンツ作成	1,011	910
	実習工場	再生支援経費（ﾜｲﾔｶｯﾄ、ﾌﾗｲｽ盤、研削盤、精密旋盤）	40,000	40,000
21	電気情報工学科	誘導電導機特性実験装置	5,802	5,800
	一般科目理科	蛍光Ｘ線分析装置	7,600	7,600
	一般科目文科	ＬＬシステム	28,245	28,200
	物質工学科	高速冷却遠心分離機	5,150	5,000
	電気情報工学科	液面制御実験装置	8,164	8,000
	実習工場	小型汎用精密旋盤	12,075	11,655
	〃	帯鋸盤	4,550	2,761
	〃	半自動精密旋盤	9,975	10,710
22	物質工学科	核磁気共鳴装置	19,800	24,701
	電気情報工学科	低温実験装置	8,269	
	実習工場	研削盤	13,230	12,200
	〃	マシニングセンタ	13,965	12,900
	物質工学科	ガスクロマトグラフ	14,400	13,300
23	一般科目理科	イオンクロマトグラフ分析装置	6,993	13,500
	実習工場	ガス溶解炉	9,345	

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

教育活動に関する資源配分は，全学の各部署からの代表者によって構成される予算専門委員会において審議される。また，その審議結果は校長の決定により実行される。したがって，教育研究活動に関する資源配分は適切に行っている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

高専機構として，ひとつの財務会計システムを構築しており，全国 51 高専はこのシステムにアクセスし，統一された勘定科目・仕訳等により財務会計処理を行っている。

高専機構理事長は，翌事業年度５月末日までに財務諸表を作成することとなっているため（資料 10－３－①－１），年度末決算後，このシステムにより財務諸表等を作成し，高専機構ホームページで公開している（資料 10－３－①－２）。

観点10－３－①　資料一覧

資料10－３－①－１　高専機構会計規則（抜粋）

〔出典：国立高等専門学校機構規則第３４号〕

資料10－３－①－２　財務諸表

〔出典：国立高等専門学校機構のウェブサイト〕

資料10－３－①－１

高専機構会計規則（抜粋）

（年度末決算）

第４４条　年度末決算に際しては，当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行って，所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

２　理事長は，前項の整理を行った後，翌事業年度５月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

一　貸借対照表

二　損益計算書

三　キャッシュ・フロー計算書

四　利益の処分又は損失の処理に関する書類

五　行政サービス実施コスト計算書

六　附属明細書

３　前項各号の書類の様式は，別に定めるものとする。

〔出典：国立高等専門学校機構規則第３４号〕

資料10－３－①－２

財務諸表

独立行政法人国立高等専門学校機構ホームページ

財務に関する情報

▸ 財務諸表
- 平成22年度 NEW
- 平成21年度
- 平成20年度
- 平成19年度
- 平成18年度
- 平成17年度
- 平成16年度

▸ 決算報告書
- 平成22年度 NEW
- 平成21年度
- 平成20年度
- 平成19年度
- 平成18年度
- 平成17年度
- 平成16年度

〔出典：国立高等専門学校機構のウェブサイト〕

（分析結果とその根拠理由）

高専機構会計規則第 44 条により，当該年度における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し，真正な数値を把握するため各帳簿の締切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行って，所定の手続きに従って決算数値を確定している。

また，高専機構理事長は，翌事業年度５月末日までに財務諸表を作成し，公表している。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

会計監査については，九州地区の熊本高専・鹿児島高専・沖縄高専及び本校の４高専による高専相互会計内部監査を毎年度実施しており、平成 23 年度は沖縄工業高等専門学校による高専相互会計内部監査が実施された（資料 10－３－②－１）。科学研究費補助金に関する内部監査については，平成 24 年度から学内において内部監査を行うこととした（資料 10－３－②－２）。また、高専機構による監事監査・内部監査を平成 25 年２月に受ける予定である（資料 10－３－②－３）。

観点10－３－②　資料一覧

資料10－３－②－１　高専相互会計内部監査

〔出典：総務課資料〕

資料10－３－②－２　科学研究費補助金内部監査

〔出典：総務課資料〕

資料10－３－②－３　監事監査・内部監査の概要

〔出典：総務課資料〕

資料10－３－②－１

高専相互会計内部監査

平成２３年度　高専相互会計内部監査の実施について

１　目　的

法人として各学校間の相互監査制度を確立し、他校の職員を監査員として実効性のある監査を実施することで機構全体の会計内部監査体制を強化し、会計業務の適正且つ効率的な推進に資すると共に、相互監査を通じて会計業務の改善に寄与することを目的とする。

２　根拠規則等

(1) 会計規則（第 34 号）

第４５条　理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

２　内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。

(2) 研究費等の管理・監査の実施方針

第11の２　各学校間の相互監査制度を構築し，内部監査体制の強化を図る。

(3) 研究費等不正防止計画

Ⅵ－②　本部は，各学校間の相互監査制度を構築し，各学校が独自に行っている内部監査から他校の監査員による相互監査への移行を図り，内部監査体制を強化する。

Ⅵ－④　各学校間の相互監査制度の構築にあたっては，当該制度を機構全体の監査体制強化の取り組みとして位置付け，各学校の監査員に対して必要な権限を付与する。

３　監査校・被監査校

- 平成２３年度　監査校・被監査校一覧表（別表のとおり）

４　監査日程

- 原則として、平成２３年１０月から平成２４年１月までの間に、監査校・被監査校が協議して監査日程（３日間程度）を決定する。

５　監査員

(1) 監査員の任命

① 監査員は、会計規則第４５条第１項に基づき、理事長が任命する。

② 監査員は３名とし、内１名は、原則として通常業務で監査を担当している課長、課長補佐若しくは係長を充て、主任監査員とする。

③　特に必要とする場合には、上記に追加して監査員を派遣することができるものとする。

(2) 監査員の責任

監査員は、次の事項を遵守しなければならない。

①　常に機構の利益を図ることを主眼として、監査の観点から事実を客観的に調査し、及び検討し、その評定に当たっては、公正不偏の態度で臨まなければならないこと。

②　不正、誤びゅうの摘発にあたるだけではなく、問題解決策を提案し、会計全般の改善向上に資するよう心がけなければならないこと。

③　監査により知り得た事項を他に漏らしてはならないこと。

④　監査の実施並びに調書及び報告書の作成については、監査員として正当な注意をもって行わなければならないこと。

(3) 監査員の権限

監査員の権限は、次のとおりとする。

①　監査員は、被監査校の関係者に対し帳票及び諸資料の提出又は事実の説明その他監査実施上必要な要求を行うことができること。

②　監査員は、必要により被監査校以外の関係者に対し、実査、立会、確認及び報告を求めることができること。

③　上記の要求を受けた者は、正当な理由なくしてこれを拒否し、又は虚偽の回答をしてはならないこと。

6　監査事項

- 内部監査する事項は、次のとおりとする。
  (1) 会計経理に関する規則等の適用に関する事項
  (2) 予算実施計画に関する事項
  (3) 金銭等の出納保管（金庫管守を含む。）その他資金管理に関する事項
  (4) 資産の取得、管理及び処分に関する事項
  (5) 決算報告書及び財務諸表に関する事項
  (6) 契約に関する事項
  (7) 旅費に関する事項
  (8) 科学研究費補助金その他外部資金に関する事項
  (9) 預り金に関する事項
- 本部事務局財務課は、監査事項に係るチェックリストを作成するものとする。
- 監査員が特に必要とする場合には、上記事項に追加して監査を実施することができるものとする。

7　指摘事項等

- 監査の過程において発見した誤り、改善又は検討を必要とする事項については、その都度応対者へ改善又は検討を要求し、チェックリストの所定欄へ【指示】又は【考究】と明記し、内容を記入する。

  【指示】・・・会計処理について改めるよう要求したもの

  【考究】・・・確認、検討を要求したもの
- 監査の過程において疑義が生じた場合には、文書にて記録し、監査終了後に本部事務局財務課へ照会し指示を仰ぐものとする。

8　監査結果の報告等

- 監査報告書（別紙）は、チェックリストを添付して、監査終了後２週間以内に、本部事務局財務課財務企画係へ提出するものとする。
- 本務事務局財務課は、監査報告書を取りまとめ、年度内に理事長へ報告するものとする。
- 本部事務局財務課は、監査終了後、各校より意見等を聴取し、次年度以降の監査の改善に資する。

9　所要経費（旅費）

高専相互会計内部監査に要する経費（旅費）は、各校における所要額を別途措置する。

１０　監査事務

高専相互会計内部監査に関する事務は、本部事務局財務課において処理する。

１１　実施スケジュール

９月下旬～	監査員の選定依頼及び任命
１０月～	監査の実施
３　月　末	監査報告書取りまとめ

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	都城工業高等専門学校
監査実施日	平成２１年１２月１４日　～１２月１５日
監査担当者	熊本高等専門学校　総務課課長補佐 総務課経理係長 総務課主任（施設担当）

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課　　課長補佐、　　財務係長　　契約係長他

①被監査部署の現状

・平成19年4月より事務部が総務課及び学生課の2課に再編され、総務課長の総括の下で会計の事務処理は総務課財務グループで行っている。

・また、都城高専の会計を担当する職員は、予算担当として課長補佐、決算、収入支出を担当する財務係（３名）、契約事務を担当する契約係（３名）、施設管理を担当する施設係（２＋パート１名）の３係、計１１名（課長、課長補佐を含む）となっている。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項

・預り金において、支出決議書と実際の支払日の相違が見られ、確認方法の徹底を求めた。

④指摘事項等（指示、考究）

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり

指示（会計処理について改めるよう要求したもの）･･･１件

考究（確認、検討を要求したもの）　　･･･２件

⑤被監査部署の意見等

・　上記④について、その対応について速やかな検討及び対応をするとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

なし（参考資料：授業料未納者への対応に関する申し合わせ）

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	都城工業高等専門学校
監査実施日	平成２２年１２月２日　～　１２月３日
監査担当者	鹿児島工業高等専門学校　総務課課長補佐 総務課財務係長 総務課用度係員

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課　　課長補佐、　　財務係長、　　契約係長　他

①被監査部署の現状

・総務課には、課長の他、課長補佐２名と６係が配置されている。

・会計を担当する職員は、予算決算、収入支出を担当する財務係（３名）、契約を担当する契約係（３名）、施設管理を担当する施設係（２名）の３係、計10名（課長、課長補佐を含む）となっている。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項

なし

④指摘事項等（指示、考究）

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり

指示（会計処理について改めるよう要求したもの）…０件

考究（確認、検討を要求したもの）　…３件

⑤被監査部署の意見等

・　上記④については、速やかな対応を図るとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

なし

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	都城工業高等専門学校
監査実施日	平成２３年１２月１９日　～１２月２０日
監査担当者	沖縄工業高等専門学校　総務課課長補佐 財務係長 契約管理係長

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課　　課長補佐、　　財務係長　他

① 監査部署の現状

・会計事務を処理するため、総務課が置かれている。
・総務課には、課長の他、課長補佐２名と６係が配置されている。
・また、会計を担当する職員は、決算、収入支出、旅費謝金を担当する財務係（3 名）、契約事務、物品管理を担当する契約係（3 名）、施設管理を担当する施設係（3 名）の 3 係、計 11 名（課長、課長補佐を含む）となっている。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項

・教員が立替払いした書籍等の物品検収確認が一部確認出来なかった。（検収印無し）

④指摘事項等（指示、考究）

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり
　指示（会計処理について改めるよう要求したもの）･･･３件（上記③の指摘事項１件を含む）
　考究（確認、検討を要求したもの）　　･･･０件

⑤被監査部署の意見等

・上記③④について、その対応について速やかな検討を図るとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

なし

〔出典：総務課資料〕

資料10－３－②－２

科学研究費補助金内部監査

科学研究費補助金内部監査実施計画書（案）

１．目的

文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」を踏まえた本校の公的研究費の管理体制について、有効に機能しているか否かを確認・検証する。

２．根拠規則等

（１）研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）

第６節　モニタリングの在り方

不正の発生の可能性を最小にすることを目指し、機関全体の視点から実効性のあるモニタリング体制を整備することが重要である。

（全機関に実施を要請する事項）

②　内部監査部門は、会計書類の形式的要件等の財務情報に対するチェックのほか、体制の不備の検証も行う。

（２）独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

第４５条　理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

２　内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

（３）独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が有する権限等の一部委任に関する規則

第２条13　理事長は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則に定める理事長の権限等のうち、当該学校に係る次の各号に掲げるものについて、校長に委任するものとする。

十七　内部監査職員の命免及び内部監査の実施

３．監査日程

平成２４年７月下旬　　日程については、後日調整

４．監査員

校長は、会計処理を担当する者以外の職員を監査員として任命する。

５．監査実施課題

平成２３年度に交付された科学研究費補助金（文部科学省、日本学術振興会等）の全研究課題（別紙１）

６．監査実施要項

①　監査員は内部監査チェックシート（別紙２）にしたがって監査を実施するものとする。ただし、監査員が特に必要とする場合には適宜確認事項を追加して監査を実施することができるものとする。

②　監査の実施にあたり提出された資料は、特に必要がある場合に、コピー又は電子ファイルの提出を求め、報告の際に内部監査チェックシートへ添付するものとする。

③　監査の過程において疑義が生じた場合には、文書にて記録し、監査終了後に内部監査チェックシート【特記事項】に記載し総務課財務係へ照会し指示を仰ぐものとする。

７．監査報告

①　監査員は監査報告書（別紙３）に内部監査チェックシートを添付して、監査終了後２週間以内に、総務課財務係に提出するものとする。

②　総務課財務係は、監査報告書を取りまとめ、校長へ報告するものとする。

別紙2

科学研究費補助金　内部監査チェックシート

研究種目	□基盤研究　S・A・B・C　　□若手研究　A・B　　□萌芽研究 □特定領域研究　　□その他（　　）				
課題番号					
研究課題名					
研究代表者					
補助金交付年度	年度	受入年月日	平成　年　月　日	補助金交付額	千円
監査実施日				監査担当者	

NO. 1

チェック欄	監　査　項　目	備　　考
	1）各帳票等の整備状況並びに管理状況	
□	・収支簿と各帳票（支払決議書、支払伝票等）との照合確認	
□	・通帳、印鑑等の管理状況	※高専機構では、科研費の資金管理は機構本部へ一元化されており、通帳等の管理は機構本部で行っている。
	（通帳と印鑑を複数の者に分けて管理しているか。）	
	2）執行状況	
□	・研究費交付後、速やかに経費の執行を行っているか。	
□	・研究目的に沿った執行であるか。	
	①物品等の購入状況	
□	・証拠書類（見積書・納品書・請求書等）の整備状況	
□	・購入の際のコスト比較状況	
□	・購入事例、市場調査等の適否	
□	・随意契約における相手方特定理由書の適否	
□	・他の経費との合算使用の有無	
□	・納品の際の検収・確認状況	
□	・購入設備、備品等の寄付受入状況調査	
□	・物品の現品確認	
	（契約書、見積書、カタログ等並びに帳簿と資産管理	
	シールとの照合）	
□	・業者に取引内容の確認（預け金等）	
	②謝金	
□	・勤務時間、授業時間等に参加している研究支援者	
	への支払の有無	
□	・出勤簿及び教員等の作業内容確認	
	（業務内容について必要に応じ従事者本人から直接	
	事実確認をする。）	

NO. 2

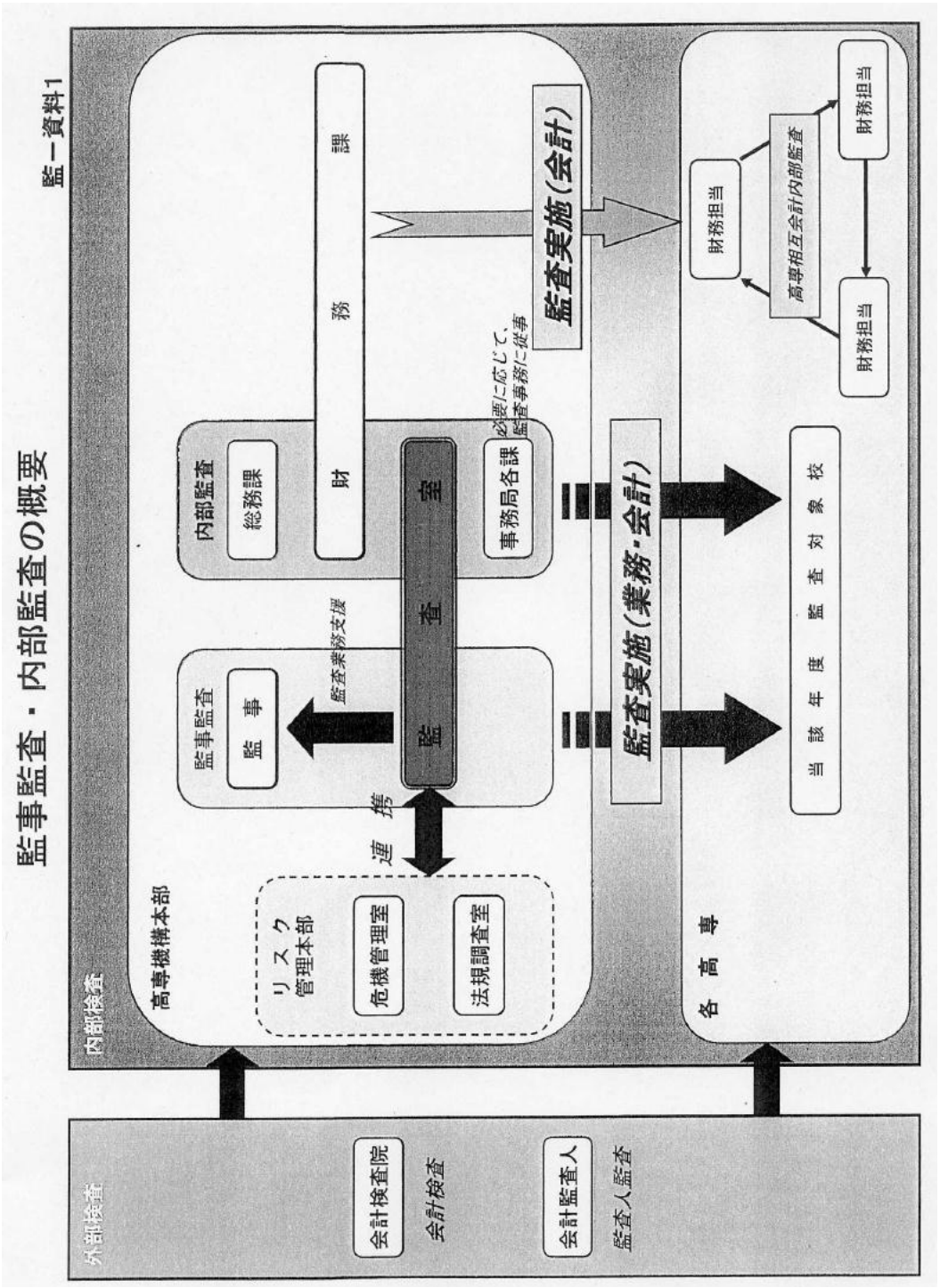
チェック欄	監　査　項　目	備　　考
□	・作業従事者と振込口座の名義の確認	
	③旅費	
□	・研究課題の趣旨に沿った旅行がなされているか。	
□	・旅行命令・旅行報告書及び出勤簿、超過勤務命令簿とその整理状況	
□	・旅行用務先から支給されているもので、二重に支給しているものはないか。	
□	・科研費に係る用務と他の用務と併せて使用する場合の使用区分は適正か。	
□	・旅費計算は適正か。	
□	・概算払旅費の精算状況確認	
	3）繰越	
□	・繰り越した補助事業は、適正な手続きを行っているか。	
	4）報告	
□	・研究終了後の手続き（報告書の作成等）は遅延なく行われているか。	

【特記事項】

〔出典：総務課資料〕

資料10－３－②－３

監事監査・内部監査の概要



〈監事監査・内部監査実施一覧〉　（案）　**監－資料3**

（注）平成２４年度及び平成２５年度の「（◇）」は、当初予定された監査実施時期である。（１年～２年前倒しで実施する。）　２４．０４．０１　現在

学校番号	学校名	第一期　監査実施状況 H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	監査日程	第二期　監査実施予定 H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	監査日程
1	函館工業高等専門学校				○		H20.01.23-25			◇	~~◇~~		H23.09.14-16
2	苫小牧工業高等専門学校					○	H20.11.10-12				◇	(◇)	
3	釧路工業高等専門学校			○			H18.10.25-27			◇			H23.08.31-09.02
4	旭川工業高等専門学校		○				H17.09.20-22		◇			◇	H22.12.20-22
5	八戸工業高等専門学校		○				H17.10.11-13	◇				◇	H21.11.18-20
6	一関工業高等専門学校					○	H21.01.28-30				◇	(◇)	
7	仙台高等専門学校	○					H16.10.18-20			~~(◇)~~	◇		
	（仙台電波工業高等専門学校）			○			H18.10.30-11.01						
8	秋田工業高等専門学校	○					H16.10.21-22	◇			◇		H21.7.22-24
9	鶴岡工業高等専門学校		○				H17.10.24-26		◇			◇	H22.11.29-12.01
10	福島工業高等専門学校				○		H19.12.18-20			~~(◇)~~	◇		
11	茨城工業高等専門学校			○			H19.01.15-17		◇			◇	H22.12.06-08
12	小山工業高等専門学校					○	H21.02.05-06				◇	(◇)	
13	群馬工業高等専門学校	○					H17.02.23-25	◇				◇	H21.12.02-03
14	木更津工業高等専門学校				○		H19.09.26-27			◇			H23.07.26-27
15	東京工業高等専門学校				○		H19.11.27-28			◇			H23.08.09-10
16	長岡工業高等専門学校					○	H20.12.01-03				◇		
17	富山高等専門学校		○				H17.11.28-30			◇	~~◇~~		H23.11.09-11
	（富山商船高等専門学校）				○		H19.07.23-25						
18	石川工業高等専門学校			○			H18.12.04-06			◇			H23.09.26-28
19	福井工業高等専門学校	○					H17.01.17-19	◇				◇	H21.09.30-10.02
20	長野工業高等専門学校		○				H17.11.14-16		◇			◇	H22.12.14-16
21	岐阜工業高等専門学校					○	H20.09.10-12				◇	(◇)	
22	沼津工業高等専門学校		○				H18.03.07-09		◇			◇	H22.12.20-21
23	豊田工業高等専門学校	○					H16.11.24-26		◇			◇	H23.01.19-21
24	鳥羽商船高等専門学校	○					H16.11.15-17	◇			◇		H22.01.20-22
25	鈴鹿工業高等専門学校					○	H20.07.28-30				◇	(◇)	
26	舞鶴工業高等専門学校		○				H17.12.14-16		◇			◇	H22.11.24-26
27	明石工業高等専門学校	○					H17.01.24-26	◇			◇		H21.09.08-10
28	奈良工業高等専門学校			○			H18.12.11-13			◇	~~◇~~		H23.07.13-15
29	和歌山工業高等専門学校		○				H17.02.15-17			◇			H23.09.07-09
30	米子工業高等専門学校					○	H20.10.23-25				◇	(◇)	
31	松江工業高等専門学校				○		H19.10.31-11.02			◇			H24.02.15-17
32	津山工業高等専門学校	○					H17.03.02-04	◇				◇	H21.12.16-18
33	広島商船高等専門学校					○	H20.10.08-10				◇	(◇)	
34	呉工業高等専門学校			○			H18.12.18-20			◇			H23.10.12-14
35	徳山工業高等専門学校		○				H17.02.28-03.02	◇				◇	H21.9.16-18
36	宇部工業高等専門学校				○		H19.10.10-12			◇	~~◇~~		H24.01.25-27
37	大島商船高等専門学校			○			H19.01.10-12		◇			◇	H23.01.24-26
38	阿南工業高等専門学校			○			H19.01.22-24		◇			◇	H23.02.16-18
39	香川高等専門学校	○					H17.02.14-16			◇		(◇)	H23.11.16-18
	（詫間電波工業高等専門学校）				○		H19.09.04-06						
40	新居浜工業高等専門学校		○				H18.02.01-03	◇			◇		H22.01.25-27
41	弓削商船高等専門学校					○	H20.08.27-29			◇	~~◇~~		H23.12.14-16
42	高知工業高等専門学校			○			H19.01.31-02.02			◇			H23.12.07-09
43	久留米工業高等専門学校		○				H18.01.18-20		◇			◇	H23.3.01-03
44	有明工業高等専門学校			○			H19.02.07-09	◇			◇		H21.10.13-15
45	北九州工業高等専門学校			○			H19.02.28-03.02		◇			◇	H23.02.07-09
46	佐世保工業高等専門学校				○		H19.02.06-08			◇			H23.11.30-12.02
47	熊本高等専門学校					○	H20.11.19-21				◇	(◇)	
	（八代工業高等専門学校）					○	H20.09.17-19						
48	大分工業高等専門学校				○		H19.10.23-25			◇	~~◇~~		H23.10.26-28
49	都城工業高等専門学校					○	H20.12.10-12				◇		
50	鹿児島工業高等専門学校	○					H16.12.15-17	◇				◇	H22.02.08-10
51	沖縄工業高等専門学校				○		H19.12.05-07			◇			H24.01.18-20
99	国立高等専門学校機構本部	○					H17.03.25/3.28			◇	◇		H24.02.27-28 内部監査
	監査実施校数	11	11	11	11	12		11	11	18	18	17	

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

会計監査等については，九州地区４高専で高専相互会計内部監査を毎年度実施し，改善結果等のフォローアップを行っている。さらに，平成24年度から科学研究費補助金に関する内部監査を行うこととしている。したがって，財務に対する会計監査等を適正に行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

収支計画の立案は、一部の関係者だけではなく全学的な視野を持った予算専門委員会で行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準10の自己評価の概要

目的に沿った教育研究活動を，将来にわたって適切かつ安定して遂行するための，校地や校舎，施設等の資産が保有されているとともに，授業料，入学検定料，入学料等の経常的収入が確保されている。また，科学研究費補助金や寄附金等の外部資金の導入も行っている。

このような収入の計画と支出に関して，全学的な組織である予算専門委員会が，各部署からの要望を考慮し，計画立案を行っている。その実行は，校長の決裁を経て各部署で行っている。

財務諸表については，当該年度における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し，真正な数値を把握するため各帳簿の締切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行い，所定の手続きに従って決算数値を確定し，高専機構に報告している。

財務に対する会計監査は，独立行政法人通則法及び高専機構会計規則に明確に定められており，高専相互会計内部監査を毎年度実施している。また，高専機構による監事監査・内部監査を平成24年度に受ける予定である。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

運営企画委員会は，校長が招集し委員長となり，毎月１回定例会議を開催し，教育研究や管理運営等，学校運営に関する重要事項について，審議及び報告を行っている（資料 11－１－①－１）。運営企画委員会の構成メンバーは，校長，副校長（教務主事，学生主事，寮務主事），校長補佐，専攻科長，各学科長，一般科目文科長及び理科長並びに事務部長である。平成 18 年度から新たに校長補佐のポストを設置した。校長補佐連絡会議は，３主事と校長補佐の４名で，学校運営に関し，校長が迅速に執行する事項を審議決定している（資料 11－１－①－２）。運営企画委員会での審議結果や報告は，各学科長並びに一般科目文科長及び理科長を通じて，全教員に周知している。年度始め及び緊急を要する場合は，校長が教員集会を招集し，迅速かつ円滑に学校運営を行っている。さらに，毎月１回，全教員参加による教育会議を，３主事及び各センター長の報告を中心に開催している（資料 11－１－①－３）。特に，厚生補導委員会や教務委員会からの依頼による極めて重要な教育上の審議事項については，教育会議で意見を聴取している。３主事は，学校の目的を達成するために，関係委員会に対して，適切な情報を提供し，方針の決定に指導的な役割を果たすとともに，その方針の周知と執行に責任を果たしている。校長は，これら３主事の役割の掌握・指導を通じて，全体に対して指導的な役割を果たしている。

学校の目的達成のための委員会として，運営企画委員会，教務委員会，厚生補導委員会，FD 委員会，入学試験実施委員会，専攻科委員会，技術者教育プログラム委員会等を設置し，設置規則で役割を明確に定めている。３主事が管轄する委員会及びその他の委員会規則を整備し，校長の指揮の下，連携して学校運営を効率的に行う体制をとっている（資料 11－１－①－４）。校長は，各種委員会に対して管理運営体制の改善や調査・検討等の諮問を行い，運営企画委員会に提案し，審議を経て実行している。管理運営体制改善の例として，キャリア支援室及び外国人留学生専門委員会の設置がある。キャリア支援室は，平成 23 年度に低学年からのキャリア教育導入や就職開拓のために，新たに立ち上げた。また，平成 24 年度には留学生の受入支援体制をより強化するために，寮務主事を中心とした外国人留学生専門委員会を設置した。

全ての事項は，関係委員会での審議を踏まえて校長が最終決定するが，各種委員会は，ほとんどが校長を補佐する関係主事と各学科等から選出された委員で構成しており，学科等の議題及び意見を十分吸い上げ，全教員の理解を得ながら，迅速な決定とその周知徹底を図っている。迅速な決定が求められる入学試験実施委員会は，審議事項を事前に十分調査検討するため，その下に入学試験検討委員会を設置している。そのほか，委員会の円滑な運営のため，各種委員会申合せを定めている（資料 11－１－①－５）。

観点11－１－①　資料一覧

資料11－１－①－１　都城工業高等専門学校運営企画委員会規則

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－２　都城工業高等専門学校校長補佐連絡会議規則

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－３　都城工業高等専門学校教育会議規則

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－４　各種委員会一覧及び審議内容

〔出典：総務課資料〕

資料11－１－①－５　都城工業高等専門学校各種委員会に関する申合せ

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－１

都城工業高等専門学校運営企画委員会規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の運営企画に関する事項を審議するため、都城工業高等専門学校運営企画委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 目標及び計画に関すること。

(2) 学校経営に関すること。

(3) 規則の制定及び改廃に関すること。

(4) 教育研究組織に関すること。

(5) 予算・決算に関すること。

(6) その他運営企画に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 校長補佐

(4) 専攻科長

(5) 学科長

(6) 一般科目の文科長及び理科長

(7) 事務部長

２　委員は、校長が任命する。

３　委員が委員会に出席できない場合は、委員長の同意を得て代理の者を委員会に出席させることができる。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する副校長が、その職務を代行する。

（定足数）

第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（議決）

第６条　委員会の議事は、出席構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第７条　委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聴取することができる。

（予算専門委員会）

第８条　委員会に、第２条第１項第５号を審議するため、予算専門委員会を置く。

２　予算専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第９条　委員会に関する事務は、総務課において処理する。

附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

２　都城工業高等専門学校運営委員会規則（平成８年４月１日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０年７月７日から施行する。

附　則

この規則は、平成２０年９月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－２

都城工業高等専門学校校長補佐連絡会議規則

（平成１６年９月６日制定）

（目的）

第１条　学校運営に関し、校長が迅速に執行する必要があると判断した事項を審議するため、校長補佐連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　連絡会議は、次の事項について審議する。

(1)　学校運営に関すること。

(2)　その他、校長が必要と認めた事項

（組織）

第３条　連絡会議は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。

(1)　校長

(2)　副校長

(3)　校長補佐

(4)　事務部長

２　校長は、必要に応じて前項に規定する者以外の者を出席させることができる。

（開催）

第４条　会議は、原則として月１回開催することとする。ただし、必要がある場合は、臨時に開催することができる。

（事務）

第５条　連絡会議の事務は、総務課で行う。

附　則

この規則は、平成１６年９月６日から施行する。

附　則

この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－３

都城工業高等専門学校教育会議規則

（平成１６年７月５日制定）

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校に、教授、准教授、講師（常時勤務する者に限る。）助教及び助手（以下「教員」という。）が一致して本校教育の充実と向上に貢献するために、教育に関する重要事項の協議及び審議並びに報告を行うことを目的とする教育会議を置く。

（議題）

第２条　教育会議の議題は次の各号のとおりとする。

（１）各種委員会から付託された教育に関する重要事項の協議及び審議

（２）教員が共通した認識を持つ必要のある教育に関する重要事項の報告

２　議題は、教育会議に諮るべき重要事項である理由を付して、議長に提出しなければならない。ただし、前項第１号の議題の提出にあたっては、当該委員会の委員長は、事前にその事項を所掌する主事の了解を得なければならない。

（議長）

第３条　教育会議には議長及び副議長を置き、教員のうち主事及び専攻科長を除く者の中から、教員の互選により選出する。

２　議長は、教育会議を招集し、議事を進行する。

３　議長は、挙手又はその他の方法で出席者の意思を確認することができる。

４　議長は、前条第１項第１号により付託された議題の協議結果を、教育会議終了後速やかに、当該委員会の委員長に報告しなければならない。

５　副議長は､議長を補佐し､議長に事故が生じた場合はその職務を代行する。

６　議長及び副議長の任期は、１年とし、再任を妨げない。ただし、議長又は副議長に欠員を生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（開催）

第４条　教育会議は、原則として月１回開催するものとする。ただし、教育会議が開催されない場合にあっても、各指導部等からの定例的な報告は学内メール等で教員に周知するものとする。

２　前項の規定に関わらず、議長が必要と判断した場合は、臨時に教育会議を開催することができる。

（事務）

第５条　教育会議に関する事務は、学生課において処理する。

附　則

１　この規則は、平成１６年７月５日から施行する。

２　都城工業高等専門学校教官会議に関する申合せ（平成９年４月１日制定）は、廃止する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料11－１－①－４

各種委員会一覧及び審議内容

表Ⅷ6-2

会議及び委員会名	審　　議　　内　　容	規則制定年月日
運営企画委員会	目標及び計画、学校経営、規則の制定及び改廃、教育研究組織、予算・決算等に関する事項	平成 16 年 4 月 1 日
技術支援センター運営委員会	センターの技術支援の基本計画、管理運営、施設及び設備、地域社会との連携及び技術協力等に関する事項	平成 21 年 4 月 1 日
教務委員会	教育課程の編成、授業時間割の編成、履修及び単位の認定、定期試験及び再試験等試験、教育点検及び改善、授業評価アンケート等に関する事項	昭和 52 年 4 月 1 日
研究報告編集委員会	研究報告の原稿の調査、原稿の査読、原稿の採否、編集、発行等に関する事項	平成 2 年 4 月 1 日
厚生補導委員会	厚生補導にかかる規則の制定及び改廃、学生の停学以上の処分、奨学金及び授業料減免等に関する事項	昭和 53 年 4 月 7 日
施設等点検評価委員会	施設等の点検・評価、利用状況の実態調査、有効活用の促進、改善計画の立案、維持管理並びに環境マネジメント等に関する事項	平成 14 年 1 月 18 日
技術者教育プログラム委員会	プログラムの作成、実施、点検及び改善、調査・研究、日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の認定審査等に関する事項	平成 19 年 4 月 1 日
将来計画検討委員会	学科等の設置及び改組、教育組織及び教育基盤の整備、校長の諮問等に関する事項	平成 5 年 12 月 10 日
専攻科委員会	教育課程の編成、授業時間割の編成、履修及び単位の認定、定期試験及び再試験等試験、教育点検及び改善、授業評価アンケート等に関する事項	平成 20 年 4 月 1 日
ＦＤ委員会	ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の実施要項の決定、企画運営等に関する事項	平成 16 年 4 月 1 日
電子計算機センター委員会	情報処理教育、センターの施設、設備、運営、利用計画、ネットワーク等に関する事項	昭和 54 年 11 月 16 日
図書館運営委員会	図書館の運営、予算、利用規則の制定及び改廃等に関する事項	昭和 49 年 4 月 1 日
認証評価対応委員会	認証評価の評価基準及び観点等の調査・研究、自己評価のための調査の実施、認証評価のための自己評価書の作成、認証評価後の改善点のまとめ等に関する事項	平成 16 年 12 月 6 日

レクリエーション委員会	職員レクリエーションの計画及び運営、予算等に関する事項	昭和 43 年 9 月 25 日
安全衛生委員会	教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策、教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策、労働災害の原因等に関する事項	平成 16 年 4 月 1 日
遺伝子組換え実験に関する安全委員会	遺伝子組換え実験に関する規則等の制定改廃、同実験計画の法律及び省令等並びに当該規則に対する適合性、同実験に係る教育訓練及び健康管理等に関する事項	平成 16 年 3 月 23 日
情報セキュリティ管理委員会	本校における情報セキュリティポリシーの周知、実施規則及び実施手順の制定・改廃及び遵守の推進、情報セキュリティ教育等に関する事項	平成 20 年 9 月 1 日
情報セキュリティ推進委員会	情報セキュリティに関する専門的及び技術的問題、情報セキュリティインシデントの発生時の対応等に関する事項	平成 22 年 11 月 4 日
外部評価対応委員会	外部評価の基本方針、実施体制及び実施方法並びに外部評価結果に基づく本校運営の改善等に関する事項	平成 16 年 7 月 28 日
学生指導委員会	学生の生活指導及び補導、福利厚生及び保健衛生、学生会、学生の校長訓告以下の処分等に関する事項	平成 11 年 4 月 1 日
学生相談支援室運営委員会	相談室の運営、施設及び設備、学生相談についての研修会及び講演会等に関する事項	平成 12 年 4 月 1 日
学年別授業担当者会議	授業担当者の連携の強化、教育点検及び改善等に関する事項	平成 20 年 4 月 1 日
専攻科授業担当者会議	授業担当者の連携の強化、教育点検及び改善等に関する事項	平成 20 年 4 月 1 日
教育会議	各種委員会から付託された教育に関する重要事項の協議及び審議、教員が共通した認識を持つ必要のある教育に関する重要事項の報告に関する事項	平成 16 年 7 月 5 日
教育業績評価委員会	教員の個人別教育業績評価、同評価のための調査及び活用に関する事項	平成 15 年 5 月 26 日
教員集会	校長の本校教員からの意見聴取又は本校教員への周知等に関する事項	平成 16 年 4 月 1 日

研究活動委員会	本校の研究の目的及び目標の設定、研究体制及び支援体制の整備、研究活動の点検・評価及び改善に関する事項	平成 20 年 1 月 17 日
校長補佐連絡会議	学校運営及び校長が必要と認めたことに関する事項	平成 16 年 9 月 6 日
広報委員会	広報誌等及びホームページ等に関する事項	平成 14 年 7 月 11 日
国際交流委員会	学術の国際交流及び学生の国際交流等に関する事項	平成 7 年 6 月 12 日
自己点検評価委員会	自己点検評価の基本方針、実施体制及び実施方法、総括及び公表並びに改善事項の指摘等に関する事項	平成 20 年 10 月 6 日
進路指導委員会	学生の進路指導及び進路開拓等に関する事項	平成 17 年 4 月 1 日
ハラスメント防止委員会	ハラスメントの防止・排除等についての研修及び啓発活動の企画、苦情相談に係る事実関係の確認・被害の救済及び対応等に関する事項	平成 22 年 4 月 1 日
地域連携センター運営委員会	センターの教育及び研究、施設及び設備の利用計画、運営及び公開講座等の学校開放等に関する事項	平成 2 年 2 月 14 日
公開講座等委員会	公開講座、出前実験・出前授業、学校開放等に関する事項	平成 21 年 4 月 1 日
知的財産委員会	教職員等の職務発明等に係る新規性、出願の価値の予備審査、知的財産の権利化及び活用等に関する事項	平成 16 年 9 月 24 日
入学試験実施委員会（本科）	入学試験の計画及び実施、入学試験合格者の査定等に関する事項	平成 14 年 4 月 1 日
入学試験実施委員会（専攻科）	入学試験の計画及び実施、入学試験合格者の査定等に関する事項	平成 14 年 4 月 1 日
入学試験実施検討委員会	入学試験実施委員会の業務に関する原案の作成に関する事項	平成 14 年 4 月 1 日
寮務委員会	入寮及び退寮、寮生の生活指導及び補導、福利厚生及び保健衛生、災害予防、寮生会、寮規則違反者の校長訓告以下の処分等に関する事項	平成 11 年 4 月 1 日
予算専門委員会	概算要求事項、予算案の作成、決算、外部資金導入の活性化、施設・設備の整備等に関する事項	平成 20 年 7 月 7 日

総合評価審査委員会	総合評価方式の実施方針、個別工事に係る技術提案の評価方法、審議及び評価に関する事項	平成 19 年 5 月 14 日
５０年史編纂委員会	５０年史の編集及び基本方針、資料の収集、整理及び保存等に関する事項	平成 23 年 4 月 1 日
学科教育点検班	各学科におけるプログラムの点検、学生支援のための具体的な施策に関する事項	平成 15 年 5 月 26 日
学級担任会	第１、第２、第３学年ごとの基本的運営方針の決定、他の委員会及び指導部等と相互連携した円滑な学級運営に関する事項	平成 16 年 4 月 1 日
キャリア支援室運営委員会	支援室の運営、施設、設備等に関する事項	平成 23 年 4 月 1 日
創立５０周年記念事業実行委員会	創立５０周年記念事業の計画、式典・祝賀会・講演会の計画及び運営、記念募金活動の計画及び実施等に関する事項	平成 23 年 4 月 1 日
動物実験委員会	動物実験計画に係る関係法令等及び実施規則への適合性、実施状況及び結果、動物実験等の施設及び実験動物の飼養保管状況等に関する事項	平成 23 年 9 月 5 日
外国人留学生専門委員会	外国人留学生の受入れ、教育指導、生活環境等に関する事項	平成 24 年 4 月 1 日
評議員会	本校の教育研究活動、地域貢献活動等運営に関する重要事項	平成 18 年 9 月 4 日

〔出典：総務課資料〕

資料11－１－①－５

都城工業高等専門学校各種委員会に関する申合せ

［平成９年４月１日］

（趣旨）
第１条　都城工業高等専門学校の運営委員会、教務委員会、厚生補導委員会等（以下「各種委員会」という。）の運営に関しては、各種委員会規則に定めるもののほか、この申合せの定めるところによる。
（審議事項等の提出）
第２条　委員会の審議事項等の提出は、次の各号に掲げる申入れ等による。
(1) 各学科等から委員を経由した申入れ
(2) 各主事等からの申入れ
(3) 教官会議からの付託又は差戻し
(4) 他の委員会からの付託
（審議事項等の決定）
第３条　委員長は、前条で提出された審議事項等について主管主事等と協議の上決定する。ただし、運営委員会においては校長と協議するものとする。
（委員会の招集）
第４条　委員長は、委員に日時・場所・審議事項等を通知し、委員会を招集するものとする。ただし、運営委員会においては校長の決裁を得るものとする。
（審議事項の採決）
第５条　委員会の審議事項は、出席委員の過半数をもって決する。
（修正案の提出）
第６条　委員会の審議過程において原案に対する修正案が提出された場合は、修正案（修正案が複数ある場合は、原案に対し遠い修正案からの順）、原案の順で採決を行うものとする。ただし、出席委員は、各採決ごとに参加できるものとする。
（学級担任の再審議請求）
第７条　学級担任は、厚生補導委員会で了承された学生処分案に対し、厚生補導委員会に再審議を請求することができる。
（校長への報告）
第８条　委員長は、委員会で審議された事項等を委員会終了後速やかに校長に報告しなければならない。

附　則

この申合せは、平成９年４月１日から施行する。

〔出典：規則集〕

（分析結果とその根拠理由）

全ての事項は，関係委員会での審議を踏まえて校長が最終決定するが，各種委員会は，ほとんどが校長を補佐する関係主事と各学科等から選出された委員で構成しており，学科等の議題及び意見を十分吸い上げ，全教員の理解と協力を得ながら，迅速な意思決定とその周知徹底を図る体制になっている。その例として，キャリア支援室や外国人留学生専門委員会の設置等がある。したがって，学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，効果的な意思決定が行える態勢となっている。

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

管理運営の中心として運営企画委員会を設置し，各種委員会規則を整備し，各種委員会の役割を明確にし，校長の指揮の下，連携して学校運営を効率的に行う体制をとっている（前述資料11－１－①－１）。数年間隔で自己点検評価を実施するために，自己点検評価委員会の下に外部評価対応委員会，認証評価対応委員会等を設け運営している。

事務組織については，総務課・学生課の２課体制とし，事務分掌細則等を定め，管理運営上の役割を分担し，規則に基づいて円滑に活動している（資料11－１－②－１）。

平成21年度に技術支援センターを設置し，技術支援センター規則に基づいて，技術長，第１から第４技術室長を置き，教員と技術職員が連携しながら，学生の教育指導に当たっている（資料11－１－②－２）。

平成16年度に安全衛生委員会を設置し，学生や教職員の万一の事故発生については，校内危機管理体制フロー，災害対応フロー等を作成し，危機管理への対策を講じている（資料11－１－②－３）。危機管理体制は，校長がリスク管理を統括し，危機の事象が発生した場合は，リスク管理室を設置し，迅速に対応するシステムとしている（資料11－１－②－４）。平成22年度にはクラブ・同好会のしおりを作成し，安全なクラブ活動の運営方法や危機管理体制についての冊子をクラブ代表学生に配付し，教員へは学内LANにより配信し，危機管理や安全対策を講じている（資料11－１－②－５）。また，実験，実習，卒業研究等では，安全の手引きを作成している（資料11－１－②－６）。

観点11－１－②　資料一覧

資料11－１－②－１　事務組織図

〔出典：学校要覧〕

資料11－１－②－２　都城工業高等専門学校技術支援センター規則

〔出典：規則集〕

資料11－１－②－３　校内危機管理体制フロー、災害対応フロー等

〔出典：防災ガイドブック、総務課資料〕

資料11－１－②－４　都城工業高等専門学校危機管理規則

〔出典：規則集〕

資料11－１－②－５　クラブ・同好会のしおり

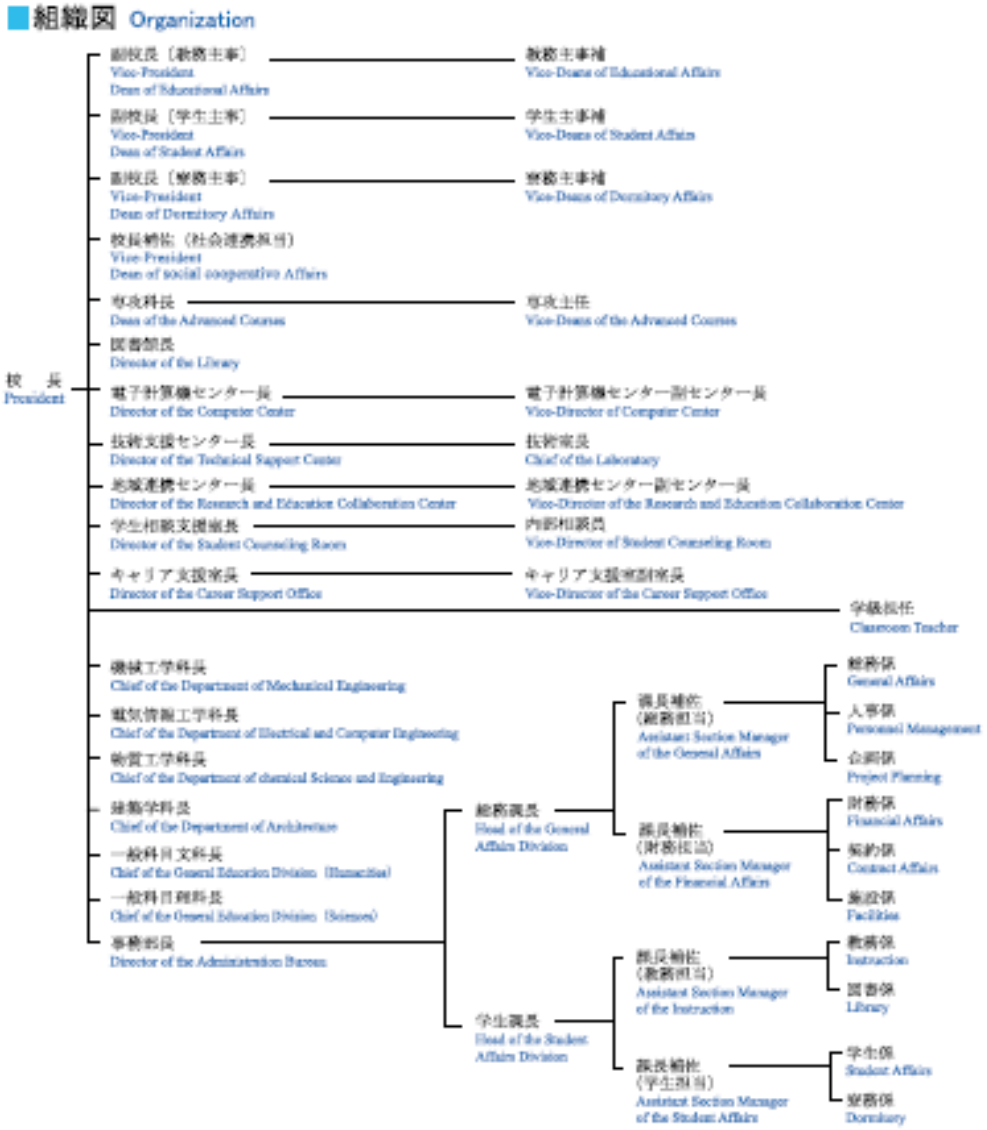
〔出典：学生課資料〕

資料11－１－②－６　安全の手引き

〔出典：総務課資料〕

資料11－１－②－１

事務組織図



〔出典：学校要覧〕

資料11－１－②－２

都城工業高等専門学校技術支援センター規則

（設置）

第１条　都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育及び研究に対する技術支援並びに地域社会との連携を推進するため、都城工業高等専門学校技術支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 教育及び研究に対する技術支援に関すること。

(2) 地域社会及び企業との連携及び技術協力に関すること。

(3) 学内の技術業務に対する窓口に関すること。

(4) その他センターに関すること。

（室）

第３条　センターに次の各号に掲げる室を置く。

(1) 第１技術室（基礎加工に関する室）

(2) 第２技術室（複合技術に関する室）

(3) 第３技術室（環境材料・情報制御に関する室）

(4) 第４技術室（分析測定に関する室）

（組織）

第４条　センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 室長

(3) 室員

（センター長）

第５条　センター長は、本校の技術長をもって充てる。

２　センター長は、センターの業務を総括する。

（室長）

第６条　室長は、本校の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。

２　室長は、当該室の業務を遂行するとともに、室員に対し技術的な指導及び育成に当たる。

（室員）

第７条　室員は、本校の技術専門職員又は技術職員の中から校長が任命する。

２　室員は、当該室の業務に従事する。

（運営委員会）

第８条　センターの円滑な運営を図るため、都城工業高等専門学校技術支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の組織及び運営等については、別に定める。

（事務）

第９条　センターの事務は、技術組織において処理する。

附　則

１　この規則は、平成２３年５月１２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

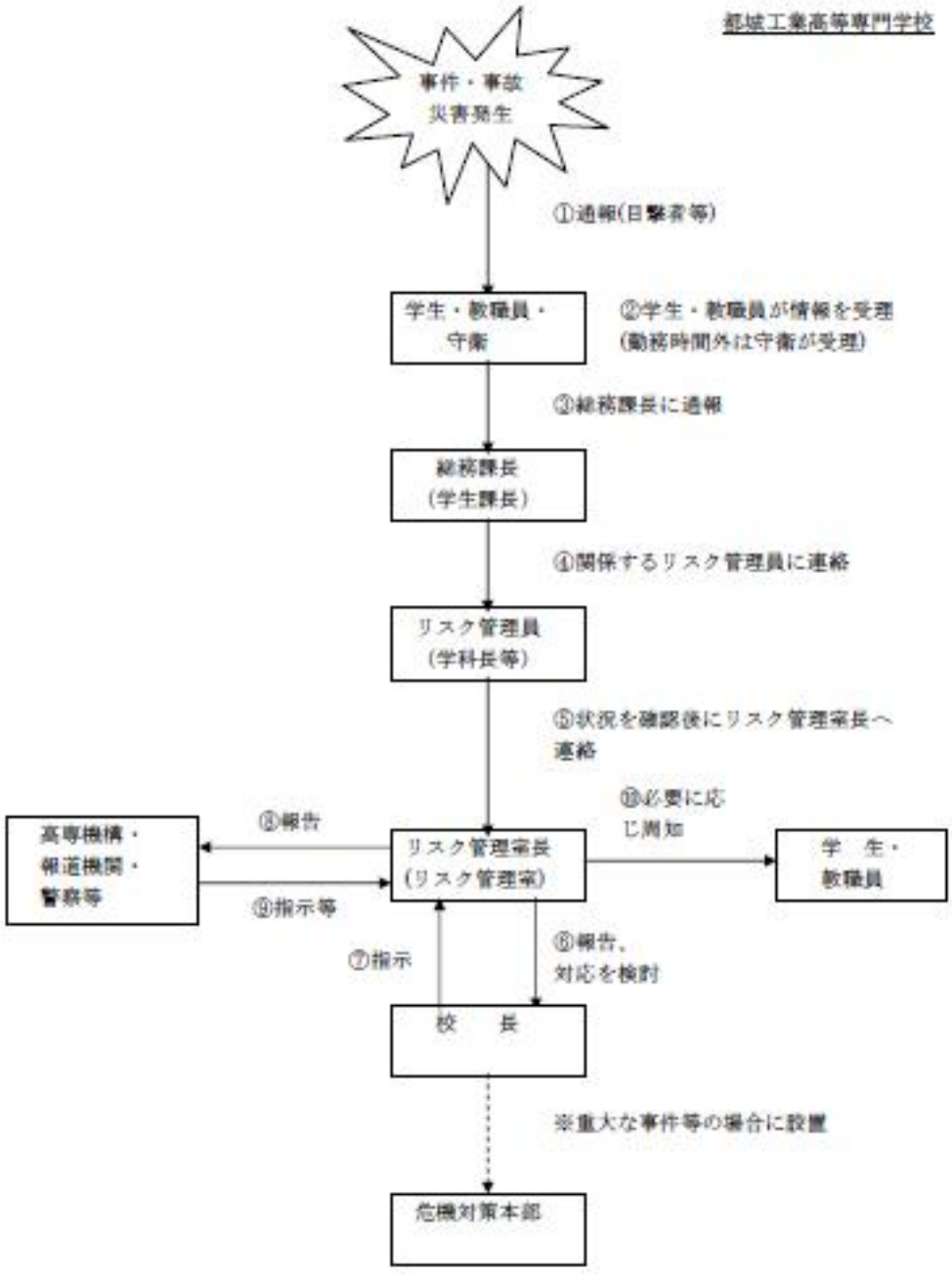
２　都城工業高等専門学校技術支援センター規則（平成２１年４月１日制定）は、廃止する。

〔出典：規則集〕

資料11－１－②－３

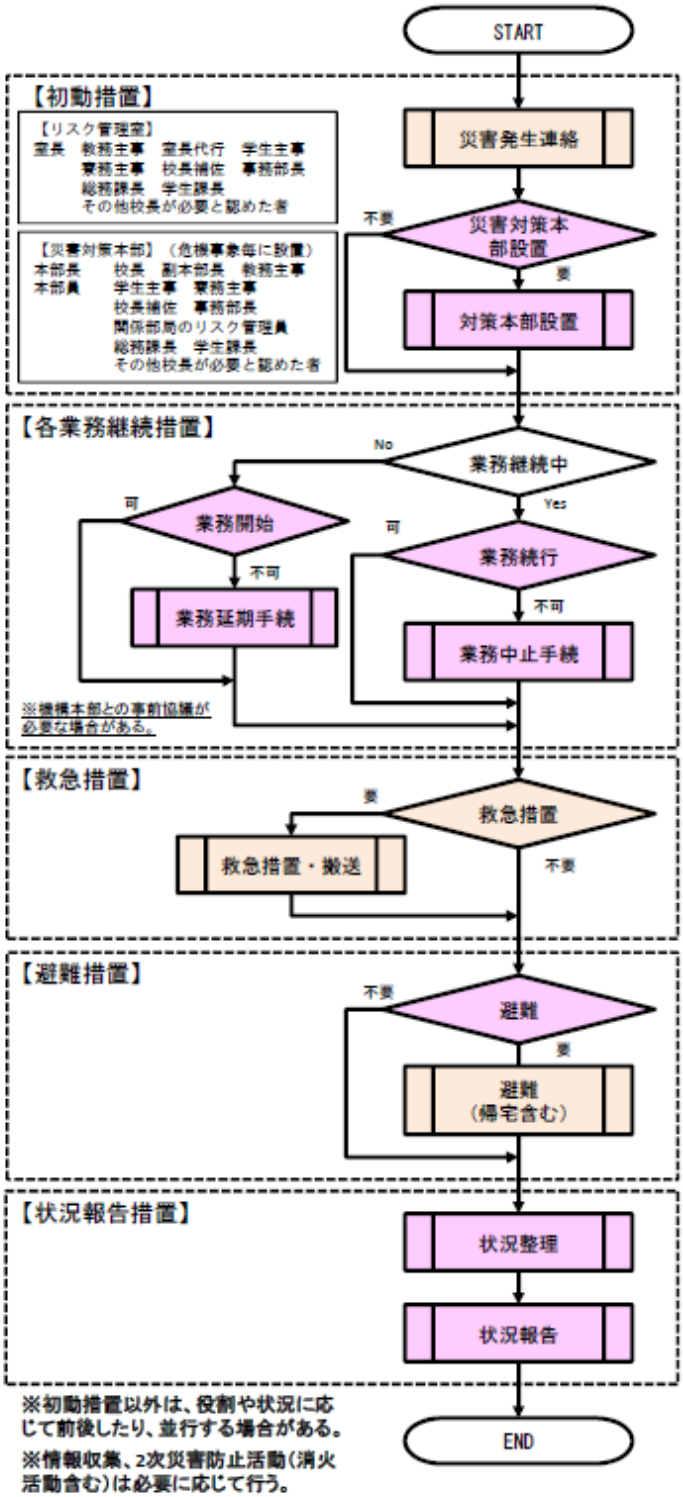
校内危機管理体制フロー、災害対応フロー等

（1）校内危機管理体制フロー



災害対応フロー（概念図）

2012.02.01現在



【都城高専連絡先】
●緊急連絡先
総務課総務係　0986-47-1107
●安否等連絡先
（教職員）
総務課人事係　0986-47-1108
（学生）
学級担任へTEL又はメール
学生課教務係　0986-47-1134
（夜間・休日等）
守衛室　0986-47-1112又は
学生は学級担任、教職員は上司へ
※校内危機管理体制図及び緊急連絡網により伝達
※災害時用伝言ダイヤル（171）や災害用伝言版サービスも利用する

【国立高専機構】
危機管理室
（時間内）042-662-3126
（FAX 3131）
（時間外）080-2008-9903
総務課総務係
042-662-3120（FAX 3131）
人事課人事第一係
042-662-3129（FAX 3168）
施設課施設企画係
042-662-3146（FAX 3148）
学務課学務係
042-662-3141（FAX 3227）
【文部科学省】
専門教育課高等専門学校係
03-6734-2485（FAX 3389）
施設企画課防災推進室災害復旧係
03-6734-3036（FAX 3689）

【最寄りの医療機関】

大島整形外科医院	38-0561
福島外科胃腸科医院	38-1633
ふたみ眼科	38-5532
黒松病院（内科）	38-1120
野口脳神経外科	47-1800
しげひらクリニック（内科）	27-5555

【各種情報照会先】
●災害状況

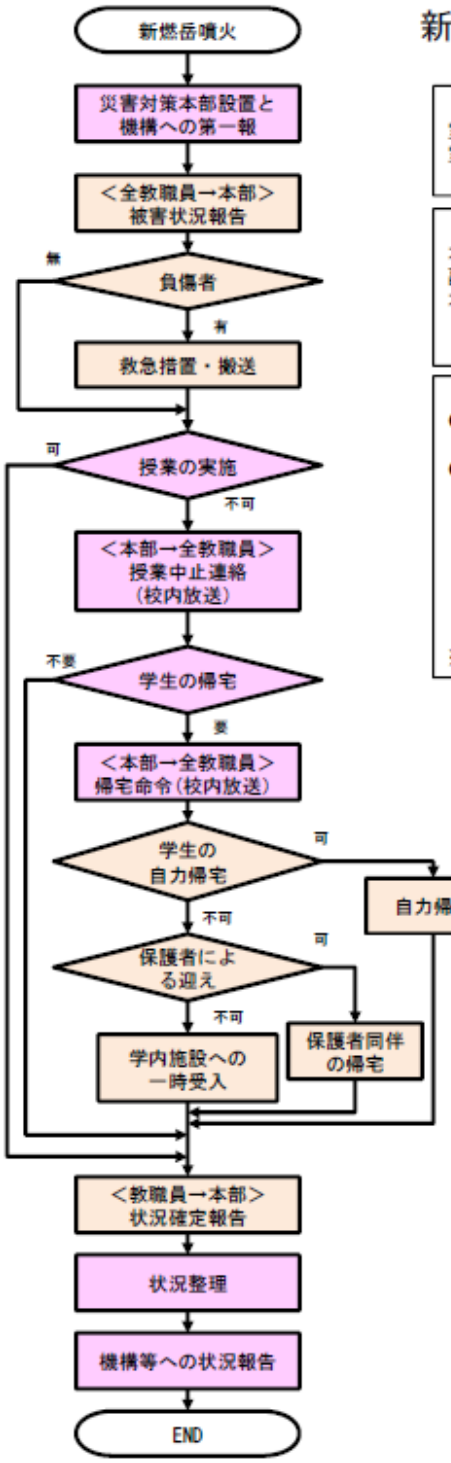
都城市総務課	23-2129
都城市消防署	23-2125

●交通機関

JR都城駅	23-3954
西都城駅前バスセンター	22-3434

●その他

都城警察署	24-0110
沖水交番	38-0726
九州電力（株）	0120-986-705
都城市水道局	23-4510
NTT西日本	113
宮崎ガス（株）都城支店	38-7500
企業警備保障	23-2646



新燃岳噴火対応フロー（授業中）

2012.02.01現在

【リスク管理室】
室長　副校長（教務主事）
室員　副校長（学生主事　寮務主事）校長補佐　事務部長
　　総務課長　学生課長　その他校長が必要と認めた者

【災害対策本部】（個別の危機事象に係る危機対策本部）
本部長　　校長
副本部長　副校長（教務主事）
本部員　　副校長（学生主事　寮務主事）校長補佐　事務部長
　　関係部局のリスク管理員　総務課長　学生課長
　　その他校長が必要と認めた者

【都城高専連絡先】
●緊急連絡先
　総務課総務係　　0986-47-1107
●安否等連絡先
（教職員）総務課人事係　0986-47-1108
（学生）　学級担任へTEL又はメール
　　学生課教務係　0986-47-1134
　　保健室　　0986-47-1156
（夜間・休日等）
　守衛室　0986-47-1112又は
　学生は学級担任、教職員は上司へ
※校内危機管理体制図及び緊急連絡網により伝達

【国立高専機構】
※本校の対応については、事前協議や事前連絡が必要な場合あり
危機管理室
（時間内）042-662-3126（FAX 3131）
（時間外）080-2008-9903
総務課総務係　　042-662-3120（FAX 3131）
施設課施設企画係　042-662-3146（FAX 3148）
学務課学務係　　042-662-3141（FAX 3227）

教職員は被害状況について必要に応じて災害対策本部に報告する。
二次被害の恐れがある場合は防止策を取らなければならないが、安全を確保した上で可能な限り複数人で対応する。

負傷者が発生した場合は、教職員が個別に保健室に連絡して適切な指示を仰ぎ措置した後、災害対策本部に報告する。

授業担当教員は授業を中断し、生命の危険がないと判断される限り各教室等で学生を待機させる。
授業の中止及び休校措置については、災害対策本部が校内放送、FCメール、ホームページ等で伝達する。

災害対策本部が学生の帰宅の要否について検討し、その結果を校内放送で伝達する。

担任は、安全確保を優先し、学生が無理して自力帰宅しないように配慮する。
担任は、自力帰宅できない学生の保護者等が迎えに来られるか確認する。（学生を通じた確認も可）
保護者等による迎えができない学生については、学内合宿施設、学生寮、楽信館に一時受け入れる。

〔出典：防災ガイドブック、総務課資料〕

資料11－１－②－４

都城工業高等専門学校危機管理規則

（目的）

第１条　この規則は、 都城工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生することが予想される様々な事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制及び危機事象発生時の基本的な対処方法等に関し、必要な事項を定めることにより、本校の学生、教職員（非常勤職員を含む。以下同じ）及び近隣住民（以下「学生等」という。）の安全並びに本校教育研究活動の確保を図るとともに、本校が社会的な責任を果たすことを目的とする。

（定義）

第２条　この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 危機管理　次条に定める危機事象の原因と状況を把握、予知又は分析し、その事象によってもたらされる事態を想定することにより、被害や影響を回避又は軽減し、最小限に抑制するための適切な対応を行うことをいう。

(2) 部局　機械工学科、電気情報工学科、物質工学科、建築学科、一般科目文科、一般科目理科、専攻科、図書館、電子計算機センター、技術支援センター、地域連携センター、学生相談支援室、キャリア支援室及び事務部をいう。

(3) 部局長　前号に規定する部局の長をいう。

（対象とする事象）

第３条　この規則において対象とする事象（以下「危機事象」という。）は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

(1) 教育研究活動の遂行に重大な支障のある事態

(2) 学生等の安全に係わる重大な事態

(3) 施設管理上の重大な事態

(4) 社会的影響の大きな事態

(5) 本校に対する社会的信頼を損なう事態

(6) 前各号と同等以上の重要な事態

（校長等の責務）

第４条　校長は、本校における危機管理を統括し、その充実に努めなければならない。

２　副校長及び校長補佐は、校長を補佐し、本校における危機管理の充実に努めなければならない。

３　次条に定めるリスク管理員は、他部局と連携を図りつつ、当該部局における危機管理の充実に努めなければならない。

４　校長、副校長、校長補佐及びリスク管理員は、法令及び本校の学内規則に従い、学生等が本校に起因する危機により被害等を被ることがないよう、常に配慮しなければならない。

５　校長、副校長、校長補佐及びリスク管理員は、危機管理に当たり、学生等に対し必要な情報提供に努めなければならない。

６　教職員は、その職務の遂行に当たり、危機管理に努めなければならない。

（リスク管理員）

第５条　各部局における危機管理の責任者としてリスク管理員を置く。

２　リスク管理員は、次に掲げる者をもって充てる。

(1) 部局長

(2) その他校長が必要と認めた者

（リスク管理室の設置）

第６条　本校に、危機管理を総合的かつ計画的に推進するため、リスク管理室を置く。

（リスク管理室の業務）

第７条　リスク管理室は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 危機事象への対処に関すること。

(2) 危機管理に関する情報の収集分析及び周知に関すること。

(3) 危機管理ガイドライン及び危機管理マニュアルの策定並びに周知に関すること。

(4) 危機管理に関する教育、研修、訓練等に係る企画、立案及び実施に関すること。

(5) 危機管理対策の評価及び見直しに関すること。

(6) 緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備並びに周知に関すること。

(7) 危機管理に関し、独立行政法人国立高等専門学校機構本部（以下「機構本部」という。）リスク管理対策本部と相互連携を図ること。

（リスク管理室の組織）

第８条　リスク管理室は、次に各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 副校長（教務主事）

(2) 副校長（学生主事）

(3) 副校長（寮務主事）

(4) 校長補佐

(5) 事務部長

(6) 総務課長

(7) 学生課長

(8) その他校長が必要と認めた者

２　前項第８号の室員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（リスク管理室の室長）

第９条　リスク管理室に室長を置き、副校長（教務主事）をもって充てる。

２　室長は、リスク管理室の業務を掌理する。

３　室長に事故があるときは、副校長（学生主事）が、その職務を代行する。

（リスク管理室員以外の者の出席）

第１０条　リスク管理室長が必要と認めたときは、その都度リスク管理室員以外の者を会議に出席させ、当該事項について意見を述べさせることができる。

（通報窓口）

第１１条　本校における危機事象の通報窓口は、総務課とする。

（危機事象に関する通報等）

第１２条　学生及び教職員は、緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生するおそれがあることを発見したときは、直ちに総務課に通報しなければならない。
２　前項の通報を受けた総務課は、直ちに関係する部局のリスク管理員に連絡するとともに、他の学内規則において当該危機事象発生の通報について定めている場合は、当該学内規則等に従い、直ちに連絡するものとする。
３　総務課及び前項の連絡を受けたリスク管理員は、当該危機の状況を確認の上、直ちにリスク管理室長に連絡するとともに、緊急に必要な措置を講じた場合においては、その旨も報告するものとする。
４　前項の連絡を受けたリスク管理室長は、直ちに校長に報告するとともに、当該危機事象の対処について他の学内規則等に定めがない場合は、校長及び関係部局のリスク管理員と対処方針等を協議するものとする。ただし、第１４条第１項に該当する場合を除く。
５　前項の協議により対処方針等を決定したときは、次条により危機対策本部を設置する場合を除き、リスク管理室が対処に当たるものとする。

（対策本部の設置）

第１３条　校長は、危機事象の対処のために必要と判断する場合は、当該危機事象に係る危機対策本部（以下「対策本部」という。）を設置するものとする。
２　対策本部は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長（教務主事）
(3) 副校長（学生主事）
(4) 副校長（寮務主事）
(5) 校長補佐
(6) 事務部長
(7) 関係部局のリスク管理員
(8) 総務課長
(9) 学生課長
(10)その他校長が必要と認めた者
３　対策本部に本部長を置き、校長をもって充てる。
４　本部長は、対策本部の業務を総括する。
５　対策本部に本部長を補佐するため副本部長を置き、副校長（教務主事）をもって充てる。
６　対策本部の事務は、総務課が主管し、関係各課から事務部長の指名する者が参画する。
７　本部長は、危機事象への対処により、対策本部の役割を完了したと判断したときは、対策本部を解散するものとする。

（対策本部の権限）

第１４条　対策本部は、本部長の指揮の下に、危機事象に迅速に対処しなければならない。
２　学生及び教職員は、対策本部の指示に従わなければならない。
３　対策本部は、危機事象の処理に際し、緊急を要する場合には、本校の学内規則等により必要とされる手続きの省略又は当該手続きを対策本部が行うことができる。ただし、対策本部は、当該手続きを省略した場合においては、危機事象の対処の終了後に、必要な報告をしなければならない。

（機構本部リスク管理本部等との連携）

第１５条　対策本部は、危機管理を総合的かつ有機的に実施するため、機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとし、必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

（部局における危機への対処等）

第１６条　リスク管理員は、当該部局のみに係る危機事象であって当該部局限りで対処することが適切と判断する危機事象については、その内容、対処方針、対処状況等をリスク管理室長に報告し、了解を得るものとする。

２　リスク管理員は、当該部局のみに係る危機事象であっても、本校として対処すべきものと判断する場合は、リスク管理室長を経由して校長に対し対策本部の設置を申し出るものとする。

（校長が不在の時の措置）

第１７条　校長が出張等により不在の場合は、副校長（教務主事）が、この規則に基づき、危機管理に対処するものとする。

（事務）

第１８条　危機管理に関する事務は、総務課が行う。

（秘密保持の義務）

第１９条　本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する教職員は．その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

（雑則）

第２０条　この規則に定めるもののほか、危機管理に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成２３年５月１２日から施行する。

〔出典：規則集〕

資料11－１－②－５

クラブ・同好会のしおり

教員用

平成２３年度

クラブ・同好会のしおり



都　城　高　専

〔出典：学生課資料〕

資料11－１－②－６

安全の手引き

安全の手引き

第2次改訂版

機械工学科・・・・・・3

電気情報工学科・・・・29

物質工学科・・・・・・37

建築学科・・・・・・・77

情報機器の利用・・・89

一般科目・・・・・・91

廃液処理の指針・・・103

平成２２年４月
都城工業高等専門学校

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

運営企画委員会は，校長を委員長とし，管理運営上の重要事項を審議している。また，学則や管理運営に関する諸規則を整備し，設置規則で役割分担を定めている。事務組織については，事務分掌細則等を定めており，管理運営上の役割分担は明確である。したがって，管理運営に関する各種委員会及び事務組織は，適切に役割を分担し，適切かつ迅速に対応する体制を整備している。

危機管理については，諸規則やマニュアルを作成し，危機発生時には迅速に対応できる体制を整備している。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

平成４年７月に自己評価検討委員会を設置し，翌年，自己点検評価等実施要項と評価結果のフィードバックの仕組みを定めた。この要項に基づく自己点検評価結果を，平成23年１月に「都城工業高等専門学校の現状と課題」として公表している（資料11－２－①－１～２）。この自己点検評価に基づいて，毎年，外部評価を実施している。

平成17年に大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受け，教育研究の向上に努めている。自己評価書は，ホームページに掲載している（資料11－２－①－３）。

観点11－２－①　資料一覧

資料11－２－①－１　平成23年度　自己点検・評価報告書
〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料11－２－①－２　平成23年度　自己点検・評価報告書の配布実績一覧表
〔出典：総務課資料〕

資料11－２－①－３　平成17年度高等専門学校機関別認証評価結果及び平成21年度のJABEE審査結果の公表
〔出典：ホームページ〕

資料11－２－①－１

平成23年度　自己点検・評価報告書

都城工業高等専門学校の
現状と課題

―自己点検評価報告書―

平成２３年１月

都城工業高等専門学校

〔出典：都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料11－２－①－２

平成23年度　自己点検・評価報告書の配布実績一覧表

自己点検評価報告書(平成23年1月)の配付内訳

整理番号	配　付　先	部　数	備　考
1	本校教職員	124	
2	本校評議員	8	
3	高専機構本部総務課	1	
4	各国立高専	50	
5	後援会	2	
6	同窓会	1	
7	(社)霧島工業クラブ	1	
8	宮崎県商工観光労働部	1	
9	宮崎県工業会	1	
10	NPO法人みやざき技術士の会	1	
11	保管用	10	
12	残部	50	
13			
14			
15			
計		250	

〔出典：総務課資料〕

資料11－２－①－３

平成17年度高等専門学校機関別認証評価結果及び
平成21年度のJABEE審査結果の公表



認　定　証

Certificate

都城工業高等専門学校長　殿

President of Miyakonojo National College of Technology

貴校は平成17年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した高等専門学校機関別認証評価において高等専門学校評価基準を満たしていることを証する

This is to certify that Miyakonojo National College of Technology has demonstrated satisfactory compliance with the accreditation standards of the National Institution for Academic Degrees and University Evaluation in 2005.

平成18年3月20日

Date of Issue 20th March 2006

独立行政法人大学評価・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

機構長　木村　孟

President　Kimura Tsutomu



認　定　証

都城工業高等専門学校専攻科

プログラム名：生産デザイン工学

工学（融合複合・新領域）関連分野

頭書の技術者教育プログラムは審査の結果
JABEE認定基準に適合していることを認定
します

認定開始年度：2004 年度

（次回審査時期およびその内容については審査結果報告書に記載）

2005 年 5 月 12 日

日本技術者教育認定機構

会長　吉川　弘之

〔出典：ホームページ〕

（分析結果とその根拠理由）

平成21年度のJABEE審査及び平成17年度の高等専門学校機関別認証評価を活用し，さらに，平成22年度に自己点検評価を行い，自己点検評価報告書を公表している。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

平成18年度には，学外の意見を取り入れるための評議員会を設置した。評議員会は，毎年開催し，第２期中期計画や志願者増の取組等に関して，助言や提言を行っており，外部有識者による検証を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価は，これまで過去２回実施され，その報告書は，校内各部署，全教員，全高専，文部科学省，高専機構等に配付・公表している。また，外部評価としての評議員会が毎年開催され，自己点検評価結果を検証し，適切に公表している。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

自己点検評価や評議員会の審議結果をフィードバックするシステムとして，自己点検評価委員会がある。委員長である校長から，学科等の組織単位の問題は学科長等へ，学科を超えた問題については担当主事等を通じて，各種委員会に改善策等を諮問する仕組みになっている（資料11－２－③－１）。

自己点検評価の結果は，その報告書を全教員及び各部局に配付している。自己点検評価委員会は，平成23年度の評議員会で指摘を受けた問題点を整理し，学科等及び各種委員会に期限を定めて改善策等の審議検討を依頼し，対応している（前述資料11－２－③－１）。また，自己点検評価の検証のため，平成22年度自己点検評価報告書において，今後の課題とした諸点の改善実績調査を実施し，実際に評価が改善につながっていることを実証している（資料11－２－③－２）。

観点11－２－③　資料一覧

資料11－２－③－１　都城工業高等専門学校自己点検評価委員会規則及び大綱

〔出典：規則集、都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料11－２－③－２　自己点検評価における今後の課題に対するフォローアップ

〔出典：総務課資料〕

資料11－２－③－１

都城工業高等専門学校自己点検評価委員会規則及び大綱

都城工業高等専門学校自己点検評価委員会規則

［平成４年７月10日制定］

（目的）

第１条　都城工業高等専門学校における自己点検評価を通して教育研究水準の向上を図るため自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 自己点検評価の基本方針に関すること。

(2) 自己点検評価の実施体制並びに実施方法に関すること。

(3) 自己点検評価の総括及び公表に関すること。

(4) 改善事項の指摘に関すること。

(5) その他自己点検評価に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 校長

(2) 教務主事、学生主事及び寮務主事

(3) 事務部長

(4) その他校長が必要と認めた者

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置く。

２　委員長は、校長をもって充て、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する者が、その職務を代行する。

（定足数）

第５条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。

（意見の聴取）

第６条　委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴取することができる。

（事務）

第７条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）

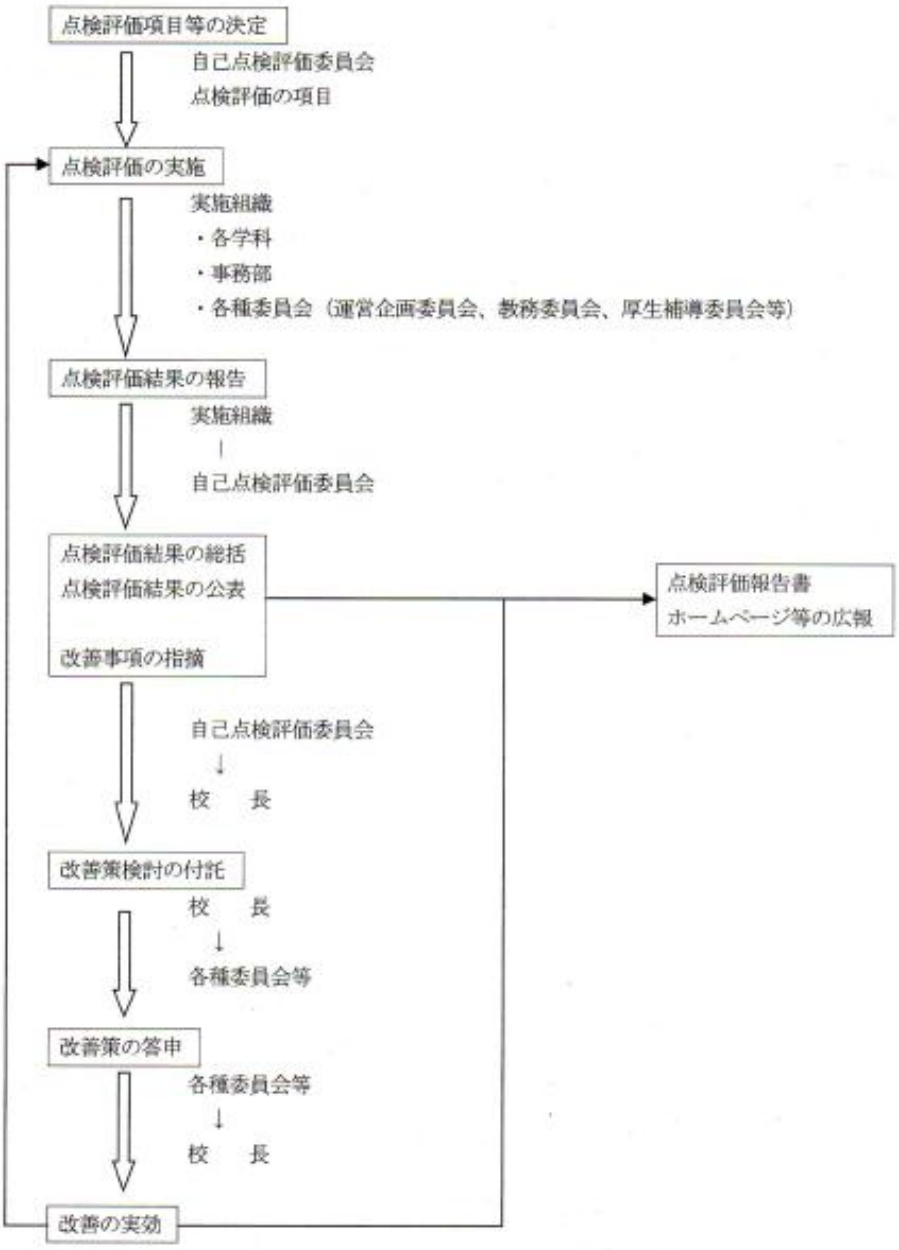
第８条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員会において定めるものとする。

附　則

１　この規則は、平成20年10月６日から施行する。

２　都城工業高等専門学校自己評価検討委員会設置要項（平成４年７月10日制定）は、廃止する。

都城工業高等専門学校自己点検評価の大綱



〔出典：規則集、都城工業高等専門学校の現状と課題〕

資料11－２－③－２

自己点検評価における今後の課題に対するフォローアップ

平成２３年度都城工業高等専門学校評議員会議事概要

日　　時　　平成２４年２月１日（水）１３：３０～１５：３０

場　　所　　都城工業高等専門学校校長室（管理棟２階）

出 席 者　　【評議員】
今井　富士夫、内　忠雄、下沖　晋、仙・　洋、山本　展也、
（長峯　誠都城市長代理）、
（渡辺　義人宮崎県教育委員会教育長代理）
【本　校】
三村校長、森崎副校長（教務主事）、河野副校長（学生主事）、
野町副校長（寮務主事）、濱田校長補佐（社会連携担当）、
林田専攻科長、邊見事務部長
【陪　席】
総務課長、学生課長、総務課課長補佐（総務担当）、
総務課課長補佐（財務担当）、学生課課長補佐、総務係長

配付資料　　資料１　平成２３年度都城工業高等専門学校評議員会評議員名簿
資料２　都城工業高等専門学校評議員会規則
資料３　都城工業高等専門学校の最近の動向
資料４　平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応
資料５　都城工業高等専門学校の現状と課題（自己点検評価報告書）〔平成２３年１月刊行〕における課題のフォローアップ
資料６　都城工業高等専門学校第２期中期計画
印刷物　「都城工業高等専門学校の現状と課題－自己点検評価報告書－」
（平成２３年１月刊行）
印刷物　「２０１１　学校要覧」
印刷物　「入試広報用チラシ」
印刷物　「２０１２　入学案内」

議事に先立ち、出席者の紹介があった。

議　　題
１．都城工業高等専門学校の最近の動向について
三村校長から、都城工業高等専門学校の最近の動向について、配付資料３により説明があ

り、審議した結果、次のとおり質問及び意見があった。

〔質問〕

○キャリア支援室を具体的に詳しく教えてほしい。

○建築学科の改組、名称変更等への取組を教えてほしい。また、１月２６日開催の「建築学科にかかる懇談会」の状況も教えてほしい。

〔意見〕

○改組又は名称変更を行う場合は、既存の免許及び特典がなくなることがあるので注意してほしい。

２．平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応について

三村校長から、平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応について、配付資料４により説明があり、審議した結果、次のとおり意見があった。

〔意見〕

○学校は、コミュニケーション能力、生き方等を培うところであり、そのことを全教員が意識して取り組むことが肝要である。

○小中学校と連携して、キャリア教育を推進する必要がある。

○宮崎県内企業へ就職することにより、宮崎県産業界の活性化に寄与してほしい。

○少子化時代にあって、新しいビジョンによる学生募集の在り方が求められている。

３．都城工業高等専門学校の現状と課題（自己点検評価報告書）〔平成２３年１月刊行〕における課題のフォローアップについて

森茂副校長（教務主事）から、都城工業高等専門学校の現状と課題（自己点検評価報告書）〔平成２３年１月刊行〕における課題のフォローアップについて、配付資料５により説明があり、審議した結果、次のとおり質問及び意見があった。

〔質問〕

○モデルコアカリキュラムとは、どのようなものですか。

○建築学科の目的と教育概要（１頁）で「地域及び社会から今後求められるであろうニーズを鑑み」と記述されているが、そのニーズはどのようにして抽出されたのか。また、ニーズとカリキュラム改訂は関係ないのではないか。

○寮生活の現状と課題を教えてほしい。

○アルバイトとインターンシップの関係を教えてほしい。

○科研費の実績、状況等を教えてほしい。

○公開講座で延期となっているものがあるが、その後どうなりましたか。

○宮崎県内への就職が少ないのはなぜですか。

○工業高校からの編入学試験において、一般入試なのに入学辞退した者の学校長から辞退届を提出させることができるのか。

〔意見〕

○学力選抜における第４志望までの拡大に当たっては、現行の第２志望で入学した学

生の退学状況を調査の上、慎重に検討してほしい。

○アドミッションポリシーとして「心身ともに健全な人」を求める必要はないのではないか。（違和感を感じる。）

○学園祭の利用の一つとして、模擬授業等を実施して地域連携を図ってはどうか。

○教員個々が高専なりのＦＤの必要性を認識することが大事であり、そのシステムを構築してほしい。

４．その他

次のとおり意見があった。

〔意見〕

○平成２５年度から防衛大学校が高専からの編入学を受け入れる予定なので、そのことをアピールしてほしい。

○宮崎県産業界との連携を強化の上、相互理解を深め、求人を早めにしていただくよう依頼できないか。

○地元に優秀な人材を確保するため、Ｕターンを希望している卒業生名簿を作成してほしい。

以　上

平成２２年度都城工業高等専門学校評議員会での提言への対応

【提言】
１．学生へのキャリア教育を充実させてほしい。

【対応】
本校では、低学年時からのキャリア教育充実を図る目的で、平成２３年４月１日にキャリア支援室を設立した。現在、本校ＯＢ・ＯＧを講師として招聘し、様々な講演会を開催しており、さらに今後、系統的なキャリア教育が可能となるような制度設計を進めていく予定である。

【提言】
２．高専と工業高校との連携をお願いしたい。

【対応】
平成２４年２月２７日に、宮崎県立都城工業高等学校の各学科主任等が来校し、種々意見交換を行うこととしている。

【提言】
3．日本の建築歴史や建築様式を知らない学生が増えている。時間をいただければ学生に話をさせてほしい。

【対応】
１２月２１日（水）７限目３年建築特別活動の時間に、宮崎高砂工業株式会社取締役社長の仙臺氏を講師として招へいし、〔「もし・ドラ」と震文化＆社会人への心構え〕と題して講演を実施した。

【提言】
4．中学校の教員は、高専のことをあまり理解していないので、宮崎県内７地区で開催されている中学校進学主任又は進路指導主事の会で高専の紹介をしてほしい。

【対応】
今年度は、日程調整がつかず宮崎県の進学主任、進路指導主事会議には参加できなかった。
しかし、都城圏域、宮崎・児湯地区校長等への進学説明会は、本年度も継続して実施した。
本年度は、学校紹介用ＤＶＤやチラシを作成し県内全中学校へ送付した。また、１１月には宮崎市内のケーブルＴＶを利用し高専のピーアル番組（約１５分程度）を放送した。

【提言】
5．学生が就職先を決定する際、日本の大企業にだけ目を向けるのではなく、日本への需要が高い中国等海外企業へも目を向けてほしい。（学生に大きな夢を持ってほしい。）

【対応】
キャリア支援室では、現在、ＯＢ・ＯＧ以外にも講師を招聘し、講演会を実施しているが、今後、海外で活躍している講師を招聘するなど、海外へ視野を広げるきっかけとなるような講演会や取組を実施していきたいと考えている。また、最近では、専攻科生が海外留学をする機会も増えていることから、留学経験者が実体験を通して感じた他国学生の考え方や様子などを話してもらうことで、さらに海外への興味や活動の場を海外に目を向ける端緒となればと考えている。

【提言】
6．高専は、今日のグローバル社会に対応して、もっと英語教育を充実・強化させてほしい。

【対応】
英語科では、ヒヤリングや会話力の向上に力点をおいた授業を展開している。３年生は、４年前から全員１０月にＴＯＥＩＣ　ＢＲＩＧＤＥ試験を受験している。本校の今年度の４学科の成績の平均点は１２４点で全国高専の平均点を約５点上回っている。また、４年生も１１月にＴＯＥＩＣ　ＩＰ試験を毎年実施し、英語教育をより一層、充実・強化している。さらに、専攻科生や本科の５年生は最近、国際学会等で発表する機会が多くなっている。

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

自己点検評価や評議員会評価をフィードバックし，改善に結び付ける自己点検評価のシステムを構築している。評議員会議事録及び平成22年度自己点検評価報告書において，今後の課題とした諸点の改善実績調査を実施し，自己点検評価が改善に結び付いていることを実証している。したがって，評価結果をフィードバックし，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるシステムを整備し，有効に運営している。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

平成18年９月に第１回目として実施した評議員会では，毎年２月に県内国立大学教授，地元企業役員，同窓会会長，宮崎県中学校校長会会長，宮崎県教育長等，広く有識者からの意見を聞き，それらの意見に対し，各種委員会及び学科等に改善策の検討を求めている（前述資料11－２－③－２）。特に，管理運営に関する指摘事項については，運営企画委員会で改善策を検討している。

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者の意見を聴取できる仕組みとして，平成18年９月に評議員会を設置し，毎年１回開催している。評議員会での意見や提言に関しては，運営企画委員会をはじめ各種委員会及び学科等に改善策の検討を求め回答を得ている。したがって，外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映している。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

平成16年度に高等教育コンソーシアム宮崎が設立され，本校も参加し公開授業やインターンシップ事業で連携している。（資料11－３－②－１）

平成４年度に設立された霧島工業クラブと本校とは，都城圏域や鹿児島県の一部の異業種企業として約20年間，共同研究やインターンシップ等を通じて綿密な連携を図っている。平成18年度には，宮崎県工業会と包括連携協力協定書を締結し，産学官連携を強化している（資料11－３－②－２）。また，平成20年度には，JSTイノベーションサテライト宮崎と産学官連携に関する覚書を締結した（資料11－３－②－３）。さらに，平成21年度には，NPO法人みやざき技術士の会と連携協力に関する協定書を締結した（資料11－３－②－４）。

平成６年度には，モンゴルの遊牧民に風力発電機を送るプロジェクトを教員と技術職員が開始し，モンゴル科学技術大学と学術交流協定を締結した。宮崎県の海外技術研修員制度を利用し，モンゴル科学技術大学の教員を研修生として受け入れている（資料11－３－②－５）。また，教員は，モンゴルの環境現地調査（大気，水）をモンゴル科学技術大学と共同で行っている。

クラブ活動においては，外部コーチ制度を導入し，学生のクラブ・同好会活動を支援する体制を整えている（資料11－３－②－６）。また，年１回リーダー研修会やマナー講習会を開催し，外部講師を招いて特別講演会を開催している（資料11－３－②－７）。

同窓会長は評議員であり，入学者募集や卒業生の就職状況等についての情報提供や提言を行っ

ている。また，同窓会は，文化祭（高専祭）等の学生会行事に参加し，毎年学生会への後援を行っている。

平成21年度からは，地域の小学校・中学校への出前授業，夏休み自由工作，親子登山等の行事を開催し，地域の小中学生や保護者との交流も促進している。都城圏域の小中学校への出前授業を促進するために，平成23年度に出前授業の冊子を改訂した（資料11－３－②－８）。

観点11－３－②　資料一覧

資料11－３－②－１　高等教育コンソーシアム宮崎での公開授業やインターンシップ事業の参加状況一覧
〔出典：学生課資料〕

資料11－３－②－２　宮崎県工業会との包括的連携協定
〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－３　JSTイノベーションサテライト宮崎との産学官連携に関する覚書
〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－４　NPO法人みやざき技術士の会との連携協定
〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－５　宮崎県海外技術研修員制度による研修生受入一覧（モンゴル科学技術大学）
〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－６　課外活動外部コーチ制度要項及び実績一覧
〔出典：学生課資料〕

資料11－３－②－７　リーダー研修会及びマナー講習会外部講師
〔出典：学生課資料〕

資料11－３－②－８　出前実験・出前授業実績一覧
〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－１

高等教育コンソーシアム宮崎での公開授業やインターンシップ事業の参加状況一覧

平成23年度「宮崎県内大学・短大・高専の授業体験会」

授業一覧

学部系	機関	学部・学科	授業題目	担当者	授業時間	会場
法・経済・経営系	宮崎産業経営大学	法学部	罪刑法定主義について	大久保哲	①②	5-1
		経営学部	経営学部で学ぶということ：答えのない学問を学ぶことがなぜ楽しい？	長原徹	①②	2-4
文・外国語・教育系	宮崎大学	教育文化学部	宮崎の美術を読む	石川千佳子	①②	3-2
	南九州大学	人間発達学部	乳幼児期の発達と遊び	黒川久美	①	3-3
			子どもの発達 子どもの権利	浜沢透	②	3-3
	宮崎学園短期大学	保育科	どんぐりペンダント製作	守川美鶴	①	1-2
		人間文化学科	脳・神経と消化器系の関係	谷口和子	②	1-2
生活・社会系	南九州大学	健康栄養学部	理想体型を目指すために必要な栄養学	伊藤薫	①	2-1
			食品添加物のはなし	山田光子	②	2-1
学際系	宮崎公立大学	人文学部	異文化間コミュニケーション "Speaking with the World: Communication in the 21st Century"	スコット ピンガム	①②	2-2
	南九州大学	環境園芸学部	庭園の美とこころ	永松義博	①	3-5
			絶滅危惧植物の保護と自然環境の保護	長江嗣朗	②	3-5
	宮崎国際大学	国際教養学部	こんな時英語で何て言う？：日本文化について考える Communicating Ideas about Japan in English	ジュリア・ クリスマス	①②	2-5
	南九州短期大学	国際教養学科	ホテルの役割とホスピタリティ	松岡昌幸	①	5-2
			英語の発音練習：ここから始めよう！	横堀仁志	②	5-2
理・工・農系	宮崎大学	工学部	屋内移動通信での人体による影響	横田光広	①②	1-3
		農学部	地球は愛と農学で回っている	目黒貞利	①②	4-3
	都城高専	一般科目(応用物理)	科学史：サイエンスの歴史を学ぼう	森茂龍一	①①	3-1
医・歯・薬・保健系	宮崎大学	医学部	生命の成り立ちと病気のしくみ	丸山治彦	①②	4-1
	宮崎県立看護大学	看護学部	赤ちゃんが持つ素晴らしい力	長鶴美佐子	①②	1-1
	九州保健福祉大学	社会福祉学部	社会福祉の概要と仕事について	福崎恭子	①②	2-3
		保健科学部	快適な「視」生活を送るために：屈折矯正の基本的知識	内川義和	①	4-2
			言語聴覚士から見たコミュニケーションとは	中山翼	②	4-2
		薬学部	6年制薬学部の勉強と社会における新生薬剤師の役割	本屋敏郎	①②	3-4
コンソーシアム特別科目			大学で学ぶことの意味	藤堂智一(宮崎大学)	①	2-6

平成23年度　インターンシップ受入所属一覧（知事部局）

所属	担当者名	受入可能人数 2週間	1週間	その他	7月 中旬	7月 下旬	8月 上旬	8月 中旬	8月 下旬	9月 上旬	9月 中旬	9月 下旬	インターンシップ決定者	主な内容
総合政策課		1					○	○	○				都城高専：	庁議等会議出席、資料作成、新規事業検討、政策評価取りまとめ
情報政策課			1			○	○						都城高専：	地域情報化推進状況等のとりまとめ（「デジタル・デバイド解消に向けた市町村等協議に資するデータ等の収集整理、新たな情報通信技術（ｸﾗｳﾄﾞ）利活用による地域振興施策事例の収集整理）
環境森林課		4			○	○	○	○					都城高専：	地球温暖化対策に関する業務（宮崎県における温室効果ガス排出量調査に係る業務、宮崎県における温室効果ガス排出抑制に係る業務、住宅用太陽光発電システムの普及拡大に係る業務、県民への啓発に係る業務
総合農業試験場 生物工学部			2				○						都城高専：	植物組織培養、得虫試験準備および調査、圃場管理適応手都前等
総合農業試験場 野菜部			1				○						都城高専：	野菜の育苗準備
土木課			1		○	○	○	○	○	○	○	○	都城高専：	工事設計書の作成、土木業務に係る資料等の作成、現場管理における監督員の補助

平成23年度　インターンシップ受入所属一覧（教育庁）

所属	係（担当）名	期間 2週間	1週間	その他	7月 中旬	7月 下旬	8月 上旬	8月 中旬	8月 下旬	9月 上旬	9月 中旬	9月 下旬	インターンシップ決定者	主な内容
県立美術館 学芸課			3						○				都城高専：	美術館学芸業務及び監視業務（パンフレットや資料等の整理、コレクション展示室での監視、教育普及事業の補助
受入学生数合計	3	0	3	0										

平成23年度インターンシップ参加決定者名簿

緑の網掛け箇所に記入してください。

事業所番号	事業所名	大学等名	所属学部学科等	学生氏名	参加決定	申込書送付日	確認書送付日
16	株式会社牧下組	都城工業高等専門学校	建設学科専攻				
16	株式会社牧下組	都城工業高等専門学校	建設学科専攻				
17	株式会社サニーシーリング	都城工業高等専門学校	機械電気工学科専攻（電気）				
32	株式会社ホンダロック	都城工業高等専門学校	物質工学科専攻				

〔出典：学生課資料〕

資料11－３－②－２

宮崎県工業会との包括的連携協定

独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校と社団法人宮崎県工業会との包括連携協力協定書

独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校（以下「甲」という。）と社団法人宮崎県工業会（以下「乙」という。）は、相互の資質の向上及び地域社会の発展に寄与するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　甲及び乙は、互いに交流を深めることによって、相互の資質の向上及び高等専門学校と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。

（組織）

第２条　前条の目的を遂行するため、「都城工業高等専門学校－宮崎県工業会産学連携会議」（以下「本会議」という）を設置し、連携のための基本事項を決定する。

２　本会議の構成人員は、甲の校長、校長補佐（社会連携担当）及び事務部長、並びに、乙の会長、副会長（産学連携担当）及び専務理事とする。

３　本会議において決定された事項を具体化し、計画的に実行していくため、本会議の下部組織として必要に応じ専門委員会を設置する。

４　専門委員会の名称及び構成人員は、本会議において決定する。

（会議開催等）

第３条　本会議は原則として年１回以上開催し、当該年度の実施事項の評価及び次年度の実施計画を決定する。

２　本会議の議長は、甲乙双方の協議にて定め、会議の招集は議長が行うものとする。

３　専門委員会は、必要に応じて開催する。

（目標及び計画）

第４条　本会議及び専門委員会において決定される事項については、具体的な目標を明示し、達成期限を設けるものとする。

（有効期間）

第５条　本協定の有効期間は、協定の締結日から平成２３年３月３１日までとする。ただし、本協定書の有効期間１月前までに、甲乙いずれからも改廃の申し出がない場合は、５年間更新するものとし、以後も同様とする。

（事務処理）

第６条　本協定に係る事務は、甲乙双方の事務局において処理するものとする。

（補則）

第７条　この協定に定めない事項及びこの協定に疑義が生じた事項については、必要に応じて甲乙双方で協議して定めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、当該者署名の上、各自１通を保有する。

平成１８年６月８日

甲　都城市吉尾町４７３－１
独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
校　長　廣瀬　寛

乙　宮崎市佐土原町東上那珂16500-2
社団法人宮崎県工業会
会　長　水谷　茂

〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－３

JSTイノベーションサテライト宮崎との産学官連携に関する覚書

都城工業高等専門学校とＪＳＴイノベーションサテライト宮崎との
産学官連携に関する覚書

都城工業高等専門学校（以下「甲」という。）とＪＳＴイノベーションサテライト宮崎（以下「乙」という。）は、「独立行政法人国立高等専門学校機構と独立行政法人科学技術振興機構との産学官連携に関する協定書」（平成２０年８月２６日）に基づき、相互に連携協力し産学官連携を推進することを目的として、次のとおり覚書を締結する。

（連携の範囲）
第１条　甲及び乙は、次の各号に掲げる事項について緊密な連携を築き、相互の産学官連携活動の効果的な展開を図るものとする。
（１）研究開発及び技術移転の促進に関する事項
（２）その他科学技術振興及び産学官連携推進に関する事項

（連携の実施）
第２条　本覚書に関わる連携の実施にあたり詳細な取り決めが必要となる場合は、甲及び乙は別途協議の上定めるものとする。

（有効期間）
第３条　本覚書の有効期間は覚書締結の日から起算して１年とし、期間満了の１月前までに甲又は乙から更新しない旨の意思表示がなされないときは、同一条件により更新されるものとし、それ以降も同様とする。

（その他）
第４条　本覚書の条項、解釈に疑義が生じた場合は、甲乙協議するものとする。

本覚書締結の証として、本覚書２通を作成し、甲、乙それぞれ署名押印のうえ、各１通を保管するものとする。

平成21年3月3日

甲　宮崎県都城市吉尾町４７３－１
都城工業高等専門学校
校　長　　三　村　　洋　史

乙　宮崎県宮崎市橘通東１－７－４　第一宮銀ビル６階
ＪＳＴイノベーションサテライト宮崎
館　長　　黒　澤　　宏

〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－４

NPO法人みやざき技術士の会との連携協定

独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校と
特定非営利活動法人みやざき技術士の会との連携協力に関する
協定書

独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人みやざき技術士の会　（以下「乙」という。）は、円滑かつ密接な連携のもとに、科学技術に係わる教育研究分野において相互に協力し、教育研究の充実と人材の育成に寄与することを目的として、次のとおり協定を締結する。

（協力事項）
第１条　甲と乙は、次の各号に掲げる事項について協力する。
(1) 技術者教育と技術士試験に関すること。
(2) 社会人技術者の能力開発に関すること。
(3) 技術移転・知的財産事業及び研究開発・事業化支援に関すること。
(4) 産学官交流促進に関すること。
(5) その他甲乙双方が必要と認める事項

（推進会議）
第２条　甲と乙は、この協定に基づき実施する事業について協議し、継続的かつ積極的な推進を図るため、都城工業高等専門学校・みやざき技術士の会連携協力推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。
２　推進会議の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

（有効期間）
第３条　本協定の有効期間は、協定の締結日から平成２７年３月３１日までとする。ただし、本協定書の有効期間満了日の１月前までに、甲乙いずれからも改廃の申出がない場合は、５年間更新するものとし、以後も同様とする。

（事務処理）
第４条　本協定に係る事務は、甲乙双方の事務局において処理するものとする。

（補則）
第５条　この協定に定めのない事項及びこの協定に疑義が生じた事項については、必要に応じて甲乙双方で協議して定めるものとする。

この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲乙双方の代表者が署名捺印の上、各自１通を保有する。

平成２２年３月２８日

甲　都城市吉尾町４７３番地の１
独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
校長　三村洋史

乙　宮崎市清武町木原６０番地１
レジデンス奥野館４０３号
特定非営利活動法人みやざき技術士の会
理事長　下津義博

都城工業高等専門学校・みやざき技術士の会連携協力推進会議要項

（趣旨）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校と特定非営利活動法人みやざき技術士の会との連携協力に関する協定書（平成２２年３月２８日締結）第２条第２項の規定に基づき、都城工業高等専門学校・みやざき技術士の会連携協力推進会議（以下「推進会議」という。）の組織及び運営について定める。
（組織）
第２条　推進会議は、次の各項各号に掲げる委員をもって組織する。
２　都城工業高等専門学校（以下「都城高専」という。）の委員
(1) 副校長（教務主事）
(2) 副校長（学生主事）
(3) 校長補佐（社会連携担当）
(4) 専攻科長
(5) 地域連携センター長
(6) 総務課長
(7) 学生課長
(8) その他都城高専校長が必要と認めた者
３　みやざき技術士の会（以下「技術士会」という。）の委員
(1) 理事長
(2) 副理事長
(3) 理事・幹事　若干人
(4) その他技術士会理事長が必要と認めた者
（任期）
第３条　前条第２項第８号並びに第３項第３号及び第４号の委員の任期は１年とする。
（議長）
第４条　推進会議に議長を置く。
２　議長の任期は１年とし、都城高専副校長（教務主事）と技術士会理事長が交代で務めるものとする。
３　議長は、必要に応じ推進会議を招集し、その議長となる。
（委員以外の者の出席）
第５条　推進会議が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
（専門部会）
第６条　推進会議における専門的な事項について協議するため、必要に応じ専門部会を置くことができる。
２　専門部会についての必要な事項は、推進会議が別に定める。
（事務局）
第７条　推進会議の事務は、議長が都城高専副校長（教務主事）のときは都城高専総務課、議長が技術士会理事長のときは技術士会事務局において処理する。
（その他）
第８条　この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、推進会議が別に定める。
附　則
この要項は、平成２２年３月２８日から施行する。

〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－５

宮崎県海外技術研修員制度による研修生受入一覧（モンゴル科学技術大学）

宮崎県海外技術研修員制度による都城高専受入者一覧		
年度	派遣者名	備考
8	ビフバット講師	
9	ブッドスレン助教授	
10	ムンヒバートル教授	
11	オトゴンチメギ講師	
12	ボルド・ゴンボオシャブ講師	
13	（推薦依頼なし）	
14	（推薦依頼なし）	
15	ゲジュー・バータル・ブレヴスレン講師	
16	ダワジャフ・プルダッシュ講師	
17	アルタンスフ・ドルジゴトヴ助手	
18	セルゲレン・ムンフバートル研究補助員	
19	ダシュダバー・エルデネツェツェグ講師	
20	バツェツェグ・バトムンフ講師	
21	（不採用）	
22	（不採用）	
23	（推薦者なし）	
24	ガンチメグ・オトゴンバイヤー講師	
※派遣機関は，いずれもモンゴル科学技術大学		
※受入期間は，いずれも9月から翌年3月の7月間		

〔出典：総務課資料〕

資料11－３－②－６

課外活動外部コーチ制度要項及び実績一覧

３．クラブコーチについて

外部コーチ制度は昭和６０年よりクラブ活動の活性化のために導入された。

顧問の実技指導が困難でかつ外部コーチを希望するクラブのために外部コーチを招請している。平成２１年度は１８名の外部コーチを依頼した。

毎年下記の内容の文書が各クラブ顧問に４月当初にメールにて配信される。

記

平成２１年度クラブコーチの委嘱希望調査について（依頼）

学　生　主　事

このことについて、貴クラブにおいて委嘱希望調査を行いますので、今回添付分にご入力の上、４月１５日（水）までにメール添付で学生係へ提出してください。なお、コーチ委嘱予定者には事前に内諾を得てくださるようお願いします。

また、クラブコーチ謝金については、平成１２年度より下記のとおりの取り決めになっています。学内職員のコーチの取扱い及びクラブコーチ謝金予算は下記のとおりです。

記

○１クラブに対する年間クラブコーチ謝金支給額は、当分の間、原則として１５万円（１時間単価を１，５００円とした場合、１００時間相当分である）を限度とする。

○平成２０年度（第２１回）　厚生補導委員会　平成２１年１月１６日（金）

平成２１年度以降については、次のとおり取り扱うこととする。

・クラブコーチは原則として、学外者とする。

・ロボット製作局、低燃費車製作研究部の学内職員によるコーチについては、本務として、超過勤務手当を支給する。

・バドミントン部の学内職員によるコーチについては、本務外として、謝金を支給する。

（理由）学内職員によるクラブコーチは基本的には本務外であり謝金とする。

例外的にロボット製作局、低燃費車製作研究部のコーチは、技術教育の延長と考え、本務として扱うため超過勤務手当とする。

○平成２０年度（第２４回）　厚生補導委員会　平成２１年２月２４日（火）

クラブコーチ謝金の削減について

審議の結果、平成２１年度以降のクラブコーチ謝金については、次のとおり取扱うこととした。

平成２１年度から、ロボット制作局、低燃費車同好会のコーチ謝金は、超過勤務手当となるため、その金額相当分の１５万円（１９年度実績の１０％）をコーチ謝金予算から削減する。そのため、平成２１年度以降のクラブコーチ謝金の予算は１３５万円とする。

平成２３年度クラブコーチ名簿

	No	クラブ名	コーチ氏名	住所・勤務先	連絡先	新規・継続	支給
学外	1	柔道部				継続	謝金
学外	2	ラグビー部				継続	謝金
学外	3	空手部				継続	謝金
学外	4	水泳部				継続	謝金
学外	5	ﾎﾞｸｼﾝｸﾞ部				継続	謝金
学外	6	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部				継続	謝金
学外	7	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ部				継続	謝金
学外	8	茶道同好会				継続	謝金
学外	9	吹奏楽部				継続	謝金
学内	10	ロボット製作局				継続	超過勤務手当
学内	11	ロボット製作局				継続	超過勤務手当
学内	12	低燃費車同好会				継続	超過勤務手当
学内	13	低燃費車同好会				新規	超過勤務手当
学外	14	剣道部				継続	謝金
学外	15	野球				継続	謝金
学外	16	陸上				継続	謝金
学外	17	女子バレー				継続	謝金
学外	18	演劇同好会				継続	謝金
学内	19	ものづくり同好会				新規	超過勤務手当
学外	20	ダンス同好会				新規	謝金
学外	21	バスケット（男女）				新規	謝金

〔出典：学生課資料〕

資料11－３－②－７

リーダー研修会及びマナー講習会外部講師

ユーザ名: 学生係 njggakusei
タイトル: リーダー研修会の日程について : fcpri

2011年9月6日 13:42:39
ページ 1 / 1

差出人: 岡部勇二 nkc　　2011年9月6日 11:24:02

件名: リーダー研修会の日程について

宛先: 学生指導部連絡箱

CC: 学生係 njggakusei

学生指導部の先生方

すでにメールにてご存知のことと存じますが、表記の件について改めて確認させてください。

リーダー研修会の日程について、以下のように周知したいと存じますが、ご意見などありましたらお知らせください。よろしくお願いします。

平成23年度リーダー研修実施計画
日時：平成23年10月1日（土）9:00 ~ 12:00
場所：専攻科棟2階多目的ホール
日程
9:00～10:00 （講演）宮崎シャイニグサンズマネージャー　　氏
10:10～10:40 学生主事の話
10:45～11:30 班別討議
11:30～11:45 班別発表
11:45～12:00 学生主事による講評

班別討議のテーマ等は　　様の講演内容など伺ってから決めたいと思います。

よろしくお願いします。

岡部勇二

差出人: 岡部勇二 nkc　2011年9月21日 15:29:16
件名: リーダ研修について
宛先: 全教員
CC: 学生係 njggakusei

クラブ指導教官各位

先ほどの教育会議にて学生主事よりお話がありましたが、10月1日のリーダー研修は予定通り実施いたします。寮マッチと日程が重なっておりますが、ご容赦ください。来年度からは寮指導部と打ち合わせて、日程の重複は避けていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

なお参加者の連絡の〆切が23日となっておりますのでよろしくお願いします。

学生主事補
岡部勇二

差出人:　　学生係 njggakusei　　2012年1月6日 9:54:16
件名:　（２／８）第１回マナー講習会について
宛先:　　４年担任
CC:　　学生指導部連絡箱　　学生課長 njg　　学生補佐 njggakusei
教務係 njgkyoumu　　後援会 njsgakusei

平成２４年１月６日

４年生　担任の先生方へ

学生主事

第１回マナー講習会の開催について

早速ではありますが、４年生を対象とした第１回マナー教室を
下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。
クラス学生への周知連絡をお願いいたします。

記

第１回マナー教室
１）日時　２月８日（水）　１４時４５分～１５時３０分
２）場所　専攻科棟２階　多目的ホール
３）講師　　講師
４）内容　面接指導等
５）対象　４年生全員

〔出典：学生課資料〕

資料11－３－②－８

出前実験・出前授業実績一覧

		出前実験・授業	
年度	月　日	支　援　先　/　内　容	担当者
平成19年度	7月1日	五十市小学校１年生学年レクレーション/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	11月11日	沖水小学校（沖水まつり）	森　寛・山内辰郎
	12月11日	沖水中学校２年生/磁石の世界を見てみよう	赤木洋二・白濱正尋・中村美和
	1月11日	串間市有明小学校５，６年生/シャボン玉実験等	森　寛・山内辰郎
	1月16日	三股小学校６年生/シャボン玉実験・スライム・使い捨てカイロ	森　寛・金澤亮一・山内辰郎
	2月18日	祝吉中学校２年生/磁石の世界を見てみよう	赤木洋二
	3月16日	五十市小学校４年生/シャボン玉実験	森　寛・山内辰郎
平成20年度	5月31日	都城市文化振興財団（小学生対象）/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	6月14日	三股西小学校４年生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	7月1日	明和小学校５年生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	7月23日	都城地区小学校/夏休み工作・実験教室＆お化け屋敷	森茂龍一・ボランティア同好会
	7月27日	五十市小学校３年生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	10月26日	五十市小学校３年生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	11月9日	沖水小学校６年生（沖水まつり）/シャボン玉実験・スライム・使い捨てカイロ	森　寛・金澤亮一・山内辰郎
	11月16日	祝吉中学校２年生/シャボン玉実験・スライム・使い捨てカイロ	森　寛・金澤亮一・山内辰郎
平成21年度	7月2日	明和小学校３年生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	7月4日	五十市小学校５先生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛・山内辰郎
	8月1日	都城地区小学校/夏休み工作・実験教室＆お化け屋敷	森茂龍一・ボランティア同好会
	8月23日	都城地区小学校/「工作・習字」お手伝い隊・おもちゃ病院	技術支援センター
	2月7日	都城地区小学校/おもちゃ病院・おもしろ理科教室	技術支援センター
平成22年度	5月1日	都城地区小学校/天まで飛ばせ！巨大シャボン玉教室	技術支援センター
	5月18日	志布志中学校３年生/酸とアルカリ	森　寛
	5月20日	志布志中学校３年生/磁石の世界を見てみよう	赤木洋二
	6月23日	沖水小学校高学年生/二足歩行ロボット	辻井猛志、吉井千周
	6月28日	沖水小学校低学年生/八足歩行ロボット	辻井猛志
	7月2日	沖水小学校/音波の伝わり方	森茂龍一
	7月7日	沖水小学校/熱の伝わり方と雲の発生	森茂龍一
	7月31日	都城地区小学校/夏休み工作・実験教室＆お化け屋敷	森茂龍一・ボランティア同好会
	8月7日	株式会社ニチワ（小学生と保護者）/シャボン玉実験・スライム作り・使い捨てカイロ	森　寛
	8月7日	都城地区小学校/おもちゃ病院・おもしろ理科教室	技術支援センター
	11月7日	沖水小学校５，６年生（沖水まつり）/わくわくサイエンス	森茂龍一
	11月7日	沖水小学校１年～４年生（沖水まつり）/シャボン玉実験・スライム作り・使い捨てカイロ	山内辰朗、後藤彰澄
	11月7日	三股小学校１年～６年生/シャボン玉実験・スライム作り	金澤亮一
	11月7日	五十市小学校３年生親子70組/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛
	2月13日	都城地区小学校/おもちゃ病院・おもしろ理科教室「ふしぎなスライムを作ろう」	技術支援センター
平成23年度	7月23日	五十市小学校３年生/シャボン玉実験・スライム作り	山内辰朗、後藤彰澄
	7月30日	都城地区小学校/夏休み工作・実験教室＆お化け屋敷	学生会・ボランティア同好会
	7月30日	都城地区小学校/折り紙建築教室	建築学科学生
	8月7日	都城地区小学校/おもちゃ病院・たのしい理科教室-燃料をつくってポンポン船を動かそう-	技術支援センター
	8月17日	祝吉地区こどもふれあい教室（小学生と保護者）/スライム作り	森　寛、山内辰朗、後藤彰澄
	9月17日	三股西小学校親子レクレーション/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛、山内辰朗、後藤彰澄
	11月6日	三股小学校１年～６年生/シャボン玉実験・スライム作り	森　寛
	11月6日	沖水小学校１年～６年生（沖水まつり）/楽しい科学実験１	山内辰朗、後藤彰澄
	11月6日	沖水小学校１年～６年生（沖水まつり）/楽しい科学実験２	山内辰朗、後藤彰澄
	11月6日	沖水小学校４年～６年生（沖水まつり）/わくわくサイエンス	森茂龍一
	11月6日	沖水小学校４年～６年生（沖水まつり）/ペーパーからおもちゃをつくろう	辻井猛志
	11月6日	沖水小学校４年～６年生（沖水まつり）/クリップモーターをつくろう	赤木洋二
	11月6日	沖水小学校１年～６年生（沖水まつり）/人工イクラと芳香剤をつくろう	高橋利幸
	11月20日	三股西小学校１年～６年生と保護者/シャボン玉実験・スライム作り・使い捨てカイロ	森　寛、山内辰朗
	12月4日	明道小学校１年～６年生/シャボン玉実験・スライム作り・使い捨てカイロ	森　寛、山内辰朗、後藤彰澄
	2月12日	都城地区小学校/おもちゃ病院・たのしい理科教室-燃料をつくってポンポン船を動かそう-	技術支援センター

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

宮崎県内の高等教育機関や企業そして地域との交流やモンゴル科学技術大学との学術交流を促進しており，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

教育研究活動の状況は，本校の「研究報告」に学会誌への投稿論文や学会発表について，毎年掲載している（資料11－４－①－１）。教員は，研究成果を本校のホームページや独立行政法人科学技術振興機構ホームページ等を用い，広く発信している（資料11－４－①－２）。地域連携センターでは，シーズ集（資料11－４－①－３）を発行し，産学官連携推進会議，全国高専テクノフォーラム，宮崎テクノフェア等に参加・発表している（資料11－４－①－４）。また，出前授業の冊子も改訂して，広く小中学校への理科教育活動を展開し，公開講座も毎年実施して，地域社会へ発信している（資料11－４－①－５）。

さらに，教員は，地方公共団体や教育機関の委員に委嘱され，専門知識や経験を活かして，地域での教育研究活動を積極的に展開している（資料11－４－①－６）。

保護者には，学校説明会や学校後援会の支部総会，そして学級懇談会等において学校の現況説明の資料を配付している。また，定期試験の結果は，保護者に郵送している。学園だよりは，年１回発行し，保護者や宮崎県内の中学校に配付している（資料11－４－①－７）。

観点11－４－①　資料一覧

資料11－４－①－１　学会発表論文等一覧

〔出典：研究報告〕

資料11－４－①－２　ホームページ等を用いた研究成果の発信

〔出典：ホームページ〕

資料11－４－①－３　シーズ集

〔出典：シーズ集〕

資料11－４－①－４　産学官連携推進会議、全国高専テクノフォーラム、みやざきテクノフェア等への参加状況一覧

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－５　公開講座実績一覧

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－６　地方公共団体及び教育機関等の委員委嘱一覧

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－７　学園だよりの配布状況一覧

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－１

学会発表論文等一覧

著書 ・ 学外発表論文等一覧

Ⅰ 著書

著　者	標　題	出版社	発行年月
吉井千周	市民不在の原子力発電所建設過程，舩瓜健郎編「九州の原発」	南方新社	2011/5/1 pp.249-295

Ⅱ 論文

著　者	標　題	誌　名	巻(Vol)，号(No)，ページ(pp)，年
小塚和人	Some identities for multiple Dedekind sums attached to Dirichlet characters	ACTA ARITHMETICA	Vol.146, No.2, pp.103-114, 2011年
赤池祐次(呉高専) 知念直紹(広島工業大学) 友安一夫	The Smirnov remainders of uniformly locally connected proper metric spaces	Topology and its Applications	Vol.158, No. 1 pp. 69-83 2011年
杉江実郎(島根大学) 鬼塚政一	Integral conditions on the uniform asymptotic stability for two-dimensional linear systems with time-varying coefficients	Proceedings of the American Mathematical Society	Vol.138, No.7, pp.2493-2503, 2010年
杉江実郎(島根大学) 畑沙緒里(島根大学大学院生) 鬼塚政一	Global attractivity for half-linear differential systems with periodic coefficients	Journal of Mathematical Analysis and Applications	Vol.371, No.1, pp.95-112, 2010年
杉江実郎(島根大学) 尾上雄一(島根大学学部生) 鬼塚政一	Asymptotic stability for quasi-linear systems whose linear approximation is not assumed to be uniformly attractive	Annali di Matematica Pura ed Applicata	Vol.190, No.3, pp.409-425, 2011年
鬼塚政一	Uniform asymptotic stability for damped linear oscillators with variable parameters	Applied Mathematics and Computation	Vol.218, No.4, pp.1436-1442, 2011年
鬼塚政一 杉江実郎(島根大学)	Uniform global asymptotic stability for half-linear differential systems with time-varying	Proceedings of the Royal Society of Edinburgh Sect A	Vol.141, No.5, pp.1083-1101, 2011年
佐藤浅次 佐藤治(宮崎大学) 高橋伸弥(宮崎大学) 横道政裕(宮崎大学)	Analysis of a manipulator in relation to collision between a link and an object	Artifcial Life and Robotics (2011)	Vol.15, No.2, pp.169-173, 2011年
林光介(鹿児島大学大学院) 永野茂憲 森山三千彦＊(都城高専名誉教授) 王清遠(四川大学) 皮龍石紀雄(鹿児島大学)	EFFECTS OF AGING STRUCTURES AND HUMIDITY ON FATIGUE PROPERTIES OF MARAGING STEEL	International Journal of Modern Physics: Conference Series	Vol.1,No.1,pp.1-5,2010年
永野茂憲 森山三千彦＊(都城高専名誉教授) 皮龍石紀雄(鹿児島大学) 小林祐次(新東工業)	Effect of Reverted Austenite and Hardness on Fatigue Properties of Shot Peened Maraging Steel in Long Life Region	Interenational Conference on Computational & Experimental Engineering and Sciences	ICCES'11CD-ROM, pp.1-8,2011年
東利樹(都城高専専攻科学生) 高橋明宏 山元直行 豊廣利信	Mechanical Properties on Consolidated Bamboo Powder Fabricated by Thermo-Pressing Method	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R Joint Friendship International Conference on Applied Electrical and Mechanical Engineering 2011	pp.61-64, 2011年
高橋明宏 山元直行 東利樹(都城高専専攻科学生) 豊廣利信	A Study on Buckling Behavior of Aluminum Circular Tubes	Proceedings of The Japan-Thailand-Lao P.D.R Joint Friendship International Conference on Applied Electrical and Mechanical Engineering 2011	pp.92-96, 2011年

〔出典：研究報告〕

資料11－４－①－２

ホームページ等を用いた研究成果の発信

研究者総覧基礎データ



森茂　龍一

都城高専から多くの人材を輩出できるよう日々精進！

1 氏　名	森茂　龍一(MORIMO Ryuichi)
2 所　属	都城高専　一般科目
3 職　名	教授
4 専門分野	無機蛍光体、環境科学
5 研究課題	(1)無機薄膜蛍光体の合成 (2)モンゴルの首都ウランバートルの大気汚染調査
6 最終卒業学校	1985年(昭和60年)3月豊橋技術科学大学大学院工学研究科物質工学専攻
7 学　位	博士(工学)　豊橋技術科学大学
8 学位論文	ゾルーゲル法で調製した無機蛍光体の発光特性と局所構造に関する研究
9 所属学会・協会	日本セラミックス協会、蛍光体同学会、日本分析化学会、大気環境学会
10 主要前歴	1985年(昭和60年)4月　都城高専工業化学科助手 1990年(平成 2年) 4月　都城高専機械工学科講師 1994年(平成 6年) 4月　都城高専機械工学科助教授 2002年(平成14年)4月　都城高専機械工学科教授 2010年(平成22年)4月　都城高専一般科目教授
11 主要著書	○2007年(平成19年)最新無機EL開発動向、情報機構、p105-114 ○2008年(平成20年)Measurement of air quality of Ulaanbaatar city Mongolia IFOST, Environmental protection and Conservancy, p656-657,2008 ○2010年(平成22年)Study on air pollution of the Ulaanbaatar city in Mongolia Scientifical conference of the 10th aniversary of the uss,MUST、P139-142
12 受賞状況	
13 社会的活動実績	2002年(平成14年)6月～現在　都城市環境監視員

〔出典：ホームページ〕

資料11－４－①－３

シーズ集



〔出典：シーズ集〕

資料11－４－①－４

産学官連携推進会議、全国高専テクノフォーラム、みやざきテクノフェア等への参加状況一覧

		技術説明会等の参加状況
平成19年度	・	第6回産学官連携推進会議：濱田（英）・高橋（明）・野口（大）参加（6/16-17京都市）
	・	第5回全国高専テクノフォーラム：校長・白岩・濱田（英）参加（8/9-10奈良市）
	・	第14回みやざきテクノフェア：小藪、野口（大）、栗田、白岩参加（11/2-3宮崎市）
	・	第17回九州沖縄地区高専フォーラム：濱田（英）、（12/8八代市・八代高専）
平成20年度	・	第7回産学会連絡推進会議：校長、濱田（英）、高橋（明）、田中参加（6/14-15京都市）
	・	第8回全国高専テクノフォーラム：野地、原田参加（8/20-21呉市）
	・	第15回みやざきテクノフェア：高橋（明）、野地、濱田（英）参加（11/14-15宮崎市）
	・	第18回九州沖縄地区高専フォーラム：濱田（英）参加（12/6久留米市・久留米高専）
平成21年度	・	（社）霧島工業クラブ例会：高橋（利）、濱田（英）参加（4/28都城市）
	・	第8回産学官連携推進会議：須田、野口（大）、高橋（明）参加（京都市）
	・	第7回全国高専テクノフォーラム：高橋（明）、金澤参加（8/6-7高松市）
	・	有明高専発マッチングフェア：森、金澤参加（9/4熊本市）
	・	第16回みやざきテクノフェア：地域連携関係者全員参加（11/6-7都城市）
	・	高専フェスタ：須田、白岩、岡部、樋口、濱田（英）、金澤、高橋（明）他参加（11/6-7都城市）
	・	熊本高専発ワークショップ：濱田（英）、金澤、岡部参加（12/15熊本市）
	・	南九州発新技術説明会：高橋（利）、濱田（英）参加（12/15-16東京）
	・	南九州高専発新技術説明会：赤木、野口（大）、他4名参加（3/5隼人町）
	・	新技術・新工法展示商談会：野口（大）・高橋（明）参加（1/28-29豊田市）
平成22年度	・	（社）霧島工業クラブ例会：御園、濱田（英）参加（4/27都城市）
	・	第9回産学官連絡推進会議（科学技術フェスタ）：野口（大）、白岩、野地参加（6/5京都市）
	・	南九州発新技術説明会：岩熊、濱田（英）参加（6/16東京）
	・	第8回高専テクノフォーラム：濱田（英）・小藪・中村（裕）・朝倉ＣＤ参加（8/18-19大分市）
	・	第17回みやざきテクノフェア：校長、野口、高橋（明）、濱田（英）参加（10/1-2　延岡市）
	・	新技術マッチングフェア：白岩、高橋（明）参加（10/15福岡市）
	・	第2回都城高専-鹿児島高専発新技術説明会：校長、御園、髙木他地域連携センター関係者参加（11/5都城市）
平成23年度	・	南九州発新技術説明会：野口（大）、濵田（英参加）（6/28東京）
	・	第9回全国高専テクノフォーラム：校長、高橋（明）、白岩参加（8/4東京）
	・	第10回産学官連携推進会議（「ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ2011－大学見本市」）：校長、濵田（英）、狩俣AD参加（9/22東京）
	・	九州沖縄地区新技術マッチングフェア（2011モノづくりフェア2011と併催）：高橋（明）、岩熊参加（10/26福岡市）
	・	第18回みやざきテクノフェア：校長、濵田（英）、白岩、高橋（明）、野地、野口（大）参加（11/11-12宮崎市）
	・	南九州高専発新技術説明会：校長、濱田(英)、野口（大）、中村(裕)、森、高橋（明）、岡部参加（11/25鹿児島市）
	・	JSTイノベーションサテライト宮崎成果報告会：高橋(明)、岩熊、濱田（英）参加（24年1/12-13宮崎市）
	・	九州沖縄地区テクノセンター等交流会：濱田（英）参加（1/27　熊本市）
	・	第17回高専シンポジウム：濱田（英）参加（1/28　熊本市）
	・	みやざき産学連携研究会総会：濱田(英）参加（3/27宮崎市）

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－５

公開講座実績一覧

４　公開講座状況

年度	講　座　名	実施部局	開設時期	受講対象者	募集人員	参加人員
19	楽しい電子工作 「光と音のダブルセンサーロボットを作ろう！」	電気情報工学科	7/23・24	中学生小学生 (5・6年生)	15	15
	ロボコン教室	ﾛﾎﾞｯﾄ制作	7/29	中学生	12	13
	硬式テニス（初級編）	庭球部顧問	8/21・22・23・24	市民一般(中学生以上)	20	10
	海外旅行で役立つ英会話（初級編）	一般科目	11/7・9・12・14・16	市民一般	25	12
20	海外旅行で役立つ英会話（初級編）	一般科目	6/25・27・30・7/2・4	市民一般	25	8
	ロボコン教室	ﾛﾎﾞｯﾄ制作	7/27	中学生	12	15
	楽しい化学実験	物質工学科	8/1	中学生	20	11
	硬式テニス（初級編）	庭球部顧問	8/26・27・28・29	市民一般(中学生以上)	20	4
21	海外旅行で役立つ英会話（初級編）	一般科目	6/17・19・22・24・26	市民一般	25	7
	ITパスポート受験対策講座	一般科目	7/21～24・7/27～31・8/3	15歳以上	20	1
	衛生管理者合格講座 ～過去の問題解説中心、楽にやさしく免許取得～	電気情報工学科	7月～11月 5回開催	市民一般	各20	13
	ロボコン教室	ﾛﾎﾞｯﾄ制作	8/2	中学生	12	9
	楽しい化学実験	物質工学科	8/5	中学生	30	9
	ロボット製作局体験教室	ﾛﾎﾞｯﾄ制作	8/30	中学生・小学生	15	28
	硬式テニス（初級編）	庭球部顧問	9/14～17	市民一般(中学生以上)	20	11
22	古典インド語入門	一般科目	6/1・8・15・22	18歳以上（高校生は除く）	10	3
	海外旅行で役立つ英会話（ツアー編）	一般科目	11/4・5・8・10・12	市民一般	25	8
	衛生管理者合格講座 ～過去に出題された問題解説～	電気情報工学科	11/1・2，2/26・27 2回開催	市民一般	各20	2
	JST平成22年度ｻｲｴﾝｽ・ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ採択事業 都城高専で体験するバイオテクノロジー実験 ～自分の遺伝子DNA からアルコール体質をしらべてみよう～	物質工学科	10/3，10/17 2回開催	中学生及び高専2,3年生	各12	18
	仏典を読む～お経は深い～	一般科目	H23.1/11・18・25・2/1・8・5・22・3/1 （全8回）	市民一般	40	6
	３次元プリンターで家つくろう	建築学科	H23.1/22・23	中学生	8	4
23	英語の絵本を読んでみよう～英文多読入門～	一般科目	7/25・26・27・28	中学生以上の英語に興味のある方	15	12
	ロボコン教室	機械工学科	7/31,8/28 2回開催	中学生	各15	36
	楽しい化学実験	物質工学科	8/3	中学生	30	18
	JST平成23年度ｻｲｴﾝｽ・ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ採択事業 ゼリー作りから学ぶ生体分子タンパク質の働き	物質工学科	8/6,10/8 2回開催	中学生	各15	21
	クリップモーターを作ろう	電気情報工学科	8/24	小学校4年生～中学生	30	22
	山頭火、霧島盆地を歩く ～放浪の俳人 種田山頭火の足跡をたどって～	一般科目	9/3・10・17	一般（高校生以上）	20	5
	硬式テニス（初級編）	一般科目	9/12・13・14・15	一般（中学生以上）	20	5
	コンピュータで家をつくろう ～3Dプリンターによる建築モデル作成～	建築学科	9/24・25,11/5・6 2回開催	中学生	各8	15
	仏典を読む～お経は広い～	一般科目	11/5・12・19・26	一般（高校生以上）	20	7
	たのしい理科実験 ～ねんりょうをつくってポンポン船を動かそう～	技術支援センタ	H24.2/12　2回開催	5歳～小学生	各15	30

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－６

地方公共団体及び教育機関等の委員委嘱一覧

地方公共団体等の依頼に基づく派遣委員（平成23年度）	
23年度	宮崎県戦略的地域科学技術振興事業審査委員会委員
	都城市環境保全審議会委員
	都城市社会教育委員及び公民館運営審議会委員
	都城盆地硝酸性窒素削減対策協議会顧問
	都城市教育委員会外部評価委員
	都城市部マニフェスト評価委員会委員
	宮崎県産学官ネットワーク委員会委員
	公益社団法人化学工学会九州支部幹事
	宮崎県産業教育審議会委員
	都城市クリーンセンター事業者選定委員会委員
	鉄骨製作工場性能評価員
	宮崎県建築住宅センター建築物耐震診断等判定委員会委員
	都城市都市計画審議会委員
	宮崎県都市計画審議会専門委員
	都城市建築審査会委員
	宮崎県生コンクリート品質管理監査会議委員
	宮崎大学建設工事総合評価落札方式技術審査委員会委員
	高崎都市計画事業新田土地区画整理審議会委員
	串間市まちづくり交付金評価委員会委員
	都城市指導環境監視員
	都城広域定住自立圏地域創富力高度化調査事業推進会議委員
	都城市行政改革推進会議委員

〔出典：総務課資料〕

資料11－４－①－７

学園だよりの配布状況一覧

～学園だより第７８号　配布先一覧～

印刷部数　1,600 部

配付日	区分	冊数内訳	冊数計	備考
3/10	校長	1	115	
	部長	1		
	２課長	2		
	３補佐	3		
	総務系３係	3		
	財務系３係	3		
	学生課４係	4		
	ＬＬ教室	1		
	保健室１+相談室４	5		
	一般(教員21+2+1)	24		
	機械(教員10+1+1)	12		
	電気(教員11+1+1)	13		
	物質(教員11+1+1)	13		
	建築(教員10+1+1)	12		
	電子計算機センター教員	1		
	技術支援センター	14		
	学内投稿者(係長以下)	3		
3/10	後援会事務		1	早崎氏
3/12	卒業生・修了生及び保護者			卒業式・修了式で配付
	本科生　148人×2	296	338	
	専攻科生　21人×2	42		
3/12	卒業式来賓		7	卒業式・修了式で配付
3/23	在校生保護者(郵送)			教務係が3/23に発送する修学簿と一緒に発送する。
	本科生１～４年	673	697	
	専攻科１年	24		
6/22	機構本部		3	
1/5	全国高専		50	
6/7	宮崎県・鹿児島県中学校		327	入学案内に同封し発送。
3/31	宮崎県工業会		3	
3/31	霧島工業クラブ		3	
3/23	評議員		6	住所は総務担当補佐に確認。卒業式で配付済の方を除く。
3/16	外部寄稿者(同窓会4+後援会3)		17	7人×2部＋(谷口氏に＋3)
	計		1,567	
	残(来客、イベント等)		33	

〔出典：総務課資料〕

（分析結果とその根拠理由）

教育研究活動は，シーズ集，保護者への情報提供等，広く地域社会に発信している。平成24年度にはホームページもリニューアルし，より一層の情報発信を行っている。したがって，情報を広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

校長が管轄する運営企画委員会，校長補佐連絡会議及び各委員会は，諸規則により明確に組織化している。また，各委員会での審議は，全教員によるコンセンサスが取れるシステムであり，迅速かつ効果的に学校運営している。JABEE審査や高等専門学校機関別認証評価を活用しながら，自己点検評価委員会がまとめた自己点検評価報告書を社会に公表している。

自己点検評価結果での改善事項等は，フィードバックし，改善に結びつける体制を構築し，運用している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準11の自己評価の概要

校長は，学校全体を掌握し，学校運営に当たっている。教務主事，学生主事，寮務主事の３名の副校長と１名の校長補佐により，校長を補佐している。副校長は，学校の目的を達成するために，各種委員会に対し適切な情報を提供し，有効な方針の決定に指導的に係る役割と責任をもっている。学校の目的達成に必要な委員会を設置し，設置規則を明確に定め，役割を分担している。事務組織は，事務分掌細則等を定め，管理運営上の役割分担や諸規則を整備している。全ての事項は，関係委員会での審議を踏まえ，校長が決定するが，各種委員会は，ほとんどが３主事と各学科等から選出した委員で構成しており，学科等の議題及び意見を十分吸い上げ，迅速な決定とその周知徹底を図る体制をとっている。

卒業生や保護者等からの意見や評議員会（外部有識者）の意見・提言については，運営企画委員会を中心に，各種委員会及び学科等に改善策の検討を求め回答を得ており，外部有識者等の意見を適切な形で管理運営に反映している。このように，自己点検評価結果での改善事項等をフィードバックし，改善に結びつける体制を整備し運用している。

自己点検評価は，平成22年度に実施し，その報告書は，校内各部署，全教職員，全高専，文部科学省，高専機構等に配付している。また，教育研究活動は，シーズ集，ホームページ，保護者への情報提供等，広く地域社会に発信している。